WOODONE

2013
設計施工資料集
Data File Catalogue

設計施工資料集

Data File Catalogue

2013

カタログ及び商品に関する最新情報は ウッドワン 検索 をご覧ください!

2013.07

WOODONE

設計施工資料集 2013

Contents

ホルムアルデヒドについて ・・・・・・・・・・・・・ P3
お手入れについて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
ケーシングの納まり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5
躯体接合金具・通気について ・・・・・・・・・・・ P6

建 具

使用上の注意【建具】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
内装ドア ・・ P9
マグネット式ドアストッパー／レバーハンドル スクエアー P16
プッシュプル錠（カスタムオーダー対応）・・・・・・・・・・・・・ P17
開きドア用ソフトクローズ金具 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P18
内装ドア専用枠材（調整枠）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P20
内装ドア専用枠材（固定枠）155・170巾・・・・・・・・・・・・・ P27
内装ドア専用枠材（固定枠）90・113巾 ・・・・・・・・・・・・・ P34
欄間ドア ・・・ P39
欄間付きドア専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P40
スライディングドア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P43
スライディングドア専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P50
引き戸【レールタイプ】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P57
【レール】片引き戸・引き違い戸
専用枠材（調整枠）【ピノアース】・・・・・・・・・・・・・ P60
【レール】引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸
専用枠材（調整枠）【ピノアース】・・・・・・・・・・・・・ P75
【レール】2枚引き込み戸・3枚引き込み戸
専用枠材（調整枠）【ピノアース】・・・・・・・・・・・・・ P94
【レール】片引き戸・引き違い戸
専用枠材（固定枠）155巾【ピノアース】 ・・・・・・P109
【レール】引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸
専用枠材（固定枠）155巾【ピノアース】 ・・・・・・P124
【レール】片引き戸・引き違い戸
専用枠材（調整枠）【ソフトアート】・・・・・・・・・・・・P143
【レール】引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸
専用枠材（調整枠）【ソフトアート】・・・・・・・・・・・ P158
【レール】2枚引き込み戸・3枚引き込み戸
専用枠材（調整枠）【ソフトアート】・・・・・・・・・・・ P177
【レール】片引き戸・引き違い戸
専用枠材（固定枠）155・170巾【ソフトアート】P192
【レール】引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸
専用枠材（固定枠）155・170巾【ソフトアート】P203
【レール】2枚引き込み戸・3枚引き込み戸
専用枠材（固定枠）【ソフトアート】・・・・・・・・・・・・ P222
【レール】集合住宅用 片引き戸・引き違い戸
専用枠材（固定枠）90・113巾【ソフトアート】 P233
【レール】集合住宅用 引き分け戸・4枚引き違い戸
専用枠材（固定枠）90・113巾【ソフトアート】 P244
引き戸【上吊りタイプ】 P255
【上吊り】片引き戸・引き違い戸・引き分け戸
専用枠材（調整枠）【ピノアース】・・・・・・・・・・・・・ P258
【上吊り】片引き戸・引き違い戸・引き分け戸
専用枠材（固定枠）155巾【ピノアース】 ・・・・・・ P277
【上吊り】片引き戸・引き違い戸・引き分け戸
専用枠材（調整枠）【ソフトアート】・・・・・・・・・・・・ P296
【上吊り】片引き戸・引き違い戸・引き分け戸
専用枠材（固定枠）155・170巾【ソフトアート】P315
【上吊り】集合住宅用 片引き戸・引き違い戸・引き分け戸
専用枠材（固定枠）90・113巾【ソフトアート】 P334
【上吊り】アウトセット引き戸専用枠材・・・・・・・・・・・・・・・ P353
連動引き戸【上吊りタイプ】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P364
【上吊り】2枚・3枚連動引き戸専用枠材（調整枠）・・・・・・ P367
【上吊り】2枚・3枚連動引き戸専用枠材（固定枠）・・・・・・ P374
機能引き戸2枚連動引き戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P379
機能引き戸2枚連動引き戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・ P382
機能引き戸3枚引き違い戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P387
機能引き戸3枚引き違い戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・ P390
間仕切折れ戸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P395
開閉間仕切り折れ戸専用枠材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P396
収納3連引き戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P401
収納3連引き戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P404
アルシャルル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P409
幅広敷居・下枠 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P416
天井ジャストシリーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P421
天井ジャストインセット開き戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・ P422

天井ジャストインセット引き戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・P425
天井ジャストアウトセット引き戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・P432
天井ジャストクローゼットドア専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・P437
天井ジャスト収納両開き戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・P442
クローゼットドア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P445
クローゼットドア専用枠材【ピノアース】・・・・・・・・・・・・・・・P449
クローゼットドア専用枠材【ソフトアート】・・・・・・・・・・・・・・P456
クローゼットの有効開口寸法目安 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P463
シューズインクローク専用枠材【ソフトアート】・・・・・・・・・・P464
収納両開き戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P469
収納両開き戸専用枠材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P472
吹き抜け窓 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P477
スライド枠（天井ジャスト開きドア専用枠材）・・・・・・・・・・・P484
スライド枠（クローゼットドア専用枠材）・・・・・・・・・・・・・・・P491
スライド枠（収納両開き戸専用枠材）・・・・・・・・・・・・・・・・・P497
和-洋開きドア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P502
和-洋引き戸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P505

洋風造作材

窓枠 ・・・P510
窓枠L型 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P511
リフォーム窓枠 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P513
シート笠木対応 コーナー部材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P514
W型巾木・カーテンBOX ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P516

玄関収納

玄関収納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P517

壁厚収納

壁厚収納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P539

腰壁

腰壁（ストライプ）【ピノアース】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P545
腰壁（工芸調・ストライプ）【ソフトアート】・・・・・・・・・・・・・・P548
腰壁（シンプルモダン）【ソフトアート】・・・・・・・・・・・・・・・・P555

造り付け家具

造り付け家具 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P558

収納

e・ra・bo・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P565
e・ra・bo テレビ収納プラン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P571
e・ra・bo 扉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P575
中段・枕棚セット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P577
間仕切り家具 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P580
間仕切り壁収納 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P600
押入れセット（無垢タイプ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P610

床材

床材 JAS認定・大臣認定など・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P611
抗菌塗装・裏面防虫処理について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P612
安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P613
一般住宅用床材（共通）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P614
捨て張り工法用フローリング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P615
無垢フローリング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P617
無垢フローリング ピノアース6㎜厚タイプ ・・・・・・・・・・・P619
コンビットリアージュ® ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P621
根太工法用フローリング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P623
直張り接着工法用床材 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P625
床材（共通）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P627
上り框（リフォームタイプ） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P629

階段

階段（安全上のご注意） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P630
階段（関連法規） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P631
階段（安全上のご注意）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P632

階段(施工上のご注意) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P633
施工資料・参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P634
デザイン階段 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P636
上下ジョイント金具セット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P640
規格型カーブ階段 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P641
リフォーム階段 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P645
プレカット階段 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P652
R66シリーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P658

手すり

Φ35シリーズ・手すりブラケットシステム ・・・・・・・・・・・・・ P662
後付け手すり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P664
腰手すり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P665

屋根裏・ロフト

屋根裏収納はしご(安全上のご注意) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P666
屋根裏収納はしご ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P667
ロフト用はしご(安全上のご注意) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P670
ロフト用はしご ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P671
ロフト用はしご(木製) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P672
ロフト用はしご(アルミ製) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P673

カウンター

集成カウンター・集成フリーサイズ板 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ P674
カウンター用脚 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P677

壁・天井材

安全上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P678
リアルウォール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P679
羽目板【ピノアース】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P680
羽目ロング ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P681
洋風天井 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P682
鎧天井® ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P684

アフターサービス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P688

ホルムアルデヒドについて

空気中の汚染物質

建築材料から発生し身体に悪影響を与える空気汚染物質が、住宅の高気密化に伴い大きな問題になっています。
空気中の汚染物質には①化学物質などのガス状物質②ガラス繊維・アスベストなどの無機粒子・繊維状物質③花粉・カビなどの有機粒子状物質④ウイルス・ダニなどの微生物・細菌類などがあげられます。
現代の住宅建材には化学的に作られた物質が多く使用されており、そこから有害な空気汚染物質が発生していることがあります。
建材に含まれるおもな空気汚染物質はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）・農薬系防腐防虫剤・アスベストなどがあげられ、呼吸器系への刺激、喘息の発作・アレルギー・めまいなどの症状を引き起こすことがあります。

▶ホルムアルデヒドとは？

ホルムアルデヒド（CH_2O）は建材に使用される有害物質のひとつで、おもに合成樹脂や接着剤に含まれています。従って、接着剤を多く使う合板などに多く含まれ、壁材やカーペットを貼る接着剤にも種類によっては使われています。ホルムアルデヒドは刺激臭のある無色の気体で水によく溶け、37%のホルムアルデヒドとメタノール9～13%とを含む水溶液がホルマリンで、防菌・防虫剤として広く使われています。
接着剤の中でホルムアルデヒドが多く含まれているものは、含有量の多い順から、ユリア樹脂系、メラミン樹脂系、フェノール樹脂系です。吸引時の身体症状は、人によってかなり差がありますが目・鼻・のど等に刺激を与えます。

▶VOC（揮発性有機化合物）とは？

VOC=Vorataile Organic Compound
その種類は数百種にのぼりますが、性質も毒性も様々です。
おもなものに、トルエン・キシレン・DBP・TCP・酢酸ビニル・デカン等があり、発ガン性の確認されたものもあります。ペンキの溶剤・ラッカーの溶剤・ビニールクロスの可塑剤・壁紙類の難燃加工材・床ワックス等に含まれます。中毒症状として、めまい・吐き気などがありますが、重度の場合は小脳麻痺により死亡することもあります。

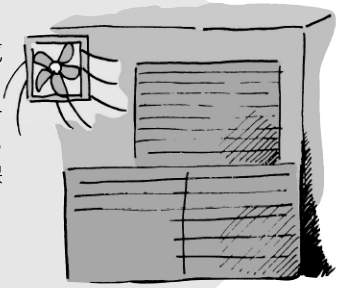
▶農薬系防腐防虫剤とは？

畳・土台の防腐剤・白蟻駆除剤などに含まれます。
住宅での中毒事故は白蟻駆除剤によるものが多いです。

ホルムアルデヒドの影響を抑制するためのアドバイス

保管について

●倉庫内は常に換気を行い、通気性をよくしておいてください。
●ホルムアルデヒド対策品と、そうでないものを一緒に保管する場合は、それぞれを密閉して保管してください。

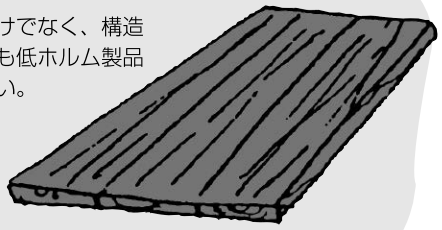


内装仕上げについて

●ホルムアルデヒドについての対策を施した製品をご使用ください。
●施工時に使用する接着剤・塗料などもホルムアルデヒドの含有量の少ないものをご使用ください。
（詳しくは、メーカーにお問い合わせください）
●作業中は換気に十分注意してください。

構造材・下地材について

●内装仕上げ材だけでなく、構造躯体や下地材にも低ホルム製品をご使用ください。



完成後のご注意

●施工直後の住宅では、通気・換気を十分に行ってください。長時間密閉していた後や、室温が高くなっている場合は、ホルムアルデヒドの気中濃度が高くなりやすいので、特に注意してください。在宅中はできるだけ換気に努めてください。

お願い 本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品ですが、シックハウス症候群予防のため、他の建材につきましてもホルムアルデヒド対策品をご使用ください。

お手入れについて

ドア・引き戸 お手入れのご注意

■金具表面のお手入れについて

人の手が触れるレバーハンドルセット・引き手・ハンドル・ツマミといった金具は定期的に乾いた軟らかい布で軽く拭いて下さい。（必要以上に擦ると表面にキズつく場合があります）
また、汚れがひどい時には水や薄めた中性洗剤を染込ませた軟らかい布で汚れを拭き取り、乾いた軟らかい布で仕上げてください。

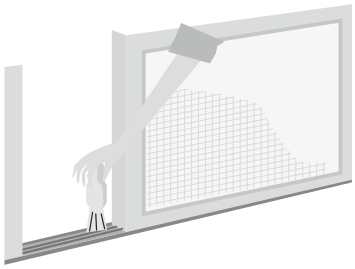
なお、クロムタイプやサーチライトタイプといった表面メッキ品は使用過程中の手垢など汚れが付き易く、定期的なメンテナンスを怠ると除去し難くい事もあります。その場合は、エタノールを染み込ませた軟らかい布で対象部位を拭き汚れなどを除去してから、湿った布で仕上げ拭きをして下さい。

留意点	ベンジン・シンナー・塩素系洗剤・酸性洗剤・アルカリ性洗剤は絶対に使用しないで下さい。メッキの変色や膨れ・剥がれの原因となります。

■レールなどのお手入れについて

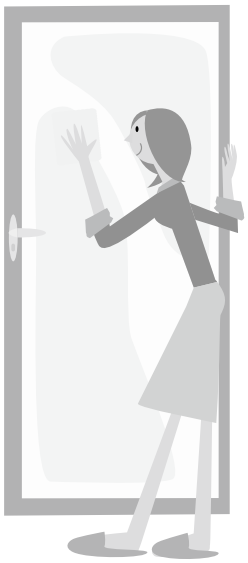
引き戸などに取り付けている戸車や、レールは消耗性部品です。レールと戸車の間に、砂やチリ・ホコリといった異物が付着していると、使用過程中にレールや戸車表面をキズ付けて、扉が開閉し難くなりますので、定期的にレールの掃除をお願いします。

なお、万が一、レールにキズがついたりして扉が開閉し難くなった場合は、ご購入頂いた工務店でのレールと戸車の交換（有償）お願いします。



■ガラスのお手入れについて

ガラスにも日常生活でも色々な物質が付着して汚れの原因となります。汚れはどんなものであれ時間の経過とともにガラスとの接着が強固になり、クリーニングが難しくなります。汚れは出来るだけ早い時期にガラス用クリーナーで清掃をお願いします。



■シートのお手入れについて（ソフトアートシリーズのみ）

表面化粧シートにも日常生活でも色々な物質が付着して汚れの原因となります。日常のお手入れは、軟らかい布での乾拭きでも充分にシートの美しさを保てます。尚、乾拭きでは汚れが取れきれない時には、水や薄めた中性洗剤を染込ませた軟らかい布で汚れを拭き取り、乾いた軟らかい布で仕上げてください。

尚、万が一シート表面のエンボス（ごく小さな凸凹）内に付着している汚れがとれない場合には、市販のメラニンウォームに水を染み込ませた状態で、シート汚れ部分を拭き、柔らかく乾いた布で仕上げて下さい。

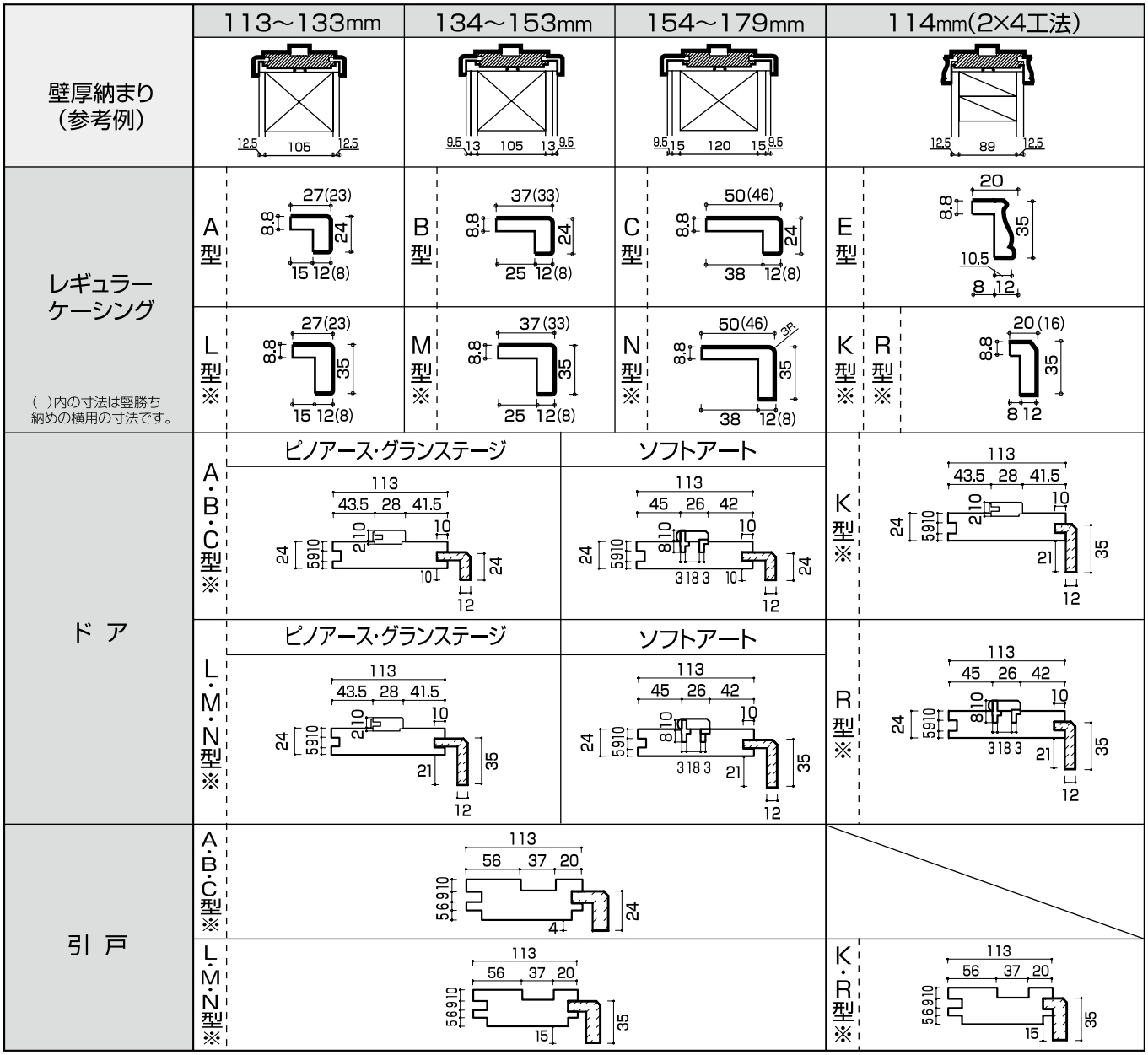
また、お施主様がご使用過程中に付いた軽微なシート表面キズにはタッチアップスティック・補修用スティック（別売）での簡易補修をお願いします。

ケーシングの納まり

ケーシングの種類と壁厚納まり

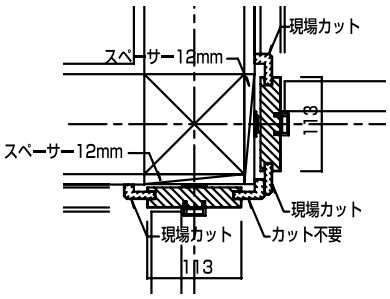
※シリーズによって対応する形状が異なります。

A･B･C型	全シリーズ	K型	ピノアース
L型	ソフトアート･グランステージ	R型	ソフトアート･グランステージ
M型	ソフトアート･グランステージ	U型	ソフトアート
N型	ソフトアート		

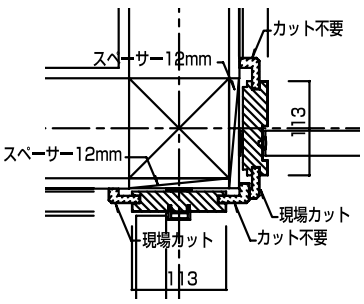


※ケーシングを差し込む際多少きつい場合は削ったうえで施工してください。

ドアとドアの入隅取り合い



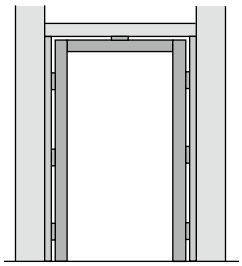
ドアと引戸の入隅取り合い



躯体接合金具・通気について

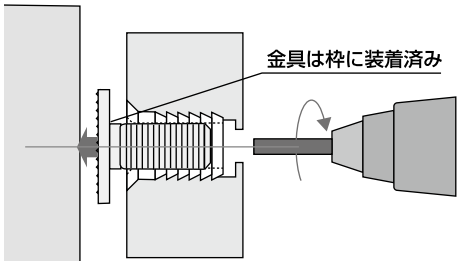
躯体接合金具

① 開口部に枠をセット



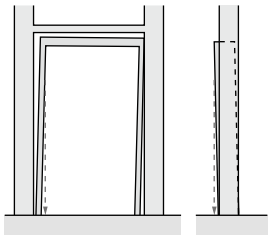
組み立てた枠材を開口部にセットします。

② 枠材の仮固定



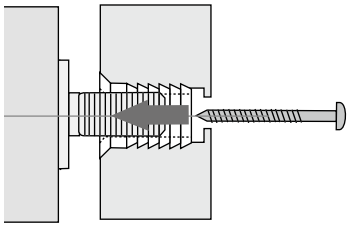
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

③ 立て付け調整



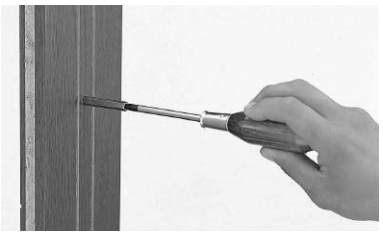
枠材の垂直・水平を確認しながら、立て付けを調整します。特に竪枠の金具位置を正確に調整してください。

④ 枠材の固定



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→上枠の順に固定します。）

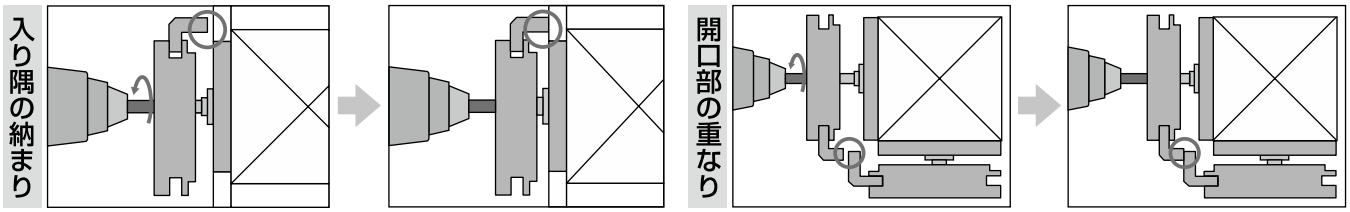
⑤ 微調整



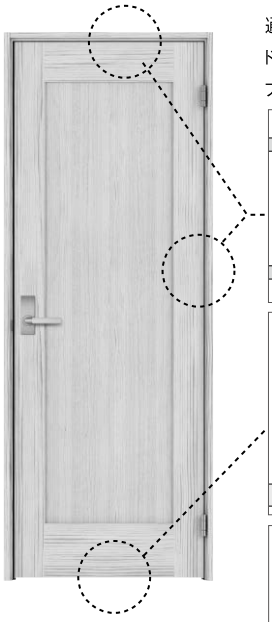
枠の微調整は、下げ振りで垂直を確認しながら、ミニレンチか、別売の六角レンチにて行ってください。

細部の納まりもラクラク・きれい

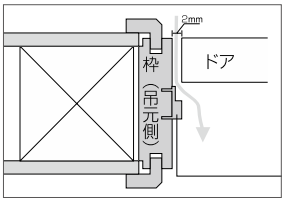
一方の枠だけを金具で固定し、ケーシングを差し込んで、壁にあるいはケーシングにぴったりあたるところまで調整します。

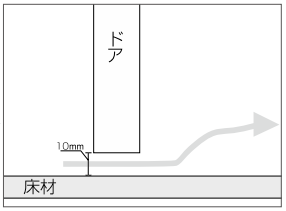


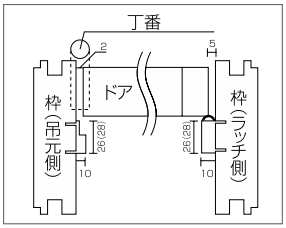
通気対応ドア枠（住宅性能表示推奨）

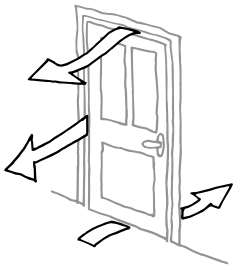


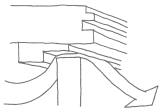
通気措置を必要とする開口部には、吊元側竪枠と上枠に換気対応戸当たりを採用。ドア下端隙間10mmと併せ、わずかな隙間からの通気により、トイレドアを含む全タイプドアで相当有効開口面積100cm²以上を確保できます。

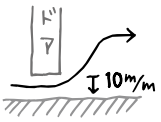






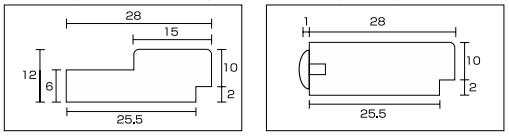






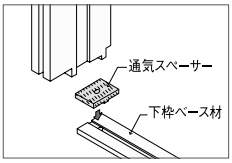
● 戸当たり寸法図

戸当たり（竪枠吊元側・上枠）　戸当たり（ラッチ側）



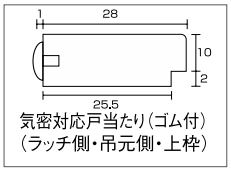
● ４方枠（下枠付）専用枠材に通気スペーサーを同梱。

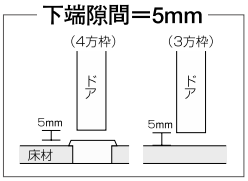
ドア・枠材１本化し、下端隙間を5mm から 10mm に設定できます。



● 気密対応戸当たり装備ドア専用枠材をお選びください。（標準設定）

通気措置を必要としない開口部には、3方共ゴム付の気密対応戸当たりを採用。ドア下端隙間5mmと併せ通気量は最小限に抑え、音もれ・光もれを防ぐ際にも高い性能を発揮します。



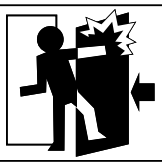


使用上の注意【建具】

施工に際しての安全上のご注意

⚠警告

はさまれ注意!!
扉と枠などのあいだに、また扉の軌跡内及び稼動部に、体の一部が入っている状態で扉を操作すると、ケガをする場合がありますのでご注意ください。



⚠注意

施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。
梱包を解いたら数量に不足および損傷等の問題がないかどうかを確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

設計・施工される方は必ずお読みください

⚠注意

〈全製品共通〉

禁止	**屋内専用。** 屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。
必ずおこなう	**開梱後は換気を行なう。** 本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

必ずおこなう	**養生を行う。** 当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。
	使用説明書の手渡し。 同梱の「使用説明書」と専用の工具（スパナ、レンチ類）を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

お願い

- 金具の固定を行う際は、過大トルクを発生させる工具の使用により、商品に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

〈建具―枠材の扱いについて〉

必ずおこなう	**ビスはビス穴に取り付ける。** ビス穴加工以外の位置にビスを取り付けると、枠材に割れが発生し、扉の脱落の原因となり危険です。
	躯体に欠点がないことを確認する。 躯体接合金具を取り付ける際、躯体のビスのあたる部分に節や割れなどの欠点がある場合、金具が固定されず枠材がはずれる原因となり危険ですので、強固に固定できるよう下穴や下地材を入れてください。

必ずおこなう	**躯体接合金具の調整範囲は竪枠最大8mm 上枠最大9mm。** 調整可能範囲を越える場合は枠材がはずれる原因となり危険ですので、調整範囲を満たすように下地材などを入れてください。

〈建具―ドアの取り付けについて〉

注意!	**はさまれ注意!** 強くドアが閉まると指のはさまれや衝撃によるガラスの割れ等が起こる原因となり危険ですので、ご注意ください。
禁止	**インパクトドライバーは使用しない。** レバーハンドル、丁番取り付けビスなどは、必ず手まわしのドライバーでビスを締めてください。インパクトドライバーなどを使用すると、ビス山をつぶしてしまうおそれがあります。

必ずおこなう	**レバーハンドルは、ハンドル同士を引き寄せて、確実に締める。** レバーハンドル取り付け用のビスの締め忘れ、ゆるみ等による開閉はレバーの脱落の原因になりますので必ず取り付けビスは確実にお締めください。
	丁番用固定ネジは確実に締める。 丁番用固定ネジのゆるみ、締め忘れた状態で開閉されると枠などへ干渉やドアのガタつきの原因となりますので、必ず固定ネジは確実にお締めください。施工後に再確認をお願いいたします。

使用上の注意【建具】

⚠ 注意

〈建具—クローゼットの取り付けについて〉

必ずおこなう

上ランナーと固定カップは確実に取り付ける。
上ランナーと固定カップは「カチッ」と音がするまで確実に取り付けてください。きちんと固定されていないと扉の脱落の原因となり危険です。

〈建具—引戸、収納引戸の取り付けについて〉

必ずおこなう

戸車がレールに確実にはまっていることを確認する。
引戸取付時は、戸車がレールにはまっていることを確認してください。脱線したまま使用すると敷居を損傷する場合があります。又、レールや戸車にゴミなどが付着してない状態で取り付けて下さい。ゴミなどが付着した状態で扉を開閉するとレールがキズつき、開閉しにくくなります。

〈建具—収納両開き戸の取り付けについて〉

禁止

ヒンジを分解しない。
扉取り付け用のヒンジを分解したり、無理に曲げたりすると、扉が脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

必ずおこなう

確実にヒンジと座金をジョイントする。
扉取り付け用のヒンジが確実に座金とジョイントされていない時、又扉を90°以上開くと扉が脱落してケガの原因となりますので、確実にヒンジと座金をジョイントしてください。

〈建具—開閉間仕切り取り付けについて〉

必ずおこなう

ワンタッチ取り付け吊り車は奥までしっかりと完全に固定する。
不完全な装着は扉の脱落の原因となりますので奥まで完全に装着してください。

〈吹き抜け窓〉

必ずおこなう

床面から800㎜以上（3階以上に設置の場合は1,100㎜以上）の高さに設置する。
転落防止のため、吹き抜け両開き戸は床面から800㎜以上（3階以上に設置の場合は1,100㎜以上）の高さに設置ください。

使用に際しての安全上のご注意

⚠ 注意 使用に際して以下の注意が守られない場合、住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。

使用される方は必ずお読みください

⚠ 注意

必ずおこなう

入居後は換気を行なってください。
本製品はホルムアルデヒド·VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築·リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド·VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

〈建具—ドアの扱いについて〉

注意!

指や手をはさまれないように注意してください。
強くドアが開閉されると指や手がはさまれ、ケガをするおそれがありますので、ドアクローザーやドアストッパーをお使いください。また、ドアの開閉時にはドアと枠の隙間に手や指を入れないでください。

禁止

扉にぶらさがらないでください。
ドアや取っ手にぶら下がったり、重たいものをぶら下げたりしないでください。壊れたり落下·転倒してケガをするおそれがあります。

必ずおこなう

ガラスが割れないように注意してください。
強くドアが開閉されるとガラスの破損によって重大な傷害に結びつく危険性がありますので、ドアクローザーやストッパーをお使いください。また、衝突、開閉にはご注意ください。

〈建具—引戸、収納引戸の扱いについて〉

注意!

指や手をはさまないように注意してください。
強く扉が閉まると指や手がはさまれ、ケガをするおそれがあります。扉の開閉時には扉と枠の隙間に手や指を入れないでください。

調整用戸車·レール等は消耗性部品です。
引戸用戸車·吊り車およびレール間に、異物が付着した状態での開閉は避けてください。長期間のご使用にあたり、開閉がしづらくなった場合には、交換（有償）をお薦めします。

禁止

もたれかからないでください。
引き戸がはずれ、転倒する危険性があります。

強い衝撃を与えないでください。
引き戸の開閉時、引戸を勢いよく開閉すると引き戸落下やガラス割れ、又、部品や部材の変化·破損の原因となり、重大な傷害に結びつきます。

〈建具—クローゼット開閉間仕切り、収納両開き戸等の扱いについて〉

禁止

扉にぶらさがらないでください。
扉や取っ手にぶら下がったり、重たいものをぶら下げたりしないでください。壊れたり落下·転倒してケガをするおそれがあります。

必ずおこなう

戸車の脱線に注意してください。
戸車がレールにはまっていないままご使用されますと、敷居を損傷する場合があります。確実にはまっていることを確認してください。

〈建具—玄関収納等の扱いについて〉

禁止

扉の開き過ぎに注意してください。
収納扉など扉を必要以上に開くと、金具やその取付部が破損して扉が外れる原因になります。

〈吹き抜け窓〉

警告

小さなお子様ののりだし厳禁!
就学前のお子様が当製品上にのって遊んだり、身をのりだしたりされますと落下のおそれがあり大変危険です。そのような行為のないよう、保護者の方はご注意ください。

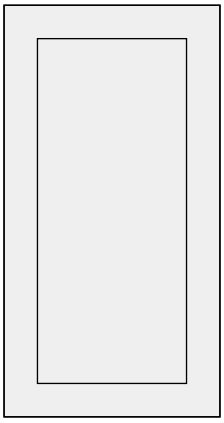
内装ドア

1. 開梱

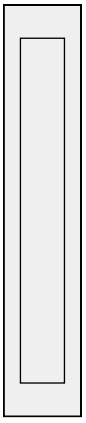
梱包を開いたらドア本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

Ⓐ シングルドア（親子ドア用親ドア）



Ⓑ 親子ドア用子ドア



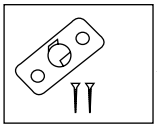
梱包内訳表

Ⓐ シングルドア（親子ドア用親ドア）

	部材名	数量	備　考
	ドア	1枚	丁番取付済、錠ケース取付済
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	必ずお施主様に渡してください

Ⓑ 親子ドア用子ドア

	部材名	数量	備　考
	ドア	1枚	丁番取付済、ラッチ受取付済、フランス落し金具取付済
	フランス落し受け金具	1セット	ビス付
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	必ずお施主様に渡してください



レバーハンドル（別売品）

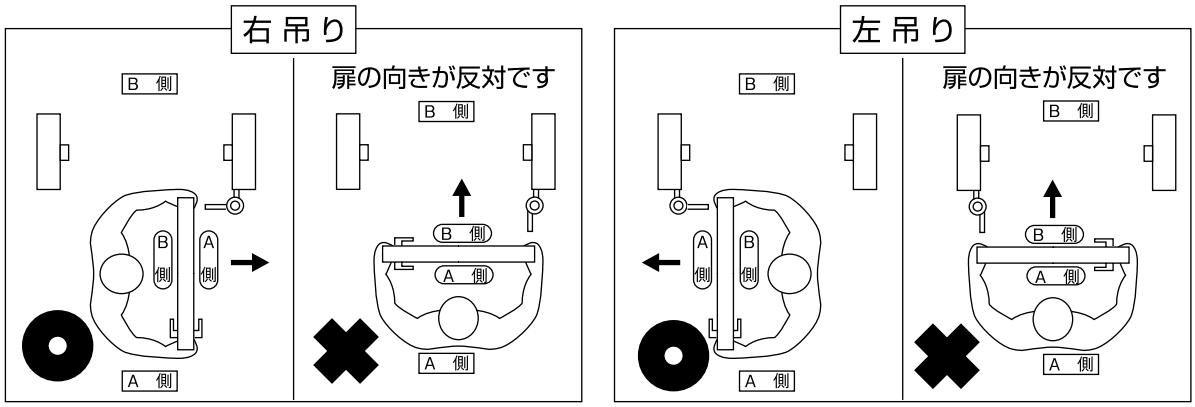
	部材名	数量	備　考
	レバーハンドル	1セット	
	3mmレンチ	1本	必ずお施主様に渡してください

お願い

同梱されています3mmレンチと使用説明書は、
必ずお施主様に行き渡るようご配慮願います。

扉吊り込み時の向きにご注意ください

扉を逆に吊り込むと丁番を破損するおそれがあります。



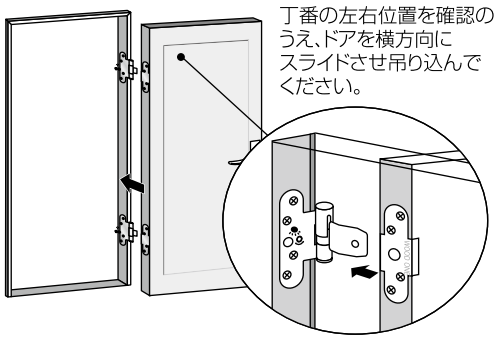
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

内装ドア

2. 施工手順

ドアの吊り込み

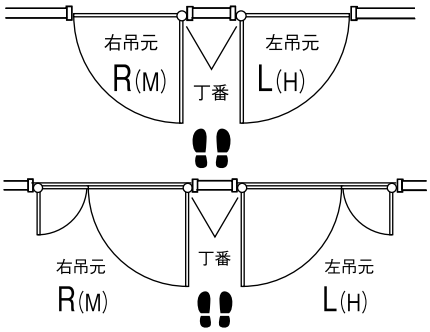


お願い

レバーハンドル取付までは、ドアを閉めないでください。

シングルドア・トイレドアの場合

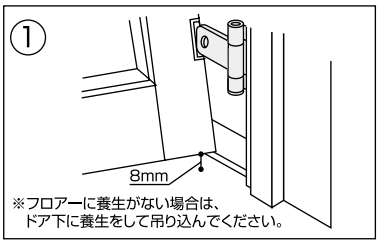
親子ドアの場合



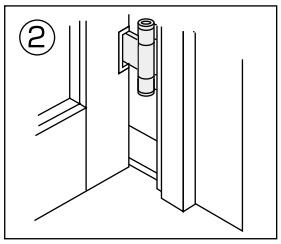
開く側から見た時の親ドアの吊り元が基準になります。

⚠ 注意

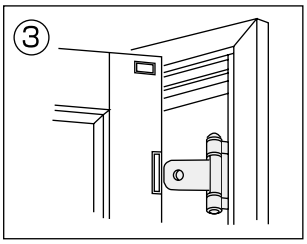
ドアをはずして再度取り付ける際にはドア側丁番のロックボタンが、プレートの手前まである事をご確認ください。ドアを取り外した際にはロックボタンがプレートの手前に戻りますが、再度取り付けの際には今一度ご確認の上取り付けを行ってください。



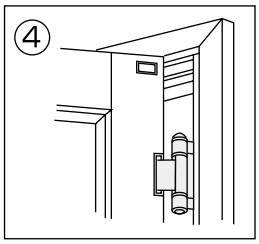
吊り込む方だけを少し持ち上げて、下側のベロを差し込みます。



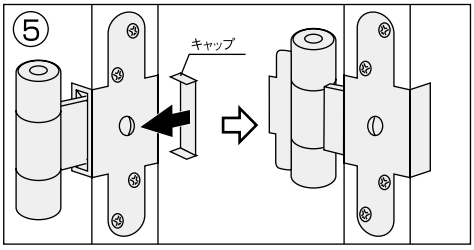
カチッと音がし、固定されるまで差し込んでください。



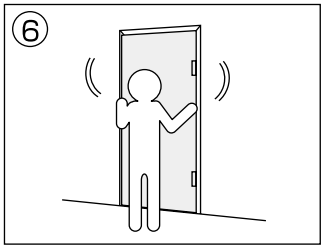
上部のベロを位置合わせします。



カチッと音がし、固定されたら吊り込み完了です。

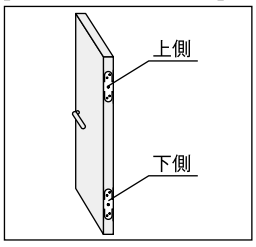


反対側の木口にはキャップをして仕上げます。**キャップは竪枠丁番のベロにセロテープで取り付けてあります。それをはがしてお使いください。**

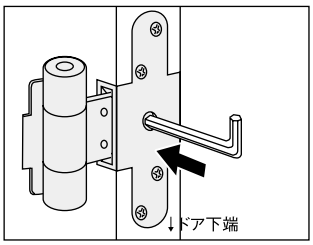


軽く前後にゆすって外れないことを確認してください。

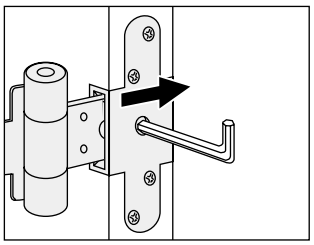
【ドアの取りはずし方】



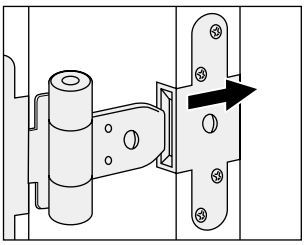
(1)ドア側丁番の下側から必ず行ってください。



(2)ドア側丁番の解除穴に六角レンチを差し込んで押さえてください。



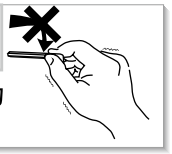
(3)ドアを少しずらすように引いて、ロック解除状態にしてください。
(4)同時にドア側丁番の上側を行って、ロック解除状態にしてください。



(5)上側と下側の両方共にロック解除状態にしてドアをゆっくりと取り外してください。

お願い

破損の原因になりますので、きつく力を込めて押すのはおやめください。

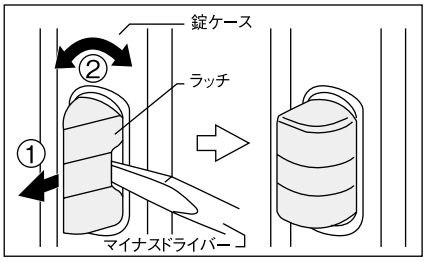


お願い

金具の固定を行う際は、過大トルクを発生させる工具の使用により、商品に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

ラッチの設定

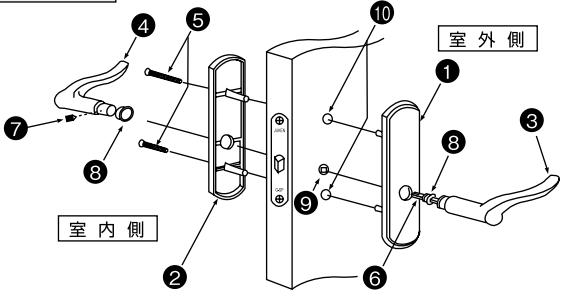
ラッチは右吊で設定してあります。
左吊の時は必ず下図のように
ラッチを反転させてください。



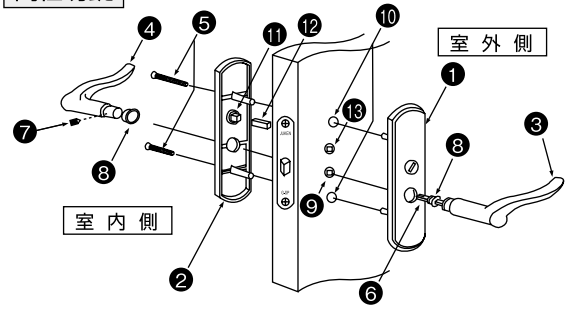
①ラッチの水平側の差し込みに
マイナスドライバーを入れて
前に出します。
②ラッチを反転させてください。

レバーハンドルの取り付け

空　錠



間仕切錠



レバーハンドルの取り付け

（1）室外側より外部ハンドル座❶を切欠き穴❿に挿入してください。

（2）室内側より内部ハンドル座❷をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。

（3）レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して、反対側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて、取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャ❽のセット忘れのないようご注意ください。）

部材·部位名	
❶	外部ハンドル座（室外側）
❷	内部ハンドル座（室内側）
❸	レバーハンドル（室外側）
❹	レバーハンドル（室内側）
❺	ハンドル座取り付けビス
❻	角芯
❼	取り付けビス
❽	ナイロンワッシャ
❾	角芯穴
❿	切欠き穴

⚠ 注意

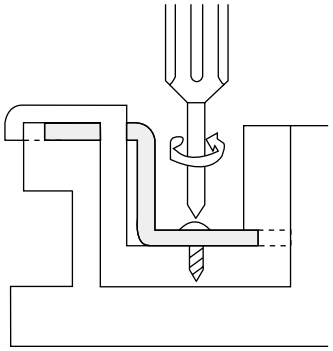
レバー脱落防止の為、レバーハンドル用取り付けビスは確実にお締めください。

ドアの上下·左右およびラッチ受けの調整

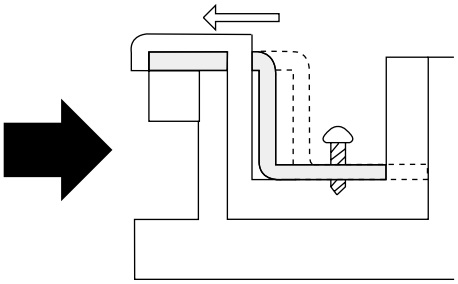
ドアと枠の隙間が適切になるようにドアの丁番を調整してください。また、ドアがガタつく場合、あるいはラッチが入りきらない場合はラッチ受けの調整機能を使って建て付けの補正を行ってください。

（イ）ラッチが正常にラッチ受けに納まらない場合は下記方法で調整してください。

調整ラッチ受け



ラッチ受けの中の固定ネジを
⊕ドライバーでゆるめます。



スライド板を矢印の方向に動
かし、広げます。位置を確認し
て、固定ネジを締め、完了で
す。

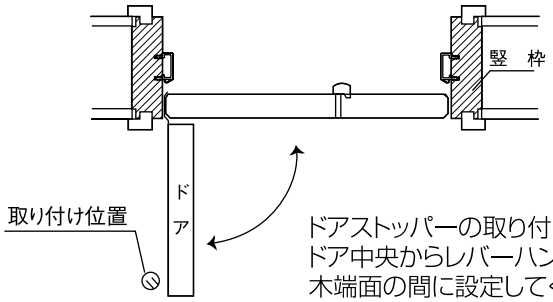
（ロ）ドアの調整方法については、以下「ドアの調整の仕方」を参照してください。

内装ドア

ドアストッパー（別売品）の取り付け

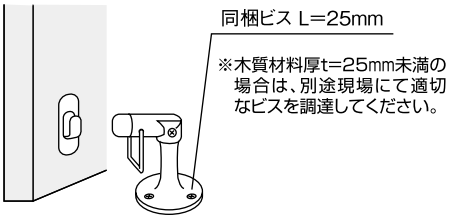
このドアストッパー（別売品）は、床付け·巾木付け兼用タイプです。下図のように取り付けてください。

●取り付け位置

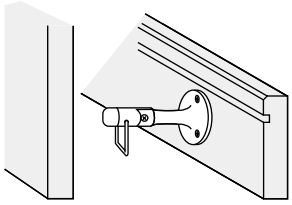


ドアストッパーの取り付け位置は、ドア中央からレバーハンドル側木端面の間に設定してください。

●床付けの場合



●巾木付けの場合



	品　名	ドアストッパー シルバー
	品　番	ZY0817

オプションとしてドアクローザーを取り付ける場合は必ず弊社別販売品のドアクローザーをお使いください。

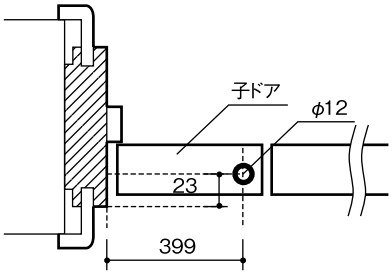
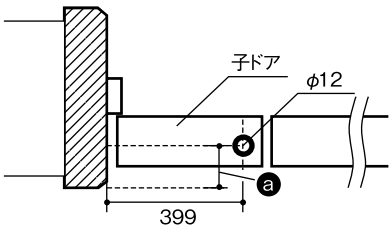
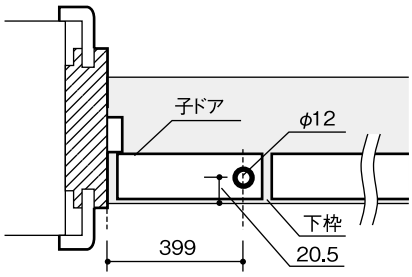
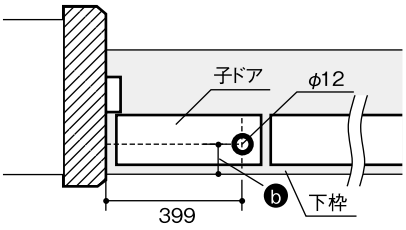
ドアクローザー	品　名	ドアクローザー チョコ	ドアクローザー ライトブラウン	ドアクローザー ホワイト
	品　番	ZY2515	ZY2516	ZY2511

ドアクローザーを取り付ける場合は、上部木口より50㎜以内に取り付けてください。

フランス落し受け金具の取り付け

下図のように下枠または、床面に直接 φ12の穴加工を施し、そこに受け金具をかぶせビスにて固定してください。

（単位:mm）

	調　整　枠	固定枠（90·113·155·170型）
3方枠（下枠なし）の場合		
4方枠（下枠付）の場合		

	90型	113型	155型	170型
ⓐ	23	28	28	28

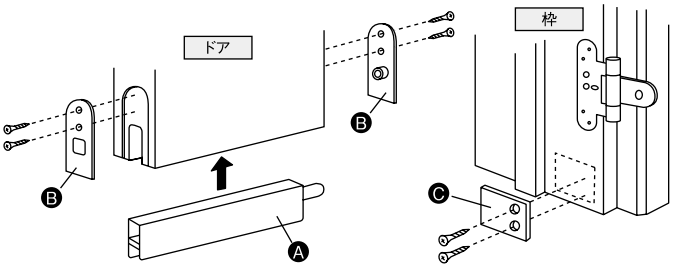
	90型	113型	155型	170型
ⓑ	19	22.5	22.5	22.5

3. ドアボトムの取り付け

開梱

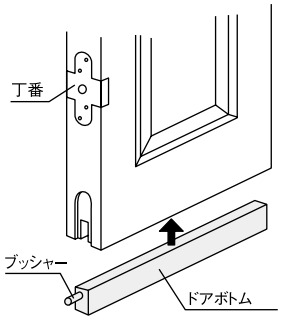
梱包を開いたら下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

	部材名	数量	備考
Ⓐ	ドアボトム	1セット	ドア下端にはめ込んで納品
Ⓑ	サイドブラケット	2個	木ネジ(L=20㎜)4本同梱
Ⓒ	サイドプレート	1枚	木ネジ(L=16㎜)2本同梱



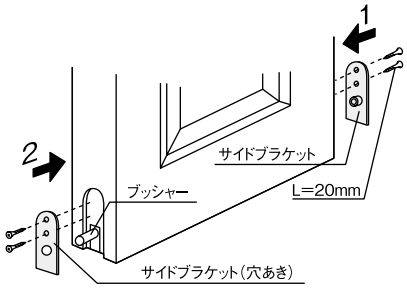
施工手順

ドアボトムの位置確認



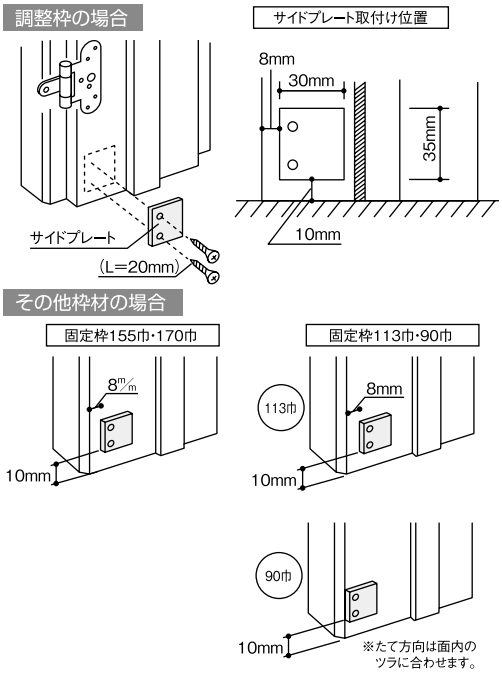
ドアの丁番側にドアボトムのブッシャーがくるようにはめ込みます。

サイドブラケットの取付け



上図のように、1·2の順にサイドブラケットを取り付けます。同梱のビス(L=20mm)でしっかり固定してください。ブッシャーがくる方に穴あきのサイドブラケットを取り付けます。

サイドプレート枠側の固定



丁番側の枠下端へサイドプレートを取り付けます。同梱のビス(L=16mm)でしっかりと頭が出ないように固定してください。取り付け位置は上図をごらんください。

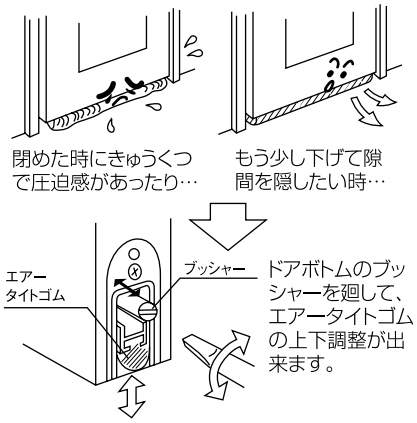
⚠ 注意

ドアボトムまたはサイドプレートを取り付けるビスは、締め忘れ、ゆるみ等のないよう確実にお締めください。脱落、損傷の原因となります。

⚠ 注意

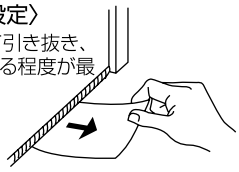
エアータイトゴムを押し出すための突起物である「ブッシャー」もゴミ、ほこりがつかないようにしてください。故障の原因となります。

ドアボトムの調整方法



〈最適な設定〉

紙を敷いて引き抜き、抵抗を感じる程度が最適です。



・ブッシャーを出すと、エアータイトゴムが余計に飛び出し、
・ブッシャーをひっこめると飛び出し方が弱まります。

施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして、養生してください。

お手入れのしかた

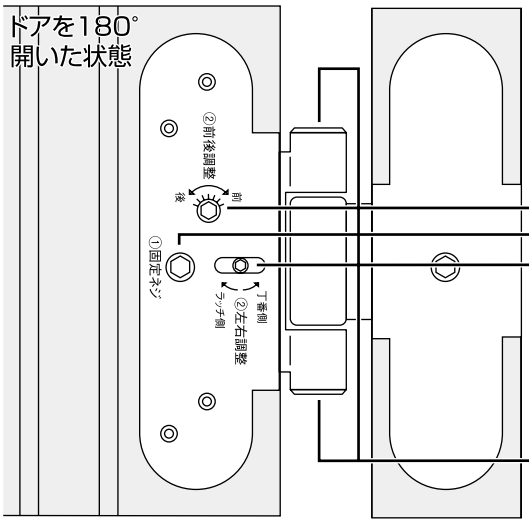
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」と3mmレンチを使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

内装ドア

調整丁番〈各部名称と機能〉



手順

1（ゆるめる）→ 2（調整）→ 1（しめる）

※上下調整は③のみで行います。

①固定ネジ　調整前にゆるめる 調整後にしめる

②左右調整ネジ　ドアを左右に調整
丁番側　2mm
ラッチ側 2mm
└ 調整可能

②前後調整ネジ　ドアを前後に調整
前（戸当り側から離す）　2mm
後（戸当り側に近づける）2mm
└ 調整可能（1目盛1mm）

③上下調整ネジ　上　2mm
下　2mm
└ 調整可能

●すべて同梱の3mmレンチ1本で調整できます。

特許出願中

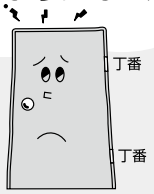
お願い

固定ネジを締め付ける際は、六角レンチの頭をしっかりとさし込んでから行ってください。固定ネジの頭がつぶれるおそれがあります。

ドアの調整の仕方

A　ドアの上部が枠に当たるようになった。

下に下げて調整



① 下丁番の下部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、ネジをゆるめておきます。

② ドアの上部がスムーズに動くまで、ドアと枠とのスキ間を見ながら、上丁番の下部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させます。
（ドアが少しずつさがります）

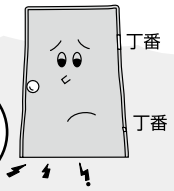
③ 上丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。

④ 下丁番の下部調整ネジを、止まるまで上から見て時計と逆回りに回転させます。

⑤ 下丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。

B　ドアの下部が枠に当たるようになった。

上に上げて調整



① 上下の丁番ともそれぞれの上部調整ネジを、上から見て時計と逆回りに回転させ、ドアを上げる余裕を作っておきます。

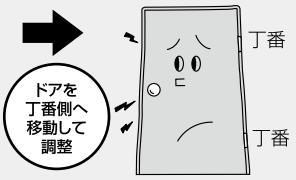
② ドアの下部がスムーズに動くまで、ドアと枠とのスキ間を見ながら、上丁番の下部調整ネジを、上から見て時計と逆回りに回転させます。（ドアが少しずつあがります）

③ 上丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。

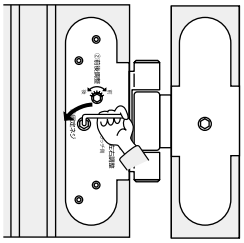
④ 下丁番の下部調整ネジを、止まるまで上から見て時計と逆回りに回転させます。

⑤ 下丁番の上部調整ネジを、上から見て時計回りに回転させ、しっかりと締めつけ、固定します。

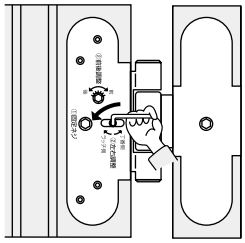
C ドアのレバーハンドル側につかえるようになった。



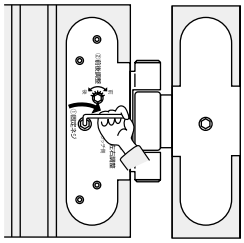
① 固定ネジをゆるめます。



② 左右調整ネジを「丁番側」に回転させます。

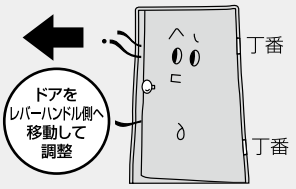


③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。

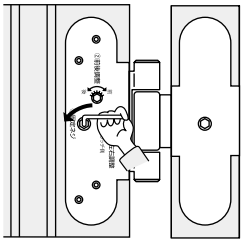


D ドアのレバーハンドル側にすき間が開きすぎる。

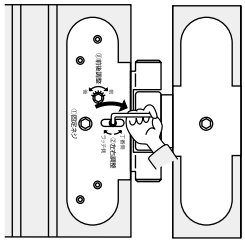
ドアをレバーハンドル側へ移動して調整



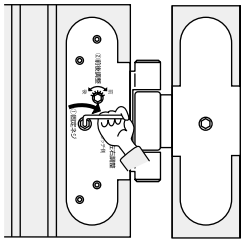
① 固定ネジをゆるめます。



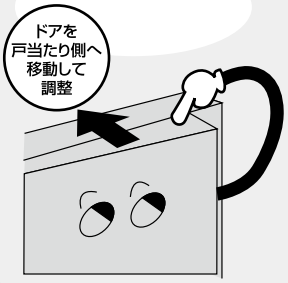
② 左右調整ネジを「ラッチ側」に回転させます。



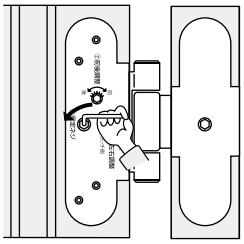
③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。



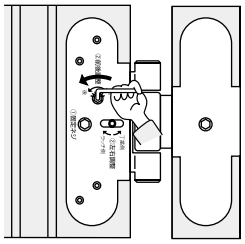
E ドアが枠より出すぎている場合



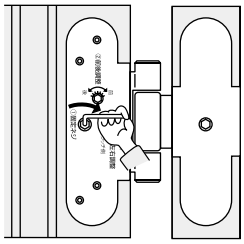
① 固定ネジをゆるめます。



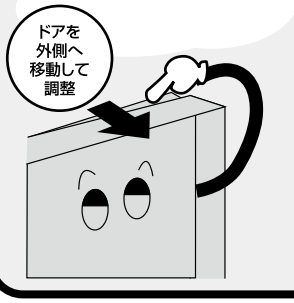
② ドア本体を戸当たり側に動かすために前後調整ネジを「後」側に回転させます。



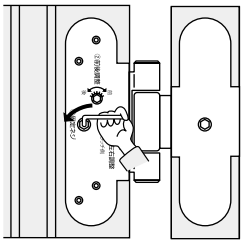
③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。



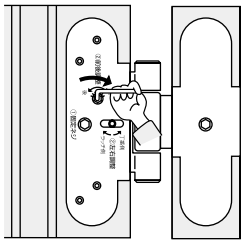
F ドアが枠より入り込みすぎている場合



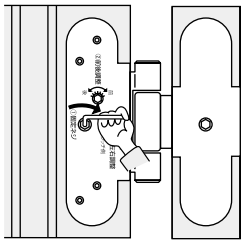
① 固定ネジをゆるめます。



② ドア本体を枠外側に動かすために前後調整ネジを「前」側に回転させます。

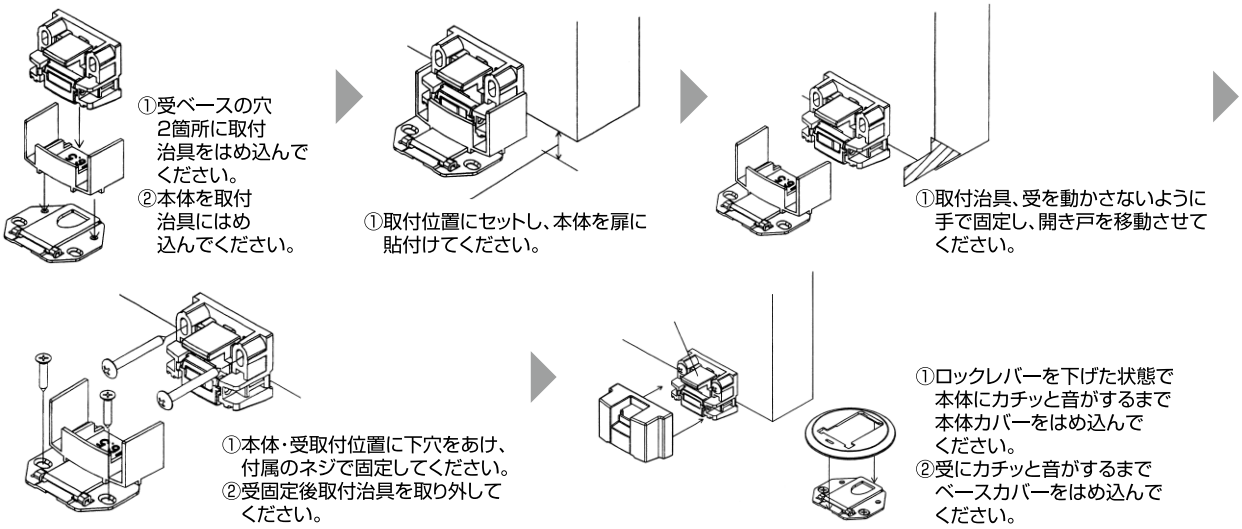


③ 固定ネジをしっかりと締めつけ、固定します。

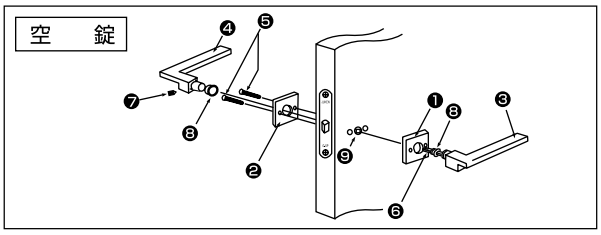


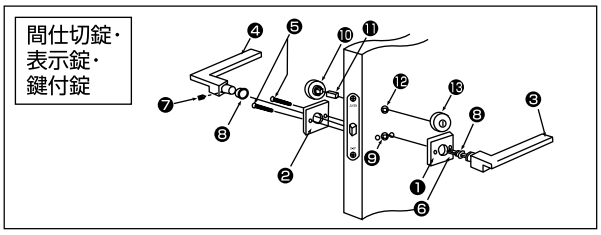
マグネット式ドアストッパー／レバーハンドル スクエアー

ドアストッパー（マグネットタイプ）の取り付け



レバーハンドル スクエアーの取り付け





	部材・部位名	備　考
❶	ハンドル座	
❷	ハンドル座	
❸	レバーハンドル	
❹	レバーハンドル	
❺	ハンドル座取り付けビス	
❻	角芯	
❼	取り付けビス	

	部材・部位名	備　考
❽	ナイロンワッシャ	
❾	角芯穴	
❿	ツマミ（サムターン座）	空錠にはありません
⓫	連結板	空錠にはありません
⓬	間仕切り穴	空錠にはありません
⓭	エマージェンシー座	

レバーハンドルの取り付け

（1）室外側より外部ハンドル座❶を切欠き穴❿に挿入してください。
（2）内部ハンドル座❷をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。
（3）レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して、反対側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて、取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャ❽のセット忘れのないようご注意ください。）

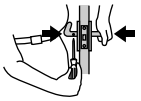
〈間仕切錠（表示・鍵付錠）の場合〉
（1）エマージェンシー座⓭の方から取り付けてください。この際の連結板⓫を間仕切穴⓬に貫通させてください。
（2）サムターン❿に間仕切穴⓬を貫通してきた連結板⓭を押入し、取り付けビスでエマージェンシー座⓭とサムターン座❿を互いに引張り合わせてください。

⚠ 注意　施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・レバー脱落防止の為、レバーハンドル用取り付けビスは確実に締める。

取り付けビスを締めるとき、化粧座とレバーハンドルの間にすき間がないかご確認ください。すき間があると、がたつきの原因となります。
電動ドライバーを使用しての施工はおやめください。ハンドルの作動不良、がたつきの原因となります。
※スライディングドアの入隅部分でご使用いただくとレバーハンドルが壁に接触しますので、開口部をずらしていただくか、弊社ストッパーをご使用ください。



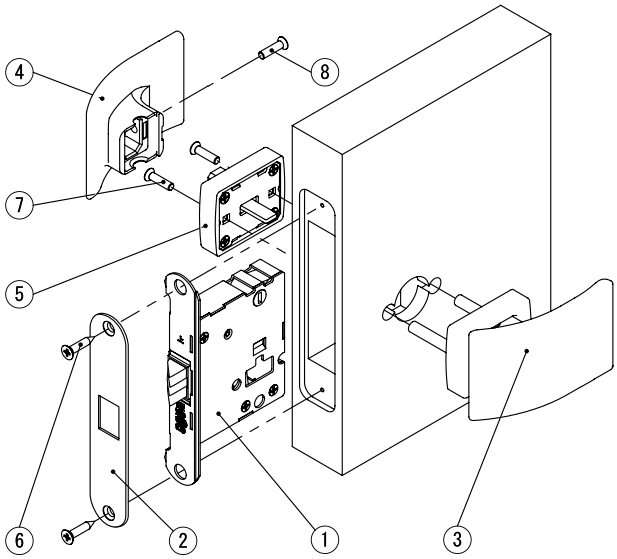
プッシュプル錠（カスタムオーダー対応）

施工手順

梱包内容・各部名称および取り付け方法

①錠ケース ×1個
②フロントカバー ×1個
③外部ハンドル ×1個
④内部ハンドル ×1個
⑤内部化粧座 ×1個
⑥錠取り付けビス(M4×20皿ビス　タッピン1種) ×2本
⑦化粧座取り付けビス(M4×16皿ビス D=7) ×2本
⑧ハンドル取り付けビス(M4×16皿ビス D=7) ×2本

対応扉厚　33～36㎜



取付方法

1 ⑥錠取り付けビスで①錠ケースと②フロントカバーを扉に取り付けてください。

2 外側の扉面に③外部ハンドルを取り付け、内側から⑦化粧座取り付けビスで⑤内部化粧座とともに③外部ハンドルを固定してください。
※化粧座の取り付けは錠と平行に取り付けてください。平行に取り付けられていない場合、閉じ込め、開放等の原因になる可能性がありますので特にご注意ください。

3 ⑤内部化粧座に④内部ハンドルを取り付けてください。

4 ⑧ハンドル取り付けビスで④内部ハンドルを固定してください。

⚠ 注意

ハンドル脱落防止のため、化粧座取り付けビス・ハンドル取り付けビスは確実にお締めください。

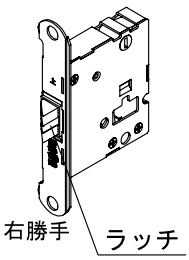
ハンドル取り付けビスを締めるとき、化粧座と内部ハンドルの間にすき間がないかご確認ください。すき間があると、がたつきの原因となります。
またインパクトドライバー等を使用しての施工はおやめください。ハンドルの作動不良、がたつきの原因となります。

ラッチ 勝手変更方法

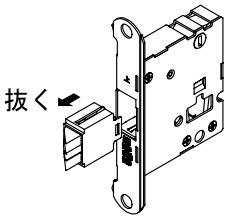
（図は右勝手から左勝手への変更を表現しています）

①フロントカバーを外した状態でラッチを抜いてください。

①-1

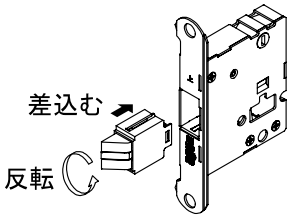


①-2

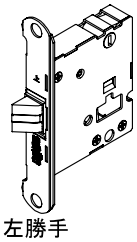


②ラッチを反転させ差し込んでください。

②-1



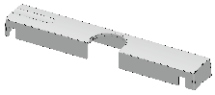
②-2



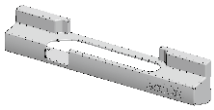
開きドア用ソフトクローズ金具

製品内容

■ 本体※:1個


■ 本体カバー※:1個

■ 受座※:1個


■ 受座カバー※:1個

※図はZH-1201-R（右吊元用）です。ZH-1201-L（左吊元用）は左右対称形状となります。

■ 受座スペーサー:1枚（2㎜）

■ 受座スペーサー:1枚（3㎜）

■ 本体取付用皿ねじ:2本（呼び3.5×30）

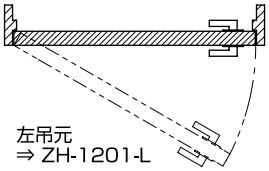
■ 受座取付用ねじ:2本（呼び4×16）

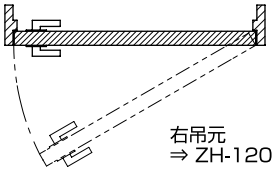
■ 受座取付テンプレート:1枚
■ 取扱説明書（本書）:1枚

取り付け前の確認

■ ドア吊元方向の確認
・ドアを開く側からみて、右側に吊元がある。
　⇒ ZH-1201-R(右吊元用)をご使用ください。

・ドアを開く側からみて、左側に吊元がある。
　⇒ ZH-1201-L(左吊元用)をご使用ください。





取り付け手順 ※図は ZH-1201-R（右吊元用）です。ZH-1201-L（左吊元用）は左右対称となります。

※本製品の取り付けは、ドアや枠の建て付け調整後におこなってください。

1.本体の取り付け

① 付属の本体取付用皿ねじ（呼び 3.5×30）2 本で上枠に取り付けます。
本体を吊元側のたて枠と戸当りに突き当て、指定の取付穴にて取り付けてください。

② アームを矢印の方向に図2の位置まで引き出します。この時、アームの上下方向や矢印と反対方向に力を加えないでください。
破損の原因となります。
アームが図 1 の状態ではドアダンパーは機能しません。

図1

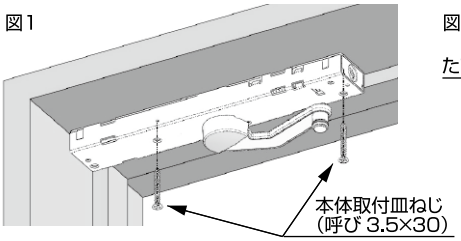


図2

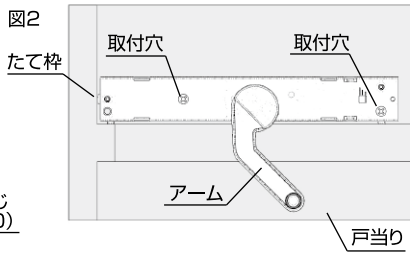
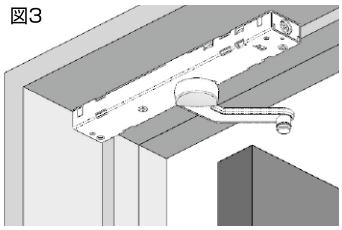


図3



2.受座の取り付け

① ドアをゆっくり閉めながら、アームの先端と付属の受座取付テンプレートの四角穴をあわせてください。

② ドアの上端面と受座取付テンプレートが平行になるよう調整し、受座取付テンプレートの2箇所の取付穴に印を付けてから下穴をあけてください。
その際、受座取付テンプレートをマスキングテープ等で仮固定すると作業が容易におこなえます。

③ 受座を付属の受座取付用ねじ（呼び4×16）2本でドアに取り付けます。

図4

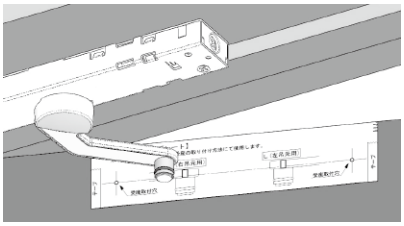
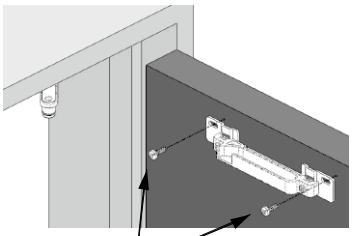
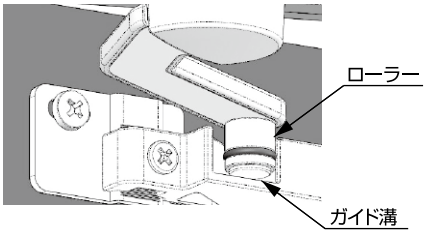


図5



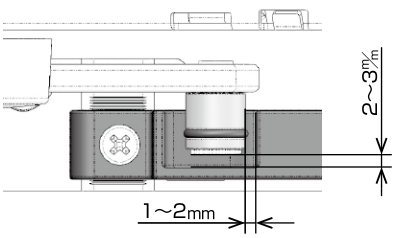
④ ドアをゆっくりと閉め、アームのローラーが受座のガイド溝に入ることをご確認ください。

図6



⑤ ローラーとガイド溝とのすき間が図7の範囲に入っていない場合は、受座の上下・左右位置調整をおこなってください。（詳細は「3. 受座の調整」をご参照ください。）

図7



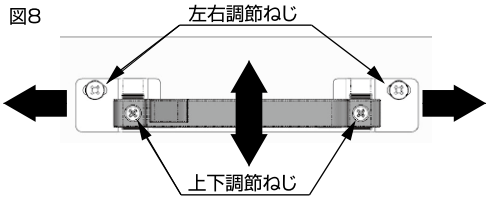
⑥ ドアをゆっくりと開閉し、正常に作動することをご確認ください。正常に作動しない場合は再度、受座の位置調整をおこなってください。

3.受座の調整

① ローラーが受座のガイド溝に入らない場合
⇒ 受座の上下・左右調整をおこなってください。

② ドアを開いたときにアームが戻ってしまう場合
⇒ 受座の左右調整で吊元方向に移動させてください。

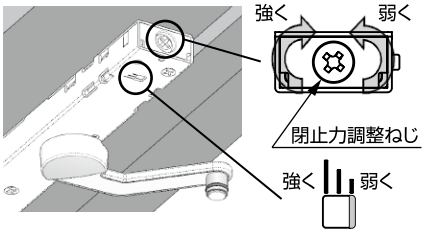
図8



4.閉止力の調整

① 閉止力が弱い場合（ドアが閉まりきらない場合など）
⇒ 本体の閉止力調整ねじで閉止力を調整してください。

図9



5.カバーの取り付け

① ドアを開いた状態で、本体カバー・受座カバーを取り付けます。

図10

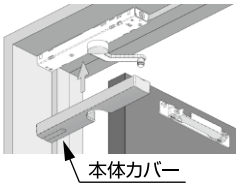
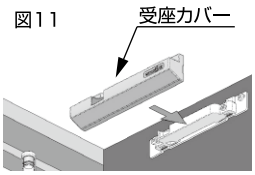


図11

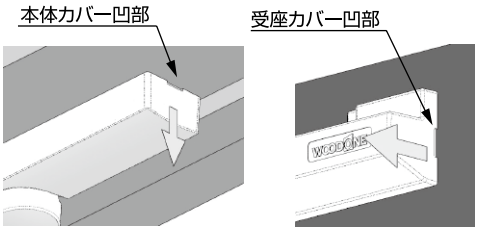


カバーの取り外し方法

・ドアを開けた状態で、カバーの凹部にマイナスドライバー等を差し込み、矢印の方向に引き出してください。

・反対側をつまんで両側均等に少しずつ取り出してください。

※枠・ドアにキズをつけないよう慎重に作業をおこなってください。

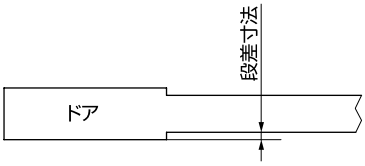


受座スペーサーの使用方法

・段差のあるドアに本製品を取り付ける場合、付属の受座スペーサーを使用します。
・受座スペーサーは、厚さ 2mm、3mm が各 1 枚付属し、ドアの段差 2mm、3mm、5mm に対応しています。
（ドアの段差 5mm の場合は、受座スペーサー 2mm と 3mm を重ねて使用します）
・受座スペーサーを付けたまま、受座の上下・左右調整をおこなうことができます。

■ 取り付け前の確認

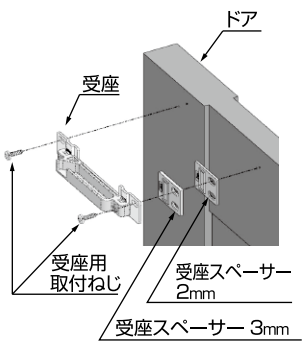
・ドアの段差寸法を確認し、受座スペーサーを選定してください。



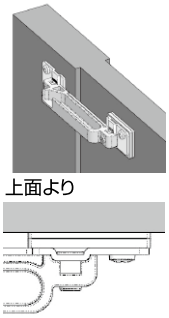
■ 使用例

・ドアの段差部に受座スペーサーを配置し受座にて挟み込みます。

【ドアの段差が5mmの場合】
※図はZH-1201-R（右吊元用）



受座取付状態



内装ドア専用枠材

1. 開梱

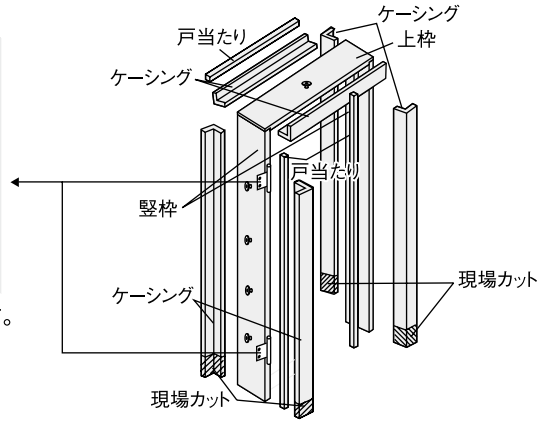
梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

お願い

丁番のベロ部分にはセロテープで※キャップが取り付けてあります。
これはドア吊り込み時に使用しますので、必ず大切に保管をしてください。

※色によって品番が異なります。
シルバー:ZY0136
ゴールド:ZY0120
ブラック:ZY0136B



梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（丁番側）	竪枠（ラッチ側）	上枠	竪枠用戸当たり（丁番側）	竪枠用戸当たり（ラッチ側）	上枠用戸当たり
入数	親子ドア	2本	ー	1本	2本	ー	1本
	シングルドア トイレドア	1本	1本	1本	1本	1本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	正寸カット済	ー	ー	正寸カット済

ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		袋の色	赤	赤	赤	赤	黄	黄
			木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠ベースビス 25mm φ3.5mm	戸当たりビス	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm
		セット品番						
入数	ソフトアート グランステージ	ZYDA13	2本	4本	4本	15本	9本	1本
	ピノアース	ZYDA21-□	2本	4本	4本	12本	9本	1本
備考（部材品番等）			ー	ー	ー	ー	ー	ー

別梱包（ケーシングセット）

部材名		竪枠用ケーシング	上枠用ケーシング
入数	親子ドア	4本	2本
	シングルドア トイレドア	4本	2本
備考（部材品番等）		ー	ー

別梱包（下枠） 下枠Q型 / 床直付け下枠

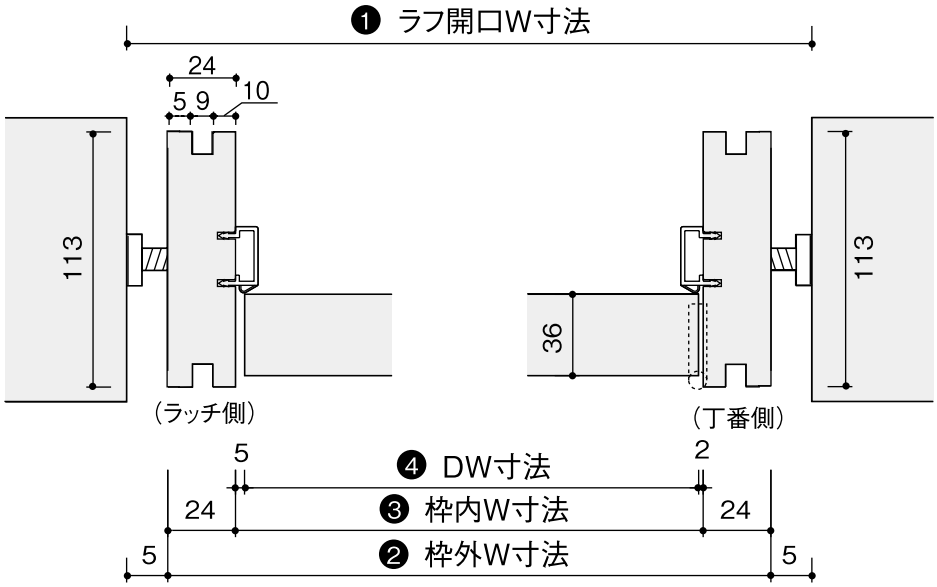
部材名		下枠	下枠ベース	通気スペーサー	下枠
入数	親子ドア	1本	1本	2個	1本
	シングルドア トイレドア	1本	1本	2個	1本
備考（部材品番等）		正寸カット済	正寸カット済	DCTX52	正寸カット済

2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
納まり図はソフトアートシリーズの場合です。ピノアース·グランステージシリーズの場合も寸法は同様になります。
※ハイドアは対応しているシリーズのみになります。

横断面図

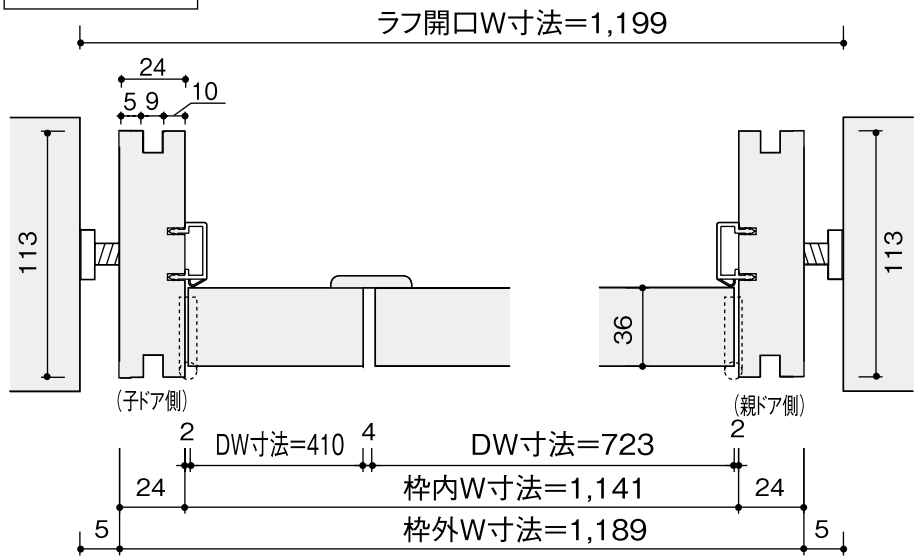
（単位:mm）



■ 枠製品寸法と納まり

製品寸法	848	778	758	735	654（トイレ）
❶ラフ開口W寸法	858	788	768	745	664
❷枠外W寸法	848	778	758	735	654
❸枠内W寸法	800	730	710	687	606
❹DW寸法	793	723	703	680	599

親子ドアの場合

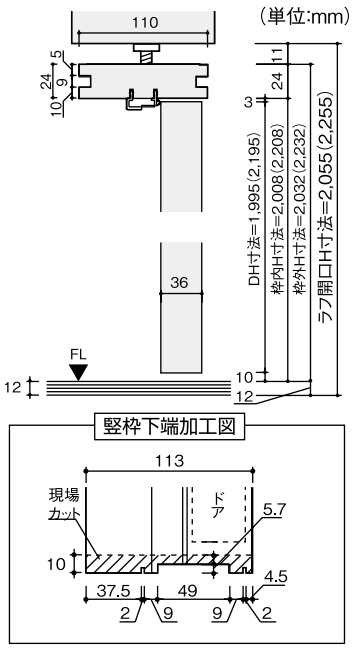


内装ドア専用枠材

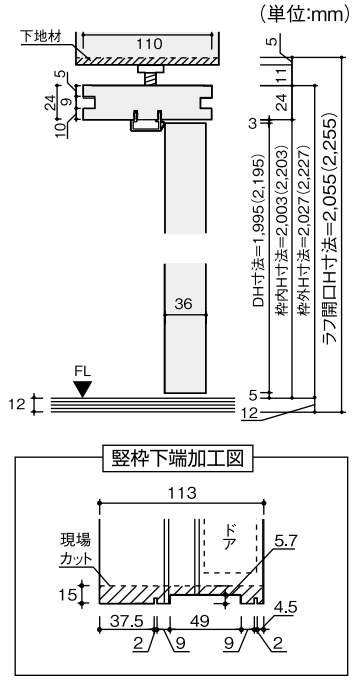
縦断面図

3方枠（下枠なし）

ドアに通気が必要な場合

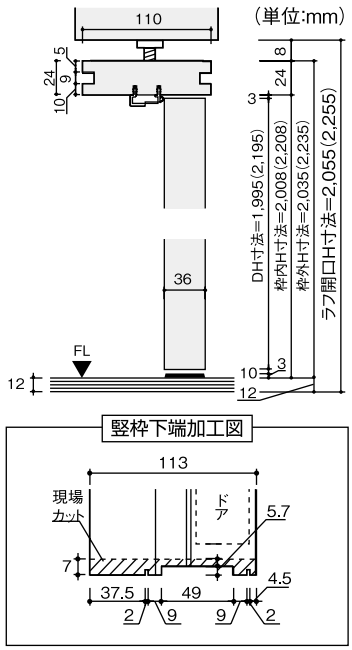


ドアに通気が不要な場合

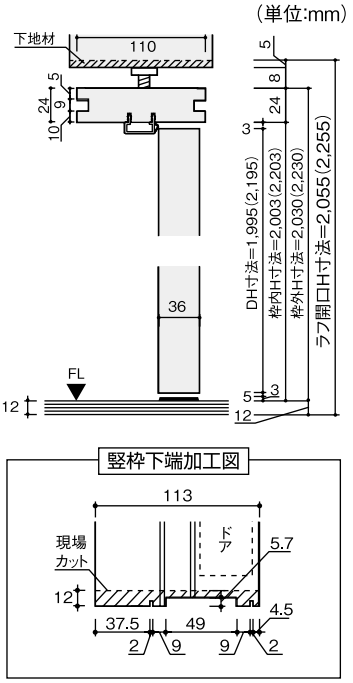


3方枠+床直付下枠

ドアに通気が必要な場合

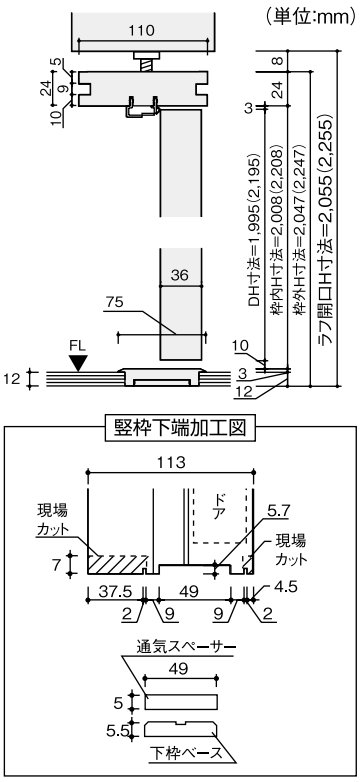


ドアに通気が不要な場合

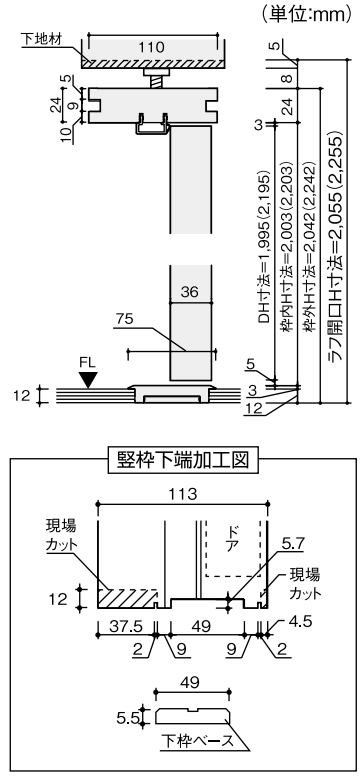


4方枠（下枠Q型）

ドアに通気が必要な場合



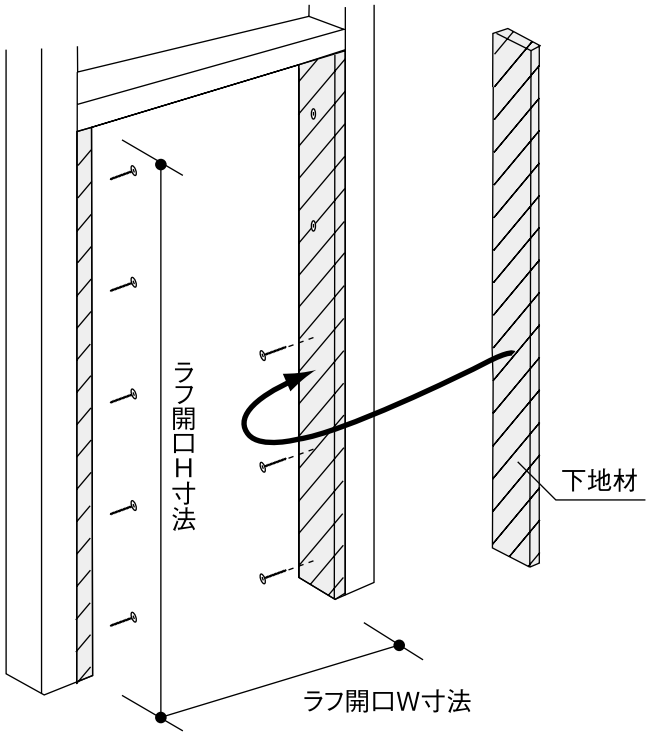
ドアに通気が不要な場合



※（　）内の寸法はハイドアの場合です。

3. 施工手順

取り付け開口部の確認



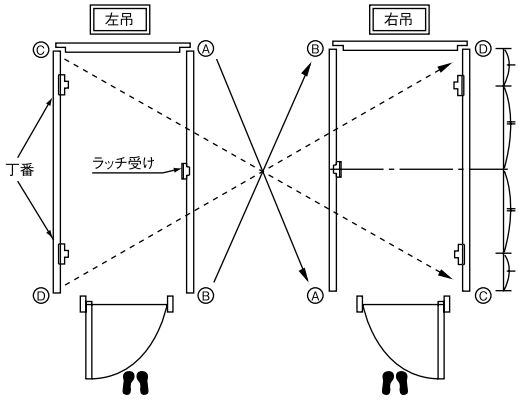
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠材寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

枠材の組み立て（前準備）

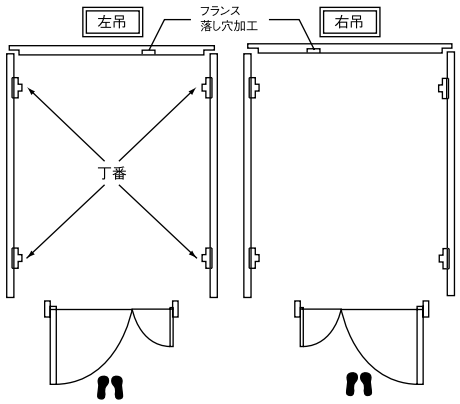
シングルドア

●当社のドア枠は左右兼用です。開口部の吊元を確認の後、下図のように設定してください。

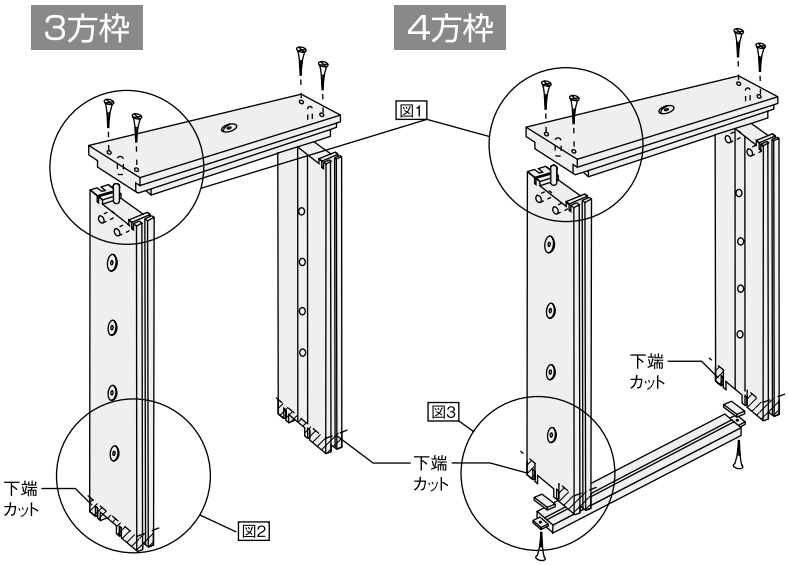
※ハイドアには右吊り、左吊りがあります。



親子ドア

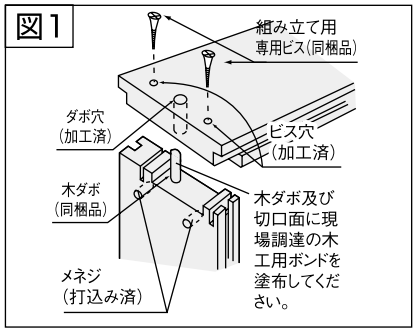


枠材の組み立て（正寸カット済）



お願い

開口部に通気が必要な場合、同梱の「通気スペーサー」を取り付けた後、下枠ベースを施工してください。



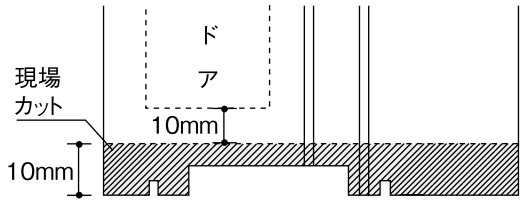
※メネジは、ソフトアートシリーズのみ

内装ドア専用枠材

●ドアに通気が必要な場合

3方枠

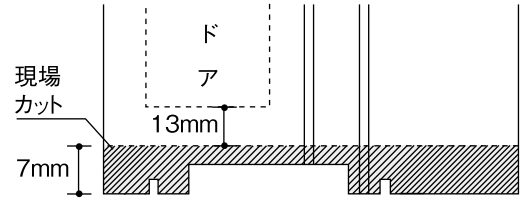
図2 竪枠下端加工図



下端10mmカットしてください。（ドアとのクリアランス10mm）
※ドア下のクリアランスは最大14mmまでとれます。

3方枠+床直付下枠

図2 竪枠下端加工図



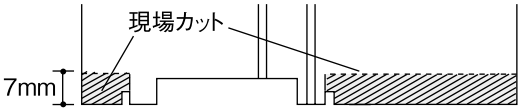
下端7mmカットしてください。（ドアとのクリアランス10mm）

4方枠

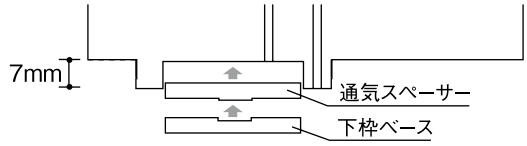
下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図

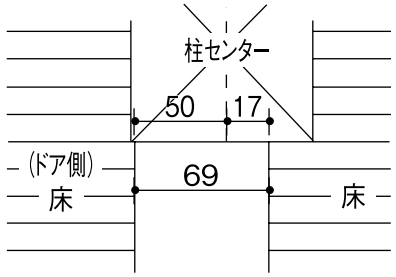
●7mm（斜線部）を欠き込んでください。



●通気スペーサー（同梱）を装着して、下枠ベースを取り付けてください。（ドアとのクリアランス10mm）



フロアーの張り込み位置

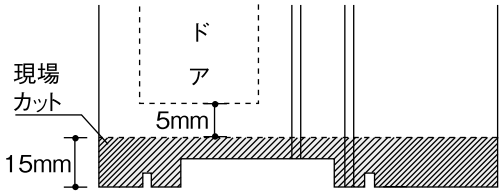


●15mmフロアーご使用の際は、3mmのベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

●ドアに通気が不要な場合

3方枠

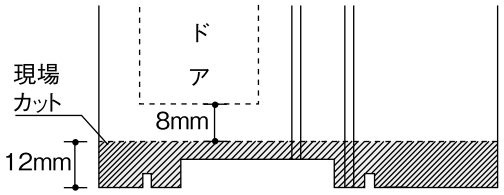
図2 竪枠下端加工図



下端15mmカットしてください。（ドアとのクリアランス5mm）
※ドア下のクリアランスは最大14mmまでとれます。

3方枠+床直付下枠

図2 竪枠下端加工図

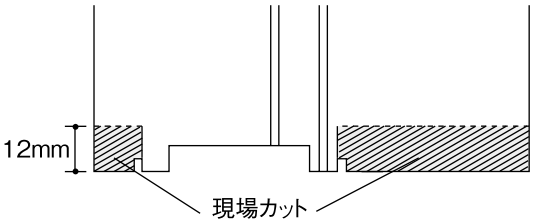


下端12mmカットしてください。（ドアとのクリアランス5mm）

4方枠

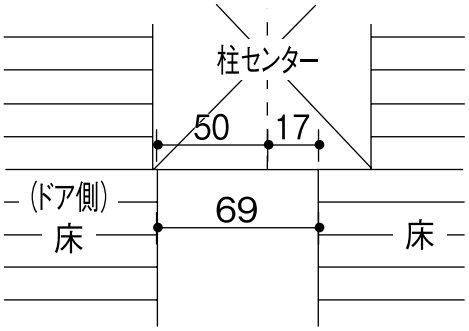
下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図



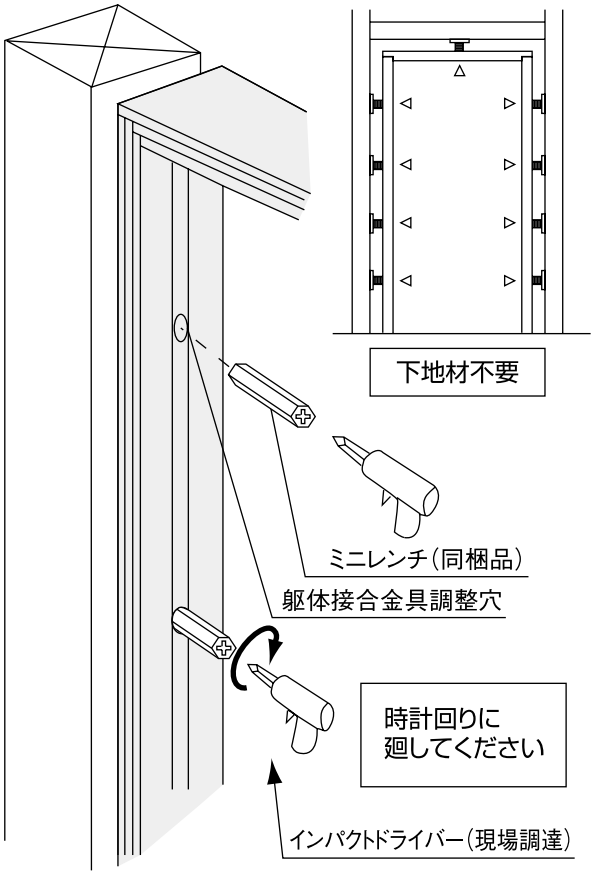
●12mm（斜線部）を欠き込んでください。

フロアーの張り込み位置

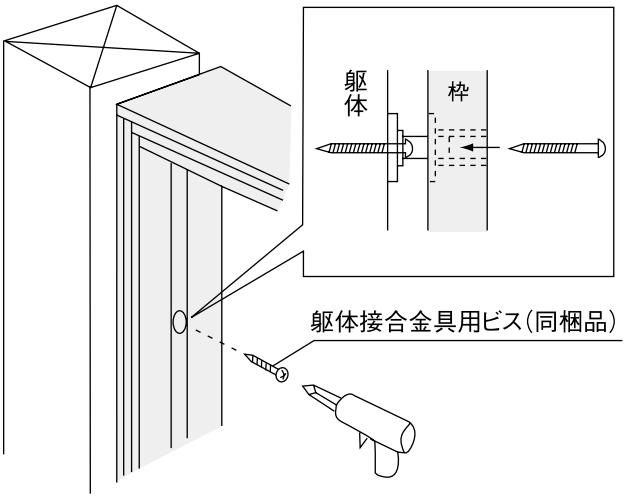


下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

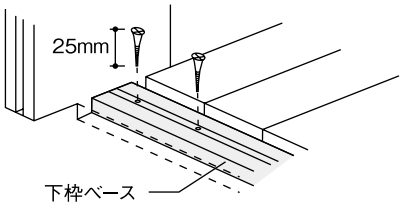
枠材の仮固定



竪枠の本固定



下枠ベースの固定（下枠埋め込みの場合）

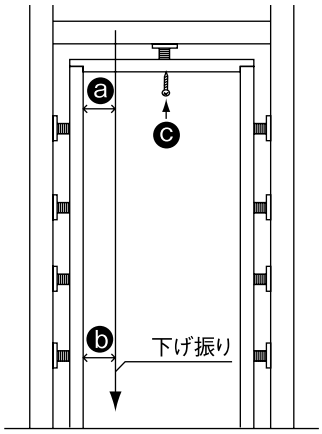


下枠ベースを同梱のビス（L=25mm）で
床下地材に固定します。

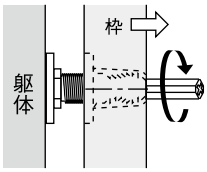
※いったん下枠本体ははずします。

建て付け調整ならびに上枠の本固定

- ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

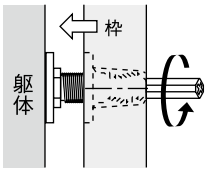


枠を内側に寄せる場合



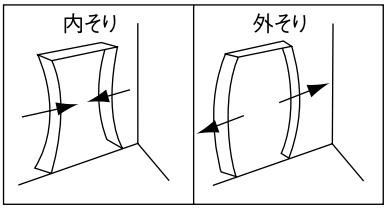
時計回り（右回り）で調整

枠を外側に出す場合



反時計回り（左回り）で調整

※右記の様なことがないようご注意ください。



ケーシングの取り付け

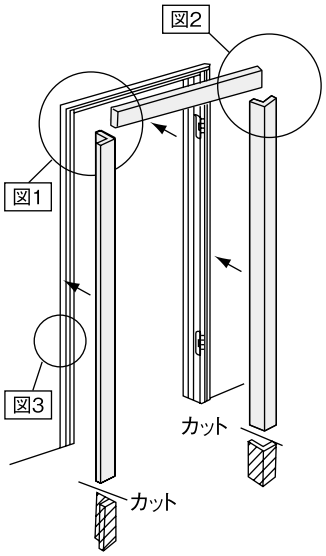


図1・図2

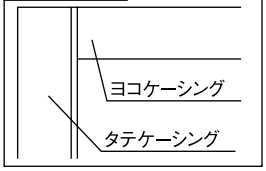
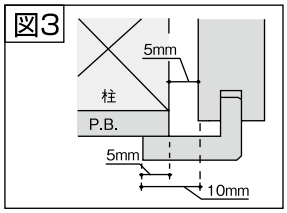


図3

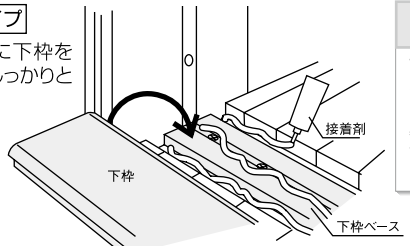


内装ドア専用枠材

下枠の取り付け（4方枠の場合）

下枠Q型突板タイプ

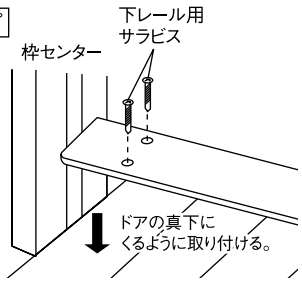
下枠ベースの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定して下さい。



お願い

下枠端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず下枠中央を目安にたたき込んでください。

床直付下枠タイプ



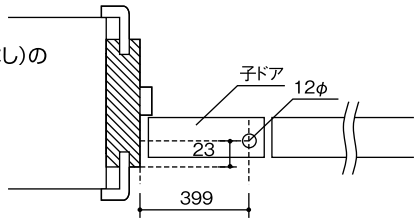
フランス落しの下穴加工

親子ドアの場合

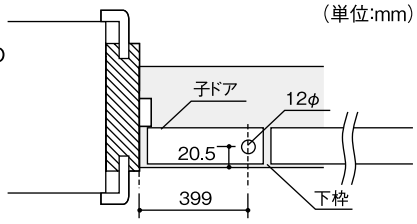
右図のように下枠または、床面に直接12φの穴加工を施してください。

（単位:mm）

3方枠（下枠なし）の場合



4方枠（下枠付）の場合

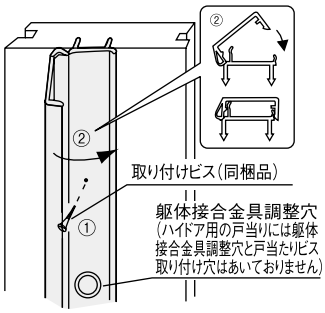


戸当りの取り付け

※シリーズによって取り付け方法が異なりますので、ご確認の上で、取り付けてください。

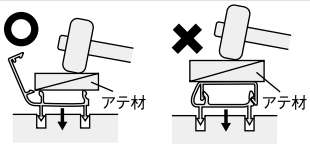
樹脂タイプ …ソフトアート

①上枠部の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

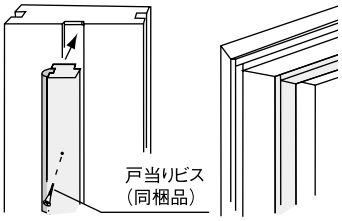
お願い



戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

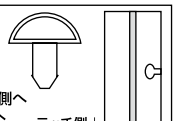
無垢タイプ … ピノアース・グランステージ

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



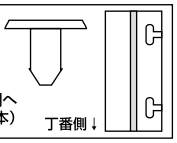
お願い

ドーム型



品番 ZY5020
2100 1本 ラッチ側へ
850 1本 上枠側へ

T型

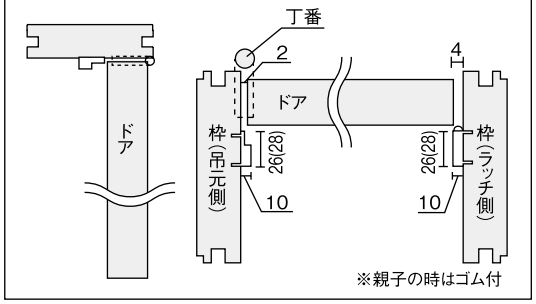


品番 ZY5021
2100 1本 丁番側へ
（親子ドア枠には2本）

ゴムパッキンは2種類用意させてもらっております。それぞれ右記のように施工される様お願いいたします。逆に使いますと、かみこみ等の不具合が発生する可能性がありますのでご注意ください。

換気対応型枠材をお使いのお客様へ

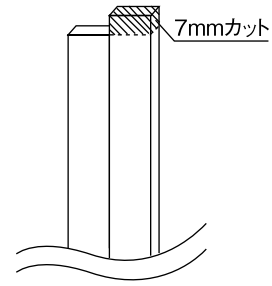
取り付け位置と、取り付け方向について



※親子ドア枠の場合

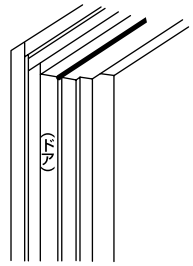
ソフトアート・グランステージ

竪枠用戸当りの上端7mmをカットしてご使用ください。



下端は、DH寸法に合わせてカットしてください。

ピノアース・ジュピーノ



①上枠部の戸当り（ゴム付）を取り付けます。
②竪枠の戸当り（ゴムなし）を高さにあわせ長さカットをし、取り付けます。

内装ドア専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

施工の前に

●躯体接合金具はピノアースシリーズのみです。施工方法が一部異なりますので、説明をよくお読みになって施工してください。
●メネジはソフトアートシリーズのみ加工されています。

親子ドア　梱包内容

枠材本体（ピノアース）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×2
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	躯体接合金具セット ZYDA21-□
	躯体接合金具用ビス	9本	
	下枠ベース用ビス	4本	
	ミニレンチ	1本	
	木ダボ	2本	
	戸当りビス	15本	
	フランス落とし	1個	
	フランス落とし用ビス	2本	

枠材本体（ソフトアート）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×2
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット ZYBA13
	下枠ベース専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	木ダボ	2本	
	フランス落とし	1個	
	フランス落とし用ビス	2本	
	枠固定ビス	9本	

シングルドア　トイレドア　梱包内容

枠材本体（ピノアース）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	躯体接合金具セット ZYDA21-□
	躯体接合金具用ビス	9本	
	下枠ベース用ビス	4本	
	ミニレンチ	1本	
	木ダボ	2本	
	戸当りビス	15本	

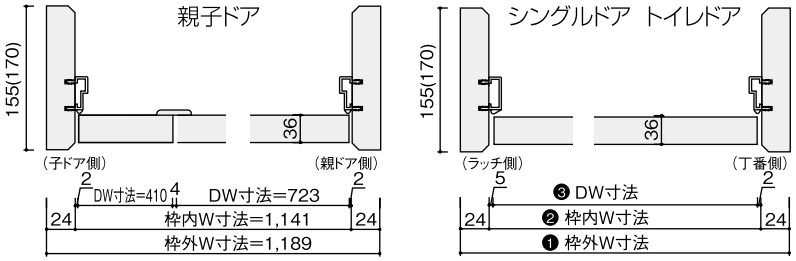
枠材本体（ソフトアート）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	ビスセット ZYBA13
	下枠ベース専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	木ダボ	2本	
	枠固定ビス	9本	

2. 納まり図

※170巾の固定枠はソフトアートシリーズのみ対応しています。
※ハイドアの固定枠はソフトアートシリーズのみ対応しています。

横断面図



（　　）内は170巾の場合の寸法です。

（単位:mm）

■ 枠製品寸法と納まり

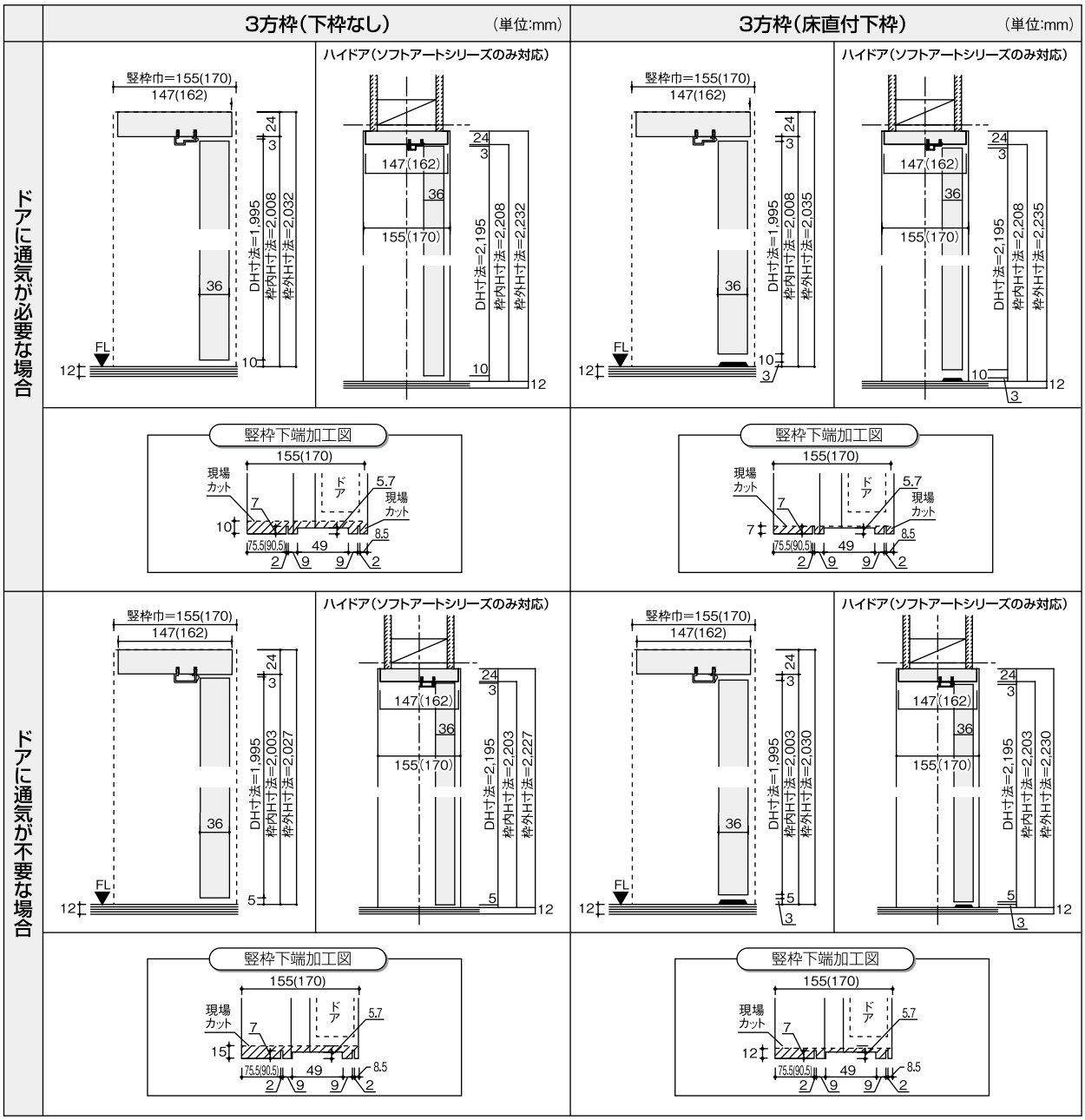
製品寸法	848	778	758	735	654（トイレドア）
❶枠外W寸法	848	778	758	735	654
❷枠内W寸法	800	730	710	687	606
❸DW寸法	793	723	703	680	599

※ピノアースシリーズには躯体接合金具が付いています。ラフ開口を枠外寸法+10mmで設定してください。

内装ドア専用枠材

2. 納まり図

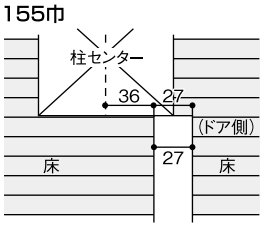
縦断面図



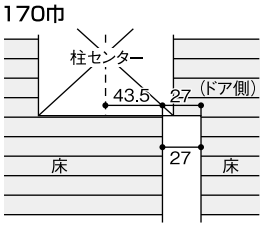
※（　）内は170巾の場合の寸法です。
※ピノアースシリーズには躯体接合金具が付いています。ラフ開口を枠外寸法+10mmで設定してください。
※ハイドアはソフトアートシリーズのみ対応です。

●床板の張り込み寸法(樹脂下枠使用の場合)

155巾



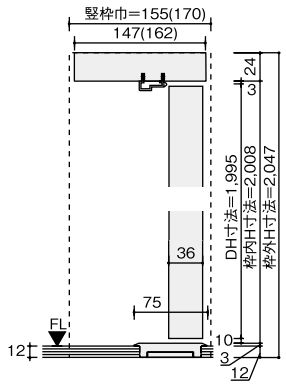
170巾



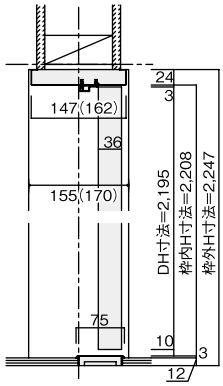
縦断面図

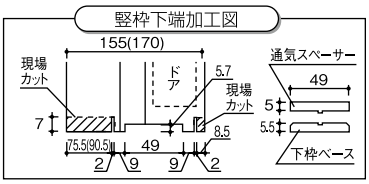
4方枠（下枠Q型）　（単位:mm）

ドアに通気が必要な場合

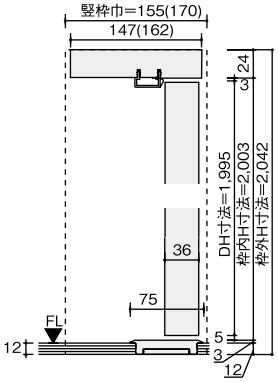


ハイドア（ソフトアートシリーズのみ対応）

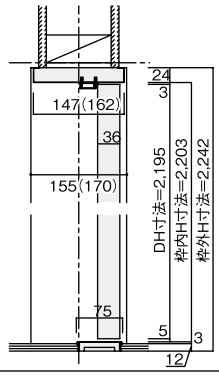


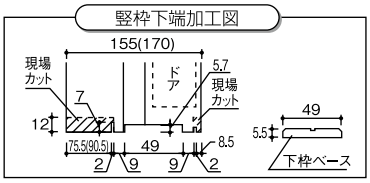


ドアに通気が不要な場合



ハイドア（ソフトアートシリーズのみ対応）

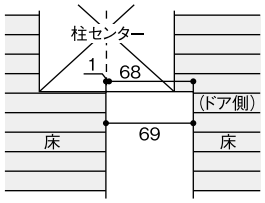




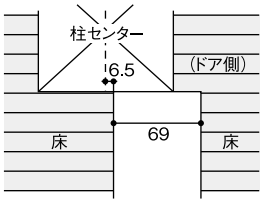
※（　）内は170巾の場合の寸法です。
※ピノアースシリーズには躯体接合金具が付いています。ラフ開口を枠外寸法+10mmで設定してください。
※ハイドアはソフトアートシリーズのみ対応です。

●床板の張り込み寸法

155巾



170巾

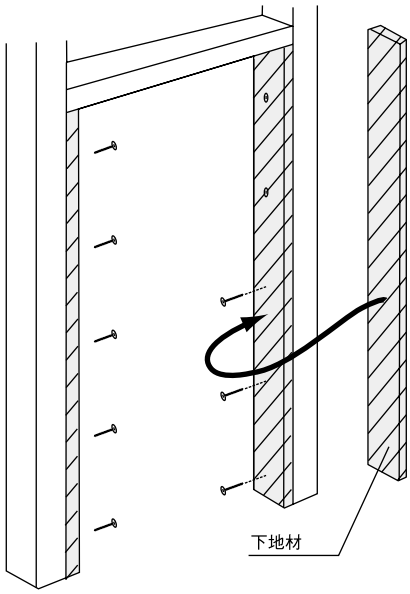


内装ドア専用枠材

3. 施工手順

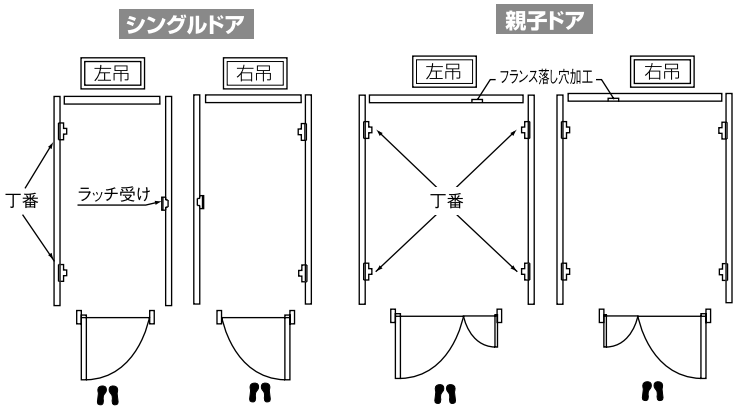
取り付け開口部の確認・枠材の吊り元確認

●取り付け開口部の確認

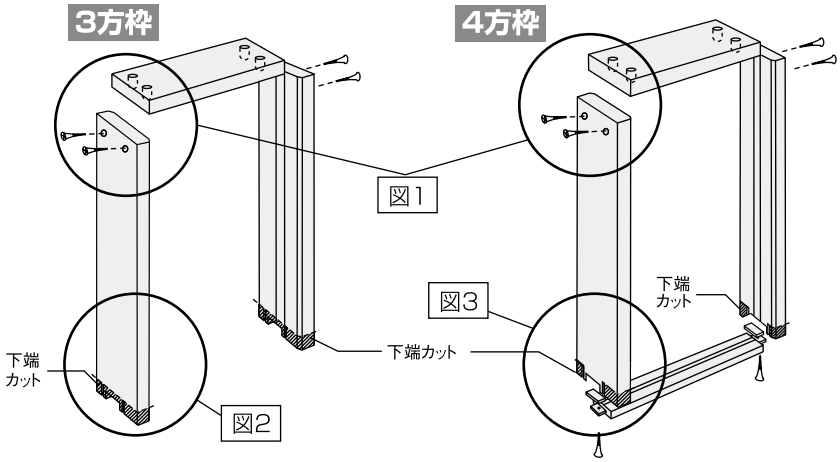


ピノアースシリーズには躯体接合金具が**装備されているため**、
納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**ラフ開口**を設けてください。

ソフトアートシリーズには躯体接合金具が**装備されていないため**、
納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。



枠材の組み立て

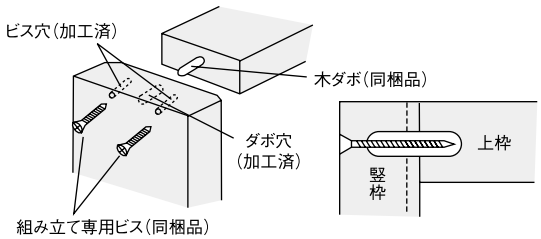


お願い

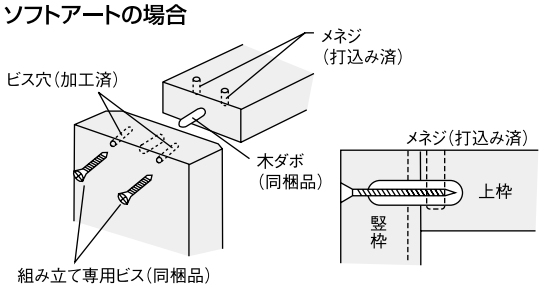
開口部に通気が必要な場合、同梱の「通気スペーサー」を取り付けた後、下枠ベースを施工してください。

図1 木ダボおよび切口面に木工用ボンドを塗布してください。

ピノアースの場合



ソフトアートの場合

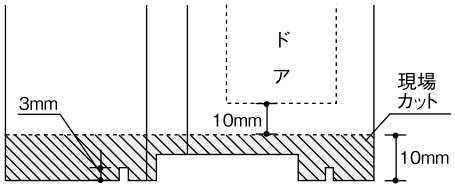


●ドアに通気が必要な場合

3方枠

図2 竪枠下端加工図

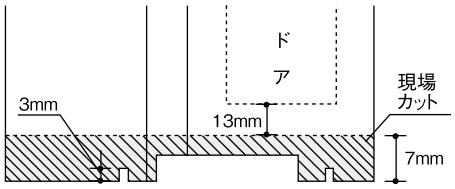
下端10mmカットしてください。（ドアとのクリアランス10mm）
※ドア下のクリアランスは最大14mmまでとれます。



3方枠+床直付下枠

図2 竪枠下端加工図

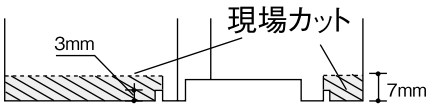
下端7mmカットしてください。（ドアとのクリアランス10mm）



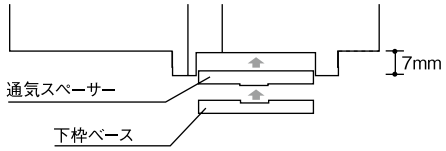
4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図

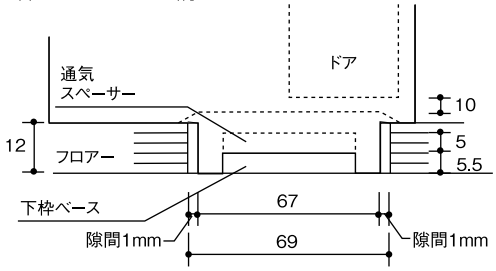
●7mm（斜線部）を欠き込んでください。



●通気スペーサー（同梱）を装着して、下枠ベースを取り付けてください。（ドアとのクリアランス10mm）



竪枠とフロアーの納まり



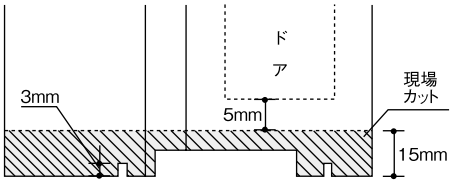
●15mmフロアーご使用の際は、3mmのベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

●ドアに通気が不要な場合

3方枠

図2 竪枠下端加工図

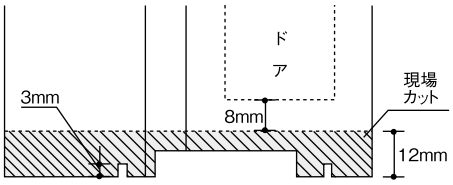
下端15mmカットしてください。（ドアとのクリアランス5mm）
※ドア下のクリアランスは最大14mmまでとれます。



3方枠+床直付下枠

図2 竪枠下端加工図

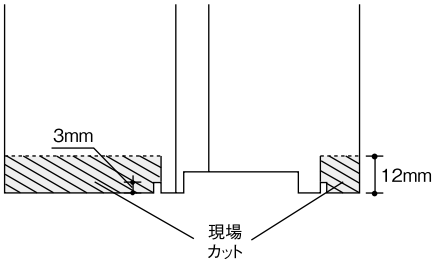
下端12mmカットしてください。（ドアとのクリアランス5mm）



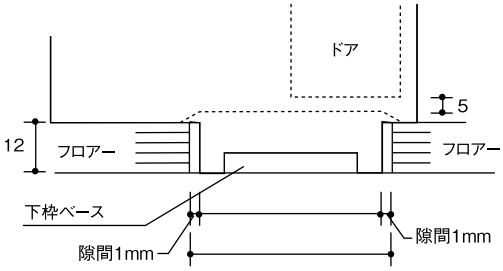
4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図

●12mm（斜線部）を欠き込んでください。



竪枠とフロアーの納まり



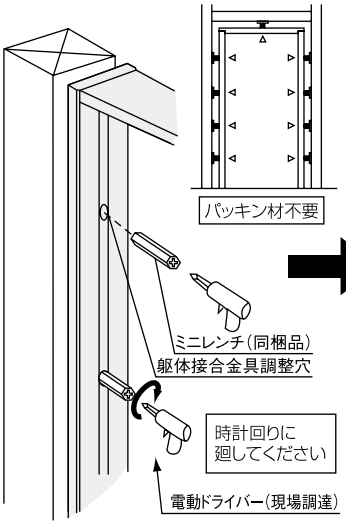
下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

内装ドア専用枠材

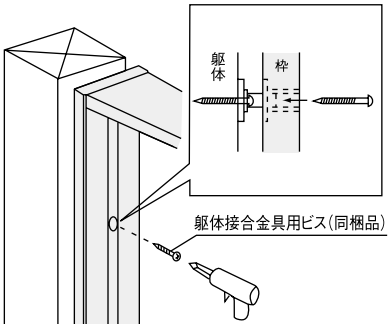
枠材の固定（ピノアースとソフトアートで施工方法が異なります）

ピノアース枠の場合

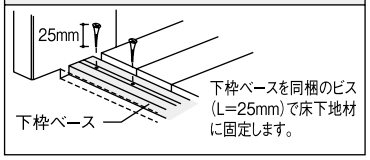
枠材の仮固定



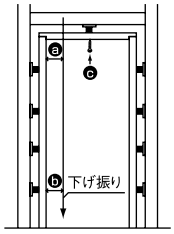
建て付け調整ならびに枠材の本固定



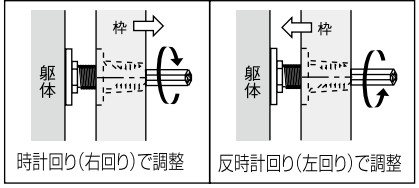
下枠ベースの固定（下枠埋め込みの場合）



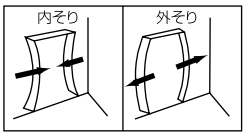
いったん下枠本体ははずします。



- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

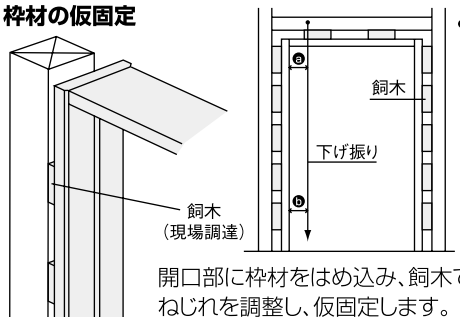
枠を内側に寄せる場合	枠を外側に出す場合
	
時計回り（右回り）で調整	反時計回り（左回り）で調整

※右記の様なことがないようご注意ください。



ソフトアート枠の場合

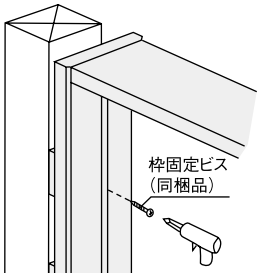
枠材の仮固定



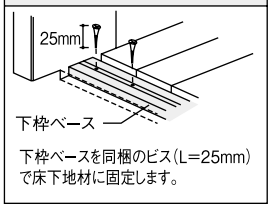
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ねじれを調整し、仮固定します。

枠材の本固定

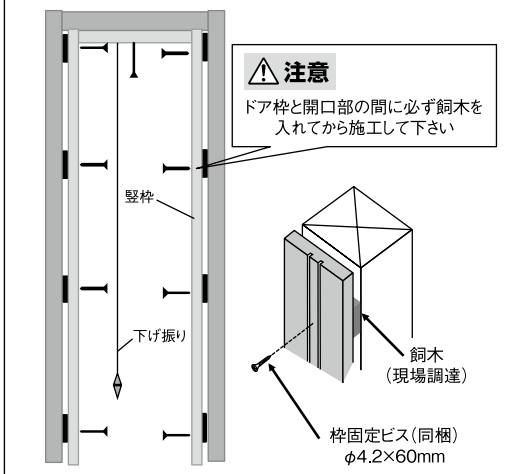


下枠ベースの固定（下枠埋め込みの場合）



いったん下枠本体ははずします。

固定枠用　枠固定ビス



⚠注意
ドア枠と開口部の間に必ず飼木を入れてから施工して下さい

固定ビスの打ち込み箇所
竪枠…4ヶ所×2　上枠…1ヶ所

⚠注意
- 固定ビスはビス頭が残らないよう、確実に打ち込んでください。
- ビスは戸当たりビスと干渉しない位置に施工してください。

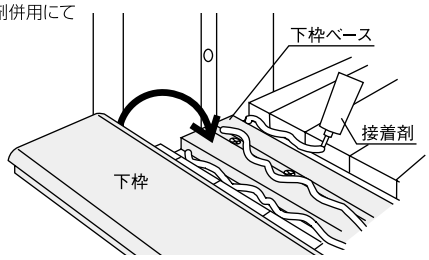
下枠の取り付け

下枠Q型突板タイプ

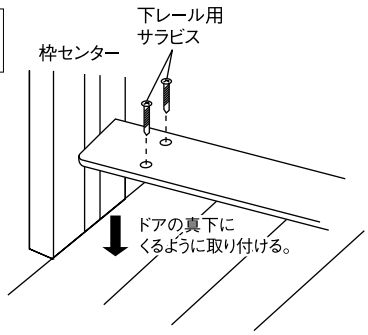
下枠ベースの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定して下さい。

お願い

下枠端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず下枠中央を目安にたたき込んでください。



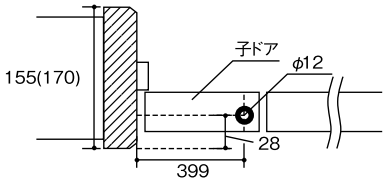
床直付
下枠タイプ



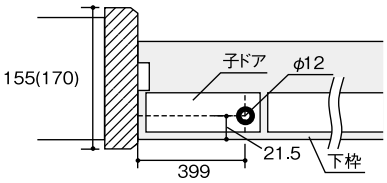
フランス落しの下穴加工

下図のように上枠及び下枠または、床面に直接φ12の穴加工を施してください。

3方枠（下枠なし）の場合
（単位:mm）



4方枠（下枠付）の場合
（単位:mm）



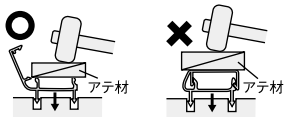
戸当りの取り付け

※シリーズによって取り付け方法が異なりますので、ご確認の上で、取り付けてください。

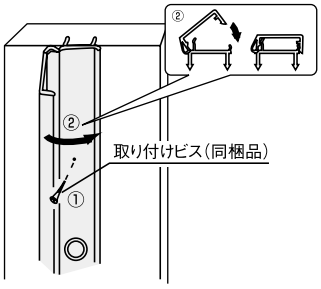
樹脂タイプ ……ソフトアート

①上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。

お願い

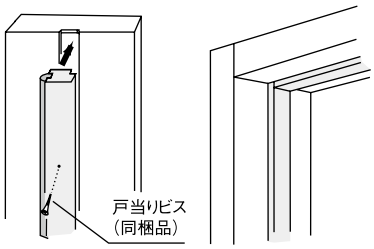


戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。



無垢タイプ …ピノアース・グランステージ

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



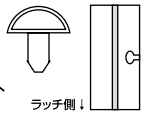
※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

お願い

ゴムパッキンは2種類用意させてもらっております。それぞれ右記のように施工される様お願いいたします。逆に使いますと、かみこみ等の不具合が発生する可能性がありますのでご注意ください。

ドーム型

品番　ZY5020
2100 1本　ラッチ側へ
850　1本　上枠側へ

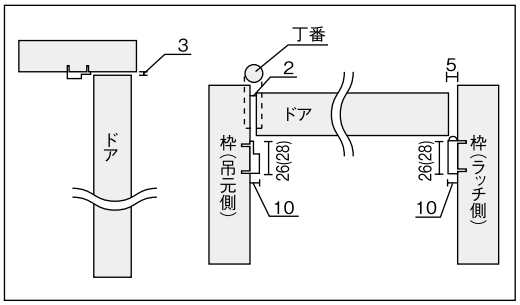


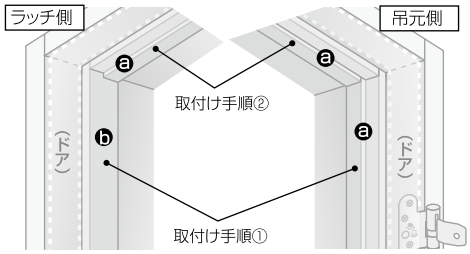
T型

品番　ZY5021
2100 1本　丁番側へ
（親子ドア枠には2本）

⚠ 注意

戸当りの取り付け位置・向きにご注意ください。





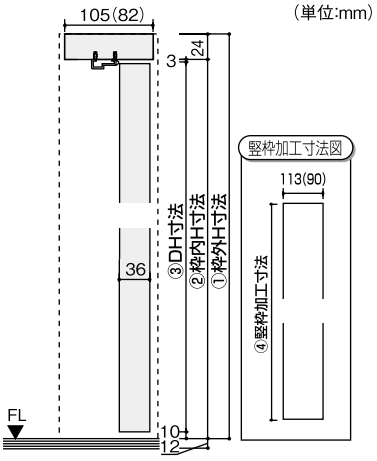
ⓐの換気対応戸当たりは、取り付け位置（上枠・丁番側竪枠）、向き（凹んだ方がドア方向）を確認のうえ、お取り付けください。

縦断面図

※（　）内は90巾の場合の寸法です。

ドアに通気が必要な場合

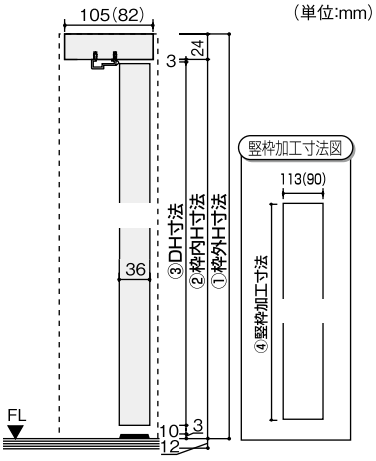
3方枠



■ 枠製品寸法と納まり（3方枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,032	2,008	1,995	2,032
1,917	1,893	1,880	1,917
1,837	1,813	1,800	1,837

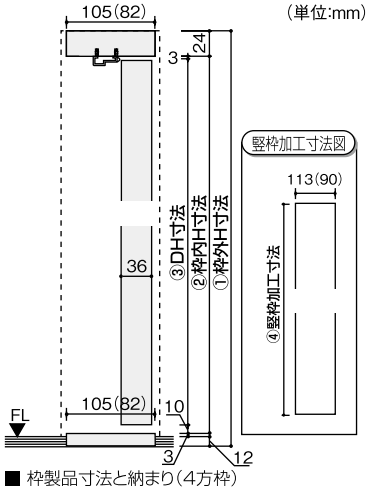
3方枠+床直付下枠



■ 枠製品寸法と納まり（3方枠+床直付下枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,035	2,008	1,995	2,035
1,920	1,893	1,880	1,920
1,840	1,813	1,800	1,840

4方枠

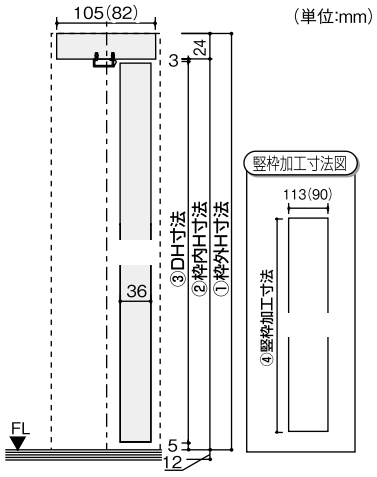


■ 枠製品寸法と納まり（4方枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,047	2,008	1,995	2,047
1,932	1,893	1,880	1,932
1,852	1,813	1,800	1,952

ドアに通気が不要な場合

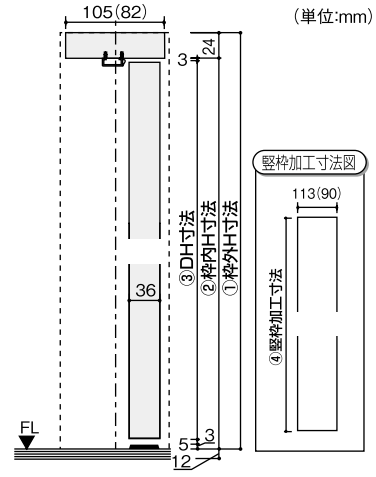
3方枠



■ 枠製品寸法と納まり（3方枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,027	2,003	1,995	2,027
1,912	1,888	1,880	1,912
1,832	1,808	1,800	1,832

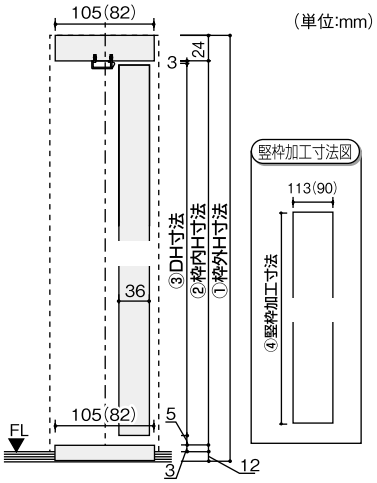
3方枠+床直付下枠



■ 枠製品寸法と納まり（3方枠+床直付下枠）

①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,030	2,003	1,995	2,030
1,915	1,888	1,880	1,915
1,835	1,808	1,800	1,835

4方枠



■ 枠製品寸法と納まり（4方枠）

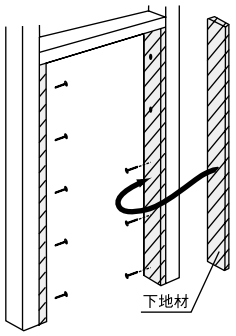
①枠外H寸法	②枠内H寸法	③DH寸法	④竪枠加工寸法
2,042	2,003	1,995	2,042
1,927	1,888	1,880	1,927
1,847	1,808	1,800	1,847

内装ドア専用枠材

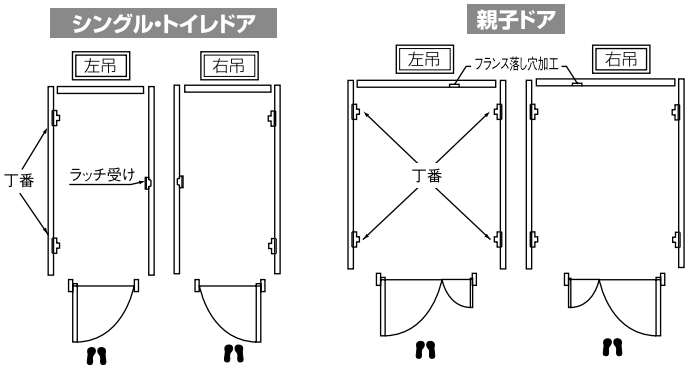
3. 施工手順

取り付け開口部の確認・枠材の吊り元確認

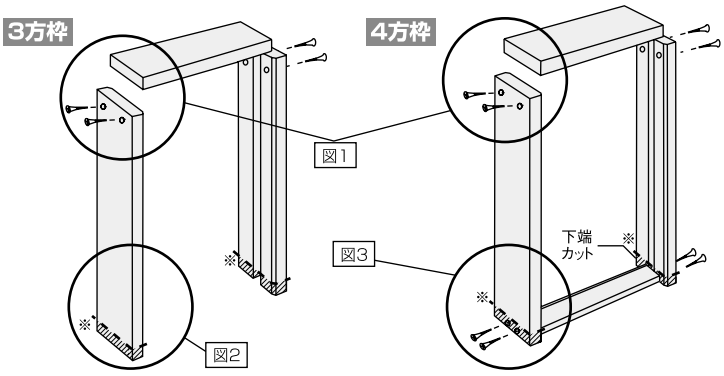
●取り付け開口部の確認



躯体接合金具が**装備されていないため**、納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。

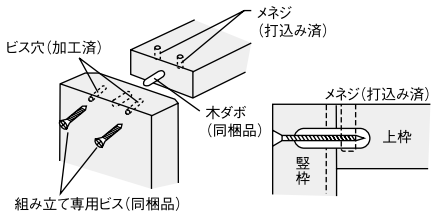


枠材の組み立て



※下端欠き込みスリットなし

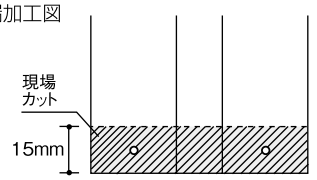
図1 木ダボおよび切口面に木工用ボンドを塗布してください。



●ドアに通気が必要な場合

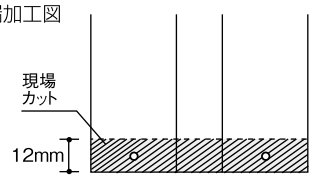
3方枠

図2 竪枠下端加工図



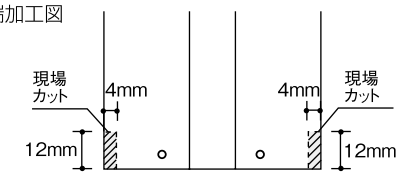
3方枠+床直付下枠

図2 竪枠下端加工図



4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

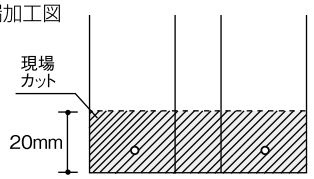
図3 竪枠下端加工図



●ドアに通気が不要な場合

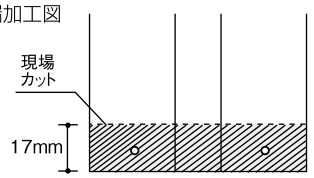
3方枠

図2 竪枠下端加工図



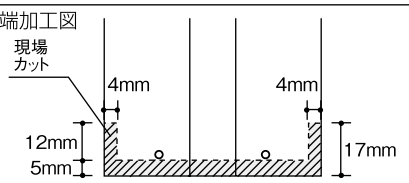
3方枠+床直付下枠

図2 竪枠下端加工図

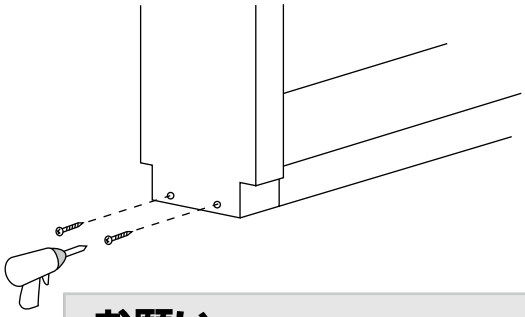


4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図



下枠の取り付け（4方枠の場合）



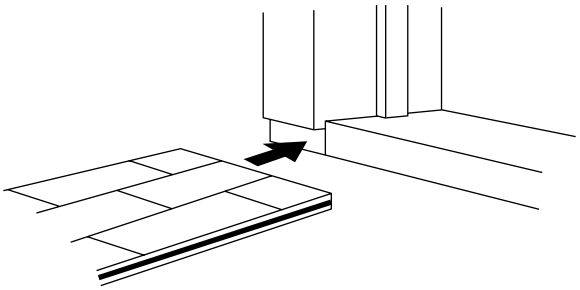
お願い

下枠はL=800mmを内寸法に合わせてカットしてください。

敷居と床の納まり

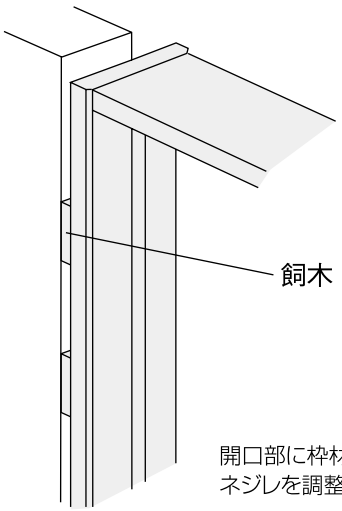
床板は敷居に突き付けとなります。

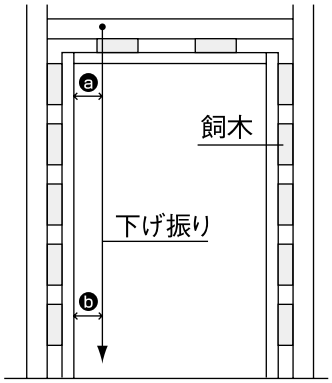
※床板の厚みが15mmの場合、枠、下枠の下に3mmのベニヤなどをかませて高さを調整してください。



枠材の固定

枠材の仮固定と建て付け調整

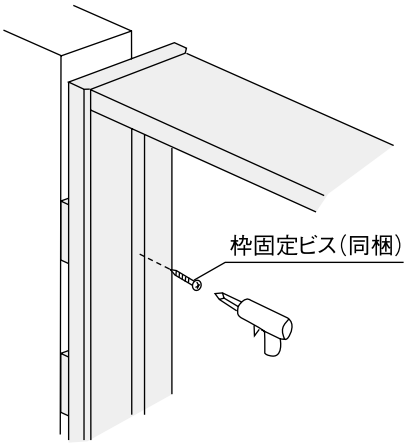




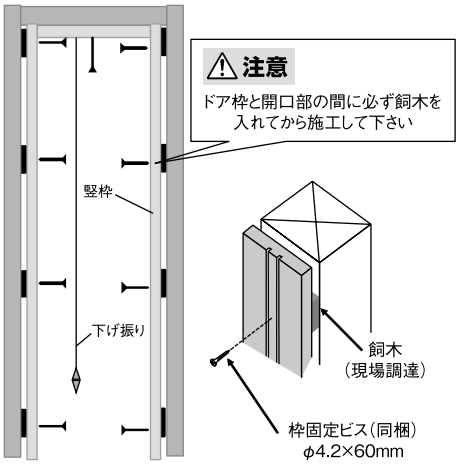
●ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
合わせて前後の建りも調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定



固定枠用　枠固定ビス



⚠注意
ドア枠と開口部の間に必ず飼木を入れてから施工して下さい

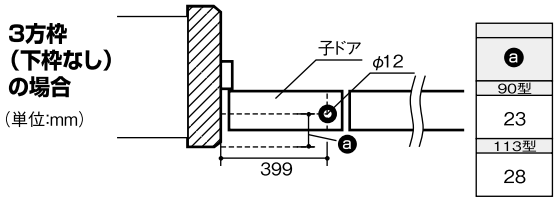
固定ビスの打ち込み箇所
竪枠…4ヶ所×2　上枠…1ヶ所

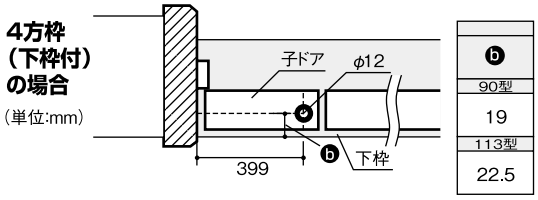
⚠注意
●固定ビスはビス頭が残らないよう、確実に打ち込んでください。
●ビスは戸当たりビスと干渉しない位置に施工してください。

内装ドア専用枠材

フランス落しの下穴加工

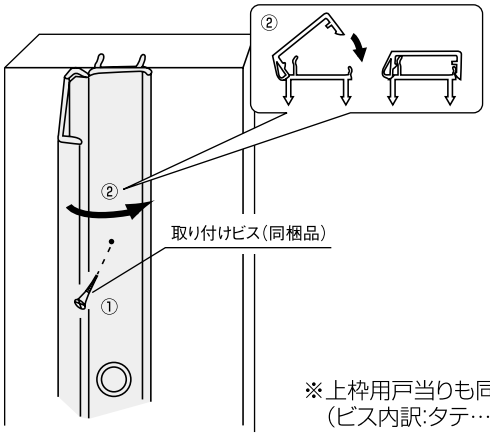
下図のように上枠及び下枠または、床面に直接φ12の穴加工を施してください。



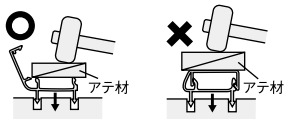


戸当りの取り付け

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



お願い

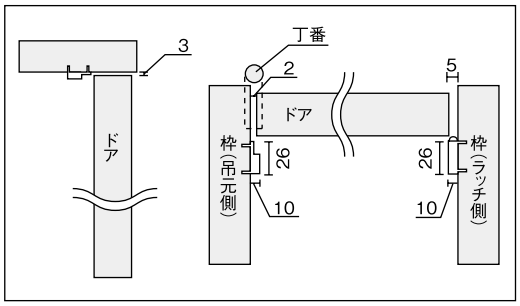


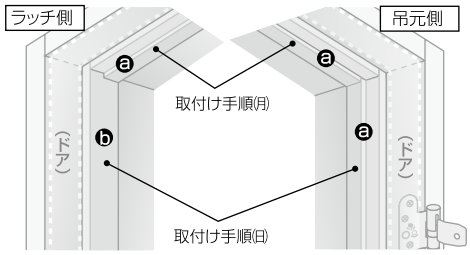
戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。
（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

⚠ 注意

戸当りの取り付け位置・向きにご注意ください。



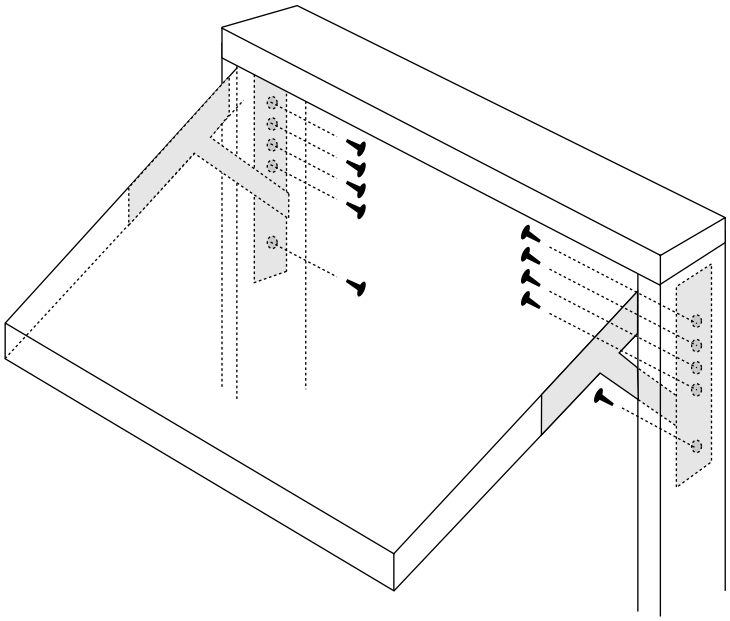


ⓐの換気対応戸当たりは、取り付け位置（上枠・丁番側竪枠）、向き（凹んだ方がドア方向）を確認のうえ、お取り付けください。

欄間ドア

1. 施工手順

欄間ドアの取り付け



欄間付きドア専用枠には、欄間ドア取り付け用のビス下穴があいています。同梱のビスで確実にとめてください。

⚠ 注意

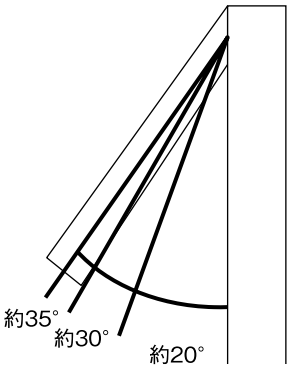
必ずおこなう

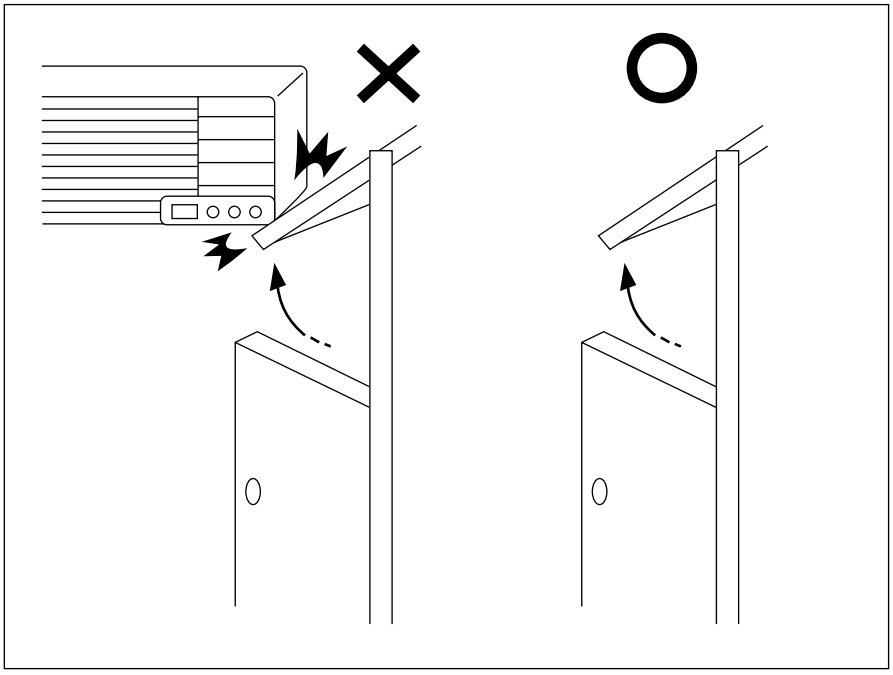
固定のビスどめは確実に行ってください。

確実にビスどめをしないと、欄間ドアの落下などの原因となり、ケガをするおそれがあります。

施工場所の注意

欄間ドアは3段階の角度で開閉することができます。開閉ドアの開閉範囲内に障害物があると、開閉に支障をきたすおそれがあります。施工場所にご注意ください。





欄間付きドア専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

施工の前に

●メネジはソフトアートシリーズのみ加工されています。

欄間ドア 梱包内容

枠材本体（ピノアース）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	下枠ベース用ビス	4本	
	木ダボ	2本	
	戸当りビス	15本	

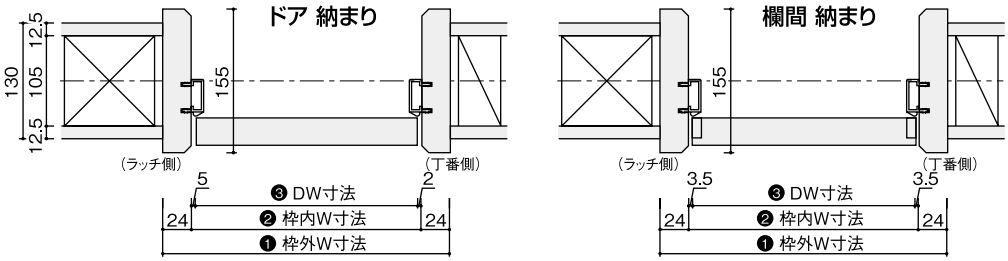
枠材本体（ソフトアート）

	部材名	数量	備　考
	竪枠	2本	丁番付×1、ラッチ受付×1
	上枠	1本	
	竪枠用戸当り	2本	
	上枠用戸当り	1本	
	組み立て専用ビス	4本	
	下枠ベース専用ビス	4本	
	戸当りビス	15本	
	木ダボ	2本	

2. 納まり図

横断面図

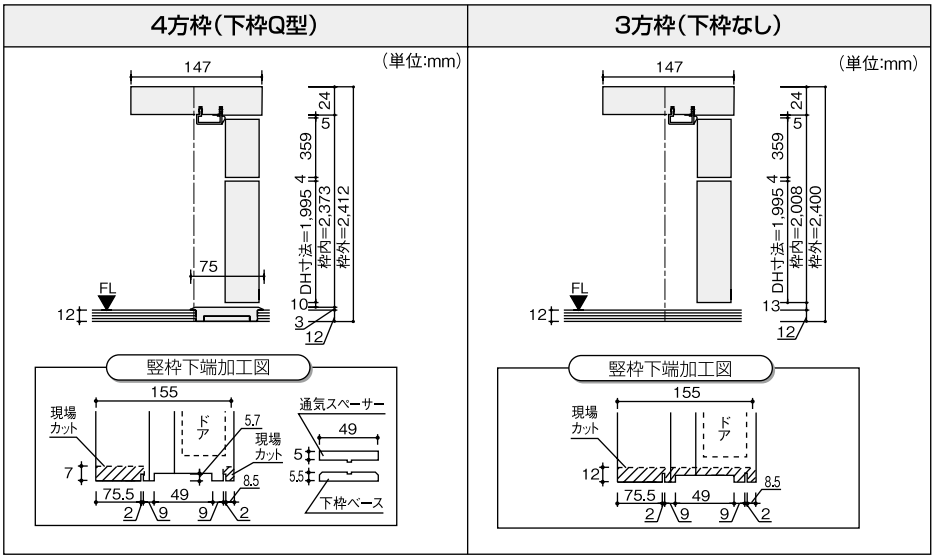
（単位:mm）



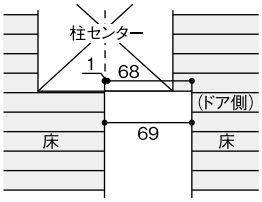
■枠製品寸法と納まり

製品寸法	778	758
❶枠外W寸法	778	758
❷枠内W寸法	730	710
❸DW寸法	723	703

縦断面図



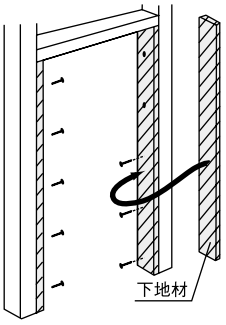
●床板の張り込み寸法



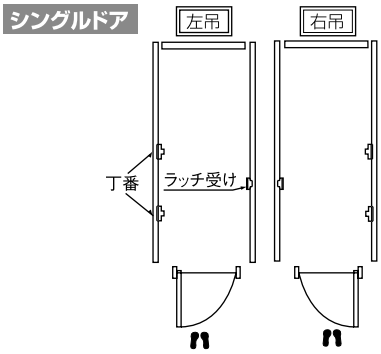
3. 施工手順

取り付け開口部の確認・枠材の吊り元確認

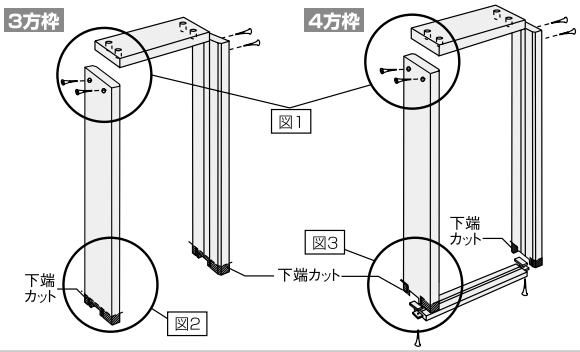
●取り付け開口部の確認



躯体接合金具は**装備されていません。**
納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。



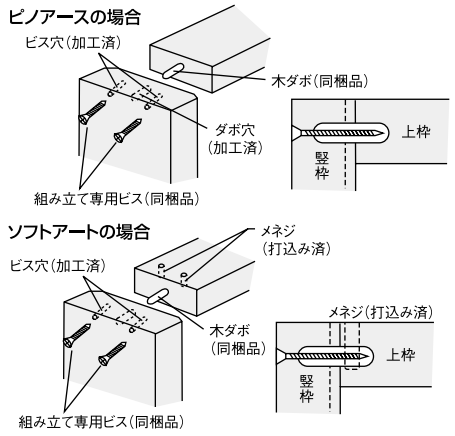
枠材の組み立て



お願い

開口部に通気が必要な場合、同梱の「通気スペーサー」を取り付けた後、下枠ベースを施工してください。

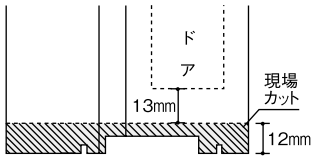
図1 木ダボおよび切口面に木工用ボンドを塗布してください。



3方枠

図2 竪枠下端加工図

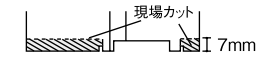
下端12mm
カットしてください。
（ドアとのクリアランス13mm）



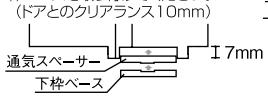
4方枠 下枠はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

図3 竪枠下端加工図

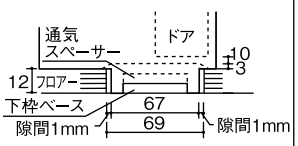
●7mm（斜線部）を欠き込んでください。



●通気スペーサー（同梱）を装着して、下枠ベースを取り付けてください。
（ドアとのクリアランス10mm）



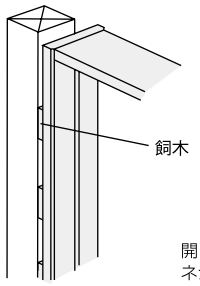
竪枠とフロアーの納まり

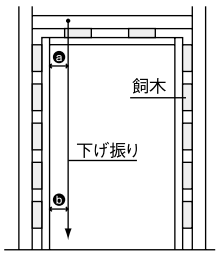


●15mmフロアーご使用の際は、3mmのベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

枠材の固定

枠材の仮固定

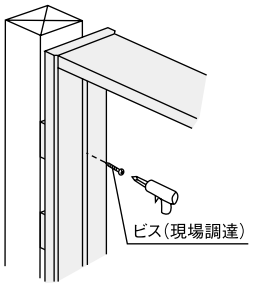




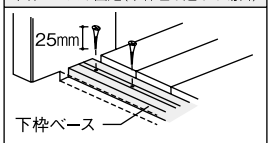
●ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材の本固定



下枠ベースの固定（下枠埋め込みの場合）



下枠ベースを同梱のビス（L＝25㎜）で床下地材に固定します。

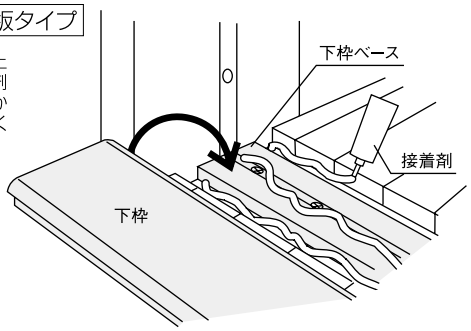
いったん下枠本体ははずします。

欄間付きドア専用枠材

下枠の取り付け

下枠Q型突板タイプ

下枠ベースの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定してください。



お願い

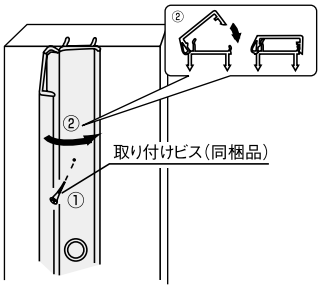
下枠端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず下枠中央を目安にたたき込んでください。

戸当りの取り付け

※シリーズによって取り付け方法が異なりますので、ご確認の上で、取り付けてください。

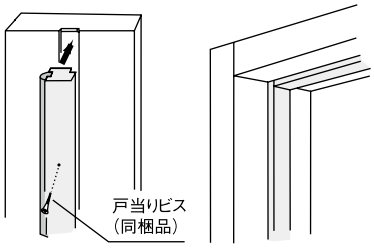
樹脂タイプ ……ソフトアート

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。

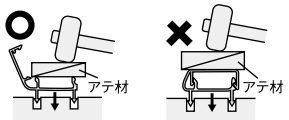


無垢タイプ ……ピノアース

①竪枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。
②上枠の戸当りを同梱のビスで取り付けます。



お願い



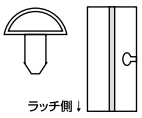
戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

※上枠用戸当りも同梱のビスで固定してください。（ビス内訳:タテ…12本、ヨコ…3本）

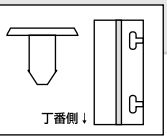
お願い（ピノアースのみ）

ゴムパッキンは2種類用意させてもらっております。それぞれ右記のように施工される様お願いいたします。逆に使いますと、かみこみ等の不具合が発生する可能性がありますのでご注意ください。

ドーム型
・ラッチ側
・上枠側

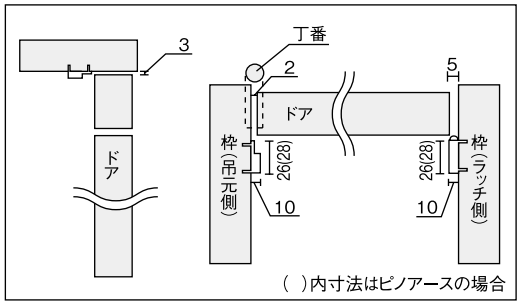


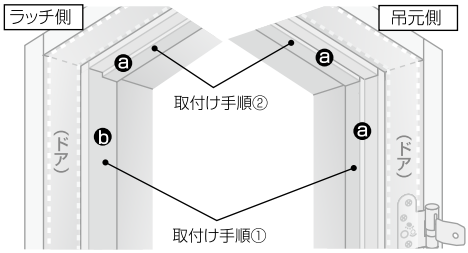
T型
・丁番側



⚠ 注意

戸当りの取り付け位置・向きにご注意ください。





ⓐの換気対応戸当たりは、取り付け位置（上枠・丁番側竪枠）、向き（凹んだ方がドア方向）を確認のうえ、お取り付けください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

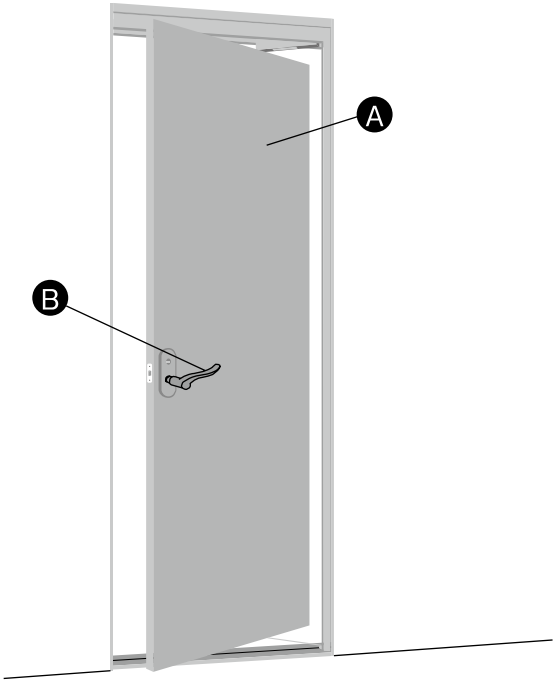
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

スライディングドア

1. 開梱

梱包を開いたらドア本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

Ⓐドア本体

	部材名	数量	備　　考
	ドア	1枚	錠ケース取付済
	施工説明書	1部	
	使用説明書		必ずお施主様に渡してください

Ⓑレバーハンドル(別売品)

	部材名	数量	備　　考
	レバーハンドル	1セット	
	3mmレンチ	1本	必ずお施主様に渡してください

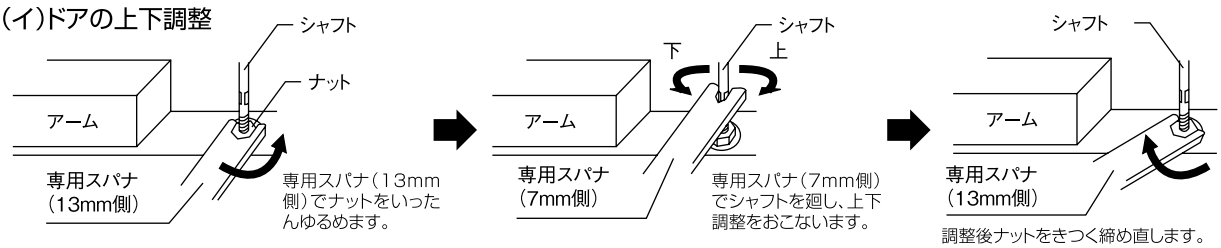
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

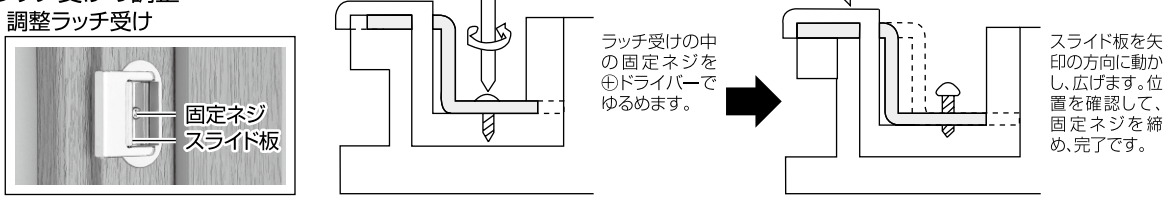
ドアの上下およびラッチ受けの調整

ドアと鴨居の隙間が適切になるようにドアを調整してください。また、ドアがガタつく場合、あるいはラッチが入りきらない場合はラッチ受けの調整機能を使って建て付けの補正を行ってください。

(イ)ドアの上下調整



(ロ)ラッチ受けの調整



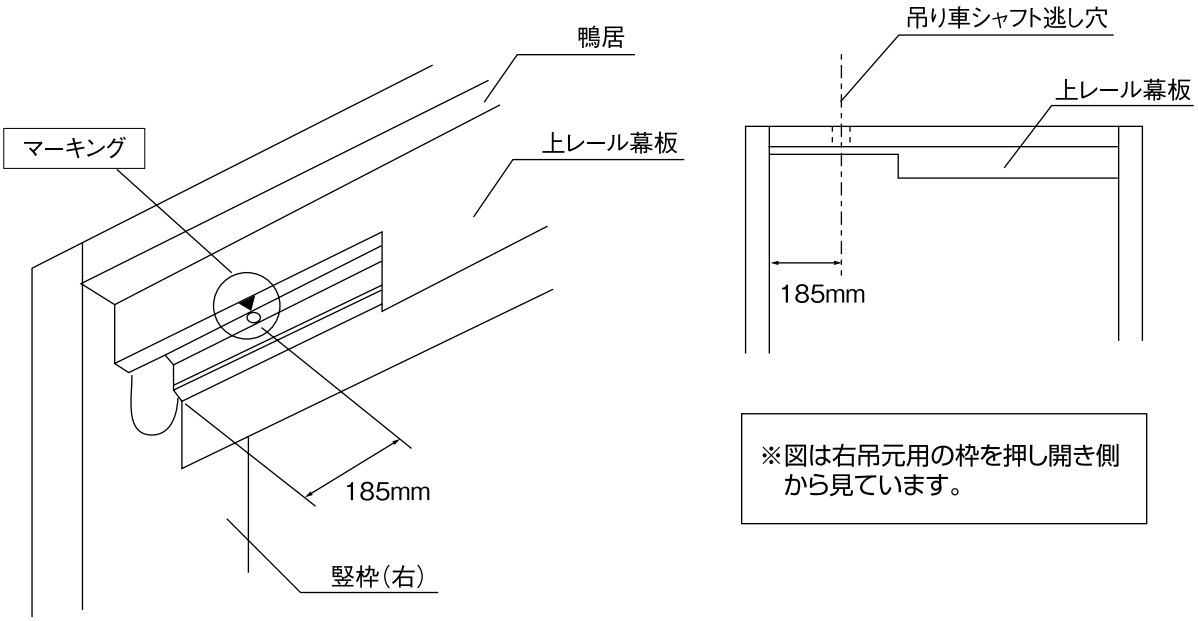
スライディングドア

2. 施工手順

事前準備

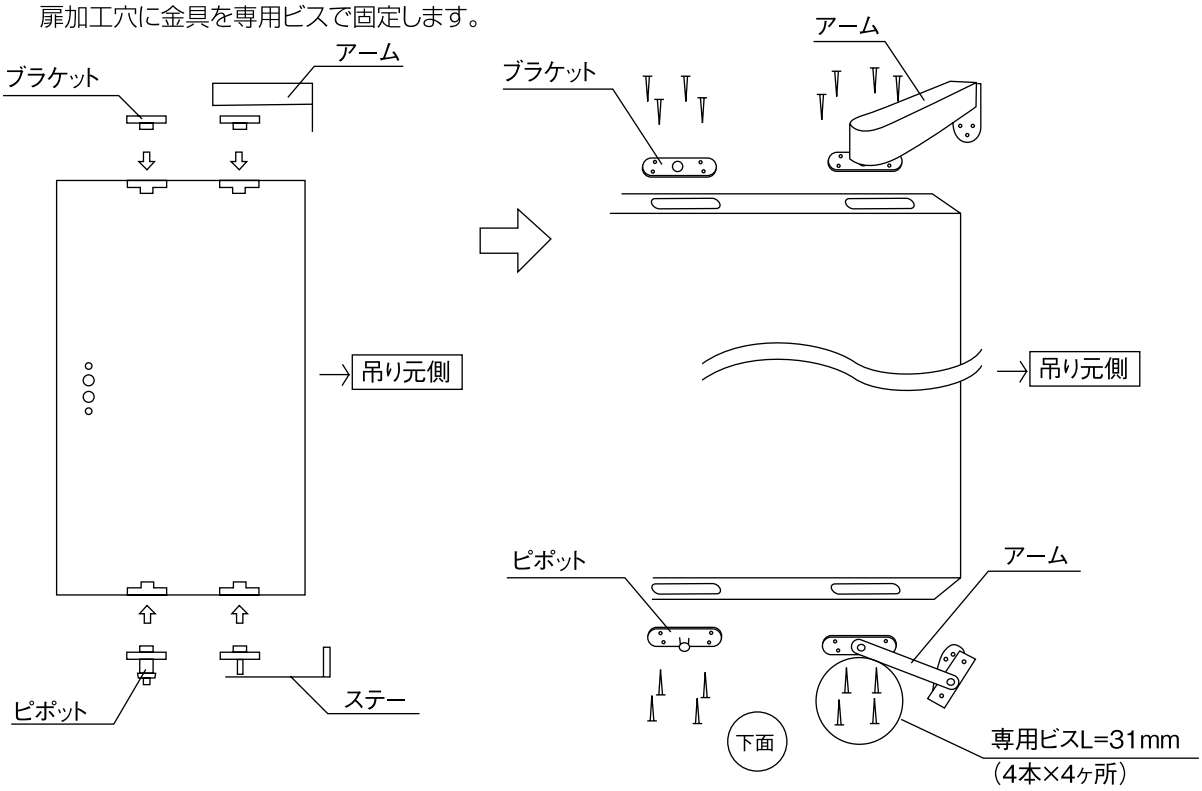
（1）上レールにマーキングする。（マーキングは養生テープ等を切り貼りしてください。）

Point 扉を吊り込む際の目印となります。



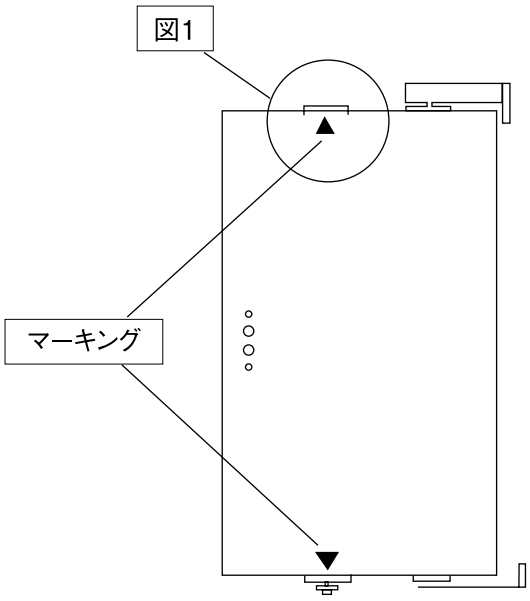
（2）扉に金具を取り付ける。

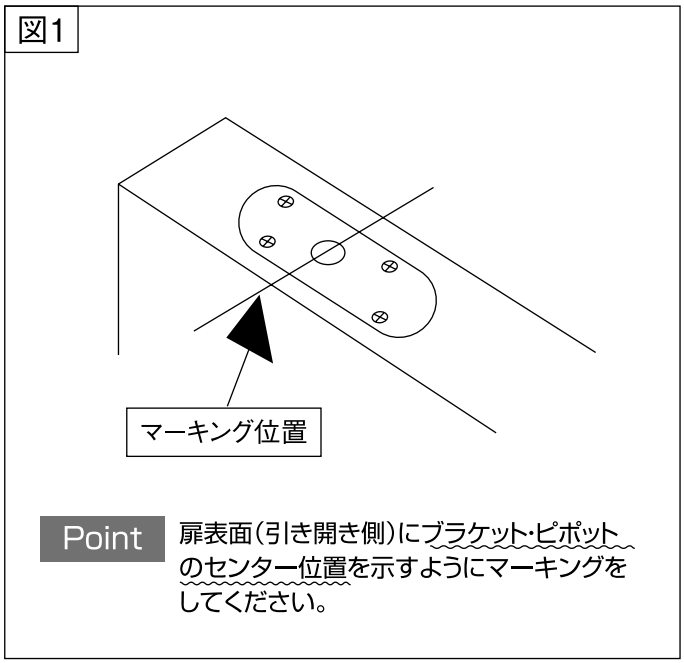
扉加工穴に金具を専用ビスで固定します。



（3）扉表面にマーキングをする。（マーキングは養生テープを切り貼りしてください。）

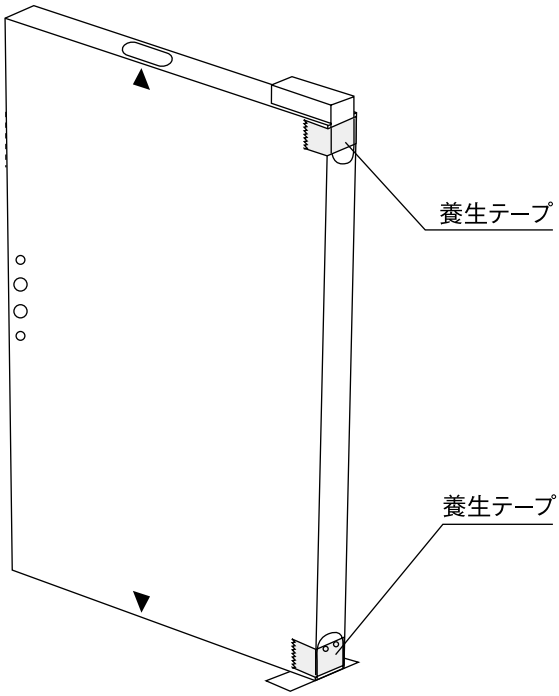
Point 扉を吊り込む際の目印となります。





（4）アームとステーを養生テープで固定する。

Point 扉を吊り込む際のキズ防止にもなります。



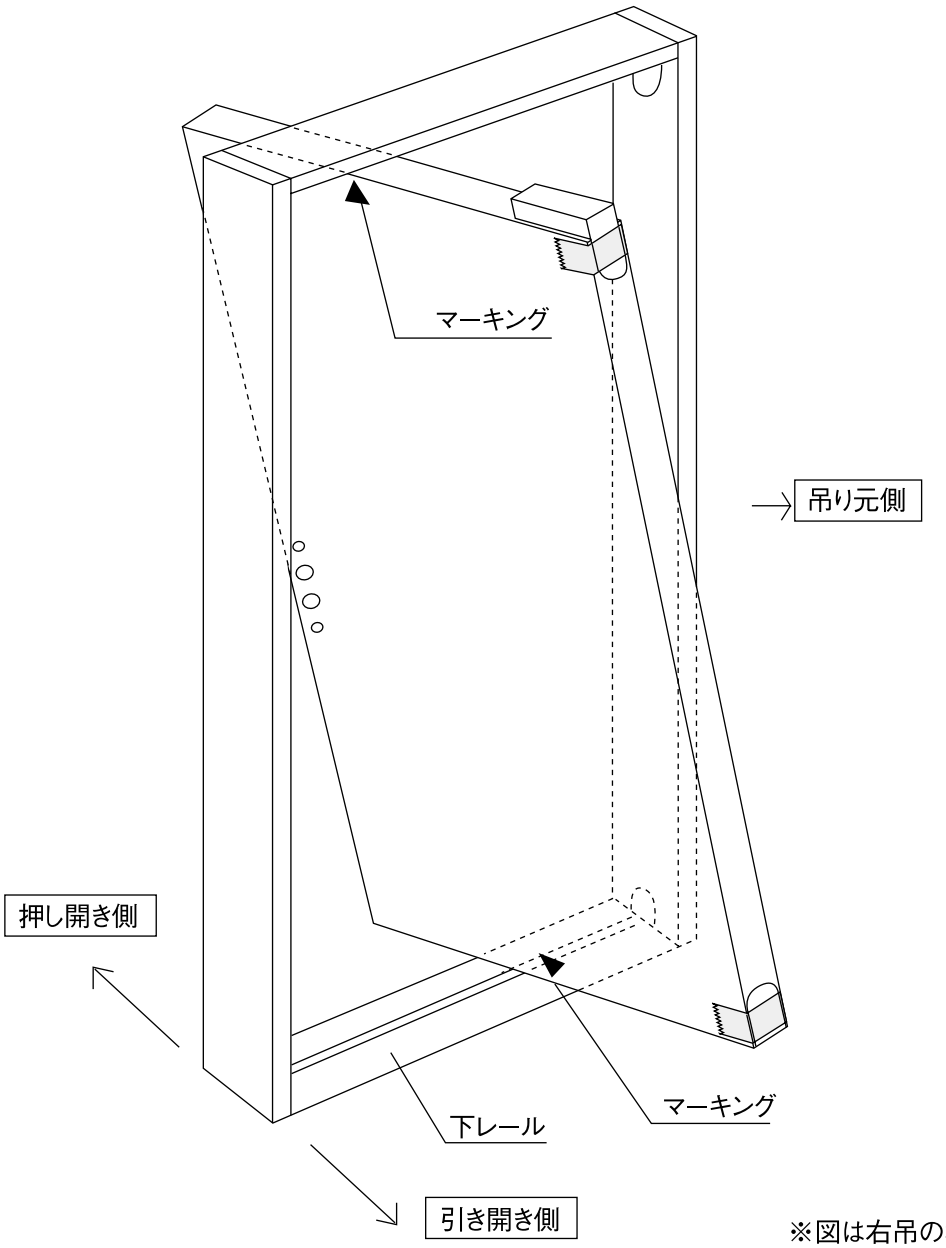
スライディングドア

扉の吊り込み

（1）吊り車を鴨居レールに貼ったマーキングの位置に移動させる。

（2）扉を斜めにして枠内に入れる。

扉表面に貼ったピポット位置を示すマーキングを目印にしてピポットをレールにはめます。



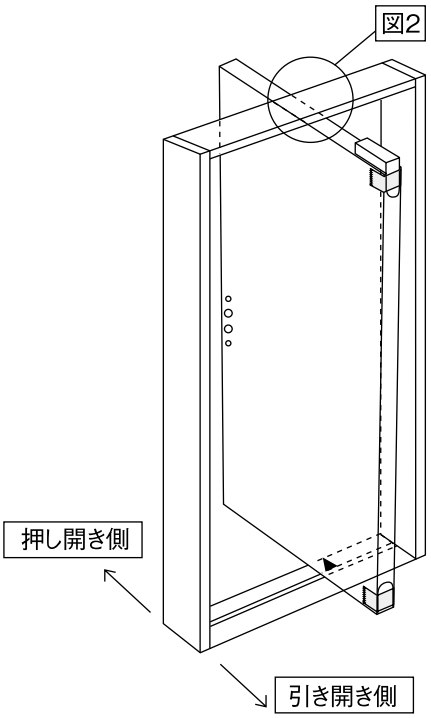
※図は右吊の場合です。

お願い

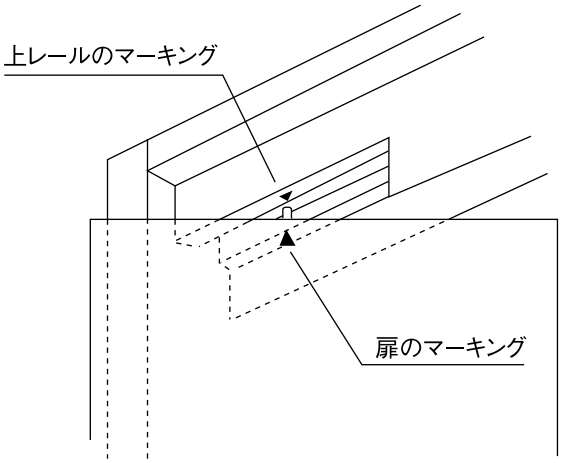
●扉と上枠（上レール）とのクリアランスが小さい為、扉をおこす際上レールに扉を当ててキズつけない様、ご注意ください。

※吊り込み後は、上レールの養生テープをはがしてください。

(3)扉を垂直に立てる。



Point 吊り車のシャフトをシャフト逃し穴のところで上へ逃がして扉に貼ったブラケット位置を示すマーキングに合わせます。

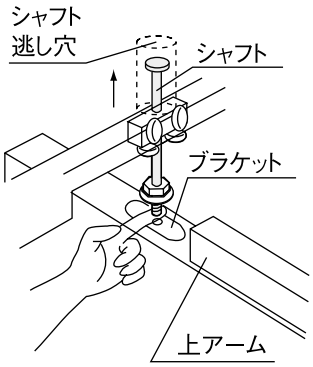


※押し開き側から見ています。

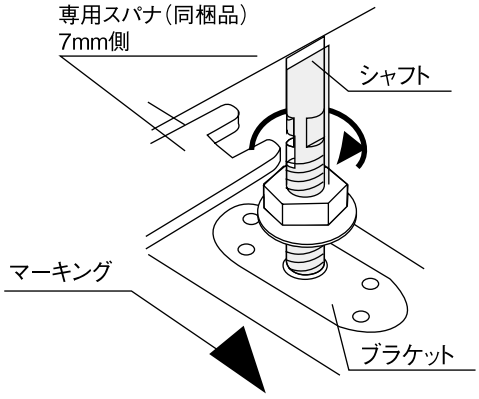
※図は右吊の場合です。

図2

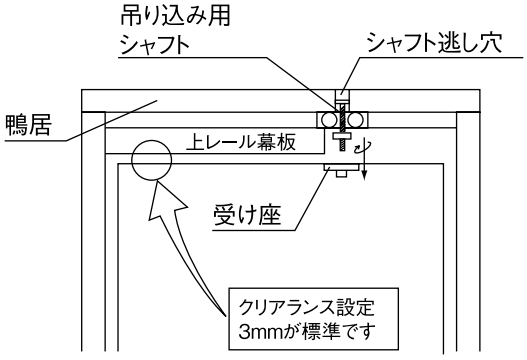
〈1〉シャフトをシャフト逃し穴のところで上へ逃がして、ブラケットと位置を合わせます。

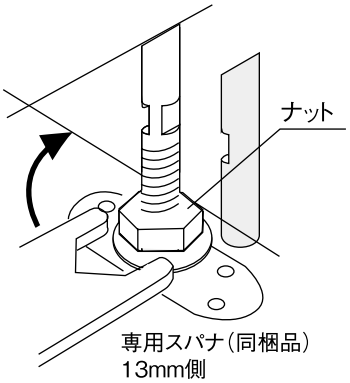


〈2〉シャフトをブラケットに同梱のスパナでねじ込んでいき扉を吊り上げていきます。



〈3〉上レール幕板と扉とのスキマが3mmになるまで吊り上げたら、専用スパナの13mm側でナットを強くしめこんでください。



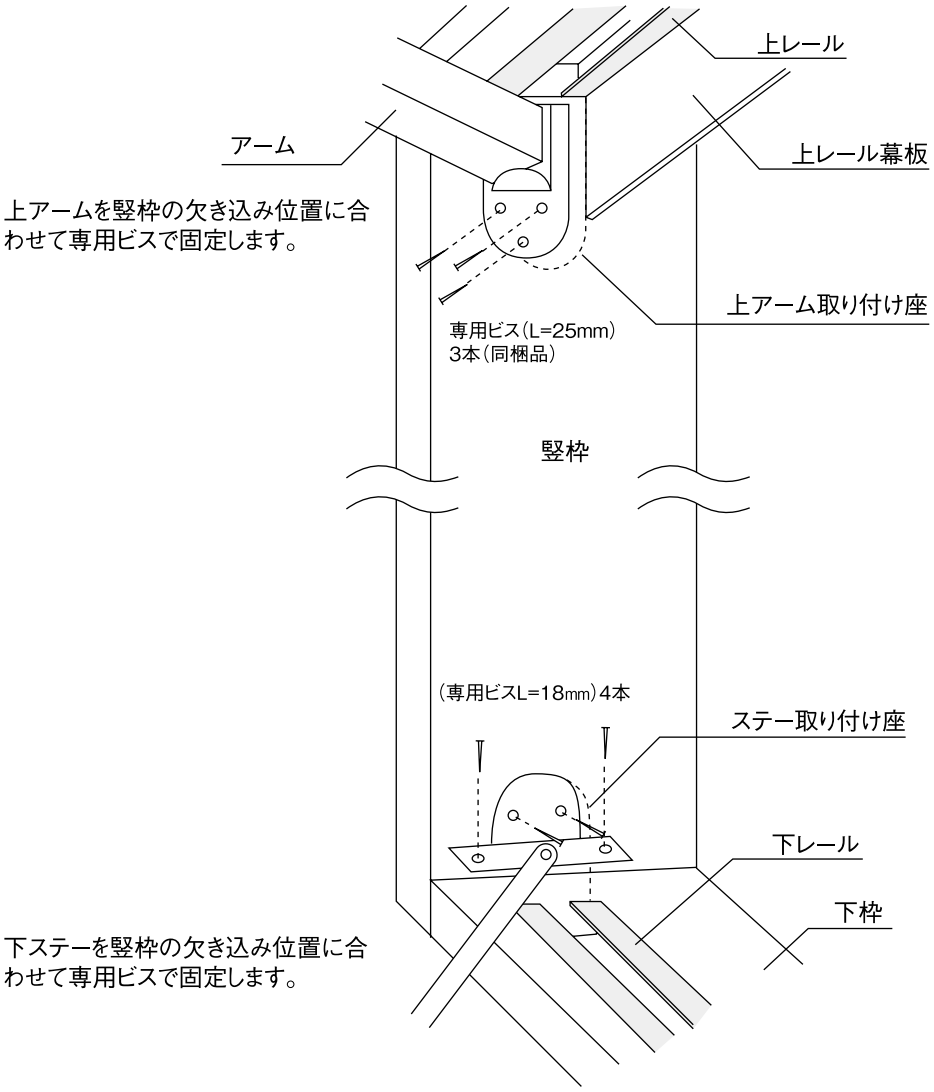


スライディングドア

枠材へのアームとステーの固定

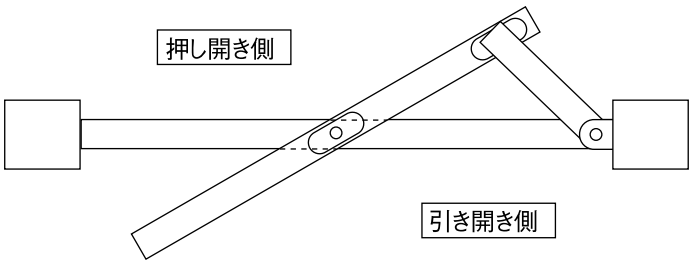
（1）扉に貼ったアームとステーを固定する養生テープをはがす。

（2）アームとステーを竪枠に固定する。



Point

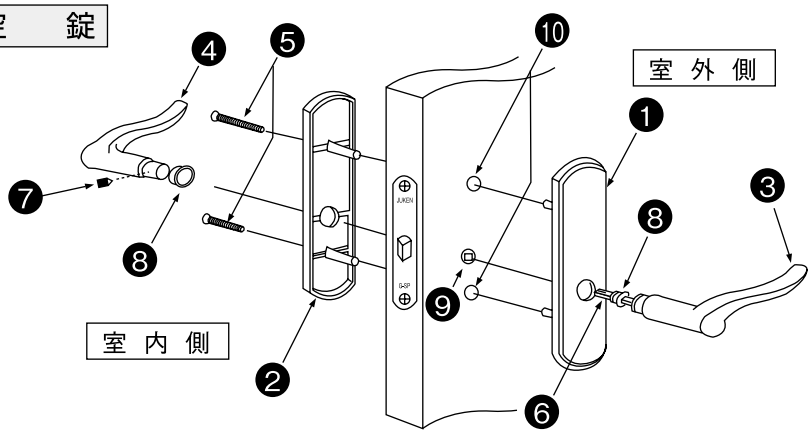
※アームとステーを固定する時に、枠材へのアームとステーの固定の（1）ではがした養生テーを用いて取り付け座に仮固定すると作業しやすくなります。
※ステー、アームの順で固定をすると作業がしやすくなります。
※下図の状態で引き開き側から固定すると作業がやりやすくなります。



レバーハンドルの取り付け

間仕切錠付が標準仕様となります。

空　錠



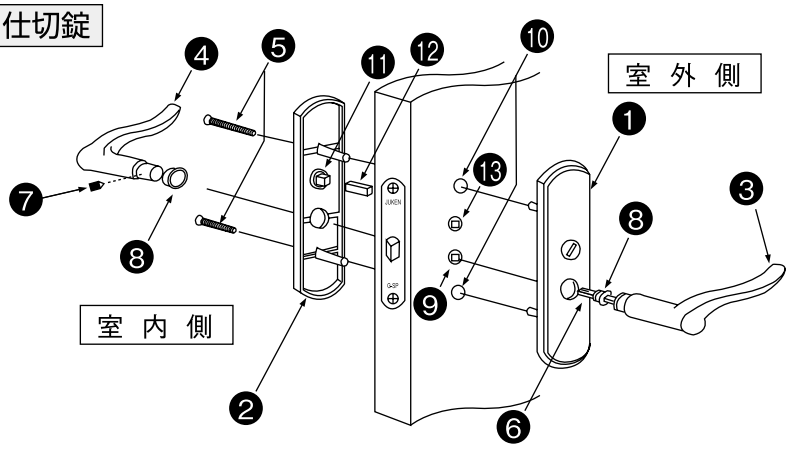
レバーハンドルの取り付け

（1）室外側より外部ハンドル座❶を切欠き穴❿に挿入してください。

（2）室内側より内部ハンドル座❷をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。

（3）レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して、反対側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて、取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャ❽のセット忘れのないようご注意ください。）

間仕切錠



部材·部位名	
❶	外部ハンドル座（室外側）
❷	内部ハンドル座（室内側）
❸	レバーハンドル（室外側）
❹	レバーハンドル（室内側）
❺	ハンドル座取り付けビス
❻	角芯
❼	取り付けビス
❽	ナイロンワッシャ
❾	角芯穴
❿	切欠き穴

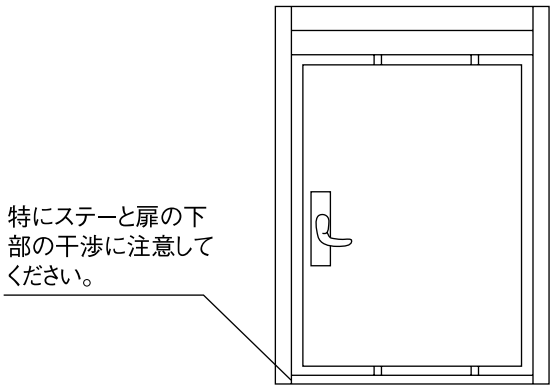
⚠ 注意

レバー脱落防止の為、レバーハンドル用取り付けビスは確実にお締めください。

扉の開閉のチェック

（1）扉をゆっくり閉じて枠·金具との干渉がないことを確認する。

（2）吊り車のネジを締めてロックする。



施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

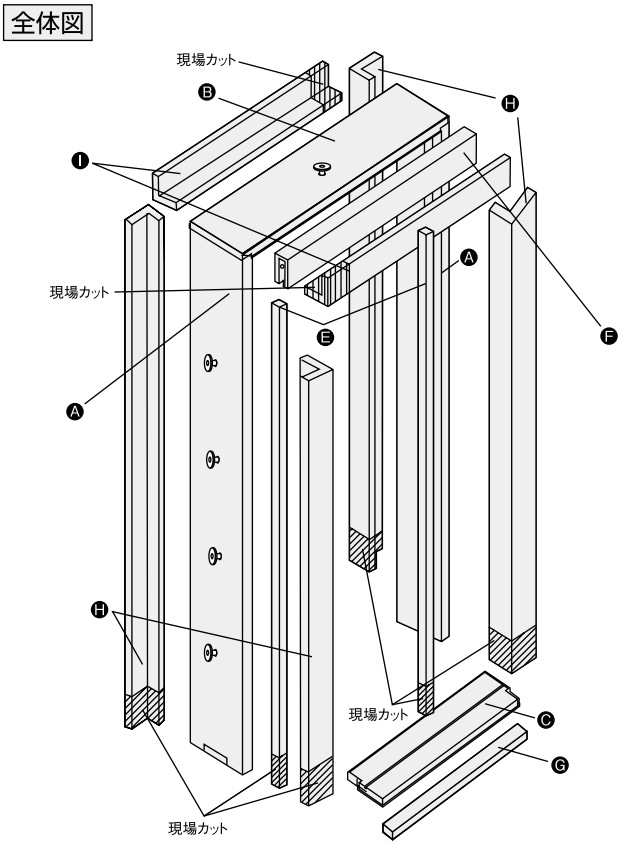
同梱の「使用説明書」と3mmレンチを使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

スライディングドア専用枠材

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量	備　考	
A	竪枠	2本	正寸カット済、アーム受側×1、ラッチ受側×1	
B	鴨居	1本	正寸カット済	
E	竪枠用戸当り	2本	現場カット	
F	鴨居レール	1本	専用ビス付(4本)	
G	敷居レール	1本		
	吊り車	1個	専用ビス付	金具セット
	アーム	1本	専用ビス付	金具セット
	ステー	1本	専用ビス付	金具セット
	ピボット	1個	専用ビス付	金具セット
	ブラケット	1個	専用ビス付	金具セット
	専用スパナ	1個		金具セット
	組み立て専用ビス	4本		ビスセット
	敷居ベース専用ビス	4本		ビスセット
	躯体接合金具用ビス	9本		ビスセット
	ミニレンチ	1本		ビスセット
	木ダボ	2本		ビスセット
	戸当りビス	10本	各色	ビスセット
	敷居レール用ビス	3本		ビスセット
	躯体接合金具用キャップ	8個		
	施工説明書	1部		

ケーシングセット

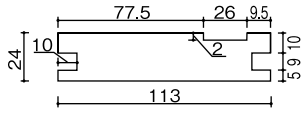
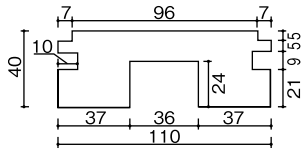
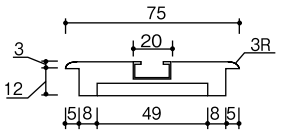
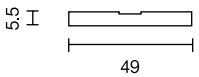
	部材名	数量	備　考
H	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
I	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

下枠セット（別売品）

	部材名	数量	備　考
C	敷居	1本	正寸カット済

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

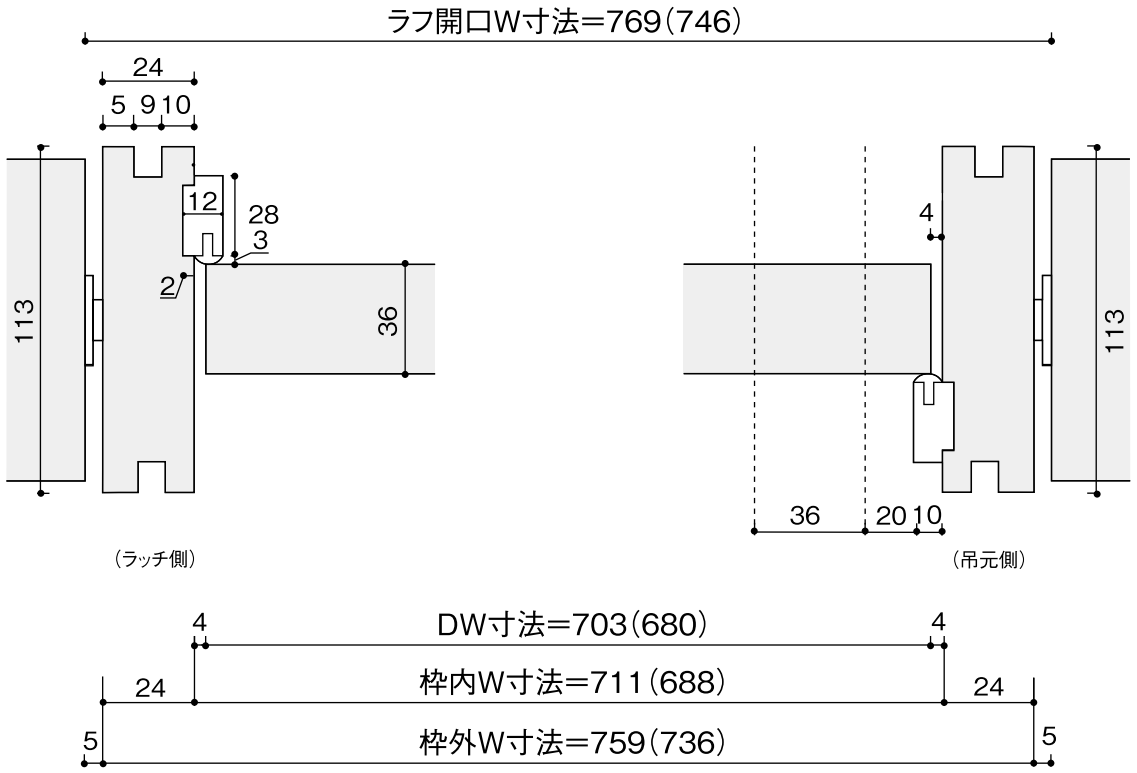
部材名		断面形状	長さ(mm)		数量
枠材本体	竪　枠		2,028	アーム受付 ラッチ受付	各1
枠材本体	鴨　居		DW 703	DW 680	1
			759	736	
枠材本体（下枠は別梱です）	敷　居	Q型（突板） 	711	688	1
枠材本体（下枠は別梱です）	敷居ベース		759	736	1

2.納まり図

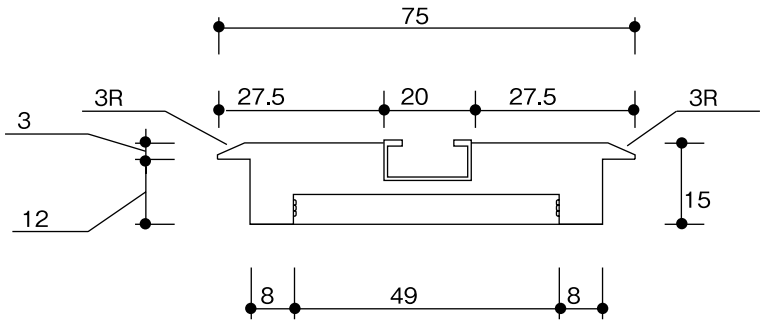
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

（単位:mm）



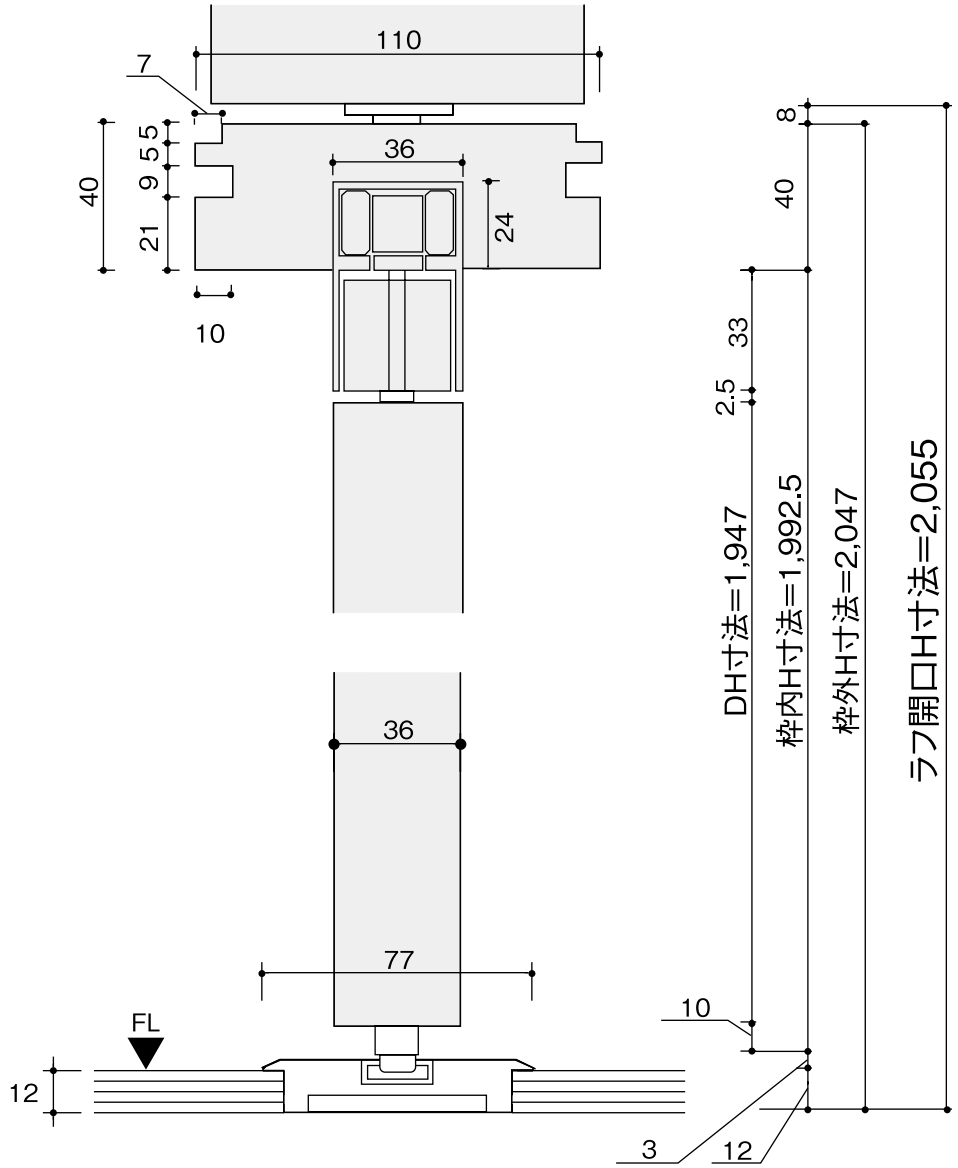
下枠Q型突板タイプ（埋め込み）敷居拡大図



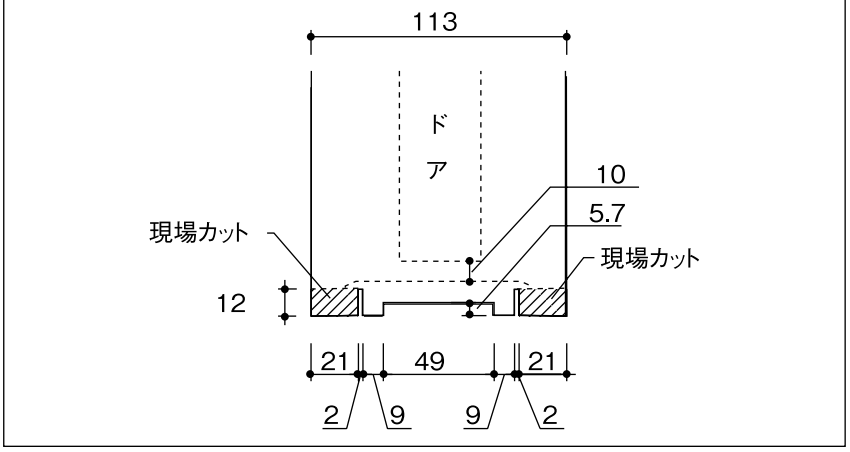
スライディングドア専用枠材

縦断面図

（単位:mm）

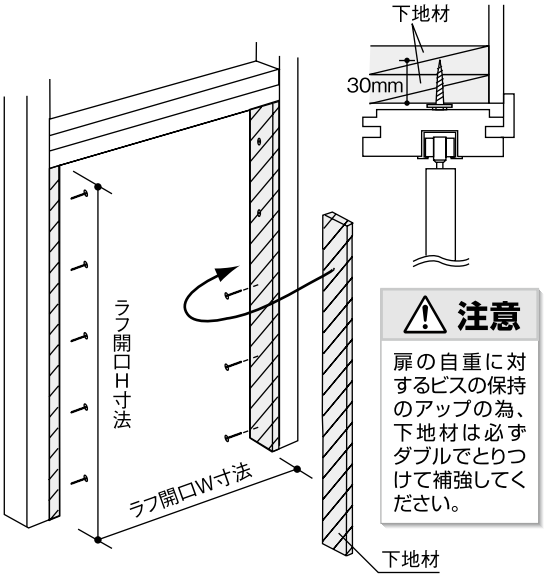


竪枠下端加工図



3.施工手順

取り付け開口部の確認



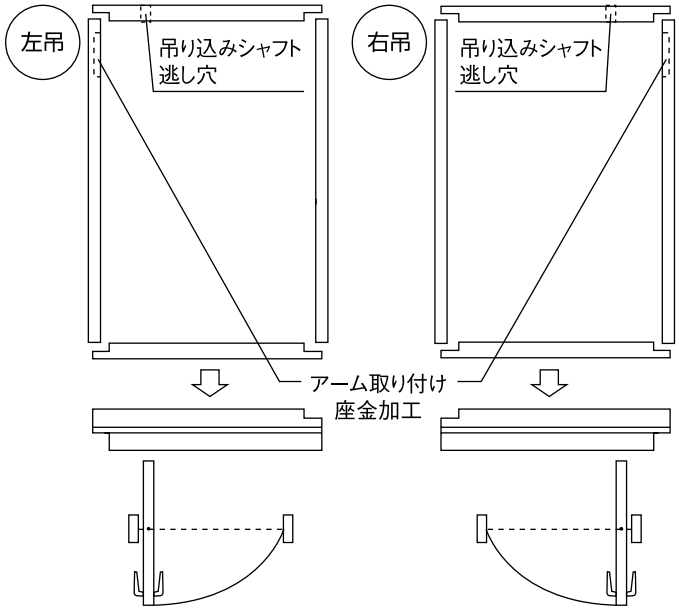
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

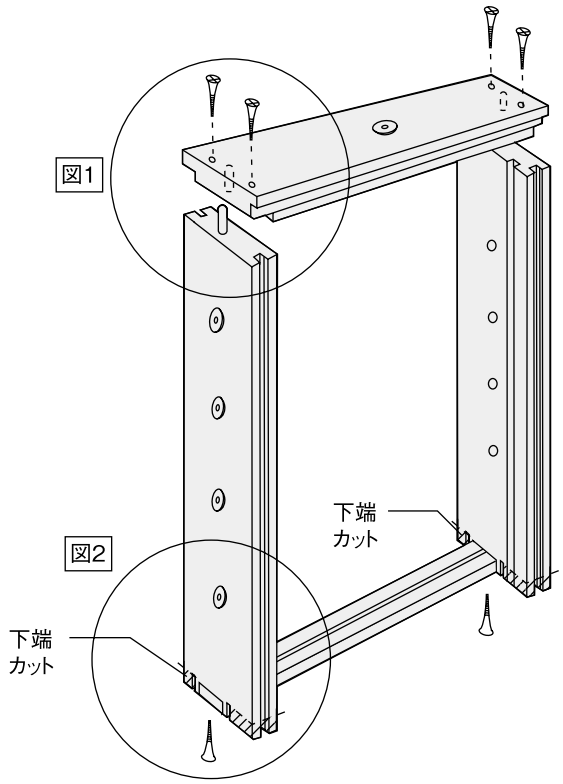
開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

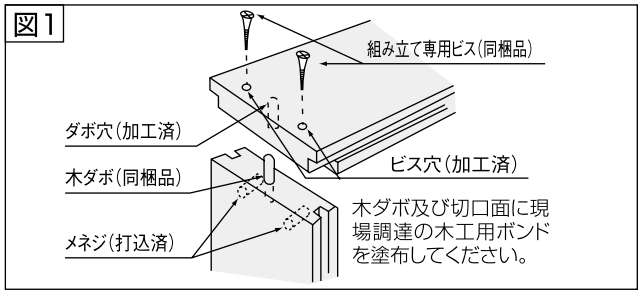
枠材の組み立て（前準備）

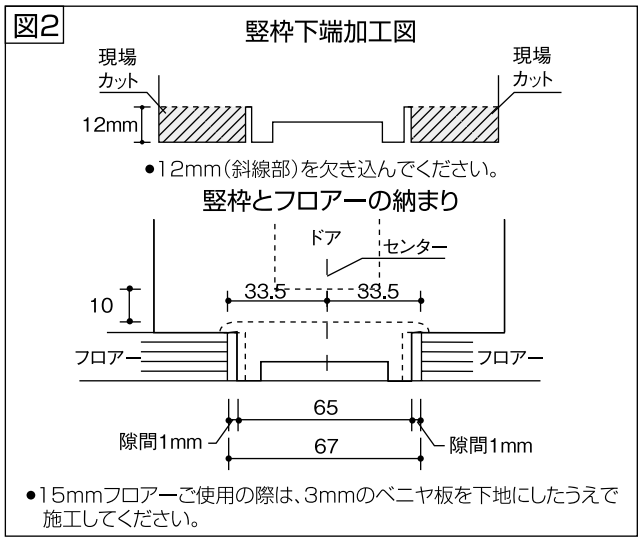
上枠にも左右がありますので、下図を必ずご確認願います。



枠材の組み立て（正寸カット済）

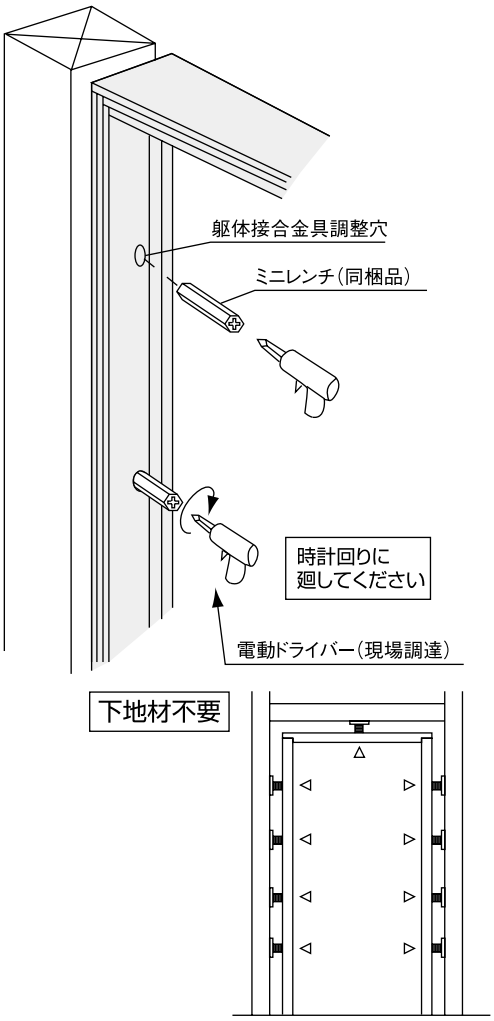




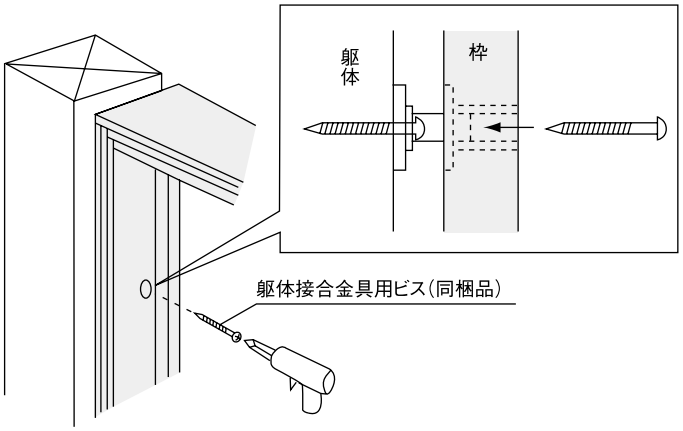


スライディングドア専用枠材

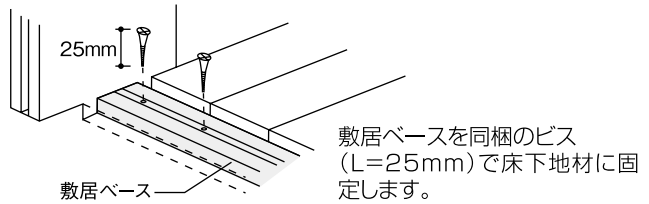
枠材の仮固定



竪枠の本固定



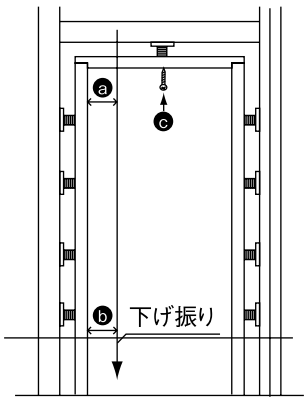
敷居ベースの固定



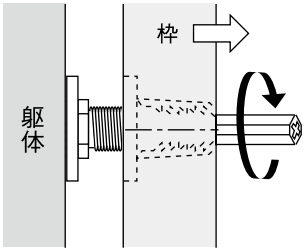
いったん敷居本体ははずします。

建て付け調整ならびに鴨居の本固定

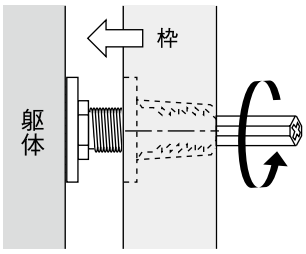
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



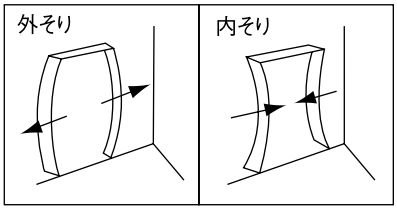
枠を内側に寄せる場合



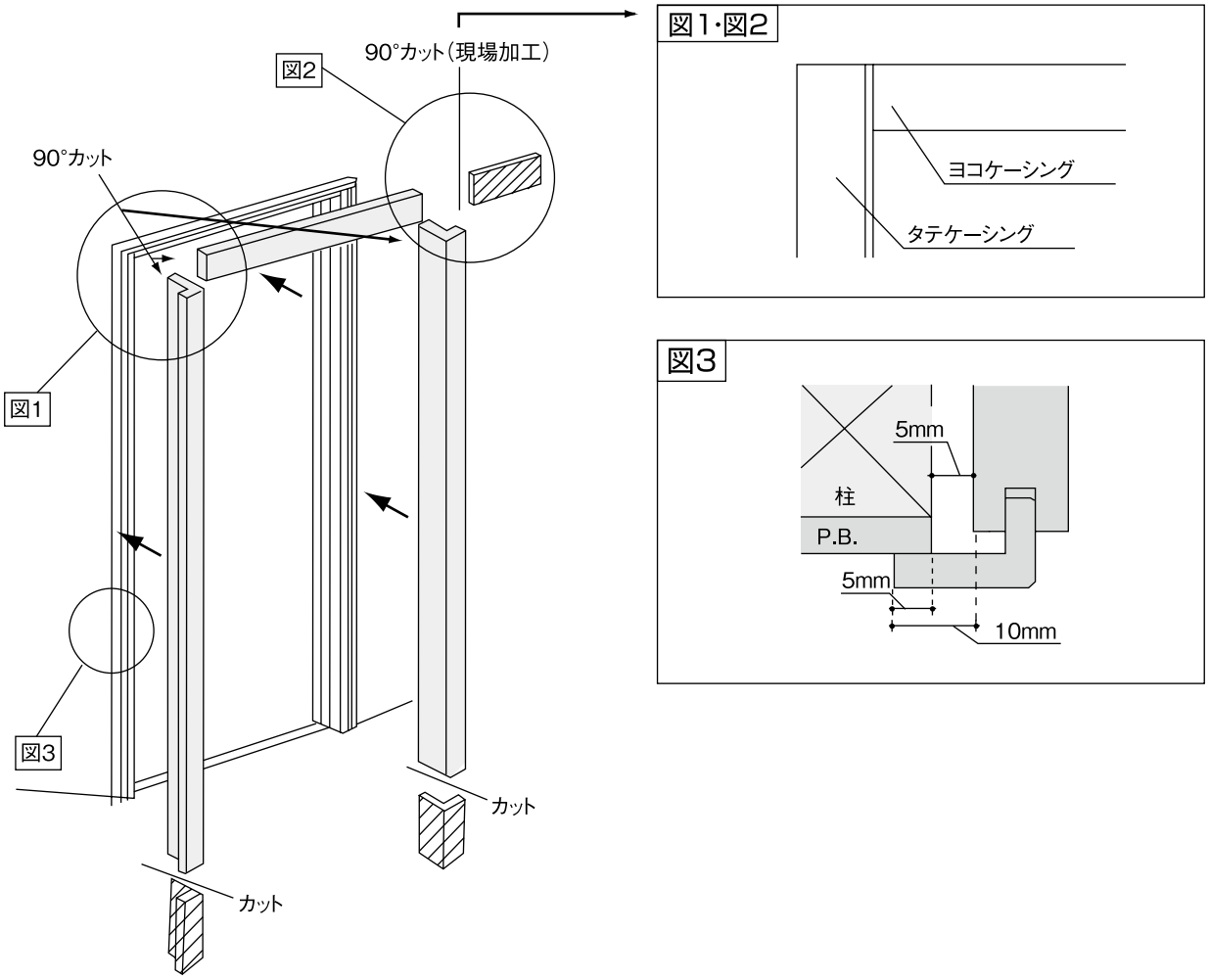
枠を外側に出す場合



※下記の様なことがないようご注意ください。



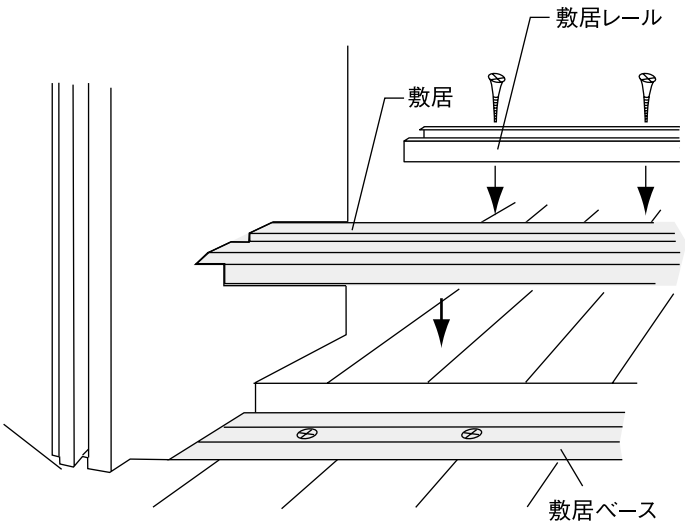
ケーシングの取り付け



戸当りの取り付け

下枠Q型突板タイプ

敷居レールをラッチ側に寄せ、
敷居にビス（同梱品）で
取り付けてください。



お願い

敷居端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

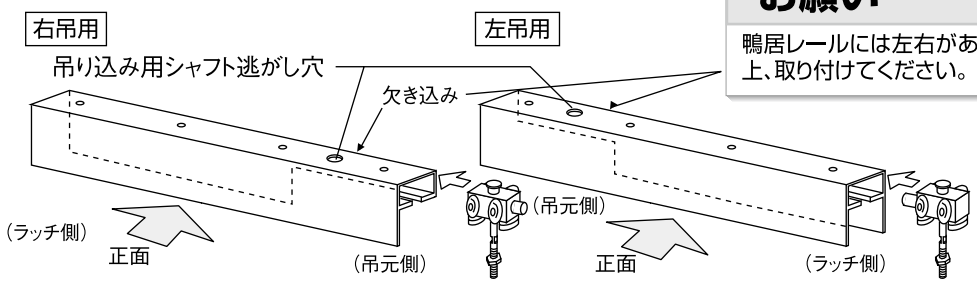
スライディングドア専用枠材

鴨居レールの取り付け

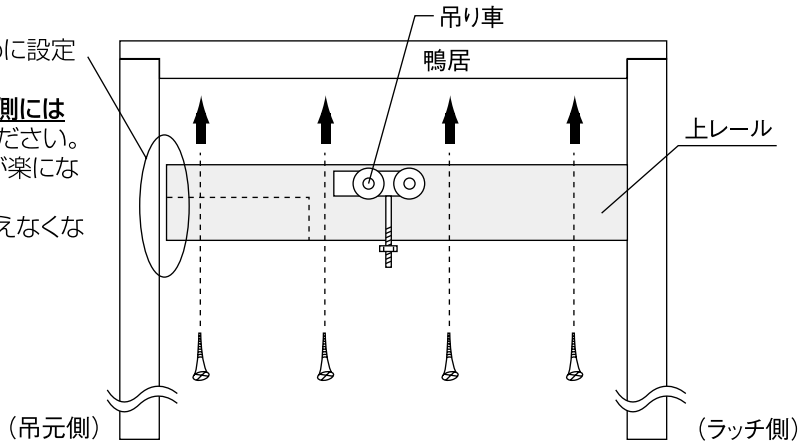
吊り車をレールに挿入後、レールを鴨居にビスで取り付けます。

お願い

鴨居レールには左右がありますので下図を参考の上、取り付けてください。

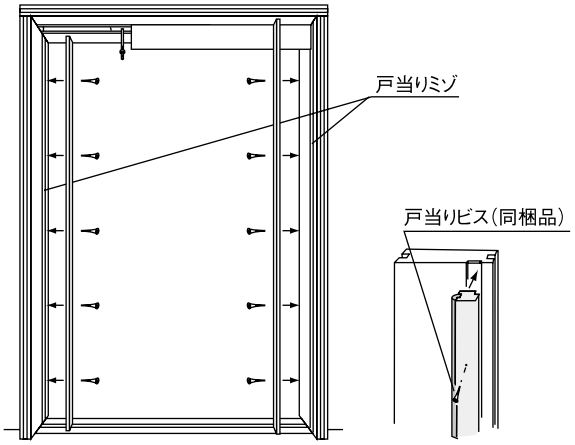


上レールは鴨居内寸法より3㎜短かめに設定しています。
極力ラッチ側にレールを寄せて、**吊元側には隙間を設けるようにして**取り付けてください。
アームの座金を取り付ける際に作業が楽になります。
（レールの隙間は戸当りでかくれて見えなくなります）



戸当りの取り付け

戸当りを枠材の戸当りミゾにビスで固定します。



※アーム受座の取り付け、ステー受座の取り付けについてはスライディングドアの施工説明書をご覧ください。

施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

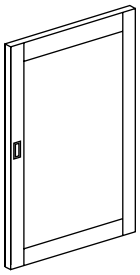
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

引き戸（レールタイプ）

1. 開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

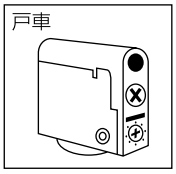
梱包内訳表



部材名	数量	備考
引き戸	1枚	
戸車	2個	取付済

引き手（別売品）

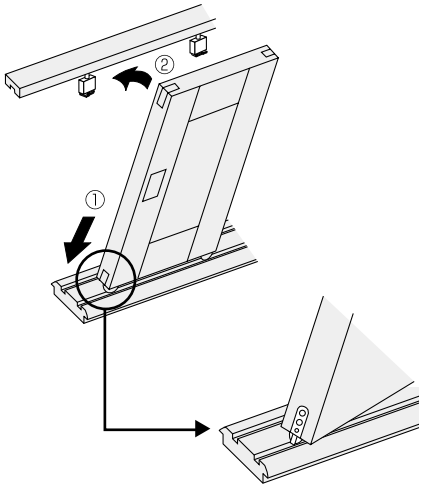
部材名	数量	備考
引き手	1セット	ビス同梱



2. 施工手順

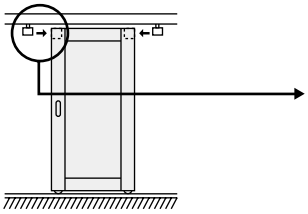
① 引き戸の取り付け

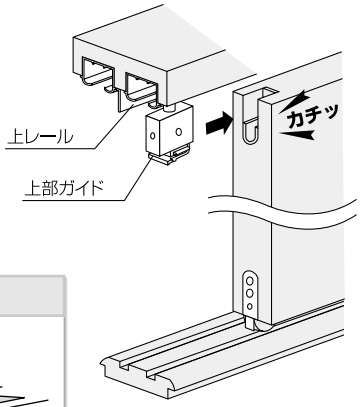
（1）扉を敷居もしくは、床直付レールのレール溝に戸車を入れ、扉をおこします。



※上記イラストは敷居施工の場合

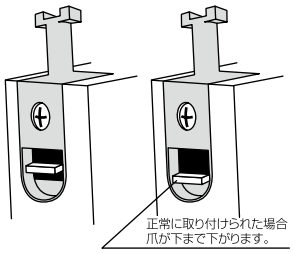
（2）上部ガイドをスライドさせ、上部ガイド受けにカチッと音がするまで差し込んでください。





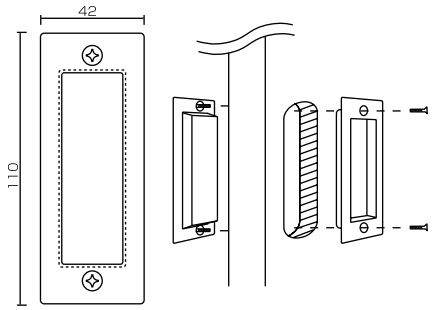
⚠ 注意

上部ガイドをガイド受けに差し込んだ後、手前にひっぱり外れないことを確認してください。正常に差し込まれていない場合、扉開閉時に外れる可能性があります。



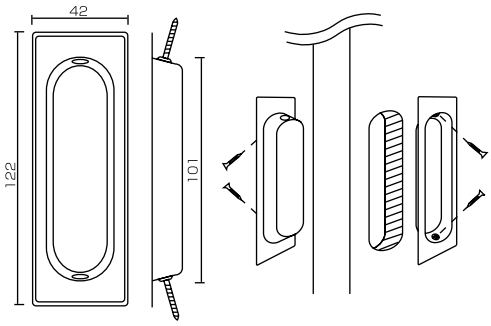
② 引き手の取り付け

角タイプ引き手の場合



1セットを同梱のビスで水平にとめます。

Rタイプ引き手の場合



片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表・裏ともにビスで本体にとめます。

⚠ 注意

インパクトドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますので行わないでください。

引き戸（レールタイプ）

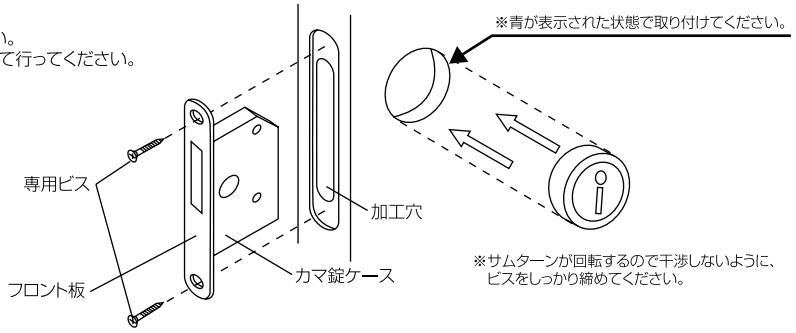
［オプション］錠の取り付け　（表示錠･間仕切り錠･鍵付き錠の場合のみ）

（1）カマ錠の取り付けをします。
フロント板は、加工穴にズレないように入れてください。
ビスをしめつける際には、フロント板をしっかりおさえて行ってください。

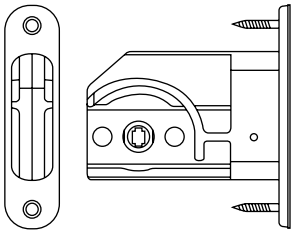
※カマ錠の取り付け時は、必ずカマがケース内に入った状態で取り付けてください。

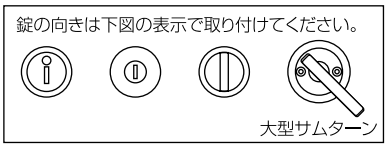
お願い

ビス打ち込みの際は、割れ防止のため、下穴を空けてください。



（2）錠を錠加工穴にとりつけます。



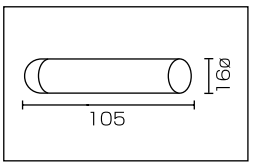


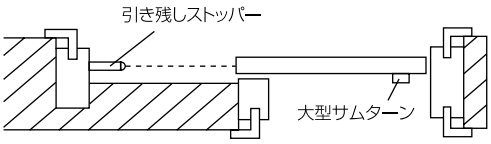
ビスの取り付けの留意点

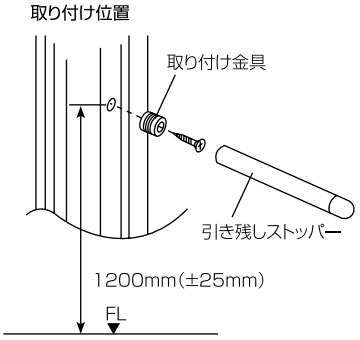
ビスは同梱のビスを使用して取り付けてください。ビスで金具の固定を行う際は過大なトルクを発生させる工具は極力使用しないでください。強いトルクを発生させるインパクトドライバーを用いると、締め過ぎによるビスの空転や部材に割れが生じ、適切な固定できず、商品に悪影響を及ぼす原因となります。

［オプション］大型サムターン表示錠ご使用時の注意

大型サムターンが中方立て側にくる時、必ず別売のストッパーを使い、引き残しをつくってください。ただし、有効開口は102mm狭くなります。







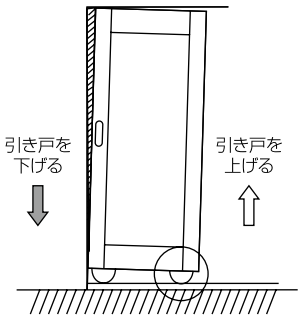
※小壁側の竪枠の防間じゃくりセンターに床から1200mm（±25mm）の高さに取り付けてください。

3. 調整

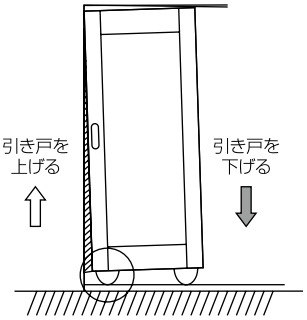
① 竪枠と引き戸の間に隙間が生じたとき（上下調整）

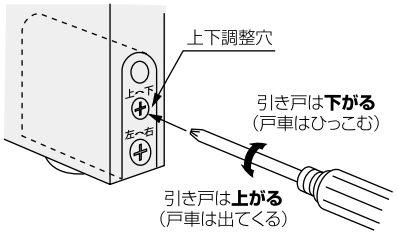
※上下の調整をした場合、必ず受け金具の調整をしてください。

（1）引き戸と竪枠の上部に隙間が生じたとき



（2）引き戸と竪枠の下部に隙間が生じたとき





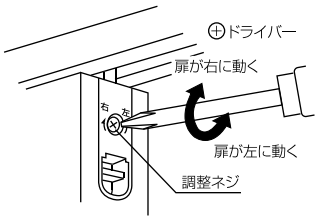
竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。

隙間の状態をご確認後、プラスドライバーにて戸車の上下調整ネジで調整を行ない、竪枠と引き戸の隙間をなくしてください。その際は、両側の戸車2つとも必ず調整をしてください。（上側の調整ネジ）

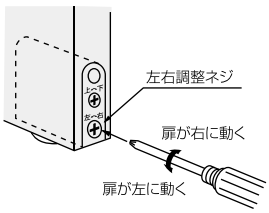
② 引き戸と引き戸が擦れ合う、又は引き戸と中方立があたる場合（左右調整）

引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、上部ガイドと戸車の左右調整を行ってください。

（1）上部ガイドの左右調整

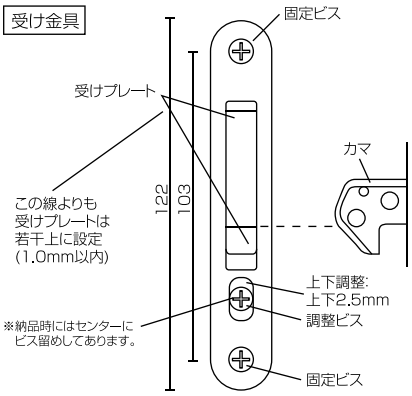


（2）戸車の左右調整（下側の調整ネジ）



③ カマ錠受け金具（枠側）の上下調整

引き戸の上下調整を行った場合は、錠と受け金具の上下の位置関係にズレが生じます。
引き戸のロックがしっかりと行われるように下記の要領で調整してください。



1.受けプレートの調整ビスを受けプレートが動く程度にゆるめます。
2.カマ錠のカマを出した状態にし、左図のような位置関係になるように調整します。
　調整は、基準ラインよりも若干上に設定してください。
3.調整が終わりましたら調整ビスを締めて確実に固定してください。

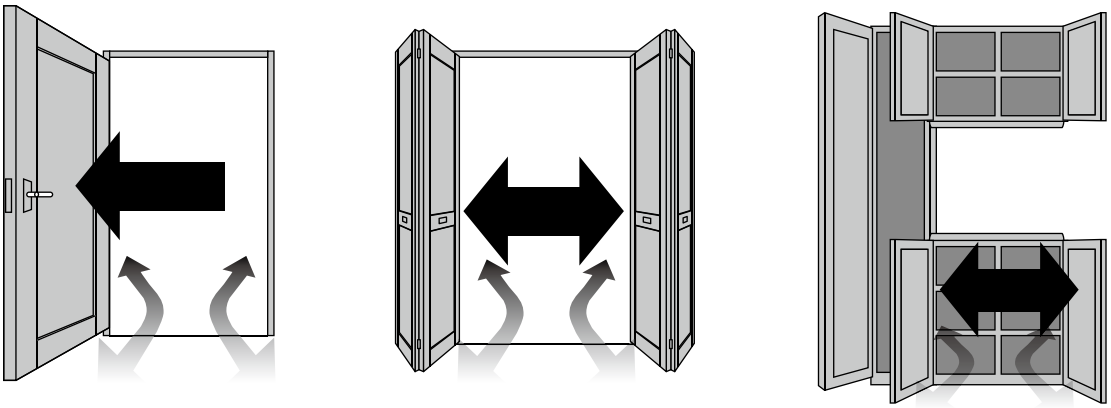
お願い

引き戸の上下調整の両方またはどちらかの調整を行った場合は必ず受け金具の調整も行ってください。調整をしないと引き戸が閉まらなくなったり、金具を破損するおそれがあります。

施工終了後

養　生	当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。養生テープやガムテープなどの粘着テープは直接商品に貼り付けないようにしてください。
お手入れのしかた	引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。
使用説明書の手渡し	同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

施工後、お施主様への引渡しまで
①扉を開放した状態にしてください。
②必ず換気をしてください。



木材は周囲の環境に応じて水分を吸収または放出して、収縮·膨潤する特徴があります。
施工後に扉の表側·裏側で温度·湿度が異なる状態が長く続くと、引渡し後のご使用に支障をきたす可能性があります。
※通常の生活環境では、適度な出入りまたは開閉によって空気の入れ替りがあり、この状況は緩和されます。

片引き戸・引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール幕板なし（アルミ）	木製幕板
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	1本
	引き違い戸	2本	—	—	—	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—	—

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）
入数	片引き戸	ZYNK54	2個	2個
	引き違い戸	ZYNH54	4個	2個
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01

ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	上レール取り付けビス（皿ビス） 18mm 3.5mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16
入数	片引き戸	ZYQB64-□	2本	6本	5本	9本	4本のみ使用（6本入）	1本	8個
	引き違い戸	ZYQB65-□	2本	4本	9本	9本	8本のみ使用（12本入）	1本	8個
備考（部材品番等）			—	—	床直付けレールの場合は使用しません。	—	—	—	—

別梱包

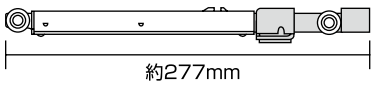
敷居埋め込みの場合　床直付けレールの場合

部材名		敷居		床直付けレール			ケーシングセット	
入数	片引き戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス8本	縦用4本	横用2本
	引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス16本	縦用4本	横用2本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—	—

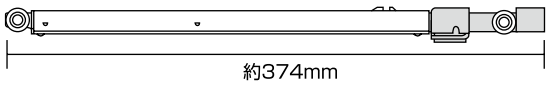
下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品·ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名			ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
セット品番	片引き戸	引き違い戸						
入数	ZH23SC-Y	片側SC付 枠外1324·1190	—	1	—	1	—	1	1
	ZH23LC-Y	片側SC付 枠外1824·1644·1450	片側SC付（×2セット）	—	1	—	1	1	1
	ZH23SR-Y	両側SC付 枠外1324·1190	—	2	—	2	—	2	1
	ZH23MR-Y	両側SC付 枠外1450	—	1	1	1	1	2	1
	ZH23LR-Y	両側SC付 枠外1824·1644	両側SC付（×2セット）	—	2	—	2	2	1

Ⓐショートストロークソフトクローザー



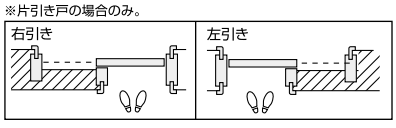
Ⓑロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



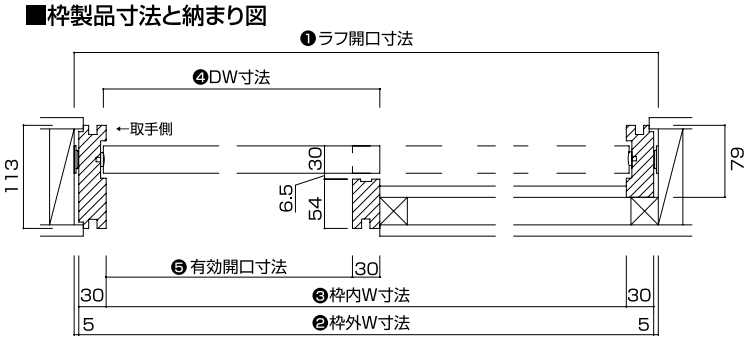
片引き戸 専用枠材

2.片引き戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

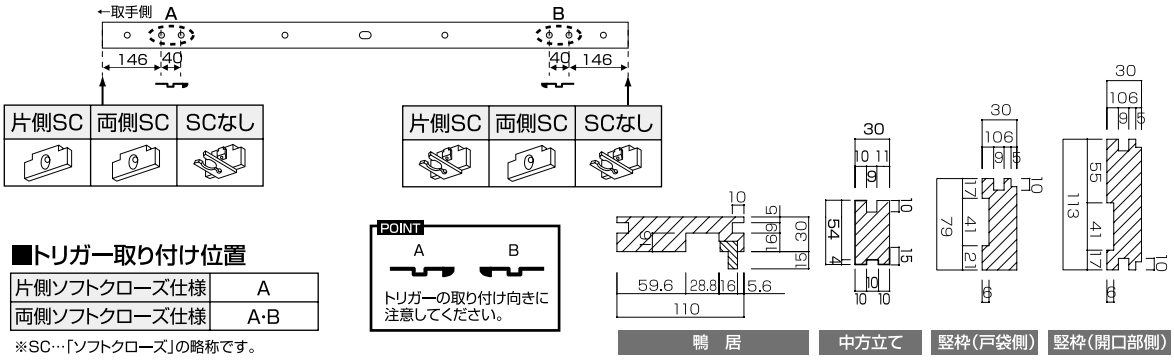
■枠製品寸法と納まり図



（単位：mm）

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654	1,460	1,334	1,200
❷枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❸枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❹DW寸法	900	810	713	650	583
❺有効開口寸法	867	777	680	617	550

■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

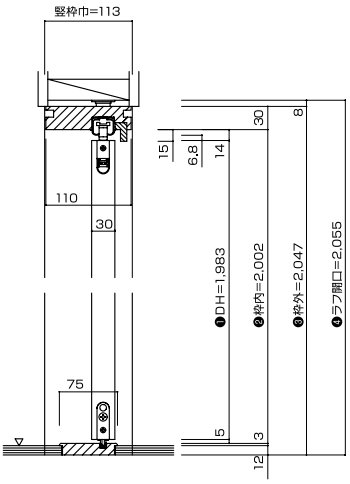
片側ソフトクローズ仕様	A
両側ソフトクローズ仕様	A･B

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

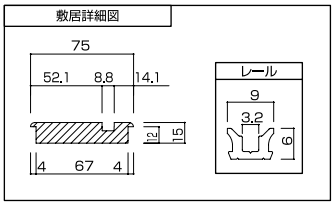
縦断面図

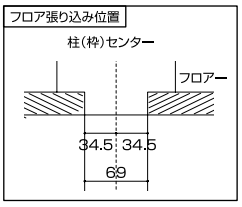
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）



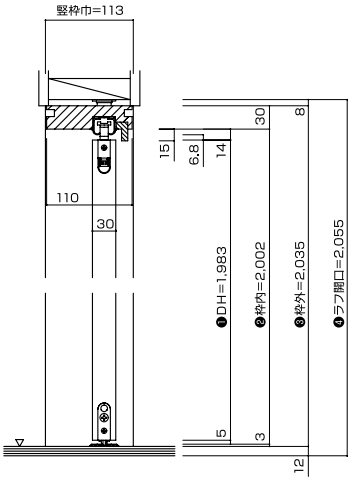
製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255



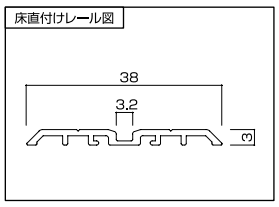


床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255



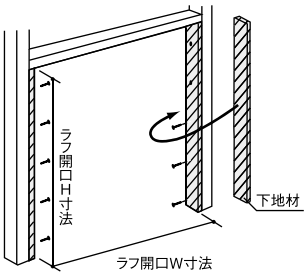
片引き戸 専用枠材

3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

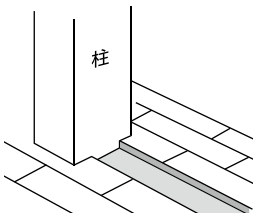
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

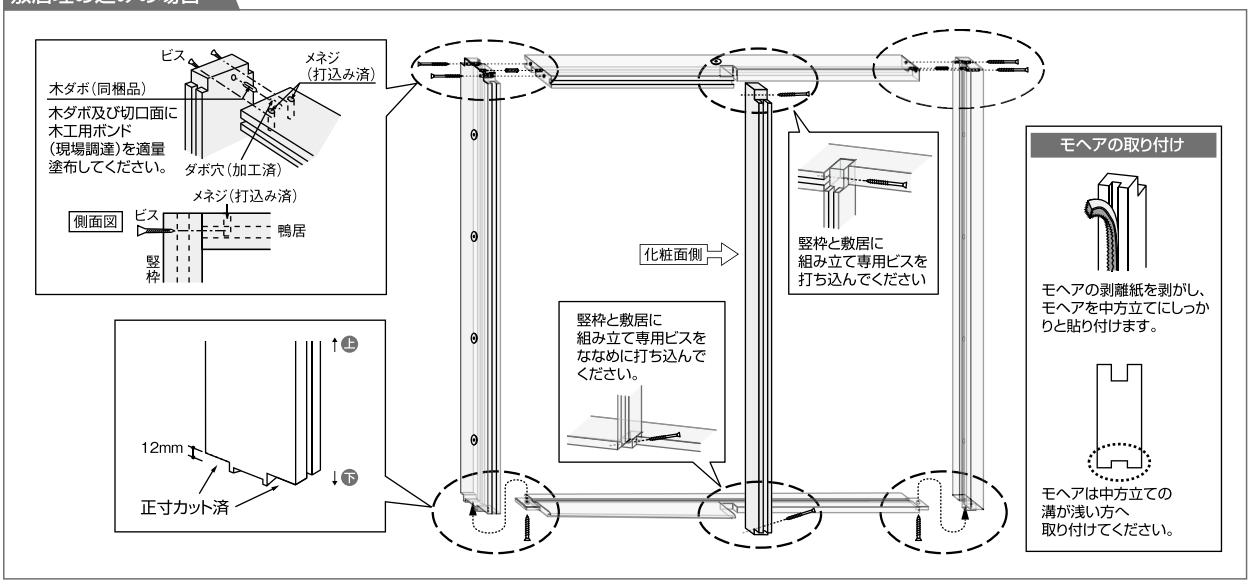


3 枠材の組み立て

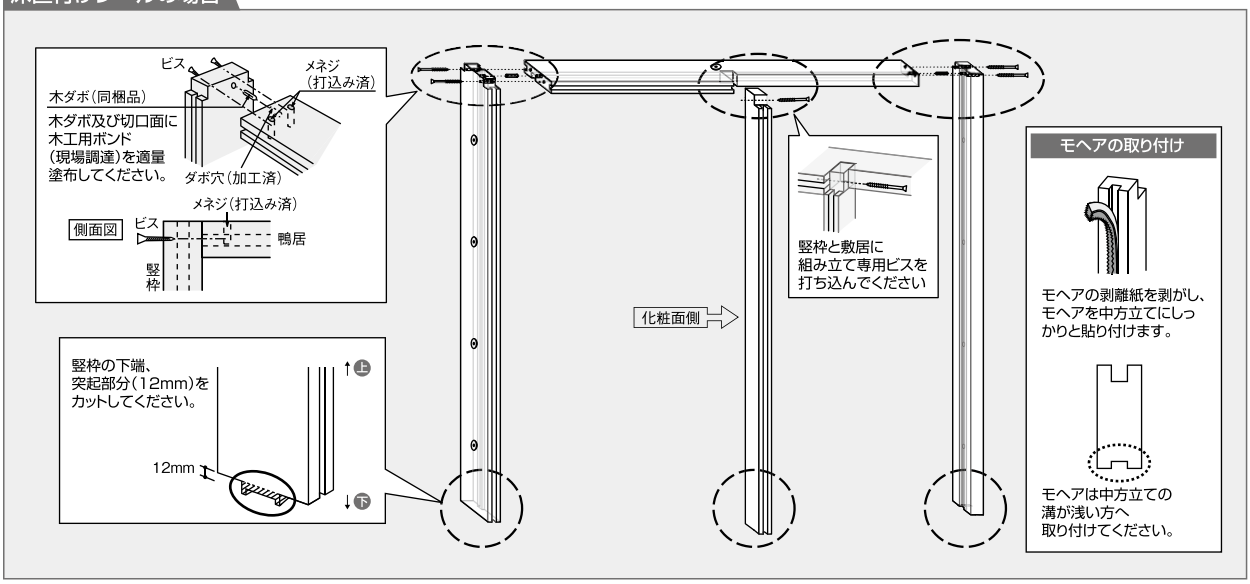
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



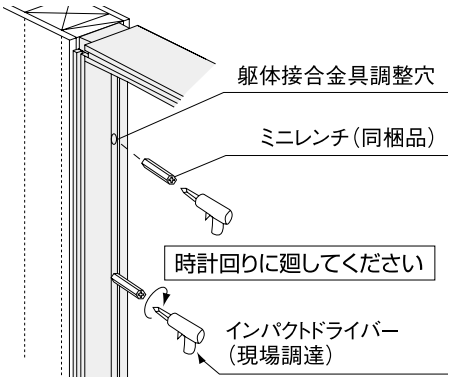
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

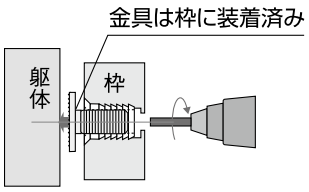
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

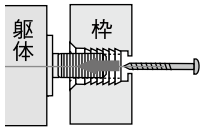


⚠注意

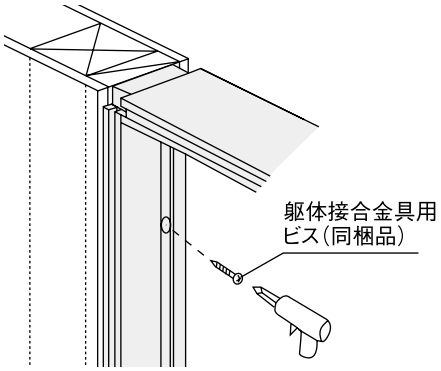
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

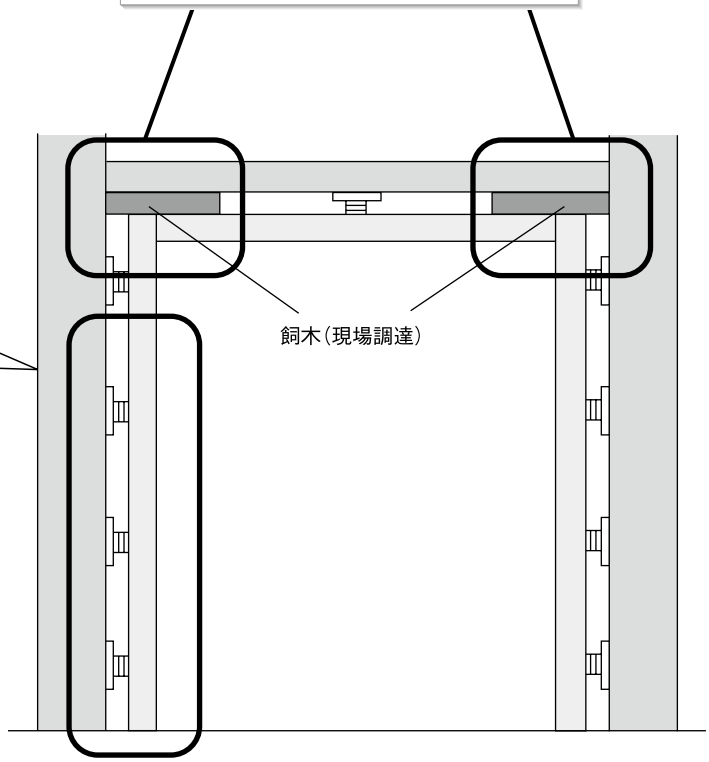


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

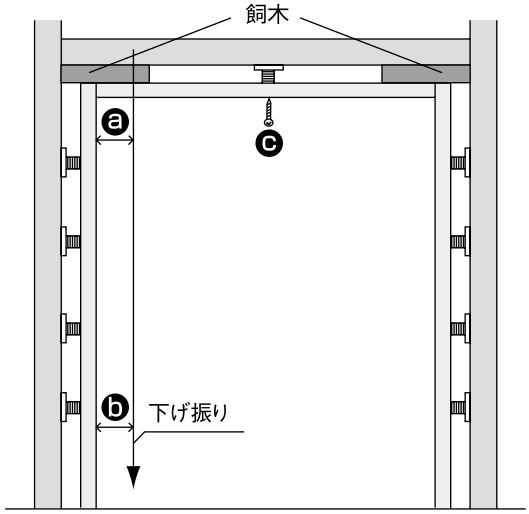


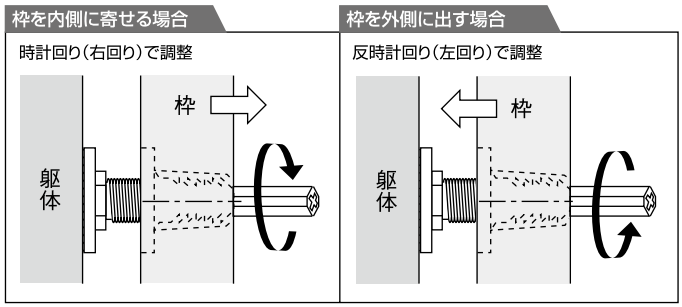
片引き戸 専用枠材

5 建て付け調整と鴨居の本固定

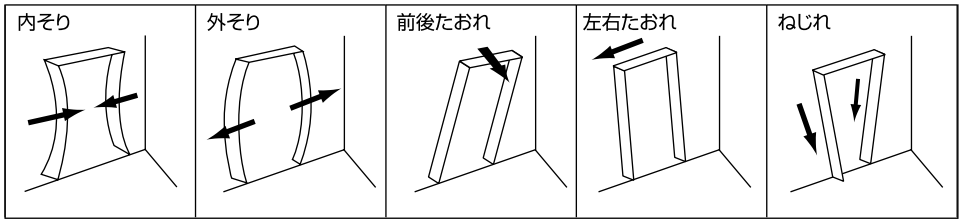
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、
竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



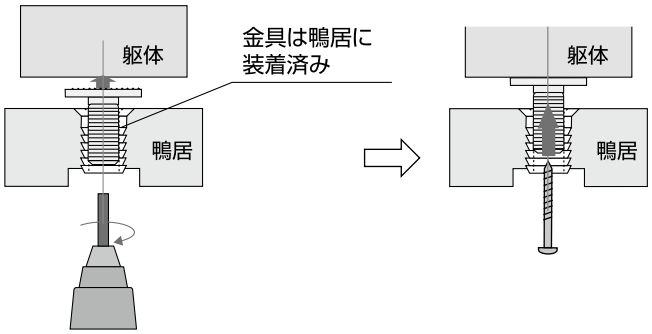


※下記の様なことがないようご注意ください。

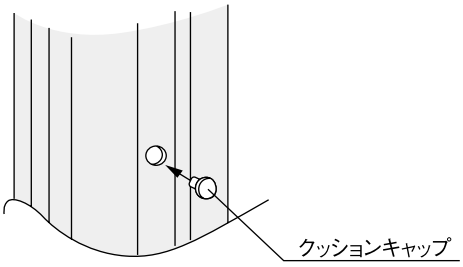


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。

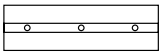


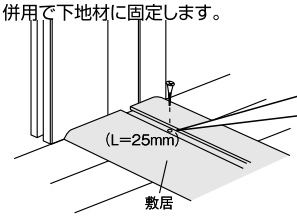
6 敷居・床直付けレールの取り付け

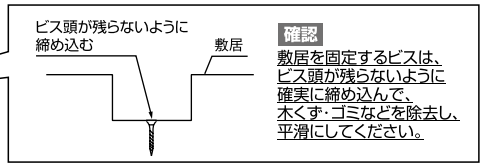
敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。



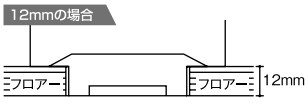


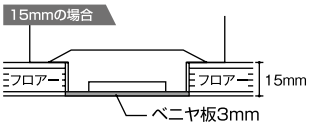


⚠注意

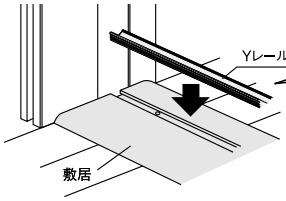
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

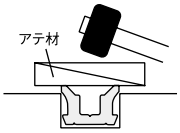




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

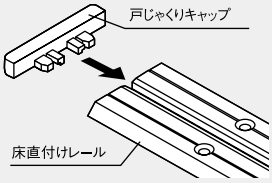
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

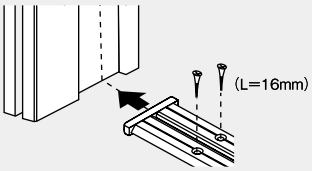


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

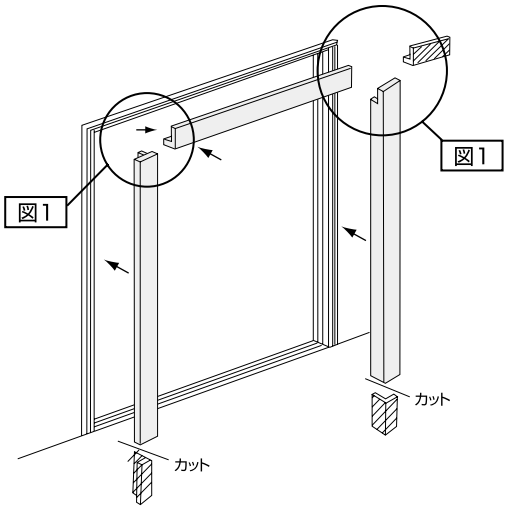
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

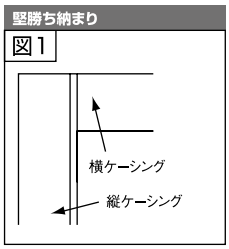


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。





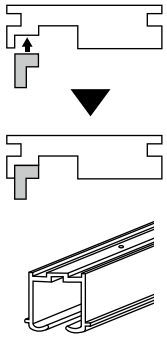
片引き戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

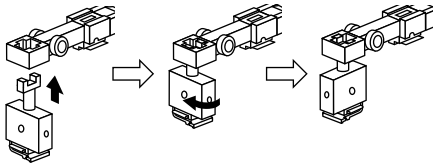
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。
別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

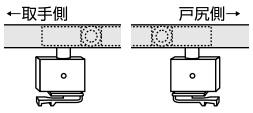
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

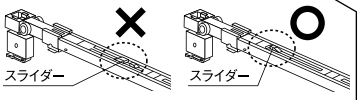


■ソフトクローザーの挿入

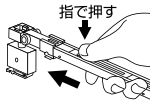
鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



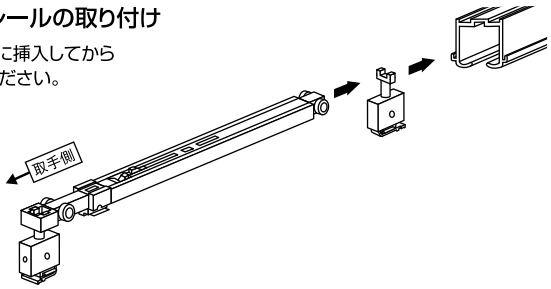
スライダーが正しい位置にない場合
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

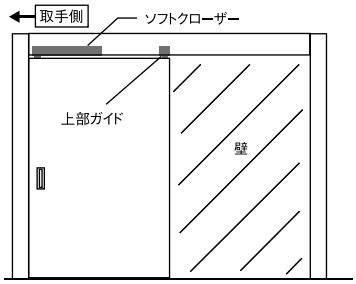


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

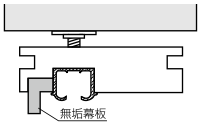
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



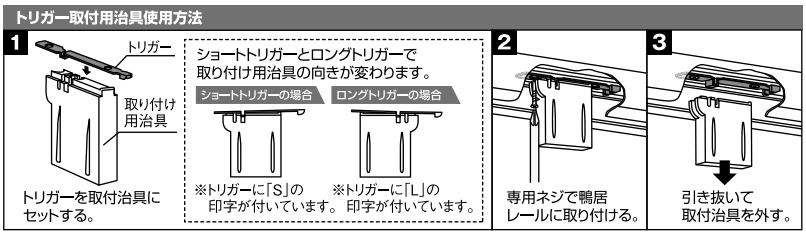


②鴨居レールの取り付け

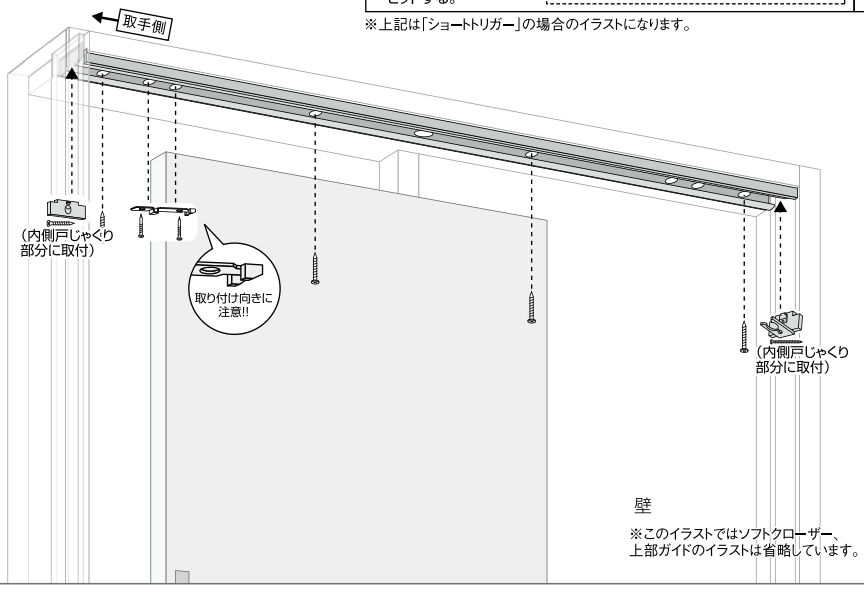
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

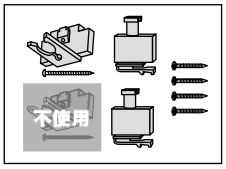


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

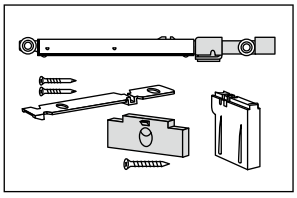


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



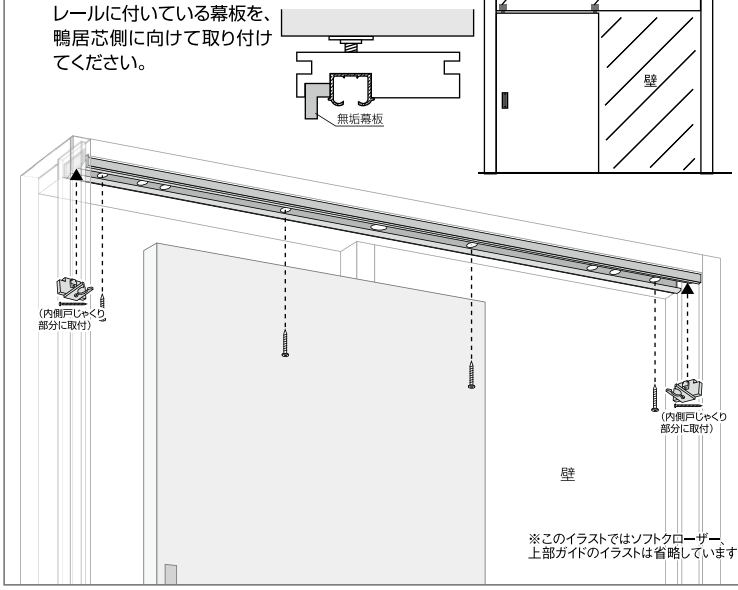
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。

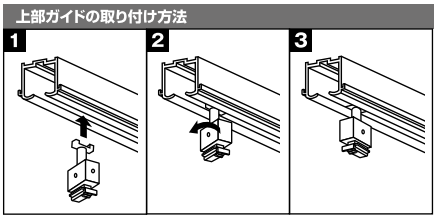


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

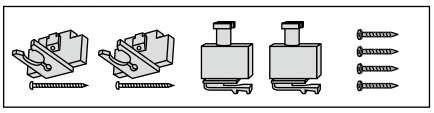
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

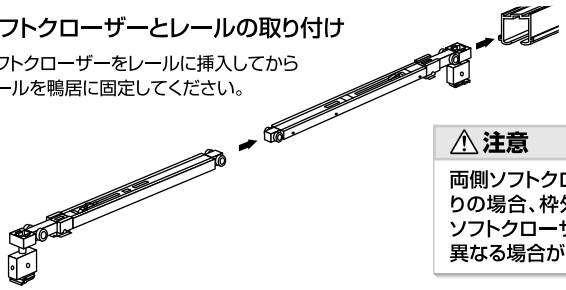
<同梱品>
下荷重片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

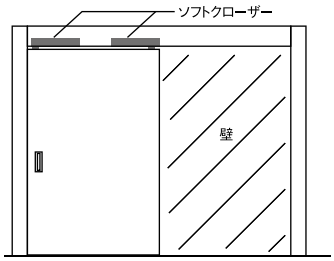
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



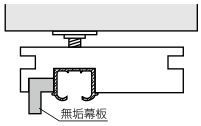
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

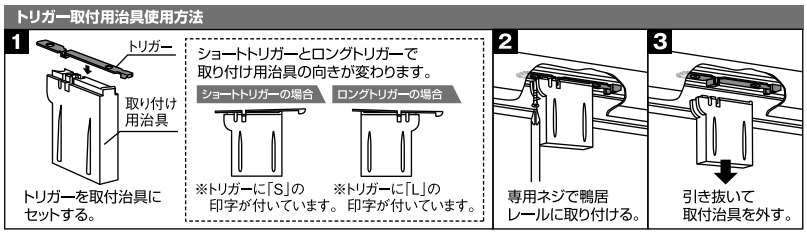


②鴨居レールの取り付け

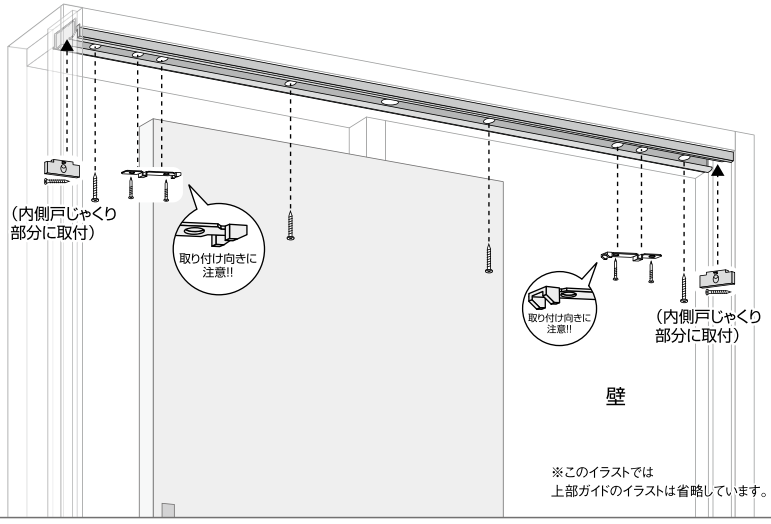
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

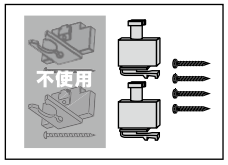


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

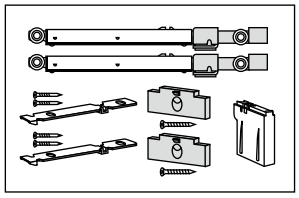


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



引き違い戸 専用枠材

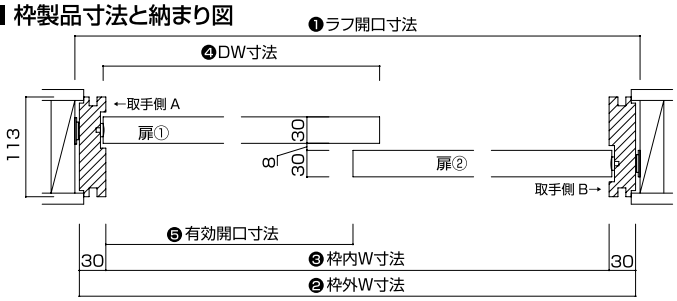
4.引き違い戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

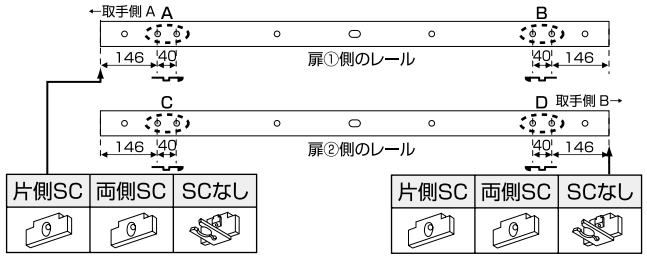
（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



製品寸法	1,824	1,644
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654
❷枠外W寸法	1,824	1,644
❸枠内W寸法	1,764	1,584
❹DW寸法	900	810
❺有効開口寸法	867	777

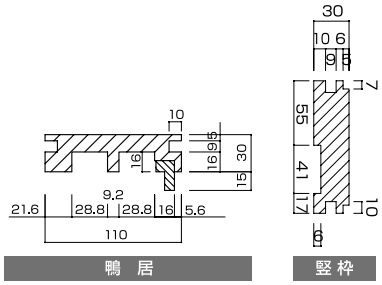
■ レール詳細図



■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

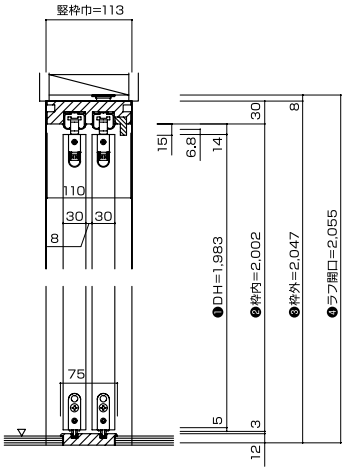
POINT
A·C　B·D
トリガーの取り付け向きに注意してください。



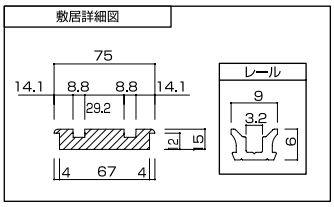
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

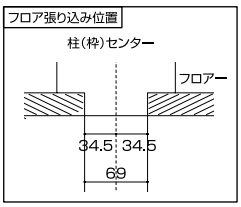
縦断面図

敷居埋め込みの場合　（単位：mm）

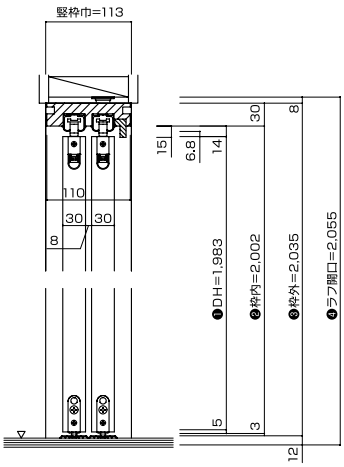


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

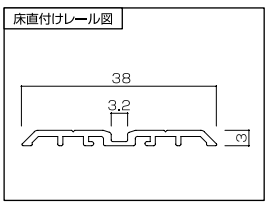




床直付けレールの場合　（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

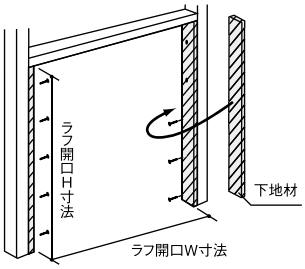


5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

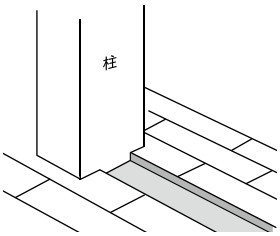
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

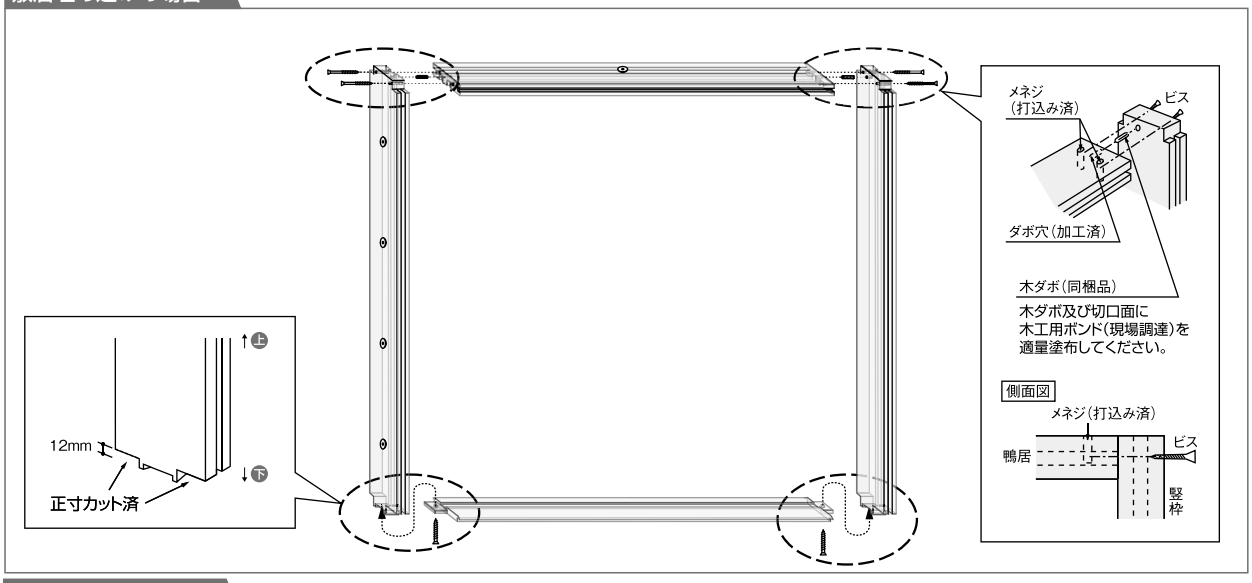


3 枠材の組み立て

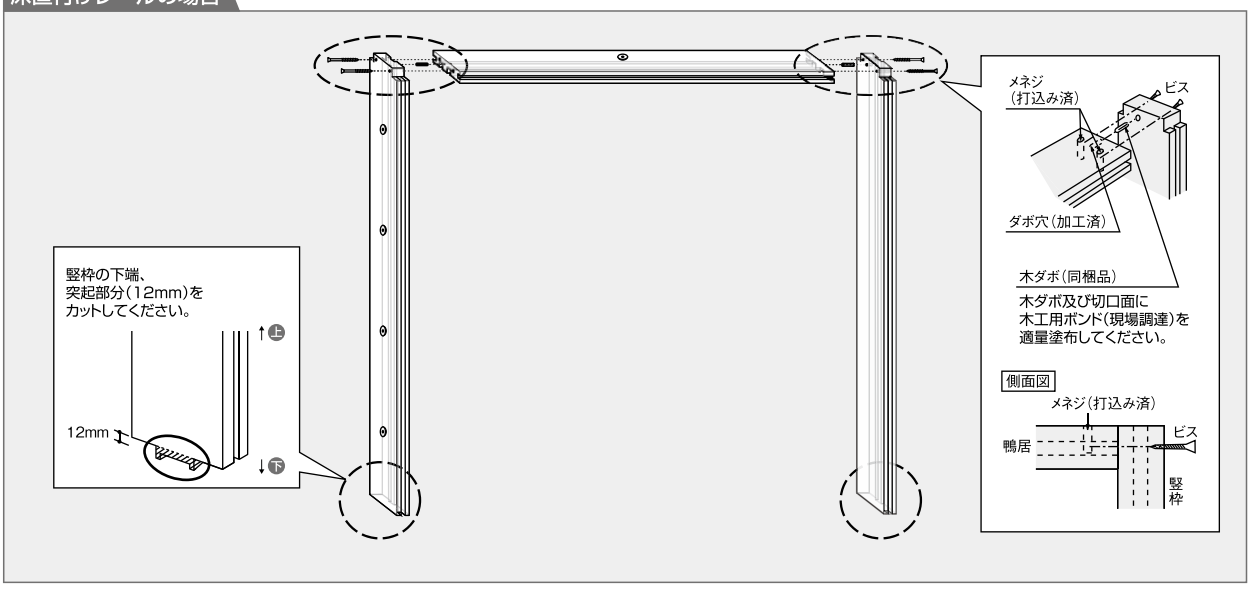
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



引き違い戸 専用枠材

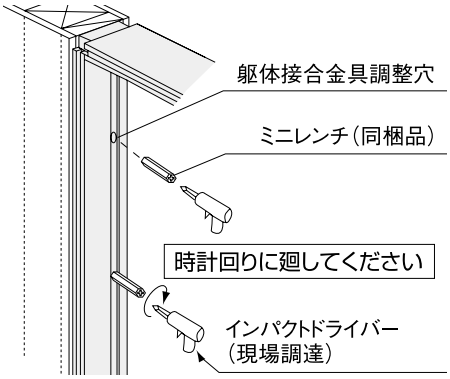
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

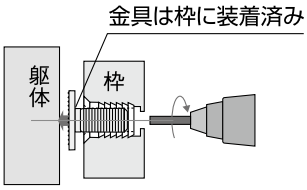
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

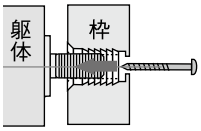


⚠注意

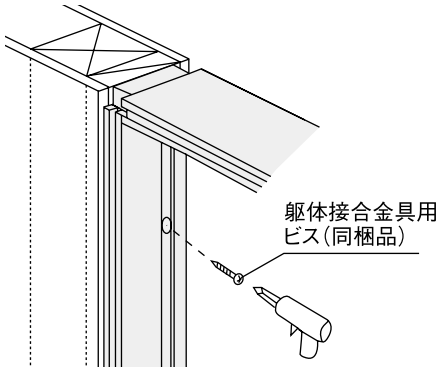
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

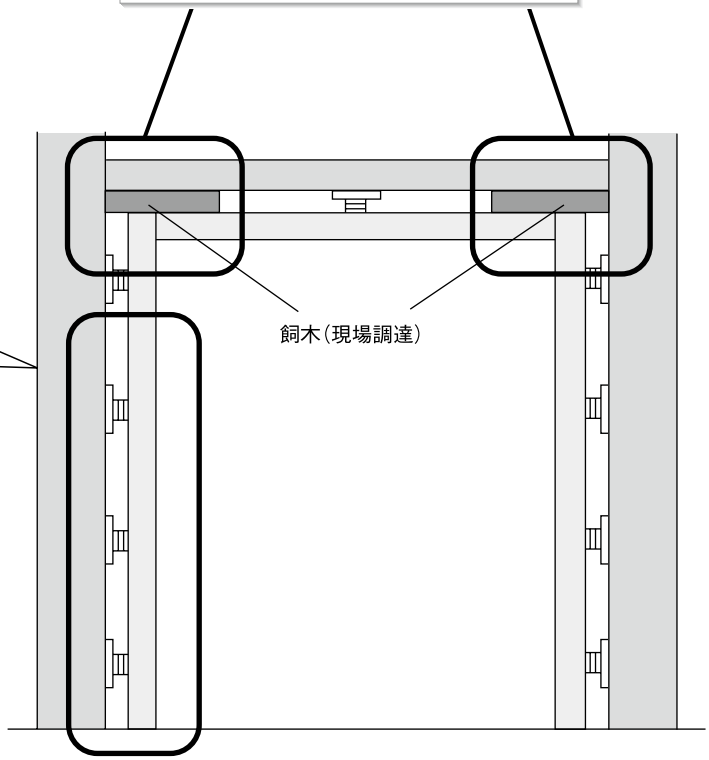


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

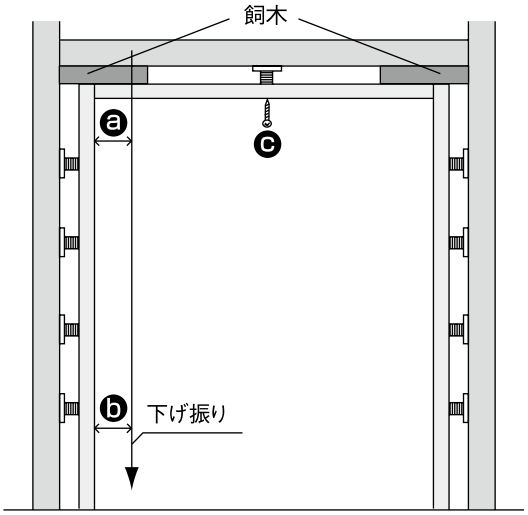
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

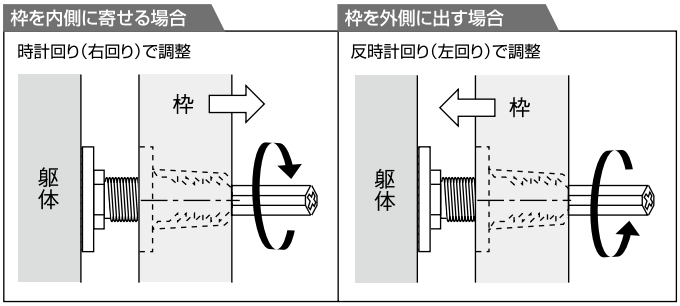


5 建て付け調整と鴨居の本固定

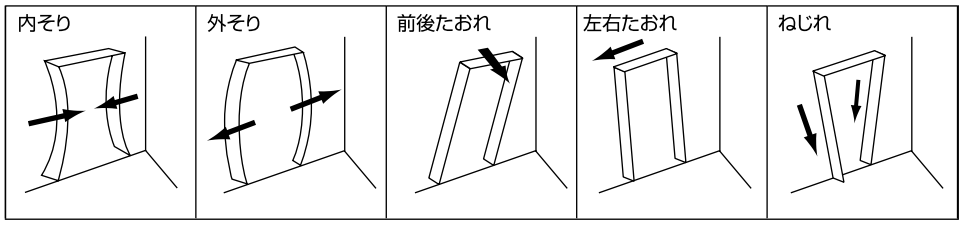
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



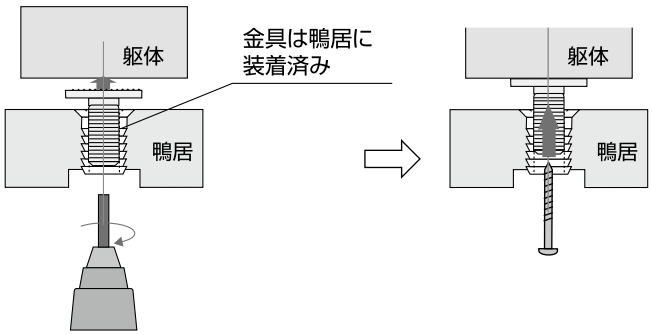


※下記の様なことがないようご注意ください。

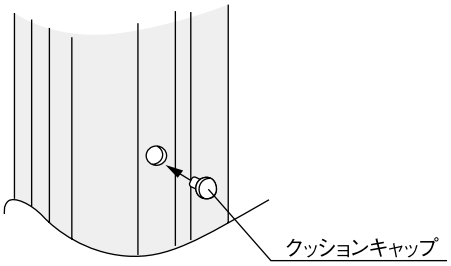


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



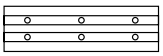
引き違い戸 専用枠材

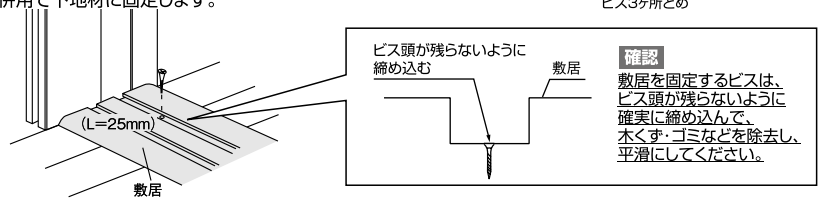
6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

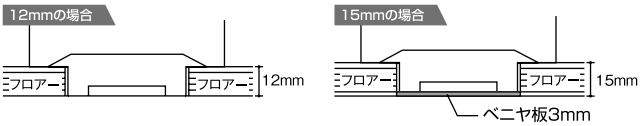




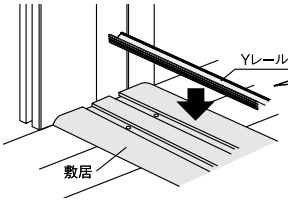
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

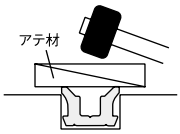
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

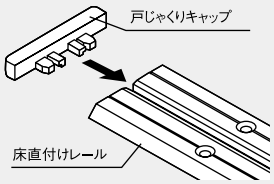
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

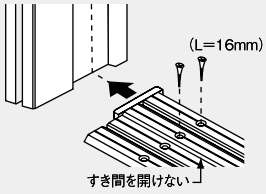


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。2本目以降の床直付けレールはレールとレールの間にすき間が出来ないように並べて取付けてください。

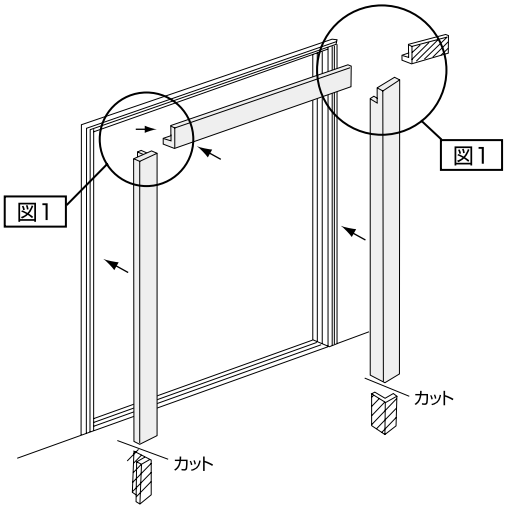
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

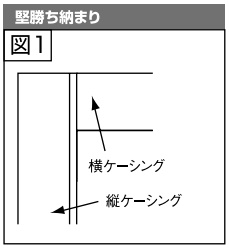


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



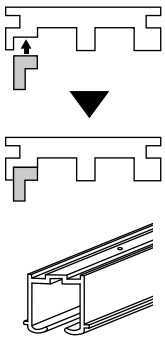


8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

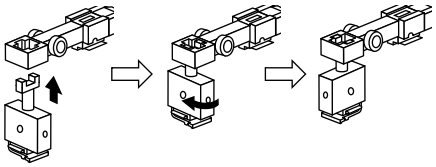
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。
別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

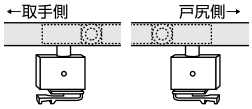
■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。
※切れ込みの先端が取手側·戸尻側に向くように取り付けてください。

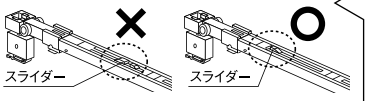


■ソフトクローザーの挿入

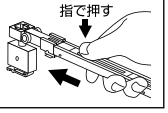
鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。
スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



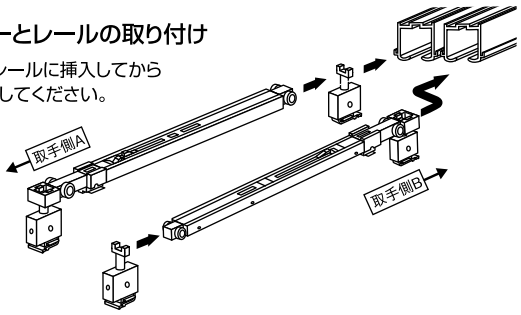
スライダーが正しい位置にない場合
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

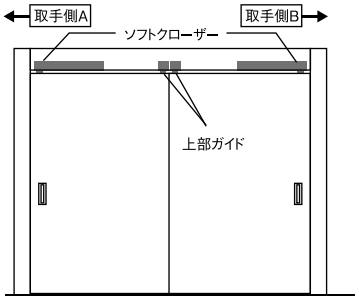


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

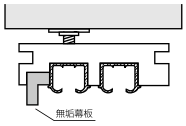
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



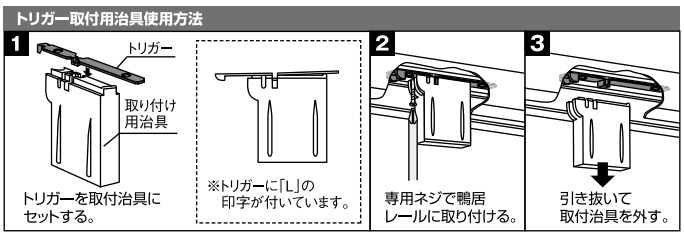


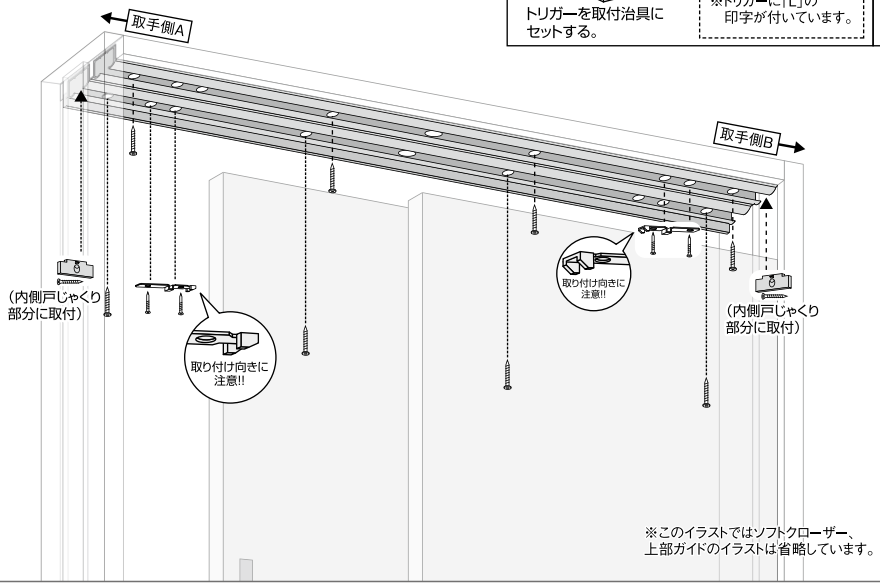
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



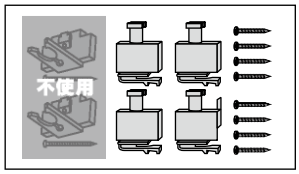
トリガー取付用治具使用方法



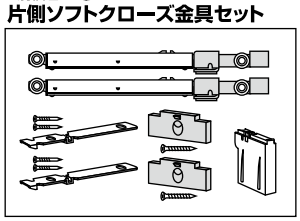


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

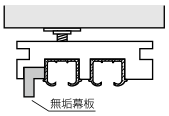


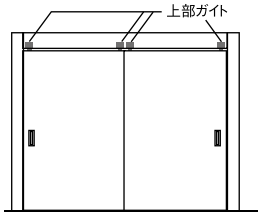
引き違い戸 専用枠材

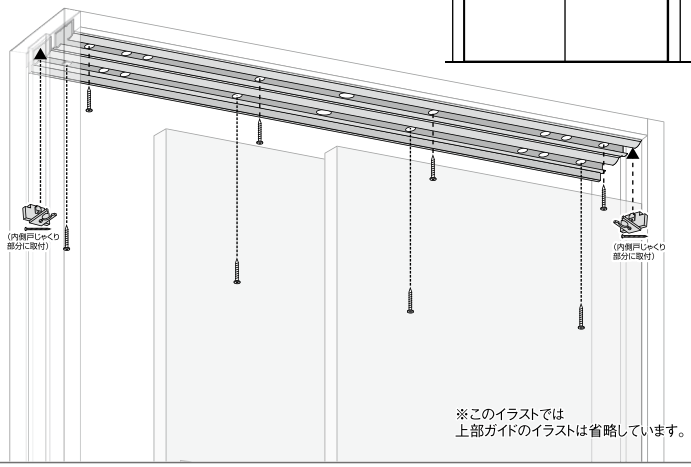
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。





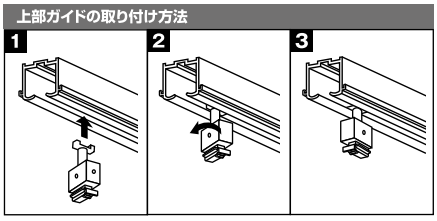


※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

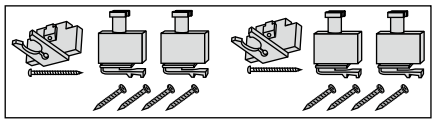
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

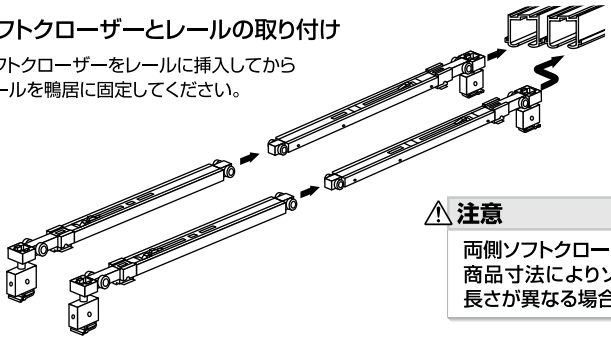
<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

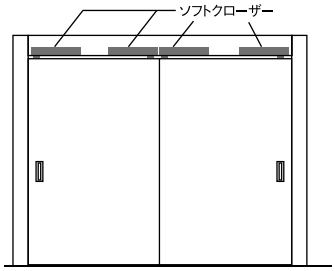
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



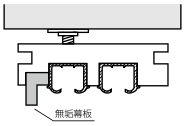
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、
商品寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

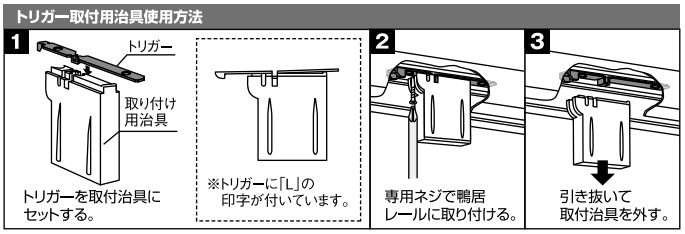


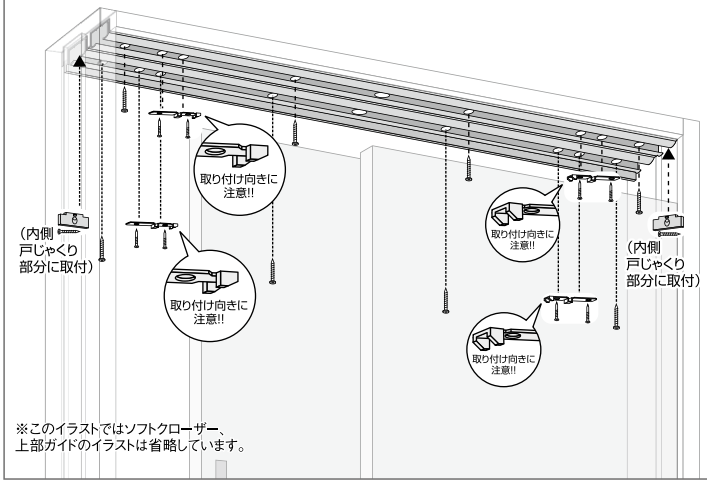
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



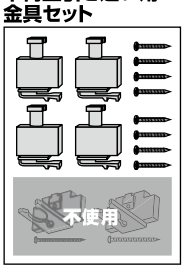
トリガー取付用治具使用方法



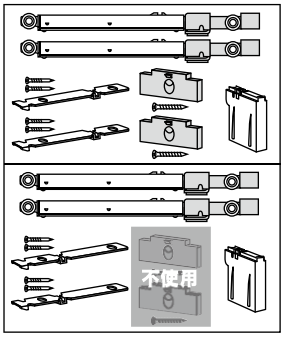


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール幕板なし(アルミ)	木製幕板
入数	引き分け戸	2本	2本	2本	1本	1本	1本
	3枚引き違い戸	2本	―	―	1本	3本	1本
	4枚引き違い戸	2本	―	―	1本	2本	1本
備考(部材品番等)		―	―	―	―	―	―

別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合 敷居		床直付けレールの場合 床直付けレール		
入数	引き分け戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス13本
	3枚引き違い戸	本体1本	レール3本	レール3本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス30本
	4枚引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス26本
備考(部材品番等)		―	―	―	―	―

金具セット(枠本体セットに梱包)

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー(ビス1本セット)	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	L型ストッパー
入数	引き分け戸	ZYNL58	4個	―	2個	1個	―
	3枚引き違い戸	ZYNS57	6個	2個	―	―	1個
	4枚引き違い戸	ZYNI58	8個	2個	―	2個	―
備考(部材品番等)			ZYNG01	ZYNC01	ZYTNC01	ZY3337	ZY2526

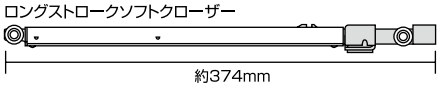
ビスセット(枠本体セットに梱包)

袋の色			赤	赤	赤	黄	黄	黄	透明	透明
部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	上レール取り付けビス(皿ビス) 18mm 3.5mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	躯体接合穴キャップ φ10
入数	引き分け戸	ZYQB66-□	2本	8本	9本	11本	10本のみ使用(20本入)	1本	8個	―
	3枚引き違い戸	ZYQB69-□	2本	4本	11本	11本	27本	1本	8個	8個
	4枚引き違い戸	ZYQB66-□	2本	4本のみ使用(8本入)	9本	11本	20本	1本	8個	―
備考(部材品番等)			―	―	床直付けレールの場合は使用しません。	―	―	―	―	―

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧(別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ)

部材名					ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット(ビス2本セット)	戸じゃくりキャップ(ビス1本セット)	トリガー取り付け治具
	セット品番	引き分け戸	3枚引き違い戸	4枚引き違い戸				
入数	ZH23LC-Y	片側SC付(×2セット)	片側SC付(×3セット)	片側SC付(×4セット)	1	1	1	1
	ZH23LR-Y	両側SC付(×2セット)	両側SC付(×3セット)	両側SC付(×4セット)	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



引き分け戸 専用枠材

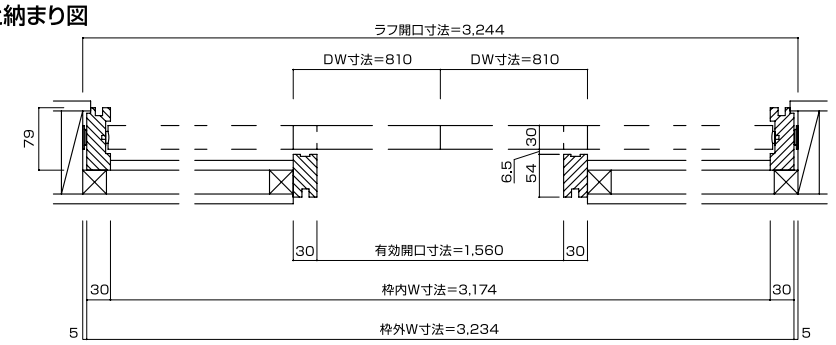
2. 引き分け戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

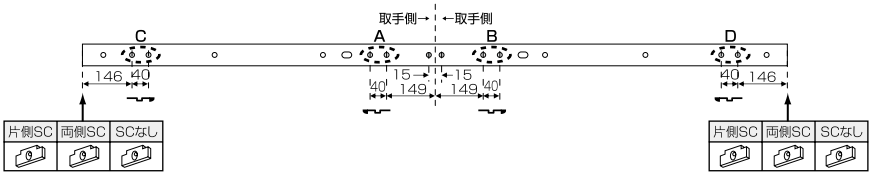
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



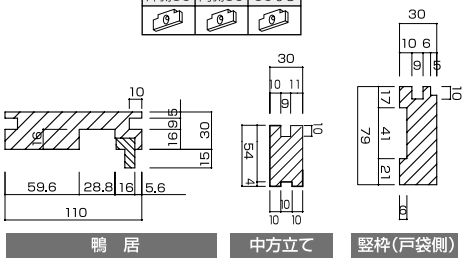
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·C　A·D

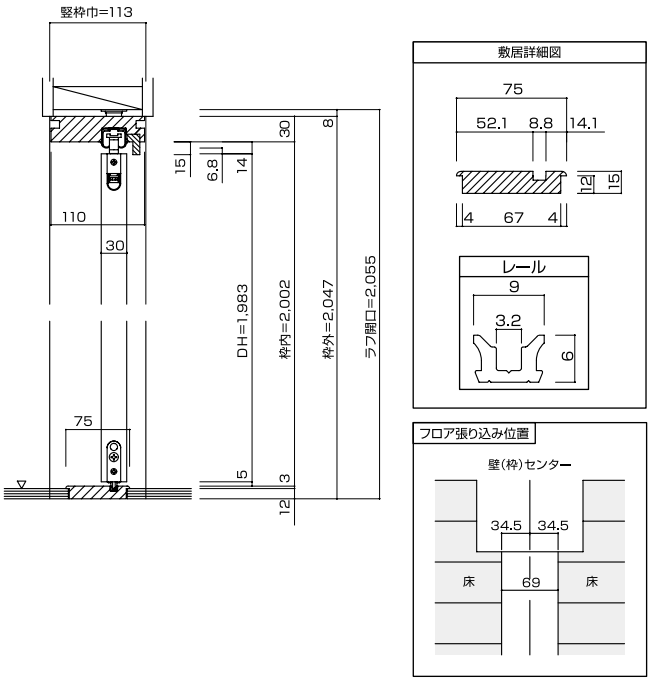
トリガーの取り付け向きに注意してください。



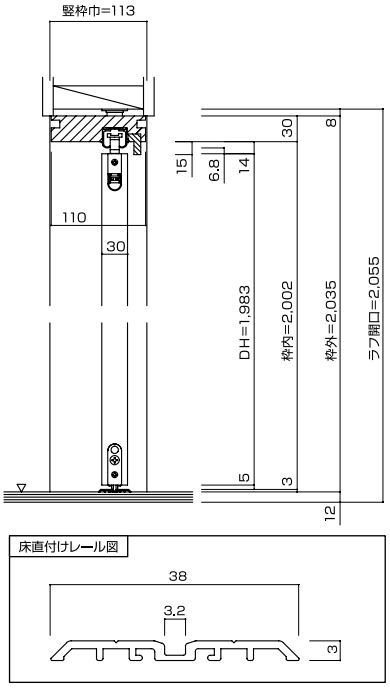
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

敷居埋め込みの場合　（単位：mm）



床直付けレールの場合　（単位：mm）

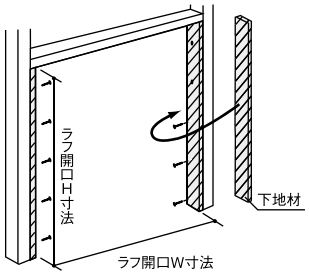


3. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

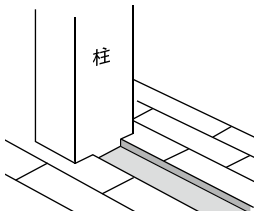
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

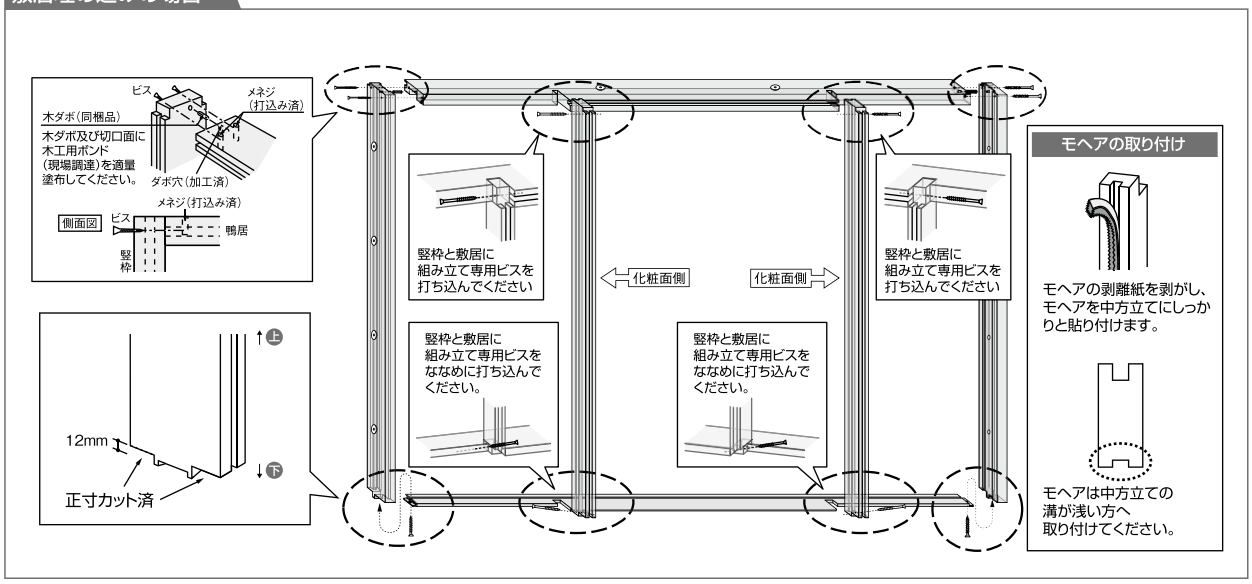


3 枠材の組み立て

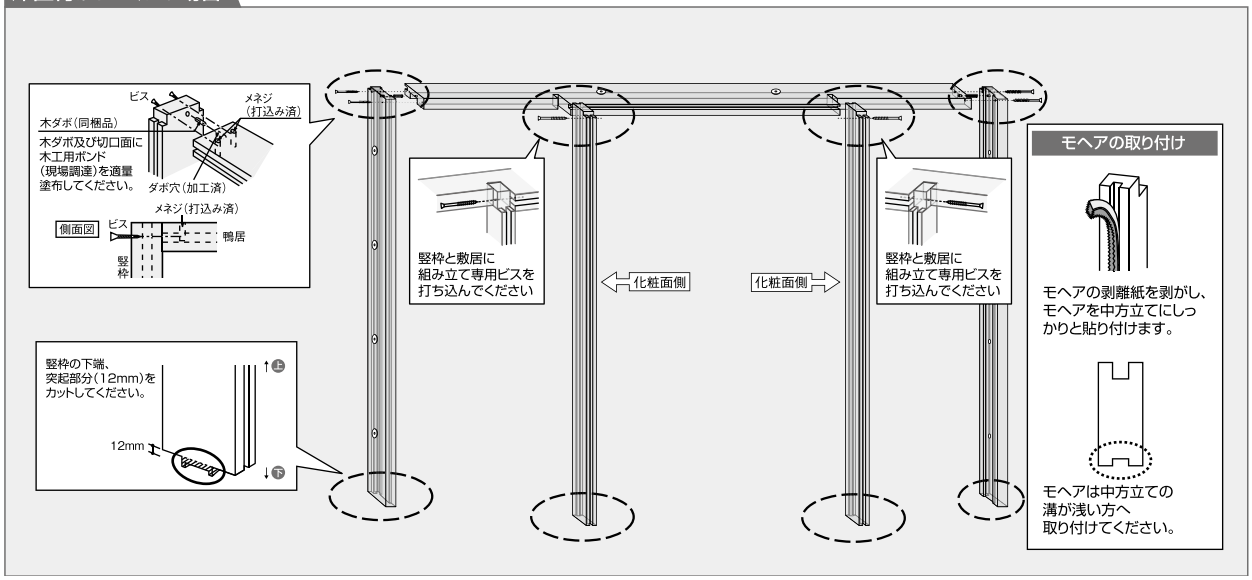
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



引き分け戸 専用枠材

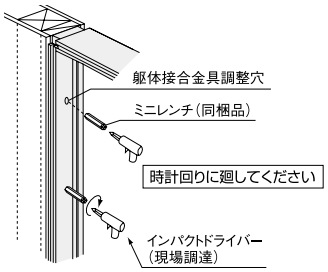
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

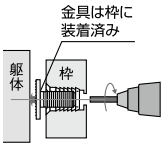
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



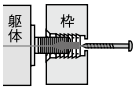


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

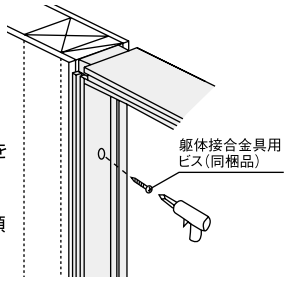
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

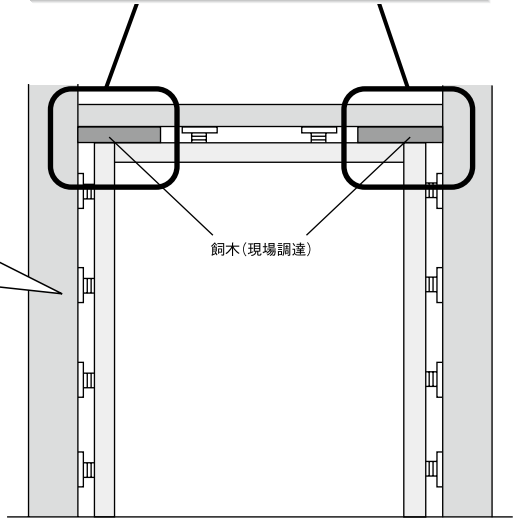
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



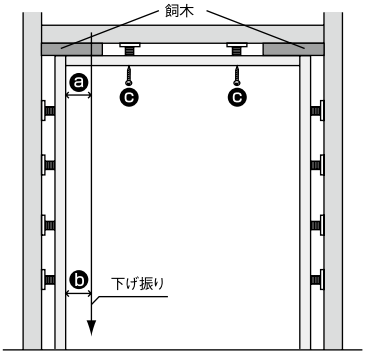
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



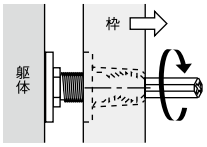
5 建て付け調整と鴨居の本固定

■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

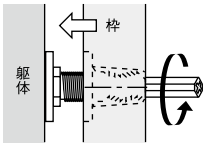
①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



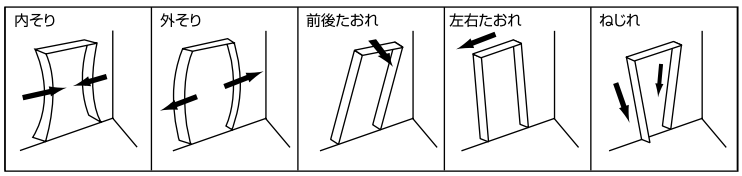
枠を内側に寄せる場合
時計回り（右回り）で調整



枠を外側に出す場合
反時計回り（左回り）で調整

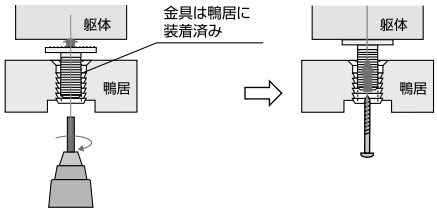


※下記の様なことがないようご注意ください。

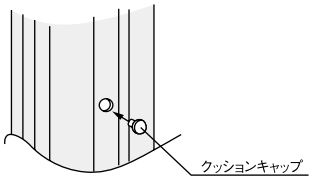


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。

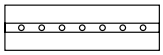


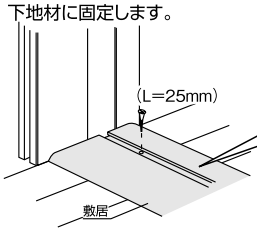
6 敷居・床直付けレールの取り付け

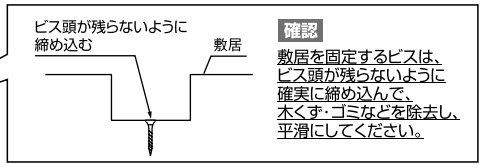
敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。



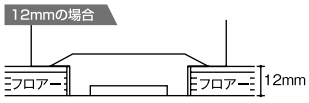


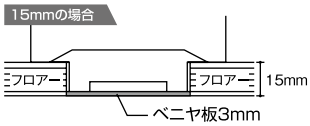


⚠注意

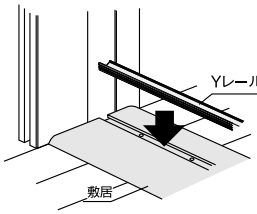
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

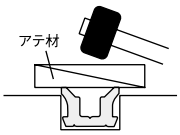




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

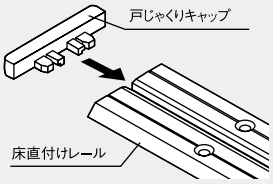
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

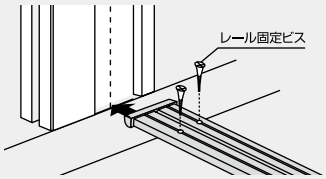


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

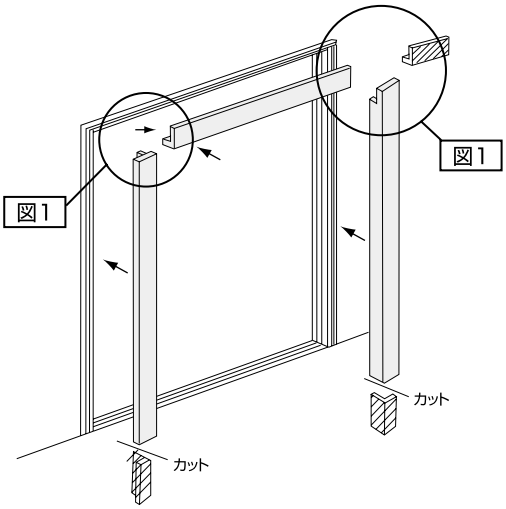
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

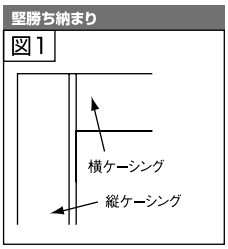


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。





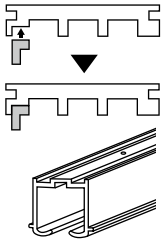
引き分け戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

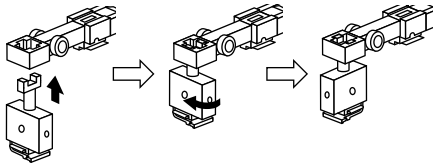
ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

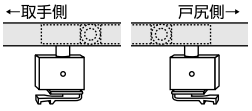
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

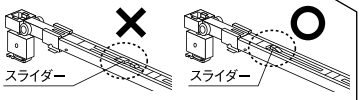


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

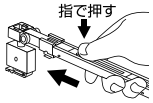
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

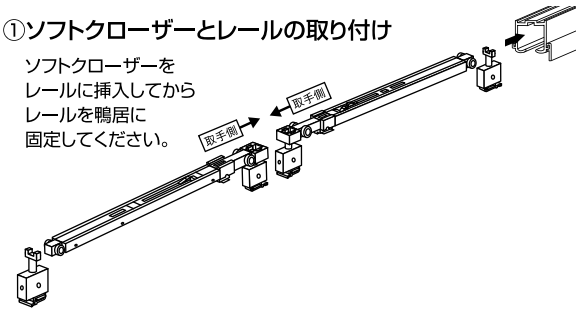
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

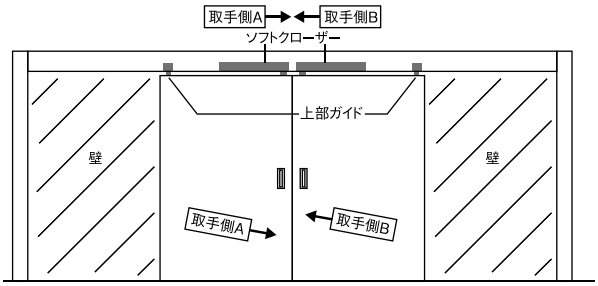


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

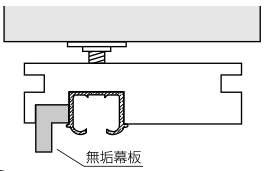
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



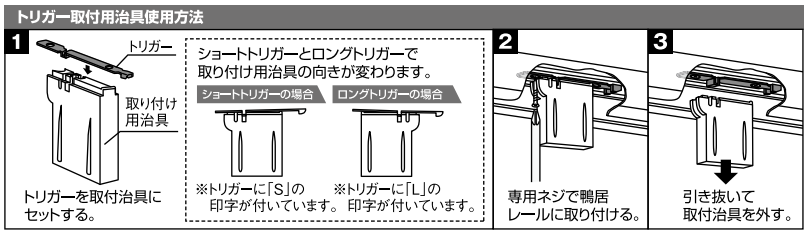


②鴨居レールの取り付け

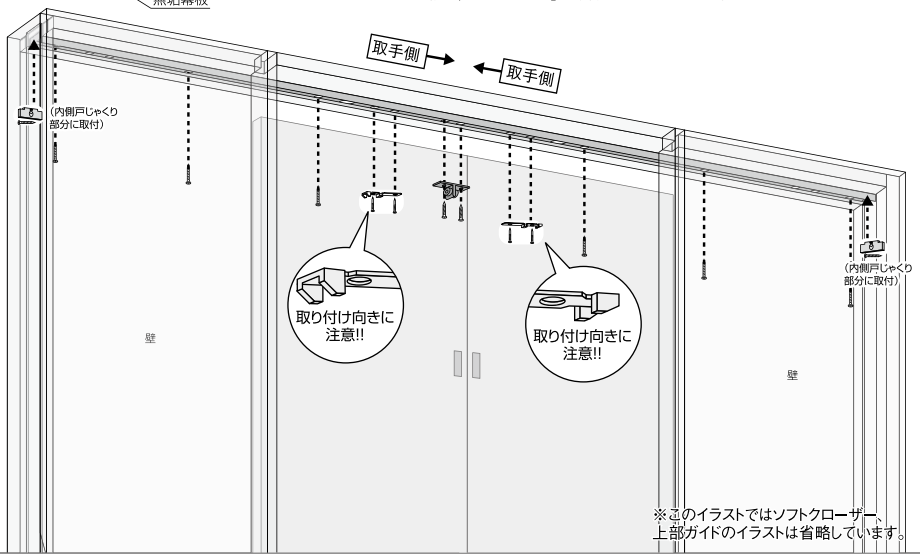
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

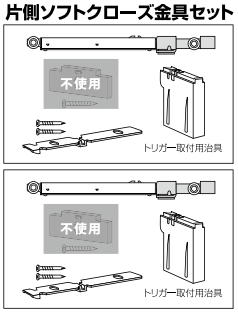


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

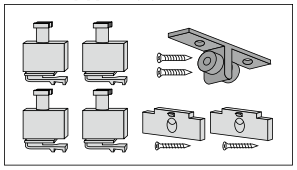


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<別梱包> **片側ソフトクローズ金具セット**



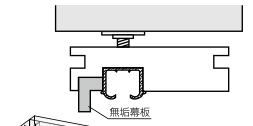
<同梱品> **下荷重金具セット**

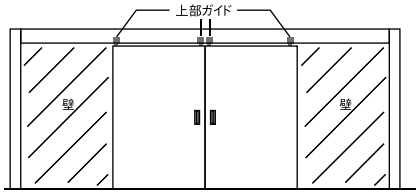


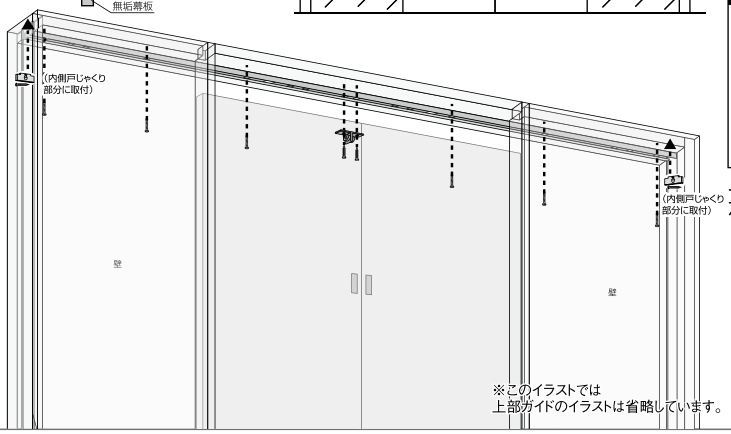
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。





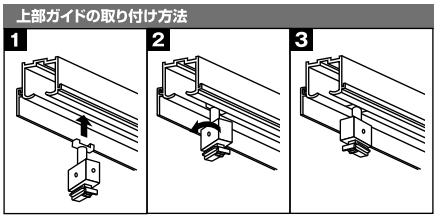


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

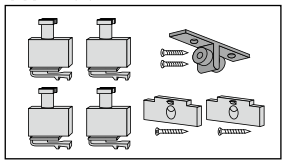
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

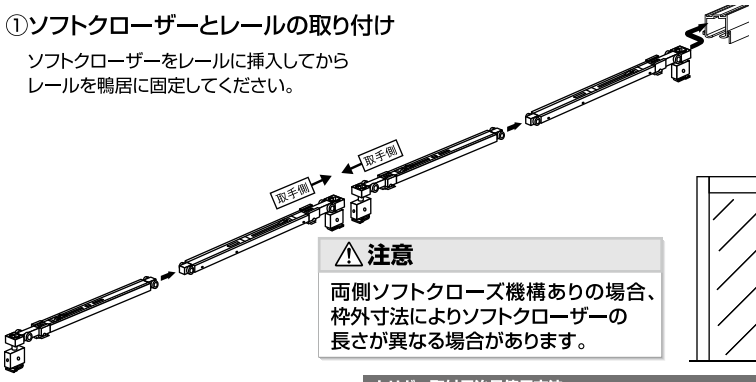
<同梱品>
下荷重金具セット

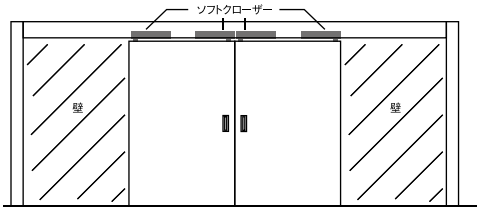


両側ソフトクローズ オプション

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



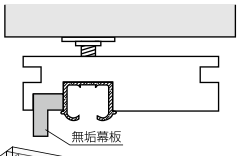


⚠注意

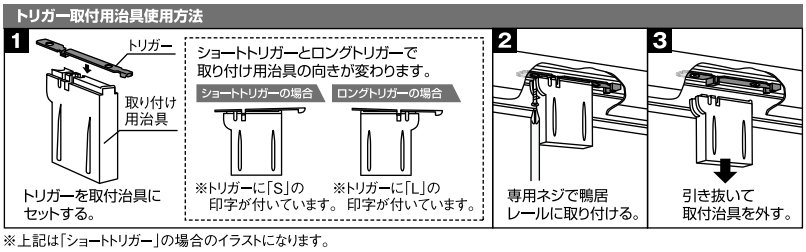
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

②鴨居レールの取り付け

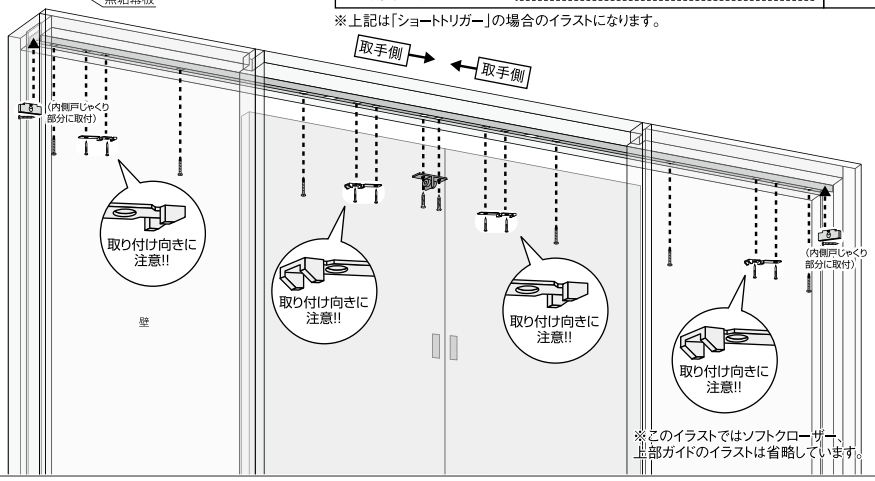
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

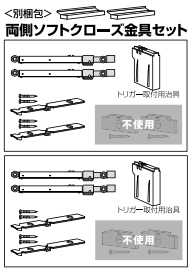


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

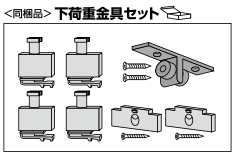


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



<同梱品> **下荷重金具セット**



3 枚引き違い戸 専用枠材

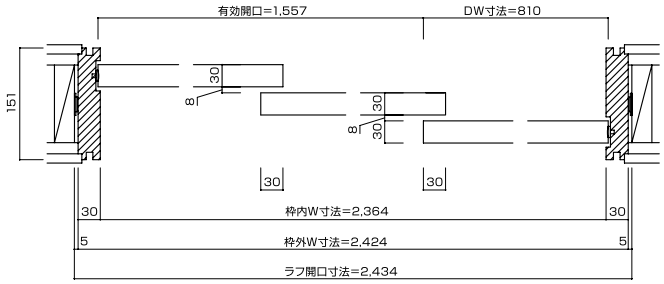
4. 3枚引違い戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



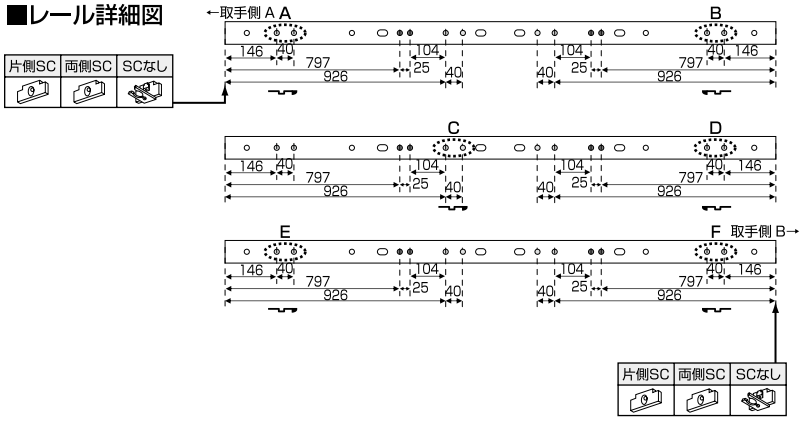
■トリガー取り付け位置

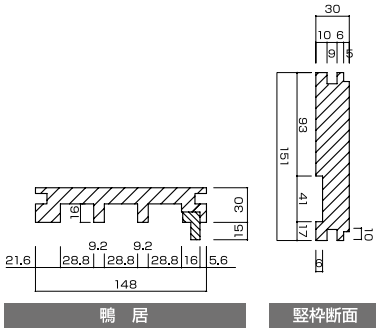
片側ソフトクローズ仕様	A·C·F
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D·E·F

上記レール詳細図を確認し、
トリガー、ストッパーなどの
取り付け位置をご確認ください。

POINT
A·C·E　B·D·F
トリガーの取り付け向きに
注意してください。

■レール詳細図

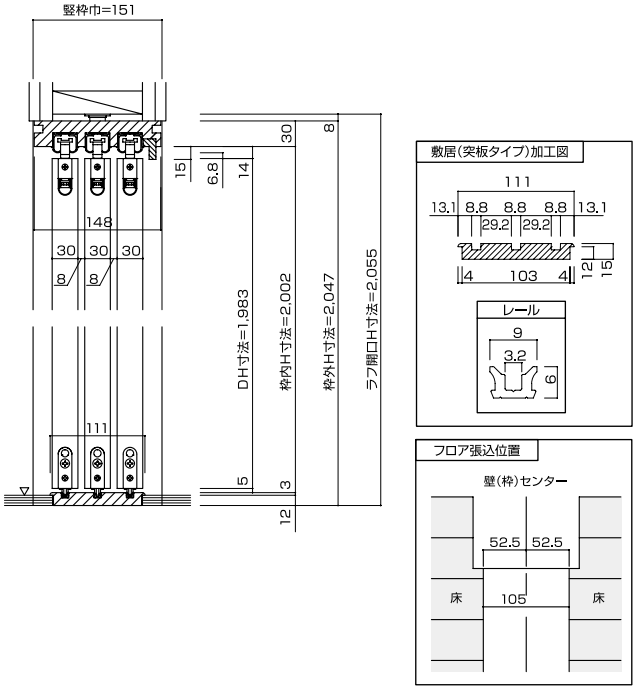




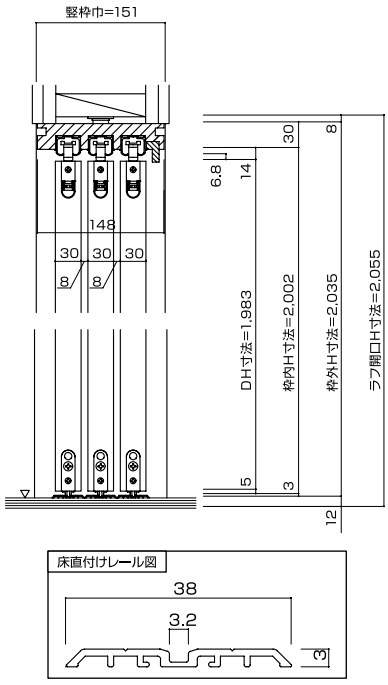
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

敷居埋め込みの場合　（単位：mm）



床直付けレールの場合　（単位：mm）

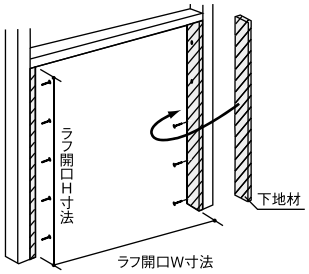


5. 3枚引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

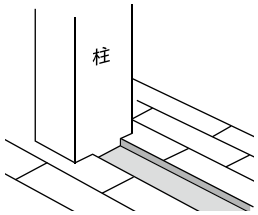
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

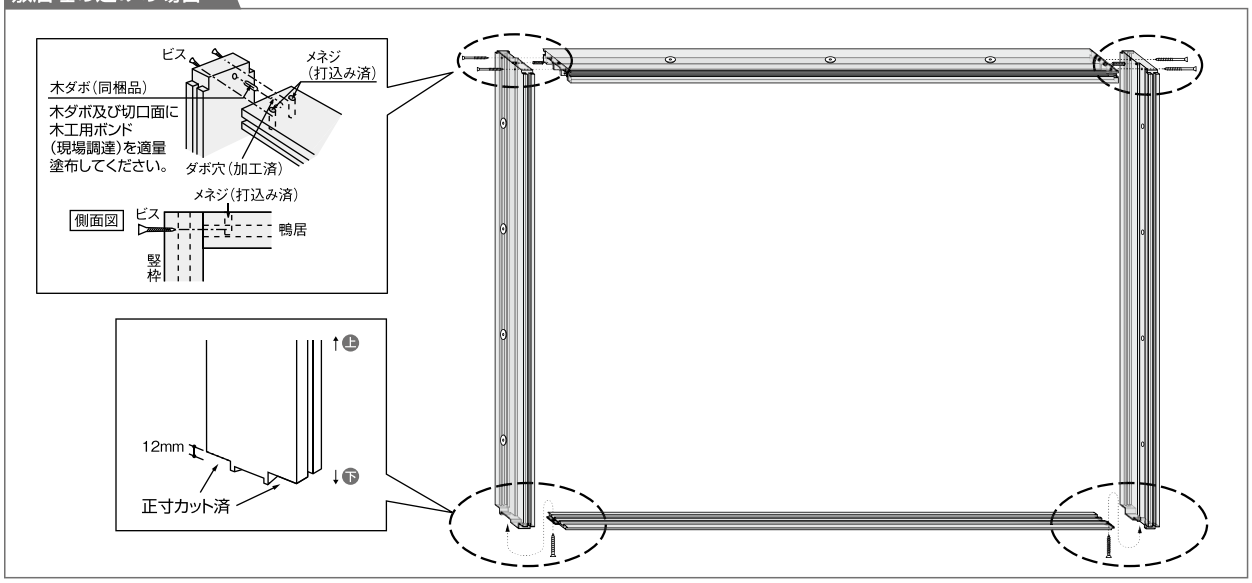


3 枠材の組み立て

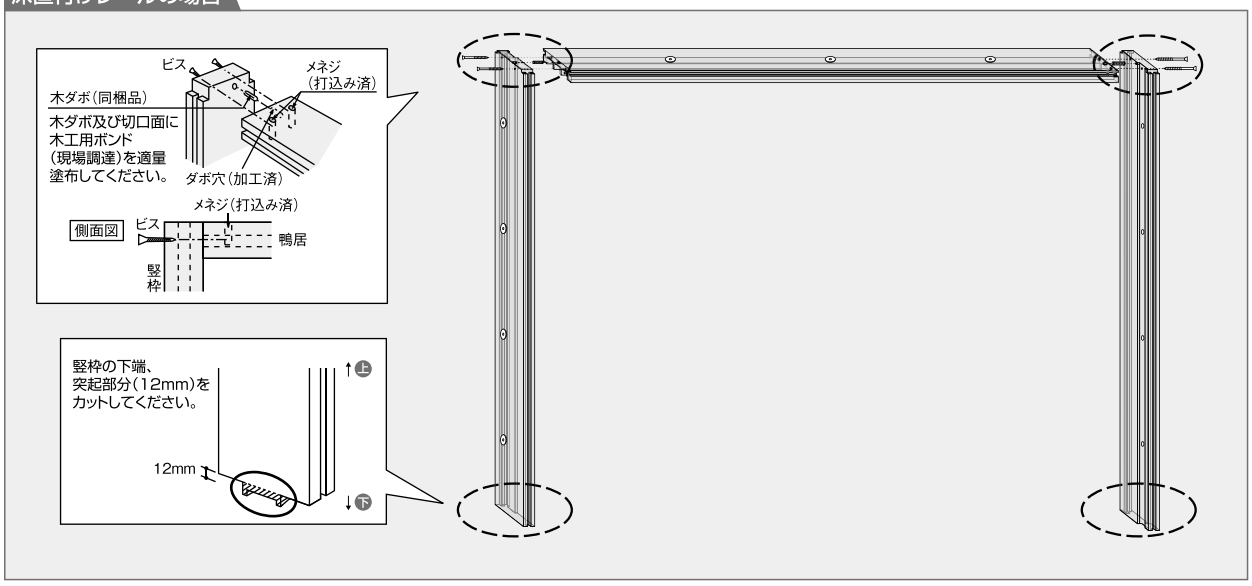
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



3枚引き違い戸 専用枠材

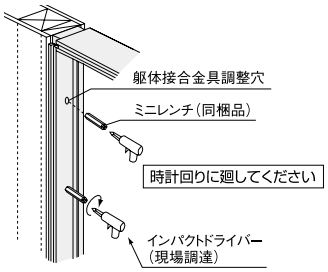
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

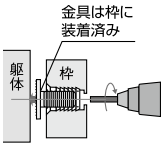
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント　金具で突っ張らせて枠を仮固定する



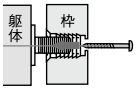


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

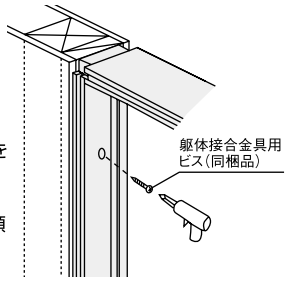
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

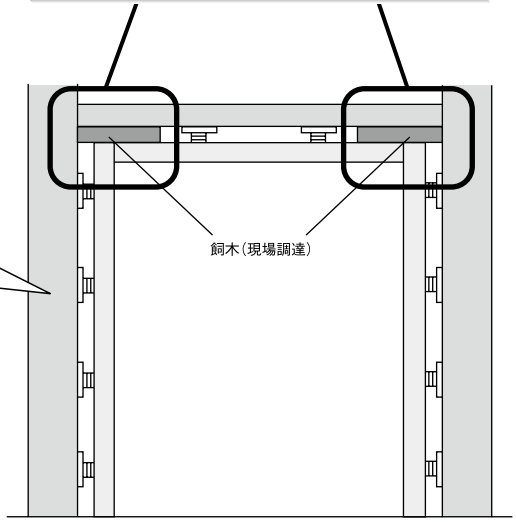
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



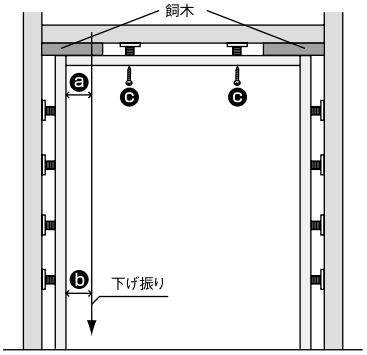
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

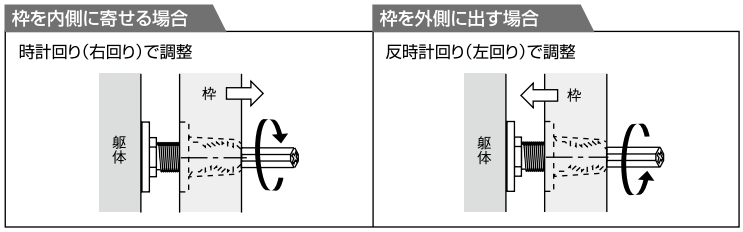


5 建て付け調整と鴨居の本固定

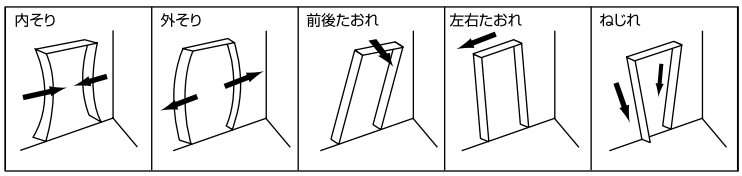
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



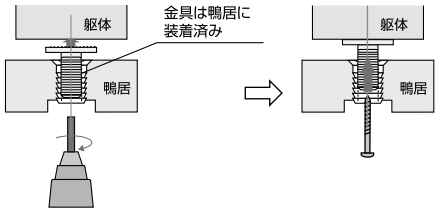


※下記の様なことがないようご注意ください。

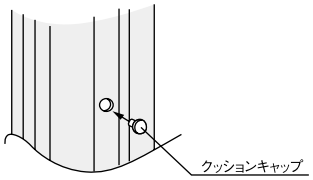


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。

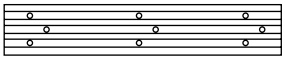


6 敷居・床直付けレールの取り付け

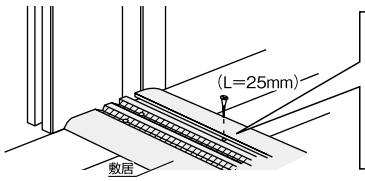
敷居埋め込みの場合

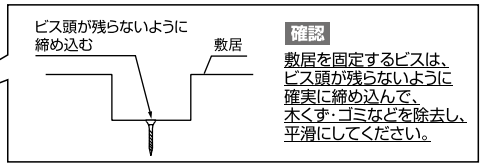
①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

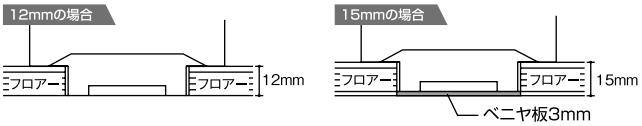

ビスは溝1本につき3カ所とめます。

⚠注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

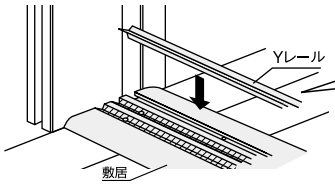




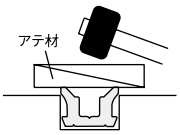
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

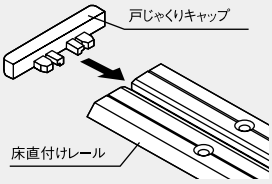
⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

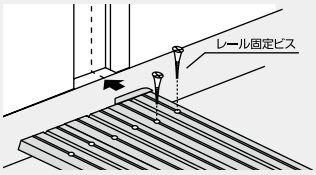
戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。



②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

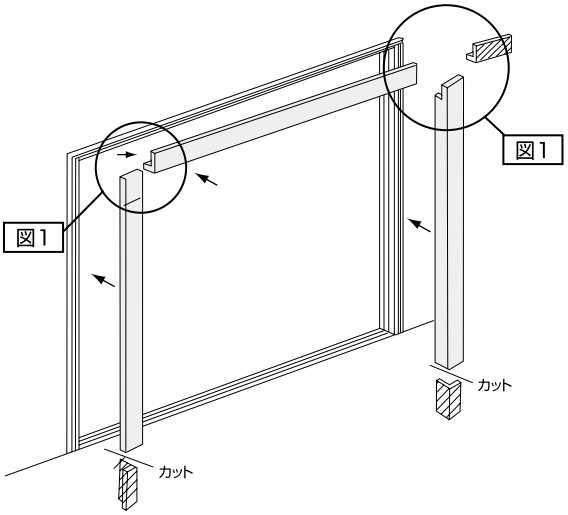
同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

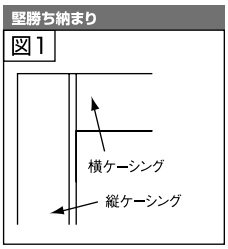


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。





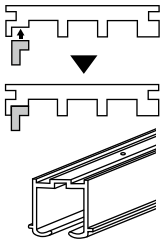
3 枚引き違い戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

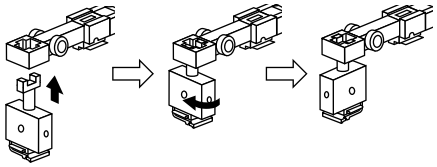
ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

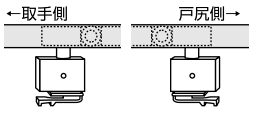
■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。
※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

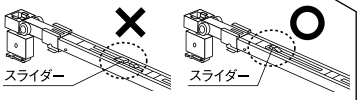


■ソフトクローザーの挿入

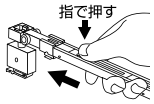
鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



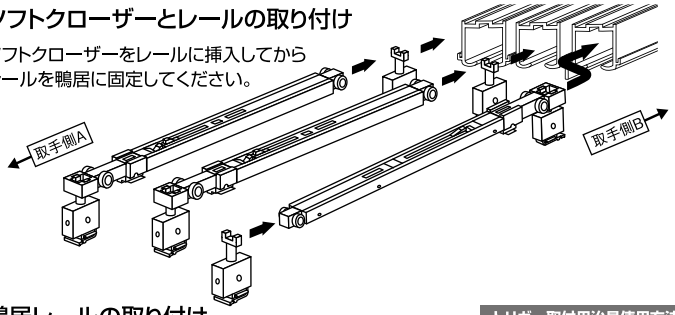
スライダーが正しい位置にない場合
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

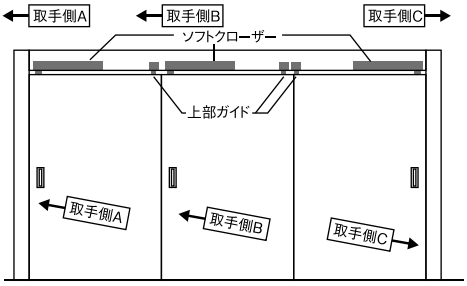


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

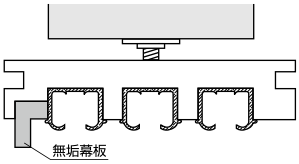
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



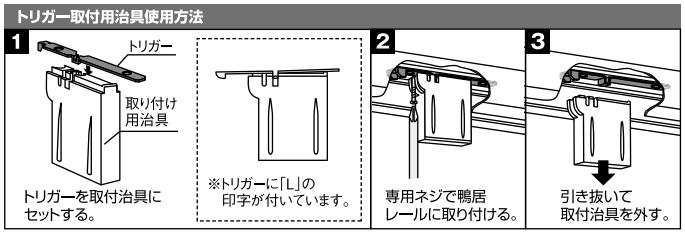


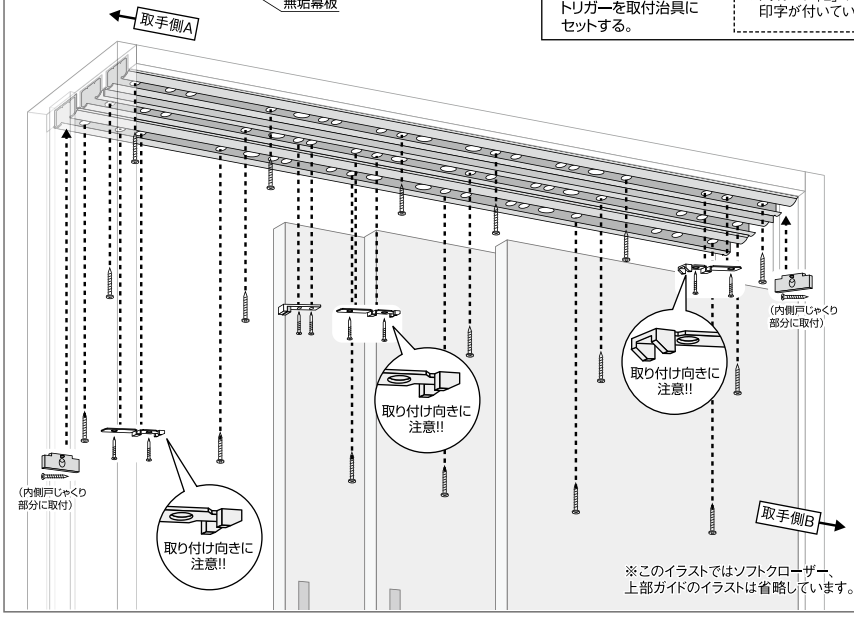
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。

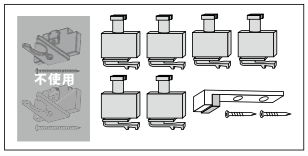


トリガー取付用治具使用方法

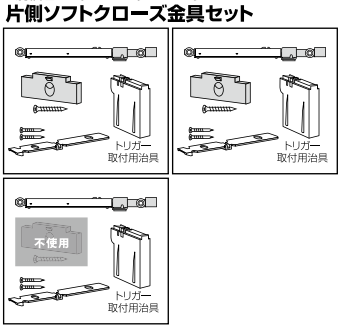




<同梱品>
下荷重金具セット



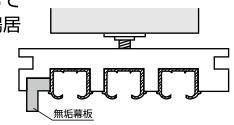
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

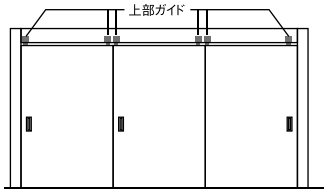


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。

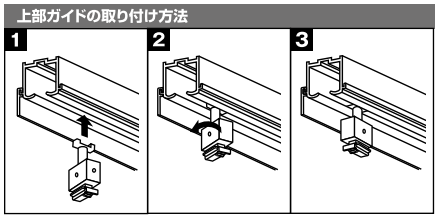




⚠注意

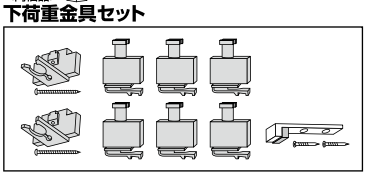
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

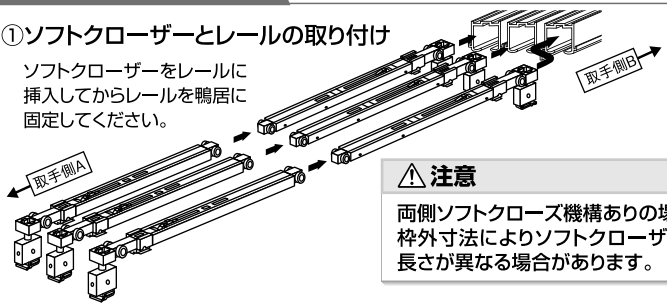
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

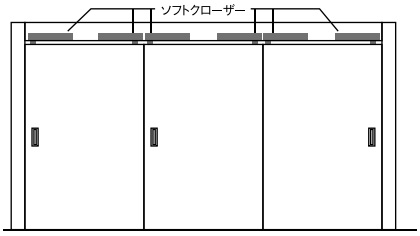
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



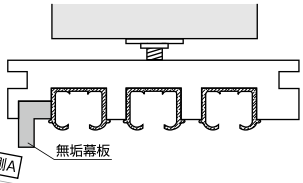
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

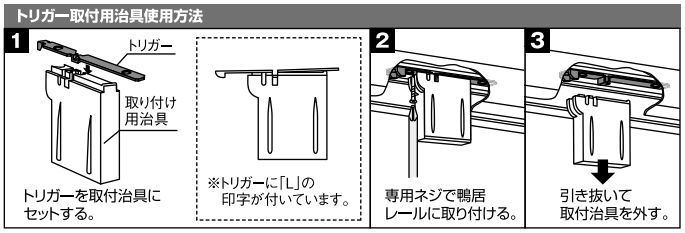


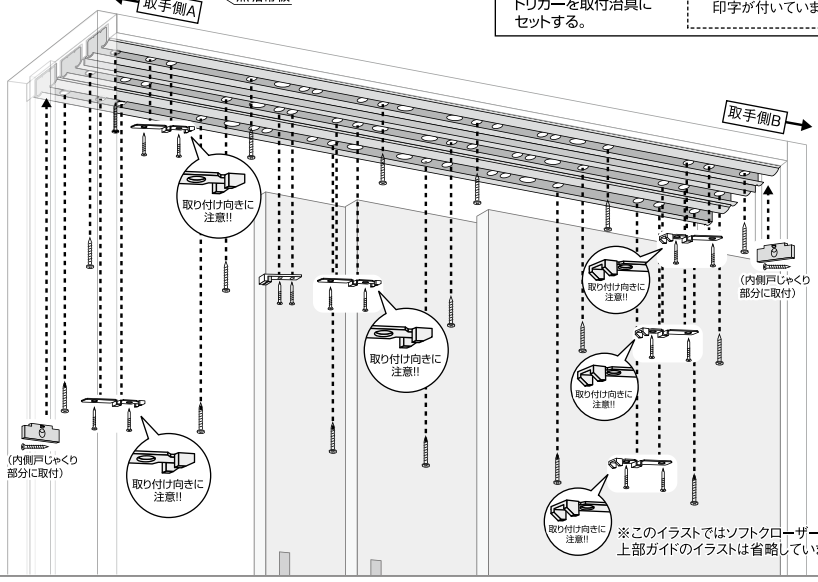
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。

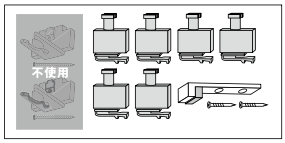


トリガー取付用治具使用方法

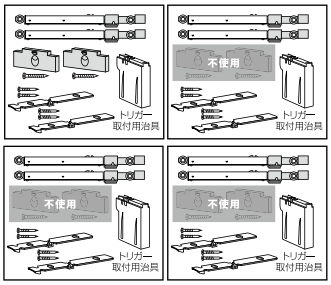




<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



4 枚引き違い戸 専用枠材

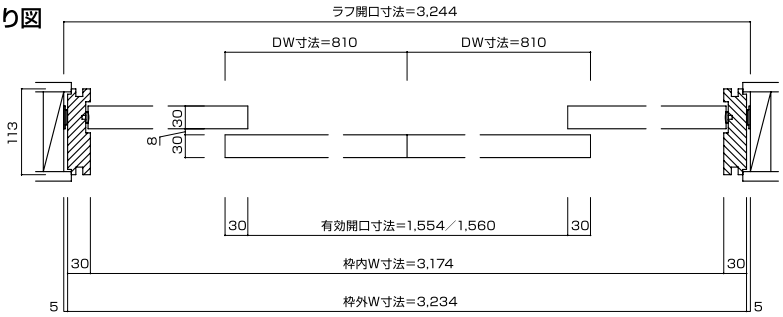
6. 4枚引き違い戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

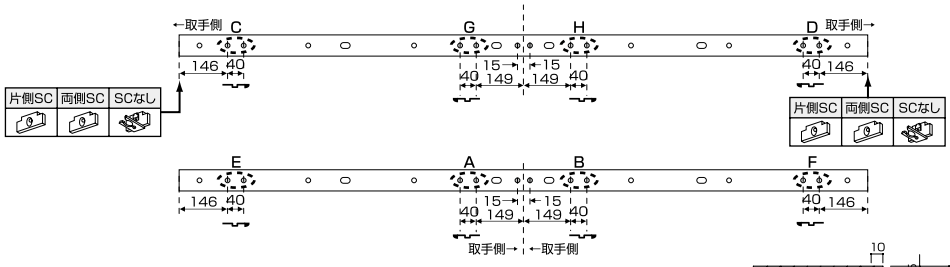
横断面図

（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



■ レール詳細図



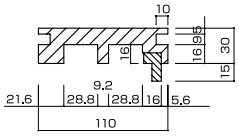
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D E·F·G·H

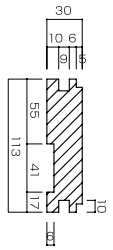
POINT

B·C·E·H　A·D·F·G

トリガーの取り付け向きに注意してください。



鴨　居

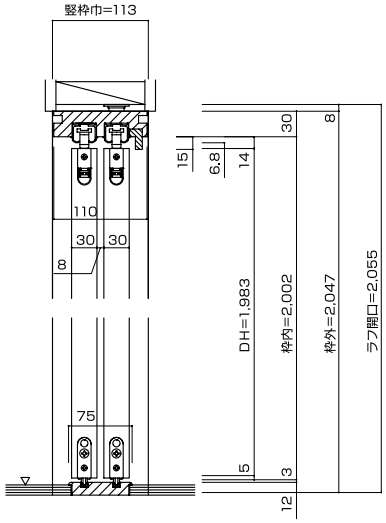


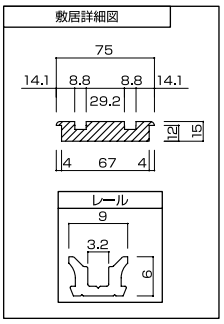
竪 枠

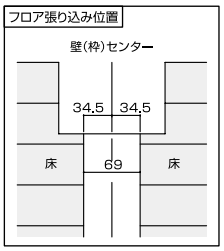
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

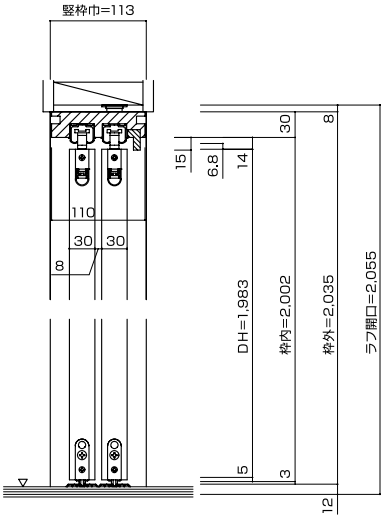
敷居埋め込みの場合　（単位：mm）

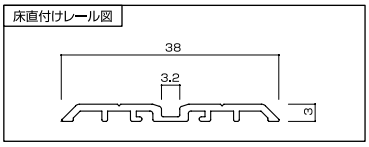






床直付けレールの場合　（単位：mm）



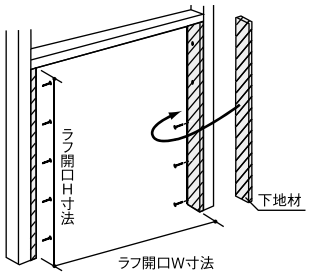


7. 4枚引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

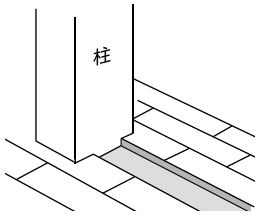
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

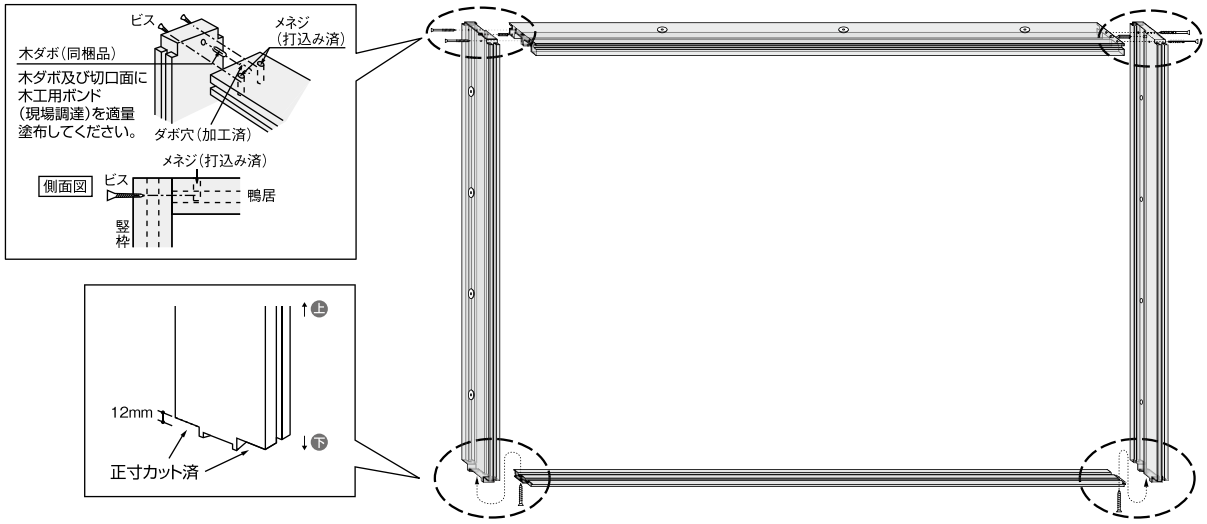


3 枠材の組み立て

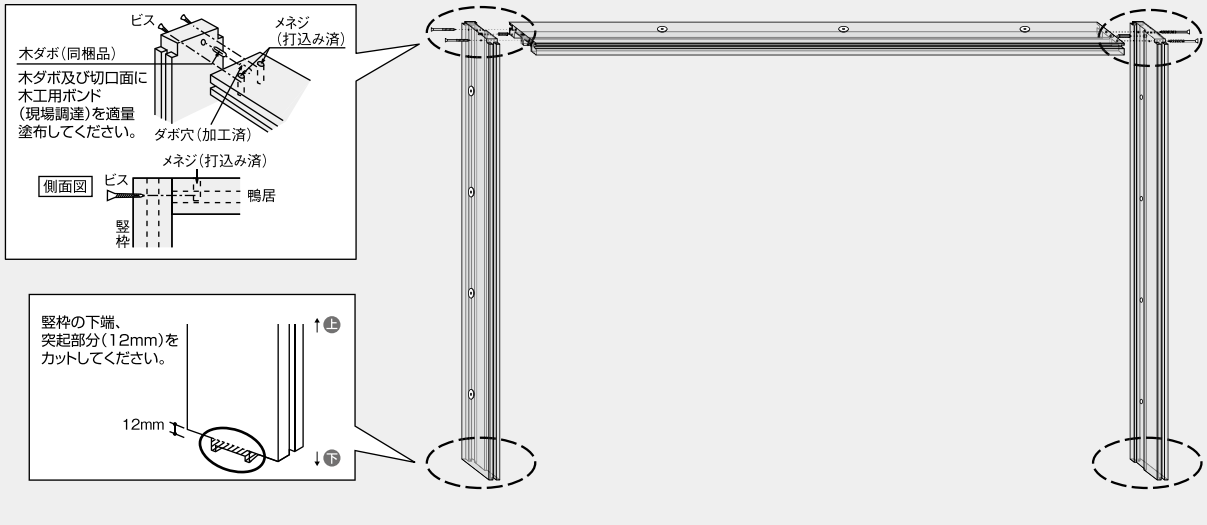
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



4 枚引き違い戸 専用枠材

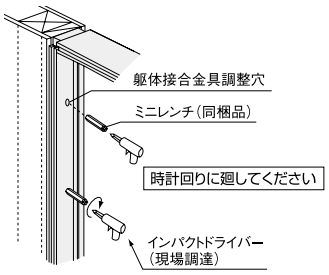
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

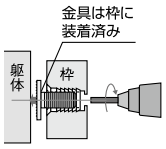
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



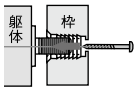


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

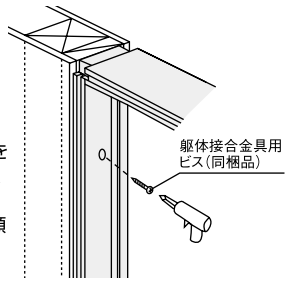
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

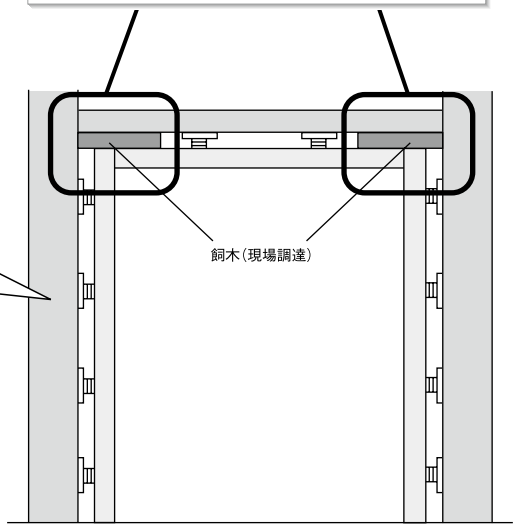
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



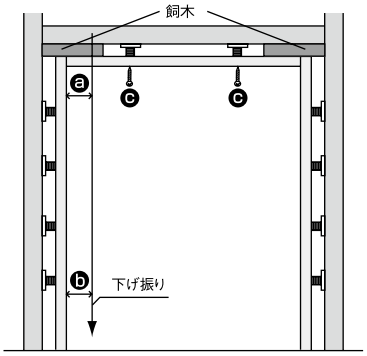
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

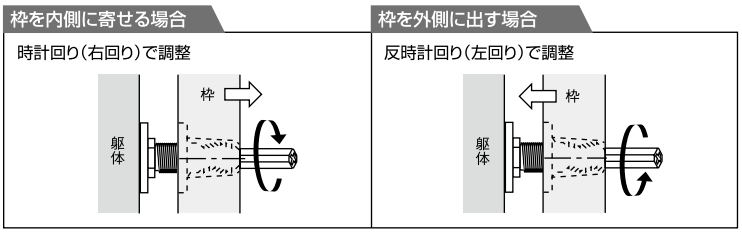


5 建て付け調整と鴨居の本固定

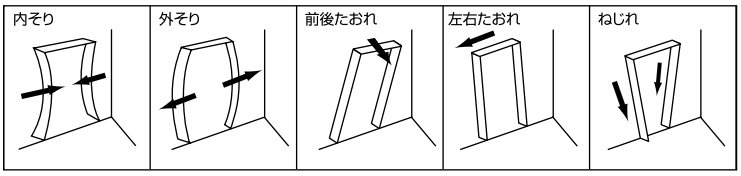
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



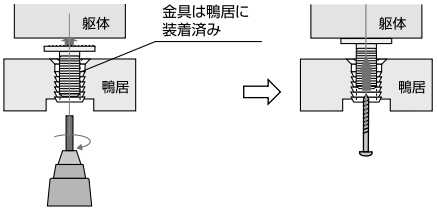


※下記の様なことがないようご注意ください。

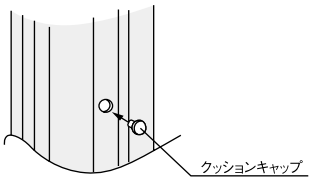


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。

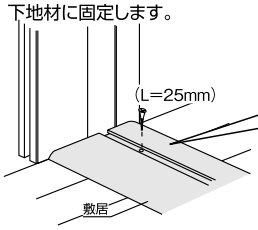


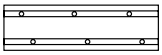
6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

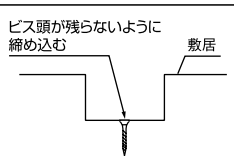
①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。





溝1本につき3ヶ所以上で固定します。



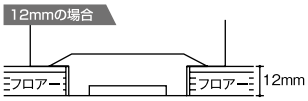
確認

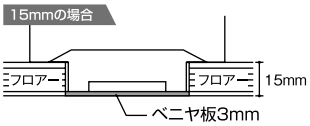
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

⚠注意

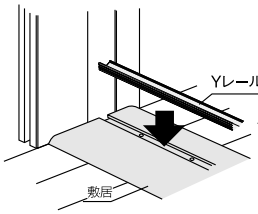
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

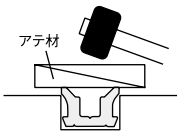




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

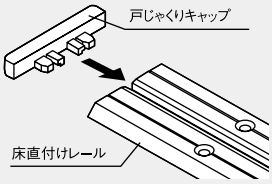
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

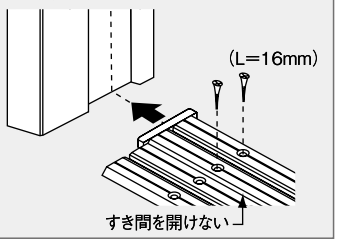


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

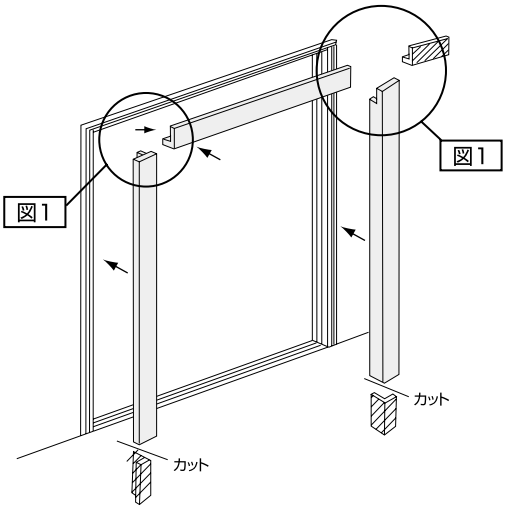
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

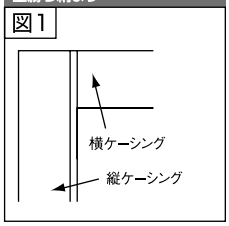
7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



竪勝ち納まり

図1



4枚引き違い戸 専用枠材

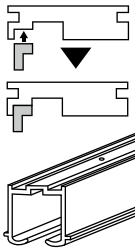
8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。

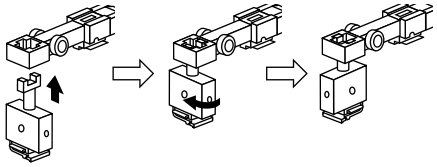
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

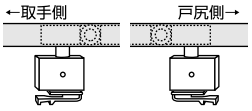
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

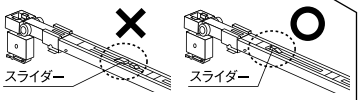


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

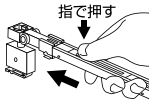
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

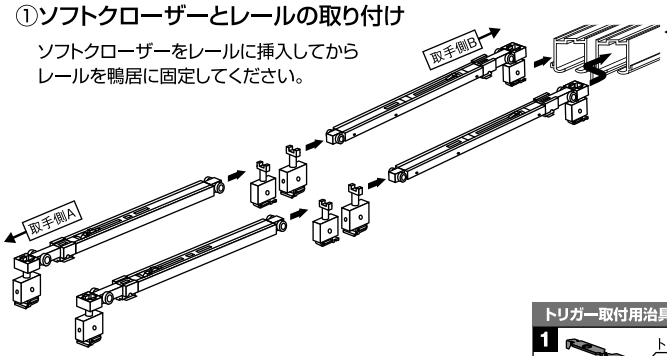
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

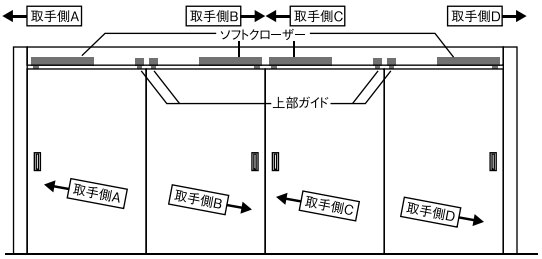


片側ソフトクローズ 仕様 標準

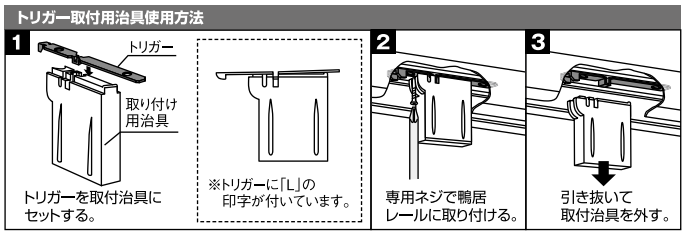
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



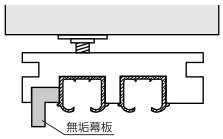


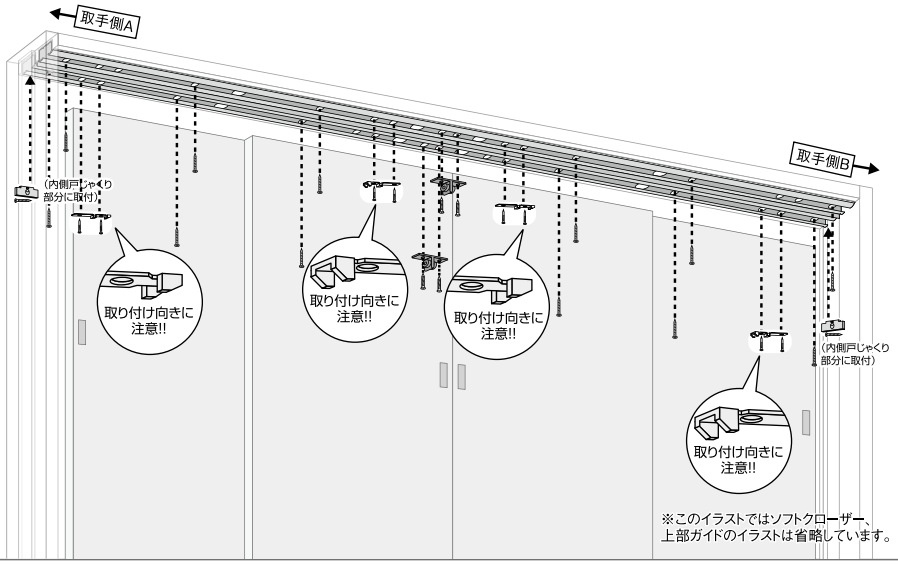
トリガー取付用治具使用方法



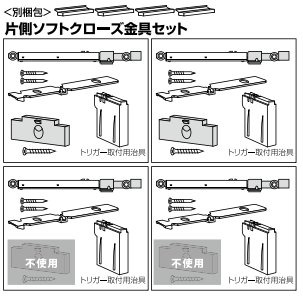
②鴨居レールの取り付け

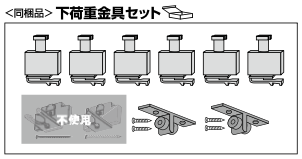
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。





※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

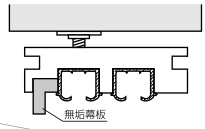


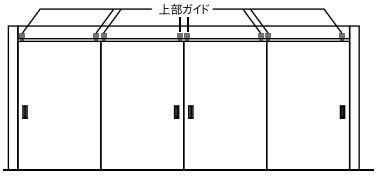


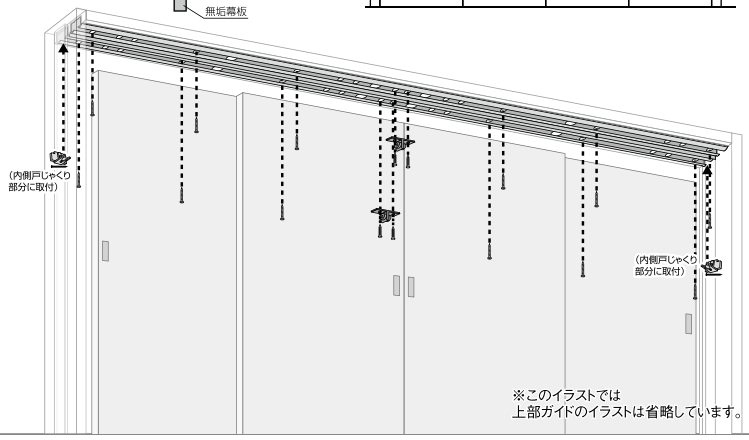
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。





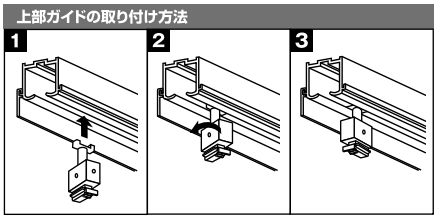


※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠ 注意

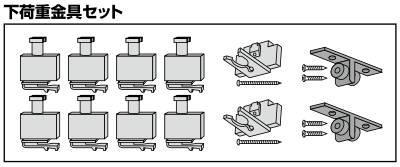
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

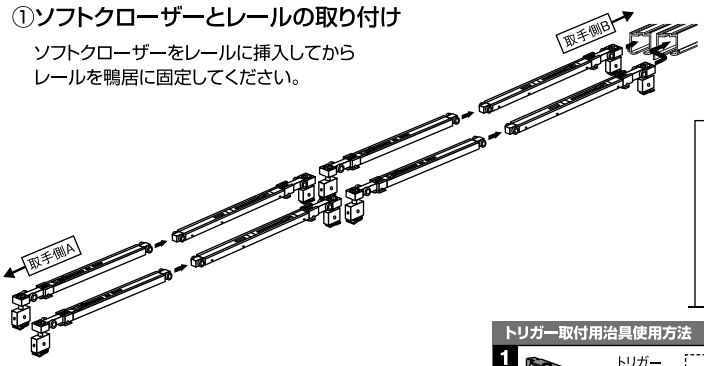
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

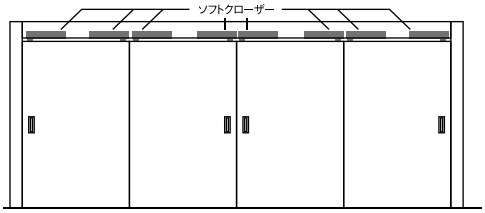
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

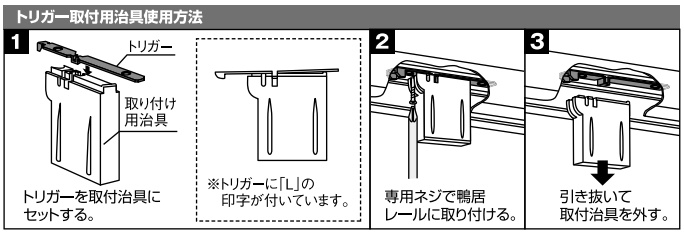


⚠ 注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

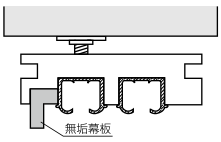


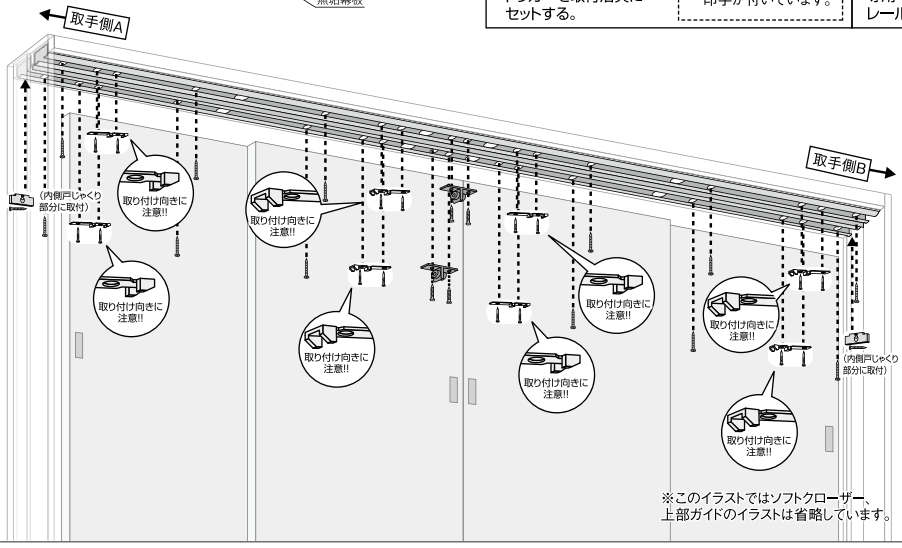
トリガー取付用治具使用方法



②鴨居レールの取り付け

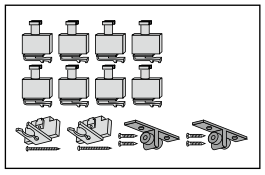
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



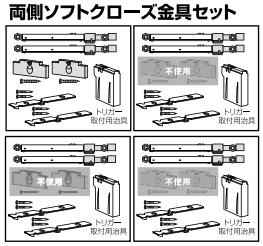


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



2枚引き込み戸・3枚引き込み戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール幕板なし（アルミ）	木製幕板
入数	2枚引き込み戸	1本	1本	1本	1本	1本	2本	1本
	3枚引き込み戸	1本	1本	1本	1本	1本	3本	1本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—	—

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	L型ストッパー
	セット品番			
入数	2枚引き込み戸 ZYNW54	4個	1個	1個
	3枚引き込み戸 ZYNW58	6個	1個	2個
備考（部材品番等）		ZYNG01	ZYNC01	ZY2526

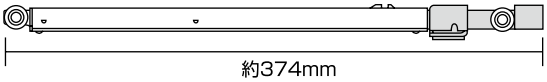
ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	上レール取り付けビス（皿ビス） 18mm 3.5mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	躯体接合穴キャップ φ10
セット品番								
ZYQB67-□	2本	6本	14本	11本	18本	1本	4個	8個
ZYQB68-□	2本	6本	14本	11本	33本	1本	4個	8個
備考（部材品番等）	—	—	床直付けレールの場合は使用しません。	—	—	—	—	—

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品·ソフトクローズ仕様の場合のみ

部材名			ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	2枚引き込み戸	3枚引き込み戸			
入数	ZH23LC-Y	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×3セット）	1	1	1	1
	ZH23LR-Y	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×3セット）	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



約374mm

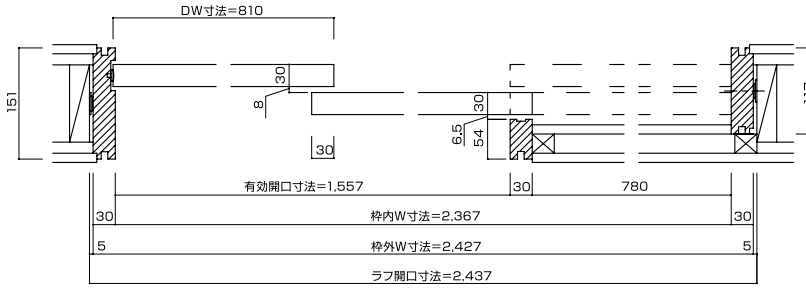
2. 2枚引き込み戸 納まり図

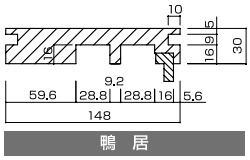
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

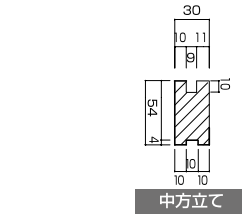
横断面図

（単位：mm）

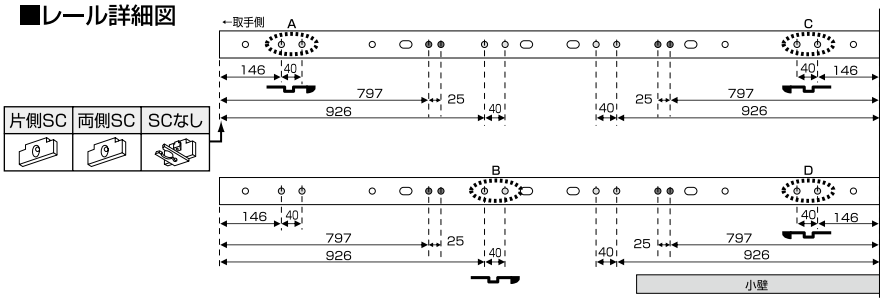
■枠製品寸法と納まり図



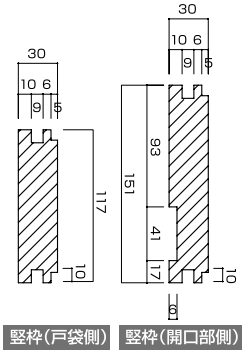




■レール詳細図



片側SC	両側SC	SCなし



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

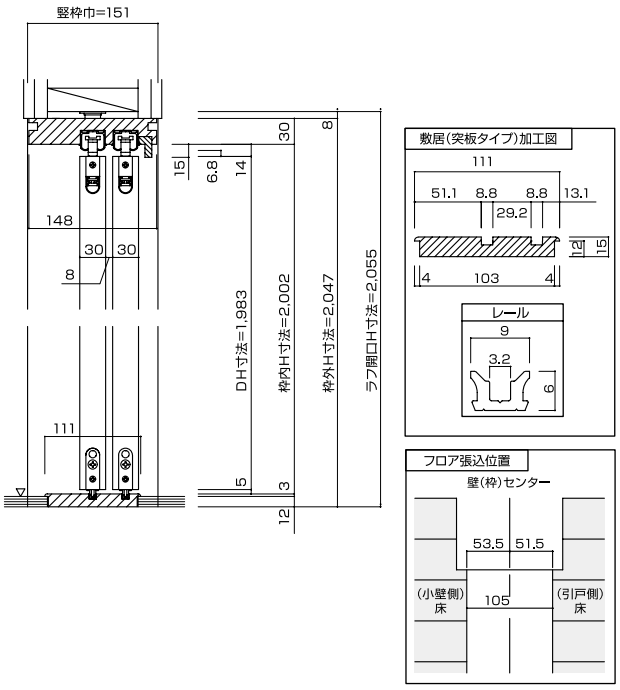
POINT

A·B　C·D　トリガーの取り付け向きに注意してください。

縦断面図

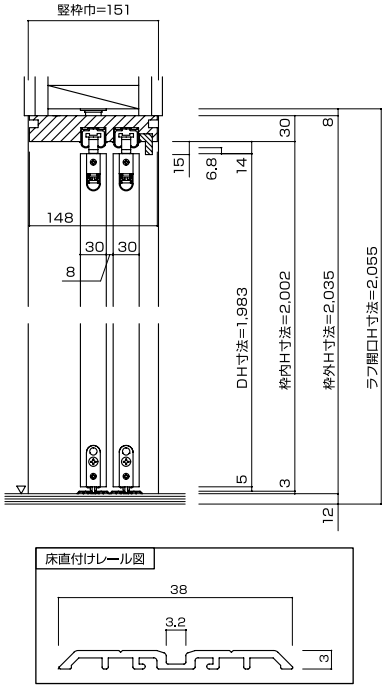
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）



床直付けレールの場合

（単位：mm）



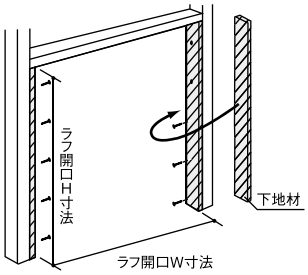
2 枚引き込み戸 専用枠材

3. 2枚引き込み戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

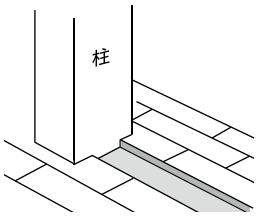
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

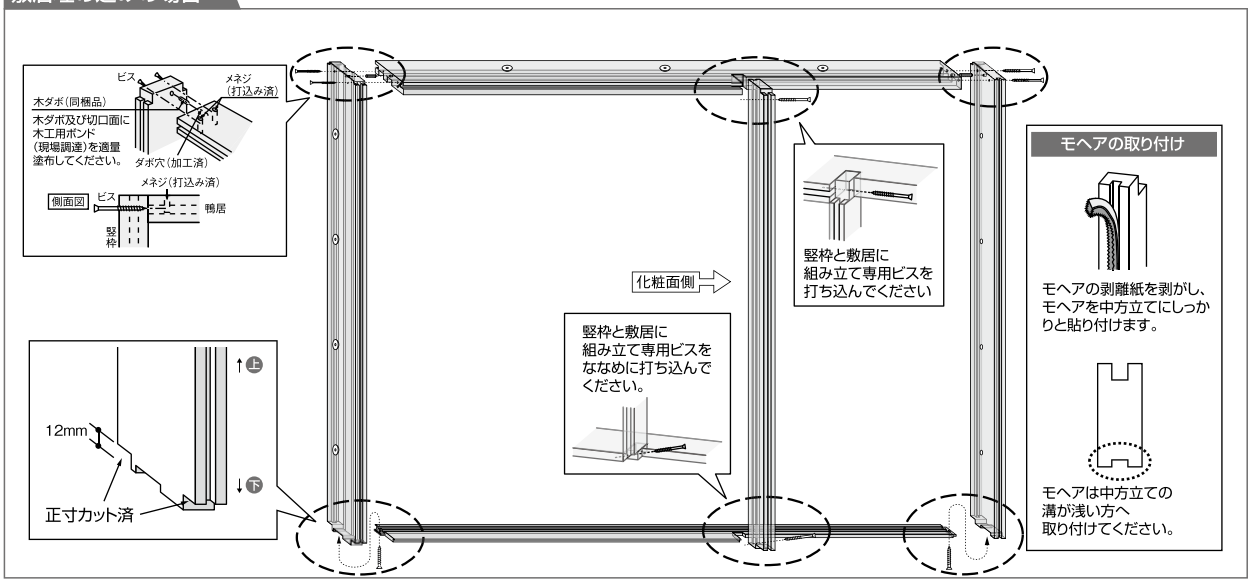


3 枠材の組み立て

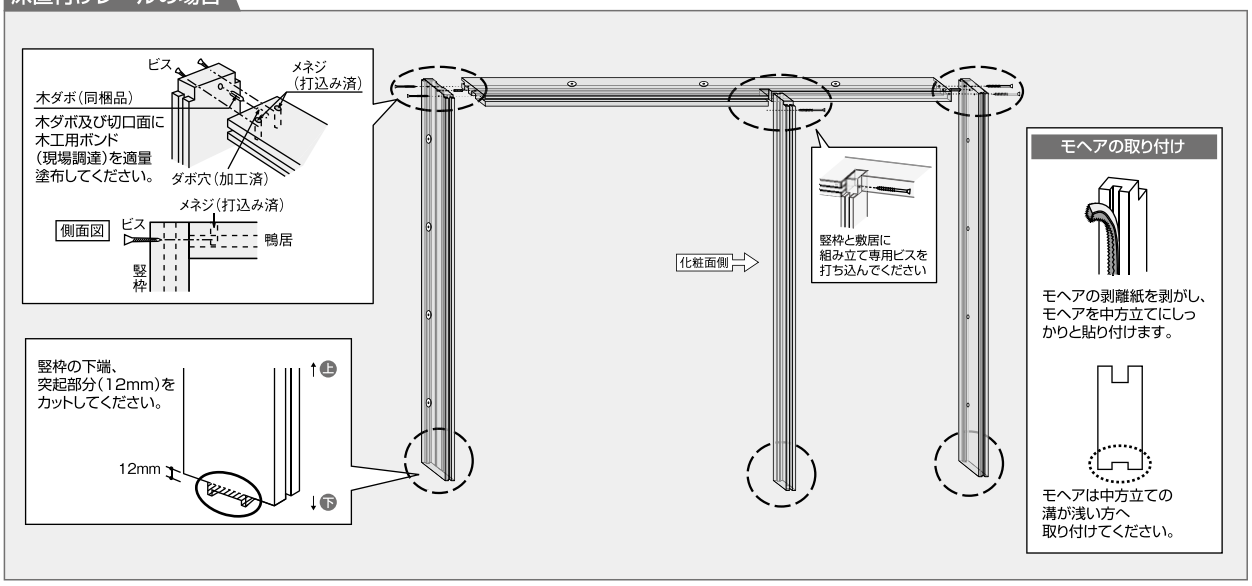
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



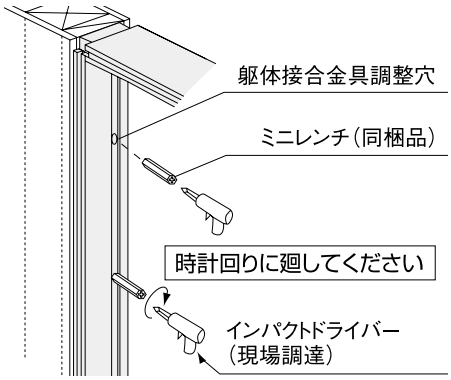
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

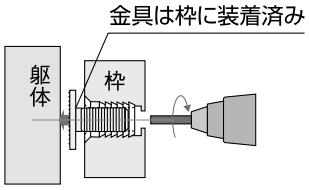
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

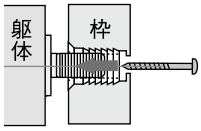


⚠注意

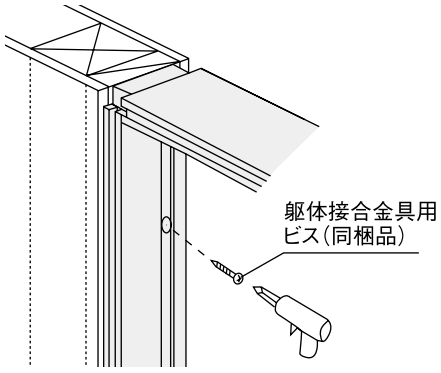
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

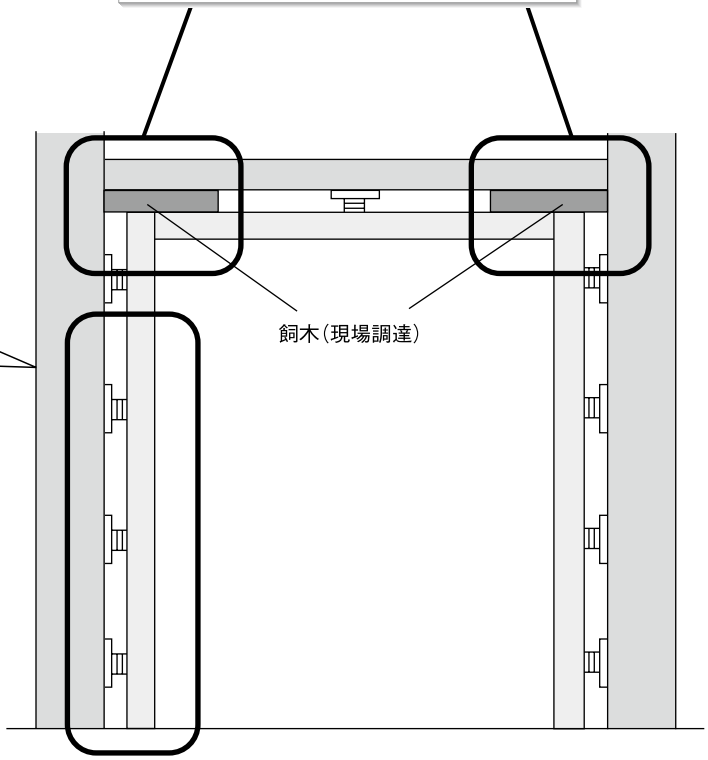


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

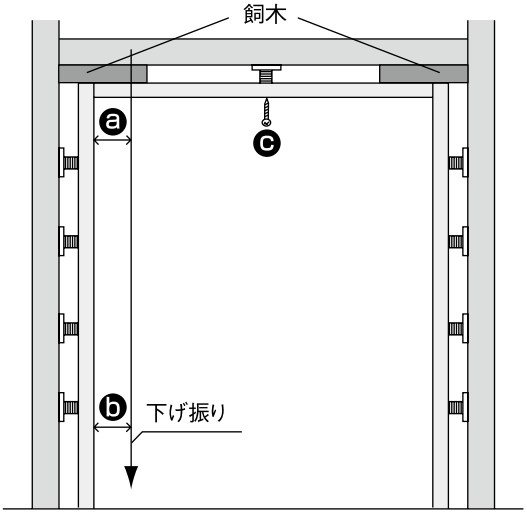


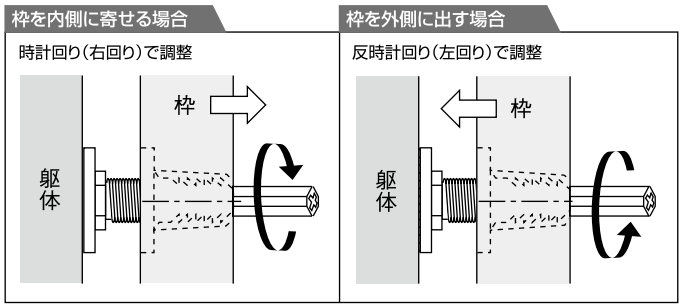
2 枚引き込み戸 専用枠材

5 建て付け調整と鴨居の本固定

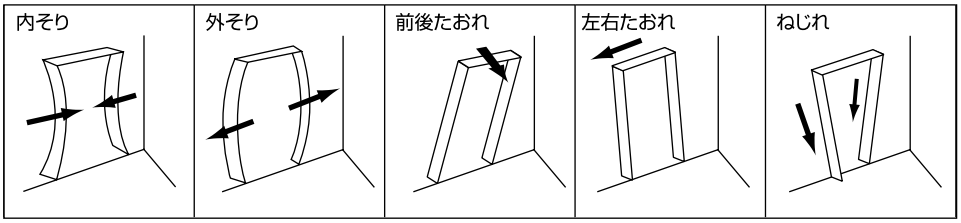
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



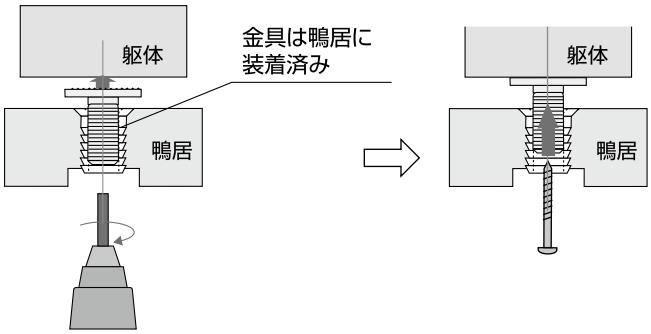


※下記の様なことがないようご注意ください。

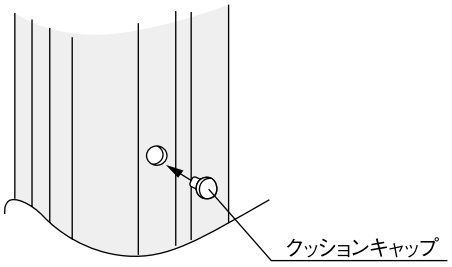


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。

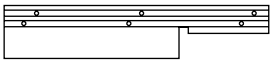


6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

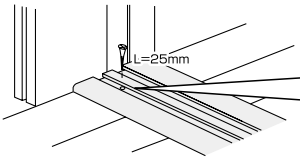
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

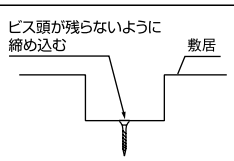


溝1本につき、3ヶ所以上で固定します。

⚠注意

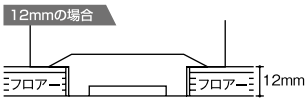
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

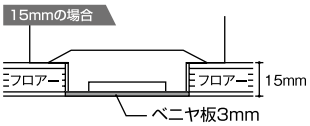




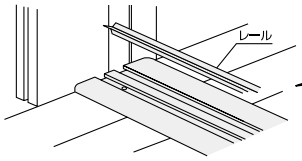
確認
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

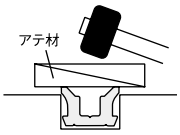




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

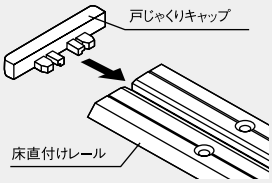
※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

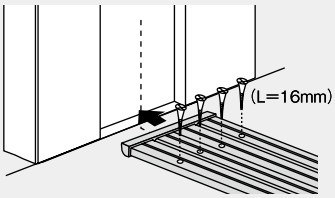


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

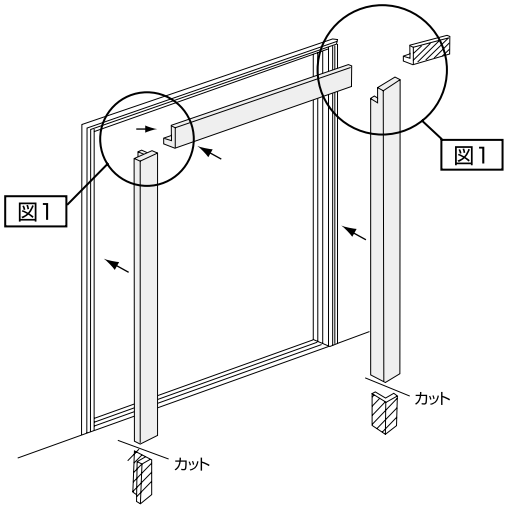
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

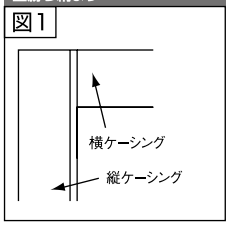
7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



竪勝ち納まり

図1



2枚引き込み戸 専用枠材

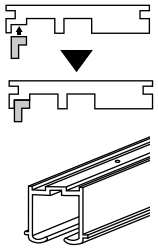
8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。

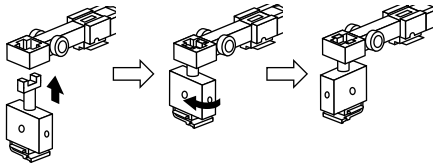
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

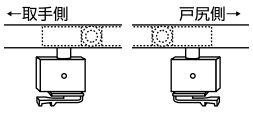
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

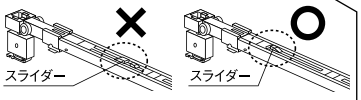


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

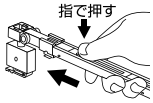
⚠注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

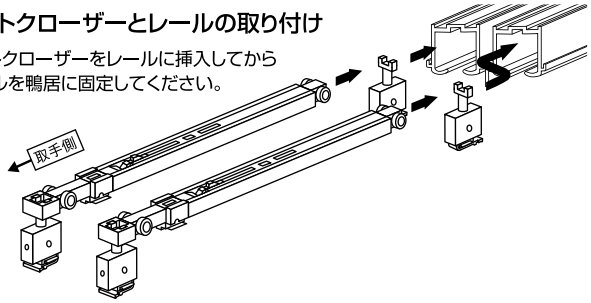
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

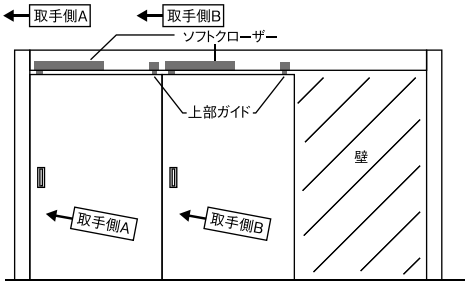


片側ソフトクローズ 仕様 標準

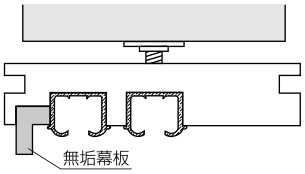
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。

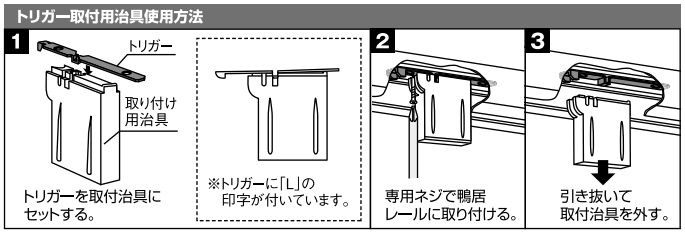


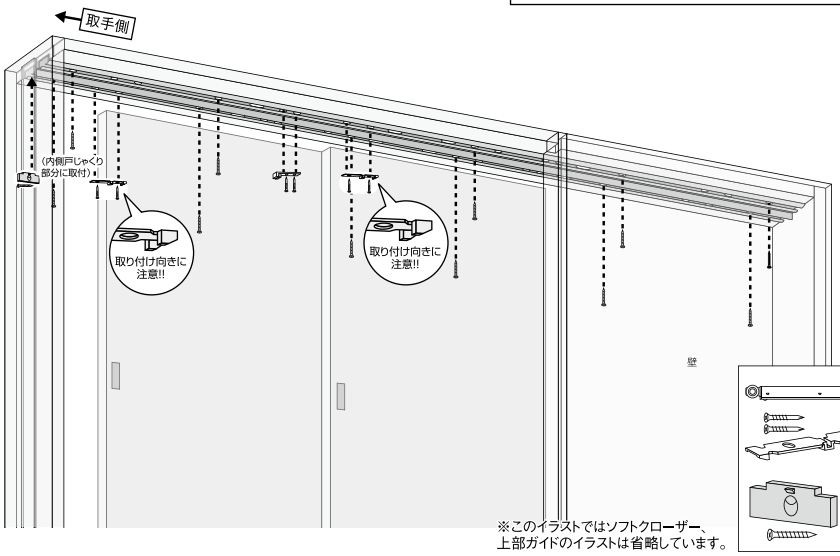


②鴨居レールの取り付け



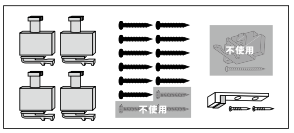
トリガー取付用治具使用方法



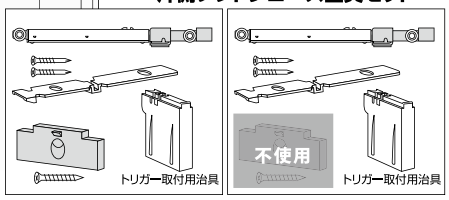


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット

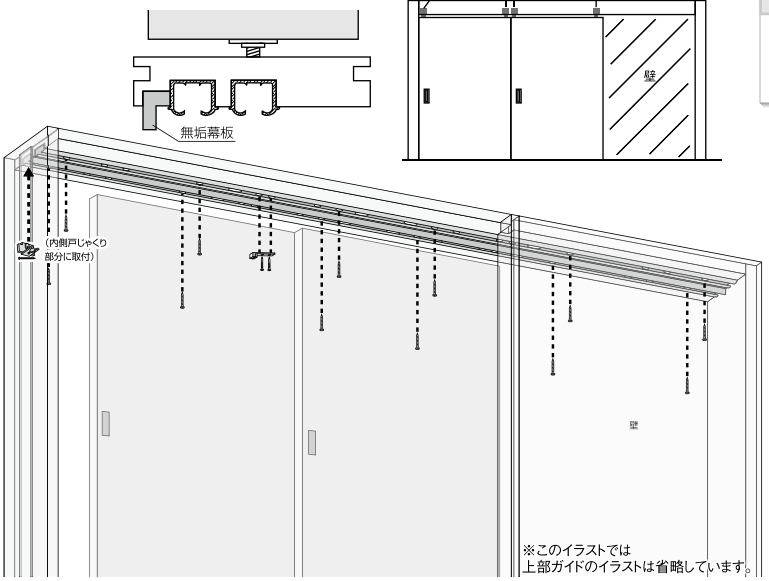


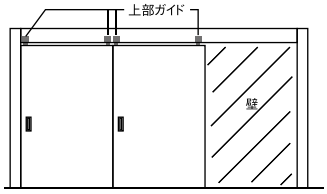
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

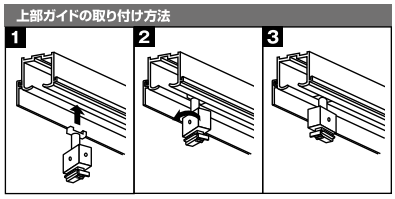




⚠注意

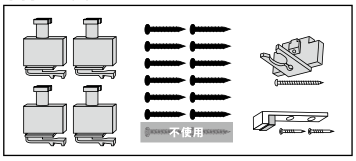
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

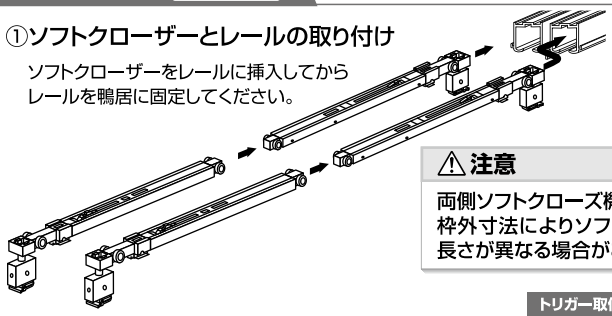
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

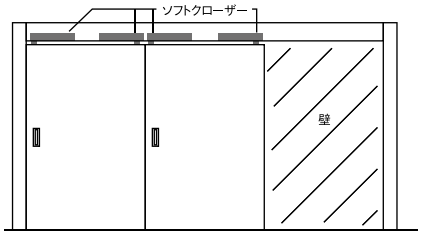
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

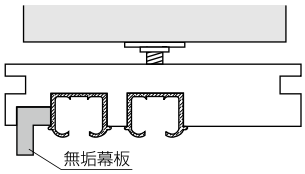


⚠注意

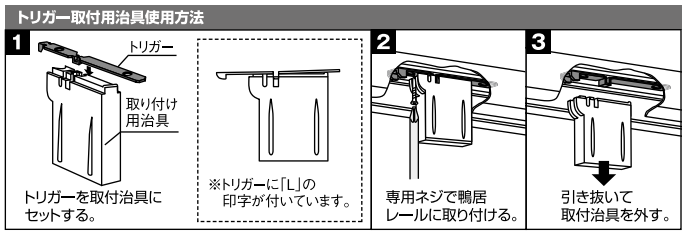
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

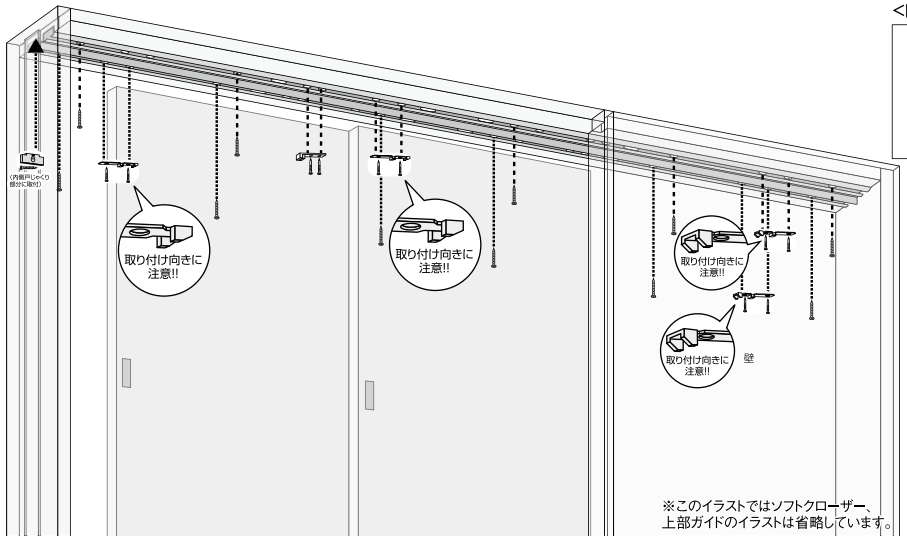


②鴨居レールの取り付け

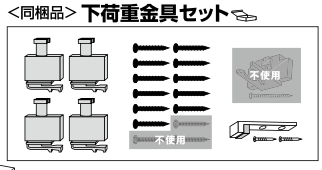


トリガー取付用治具使用方法

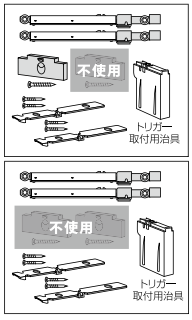




<同梱品> **下荷重金具セット**



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



3 枚引き込み戸 専用枠材

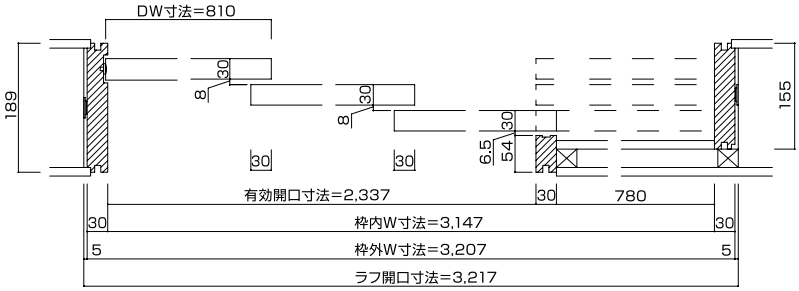
4. 3枚引き込み戸　納まり図

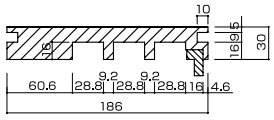
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

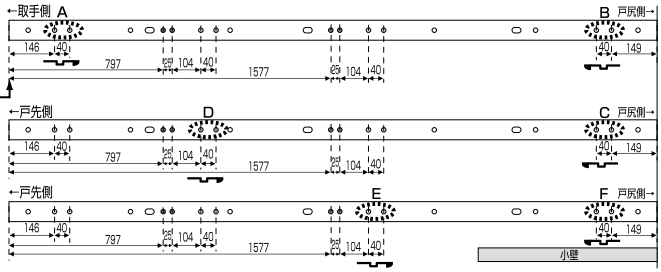
■ 枠製品寸法と納まり図

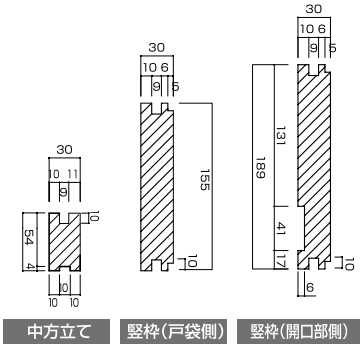




鴨　居

■ レール詳細図





■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A・B・C
両側ソフトクローズ仕様	A・B・C・D E・F

POINT

A・D・E　B・C・F

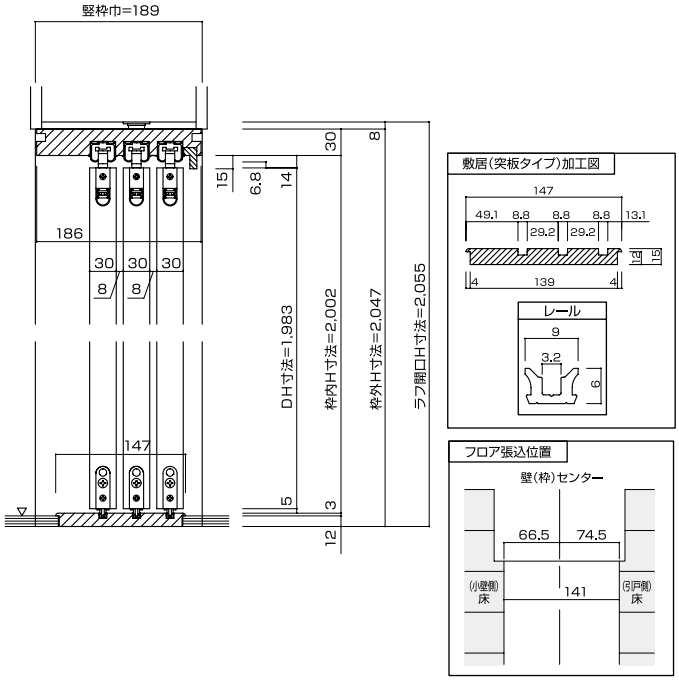
トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

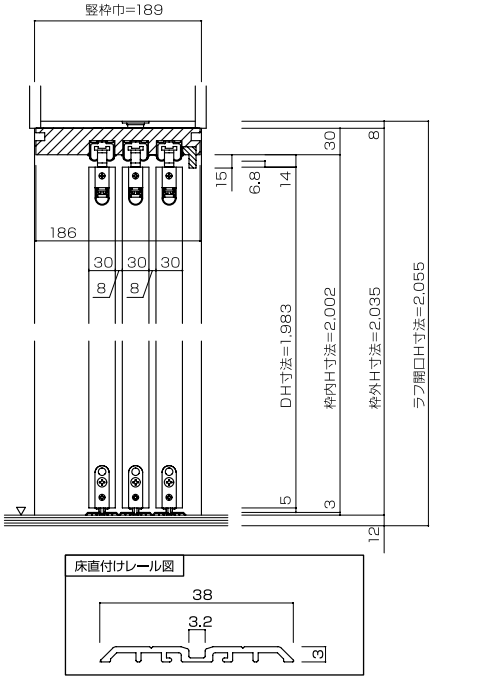
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）



床直付けレールの場合

（単位：mm）

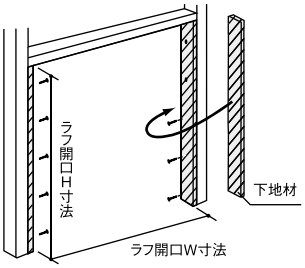


5. 3枚引き込み戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

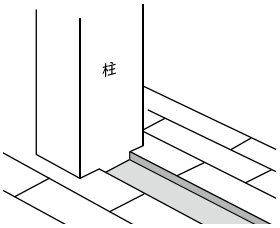
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

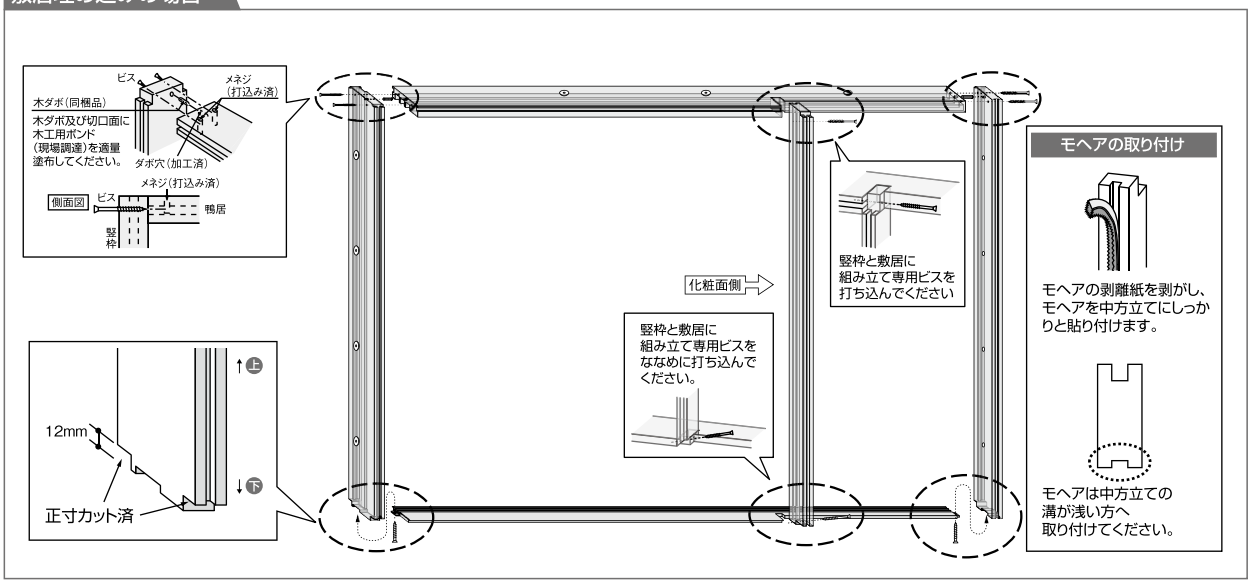


3 枠材の組み立て

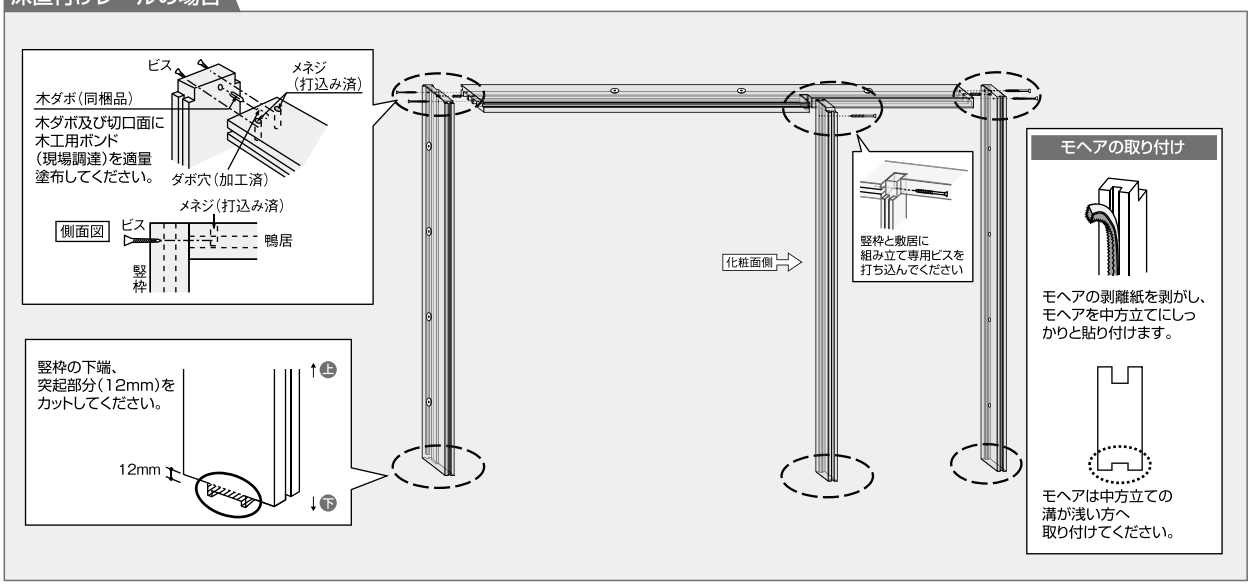
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



3 枚引き込み戸 専用枠材

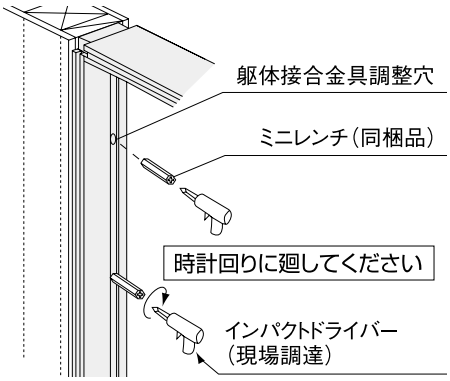
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

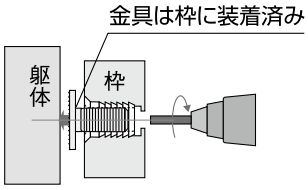
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

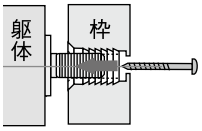


⚠注意

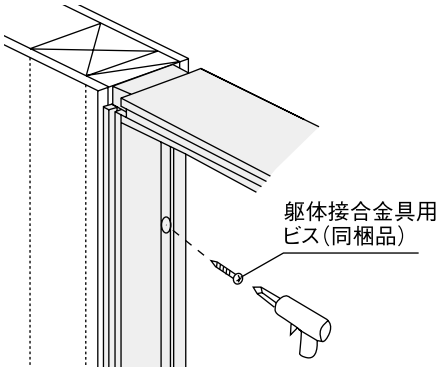
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

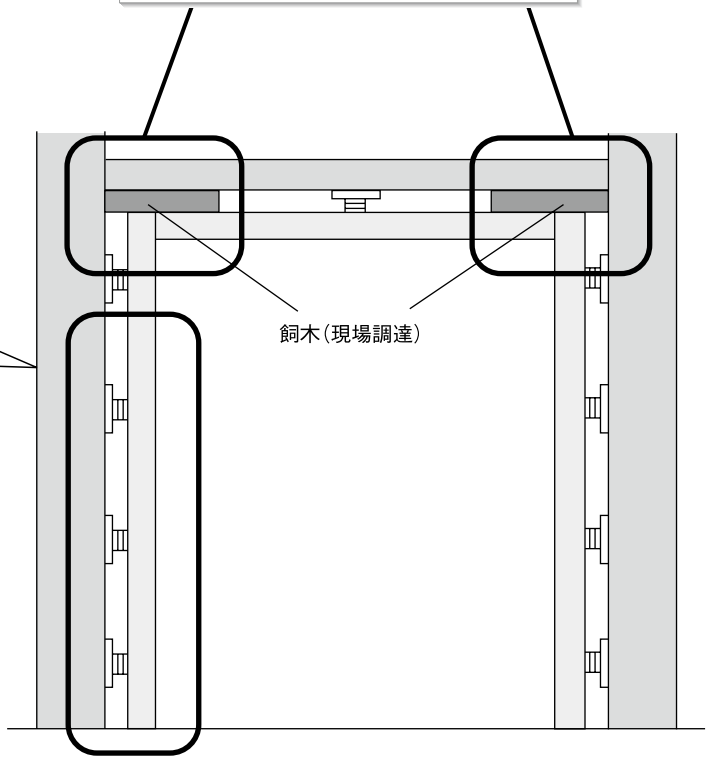


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

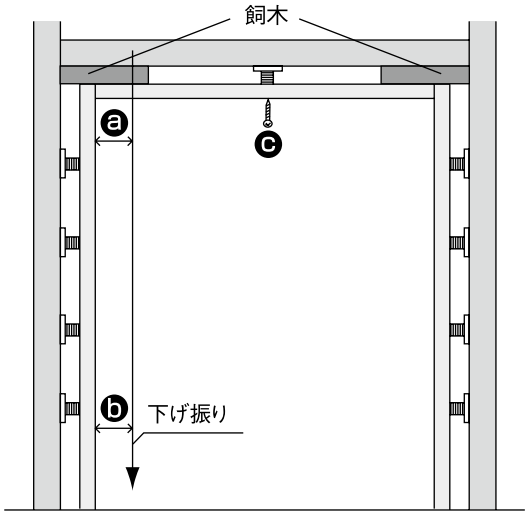
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

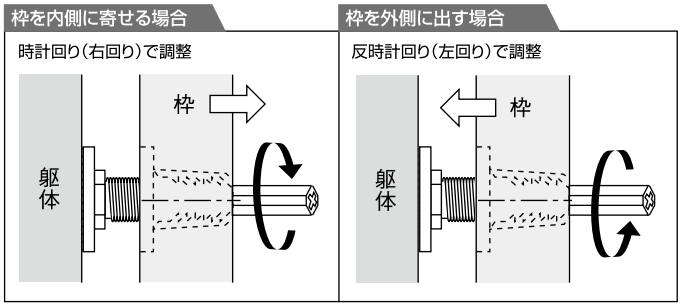


5 建て付け調整と鴨居の本固定

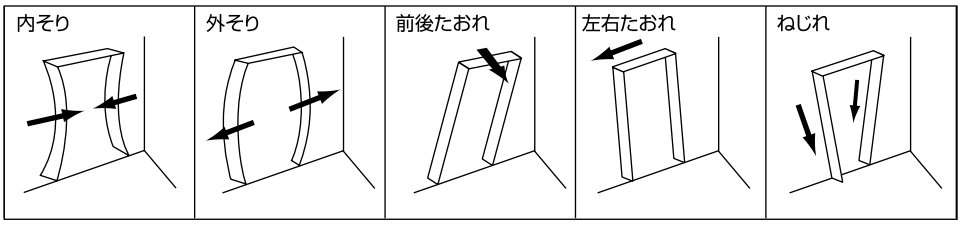
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



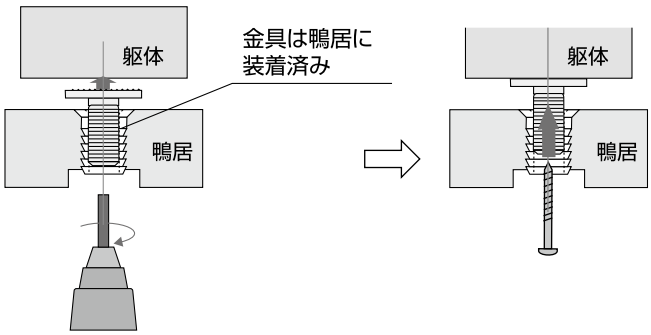


※下記の様なことがないようご注意ください。

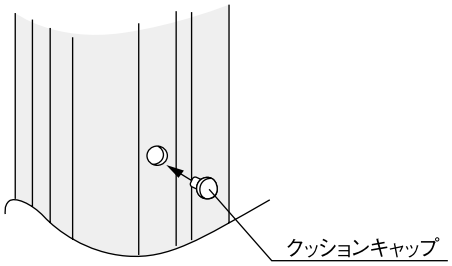


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



3枚引き込み戸 専用枠材

6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

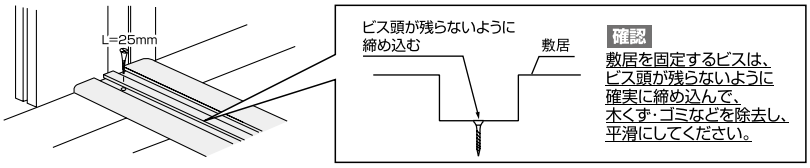
①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

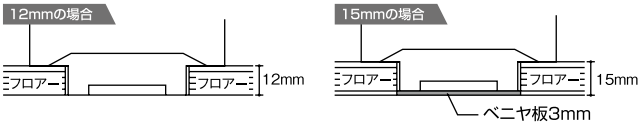
溝1本につき、4ヶ所以上で固定します。

⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

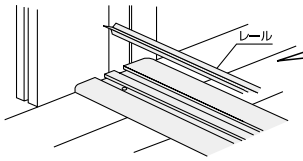


フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

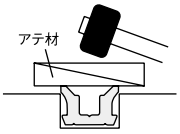


②レールの取り付け

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

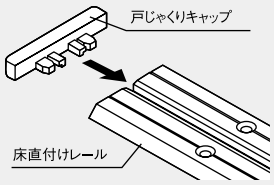
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

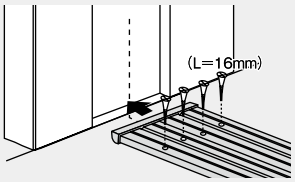


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

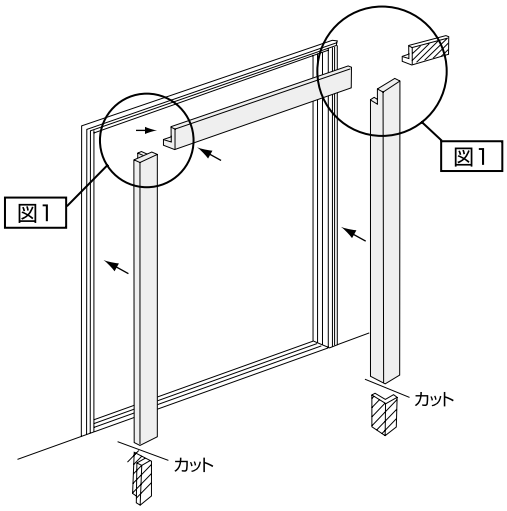
同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。2本目以降の床直付けレールはレールとレールの間にすき間が出来ないように並べて取付けてください。

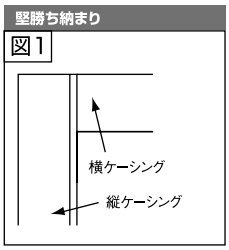
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。





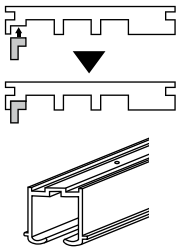
8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。

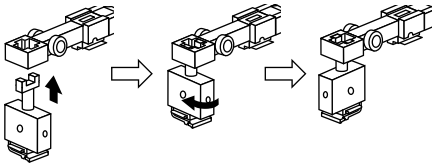
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

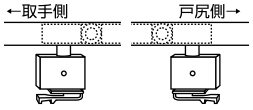
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

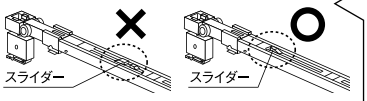


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

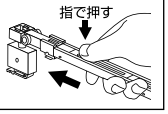
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

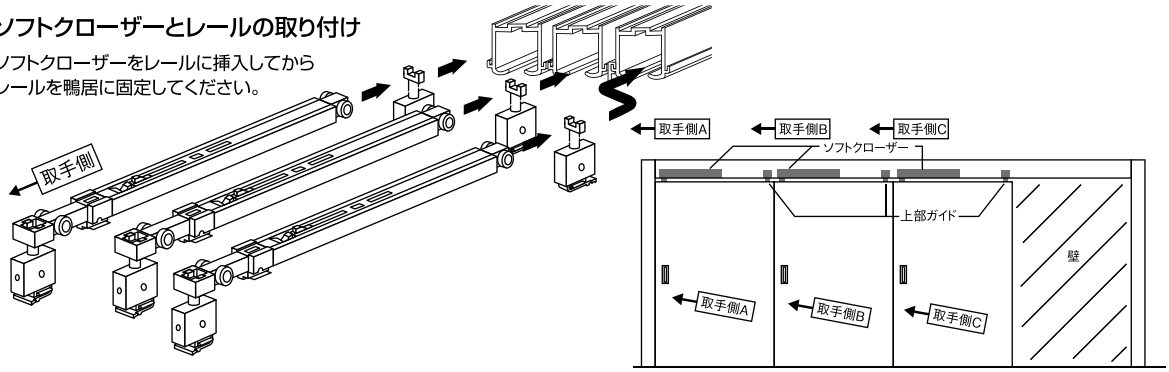
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



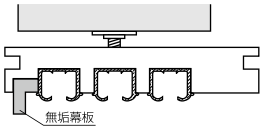
片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

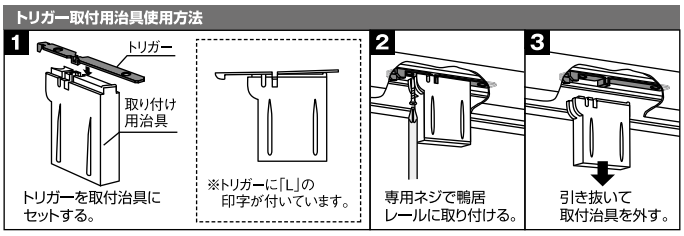
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。

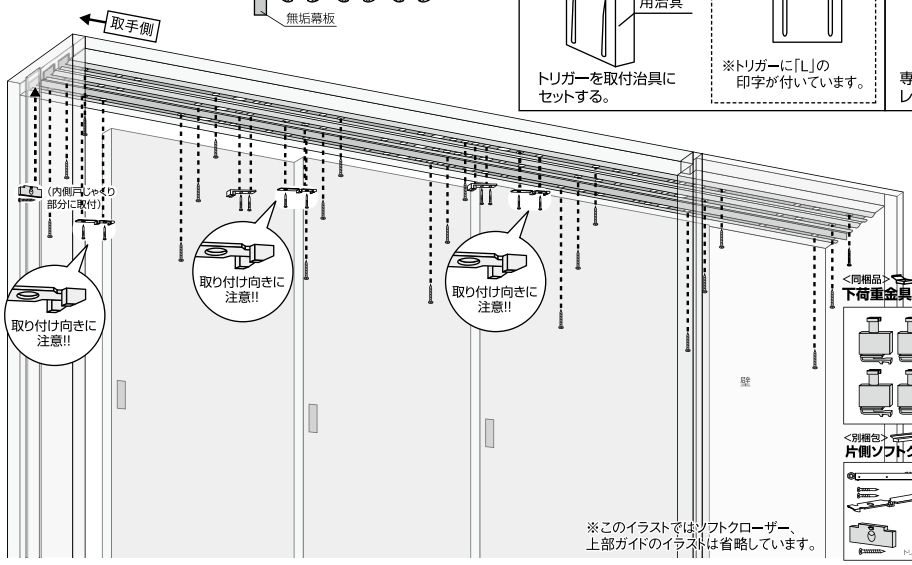


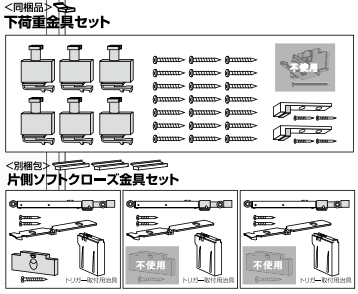
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法





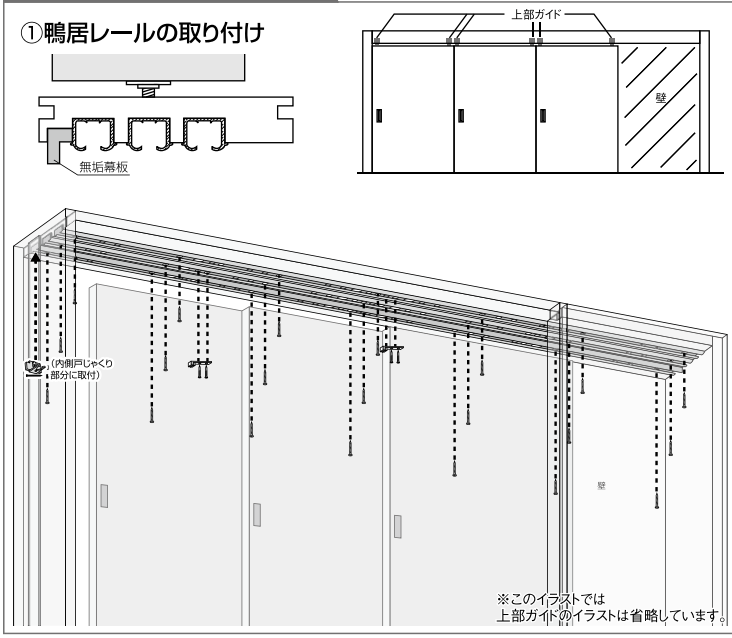


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

3 枚引き込み戸 専用枠材

ソフトクローズなし オプション

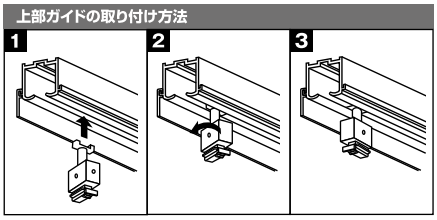
①鴨居レールの取り付け



⚠注意

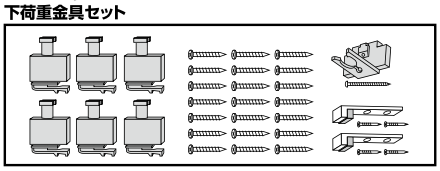
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

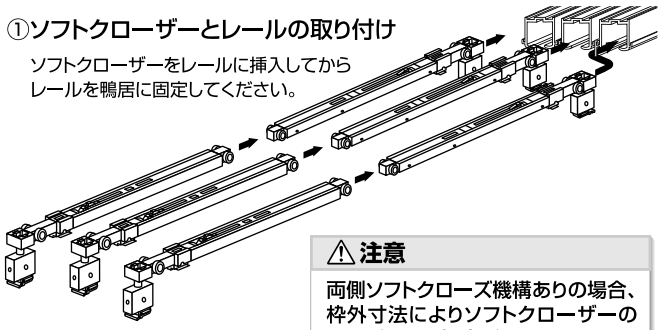
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

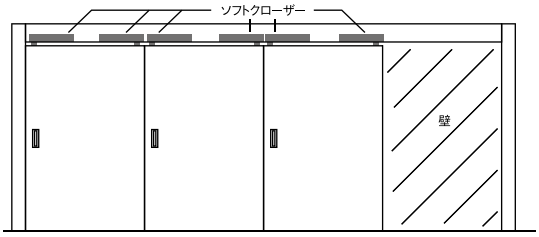
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



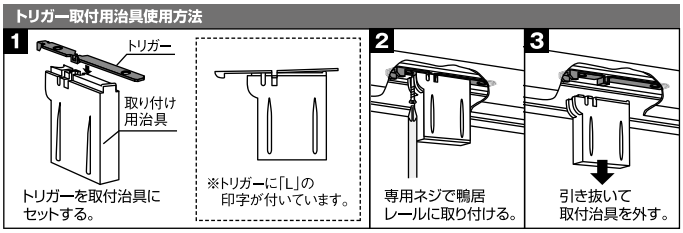
⚠注意

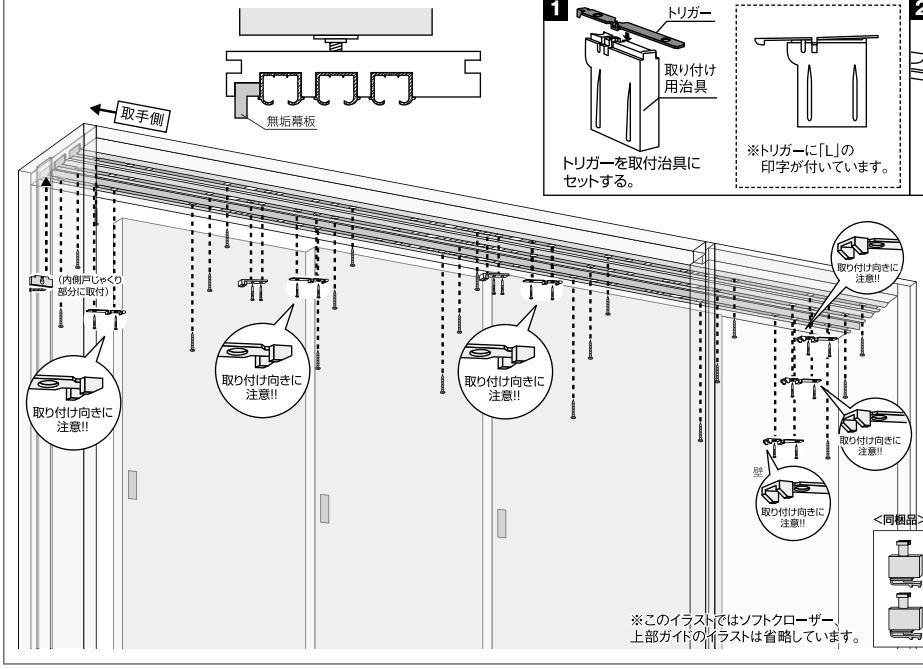
両側ソフトクローズ機構ありの場合、
枠外寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。



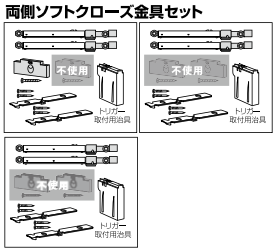
②鴨居レールの取り付け

トリガー取付用治具使用方法

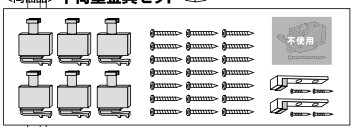




<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



<同梱品> **下荷重金具セット**



片引き戸・引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール幕板なし（アルミ）	木製幕板
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	1本
	引き違い戸	2本	―	―	―	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		―	―	―	―	―	―	―

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）
入数	片引き戸	ZYNK54	2個	2個
	引き違い戸	ZYNH54	4個	2個
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01

ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	上レール取り付けビス（皿ビス） 18mm 3.5mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16
入数	片引き戸	ZYQB64-□	2本	6本	5本	9本	4本のみ使用(6本入)	1本	8個
	引き違い戸	ZYQB65-□	2本	4本	9本	9本	8本のみ使用(12本入)	1本	8個
備考（部材品番等）			―	―	床直付けレールの場合は使用しません。	―	―	―	―

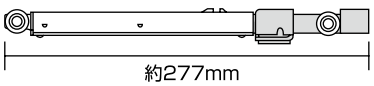
別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合：敷居		床直付けレールの場合：床直付けレール		
入数	片引き戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス8本
	引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス16本
備考（部材品番等）		―	―	―	―	―

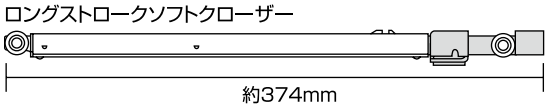
下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名				ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	片引き戸	引き違い戸						
入数	ZH23SC-Y	片側SC付 枠外1324・1190	―	1	―	1	―	1	1
	ZH23LC-Y	片側SC付 枠外1824・1644・1450	片側SC付(×2セット)	―	1	―	1	1	1
	ZH23SR-Y	両側SC付 枠外1324・1190	―	2	―	2	―	2	1
	ZH23MR-Y	両側SC付 枠外1450	―	1	1	1	1	2	1
	ZH23LR-Y	両側SC付 枠外1824・1644	両側SC付(×2セット)	―	2	―	2	2	1

Ⓐ ショートストロークソフトクローザー



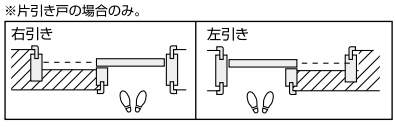
Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



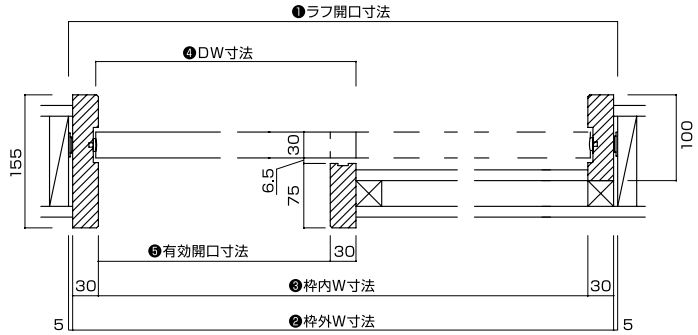
片引き戸 専用枠材

2. 片引き戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

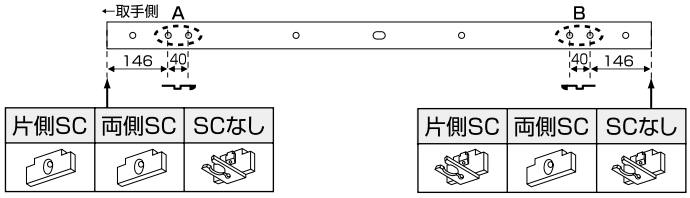
■枠製品寸法と納まり図



（単位：mm）

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654	1,460	1,334	1,200
❷枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❸枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❹DW寸法	900	810	713	650	583
❺有効開口寸法	867	777	680	617	550

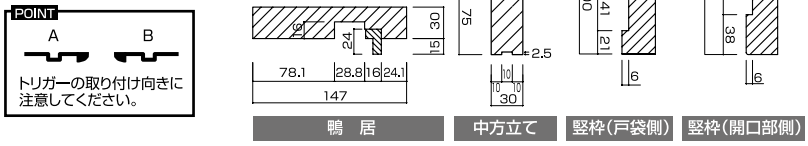
■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A
両側ソフトクローズ仕様	A・B

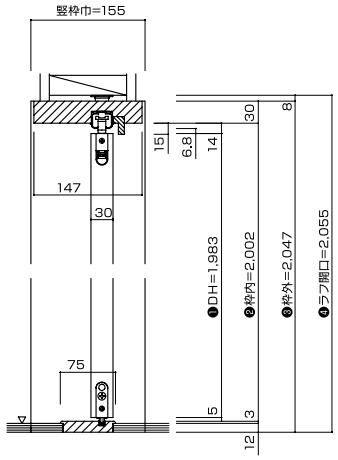
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

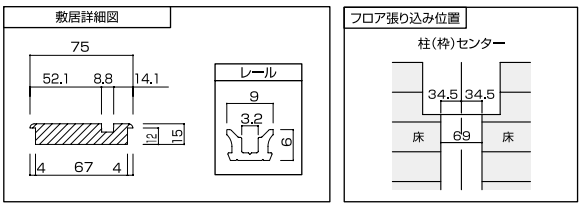


縦断面図

敷居埋め込みの場合

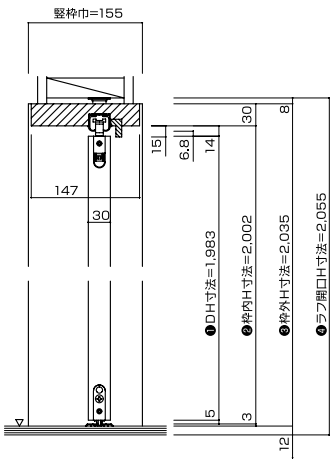
（単位：mm）

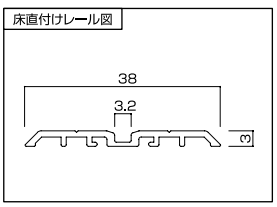




床直付けレールの場合

（単位：mm）



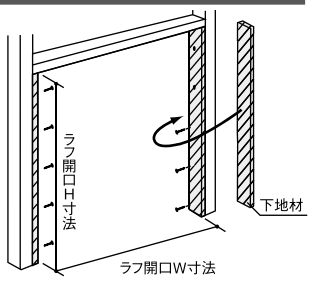


3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

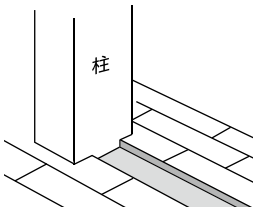
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

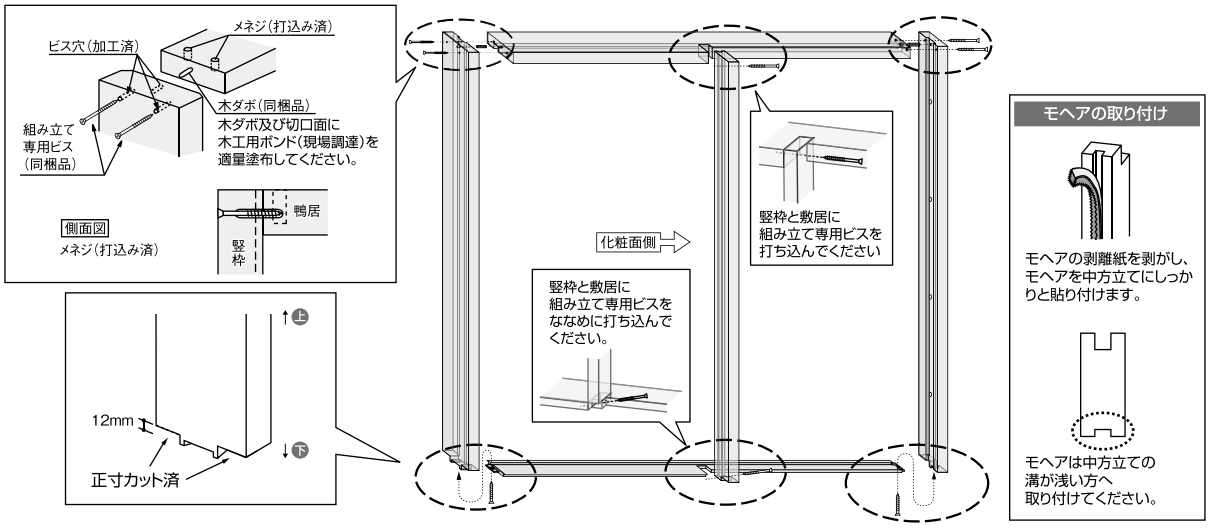


3 枠材の組み立て

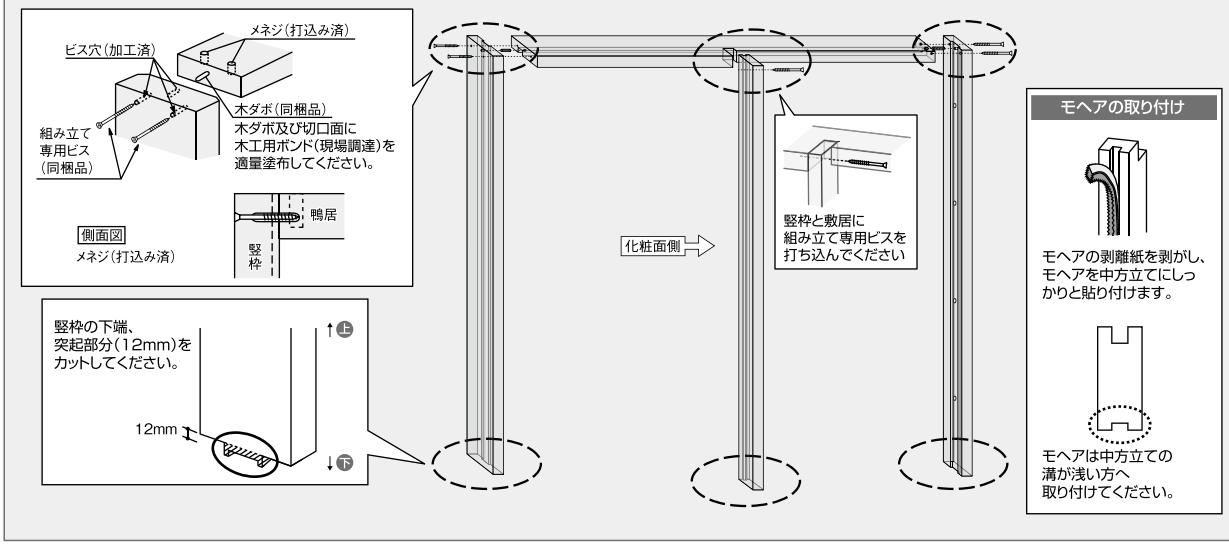
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



片引き戸 専用枠材

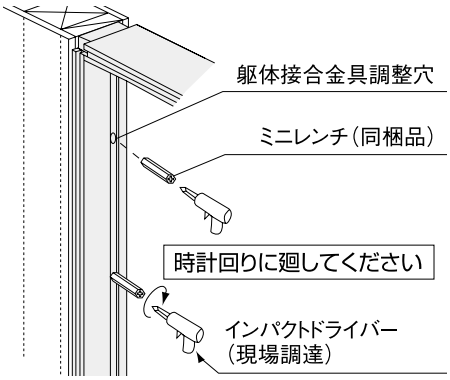
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

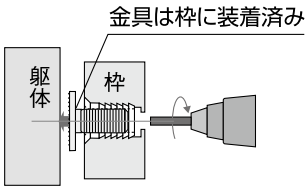
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

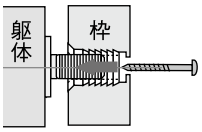


⚠注意

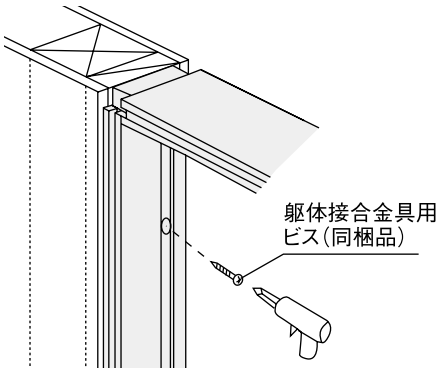
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

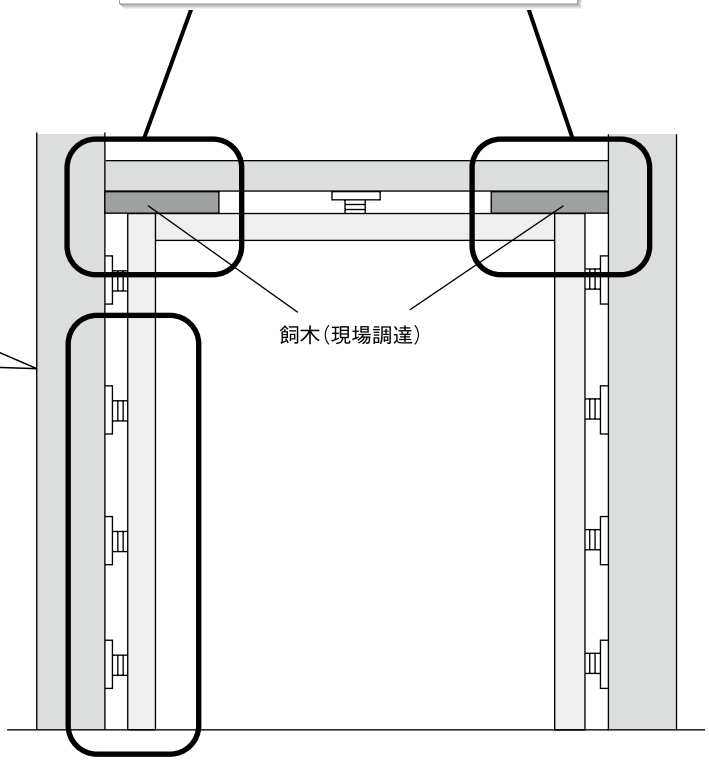


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

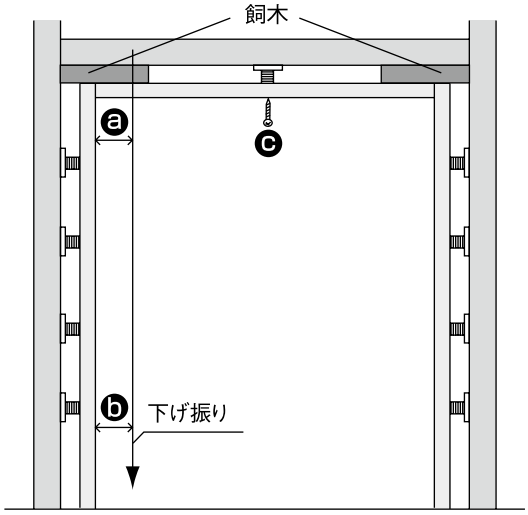
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

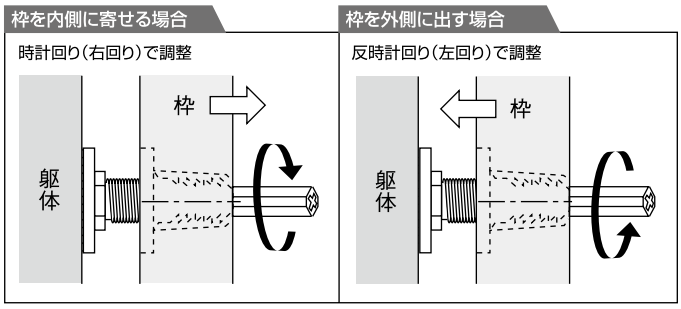


5 建て付け調整と鴨居の本固定

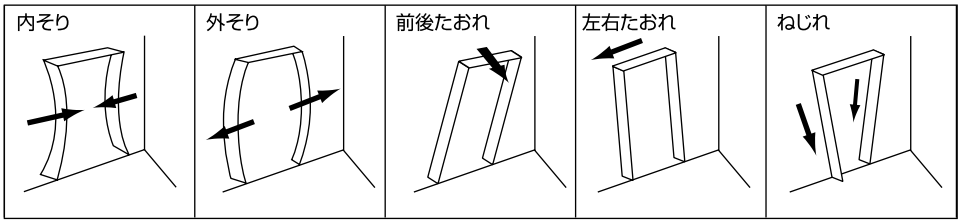
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



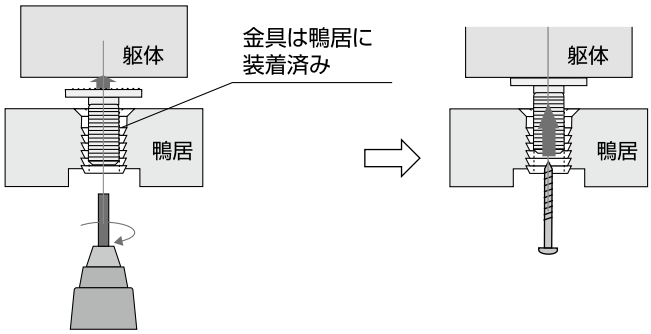


※下記の様なことがないようご注意ください。

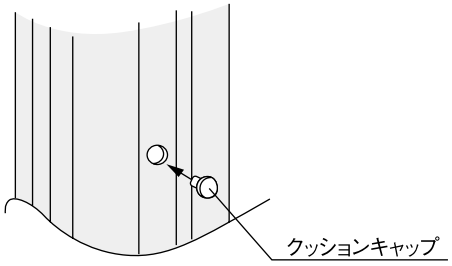


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



片引き戸 専用枠材

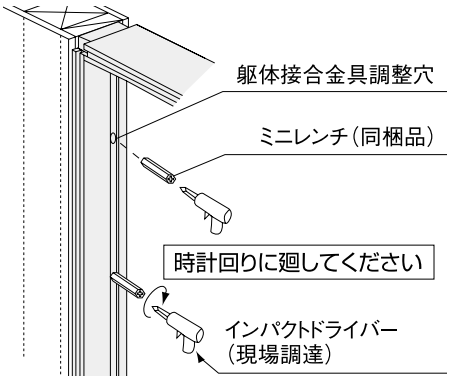
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

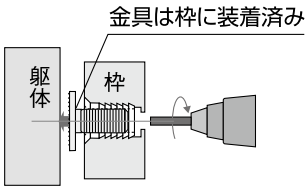
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

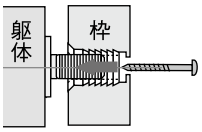


⚠注意

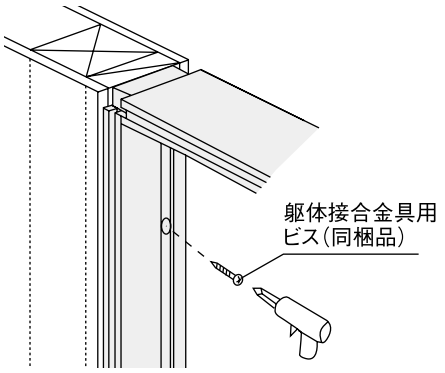
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

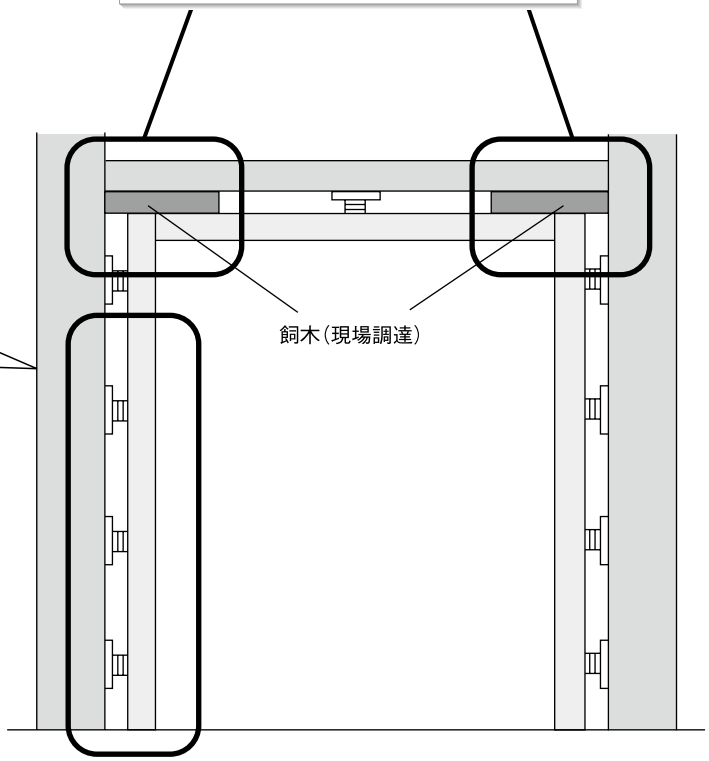


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

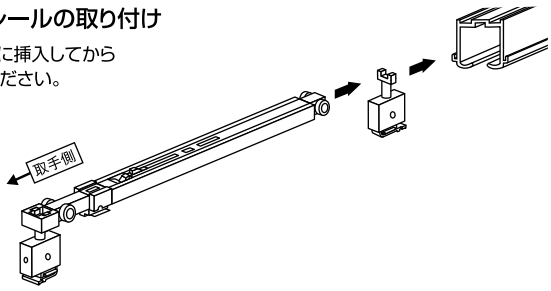
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

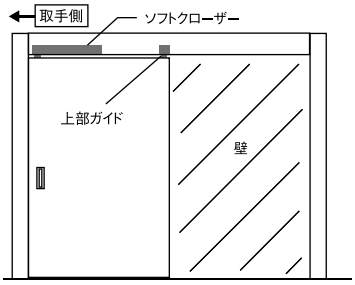


片側ソフトクローズ 仕様 標準

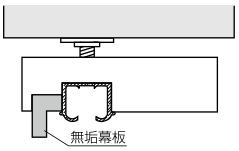
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

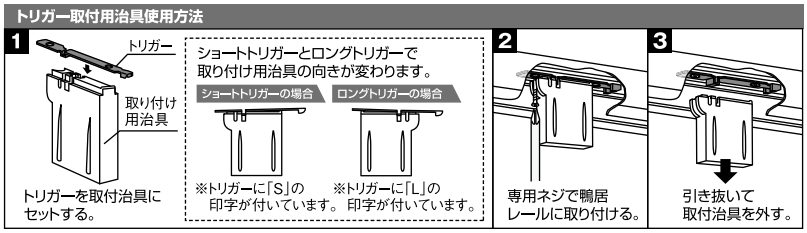




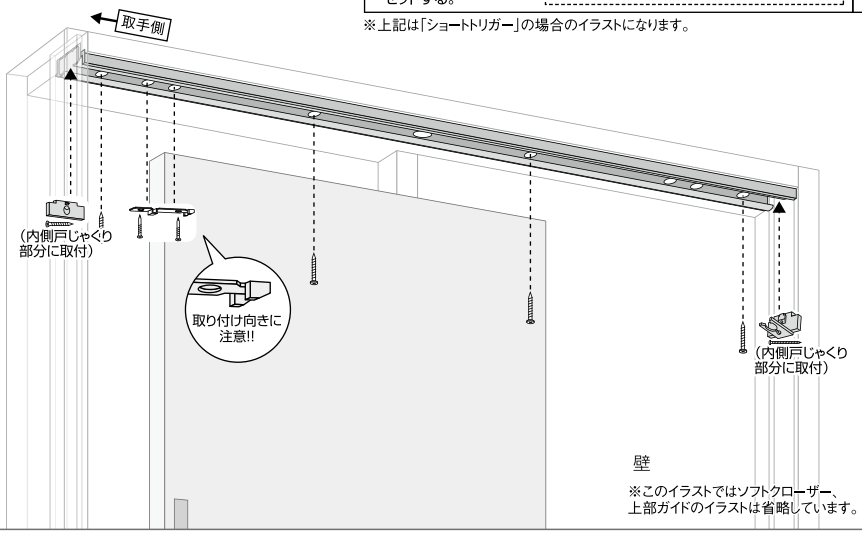
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

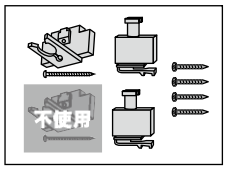


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

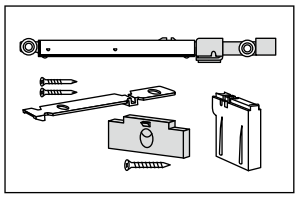


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット

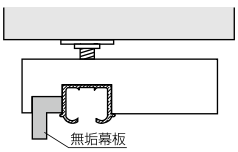


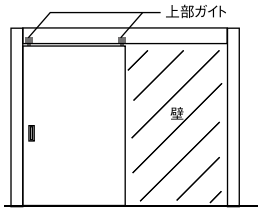
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

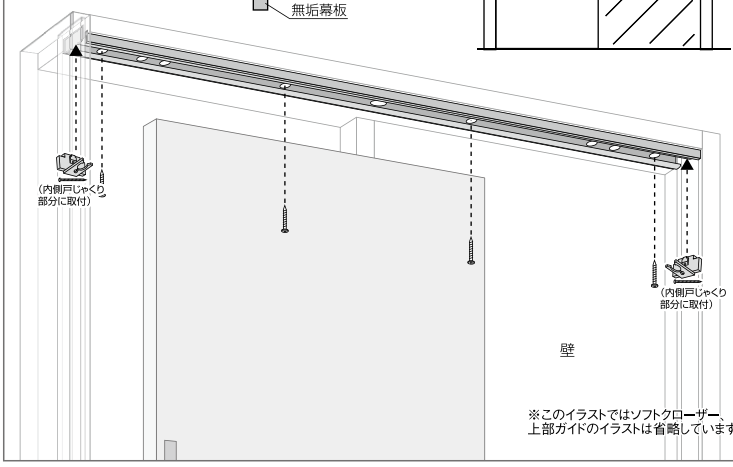


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け





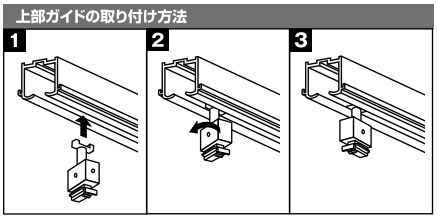


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

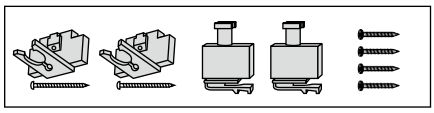
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット

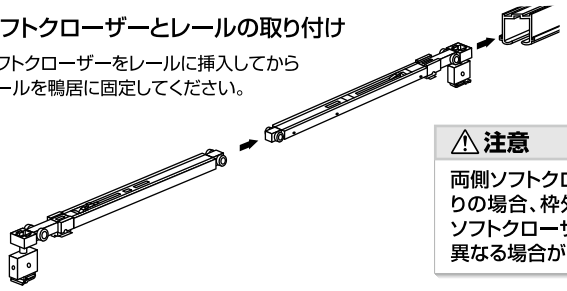


片引き戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

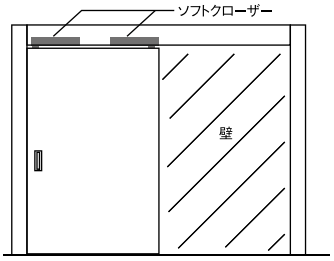
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

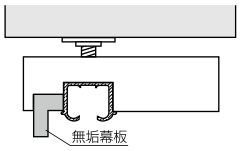


⚠注意

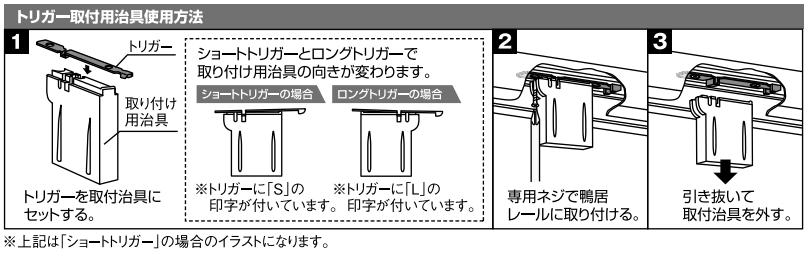
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。



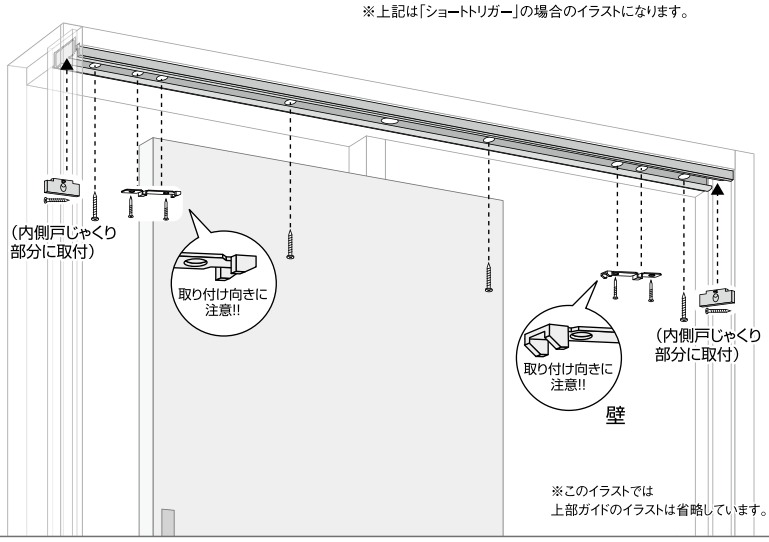
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

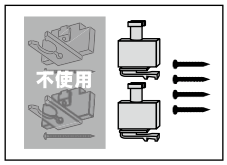


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

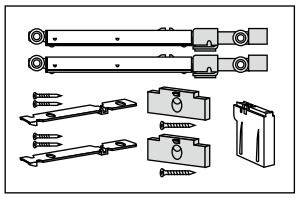


※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



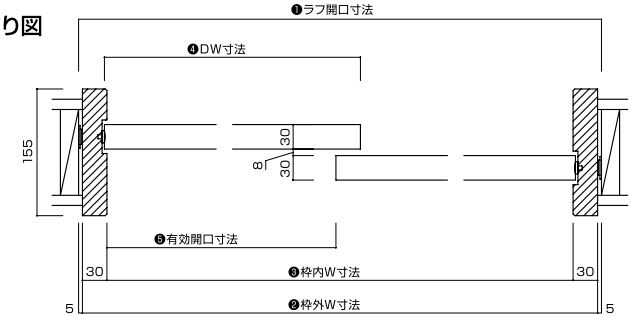
引き違い戸 専用枠材

4. 引き違い戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

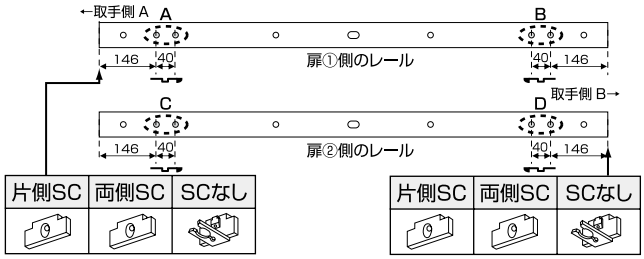
■ 枠製品寸法と納まり図



（単位：mm）

製品寸法	1,824	1,644
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654
❷枠外W寸法	1,824	1,644
❸枠内W寸法	1,764	1,584
❹DW寸法	900	810
❺有効開口寸法	867	777

■ レール詳細図

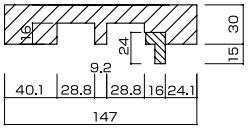


■ トリガー取り付け位置

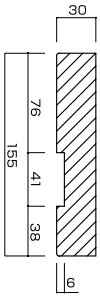
片側ソフトクローズ仕様	A·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

トリガーの取り付け向きに注意してください。



鴨　居

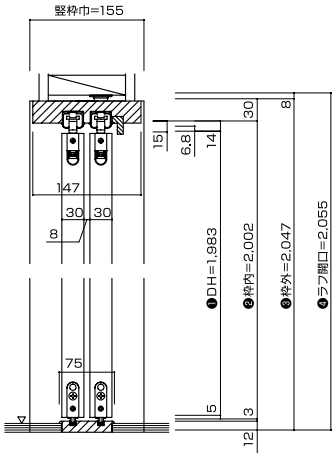


竪 枠

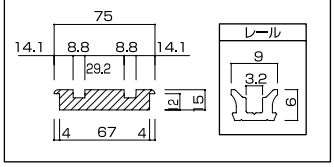
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

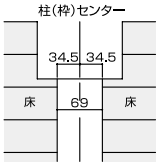
敷居埋め込みの場合　（単位：mm）



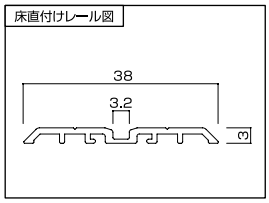
敷居詳細図



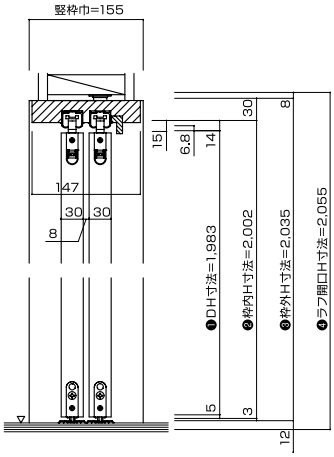
フロア張り込み位置



床直付けレール図



床直付けレールの場合　（単位：mm）



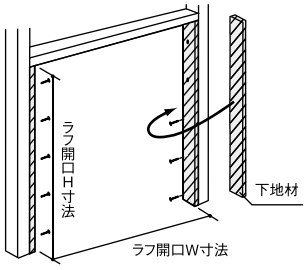
引き違い戸 専用枠材

5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

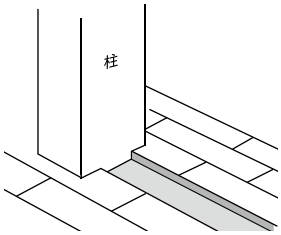
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

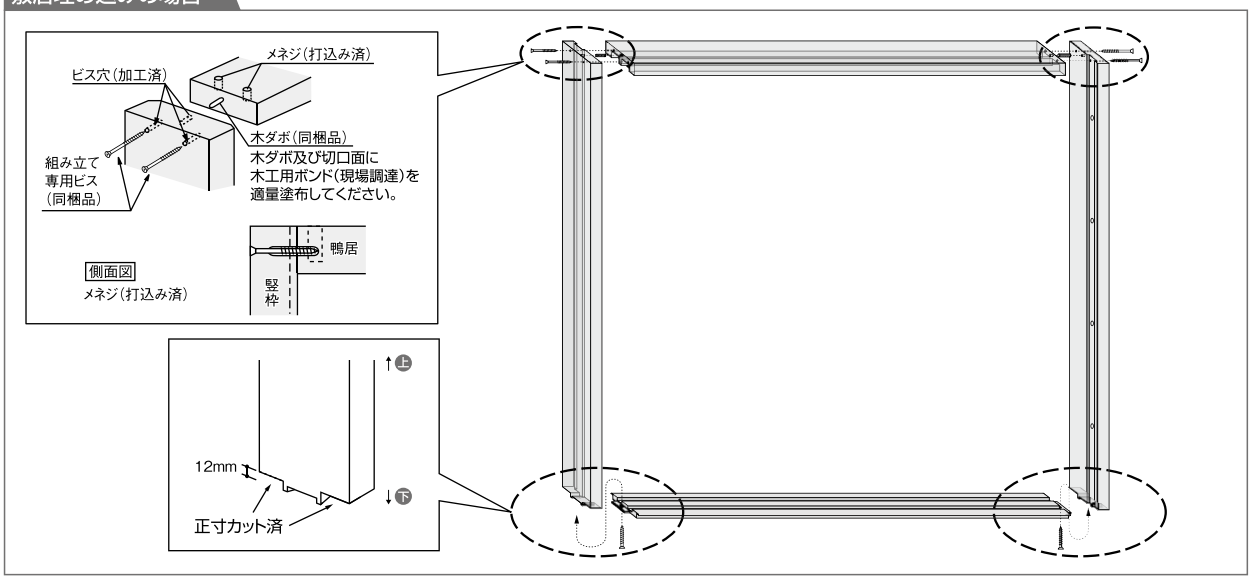


3 枠材の組み立て

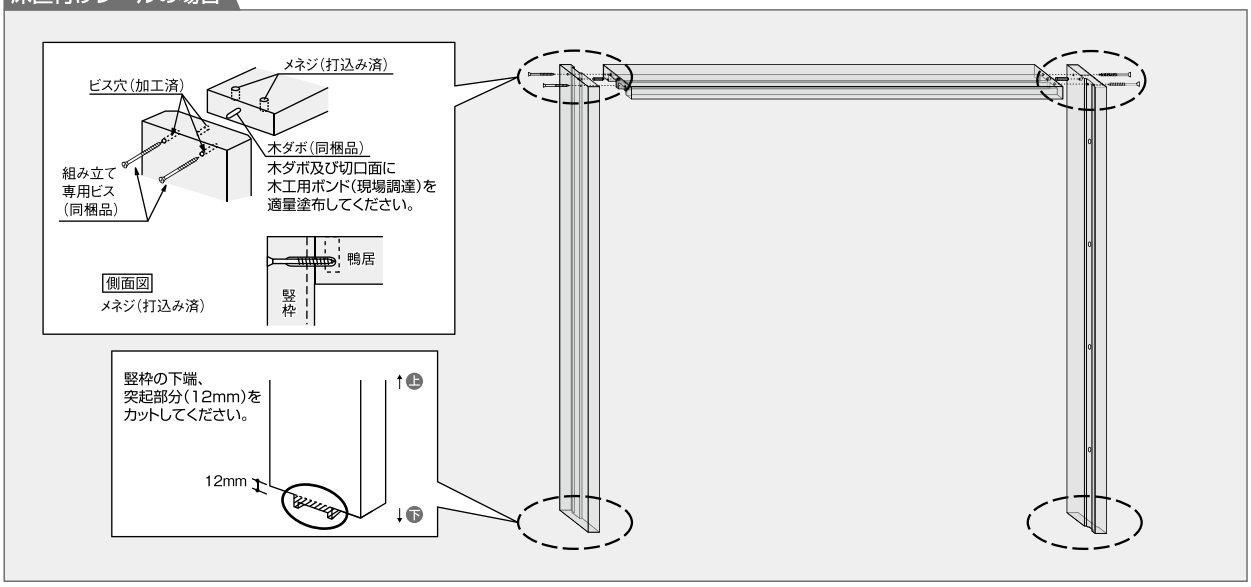
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



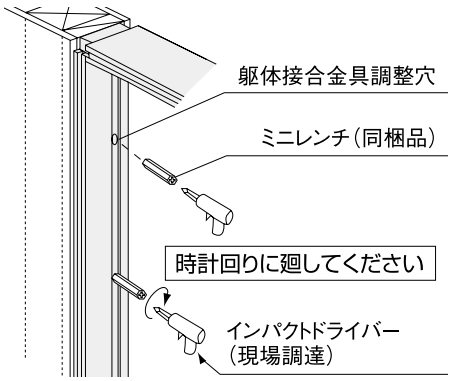
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

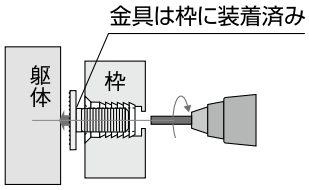
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

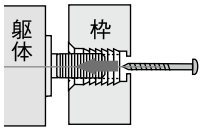


⚠注意

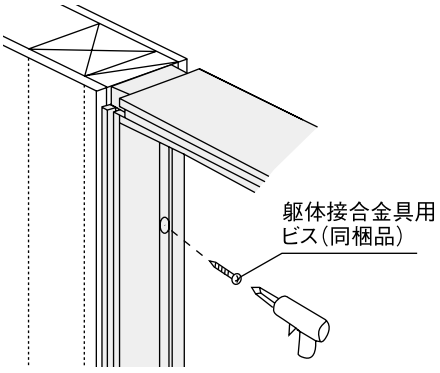
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

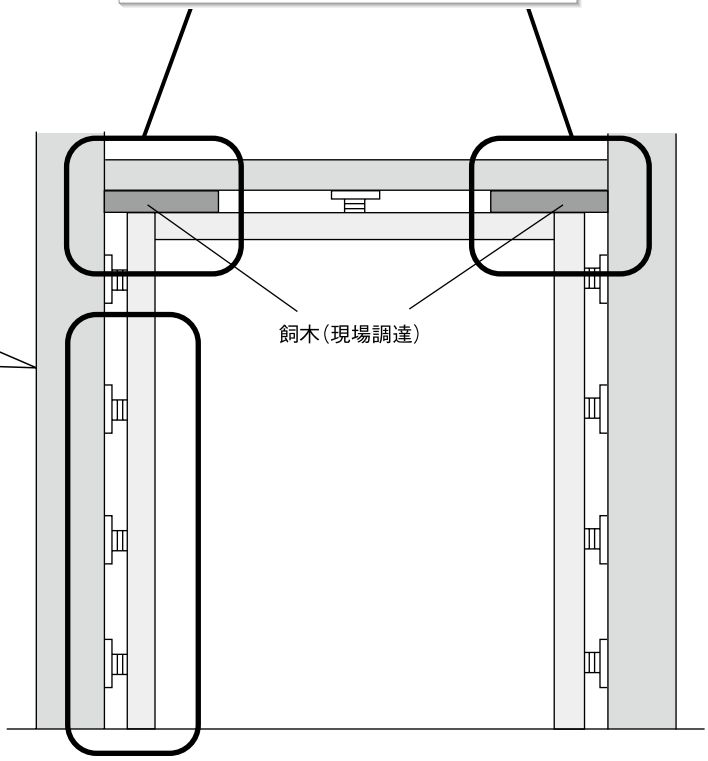


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

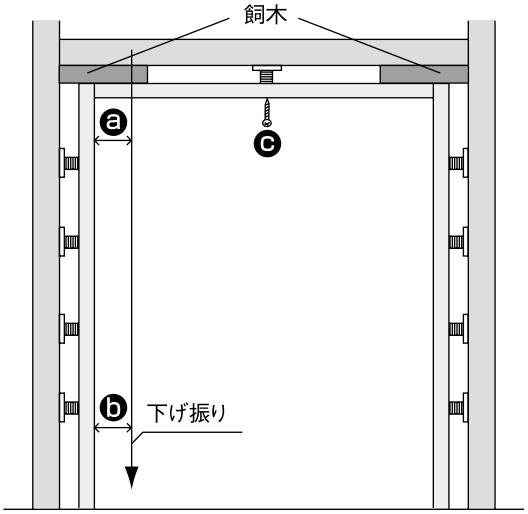


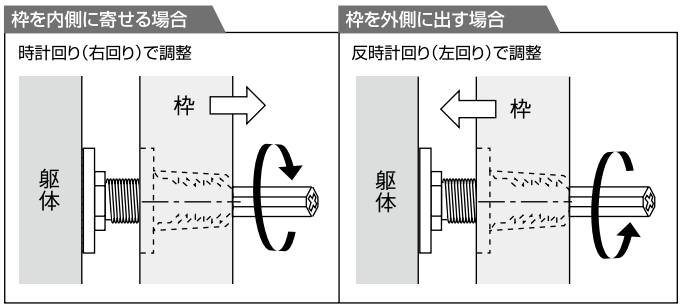
引き違い戸 専用枠材

5 建て付け調整と鴨居の本固定

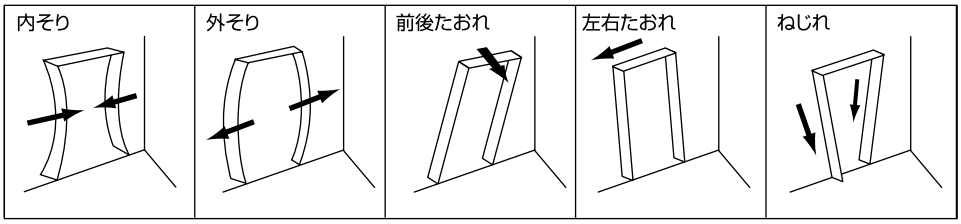
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



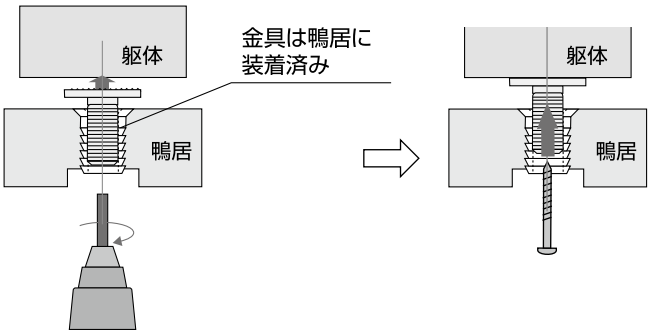


※下記の様なことがないようご注意ください。

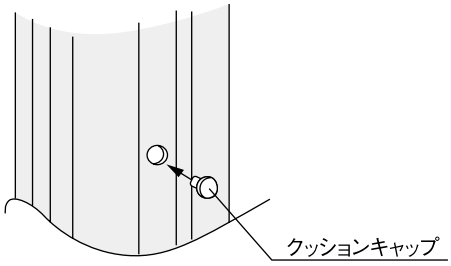


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。

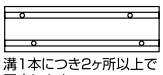


6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

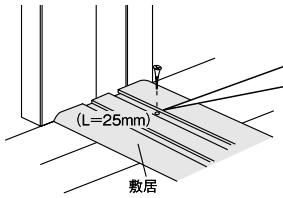
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

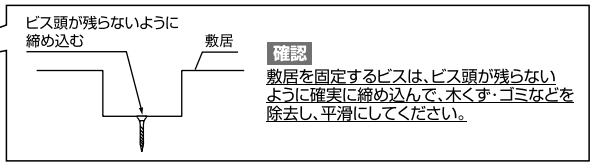


溝1本につき2ヶ所以上で固定します。

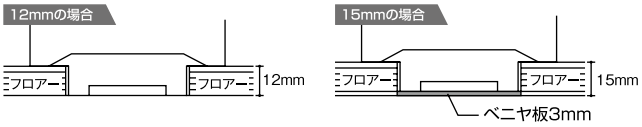
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

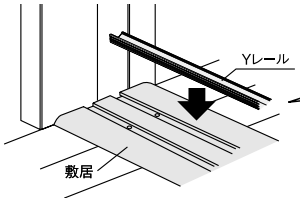


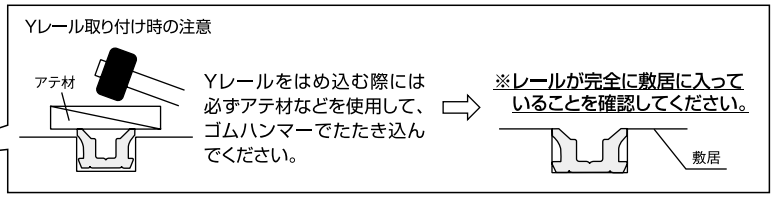


フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け





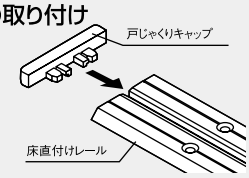
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

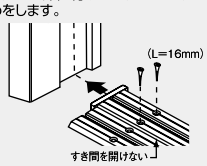


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



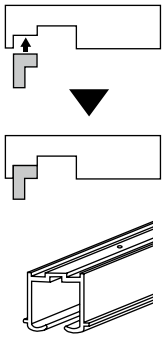
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

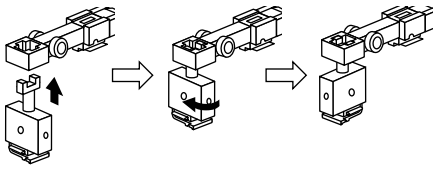
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。
別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

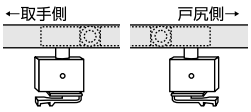
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

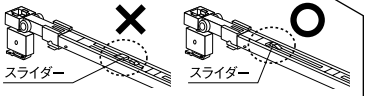


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。
スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

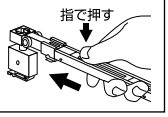
⚠注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

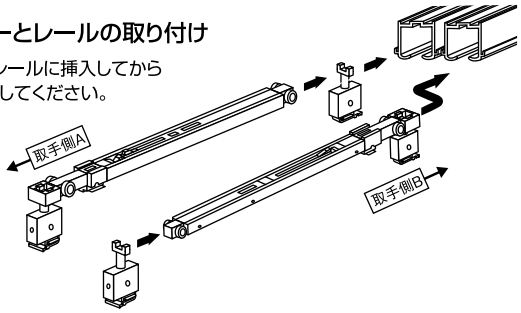


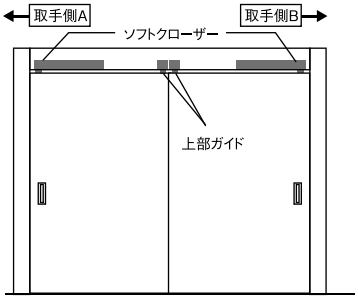
引き違い戸 専用枠材

片側ソフトクローズ 仕様 標準

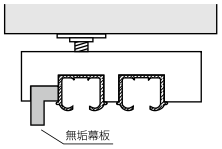
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

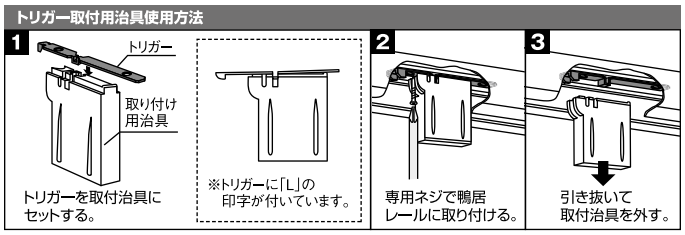


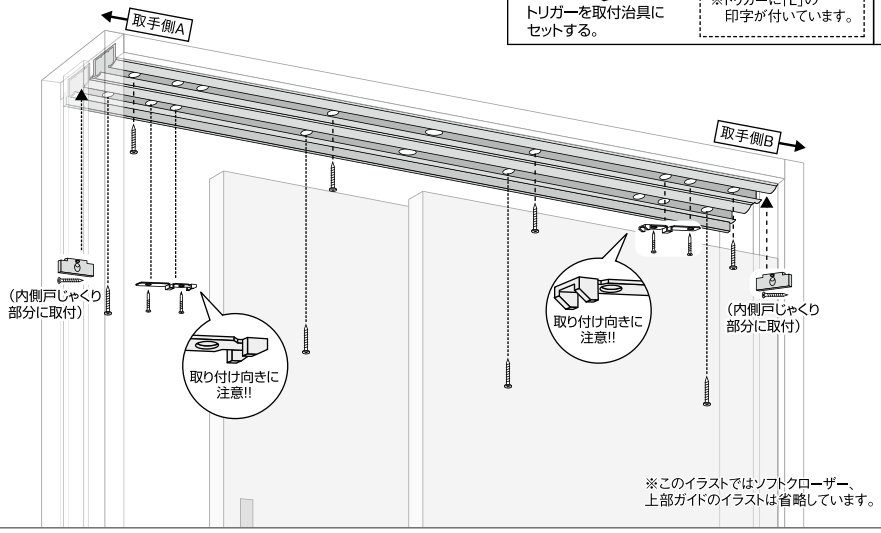


②鴨居レールの取り付け



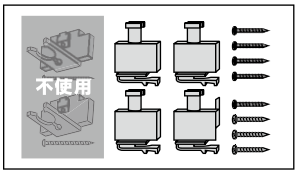
トリガー取付用治具使用方法



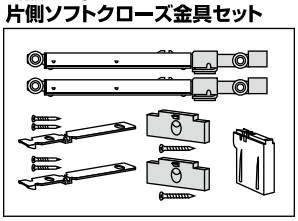


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット

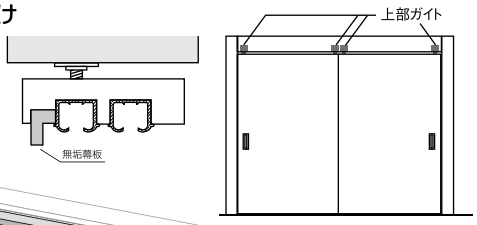


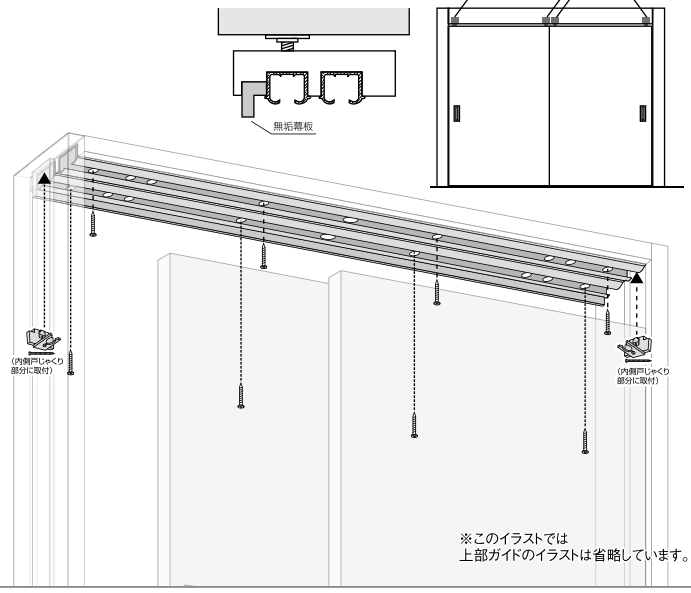
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け



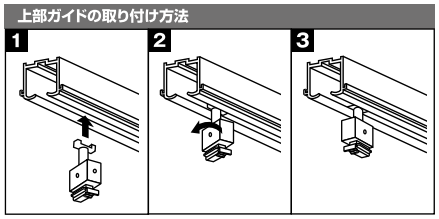


※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

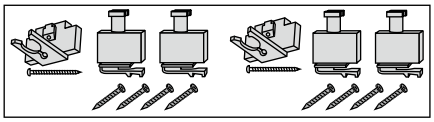
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

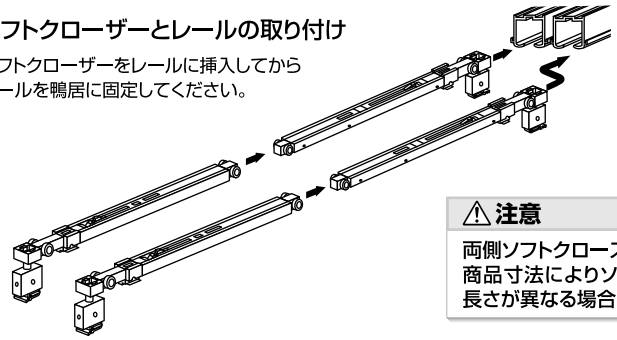
<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

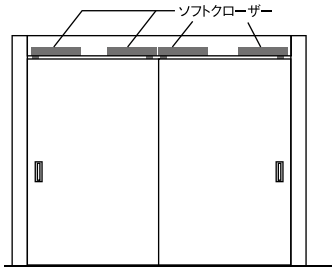
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

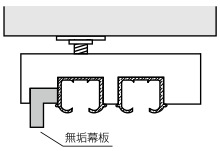


⚠注意

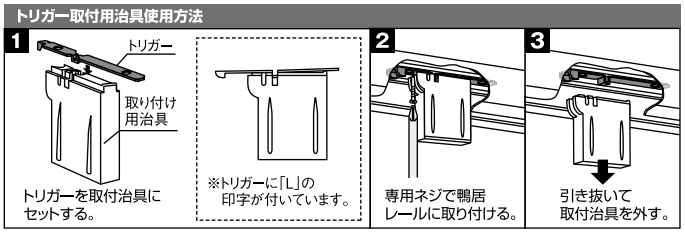
両側ソフトクローズ機構ありの場合、
商品寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

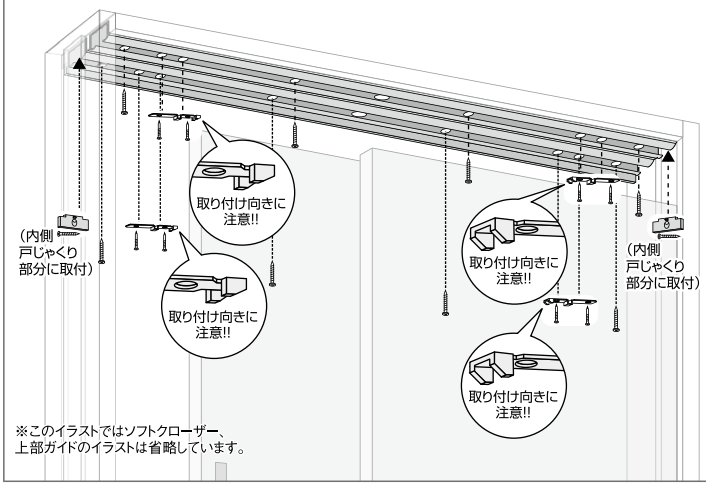


②鴨居レールの取り付け



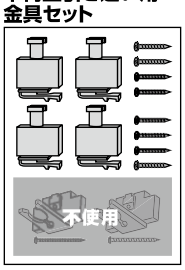
トリガー取付用治具使用方法



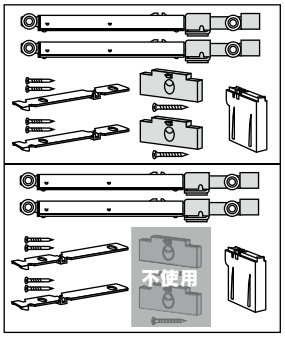


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール幕板なし（アルミ）	木製幕板
入数	引き分け戸	2本	2本	2本	1本	1本	1本
	3枚引き違い戸	2本	ー	ー	1本	3本	1本
	4枚引き違い戸	2本	ー	ー	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー	ー

別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合：敷居		床直付けレールの場合：床直付けレール		
入数	引き分け戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス13本
	3枚引き違い戸	本体1本	レール3本	レール3本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス30本
	4枚引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス26本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	L型ストッパー
入数	引き分け戸	ZYNL58	4個	ー	2個	1個	ー
	3枚引き違い戸	ZYNS57	6個	2個	ー	ー	1個
	4枚引き違い戸	ZYNI58	8個	2個	ー	2個	ー
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01	ZYTNC01	ZY3337	ZY2526

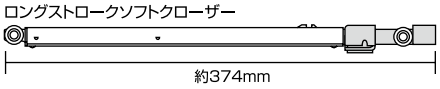
ビスセット（枠本体セットに梱包）

袋の色			赤	赤	赤	黄	黄	黄	透明	透明
部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	上レール取り付けビス（皿ビス） 18mm 3.5mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	躯体接合穴キャップ φ10
入数	引き分け戸	ZYQB66-□	2本	8本	9本	11本	10本のみ使用（20本入）	1本	8個	ー
	3枚引き違い戸	ZYQB69-□	2本	4本	11本	11本	27本	1本	8個	8個
	4枚引き違い戸	ZYQB66-□	2本	4本のみ使用（8本入）	9本	11本	20本	1本	8個	ー
備考（部材品番等）			ー	ー	床直付けレールの場合は使用しません。	ー	ー	ー	ー	ー

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名		引き分け戸	3枚引き違い戸	4枚引き違い戸	ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
入数	ZH23LC-Y	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×3セット）	片側SC付（×4セット）	1	1	1	1
	ZH23LR-Y	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×3セット）	両側SC付（×4セット）	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



引き分け戸 専用枠材

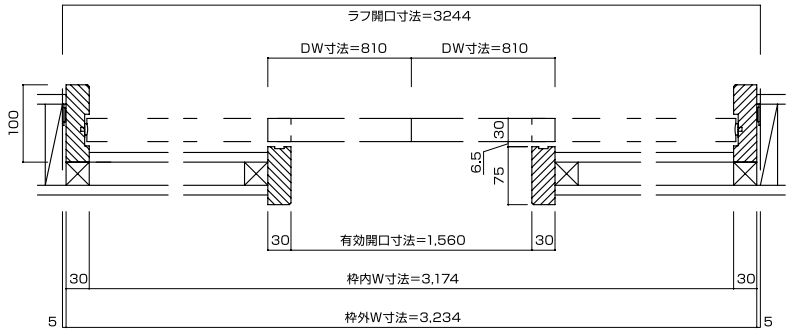
2. 引き分け戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

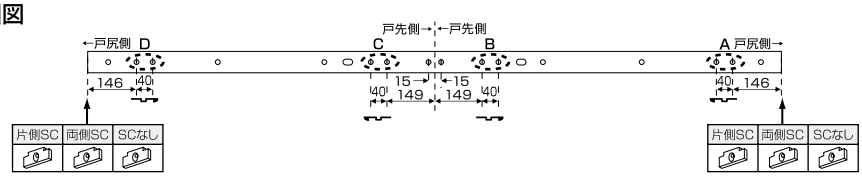
横断面図

■枠製品寸法と納まり図

（単位：mm）



■レール詳細図

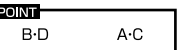


■トリガー取り付け位置

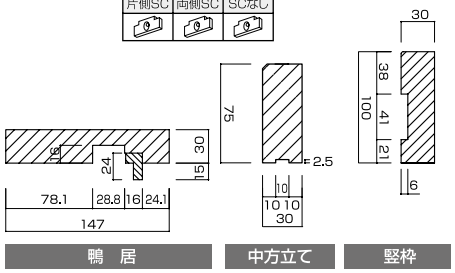
片側ソフトクローズ仕様	B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

POINT



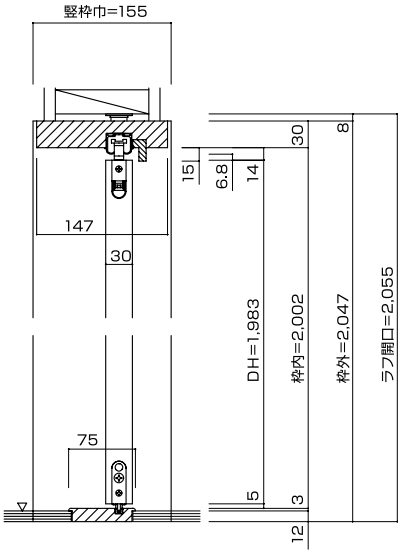
トリガーの取り付け向きに注意してください。

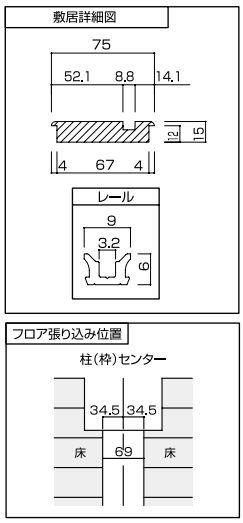


縦断面図

敷居埋め込みの場合

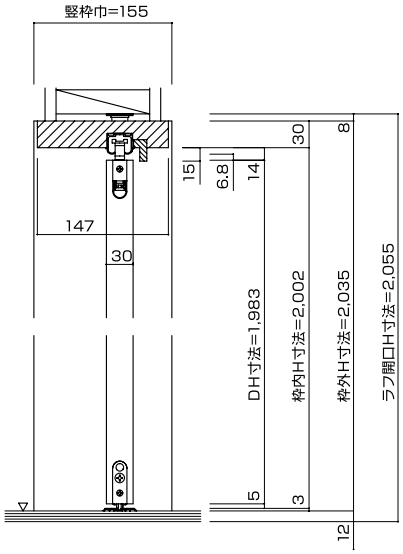
（単位：mm）

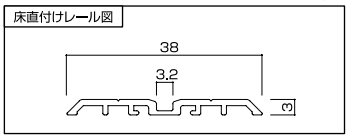




床直付けレールの場合

（単位：mm）





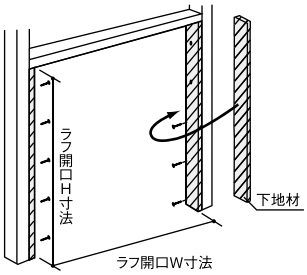
引き分け戸 専用枠材

3. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

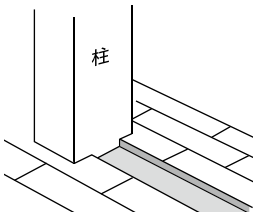
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

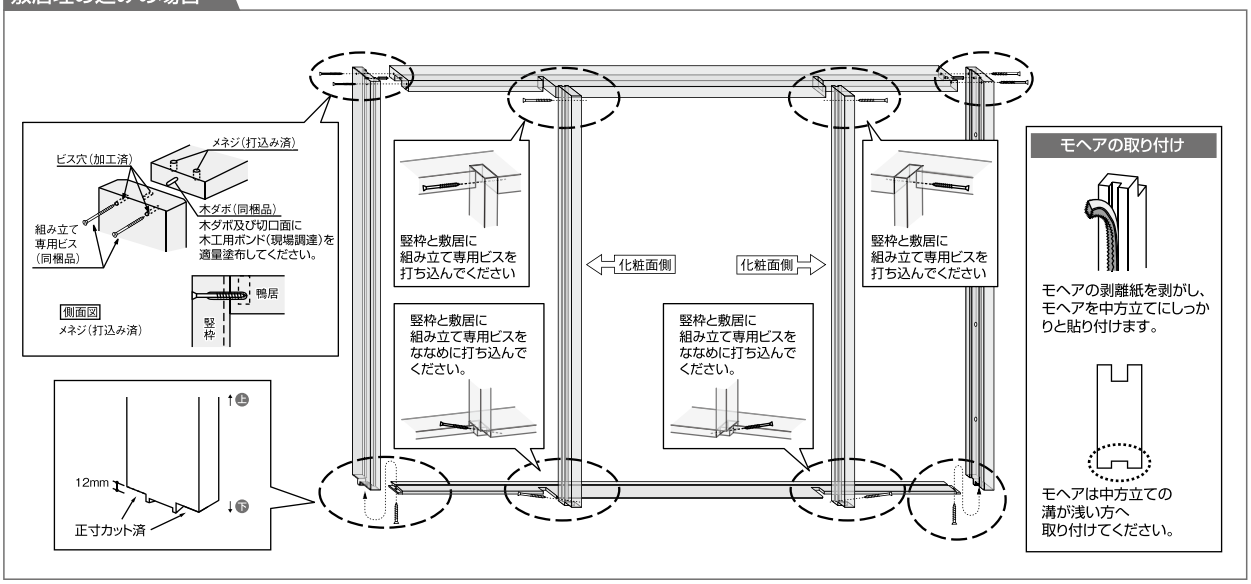


3 枠材の組み立て

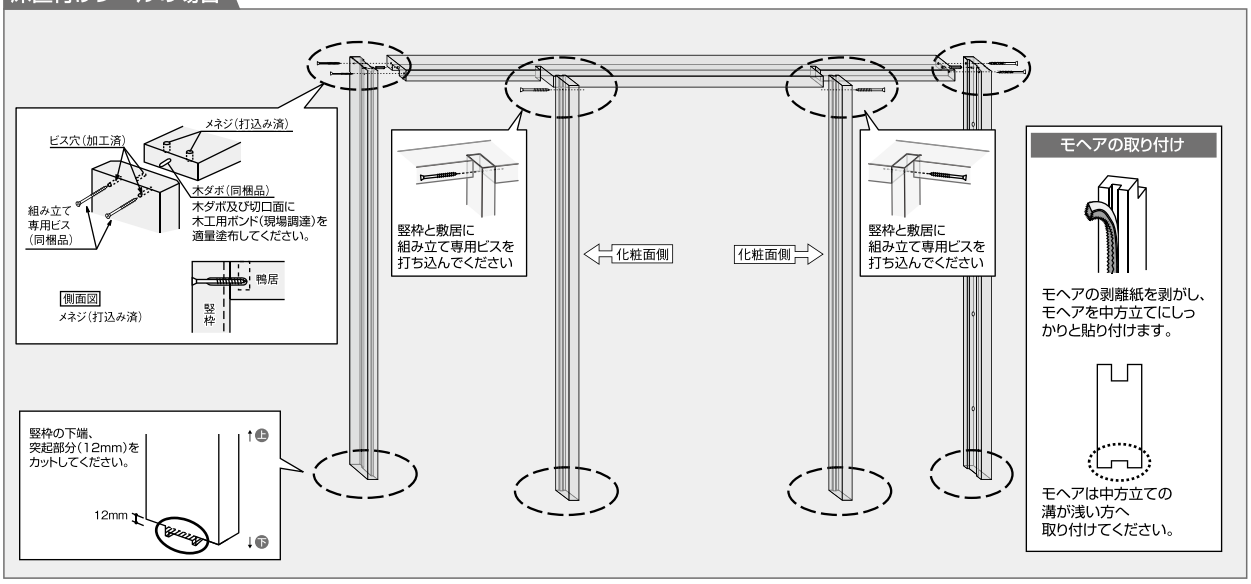
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

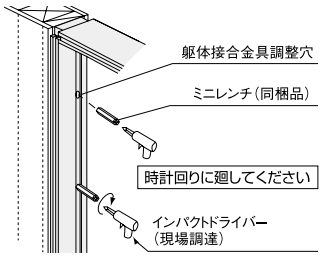


4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

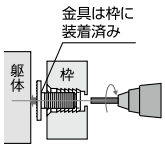
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

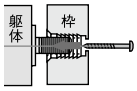


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

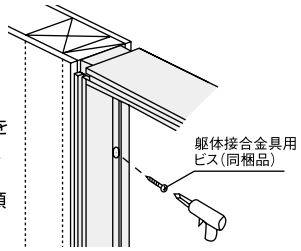
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

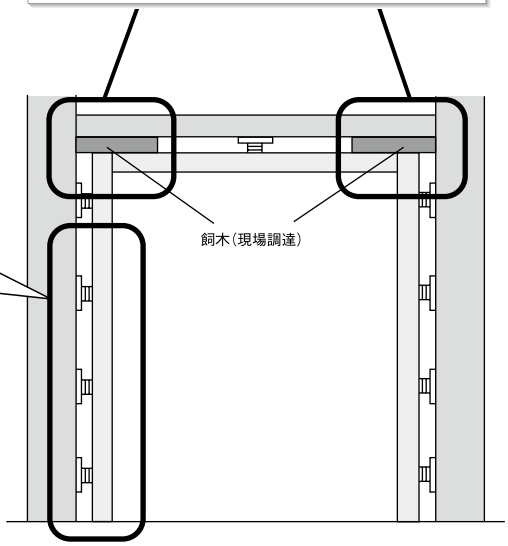
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



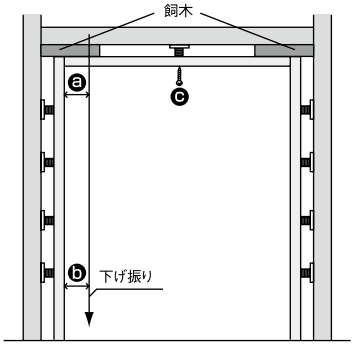
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

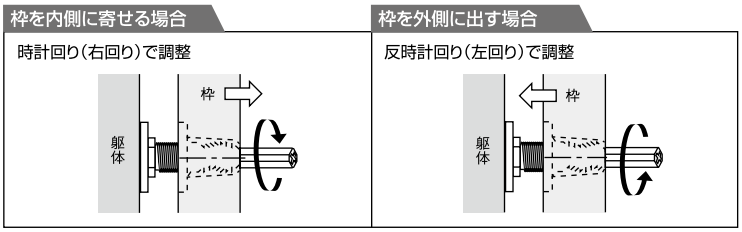


5 建て付け調整と鴨居の本固定

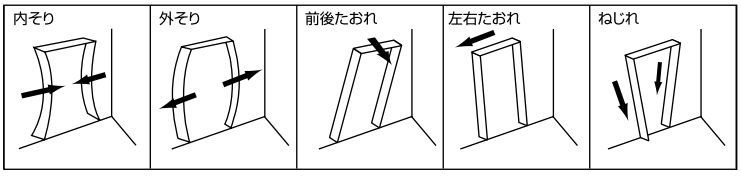
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



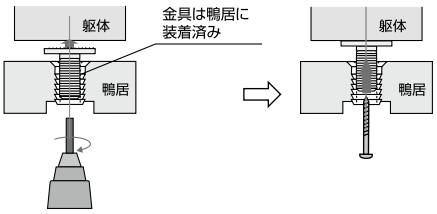


※下記の様なことがないようご注意ください。

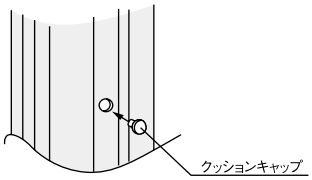


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



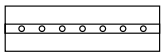
引き分け戸 専用枠材

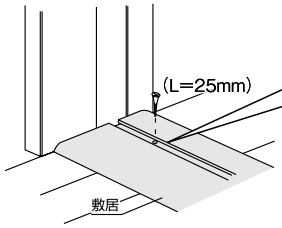
6 敷居・床直付けレールの取り付け

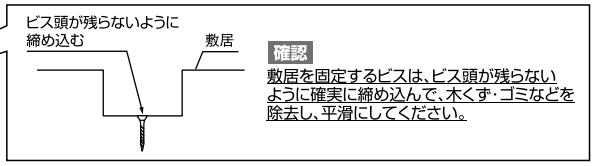
敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

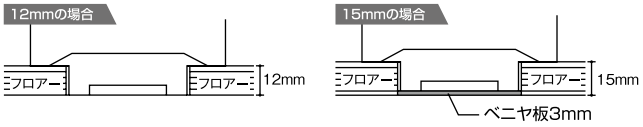




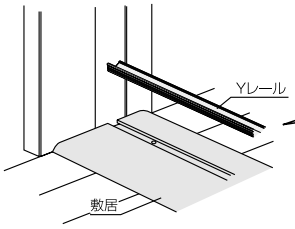


⚠注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

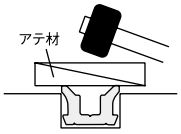
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

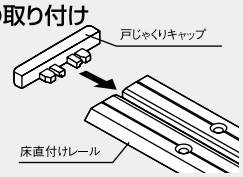
※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

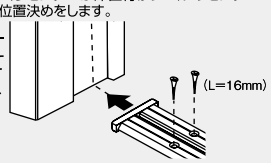
戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。



②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



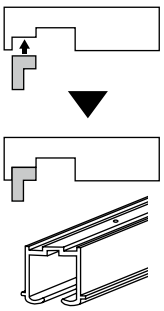
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

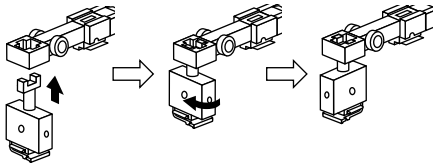
ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



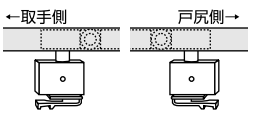
〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



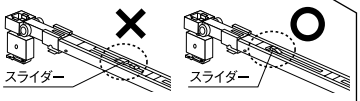
⚠注意
レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。
※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。



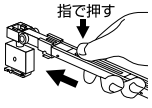
■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠注意
挿入前にスライダーの位置を確認してください。



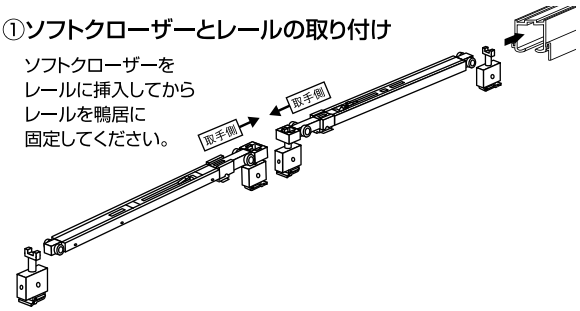
スライダーが正しい位置にない場合
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

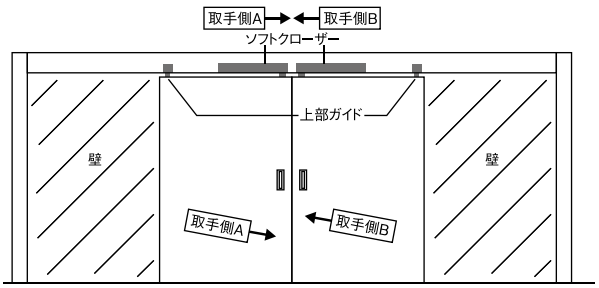


片側ソフトクローズ 仕様 標準

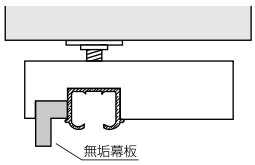
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーを
レールに挿入してから
レールを鴨居に
固定してください。

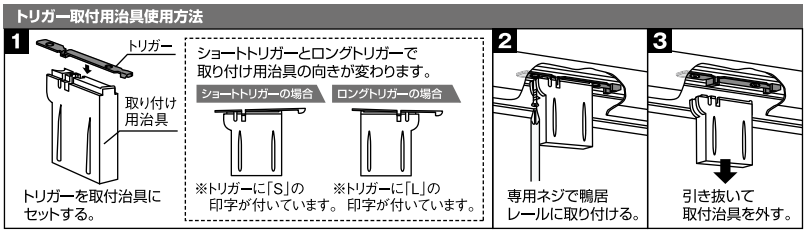




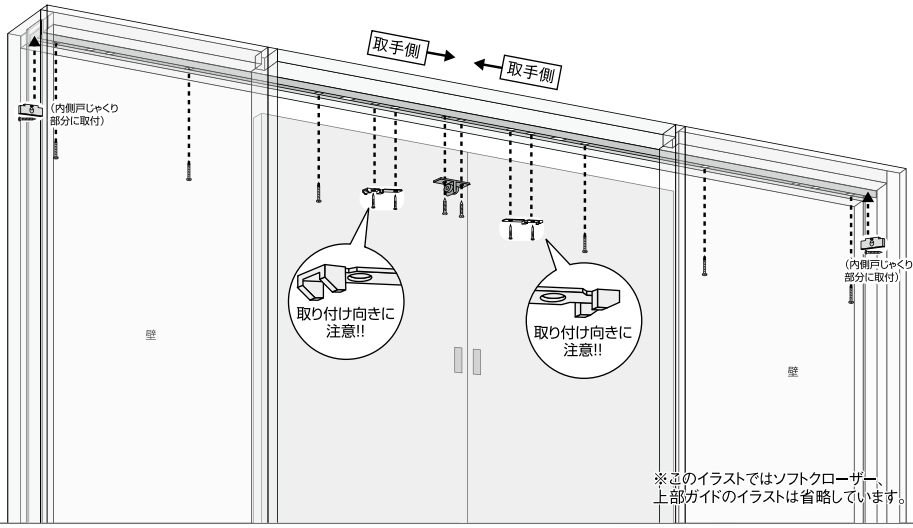
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

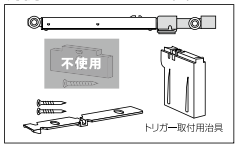


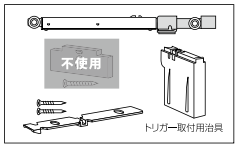
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



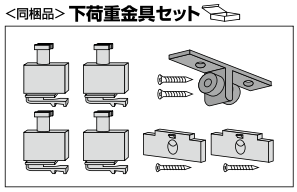
※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



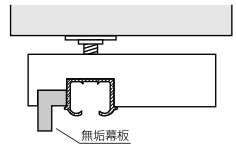


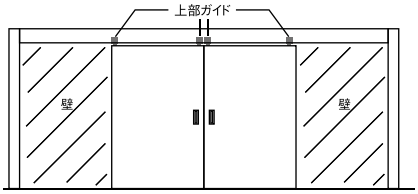
<同梱品> **下荷重金具セット**

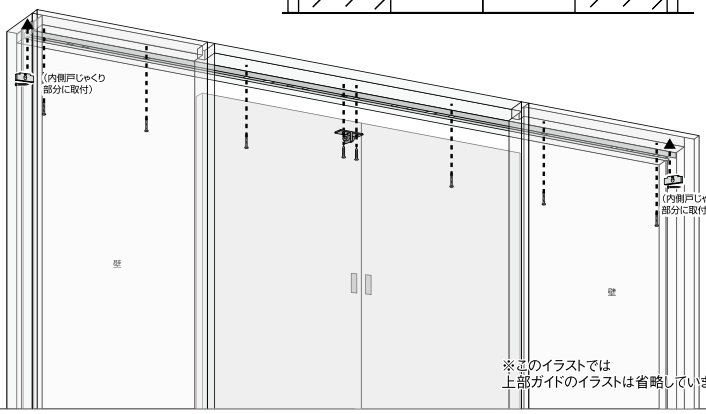


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け





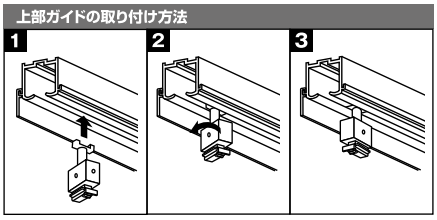


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

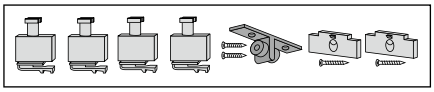
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

<同梱品>
下荷重金具セット

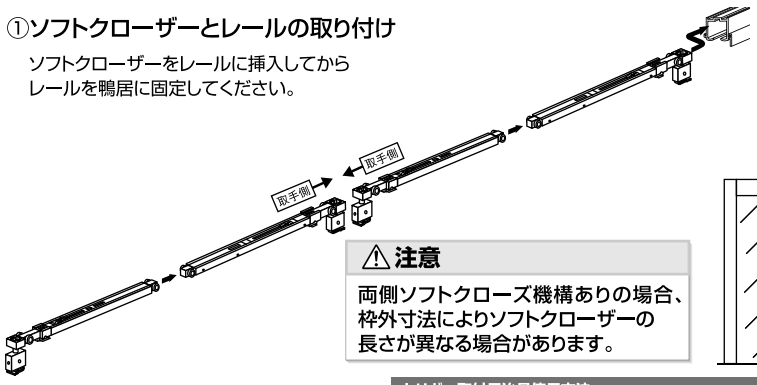


引き分け戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

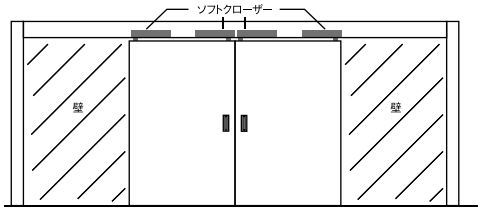
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

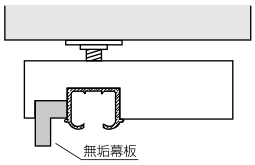


⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、
枠外寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

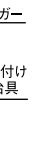


②鴨居レールの取り付け



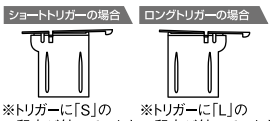
トリガー取付用治具使用方法

1



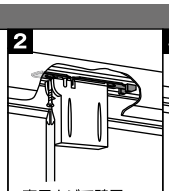
トリガーを取付治具にセットする。

ショートトリガーとロングトリガーで
取り付け用治具の向きが変わります。



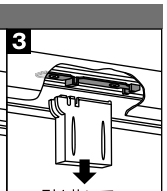
※トリガーに「S」の印字が付いています。
※トリガーに「L」の印字が付いています。

2



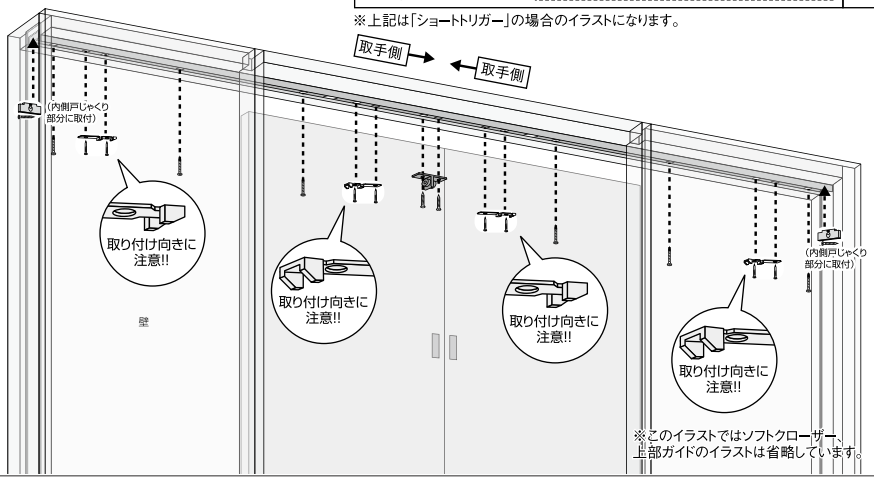
専用ネジで鴨居レールに取り付ける。

3



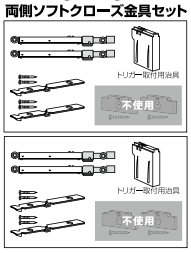
引き抜いて取付治具を外す。

※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

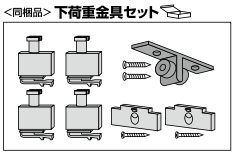


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<別梱包> **両側ソフトクローズ金具セット**



<同梱品> **下荷重金具セット**



3 枚引き違い戸 専用枠材

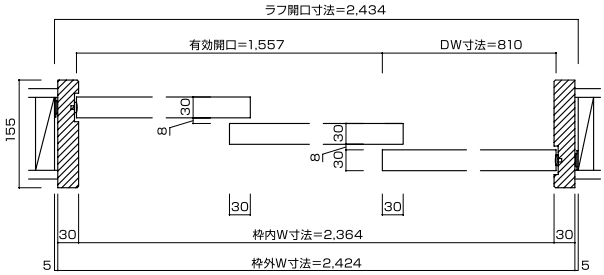
4. 3枚引き違い戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·C·E
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D·E·F

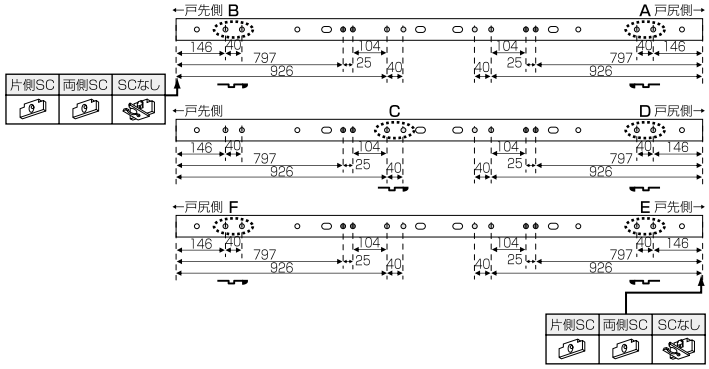
上記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

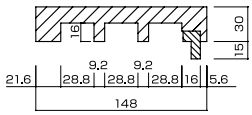
POINT

B·C·F　A·D·E

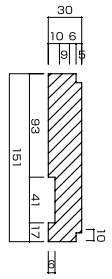
トリガーの取り付け向きに注意してください。

■レール詳細図





鴨　居

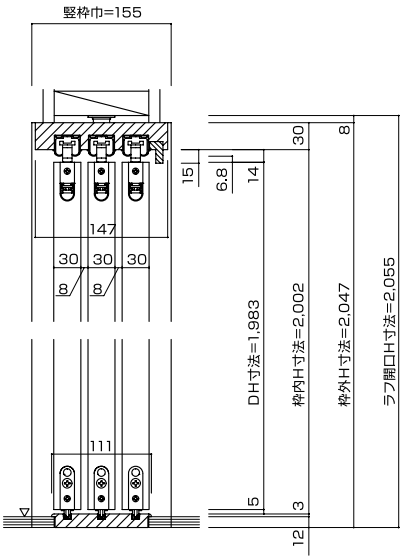


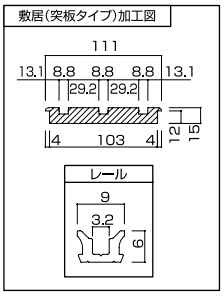
竪枠断面

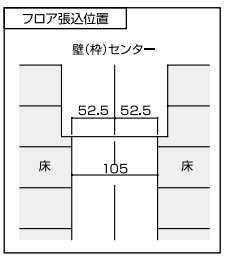
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

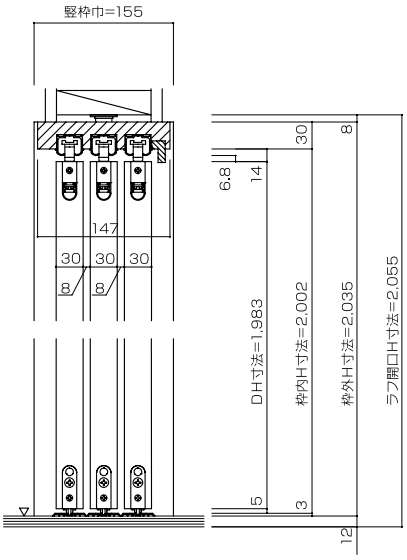
敷居埋め込みの場合　（単位：mm）

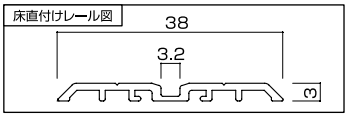






床直付けレールの場合　（単位：mm）





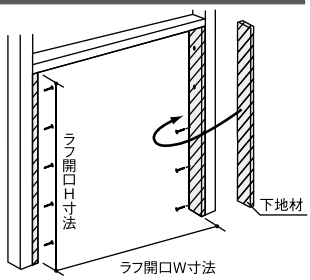
3 枚引き違い戸 専用枠材

5. 3枚引き違い戸　施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

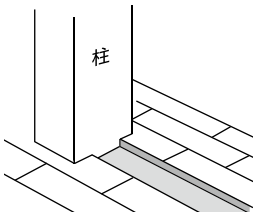
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

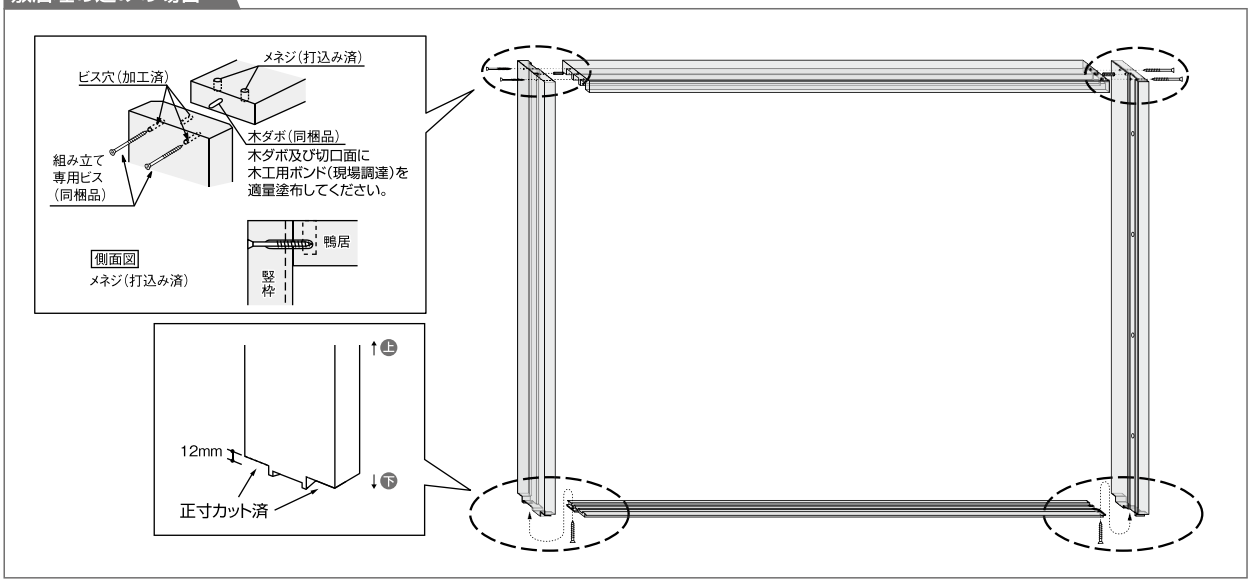


3 枠材の組み立て

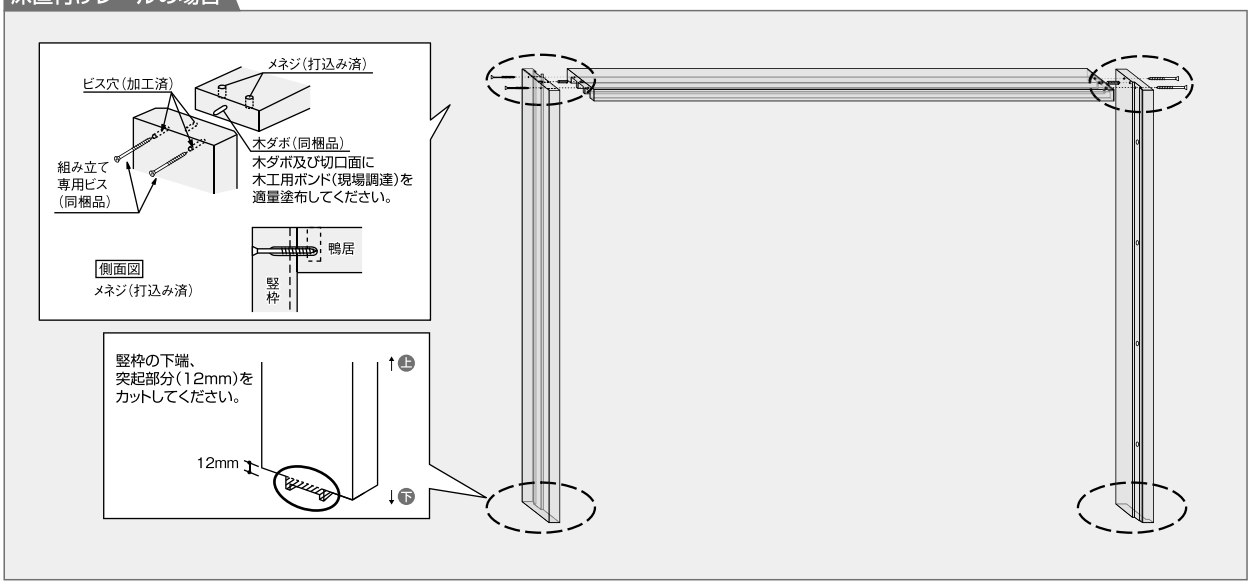
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

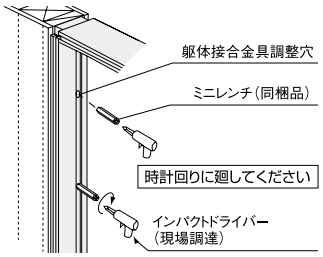


4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

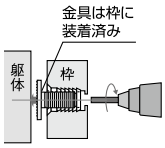
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

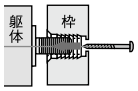


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

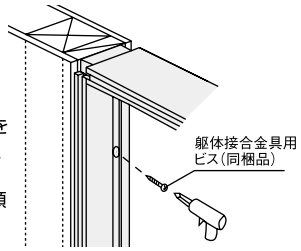
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

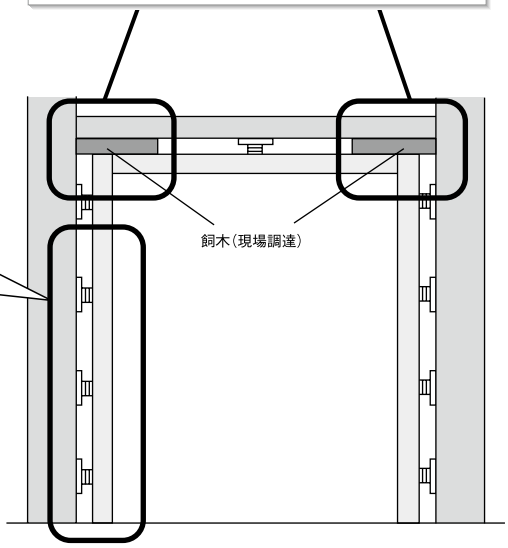
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



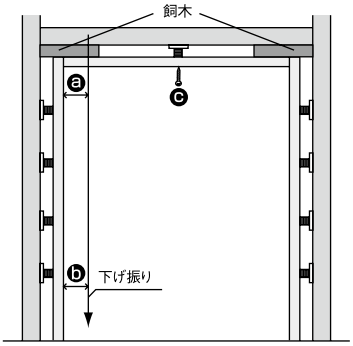
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

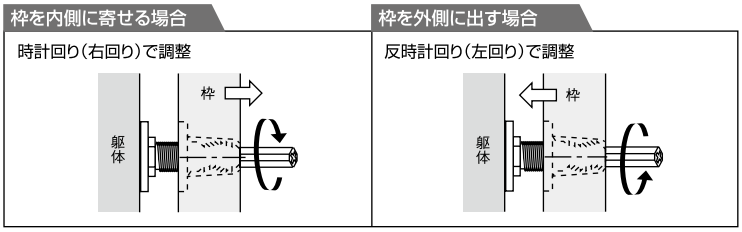


5 建て付け調整と鴨居の本固定

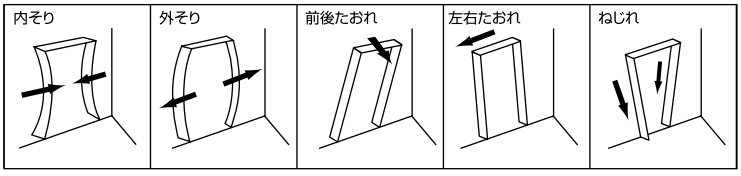
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



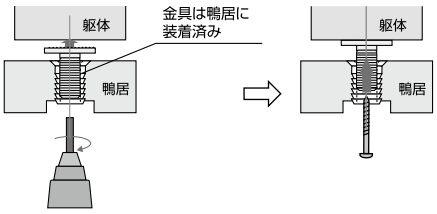


※下記の様なことがないようご注意ください。

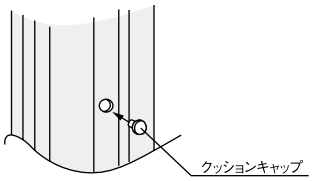


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



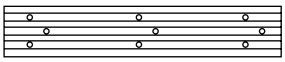
3枚引き違い戸 専用枠材

6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

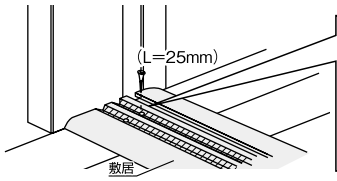
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

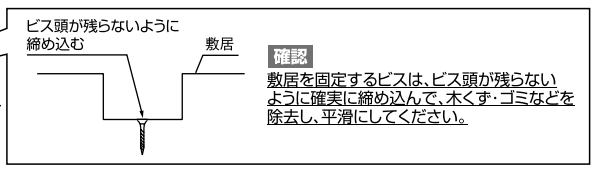


ビスは溝1本につき3カ所とめます。

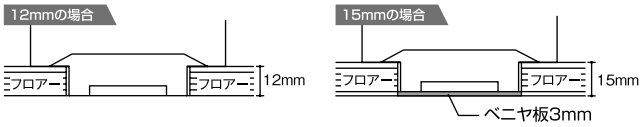
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

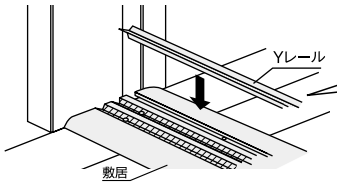




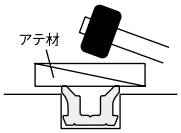
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

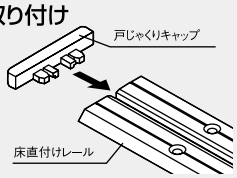
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

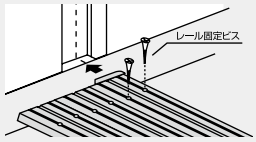


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

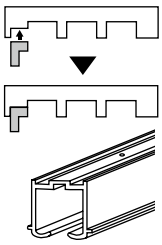
7 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。

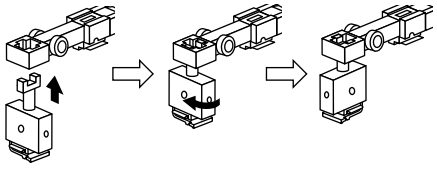
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

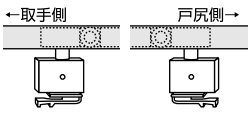
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

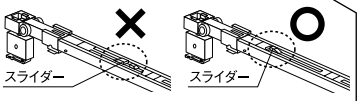


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

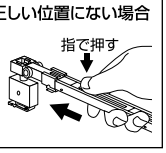
⚠注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

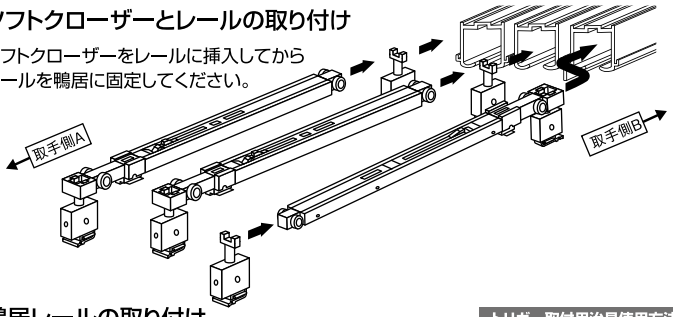
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

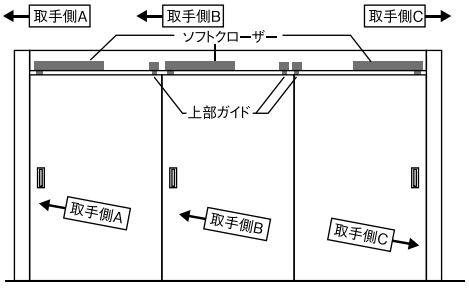


片側ソフトクローズ 仕様 標準

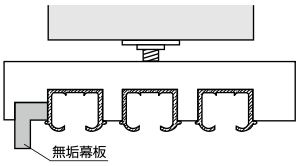
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

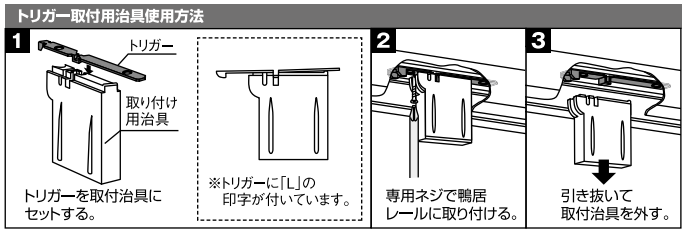


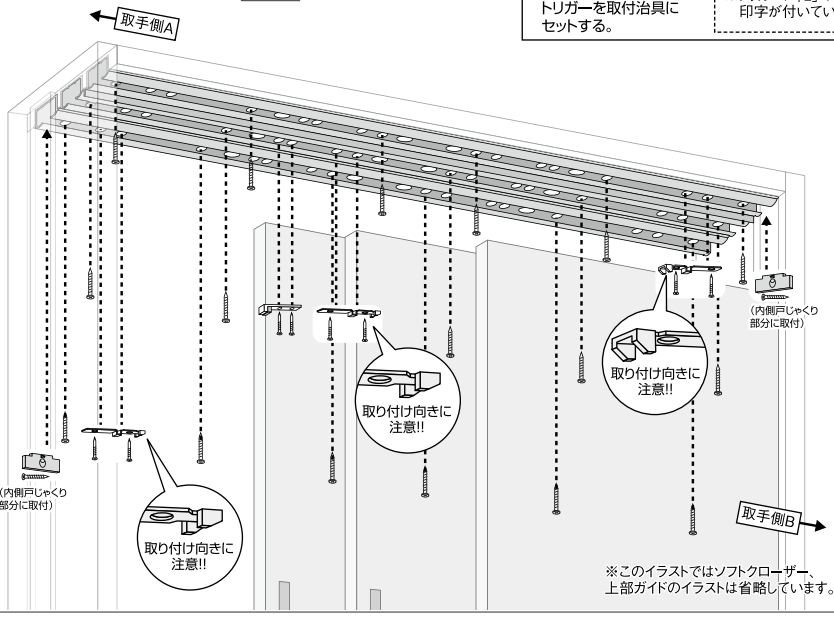


②鴨居レールの取り付け

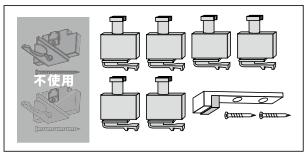


トリガー取付用治具使用方法

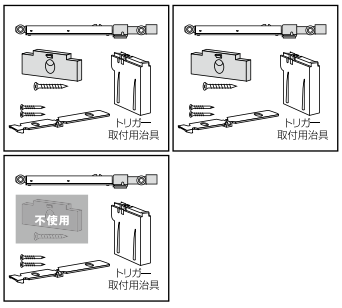




<同梱品>
下荷重金具セット

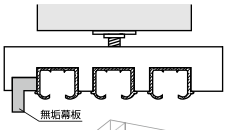


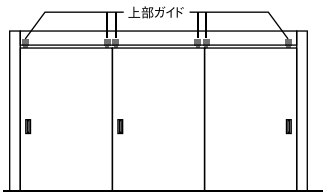
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

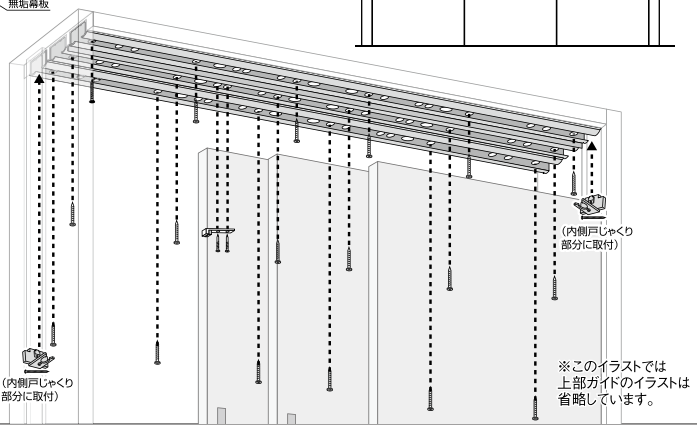


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け



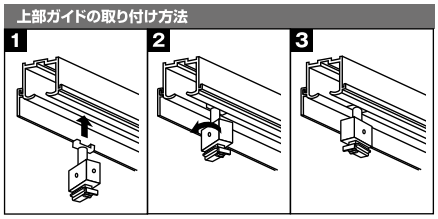




⚠注意

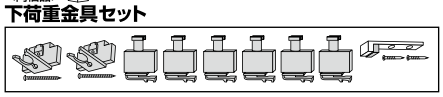
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

<同梱品>
下荷重金具セット

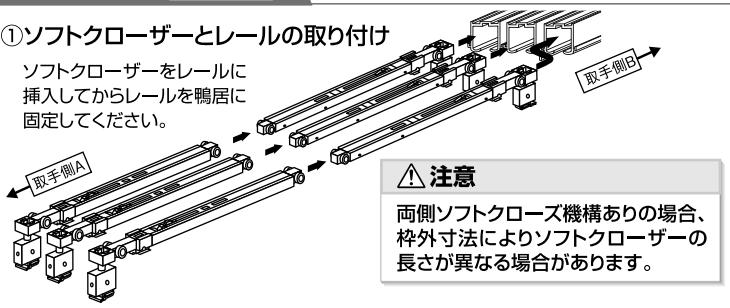


3枚引き違い戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

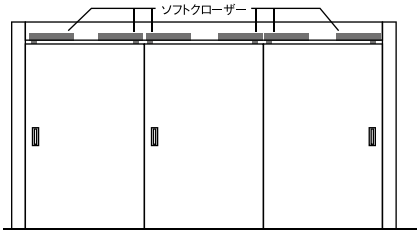
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。

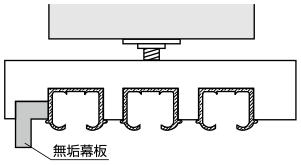


⚠注意

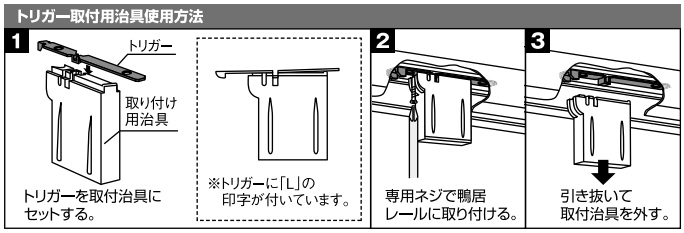
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

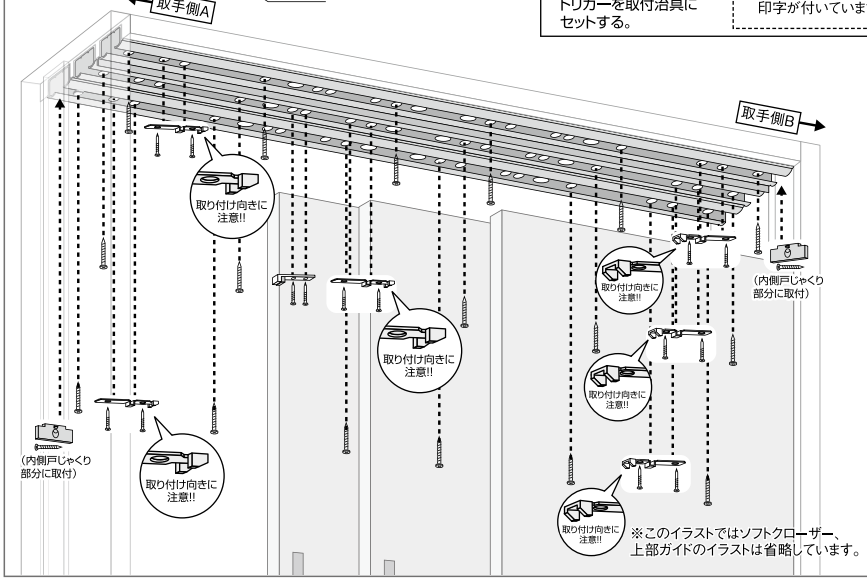


②鴨居レールの取り付け

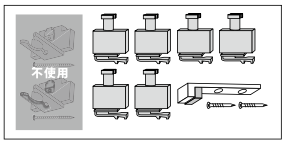


トリガー取付用治具使用方法

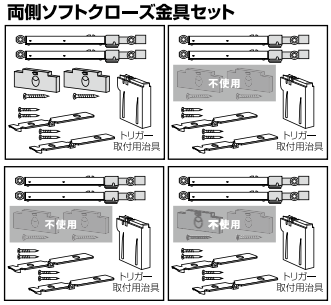




<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



4 枚引き違い戸 専用枠材

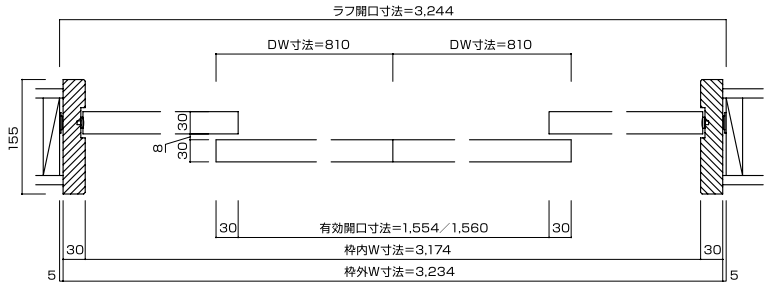
6. 4枚引き違い戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

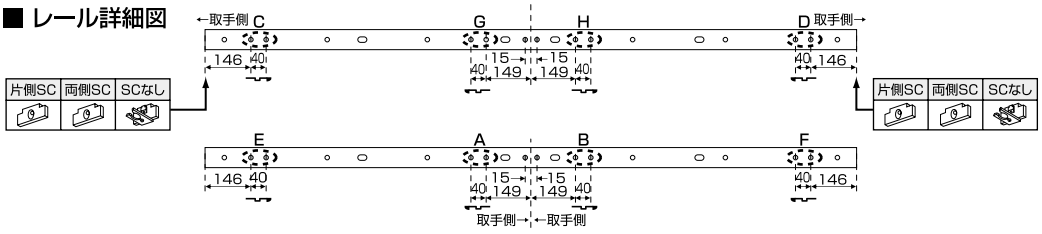
横断面図

（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



■ レール詳細図



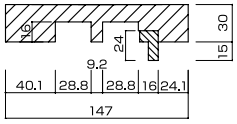
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D E·F·G·H

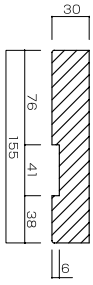
POINT

B·C·E·H　A·D·F·G

トリガーの取り付け向きに注意してください。



鴨　居

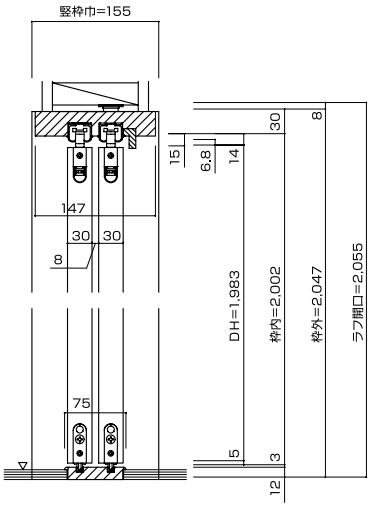


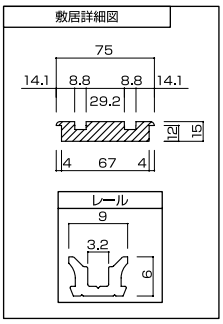
竪 枠

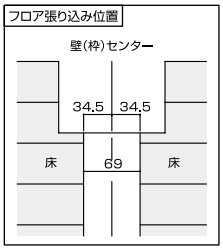
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

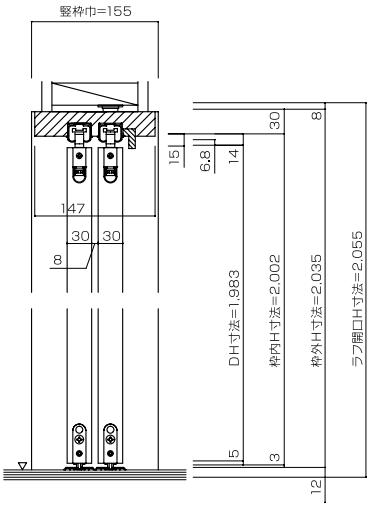
敷居埋め込みの場合　（単位：mm）

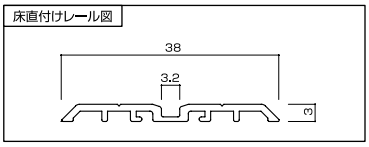






床直付けレールの場合　（単位：mm）





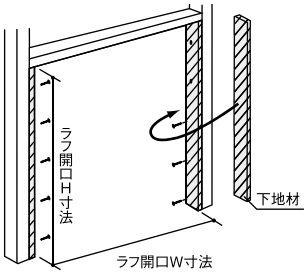
4 枚引き違い戸 専用枠材

7. 4枚引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

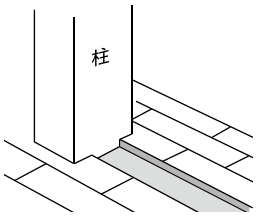
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

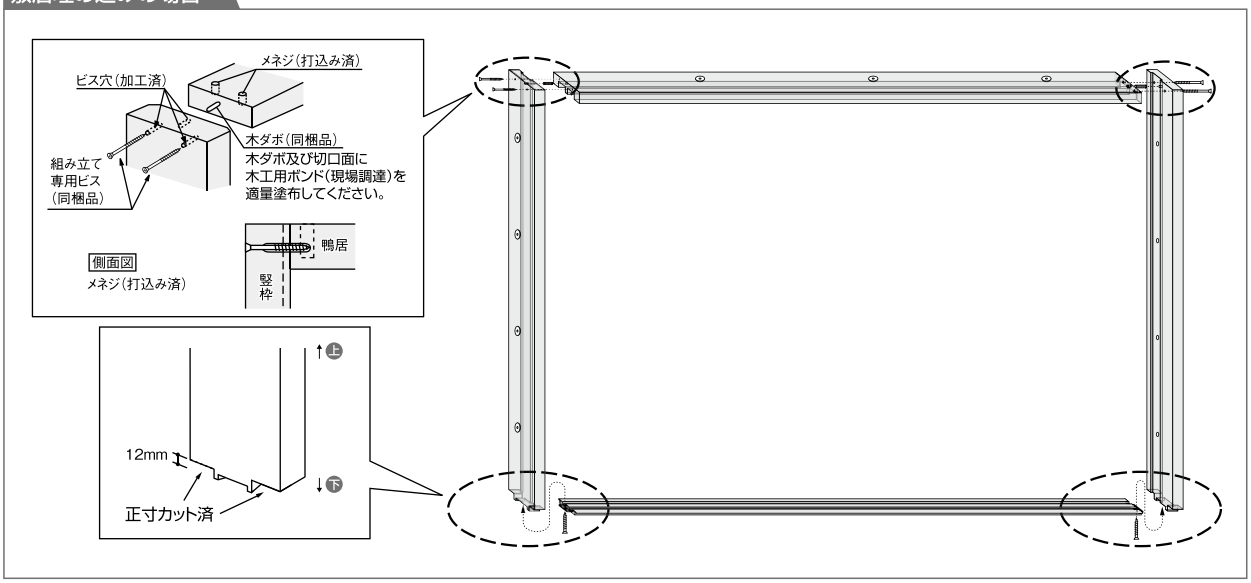


3 枠材の組み立て

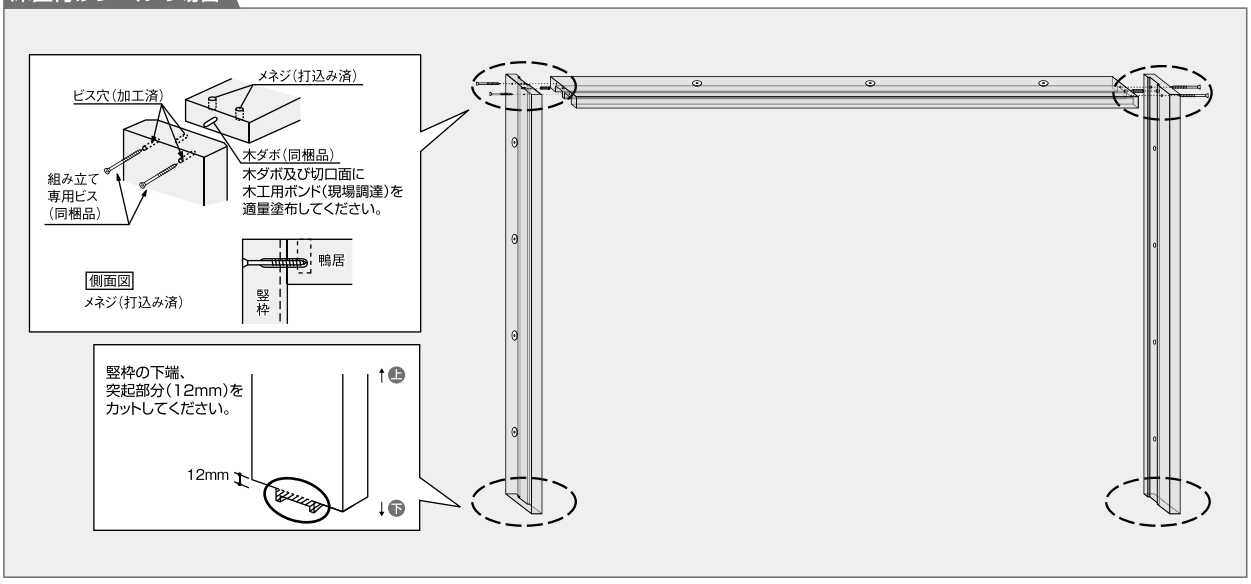
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

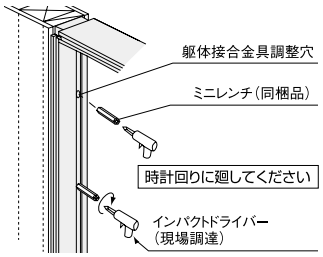


4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

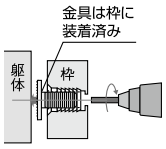
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

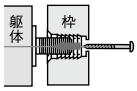


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

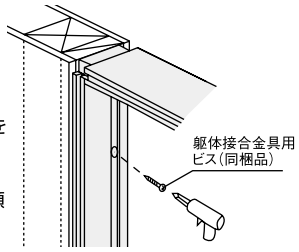
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

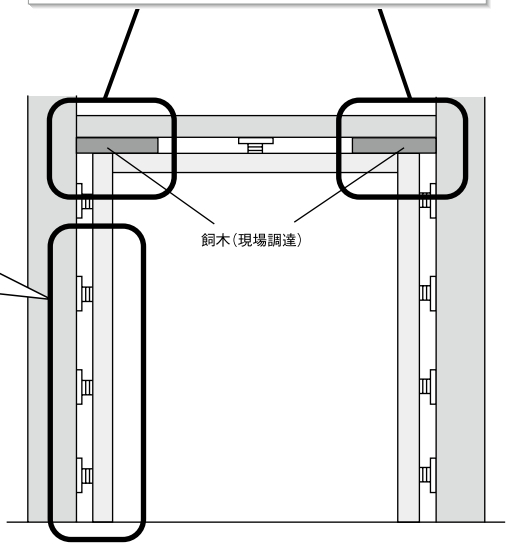
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



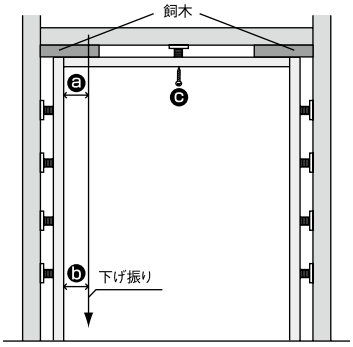
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

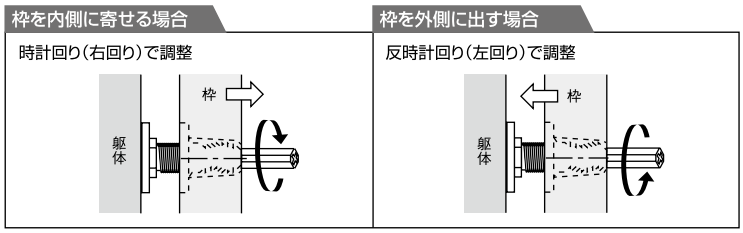


5 建て付け調整と鴨居の本固定

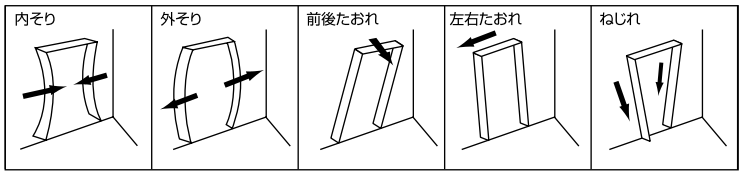
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



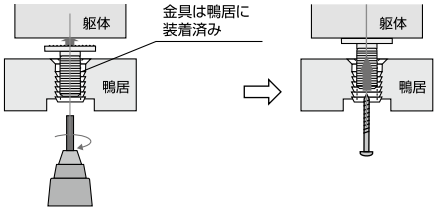


※下記の様なことがないようご注意ください。

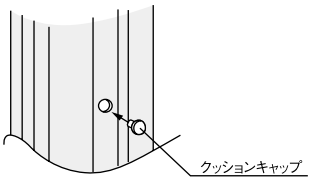


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



4枚引き違い戸 専用枠材

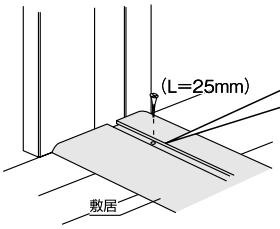
6 敷居・床直付けレールの取り付け

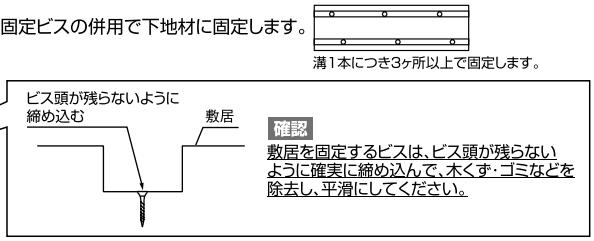
敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

溝1本につき3ヶ所以上で固定します。

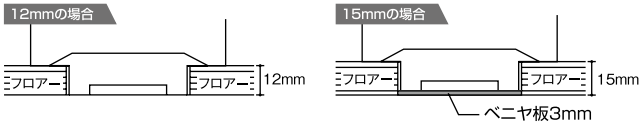




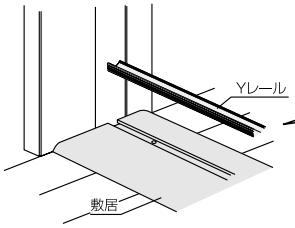
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

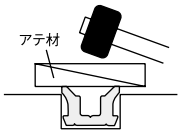
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

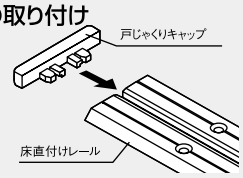
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

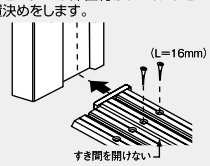


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

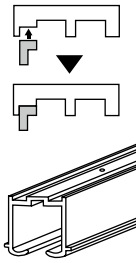
7 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。

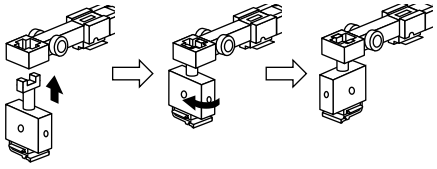
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

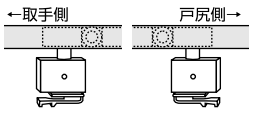
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

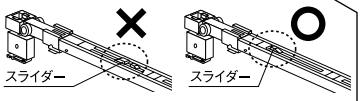


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

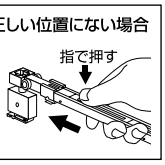
⚠注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

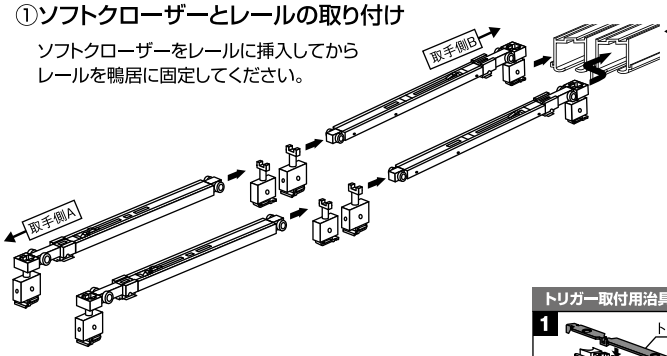
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

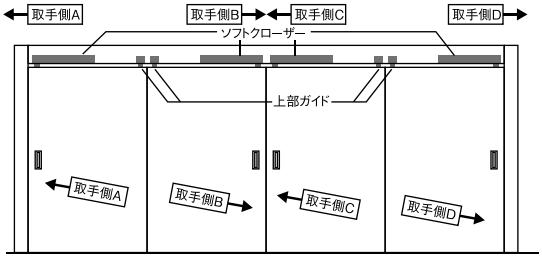


片側ソフトクローズ 仕様 標準

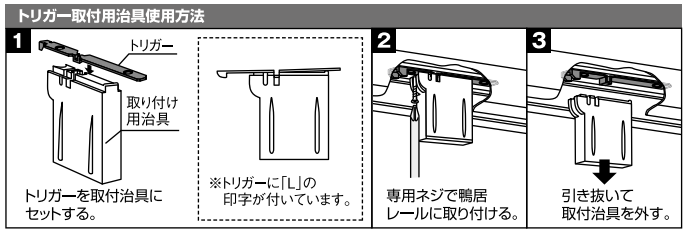
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

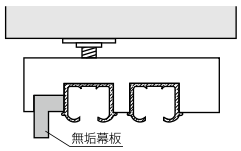


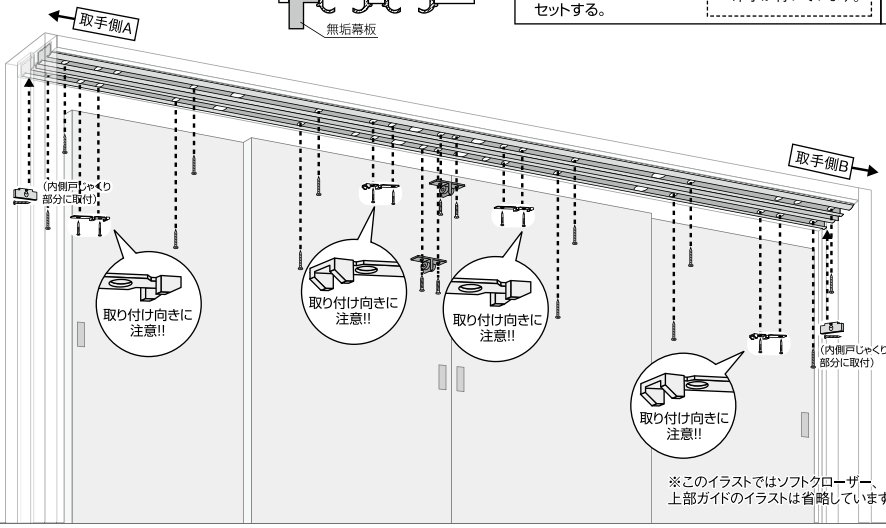


トリガー取付用治具使用方法

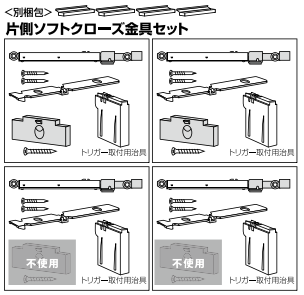


②鴨居レールの取り付け



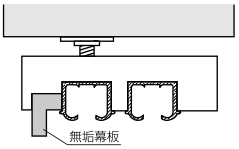


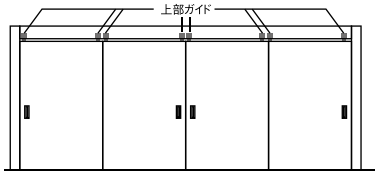
※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

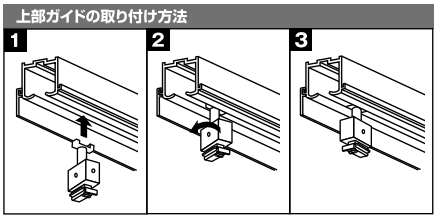




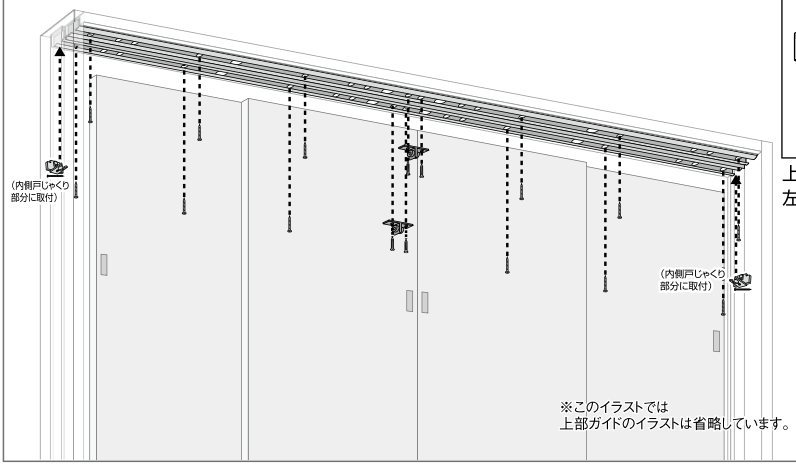
⚠注意

上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

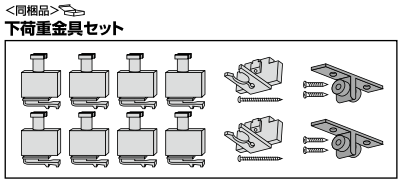
上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。



※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。

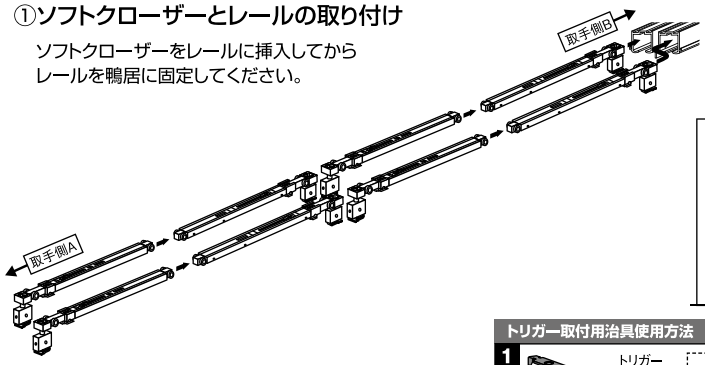


4枚引き違い戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

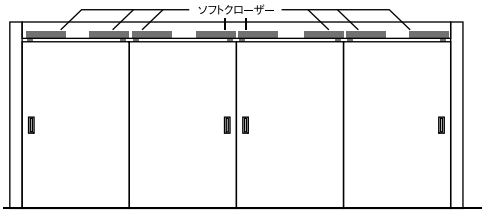
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

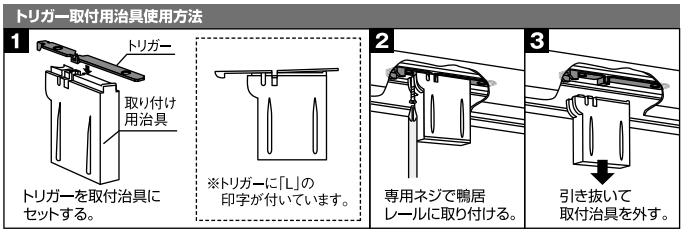


⚠注意

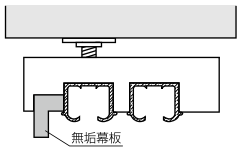
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法により
ソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

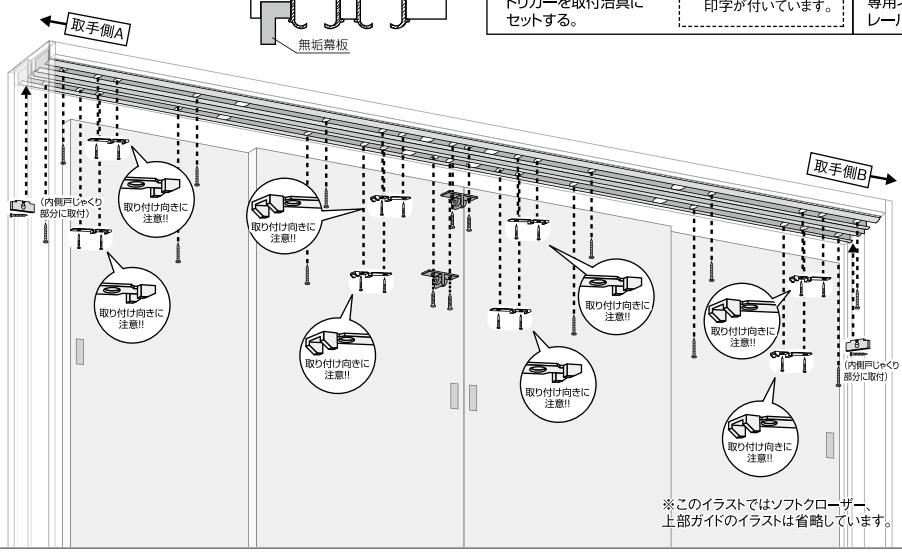


トリガー取付用治具使用方法

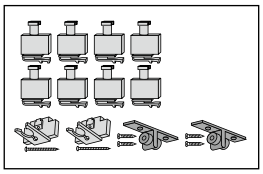


②鴨居レールの取り付け

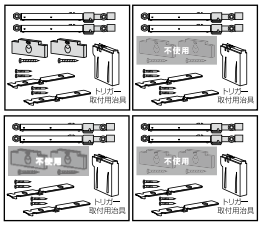




<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



片引き戸・引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	1本
	引き違い戸	2本	ー	ー	ー	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm
入数	片引き戸	ZYNK04	2個	2個	4本
	引き違い戸	ZYNH04	4個	2個	8本
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01	ー

ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16
入数	片引き戸	ZYMK01-□	2本	6本	5本	9本のみ使用（10本入）	1本	8個
	引き違い戸	ZYMH01-□	2本	4本	9本	9本のみ使用（11本入）	1本	8個
備考（部材品番等）			ー	ー	床直付けレールの場合は使用しません。		ー	ー

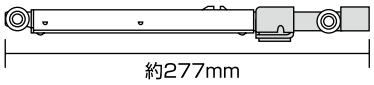
別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合 敷居		床直付けレールの場合 床直付けレール			ケーシングセット	
入数	片引き戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス8本	縦用4本	横用2本
	引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス16本	縦用4本	横用2本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

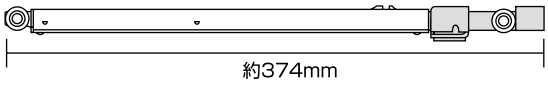
下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名			ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
セット品番	片引き戸	引き違い戸						
入数 ZH23SC-Y	片側SC付 枠外1324・1190	ー	1	ー	1	ー	1	1
ZH23LC-Y	片側SC付 枠外1824・1644・1450	片側SC付（×2セット）	ー	1	ー	1	1	1
ZH23SR-Y	両側SC付 枠外1324・1190	ー	2	ー	2	ー	2	1
ZH23MR-Y	両側SC付 枠外1450	ー	1	1	1	1	2	1
ZH23LR-Y	両側SC付 枠外1824・1644	両側SC付（×2セット）	ー	2	ー	2	2	1

Ⓐ ショートストロークソフトクローザー



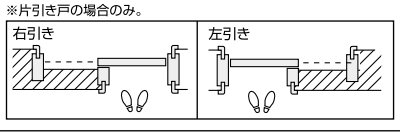
Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



片引き戸 専用枠材

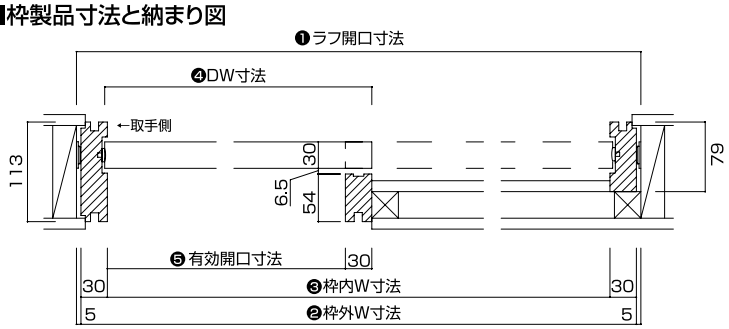
2. 片引き戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

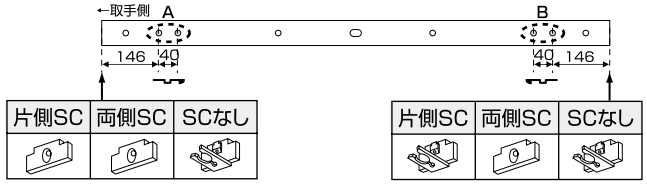
（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654	1,460	1,334	1,200
❷枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❸枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❹DW寸法	900	810	713	650	583
❺有効開口寸法	867	777	680	617	550

■レール詳細図

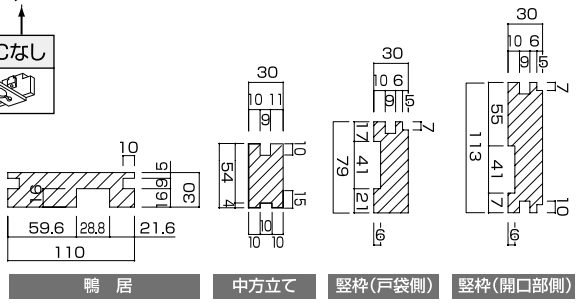


■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A
両側ソフトクローズ仕様	A·B

POINT

トリガーの取り付け向きに注意してください。

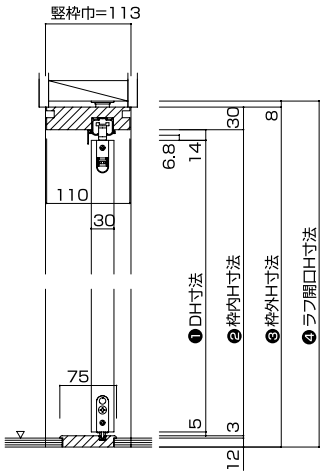


※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

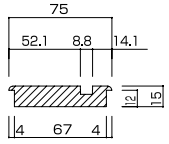
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

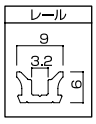


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

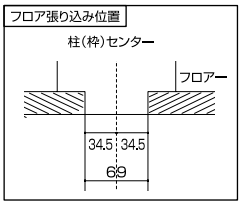
敷居詳細図



レール

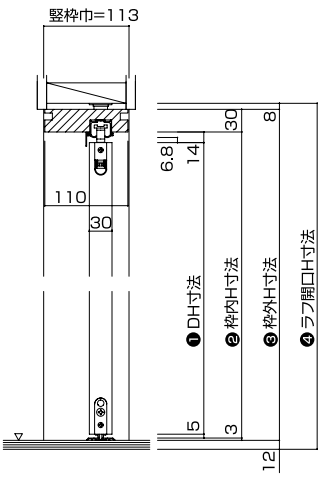


フロア張り込み位置



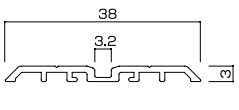
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

床直付けレール図

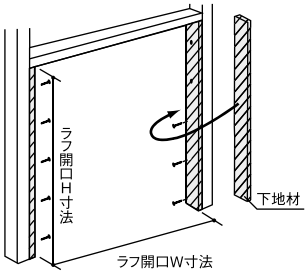


3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

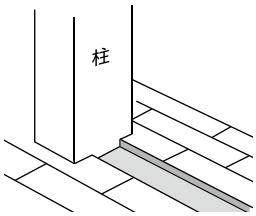
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

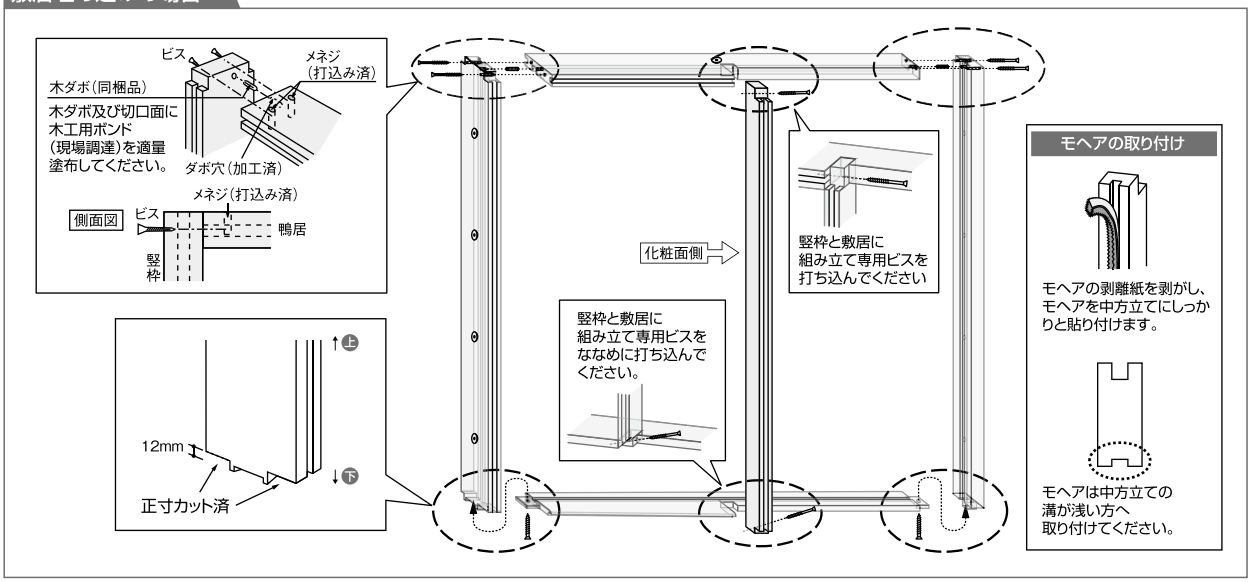


3 枠材の組み立て

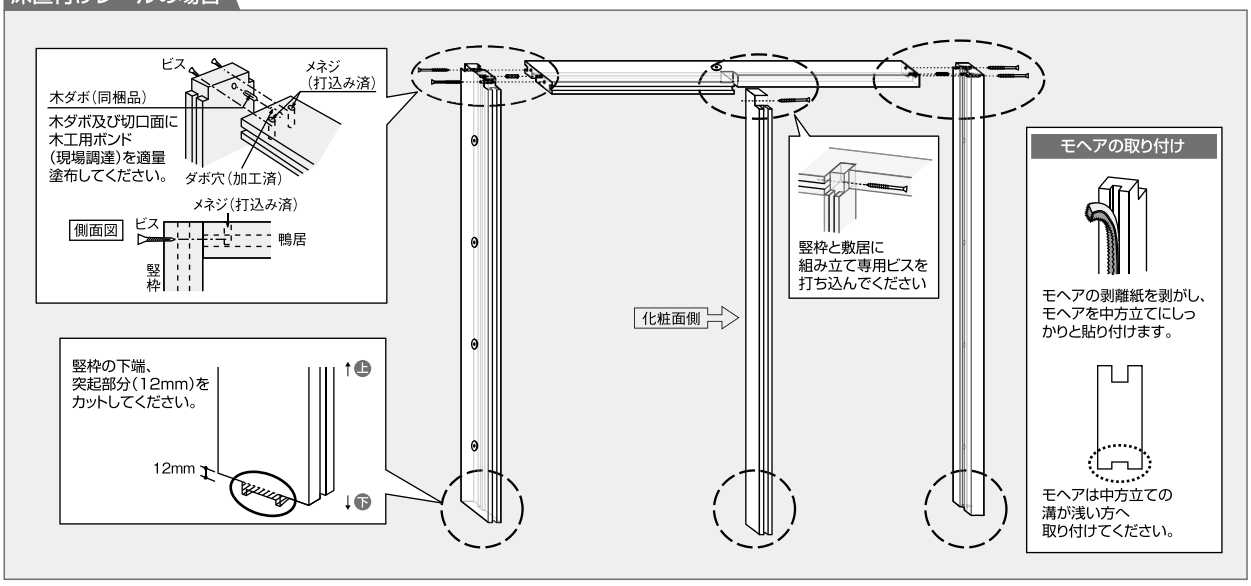
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



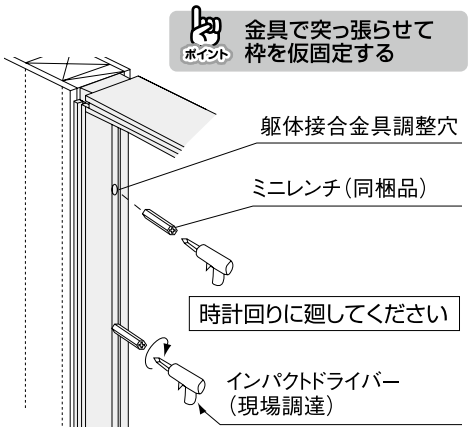
片引き戸 専用枠材

4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

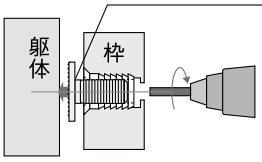
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

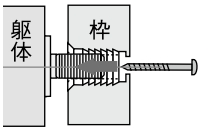


⚠注意

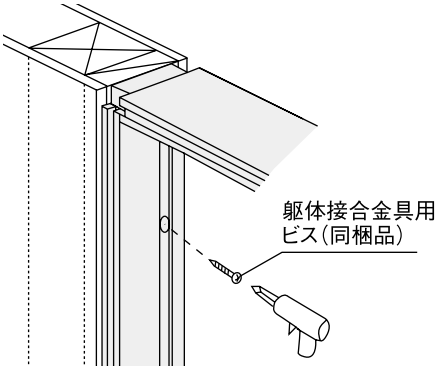
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

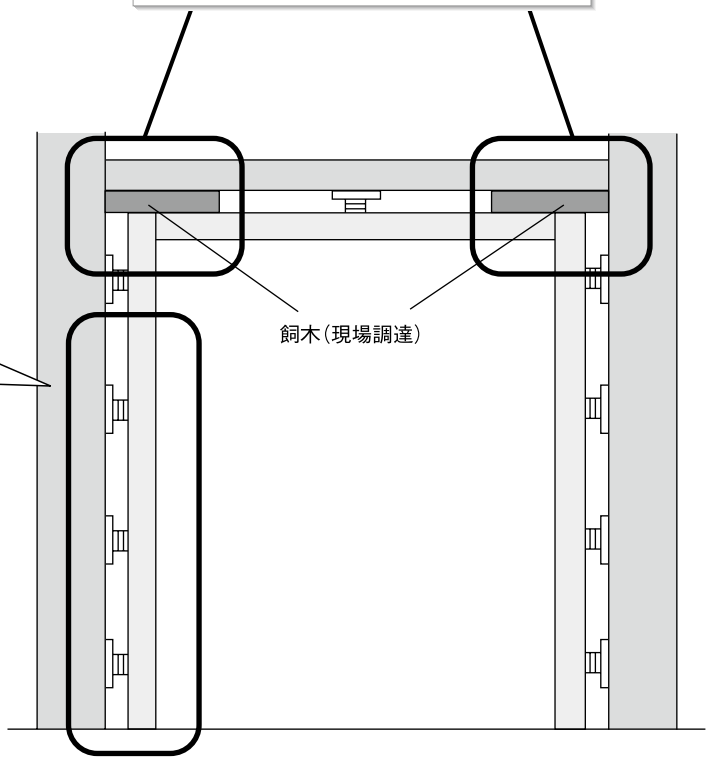


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

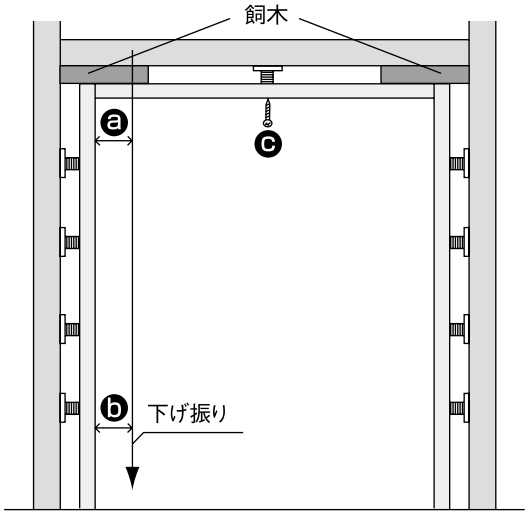
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

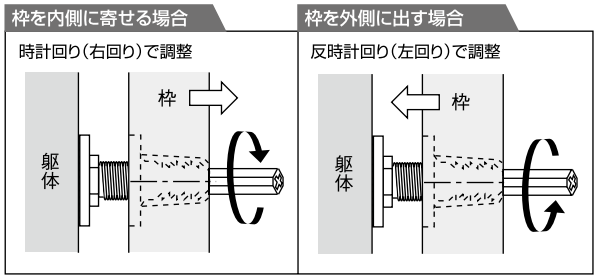


5 建て付け調整と鴨居の本固定

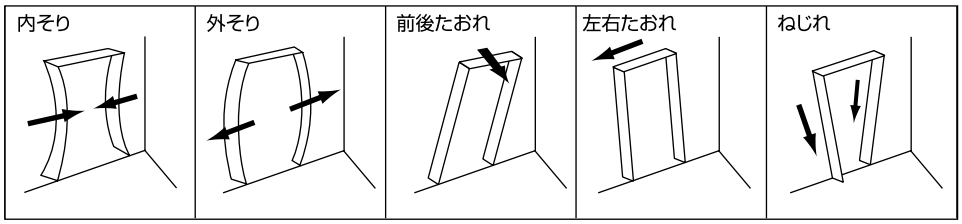
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



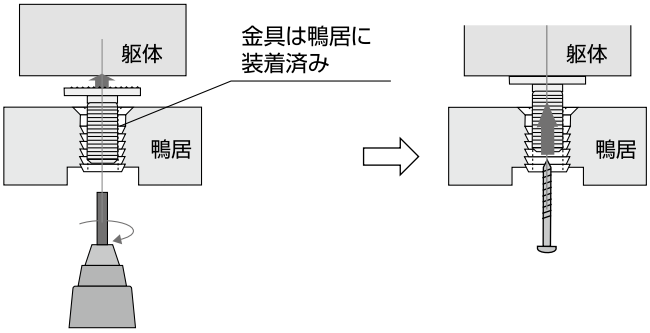


※下記の様なことがないようご注意ください。

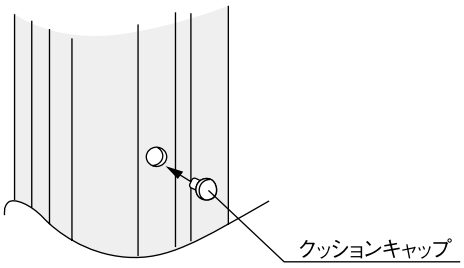


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



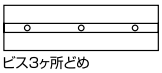
片引き戸 専用枠材

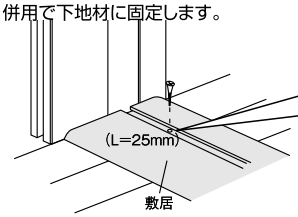
6 敷居・床直付けレールの取り付け

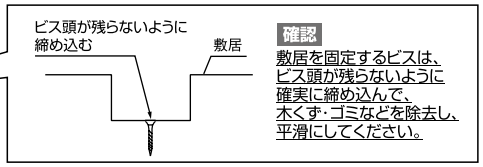
敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

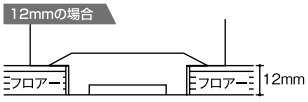


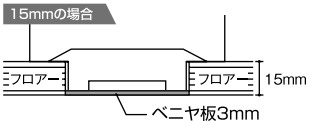




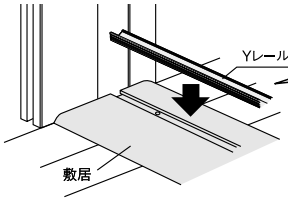
⚠注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

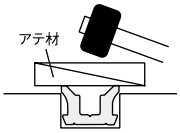




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

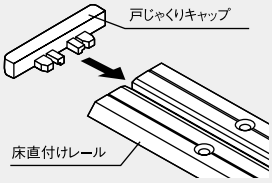
⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

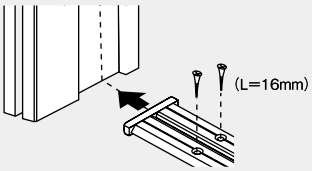


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

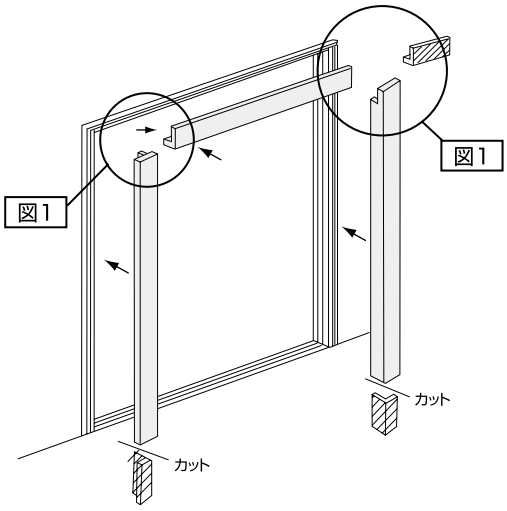
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

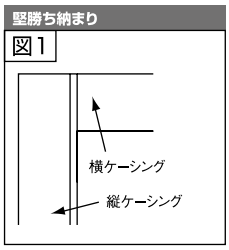


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



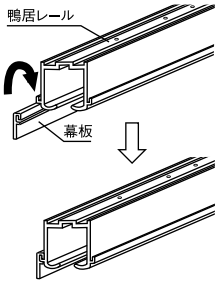


8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

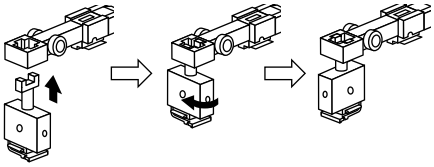
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

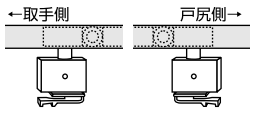
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くようにに取り付けてください。

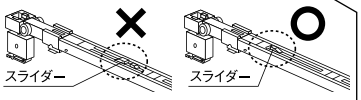


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

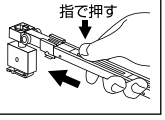
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

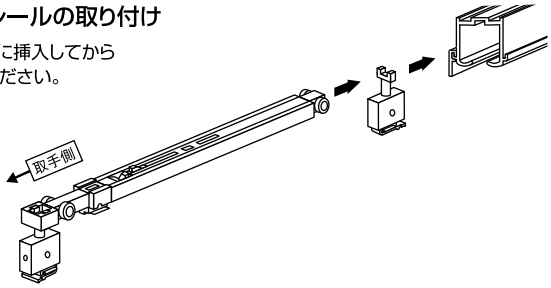
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

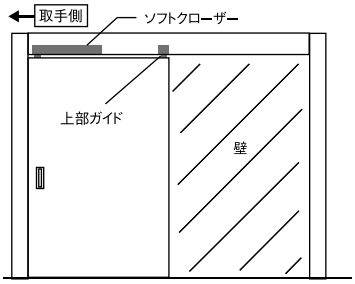


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

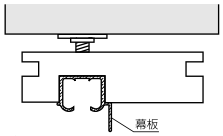
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



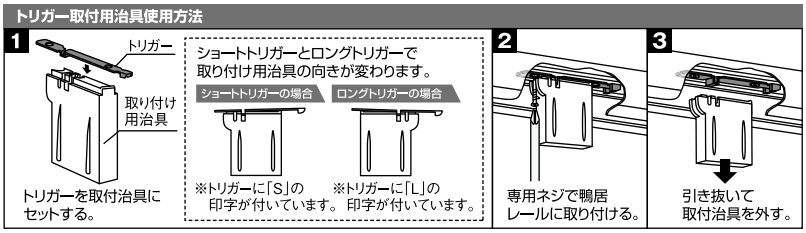


②鴨居レールの取り付け

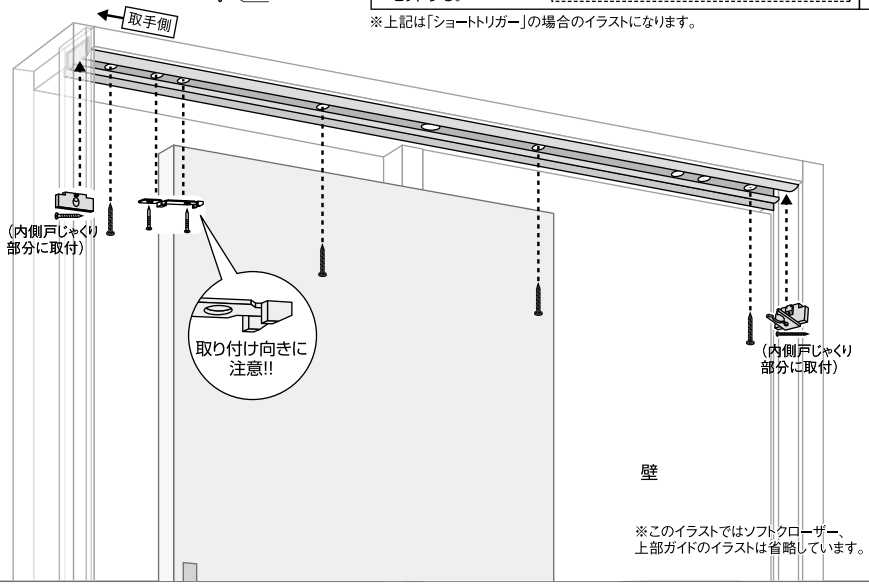
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

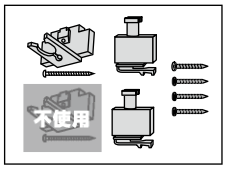


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

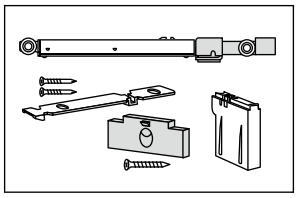


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

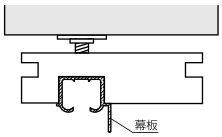


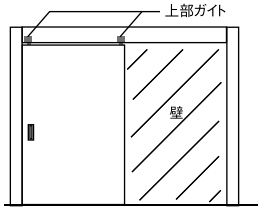
片引き戸 専用枠材

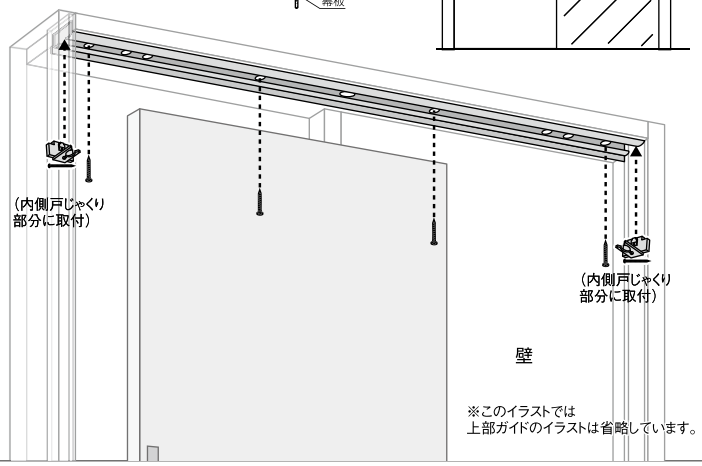
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。





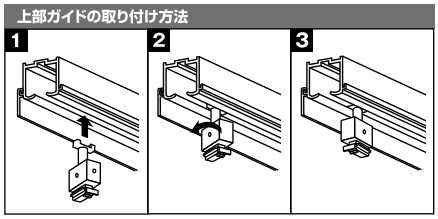


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

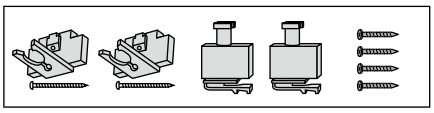
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

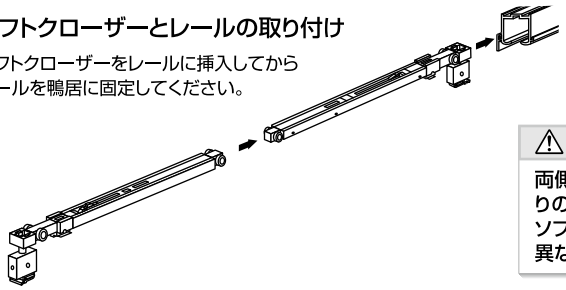
<同梱品>
下荷重片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

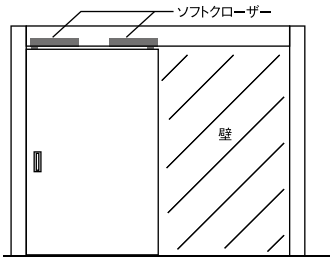
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



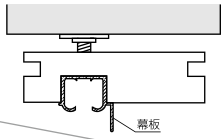
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

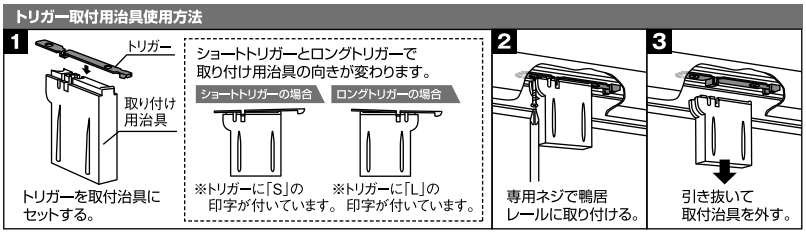


②鴨居レールの取り付け

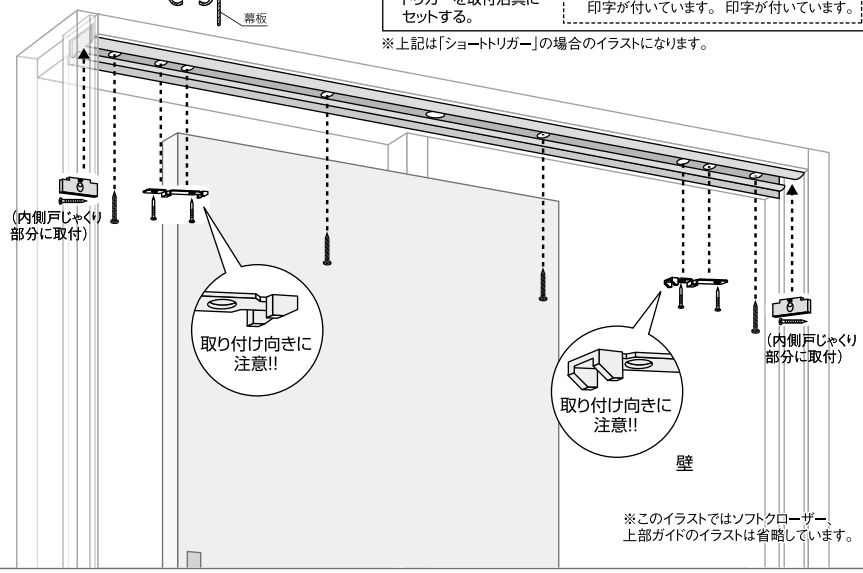
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

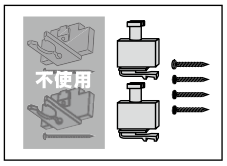


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

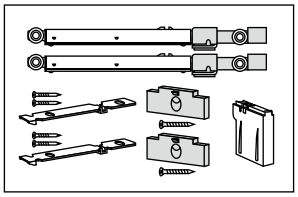


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



引き違い戸 専用枠材

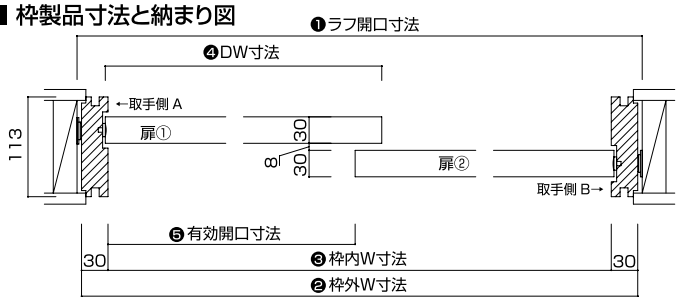
4. 引き違い戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

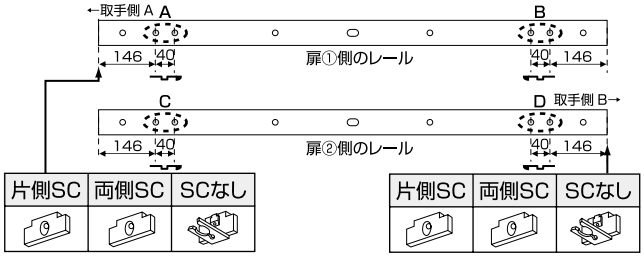
（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



製品寸法	1,824	1,644
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654
❷枠外W寸法	1,824	1,644
❸枠内W寸法	1,764	1,584
❹DW寸法	900	810
❺有効開口寸法	867	777

■ レール詳細図



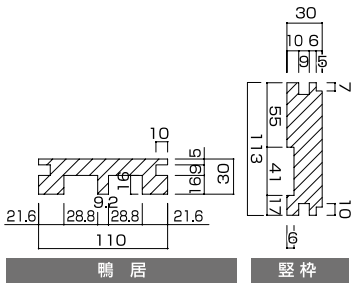
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

A·C　B·D

トリガーの取り付け向きに注意してください。

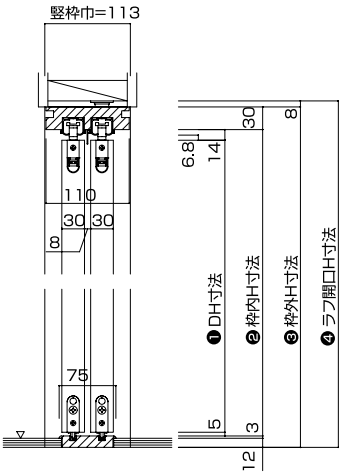


※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

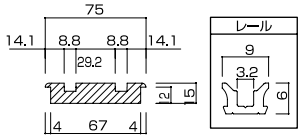
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

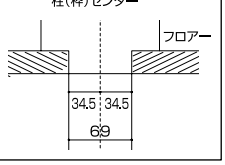


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

敷居詳細図

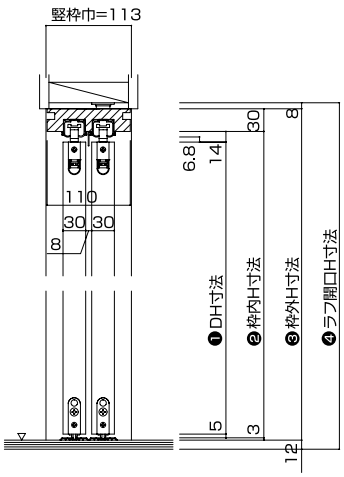


フロア張り込み位置



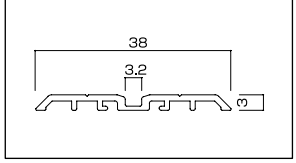
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

床直付けレール図



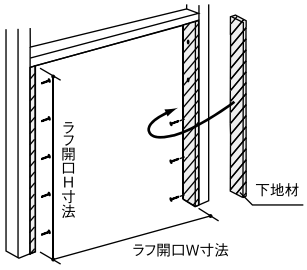
引き違い戸 専用枠材

5. 引き違い戸　施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

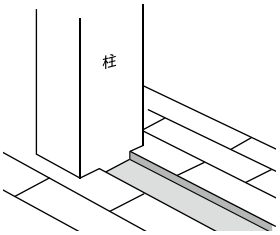
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

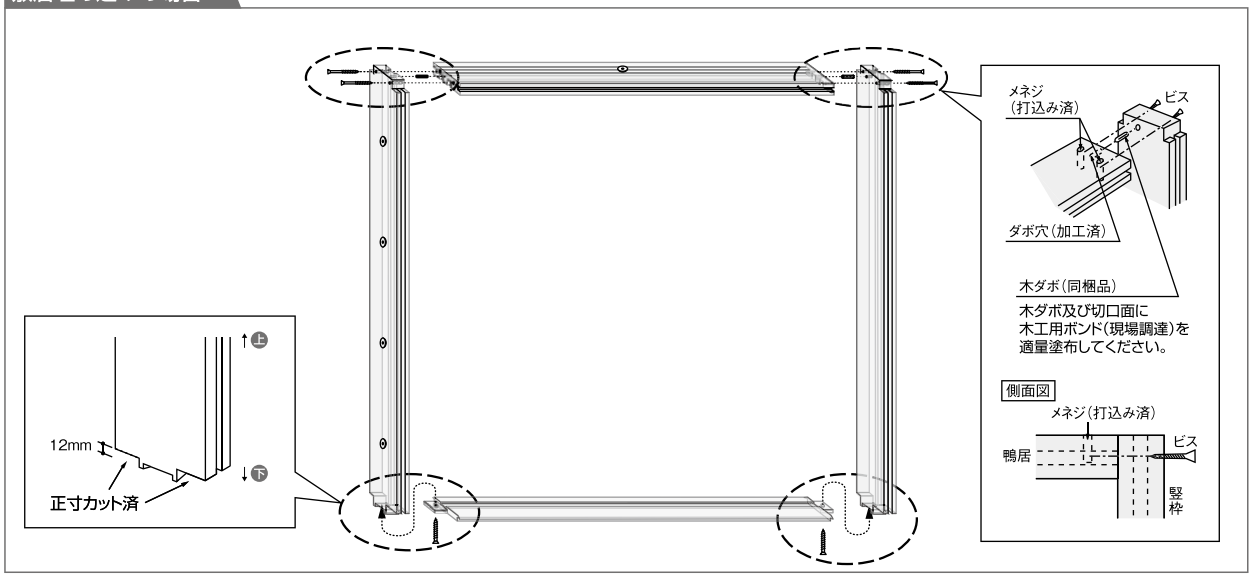


3 枠材の組み立て

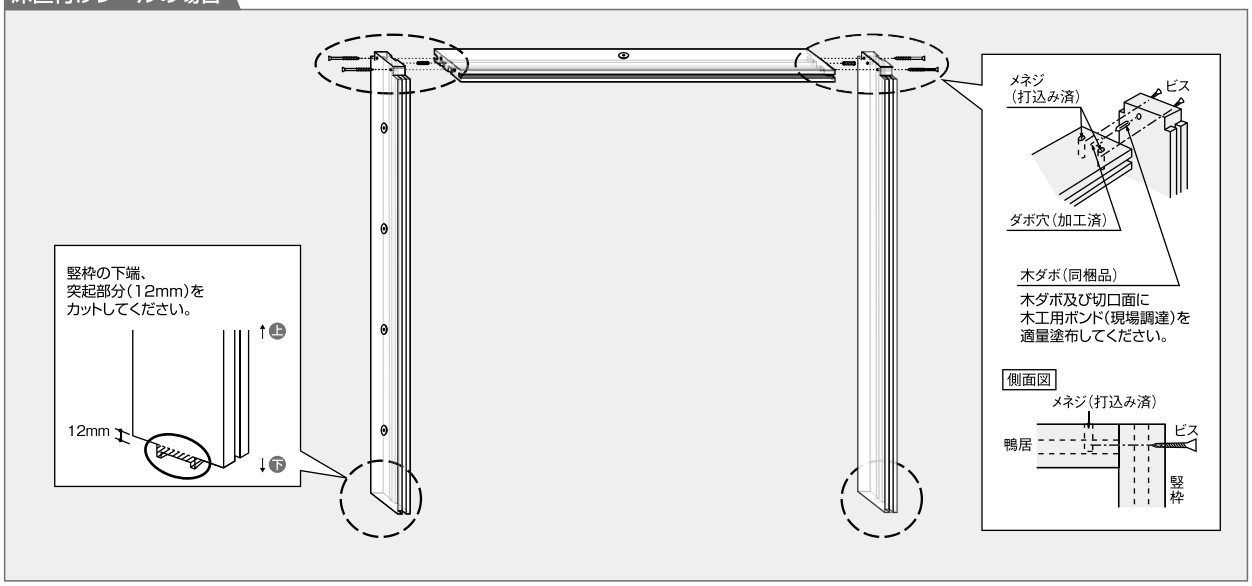
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

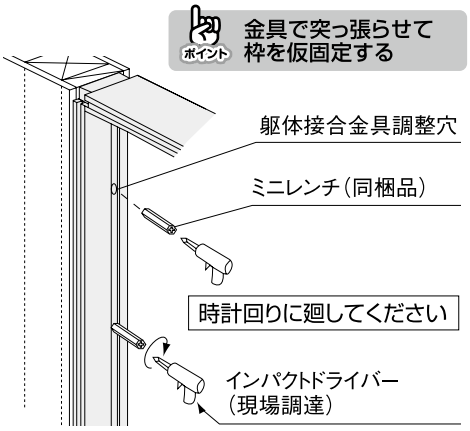


4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

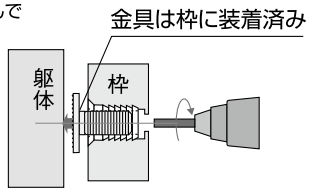
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

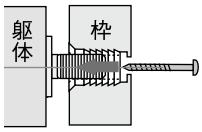


⚠注意

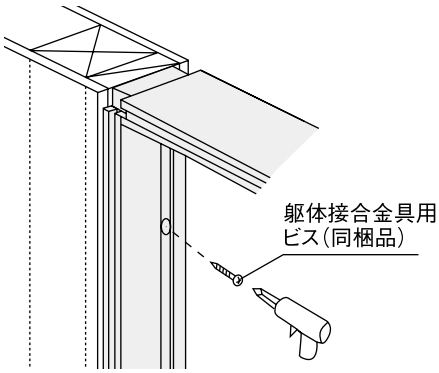
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

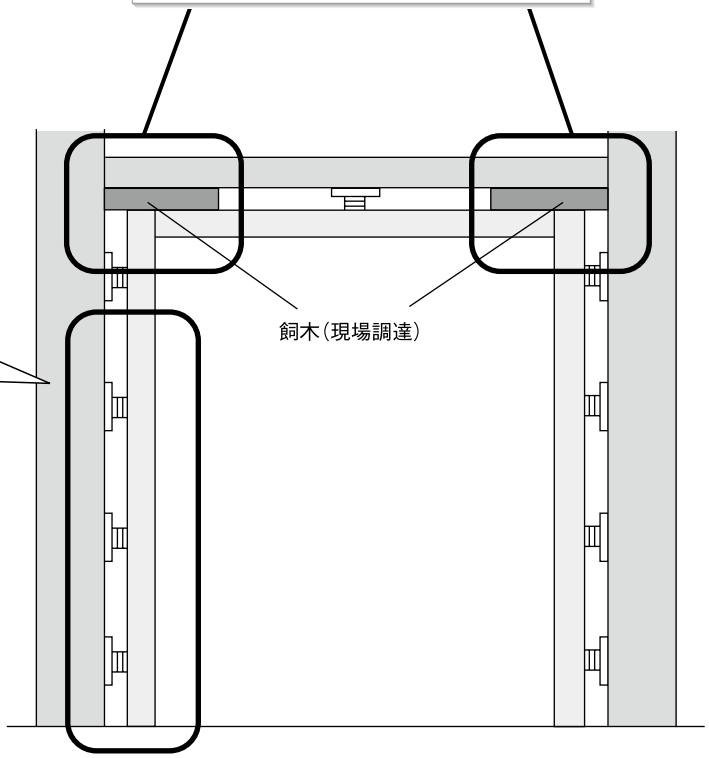


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

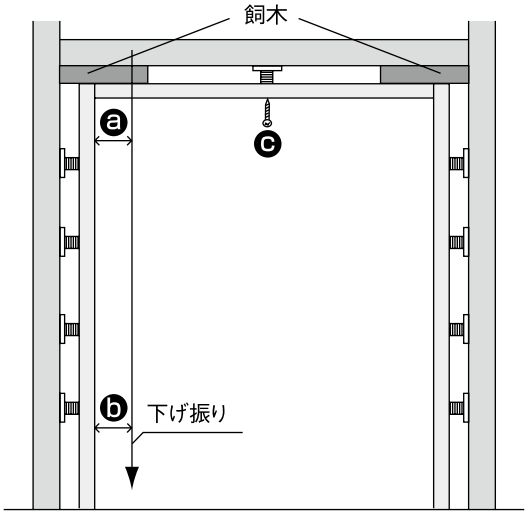


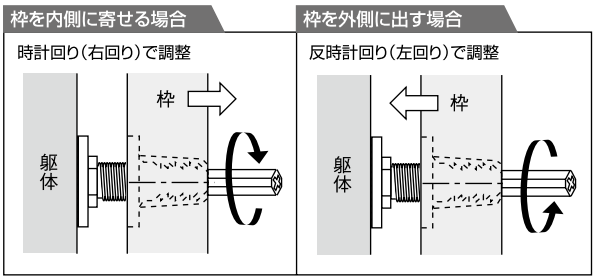
引き違い戸 専用枠材

5 建て付け調整と鴨居の本固定

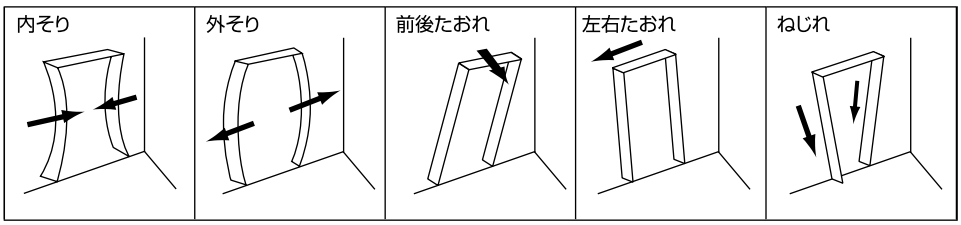
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



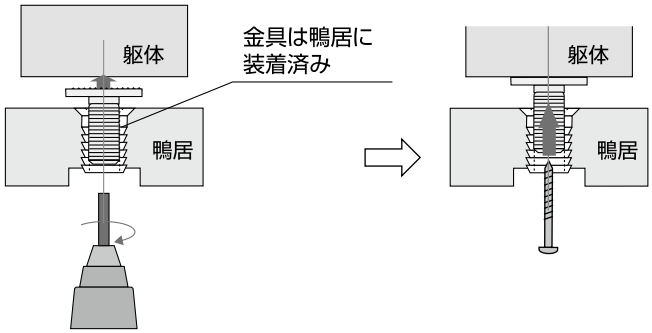


※下記の様なことがないようご注意ください。

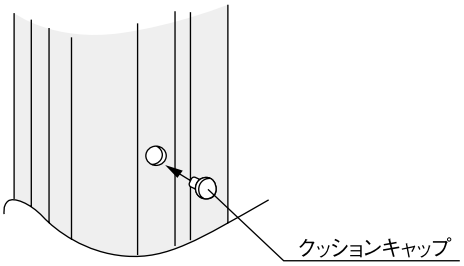


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。

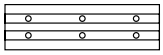


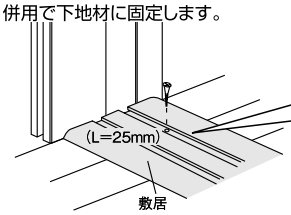
6 敷居・床直付けレールの取り付け

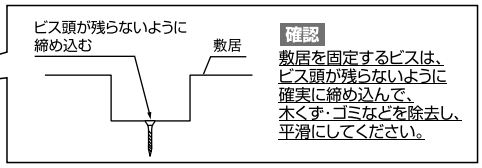
敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。



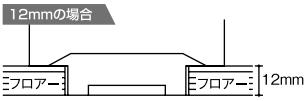


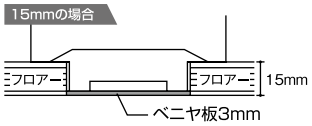


⚠注意

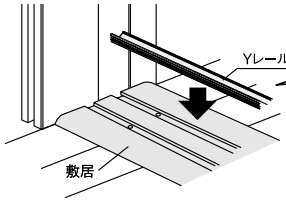
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

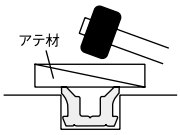




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

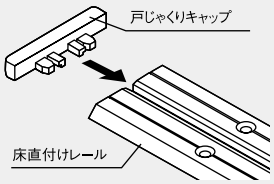
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

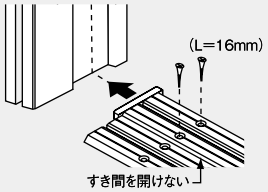


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。2本目以降の床直付けレールはレールとレールの間にすき間が出来ないように並べて取付けてください。

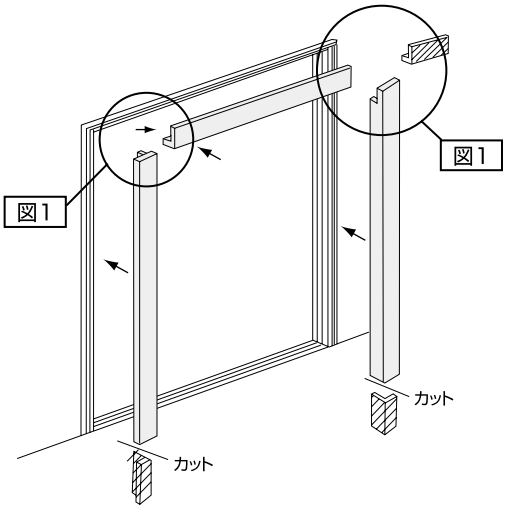
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

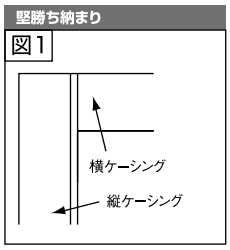


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。





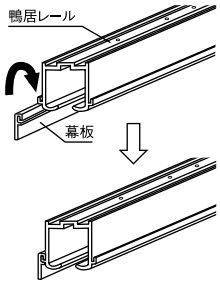
引き違い戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

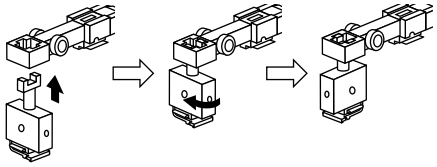
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

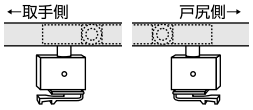
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側･戸尻側に向くように取り付けてください。

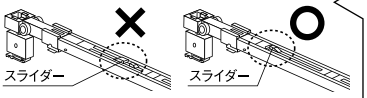


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

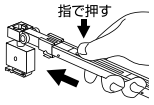
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

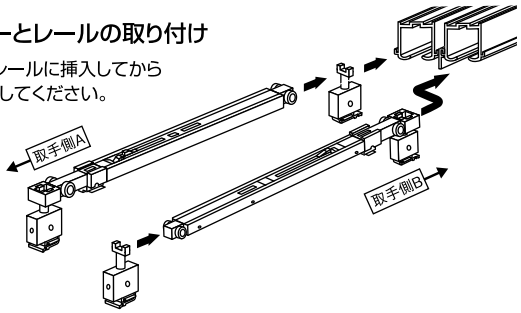
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

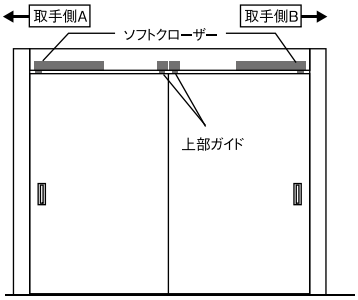


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

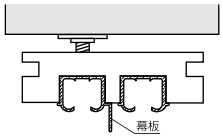
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



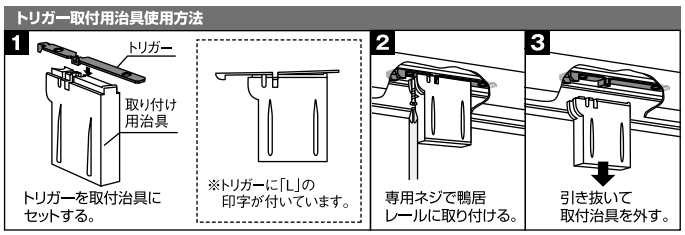


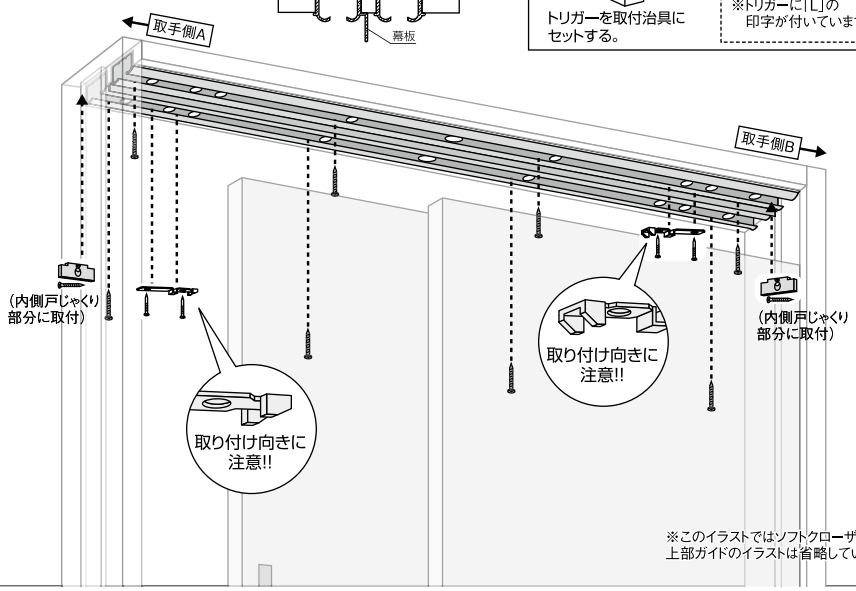
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



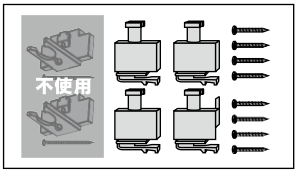
トリガー取付用治具使用方法



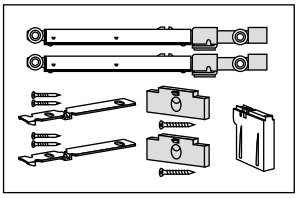


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



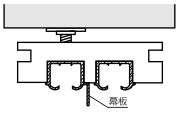
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

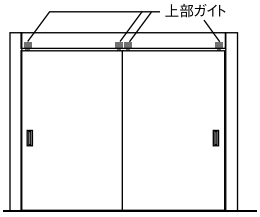


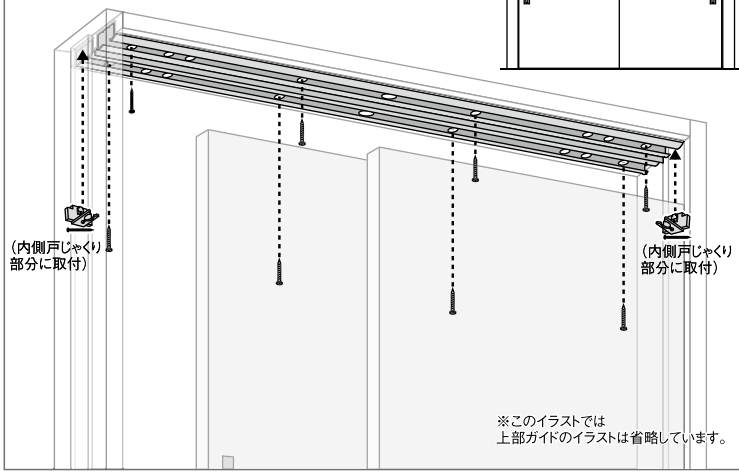
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。





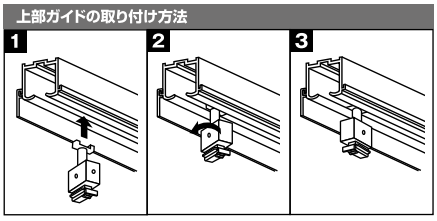


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

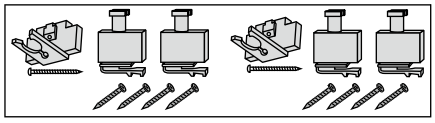
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

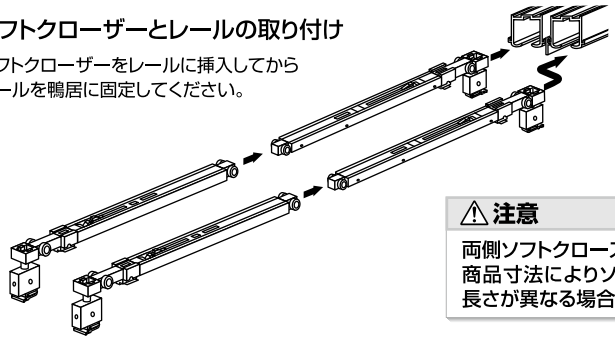
<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット

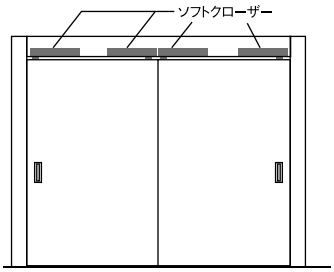


両側ソフトクローズ オプション

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



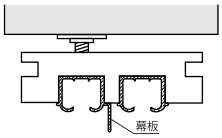


⚠注意

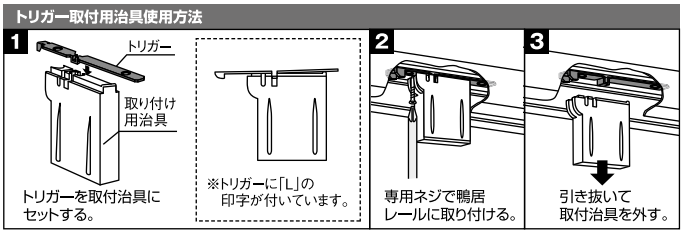
両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

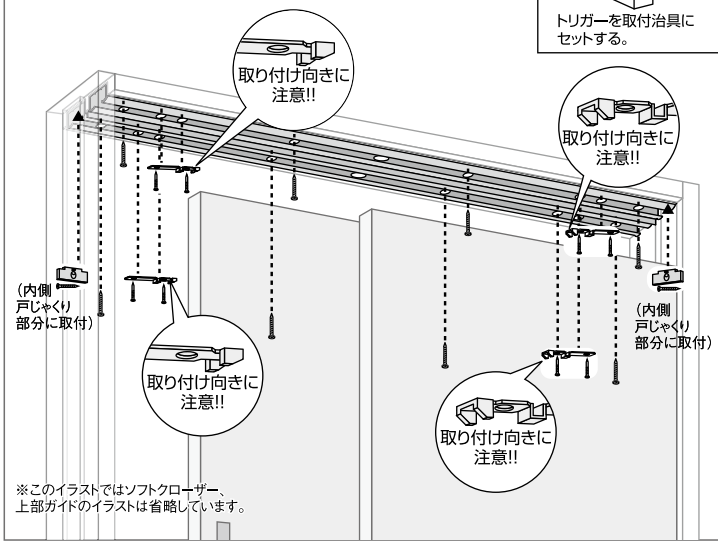
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



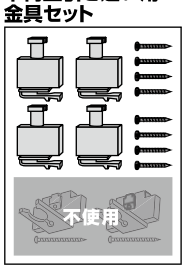
トリガー取付用治具使用方法



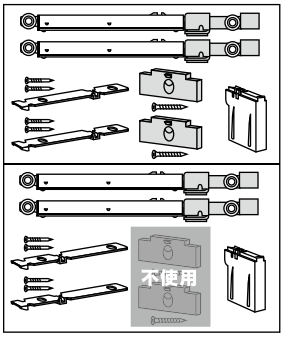


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	引き分け戸	2本	2本	2本	1本	1本	1本
	3枚引き違い戸	2本	ー	ー	1本	3本	1本
	4枚引き違い戸	2本	ー	ー	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー	ー

別梱包

部材名		敷居（敷居埋め込みの場合）		床直付けレール（床直付けレールの場合）		
入数	引き分け戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス13本
	3枚引き違い戸	本体1本	レール3本	レール3本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス30本
	4枚引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス26本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	L型ストッパー	上レール取り付けビス（平ビス）14mm 3.5mm		
								片側SC付	両側SC付	SCなし
入数	引き分け戸	ZYNL08	4個	ー	2個	1個	ー	6本のみ使用（7本入）		
	3枚引き違い戸	ZYNS57	6個	2個	ー	ー	1個	17本のみ使用（21本入）	17本のみ使用（21本入）	18本のみ使用（21本入）
	4枚引き違い戸	ZYNI08	8個	2個	ー	2個	ー	12本のみ使用（14本入）		
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01	ZYTNC01	ZY3337	ZY2526	ー		

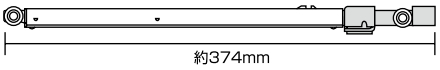
ビスセット（枠本体セットに梱包）

袋の色			赤	赤	赤	黄	黄	透明	透明
部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	躯体接合穴キャップ φ10
入数	引き分け戸	ZYML01-□	2本	8本	9本	10本のみ使用（12本入）	1本	8個	ー
	3枚引き違い戸	ZYMS01-□	2本	4本	11本	11本	1本	8個	8個
	4枚引き違い戸	ZYMH01-□	2本	4本	9本	11本	1本	8個	ー
備考（部材品番等）			ー	ー	床直付けレールの場合は使用しません。	ー	ー	ー	ー

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名					ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	引き分け戸	3枚引き違い戸	4枚引き違い戸				
入数	ZH23LC-Y	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×3セット）	片側SC付（×4セット）	1	1	1	1
	ZH23LR-Y	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×3セット）	両側SC付（×4セット）	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



引き分け戸 専用枠材

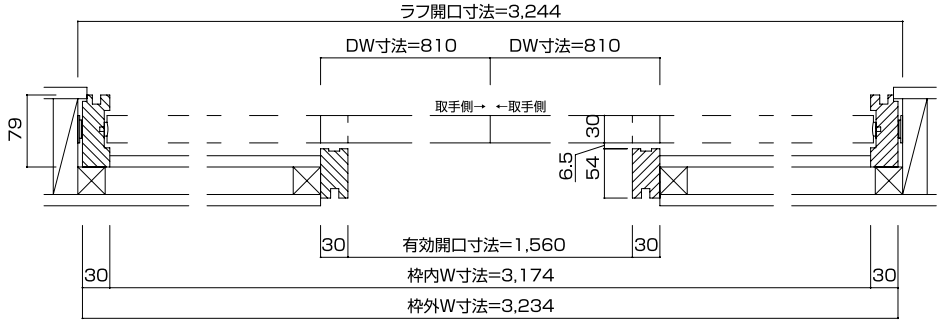
2. 引き分け戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

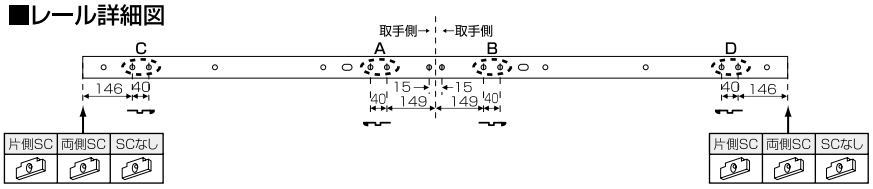
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図

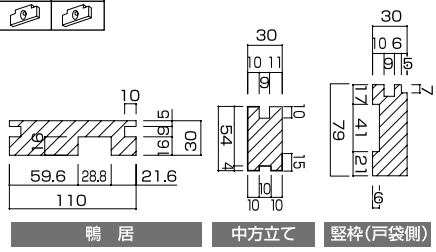


■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

トリガーの取り付け向きに注意してください。

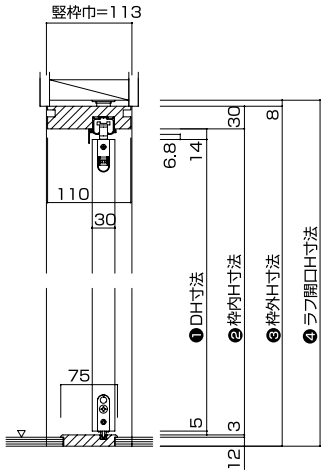


※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

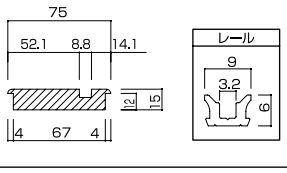
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

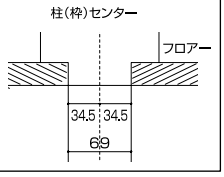


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

敷居詳細図

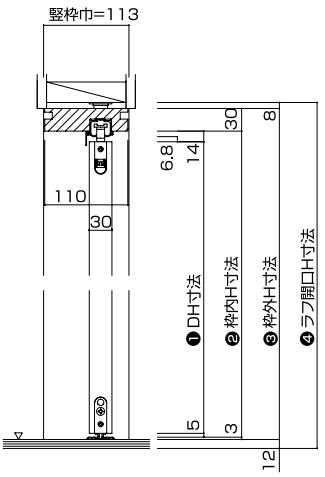


フロア張り込み位置



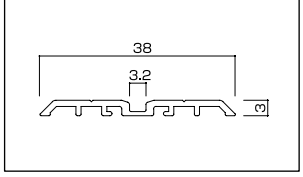
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

床直付けレール図



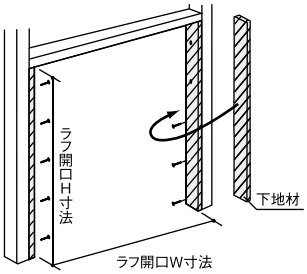
引き分け戸 専用枠材

3. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

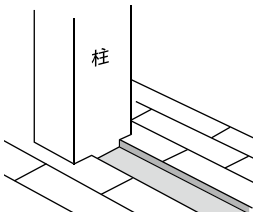
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

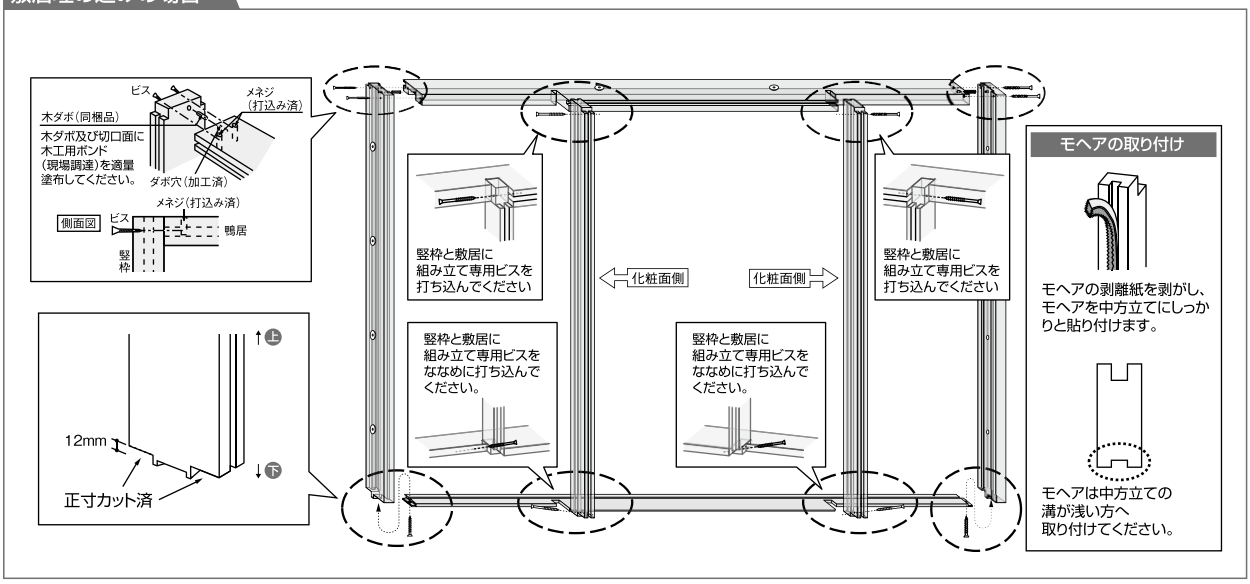


3 枠材の組み立て

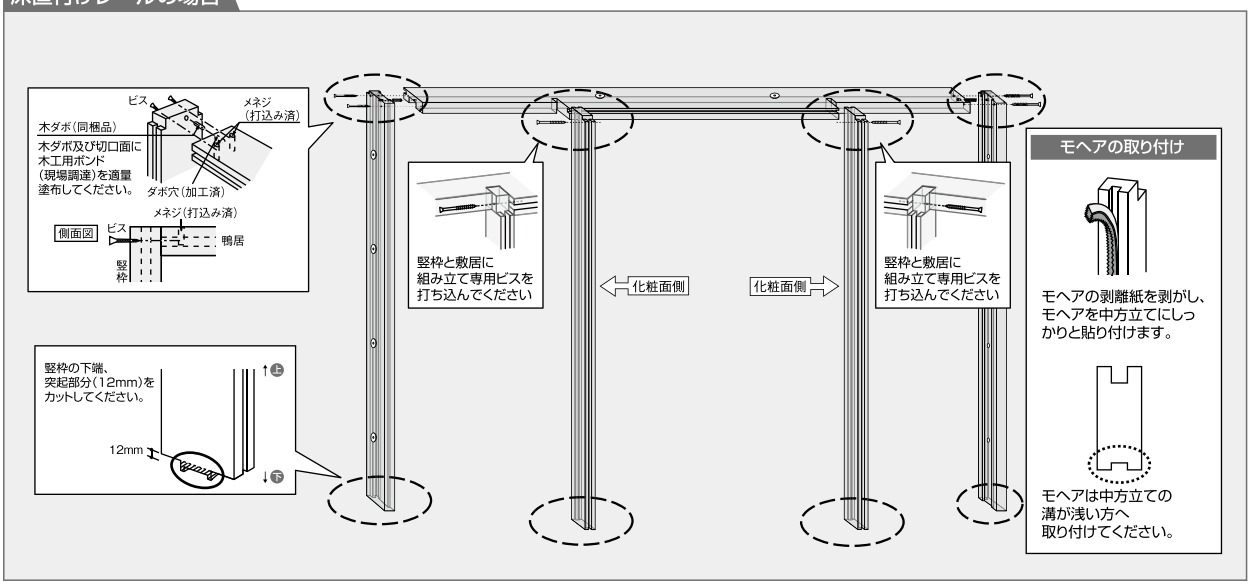
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

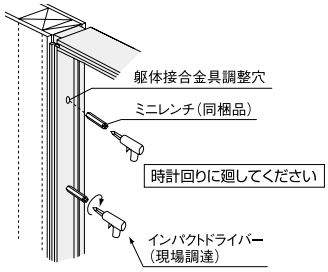


4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

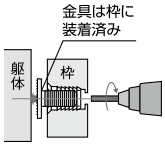
■4方に組んだ枠材（床面付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

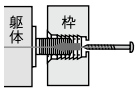


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

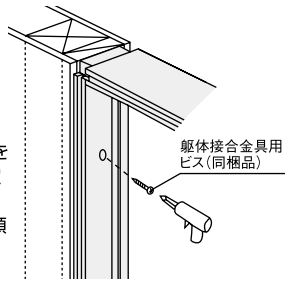
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

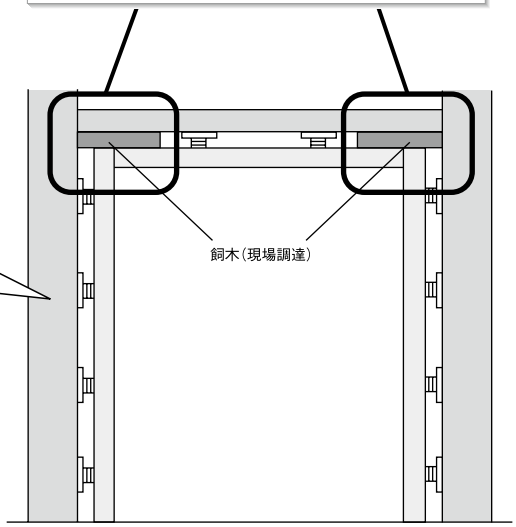
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



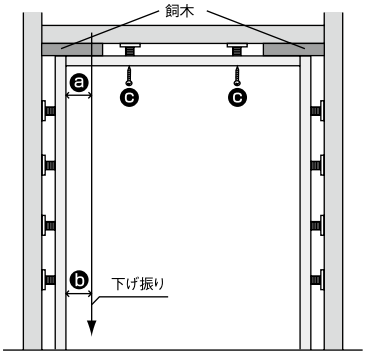
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

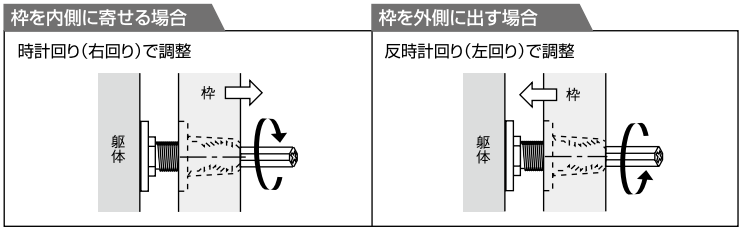


5 建て付け調整と鴨居の本固定

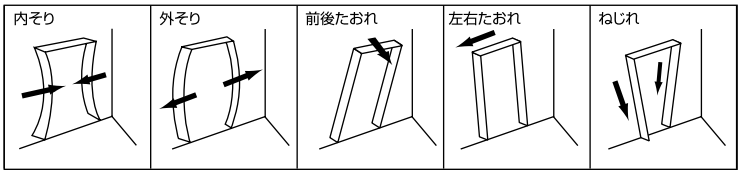
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



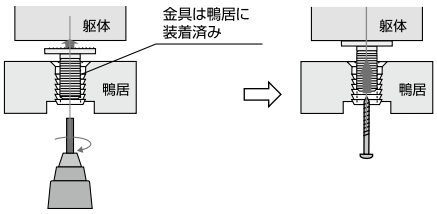


※下記の様なことがないようご注意ください。

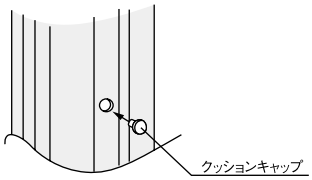


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



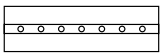
引き分け戸 専用枠材

6 敷居・床直付けレールの取り付け

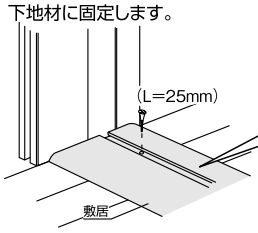
敷居埋め込みの場合

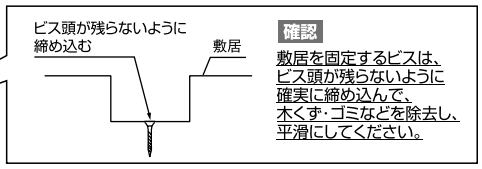
①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

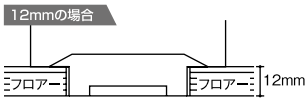


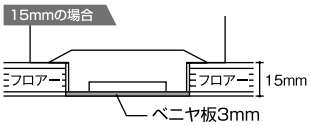
⚠注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。



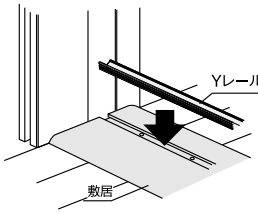


フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

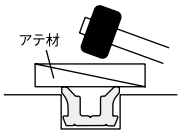




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

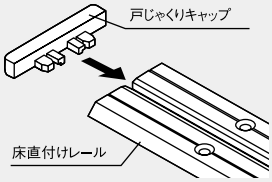
※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

お願い
敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

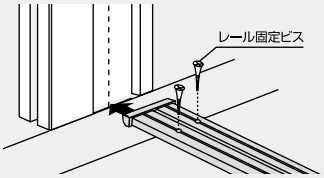


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

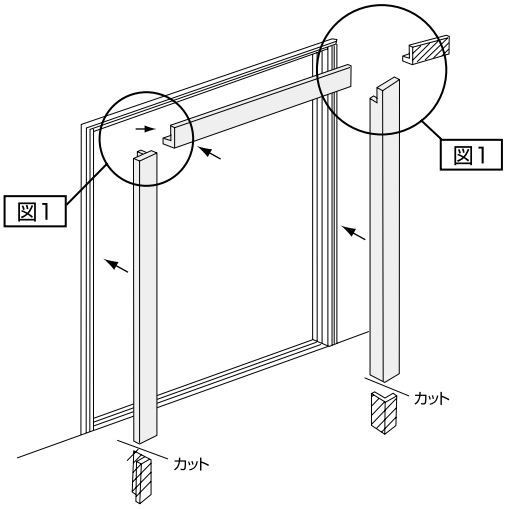
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

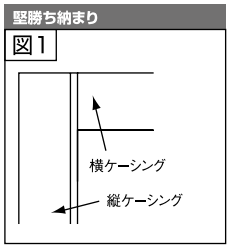


※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



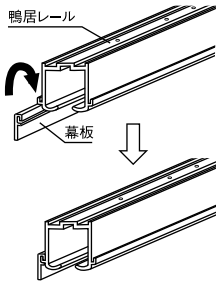


8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

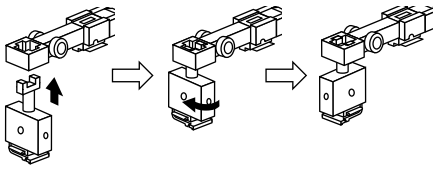
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

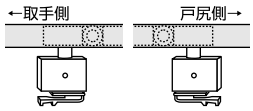
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くようにに取り付けてください。

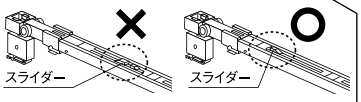


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

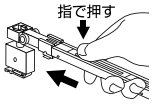
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

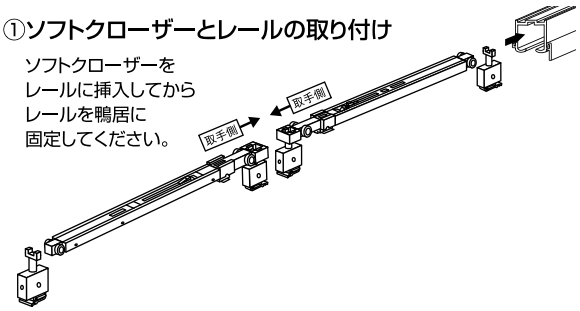
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

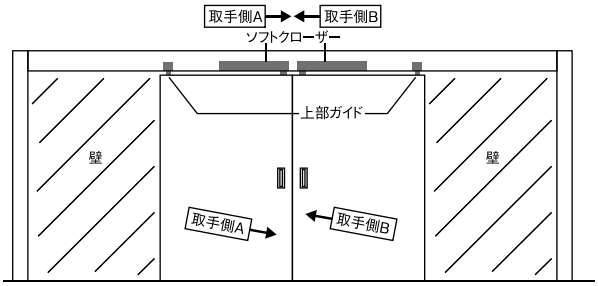


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

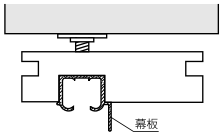
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



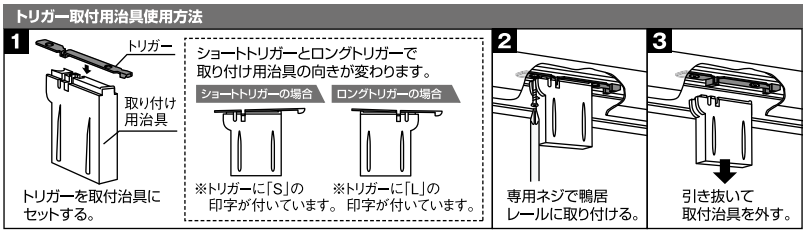


②鴨居レールの取り付け

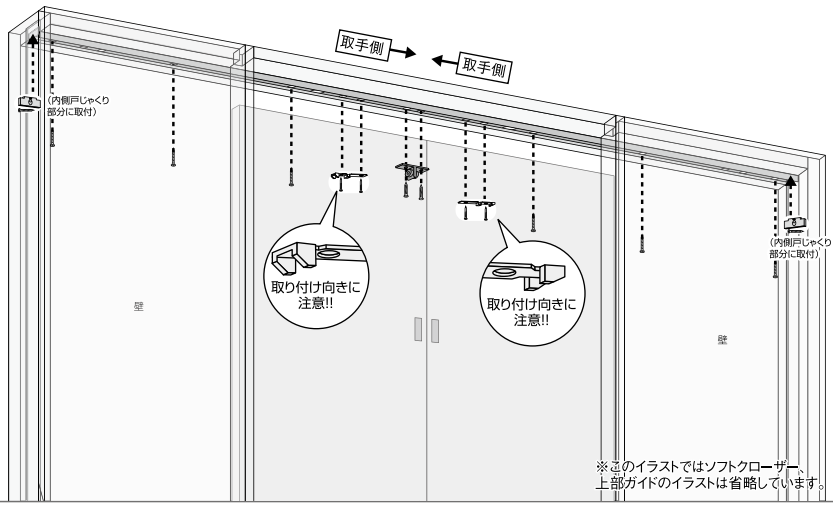
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

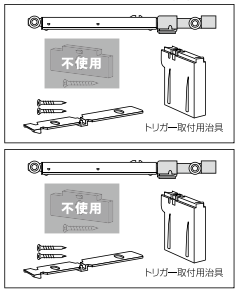


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

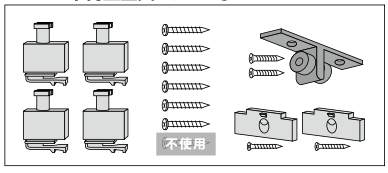


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<別梱包> **片側ソフトクローズ金具セット**



<同梱品> **下荷重金具セット**

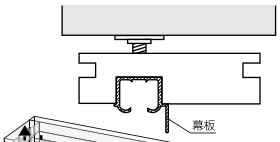


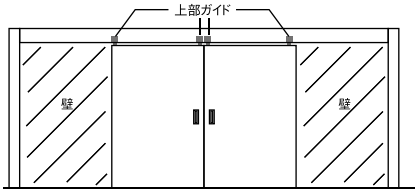
引き分け戸 専用枠材

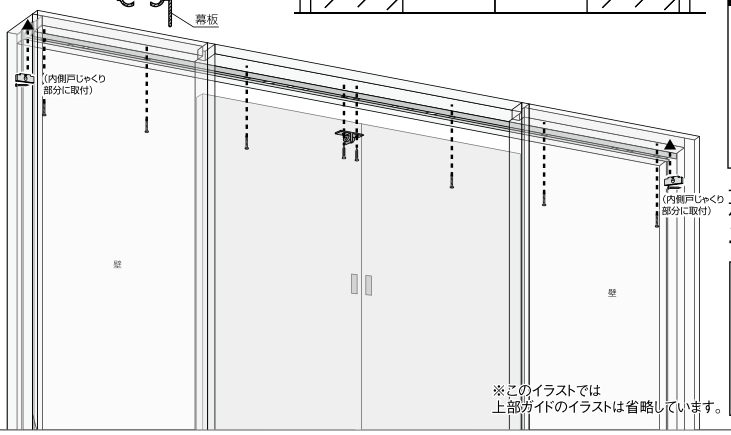
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。





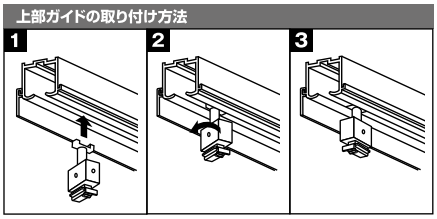


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

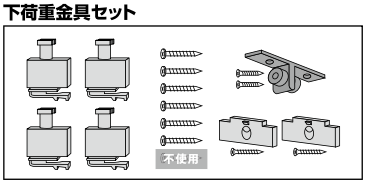
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

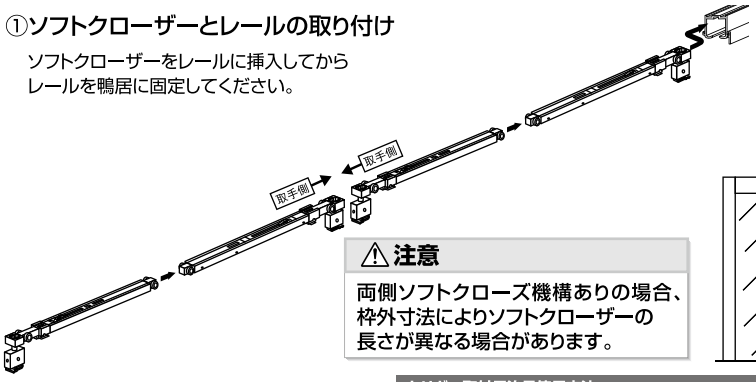
<同梱品>
下荷重金具セット

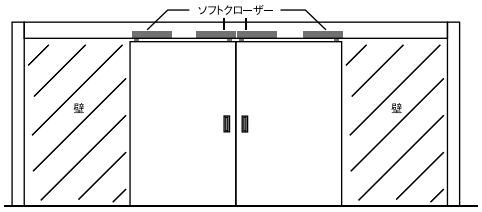


両側ソフトクローズ オプション

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



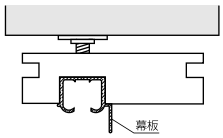


⚠注意

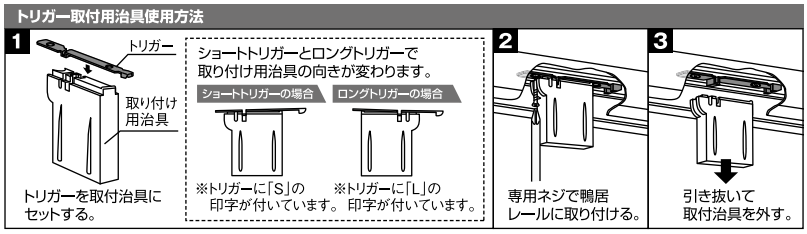
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

②鴨居レールの取り付け

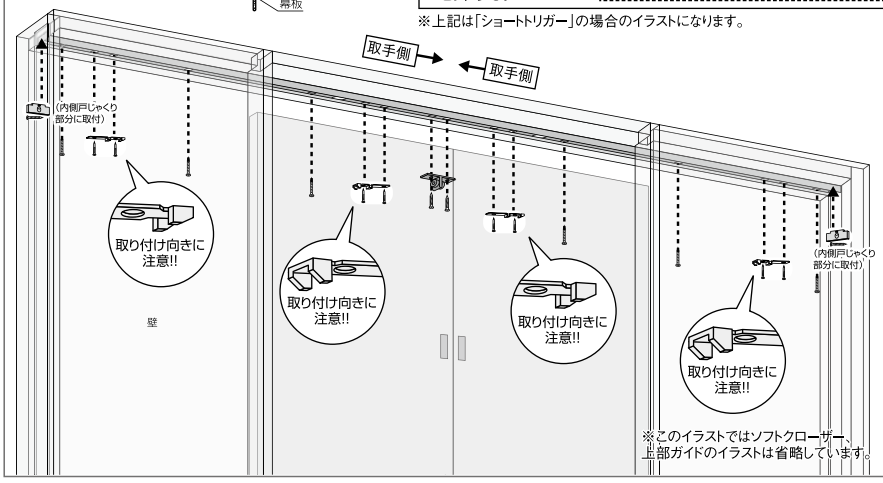
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



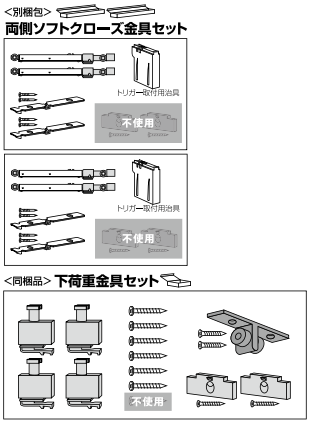
トリガー取付用治具使用方法



※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。



3 枚引き違い戸 専用枠材

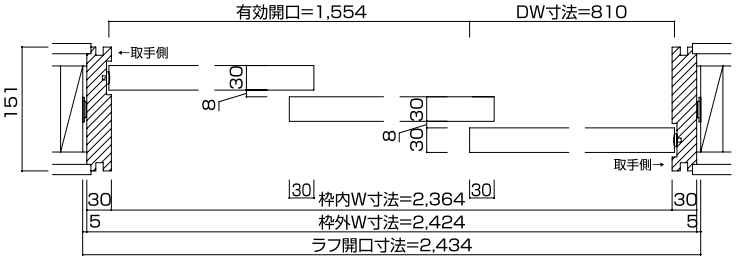
4. 3枚引違い戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



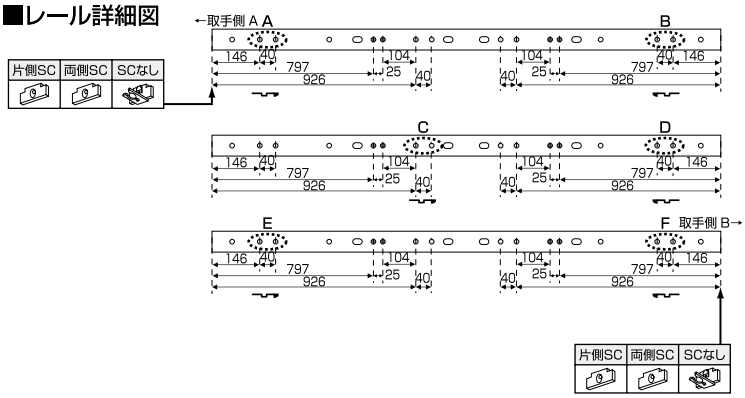
■トリガー取り付け位置

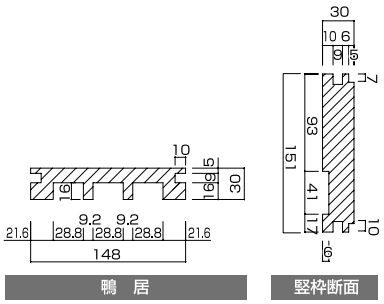
片側ソフトクローズ仕様	A·C·F
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D·E·F

上記レール詳細図を確認し、
トリガー、ストッパーなどの
取り付け位置をご確認ください。

POINT
A·C·E　B·D·F
トリガーの取り付け向きに
注意してください。

■レール詳細図



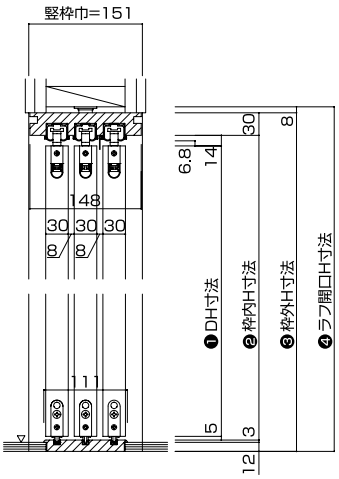


※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

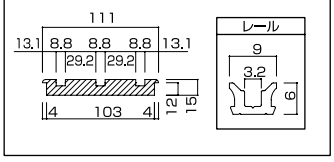
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

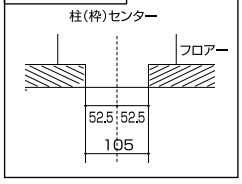


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

敷居（突板タイプ）加工図

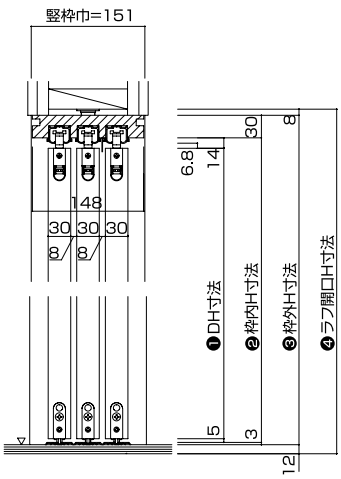


フロア張込位置



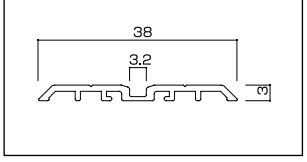
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

床直付けレール図



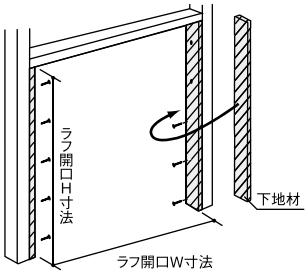
3 枚引き違い戸 専用枠材

5. 3枚引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

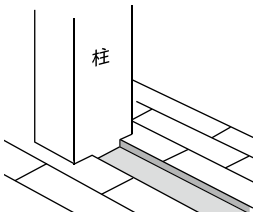
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

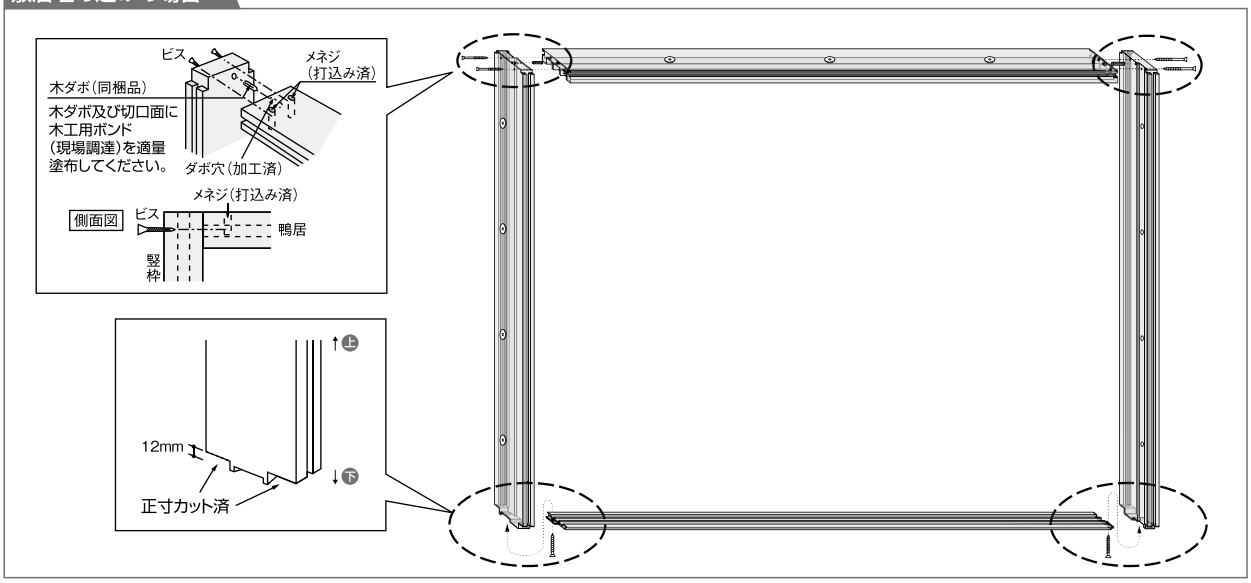


3 枠材の組み立て

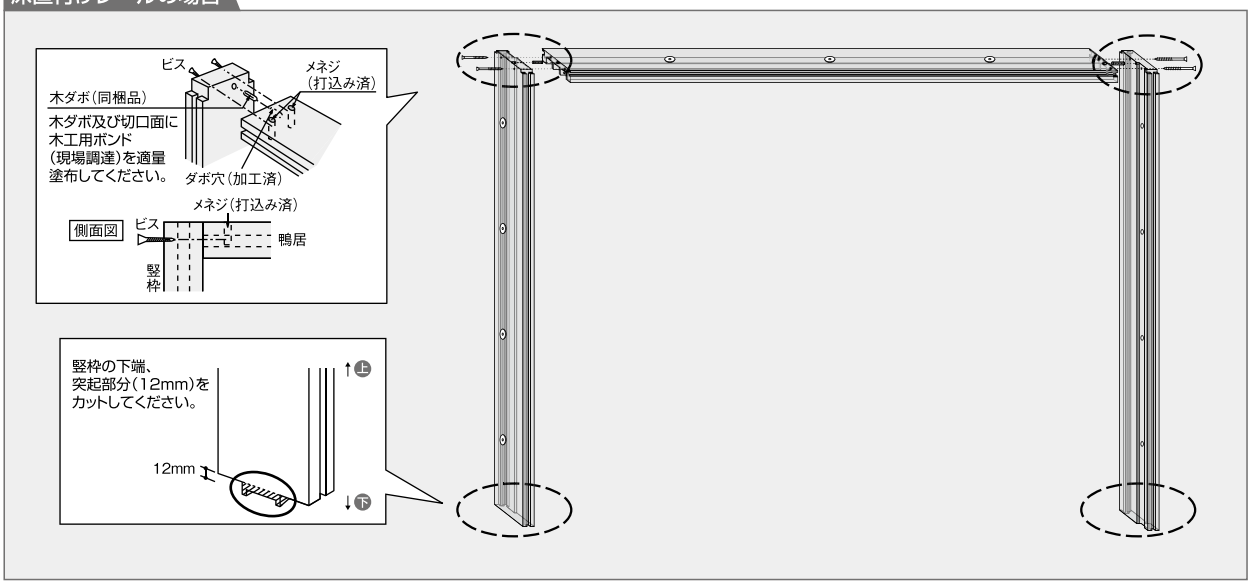
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

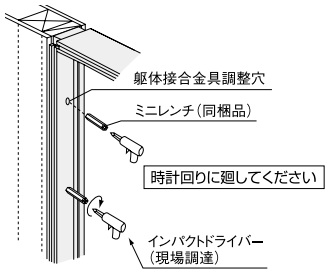


4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

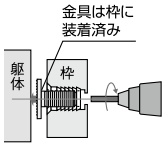
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

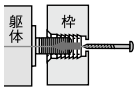


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

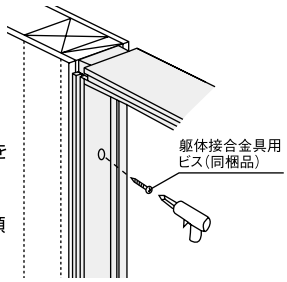
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

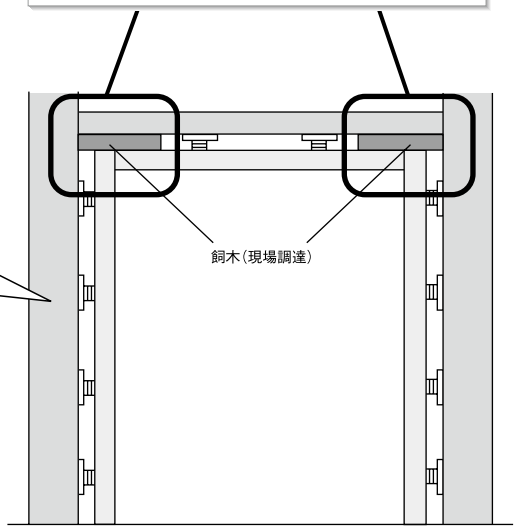
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



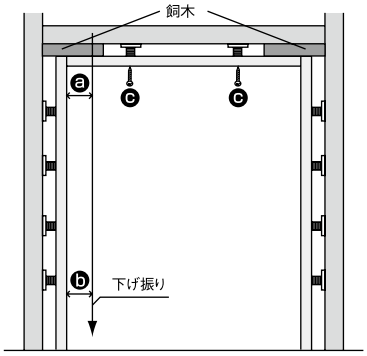
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

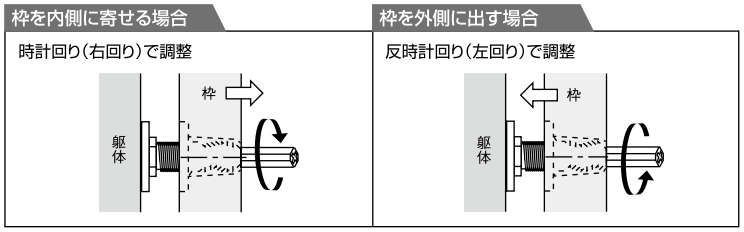


5 建て付け調整と鴨居の本固定

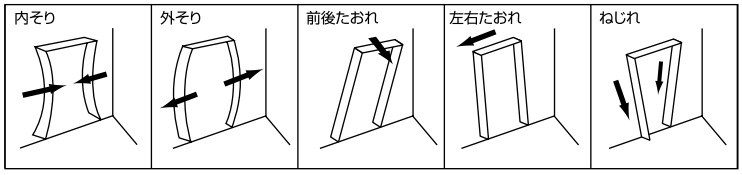
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



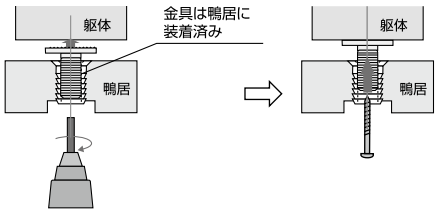


※下記の様なことがないようご注意ください。

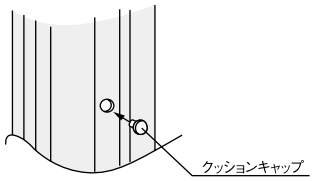


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



3枚引き違い戸 専用枠材

6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

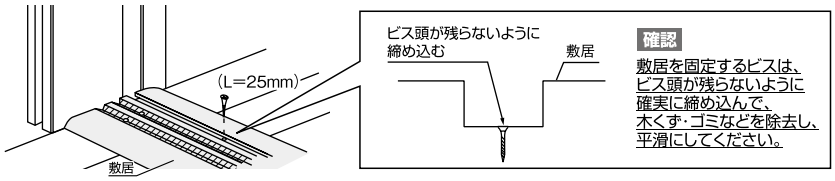
①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

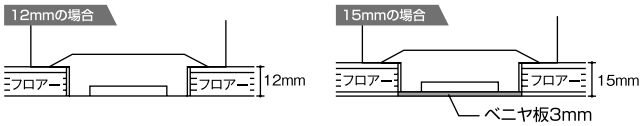
ビスは溝1本につき3カ所とめます。

⚠注意

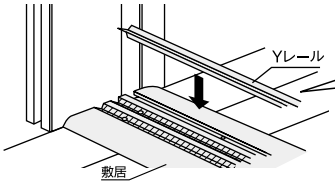
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。



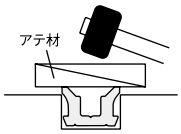
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

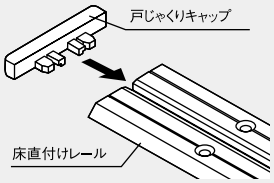
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

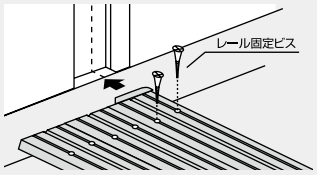


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

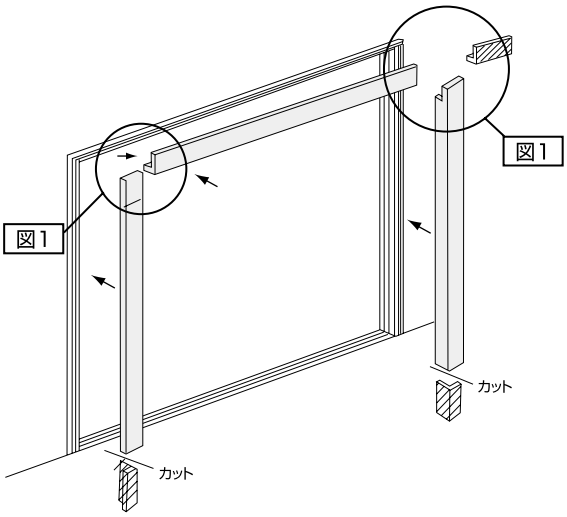
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

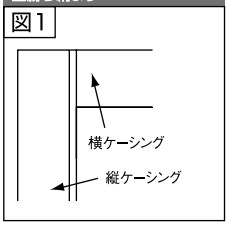
7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



竪勝ち納まり

図1

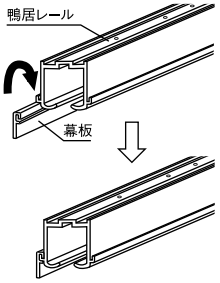


8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

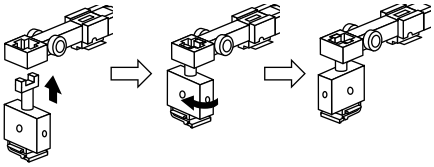
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

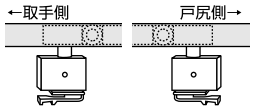
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くようにに取り付けてください。

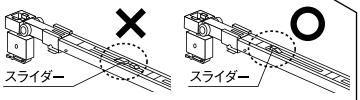


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

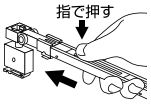
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

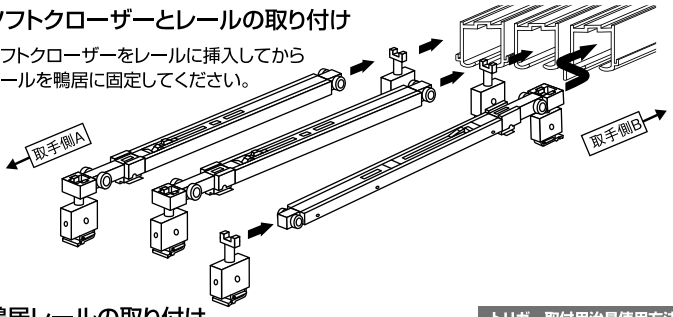
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

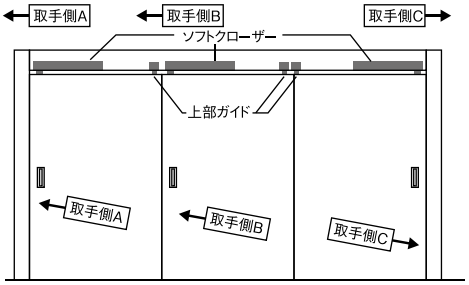


片側ソフトクローズ 仕様 **標 準**

①ソフトクローザーとレールの取り付け

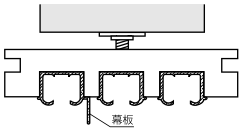
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



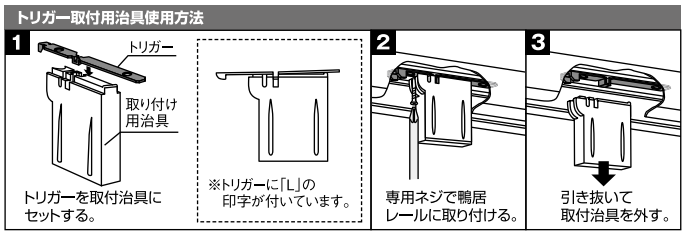


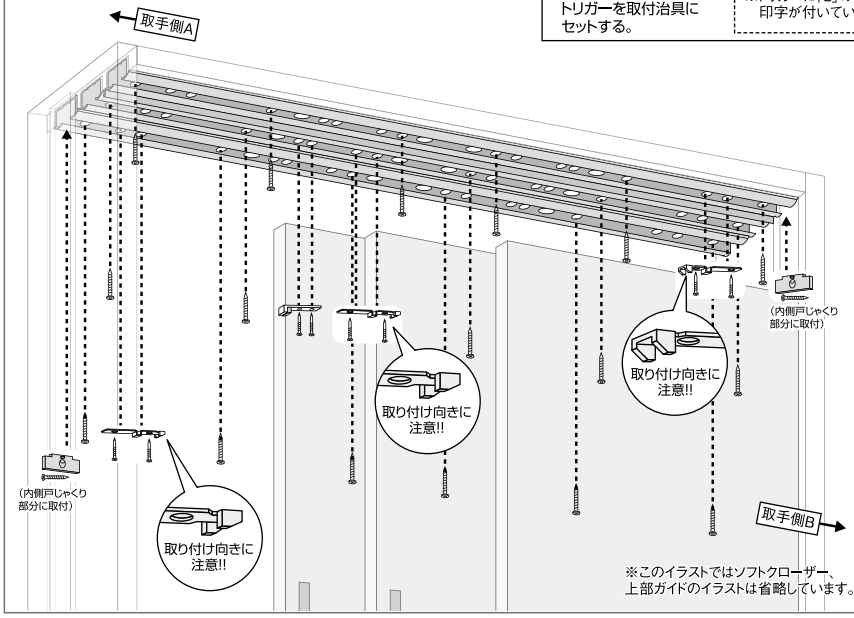
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



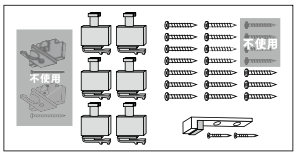
トリガー取付用治具使用方法



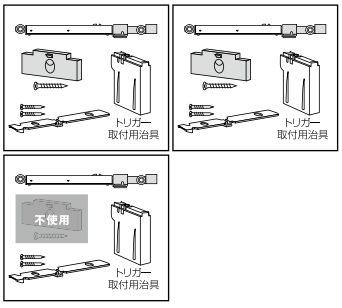


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

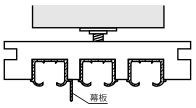


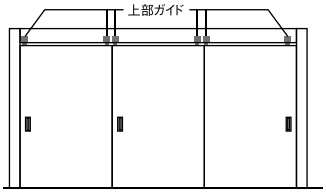
3 枚引き違い戸 専用枠材

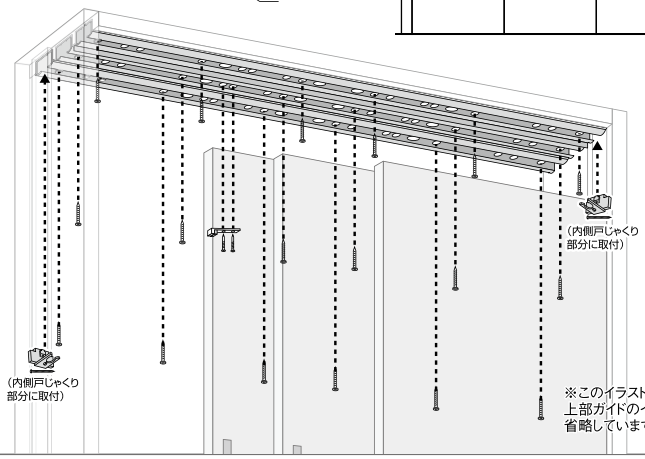
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。





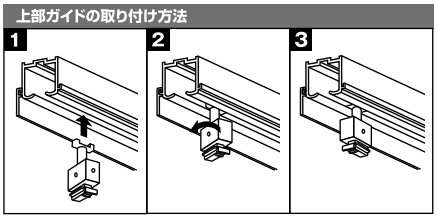


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

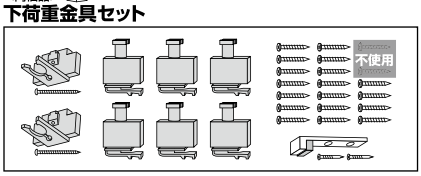
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

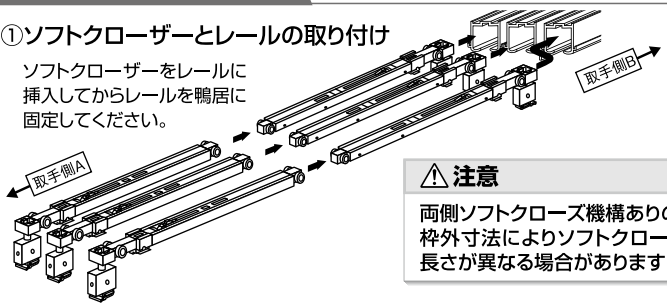
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

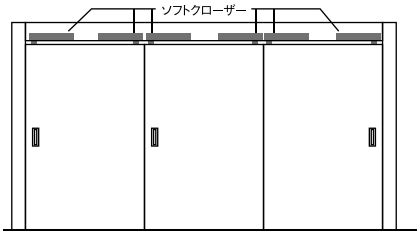
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



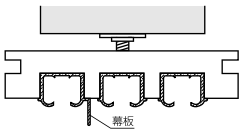
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

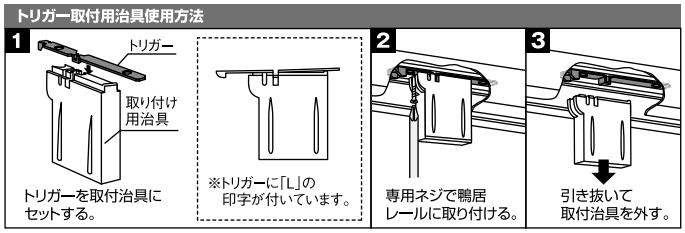


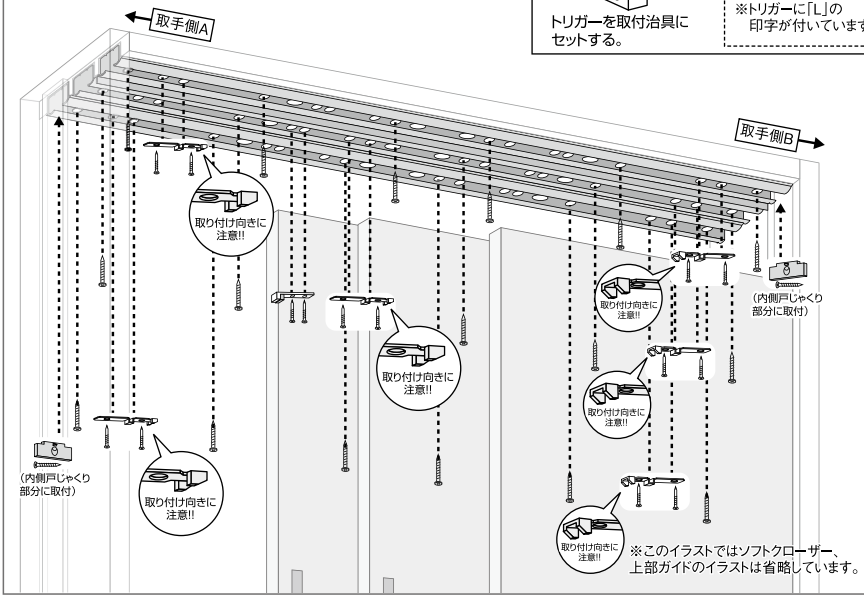
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



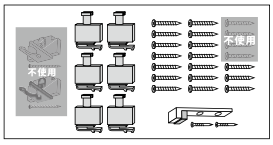
トリガー取付用治具使用方法



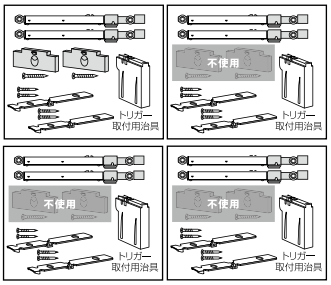


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



4 枚引き違い戸 専用枠材

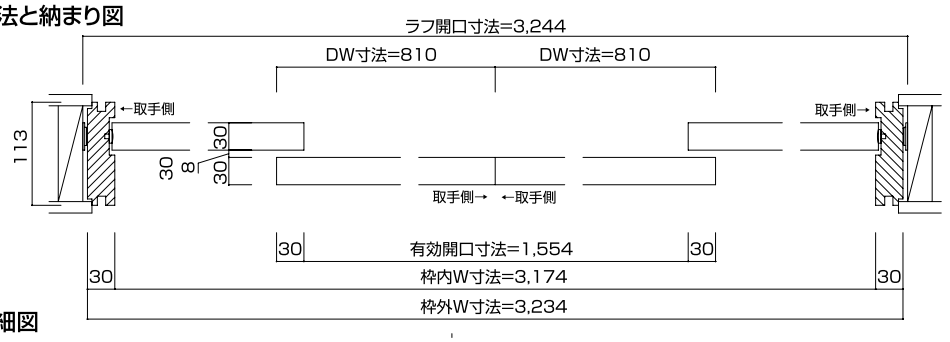
4. 4枚引き違い戸　納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

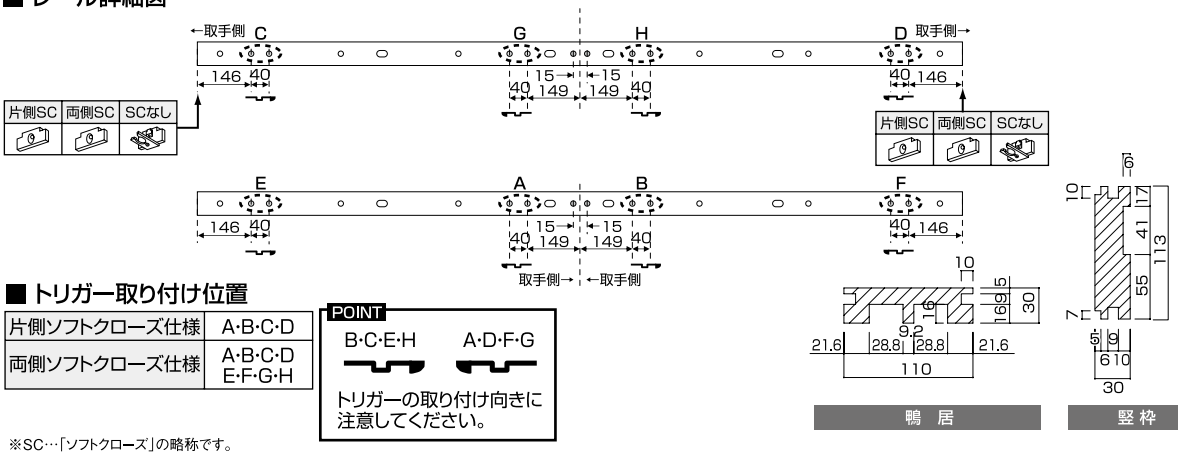
横断面図

（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



■ レール詳細図



■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D E·F·G·H

POINT

B·C·E·H　A·D·F·G

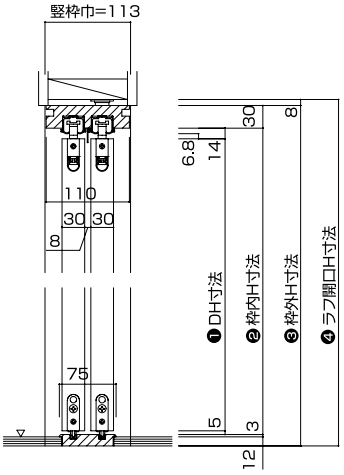
トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

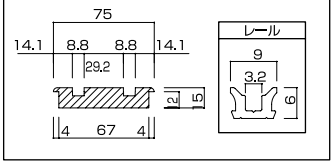
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

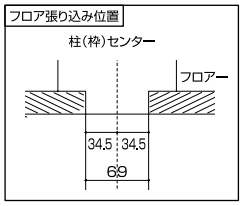


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

敷居詳細図

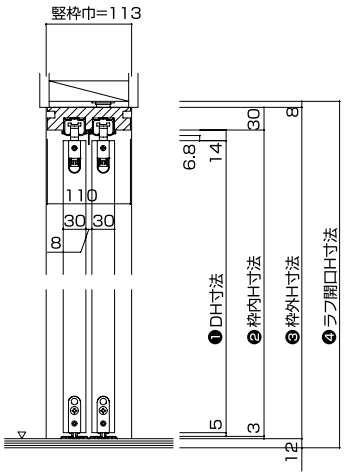


フロア張り込み位置



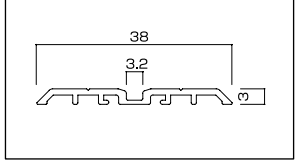
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

床直付けレール図



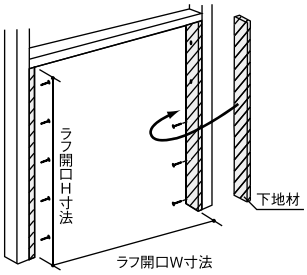
4 枚引き違い戸 専用枠材

5. 4枚引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

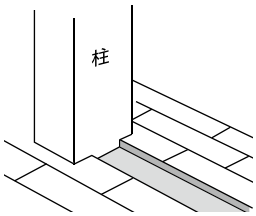
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

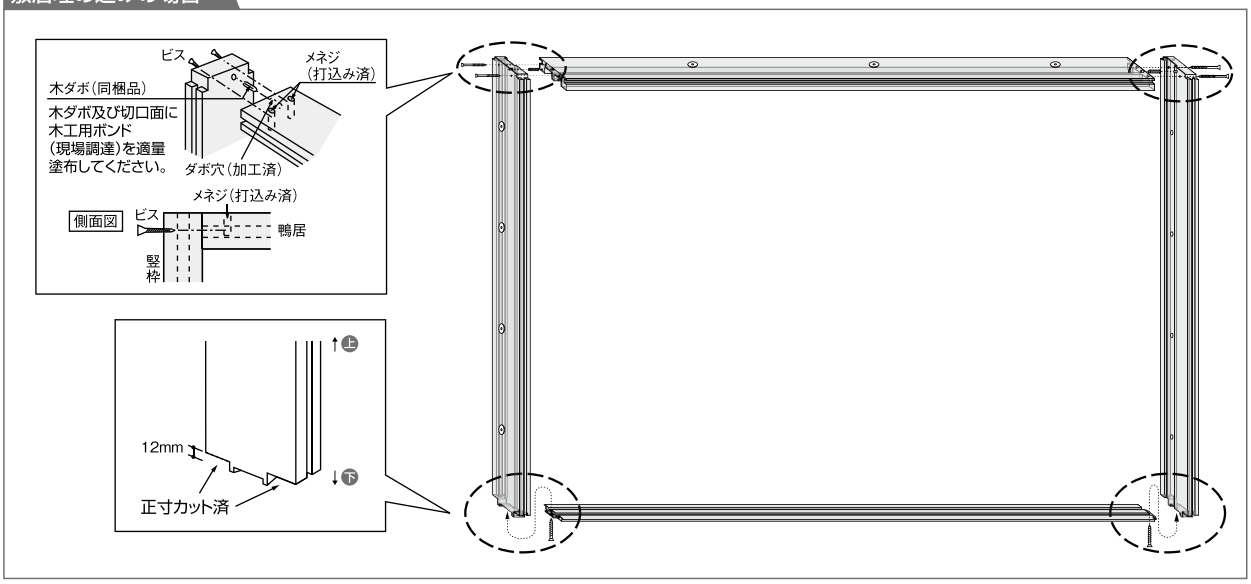


3 枠材の組み立て

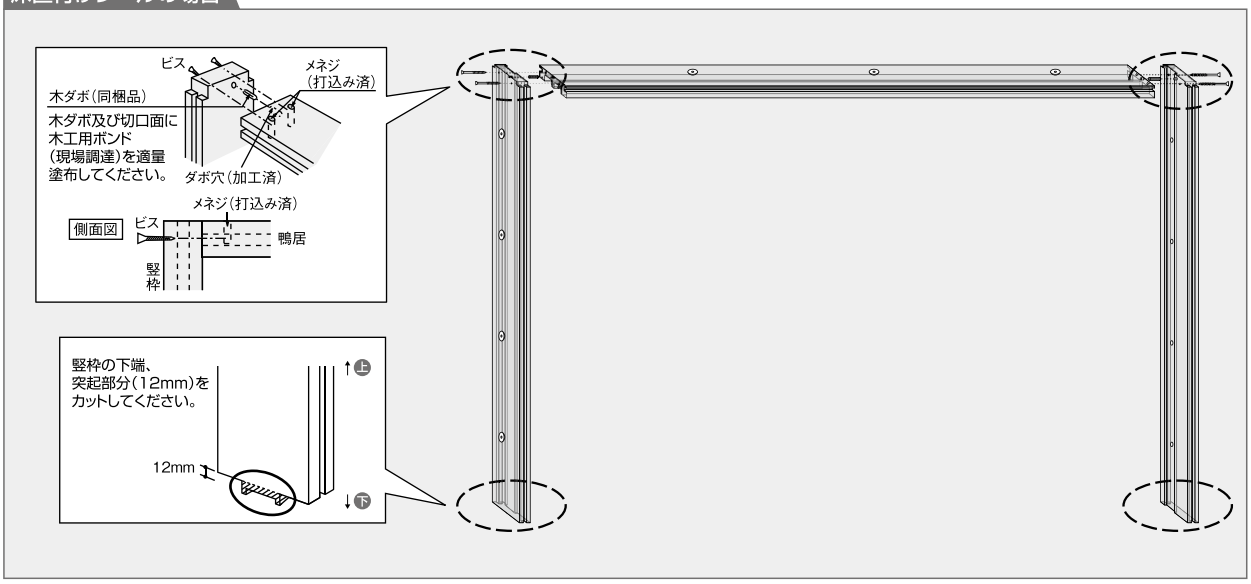
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

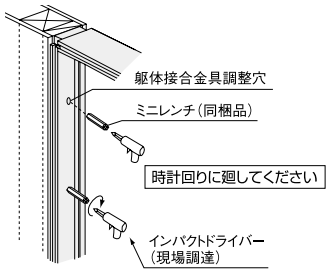


4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

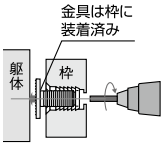
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

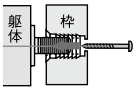


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

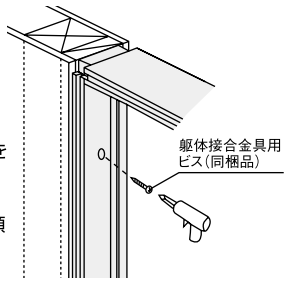
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

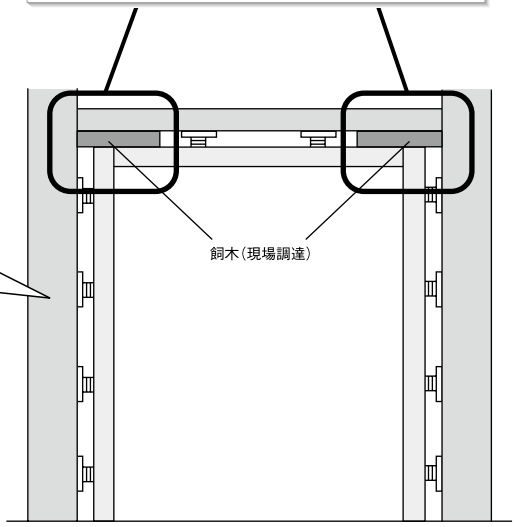
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



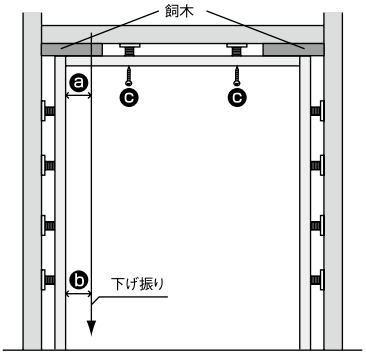
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

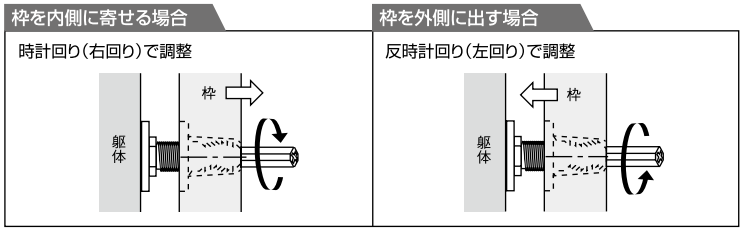


5 建て付け調整と鴨居の本固定

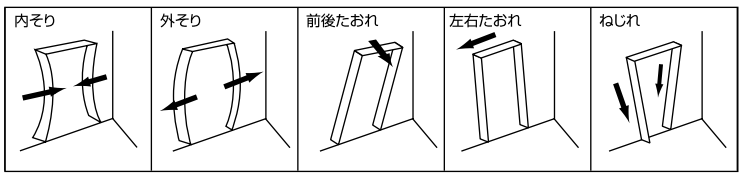
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



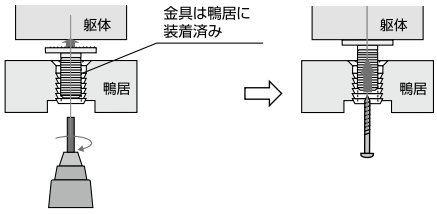


※下記の様なことがないようご注意ください。

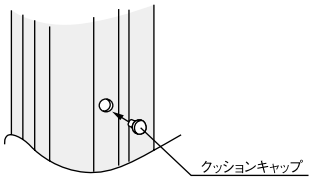


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



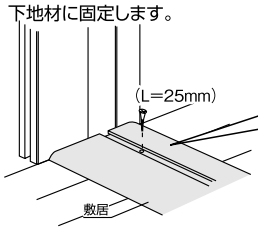
4枚引き違い戸 専用枠材

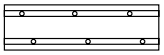
6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

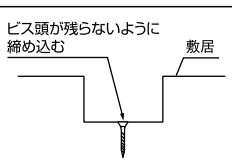
①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。





溝1本につき3ヶ所以上で固定します。



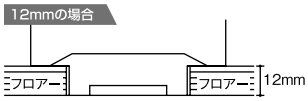
確認

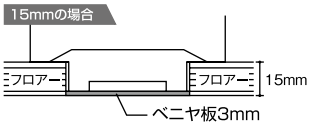
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

⚠注意

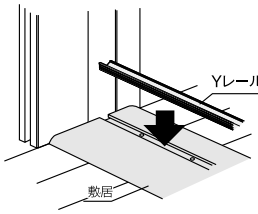
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

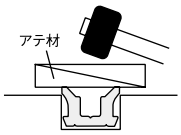




②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

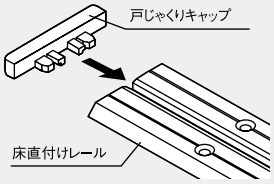
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

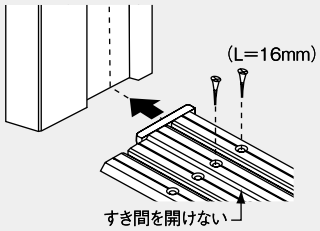


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

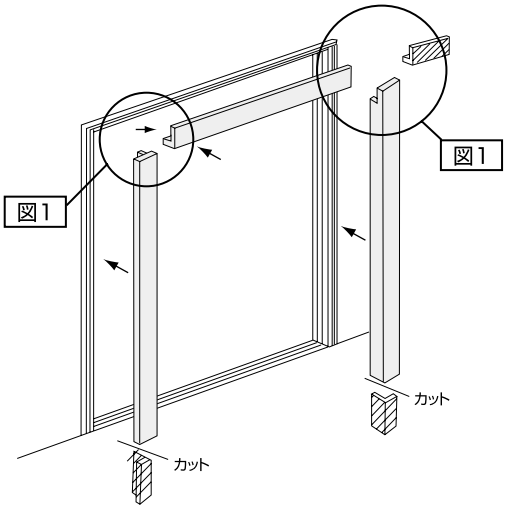
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

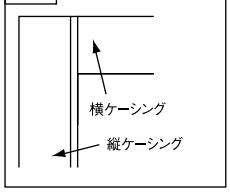
7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



竪勝ち納まり

図1

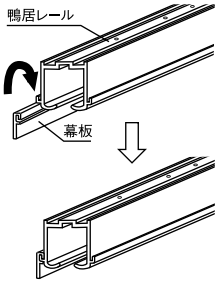


8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

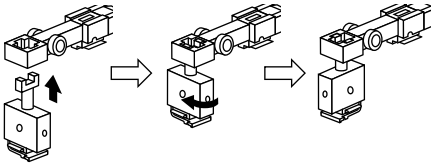
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

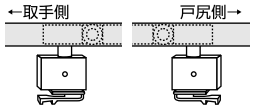
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くようにに取り付けてください。

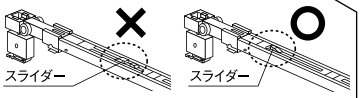


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

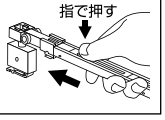
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

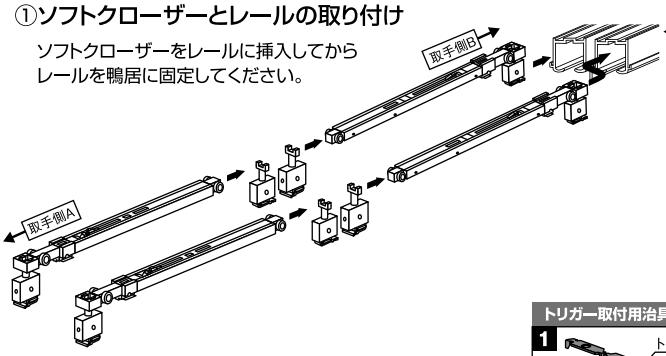
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

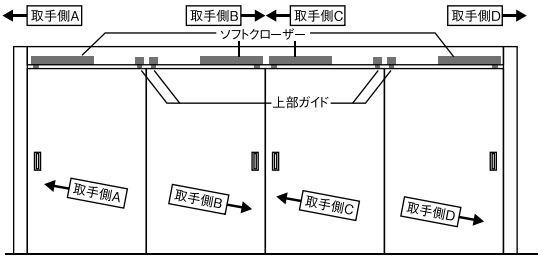


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

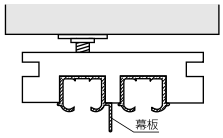
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



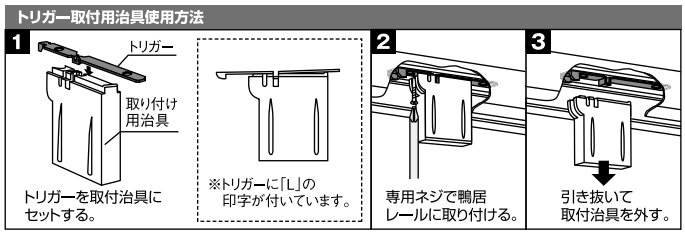


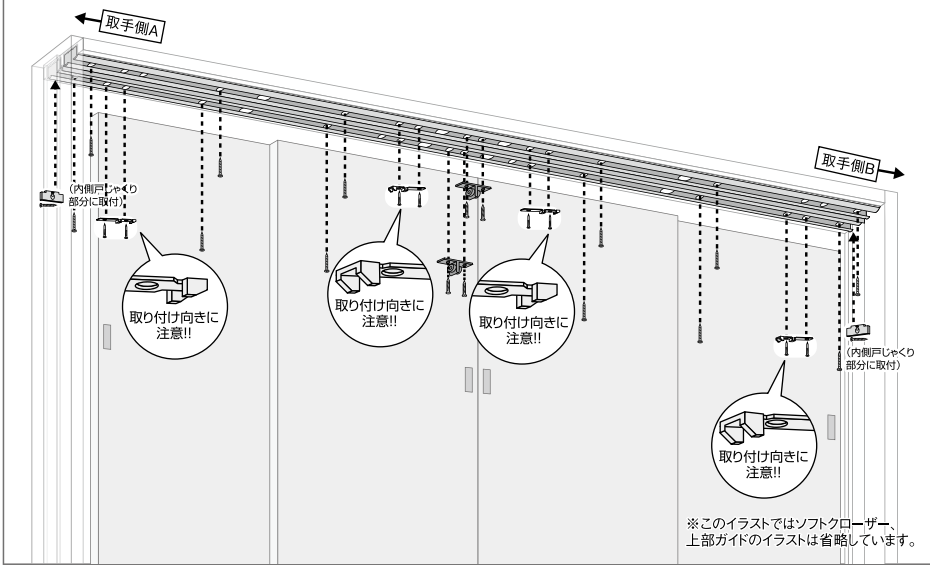
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



トリガー取付用治具使用方法



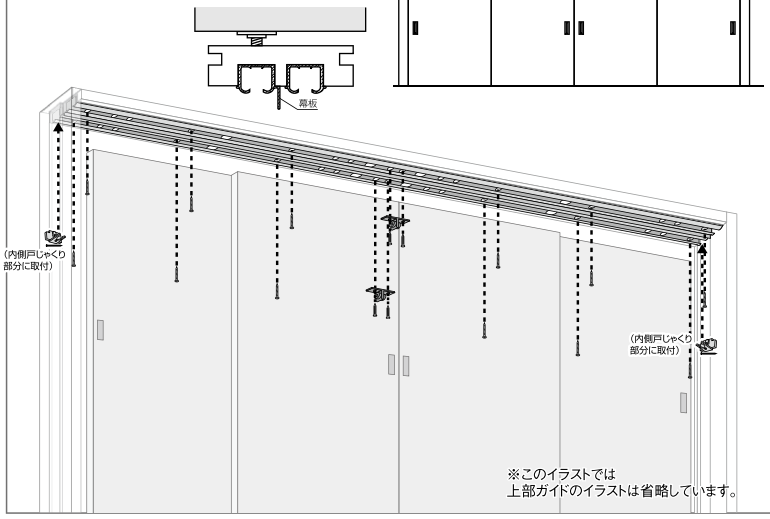


4枚引き違い戸 専用枠材

ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

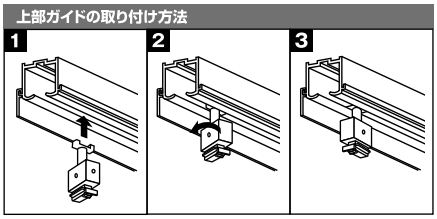
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



⚠注意

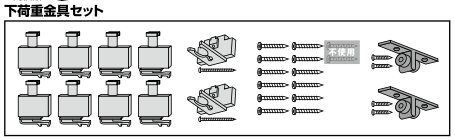
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

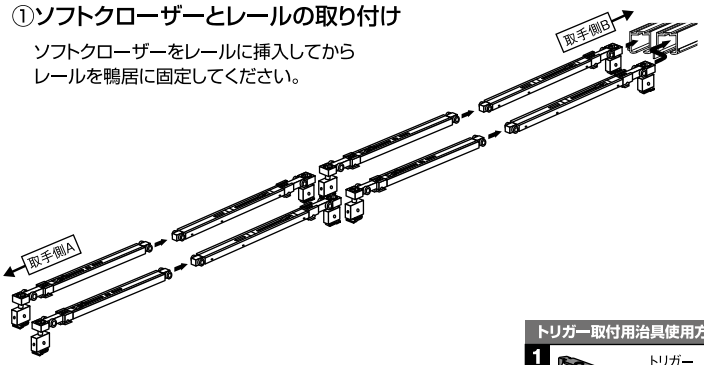
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

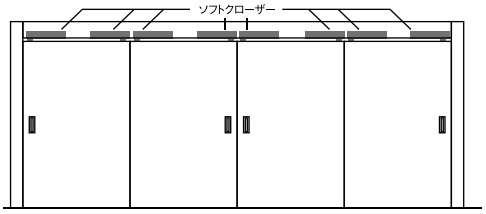
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

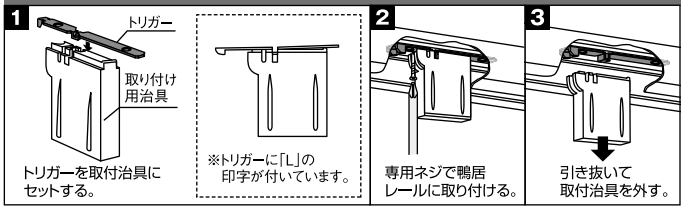


⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

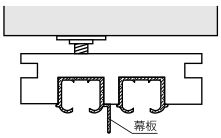


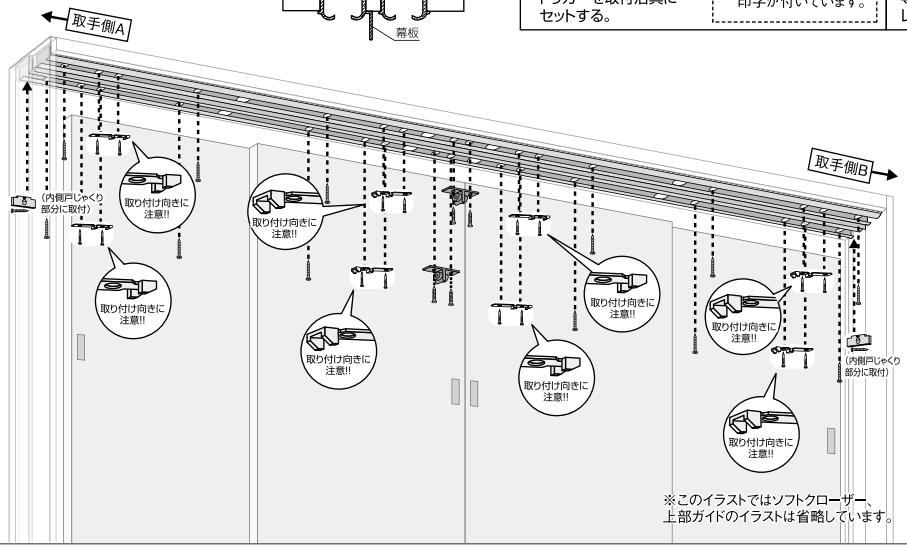
トリガー取付用治具使用方法



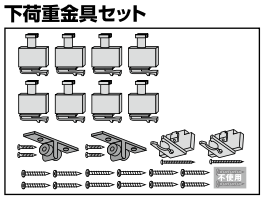
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。

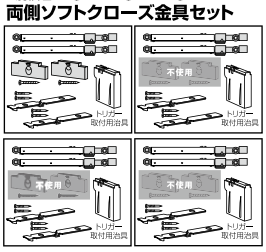




<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



2 枚引き込み戸・3 枚引き込み戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	2枚引き込み戸	1本	1本	1本	1本	1本	2本	1本
入数	3枚引き込み戸	1本	1本	1本	1本	1本	3本	1本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—	—

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	L型ストッパー	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm		
	セット品番				片側SC付	両側SC付	SCなし
入数	2枚引き込み戸 ZYNW07	4個	1個	1個	11本のみ使用（14本入）	11本のみ使用（14本入）	12本のみ使用（14本入）
入数	3枚引き込み戸 ZYNW08	6個	1個	2個	21本		
備考（部材品番等）		ZYNG01	ZYNC01	ZY2526	—		

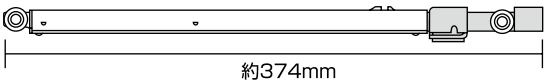
ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	躯体接合穴キャップ φ10
セット品番							
ZYMW01-□	2本	6本	14本	11本	1本	4個	8個
ZYMW01-□	2本	6本	14本	11本	1本	4個	8個
備考（部材品番等）	—	—	床直付けレールの場合は使用しません。	—	—	—	—

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ

部材名				ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	2枚引き込み戸	3枚引き込み戸				
入数	ZH23LC-Y	片側SC付 枠外1824・1644・1450	片側SC付（×2セット）	1	1	1	1
入数	ZH23LR-Y	両側SC付 枠外1824・1644	両側SC付（×2セット）	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



2 枚引き込み戸 専用枠材

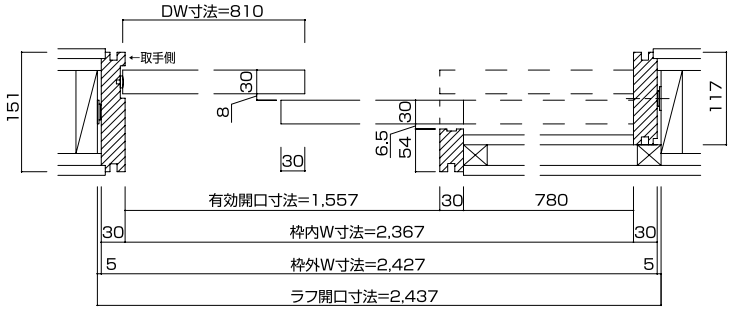
2. 2枚引き込み戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

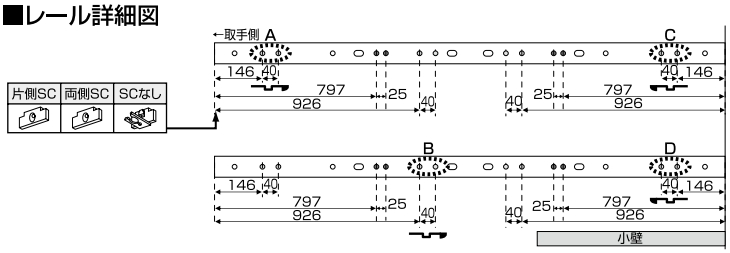
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



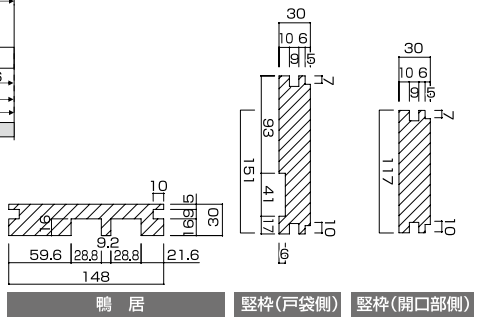
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

A·B　C·D

トリガーの取り付け向きに注意してください。

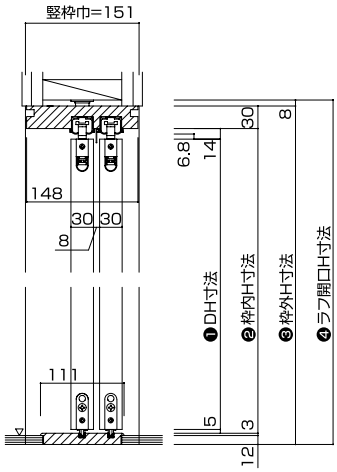


※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

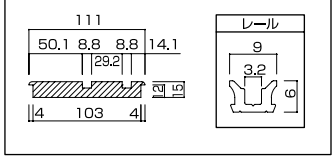
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

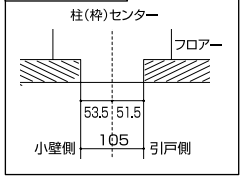


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

敷居（突板タイプ）加工図

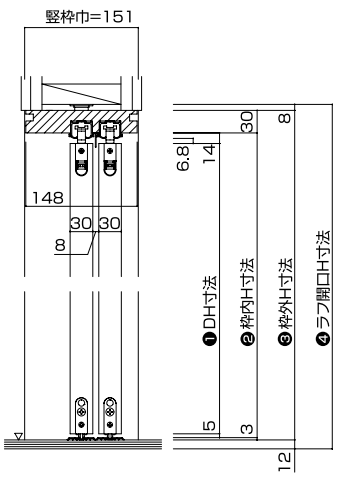


フロア張込位置



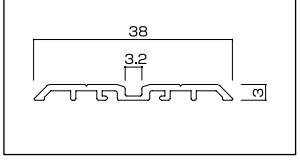
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

床直付けレール図

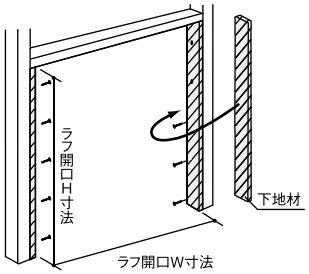


3. 2枚引き込み戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

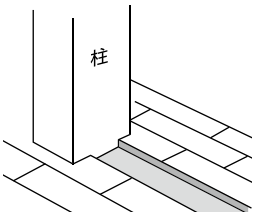
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

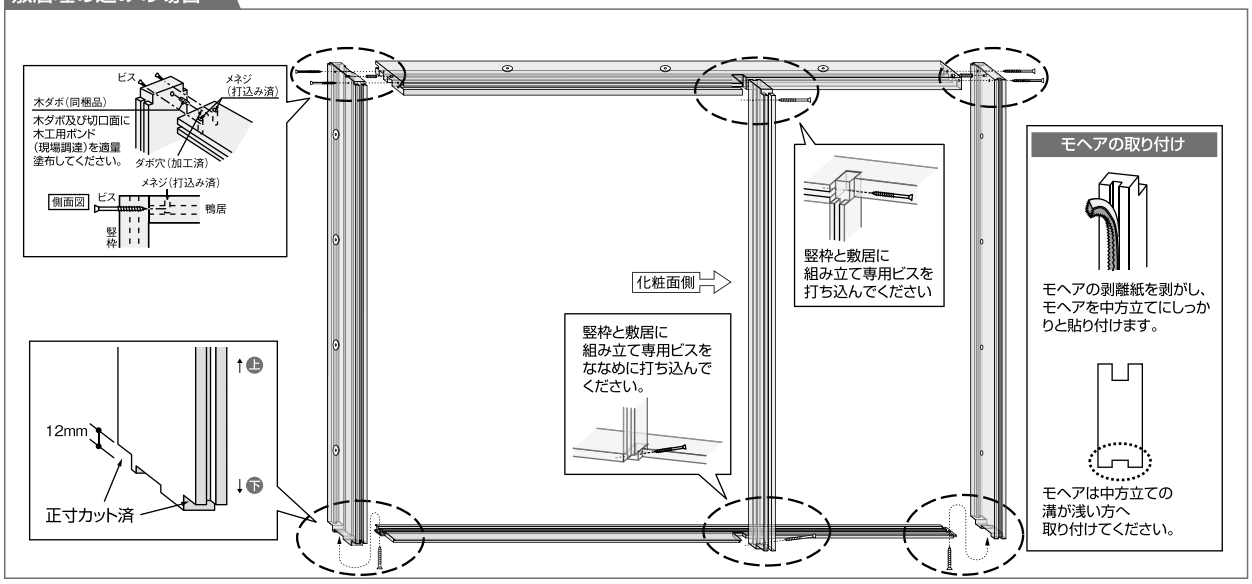


3 枠材の組み立て

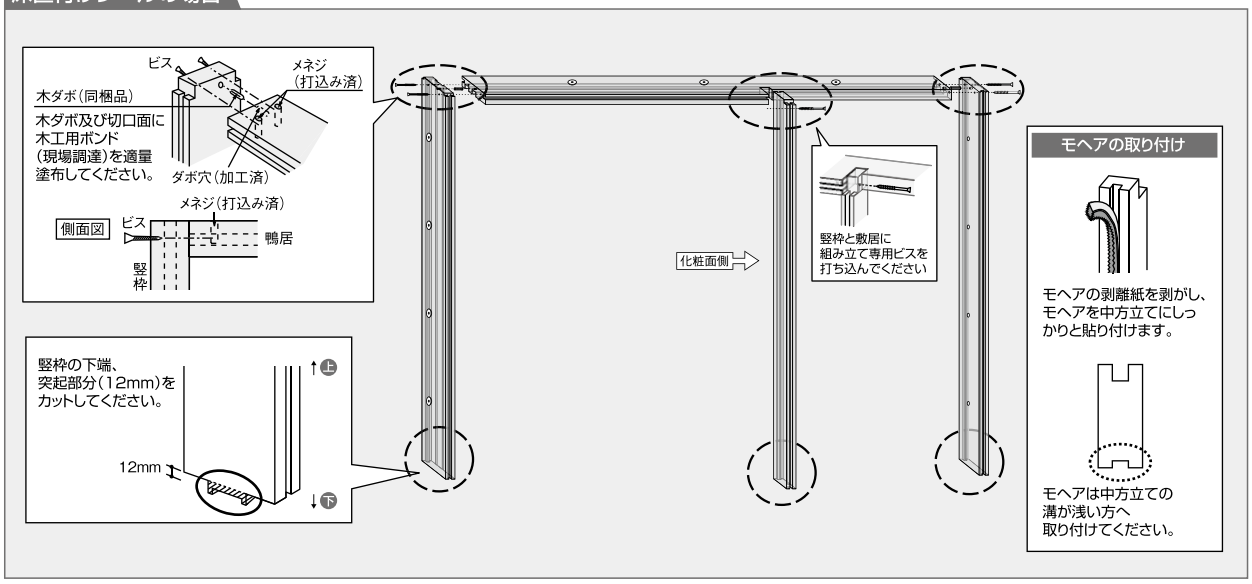
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



2 枚引き込み戸 専用枠材

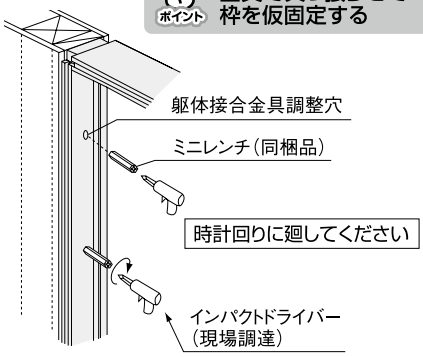
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

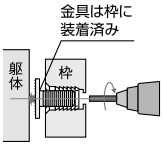
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



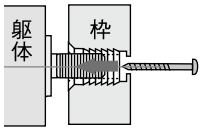


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

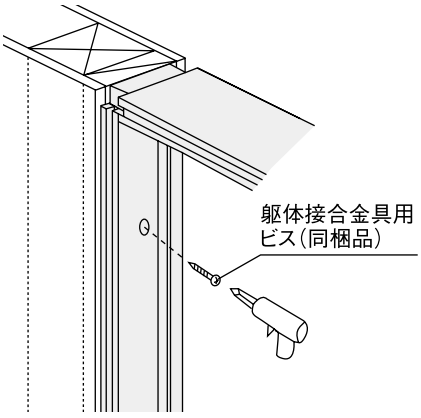
⚠注意
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

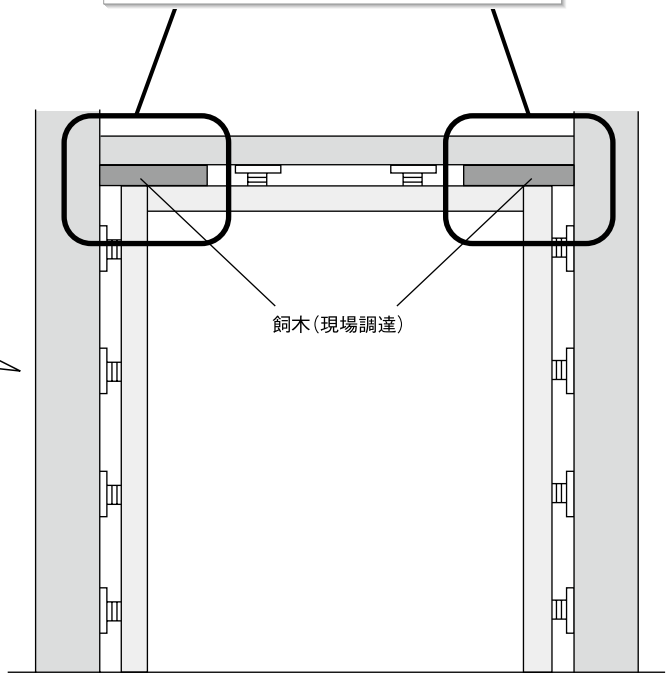
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



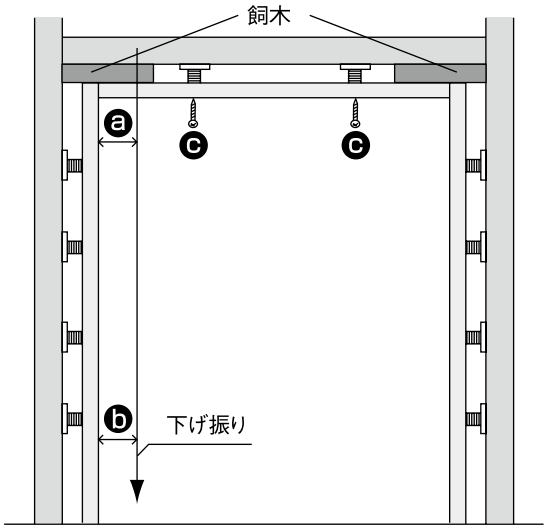
⚠注意
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

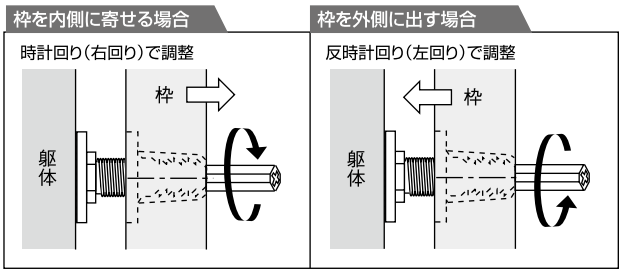


5 建て付け調整と鴨居の本固定

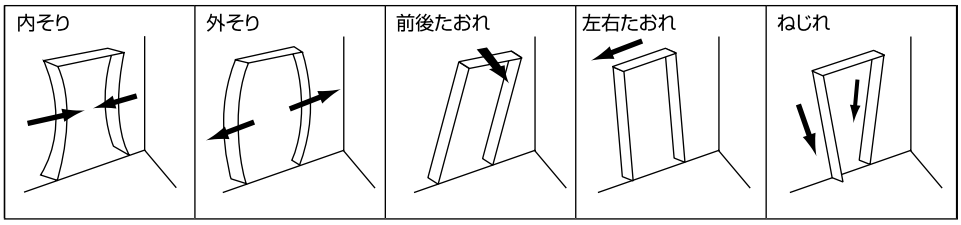
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



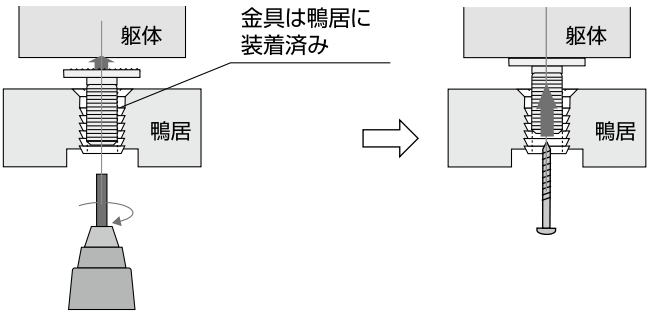


※下記の様なことがないようご注意ください。

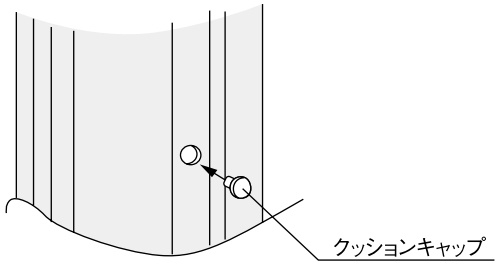


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



2 枚引き込み戸 専用枠材

6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

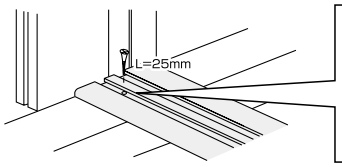
①敷居と下地の固定

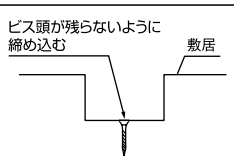
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

溝1本につき、3ヶ所以上で固定します。

⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

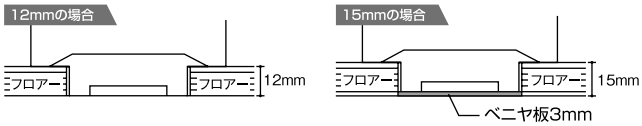




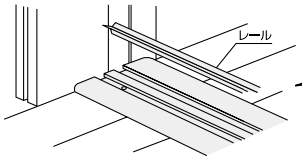
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

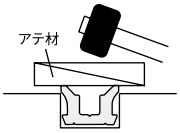
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

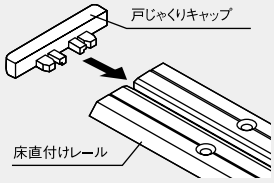
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

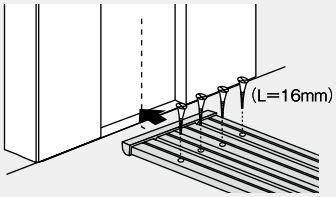


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

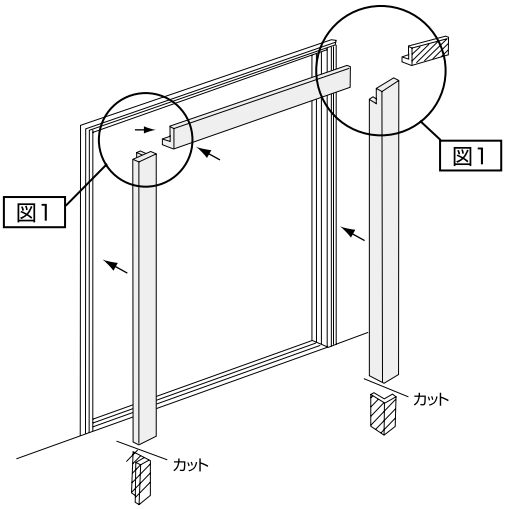
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

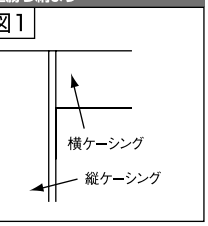
7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



竪勝ち納まり

図1

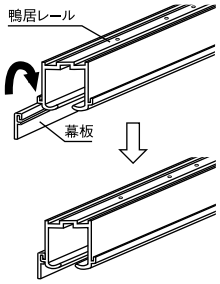


8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

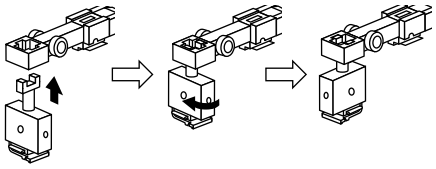
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

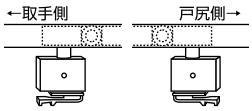
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くようにに取り付けてください。

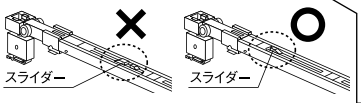


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

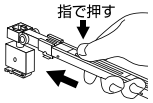
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

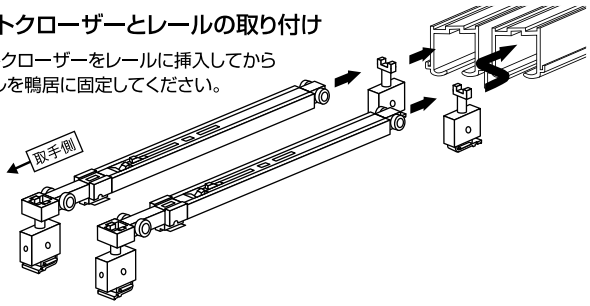
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

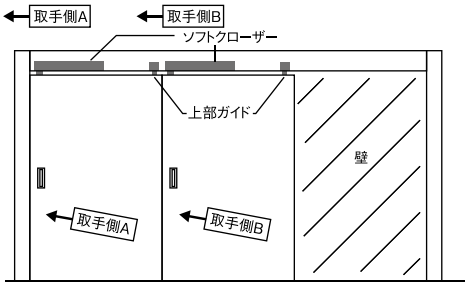


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

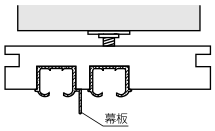
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



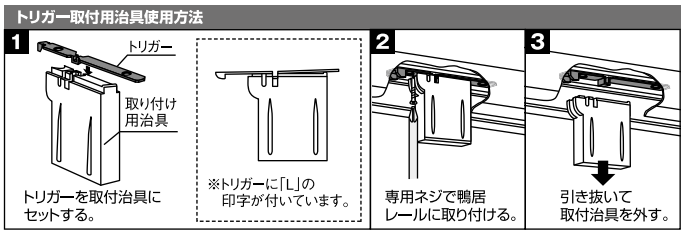


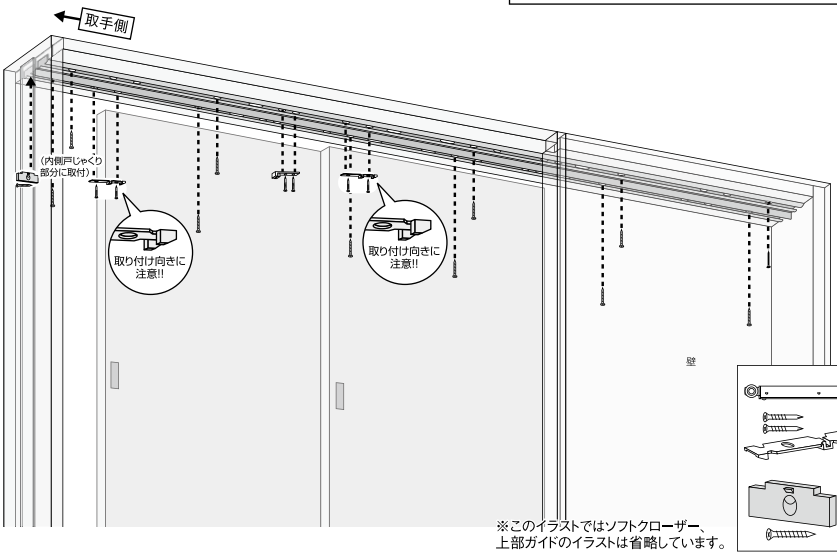
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



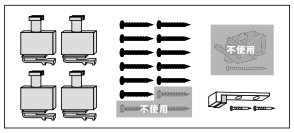
トリガー取付用治具使用方法



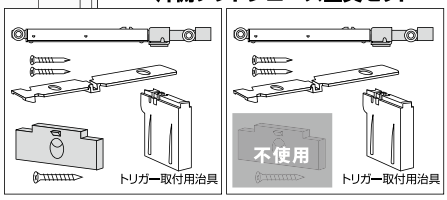


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

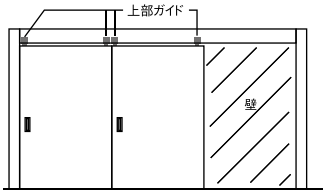


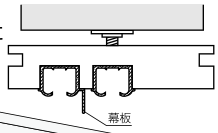
2 枚引き込み戸 専用枠材

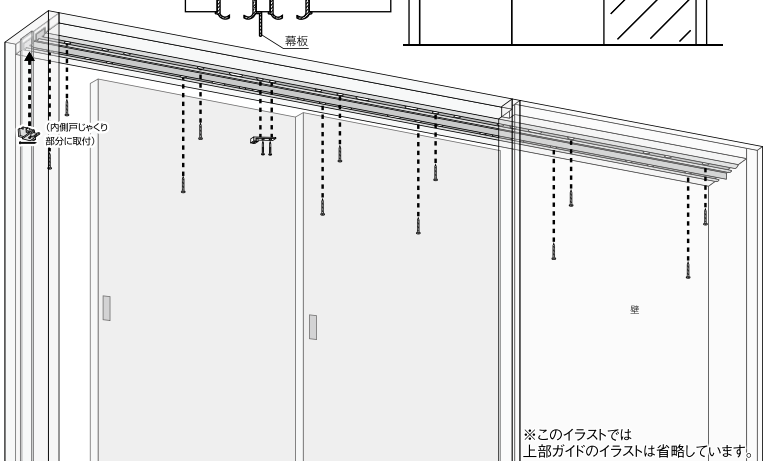
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。
幕板は1本のレールにしかつきません。



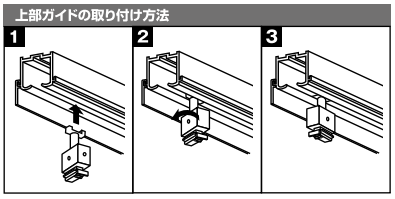




⚠注意

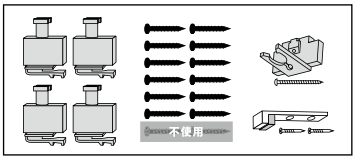
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ
左右に90度回して取り付けてください。

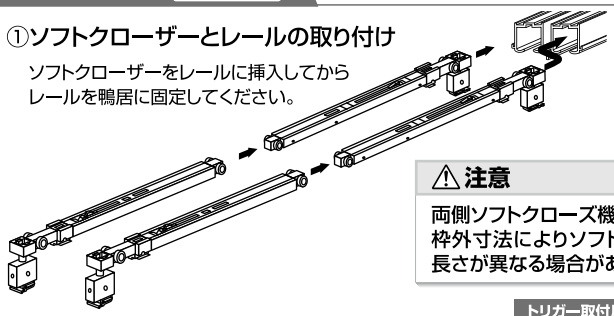
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

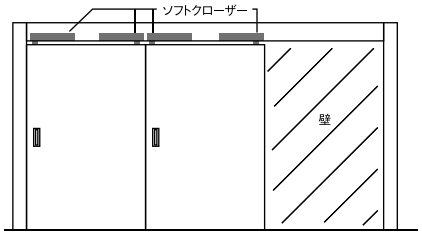
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



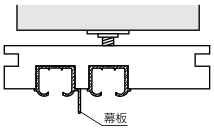
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、
枠外寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

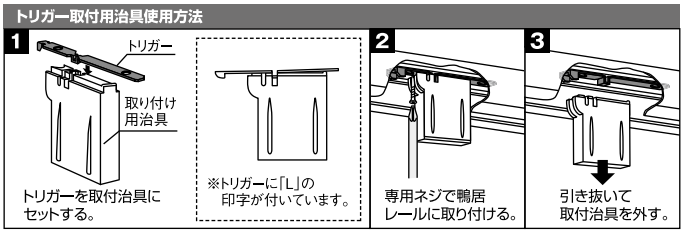


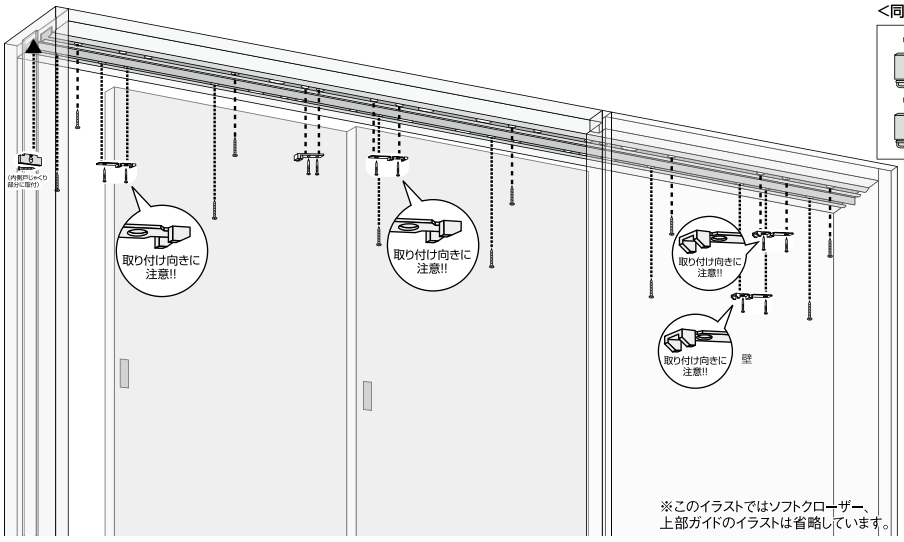
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付け
てください。幕板は1本の
レールにしかつきません。

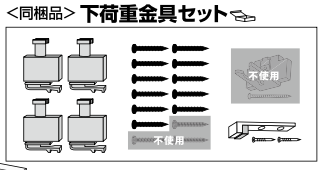


トリガー取付用治具使用方法

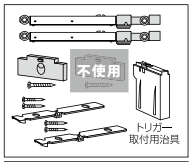


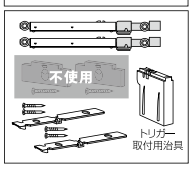


<同梱品> **下荷重金具セット**



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット





3 枚引き込み戸 専用枠材

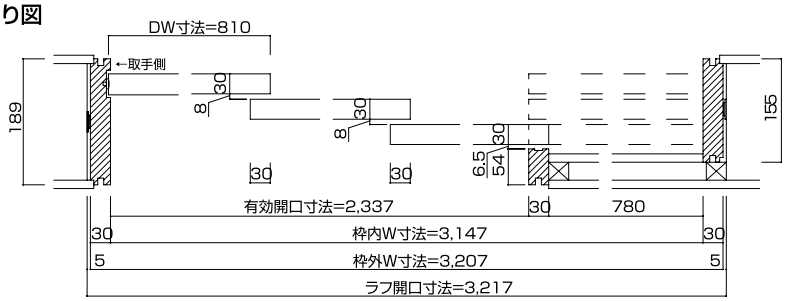
4. 3枚引き込み戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

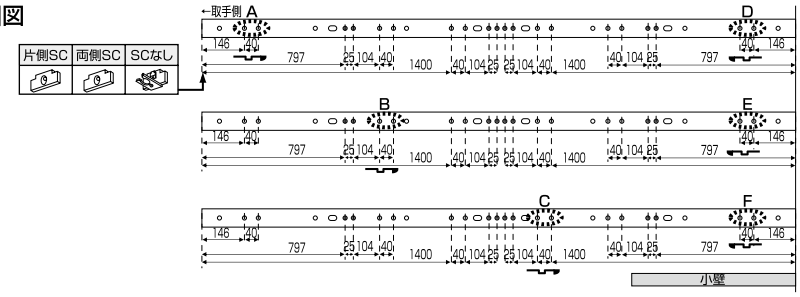
横断面図

（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



■ レール詳細図



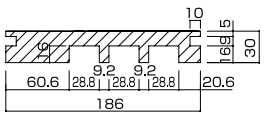
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D E·F

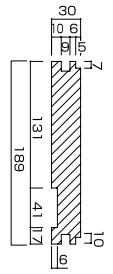
POINT

A·B·C　D·E·F

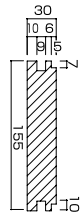
トリガーの取り付け向きに注意してください。



鴨　居



竪枠（開口部側）



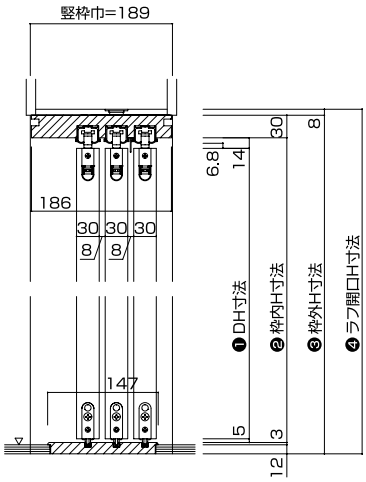
竪枠（戸袋側）

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

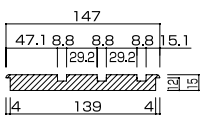
敷居埋め込みの場合

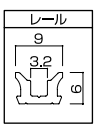
（単位：mm）



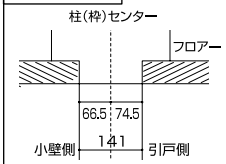
製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

敷居（突板タイプ）加工図



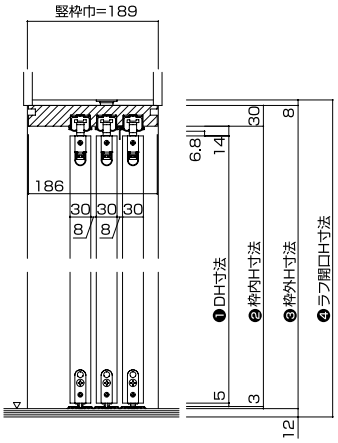


フロア張込位置



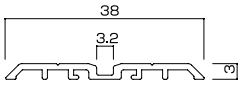
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

床直付けレール図



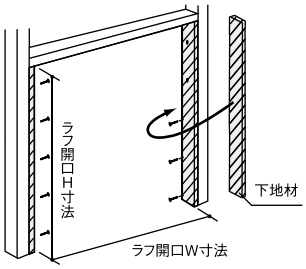
3 枚引き込み戸 専用枠材

5. 3枚引き込み戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

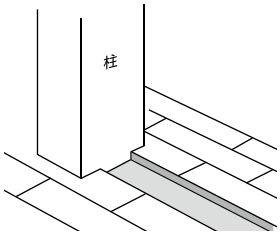
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

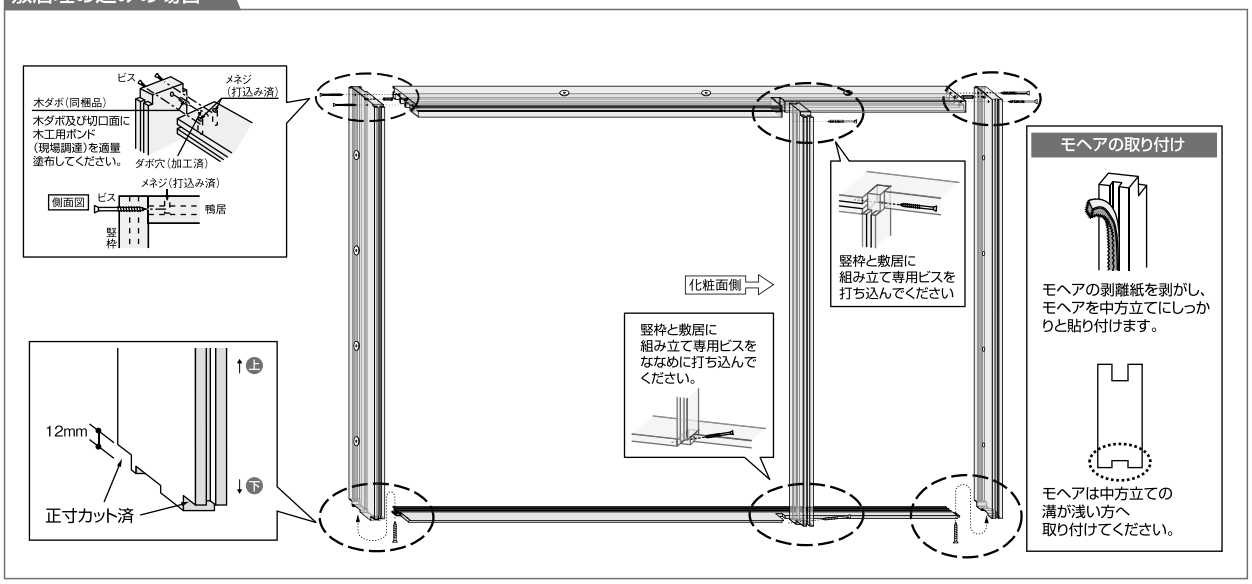


3 枠材の組み立て

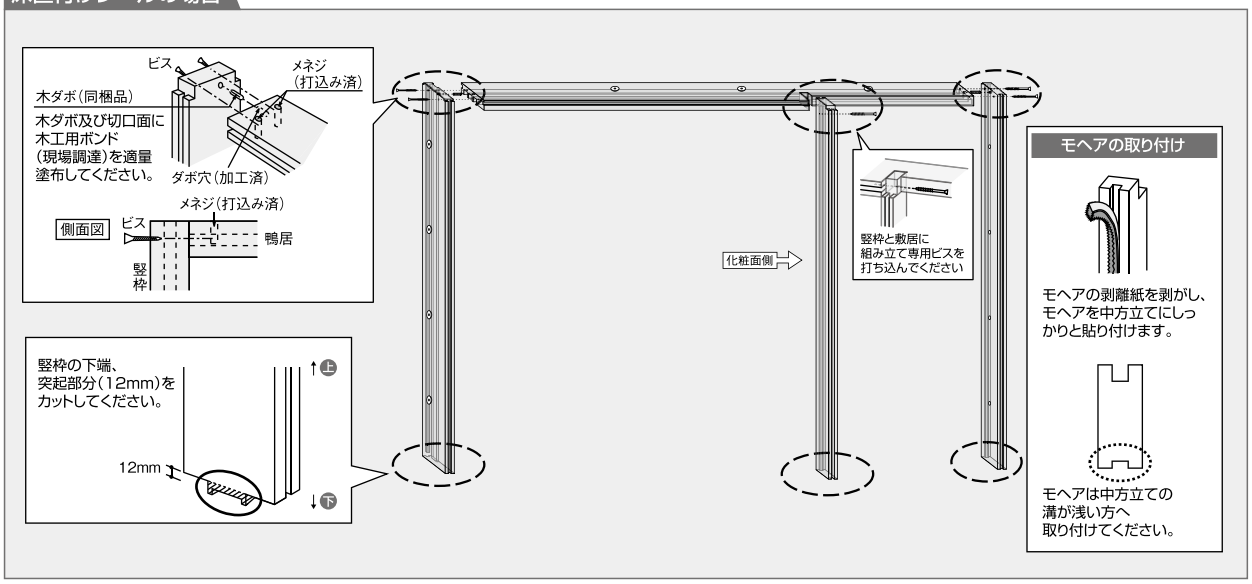
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合



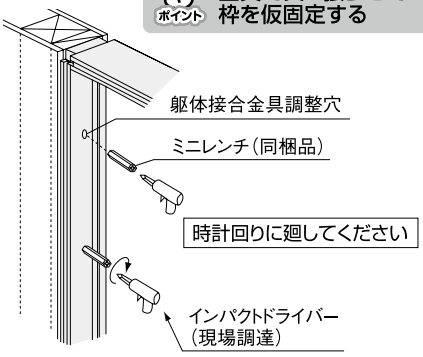
4 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

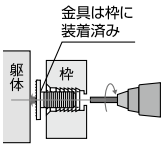
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する





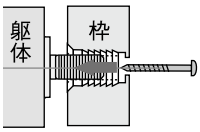
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

⚠注意

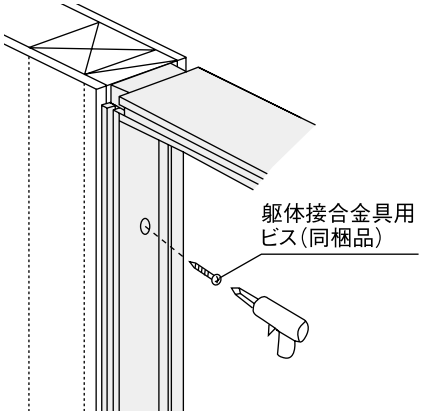
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

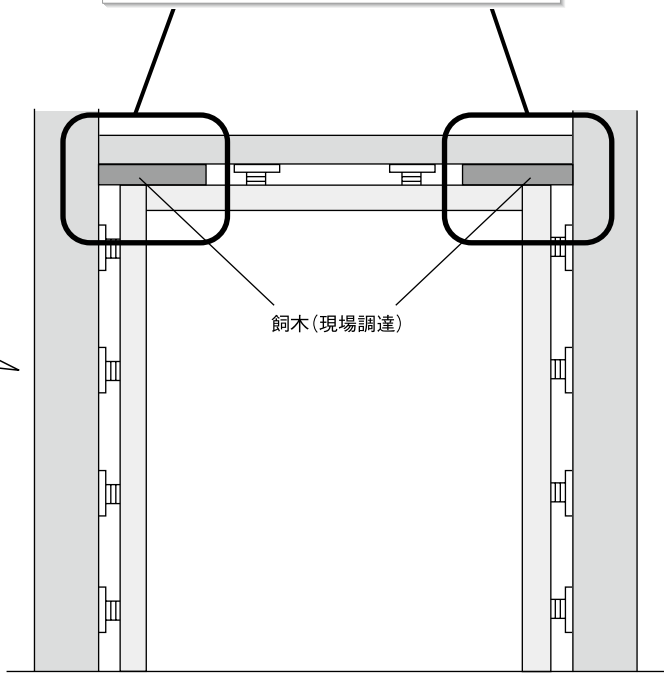


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

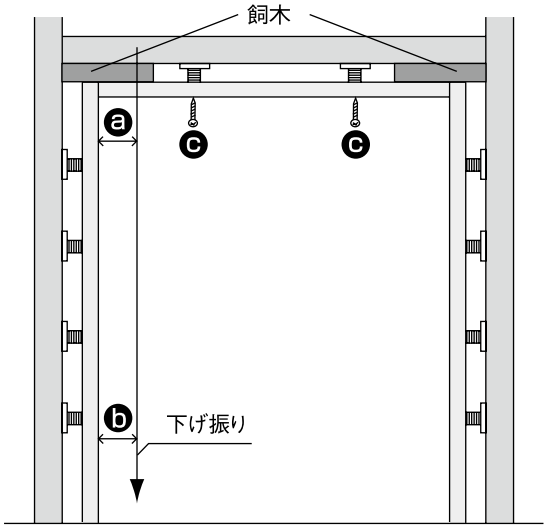


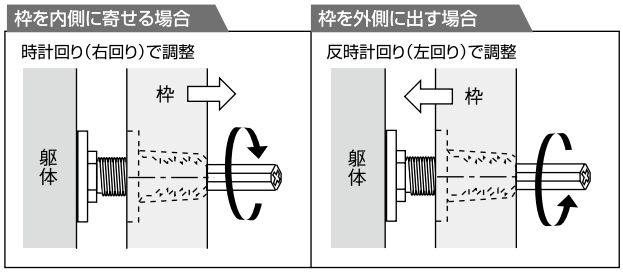
3 枚引き込み戸 専用枠材

5 建て付け調整と鴨居の本固定

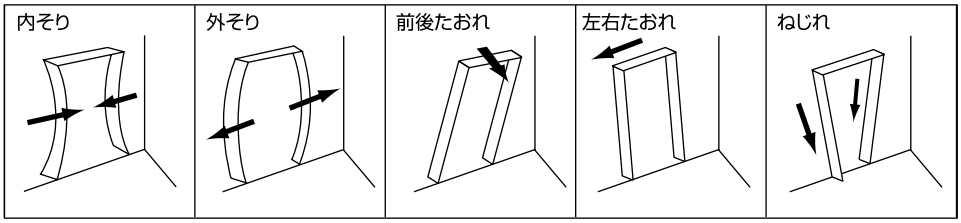
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



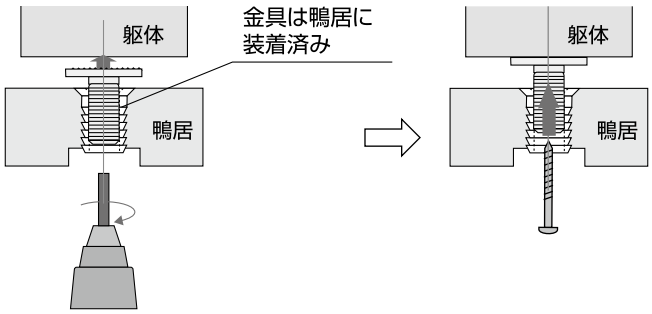


※下記の様なことがないようご注意ください。

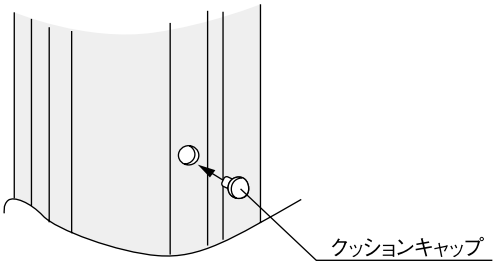


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



6 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

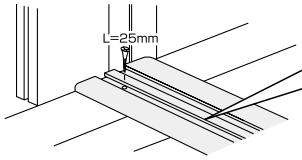
①敷居と下地の固定

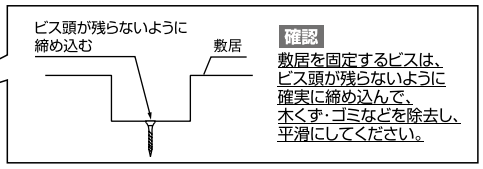
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

溝1本につき、4ヶ所以上で固定します。

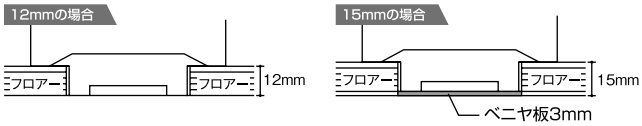
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。



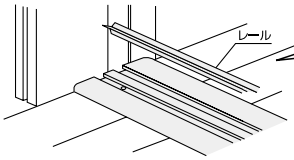


フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

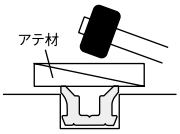


②レールの取り付け

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

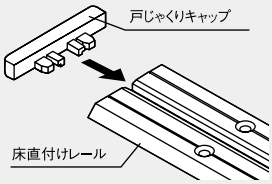
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

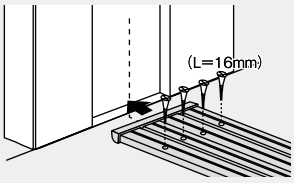


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

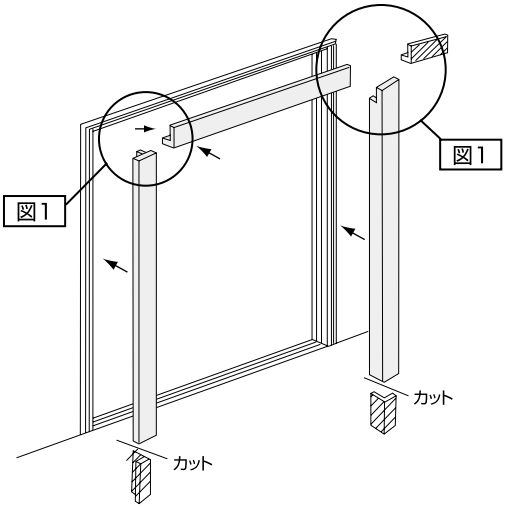
同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。2本目以降の床直付けレールはレールとレールの間にすき間が出来ないように並べて取付けてください。

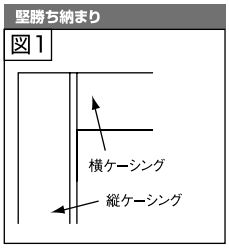
※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



7 ケーシングの取り付け

■ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。





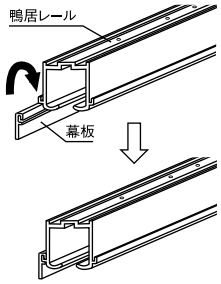
3枚引き込み戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

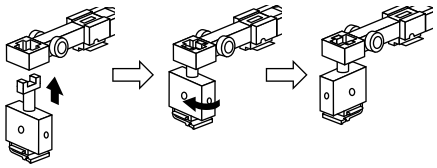
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

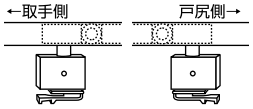
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側･戸尻側に向くように取り付けてください。

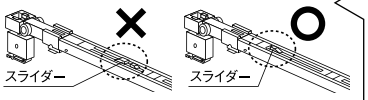


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。
スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

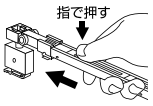
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

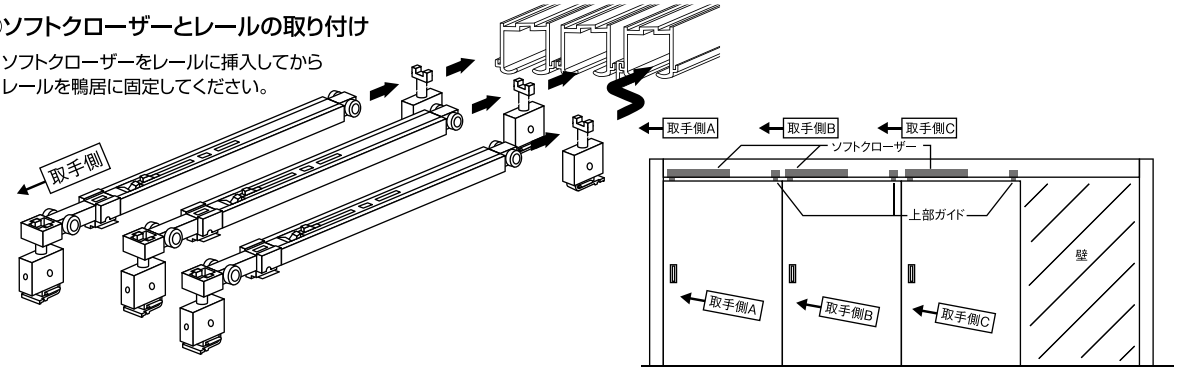
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



片側ソフトクローズ 仕様 標準

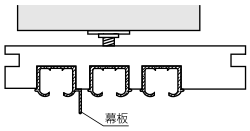
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。

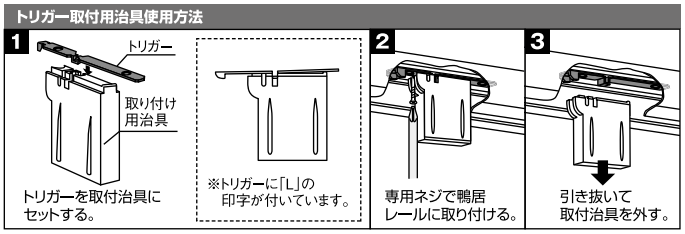


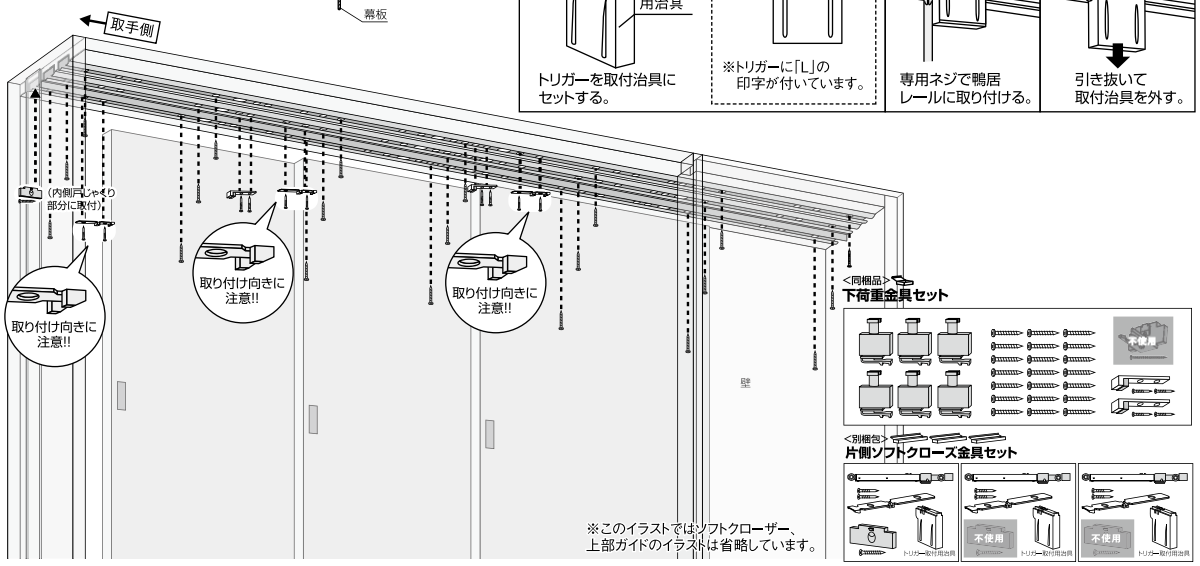
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



トリガー取付用治具使用方法



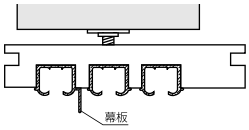


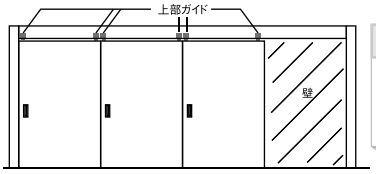
※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

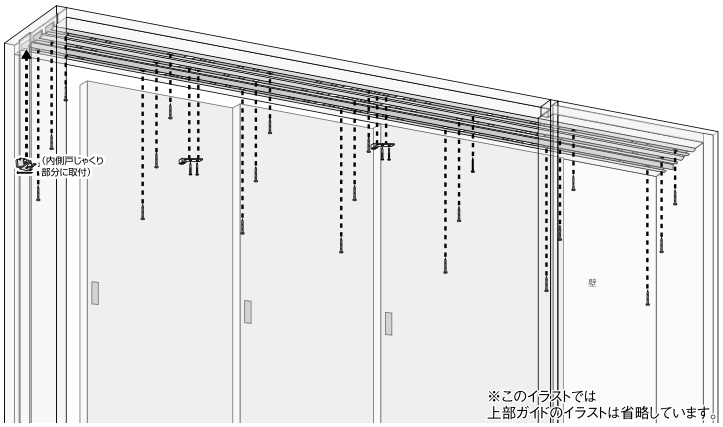
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。





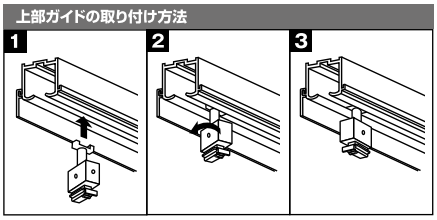
⚠注意

上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。



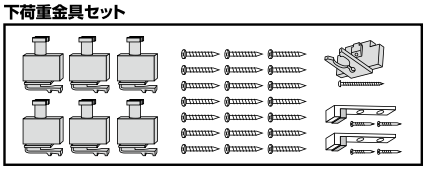
※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

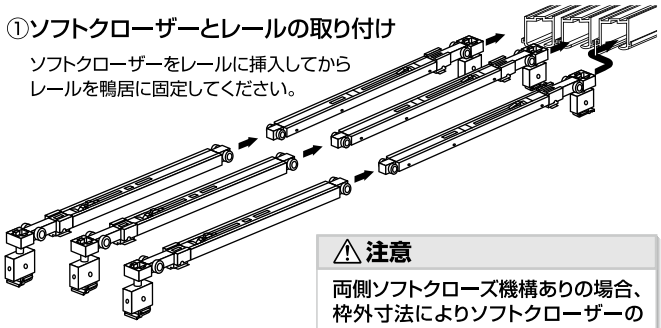
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

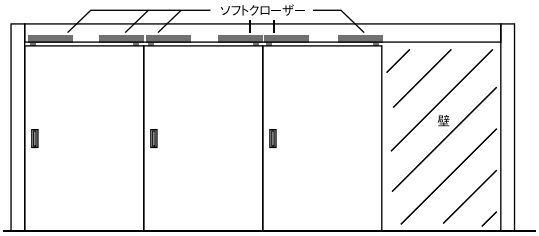
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



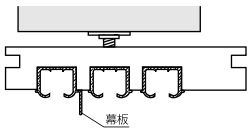
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

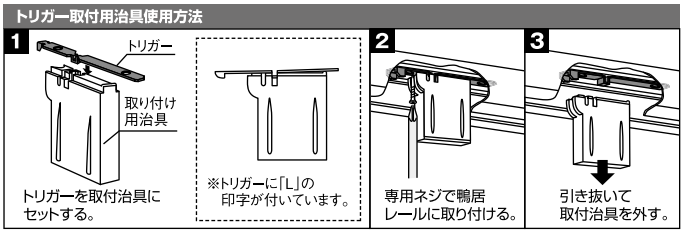


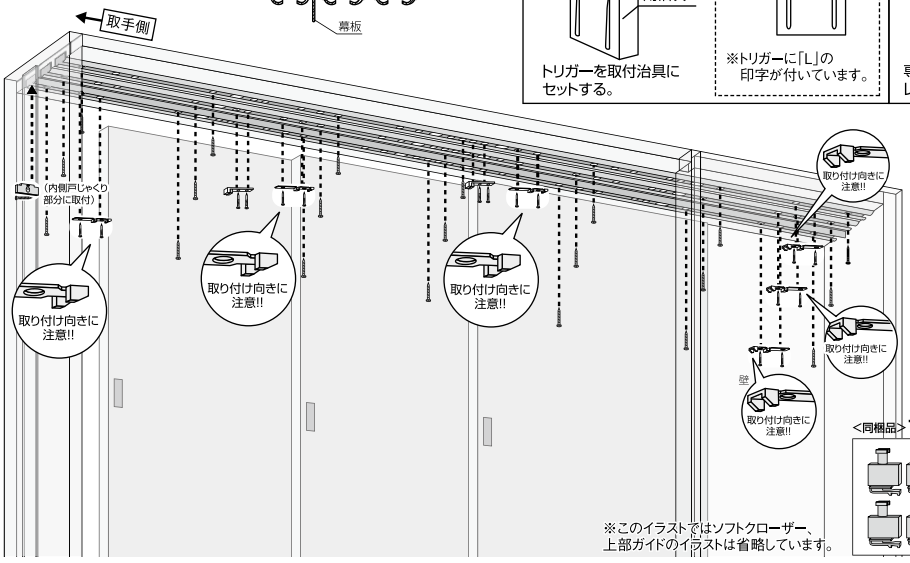
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



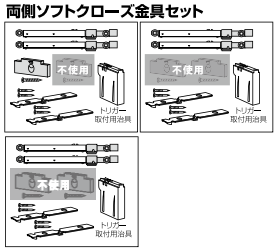
トリガー取付用治具使用方法



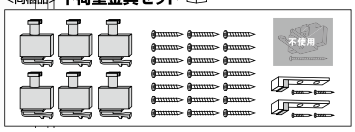


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



<同梱品> **下荷重金具セット**



片引き戸・引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	1本
	引き違い戸	2本	ー	ー	ー	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm
入数	片引き戸	ZYNK04	2個	2個	4本
	引き違い戸	ZYNH04	4個	2個	8本
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01	ー

ビスセット（枠本体セットに梱包）

袋の色	赤	赤	赤	黄	黄	透明
部材名	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16
セット品番						
ZYMK01-□	2本	6本	5本	10本	使用しません（1本入）	8個
ZYMH01-□	2本	4本	9本	11本	使用しません（1本入）	8個
備考（部材品番等）	ー	ー	床直付けレールの場合は使用しません。	枠と躯体の固定に使用できます。	ー	ー

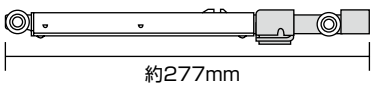
別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合：敷居		床直付けレールの場合：床直付けレール		
入数	片引き戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス8本
	引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス16本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー

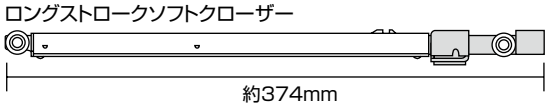
下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名			ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
セット品番	片引き戸	引き違い戸						
入数 ZH23SC-Y	片側SC付 枠外1324·1190	ー	1	ー	1	ー	1	1
ZH23LC-Y	片側SC付 枠外1824·1644·1450	片側SC付（×2セット）	ー	1	ー	1	1	1
ZH23SR-Y	両側SC付 枠外1324·1190	ー	2	ー	2	ー	2	1
ZH23MR-Y	両側SC付 枠外1450	ー	1	1	1	1	2	1
ZH23LR-Y	両側SC付 枠外1824·1644	両側SC付（×2セット）	ー	2	ー	2	2	1

Ⓐショートストロークソフトクローザー



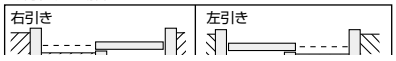
Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別があ

※片引き戸の場合のみ。



片引き戸 専用枠材

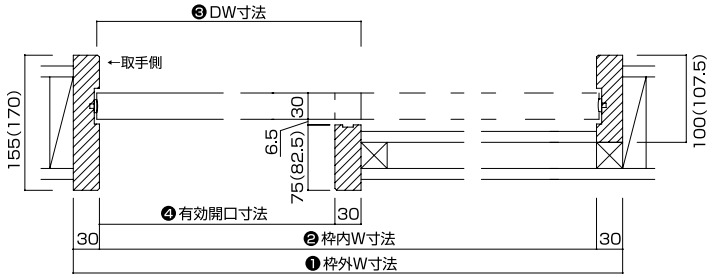
2. 片引き戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

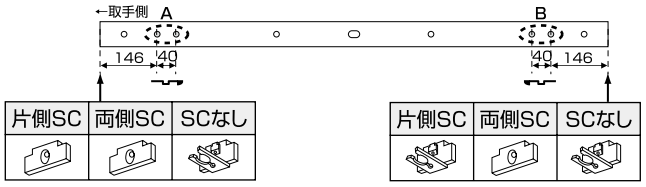
（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❷枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❸DW寸法	900	810	713	650	583
❹有効開口寸法	867	777	680	617	550

■レール詳細図

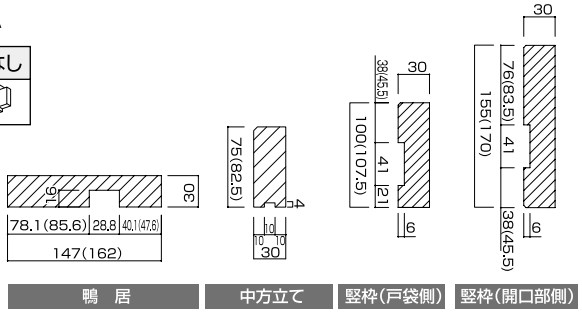


■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A
両側ソフトクローズ仕様	A·B

POINT

トリガーの取り付け向きに注意してください。



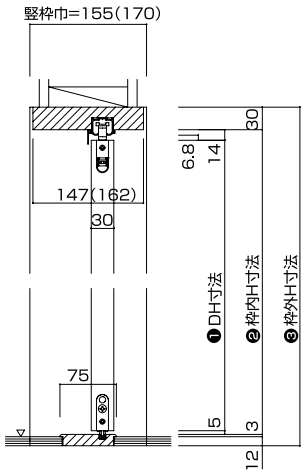
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は170巾の寸法です。

縦断面図

床埋め込み敷居の場合

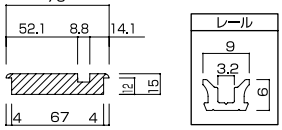
（単位：mm）



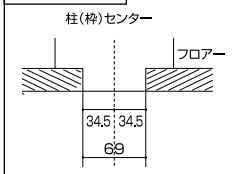
製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247

※（　）内は170巾の寸法です。

敷居(突板タイプ)加工図

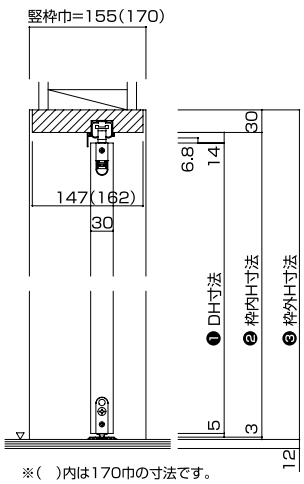


フロア張込位置



床直付けレールの場合

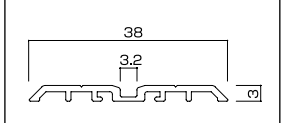
（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235

※（　）内は170巾の寸法です。

床直付けレール図



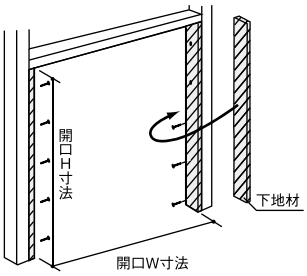
片引き戸 専用枠材

3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

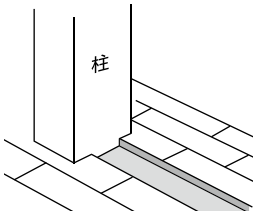
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

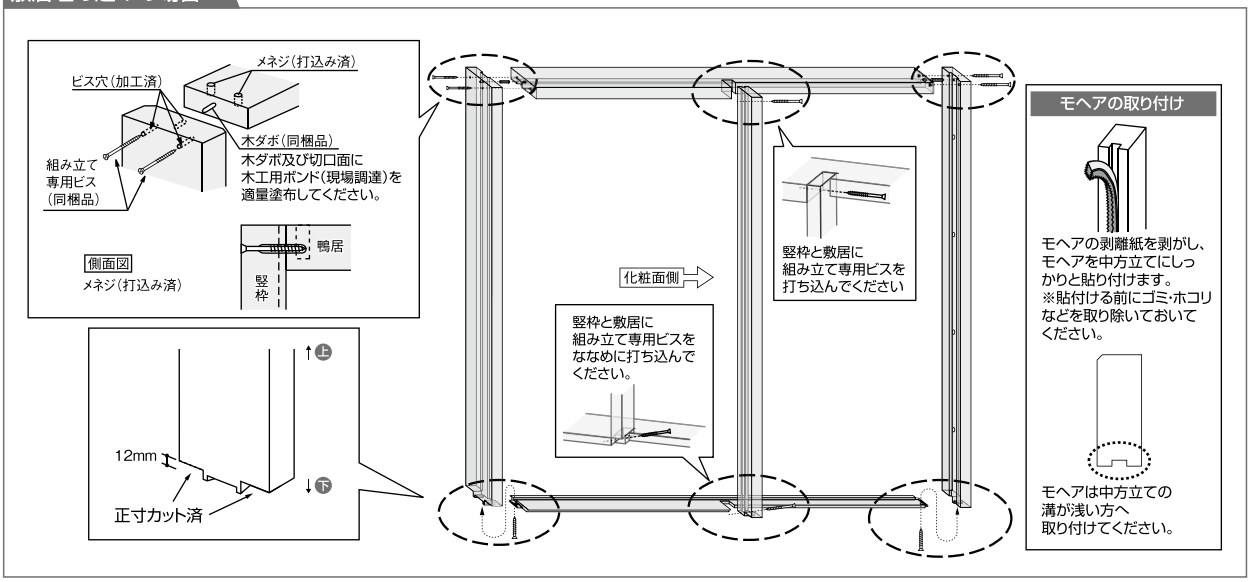


3 枠材の組み立て

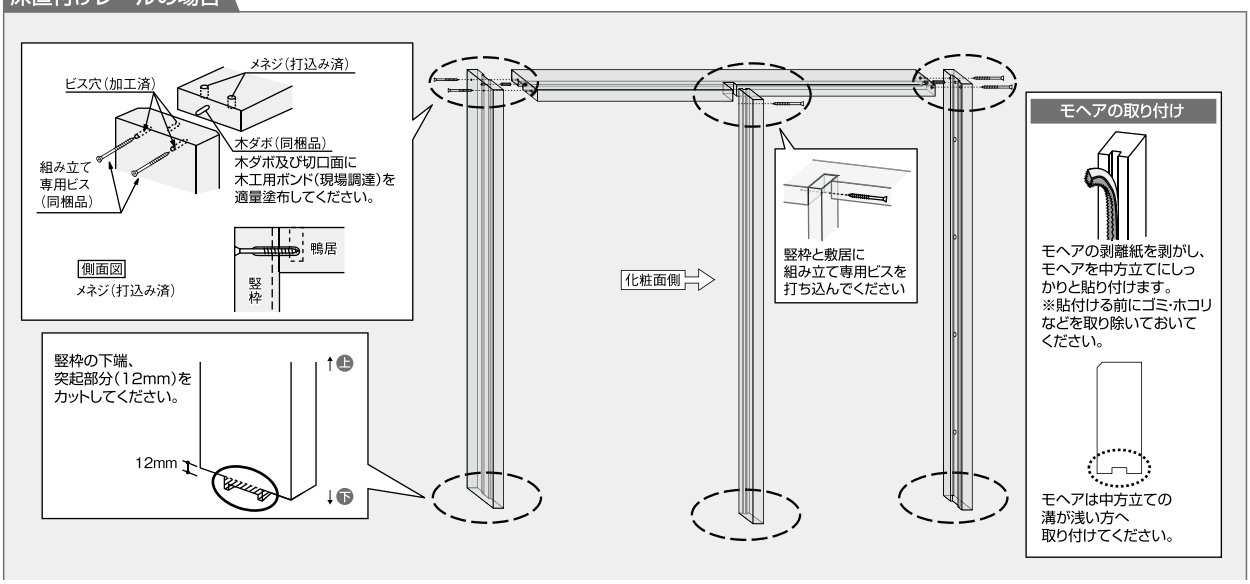
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



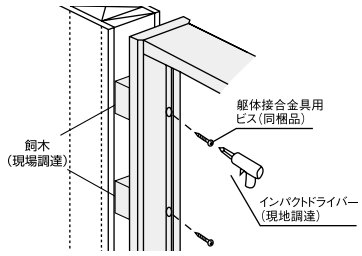
床直付けレールの場合



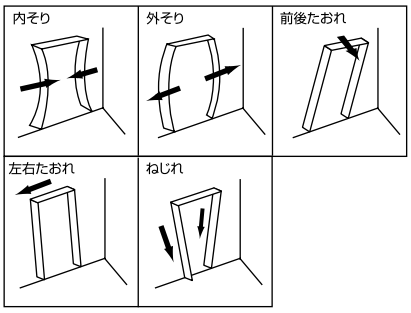
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

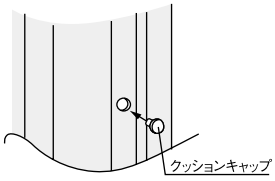
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



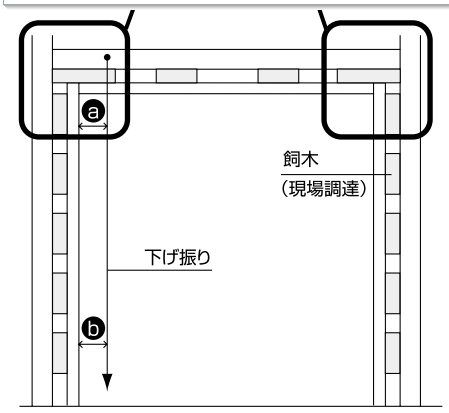
竪枠を取り付け後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



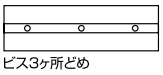
水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

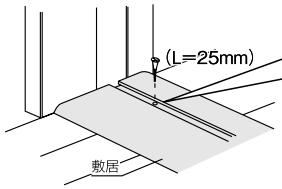
①敷居と下地の固定

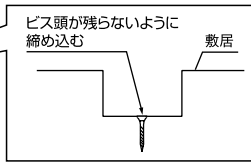
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。



⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

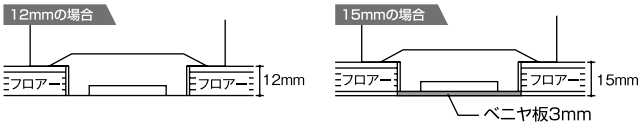




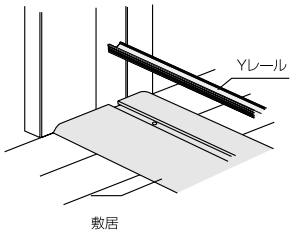
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

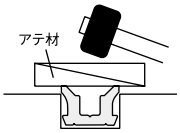
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け

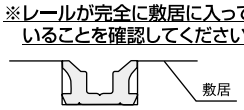


Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。



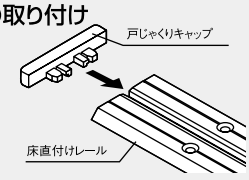
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

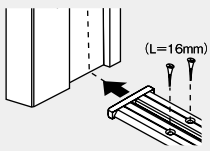


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

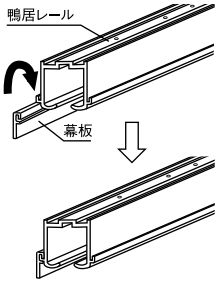
片引き戸 専用枠材

6 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

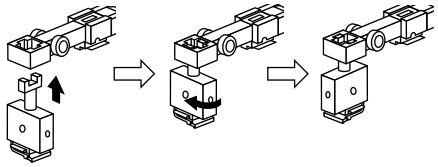
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

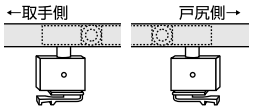
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

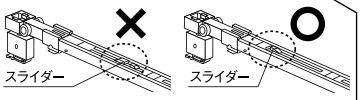


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

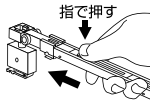
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

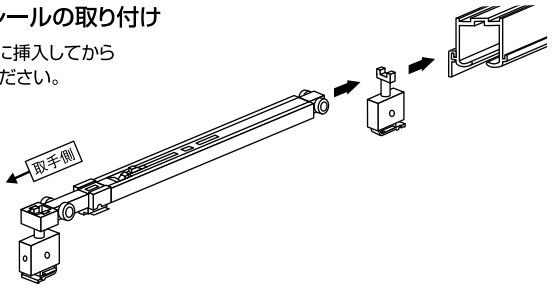
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

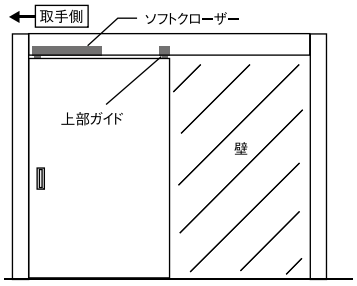


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

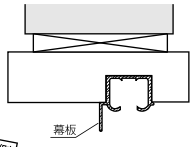
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



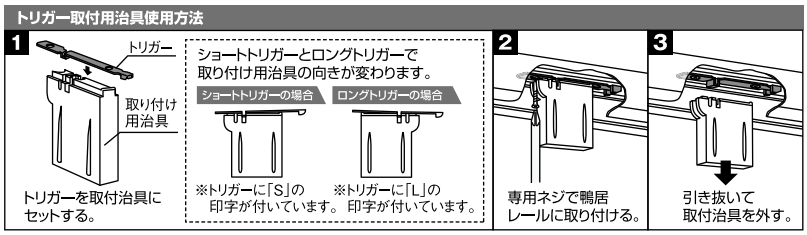


②鴨居レールの取り付け

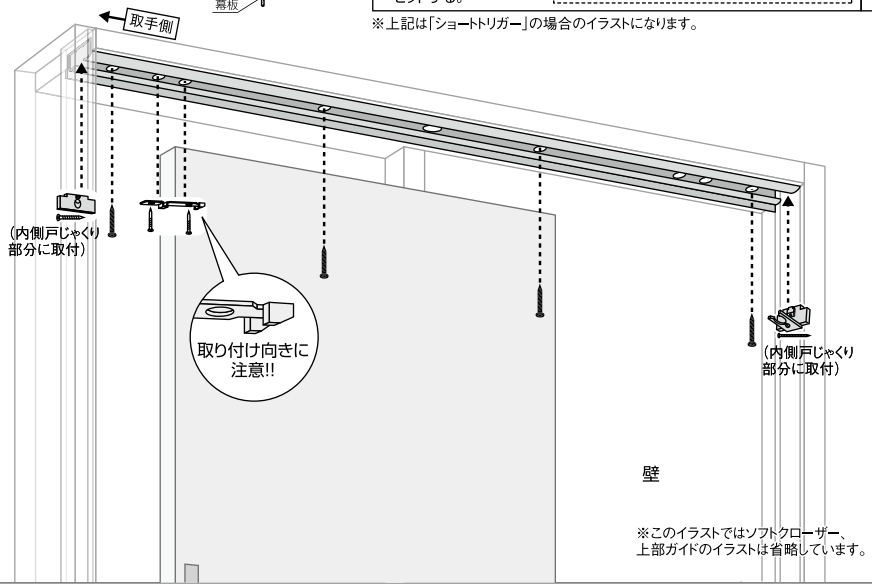
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

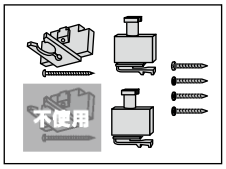


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

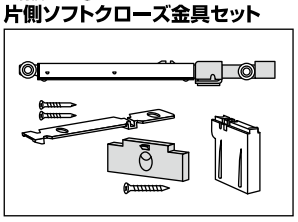


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



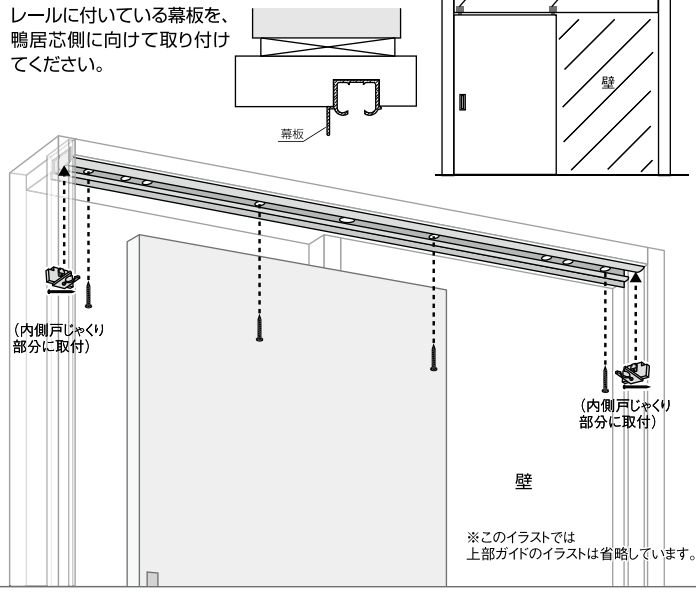
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。

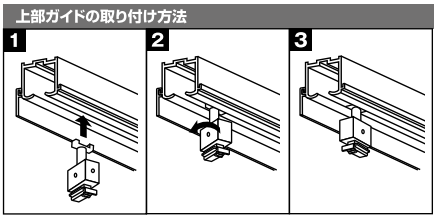


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

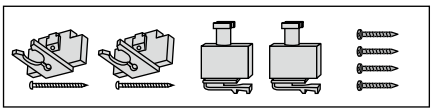
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

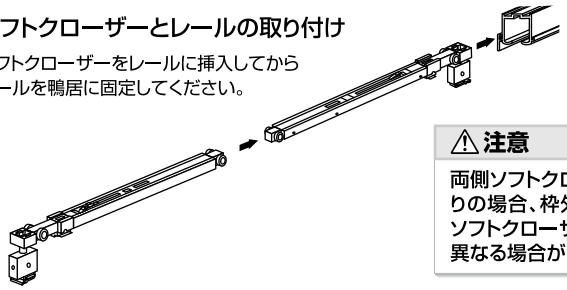
<同梱品>
下荷重片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

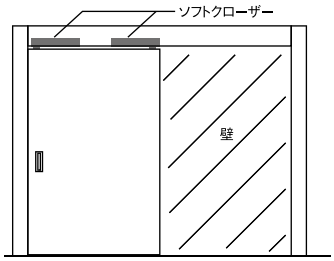
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



⚠注意

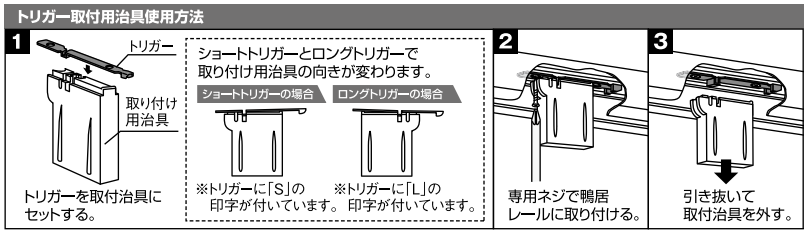
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。



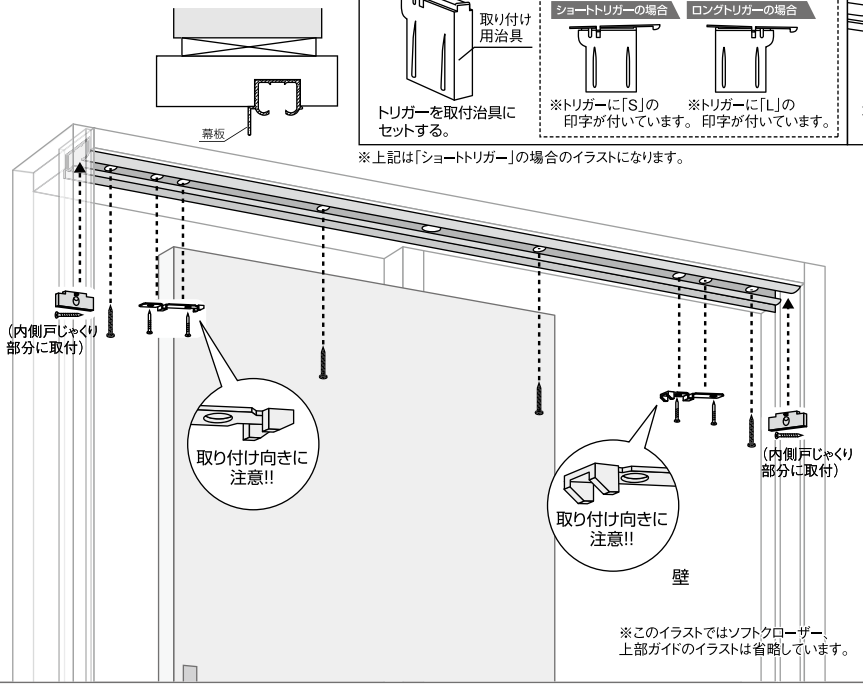
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。

トリガー取付用治具使用方法

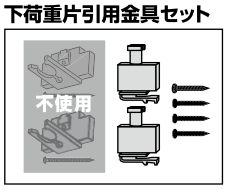


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

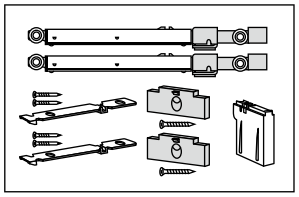


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



引き違い戸 専用枠材

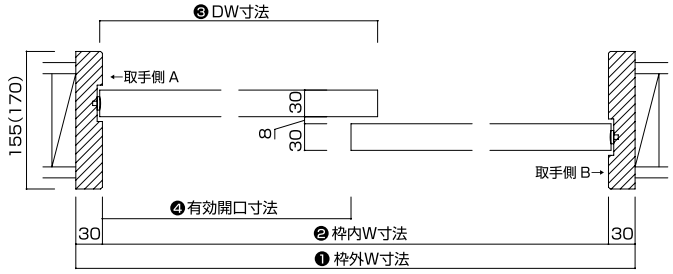
4. 引き違い戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

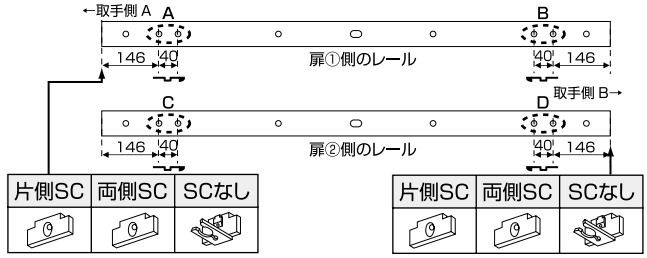
（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



製品寸法	1,824	1,644
❶枠外W寸法	1,824	1,644
❷枠内W寸法	1,764	1,584
❸DW寸法	900	810
❹有効開口寸法	864	774

■ レール詳細図



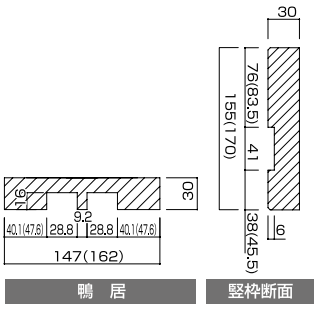
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

A·C　B·D

トリガーの取り付け向きに注意してください。



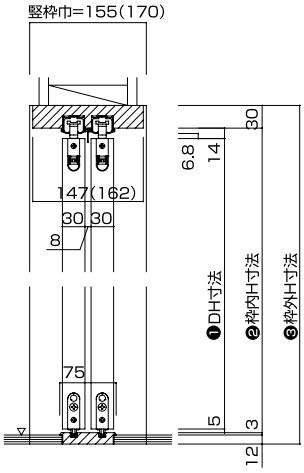
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は170巾の寸法です。

縦断面図

敷居埋め込みの場合

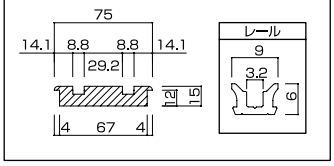
（単位：mm）



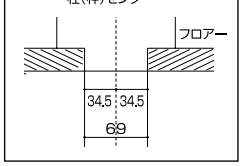
製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247

※（　）内は170巾の寸法です。

敷居(突板タイプ)加工図

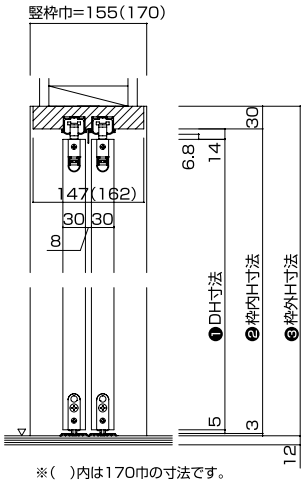


フロア張込位置



床直付けレールの場合

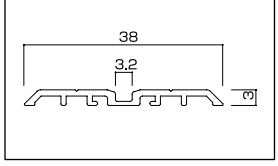
（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235

※（　）内は170巾の寸法です。

床直付けレール図

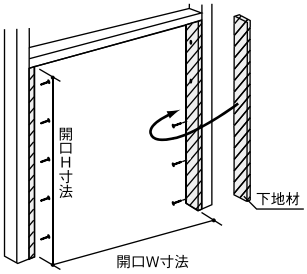


5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

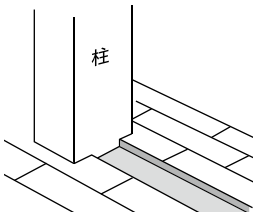
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

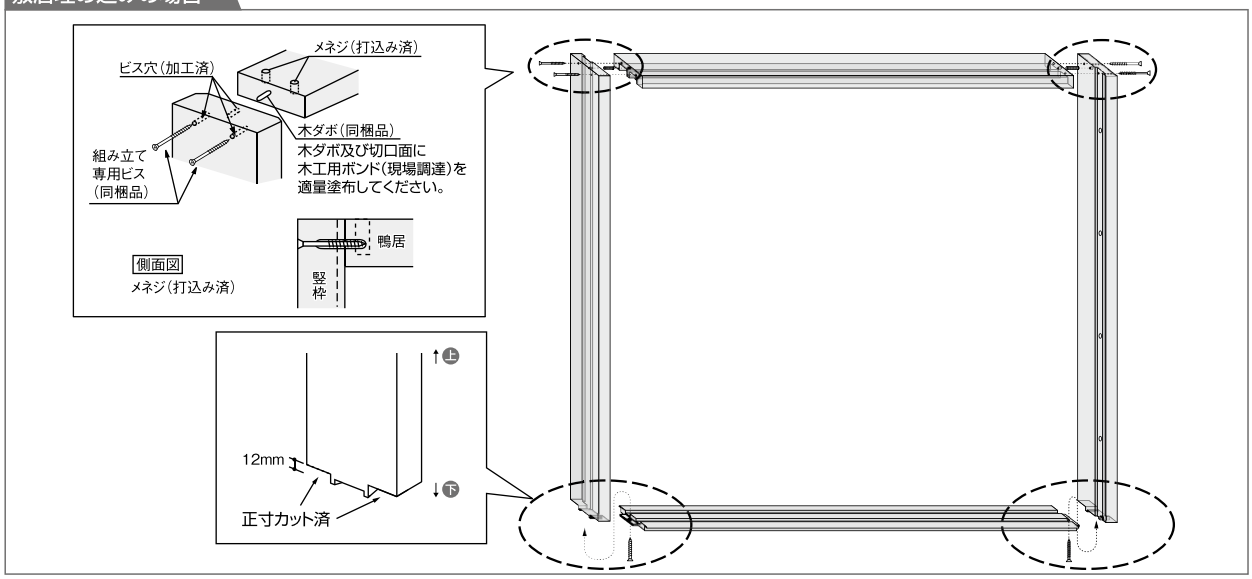


3 枠材の組み立て

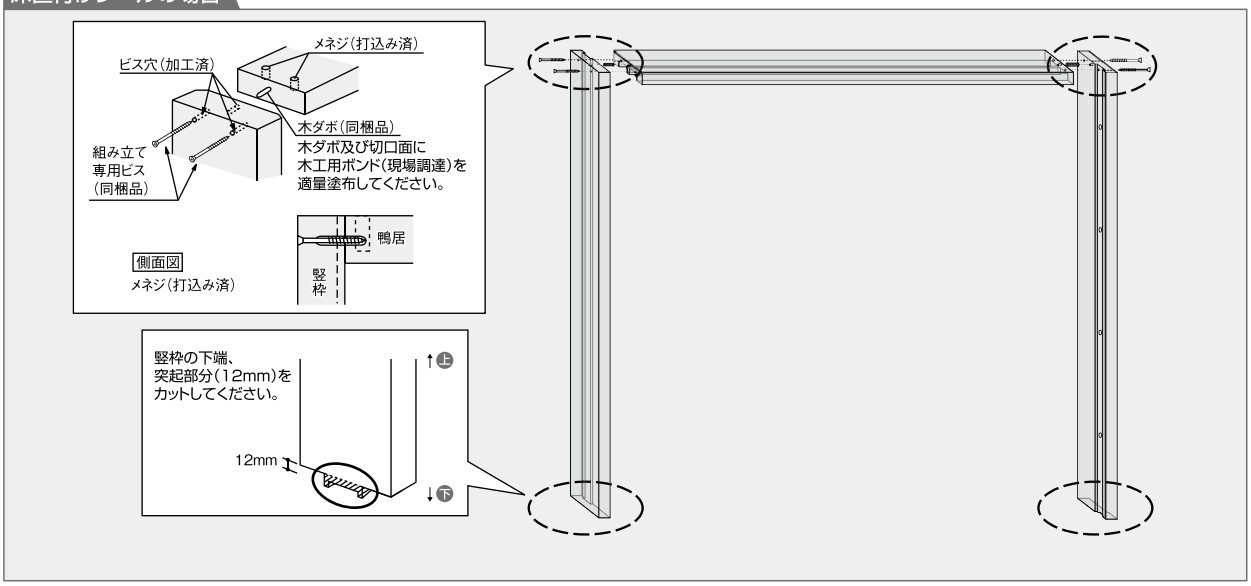
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

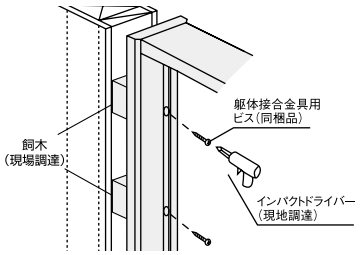


引き違い戸 専用枠材

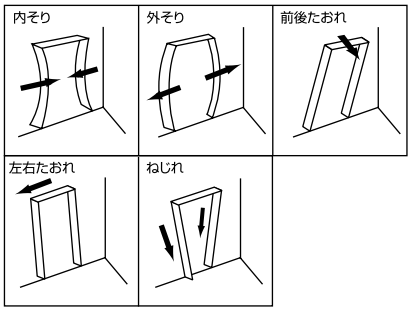
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

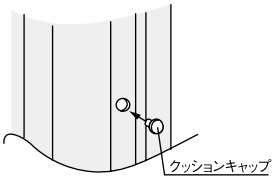
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



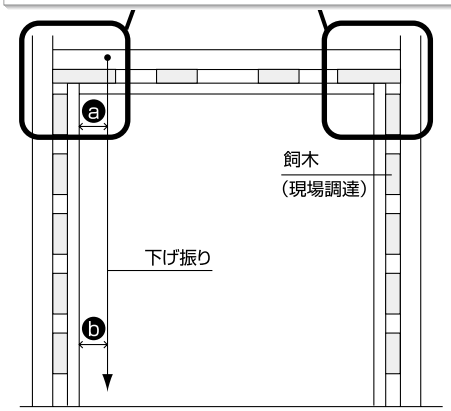
竪枠を取り付け後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

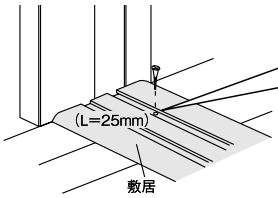
①敷居と下地の固定

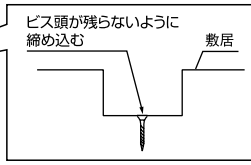
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

溝1本につき2ヶ所以上で固定します。

⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

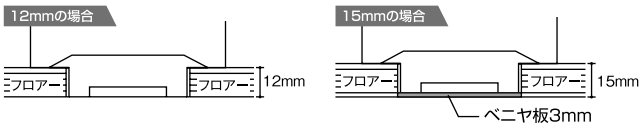




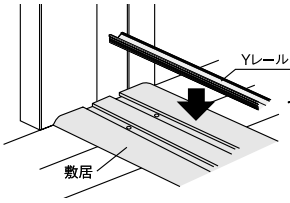
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

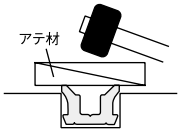
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け

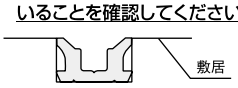


Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

⇨ ※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。



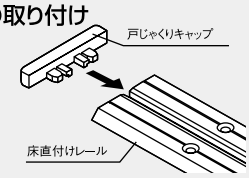
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

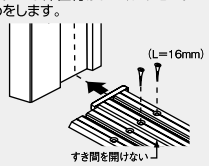


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



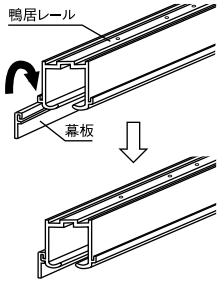
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

6 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

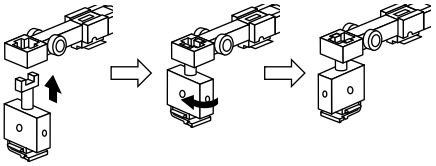
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

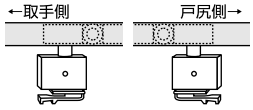
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側･戸尻側に向くように取り付けてください。

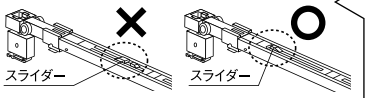


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

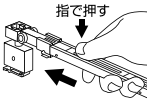
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

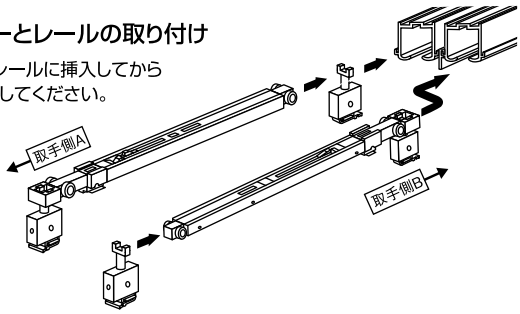
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

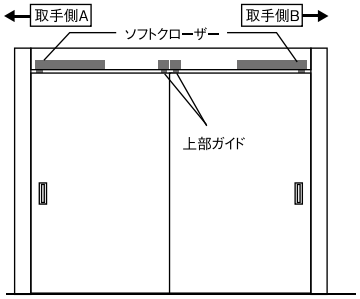


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

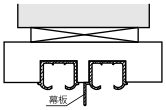
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



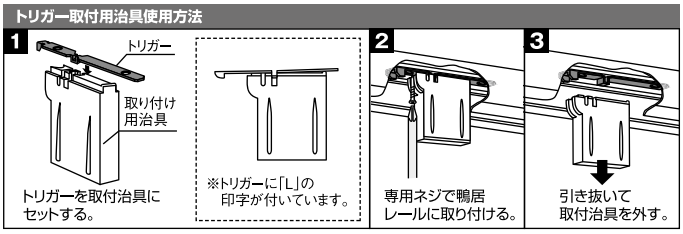


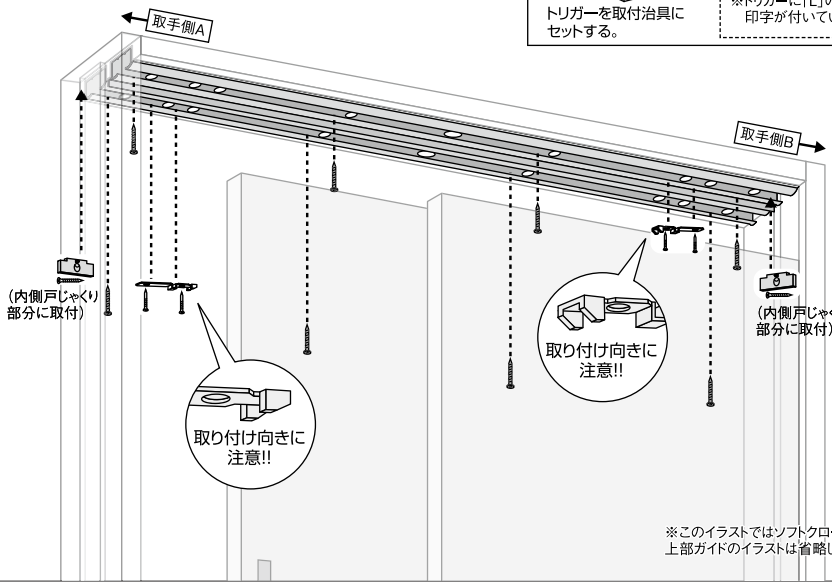
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



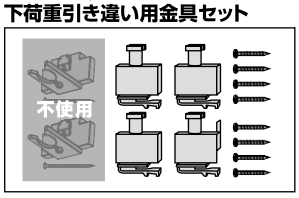
トリガー取付用治具使用方法



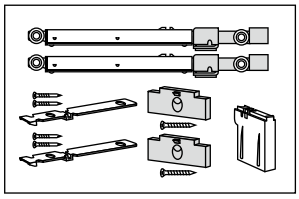


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

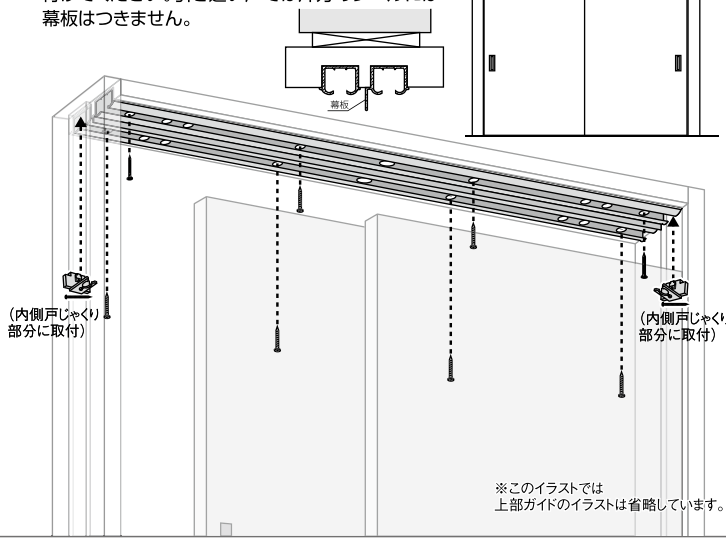


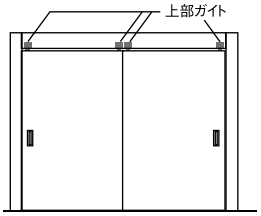
引き違い戸 専用枠材

ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。

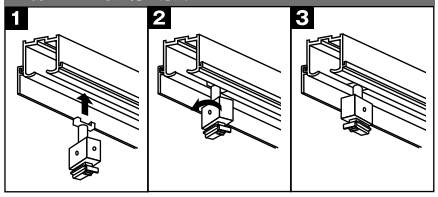




⚠注意

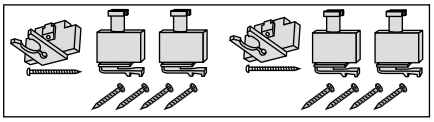
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

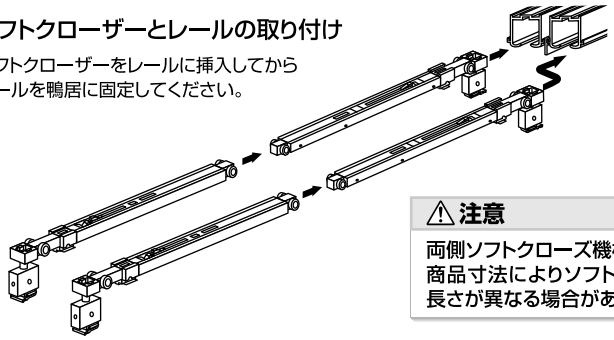
<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

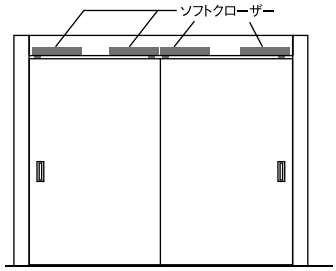
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



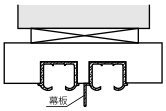
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

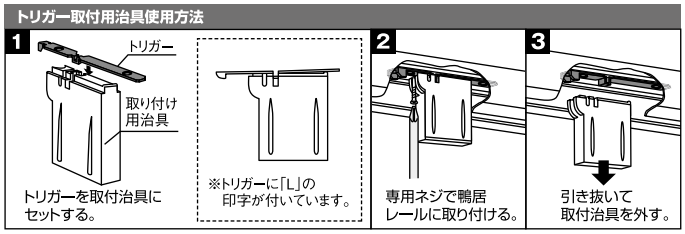


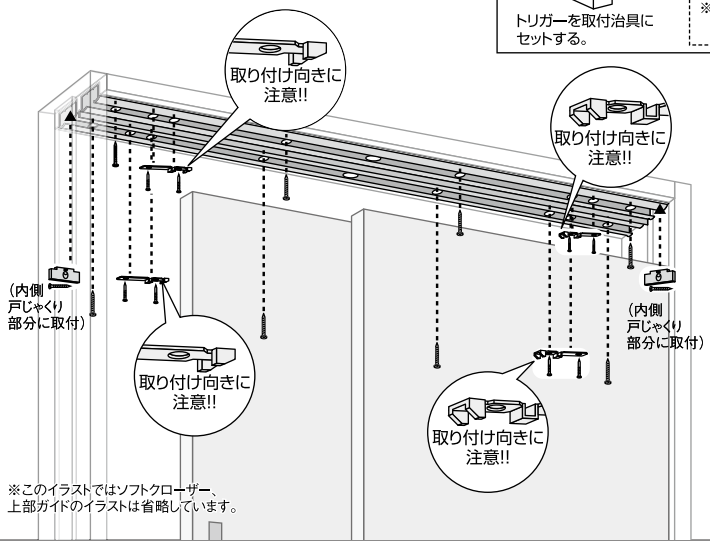
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。

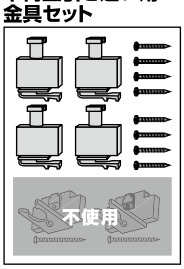


トリガー取付用治具使用方法

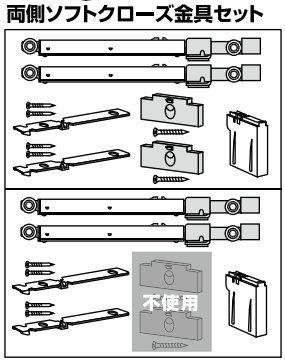




<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



引き分け戸・3枚引き違い戸・4枚引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	引き分け戸	2本	2本	2本	1本	1本	1本
	3枚引き違い戸	2本	—	—	1本	3本	1本
	4枚引き違い戸	2本	—	—	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	L型ストッパー	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm 3.5mm
セット品番						片側SC付 / 両側SC付 / SCなし
ZYNL08	4個	—	2個	1個	—	6本のみ使用（7本入）
ZYNS07	6個	2個	—	—	1個	17本のみ使用（21本入） / 17本のみ使用（21本入） / 18本のみ使用（21本入）
ZYNI08	8個	2個	—	2個	—	12本のみ使用（14本入）
備考（部材品番等）	ZYNG01	ZYNC01	ZYTNC01	ZY3337	ZY2526	—

ビスセット（枠本体セットに梱包）

袋の色			赤	赤	赤	黄	黄	透明	透明
部材名			木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	躯体接合穴キャップ φ10
入数	引き分け戸	ZYML01-□	2本	8本	9本	12本	使用しません（1本入）	8個	—
	3枚引き違い戸	ZYMS01-□	2本	4本	11本	11本	使用しません（1本入）	8個	使用しません（8個入）
	4枚引き違い戸	ZYMH01-□	2本	4本	9本	11本	使用しません（1本入）	8個	—
備考（部材品番等）			—	—	床直付けレールの場合は使用しません。	枠と躯体の固定に使用できます。	—	—	—

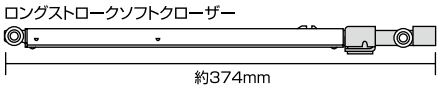
別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合：敷居		床直付けレールの場合：床直付けレール		
入数	引き分け戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス13本
	3枚引き違い戸	本体1本	レール3本	レール3本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス30本
	4枚引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス26本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名		引き分け戸	3枚引き違い戸	4枚引き違い戸	ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
入数	ZH23LC-Y	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×3セット）	片側SC付（×4セット）	1	1	1	1
	ZH23LR-Y	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×3セット）	両側SC付（×4セット）	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



引き分け戸 専用枠材

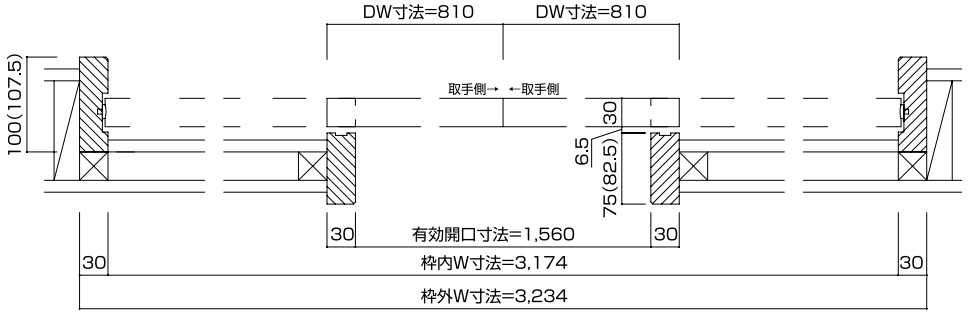
2. 引き分け戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

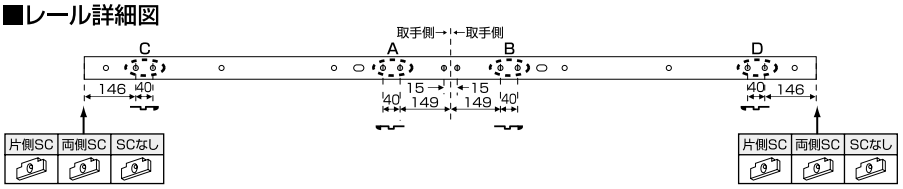
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



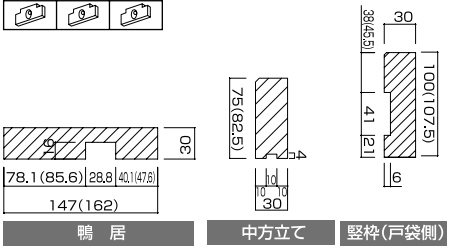
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·C　A·D

トリガーの取り付け向きに注意してください。



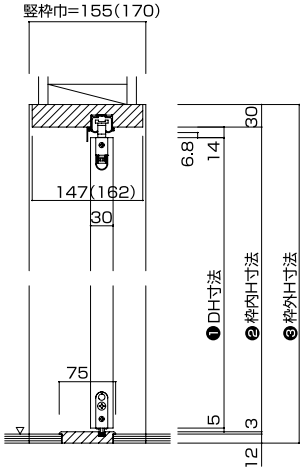
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は170巾の寸法です。

縦断面図

床埋め込み敷居の場合

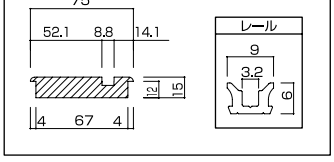
（単位：mm）



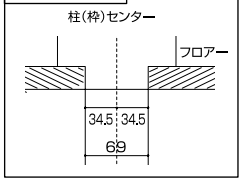
製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247

※（　）内は170巾の寸法です。

敷居(突板タイプ)加工図

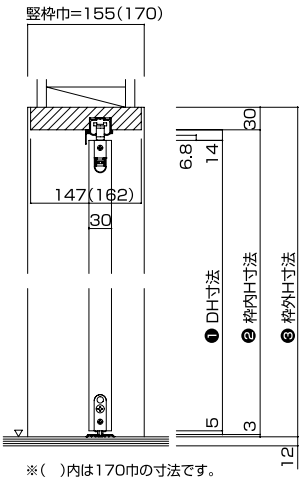


フロア張込位置



床直付けレールの場合

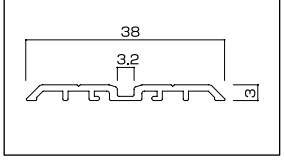
（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235

※（　）内は170巾の寸法です。

床直付けレール図

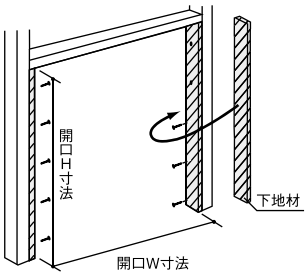


3. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

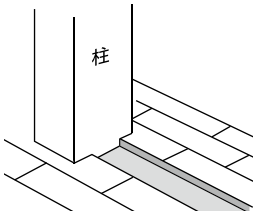
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

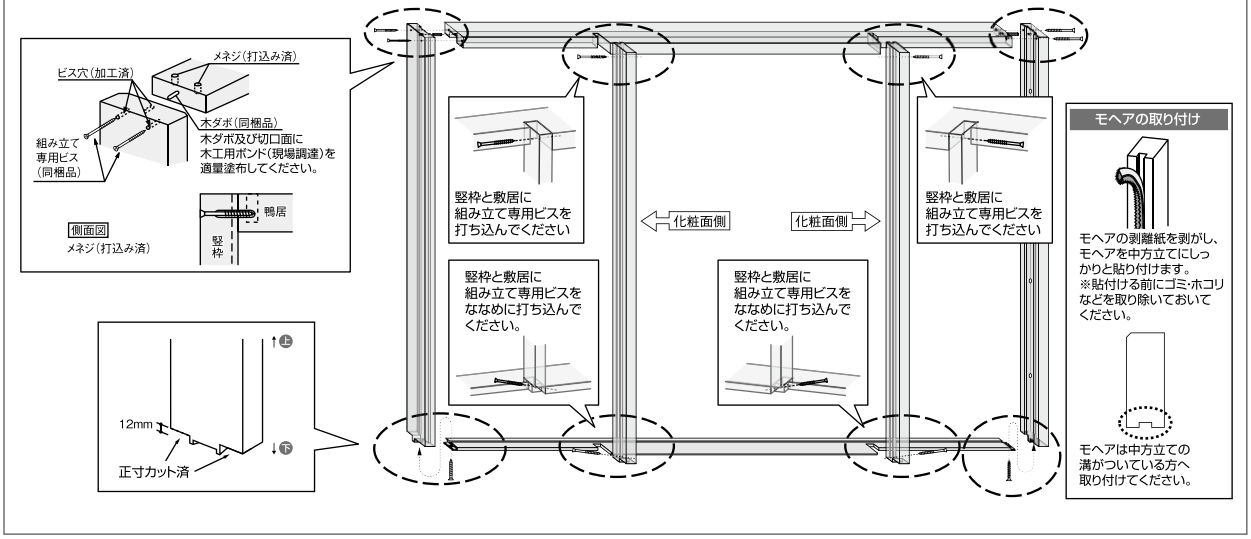


3 枠材の組み立て

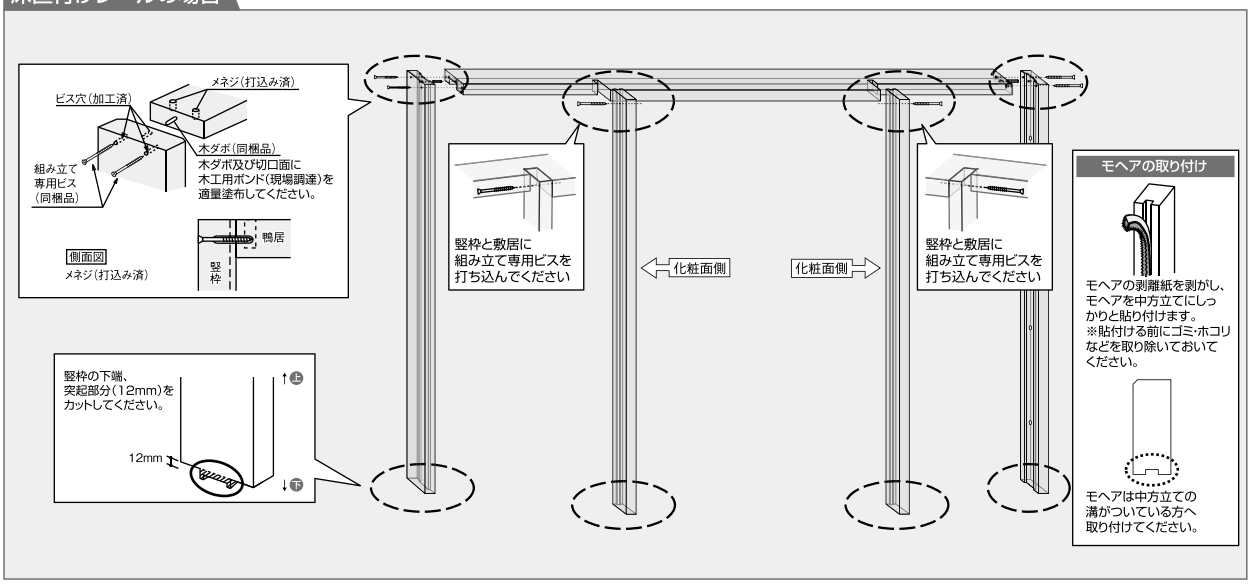
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

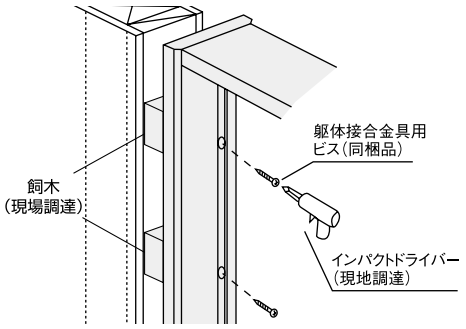


引き分け戸 専用枠材

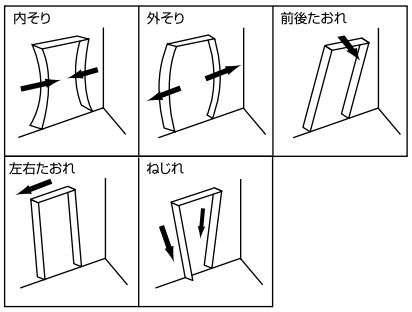
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

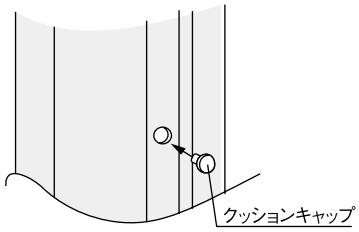
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



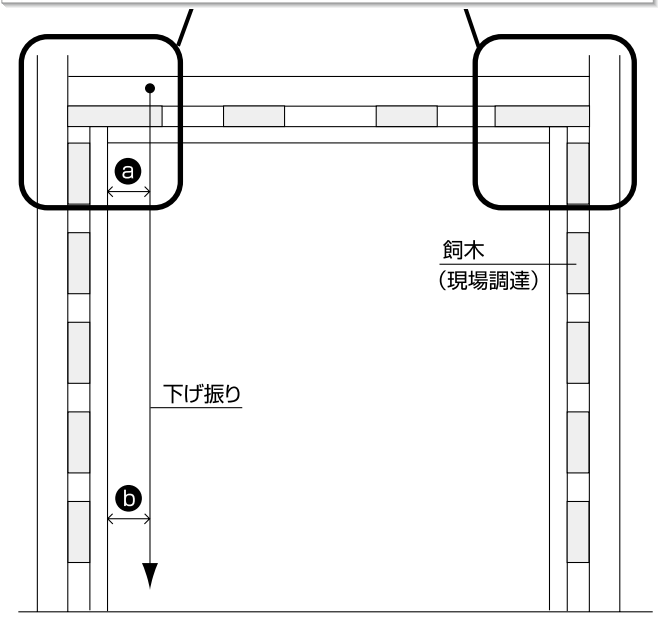
竪枠を取り付け後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



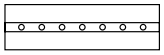
水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

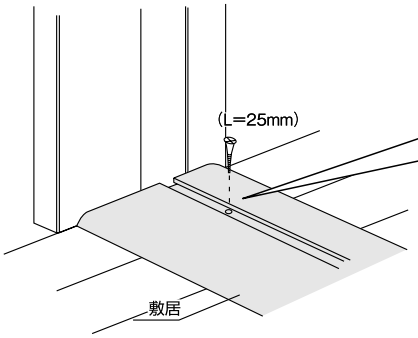
5 敷居・床直付けレールの取り付け

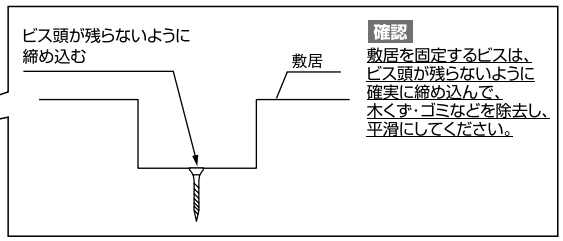
敷居埋め込みの場合

①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。



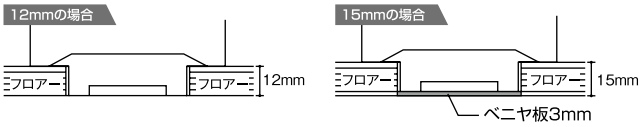




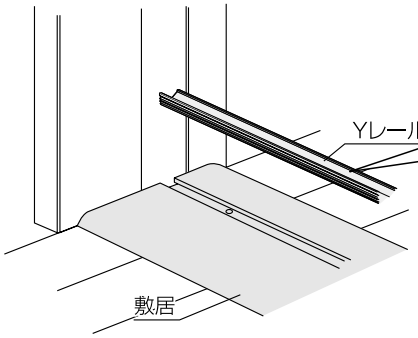
⚠注意

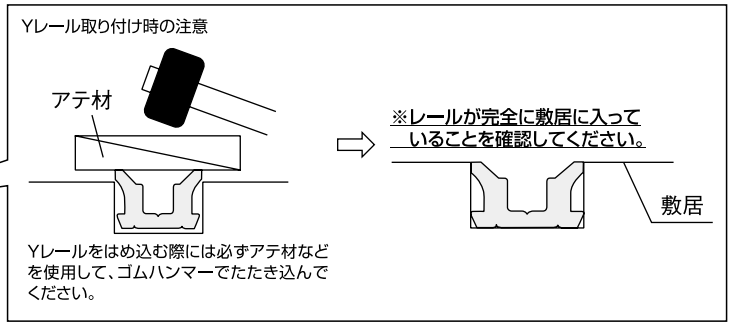
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け





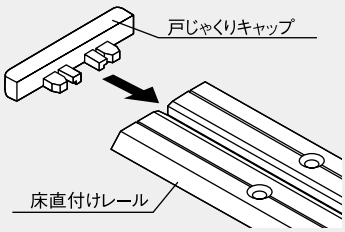
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

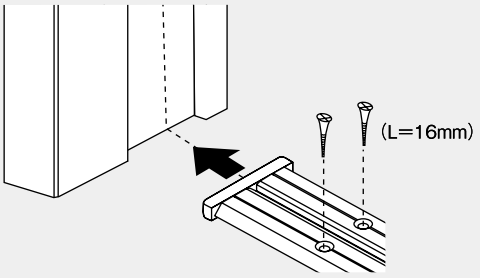


②床直付けレール取り付け位置の確認

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

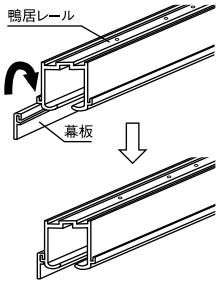
引き分け戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

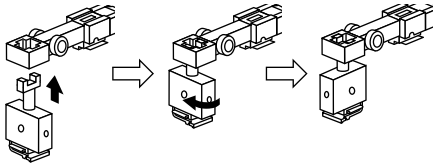
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

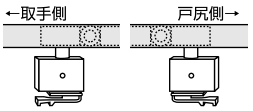
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

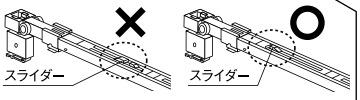


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

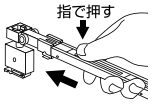
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

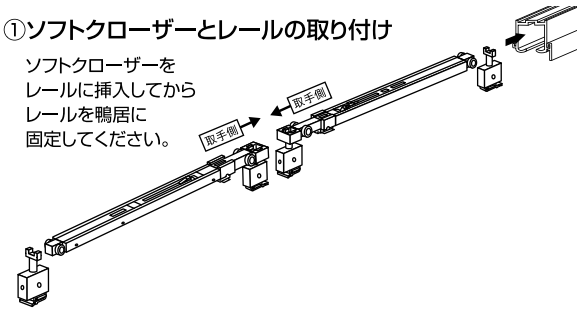
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

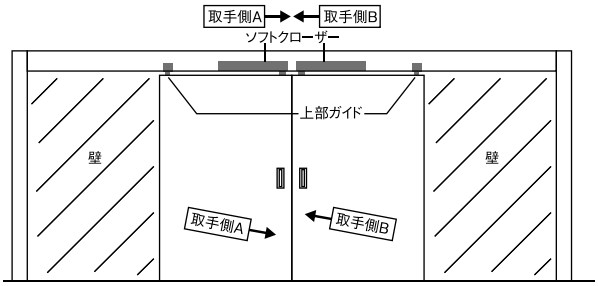


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

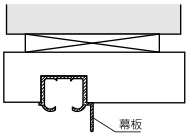
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



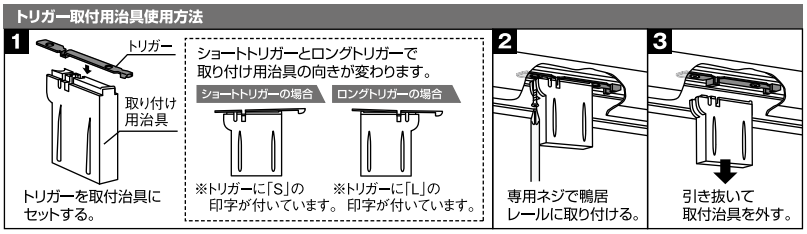


②鴨居レールの取り付け

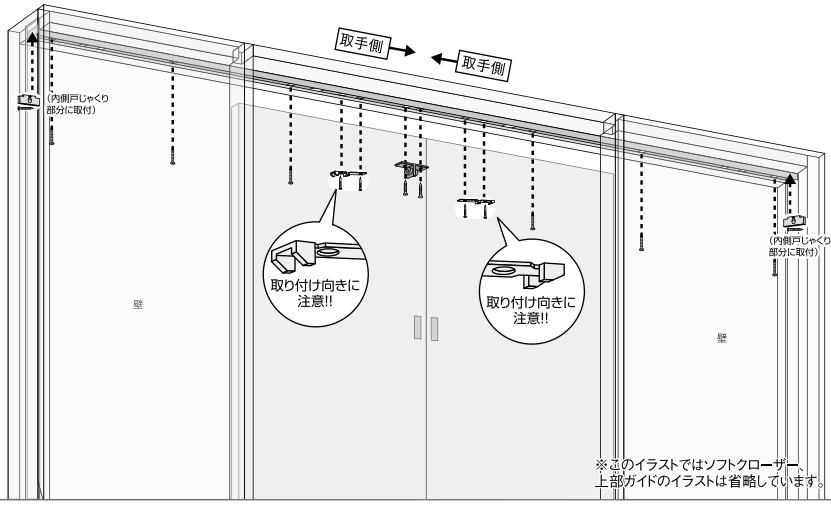
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



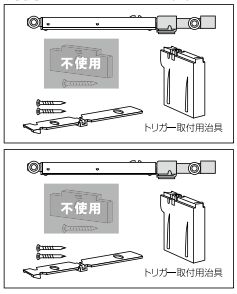
トリガー取付用治具使用方法



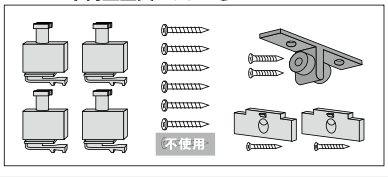
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



<別梱包> **片側ソフトクローズ金具セット**



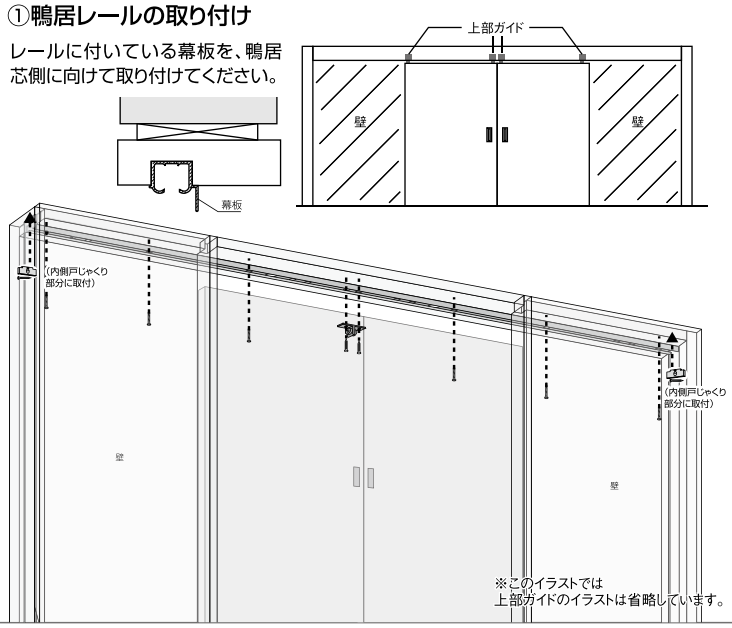
<同梱品> **下荷重金具セット**



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

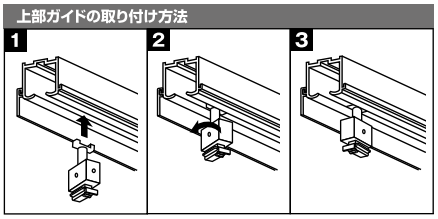
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



⚠注意

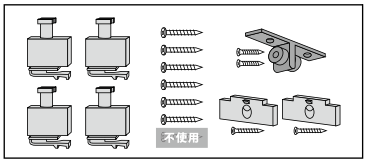
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

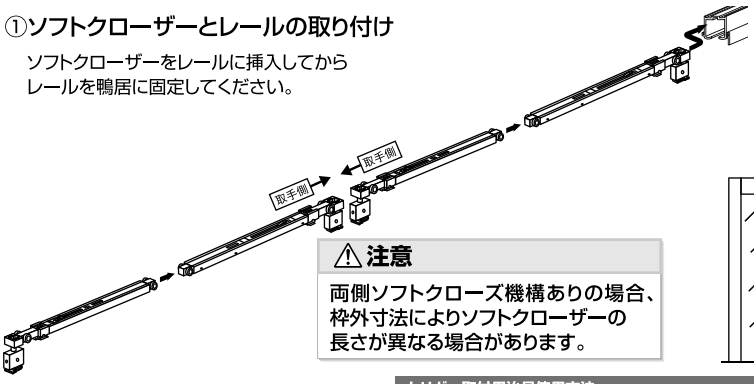
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

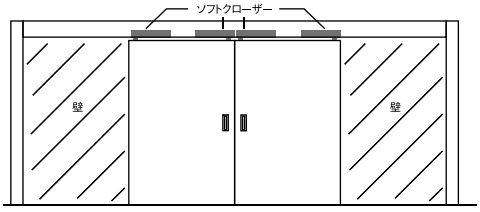
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



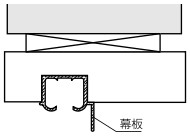
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

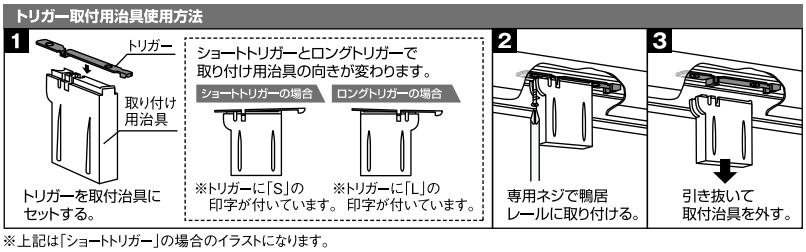


②鴨居レールの取り付け

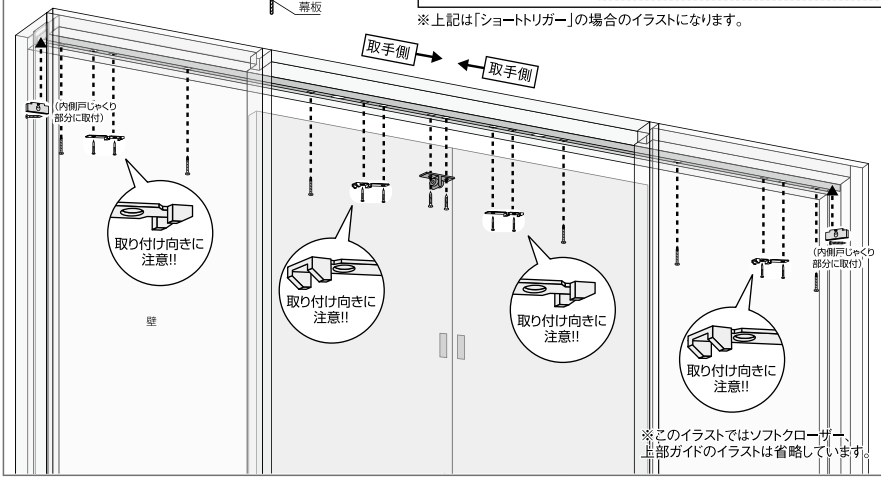
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



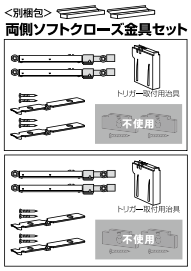
トリガー取付用治具使用方法



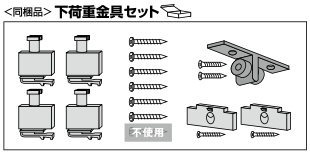
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



<同梱品> **下荷重金具セット**



3 枚引き違い戸 専用枠材

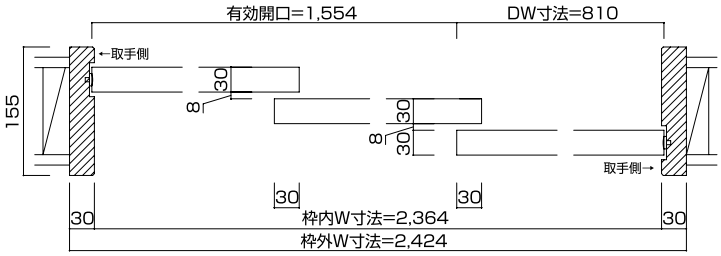
4. 3枚引き違い戸 納まり図

※170巾は対応しておりません。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

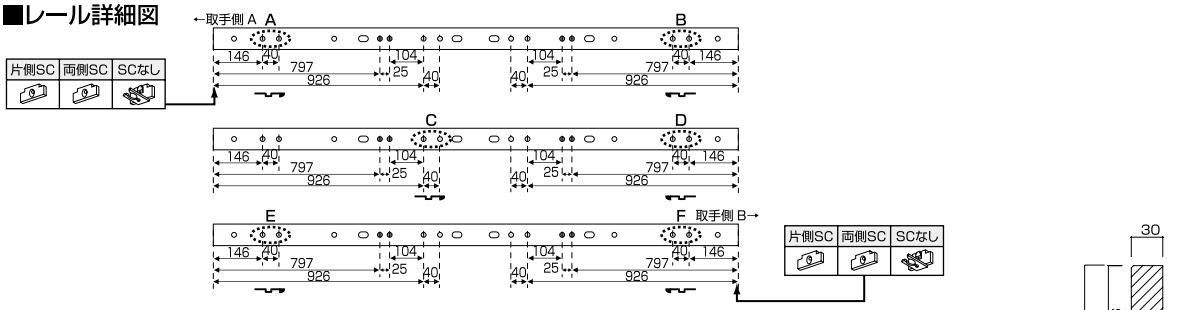
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



上記レール詳細図を確認し、
トリガー、ストッパーなどの
取り付け位置をご確認ください。

■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·C·F
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D·E·F

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

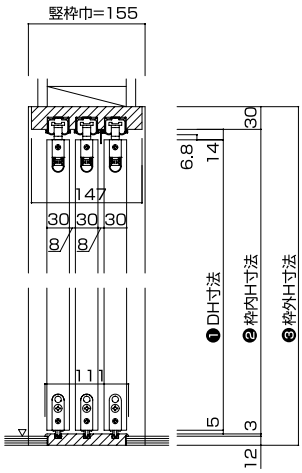
POINT
A·C·E　B·D·F
トリガーの取り付け向きに注意してください。

鴨　居　　竪枠断面

縦断面図

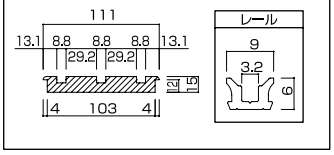
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

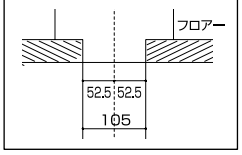


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247

敷居(突板タイプ)加工図

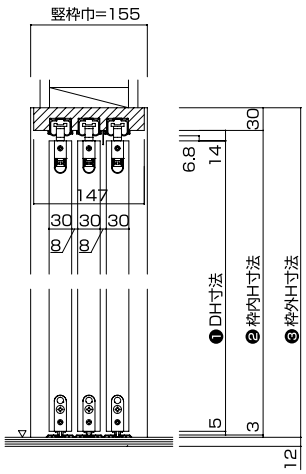


フロア張込位置



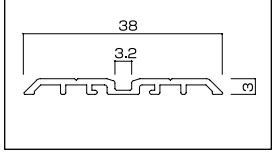
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235

床直付けレール図

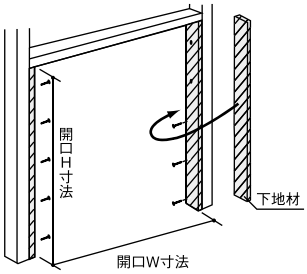


5. 3枚引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

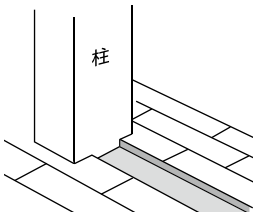
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

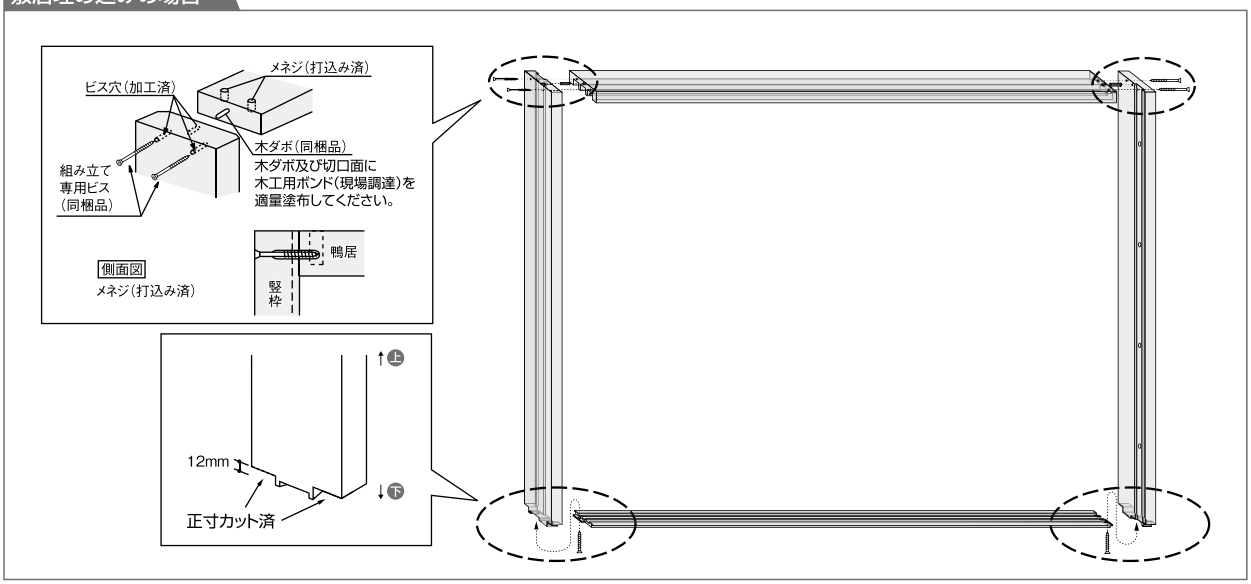


3 枠材の組み立て

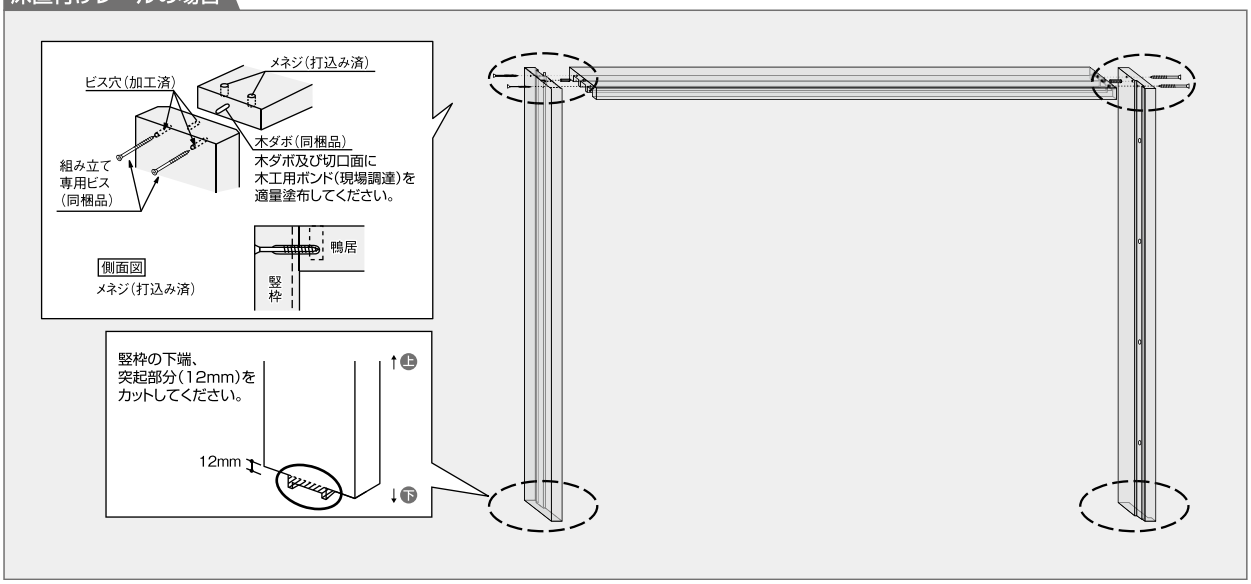
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

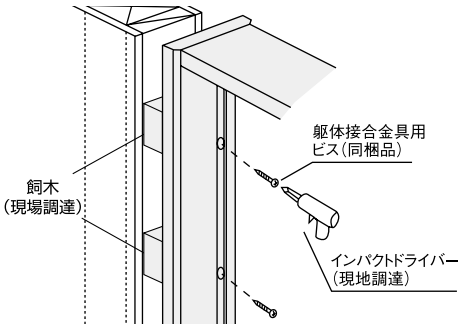


3 枚引き違い戸 専用枠材

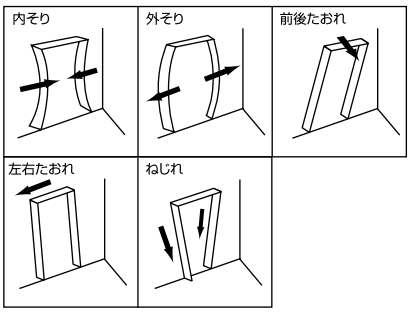
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

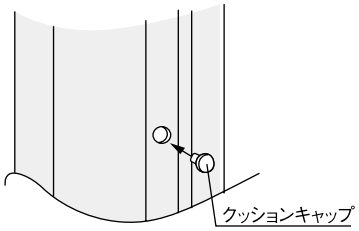
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



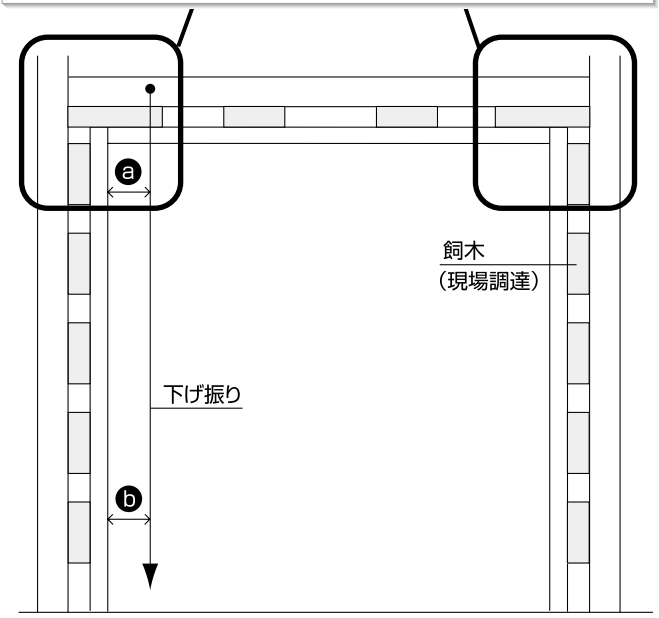
竪枠を取り付け後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



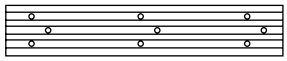
水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

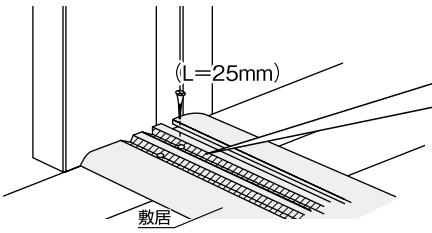
敷居埋め込みの場合

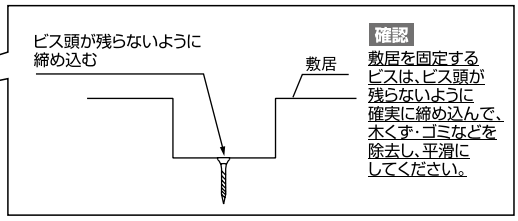
①敷居と下地の固定

敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。



ビスは溝1本につき3カ所とめます。

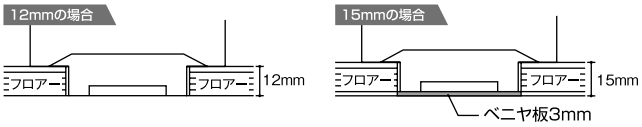




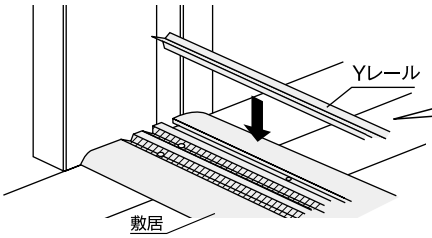
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

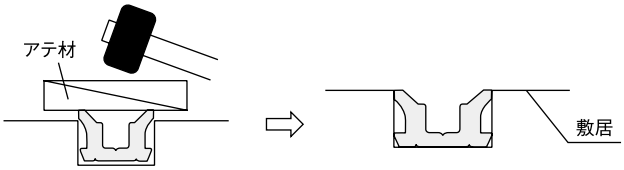
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け



Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

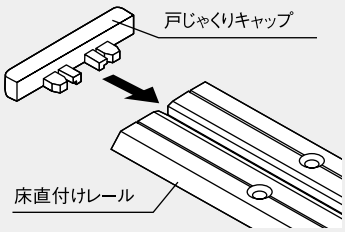
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

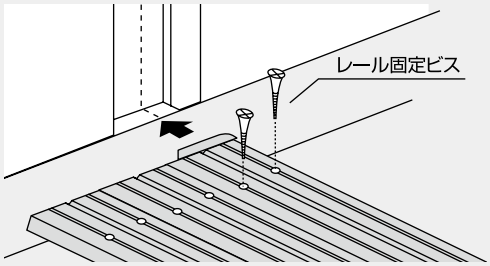


②床直付けレール取り付け位置の確認

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

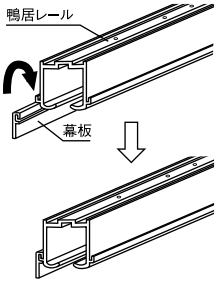
3枚引き違い戸 専用枠材

6 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

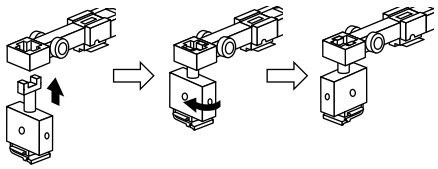
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

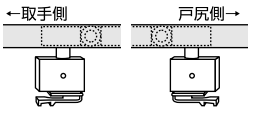
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

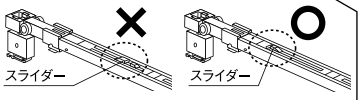


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

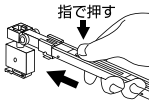
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

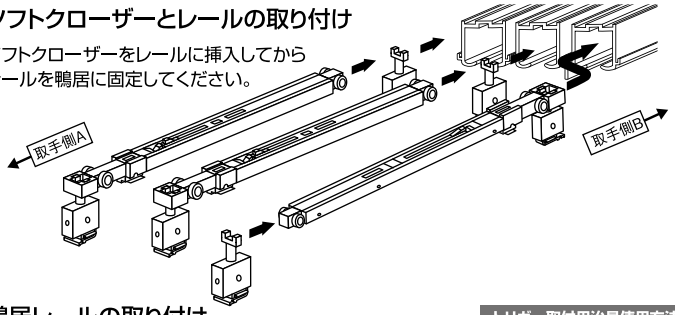
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

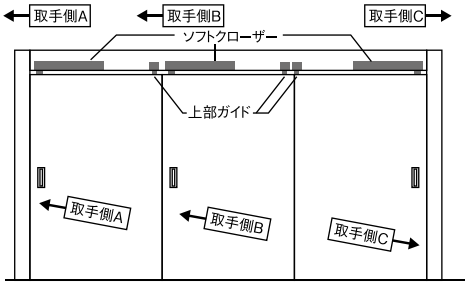


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

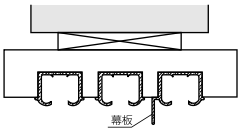
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



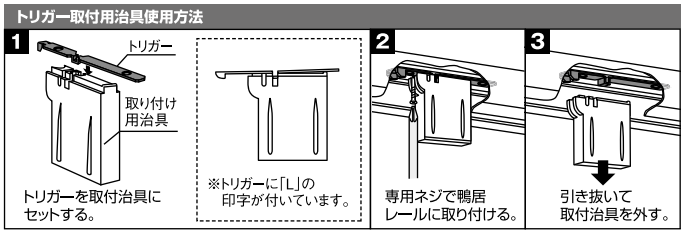


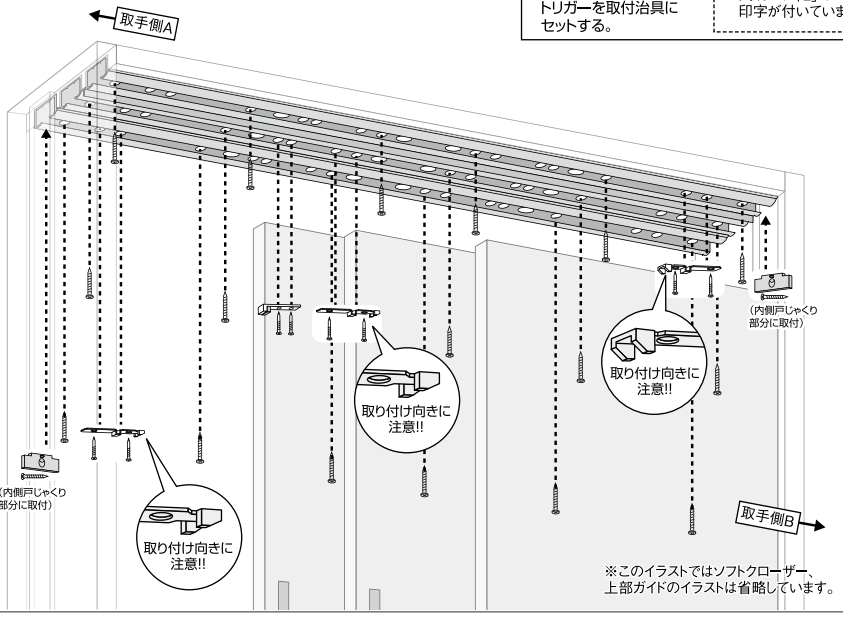
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。
幕板は1本のレールにしかつきません。



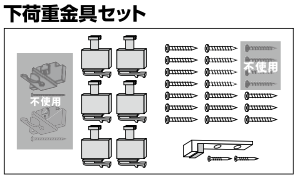
トリガー取付用治具使用方法



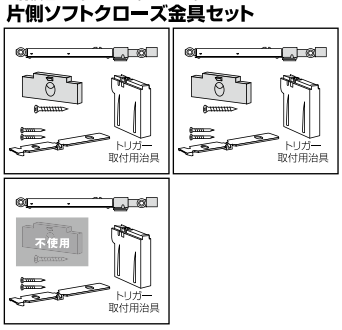


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



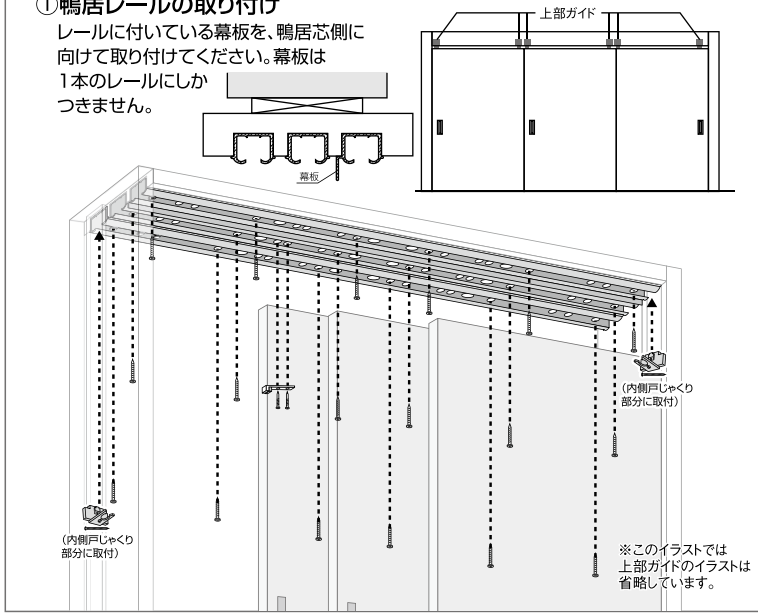
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

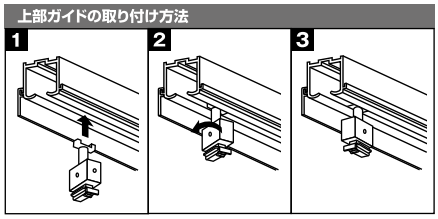
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



⚠注意

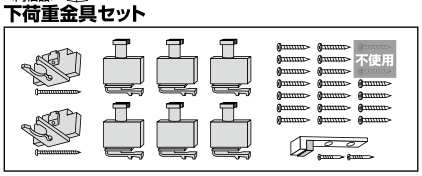
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

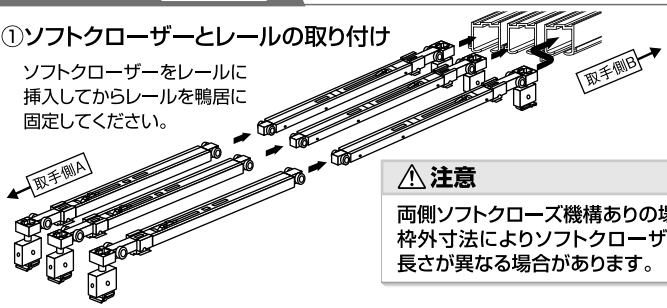
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

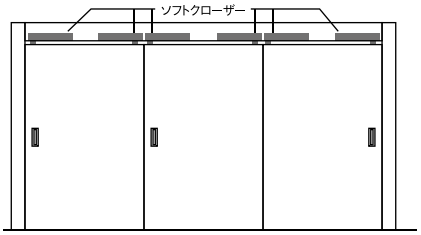
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



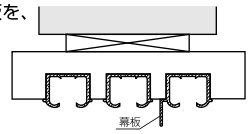
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

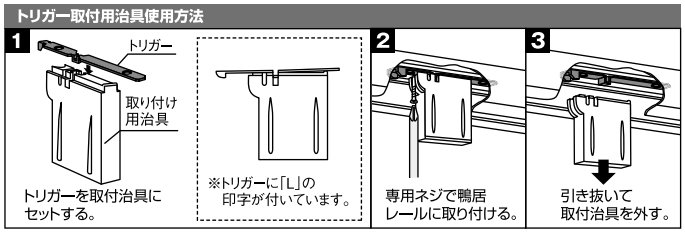


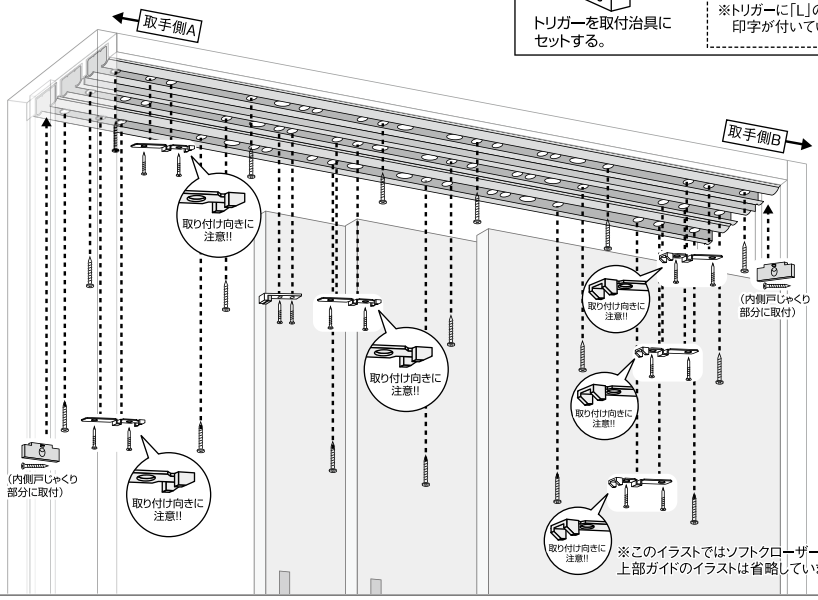
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。

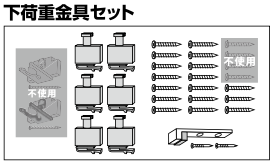


トリガー取付用治具使用方法

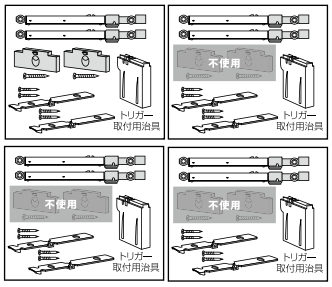




<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



4 枚引き違い戸 専用枠材

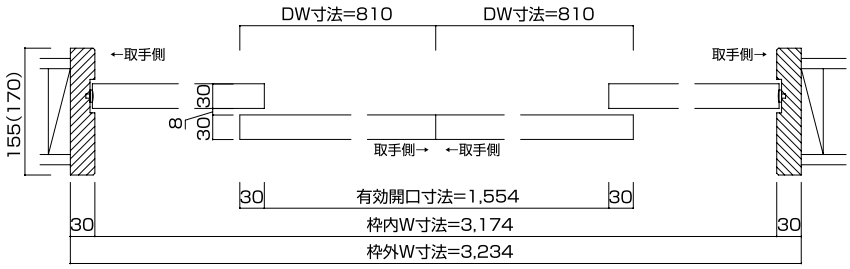
6. 4枚引き違い戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

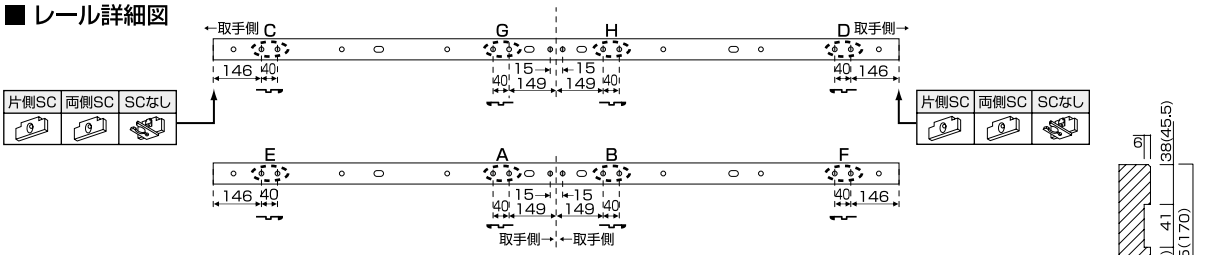
横断面図

（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



■ レール詳細図



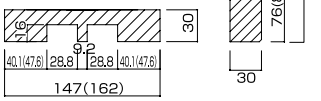
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D E·F·G·H

POINT

B·C·E·H　A·D·F·G

トリガーの取り付け向きに注意してください。



鴨　居

竪枠断面

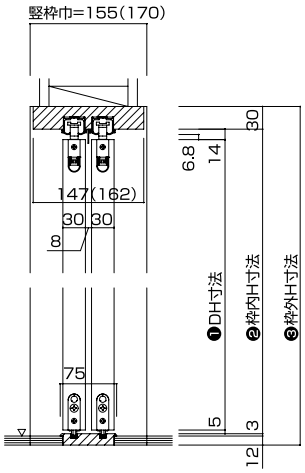
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は170巾の寸法です。

縦断面図

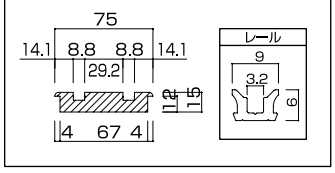
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

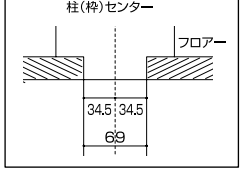


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247

敷居(突板タイプ)加工図

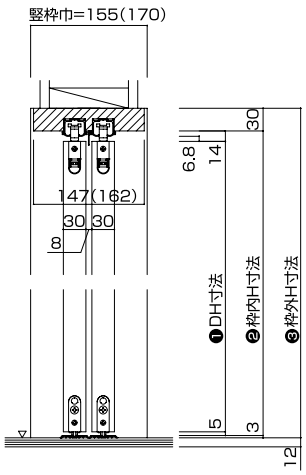


フロア張込位置



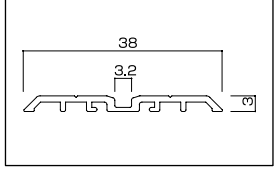
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235

床直付けレール図

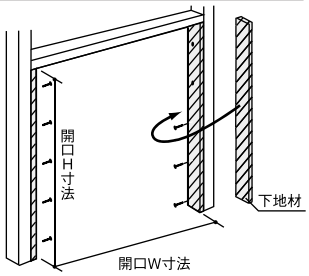


7. 4枚き引違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

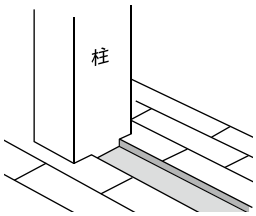
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

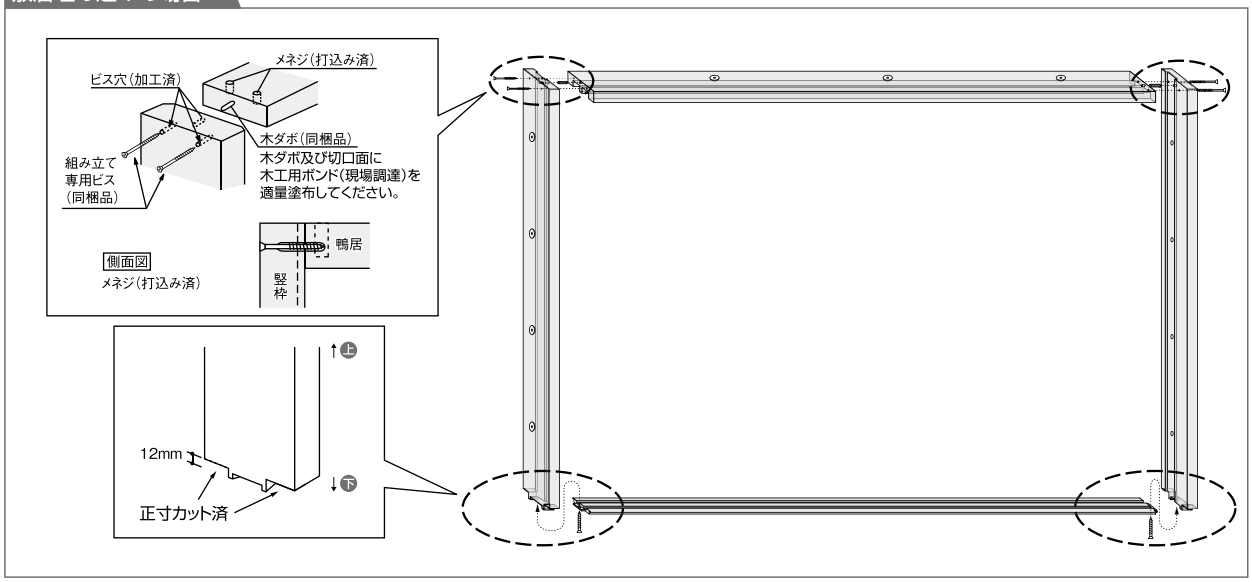


3 枠材の組み立て

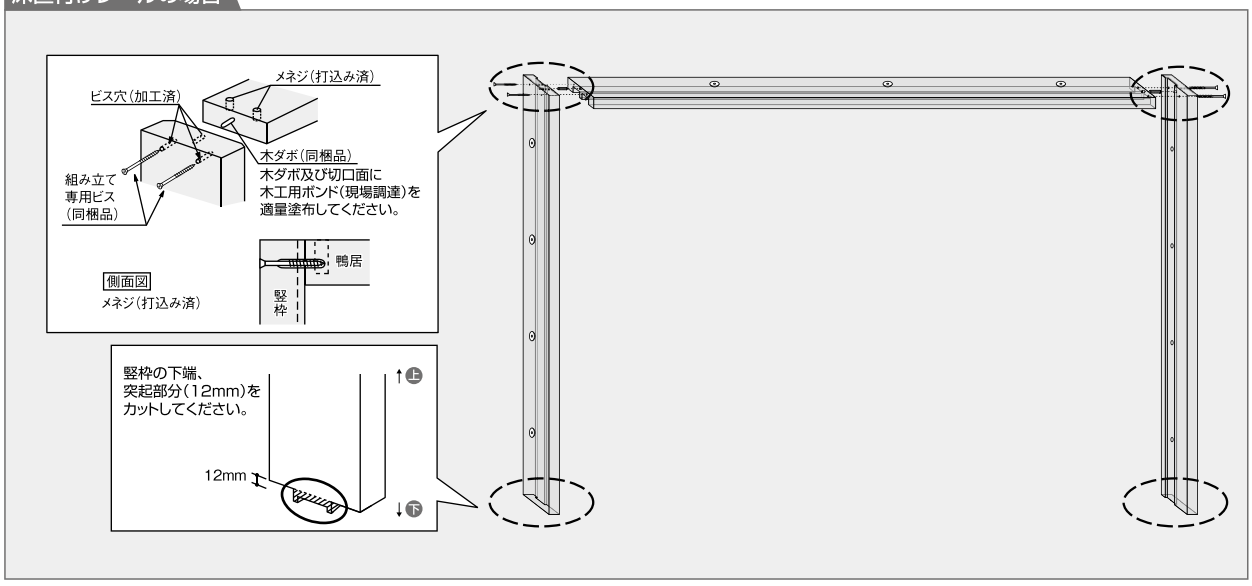
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

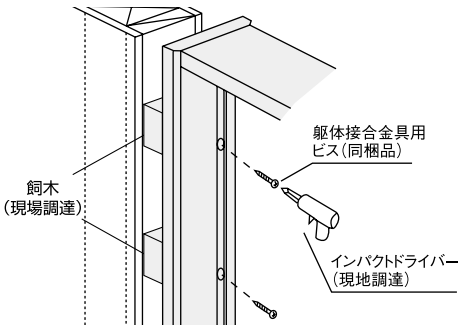


4 枚引き違い戸 専用枠材

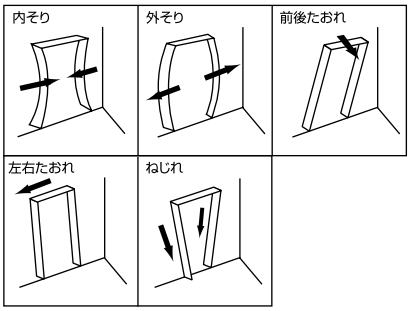
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

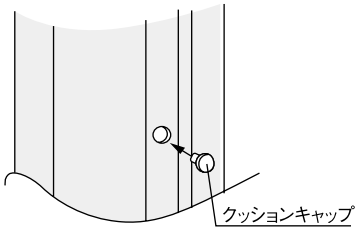
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



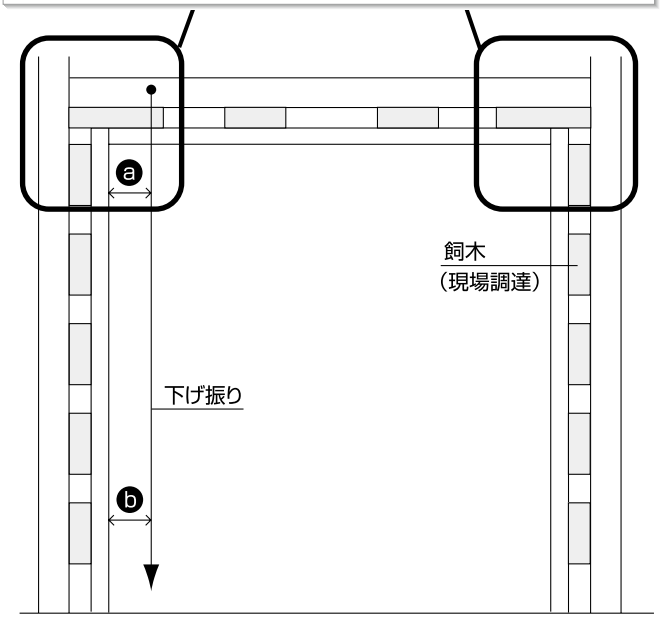
竪枠を取り付け後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

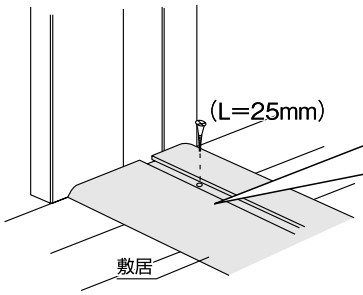
①敷居と下地の固定

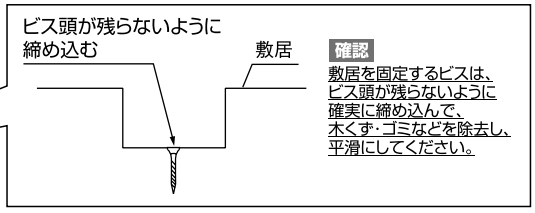
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

溝1本につき3ヶ所以上で固定します。

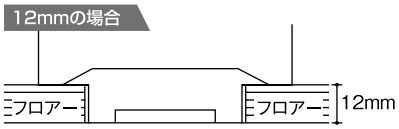
⚠注意

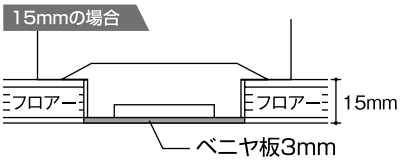
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。



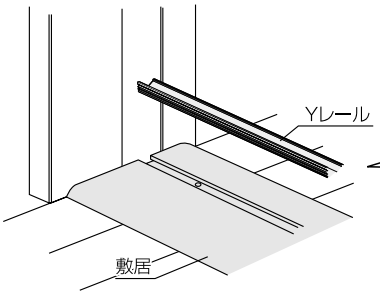


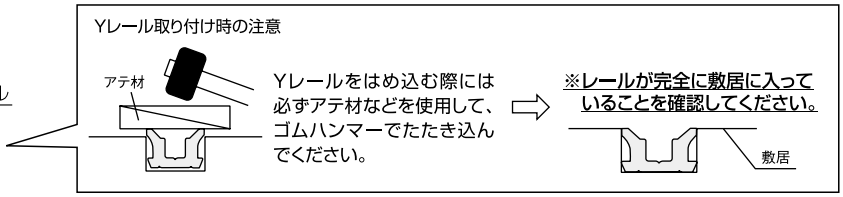
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。





②レールの取り付け





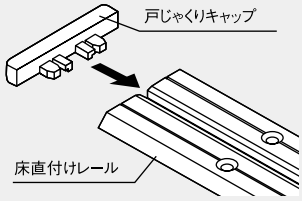
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

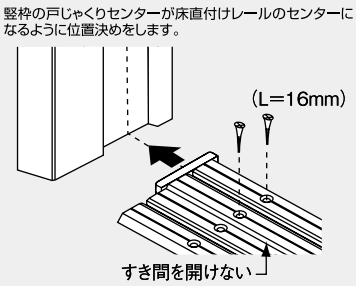
戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。



②床直付けレール取り付け位置の確認

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

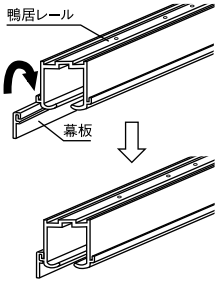
4枚引き違い戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

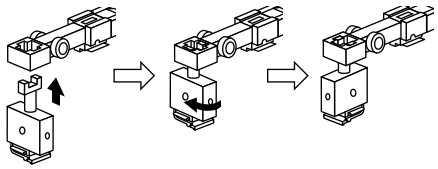
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

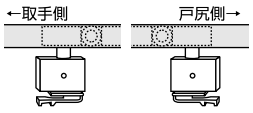
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

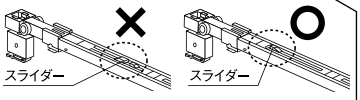


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

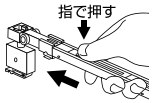
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

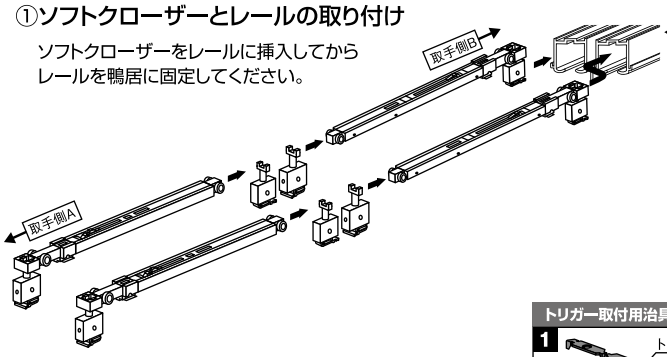
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

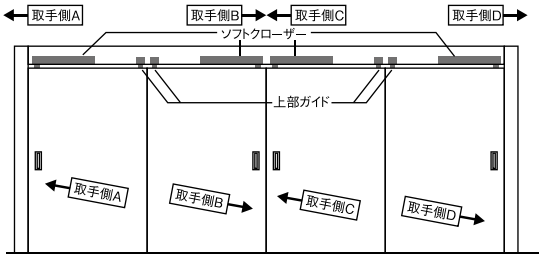


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

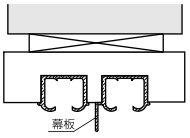
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



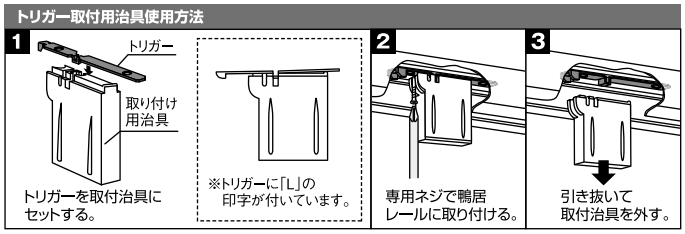


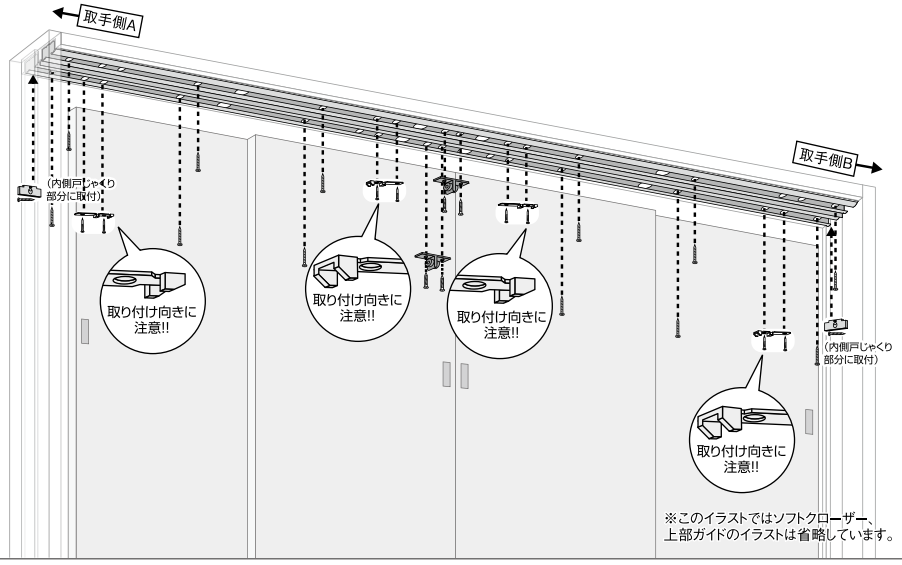
②鴨居レールの取り付け

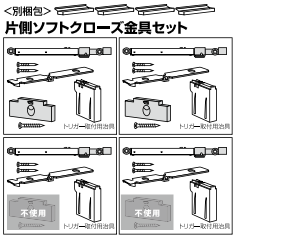
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。

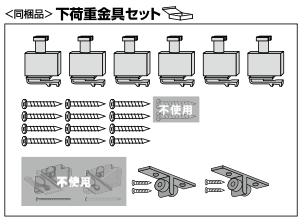


トリガー取付用治具使用方法





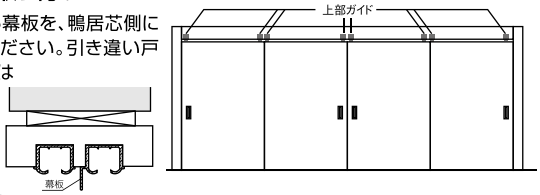


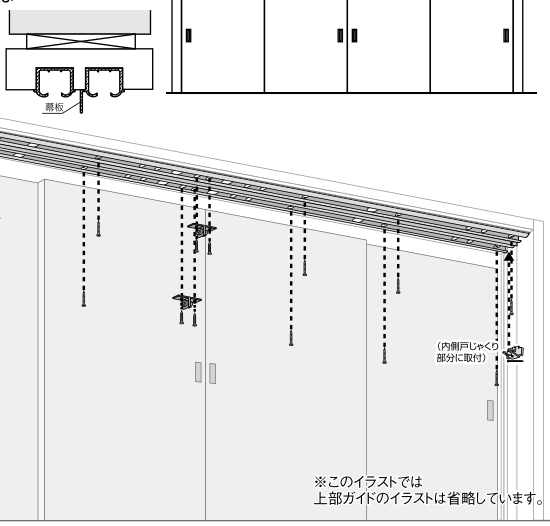


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



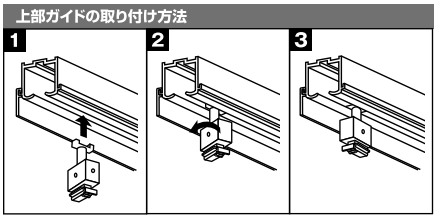


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

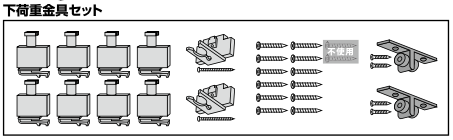
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

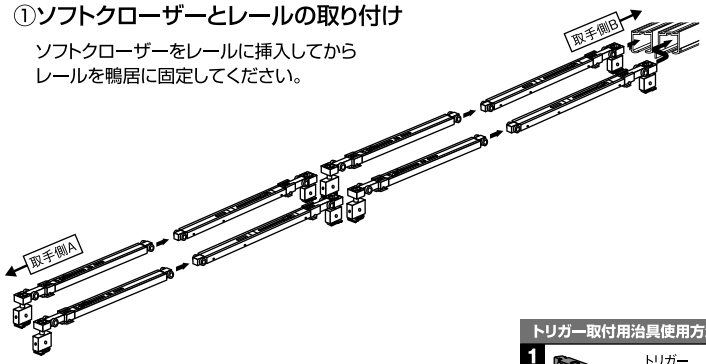
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

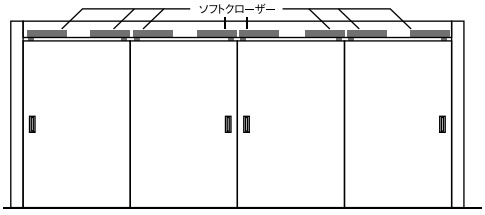
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。

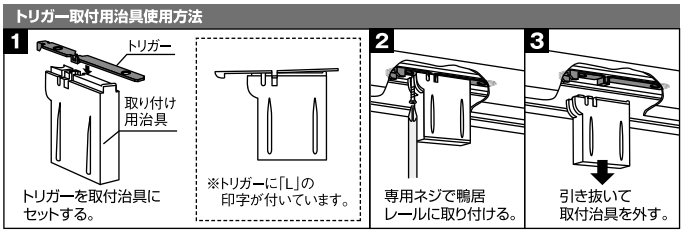


⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

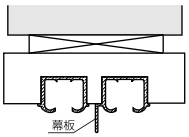


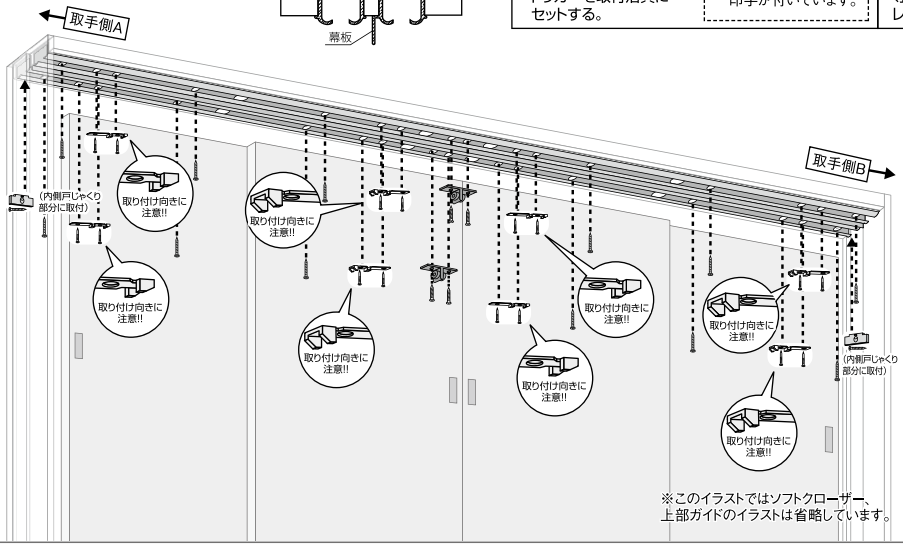
トリガー取付用治具使用方法



②鴨居レールの取り付け

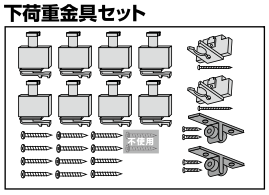
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



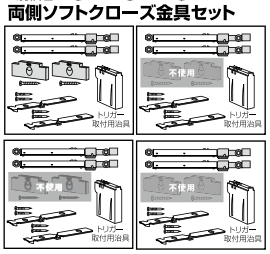


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



2枚引き込み戸・3枚引き込み戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	2枚引き込み戸	1本	1本	1本	1本	1本	2本	1本
	3枚引き込み戸	1本	ー	ー	ー	1本	3本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	L型ストッパー	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm		
	セット品番				片側SC付	両側SC付	SCなし
入数	2枚引き込み戸	ZYNW07	4個	1個	1個	11本のみ使用（14本入）	11本のみ使用（14本入）	12本のみ使用（14本入）
	3枚引き込み戸	ZYNW08	6個	1個	2個	21本		
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01	ZY2526	ー		

ビスセット（枠本体セットに梱包）

袋の色	赤	赤	赤	黄	黄	透明	透明
部材名	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16	躯体接合穴キャップ φ10
セット品番							
ZYMW01-□	2本	6本	14本	11本	使用しません（1本入）	4個	4個のみ使用（8個入）
ZYMW01-□	2本	6本	14本	11本	使用しません（1本入）	4個	8個
備考（部材品番等）	ー	ー	床直付けレールの場合は使用しません。	枠と躯体の固定用	ー	ー	ー

別梱包

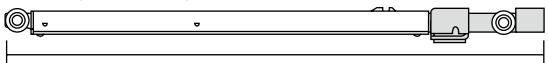
敷居埋め込みの場合　床直付けレールの場合

部材名		敷居		床直付けレール		
入数	2枚引き込み戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス8本
	3枚引き込み戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス16本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名				ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	2枚引き込み戸	3枚引き込み戸				
入数	ZH23LC-Y	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×3セット）	1	1	1	1
	ZH23LR-Y	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×3セット）	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



約374mm

2 枚引き込み戸 専用枠材

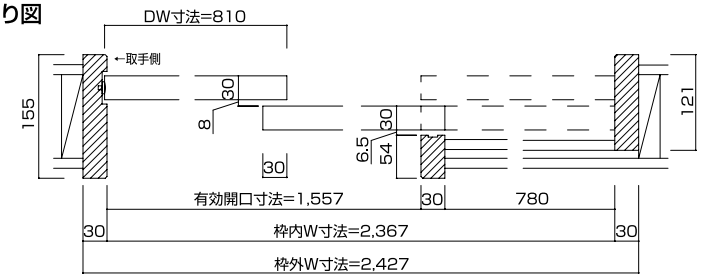
2. 2枚引き込み戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

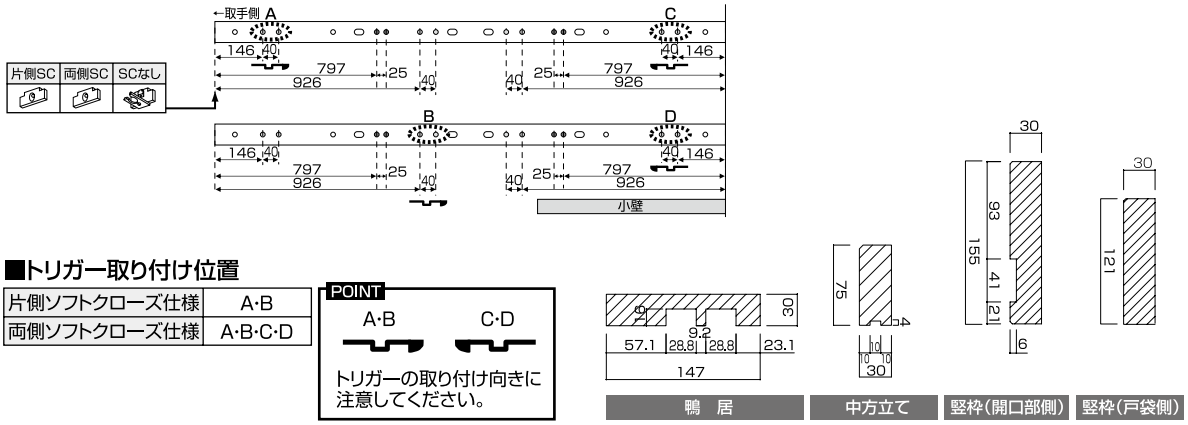
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

A·B　C·D

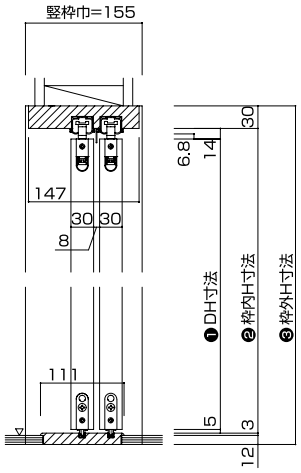
トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

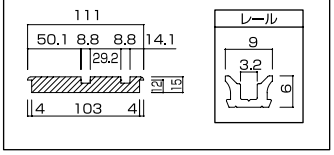
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

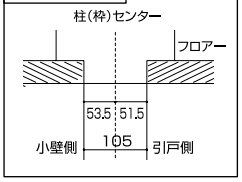


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247

敷居（突板タイプ）加工図

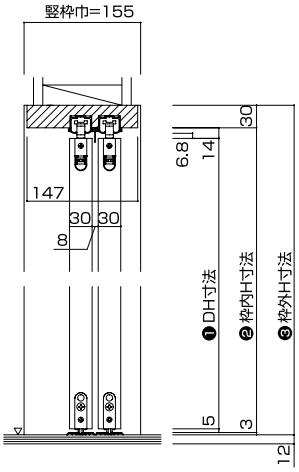


フロア張込位置



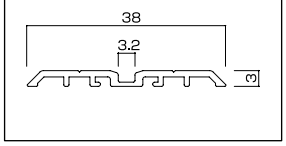
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235

床直付けレール図



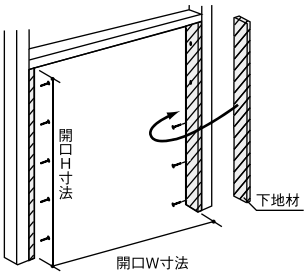
2 枚引き込み戸 専用枠材

3. 2枚引き込み戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

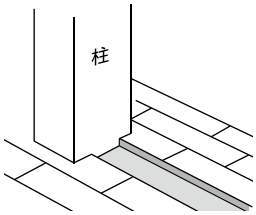
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

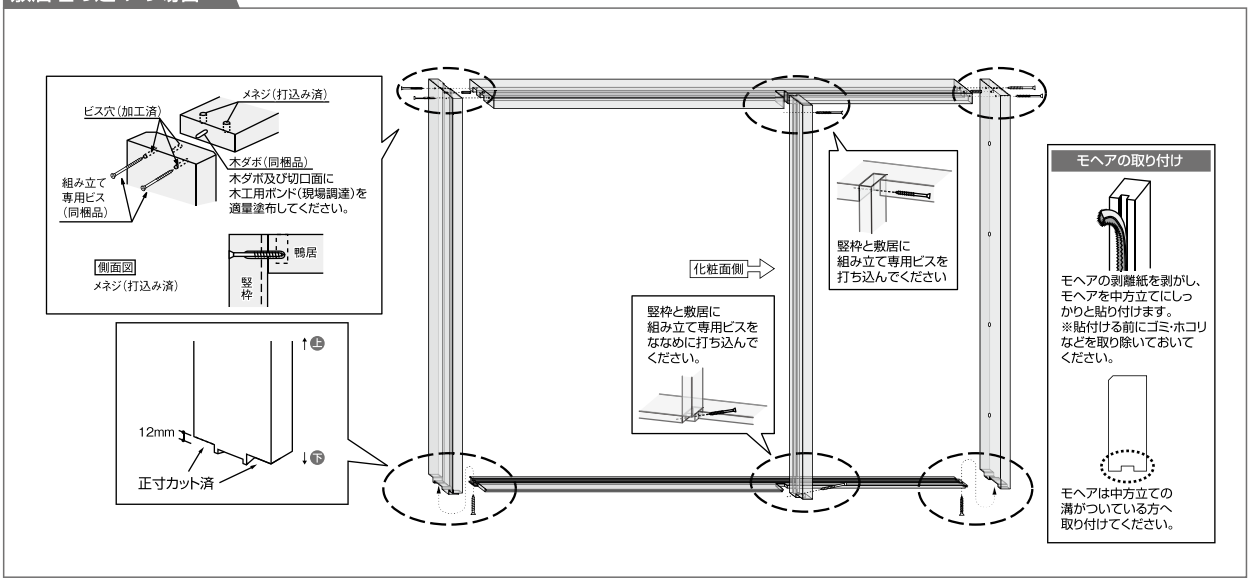


3 枠材の組み立て

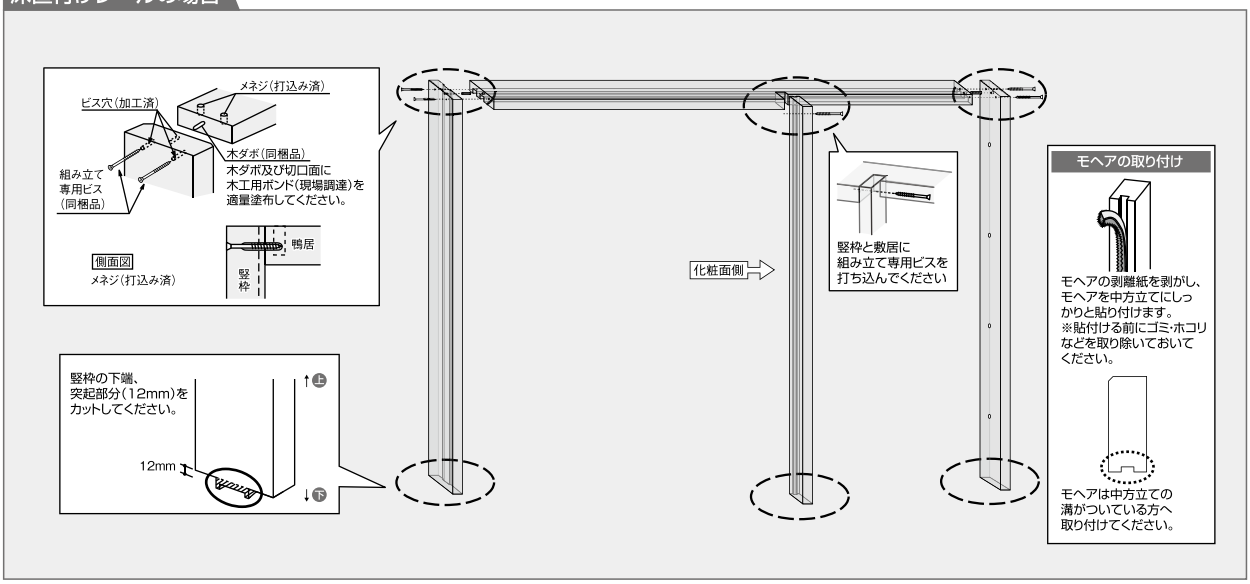
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



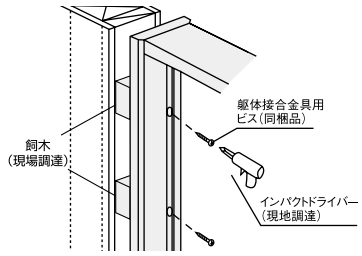
床直付けレールの場合



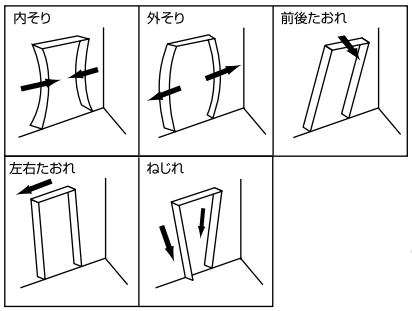
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

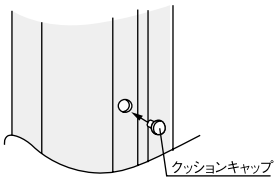
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



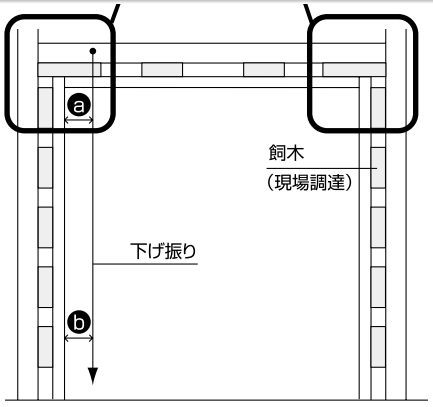
竪枠を取り付け後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

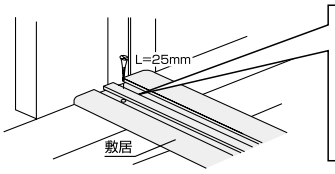
①敷居と下地の固定

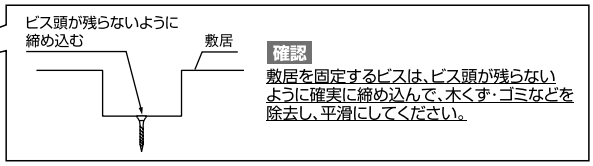
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

溝1本につき、3ヶ所以上で固定します。

⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

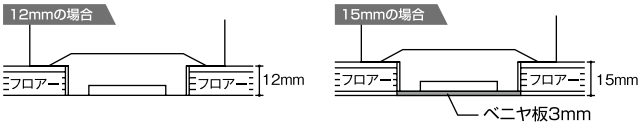




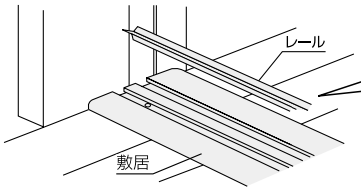
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

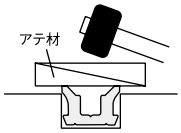
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け

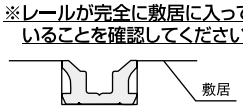


Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。



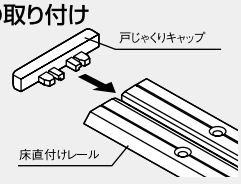
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

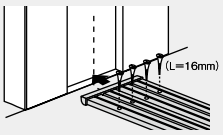


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

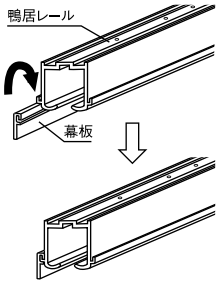
2枚引き込み戸 専用枠材

6 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

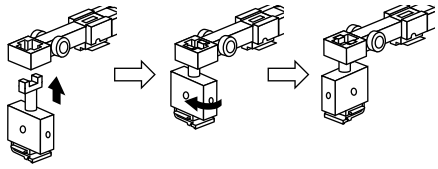
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

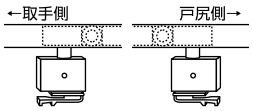
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

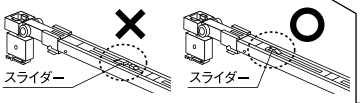


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

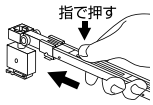
⚠注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

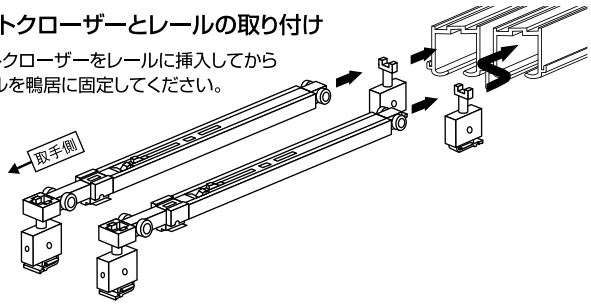
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

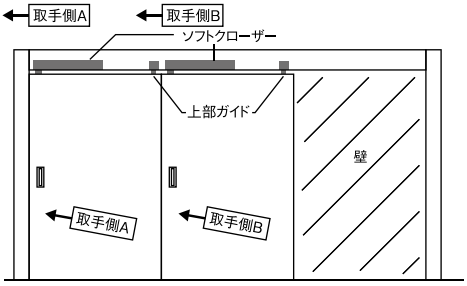


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

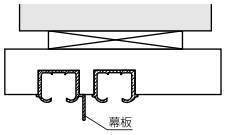
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



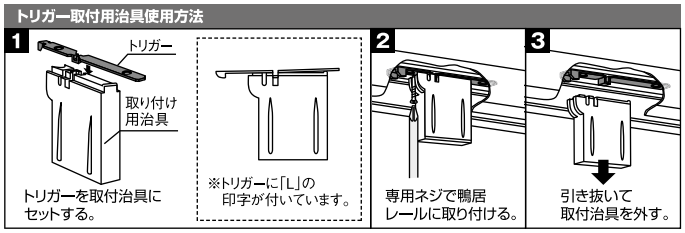


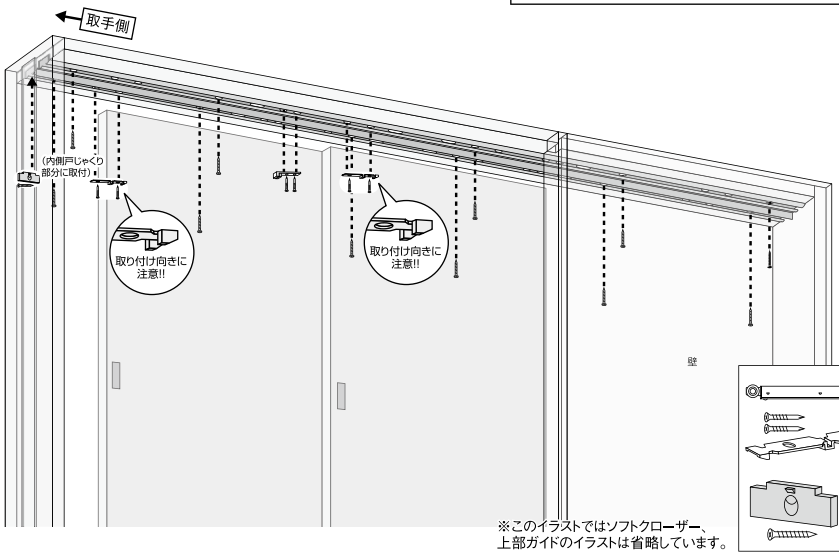
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



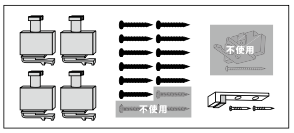
トリガー取付用治具使用方法



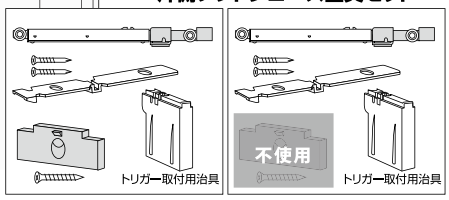


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



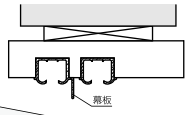
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

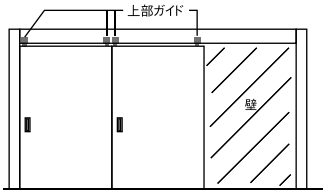


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

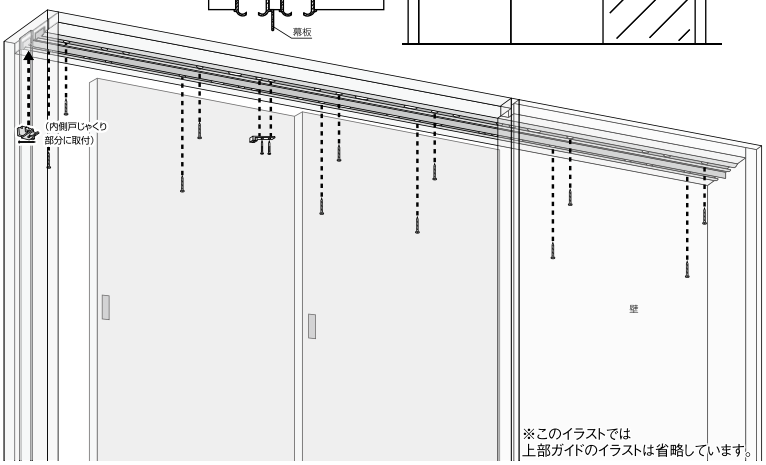
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



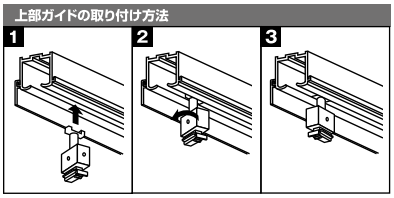


⚠注意

上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

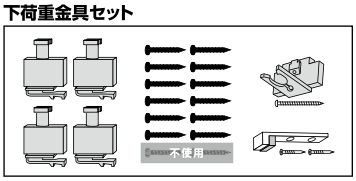


上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

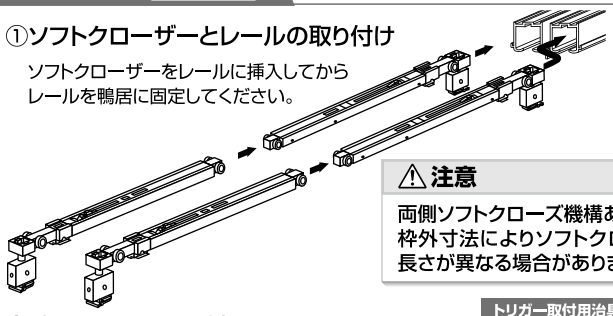
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

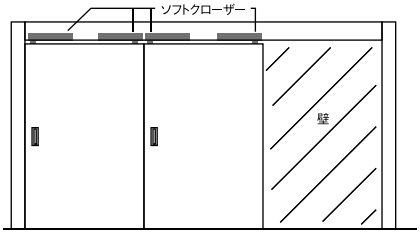
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



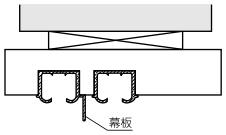
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

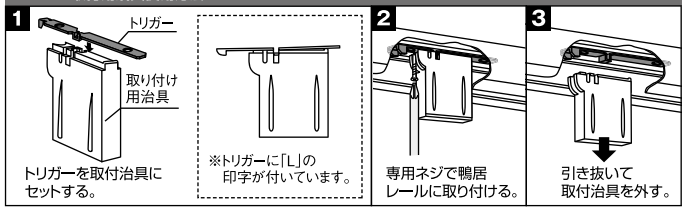


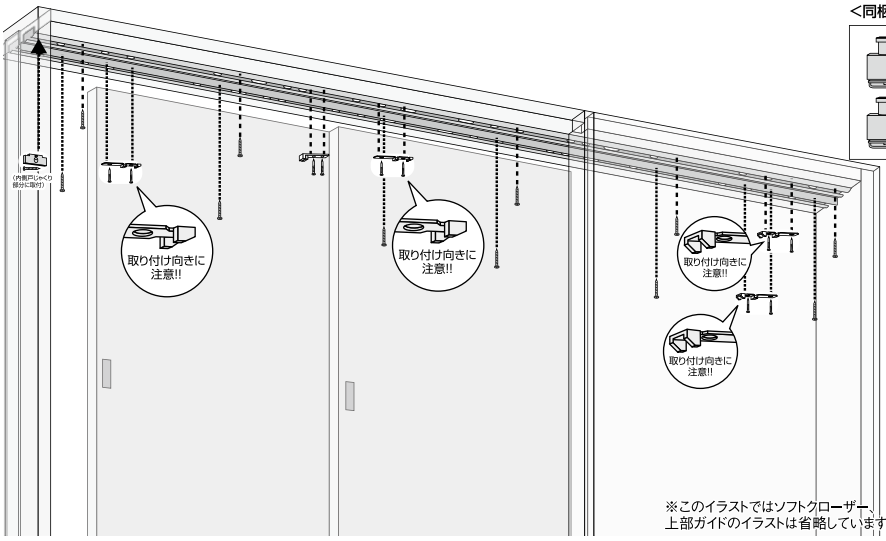
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。

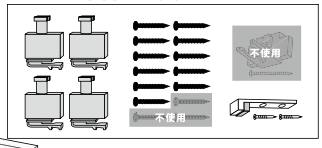


トリガー取付用治具使用方法

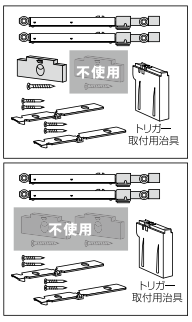




<同梱品> **下荷重金具セット**



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



3 枚引き込み戸 専用枠材

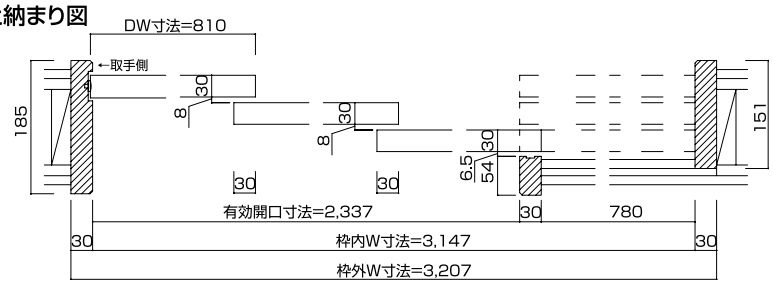
4. 3枚引き込み戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

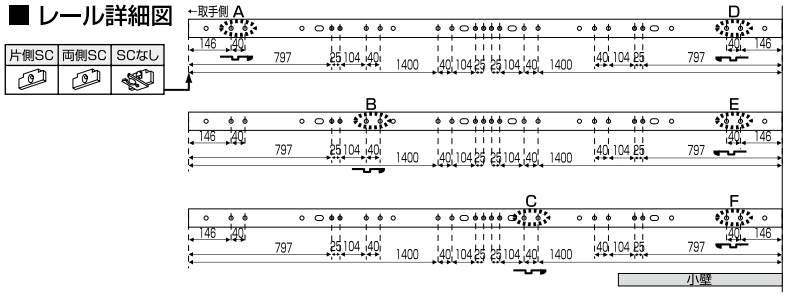
横断面図

（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



■ レール詳細図



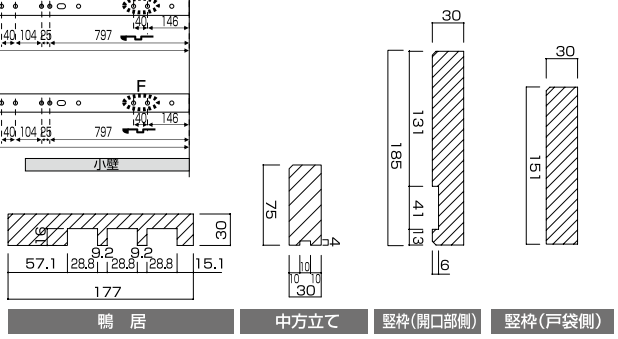
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D E·F

POINT

A·B·C　D·E·F

トリガーの取り付け向きに注意してください。

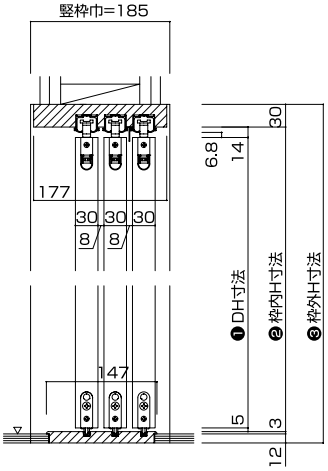


※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

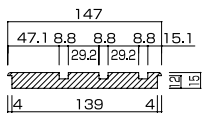
敷居埋め込みの場合

（単位：mm）

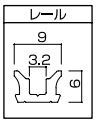


製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,047	2,247

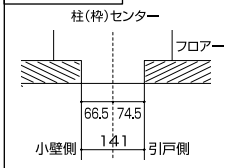
敷居（突板タイプ）加工図



レール

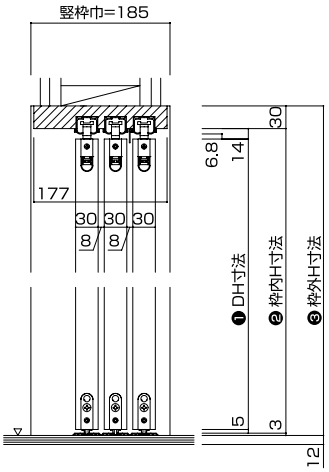


フロア張込位置



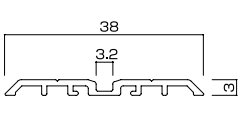
床直付けレールの場合

（単位：mm）



製品寸法	標準タイプ DH 1,983	ハイドア DH 2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,002	2,202
❸枠外H寸法	2,035	2,235

床直付けレール図

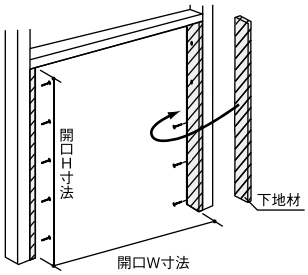


5. 3枚引き込み戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

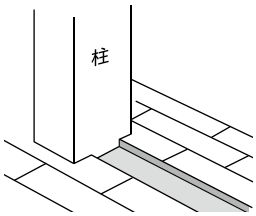
■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ

■フロアーの張り込み位置を確認し、フロアーを張り込んでください。

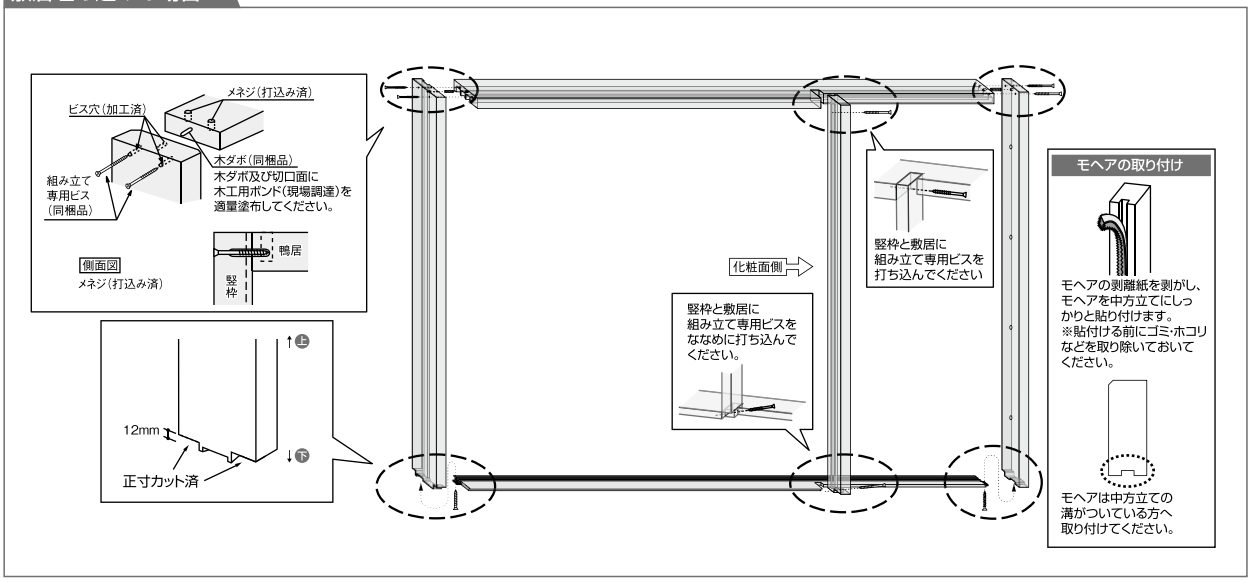


3 枠材の組み立て

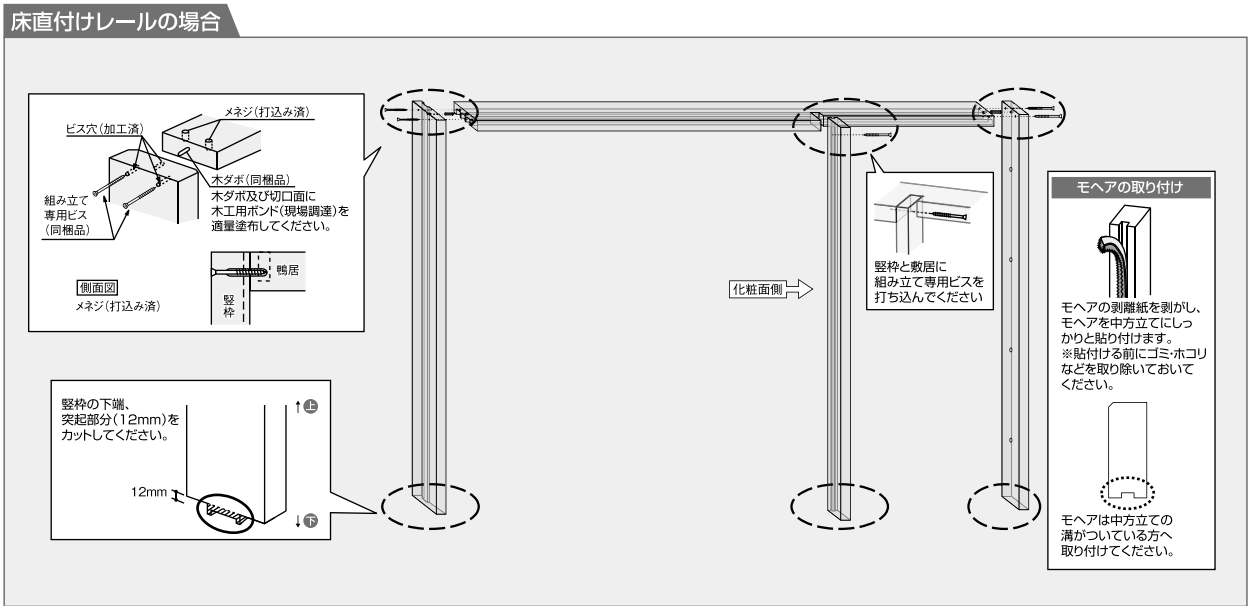
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

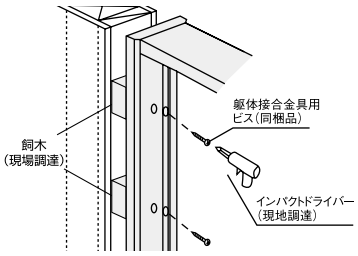


3枚引き込み戸 専用枠材

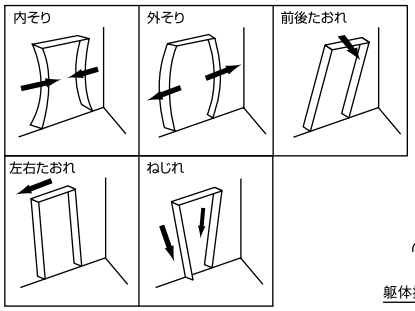
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

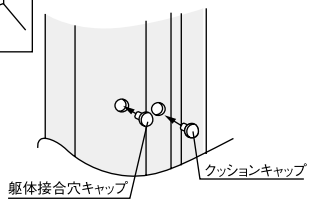
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



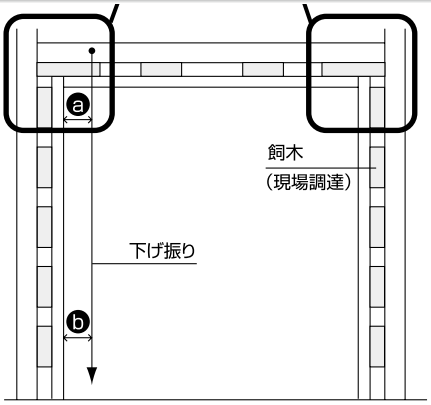
竪枠を取り付け後、ビス穴に躯体接合穴キャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

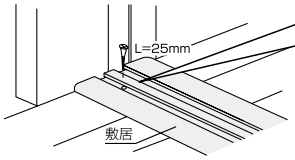
①敷居と下地の固定

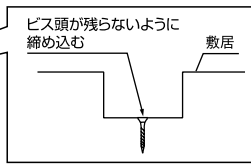
敷居は木工用ボンド（現物調達）と下枠固定ビスの併用で下地材に固定します。

溝1本につき、4ヶ所以上で固定します。

⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

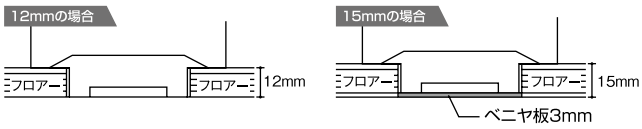




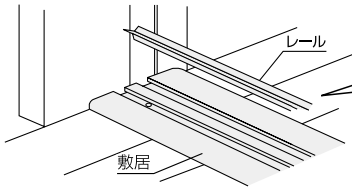
確認

敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んで、木くず・ゴミなどを除去し、平滑にしてください。

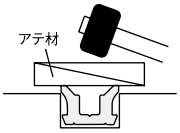
フロアーの厚みは12mmを基準にしています。15mmフロアーなど12mm以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。



②レールの取り付け

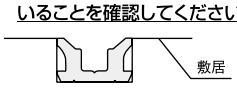


Yレール取り付け時の注意



Yレールをはめ込む際には必ずアテ材などを使用して、ゴムハンマーでたたき込んでください。

※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。



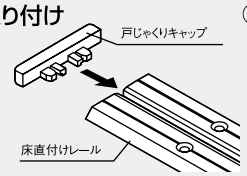
お願い

敷居の端のツバ部分をたたくと割れるおそれがあります。必ず敷居中央を目安にたたき込んでください。

床直付けレールの場合

①戸じゃくりキャップの取り付け

戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

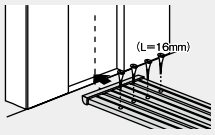


②床直付けレール取り付け位置の確認

竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。

同梱のレール固定ビスで床直付けレールの下穴からレールを固定します。ビス固定の際、ビスが垂直に固定されていなかったり、床直付けレールが床から浮いた状態だと、引戸の動作不良の原因となりますので注意してください。

※床直付けレールの場合、同梱の下枠固定ビスは使用しません。



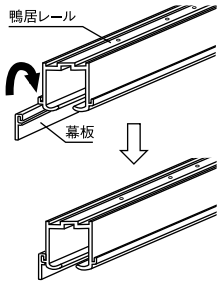
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

6 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

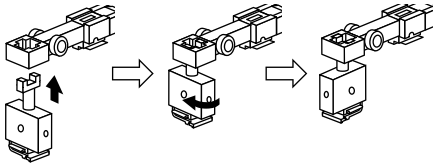
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

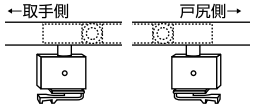
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側･戸尻側に向くように取り付けてください。

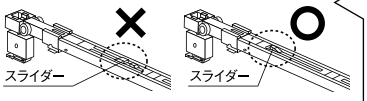


■ソフトクローザーの挿入

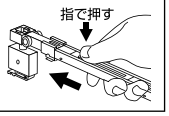
鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。
スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



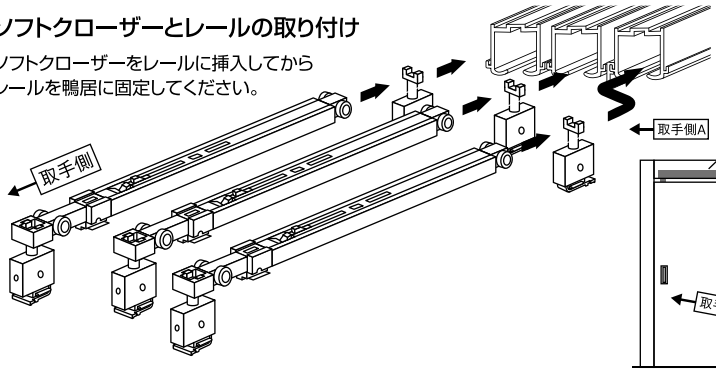
スライダーが正しい位置にない場合
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

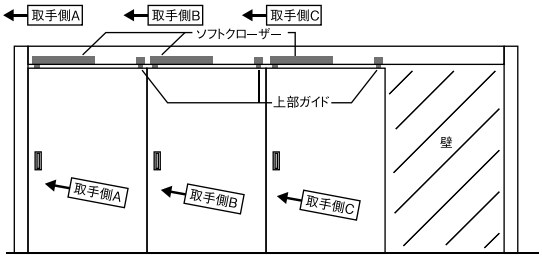


片側ソフトクローズ　仕様　標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

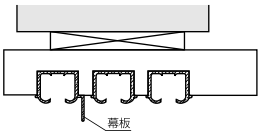
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



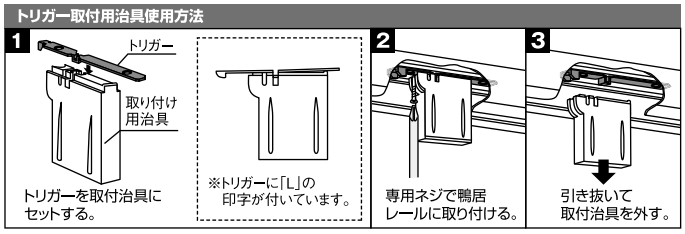


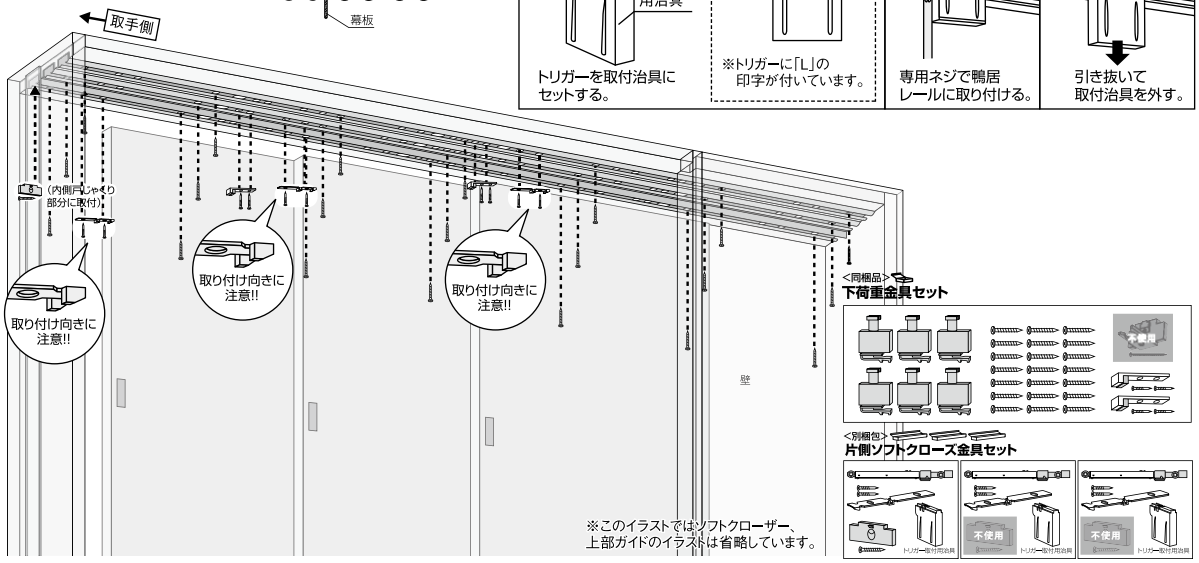
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



トリガー取付用治具使用方法





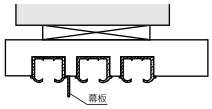
※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

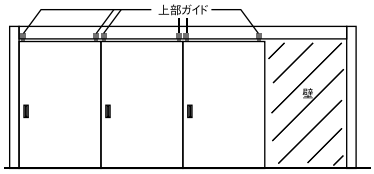
3 枚引き込み戸 専用枠材

ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

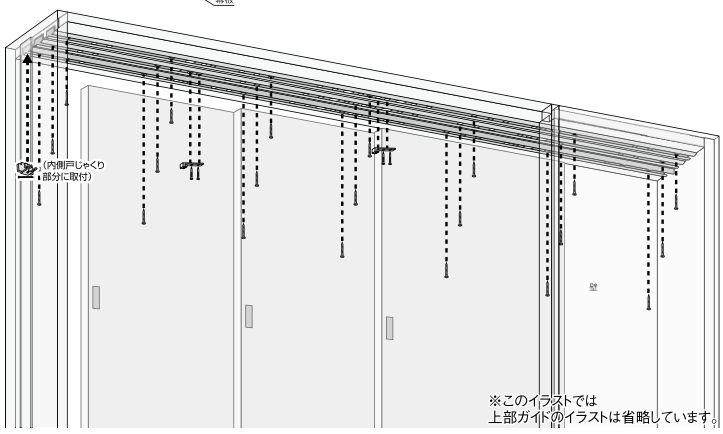
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



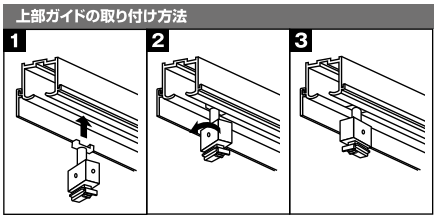


⚠注意

上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

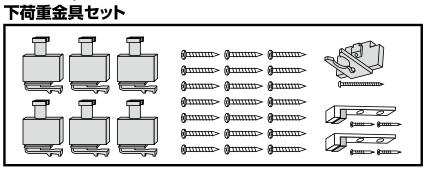


上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

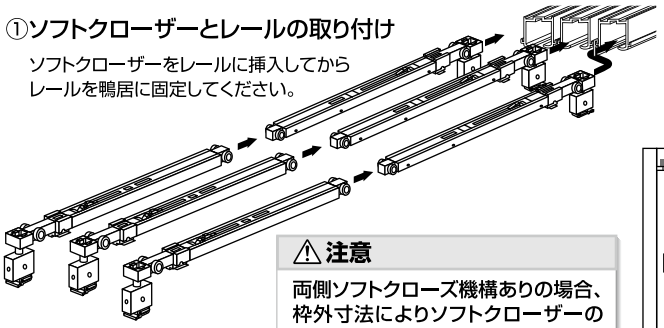
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

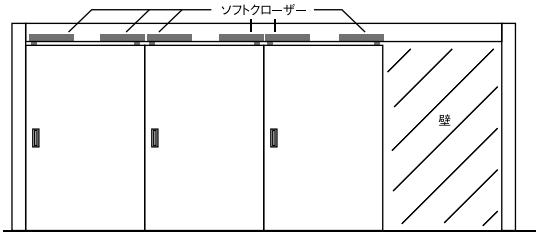
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



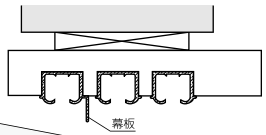
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

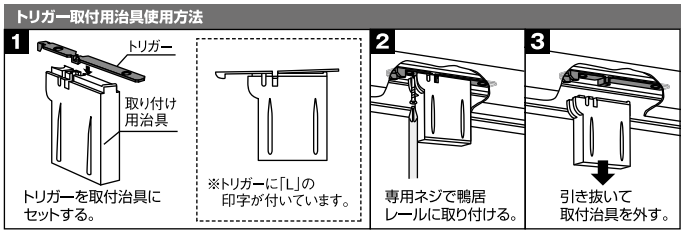


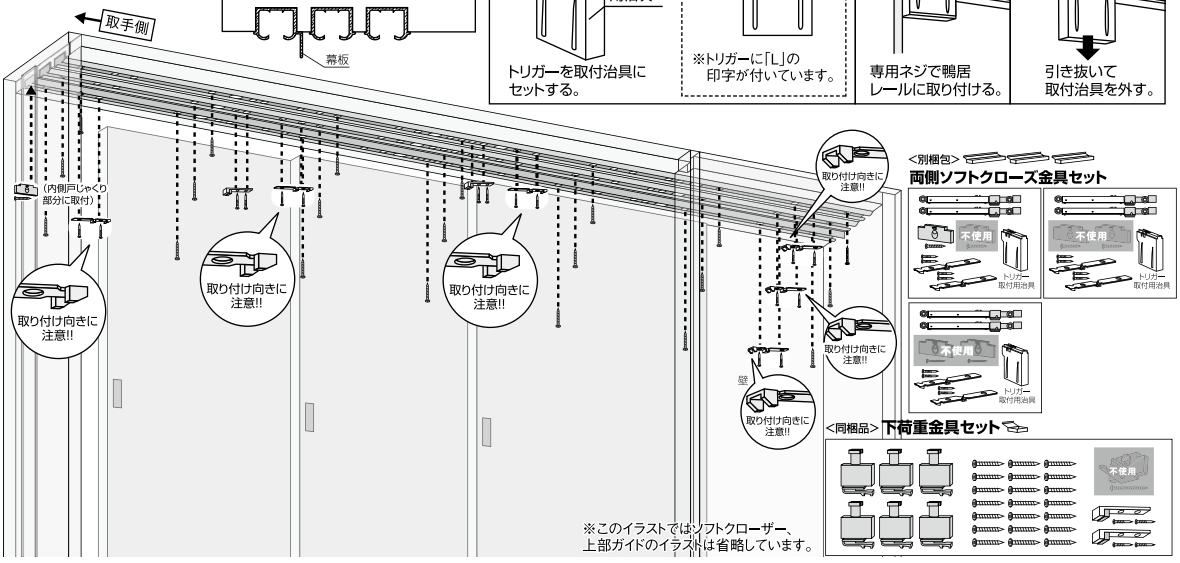
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



トリガー取付用治具使用方法





集合住宅用 片引き戸・引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本
	引き違い戸	2本	ー	ー	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー	ー

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）
入数	片引き戸	ZYNK54	2個	2個
	引き違い戸	ZYNH54	4個	2個
備考（部材品番等）			ZYNG01	ZYNC01

ビスセット（枠本体セットに梱包）

袋の色	赤	赤	赤	赤	透明	透明
部材名	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	敷居組み立てビス 62mm φ3.8mm	敷居ベースビス 25mm φ3.5mm	クッションキャップ φ16	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm
セット品番	ZYBB34-□	ZYBB35-□				
入数 片引き戸	2本	6本	4本	6本	8個	4本
入数 引き違い戸	2本	4本	4本	6本	8個	8本
備考（部材品番等）	ー	ー	ー	床直付けレールの場合は使用しません。	ー	ー

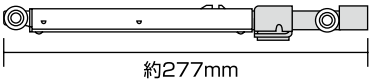
別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合		床直付けレールの場合		
入数	片引き戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス8本
	引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス16本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー

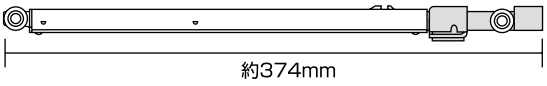
下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名				ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	片引き戸	引き違い戸						
入数	ZH23SC-Y	片側SC付 枠外1324・1190	ー	1	ー	1	ー	1	1
	ZH23LC-Y	片側SC付 枠外1824・1644・1450	片側SC付（×2セット）	ー	1	ー	1	1	1
	ZH23SR-Y	両側SC付 枠外1324・1190	ー	2	ー	2	ー	2	1
	ZH23MR-Y	両側SC付 枠外1450	ー	1	1	1	1	2	1
	ZH23LR-Y	両側SC付 枠外1824・1644	両側SC付（×2セット）	ー	2	ー	2	2	1

Ⓐ ショートストロークソフトクローザー



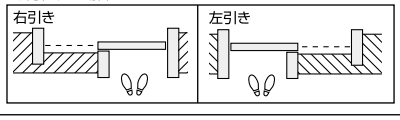
Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認

片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



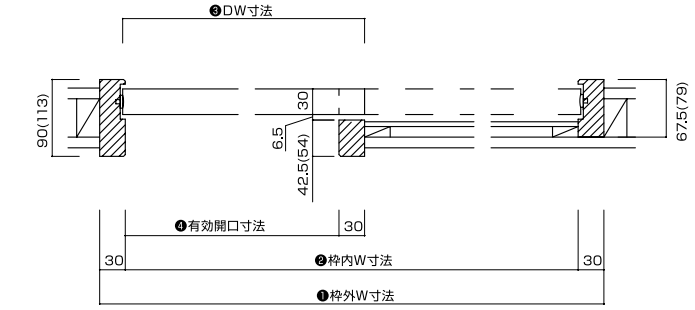
集合住宅用 片引き戸 専用枠材

2. 片引き戸 納まり図

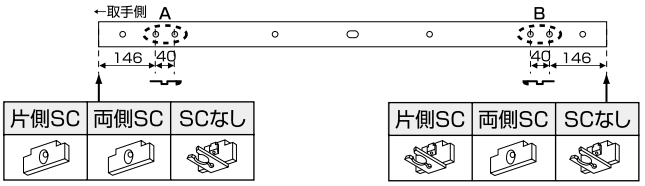
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図

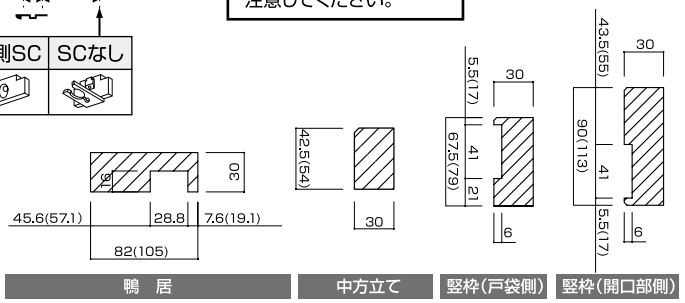
製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❷枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❸DW寸法	900	810	713	650	583
❹有効開口寸法	867	777	680	620	550

■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A
両側ソフトクローズ仕様	A·B

POINT

トリガーの取り付け向きに注意してください。



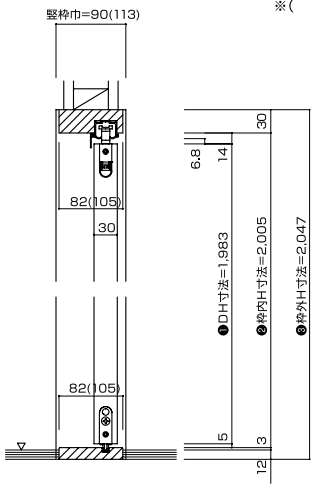
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　　）内は113巾の寸法です。

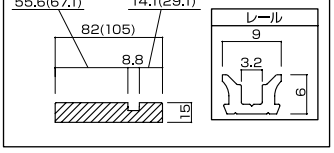
縦断面図

床埋め込み敷居の場合

（単位：mm）
※（　　）内は113巾の寸法です。

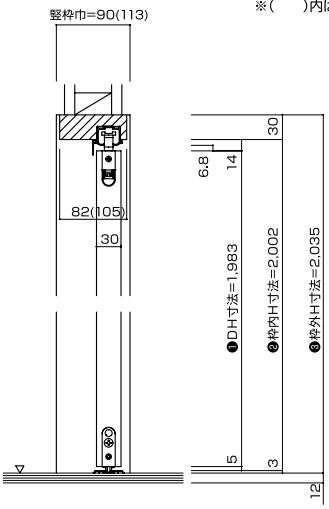


敷居加工図

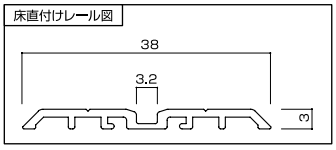


床直付けレールの場合

（単位：mm）
※（　　）内は113巾の寸法です。



床直付けレール図

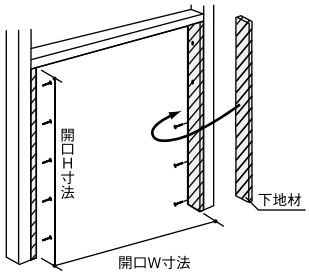


3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

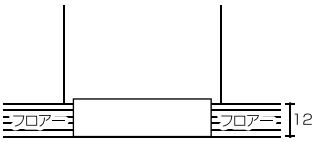
1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ



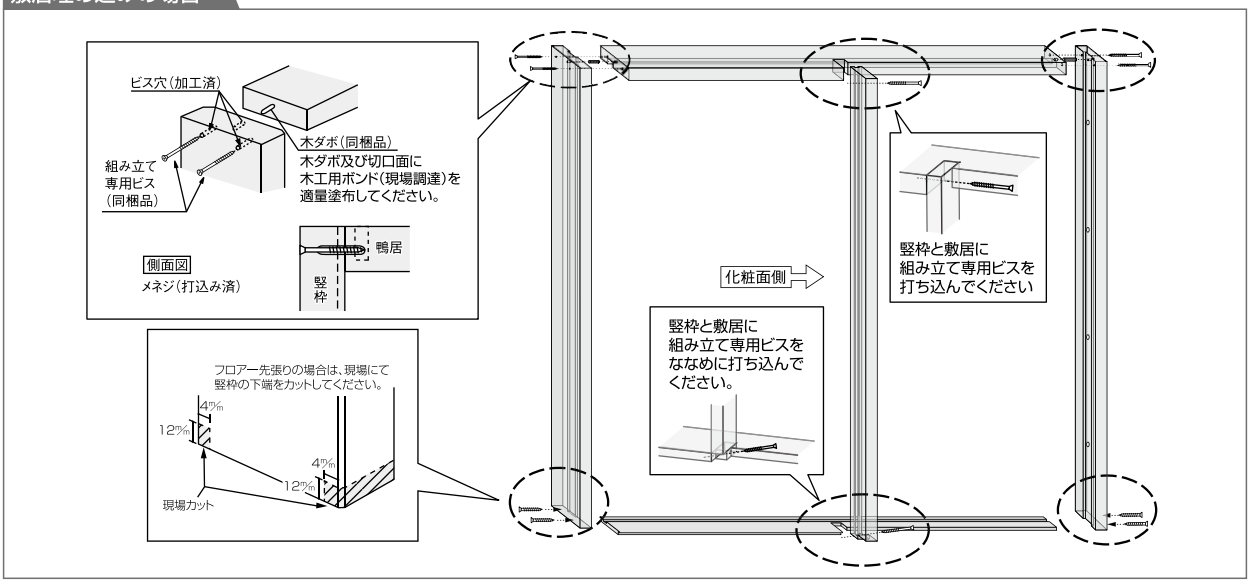
⚠ 注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

3 枠材の組み立て

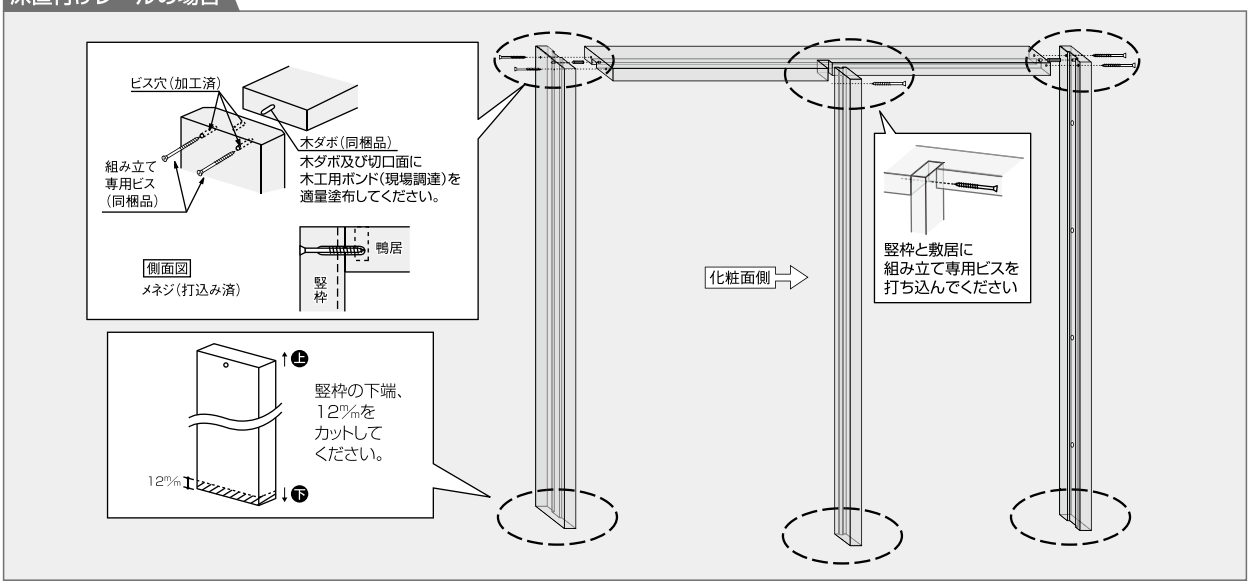
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

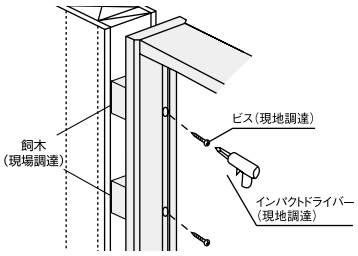


集合住宅用 片引き戸 専用枠材

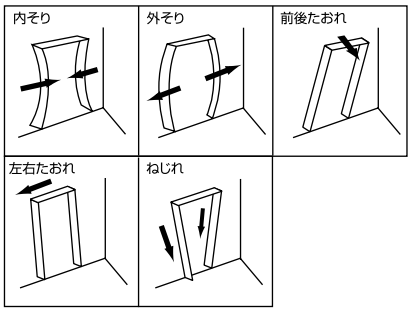
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

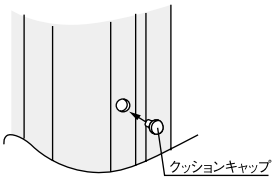
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は現地調達したビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



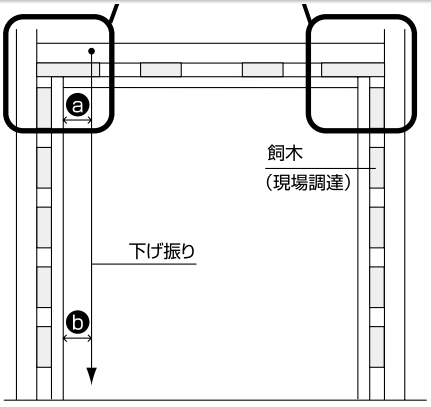
竪枠を取り付け後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

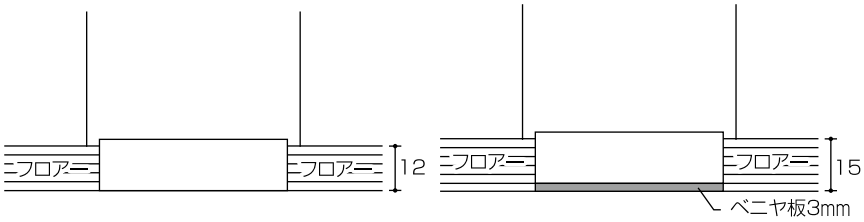


水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり



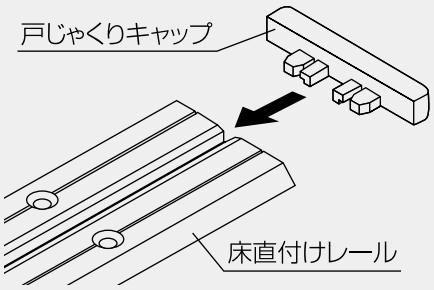
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

●敷居の厚みは12㎜を基準にしています。15㎜フロアーなど12㎜以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

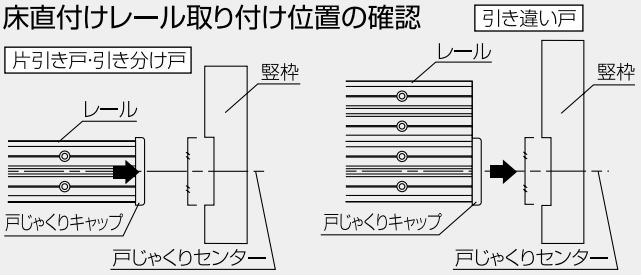
床直付けレールの場合

戸じゃくりキャップの取り付け



戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

床直付けレール取り付け位置の確認



片引き、引き違いともに、竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。引き違いの場合など、2本以上の床直付けレールをご使用になるときは戸じゃくりの位置で片方の床直付けレール位置を決め、**その他の床直付けレールがすき間なく並ぶように位置決めしてください。**

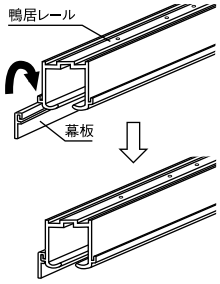
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

6 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

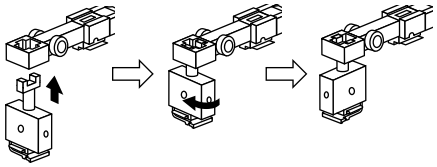
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

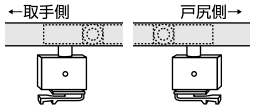
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くようにに取り付けてください。

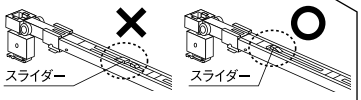


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

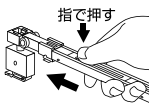
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

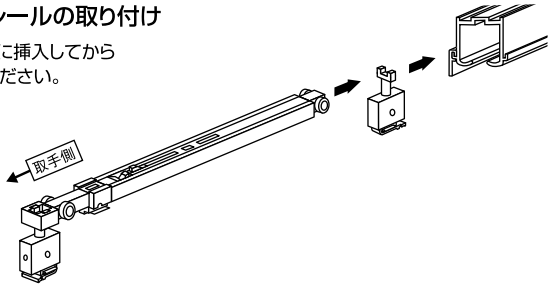
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

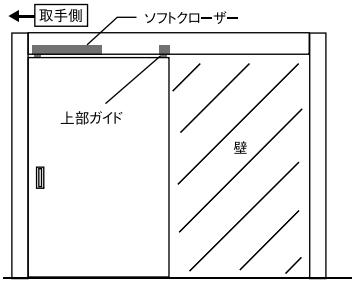


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

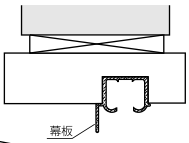
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



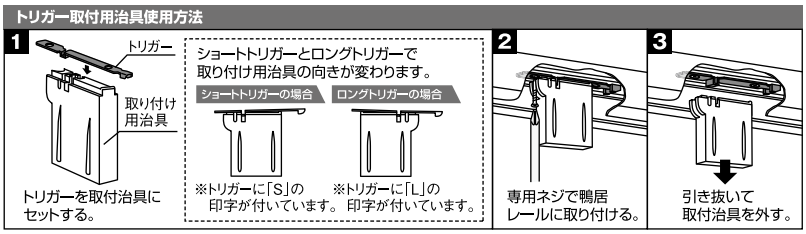


②鴨居レールの取り付け

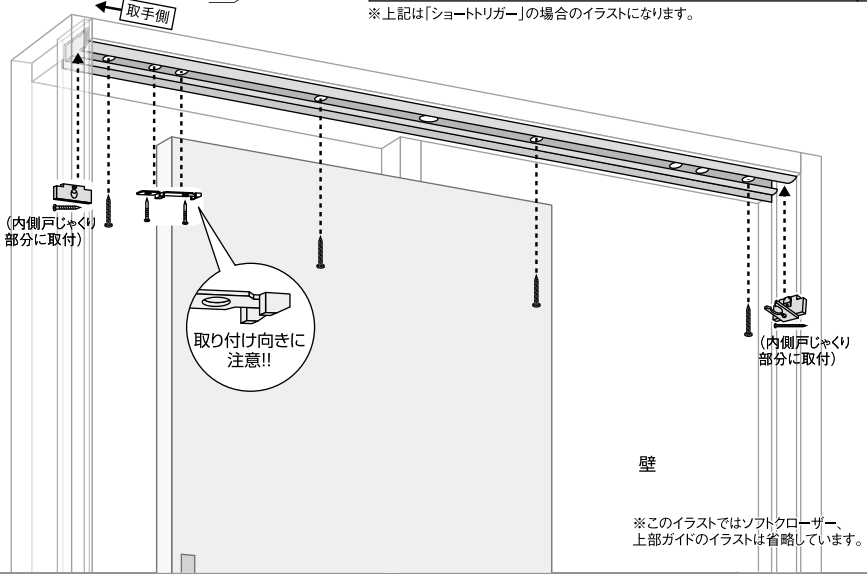
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

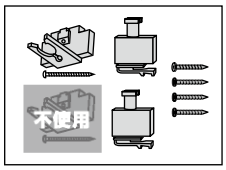


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

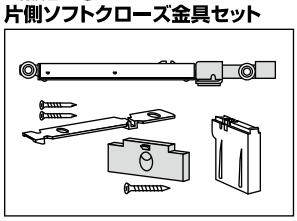


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

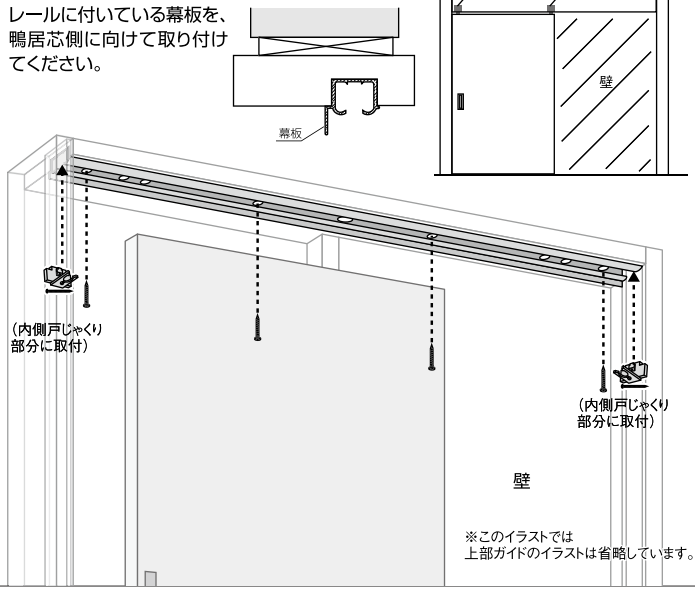


集合住宅用 片引き戸 専用枠材

ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。

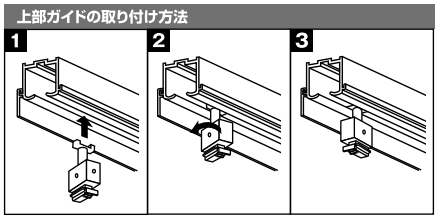


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

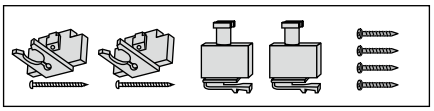
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

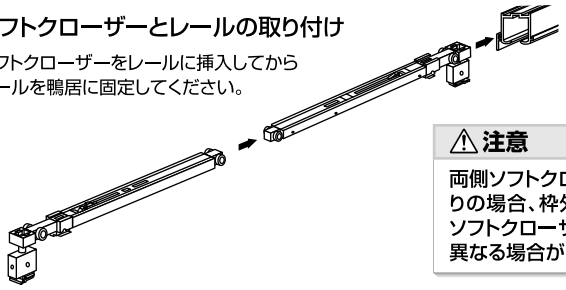
<同梱品>
下荷重片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

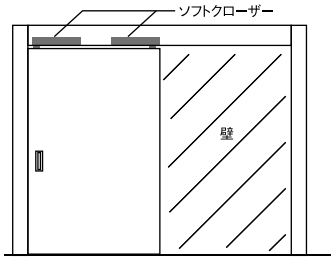
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



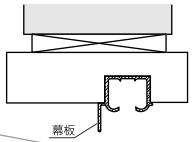
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

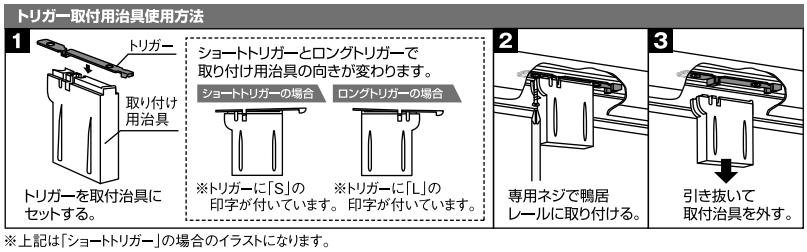


②鴨居レールの取り付け

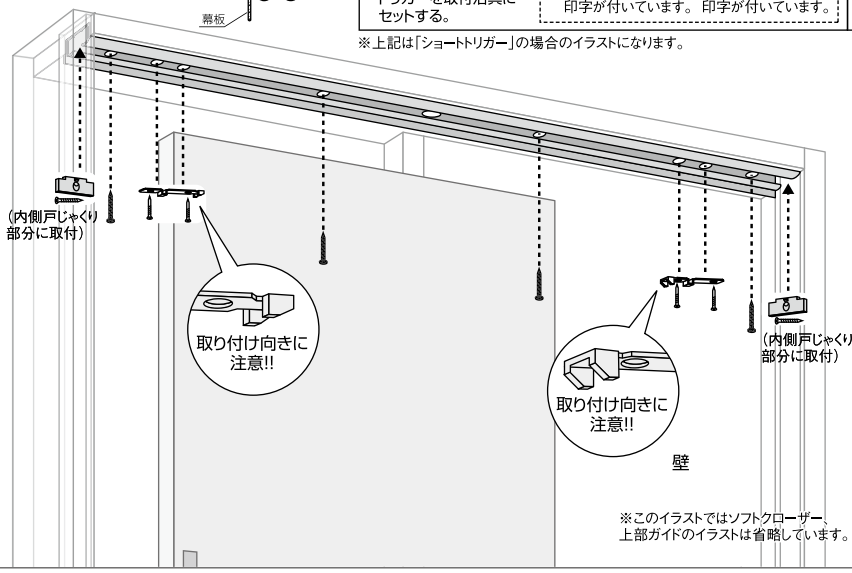
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

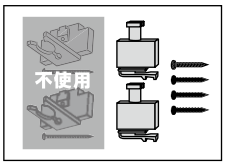


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

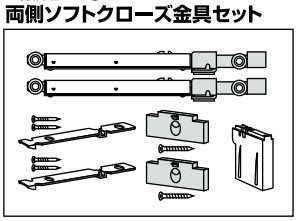


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



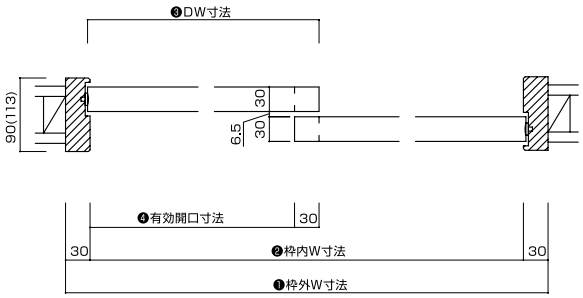
集合住宅用 引き違い戸 専用枠材

4. 引き違い戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

■ 枠製品寸法と納まり図

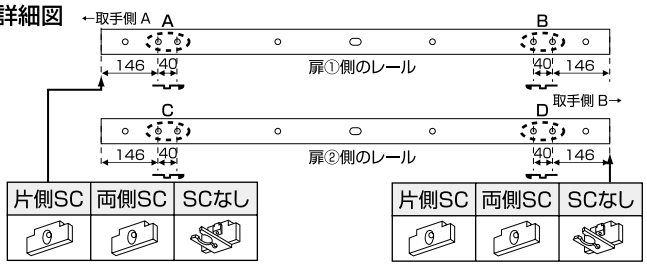


（単位：mm）

■納まり寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644
❶枠外W寸法	1,824	1,644
❷枠内W寸法	1,764	1,584
❸DW寸法	900	810
❹有効開口寸法	867	770

■ レール詳細図



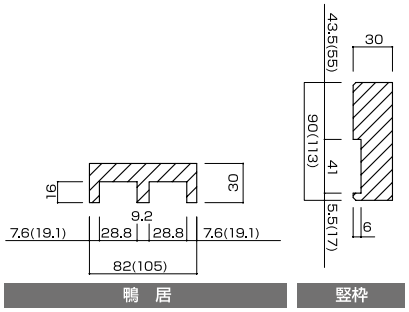
■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

A·C　B·D

トリガーの取り付け向きに注意してください。



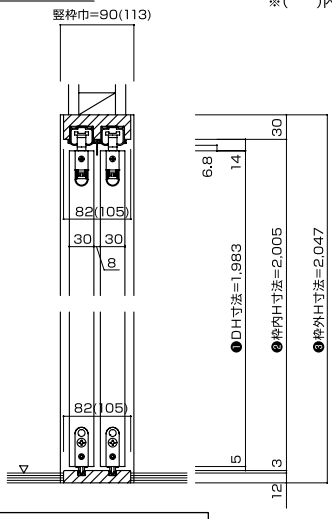
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は113巾の寸法です。

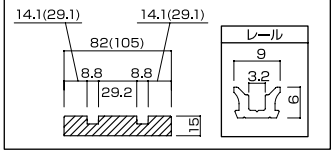
縦断面図

敷居埋め込みの場合

（単位：mm）
※（　）内は113巾の寸法です。

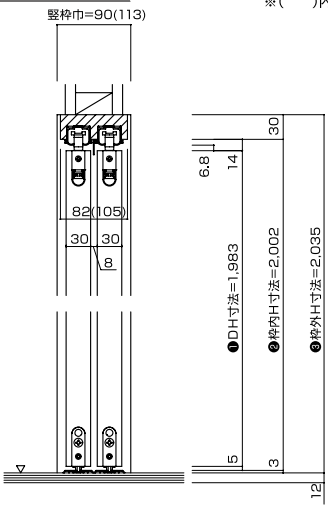


敷居加工図

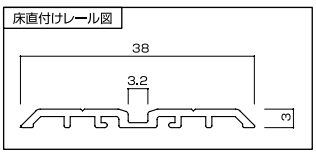


床直付けレールの場合

（単位：mm）
※（　）内は113巾の寸法です。



床直付けレール図



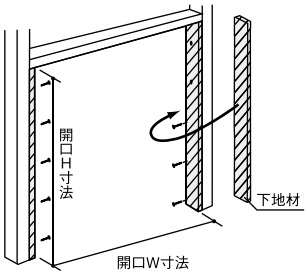
集合住宅用 引き違い戸 専用枠材

5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

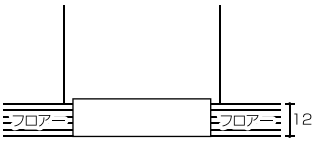
1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ



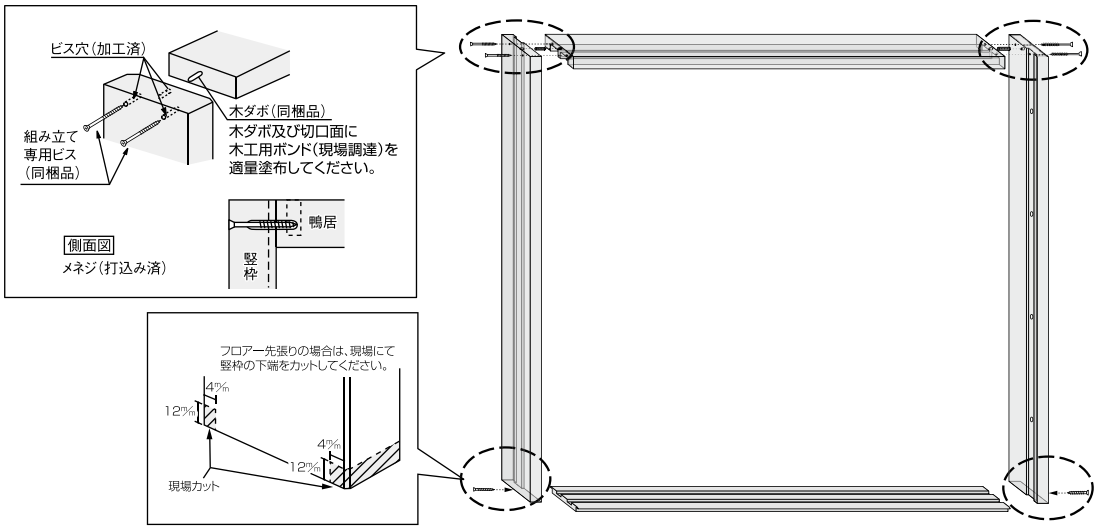
⚠ 注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

3 枠材の組み立て

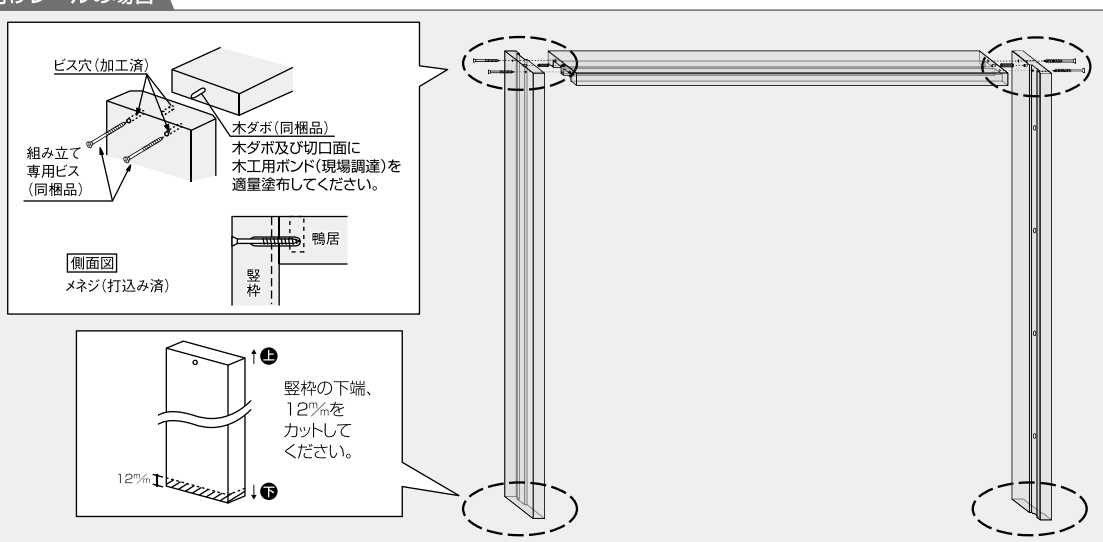
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



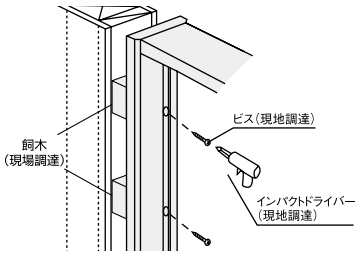
床直付けレールの場合



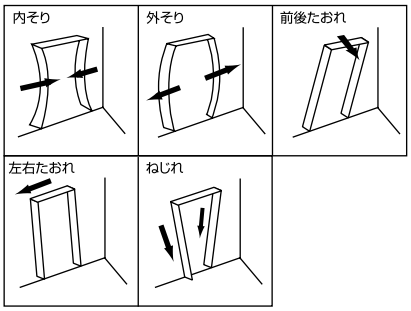
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

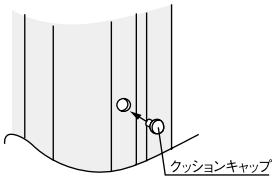
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は現地調達したビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



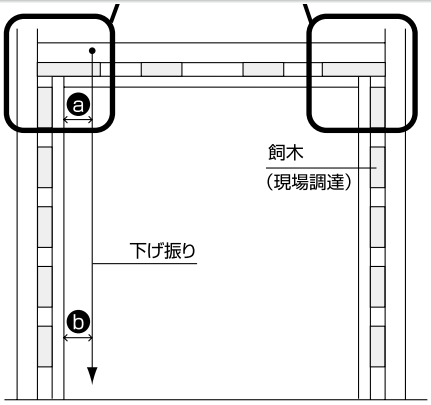
竪枠を取り付け後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

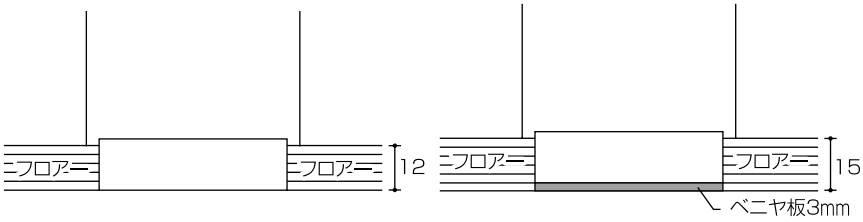


水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり



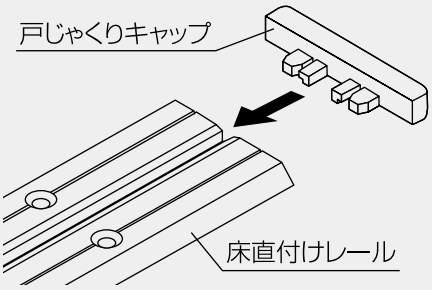
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

●敷居の厚みは12㎜を基準にしています。15㎜フロアーなど12㎜以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

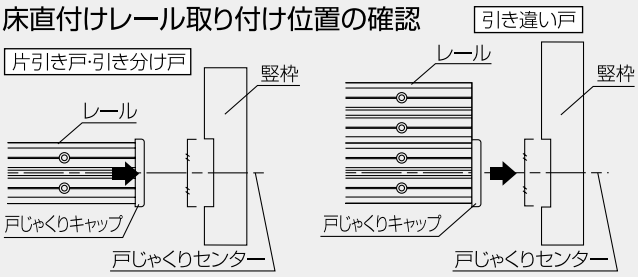
床直付けレールの場合

戸じゃくりキャップの取り付け



戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

床直付けレール取り付け位置の確認



片引き、引き違いともに、竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。引き違いの場合など、2本以上の床直付けレールをご使用になるときは戸じゃくりの位置で片方の床直付けレール位置を決め、**その他の床直付けレールがすき間なく並ぶように位置決めしてください。**

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

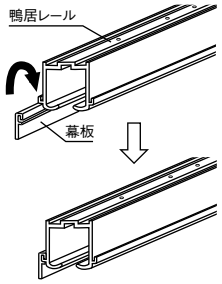
集合住宅用 引き違い戸 専用枠材

6 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

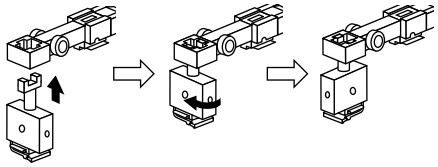
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

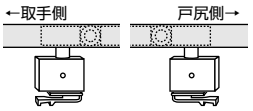
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

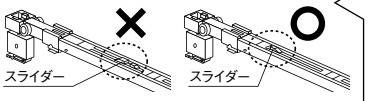


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。スライダーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

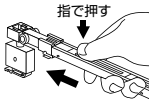
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

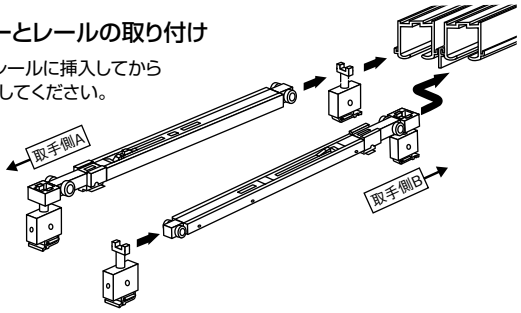
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

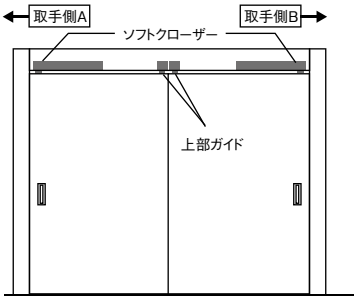


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

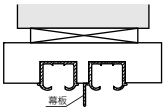
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



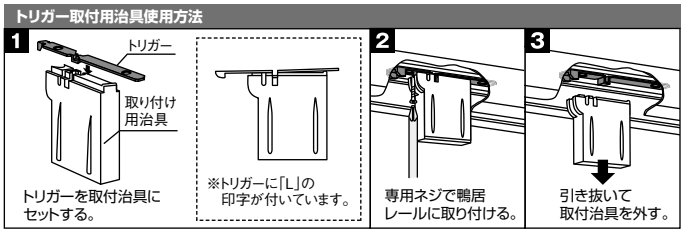


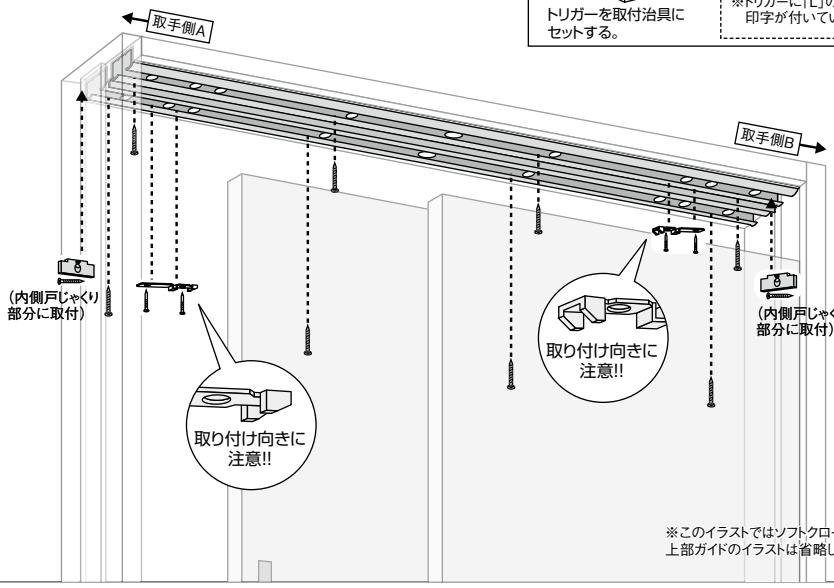
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



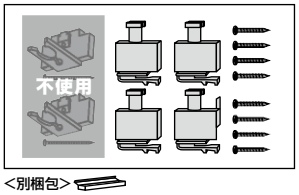
トリガー取付用治具使用方法



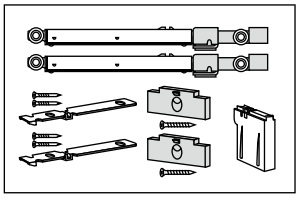


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



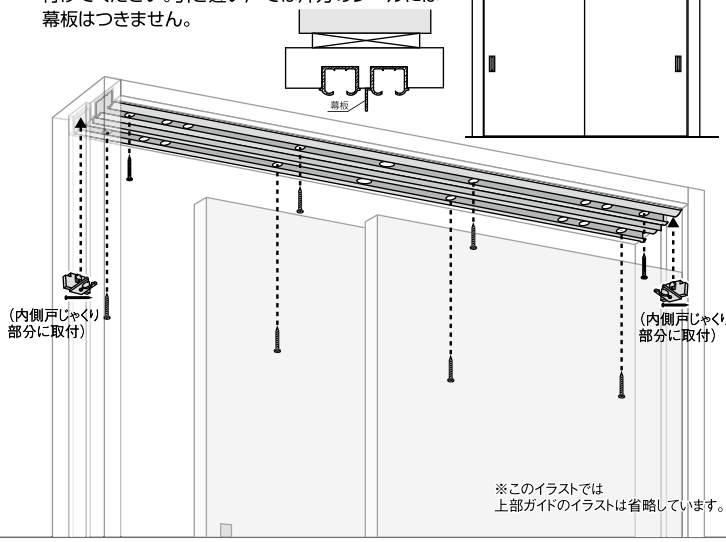
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

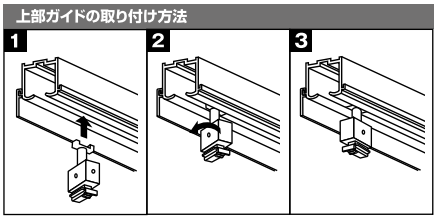
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。



⚠注意

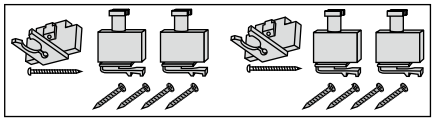
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

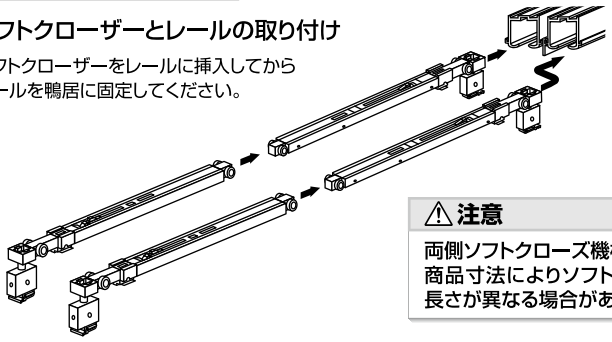
<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

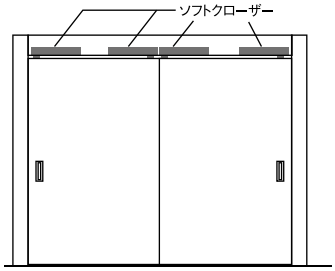
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



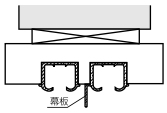
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

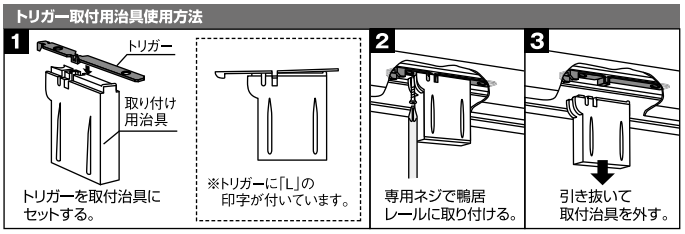


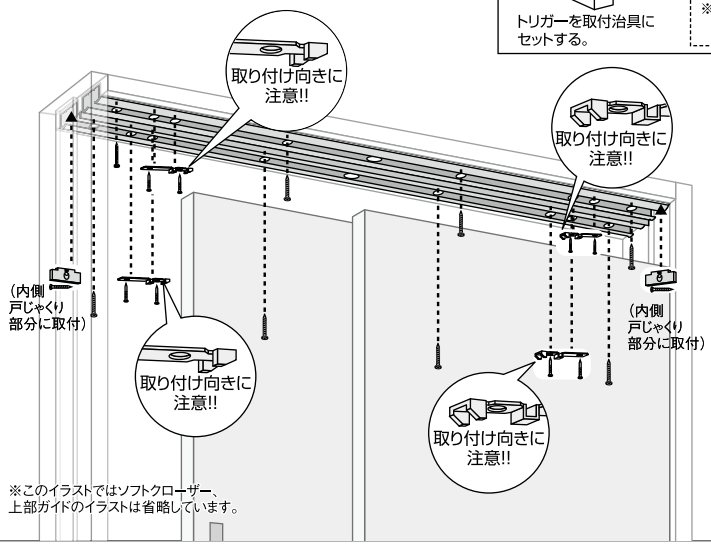
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。

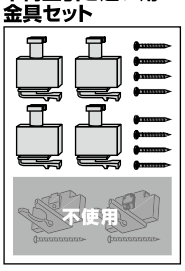


トリガー取付用治具使用方法

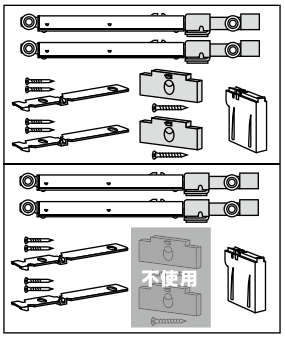




<同梱品>
下荷重引き違い用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



集合住宅用 引き分け戸・4枚引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠	中方立	鴨居	鴨居レール（樹脂）	鴨居レール用樹脂幕板
入数	引き分け戸	2本	2本	1本	1本	1本
	4枚引き違い戸	2本	ー	1本	2本	1本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名 / セット品番	上部ガイド	上部キャッチャー（ビス1本セット）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー
ZYNL58	4個	ー	2個	1個
ZYNI58	8個	2個	ー	2個
備考（部材品番等）	ZYNG01	ZYNC01	ZYTNC01	ZY3337

ビスセット（枠本体セットに梱包）

袋の色			赤	赤	赤	赤	透明	透明
部材名		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	敷居組み立てビス 62mm φ3.8mm	敷居ベースビス 25mm φ3.5mm	クッションキャップ φ16	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm 3.5mm
入数	引き分け戸	ZYBB36-□	2本	8本	4本	10本	8個	14本
	4枚引き違い戸	ZYBB36-□	2本	8本	4本	10本	8個	14本
備考（部材品番等）			ー	ー	ー	床直付けレールの場合は使用しません。	ー	ー

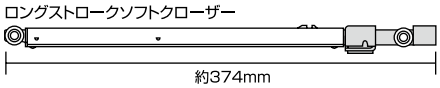
別梱包

部材名		敷居埋め込みの場合		床直付けレールの場合		
		敷居		床直付けレール		
入数	引き分け戸	本体1本	レール1本	レール1本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス13本
	4枚引き違い戸	本体1本	レール2本	レール2本	戸じゃくりキャップ2個	レール固定ビス26本
備考（部材品番等）		ー	ー	ー	ー	ー

下荷重引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱品・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名			ロングストロークソフトクローザー	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	引き分け戸	4枚引き違い戸			
入数	ZH23LC-Y	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×4セット）	1	1	1	1
	ZH23LR-Y	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×4セット）	2	2	2	1

ロングストロークソフトクローザー



集合住宅用 引き分け戸 専用枠材

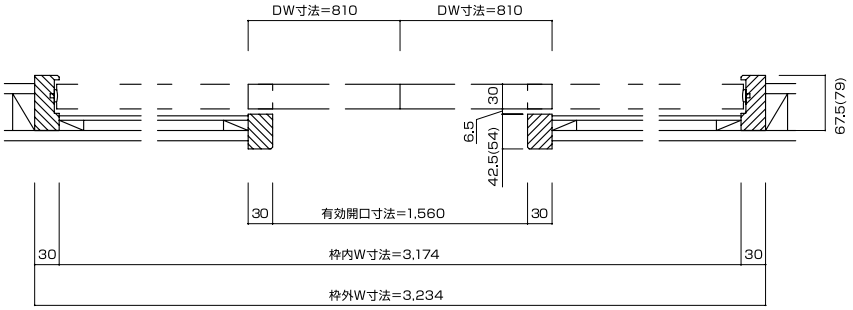
2. 引き分け戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

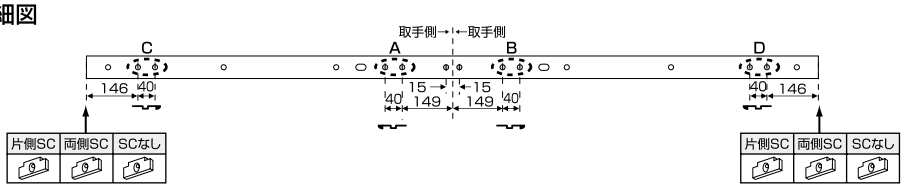
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



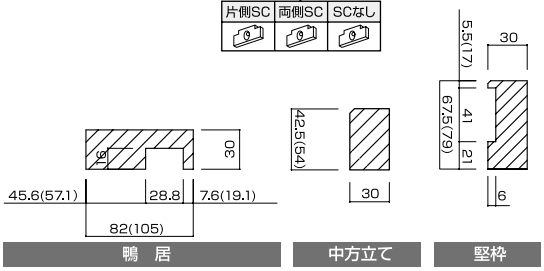
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·C　A·D

トリガーの取り付け向きに注意してください。



※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

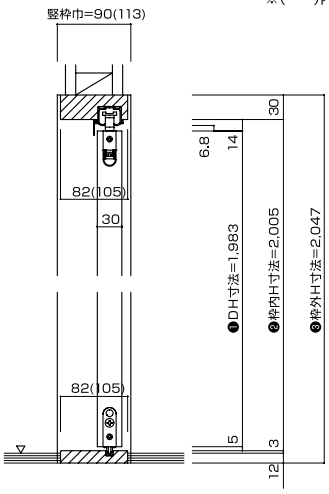
※（　　）内は113巾の寸法です。

縦断面図

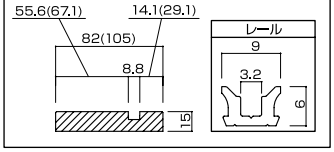
床埋め込み敷居の場合

（単位：mm）

※（　　）内は113巾の寸法です。



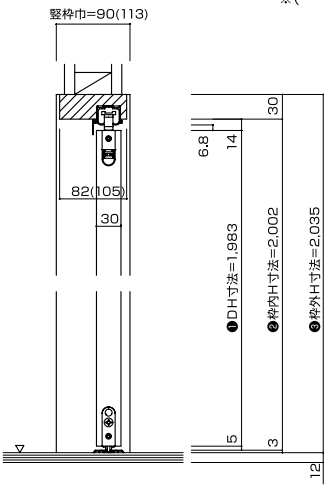
敷居加工図



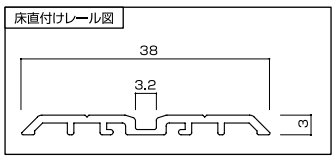
床直付けレールの場合

（単位：mm）

※（　　）内は113巾の寸法です。



床直付けレール図



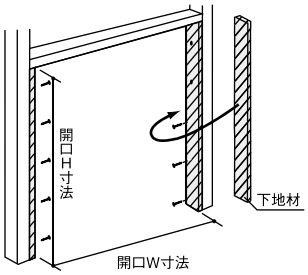
集合住宅用 引き分け戸 専用枠材

3. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

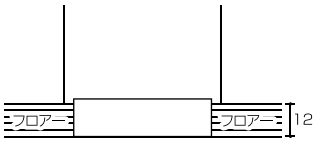
1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ



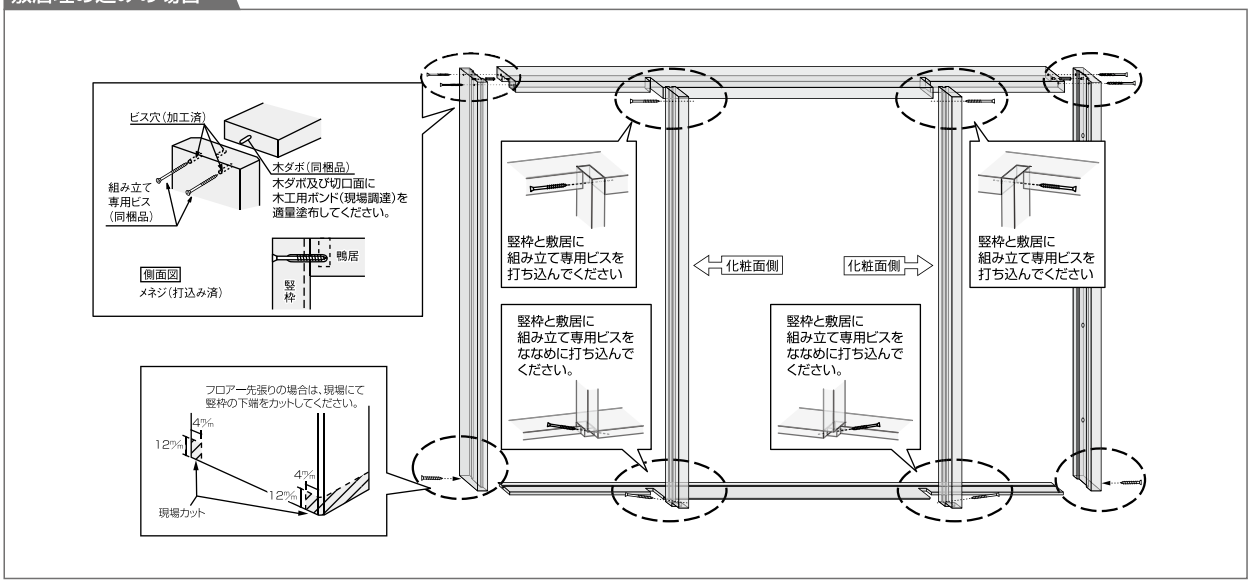
⚠ 注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

3 枠材の組み立て

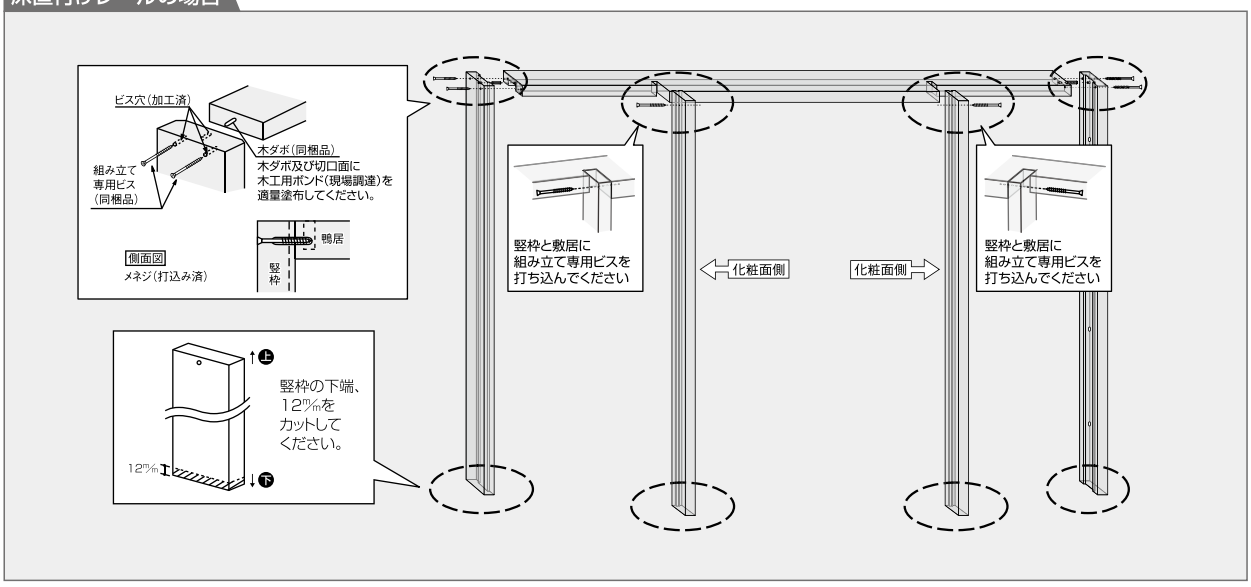
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



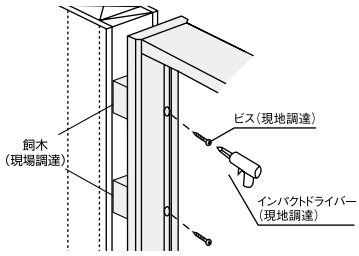
床直付けレールの場合



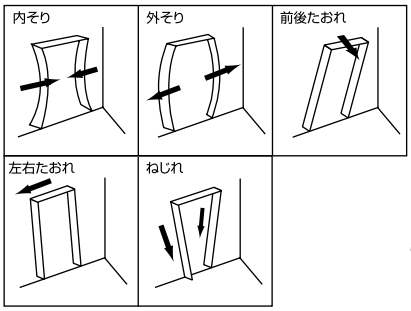
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

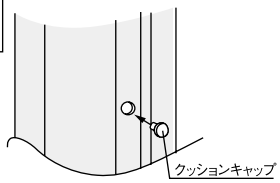
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は現地調達したビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



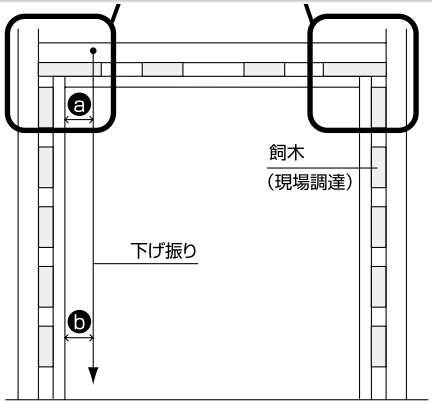
竪枠を取り付け後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

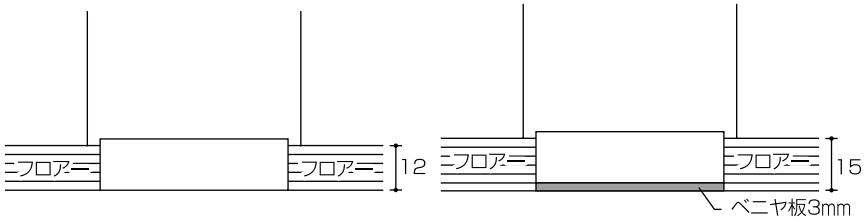


水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり



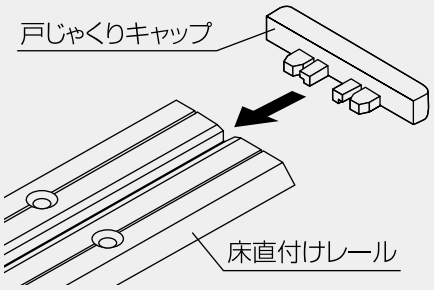
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

●敷居の厚みは12㎜を基準にしています。15㎜フロアーなど12㎜以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

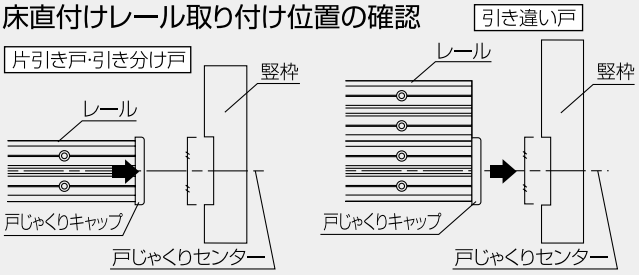
床直付けレールの場合

戸じゃくりキャップの取り付け



戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

床直付けレール取り付け位置の確認



片引き、引き違いともに、竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。引き違いの場合など、2本以上の床直付けレールをご使用になるときは戸じゃくりの位置で片方の床直付けレール位置を決め、**その他の床直付けレールがすき間なく並ぶように位置決めしてください。**

※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

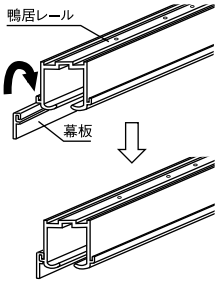
集合住宅用 引き分け戸 専用枠材

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

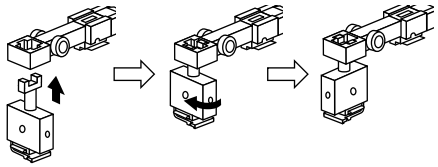
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

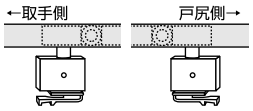
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

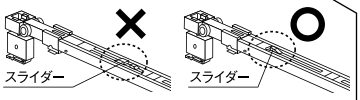


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

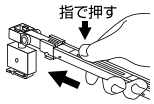
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

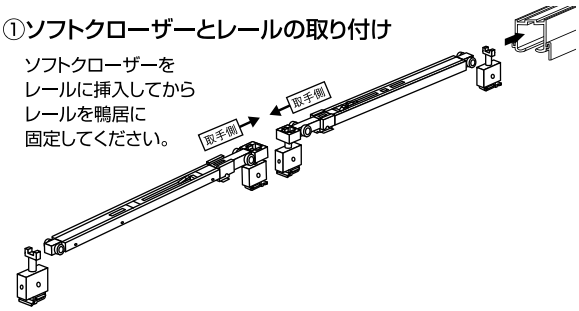
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

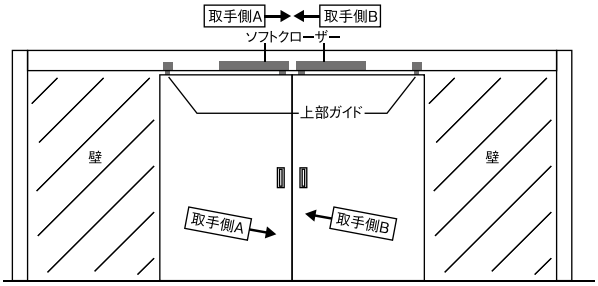


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

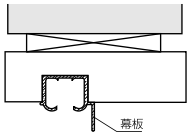
ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



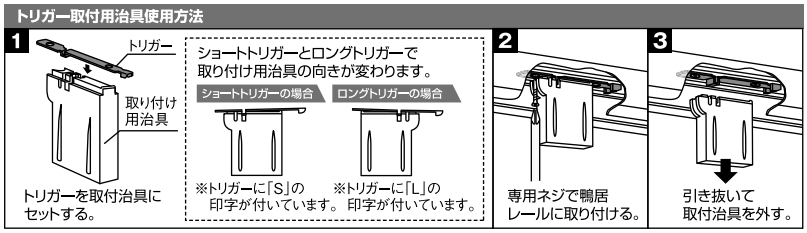


②鴨居レールの取り付け

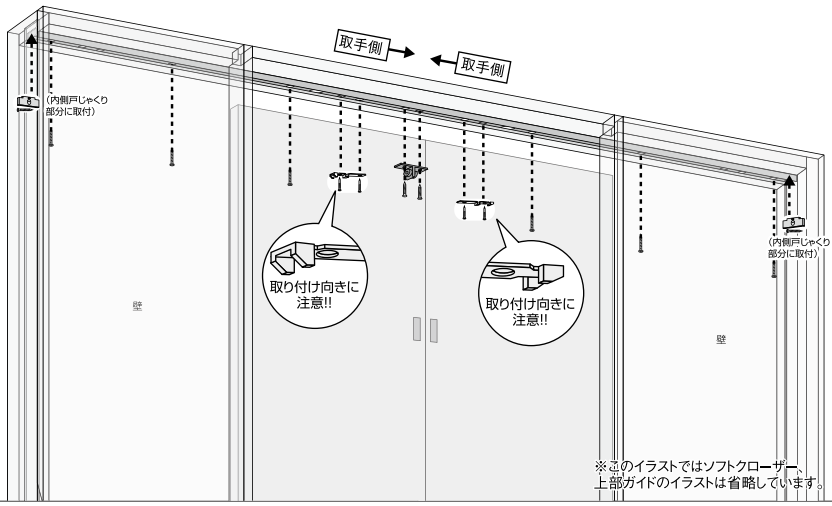
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



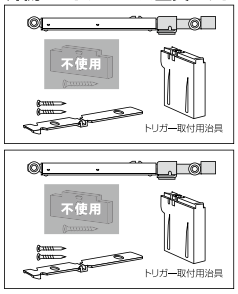
トリガー取付用治具使用方法



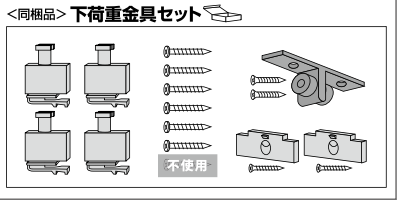
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



<別梱包> **片側ソフトクローズ金具セット**



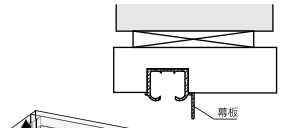
<同梱品> **下荷重金具セット**

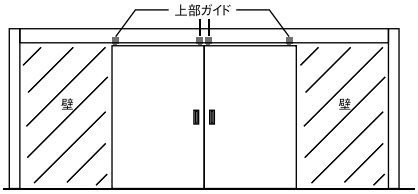


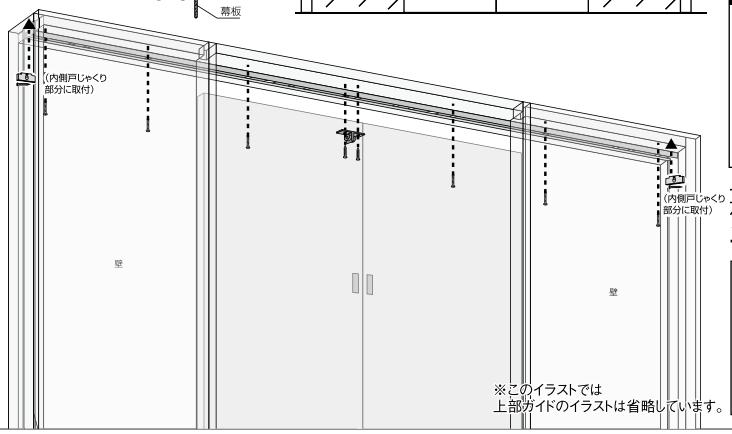
ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。





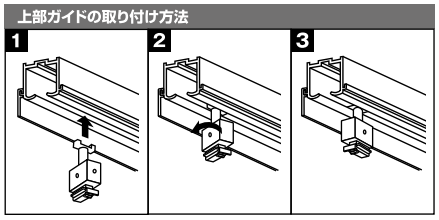


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

⚠注意

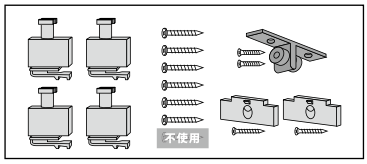
上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法



上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。

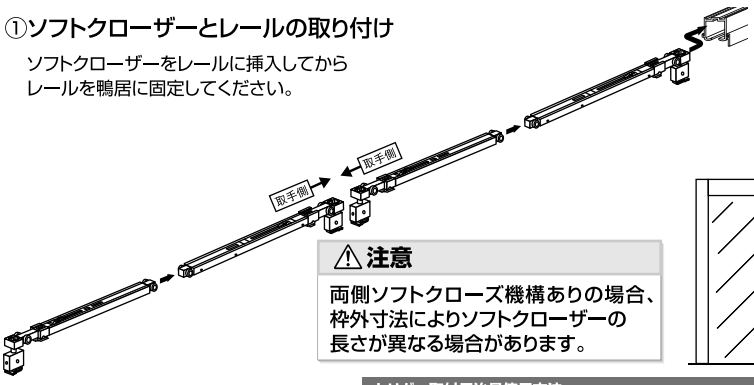
<同梱品>
下荷重金具セット

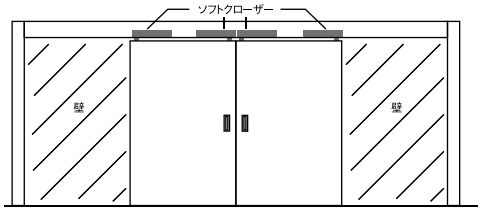


両側ソフトクローズ オプション

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



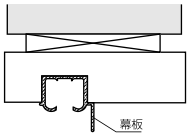


⚠注意

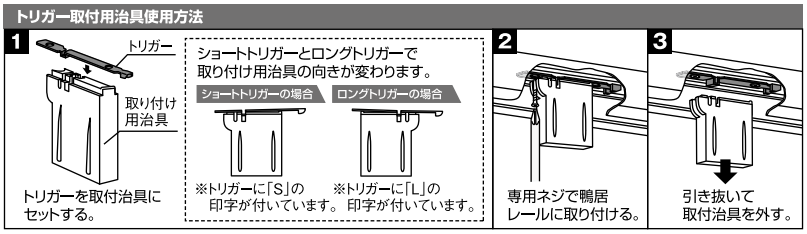
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

②鴨居レールの取り付け

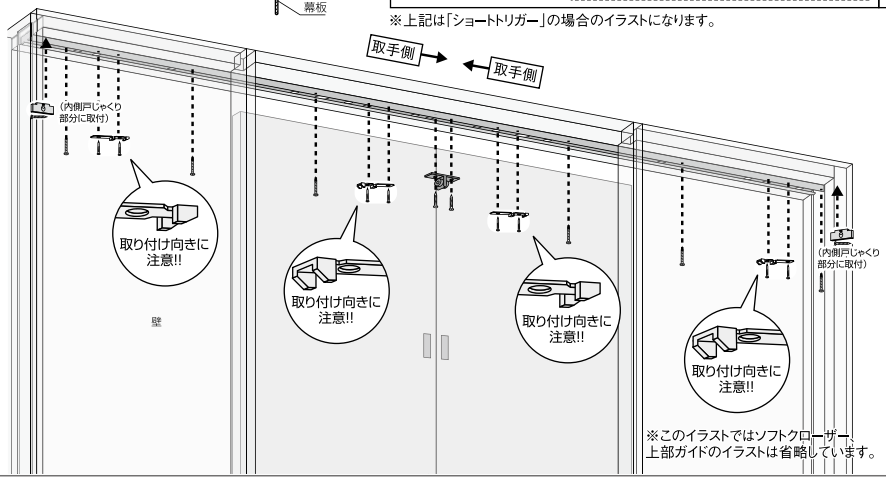
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

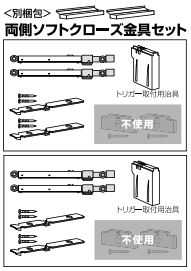


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

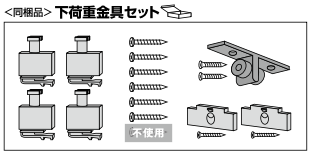


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



<同梱品> **下荷重金具セット**



集合住宅用 4 枚引き違い戸 専用枠材

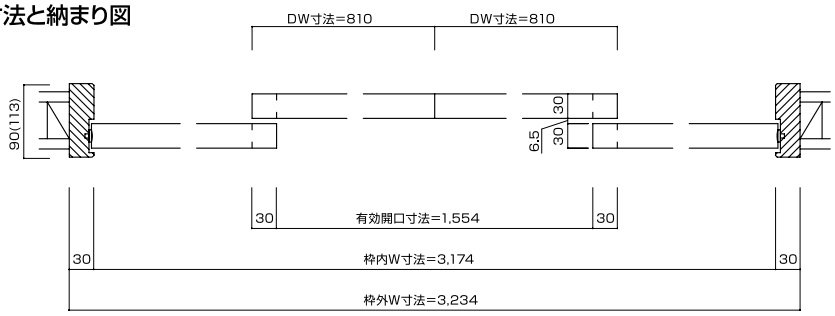
4. 4枚引き違い戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

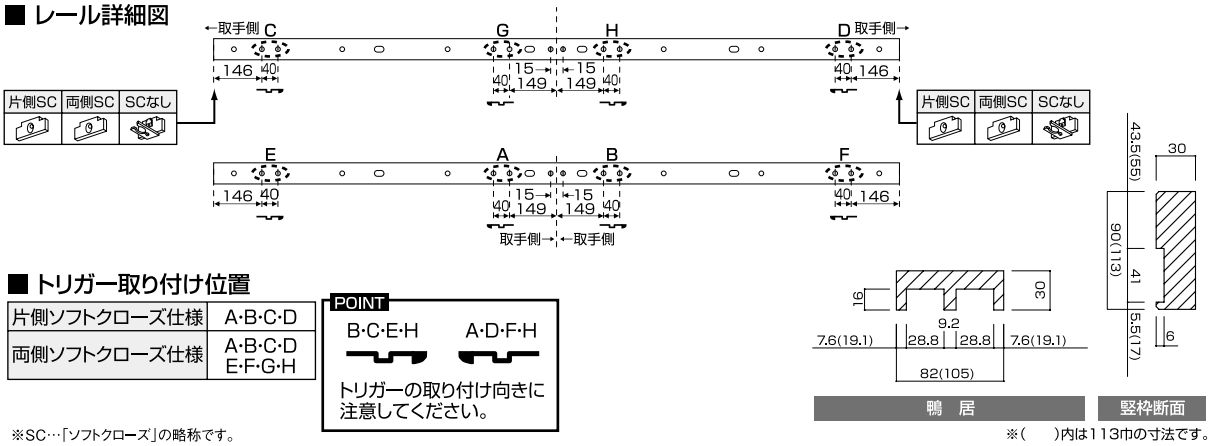
横断面図

（単位：mm）

■ 枠製品寸法と納まり図



■ レール詳細図



■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D E·F·G·H

POINT

B·C·E·H　A·D·F·H

トリガーの取り付け向きに注意してください。

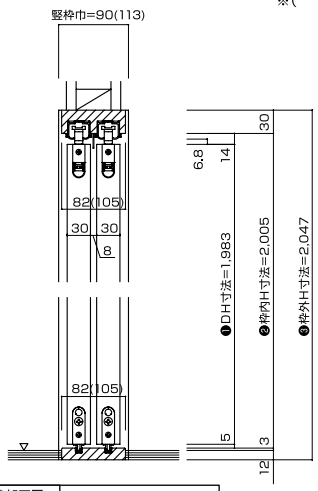
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

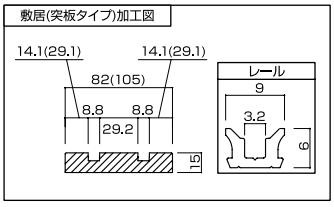
※（　）内は113巾の寸法です。

縦断面図

敷居埋め込みの場合

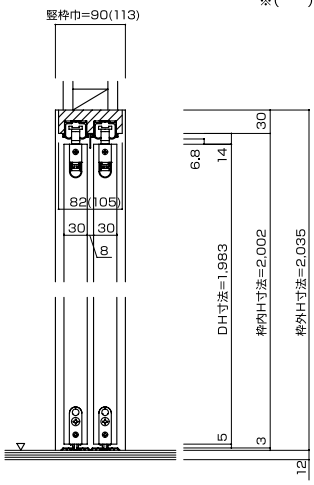
（単位：mm）
※（　）内は113巾の寸法です。

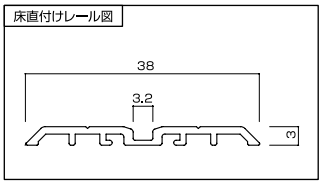




床直付けレールの場合

（単位：mm）
※（　）内は113巾の寸法です。



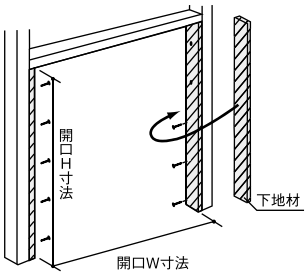


5. 4枚き引違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

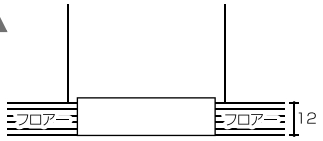
1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



2 フロアーの張り込み位置の確認

敷居埋め込みの場合のみ



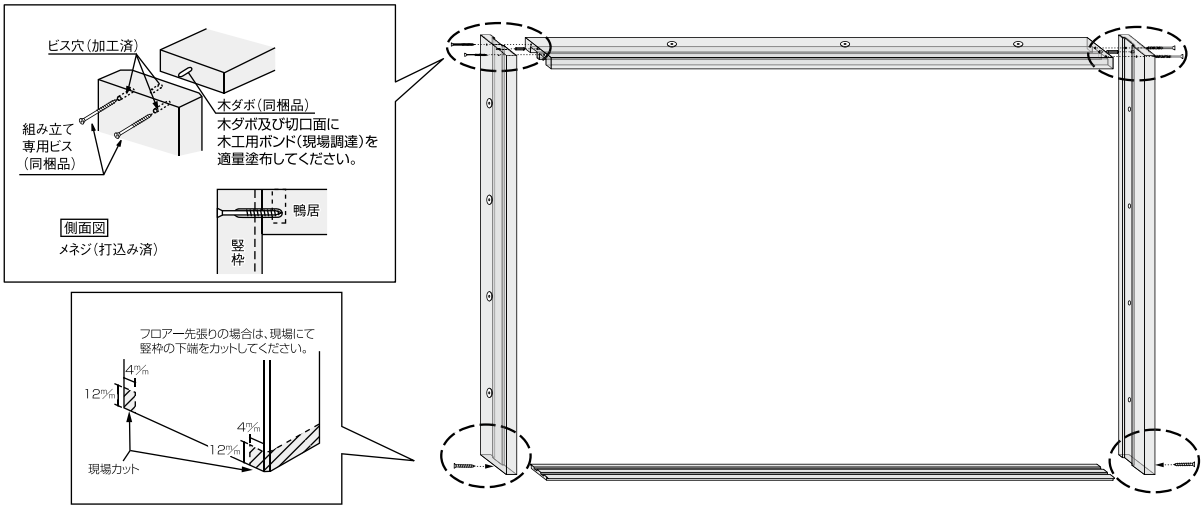
⚠ 注意
敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

3 枠材の組み立て

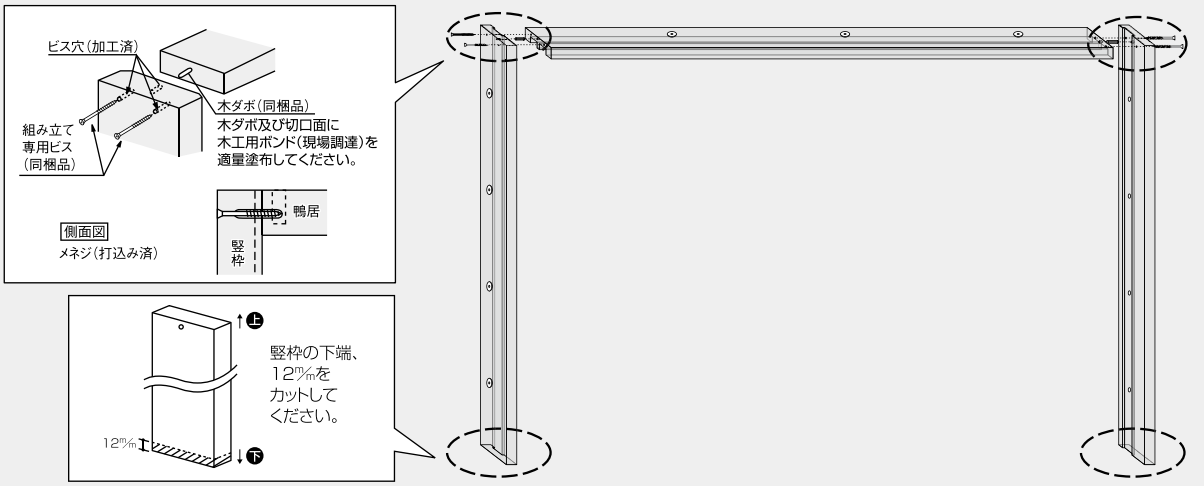
■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠、敷居などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

敷居埋め込みの場合



床直付けレールの場合

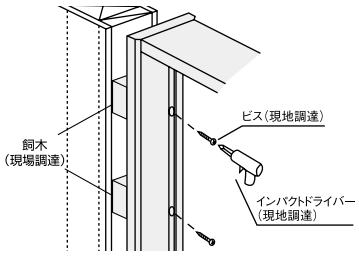


集合住宅用 4 枚引き違い戸 専用枠材

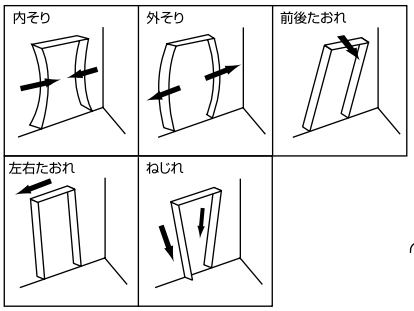
4 枠材の固定と建て付け調整

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。

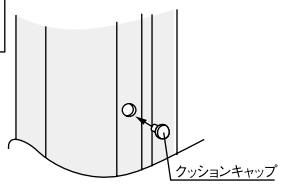
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は現地調達したビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



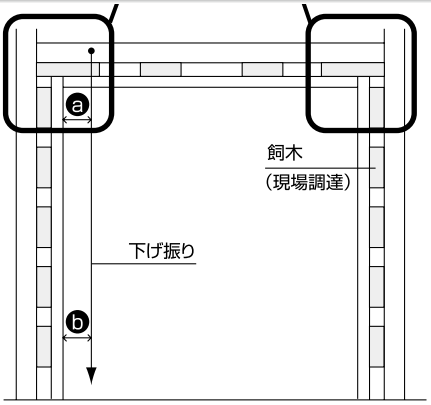
竪枠を取り付け後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

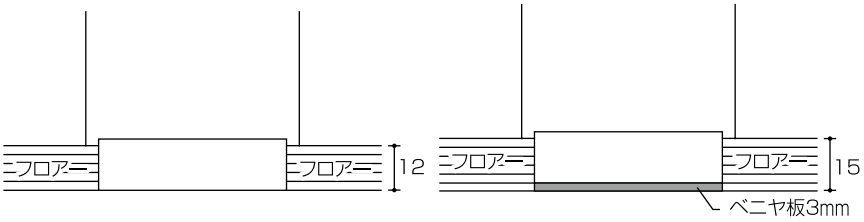


水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。

5 敷居・床直付けレールの取り付け

敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり



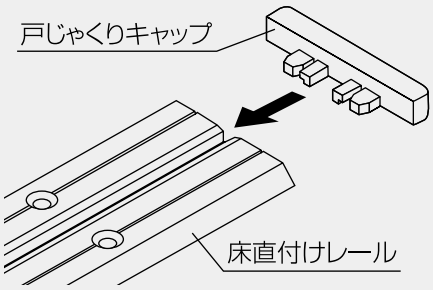
⚠注意

敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

●敷居の厚みは12㎜を基準にしています。15㎜フロアーなど12㎜以上の厚みのフロアーを使用の場合は、ベニヤ板などで高さの調整をおこなってください。

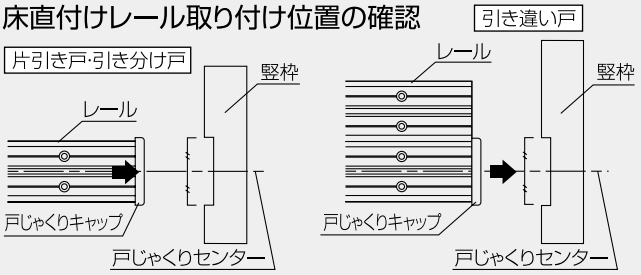
床直付けレールの場合

戸じゃくりキャップの取り付け



戸じゃくり部分に接する床直付けレールの端部へ、戸じゃくりキャップを取り付けます。

床直付けレール取り付け位置の確認



片引き、引き違いともに、竪枠の戸じゃくりセンターが床直付けレールのセンターになるように位置決めをします。引き違いの場合など、2本以上の床直付けレールをご使用になるときは戸じゃくりの位置で片方の床直付けレール位置を決め、**その他の床直付けレールがすき間なく並ぶように位置決めしてください。**

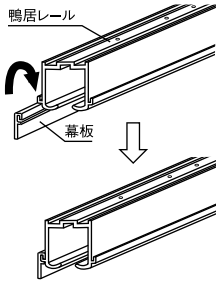
※レールのキズ防止のため、施主様入居までは養生等を施し、砂・ホコリ等が付着しないようにしてください。

8 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

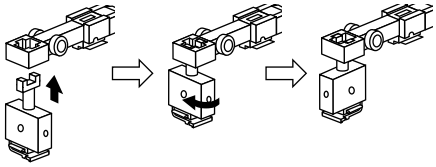
幕板と鴨居レールを確実に取り付けてください。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

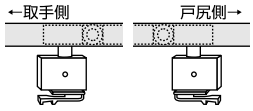
上部ガイドをソフトクローザー先端の溝にはめ込み左右に90度回して取り付けてください。



⚠ 注意

レール挿入後に上部ガイドの向きの変更は出来ません
ので確実に取り付けを行ってください。

※切れ込みの先端が取手側・戸尻側に向くように取り付けてください。

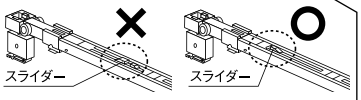


■ソフトクローザーの挿入

鴨居レールにソフトクローザーを挿入してください。ソフトクローザーはソフトクローズ機構の仕様により挿入向きが異なります。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

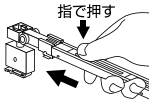
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

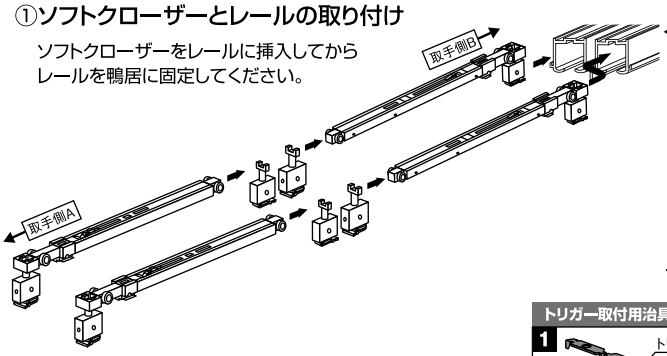
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

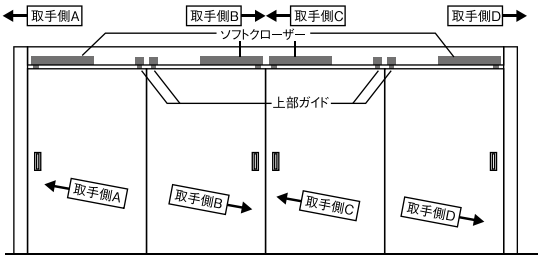


片側ソフトクローズ 仕様 標準

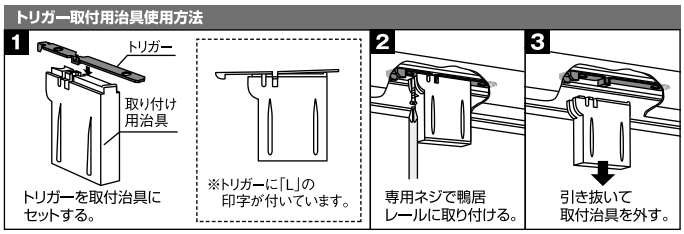
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。



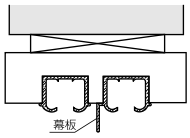


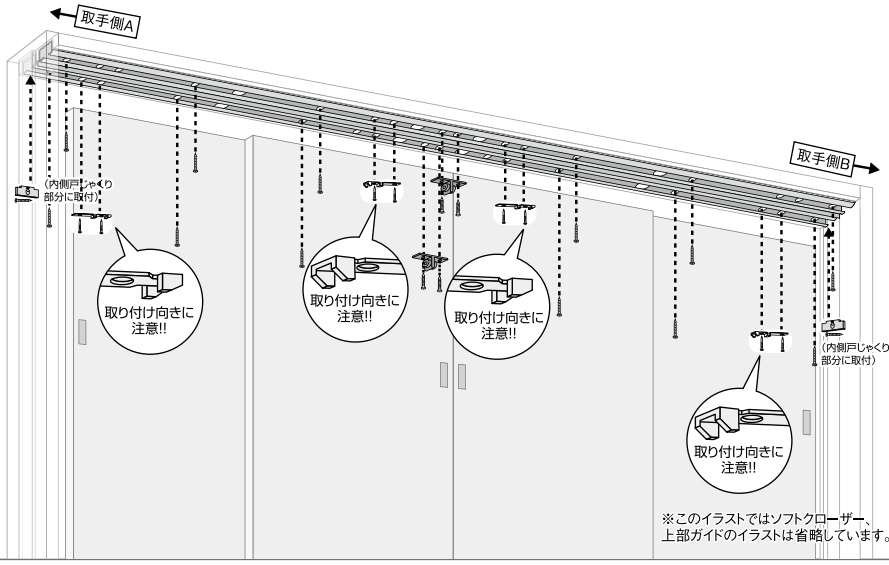
トリガー取付用治具使用方法



②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。





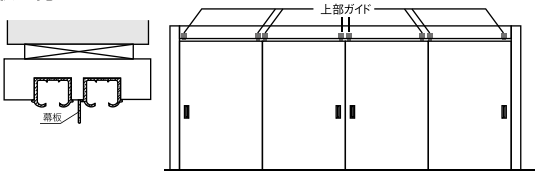
※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

集合住宅用 4 枚引き違い戸 専用枠材

ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

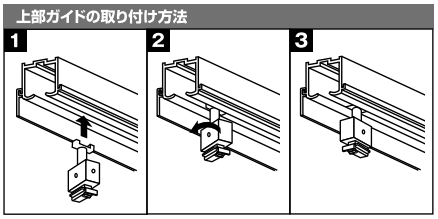
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



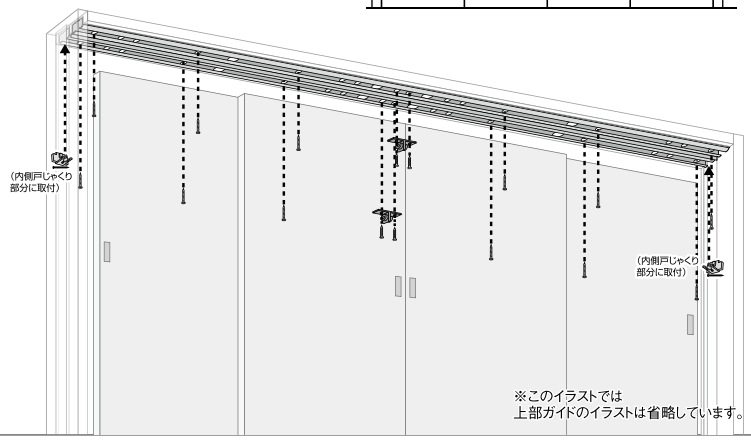
⚠注意

上部ガイドは扉を吊り込むまで無くさないよう大切に保管、または確実に鴨居レールに取り付けておいてください。

上部ガイドの取り付け方法

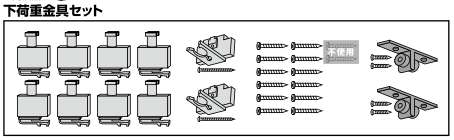


上部ガイドを鴨居のレールの溝にはめこみ左右に90度回して取り付けてください。



※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。

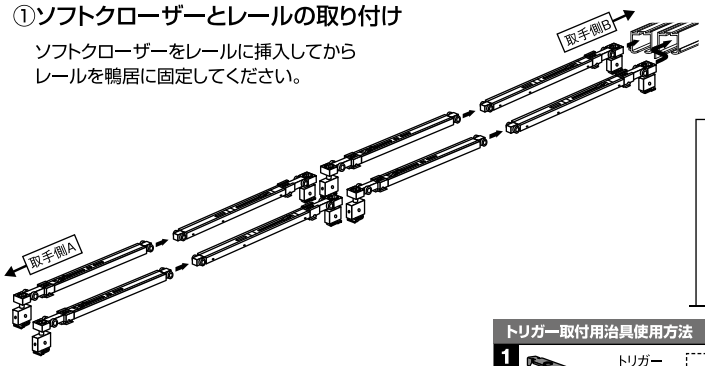
<同梱品>
下荷重金具セット



両側ソフトクローズ オプション

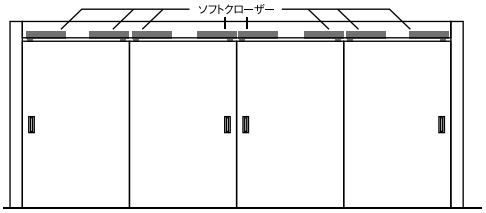
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してからレールを鴨居に固定してください。

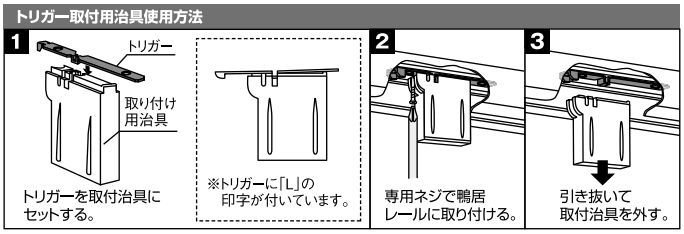


⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

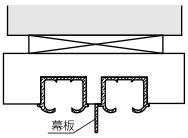


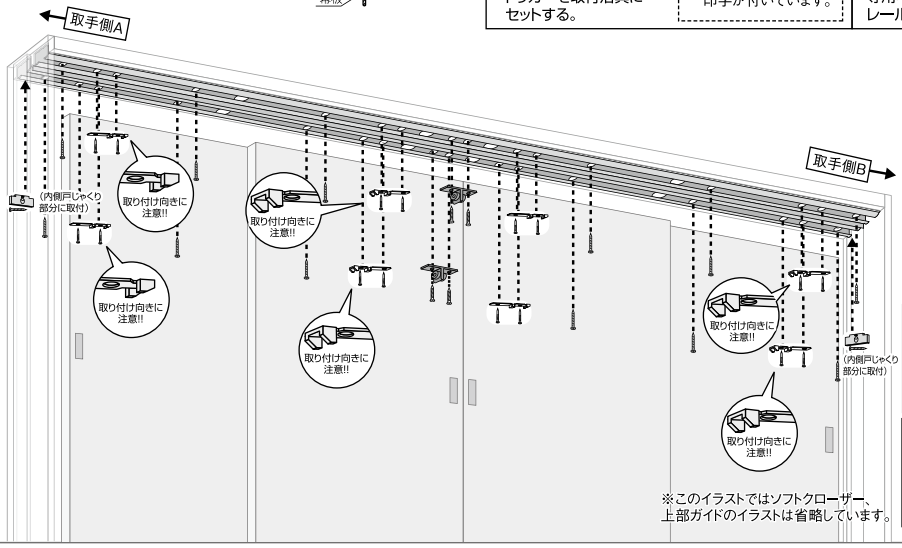
トリガー取付用治具使用方法



②鴨居レールの取り付け

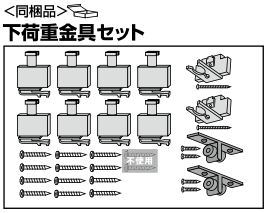
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。



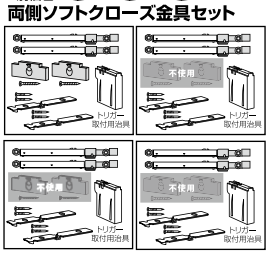


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
下荷重金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット

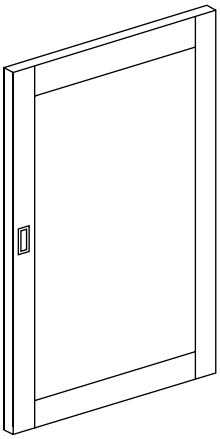


引き戸（上吊りタイプ）

1. 開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表



部材名	数量	備考
引き戸	1枚	
吊り車固定カップ	2個	取付済

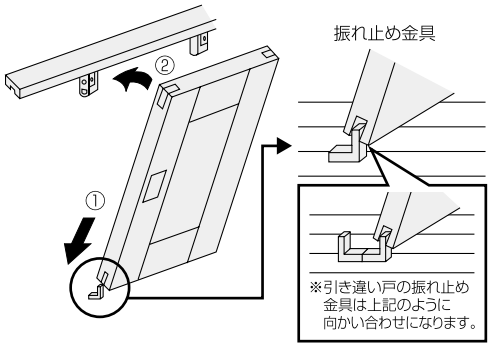
引き手（別売品）

部材名	数量	備考
引き手	1セット	ビス同梱

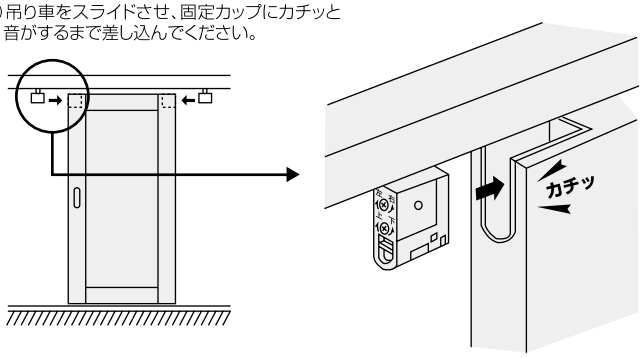
2. 施工手順

① 引き戸の取り付け

（1）扉を床に取り付けた振れ止め金具にひっかけ、扉をおこします。

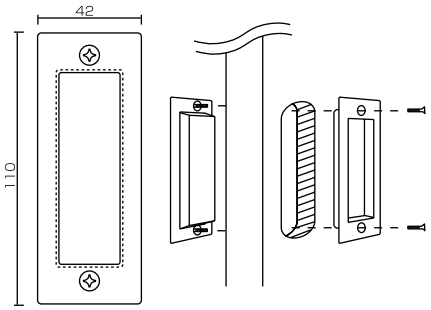


（2）吊り車をスライドさせ、固定カップにカチッと音がするまで差し込んでください。



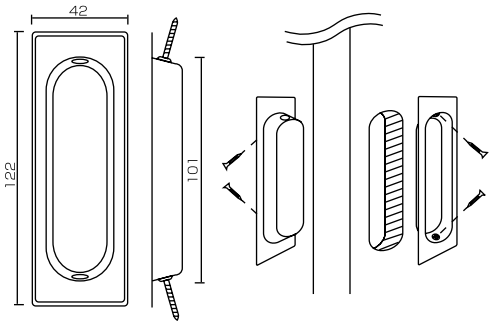
② 引き手の取り付け

角タイプ引き手の場合



1セットを同梱のビスで水平にとめます。

Rタイプ引き手の場合



片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表・裏ともに本体にビスでとめます。

⚠ 注意

インパクトドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますので行わないでください。

引き戸（上吊りタイプ）

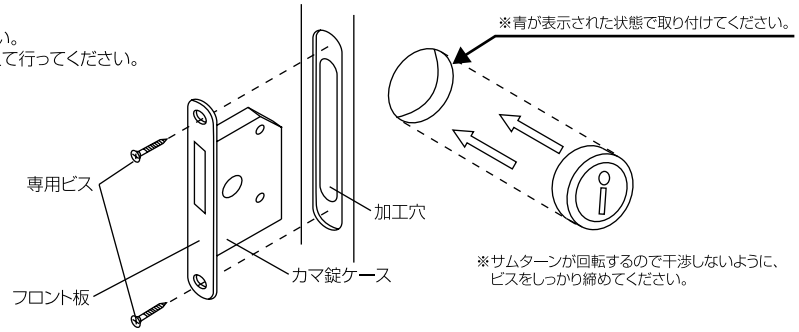
［オプション］錠の取り付け（表示錠･間仕切り錠･鍵付き錠の場合のみ）

（1）カマ錠の取り付けをします。
フロント板は、加工穴にズレないように入れてください。
ビスをしめつける際には、フロント板をしっかりおさえて行ってください。

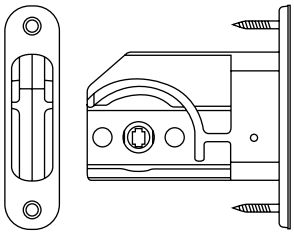
※カマ錠の取り付け時は、必ずカマがケース内に入った状態で取り付けてください。

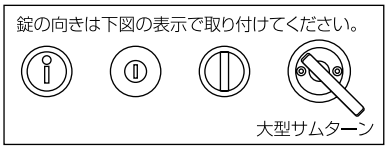
お願い

ビス打ち込みの際は、割れ防止のため、下穴を空けてください。



（2）錠を錠加工穴にとりつけます。



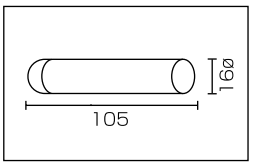


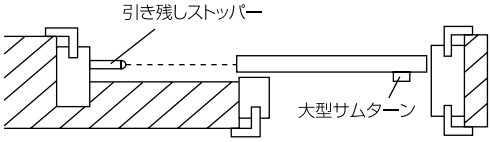
ビスの取り付けの留意点

ビスは同梱のビスを使用して取り付けてください。ビスで金具の固定を行う際は過大なトルクを発生させる工具は極力使用しないでください。強いトルクを発生させるインパクトドライバーを用いると、締め過ぎによるビスの空転や部材に割れが生じ、適切な固定できず、商品に悪影響を及ぼす原因となります。

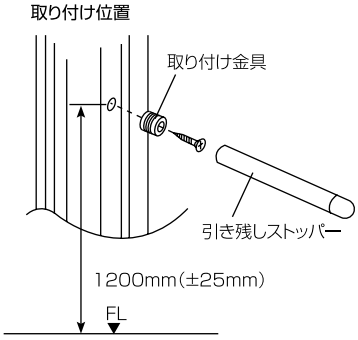
［オプション］大型サムターン表示錠ご使用時の注意

大型サムターンが中方立て側にくる時、必ず別売のストッパーを使い、引き残しをつくってください。ただし、有効開口は102mm狭くなります。





※上記イラストは調整枠の場合

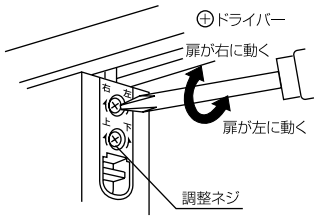


※小壁側の竪枠の防間じゃくりセンターに床から1200mm（±25mm）の高さに取り付けてください。

3. 調整

① 引き戸と引き戸が擦れ合う、又は引き戸と中方立があたる場合（左右調整）

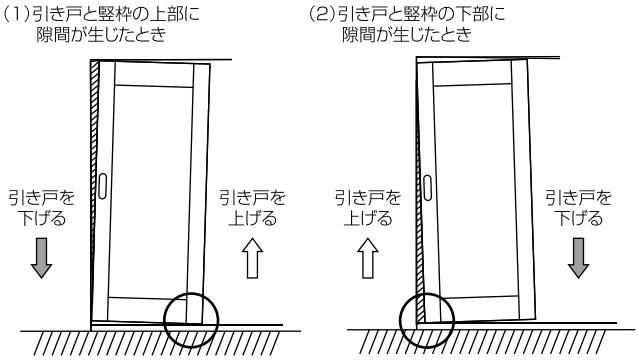
（1）吊り車の左右調整

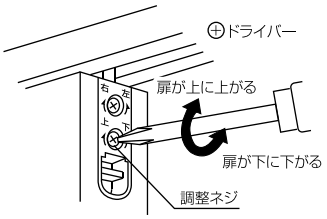


引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、上部ガイドと戸車の左右調整を行ってください。（上側の調整ネジ）

② 竪枠と引き戸の間に隙間が生じたとき（上下調整）

吊車の上下調整

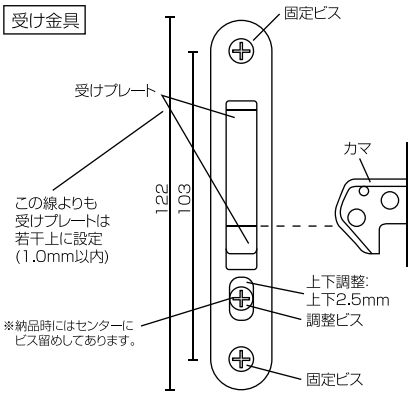




隙間の状態を確認後、プラスドライバーにて吊車の上下調整ネジで調整を行い、竪枠と引き戸の隙間をなくしてください。
その際は、両側の吊車2つとも必ず調整をしてください。（下側の調整ネジ）

③ カマ錠受け金具（枠側）の上下調整

引き戸の上下調整を行った場合は、錠と受け金具の上下の位置関係にズレが生じます。
引き戸のロックがしっかりと行われるように下記の要領で調整してください。



1.受けプレートの調整ビスを受けプレートが動く程度にゆるめます。
2.カマ錠のカマを出した状態にし、左図のような位置関係になるように調整します。
　調整は、基準ラインよりも若干上に設定してください。
3.調整が終わりましたら調整ビスを締めて確実に固定してください。

お願い

引き戸の上下調整の両方またはどちらかの調整を行った場合は必ず受け金具の調整も行ってください。調整をしないと引き戸が閉まらなくなったり、金具を破損するおそれがあります。

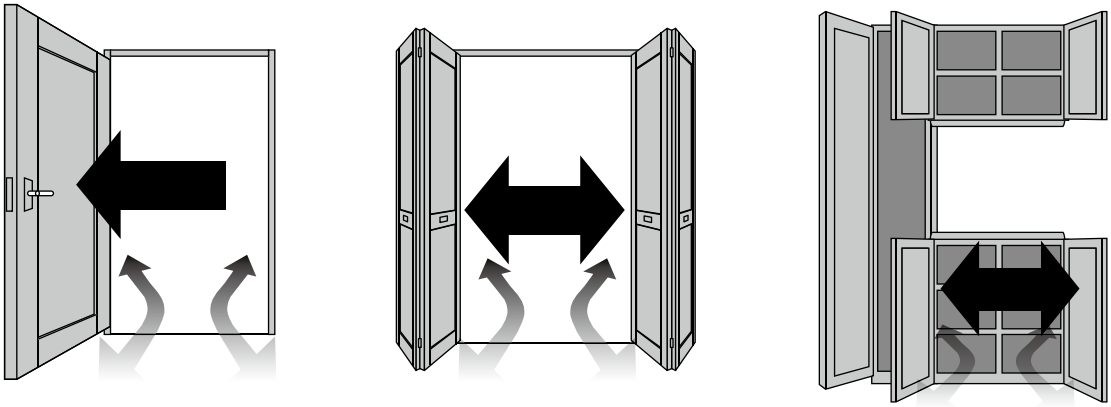
施工終了後

養　生　当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。養生テープやガムテープなどの粘着テープは直接商品に貼り付けないようにしてください。

お手入れのしかた　引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し　同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

施工後、お施主様への引渡しまで
①扉を開放した状態にしてください。
②必ず換気をしてください。



木材は周囲の環境に応じて水分を吸収または放出して、収縮·膨潤する特徴があります。
施工後に扉の表側·裏側で温度·湿度が異なる状態が長く続くと、引渡し後のご使用に支障をきたす可能性があります。
※通常の生活環境では、適度な出入りまたは開閉によって空気の入れ替りがあり、この状況は緩和されます。

片引き戸・引き違い戸・引き分け戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（アルミ）	木製幕板
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	1本
	引き違い戸	2本	—	—	—	1本	2本	1本
	引き分け戸	—	2本	2本	2本	1本	1本	1本
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—	—

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名			吊車	吊車キャッチ	振れ止め金具（床付用）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm
		セット品番						
入数	片引き戸	ZYTK54	2個	1個	1個	2個	—	4本
	引き違い戸	ZYTH54	2個	2個	2個	2個	—	8本
	引き分け戸	ZYTL58	2個	—	2個	2個	1個	8本
備考（部材品番等）			ZYTF01	ZYTC01	ZY3334	ZYTC01	ZY3337	—

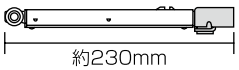
ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名			木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16
		袋の色	赤	赤	赤	黄	黄	透明
		セット品番						
入数	片引き戸	ZYQB74-□	2本	6本	5本	10本	1本	8個
	引き違い戸	ZYQB75-□	2本	4本	9本	11本	1本	8個
	引き分け戸	ZYQB76-□	2本	8本	9本	12本	1本	8個
備考（部材品番等）			—	—	使用しません	—	—	—

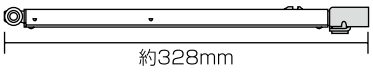
上吊り引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱包·ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名				ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	片引き戸	引き違い戸	引き分け戸					
入数	ZH23SC-T	片側SC付 枠外1324·1190	—	—	1	—	1	—	1	1
	ZH23LC-T	片側SC付 枠外1824·1644·1450	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×2セット）	—	1	—	1	1	1
	ZH23SR-T	両側SC付 枠外1324·1190	—	—	2	—	2	—	2	1
	ZH23MR-T	両側SC付 枠外1450	—	—	1	1	1	1	2	1
	ZH23LR-T	両側SC付 枠外1824·1644	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×2セット）	—	2	—	2	2	1

Ⓐショートストロークソフトクローザー

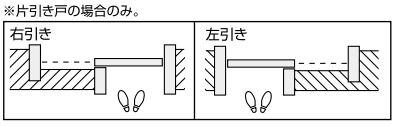


Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認　片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



片引き戸 専用枠材

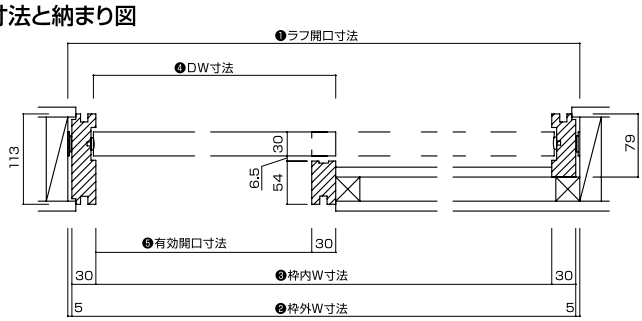
2. 片引き戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

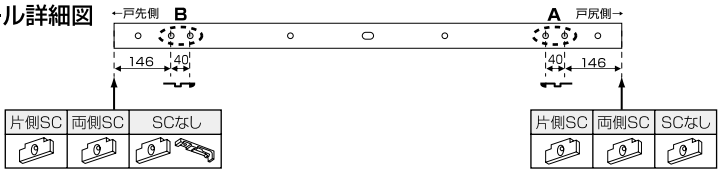
■枠製品寸法と納まり図



■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,190
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654	1,460	1,200
❷枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,190
❸枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,130
❹DW寸法	900	810	713	583
❺有効開口寸法	867	777	680	550

■レール詳細図

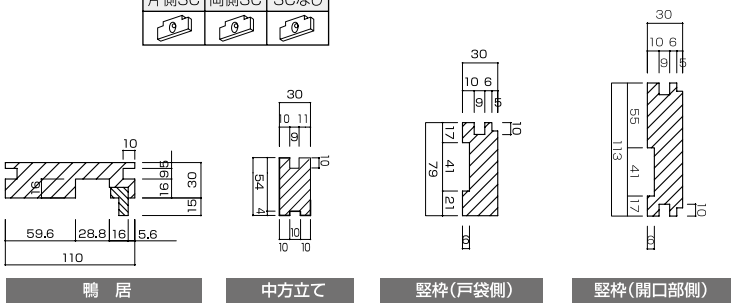


■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B
両側ソフトクローズ仕様	A·B

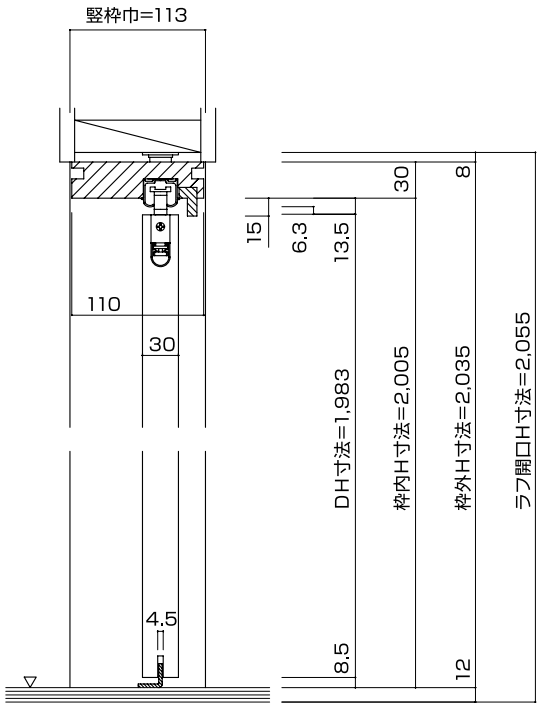
POINT
B　A　トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

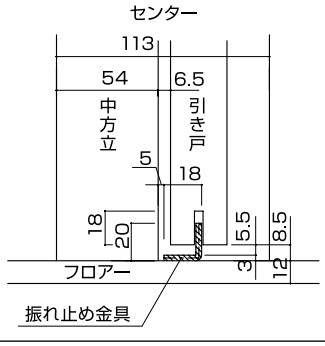


縦断面図

（単位：mm）



振れ止め金具取り付け位置



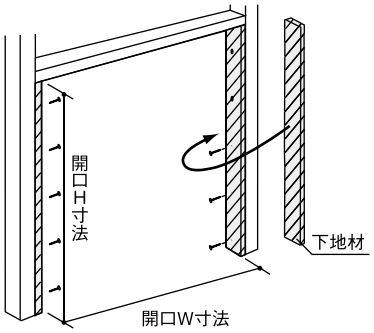
片引き戸 専用枠材

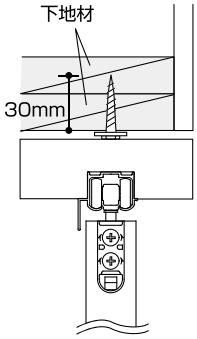
3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





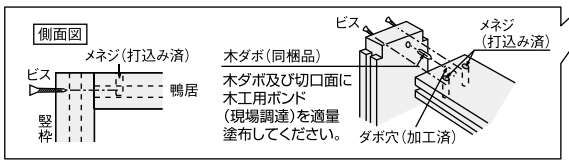
⚠ 注意

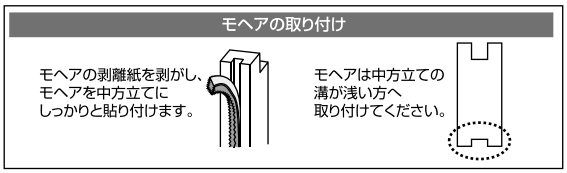
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

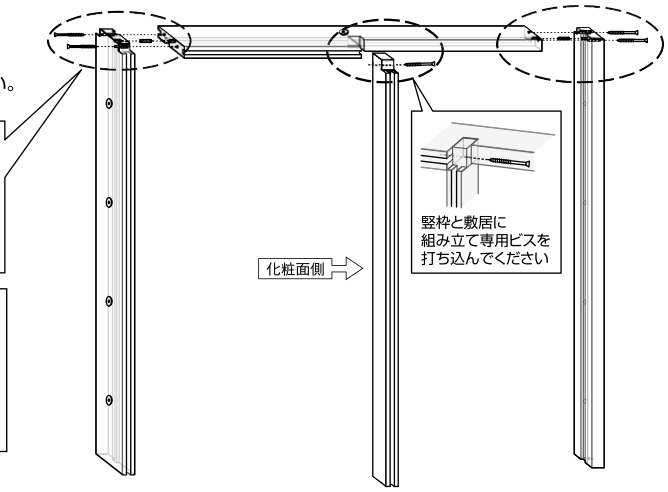
2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。







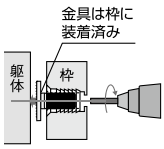
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

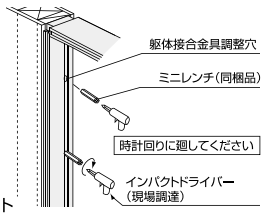
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

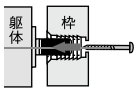


⚠ 注意

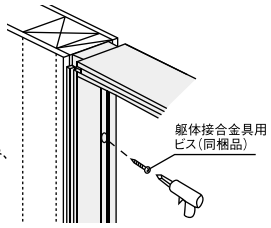
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

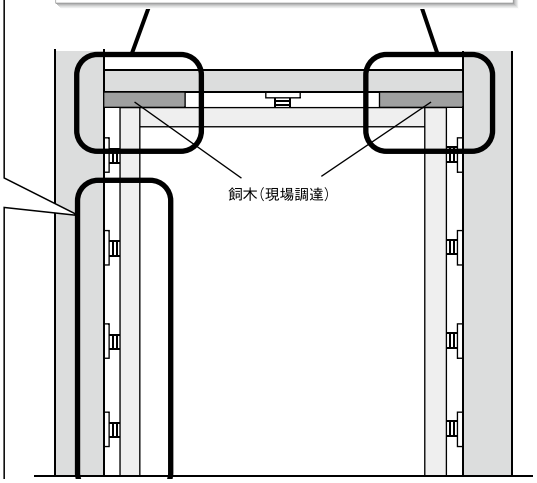


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

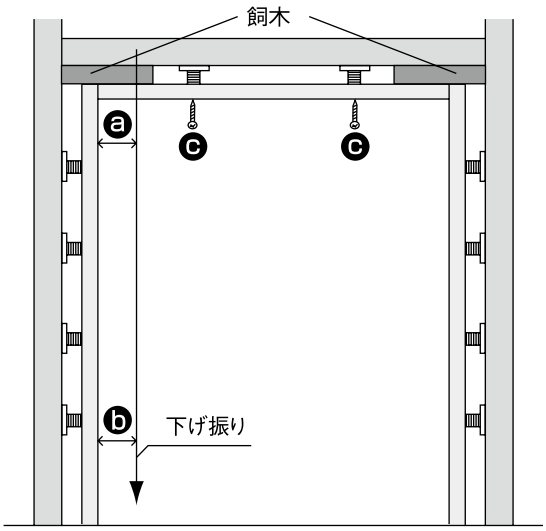
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

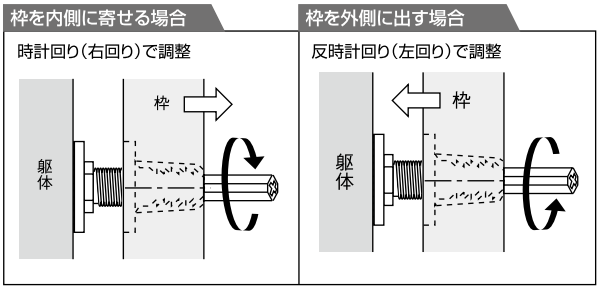


4 建て付け調整と鴨居の本固定

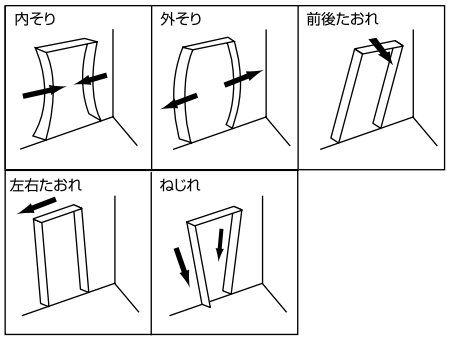
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



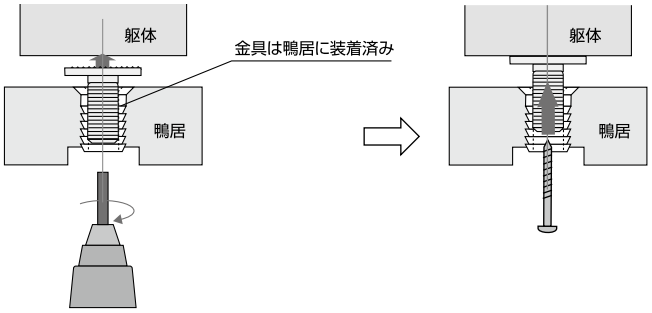


※下記の様なことがないようご注意ください。

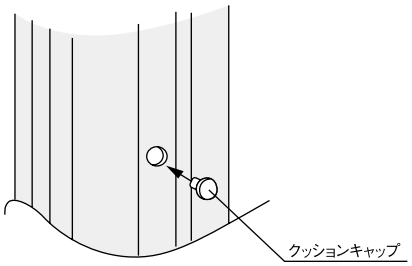


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



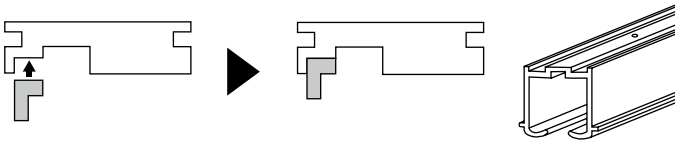
片引き戸 専用枠材

5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

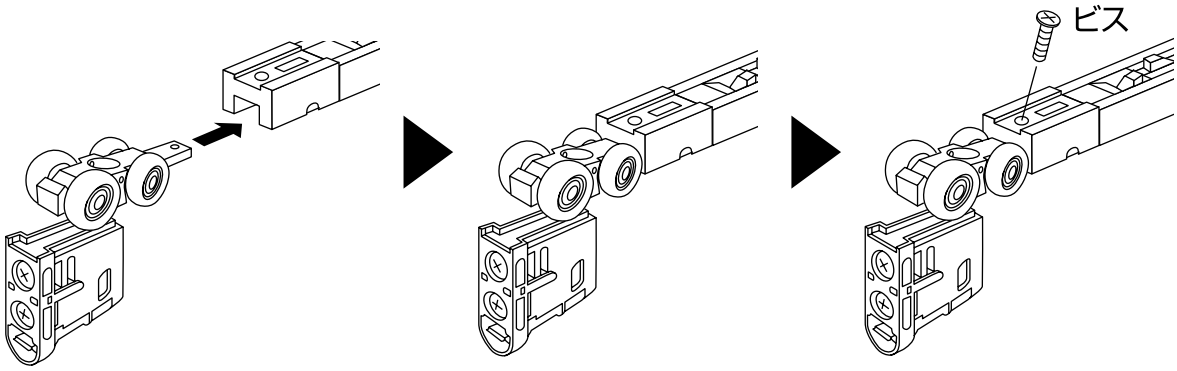
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

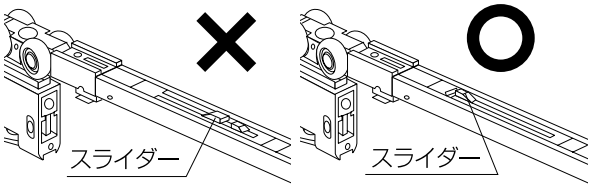


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

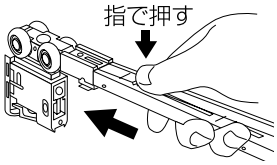
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

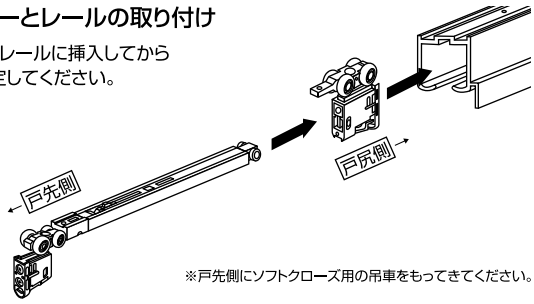
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



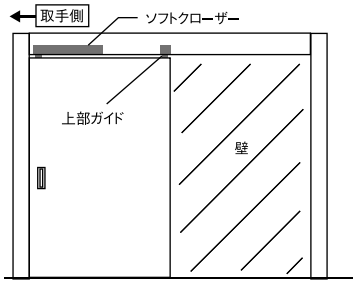
片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

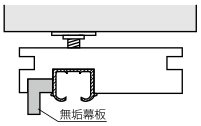
ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



※戸先側にソフトクローズ用の吊車をもってきてください。



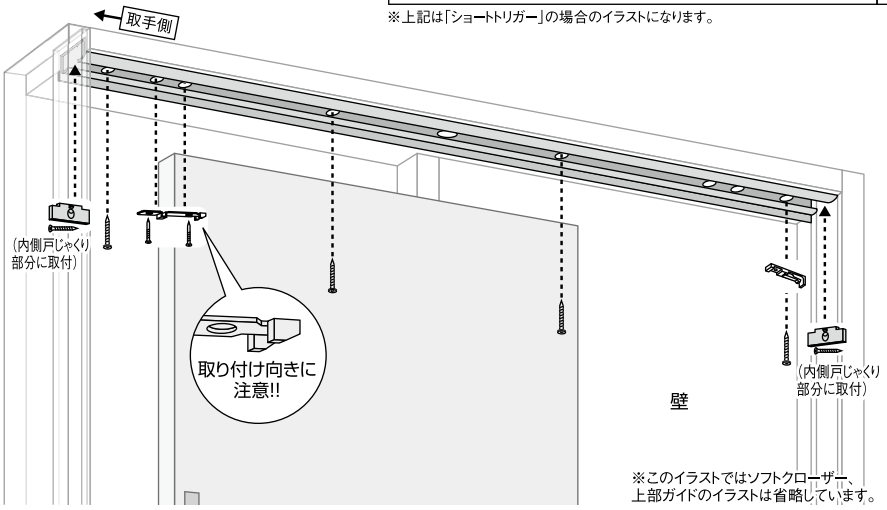
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

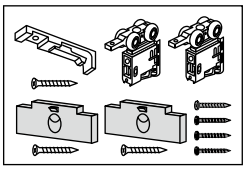
1. トリガーを取付治具にセットする。
   - トリガー
   - 取り付け用治具
   - ショートトリガーとロングトリガーで取り付け用治具の向きが変わります。
     - ショートトリガーの場合：※トリガーに「S」の印字が付いています。
     - ロングトリガーの場合：※トリガーに「L」の印字が付いています。
2. 専用ネジで鴨居レールに取り付ける。
3. 引き抜いて取付治具を外す。

※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

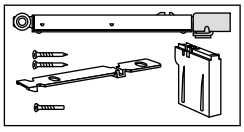


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

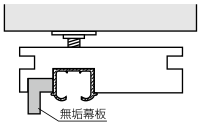


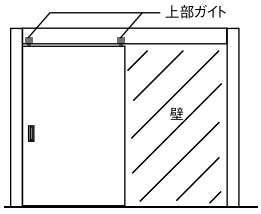
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

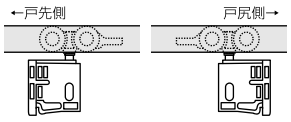
①鴨居レールの取り付け

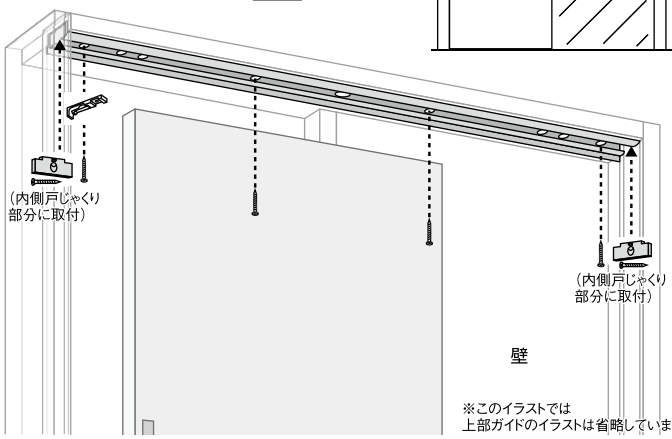




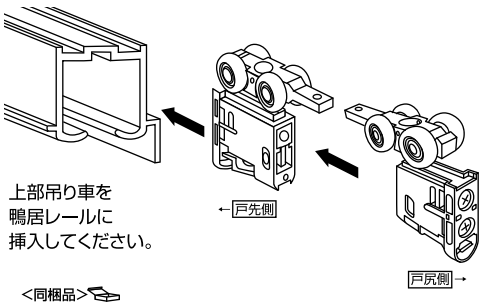
⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



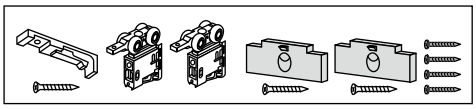


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

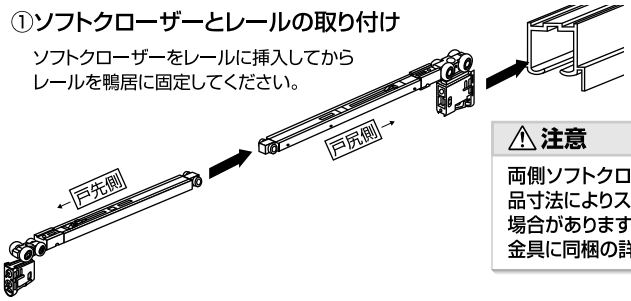


片引き戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

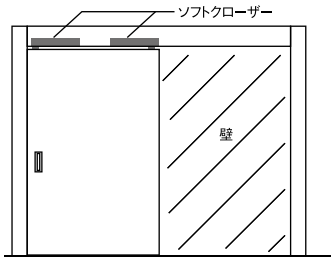
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

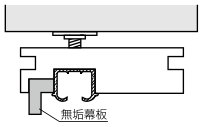


⚠注意

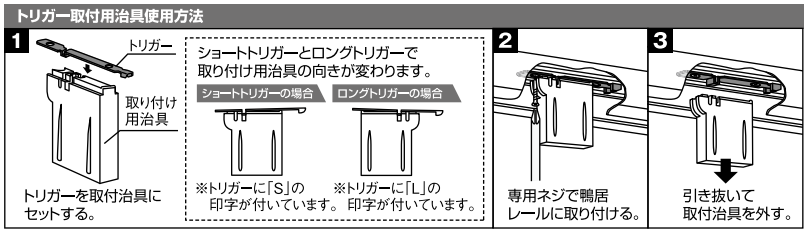
両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりスライダーの種類が異なる場合があります。詳しくはソフトクローズ金具に同梱の詳細をご確認ください。



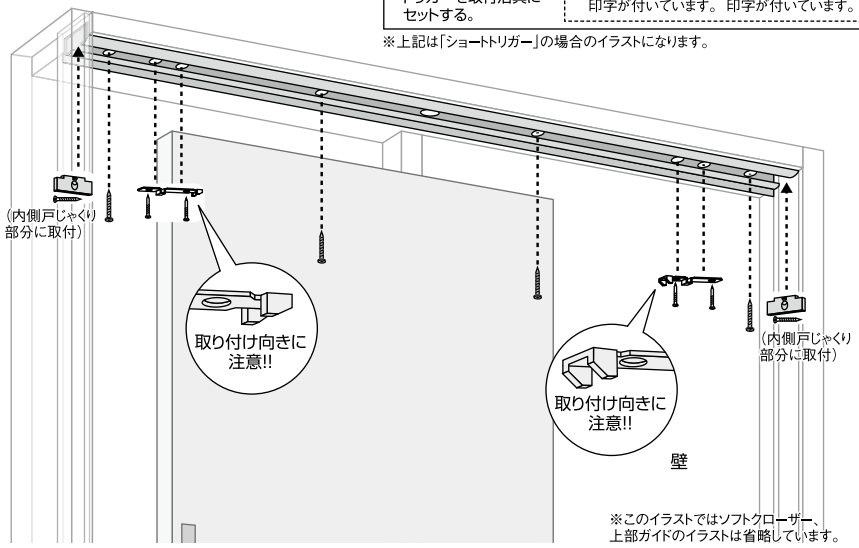
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

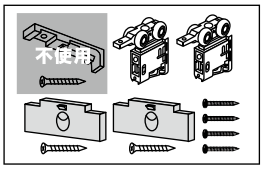


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

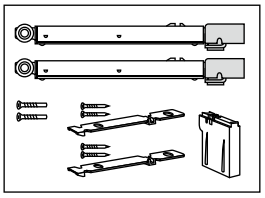


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

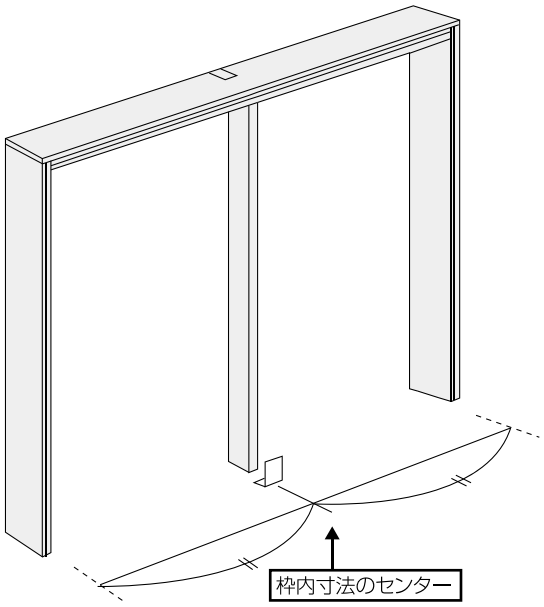
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット

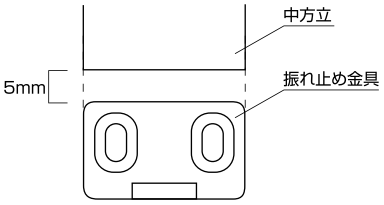


5 振れ止め金具の取り付け



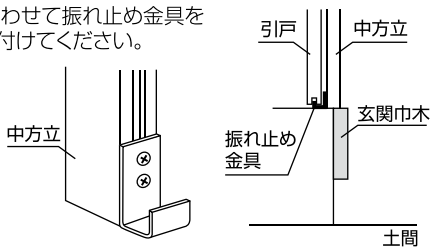
振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに
固定してください。



上吊り中方立取り付け用振れ止め金具（別売品）の場合

中方立の下端に合わせて振れ止め金具を
同梱のビスで取り付けてください。



引き違い戸 専用枠材

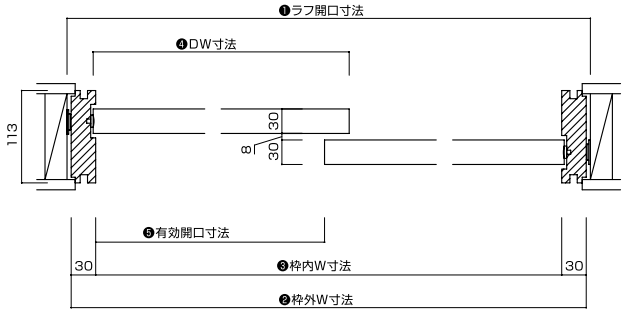
4. 引き違い戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

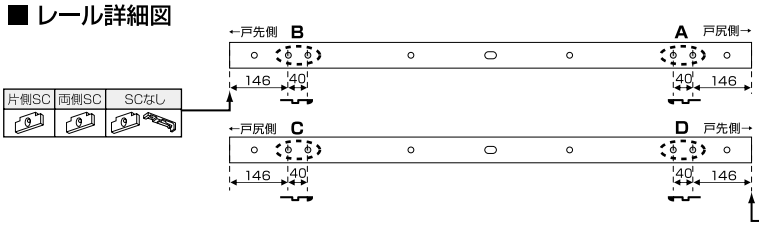
■ 枠製品寸法と納まり図

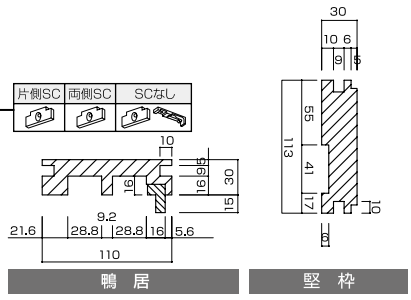


■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654
❷枠外W寸法	1,824	1,644
❸枠内W寸法	1,764	1,584
❹DW寸法	900	810
❺有効開口寸法	867	777

■ レール詳細図





■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

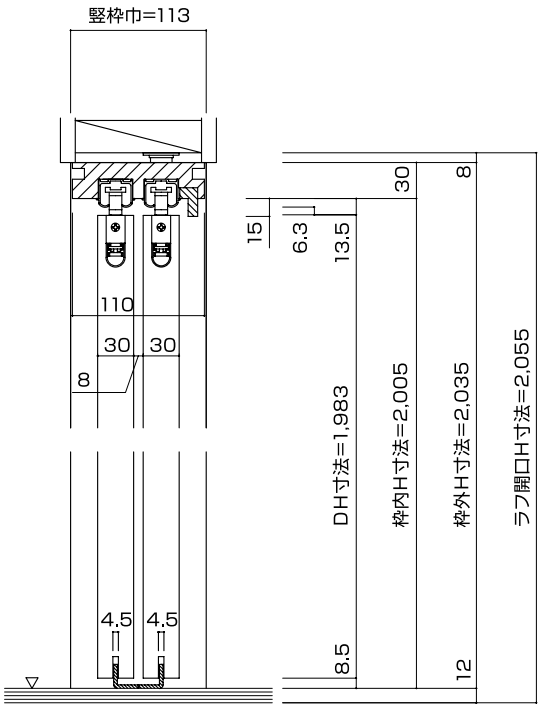
B·C　A·D

トリガーの取り付け向きに注意してください。

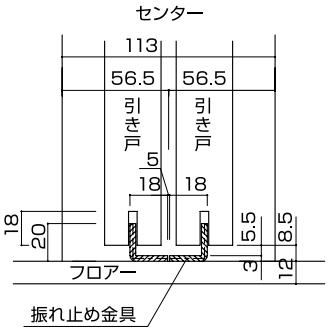
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

（単位：mm）



振れ止め金具取り付け位置



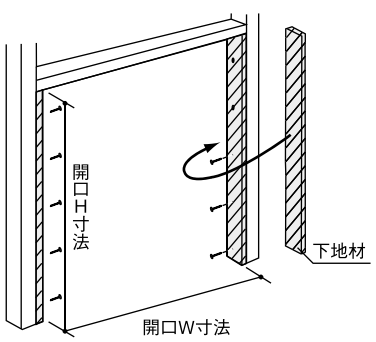
引き違い戸 専用枠材

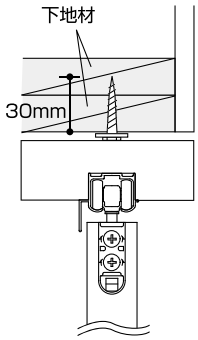
5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





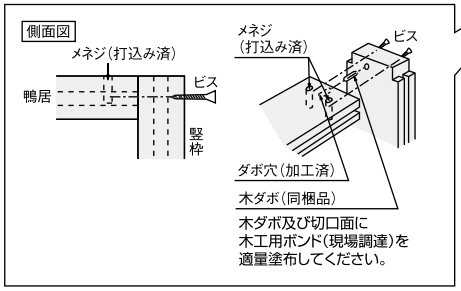
⚠ 注意

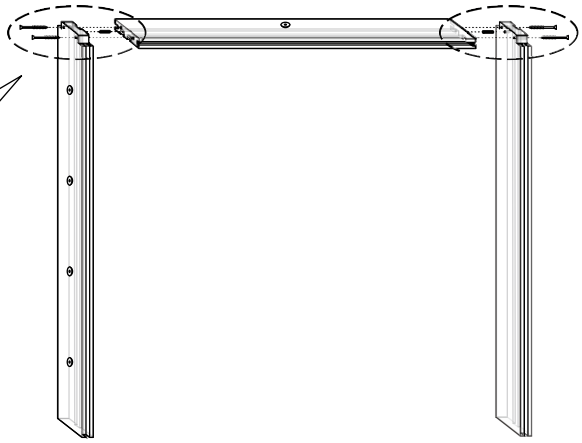
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。





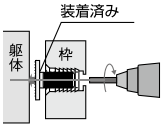
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

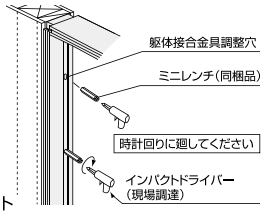
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

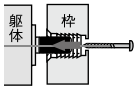


⚠ 注意

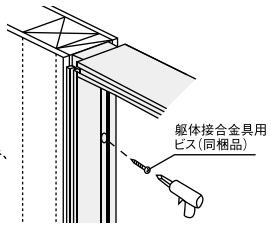
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

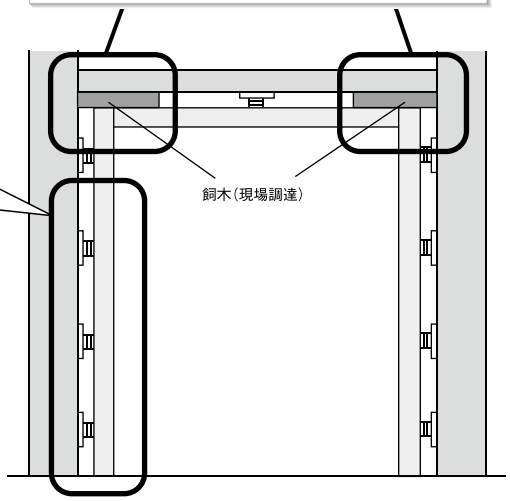


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

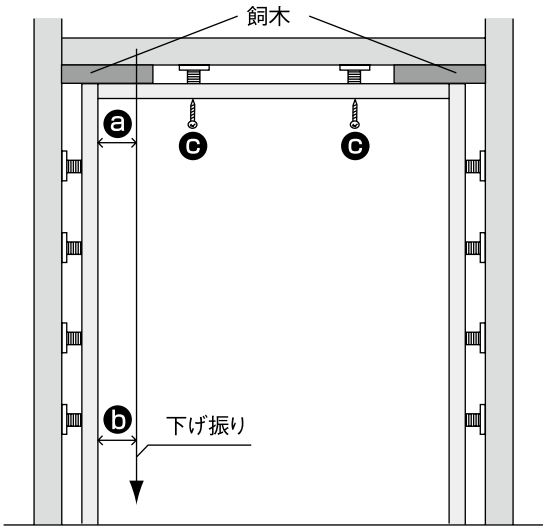
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

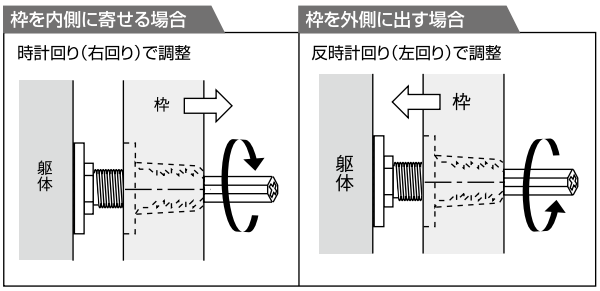


4 建て付け調整と鴨居の本固定

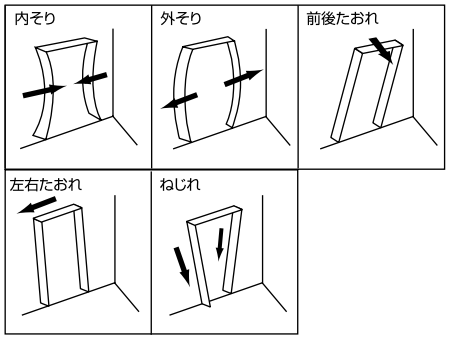
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。



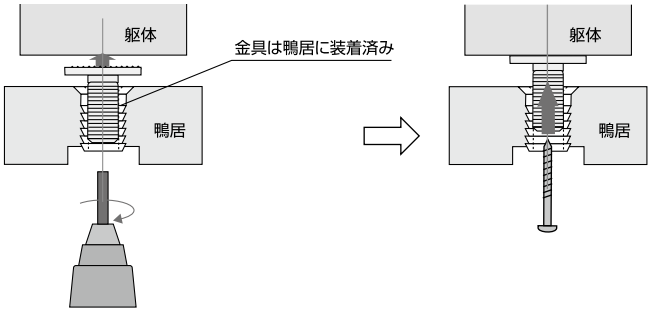


※下記の様なことがないようご注意ください。

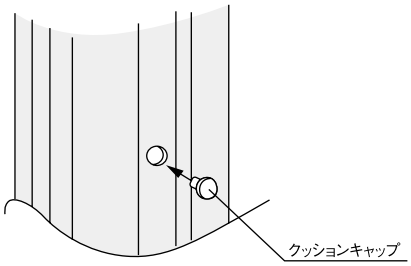


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



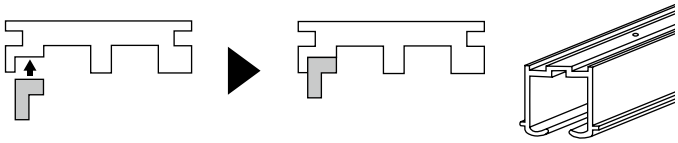
引き違い戸 専用枠材

5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

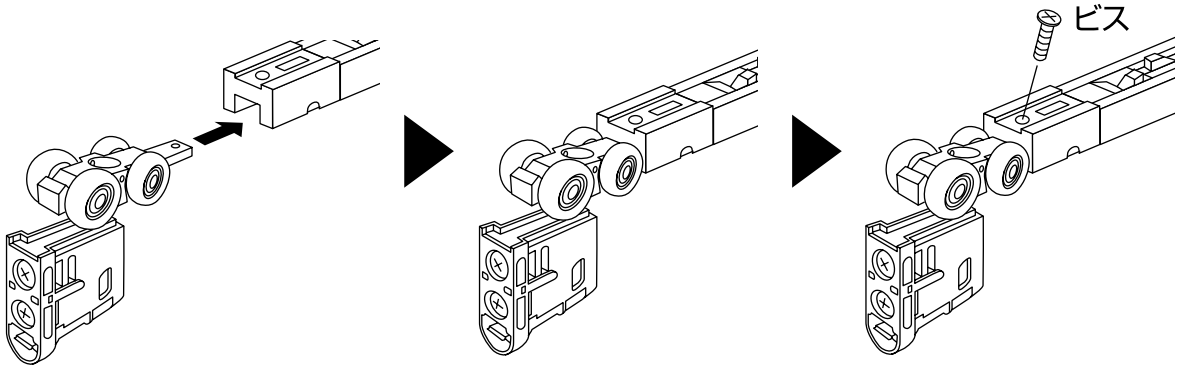
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

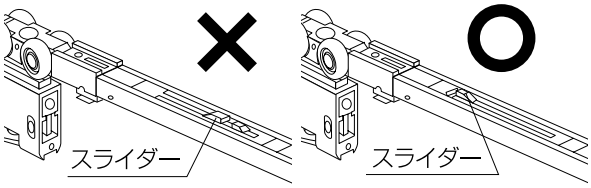


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

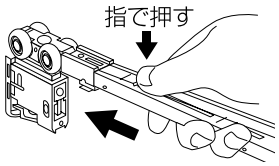
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

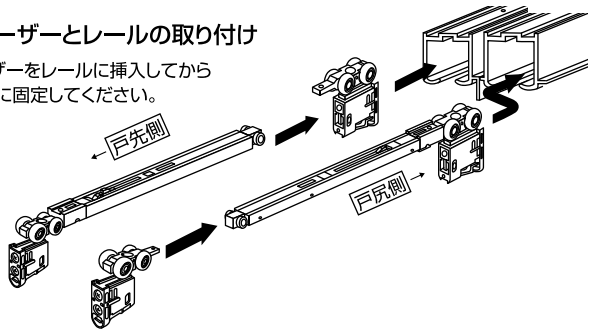
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

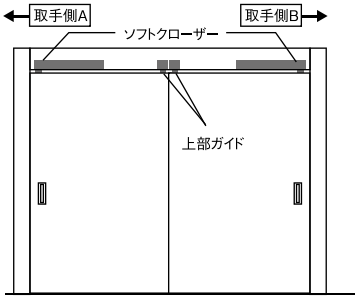


片側ソフトクローズ　仕様　標準

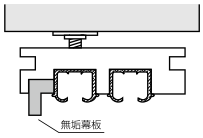
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

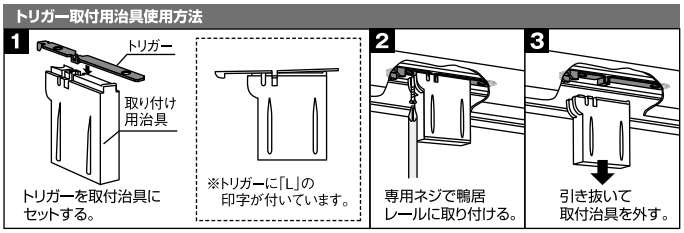


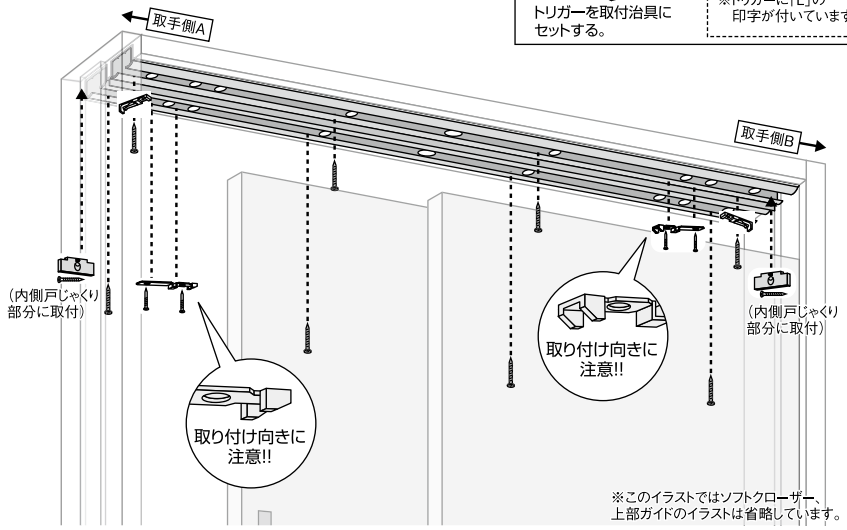


②鴨居レールの取り付け

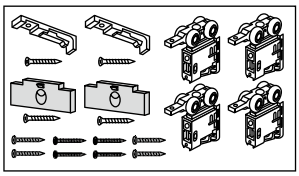


トリガー取付用治具使用方法

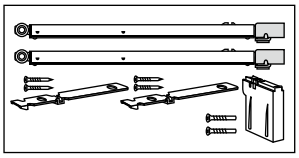




<同梱品>
上吊り片引用金具セット

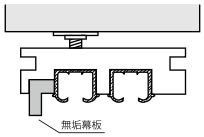


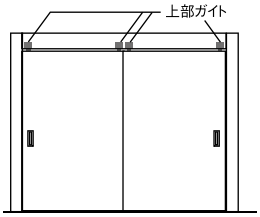
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし　オプション

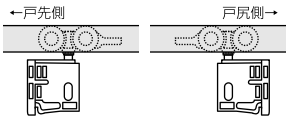
①鴨居レールの取り付け

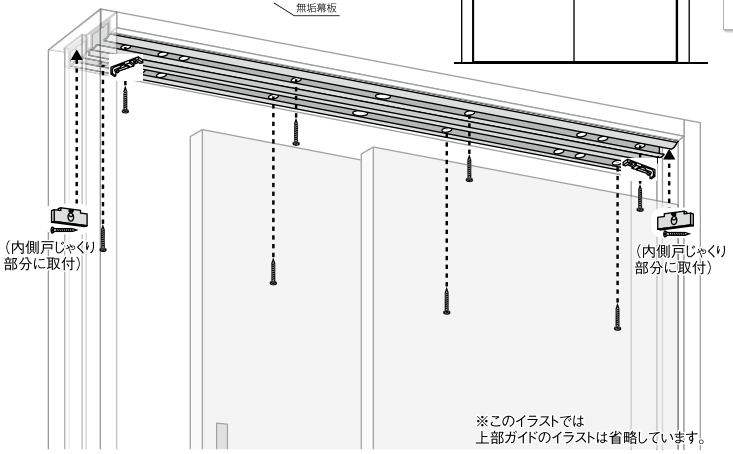


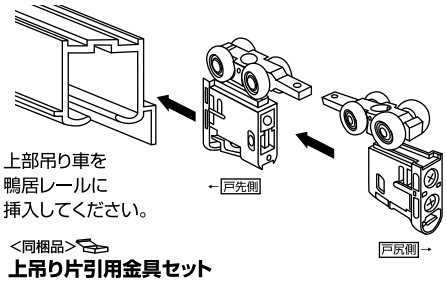


⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

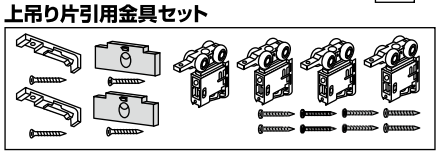






上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

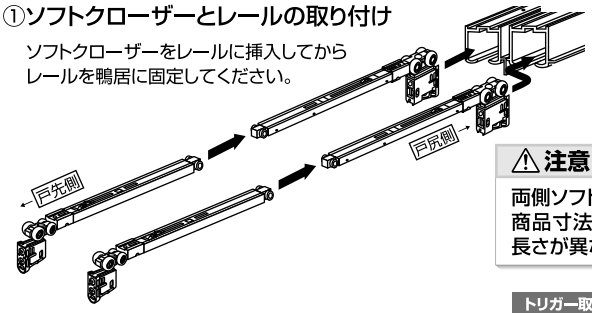


引き違い戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

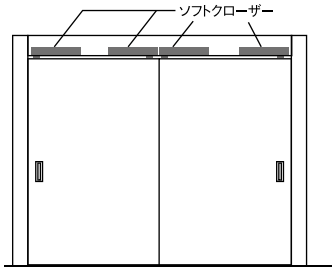
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

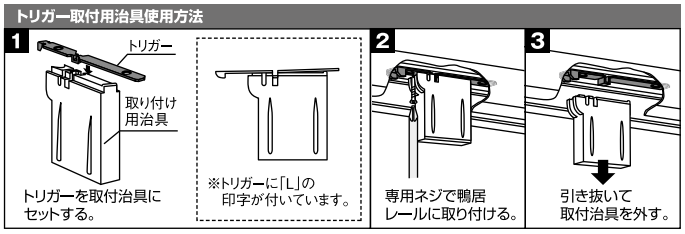


⚠注意

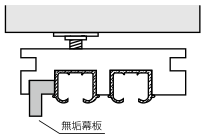
両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

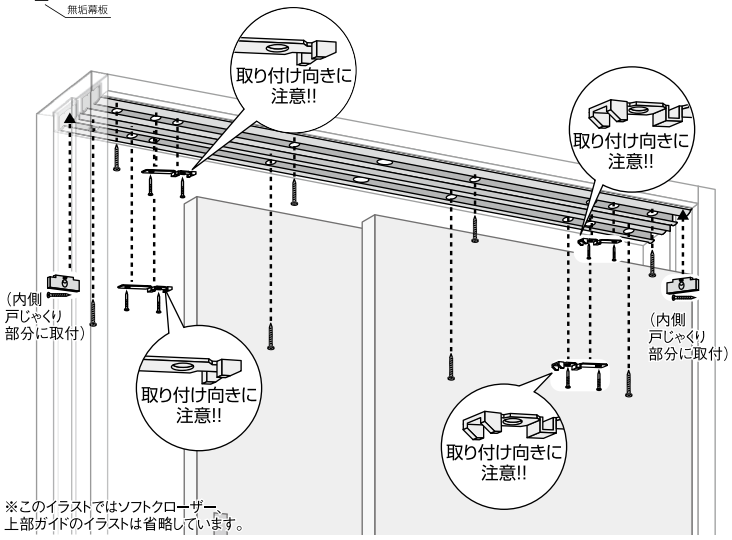


トリガー取付用治具使用方法



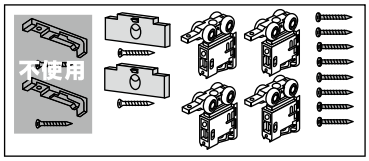
②鴨居レールの取り付け



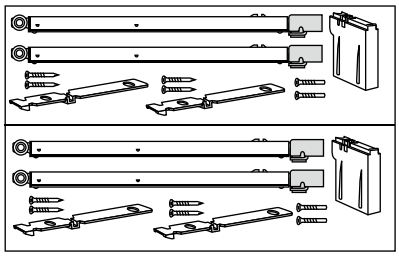


※このイラストではソフトクローザー上部ガイドのイラストは省略しています。

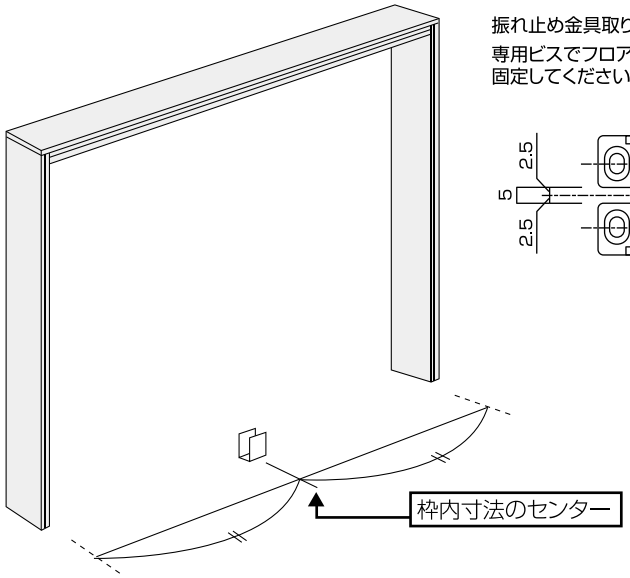
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



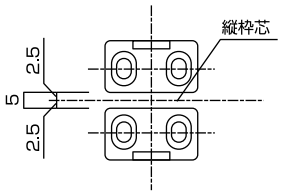
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



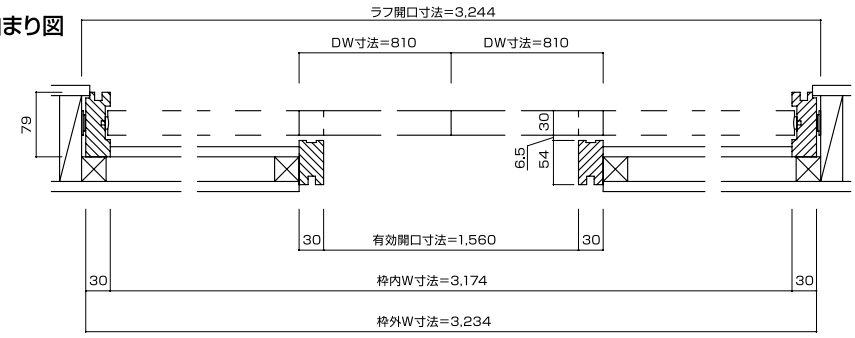
引き分け戸 専用枠材

6. 引き分け戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

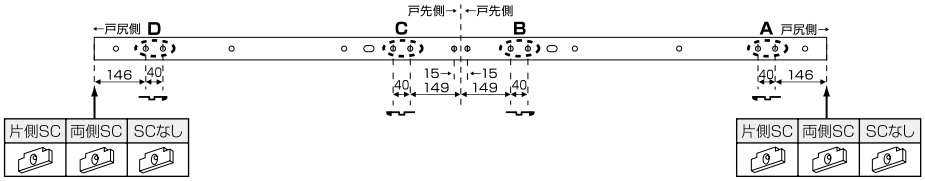
横断面図

■枠製品寸法と納まり図



（単位：mm）

■レール詳細図



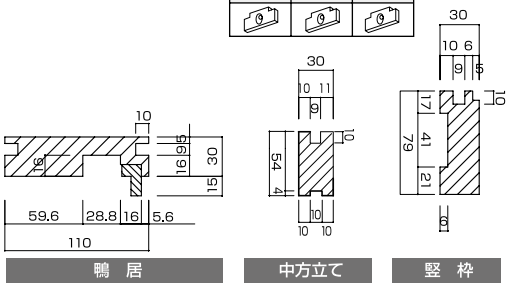
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

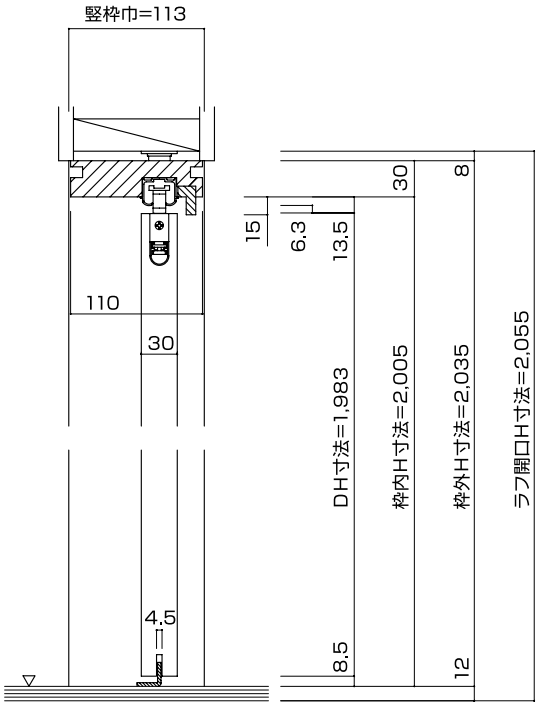
B·D　A·C

トリガーの取り付け向きに注意してください。



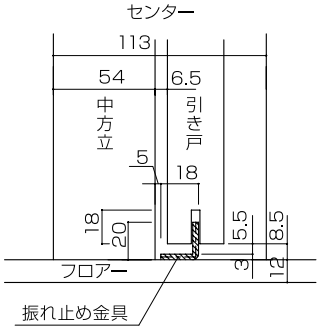
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図



（単位：mm）

振れ止め金具取り付け位置



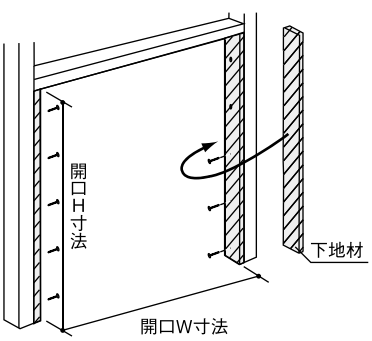
引き分け戸 専用枠材

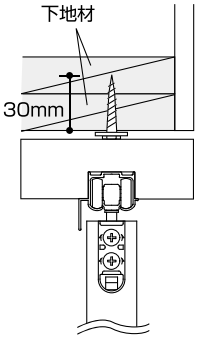
7. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





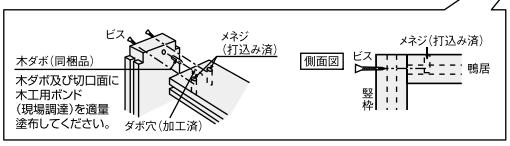
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

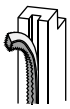
2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

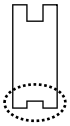
部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。



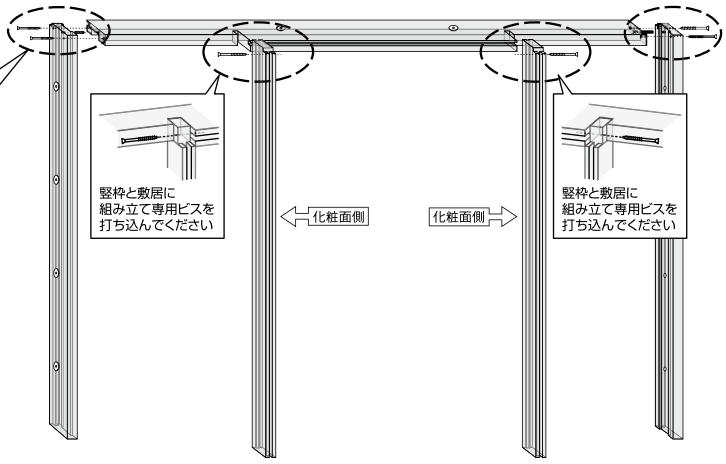
モヘアの取り付け



モヘアの剥離紙を剥がし、モヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。



モヘアは中方立ての溝が浅い方へ取り付けてください。



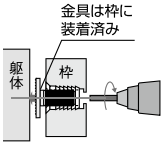
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

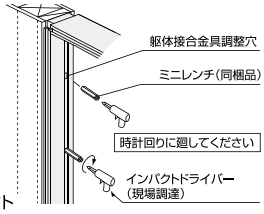
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

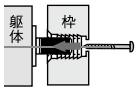


⚠ 注意

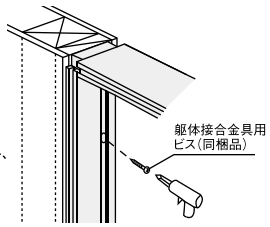
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

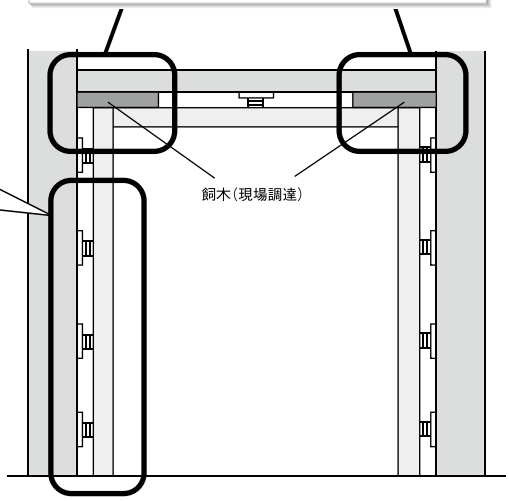


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

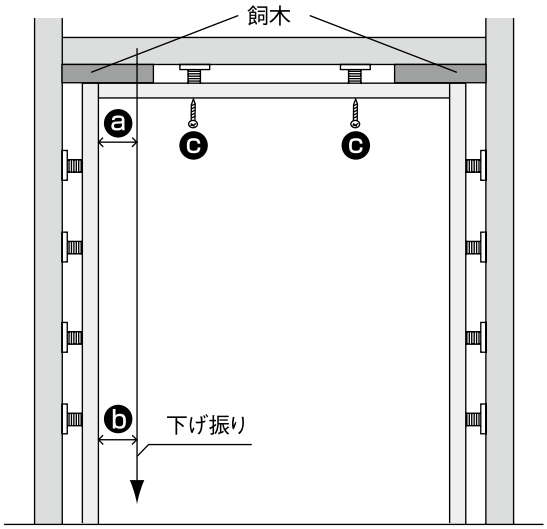
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

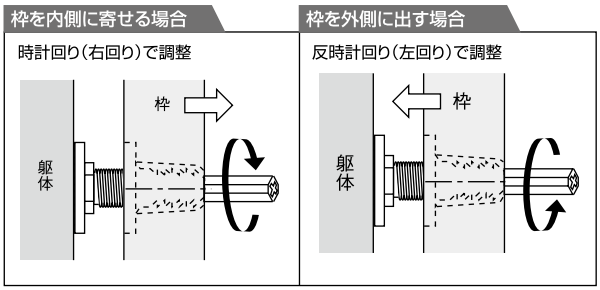


4 建て付け調整と鴨居の本固定

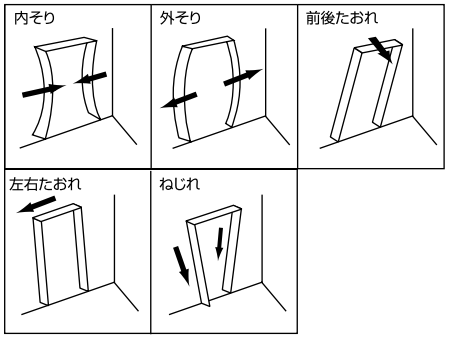
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



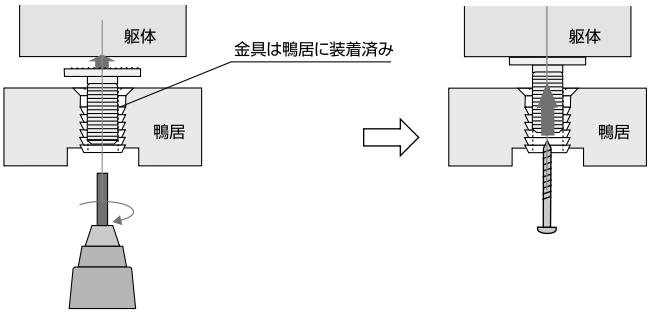


※下記の様なことがないようご注意ください。

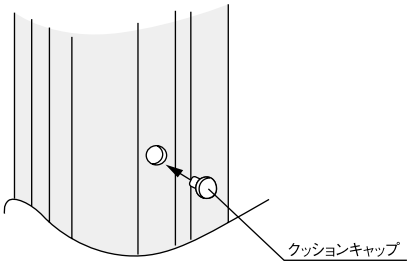


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



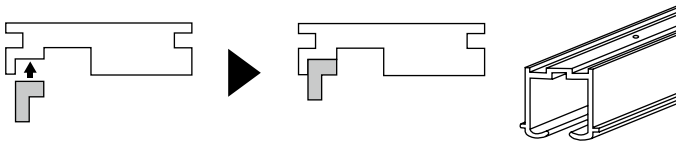
引き分け戸 専用枠材

5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

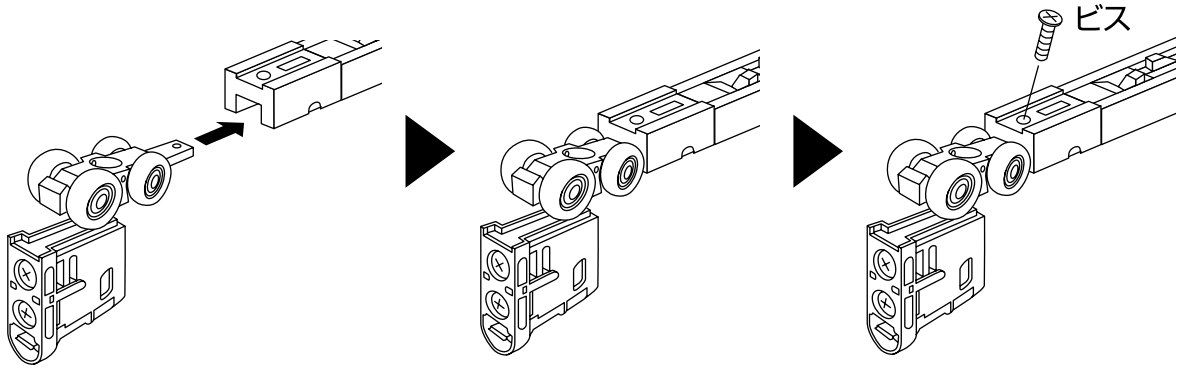
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

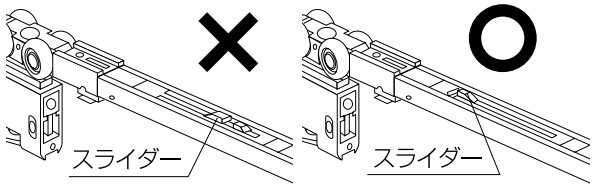


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

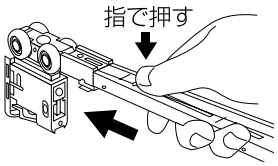
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

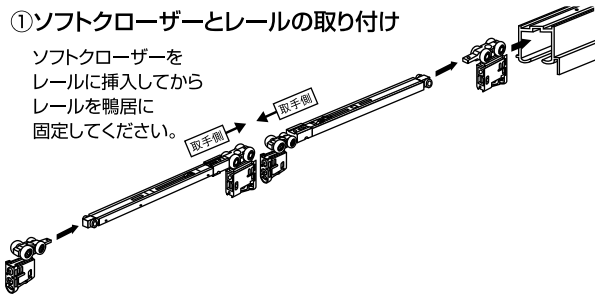
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

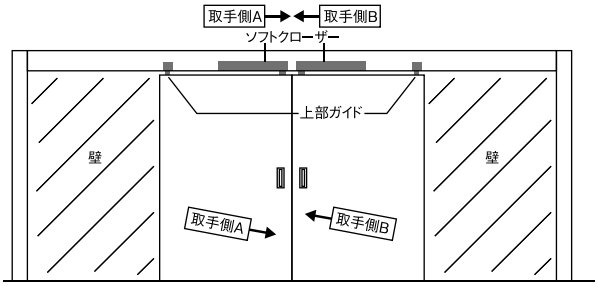


片側ソフトクローズ 仕様 標準

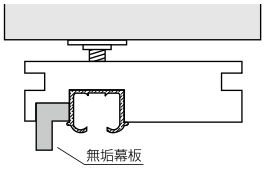
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーを
レールに挿入してから
レールを鴨居に
固定してください。

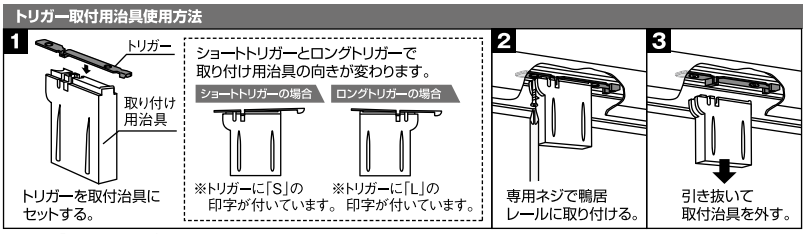




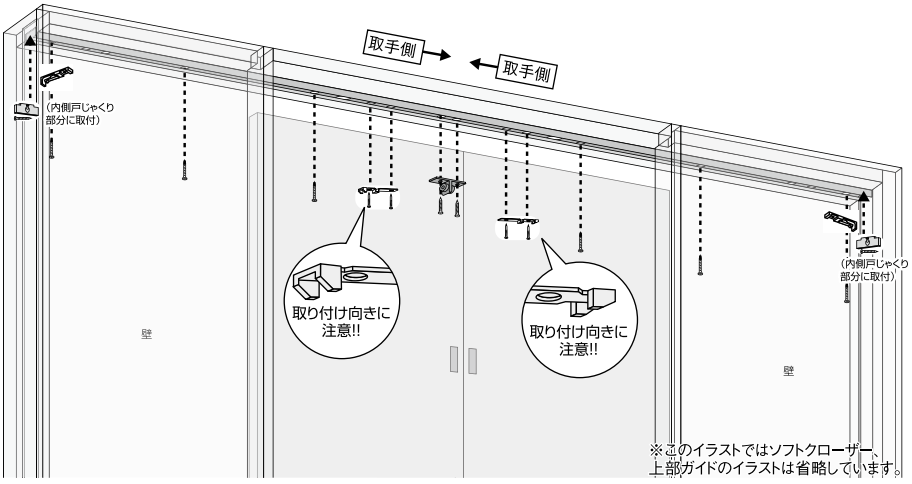
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

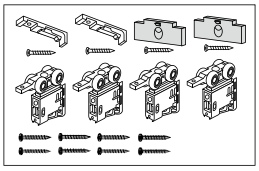


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

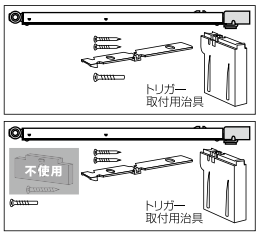


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

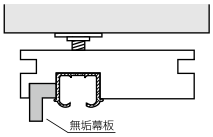


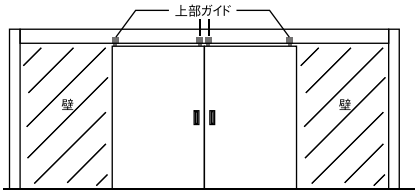
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

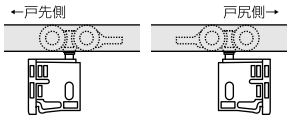
①鴨居レールの取り付け

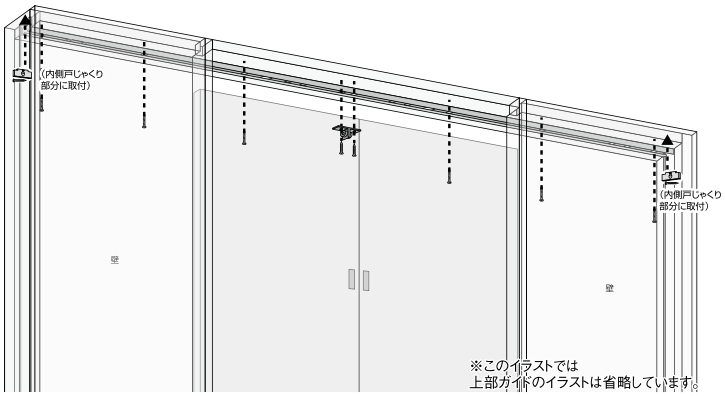




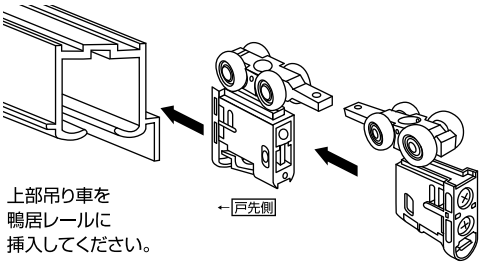
⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



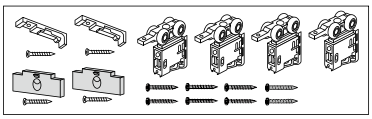


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

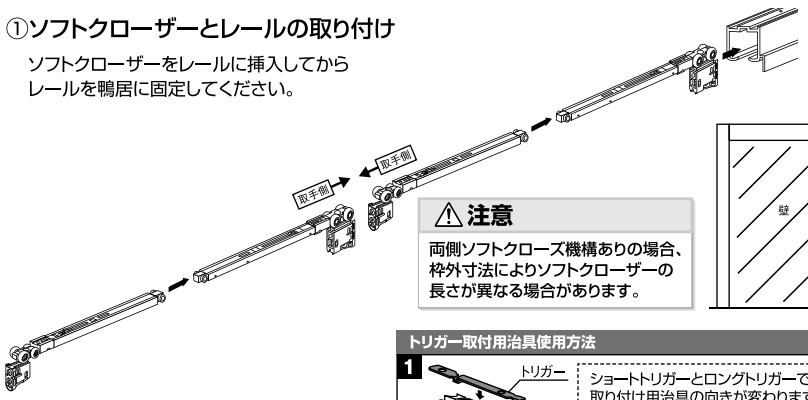


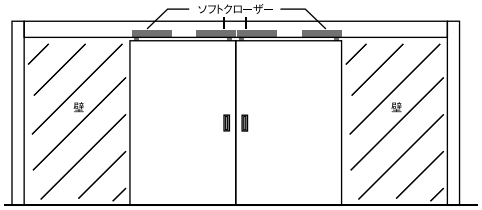
引き分け戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

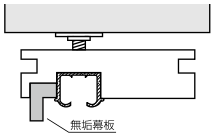




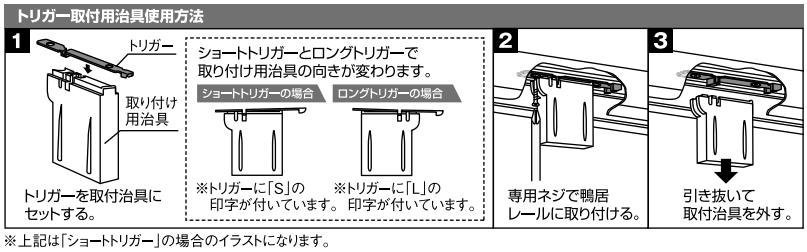
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、
枠外寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

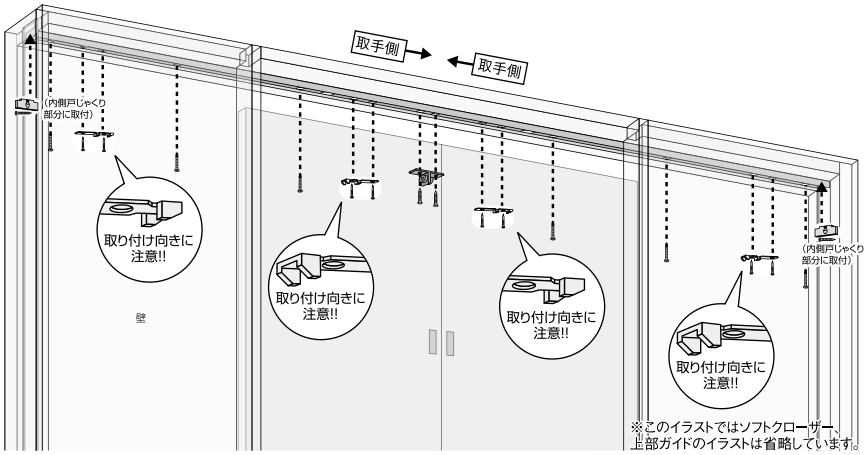
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

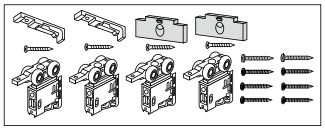


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



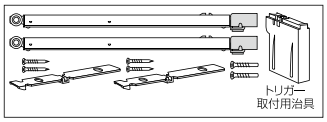
<同梱品>

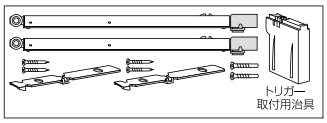
上吊り片引用金具セット



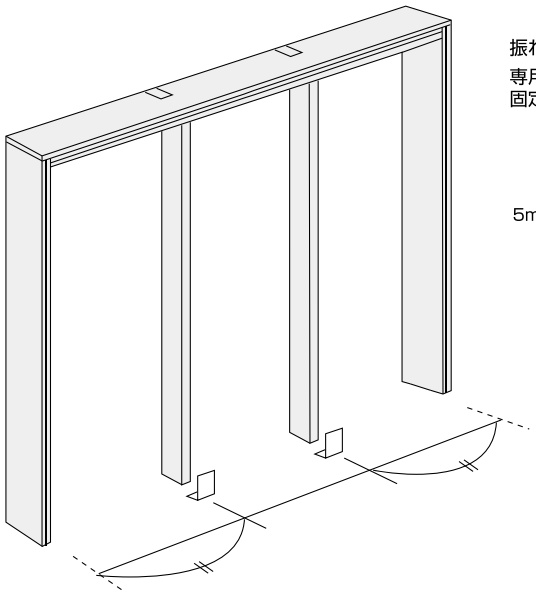
<別梱包>

両側ソフトクローズ金具セット

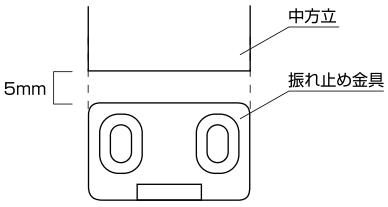




5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



片引き戸・引き違い戸・引き分け戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール（アルミ）	木製幕板
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	1本
入数	引き違い戸	2本	―	―	―	1本	2本	1本
入数	引き分け戸	―	2本	2本	2本	1本	1本	1本
備考（部材品番等）		―	―	―	―	―	―	―

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		吊車	吊車キャッチ	振れ止め金具（床付用）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	上レール取り付けビス（平ビス）
	セット品番						14mm φ3.5mm
入数 片引き戸	ZYTK54	2個	1個	1個	2個	―	4本
入数 引き違い戸	ZYTH54	2個	2個	2個	2個	―	8本
入数 引き分け戸	ZYTL58	2個	―	2個	2個	1個	8本
備考（部材品番等）		ZYTF01	ZYTC01	ZY3334	ZYTC01	ZY3337	―

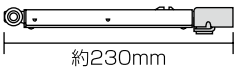
ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		木ダボ	組み立てビス	下枠固定ビス	躯体接合金具ビス	六角レンチ	クッションキャップ
	袋の色	赤	赤	赤	黄	黄	透明
	セット品番	6mm 35mm	62mm φ3.8mm	25mm φ3.5mm	47mm φ3.8mm	7mm L50mm	φ16
入数 片引き戸	ZYQB74-□	2本	6本	5本	10本	1本	8個
入数 引き違い戸	ZYQB75-□	2本	4本	9本	11本	1本	8個
入数 引き分け戸	ZYQB76-□	2本	8本	9本	12本	1本	8個
備考（部材品番等）		―	―	使用しません	―	―	―

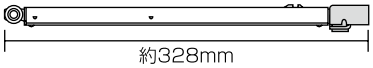
上吊り引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱包・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名				ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
セット品番	片引き戸	引き違い戸	引き分け戸						
入数 ZH23SC-T	片側SC付 枠外1190	―	―	1	―	1	―	1	1
入数 ZH23LC-T	片側SC付 枠外1824・1644・1450	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×2セット）	―	1	―	1	1	1
入数 ZH23SR-T	両側SC付 枠外1190	―	―	2	―	2	―	2	1
入数 ZH23MR-T	両側SC付 枠外1450	―	―	1	1	1	1	2	1
入数 ZH23LR-T	両側SC付 枠外1824・1644	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×2セット）	―	2	―	2	2	1

Ⓐ ショートストロークソフトクローザー

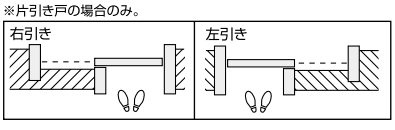


Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認　片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



片引き戸 専用枠材

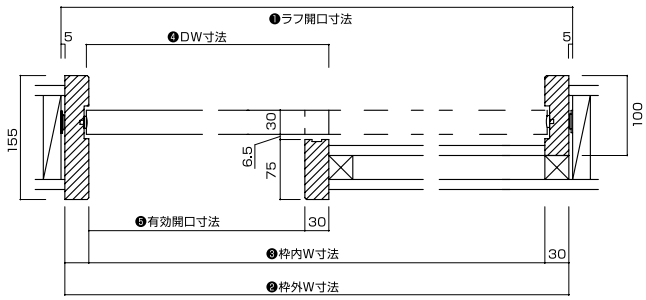
2. 片引き戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

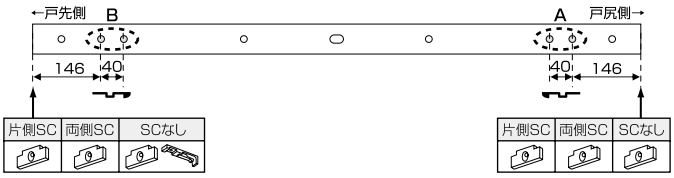
■枠製品寸法と納まり図



■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,190
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654	1,460	1,200
❷枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,190
❸枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,130
❹DW寸法	900	810	713	583
❺有効開口寸法	867	777	680	550

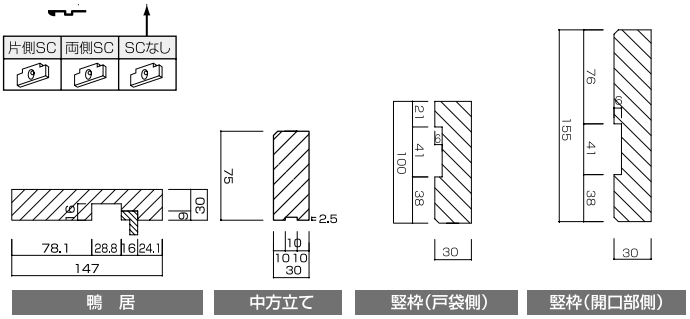
■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B
両側ソフトクローズ仕様	A・B

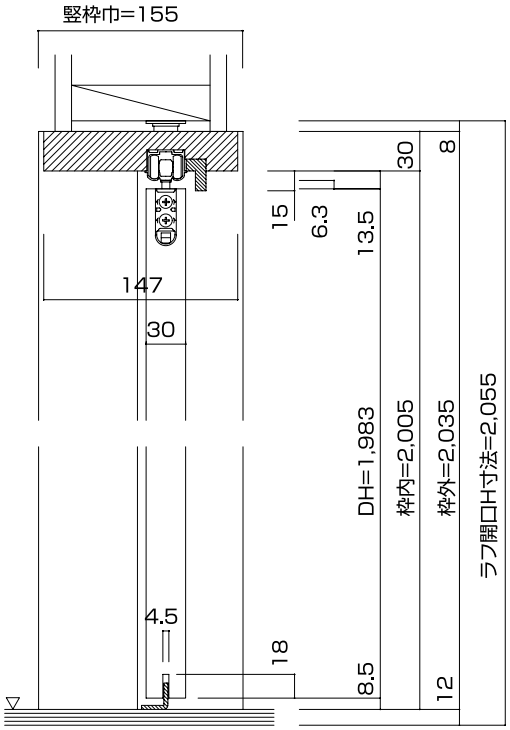
POINT
B　A　トリガーの取り付け向きに注意してください。



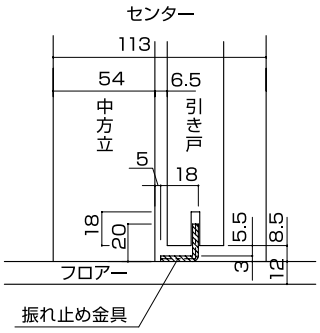
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

（単位：mm）



振れ止め金具取り付け位置

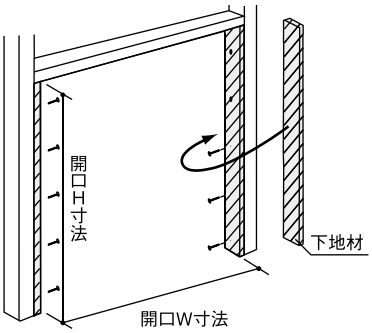


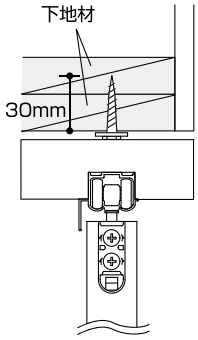
3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





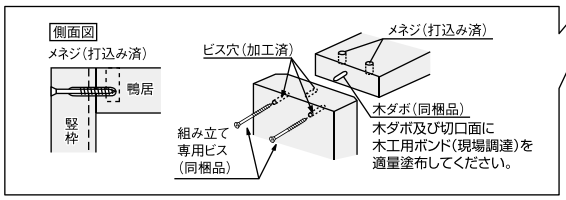
⚠ 注意

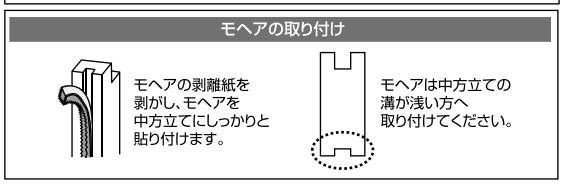
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

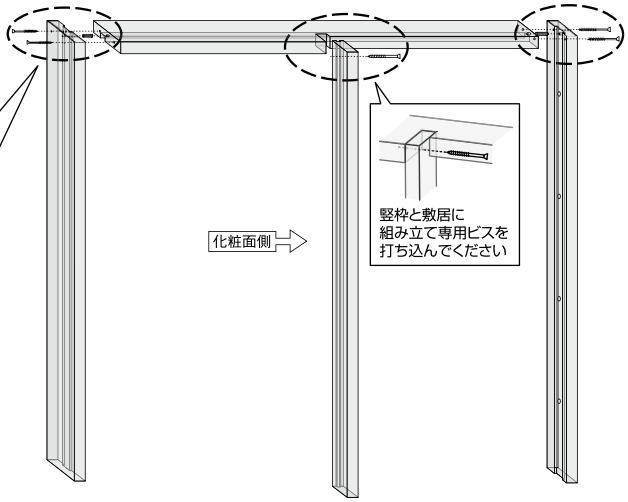
2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス･ダボなどを使用してください。







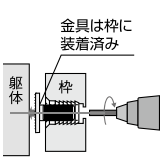
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

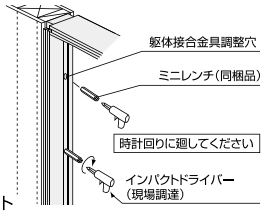
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

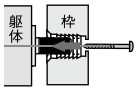


⚠ 注意

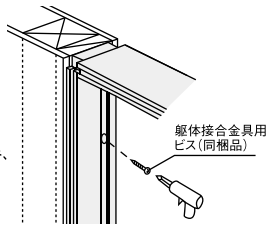
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

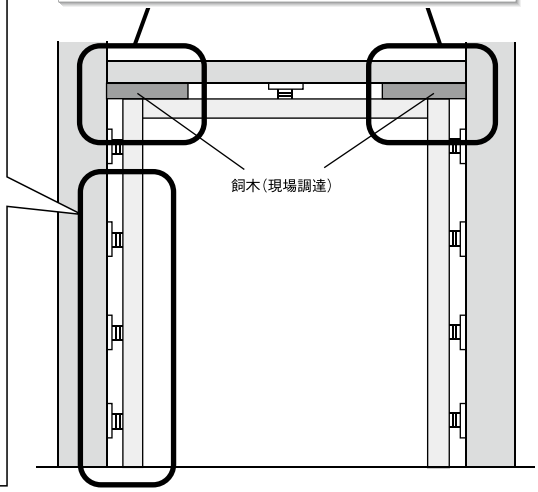


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

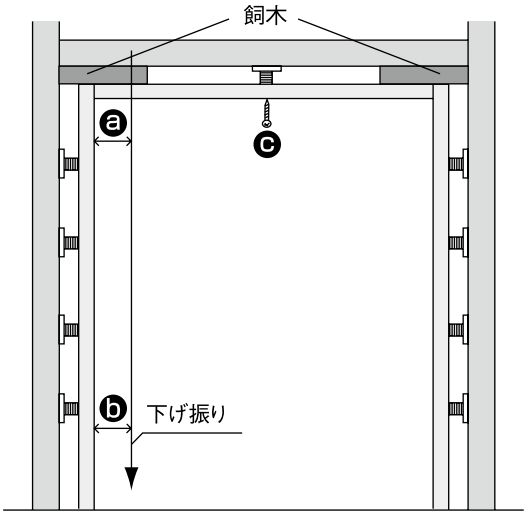


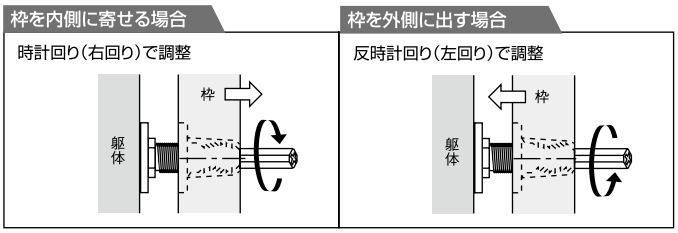
片引き戸 専用枠材

4 建て付け調整と鴨居の本固定

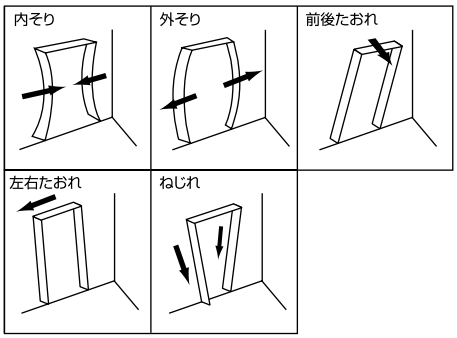
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、
竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



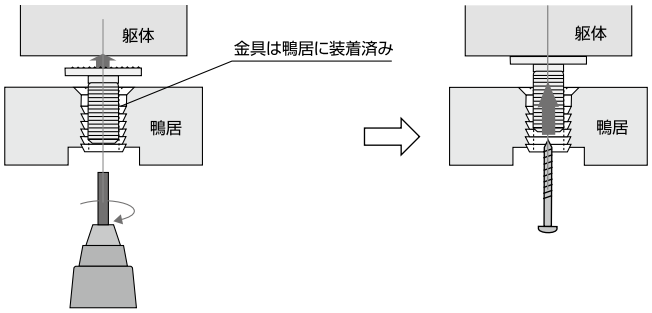


※下記の様なことがないようご注意ください。

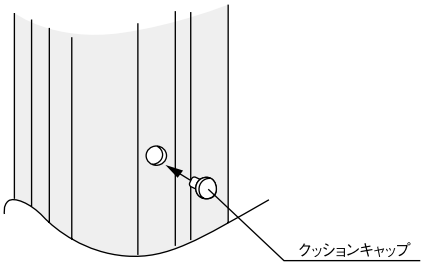


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。

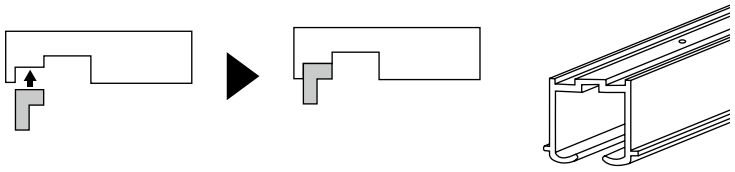


5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

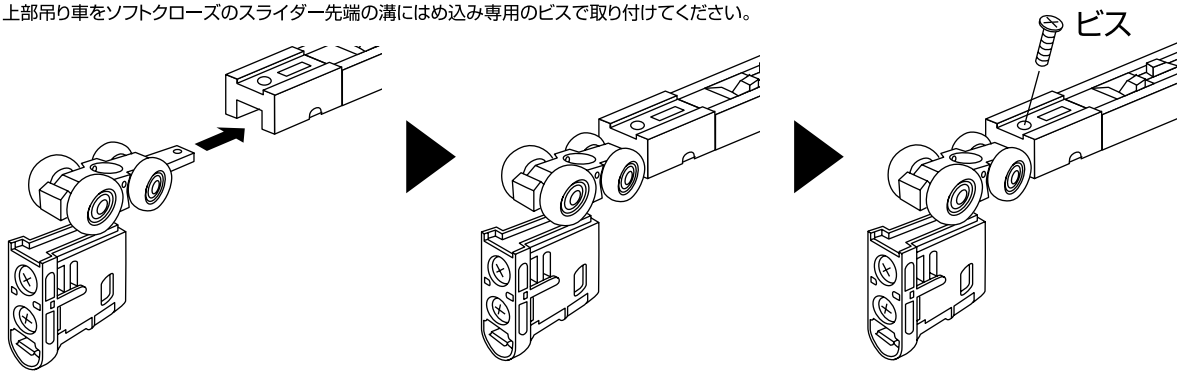
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。
別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

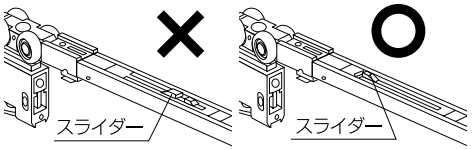


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

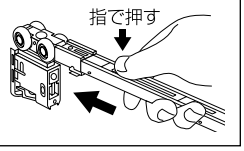
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

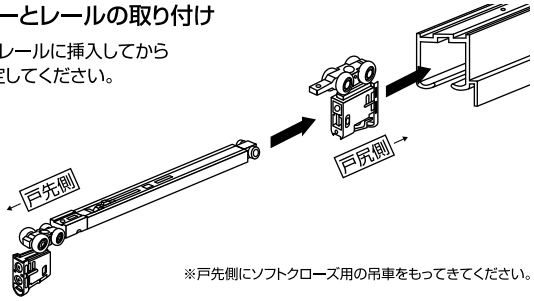


片引き戸 専用枠材

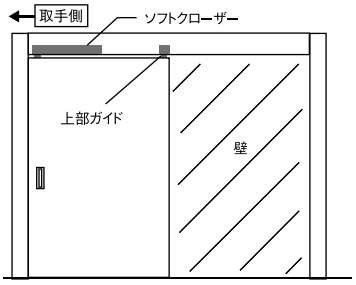
片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

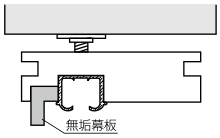
ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



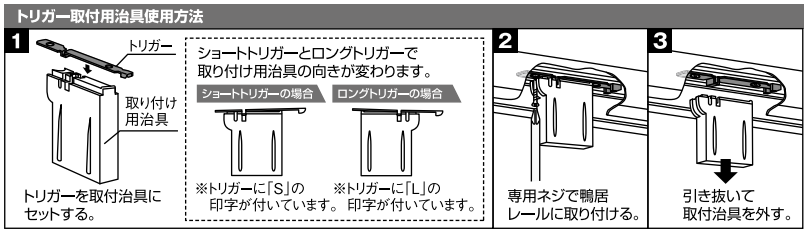
※戸先側にソフトクローズ用の吊車をもってきてください。



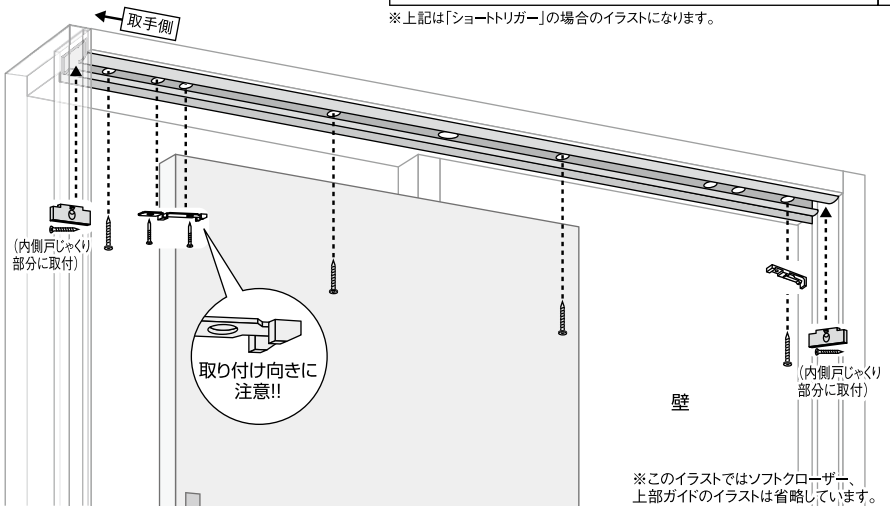
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

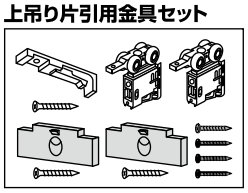


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

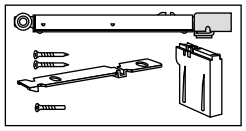


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

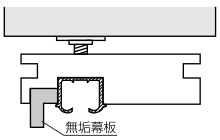


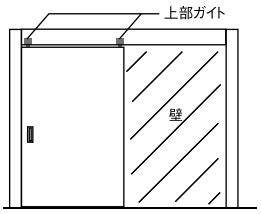
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

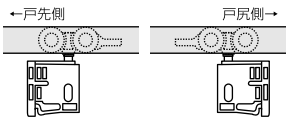
①鴨居レールの取り付け

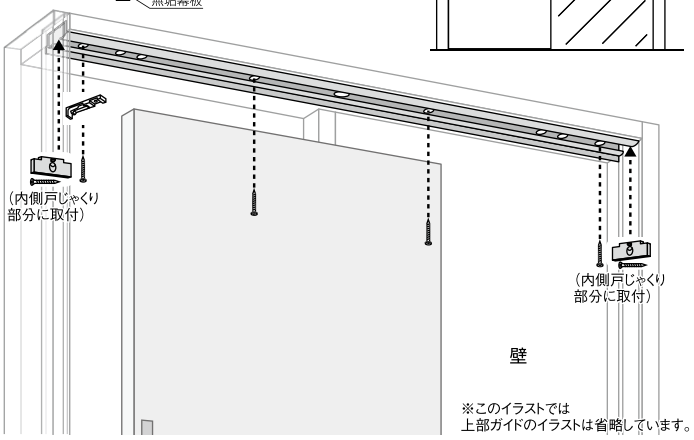




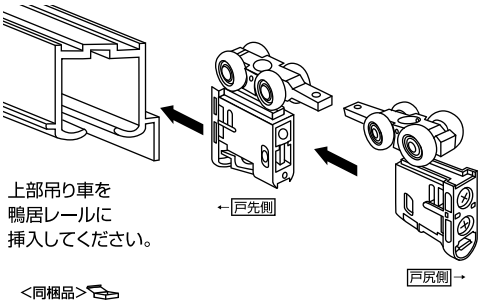
⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



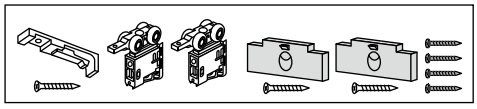


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を鴨居レールに挿入してください。

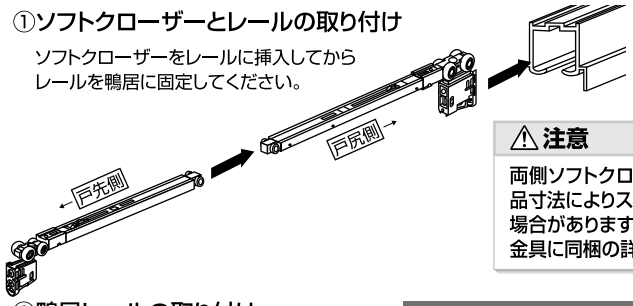
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

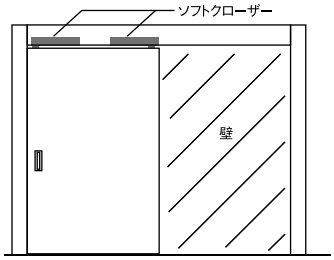
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

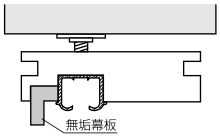


⚠注意

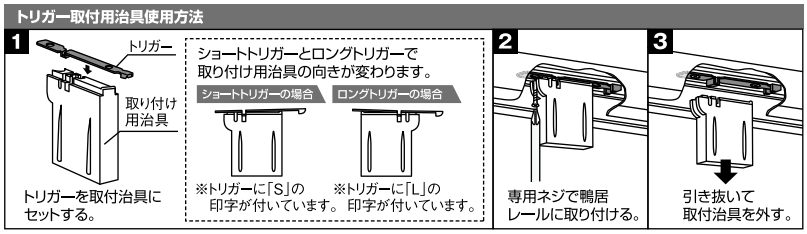
両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりスライダーの種類が異なる場合があります。詳しくはソフトクローズ金具に同梱の詳細をご確認ください。



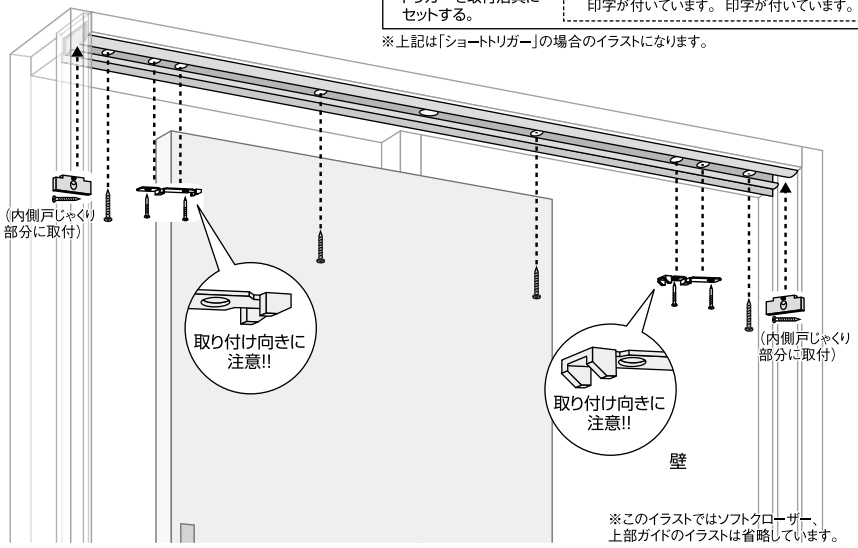
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

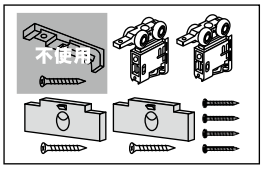


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

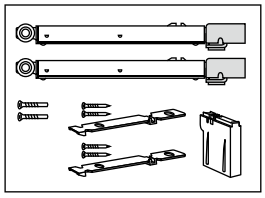


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

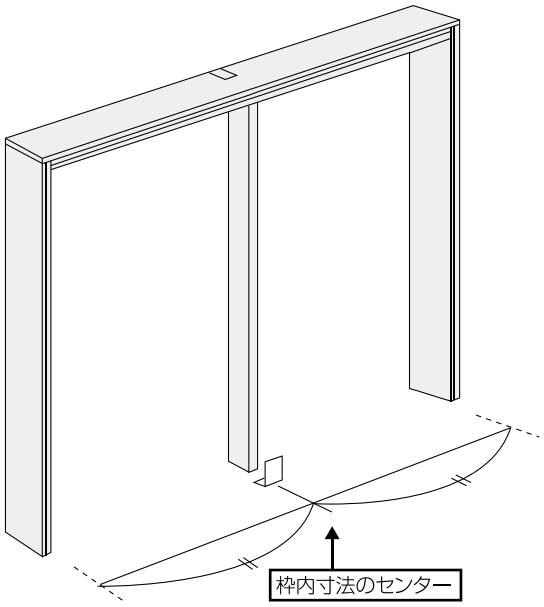
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット

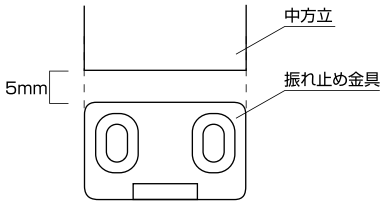


6 振れ止め金具の取り付け



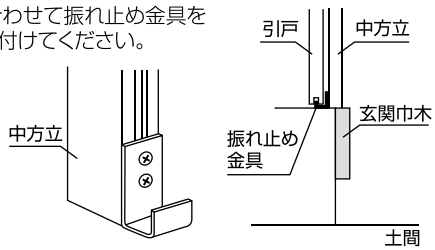
振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに
固定してください。



上吊り中方立取り付け用振れ止め金具（別売品）の場合

中方立の下端に合わせて振れ止め金具を
同梱のビスで取り付けてください。



引き違い戸 専用枠材

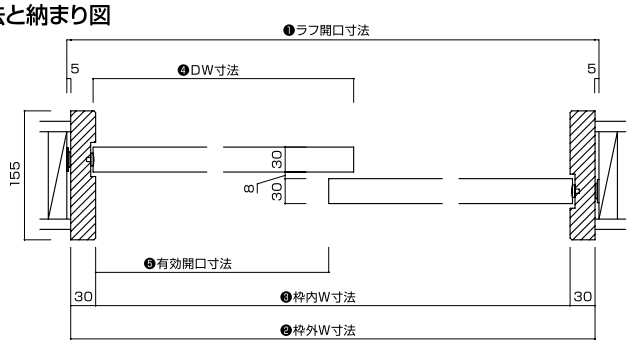
4. 引き違い戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

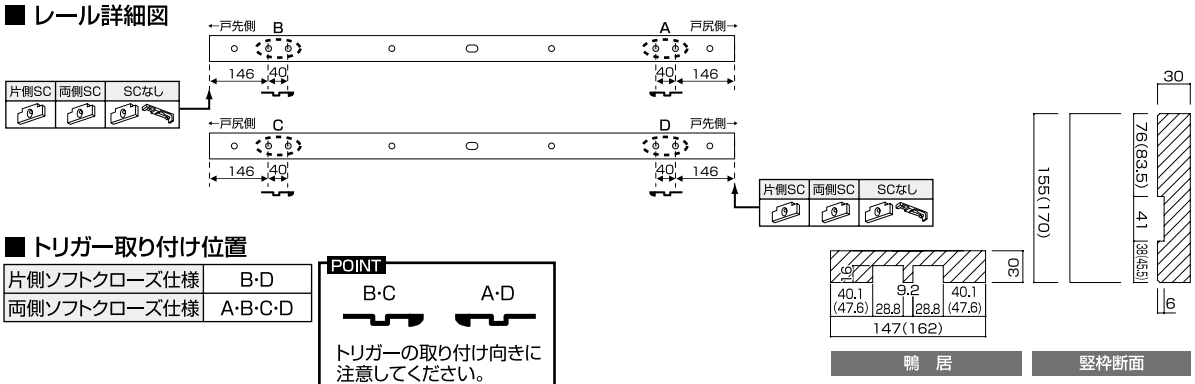
■ 枠製品寸法と納まり図



■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654
❷枠外W寸法	1,824	1,644
❸枠内W寸法	1,764	1,584
❹DW寸法	900	810
❺有効開口寸法	864	774

■ レール詳細図



■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·C　A·D

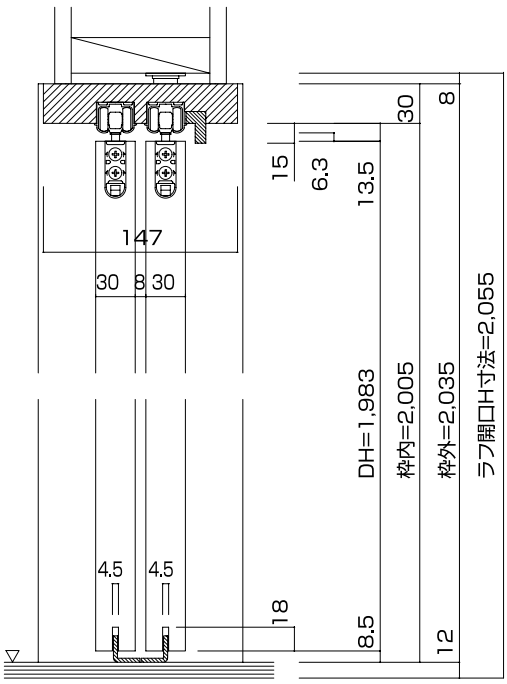
トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

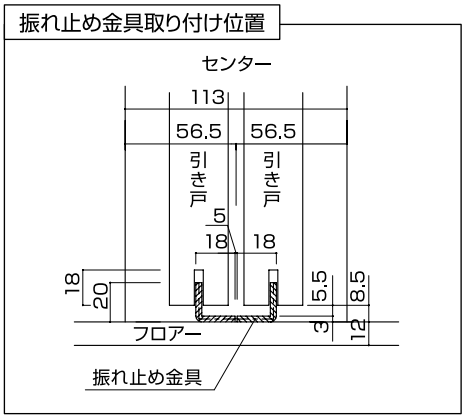
※（　）内は 170 巾の寸法です。

縦断面図

（単位：mm）



振れ止め金具取り付け位置

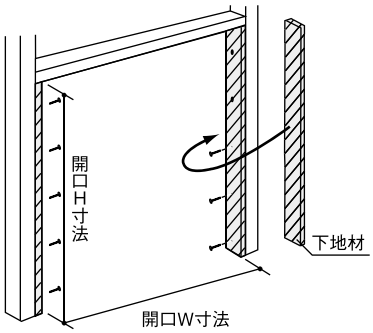


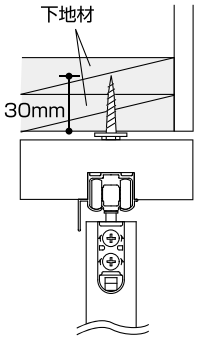
5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





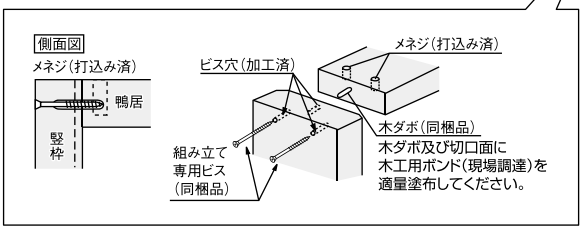
⚠ 注意

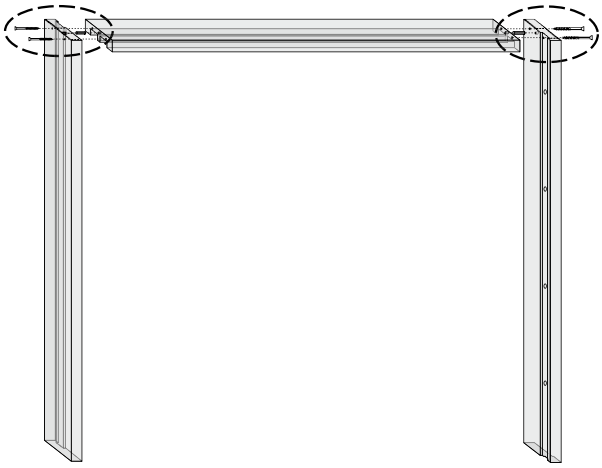
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。





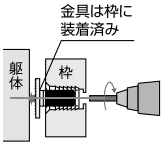
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

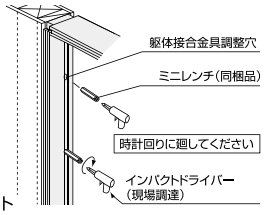
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

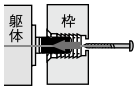


⚠ 注意

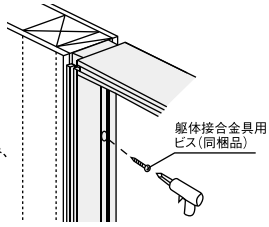
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

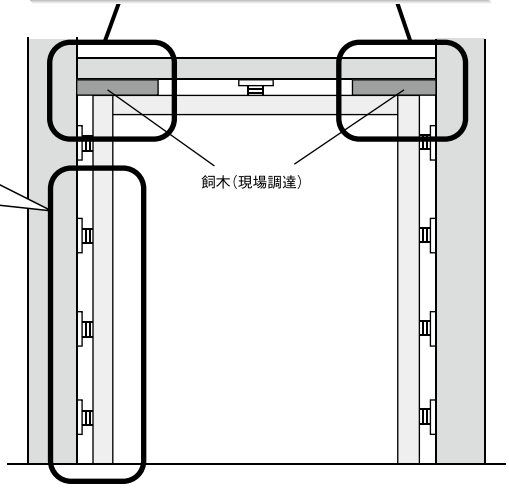


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

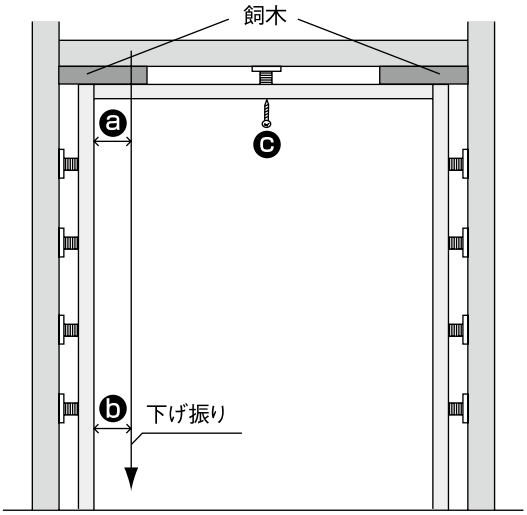


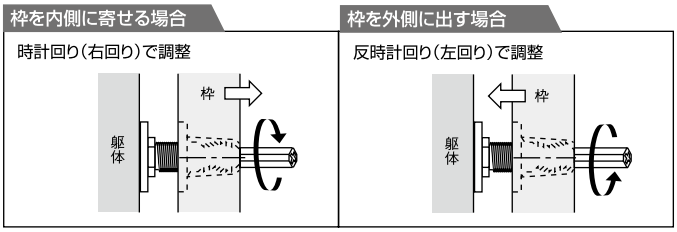
引き違い戸 専用枠材

4 建て付け調整と鴨居の本固定

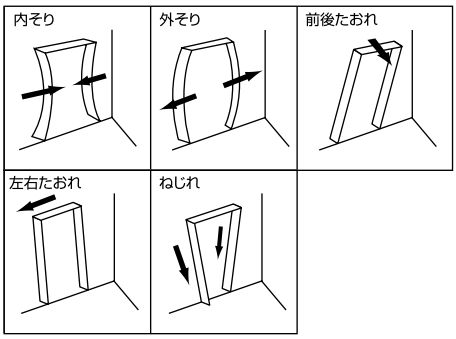
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、
竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



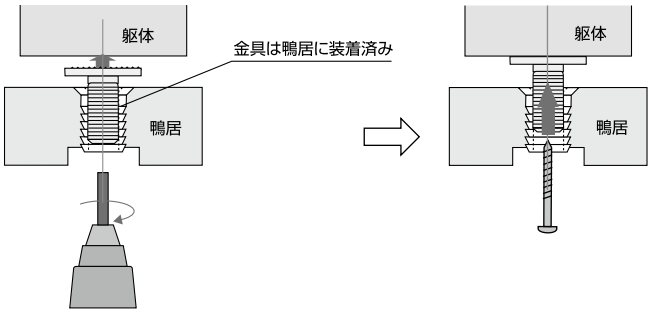


※下記の様なことがないようご注意ください。

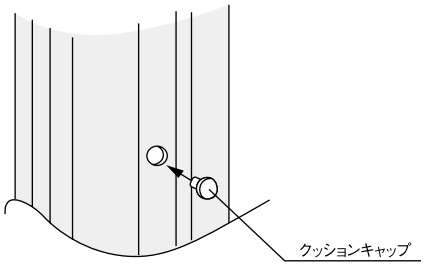


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。

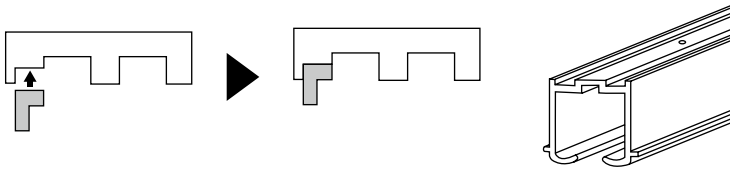


5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

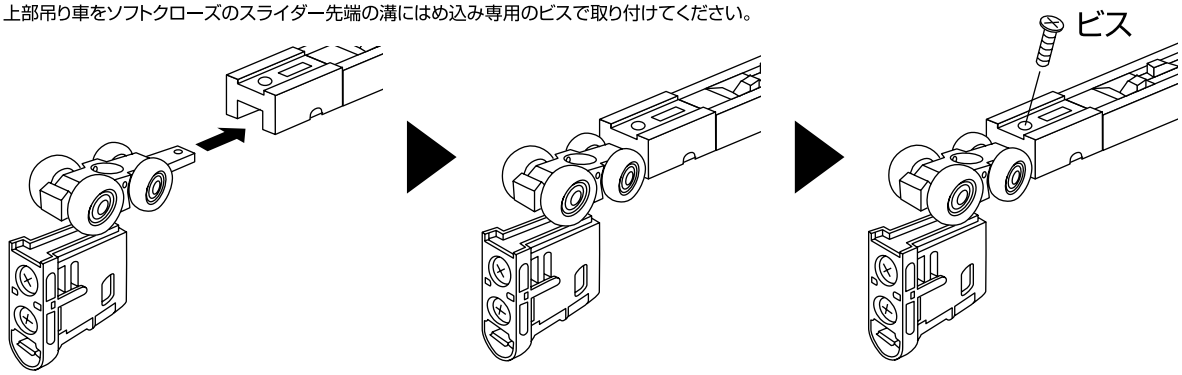
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。
別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

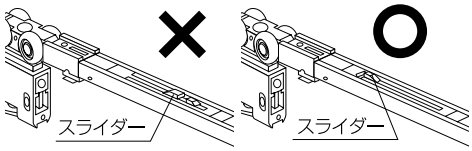


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

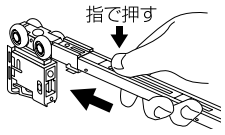
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

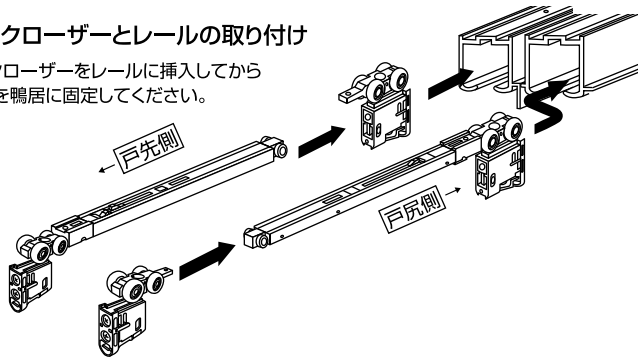


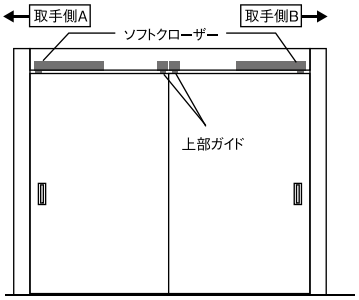
引き違い戸 専用枠材

片側ソフトクローズ 仕様 標準

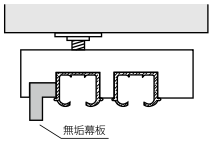
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

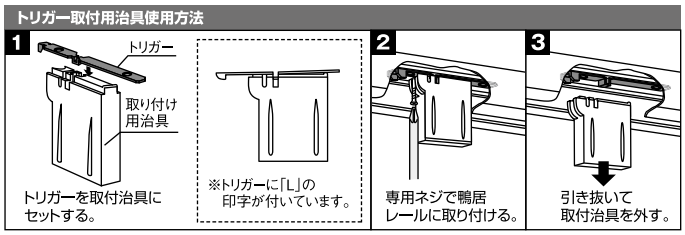


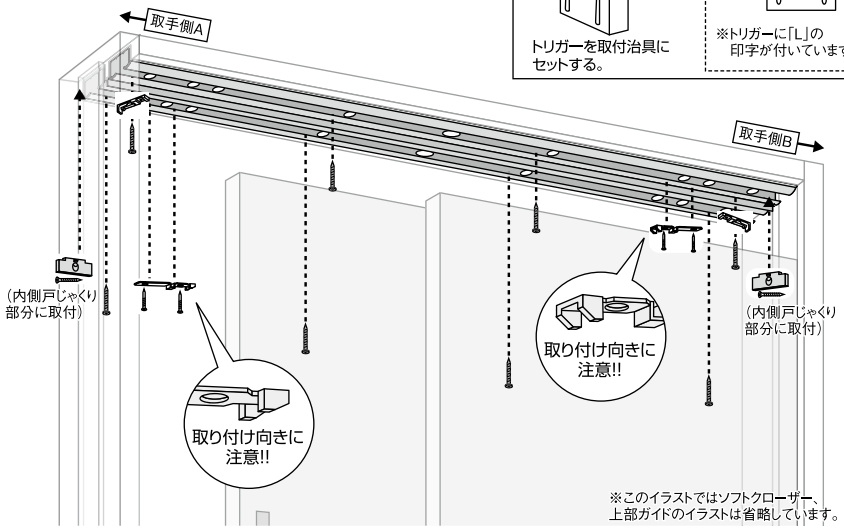


②鴨居レールの取り付け

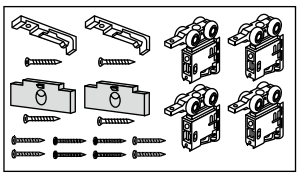


トリガー取付用治具使用方法

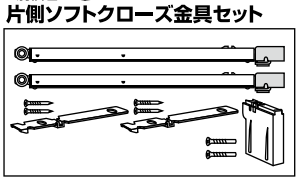




<同梱品>
上吊り片引用金具セット

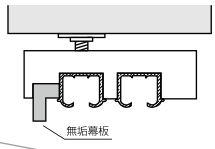


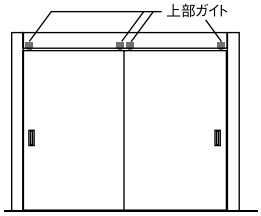
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット



ソフトクローズなし オプション

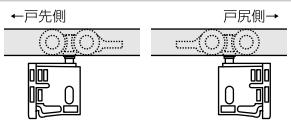
①鴨居レールの取り付け

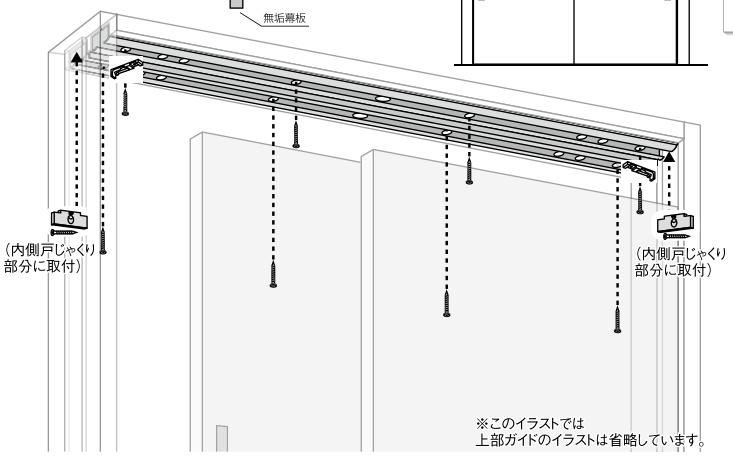


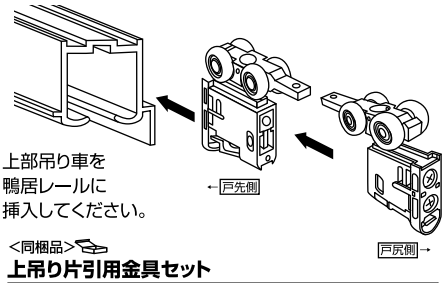


⚠ 注意

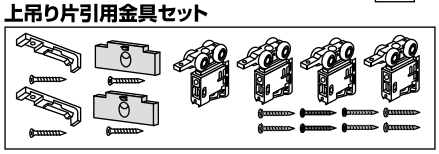
レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。







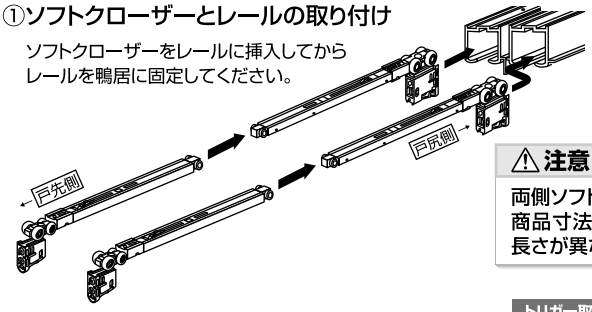
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

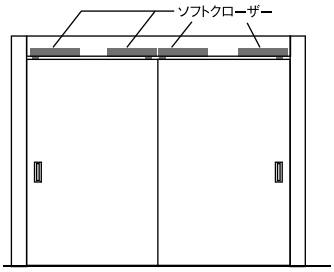
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

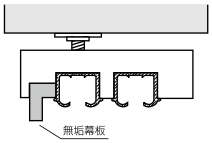


⚠注意

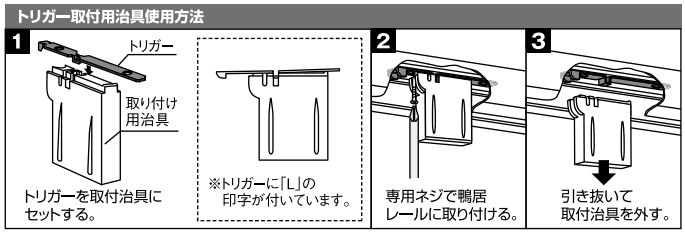
両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

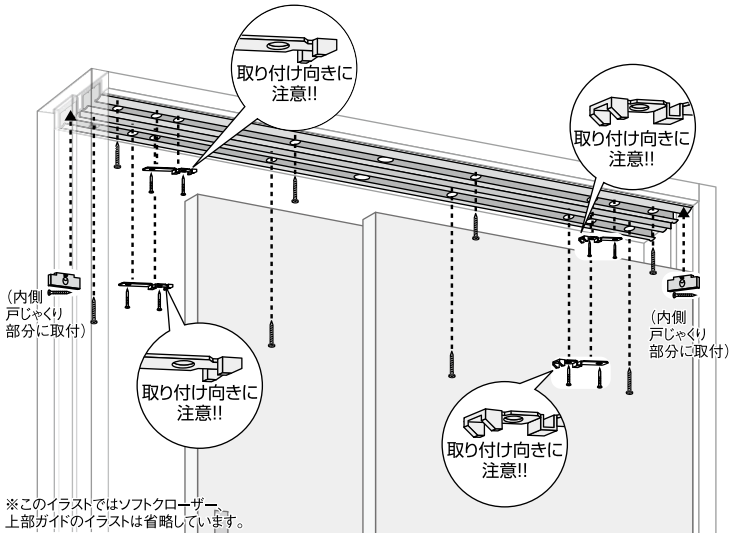


②鴨居レールの取り付け



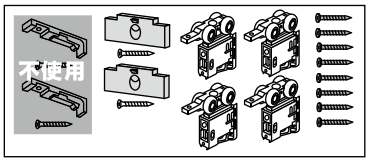
トリガー取付用治具使用方法



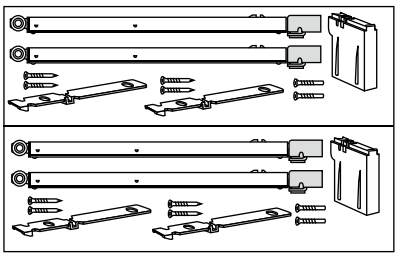


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

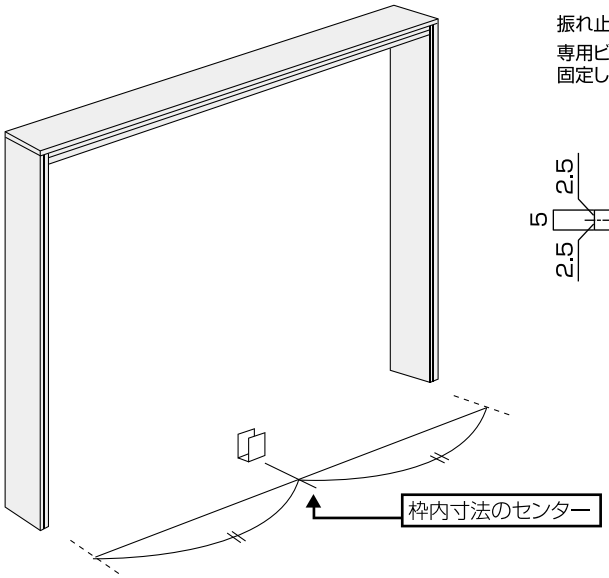
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット

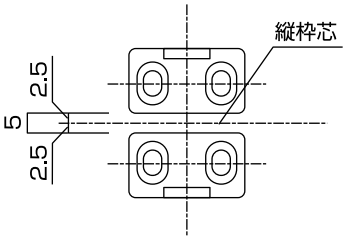


6 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに
固定してください。



引き分け戸 専用枠材

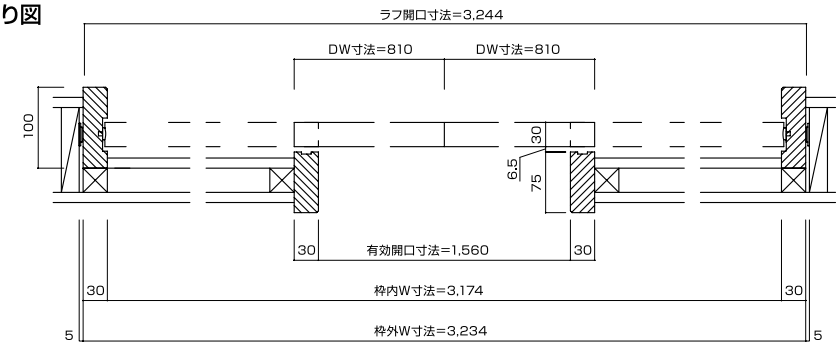
6. 引き分け戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

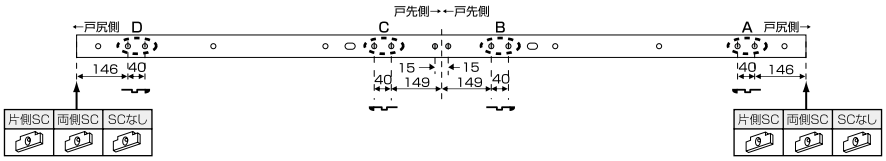
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



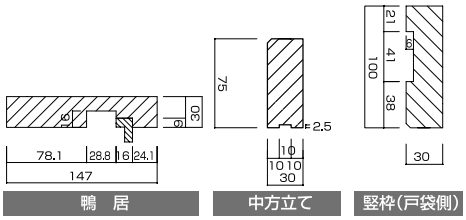
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·D　A·C

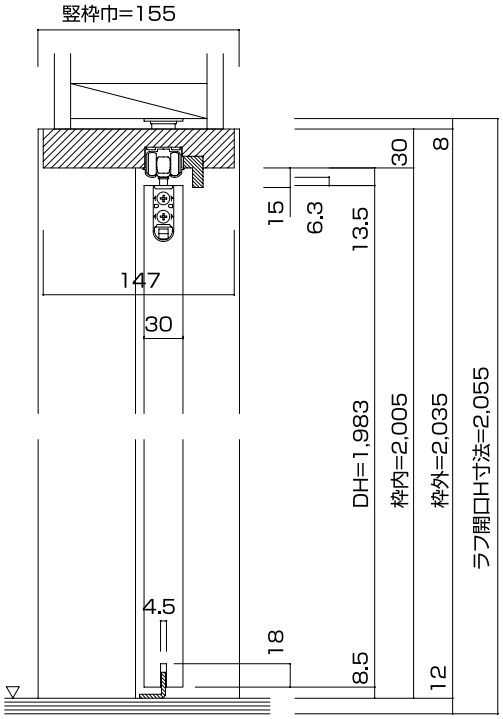
トリガーの取り付け向きに注意してください。



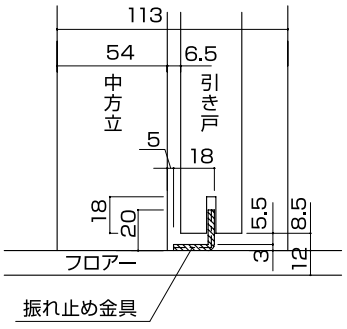
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

（単位：mm）



振れ止め金具取り付け位置

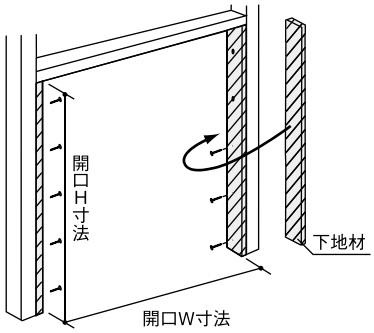


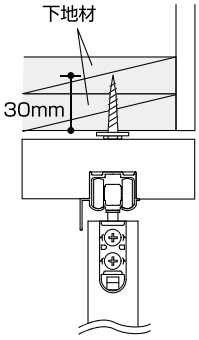
7. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





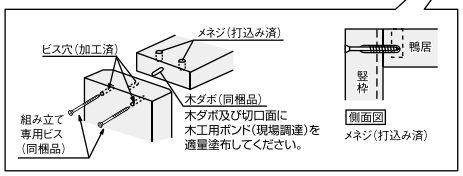
⚠ 注意

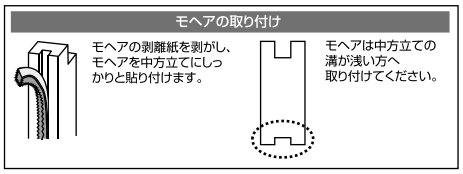
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

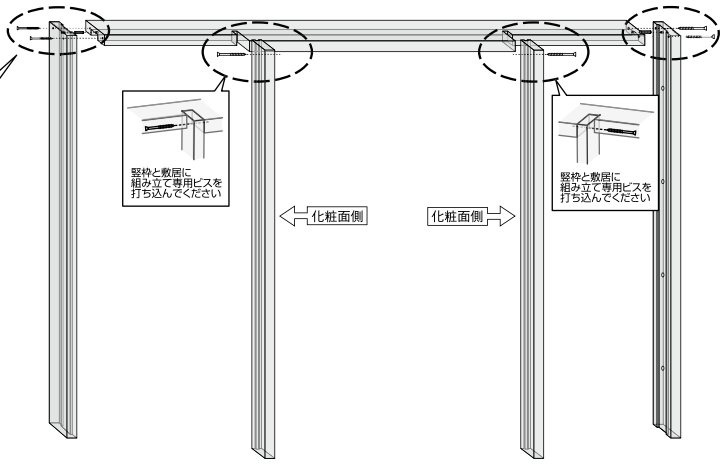
2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。







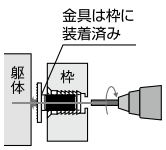
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

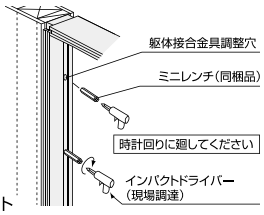
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

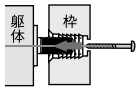


⚠ 注意

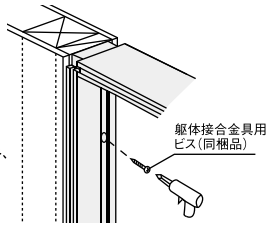
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

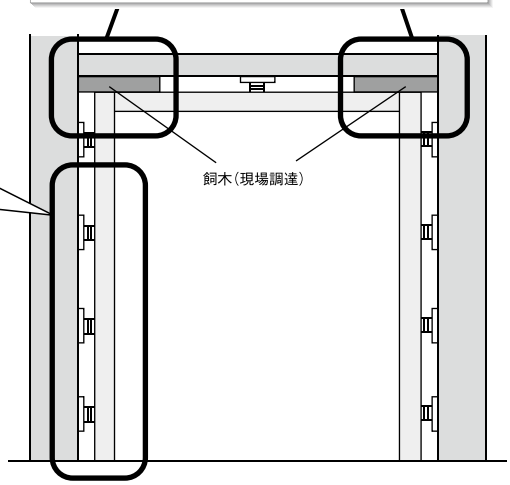


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

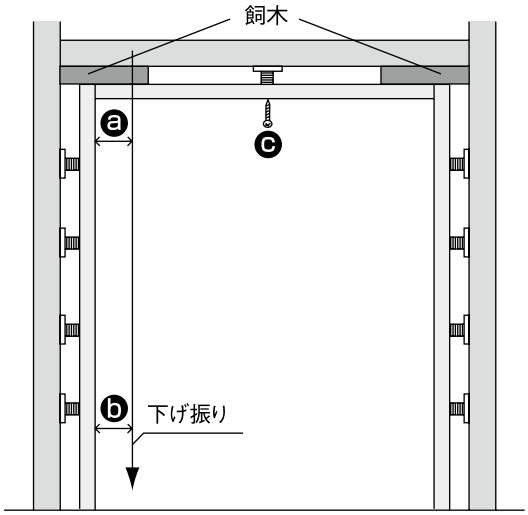


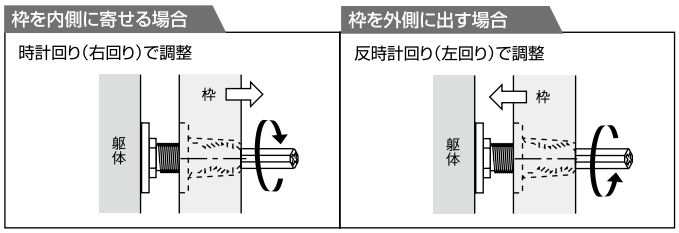
引き分け戸 専用枠材

4 建て付け調整と鴨居の本固定

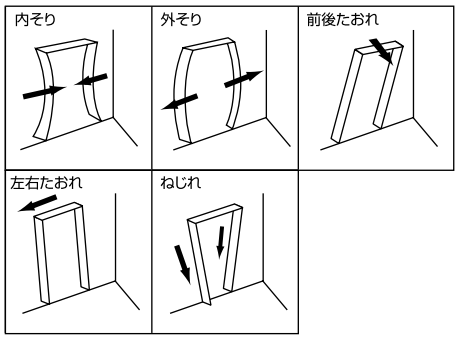
■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。



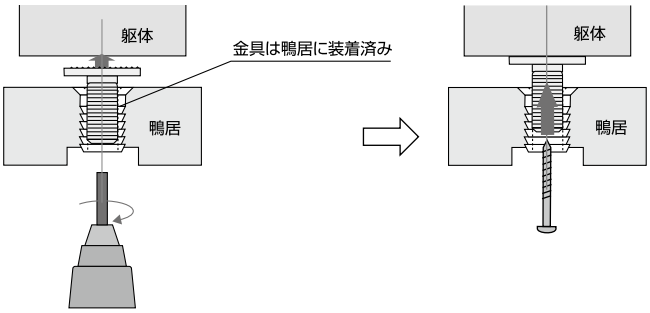


※下記の様なことがないようご注意ください。

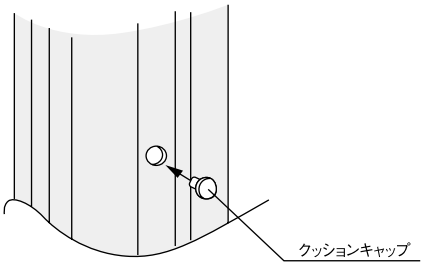


②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。

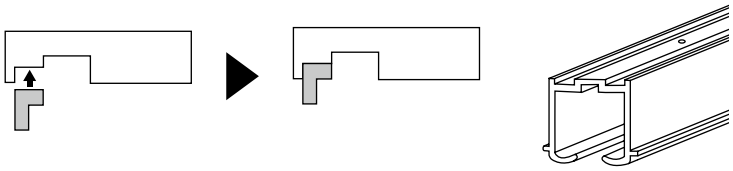


5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

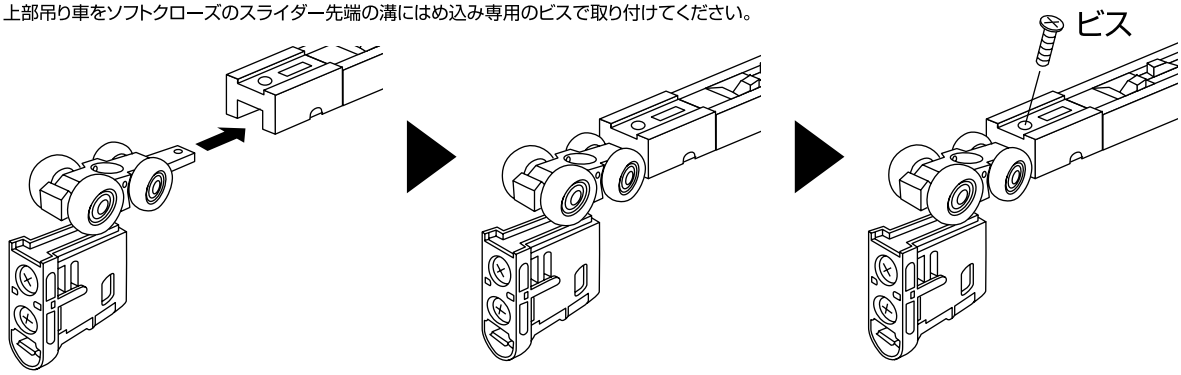
鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。
別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

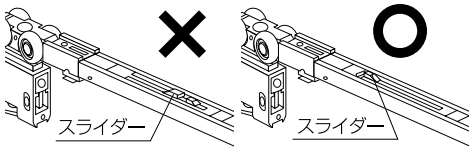


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

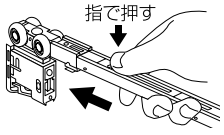
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

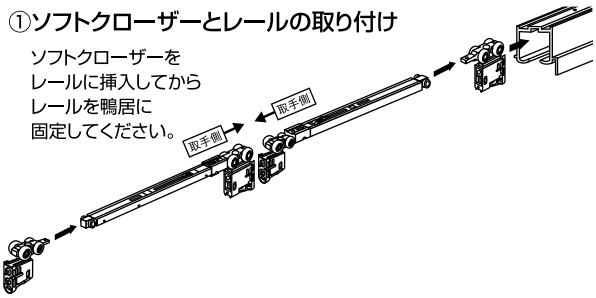


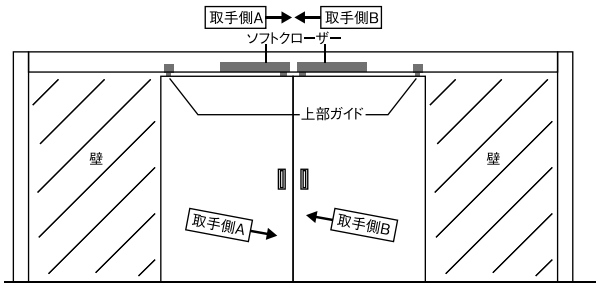
引き分け戸 専用枠材

片側ソフトクローズ 仕様 標準

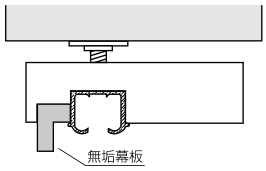
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーを
レールに挿入してから
レールを鴨居に
固定してください。

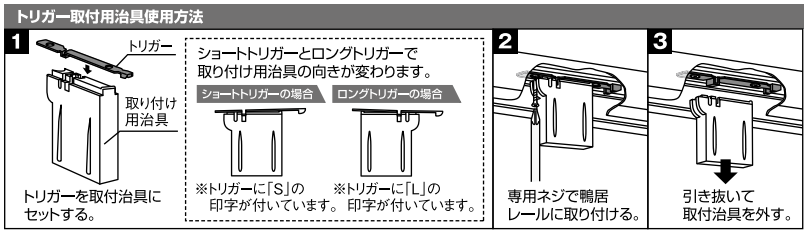




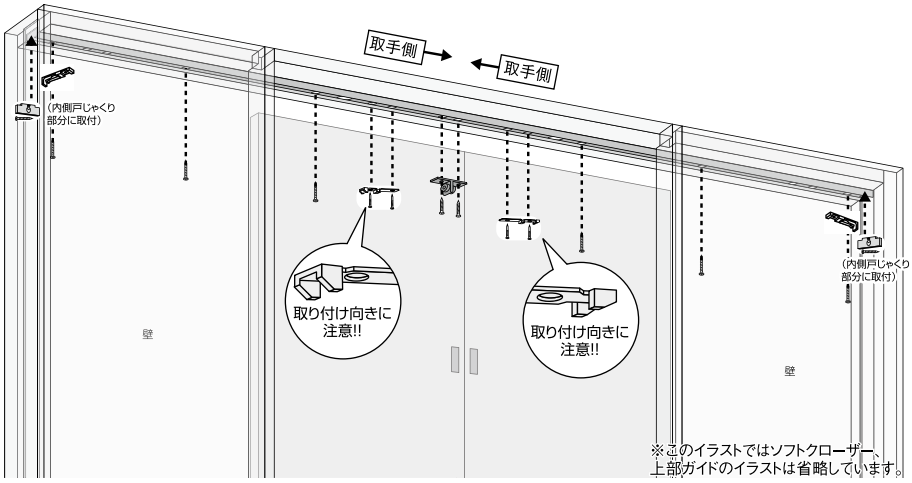
②鴨居レールの取り付け



トリガー取付用治具使用方法

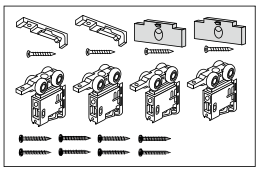


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

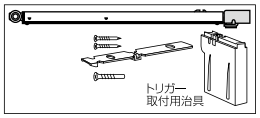


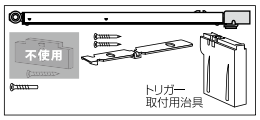
※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット



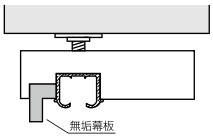
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

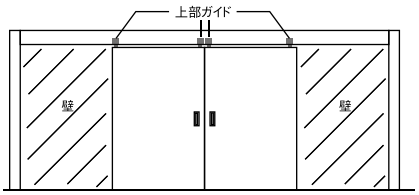




ソフトクローズなし オプション

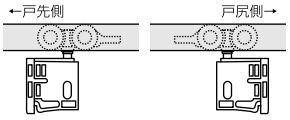
①鴨居レールの取り付け

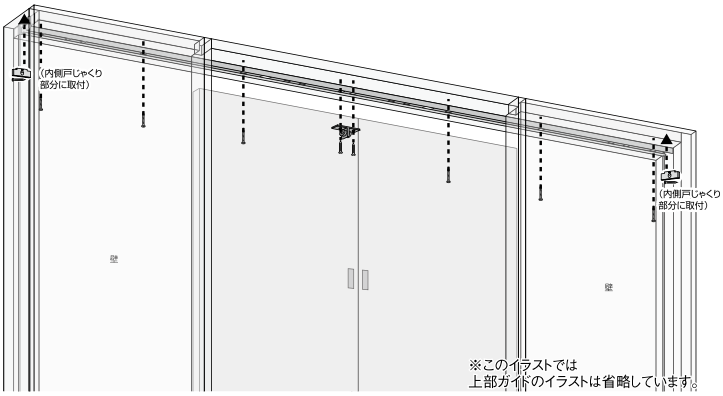




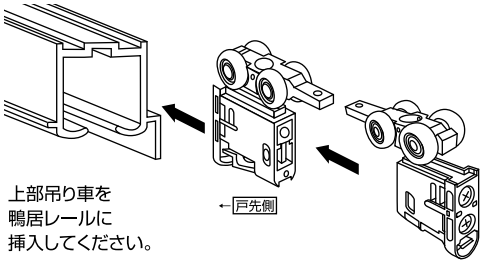
⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



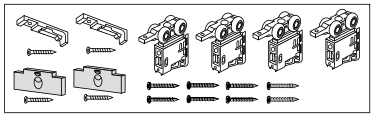


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

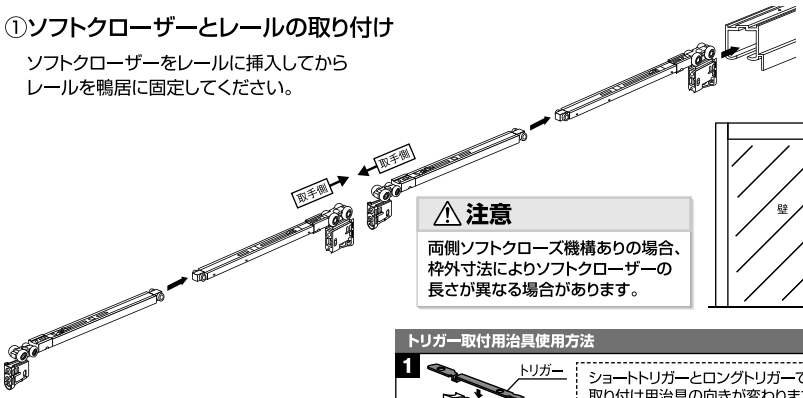
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

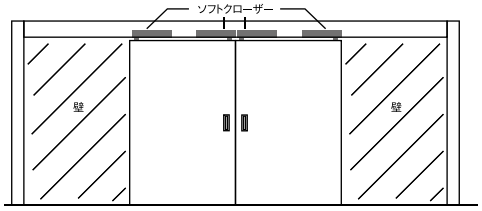
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

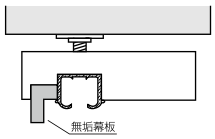


⚠注意

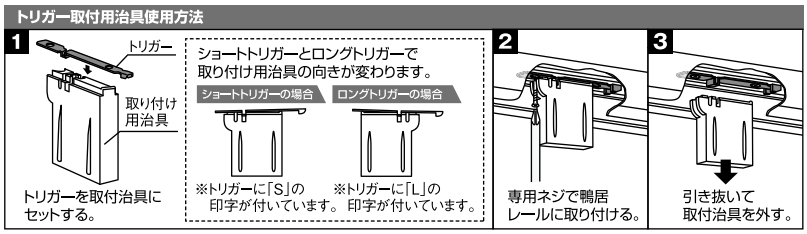
両側ソフトクローズ機構ありの場合、枠外寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。



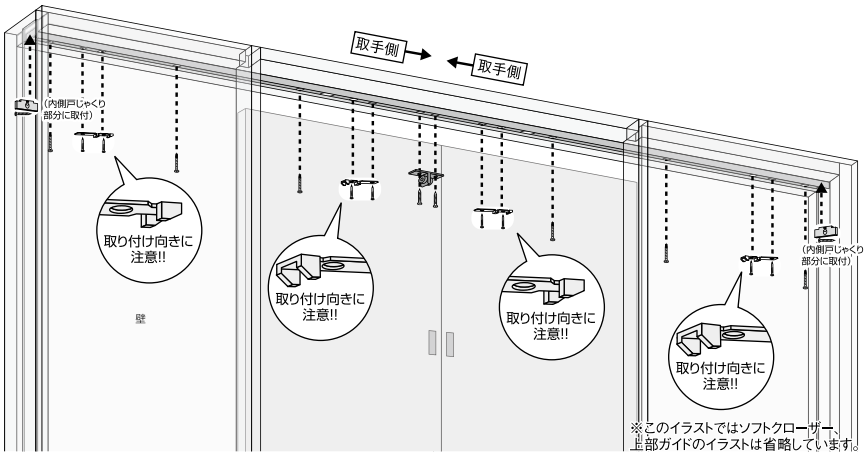
②鴨居レールの取り付け



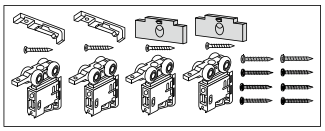
トリガー取付用治具使用方法



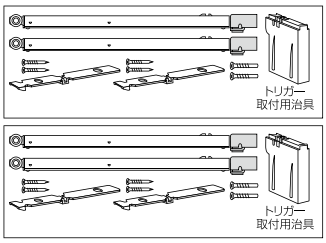
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



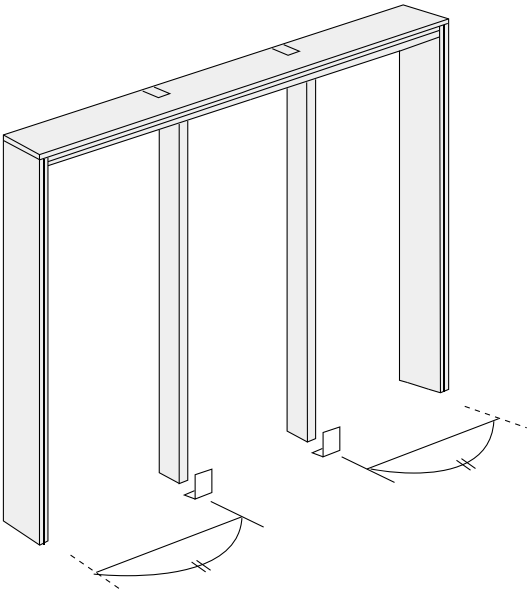
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



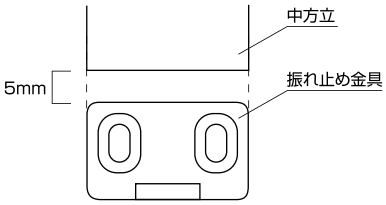
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



6 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに固定してください。



片引き戸・引き違い戸・引き分け戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール幕板付（アルミ）	鴨居レール（アルミ）
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	—
	引き違い戸	2本	—	—	—	1本	1本	1本
	引き分け戸	—	2本	2本	2本	1本	1本	—
備考（部材品番等）		—	—	—	—	—	—	—

別梱包

部材名		ケーシングセット	
入数	片引き戸	縦用4本	横用2本
	引き違い戸	縦用4本	横用2本
	引き分け戸	縦用4本	横用2本
備考（部材品番等）		—	—

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	吊車	吊車キャッチ	振れ止め金具（床付用）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm
入数	片引き戸	ZYTK14	2個	1個	1個	2個	—	4本
	引き違い戸	ZYTH14	2個	2個	2個	2個	—	8本
	引き分け戸	ZYTL18	2個	—	2個	2個	1個	8本
備考（部材品番等）			ZYTF01	ZYTC01	ZY3334	ZYTC01	ZY3337	—

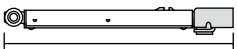
ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		袋の色	赤	赤	赤	黄	黄	透明
		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16
入数	片引き戸	ZYMK01-□	2本	6本	5本	10本	1本	8個
	引き違い戸	ZYMH01-□	2本	4本	9本	11本	1本	8個
	引き分け戸	ZYML01-□	2本	8本	9本	12本	1本	8個
備考（部材品番等）			—	—	使用しません	—	—	—

上吊り引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱包・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

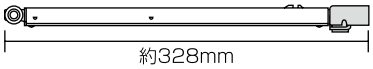
部材名				ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
セット品番	片引き戸	引き違い戸	引き分け戸						
入数 ZH23SC-T	片側SC付 枠外1324·1190	—	—	1	—	1	—	1	1
ZH23LC-T	片側SC付 枠外1824·1644·1450	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×2セット）	—	1	—	1	1	1
ZH23SR-T	両側SC付 枠外1324·1190	—	—	2	—	2	—	2	1
ZH23MR-T	両側SC付 枠外1450	—	—	1	1	1	1	2	1
ZH23LR-T	両側SC付 枠外1824·1644	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×2セット）	—	2	—	2	2	1

Ⓐショートストロークソフトクローザー



約230mm

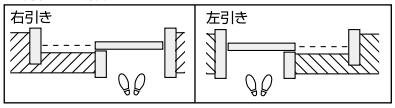
Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



約328mm

引き手方向の確認　片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



片引き戸 専用枠材

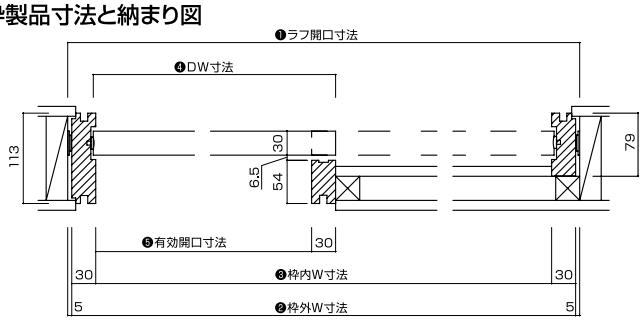
2. 片引き戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

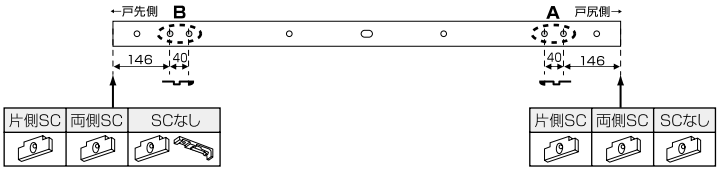
■枠製品寸法と納まり図



■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654	1,460	1,334	1,200
❷枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❸枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❹DW寸法	900	810	713	650	583
❺有効開口寸法	867	777	680	617	550

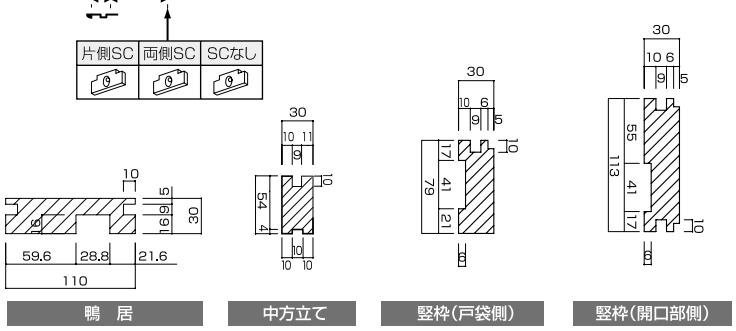
■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B
両側ソフトクローズ仕様	A·B

POINT
B　A　トリガーの取り付け向きに注意してください。

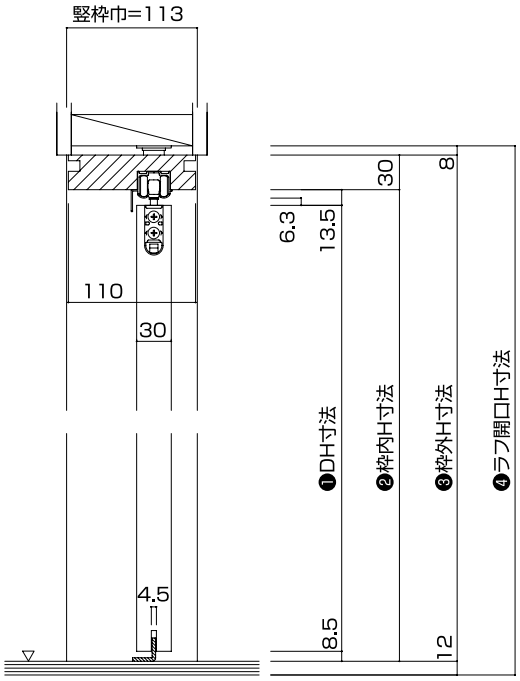


※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は 170 巾の寸法です。

縦断面図

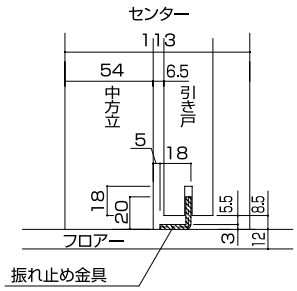
（単位：mm）



■ 納まり寸法表

製品寸法	標準タイプ DH1,983	ハイドア DH2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,005	2,205
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

振れ止め金具取り付け位置



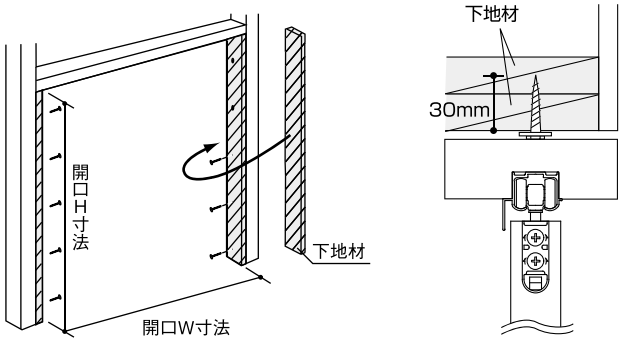
片引き戸 専用枠材

3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



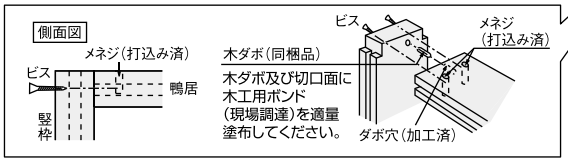
⚠ 注意

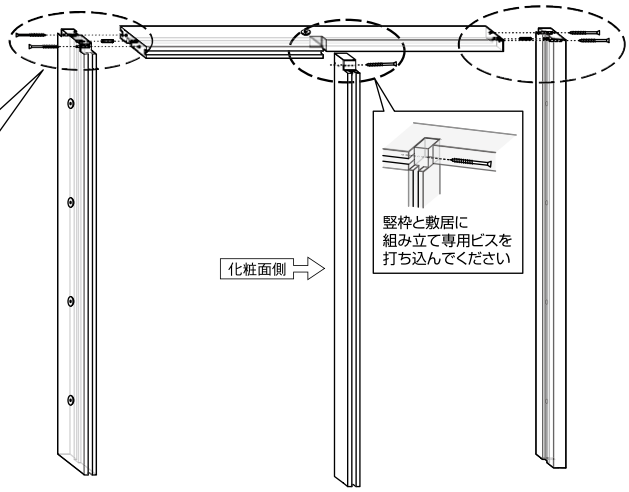
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。





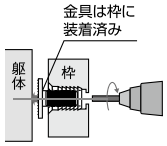
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

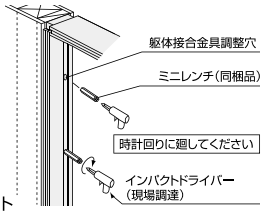
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

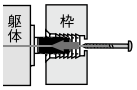


⚠ 注意

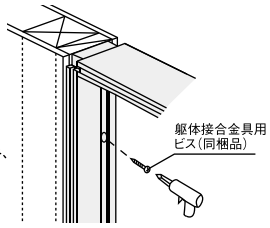
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

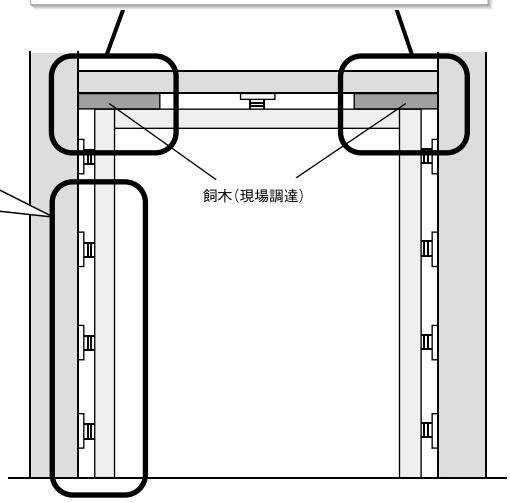


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

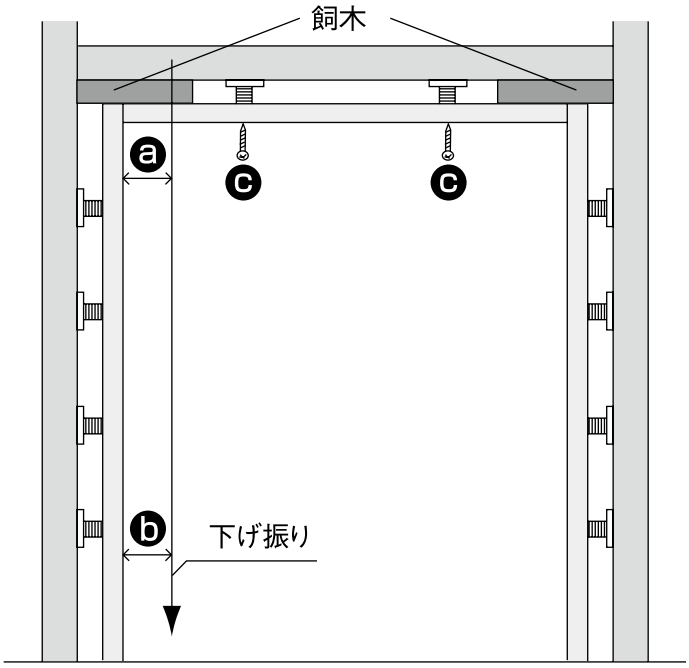
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

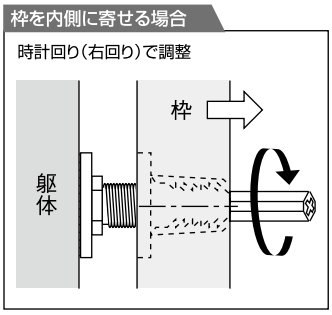


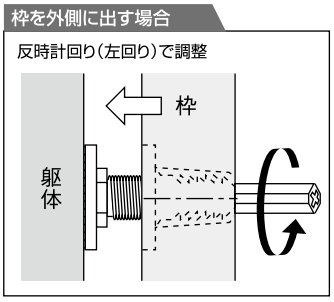
4 建て付け調整と鴨居の本固定

■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

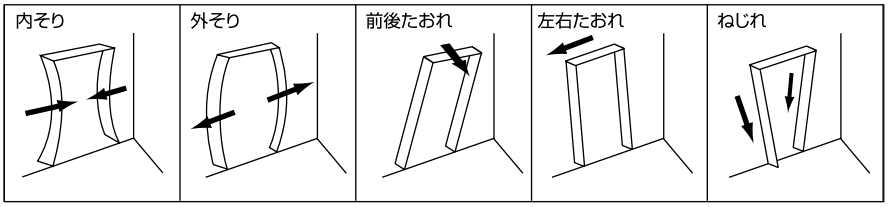
①水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。



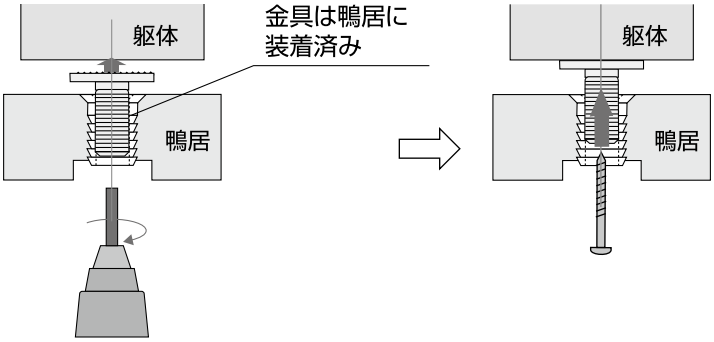




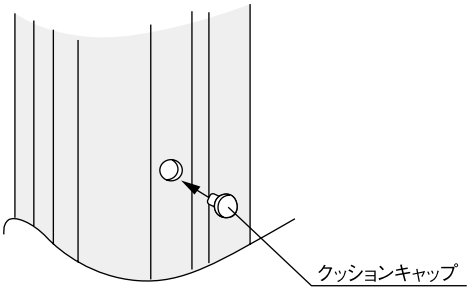
※下記の様なことがないようご注意ください。



②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。
竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



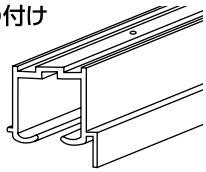
片引き戸 専用枠材

5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

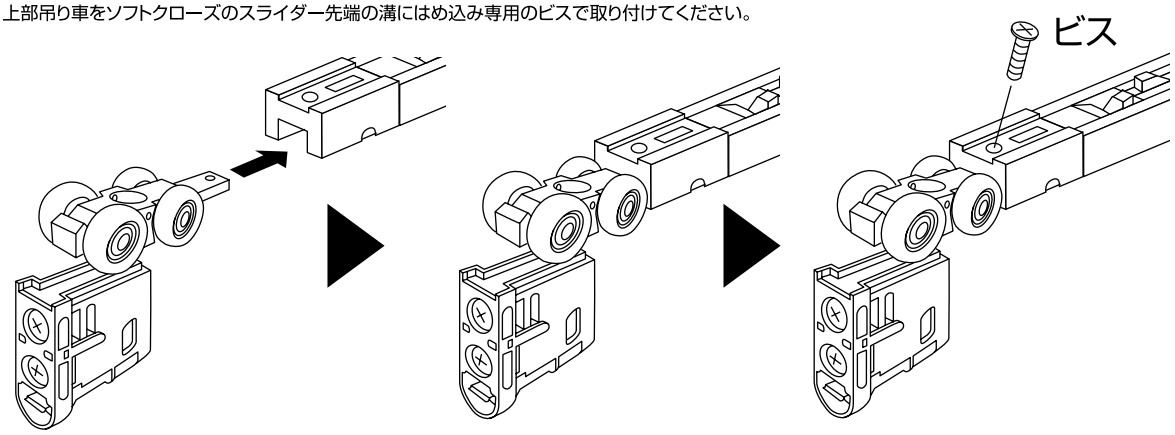
幕板付きの鴨居レール（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

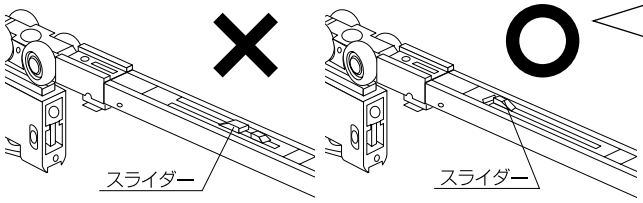


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

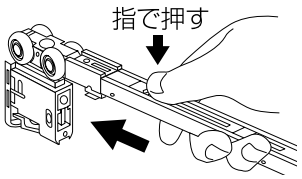
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

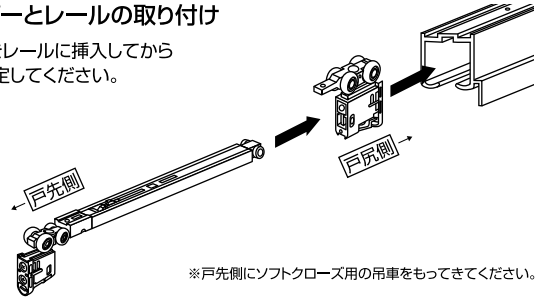
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



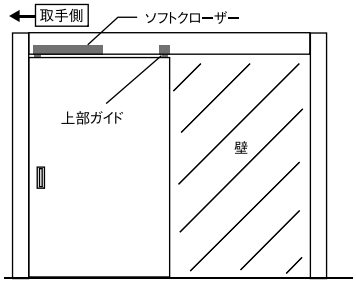
片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

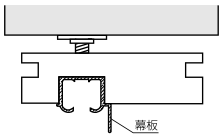


※戸先側にソフトクローズ用の吊車をもってきてください。

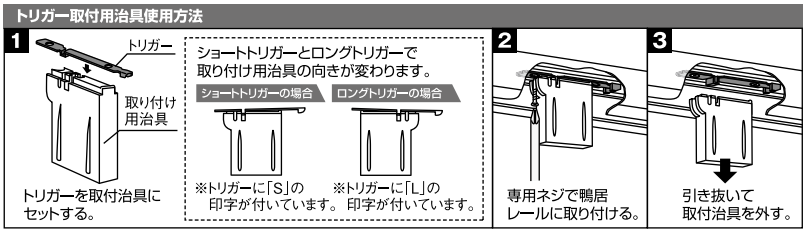


②鴨居レールの取り付け

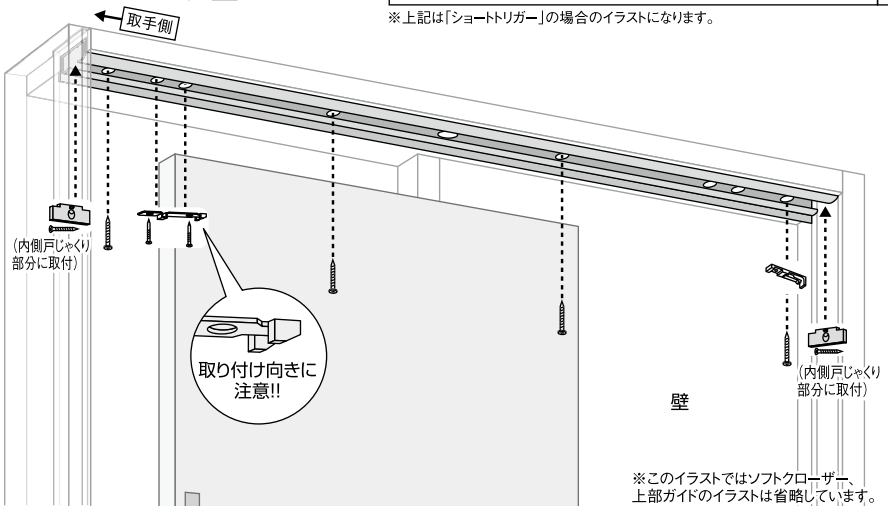
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

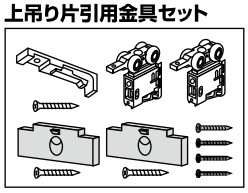


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

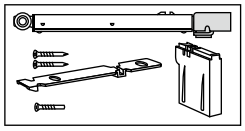


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット



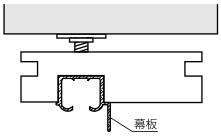
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

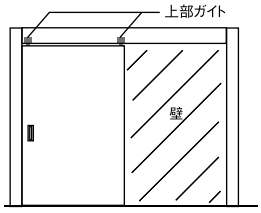


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

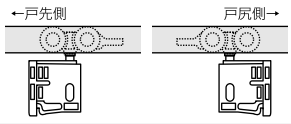
レールに付いている
幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けて
ください。

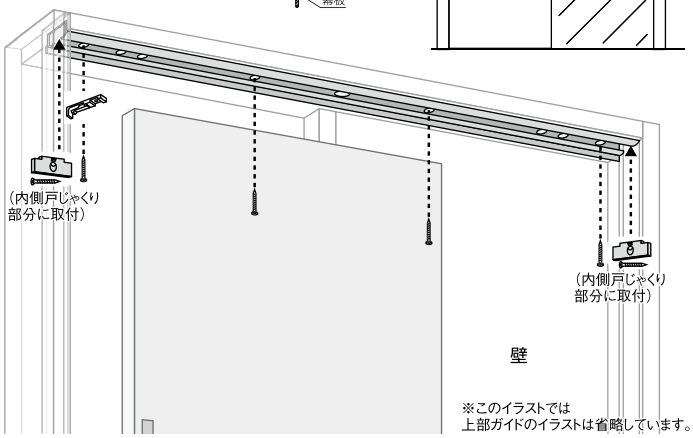




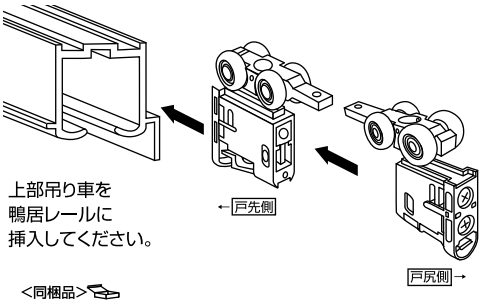
⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



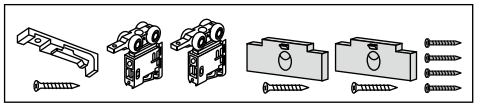


※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

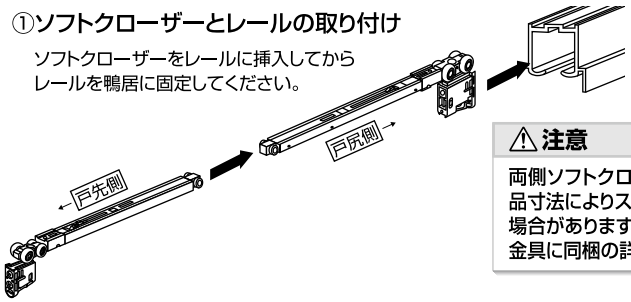


片引き戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

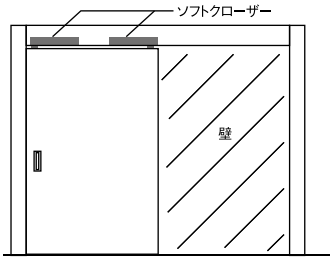
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



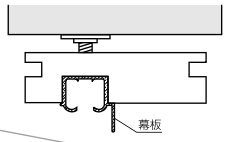
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりスライダーの種類が異なる場合があります。詳しくはソフトクローズ金具に同梱の詳細をご確認ください。

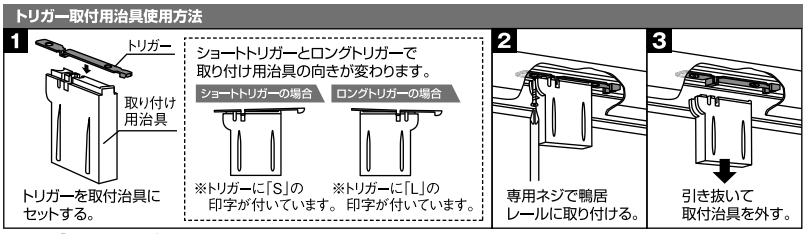


②鴨居レールの取り付け

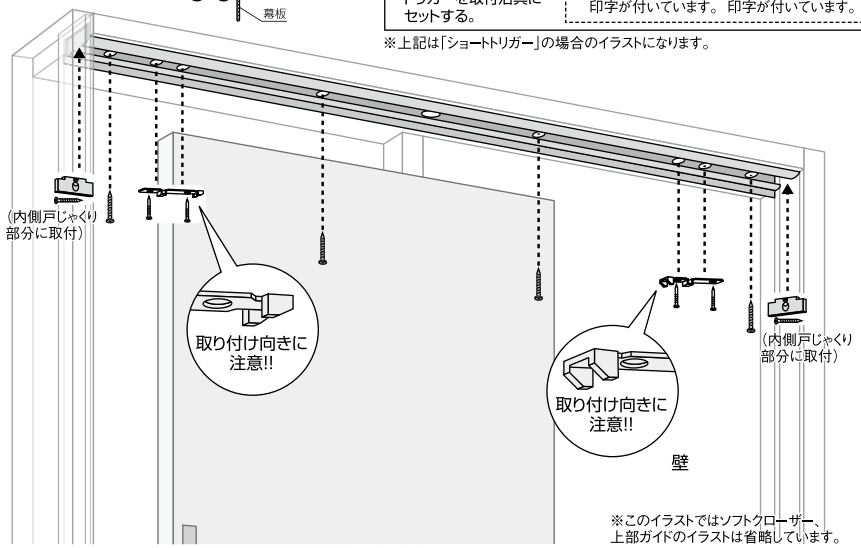
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

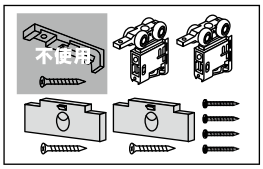


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

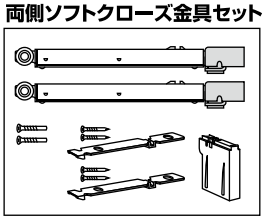


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

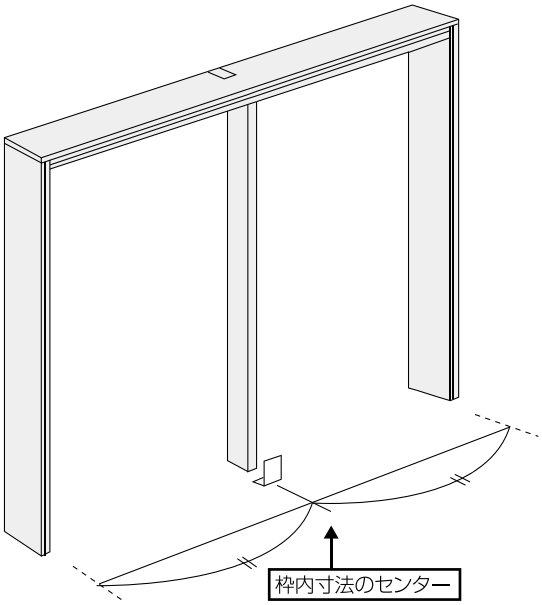
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



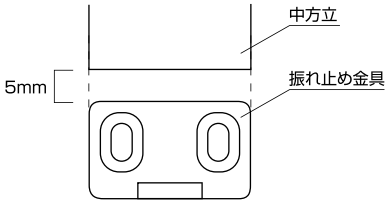
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け

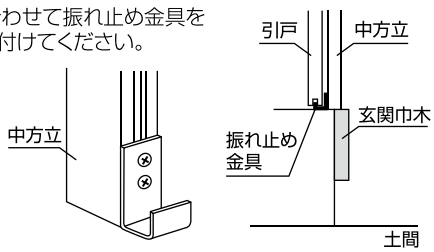


振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



上吊り中方立取り付け用振れ止め金具（別売品）の場合

中方立の下端に合わせて振れ止め金具を
同梱のビスで取り付けてください。



引き違い戸 専用枠材

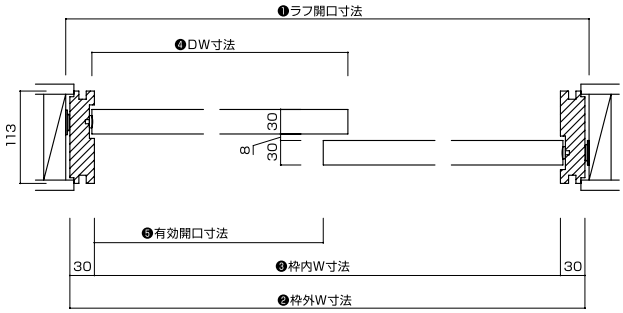
4. 引き違い戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

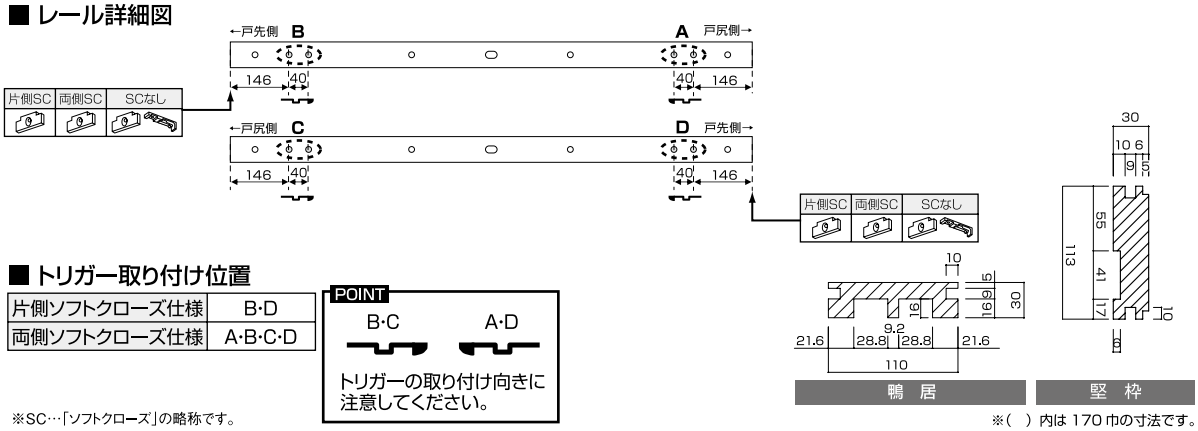
■ 枠製品寸法と納まり図



■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644
❶ラフ開口寸法	1,834	1,654
❷枠外W寸法	1,824	1,644
❸枠内W寸法	1,764	1,584
❹DW寸法	900	810
❺有効開口寸法	867	777

■ レール詳細図



■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·C　A·D

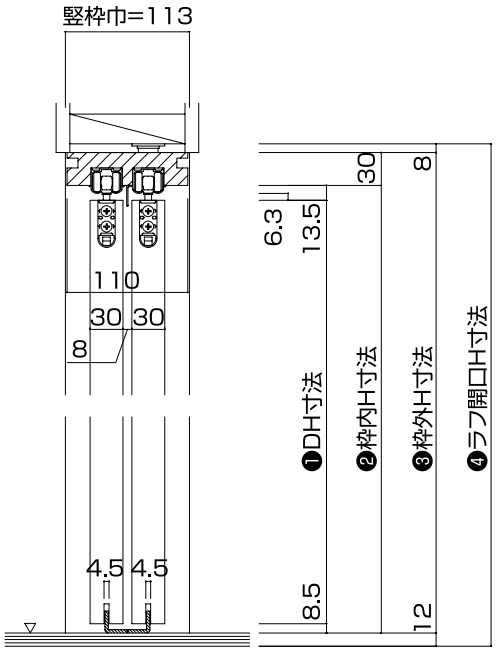
トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は 170 巾の寸法です。

縦断面図

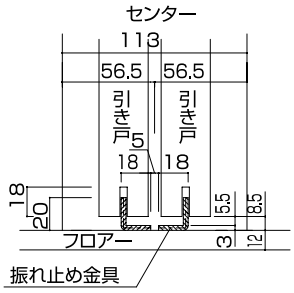
（単位：mm）



■ 納まり寸法表

製品寸法	標準タイプ DH1,983	ハイドア DH2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,005	2,205
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

振れ止め金具取り付け位置



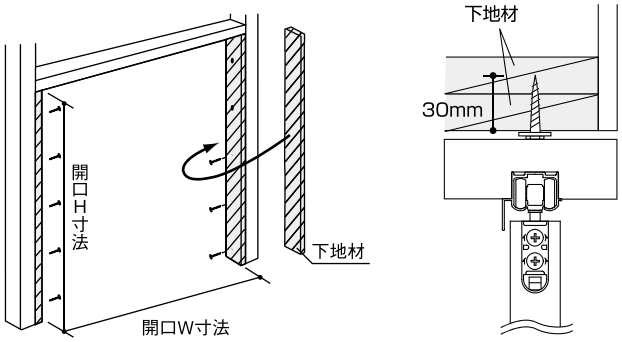
引き違い戸 専用枠材

5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



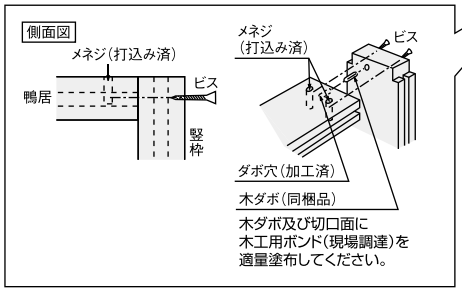
⚠ 注意

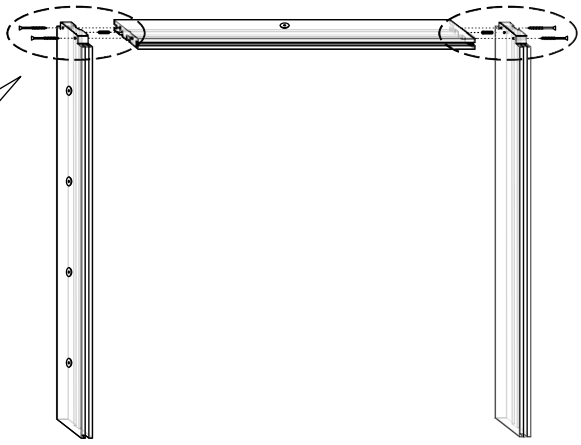
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。





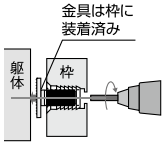
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

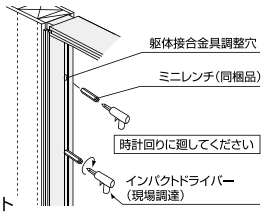
①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する



同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

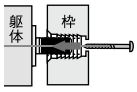


⚠ 注意

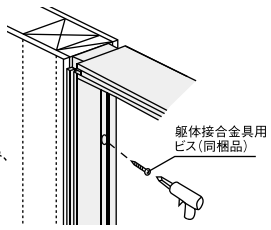
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

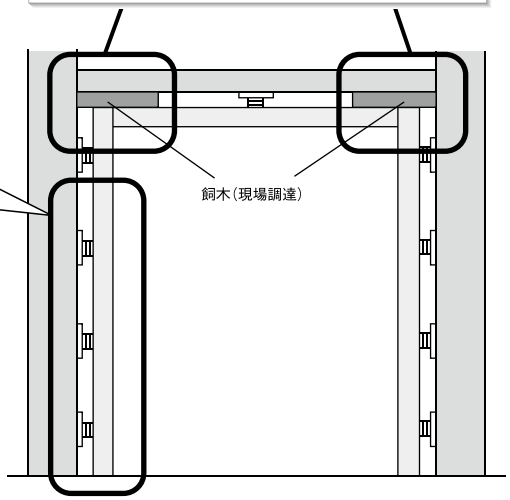


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

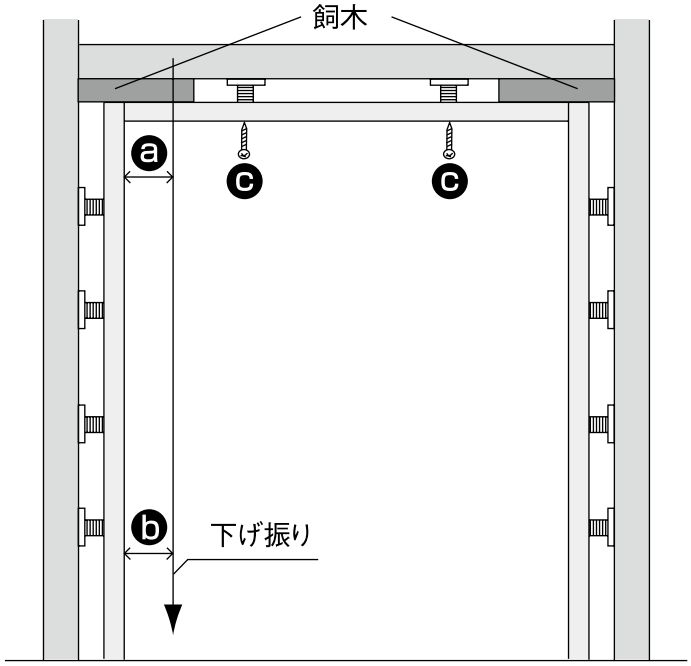
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

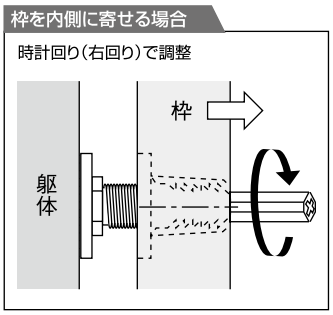


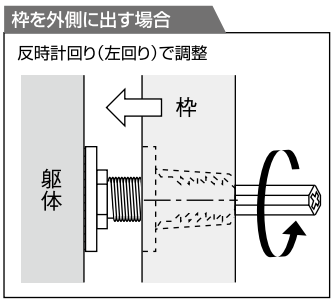
4 建て付け調整と鴨居の本固定

■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

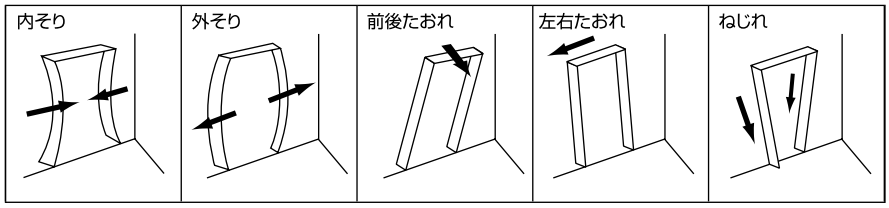
①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。



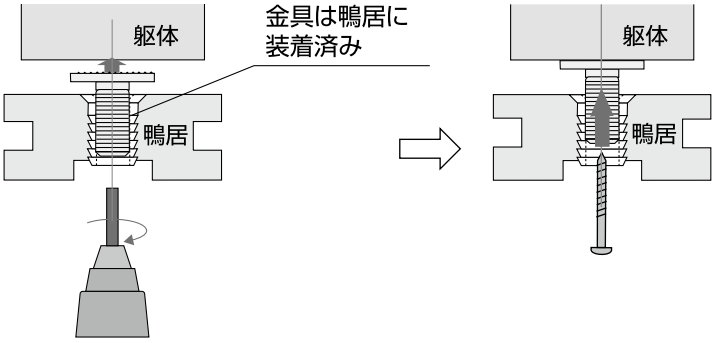




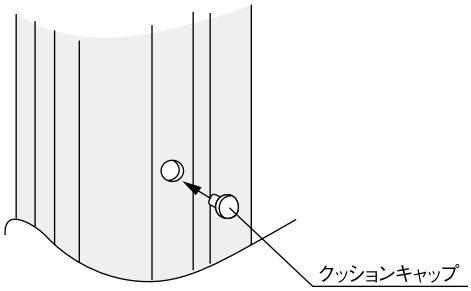
※下記の様なことがないようご注意ください。



②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。
竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴に
クッションキャップを取り付けます。



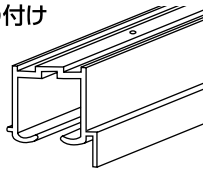
引き違い戸 専用枠材

5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

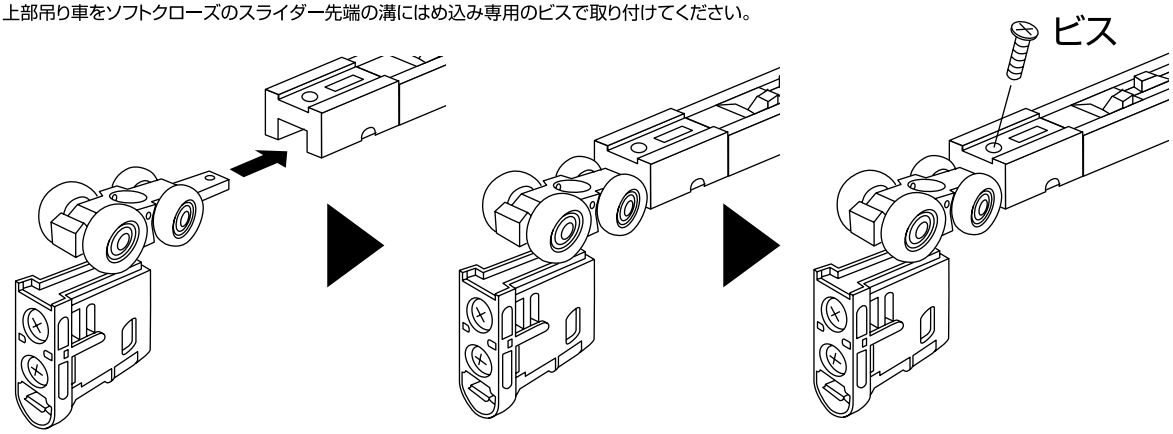
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

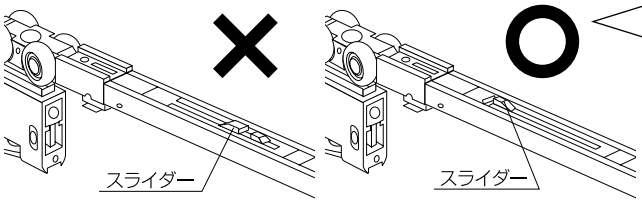


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

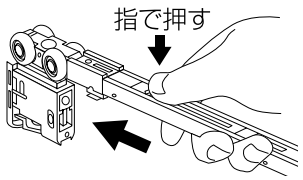
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

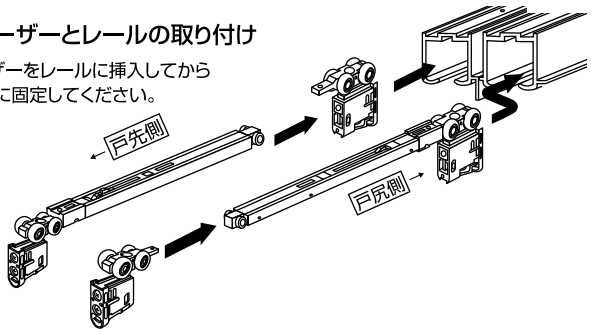
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

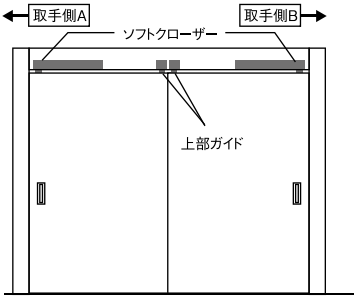


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

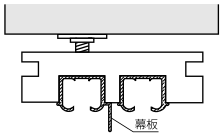
ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



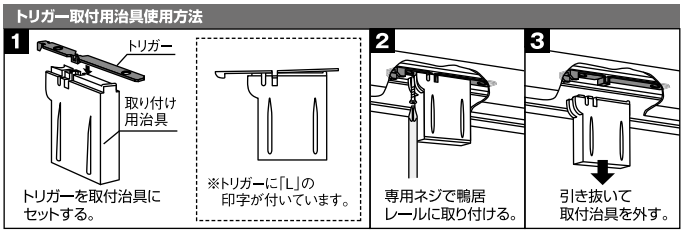


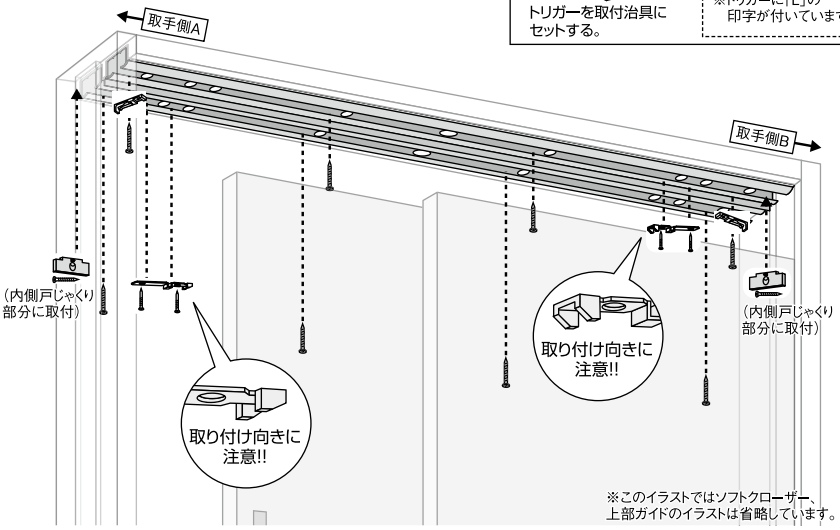
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付けて
ください。引き違い戸では
片方のレールには幕板は
つきません。

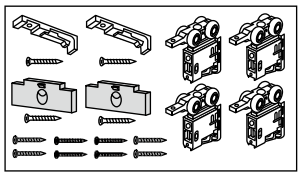


トリガー取付用治具使用方法

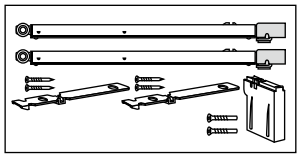




<同梱品>
上吊り片引用金具セット



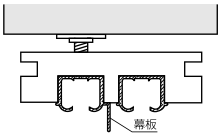
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

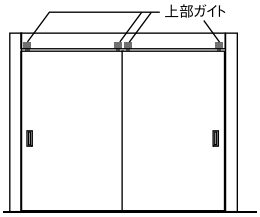


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

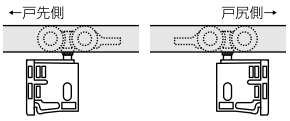
レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付けて
ください。引き違い戸では
片方のレールには幕板は
つきません。

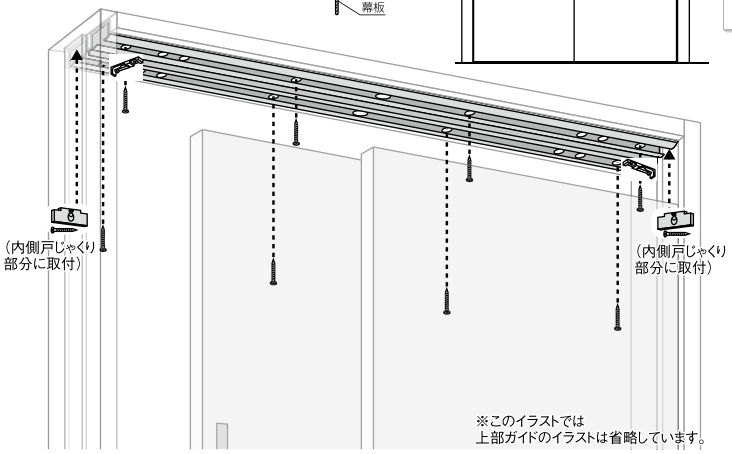


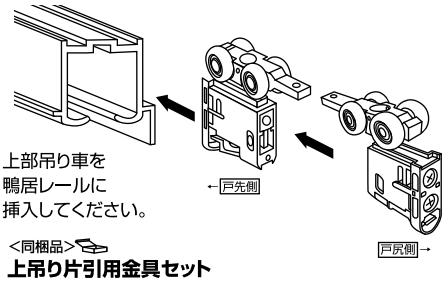


⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

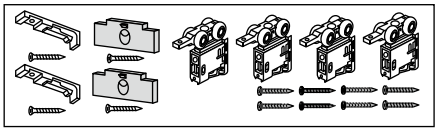






上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

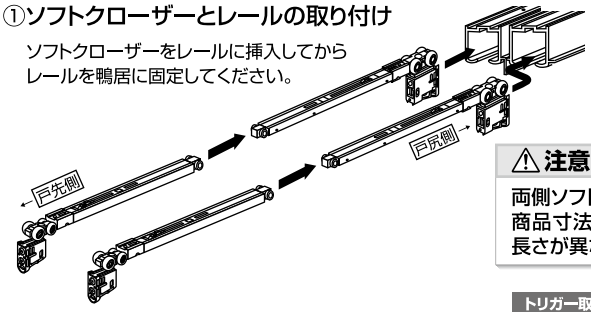


引き違い戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

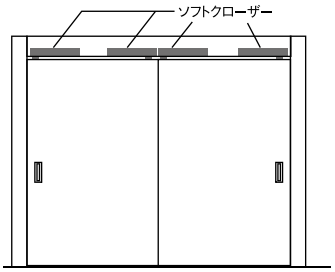
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



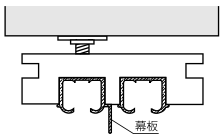
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

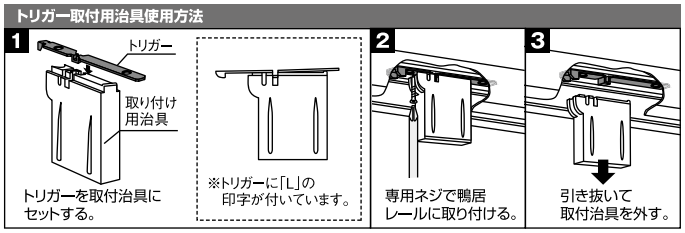


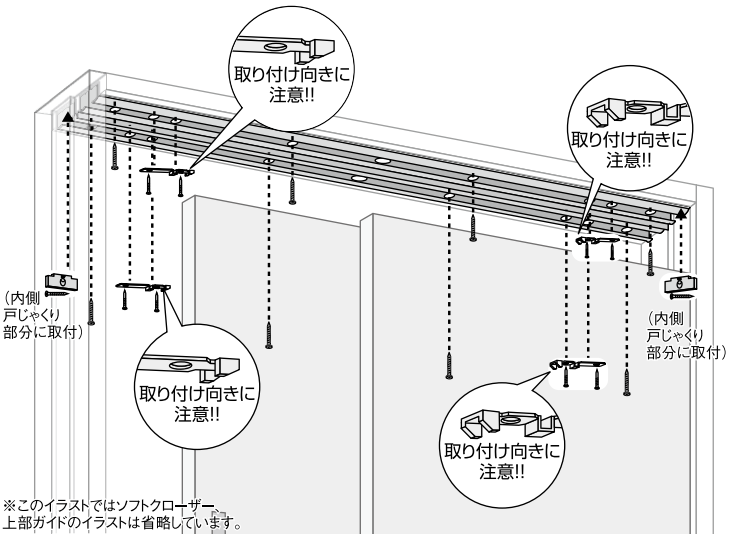
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。

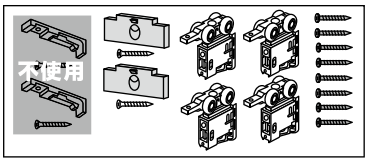


トリガー取付用治具使用方法

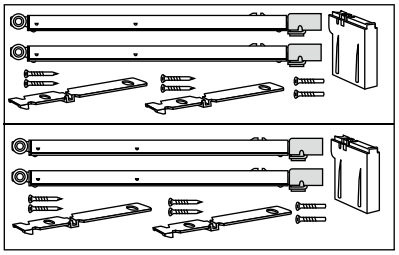




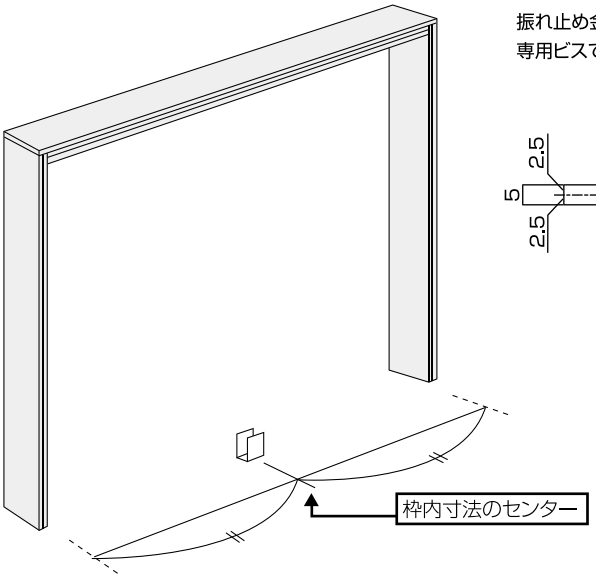
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



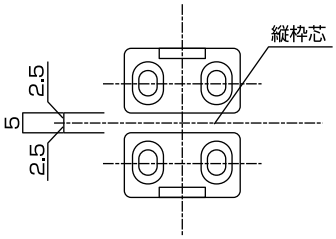
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに固定してください。



引き分け戸 専用枠材

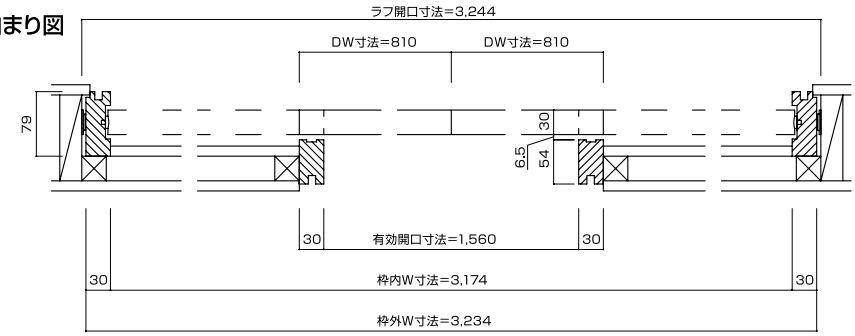
6. 引き分け戸 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

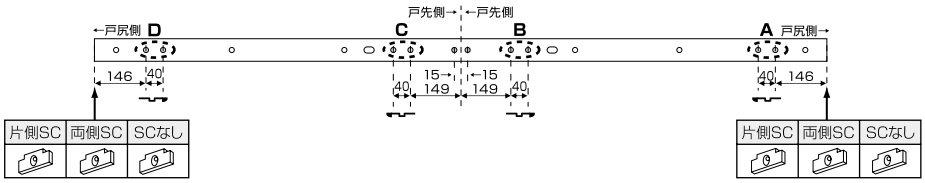
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



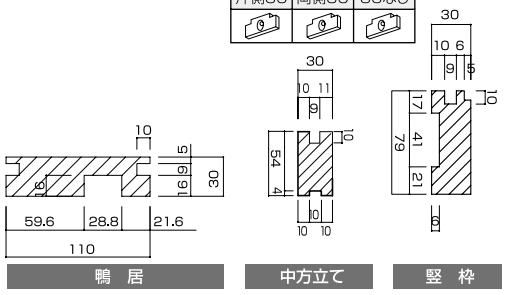
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·D　A·C

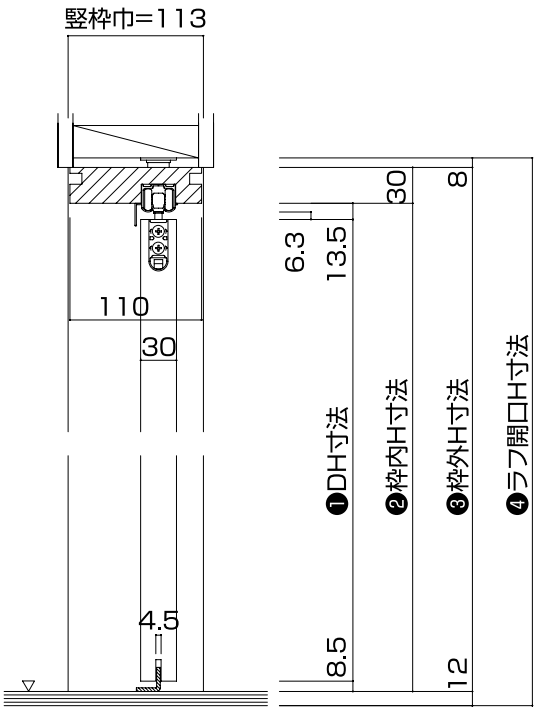
トリガーの取り付け向きに注意してください。



※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

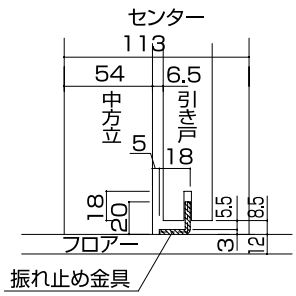
（単位：mm）



■ 納まり寸法表

製品寸法	標準タイプ DH1,983	ハイドア DH2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,005	2,205
❸枠外H寸法	2,035	2,235
❹ラフ開口寸法	2,055	2,255

振れ止め金具取り付け位置



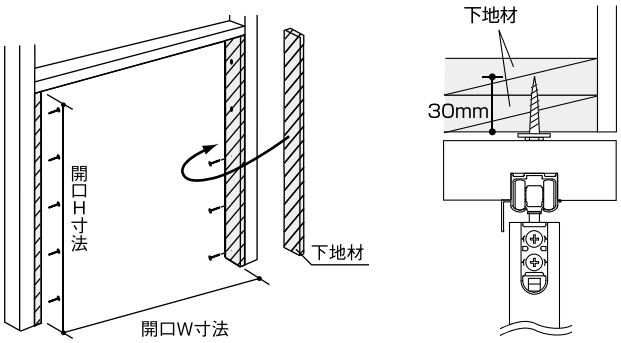
引き分け戸 専用枠材

7. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。



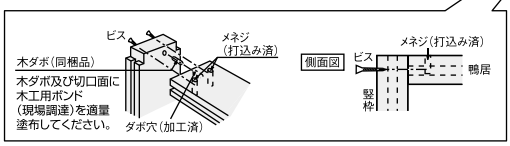
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

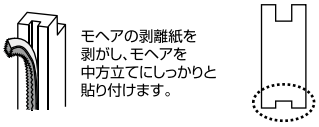
2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

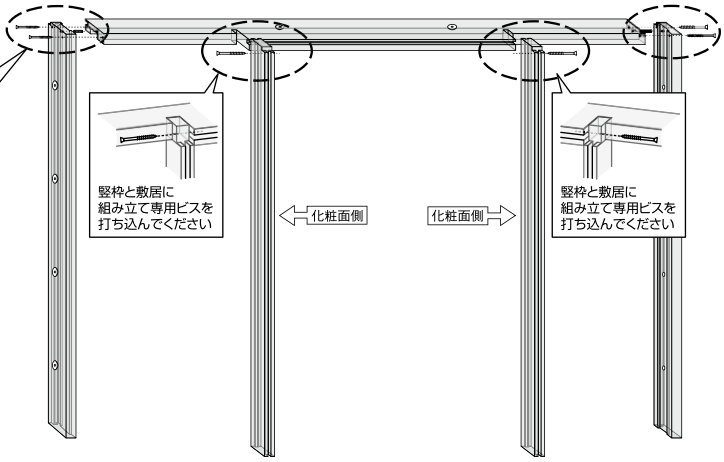


モヘアの取り付け



モヘアの剥離紙を剥がし、モヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

モヘアは中方立ての溝が浅い方へ取り付けてください。



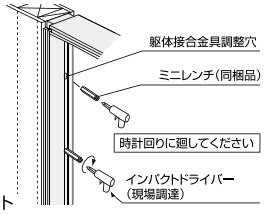
3 枠材の仮固定と竪枠のビス固定

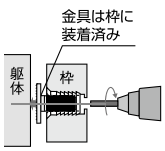
■4方に組んだ枠材（床直付けレールの場合3方）を開口部にセットしてください。
本製品の枠材には躯体接合金具が装備されているので仮固定に別途パッキン材などを用意する必要はありません。

①枠材の仮固定

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する





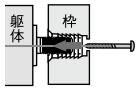
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

⚠ 注意

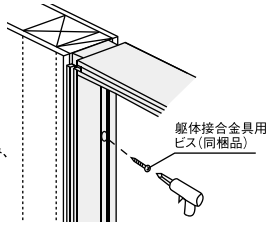
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

②竪枠のビス固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。

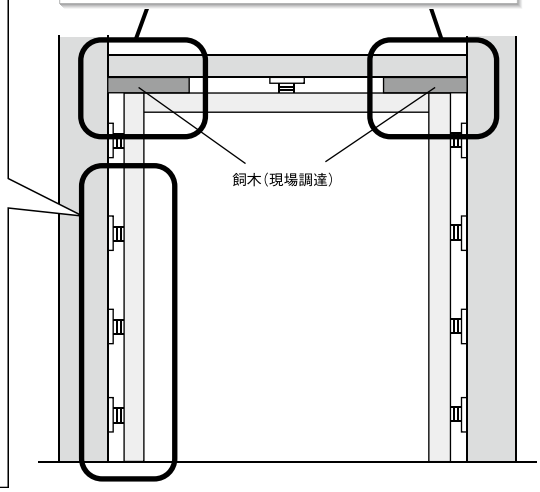


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）



⚠ 注意

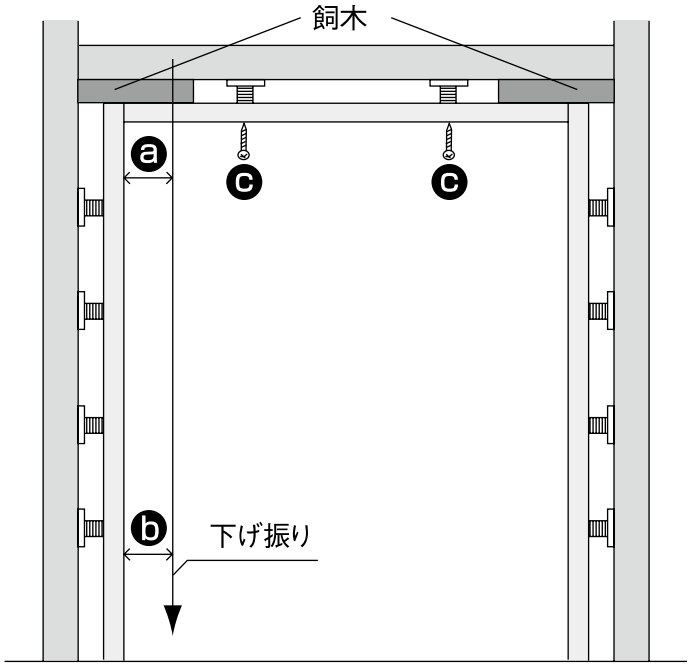
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

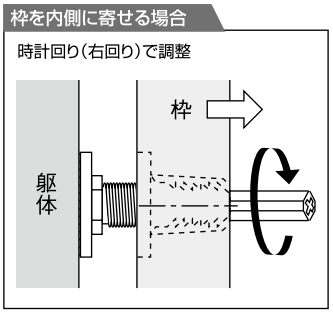


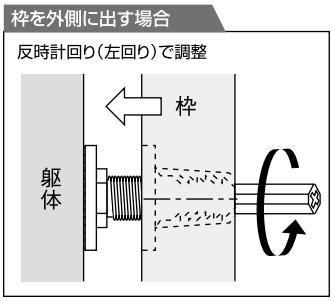
4 建て付け調整と鴨居の本固定

■竪枠を固定後、水準器などを使用し、竪枠、鴨居、敷居などの水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。

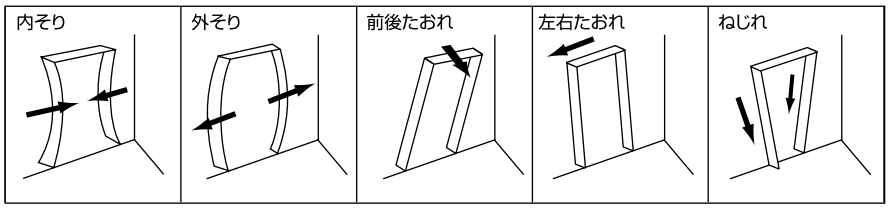
①水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。



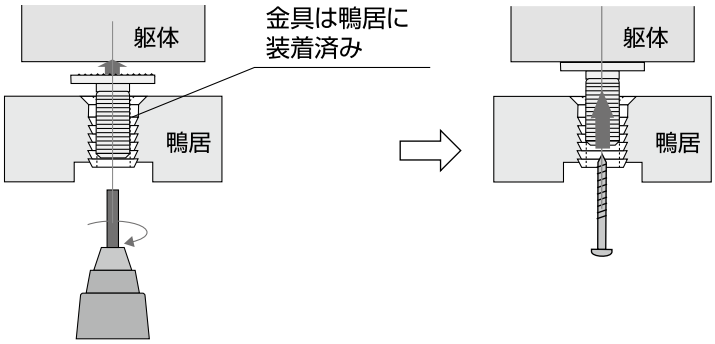




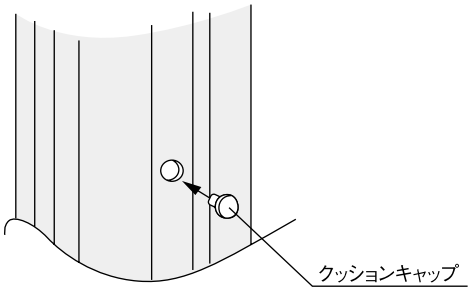
※下記の様なことがないようご注意ください。



②ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。
竪枠と同様の手順で鴨居を固定します。



③竪枠を調整後、ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



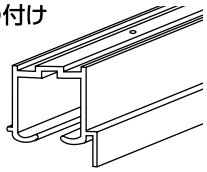
引き分け戸 専用枠材

5 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

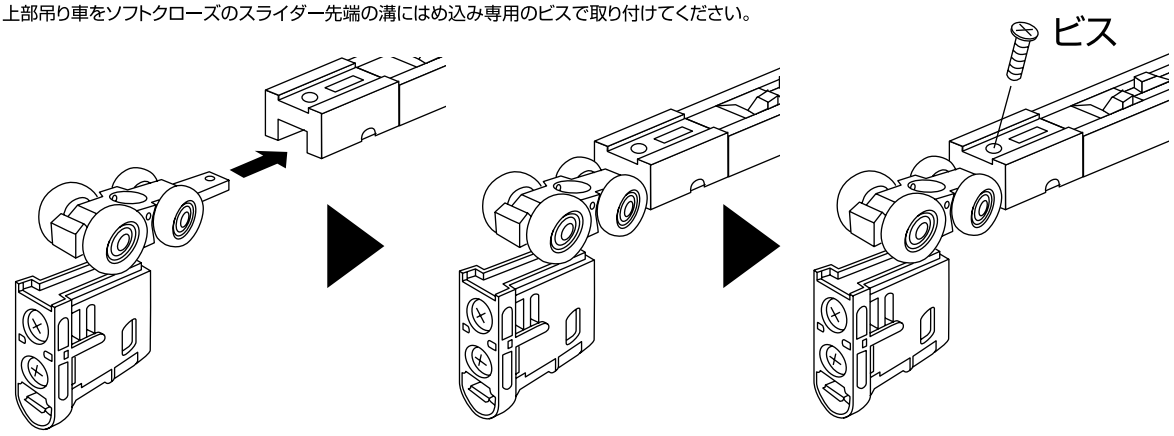
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

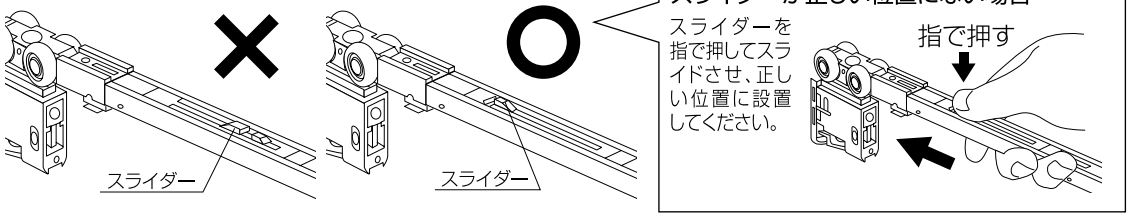


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠ 注意

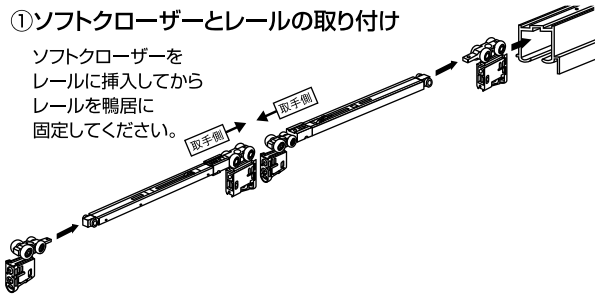
挿入前にスライダーの位置を確認してください。

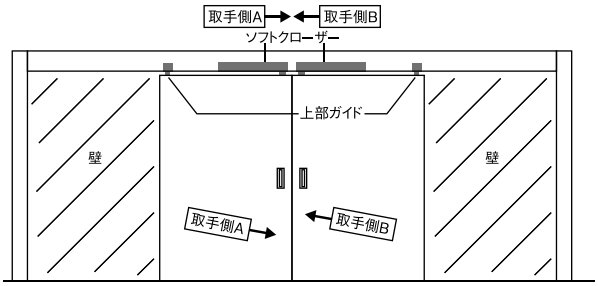


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

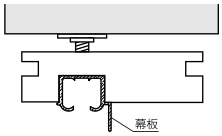
ソフトクローザーを
レールに挿入してから
レールを鴨居に
固定してください。



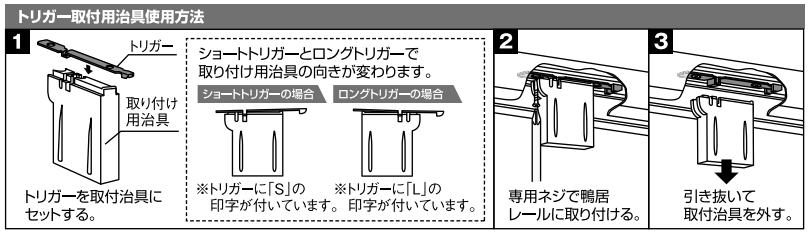


②鴨居レールの取り付け

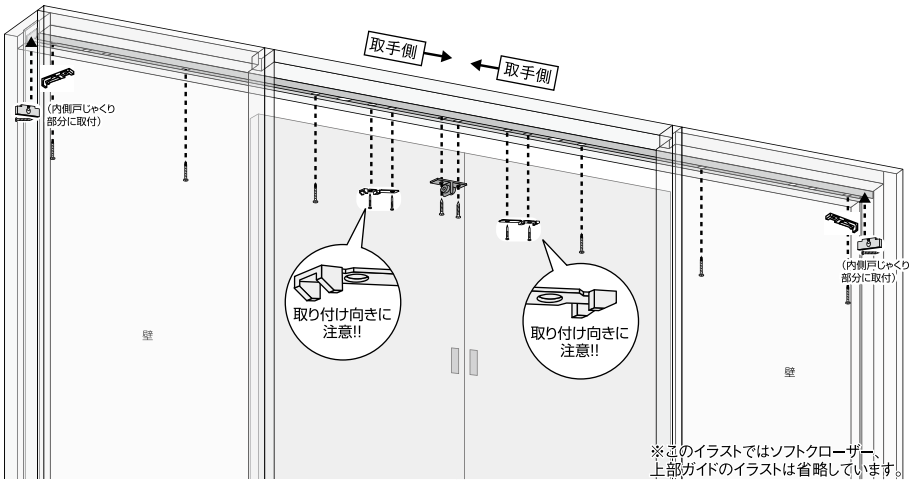
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



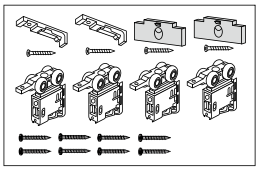
トリガー取付用治具使用方法



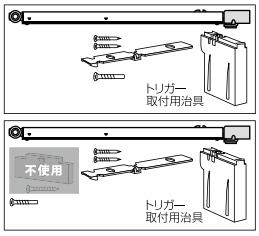
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



<同梱品>
上吊り片引用金具セット



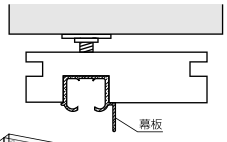
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

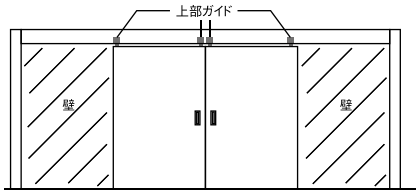


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

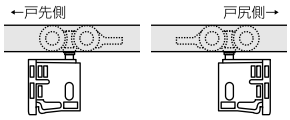
レールに付いている幕板を、鴨居
芯側に向けて取り付けてください。

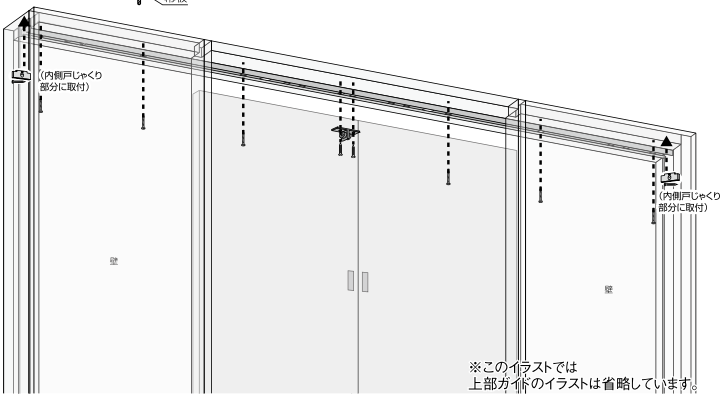


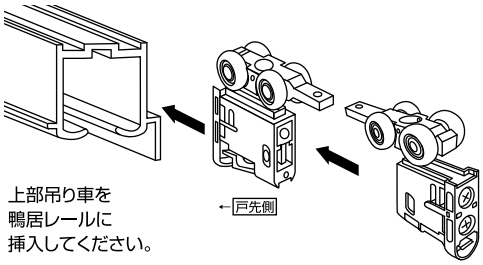


⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

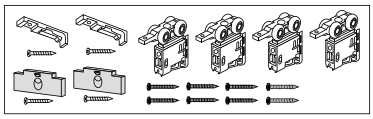






上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

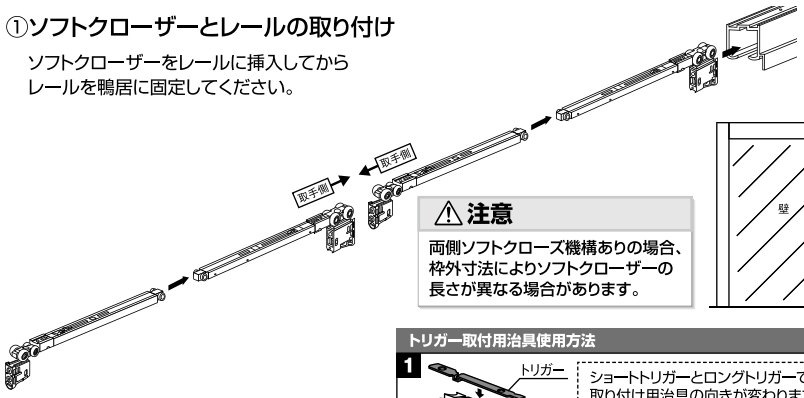


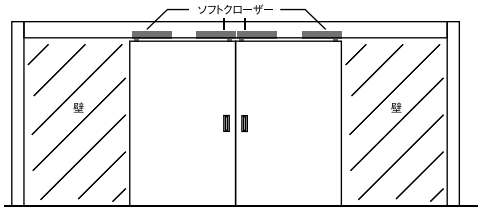
引き分け戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



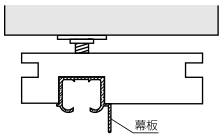


⚠注意

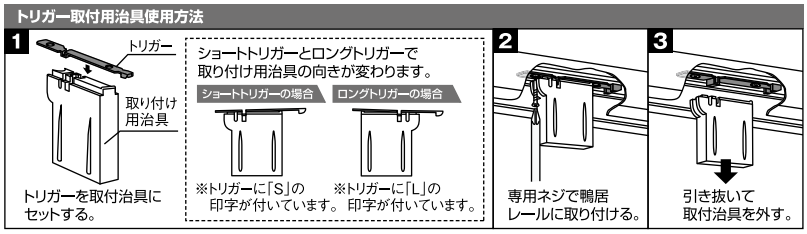
両側ソフトクローズ機構ありの場合、
枠外寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

②鴨居レールの取り付け

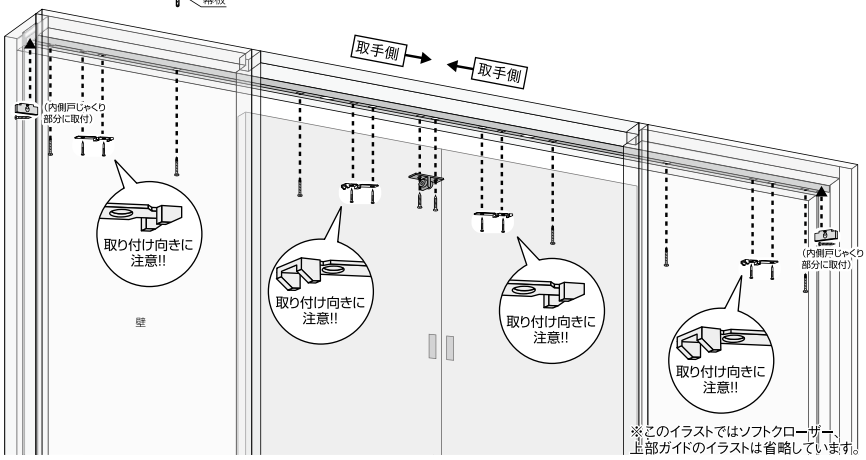
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



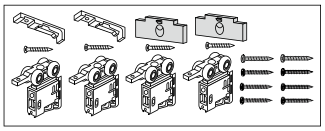
トリガー取付用治具使用方法



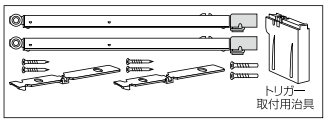
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

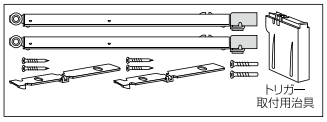


<同梱品>
上吊り片引用金具セット

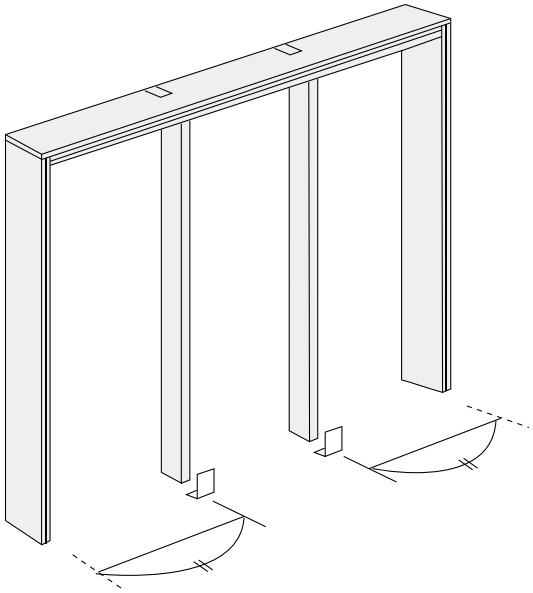


<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット

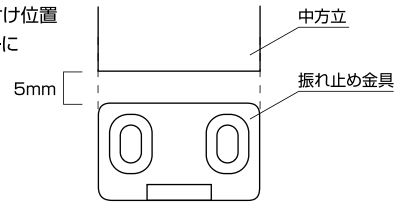




5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



片引き戸・引き違い戸・引き分け戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	モヘア	鴨居	鴨居レール幕板付（アルミ）	鴨居レール（アルミ）
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	1本	―
	引き違い戸	2本	―	―	―	1本	1本	1本
	引き分け戸	―	2本	2本	2本	1本	1本	―
備考（部材品番等）		―	―	―	―	―	―	―

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	吊車	吊車キャッチ	振れ止め金具（床付用）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm
入数	片引き戸	ZYTK14	2個	1個	1個	2個	―	4本
	引き違い戸	ZYTH14	2個	2個	2個	2個	―	8本
	引き分け戸	ZYTL18	2個	―	2個	2個	1個	8本
備考（部材品番等）			ZYTF01	ZYTC01	ZY3334	ZYTC01	ZY3337	―

ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		袋の色	赤	赤	赤	黄	黄	透明
		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	下枠固定ビス 25mm φ3.5mm	躯体接合金具ビス 47mm φ3.8mm	六角レンチ 7mm L50mm	クッションキャップ φ16
入数	片引き戸	ZYMK01-□	2本	6本	5本	10本	1本	8個
	引き違い戸	ZYMH01-□	2本	4本	9本	11本	1本	8個
	引き分け戸	ZYML01-□	2本	8本	9本	12本	1本	8個
備考（部材品番等）			―	―	使用しません	枠と躯体の固定に使用できます。	使用しません	―

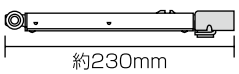
固定枠上吊り鴨居用ビス

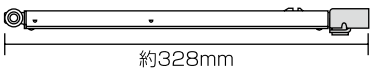
部材名		袋の色	赤
		セット品番	組み立てビス 50mm φ3.8mm
入数	片引き戸	ZY0202	4本
	引き違い戸		4本
	引き分け戸		4本
備考（部材品番等）			―

上吊り引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱包・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名				ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	片引き戸	引き違い戸	引き分け戸					
入数	ZH23SC-T	片側SC付 枠外1324・1190	―	―	1	―	1	―	1	1
	ZH23LC-T	片側SC付 枠外1824・1644・1450	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×2セット）	―	1	―	1	1	1
	ZH23SR-T	両側SC付 枠外1324・1190	―	―	2	―	2	―	2	1
	ZH23MR-T	両側SC付 枠外1450	―	―	1	1	1	1	2	1
	ZH23LR-T	両側SC付 枠外1824・1644	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×2セット）	―	2	―	2	2	1

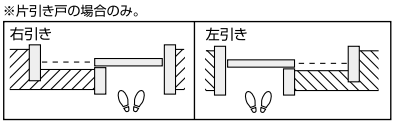
Ⓐ ショートストロークソフトクローザー　Ⓑ ロングストロークソフトクローザー





引き手方向の確認　片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



片引き戸 専用枠材

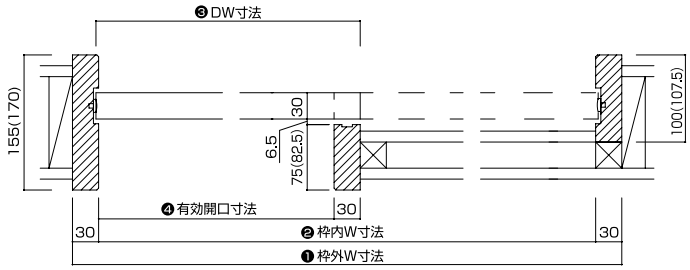
2. 片引き戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

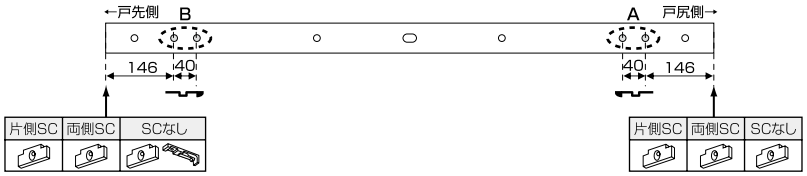
■枠製品寸法と納まり図



製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶枠外W寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❷枠内W寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❸DW寸法	900	810	713	650	583
❹有効開口寸法	867	777	680	617	550

※170巾では1,824、1,324、1,190は対応しておりません。

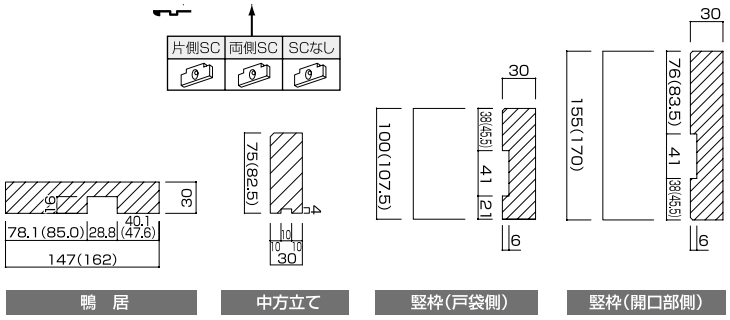
■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B
両側ソフトクローズ仕様	A·B

POINT
B　A　トリガーの取り付け向きに注意してください。



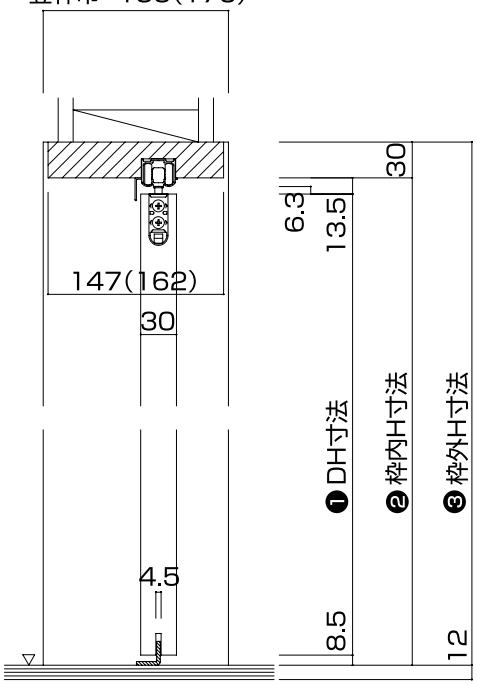
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　）内は170巾の寸法です。

縦断面図

竪枠巾=155(170)

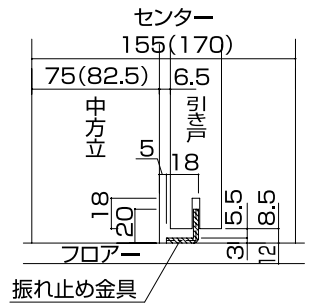
（単位：mm）



■ 納まり寸法表

製品寸法	標準タイプ DH1,983	ハイドア DH2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,005	2,205
❸枠外H寸法	2,035	2,235

振れ止め金具取り付け位置



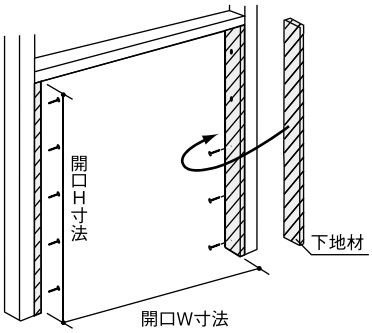
※（　）内は170巾の寸法です。

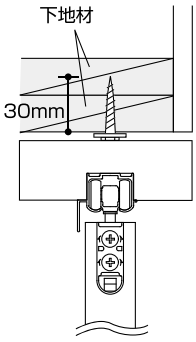
3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





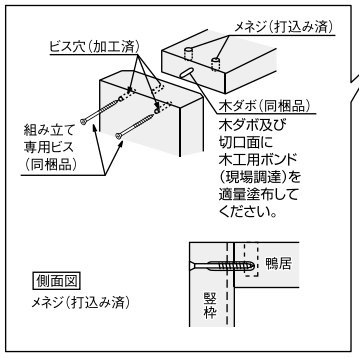
⚠ 注意

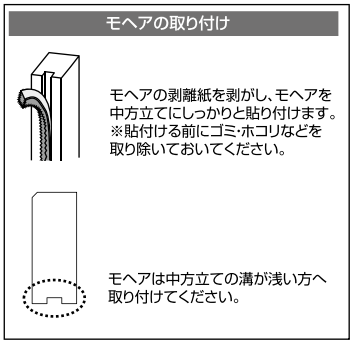
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

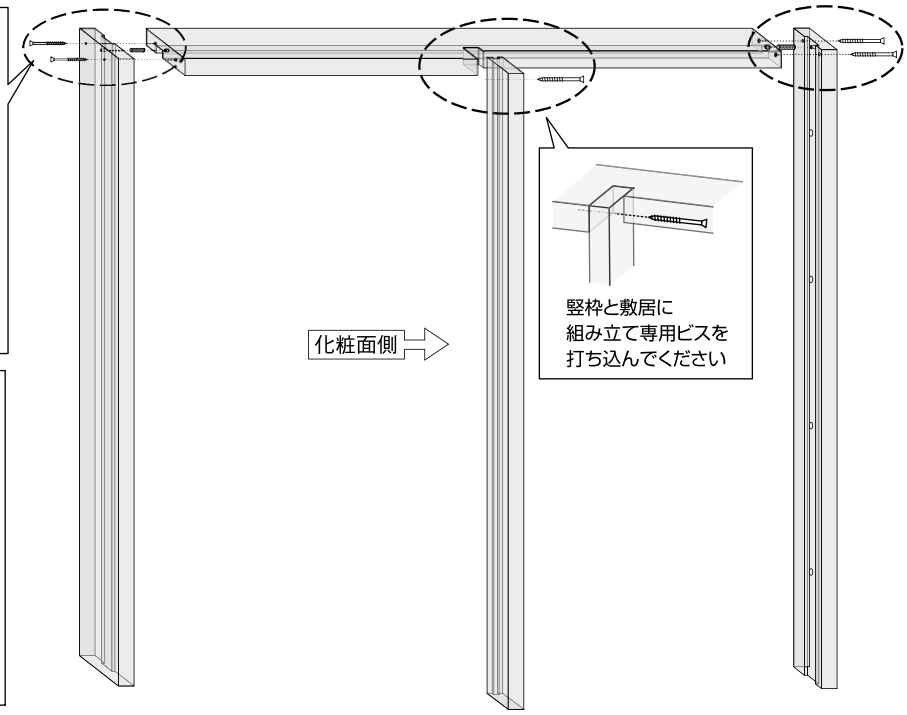
2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。





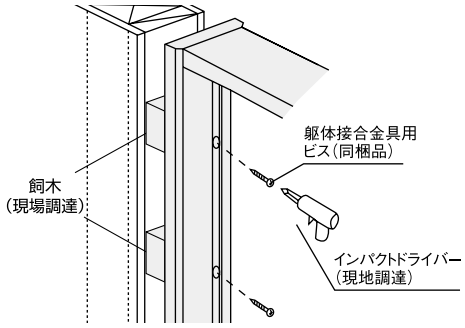


片引き戸 専用枠材

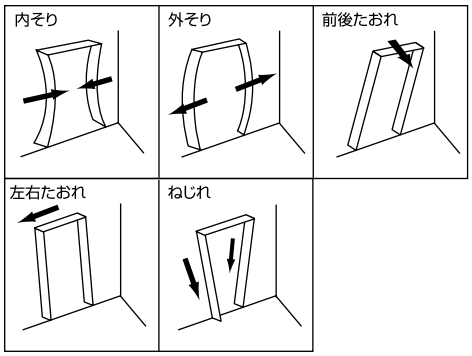
3 枠材の固定と建て付け調整

■3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

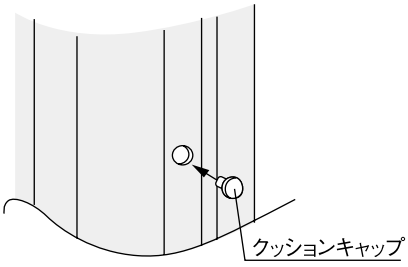
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ねじれを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



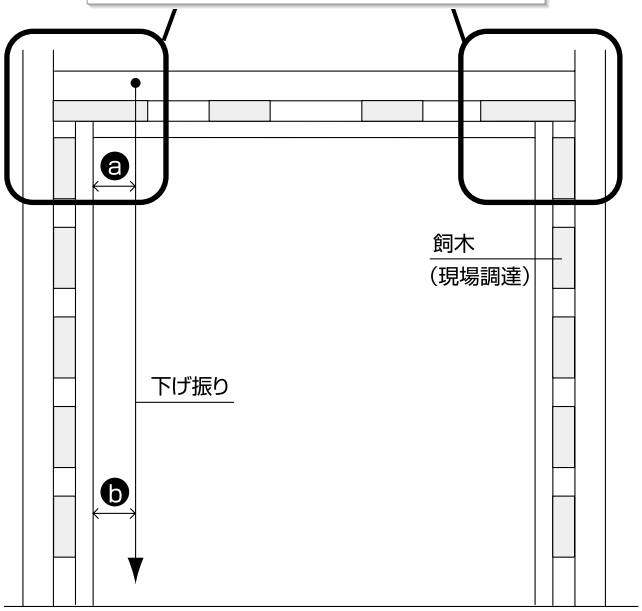
竪枠を取り付け後、
ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



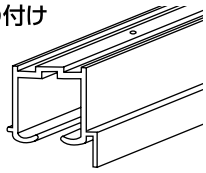
水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

4 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

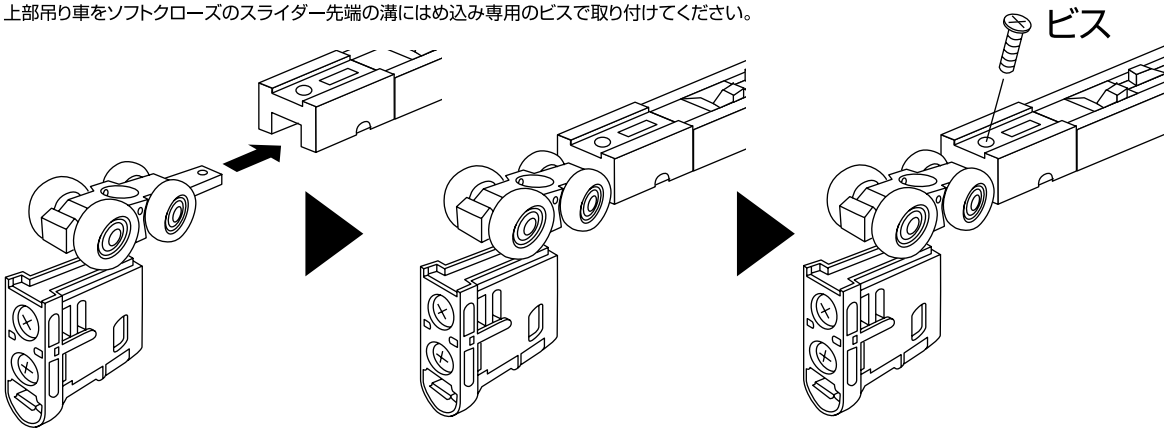
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

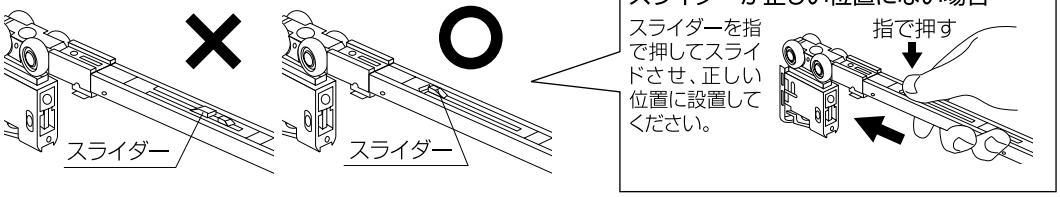


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。

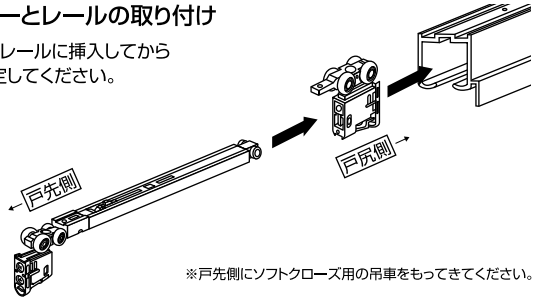


片引き戸 専用枠材

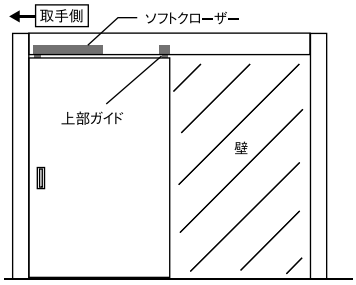
片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

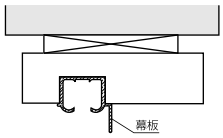


※戸先側にソフトクローズ用の吊車をもってきてください。

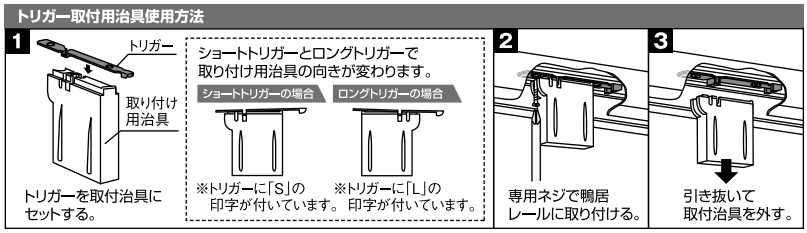


②鴨居レールの取り付け

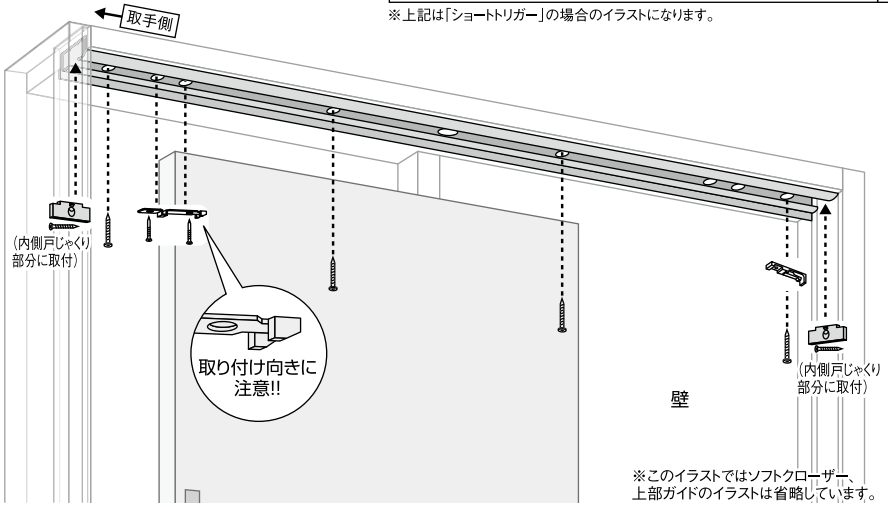
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

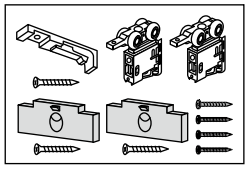


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

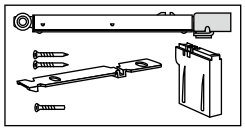


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット



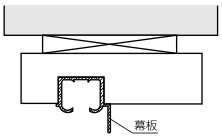
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

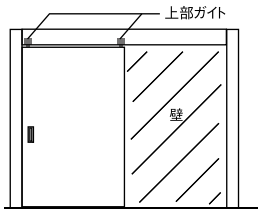


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

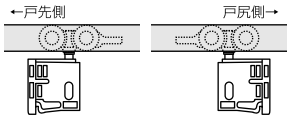
レールに付いている
幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けて
ください。

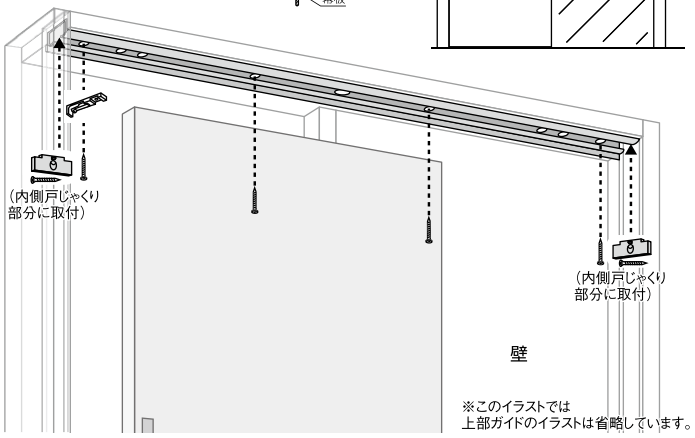




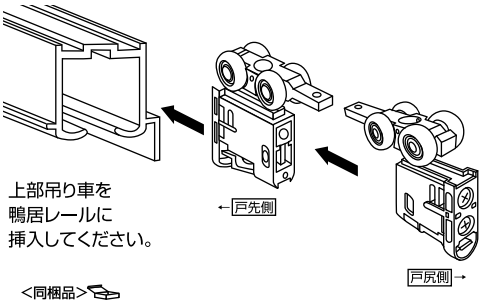
⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



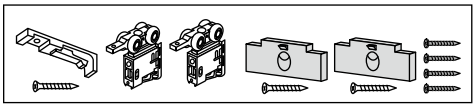


※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

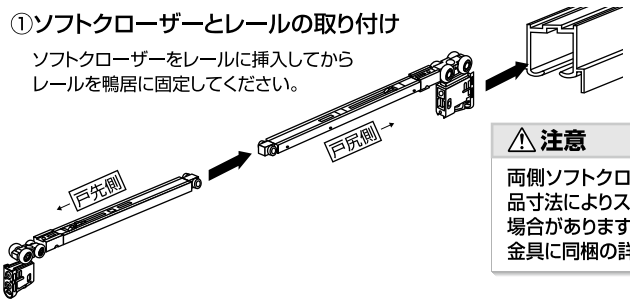
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

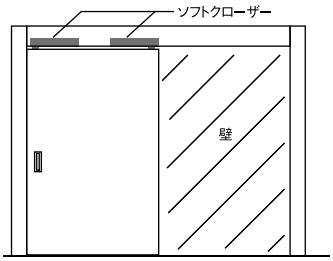
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



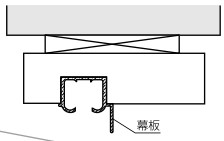
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりスライダーの種類が異なる場合があります。詳しくはソフトクローズ金具に同梱の詳細をご確認ください。

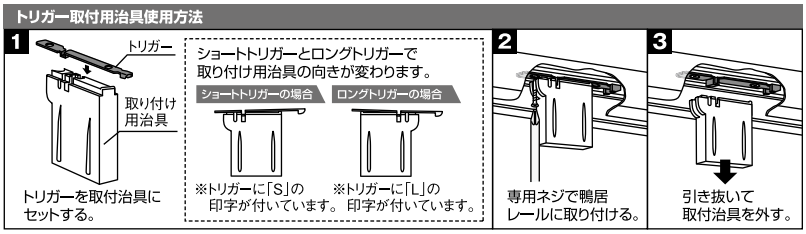


②鴨居レールの取り付け

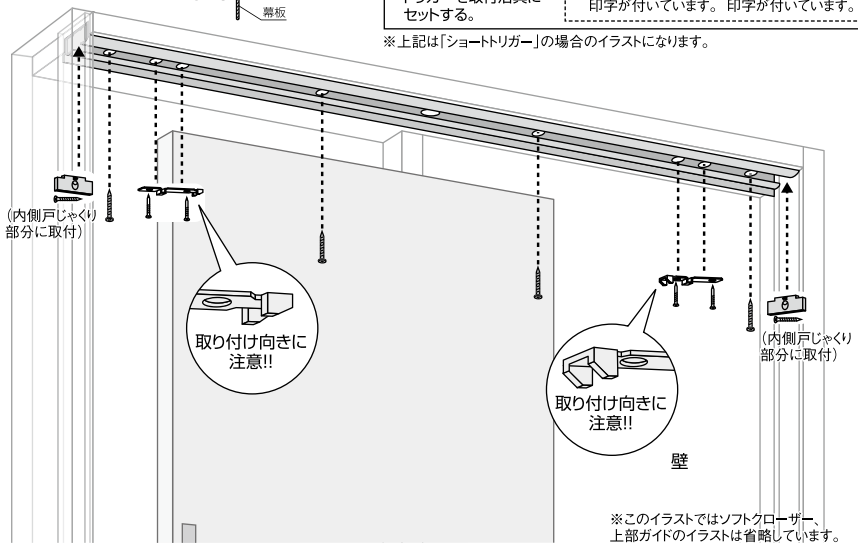
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

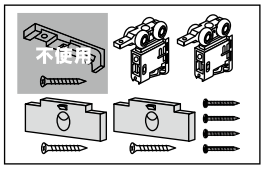


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

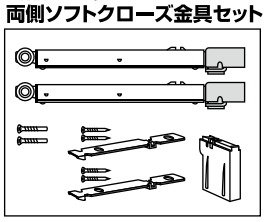


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

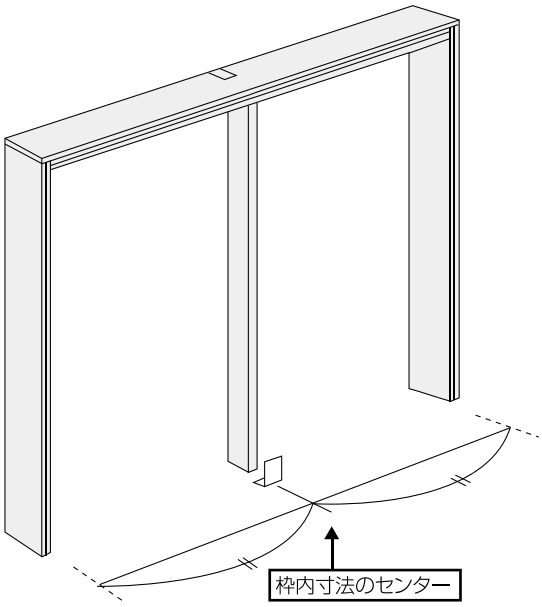
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



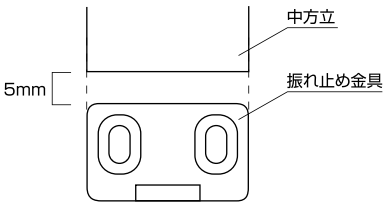
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け

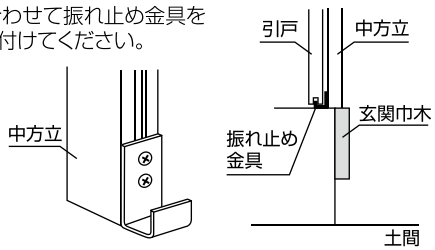


振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



上吊り中方立取り付け用振れ止め金具（別売品）の場合

中方立の下端に合わせて振れ止め金具を
同梱のビスで取り付けてください。



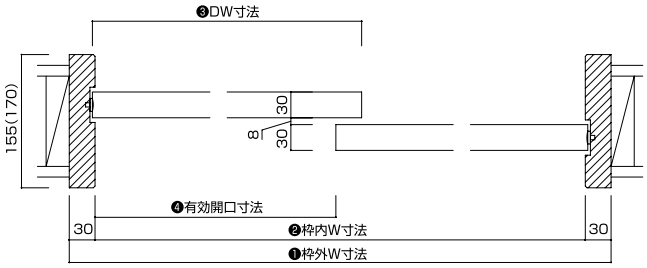
引き違い戸 専用枠材

4. 引き違い戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

■ 枠製品寸法と納まり図

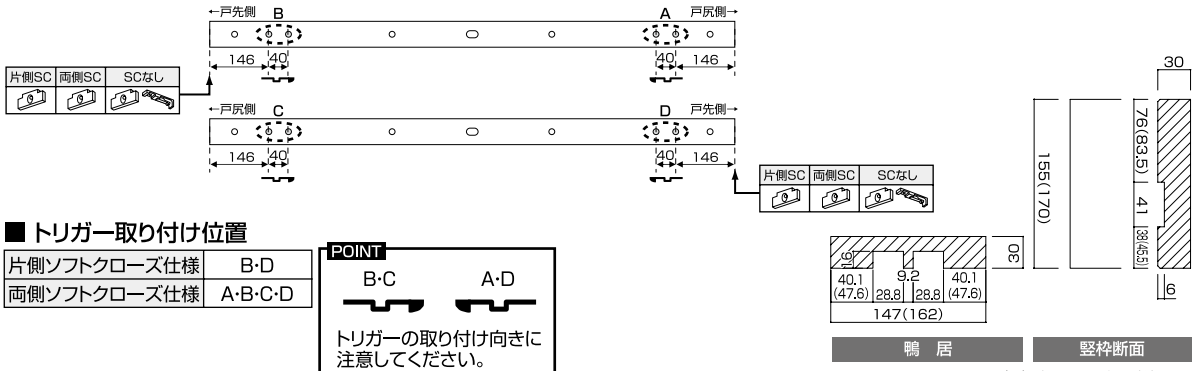


（単位：mm）

製品寸法	1,824	1,644
❶枠外W寸法	1,824	1,644
❷枠内W寸法	1,764	1,584
❸DW寸法	900	810
❹有効開口寸法	864	774

※170 巾では 1,824 は対応しておりません。

■ レール詳細図



■ トリガー取り付け位置

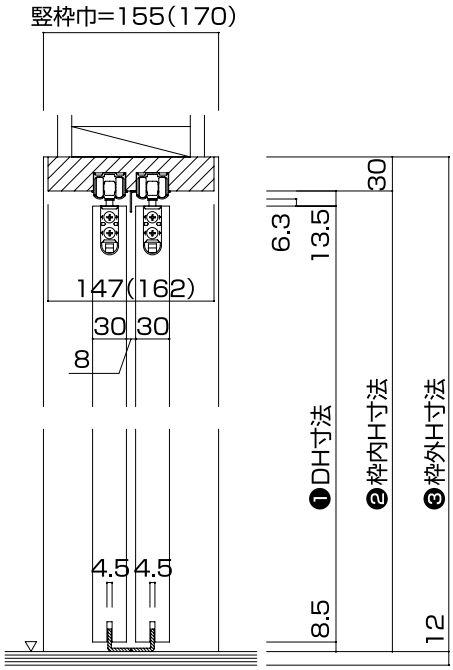
片側ソフトクローズ仕様	B·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT
B·C　A·D
トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

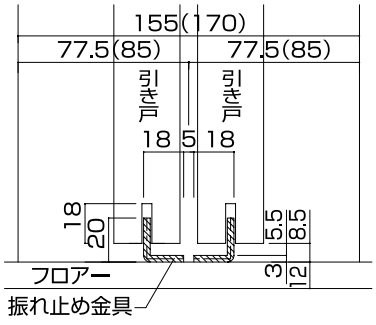
※（ ）内は 170 巾の寸法です。

縦断面図



（単位：mm）

振れ止め金具取り付け位置



■ 納まり寸法表

製品寸法	標準タイプ DH1,983	ハイドア DH2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,005	2,205
❸枠外H寸法	2,035	2,235

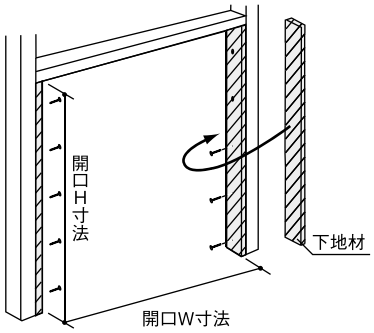
※（ ）内は 170 巾の寸法です。

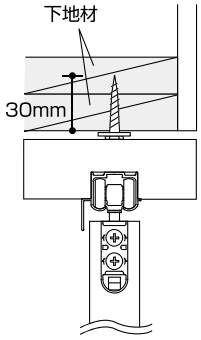
5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





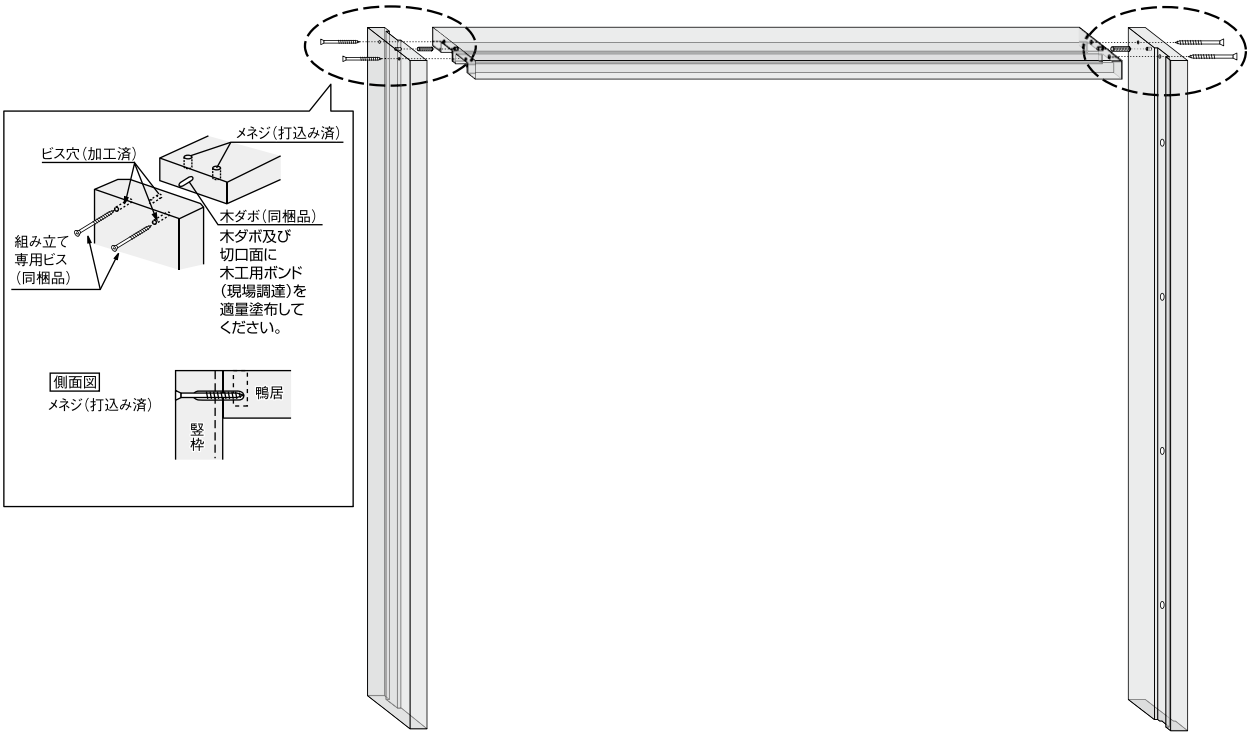
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。

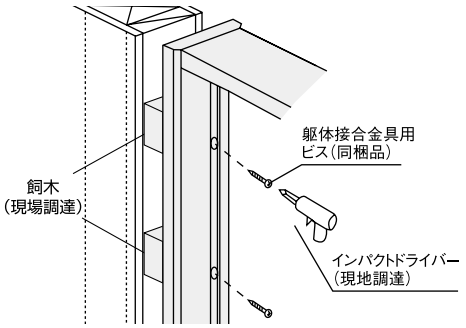


引き違い戸 専用枠材

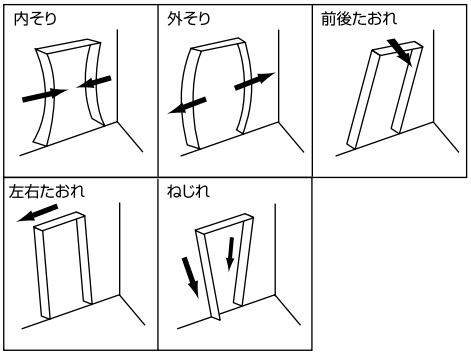
3 枠材の固定と建て付け調整

■3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

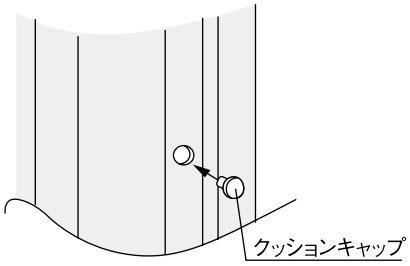
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ねじれを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



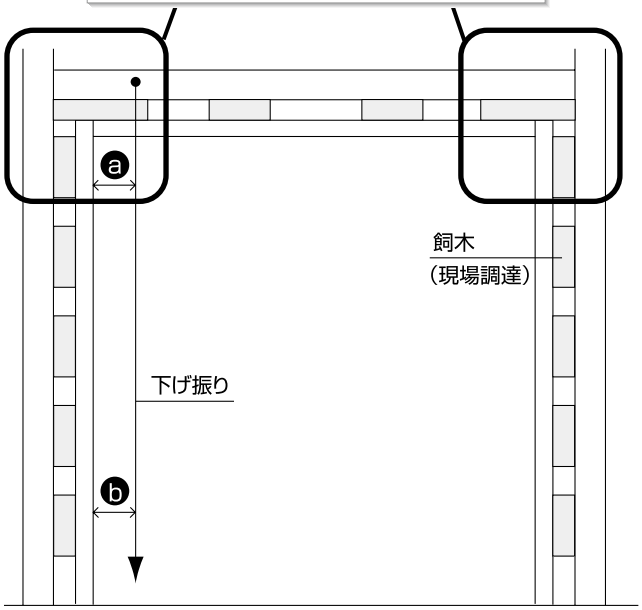
竪枠を取り付け後、
ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



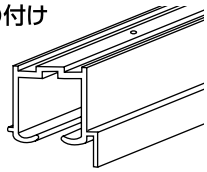
水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

4 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

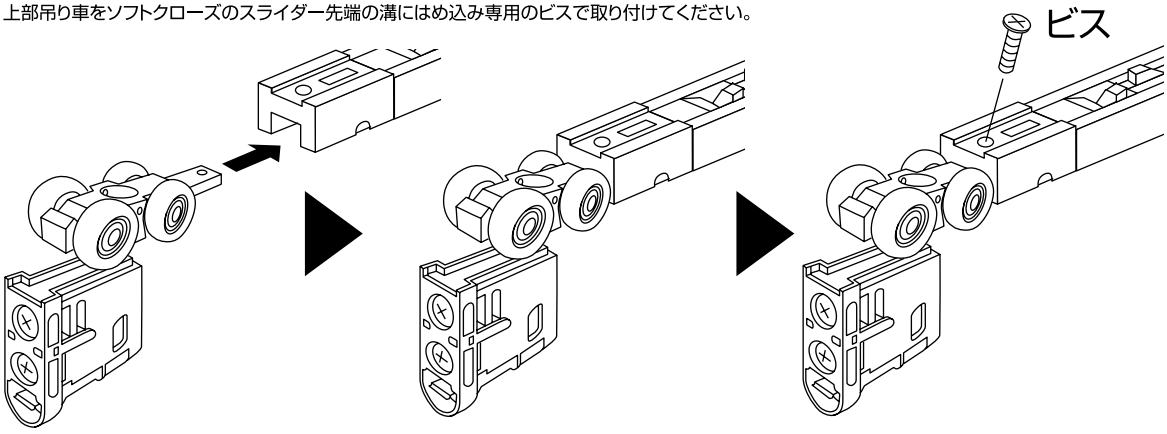
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

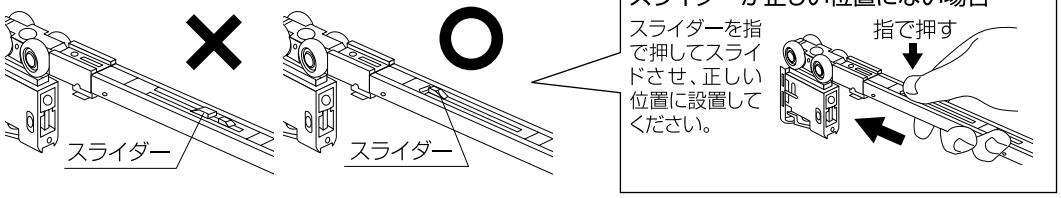


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。

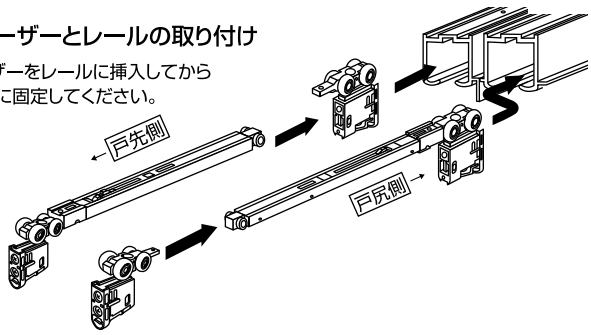


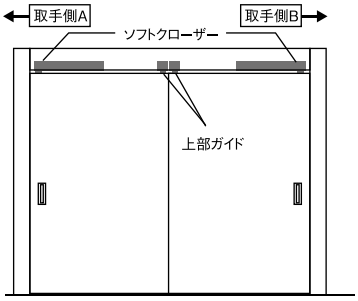
引き違い戸 専用枠材

片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

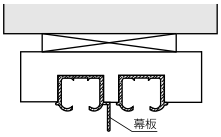
ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



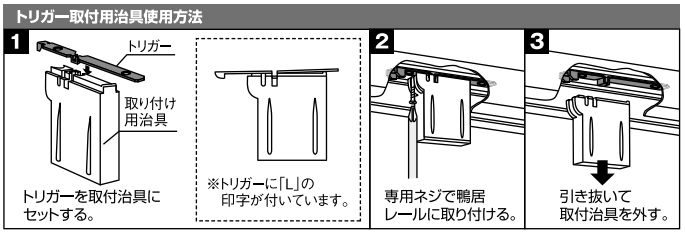


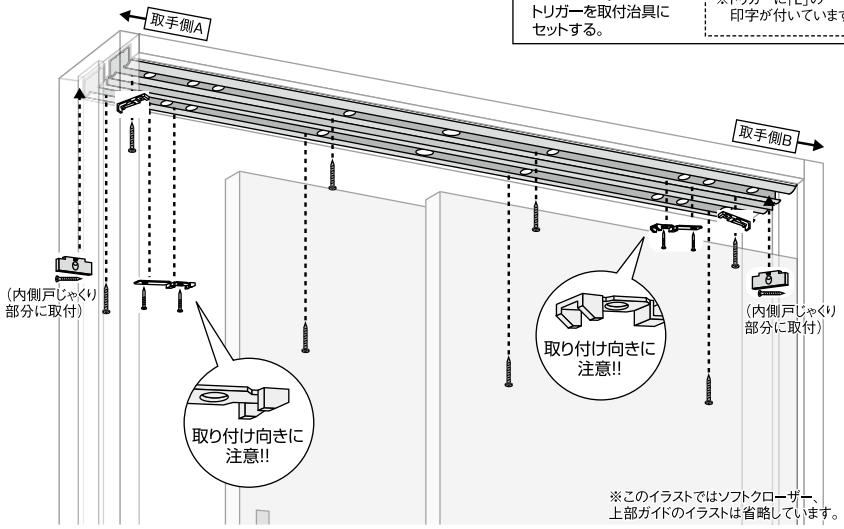
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付けて
ください。引き違い戸では
片方のレールには幕板は
つきません。

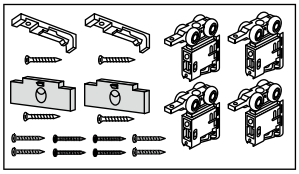


トリガー取付用治具使用方法

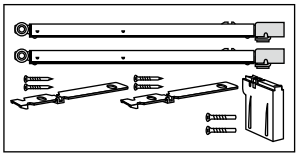




<同梱品>
上吊り片引用金具セット



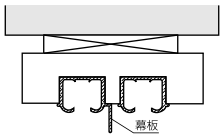
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

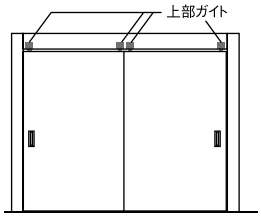


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

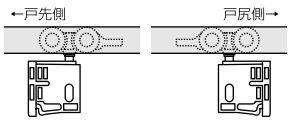
レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付けて
ください。引き違い戸では
片方のレールには幕板は
つきません。

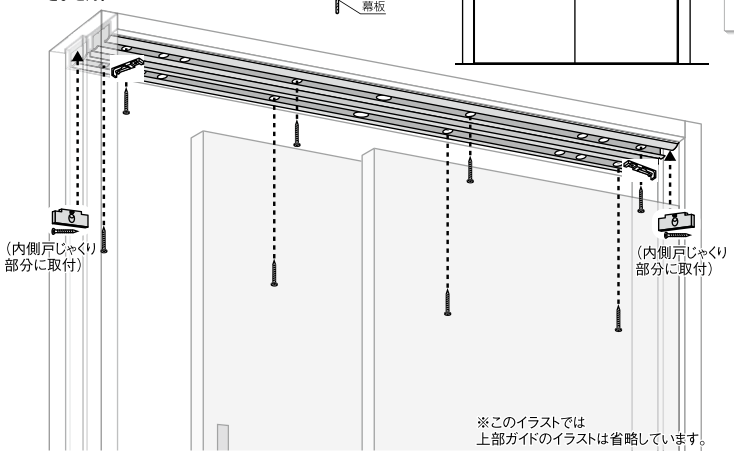


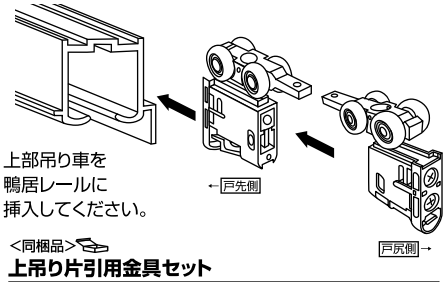


⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

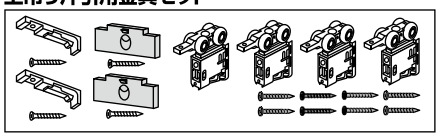






上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

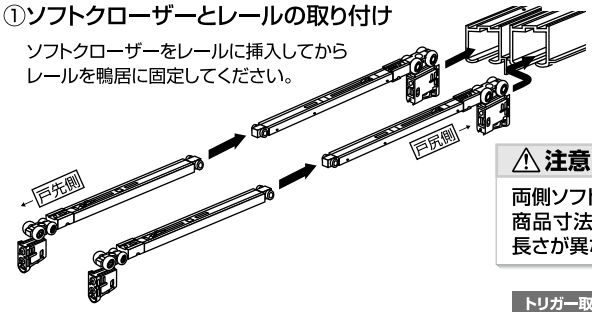
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

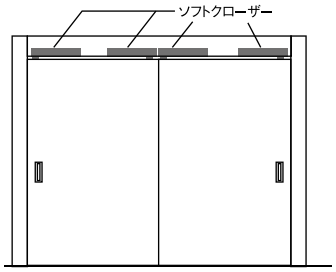
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



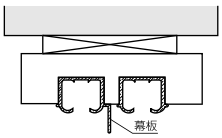
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりソフトクローザーの長さが異なる場合があります。

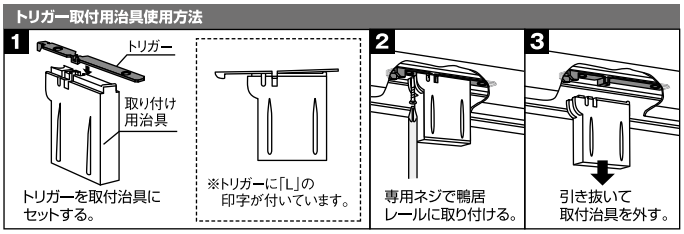


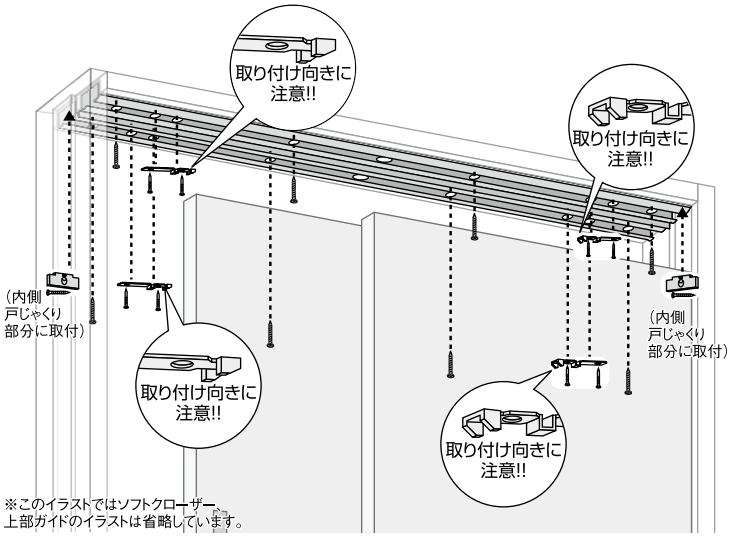
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。引き違い戸では片方のレールには幕板はつきません。

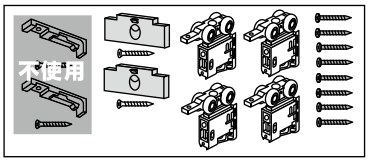


トリガー取付用治具使用方法

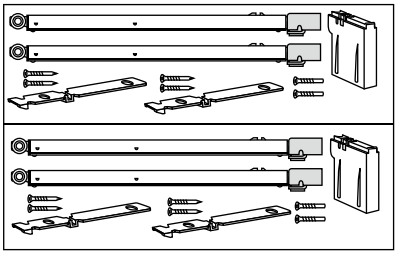




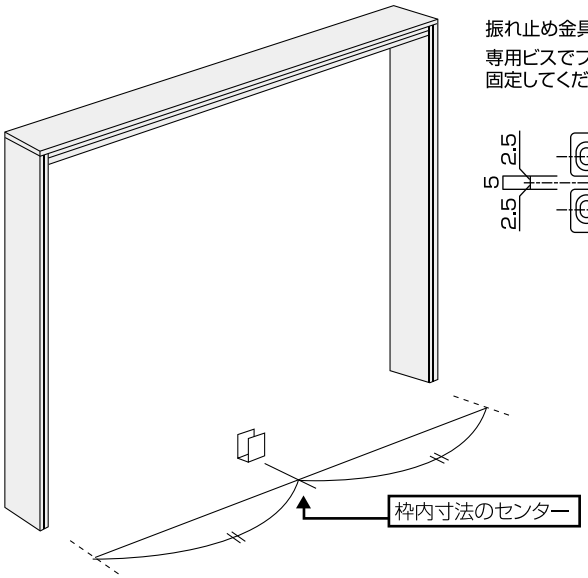
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



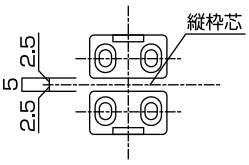
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに固定してください。



引き分け戸 専用枠材

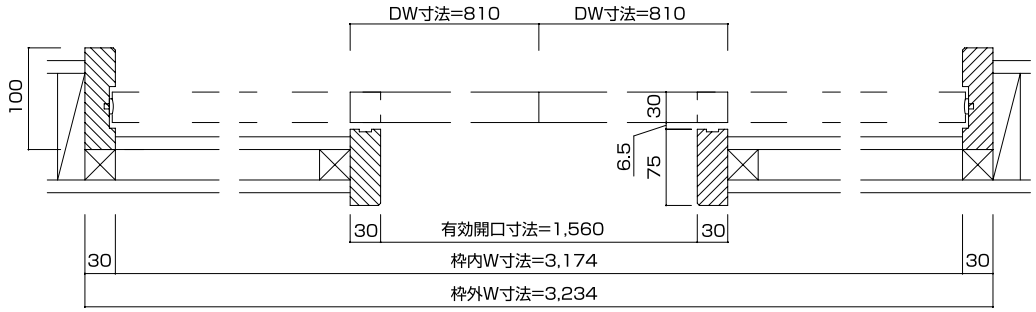
6. 引き分け戸 納まり図

※170巾は対応しておりません。
下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

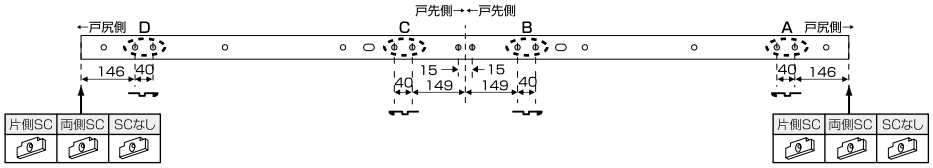
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



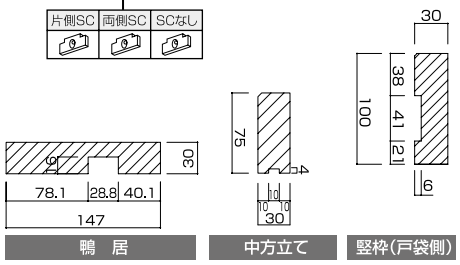
■レール詳細図



■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

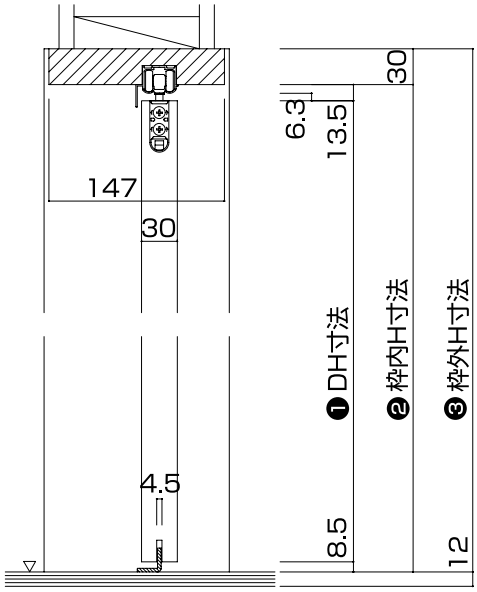
POINT
B·D　A·C
トリガーの取り付け向きに注意してください。



※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

縦断面図

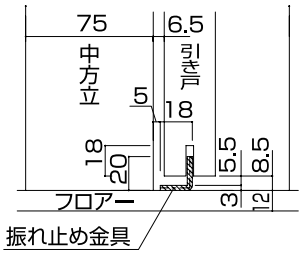
（単位：mm）



■ 納まり寸法表

製品寸法	標準タイプ DH1,983	ハイドア DH2,183
❶DH寸法	1,983	2,183
❷枠内H寸法	2,005	2,205
❸枠外H寸法	2,035	2,235

振れ止め金具取り付け位置

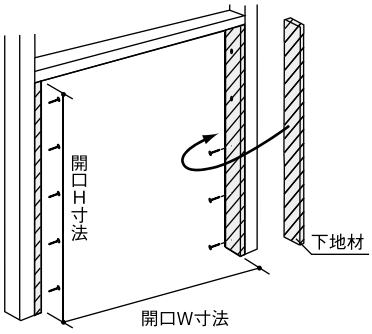


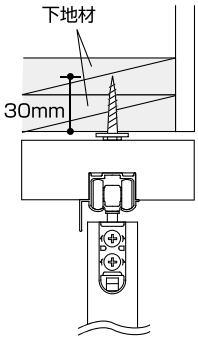
7.引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





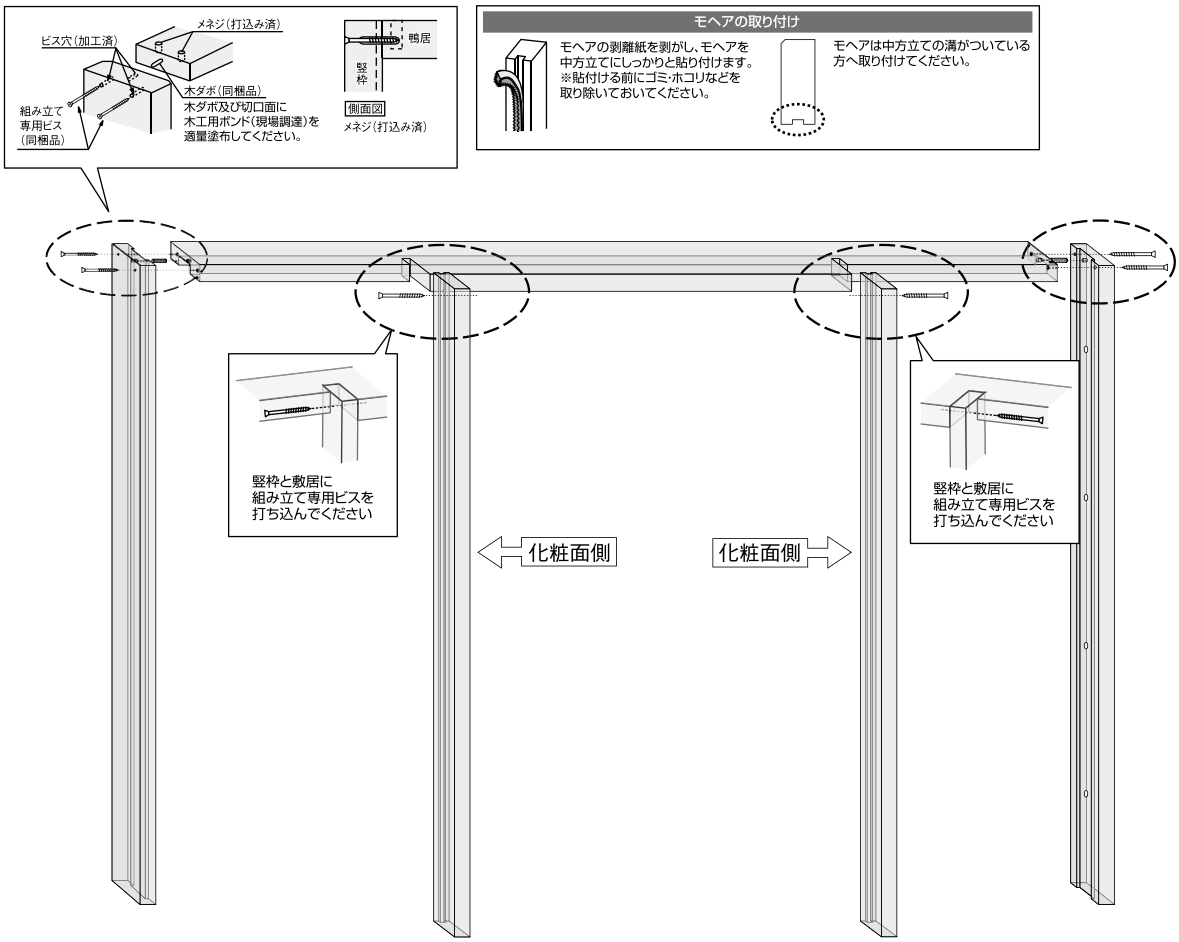
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス･ダボなどを使用してください。

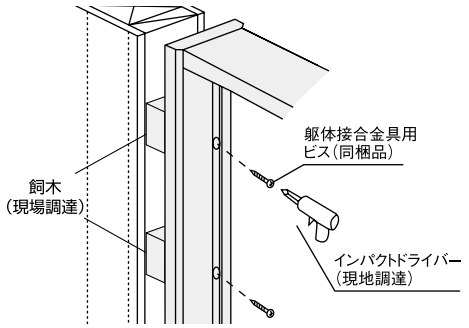


引き分け戸 専用枠材

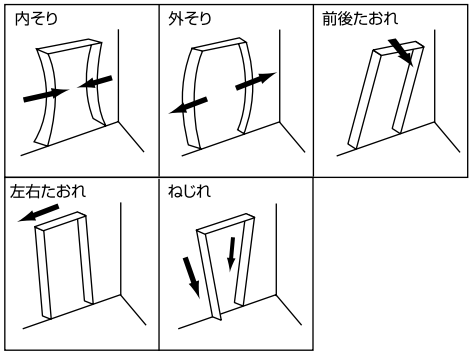
3 枠材の固定と建て付け調整

■3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

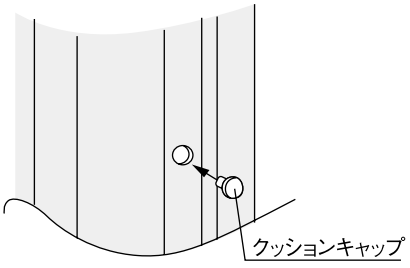
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ねじれを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。



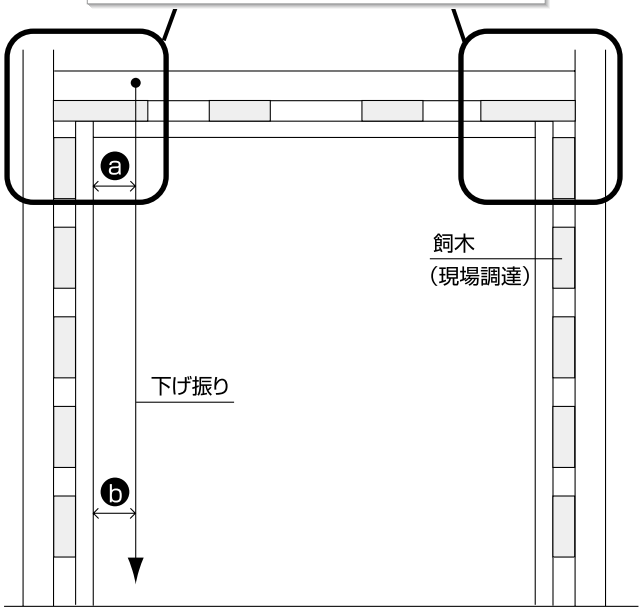
竪枠を取り付け後、
ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



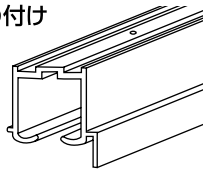
水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

4 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

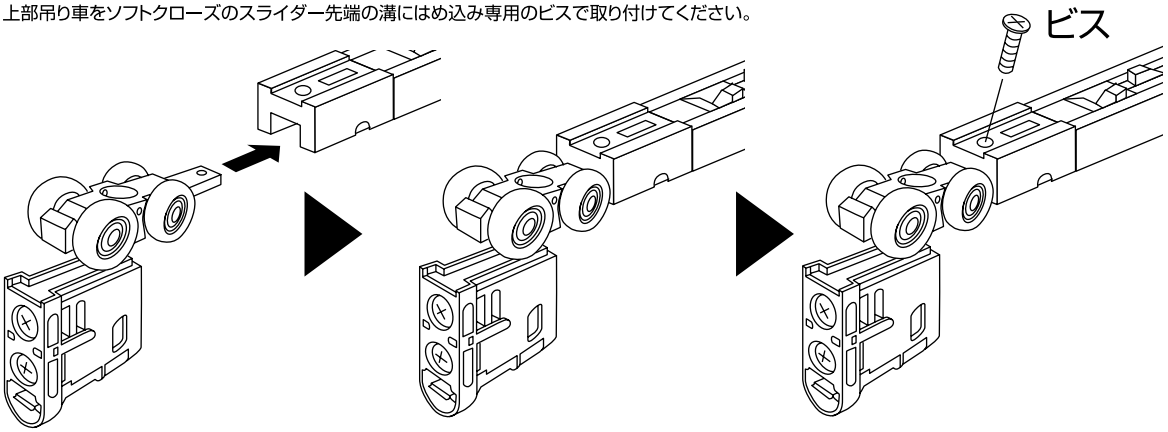
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

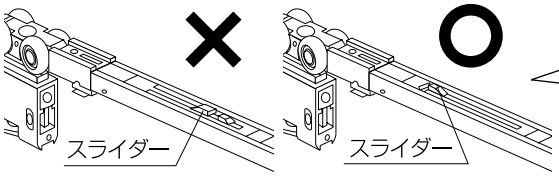


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

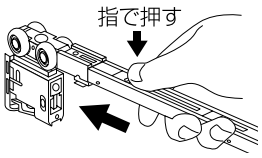
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。

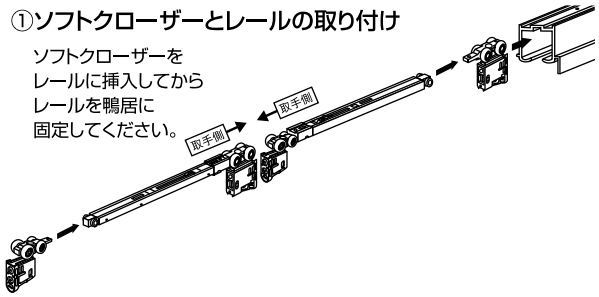


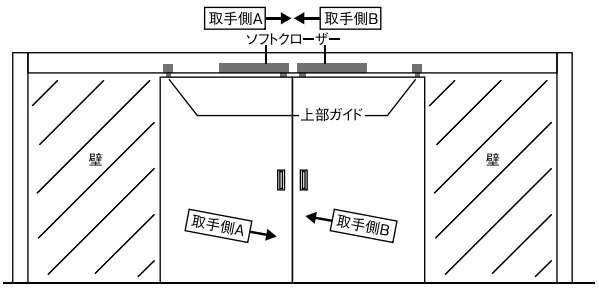
引き分け戸 専用枠材

片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

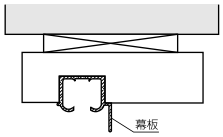
ソフトクローザーを
レールに挿入してから
レールを鴨居に
固定してください。



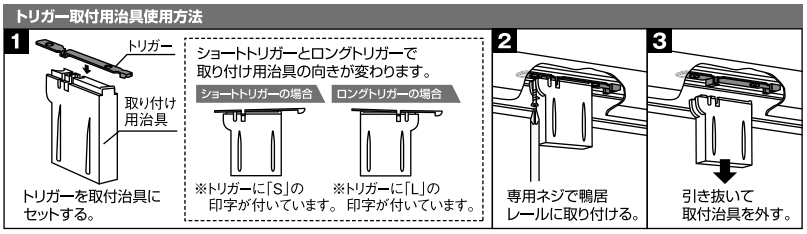


②鴨居レールの取り付け

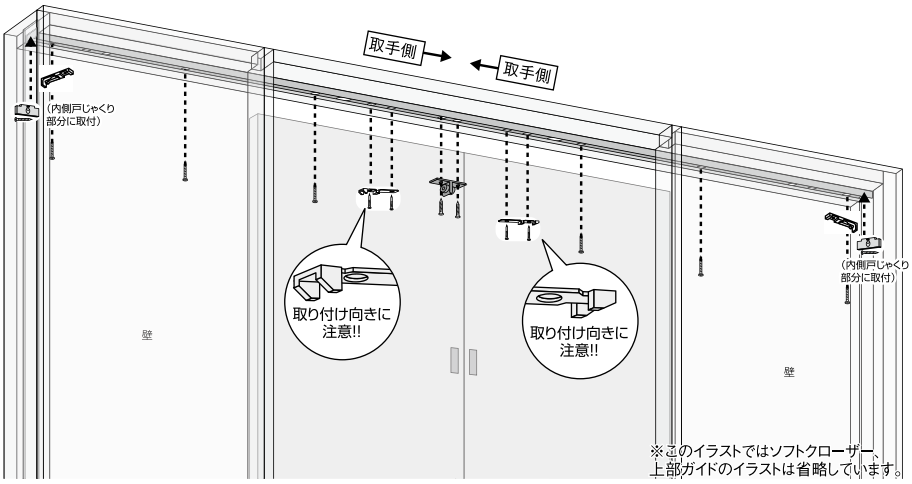
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



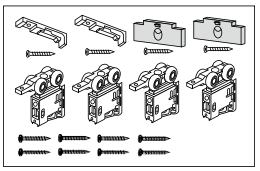
トリガー取付用治具使用方法



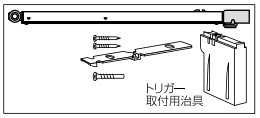
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

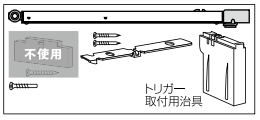


<同梱品>
上吊り片引用金具セット



<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

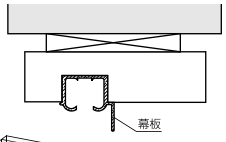


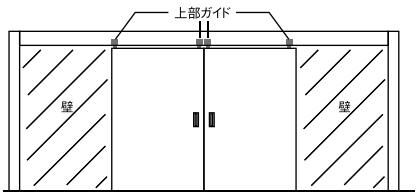


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

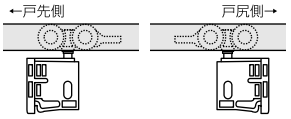
レールに付いている幕板を、鴨居
芯側に向けて取り付けてください。

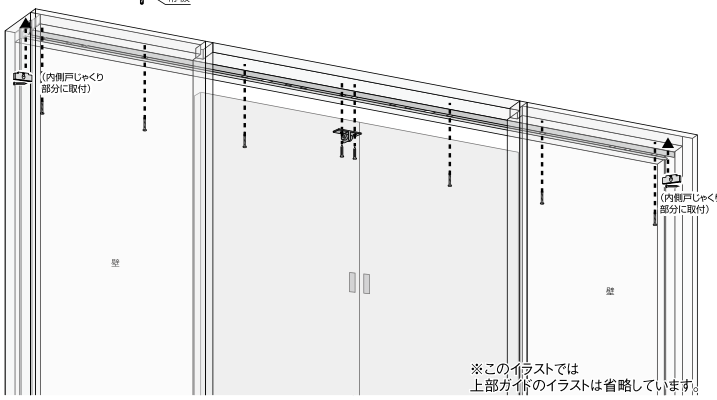


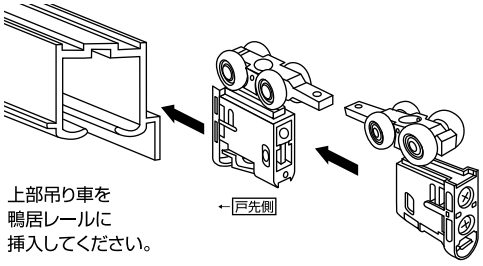


⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

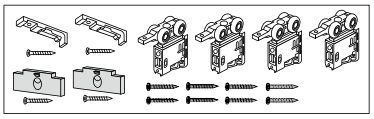






上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

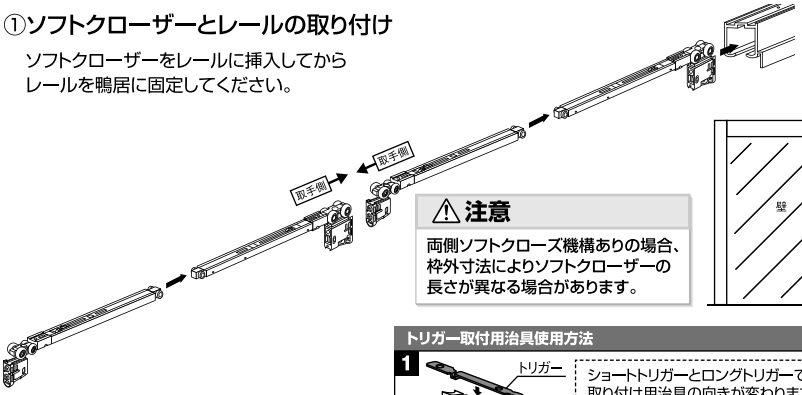
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



両側ソフトクローズ オプション

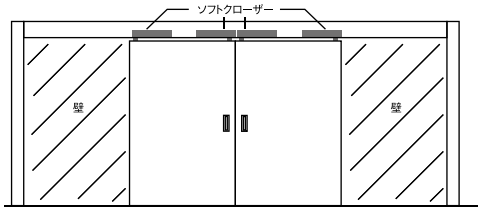
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

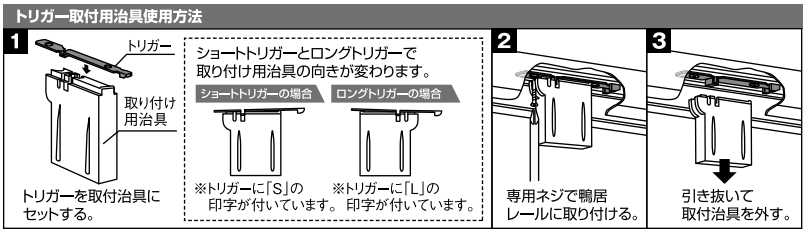


⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、
枠外寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。



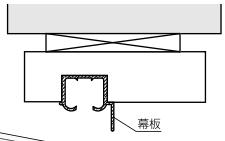
トリガー取付用治具使用方法

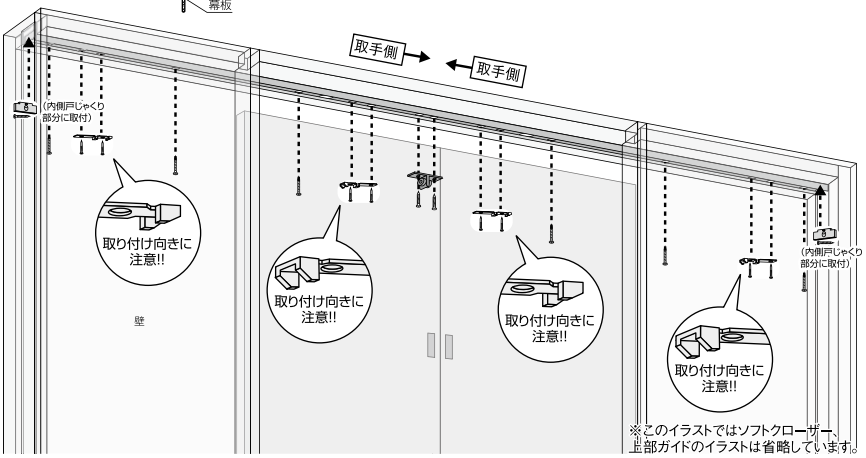


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

②鴨居レールの取り付け

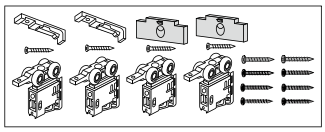
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



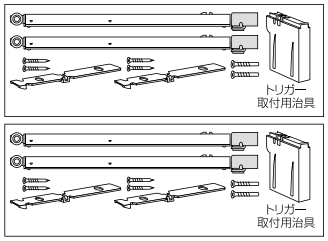


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

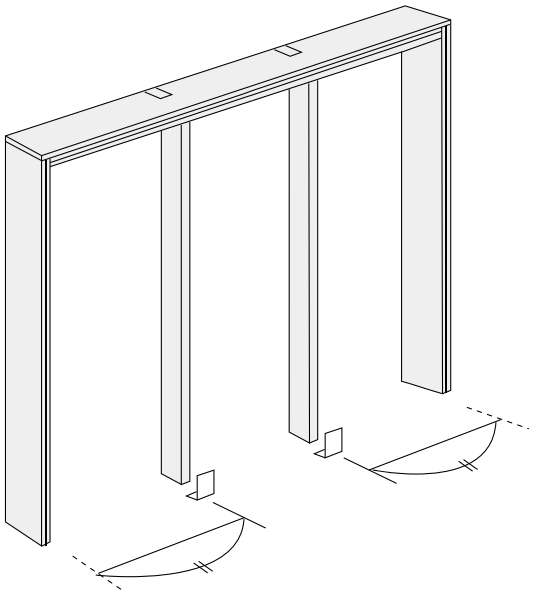
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



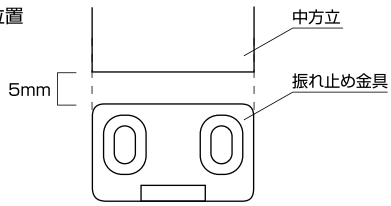
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



集合住宅用 片引き戸・引き違い戸・引き分け戸 専用枠材

1.開梱

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

枠本体セット

部材名		竪枠（開口部側）	竪枠（戸袋側）	中方立	鴨居	鴨居レール幕板付（アルミ）	鴨居レール（アルミ）
入数	片引き戸	1本	1本	1本	1本	1本	―
	引き違い戸	2本	―	―	1本	1本	1本
	引き分け戸	―	2本	2本	1本	1本	―
備考（部材品番等）		―	―	―	―	―	―

金具セット（枠本体セットに梱包）

部材名		セット品番	吊車	吊車キャッチ	振れ止め金具（床付用）	戸じゃくりキャップ	引き分けストッパー
入数	片引き戸	ZYTK54	2個	1個	1個	2個	―
	引き違い戸	ZYTH54	2個	2個	2個	2個	―
	引き分け戸	ZYTL58	2個	―	2個	2個	1個
備考（部材品番等）			ZYTF01	ZYTC01	ZY3334	ZYTC01	ZY3337

ビスセット（枠本体セットに梱包）

部材名		袋の色	赤	赤	赤	赤	透明	透明
		セット品番	木ダボ 6mm 35mm	組み立てビス 62mm φ3.8mm	敷居組み立てビス 62mm φ3.8mm	敷居ベースビス 25mm φ3.5mm	クッションキャップ φ16	上レール取り付けビス（平ビス） 14mm φ3.5mm
入数	片引き戸	ZYBB34-□	2本	6本	4本	6本	8個	4本
	引き違い戸	ZYBB35-□	2本	4本	4本	6本	8個	8本
	引き分け戸	ZYBB36-□	2本	8本	4本	10本	8個	14本
備考（部材品番等）			―	―	使用しません	使用しません	―	使用しません

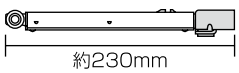
上レール固定用ビス

部材名		袋の色	赤
		セット品番	ビス 15mm φ3.5mm
入数	片引き戸	ZY000B	6本
	引き違い戸		12本
	引き分け戸		24本
備考（部材品番等）			―

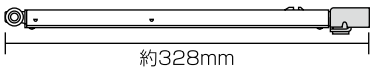
上吊り引き戸クローザーセット梱包内訳一覧（別梱包・ソフトクローズ仕様の場合のみ）

部材名				ショートストロークソフトクローザー Ⓐ	ロングストロークソフトクローザー Ⓑ	ショートストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	ロングストローク用トリガーセット（ビス2本セット）	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	トリガー取り付け治具
	セット品番	片引き戸	引き違い戸	引き分け戸					
入数	ZH23SC-T	片側SC付 枠外1324·1190	―	―	1	―	1	―	1	1
	ZH23LC-T	片側SC付 枠外1824·1644·1450	片側SC付（×2セット）	片側SC付（×2セット）	―	1	―	1	1	1
	ZH23SR-T	両側SC付 枠外1324·1190	―	―	2	―	2	―	2	1
	ZH23MR-T	両側SC付 枠外1450	―	―	1	1	1	1	2	1
	ZH23LR-T	両側SC付 枠外1824·1644	両側SC付（×2セット）	両側SC付（×2セット）	―	2	―	2	2	1

Ⓐショートストロークソフトクローザー

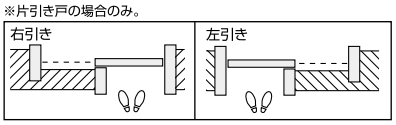


Ⓑ ロングストロークソフトクローザー



引き手方向の確認 片引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

※片引き戸の場合のみ。



集合住宅用 片引き戸 専用枠材

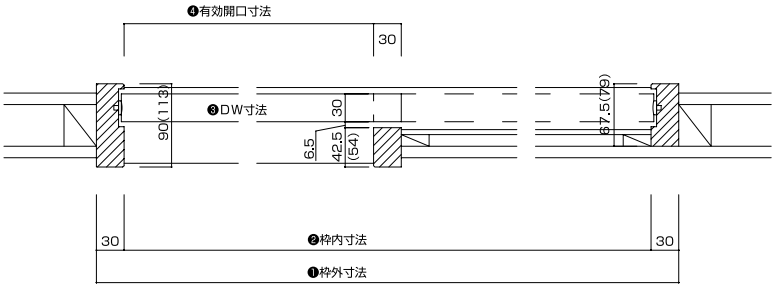
2. 片引き戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

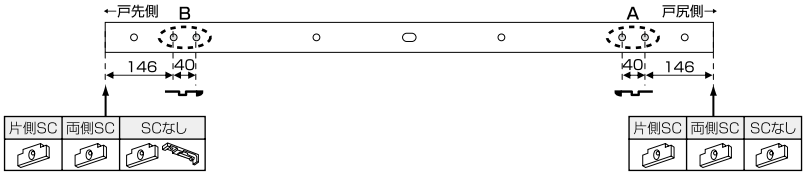
■枠製品寸法と納まり図



■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❶枠外寸法	1,824	1,644	1,450	1,324	1,190
❷枠内寸法	1,764	1,584	1,390	1,264	1,130
❸DW寸法	900	810	713	650	583
❹有効開口寸法	867	777	680	617	550

■レール詳細図



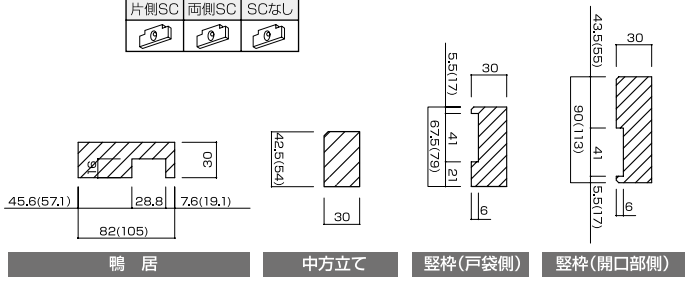
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B
両側ソフトクローズ仕様	A·B

POINT

トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

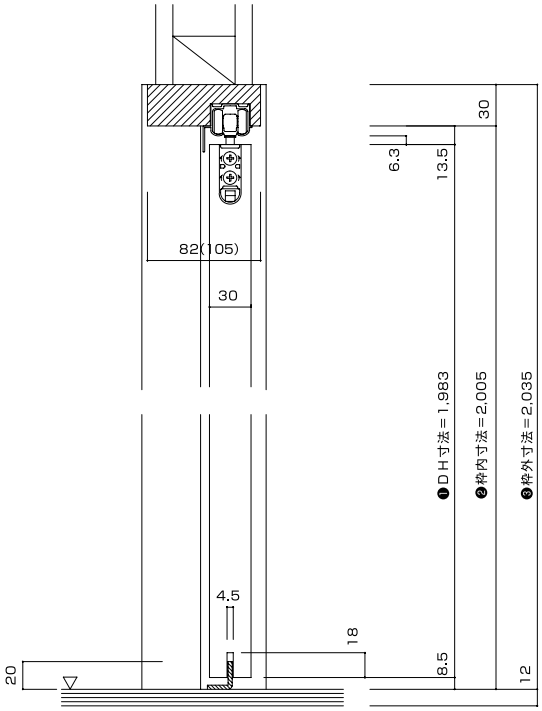


※（　）内は 113 巾の寸法です。

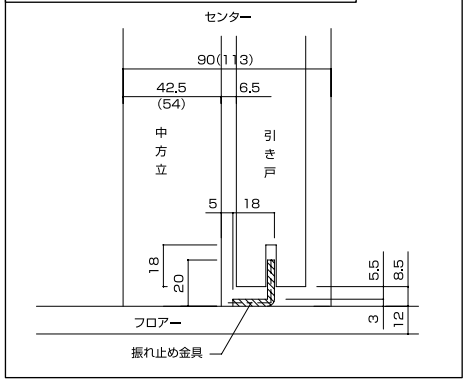
縦断面図

（単位：mm）

※（　）内は 113 巾の寸法です。



振れ止め金具取り付け位置　S=1/2



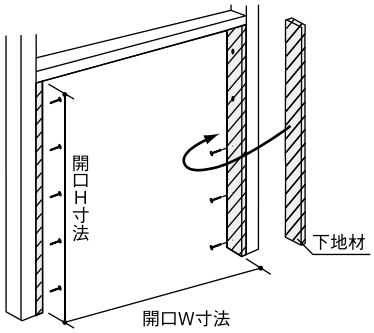
集合住宅用 片引き戸 専用枠材

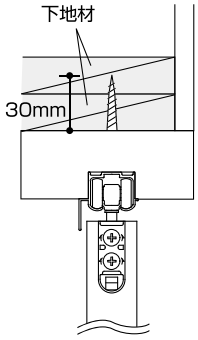
3. 片引き戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





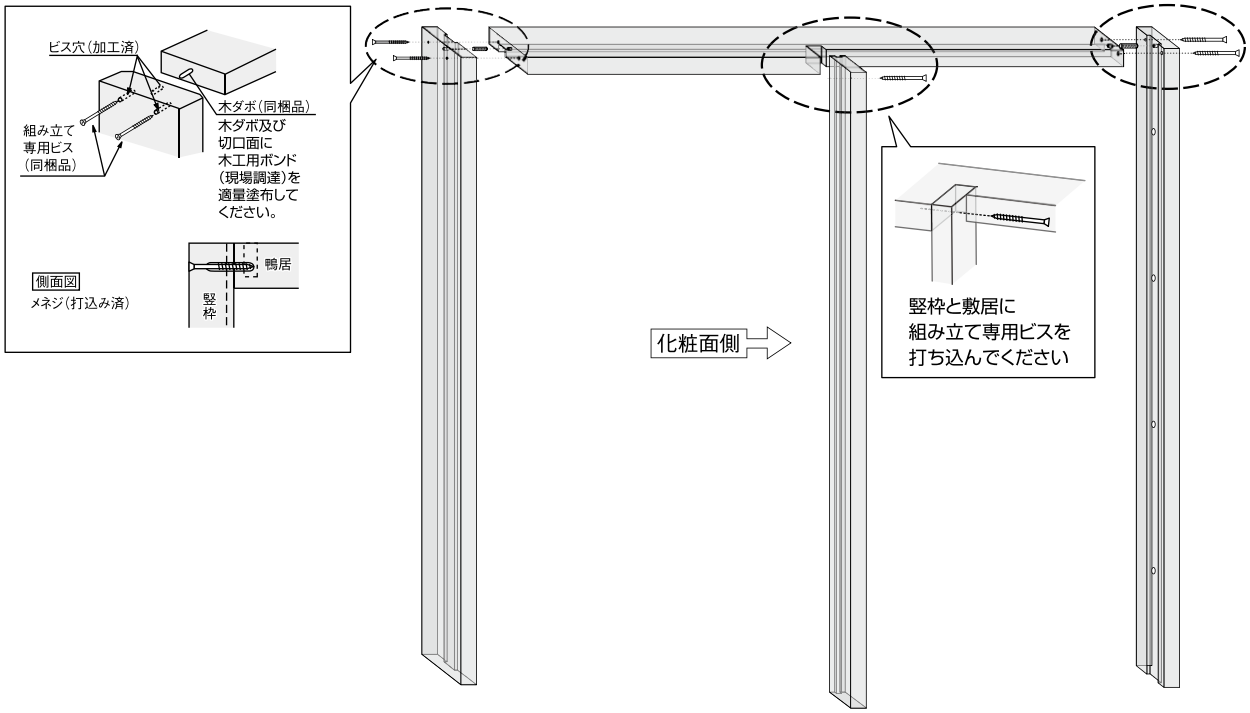
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

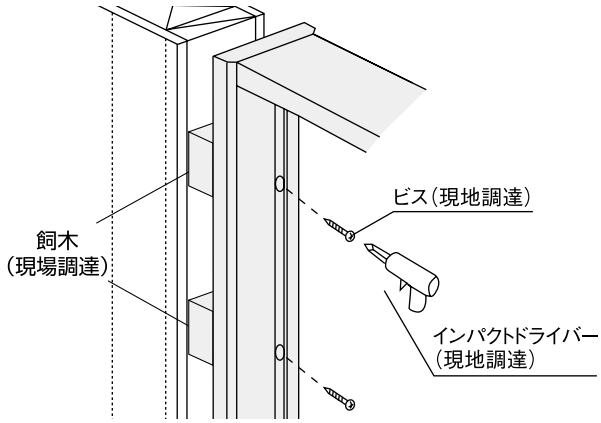
部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。



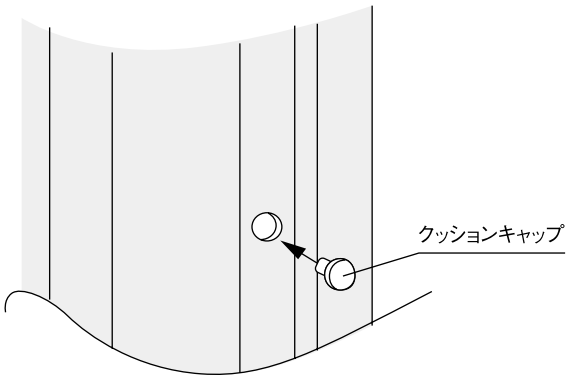
3 枠材の固定と建て付け調整

■3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ねじれを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は現地調達したビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



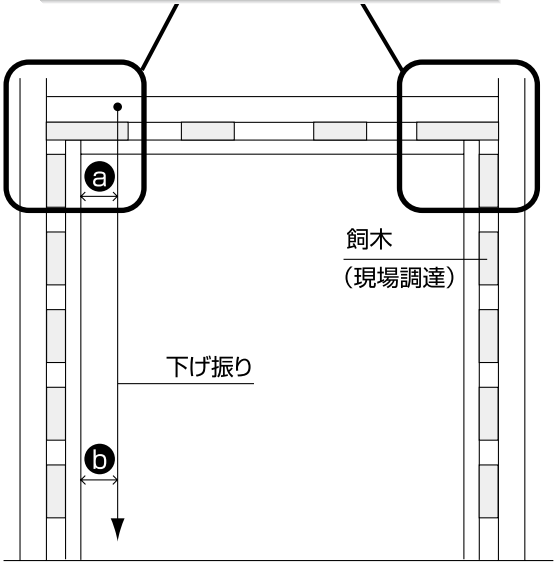
竪枠を取り付け後、
ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

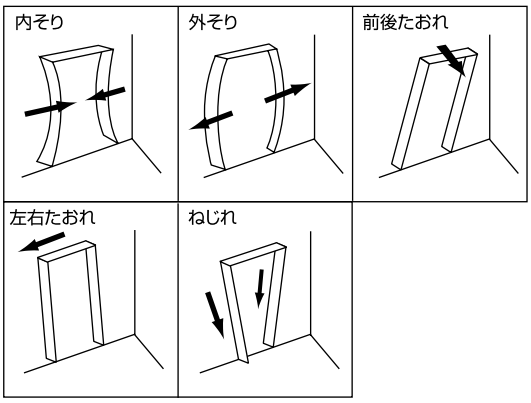
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

※下記の様なことがないようご注意ください。



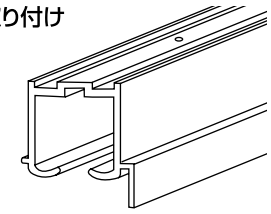
集合住宅用 片引き戸 専用枠材

4 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

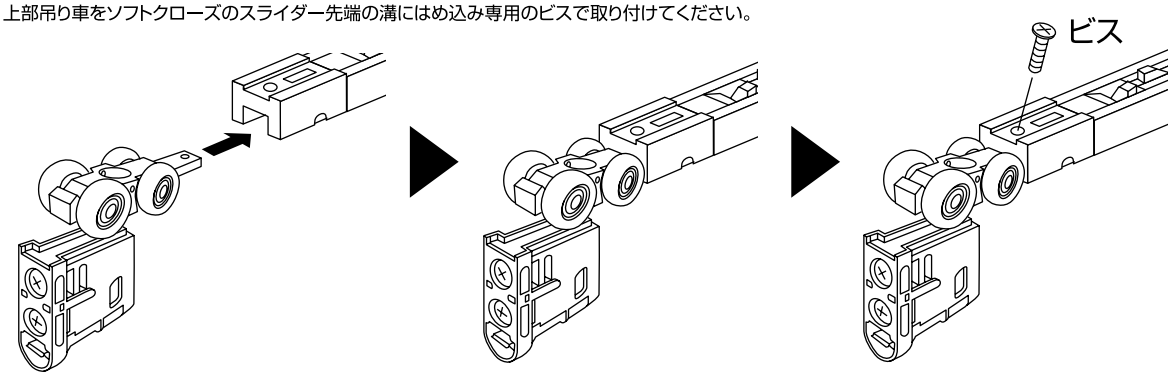
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

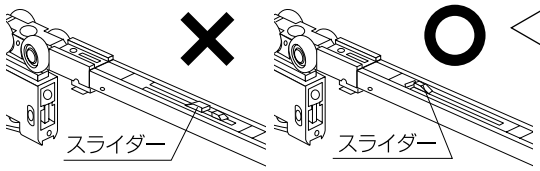


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

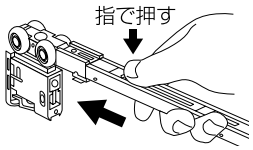
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

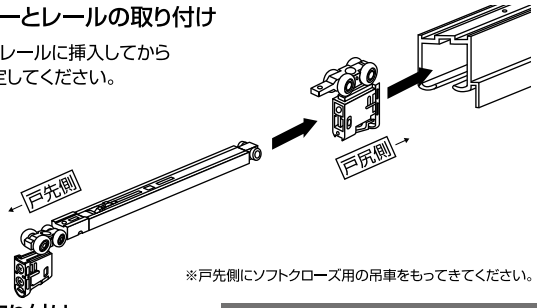
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



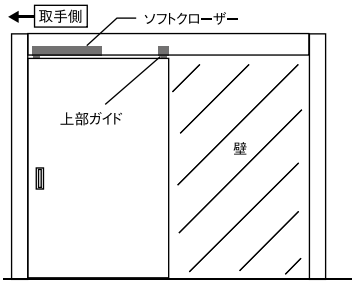
片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。

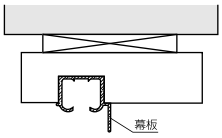


※戸先側にソフトクローズ用の吊車をもってきてください。

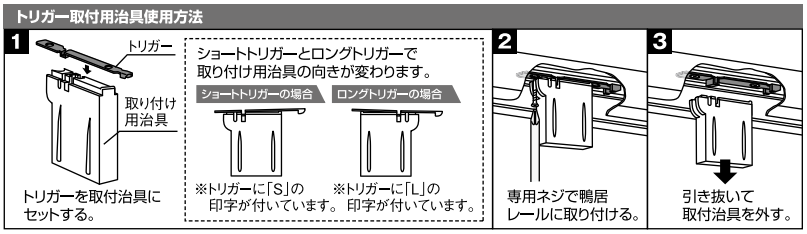


②鴨居レールの取り付け

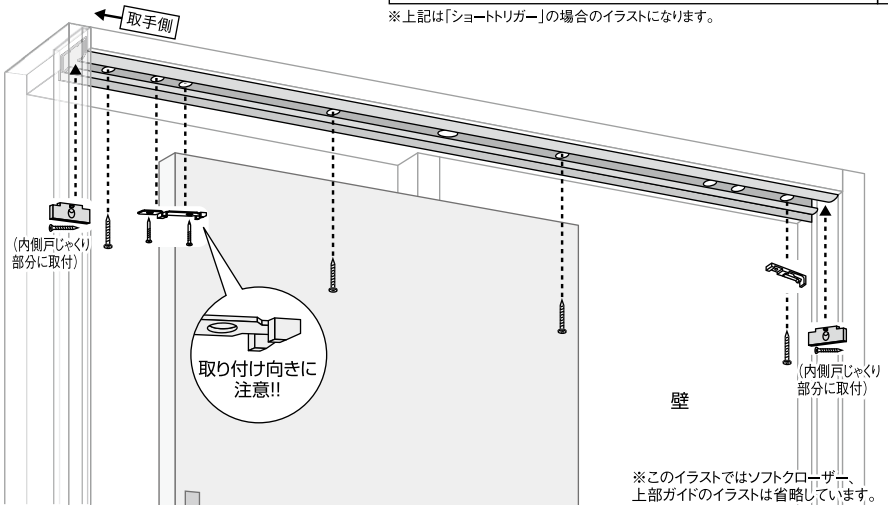
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

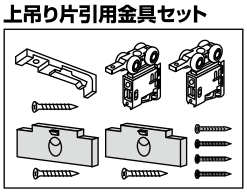


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

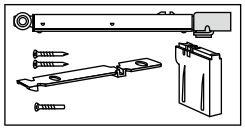


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット



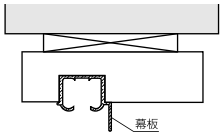
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

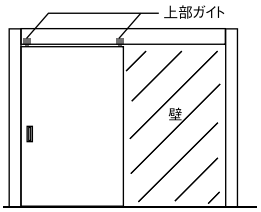


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

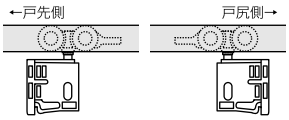
レールに付いている
幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けて
ください。

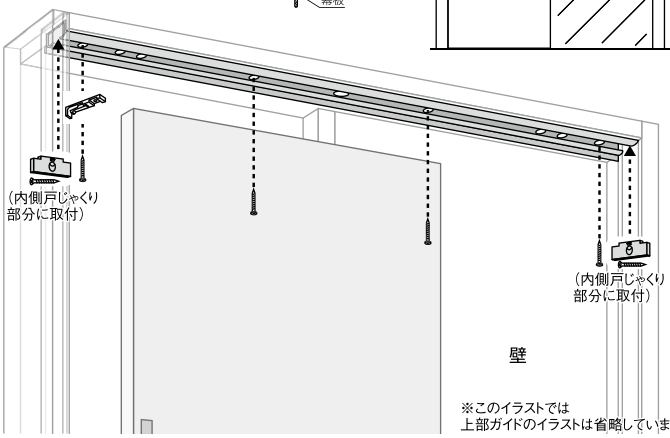




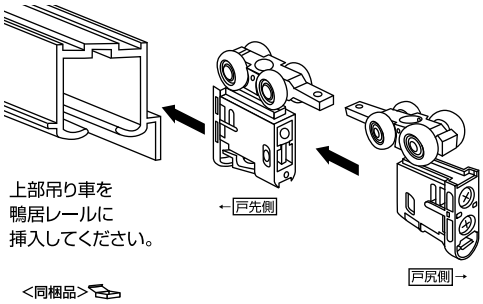
⚠ 注意

レール取付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



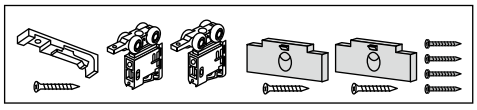


※このイラストでは
上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

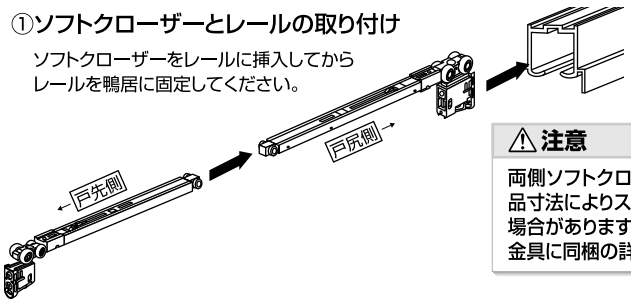


集合住宅用 片引き戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

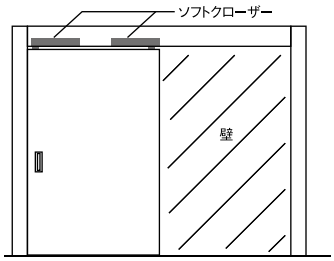
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



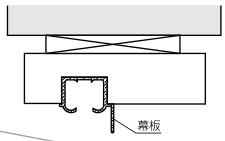
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりスライダーの種類が異なる場合があります。詳しくはソフトクローズ金具に同梱の詳細をご確認ください。

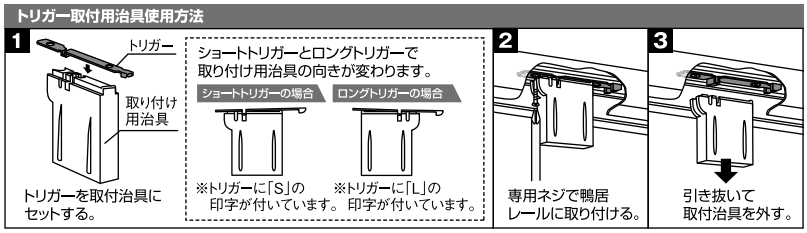


②鴨居レールの取り付け

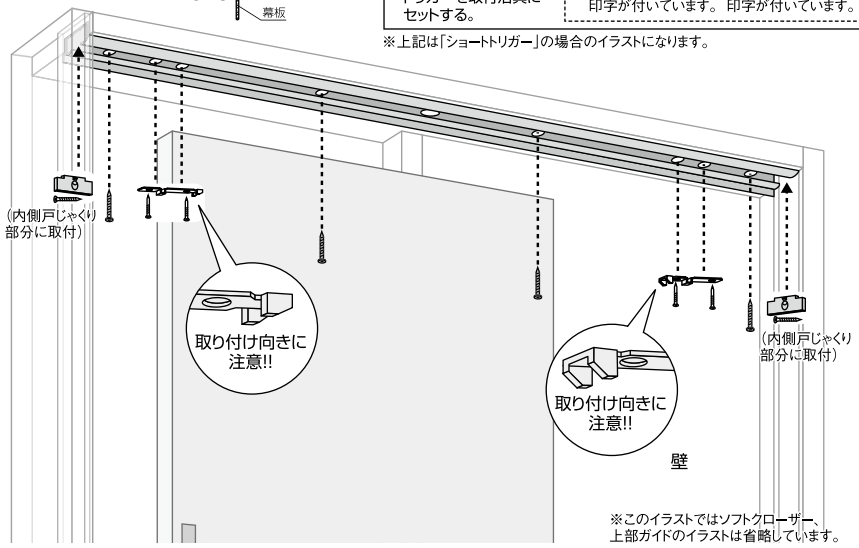
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

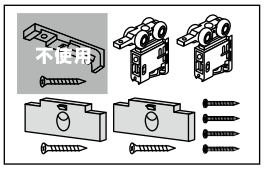


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

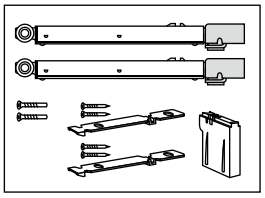


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

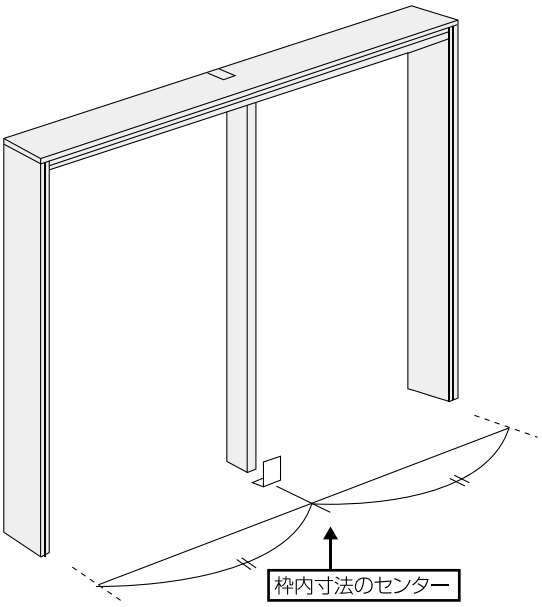
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



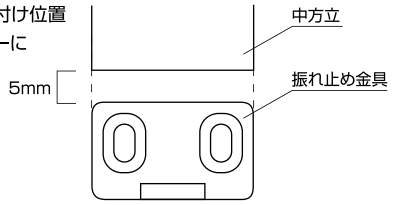
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け

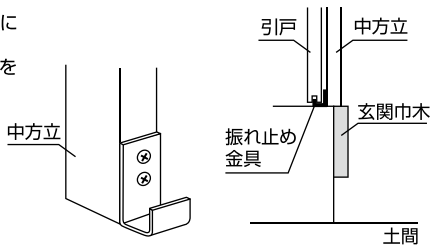


振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



上吊り中方立取り付け用振れ止め金具（別売品）の場合

中方立の下端に
合わせて
振れ止め金具を
同梱のビスで
取り付けて
ください。



集合住宅用 引き違い戸 専用枠材

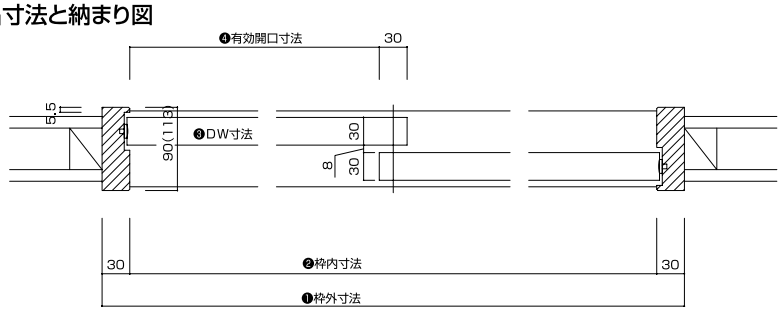
4. 引き違い戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

横断面図

（単位：mm）

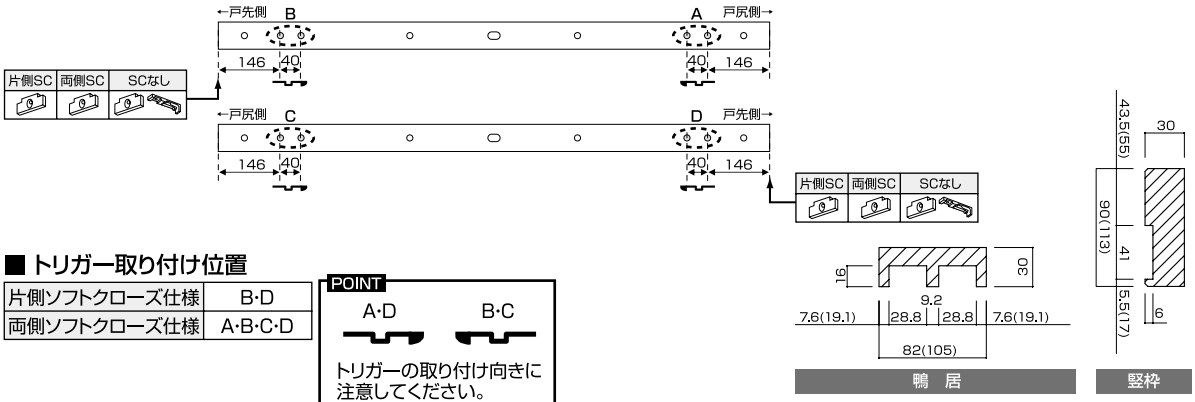
■ 枠製品寸法と納まり図



■枠製品寸法と納まり図

製品寸法	1,824	1,644
❶枠外寸法	1,824	1,644
❷枠内寸法	1,764	1,584
❸DW寸法	900	810
❹有効開口寸法	864	774

■ レール詳細図



※（　）内は 113 巾の寸法です。

■ トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·D
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

A·D　B·C

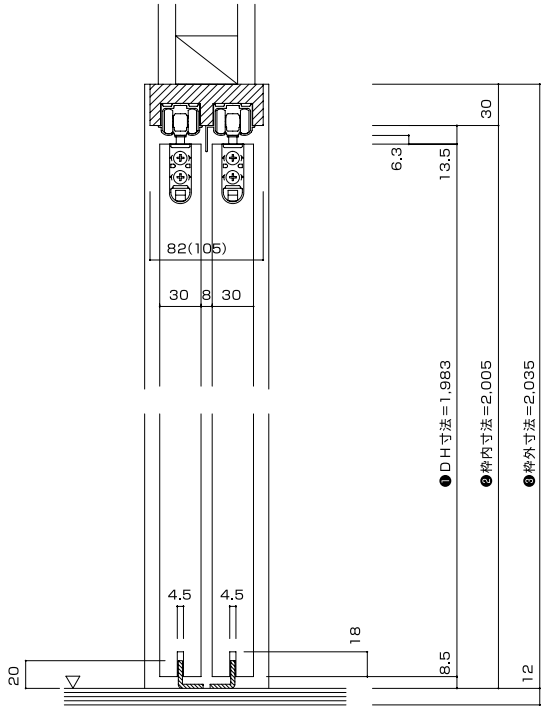
トリガーの取り付け向きに注意してください。

※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

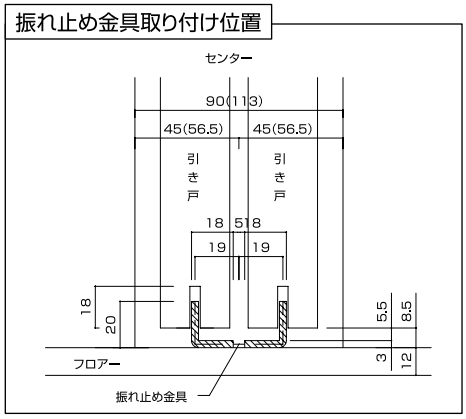
縦断面図

（単位：mm）

※（　）内は 113 巾の寸法です。



振れ止め金具取り付け位置



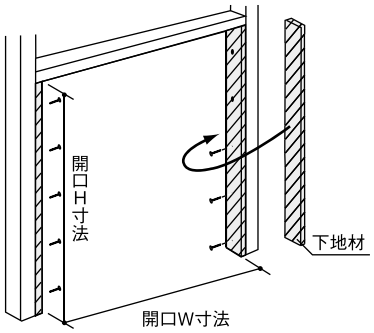
集合住宅用 引き違い戸 専用枠材

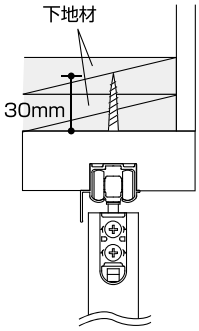
5. 引き違い戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





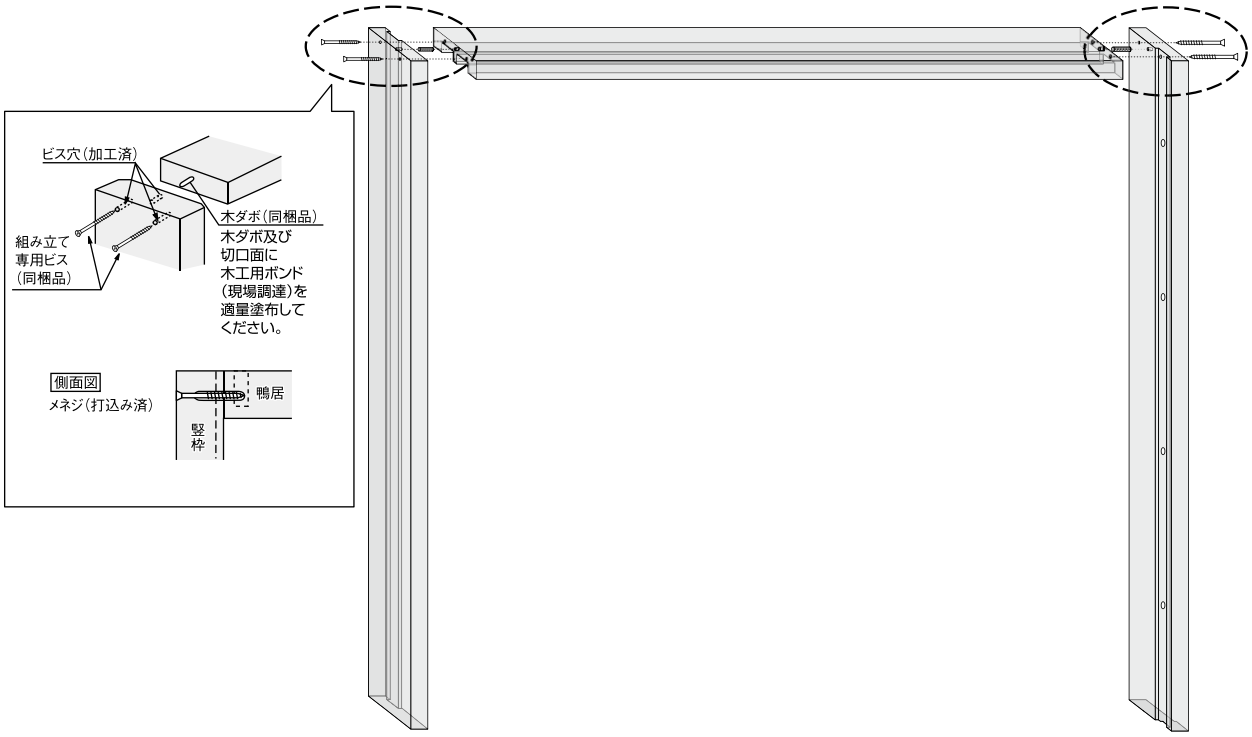
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

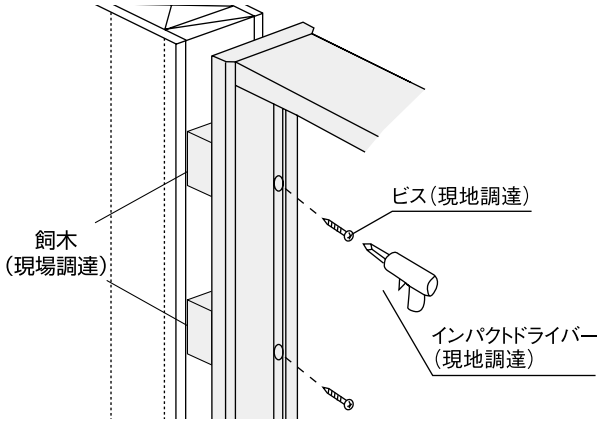
部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス·ダボなどを使用してください。



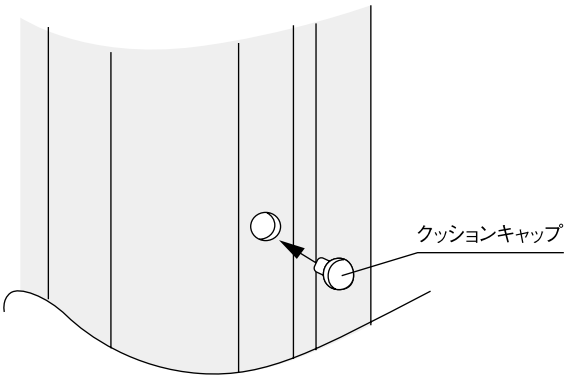
3 枠材の固定と建て付け調整

■3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ねじれを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は現地調達したビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



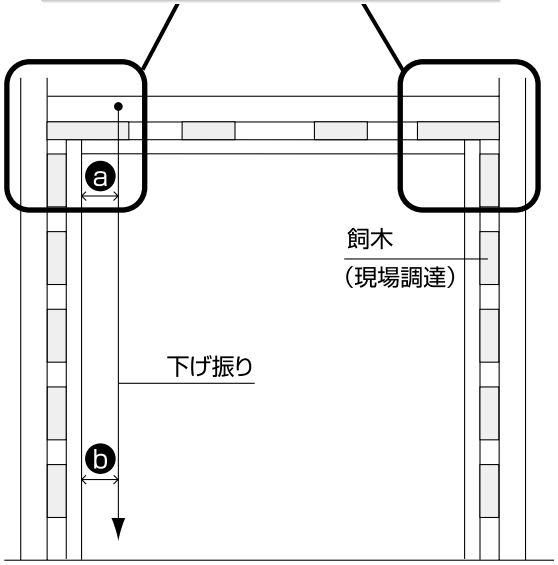
竪枠を取り付け後、
ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

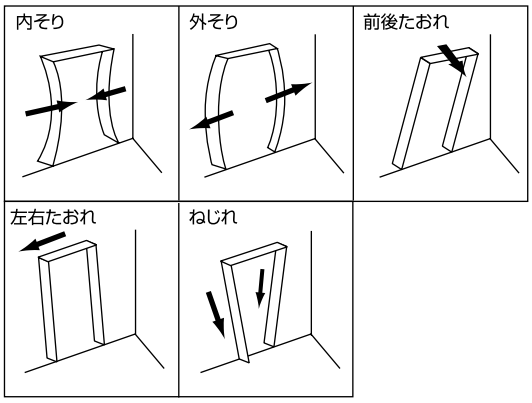
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

※下記の様なことがないようご注意ください。



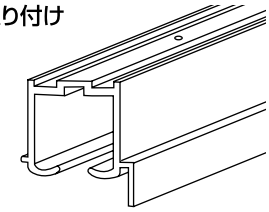
集合住宅用 引き違い戸 専用枠材

4 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

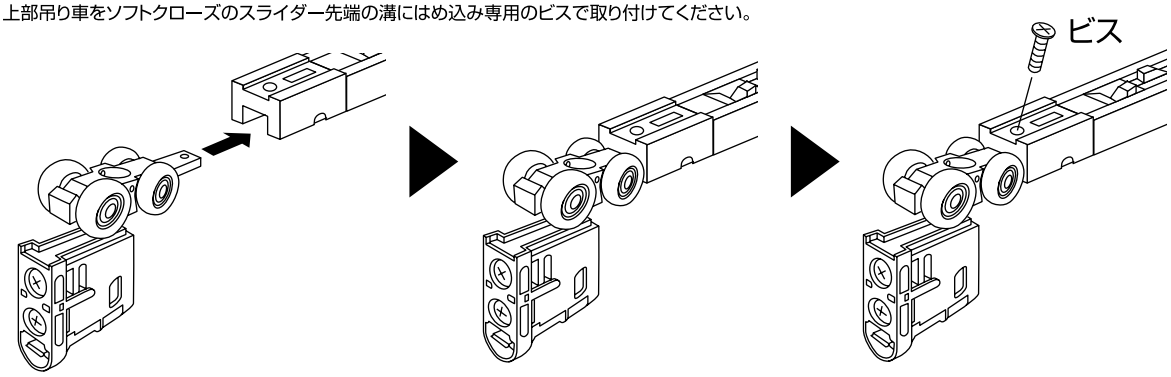
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

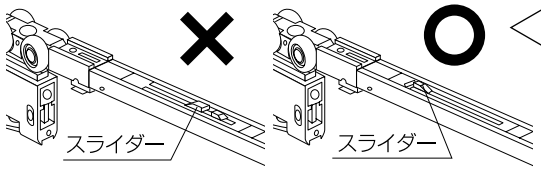


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

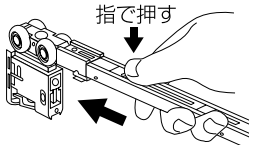
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

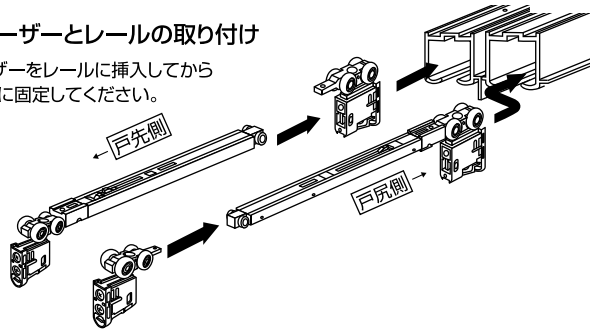
スライダーを指で押して
スライドさせ、
正しい位置に設置して
ください。

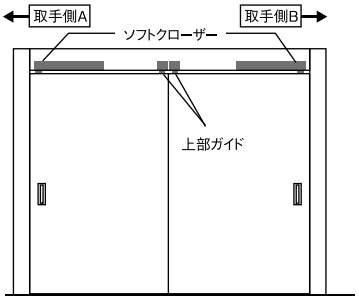


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

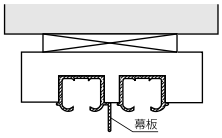
ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



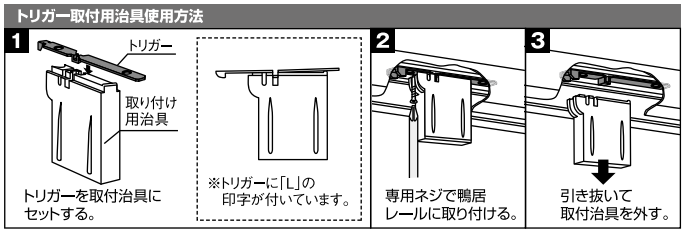


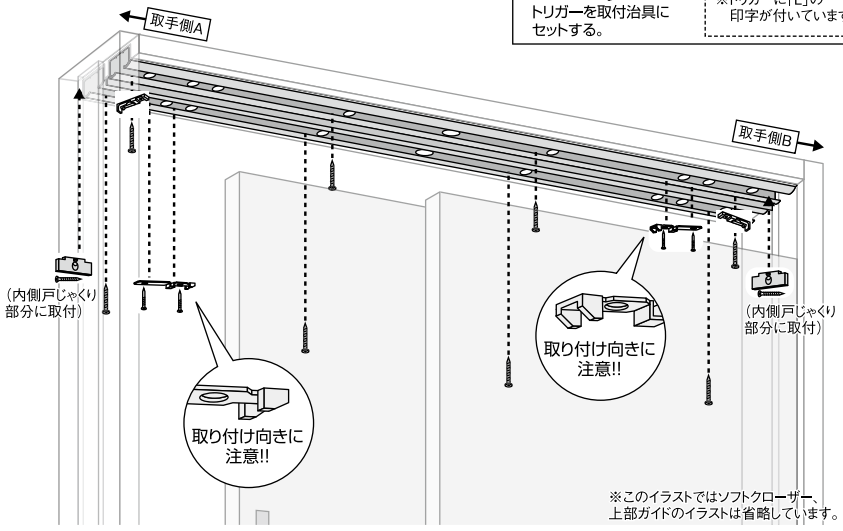
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付けて
ください。引き違い戸では
片方のレールには幕板は
つきません。

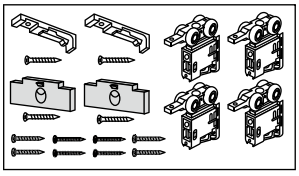


トリガー取付用治具使用方法

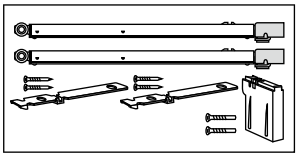




<同梱品>
上吊り片引用金具セット



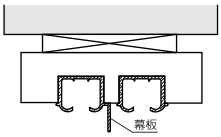
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

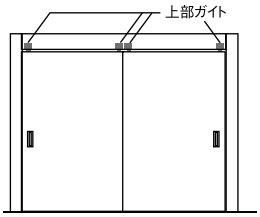


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

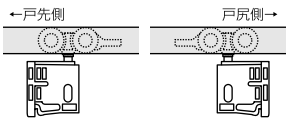
レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付けて
ください。引き違い戸では
片方のレールには幕板は
つきません。

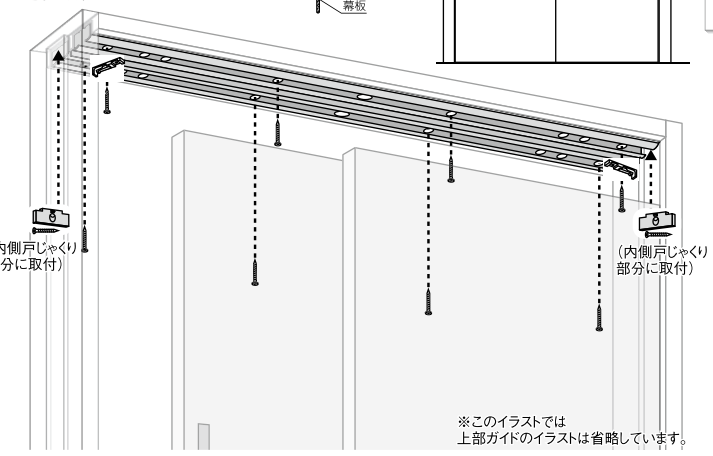


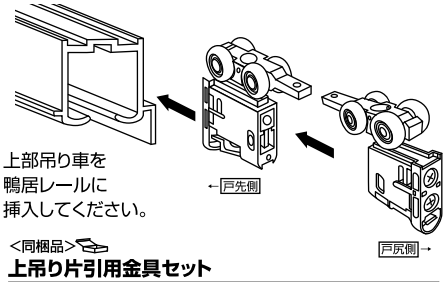


⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。

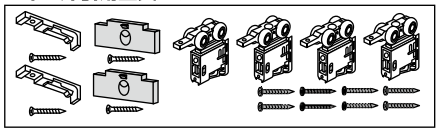






上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

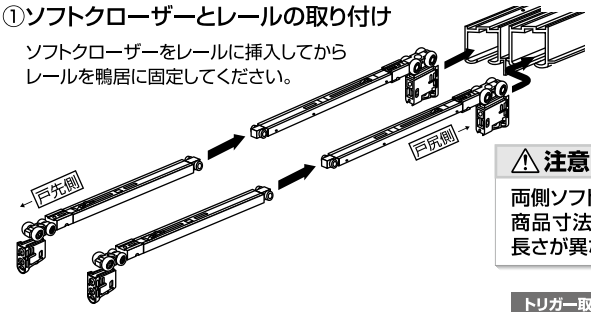


集合住宅用 引き違い戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

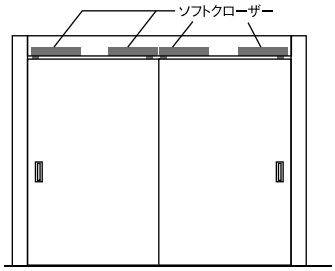
①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



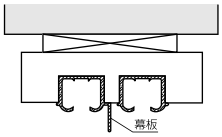
⚠注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、
商品寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

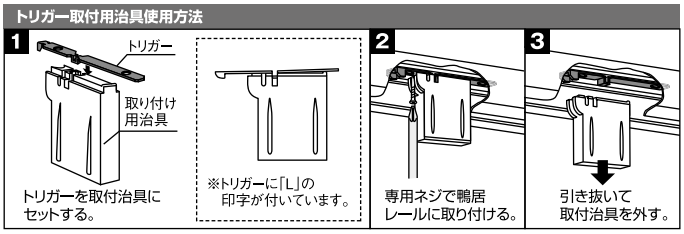


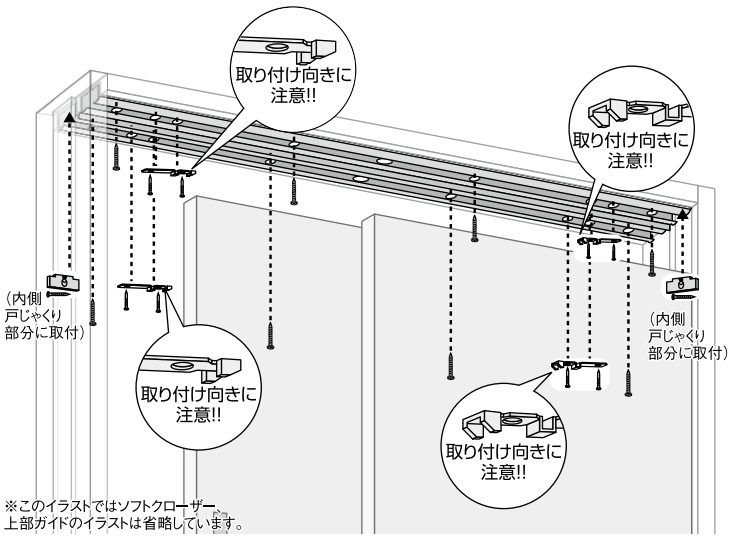
②鴨居レールの取り付け

レールに付いている幕板を、
鴨居芯側に向けて取り付け
てください。引き違い戸では
片方のレールには幕板は
つきません。



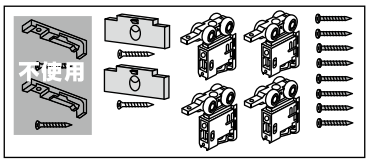
トリガー取付用治具使用方法



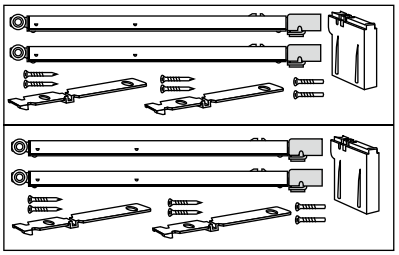


※このイラストではソフトクローザー、
上部ガイドのイラストは省略しています。

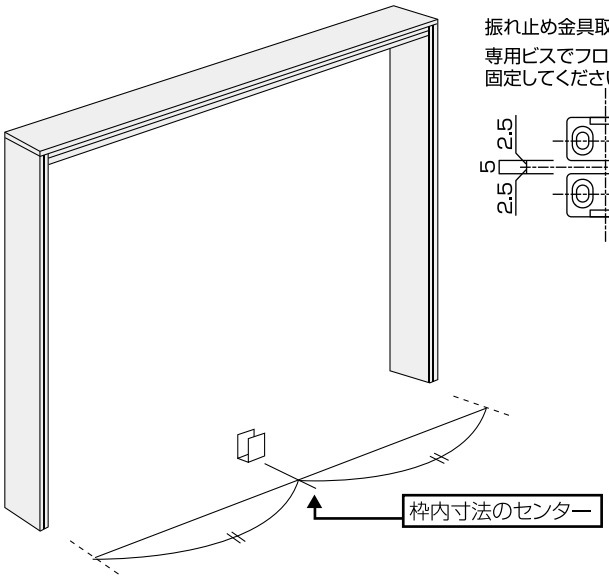
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット

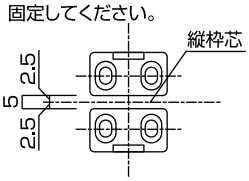


5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置

専用ビスでフロアーに
固定してください。



集合住宅用 引き分け戸 専用枠材

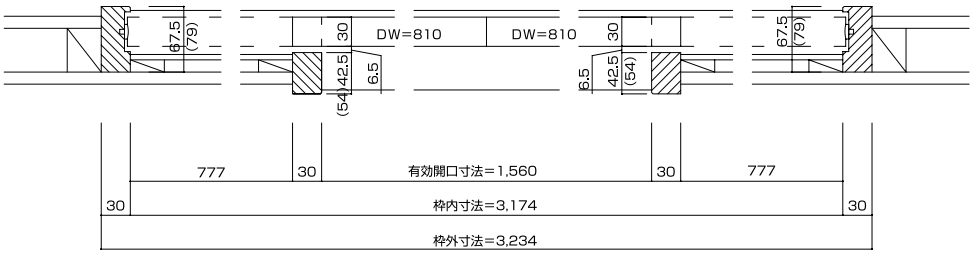
6. 引き分け戸 納まり図

下記レール詳細図を確認し、トリガー、ストッパーなどの取り付け位置をご確認ください。

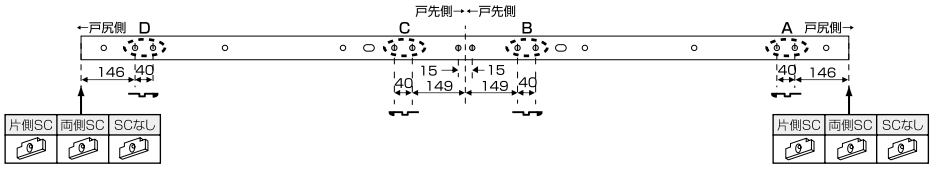
横断面図

（単位：mm）

■枠製品寸法と納まり図



■レール詳細図



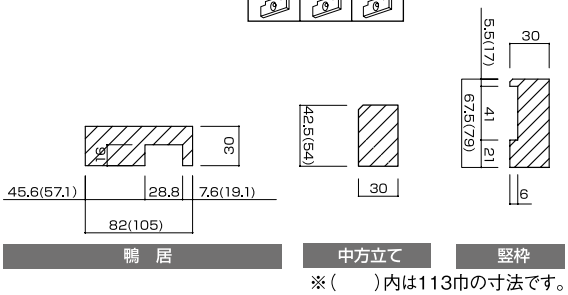
■トリガー取り付け位置

片側ソフトクローズ仕様	B·C
両側ソフトクローズ仕様	A·B·C·D

POINT

B·D　A·C

トリガーの取り付け向きに注意してください。



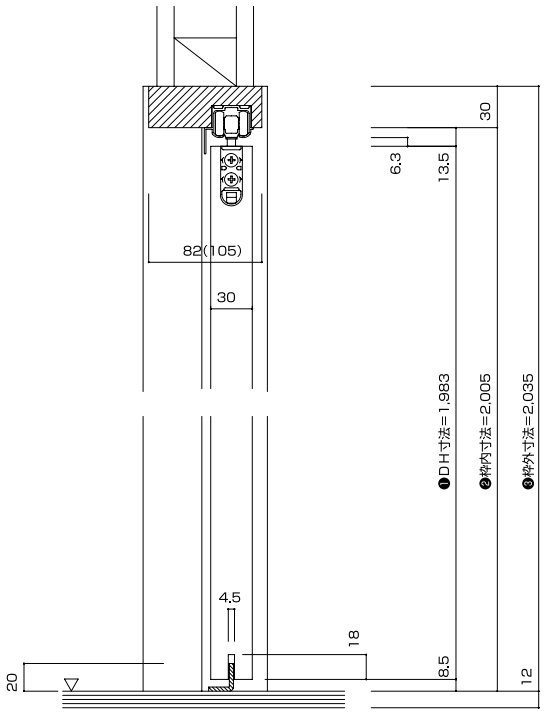
※SC…「ソフトクローズ」の略称です。

※（　　）内は113巾の寸法です。

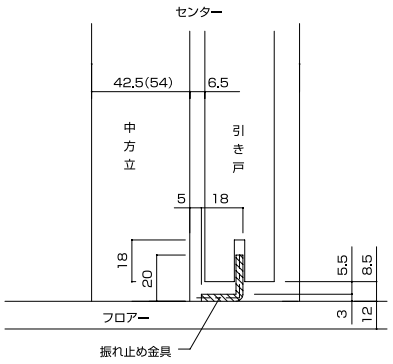
縦断面図

（単位：mm）

※（　　）内は113巾の寸法です。



振れ止め金具取り付け位置



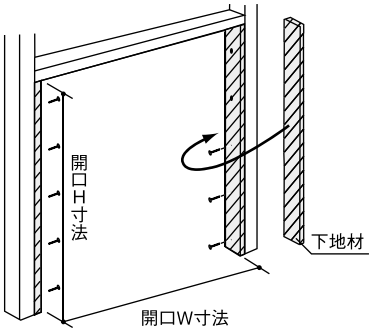
集合住宅用 引き分け戸 専用枠材

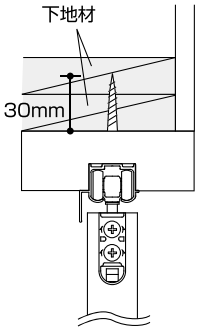
7. 引き分け戸 施工手順

⚠ 施工には必ず付属の部品を使用してください。

1 取り付け開口部の確認

■開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。





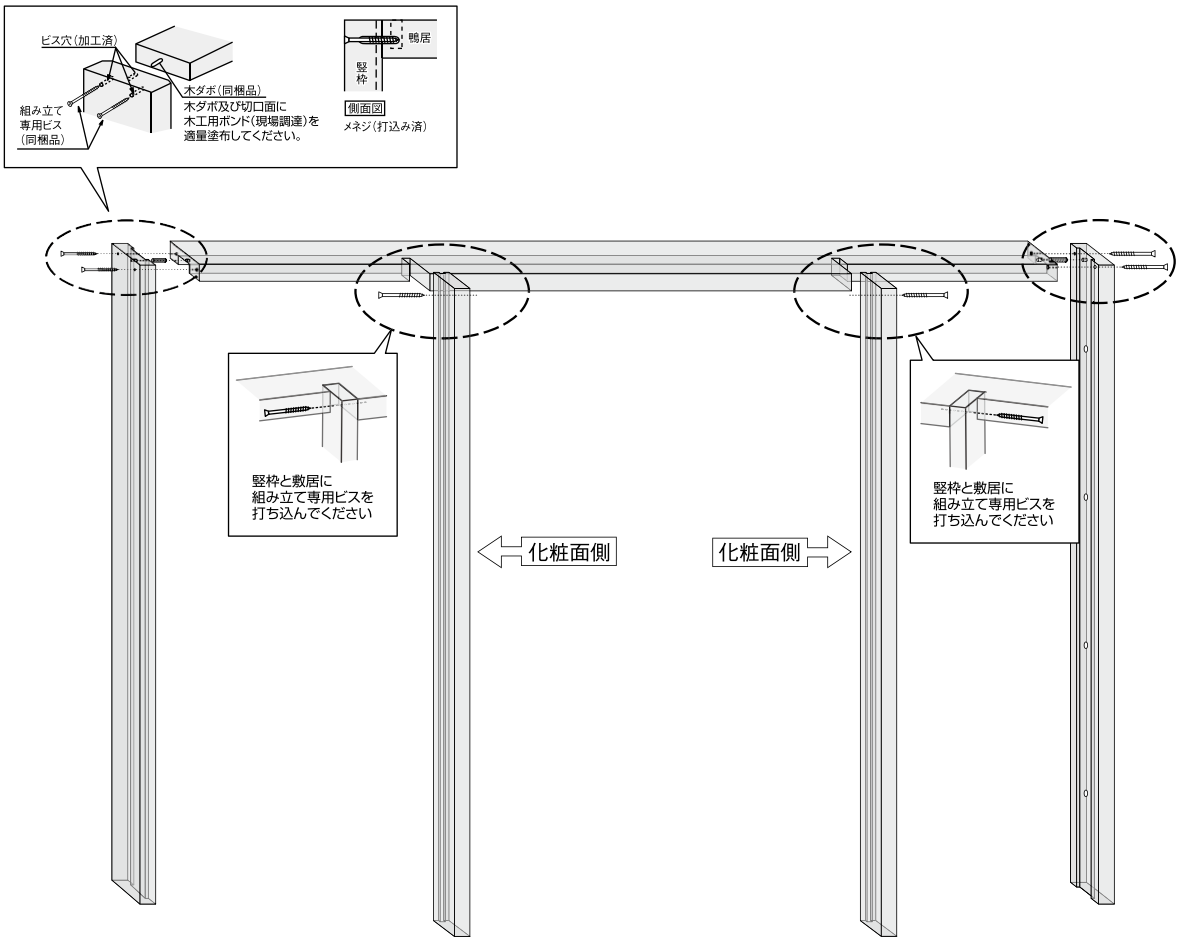
⚠ 注意

扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

2 枠材の組み立て

■枠材を専用ビスを使用して組み立ててください。

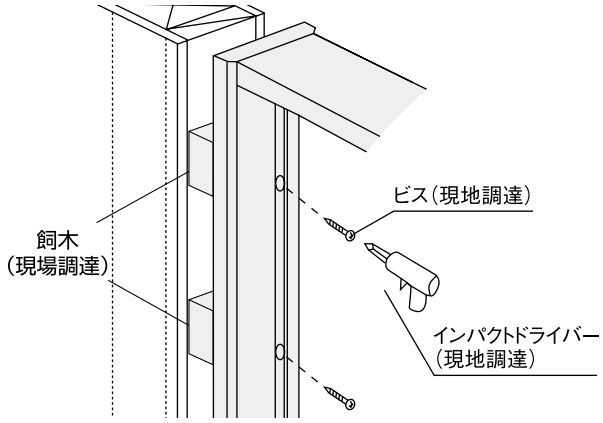
部材の上下、左右を確認のうえ、組み立てをおこなってください。
鴨居、竪枠などの固定は必ず同梱のビス・ダボなどを使用してください。



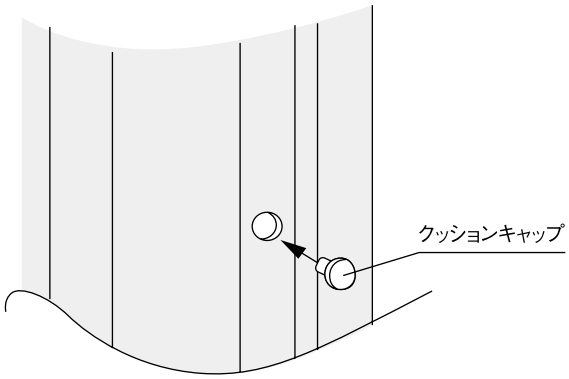
3 枠材の固定と建て付け調整

■3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ねじれを調整し、枠材を固定します。枠材の固定は現地調達したビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。



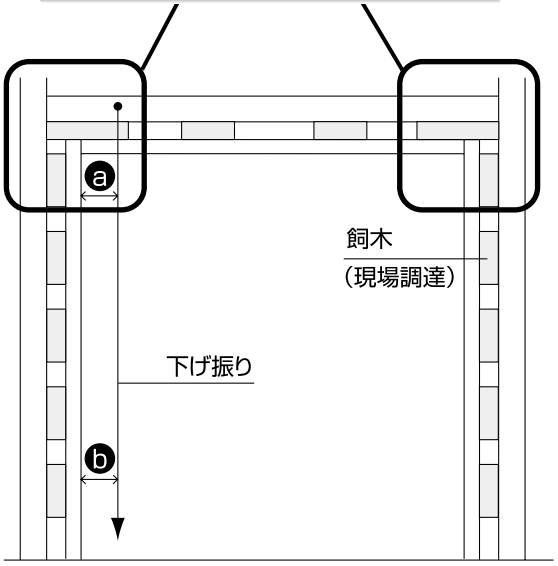
竪枠を取り付け後、
ビス穴にクッションキャップを取り付けます。



⚠注意

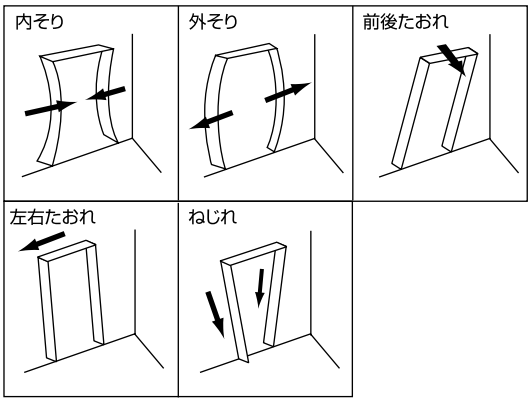
ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。

※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。



水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

※下記の様なことがないようご注意ください。



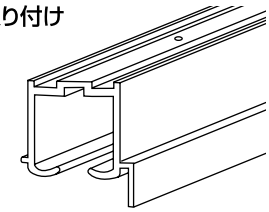
集合住宅用 引き分け戸 専用枠材

4 鴨居レールの取り付け

⚠施工には必ず付属の部品を使用してください。

■幕板と鴨居レールの取り付け

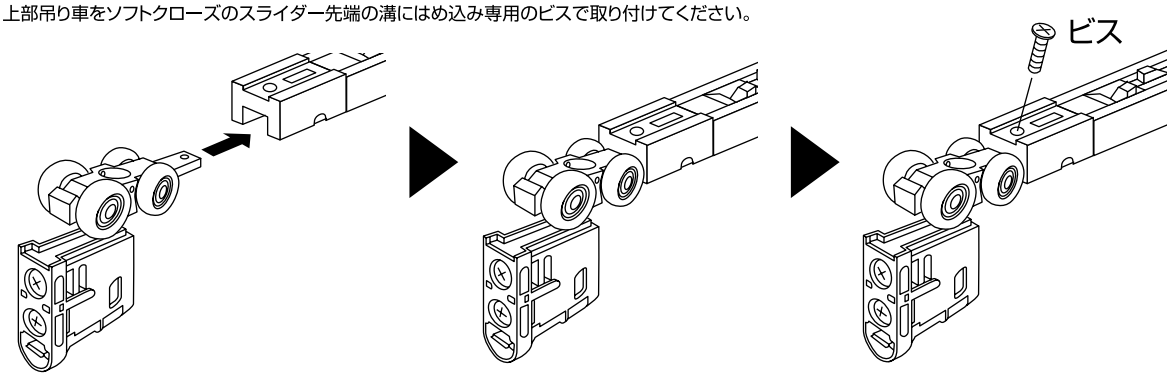
幕板付きの鴨居レール
（アルミレール）になります。



〈ソフトクローズ仕様の場合のみ〉

■ソフトクローザーと上部ガイドの取り付け

上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

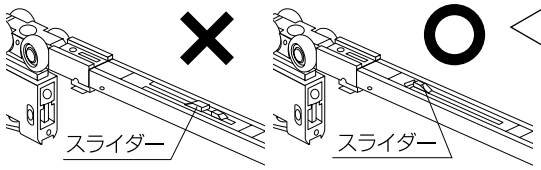


■吊車の挿入

鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

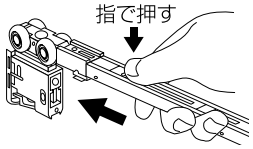
⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合

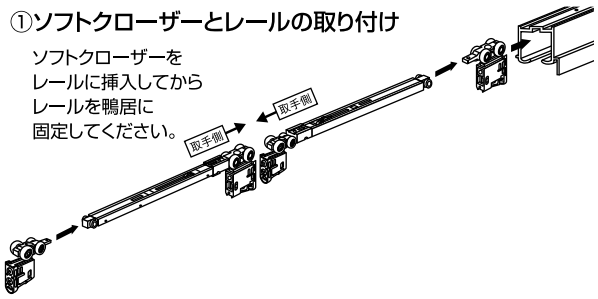
スライダーを指で押して
スライドさせ、
正しい位置に設置して
ください。

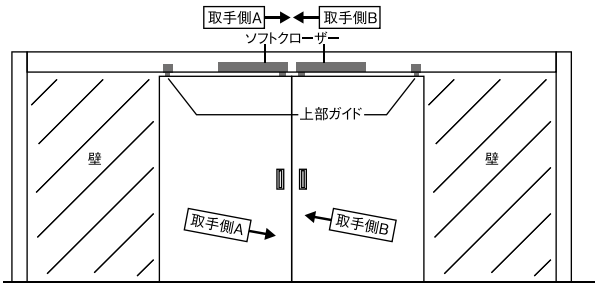


片側ソフトクローズ 仕様 標準

①ソフトクローザーとレールの取り付け

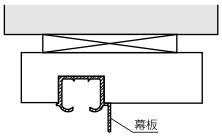
ソフトクローザーを
レールに挿入してから
レールを鴨居に
固定してください。



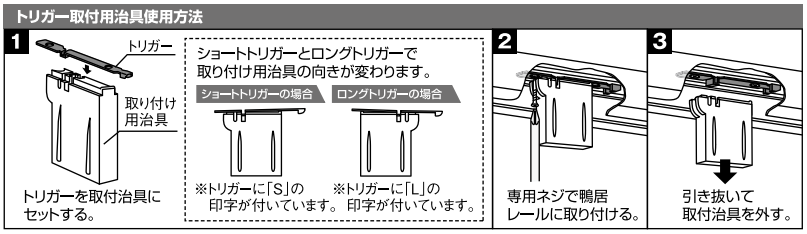


②鴨居レールの取り付け

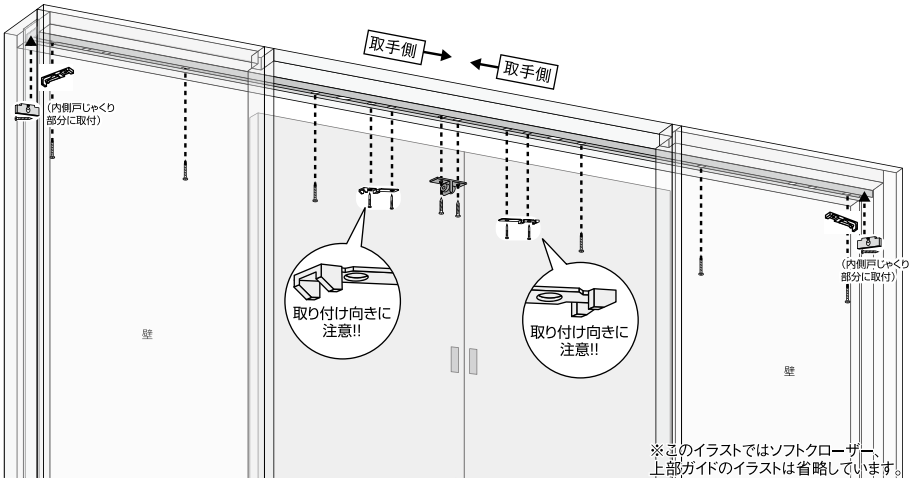
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



トリガー取付用治具使用方法

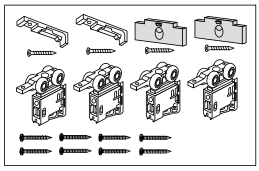


※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。

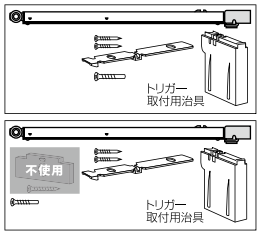


※このイラストではソフトクローザー、上部ガイドのイラストは省略しています。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット



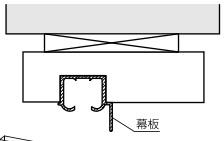
<別梱包>
片側ソフトクローズ金具セット

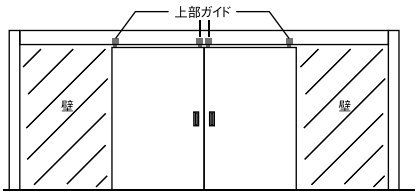


ソフトクローズなし オプション

①鴨居レールの取り付け

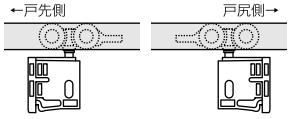
レールに付いている幕板を、鴨居
芯側に向けて取り付けてください。

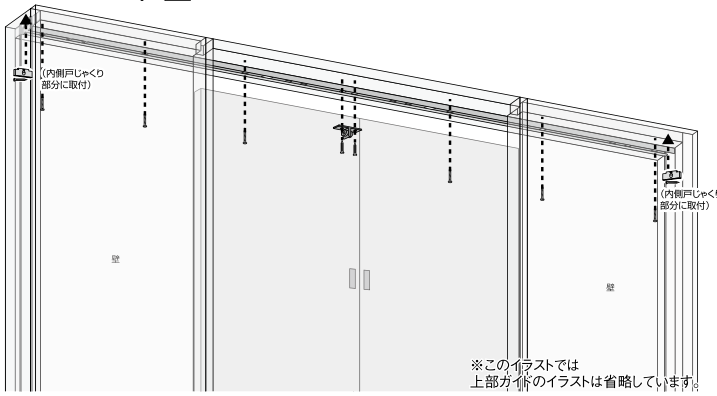




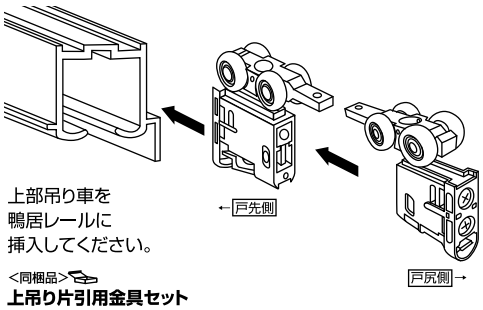
⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



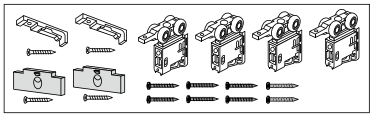


※このイラストでは上部ガイドのイラストは省略しています。



上部吊り車を
鴨居レールに
挿入してください。

<同梱品>
上吊り片引用金具セット

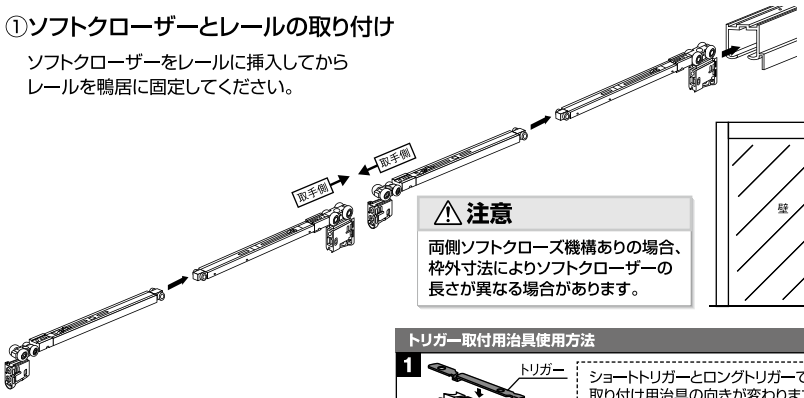


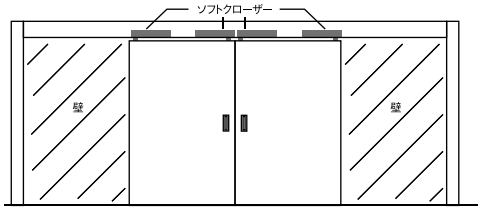
集合住宅用 引き分け戸 専用枠材

両側ソフトクローズ オプション

①ソフトクローザーとレールの取り付け

ソフトクローザーをレールに挿入してから
レールを鴨居に固定してください。



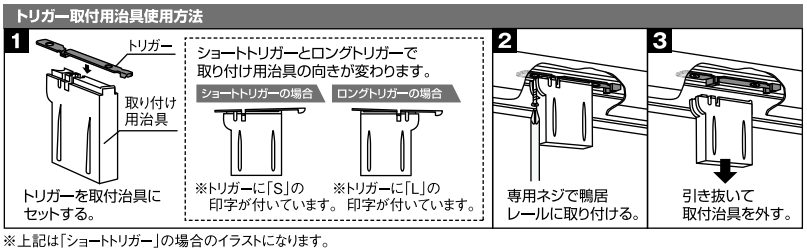


⚠注意

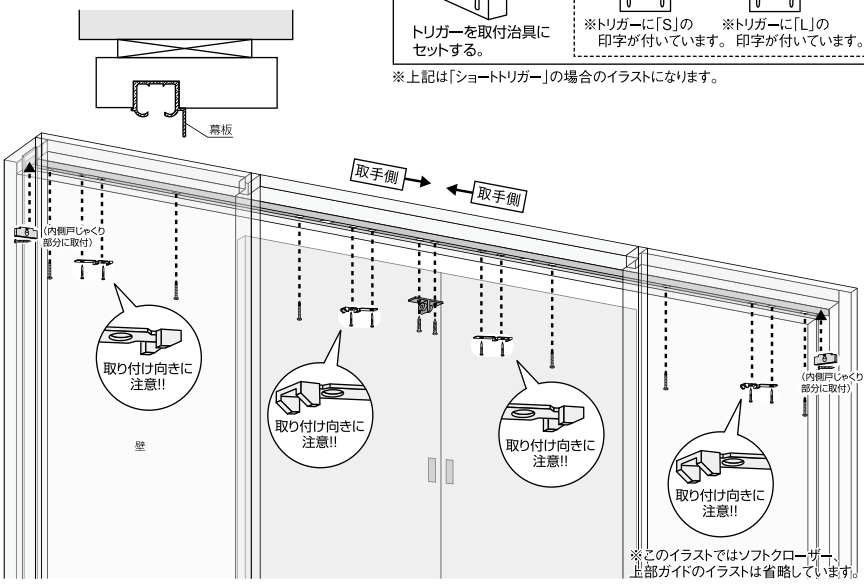
両側ソフトクローズ機構ありの場合、
枠外寸法によりソフトクローザーの
長さが異なる場合があります。

②鴨居レールの取り付け

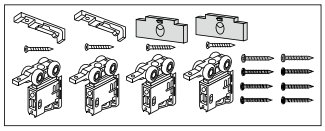
レールに付いている幕板を、鴨居芯側に
向けて取り付けてください。



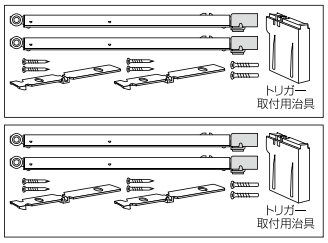
※上記は「ショートトリガー」の場合のイラストになります。



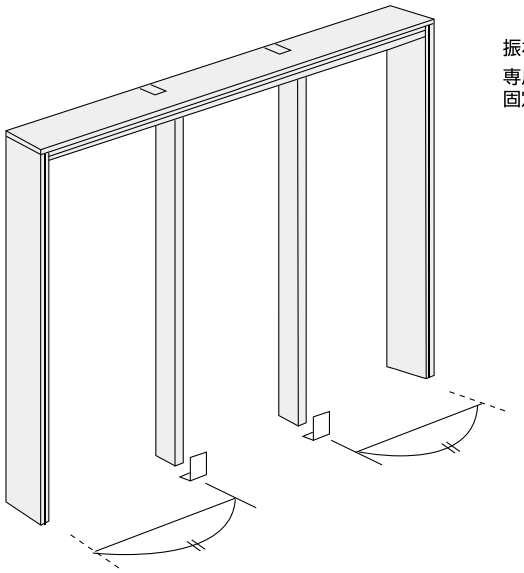
<同梱品>
上吊り片引用金具セット



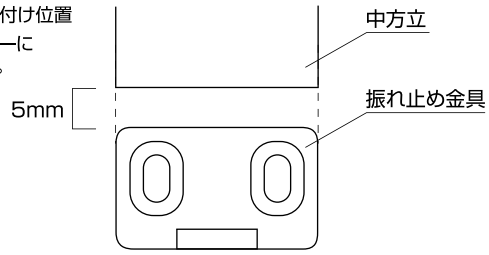
<別梱包>
両側ソフトクローズ金具セット



5 振れ止め金具の取り付け



振れ止め金具取り付け位置
専用ビスでフロアーに
固定してください。



アウトセット引き戸 専用枠材

1. 梱包内訳

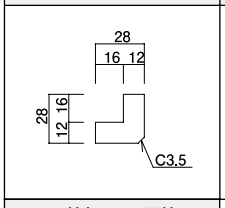
梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

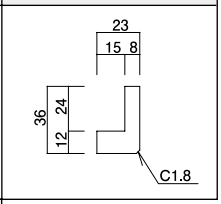
アウトセット引き戸枠本体梱包内訳一覧

両側SC	片側SC	SCなし		梱包入り数	数量
○	○	○		壁付けレール	1本
○	○	○		吊車	2個
○	○	○	φ3.8×55mm	レール取り付けビス	8本
○※1	○※1	○※1		壁付けレールエンドキャップ	2個
○※1	○※1	○※1	φ4×16mm	エンドキャップ取り付けビス	2本
△※2	△※2	△※2		上レール引き残しストッパー	1個
△※2	△※2	△※2	φ4×16mm	引き残しストッパー用ビス	1本
○	○※3	×		ソフトクローズ用トリガー	2個
○	○※3	×		トリガー取付け用ネジ	2本
○	○※3	×		トリガー取付け用ナット	2個
○	○	○		振れ止め金具	1個
○	○	○	φ3.5×16mm	振れ止め金具用ビス	2本
×	○※4	○※4		床取り付けストッパー	2個
×	○※4	○※4	φ4×25mm	床取り付けストッパー用ビス	3本

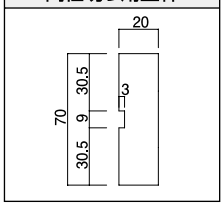
見切り材(竪)



見切り材(横)



間仕切り用竪枠



※1　竪枠(カマ錠枠)を使用する場合は竪枠と接する側は使用しません。
※2　引き戸を引き残す場合のみ使用します。
※3　片側Sソフトクローズ仕様の場合は、戸先側(ソフトクローズを効かせる方)のみ使用します。
※4　竪枠を使用する場合は、竪枠側には使用しない。片側ソフトクローズ仕様の場合は戸尻側のみに使用します。

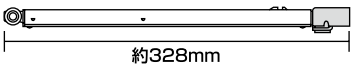
【別梱包】クローザーセットは別梱包になります。必ず対応するクローザーセットがあるかご確認ください。

クローザーセット梱包内訳一覧

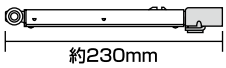
	両側SC DW=900･810mm	両側SC DW=713mm	片側SC	
ショートストロークソフトクローザー	-	1	-	
ロングストロークソフトクローザー	2	1	1	
ショートストローク用トリガーセット	-	1	-	→使用しない
ロングストローク用トリガーセット	2	1	1	→使用しない
吊車固定ビス	2	2	1	

※クローザーセットに同梱のトリガーセットは使用しません。
※DW=713mmの両側ソフトクローズ仕様の場合、ロングストロークソフトクローザーを戸先側に使用する。
※片側ソフトクローズ仕様の場合は、戸先側(ソフトクローズを効かせる方)にソフトクローザーを使用する。

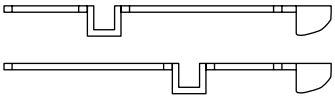
ロングストロークソフトクローザー



ショートストロークソフトクローザー



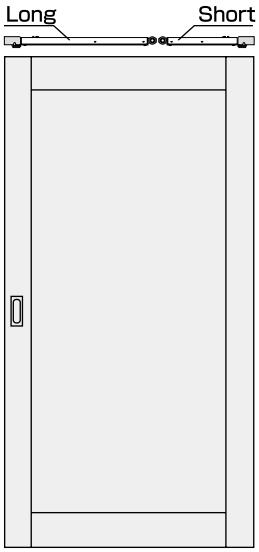
クローザーセット同梱トリガー



× **使用しない!!**

アウトセット引戸用トリガー
(枠の梱包に同梱)

○ **この形のトリガーを使用する!!**



スライダー Long+Short
DW713mmの両側ソフトクローズ仕様の場合のみ、ソフトクローザーにロングタイプとショートタイプの2タイプがあります。ロングタイプを戸先側に取り付けてください。

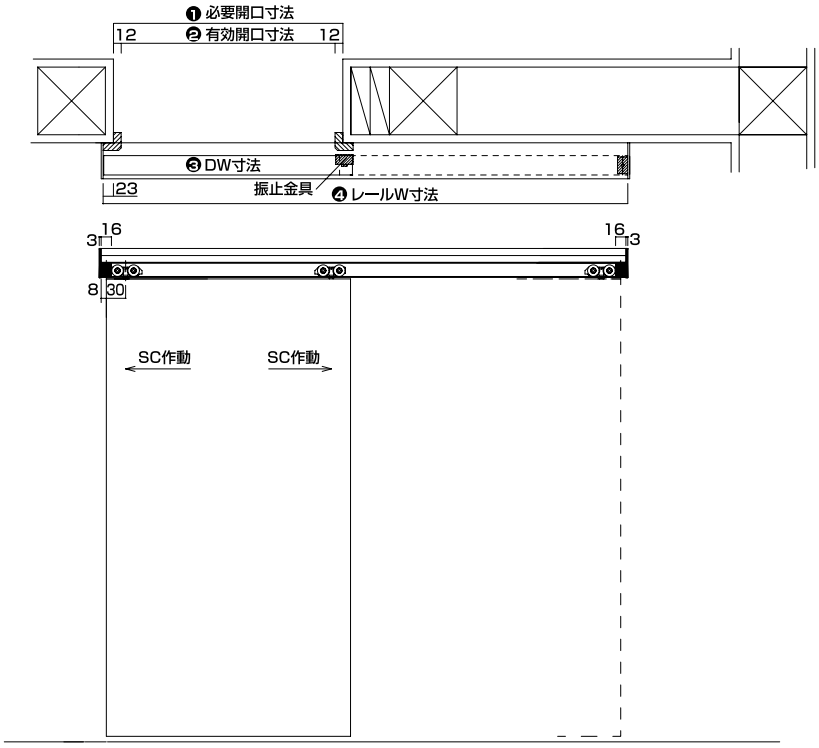
アウトセット引き戸 専用枠材

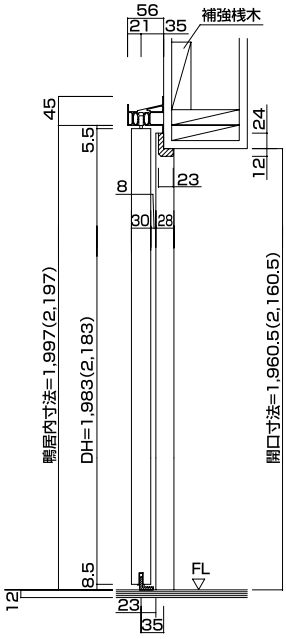
2. 納まり図

両袖・竪枠なし・両側ソフトクローズ仕様

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415

※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。

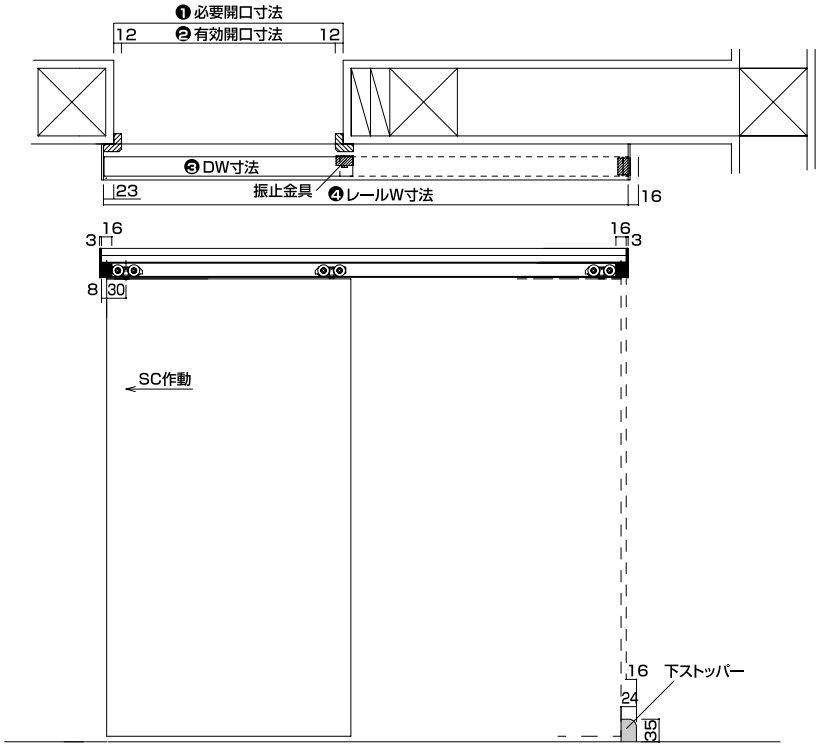


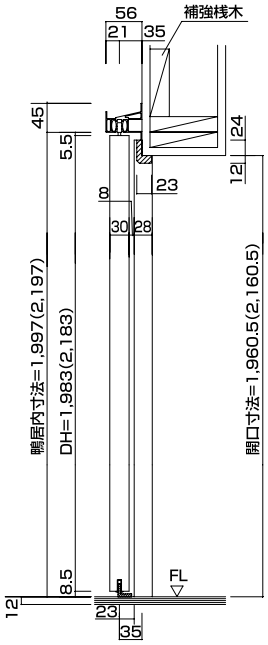


両袖・竪枠なし・片側ソフトクローズ仕様

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415

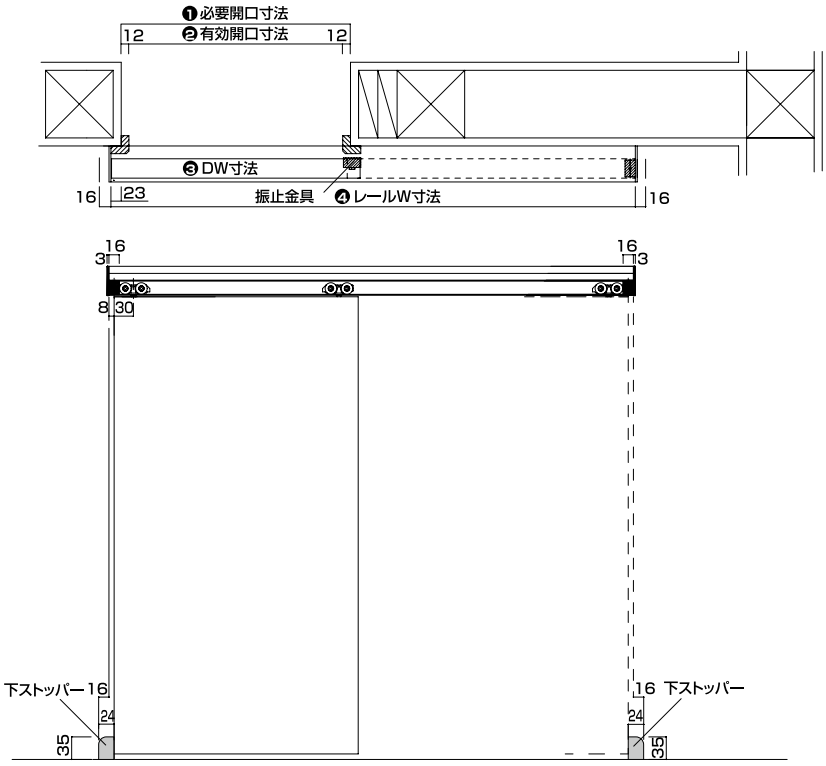
※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。



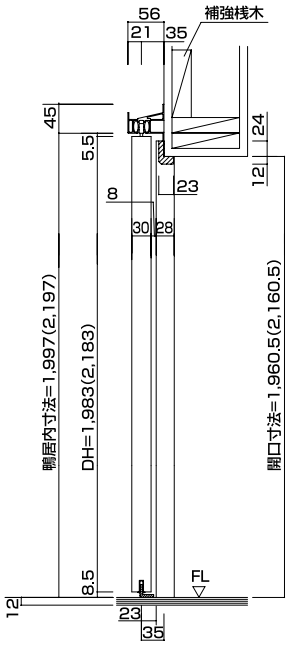


両袖・竪枠なし・ソフトクローズなし

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415

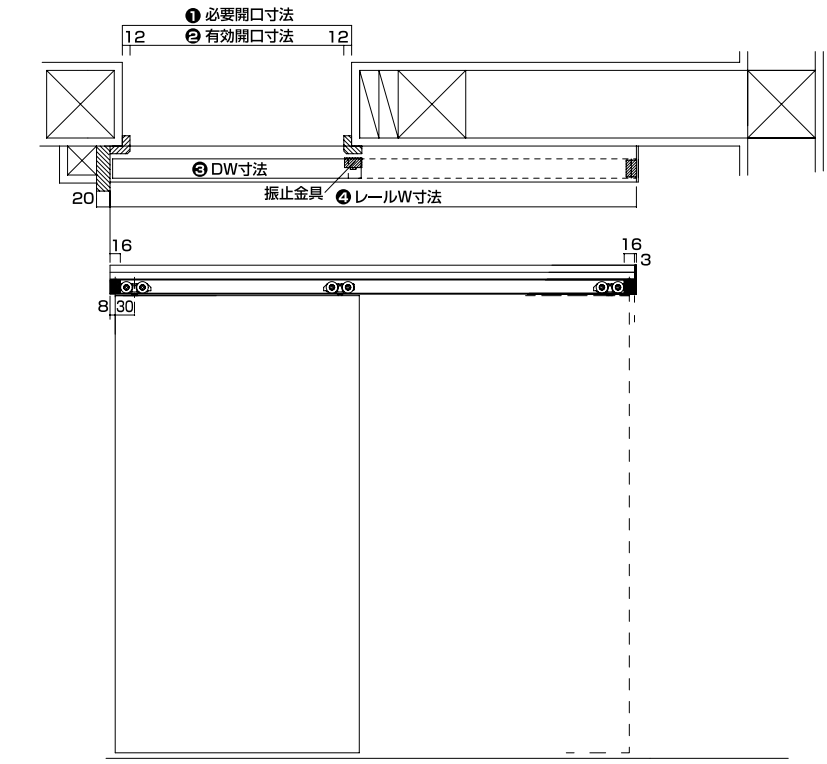


※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。

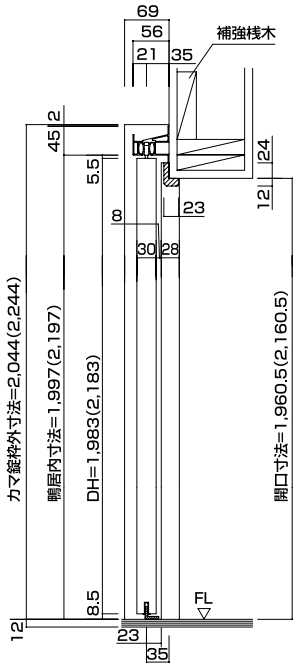


両袖・竪枠あり・両側ソフトクローズ仕様

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415



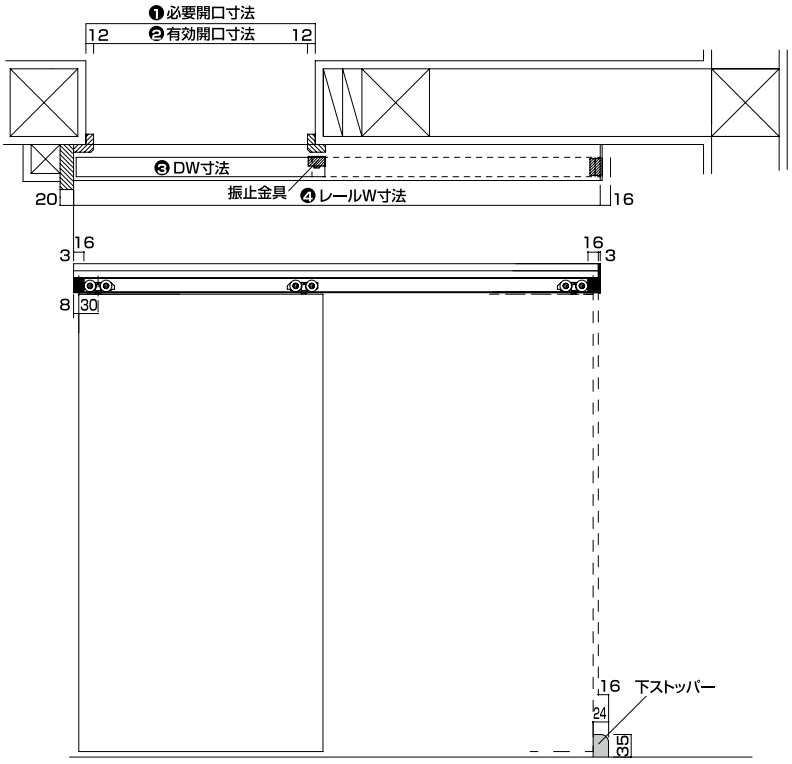
※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。



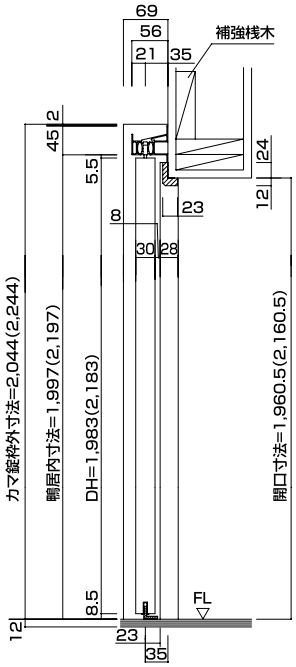
アウトセット引き戸 専用枠材

両袖・竪枠あり・片側ソフトクローズ仕様 **両袖・竪枠あり・ソフトクローズなし**

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415

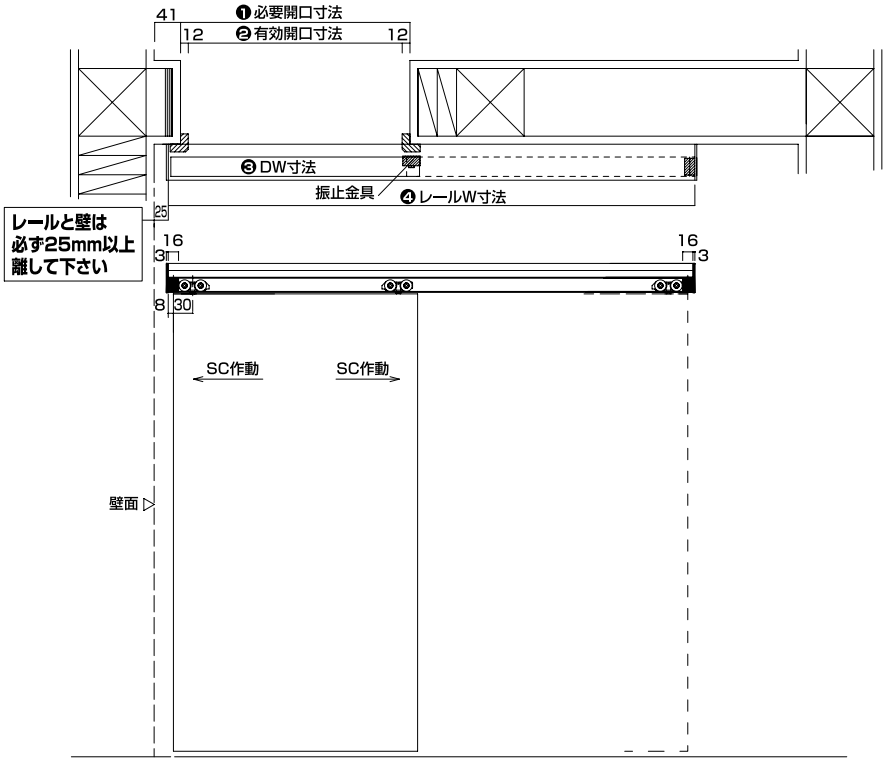


※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。

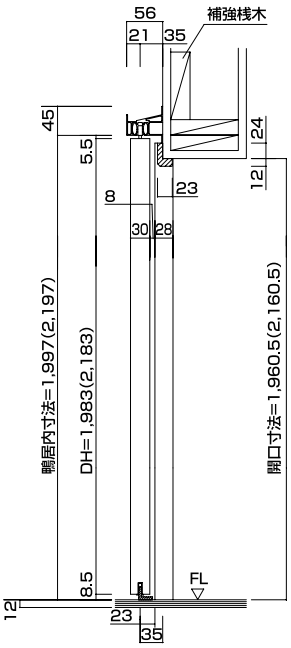


入隅・竪枠なし・両側ソフトクローズ仕様

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415



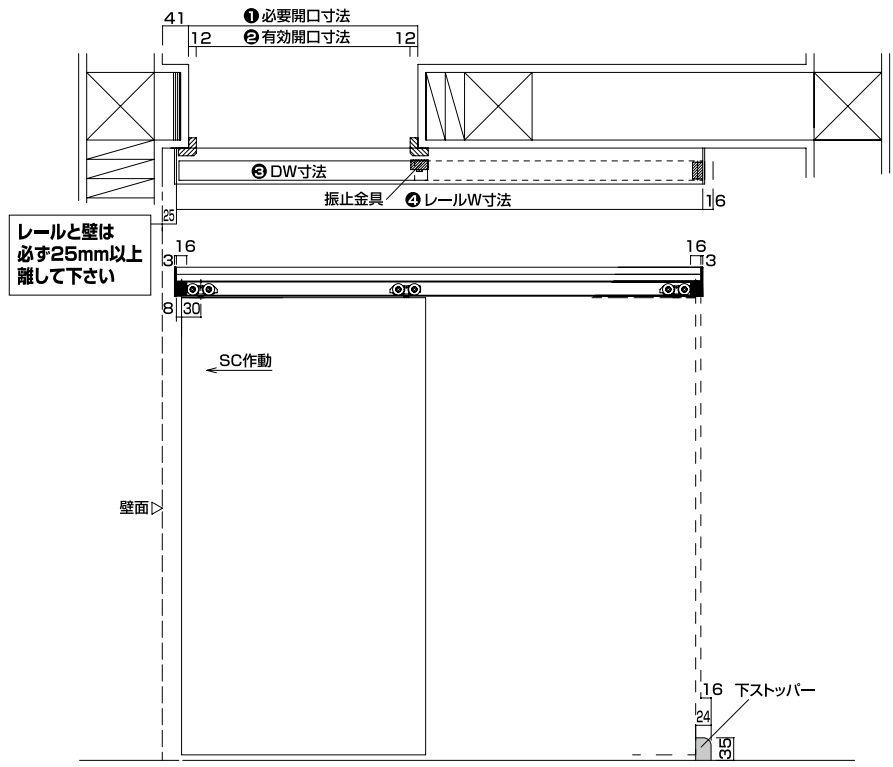
※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。

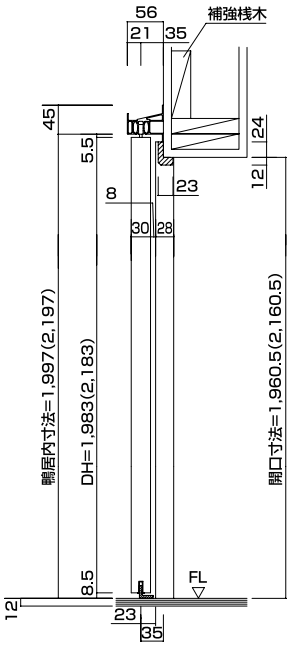


入隅・竪枠なし・片側ソフトクローズ仕様

❶ 必要開口寸法	870	780	683
❷ 有効開口寸法	846	756	659
❸ DW寸法	900	810	713
❹ レールW寸法	1,789	1,609	1,415

※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。

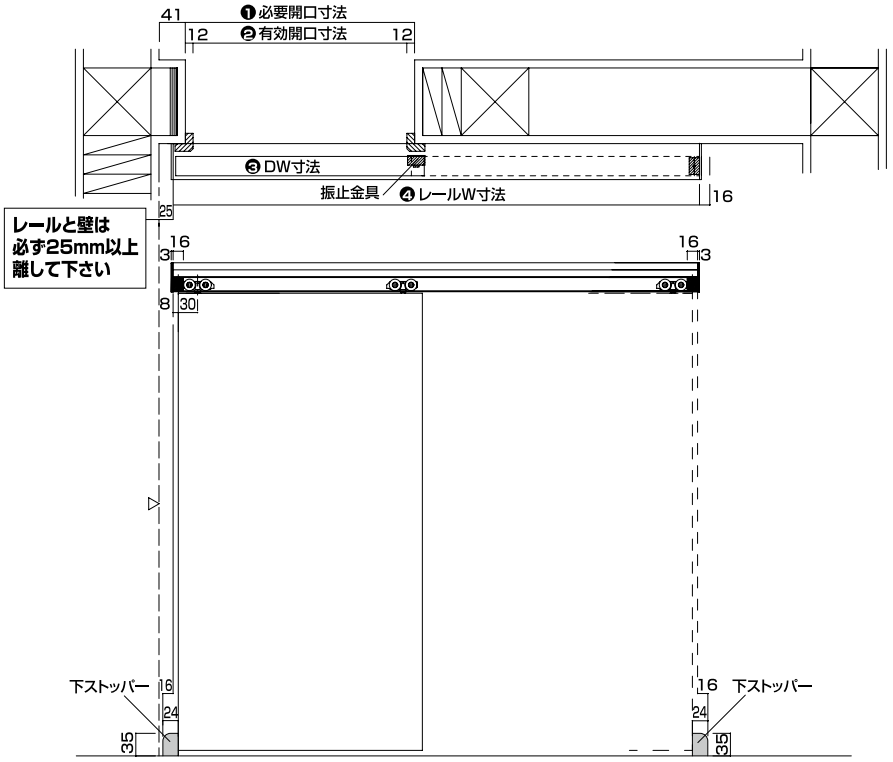


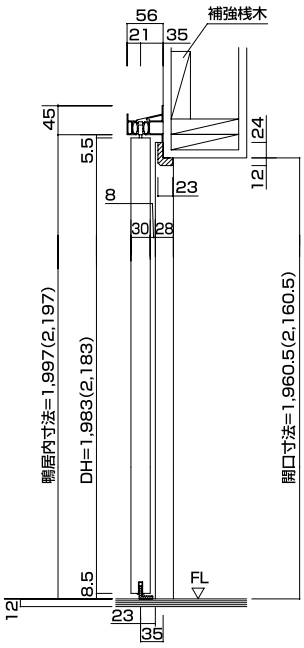


入隅・竪枠なし・ソフトクローズなし

❶ 必要開口寸法	870	780	683
❷ 有効開口寸法	846	756	659
❸ DW寸法	900	810	713
❹ レールW寸法	1,789	1,609	1,415

※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。

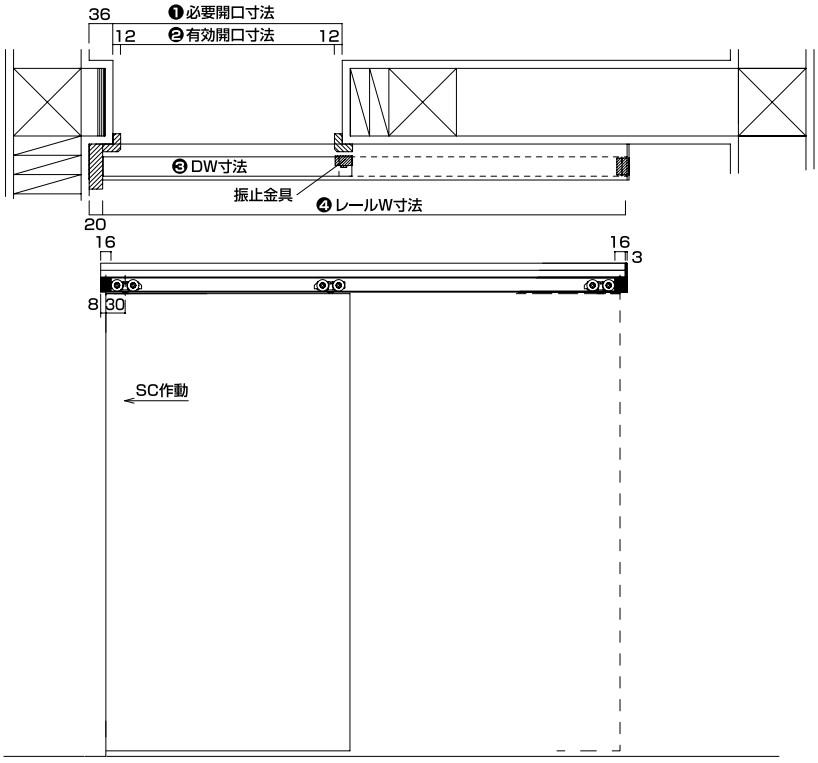




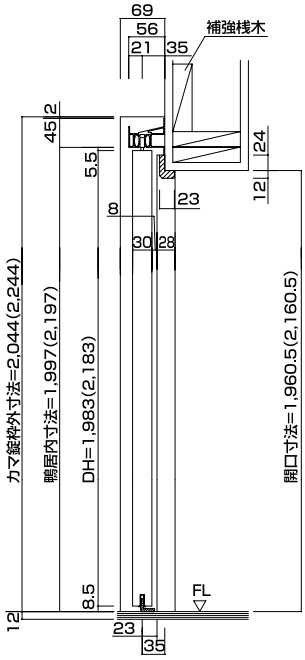
アウトセット引き戸 専用枠材

入隅・竪枠あり・両側ソフトクローズ仕様

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415

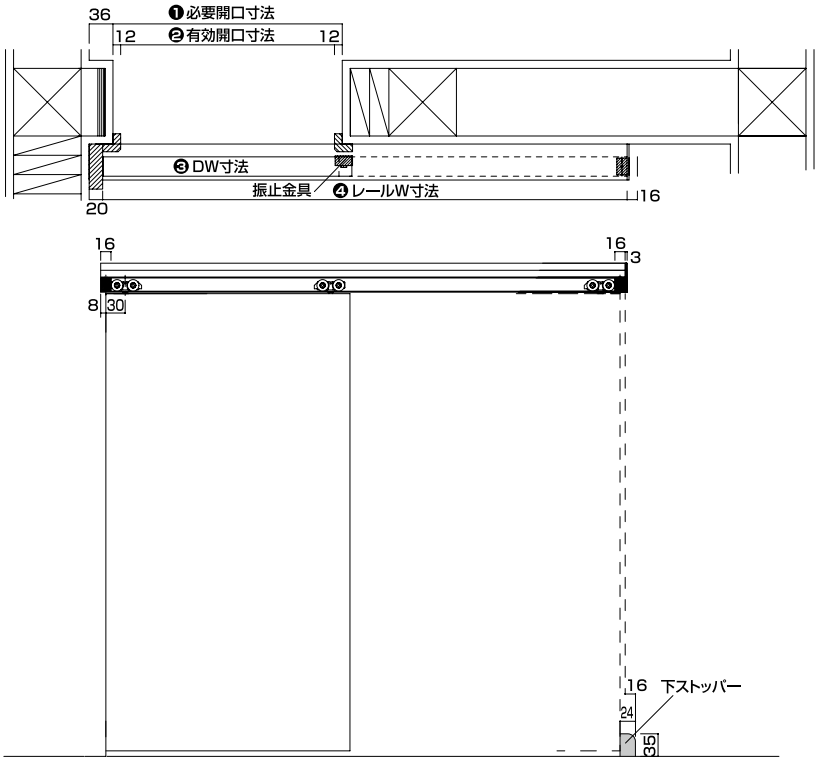


※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。

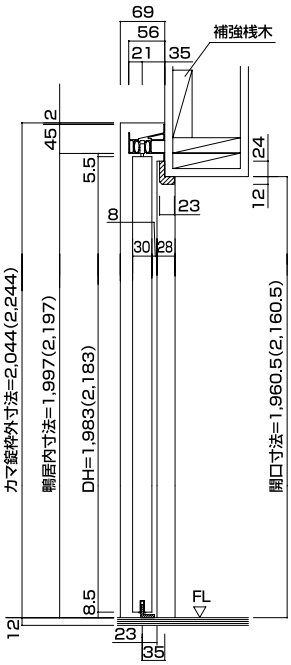


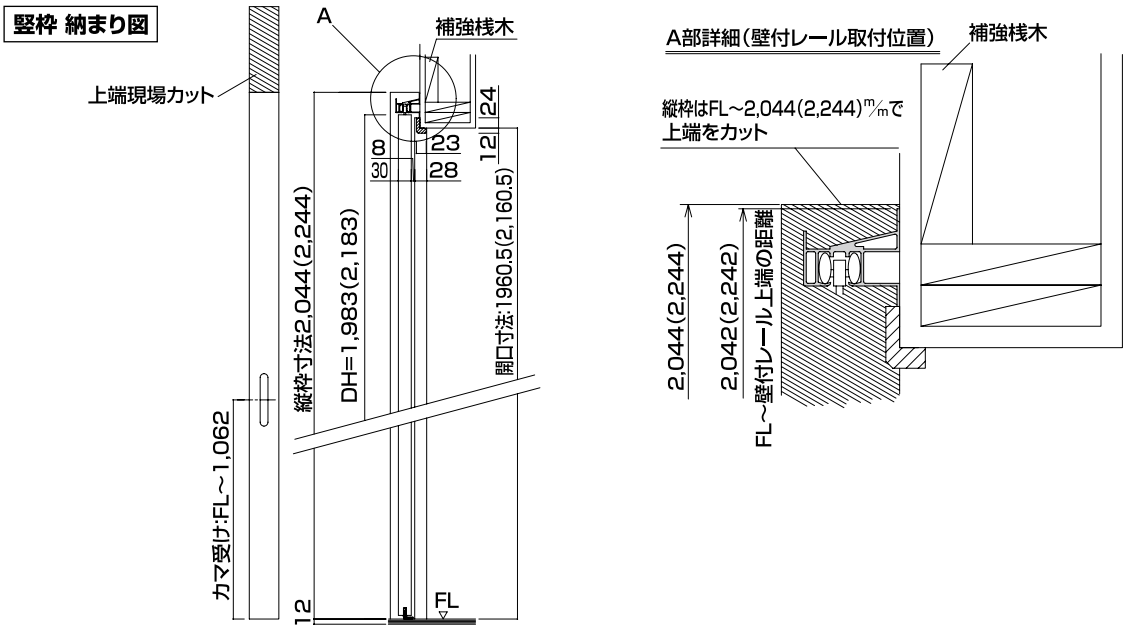
入隅・竪枠あり・片側ソフトクローズ仕様　入隅・竪枠あり・ソフトクローズなし

❶必要開口寸法	870	780	683
❷有効開口寸法	846	756	659
❸DW寸法	900	810	713
❹レールW寸法	1,789	1,609	1,415



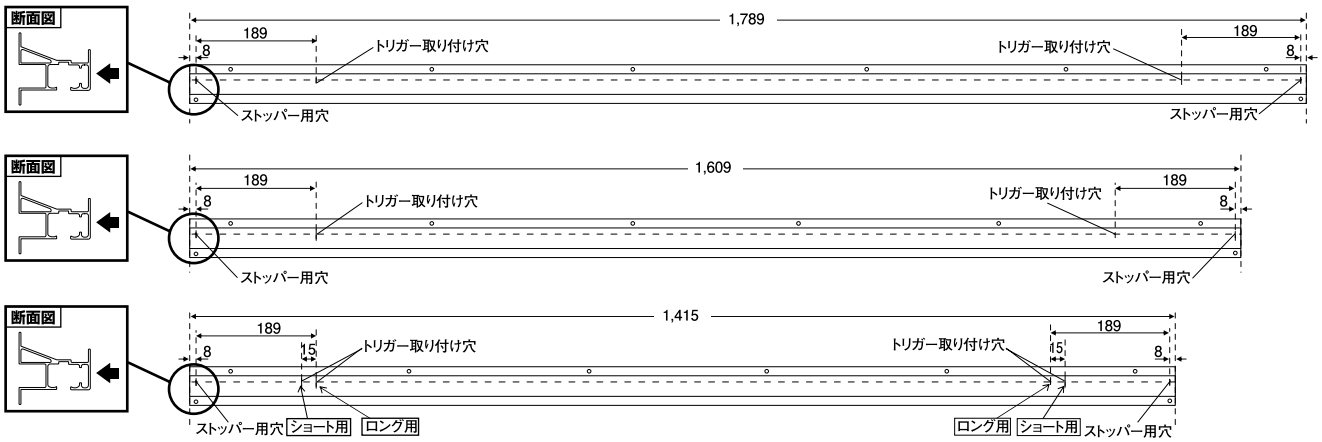
※（　）内寸法はDH=2,183の場合です。





※（　）内はDH=2,183の場合です。

壁付けレール　ビス穴詳細図



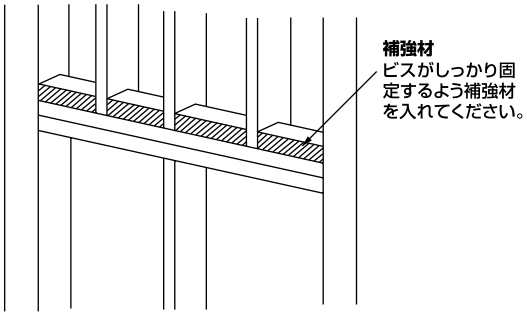
※上記詳細図は断面図の矢印方向から見た図になります。

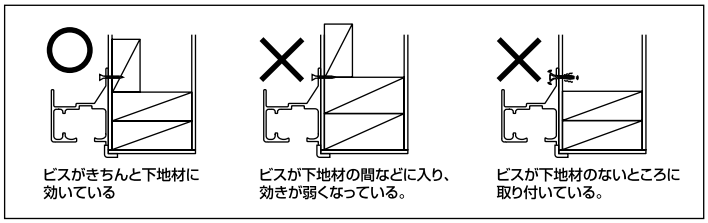
3. 施工手順

① 下地補強

取り付ける場所の下地を補強してください。

下地材の補強



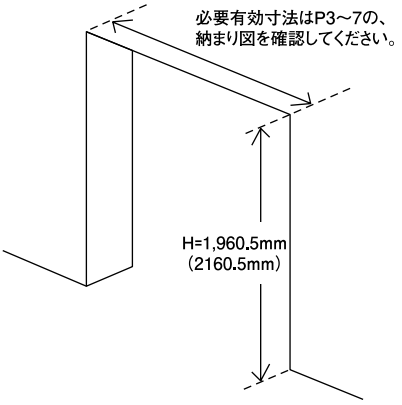


⚠ 注意

扉を吊るため、壁付けレールには大きな荷重がかかります。
ビスは確実に下地材に固定するようにしてください。
固定が十分でない場合、レール、扉が落下、転倒しケガをするおそれがあります。

アウトセット引き戸 専用枠材

② 開口寸法の確認

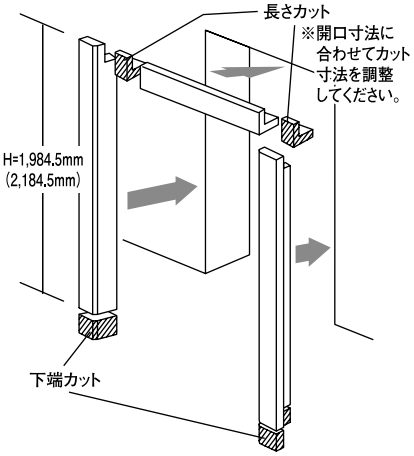


取り付け開口のH寸法･W寸法を確認してください。
※（　）内寸法はDH=2,183mmの場合です。

⚠ 注意

アウトセット引戸になりますので、壁仕上げ面より寸法を確認してください。

③ 出隅材の取り付け

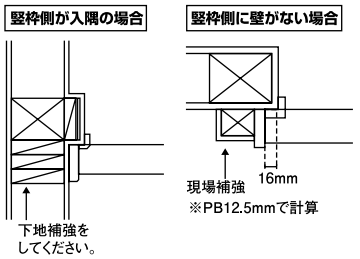


⚠ 注意

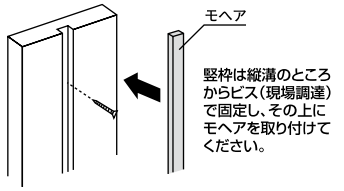
縦用出隅材のカットは必ず下側にくる方をカットしてください。上側には横用出隅材と接続するための加工が施されています。

間仕切り用竪枠を取り付ける場合

※詳しくは納まり図をご確認ください。



竪枠を使用する場合は納まり図を参考に取り付けてください。

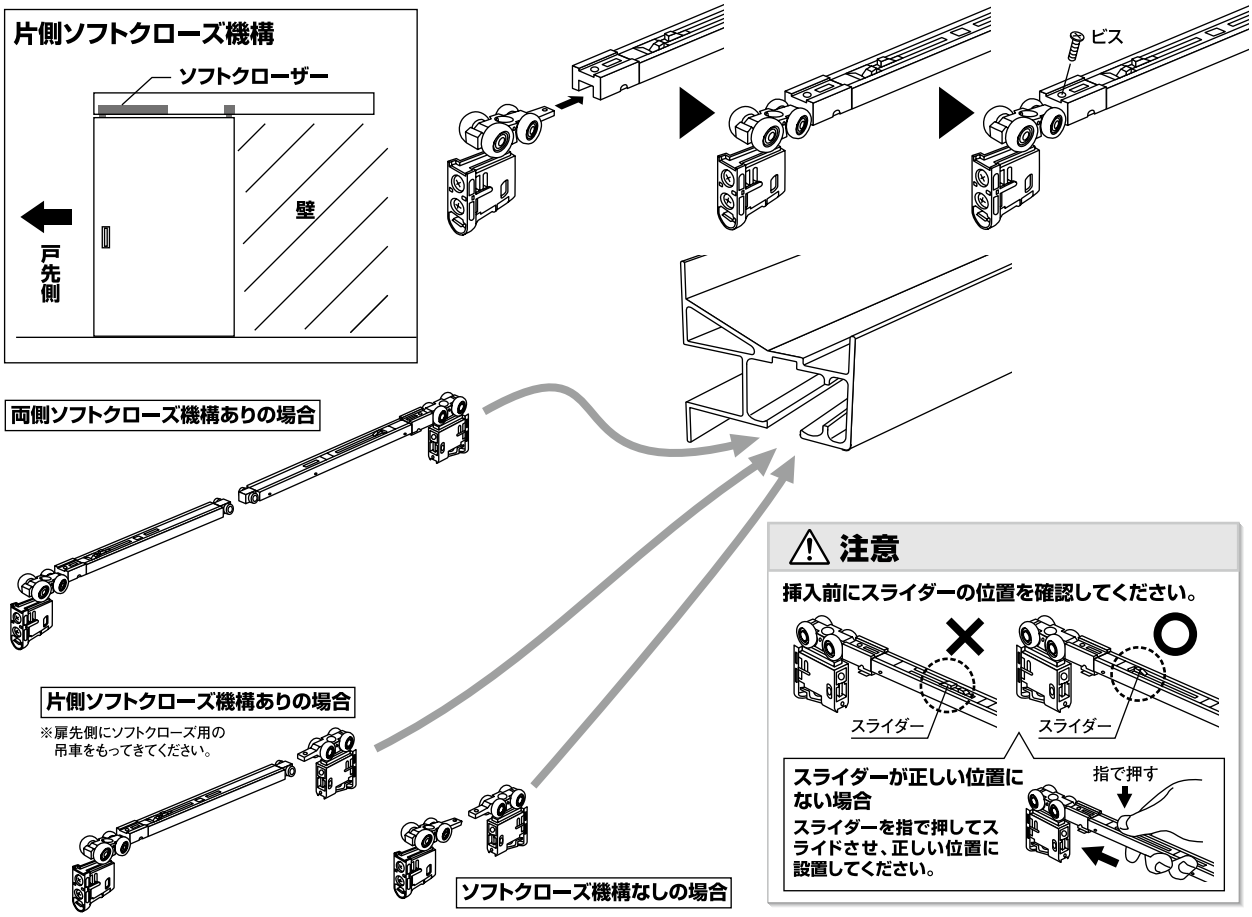


⚠ 注意

竪枠をカットする際は、必ず上側からカットしてください。下側からカットすると、間仕切りカマ錠受けの位置が合わなくなります。

④ 吊車の挿入

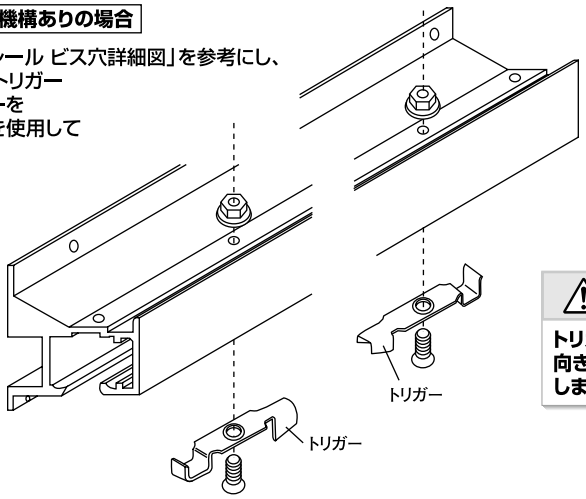
上吊レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により、図のように向かい合わせでレールに入れてください。
挿入方向を間違えると、扉が取り付かないので注意してください。
上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

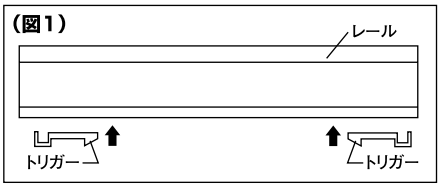


⑤ トリガーの取り付け

両側ソフトクローズ機構ありの場合

8ページの「壁付けレール ビス穴詳細図」を参考にし、
レールの両サイドのトリガー
取り付け穴にトリガーを
同梱のナットとネジを使用して
取り付けてください。



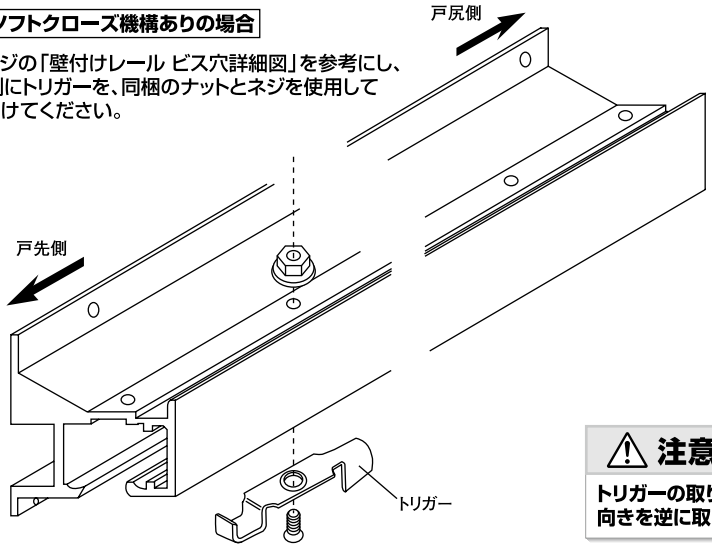


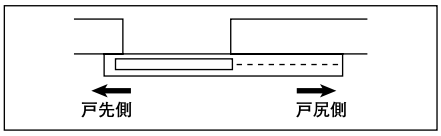
⚠ 注意

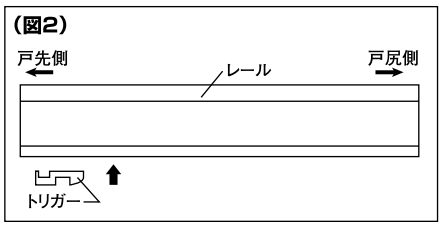
トリガーの取り付け向きに気をつけてください。（図1参照）
向きを逆に取り付けると、ソフトクローズ機構がうまく作動しません。

片側ソフトクローズ機構ありの場合

8ページの「壁付けレール ビス穴詳細図」を参考にし、
戸先側にトリガーを、同梱のナットとネジを使用して
取り付けてください。





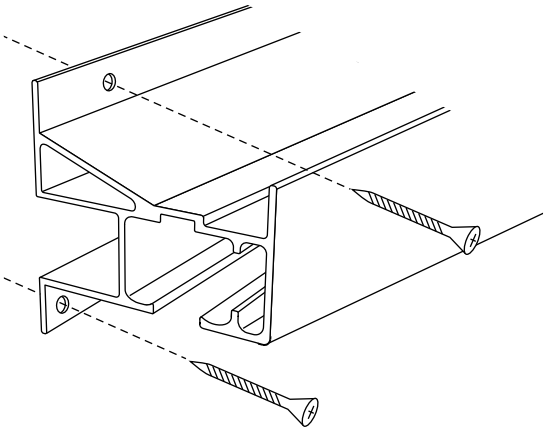


⚠ 注意

トリガーの取り付け向きに気をつけてください。（図2参照）
向きを逆に取り付けると、ソフトクローズ機構がうまく作動しません。

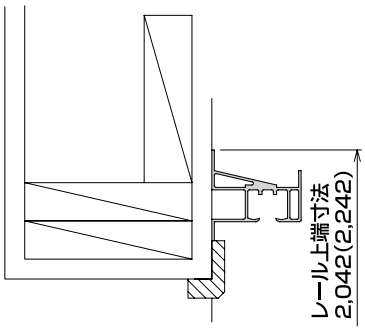
⑥ 壁付けレールの取り付け

上吊レールを取り付けます。
8ページの「壁付けレール ビス穴詳細図」を参照し、5.5φレール固定用のビス穴に同梱の取り付けビスで8カ所確実に固定させてください。
※ビスを取り付ける前に下穴をあけておいてください。



⚠ 注意

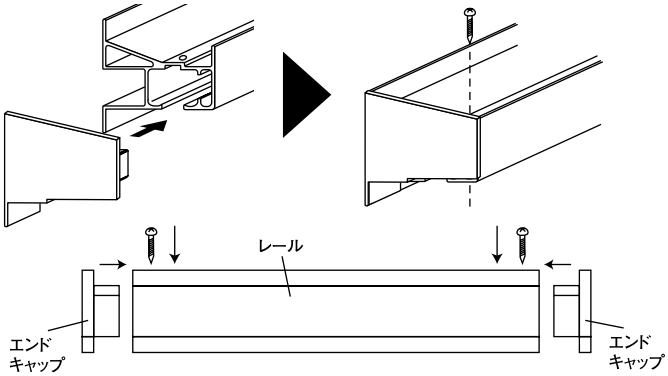
- **レール取り付けビスを打ち込む場所にはビスがきちんと効くように、下地の補強を確実におこなっておいてください。（8P参照）**
- **吊車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。**



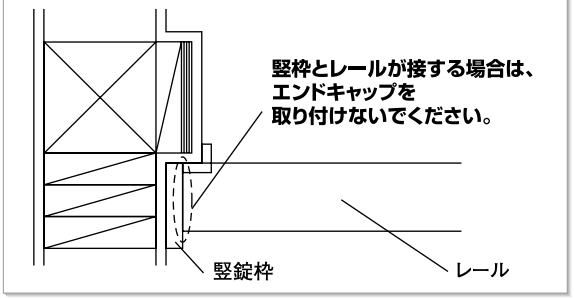
アウトセット引き戸 専用枠材

⑦ エンドキャップの取り付け

壁付けレールの両サイドにエンドキャップを取り付け、同梱のビスで上から固定してください。

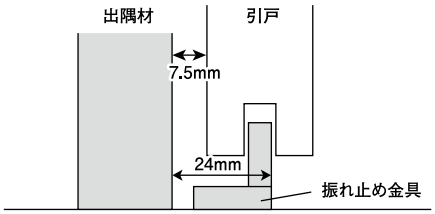


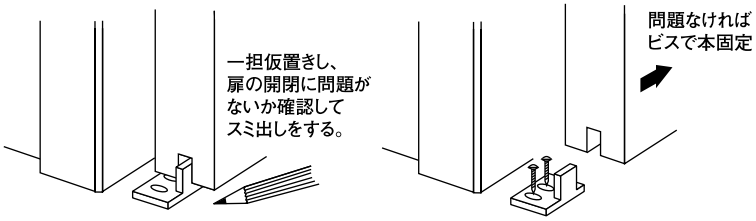
⚠ 注意

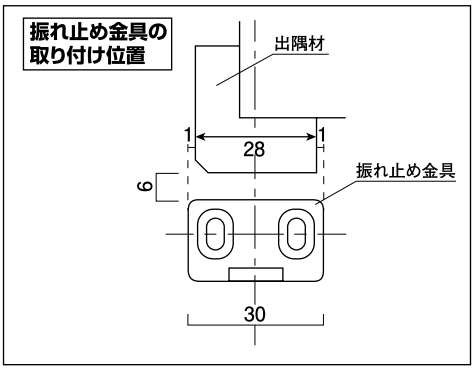


⑧ 振れ止め金具の取り付け

取り付け寸法を参考に振れ止め金具の取り付け位置を決めてください。本固定する前に一旦仮置きし、吊った扉が問題なく作動することを確認してから、同梱の取り付けビスで本固定させてください。

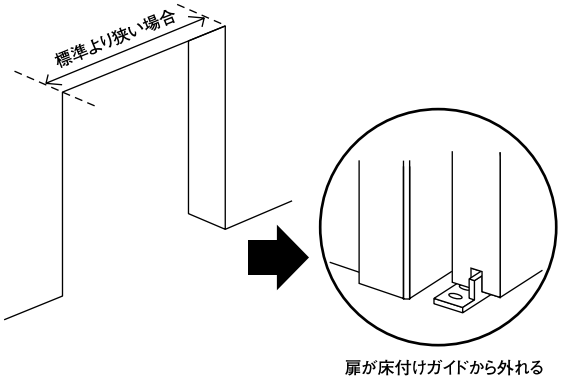


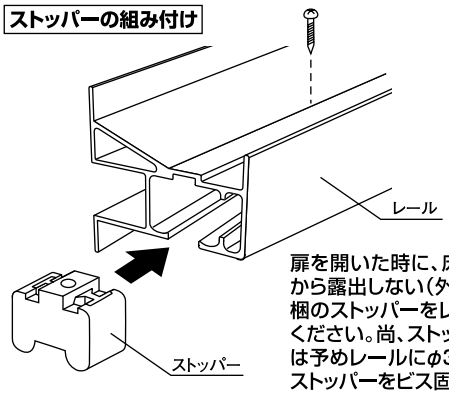




有効開口が標準寸法よりも狭い場合

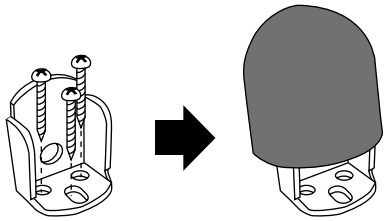
標準納まりより狭い開口に施工する場合には、必ず、レール内に同梱のストッパーを組み付けてからご使用ください。そのまま使用すると、扉が床付けガイドから外れて、扉が閉じれなくなります。





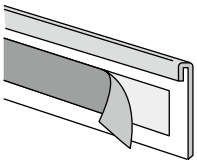
扉を開いた時に、床付けガイドから扉から露出しない（外れない）位置に、同梱のストッパーをレールに組み付けてください。尚、ストッパー組み付けの際は予めレールにφ3mmの穴をあけてストッパーをビス固定してください。

床付けストッパーの取り付けについて

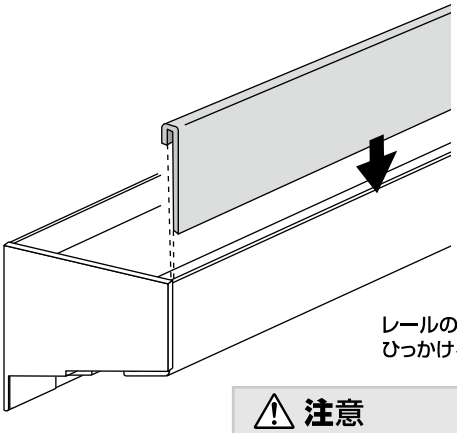


ソフトクローズ機構が作動しない側の引き戸下に床付けストッパーを取り付けます。取り付ける場所、取り付けが必要な仕様についてはP3～P7の、納まり図をご確認ください。

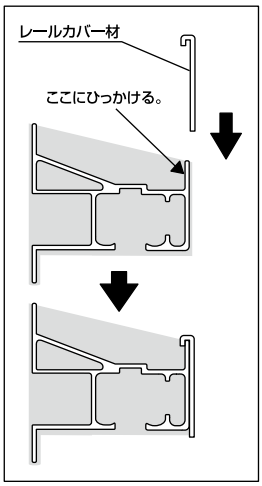
別売品　幕板セットの取り付け（ソフトアートシリーズのみ対応）



両面テープの剥離紙をはがします。



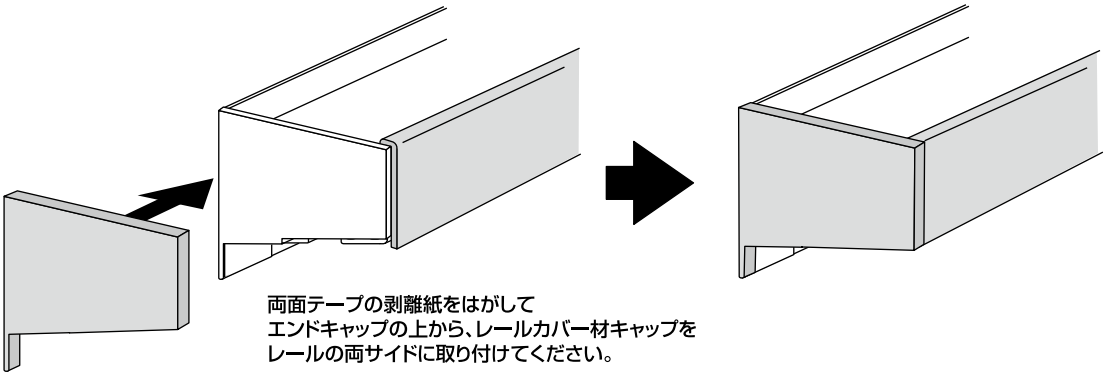
※取り付ける本体にあわせて長さをカットして下さい。



レールの全面部分にレールカバー材をひっかけるようなかたちで取り付けます。

⚠ 注意

レールの取り付け部分にゴミやホコリがないようにして取り付けてください。



両面テープの剥離紙をはがして
エンドキャップの上から、レールカバー材キャップを
レールの両サイドに取り付けてください。

レールカバー材キャップは内側のツメが確実にレールと嵌合するように取り付けてください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

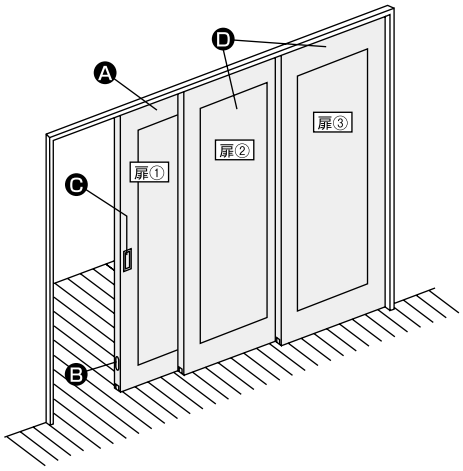
ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

連動引き戸（上吊りタイプ）

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



扉① 梱包内訳表

	部材名	数量	備　考
A	引き戸	1枚	
B	開き防止金具（マグネット）	1個	取り付け済

引き手（別売品）

	部材名	数量	備　考
C	引き手	1セット	ビス同梱

扉② 扉③ 梱包内訳表

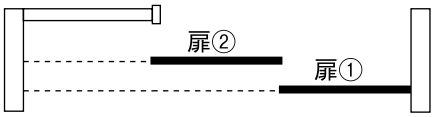
	部材名	数量	備　考
D	引き戸	1枚	引き手加工無し

※間口9尺タイプは扉②のみです。
※ストッパーは枠セットの梱包に同梱されています。

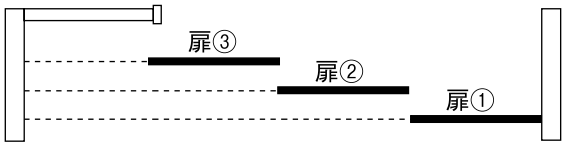
施工手順

引き戸の取り付け

2枚引き込み戸【左引き（L）】

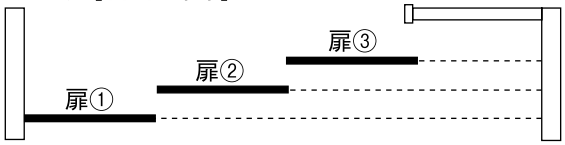


2枚引き込み戸【左引き（L）】



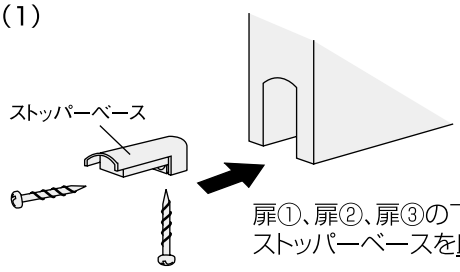
3枚引き込み戸【右引き（R）】

3枚引き込み戸【右引き（R）】



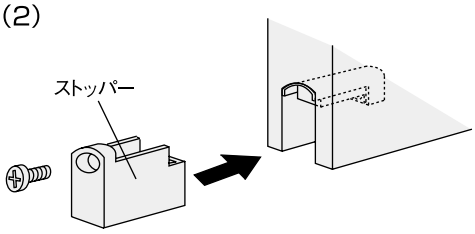
ストッパーの取り付け（枠材に同梱）

（1）



扉①、扉②、扉③の下の両側の欠き込みにストッパーベースを皿ビスで固定します。

（2）



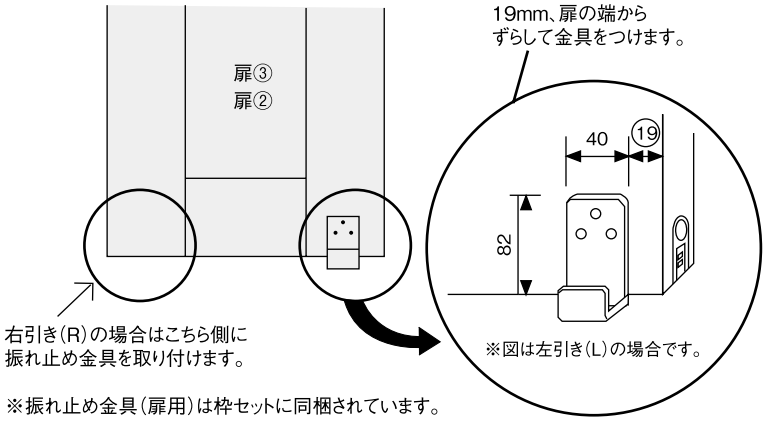
ストッパー本体をベースに専用ビスで固定します。

お願い

- ストッパーベースを組み付ける前にビス下穴（φ2.5、深さ50mm）をあけてください（基材割れ防止）

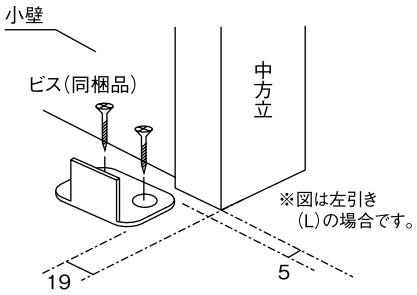
振れ止め金具の取り付け

（1）3連引き戸の場合は扉②（扉①と接する側）、扉③（扉②と接する側）に、2連引き戸の場合は扉②（扉①と接する側）に振れ止め金具（扉用）を図の位置に取り付けます。



※振れ止め金具（扉用）は枠セットに同梱されています。

振れ止め金具（床付け用）

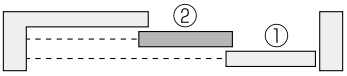


振れ止め金具（床付け用）を上図のように床に取り付けます。

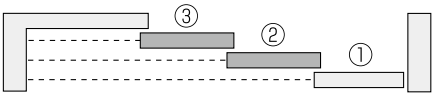
※振れ止め金具（床付け用）は枠セットに同梱されます。

引き戸の取り付け

2枚引き込み戸の場合



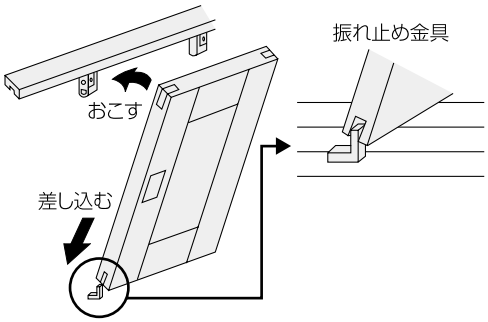
3枚引き込み戸の場合



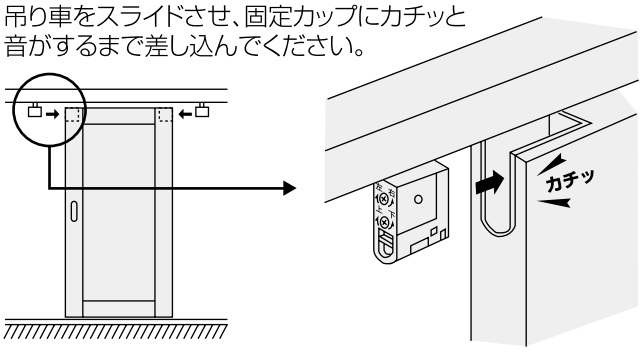
※図は左引き（L）の場合です。

扉③、扉②、扉①、の順で吊り込みます。
（2連の場合は扉②、扉①の順）

（1）扉③を床につけた振れ止め金具にひっかけ、扉③をおこします。



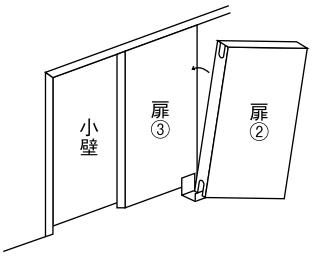
（2）吊り車をスライドさせ、固定カップにカチッと音がするまで差し込んでください。



⚠ 注意

扉を吊り込む際、吊り車のツメが下におりていることを確認し、扉をゆすったりして外れないことを確認してください。

（3）扉②を扉③の下部につけた振れ止め金具にひっかけ、扉②をおこします。

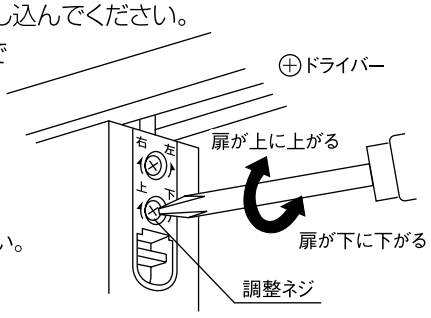


（4）（2）と同様に吊り車を差し込んでください。

（5）扉①は（3）、（4）の手順で取り付けてください。

（6）吊り車の調整を行い、扉を全て2mm上に上げてください。

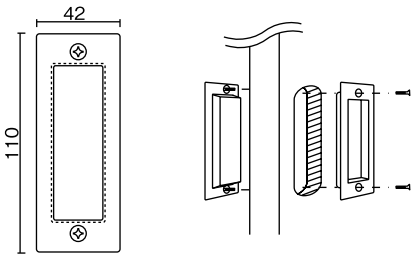
※調整の際は、両側の吊車2つとも必ず調整してください。（下側の調整ネジ）



連動引き戸（上吊りタイプ）

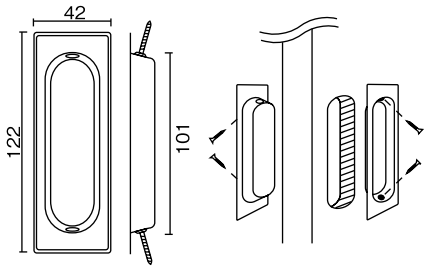
引き手の取り付け

〈角タイプ引き手の場合〉



1セットを同梱のビスで水平にとめます。

〈Rタイプ引き手の場合〉

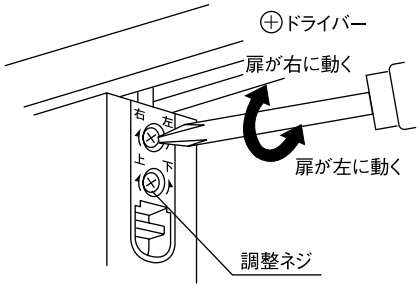


片側ずつ同梱のビスで斜めにとめます。
表･裏ともに本体にビスでとめます。

お願い 電動ドライバーによるビス止めは、引き手を破損するおそれがありますのでおこなわないでください。

引き戸と引き戸が擦れ合う、又は引き戸と中方立があたる場合（左右調整）

（1）吊り車の左右調整

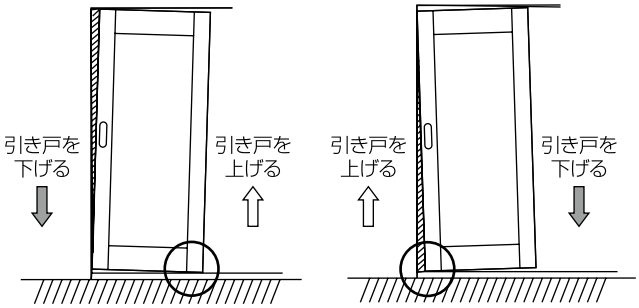


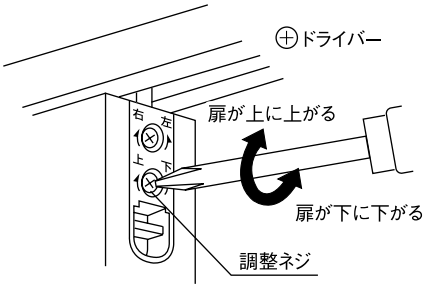
引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、上部ガイドと戸車の左右調整を行ってください。（上側の調整ネジ）

竪枠と引き戸の間に隙間が生じたとき（上下調整）

吊車の上下調整

（1）引き戸と竪枠の上部に隙間が生じたとき　（2）引き戸と竪枠の下部に隙間が生じたとき





隙間の状態を確認後、プラスドライバーにて吊車の上下調整ネジで調整を行い、竪枠と引き戸の隙間をなくしてください。その際は、両側の吊車2つとも必ず調整をしてください。（下側の調整ネジ）

施工終了後

養 生	当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。養生テープやガムテープなどの粘着テープは直接商品に貼り付けないようにしてください。
お手入れのしかた	引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。
使用説明書の手渡し	同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

2枚・3枚連動引き戸専用枠材

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

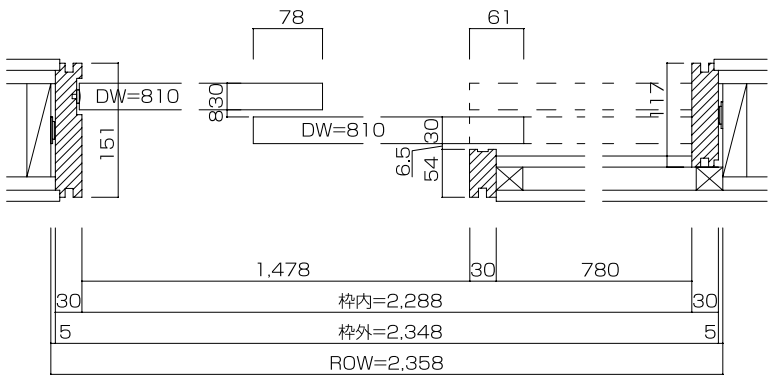
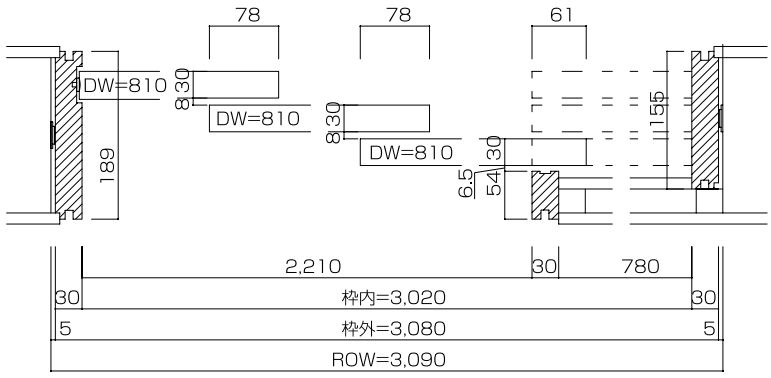
姿図	枠材本体セット	2枚引き込み戸(上吊連動)		3枚引き込み戸(上吊連動)	
		ピノアース	ソフトアート	ピノアース	ソフトアート
	竪枠(開口部側)	1本	1本	1本	1本
	竪枠(戸袋側)	1本	1本	1本	1本
	中方立	1本	1本	1本	1本
	モヘア	1本 (ZY5102)	1本 (ZY5101)	1本 (ZY5102)	1本 (ZY5101)
	鴨居	1本	1本	1本	1本
	鴨居レール幕板有り(アルミ)	ー	1本	ー	1本
	鴨居レール幕板無し(アルミ)	2本	1本	3本	2本
	木製幕板	1本	ー	1本	ー
	金具セット(枠本体セットに梱包)	ZYTR57	ZYTRM07	ZYTR58	ZYTRM08
ZYTR12	吊車	4個	4個	6個	6個
ZY2513	連動引き戸下部ストッパー	4個	4個	6個	6個
18mm 3.5mm	上レール取り付けビス(皿ビス)	ー	18本	ー	33本のみ使用※36本入
ZY3334	振れ止め金具(床付用)(ビス2本セット)	1個	1個	1個	1個
ZYTR01	開き防止金具(マグネット)(ネジ2本セット)	1個	1個	1個	1個
ZY2521	振れ止め金具(扉付用)(ビス3本セット)	1個	1個	2個	2個
ZYTN01	戸じゃくりキャップ	1個	1個	1個	1個
	ビスセット	ZYQB77-□	ZYMR01-□	ZYQB78-□	ZYMR01-□
6mm 35mm	木ダボ	2本	2本	2本	2本
62mm 3.8mm	組み立てビス	6本	6本	6本	6本
47mm 3.8mm	躯体接合金具ビス	14本	11本のみ使用※14本入	14本	14本
18mm 3.5mm	上レール取り付けビス(皿ビス)	18本	ー	33本	ー
7mm L50mm	六角レンチ	1本	1本	1本	1本
φ16	クッションキャップ	4個	4個	4個	4個
φ10	躯体接合穴キャップ	8個	8個	8個	8個

※連動引き戸ストッパーは引き戸を吊り込むまで大切に保管しておいてください。

2枚・3枚連動引き戸専用枠材

2. 納まり図 ピノアース･ソフトアート共通

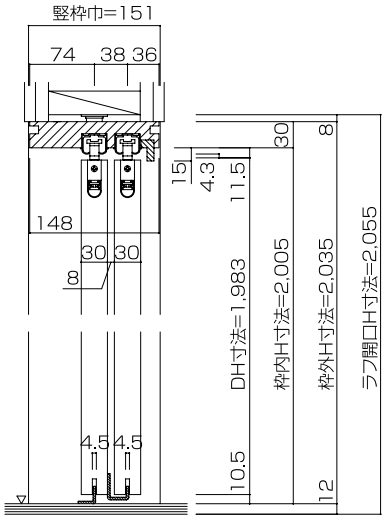
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

	横断面図
2枚引き込み戸	
3枚引き込み戸	

ピノアースの場合

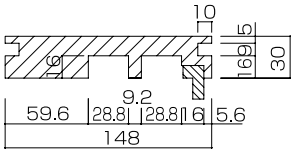
縦断面図

2枚引き込み戸

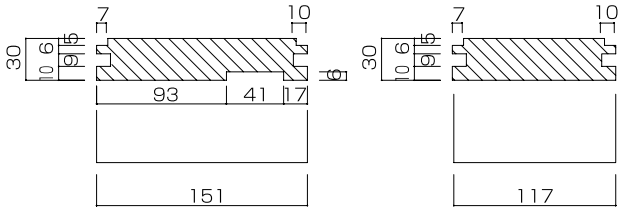


（単位:mm）

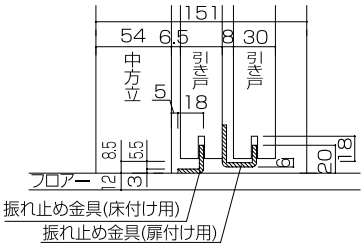
鴨居加工図



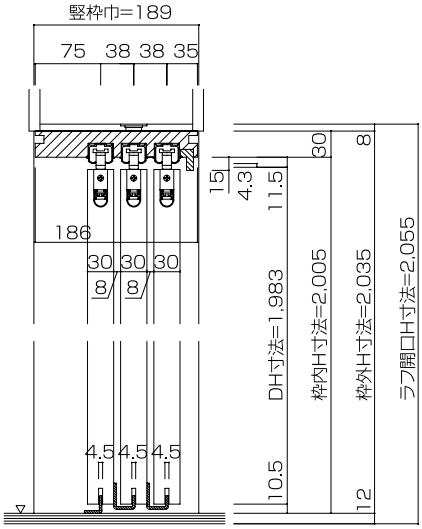
竪枠断面·下端加工図



振れ止め金具取り付け位置

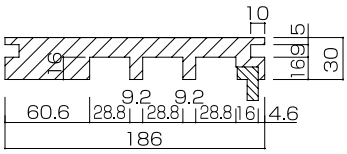


3枚引き込み戸

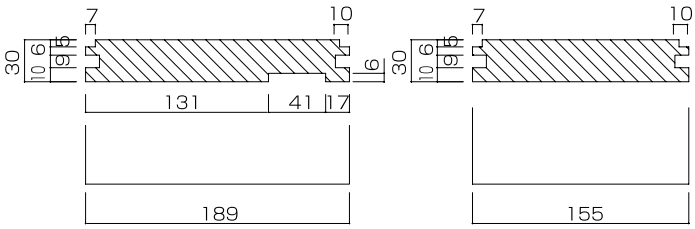


（単位:mm）

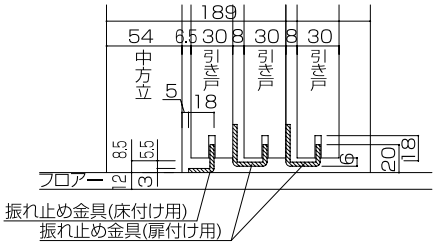
鴨居加工図



竪枠断面·下端加工図



振れ止め金具取り付け位置



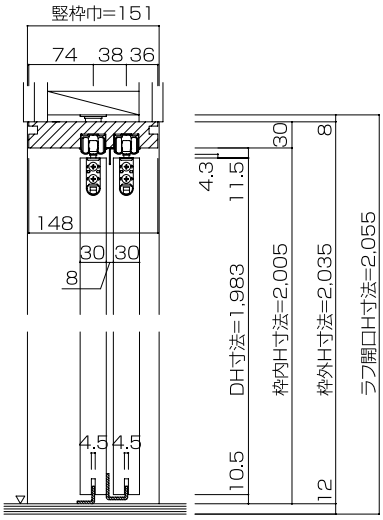
2枚・3枚連動引き戸専用枠材

ソフトアートの場合

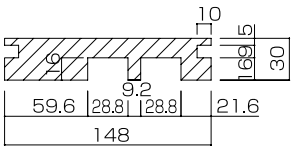
縦断面図

（単位:mm）

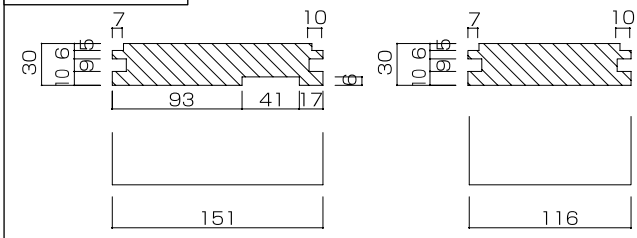
2枚引き込み戸



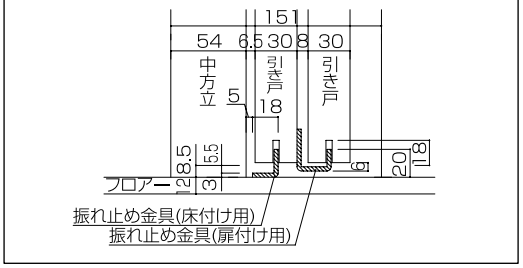
鴨居加工図



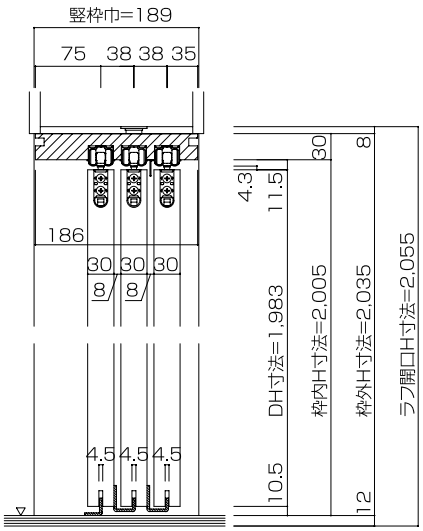
竪枠断面·下端加工図



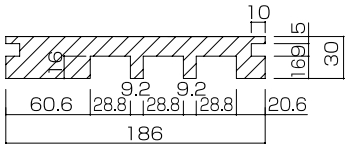
振れ止め金具取り付け位置



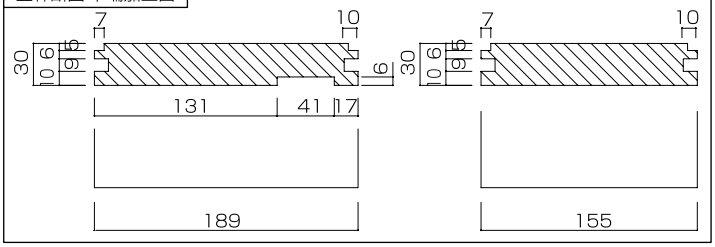
3枚引き込み戸



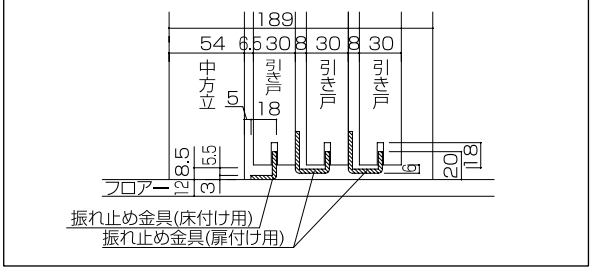
鴨居加工図



竪枠断面·下端加工図

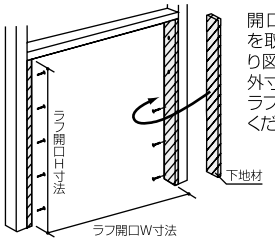


振れ止め金具取り付け位置

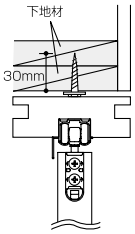


3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

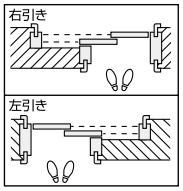


⚠ 注意

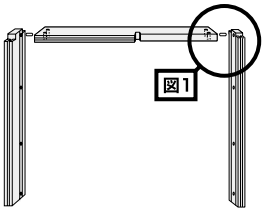
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

引き手方向の確認 ※片引き戸の場合のみ。

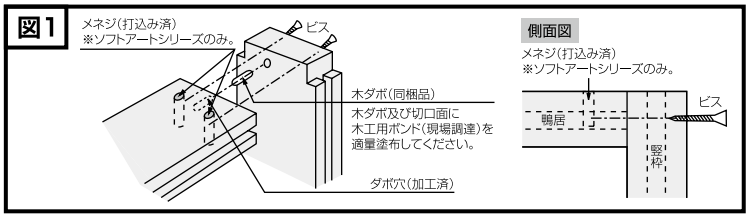
引き込み戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。



② 枠材の組み立て



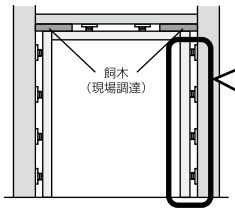
同梱の木ダボ、組み立て用ビス、木工用ボンド（現場調達）を使用して枠材を組み立ててください。

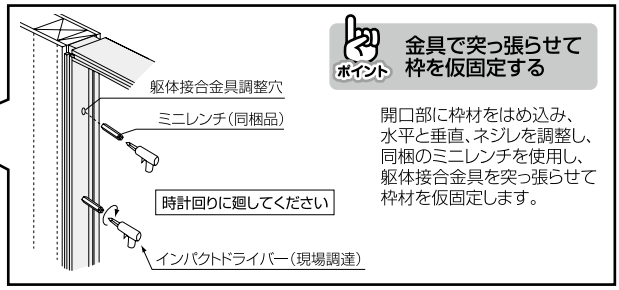


③ 枠材の仮固定

※躯体接合金具の数量はシリーズ・引き戸種類によって異なります。下記イラストはイメージです。実際の数量とは異なる場合があります。

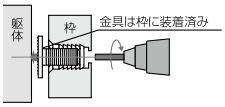
組み立てた枠材を開口部にセットします。





ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

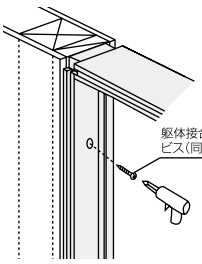


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

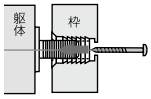
⚠ 注意

インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

④ 竪枠の本固定



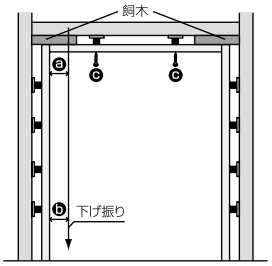
竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。



枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）

⑤ 建て付け調整ならびに鴨居の本固定

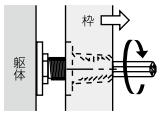
水準器などを使用し、竪枠、鴨居の水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。



- 水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  併せて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

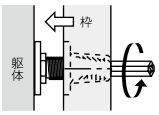
枠を内側に寄せる場合

時計回り（右回り）で調整

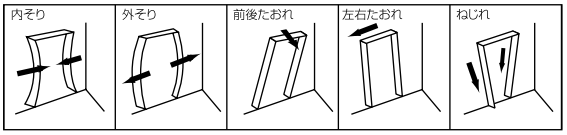


枠を外側に出す場合

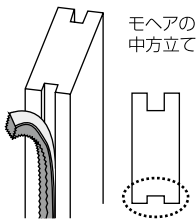
反時計回り（左回り）で調整



※下記の様なことがないようご注意ください。



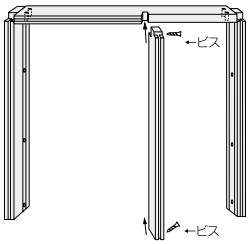
⑥ モヘアの取り付け



モヘアの剥離紙を剥がし、モヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

モヘアは中方立ての溝が浅い方へ取り付けてください。

⑦ 中方立の取り付け



枠材の本固定後、モヘアを取り付けた方を枠側に向け、中方立を同梱の組み立て用ビスで確実に固定してください。
水準器などを使用して垂直に中方立を取り付けるようにしてください。

⑧ 小壁の取り付け

枠組が完了しましたら、小壁を施工してください。

※小壁施工には引戸側への反りが発生しにくく、軸組とボードを簡単に施工できる小壁下地材「小壁ちゃん（別売品）」を推奨しています。

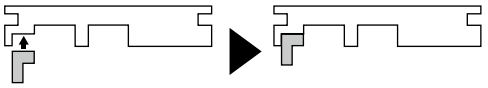
2枚・3枚連動引き戸専用枠材

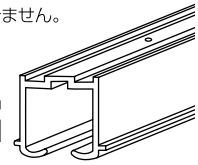
⑨ 鴨居レールの取り付け

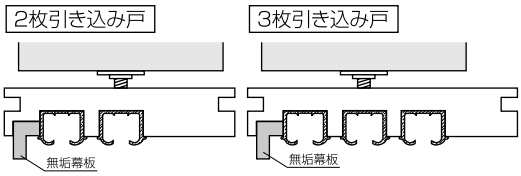
シリーズによってレールの形状が異なります。取り付けを行う前に該当するシリーズをよくご確認いただき下記の手順に従って施工してください。

ピノアースの場合

ピノアースの場合は、鴨居レール（アルミレール）に幕板は取り付きません。
別途無垢幕板を木工用ボンド（現場調達）とフィニッシュネイルを併用で鴨居に取り付けてください。
※無垢幕板の長さ寸法は鴨居寸法に合わせて現場カットになります。

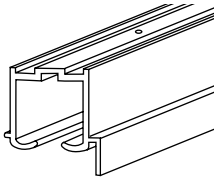




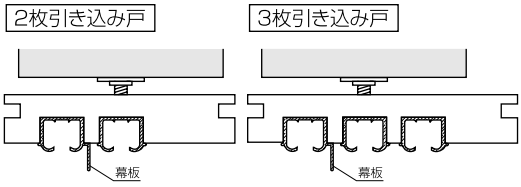


ソフトアートの場合

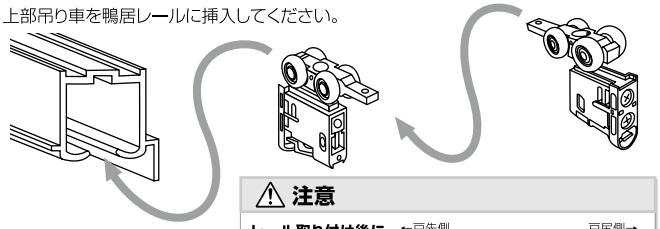
幕板付きの鴨居レール（アルミレール）になります。



レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。

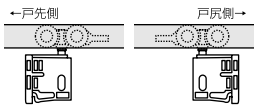


（1）上部吊り車を鴨居レールに挿入してください。

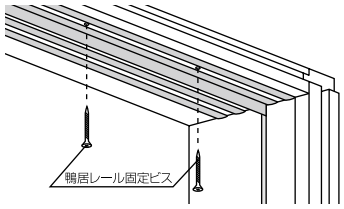


⚠ 注意

レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



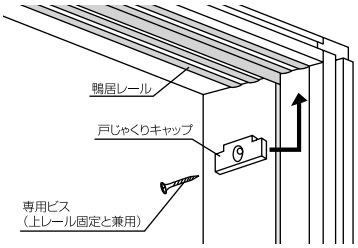
（2）取り付け方向を確認し、鴨居レールを鴨居溝へはめ込み、同梱の取り付けビスで確実に固定してください。



⚠ 注意

吊り車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊り車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。

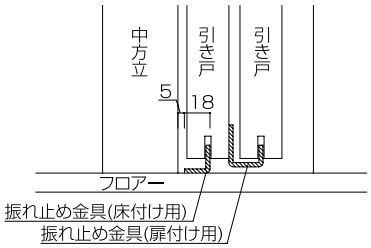
（3）レール固定後、戸じゃくり部分に戸じゃくりキャップを同梱のビスで取り付けます。



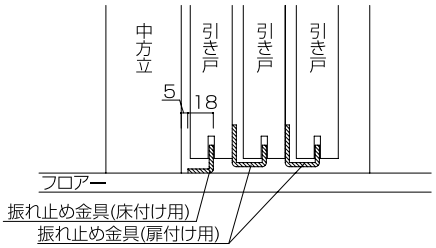
⑩ 振れ止め金具の取り付け

振れ止め金具（床付け用）を下記のように取り付けてください。

2枚引き込み戸の場合

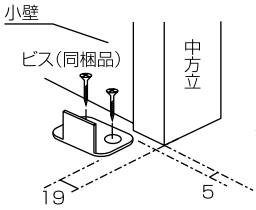


3枚引き込み戸の場合



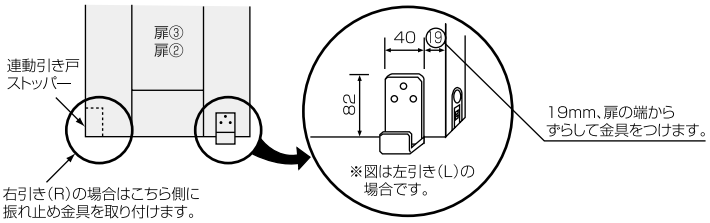
振れ止め金具（床付け用）を下図のように床に取り付けます。

振れ止め金具（床付け用）

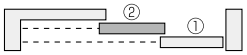


※図は左引き（L）の場合です。

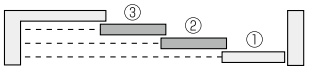
次に扉用の振れ止め金具を2枚目、3枚目の扉に下記のように取り付けてください。



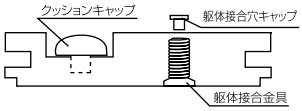
2枚引き込み戸の場合

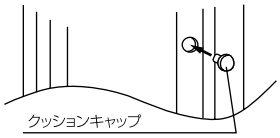


3枚引き込み戸の場合



⑪ クッションキャップの取り付け（戸先側）





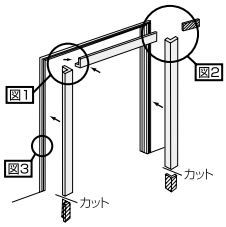
クッションキャップをします。

戸先側の竪枠にクッションキャップを取り付けてください。

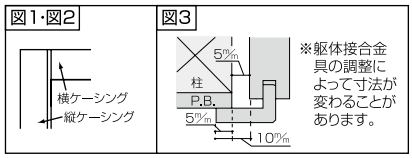
※クッションキャップは確実に取り付けてください。
確実に取り付けていないと外れてしまうことがあります。

戸袋側（戸尻側）の竪枠には躯体接合穴キャップのみを取り付けてください。

⑫ ケーシングの取り付け

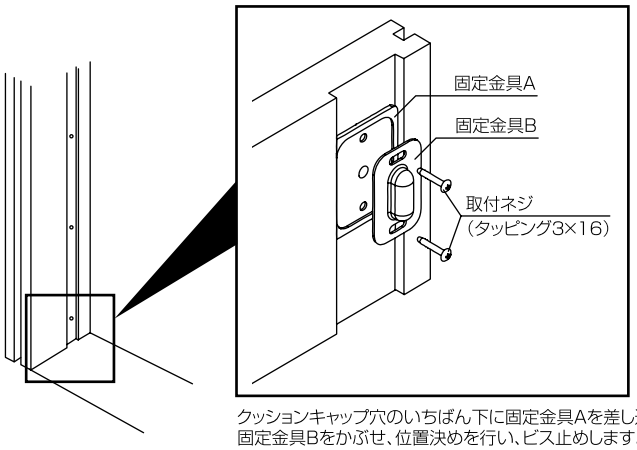


ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。
寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



⑬ 開き防止金具の取り付け

扉が振れることを防止するため、開き防止金具（マグネット）を取り付けます。



クッションキャップ穴のいちばん下に固定金具Aを差し込み、
固定金具Bをかぶせ、位置決めを行い、ビス止めします。

施工終了後

養　生	当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。
お手入れのしかた	枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。 ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

2枚・3枚連動引き戸専用枠材

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

※商品の種類によって、同梱されていても使用しない部材があります。

姿図	枠材本体セット	2枚引き込み戸（上吊連動）	3枚引き込み戸（上吊連動）
	竪枠（開口部側）	1本	1本
	竪枠（戸袋側）	1本	1本
	中方立	1本	1本
ZY5101	モヘア	1本	1本
	鴨居	1本	1本
	鴨居レール幕板有り（アルミ）	1本	1本
	鴨居レール幕板無し（アルミ）	1本	2本
	金具セット	ZYTRM07	ZYTRM08
ZYTR12	吊車	4個	6個
ZY2513	連動引き戸下部ストッパー	4個	6個
18mm 3.5mm	上レール取り付けビス（皿ビス）	18本	33本のみ使用※36本入
ZY3334	振れ止め金具（床付用）（ビス2本セット）	1個	1個
ZYTR01	開き防止金具（マグネット）（ネジ2本セット）	1個	1個
ZY2521	振れ止め金具（扉付用）（ビス3本セット）	1個	2個
ZYYN01	戸じゃくりキャップ	1個	1個
	ビスセット	ZYMR01-□	ZYMR01-□
6mm 35mm	木ダボ	2本	2本
62mm 3.8mm	組み立てビス	6本	6本
47mm 3.8mm	躯体接合金具ビス	枠と躯体の固定用14本	枠と躯体の固定用14本
18mm 3.5mm	上レール取り付けビス（皿ビス）	ー	ー
7mm L50mm	六角レンチ	使用しません※1本入	使用しません※1本入
φ16	クッションキャップ	4個	4個
φ10	躯体接合穴キャップ	4個のみ使用※8個入	8個

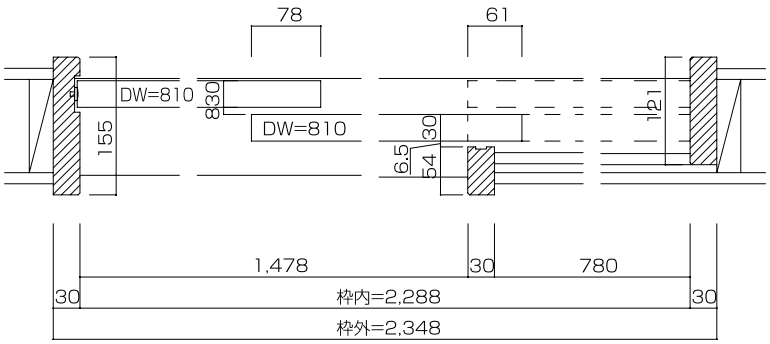
※連動引き戸ストッパーは引き戸を吊り込むまで大切に保管しておいてください。

2. 納まり図

横断面図

2枚引き込み戸

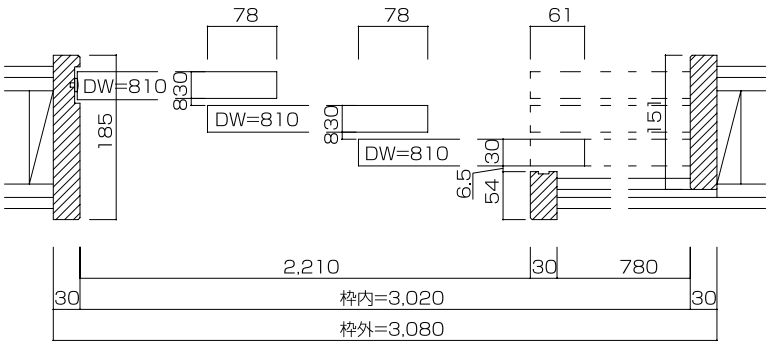
（単位:mm）



※図示:左引き手

3枚引き込み戸

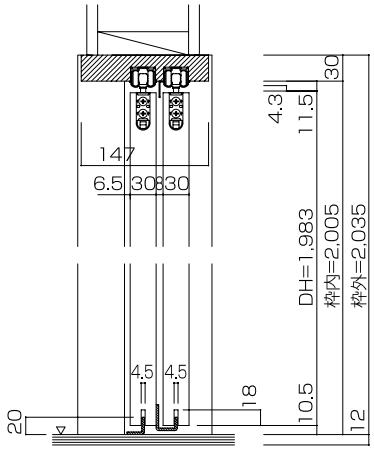
（単位:mm）



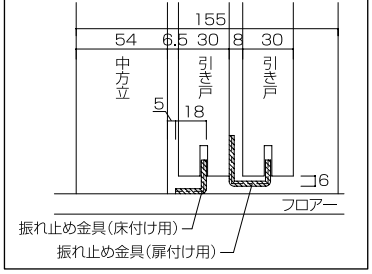
縦断面図

2枚引き込み戸

（単位:mm）

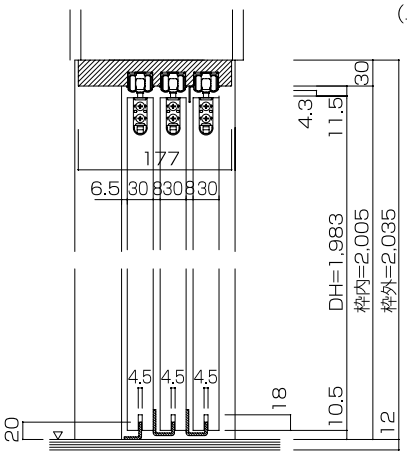


振れ止め金具取り付け位置

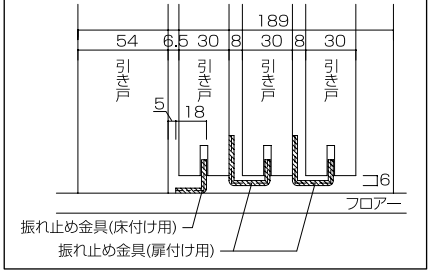


3枚引き込み戸

（単位:mm）



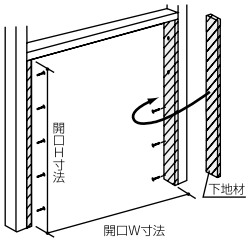
振れ止め金具取り付け位置



2枚・3枚連動引き戸専用枠材

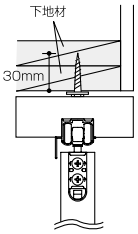
3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った開口を設けてください。

② 下地材·引き手の確認

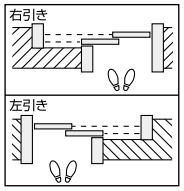


⚠ 注意

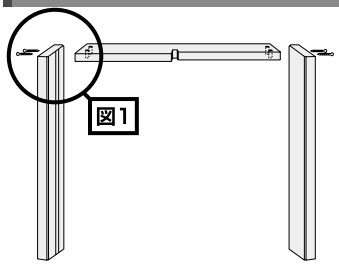
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

引き手方向の確認

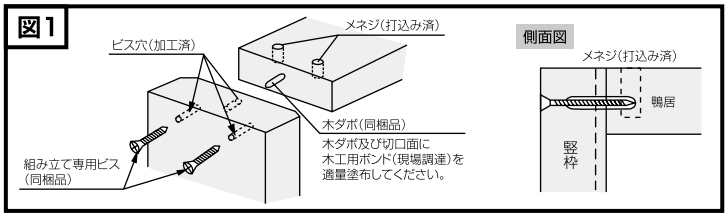
引き込み戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。



③ 枠材の組み立て



同梱の木ダボ、組み立て用ビス、木工用ボンド（現場調達）を使用して枠材を組み立ててください。



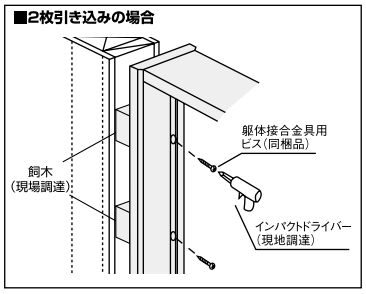
④ 枠材の取り付け

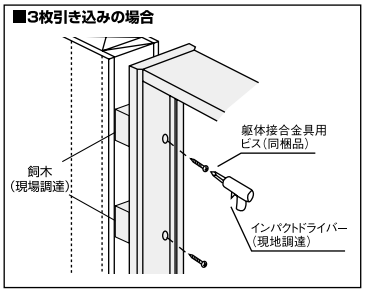
■3方に組んだ枠材を開口部にセットしてください。

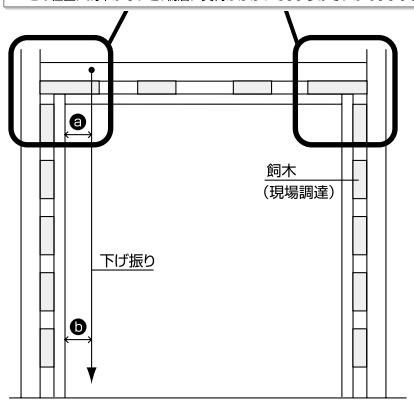
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、枠材を固定します。
枠材の固定は同梱の躯体接合金具用ビスを竪枠のビス穴から打ち込んで固定させてください。
鴨居の固定は任意の位置にビスを打ち込んで確実に固定してください。

⚠ 注意

ソフトクローズ仕様の場合はトリガー取り付け位置の鴨居裏に補強の飼木（現場調達）を入れる。
※この位置に飼木がないと、鴨居に負荷がかかってしまうおそれがあります。

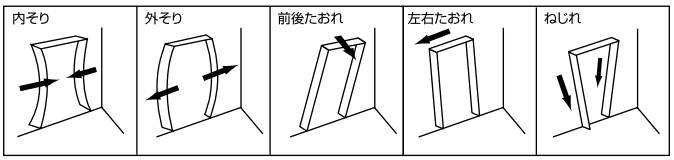




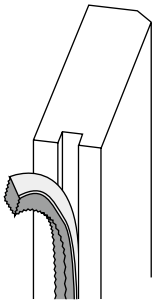


水準器などを使用し、ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。
併せて前後の建りも調整してください。

※下記の様なことがないようご注意ください。

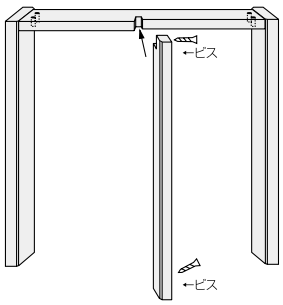


⑤ モヘアの取り付け



モヘアの剥離紙を剥がし、モヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

⑥ 中方立の取り付け



枠材の本固定後、モヘアを取り付けた方を枠側に向け、中方立を同梱の組み立て用ビスで確実に固定してください。
水準器などを使用して垂直に中方立を取り付けるようにしてください。

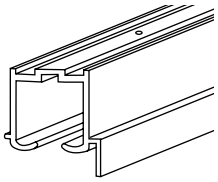
⑦ 小壁の取り付け

枠組が完了しましたら、小壁を施工してください。

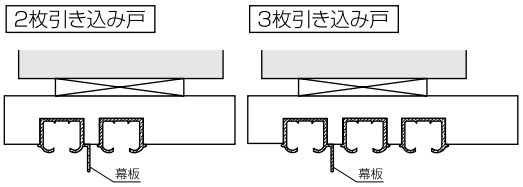
※小壁施工には引戸側への反りが発生しにくく、軸組とボードを簡単に施工できる小壁下地材「小壁ちゃん（別売品）」を推奨しています。

⑧ 鴨居レールの取り付け

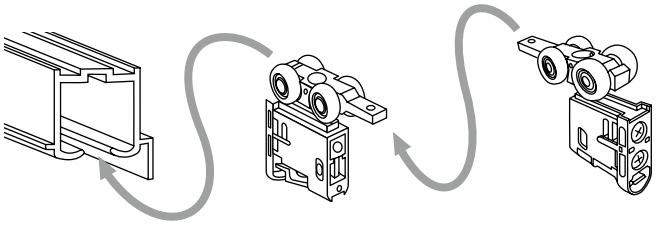
使用するのはアルミの鴨居レールになります。



レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。

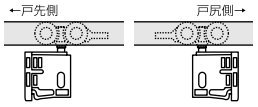


（1）上部吊り車を鴨居レールに挿入してください。

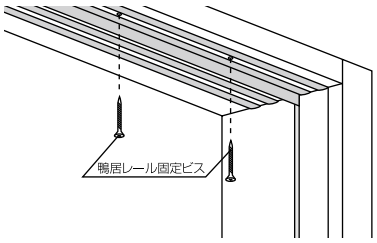


⚠ 注意

レール取り付け後にスライダーの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



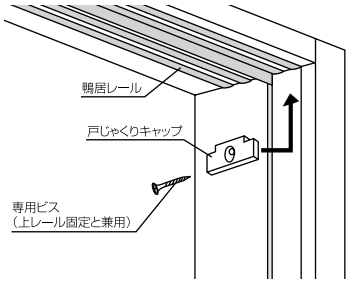
（2）取り付け方向を確認し、鴨居レールを鴨居溝へはめ込み、同梱の取り付けビスで確実に固定してください。



⚠ 注意

吊り車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊り車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。

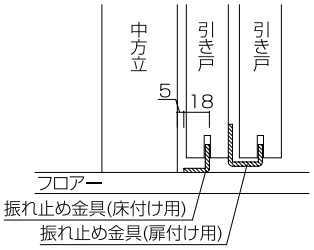
（3）レール固定後、戸じゃくり部分に戸じゃくりキャップを同梱のビスで取り付けます。



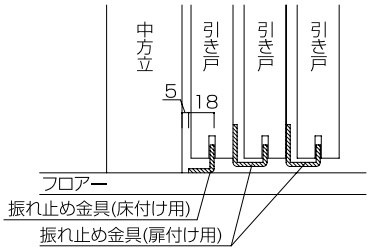
⑨ 振れ止め金具の取り付け

振れ止め金具（床付け用）を下記のように取り付けてください。

2枚引き込み戸の場合

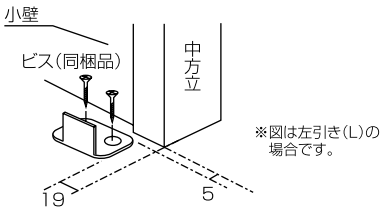


3枚引き込み戸の場合

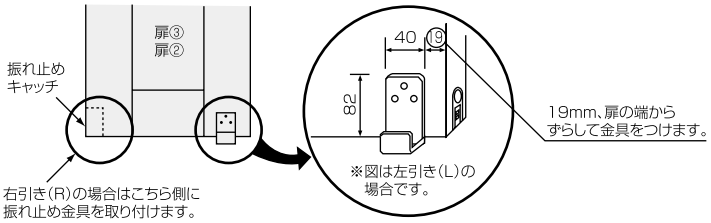


振れ止め金具（床付け用）を下図のように床に取り付けます。

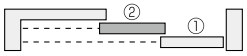
振れ止め金具（床付け用）



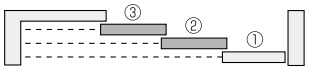
次に扉用の振れ止め金具を2枚目、3枚目の扉に下記のように取り付けてください。



2枚引き込み戸の場合

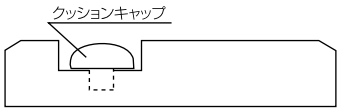


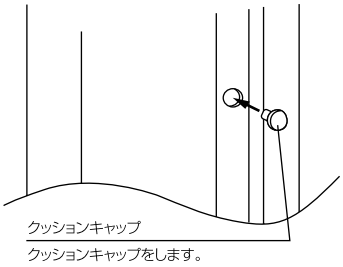
3枚引き込み戸の場合



2枚・3枚連動引き戸専用枠材

⑩ クッションキャップの取り付け（戸先側）

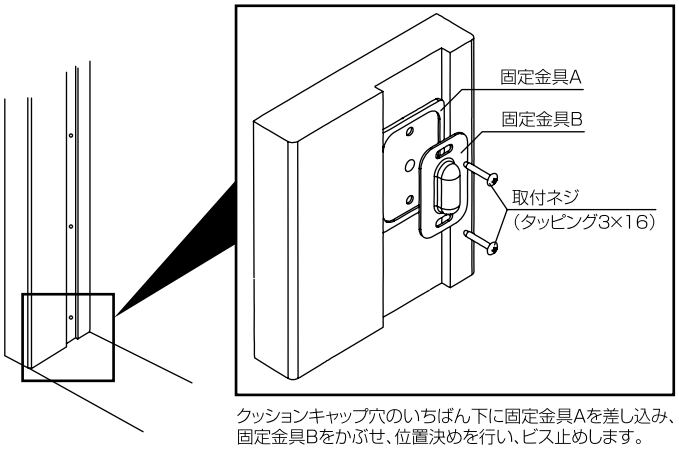




戸先側の竪枠にクッションキャップを取り付けてください。
※クッションキャップは確実に取り付けてください。
確実に取り付けていないと外れてしまうことがあります。
戸袋側（戸尻側）の竪枠には躯体接合穴キャップのみを取り付けてください。

⑪ 開き防止金具の取り付け

扉が振れることを防止するため、開き防止金具（マグネット）を取り付けます。



クッションキャップ穴のいちばん下に固定金具Aを差し込み、
固定金具Bをかぶせ、位置決めを行い、ビス止めします。

施工終了後

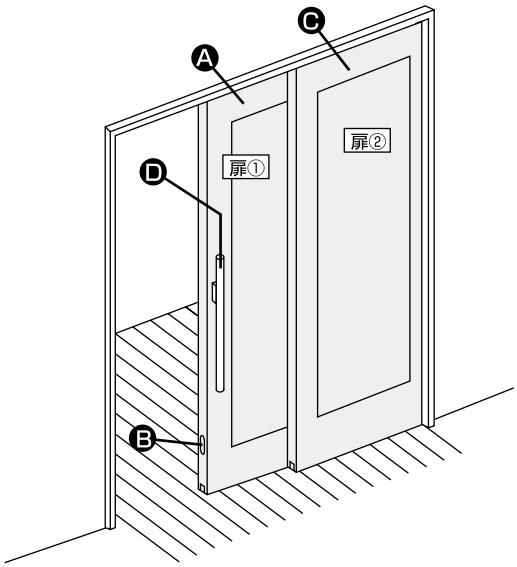
養　生	当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。
お手入れのしかた	枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。 ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

機能引き戸2枚連動引き戸

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



扉① 梱包内訳表

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	引き戸	1枚	
Ⓑ	開き防止金具(マグネット)	1個	取付済

引き手(別売品)

	部材名	数量	備　考
Ⓓ	バー引き手	1セット	

扉② 梱包内訳表

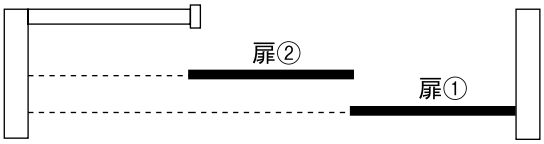
	部材名	数量	備　考
Ⓒ	引き戸	1枚	引き手加工無し

※ストッパー･引き残しストッパーは枠セットの梱包に同梱されています。

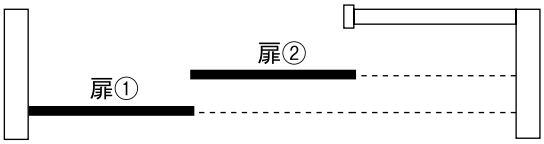
施工手順

引き戸の取り付け

左引き(L)

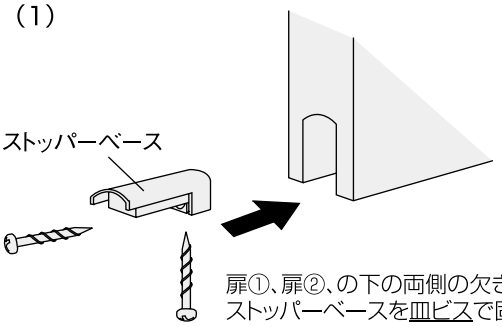


右引き(R)



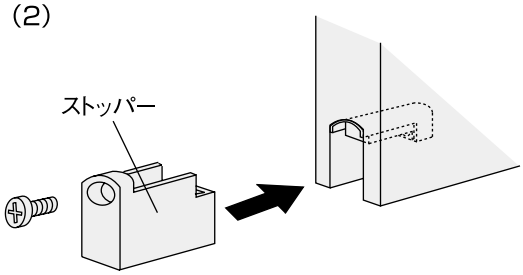
ストッパーの取り付け(枠材に同梱)

(1)



扉①、扉②、の下の両側の欠き込みに
ストッパーベースを皿ビスで固定します。

(2)



ストッパー本体をベースに専用ネジで固定します。

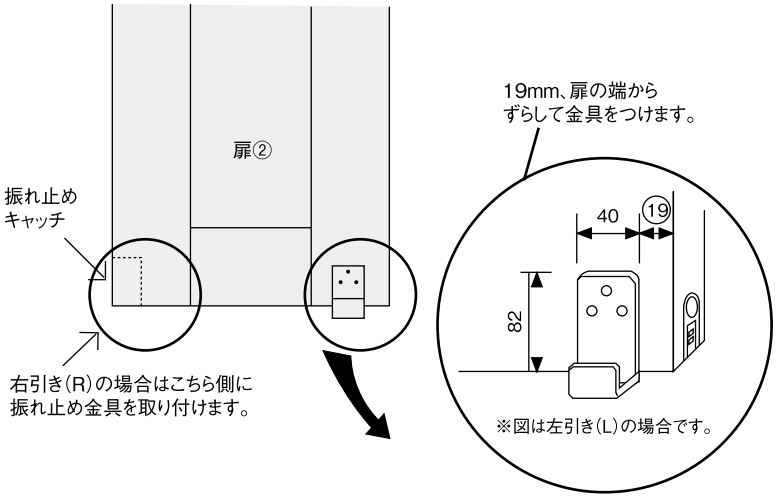
お願い

- ストッパーベースを組み付ける前にビス下穴(φ2.5、深さ50mm)をあけてください(基材割れ防止)

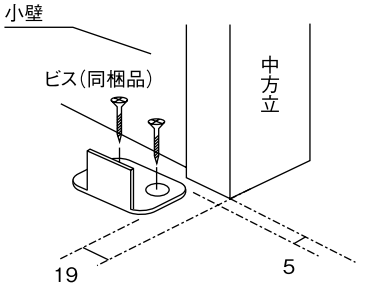
機能引き戸2枚連動引き戸

振れ止め金具の取り付け

（1）扉②に振れ止め金具（扉用）を図の位置に取り付けます。
※振れ止め金具（扉用、床付け用）は枠材の梱包に同梱されています。



振れ止め金具（床付け用）

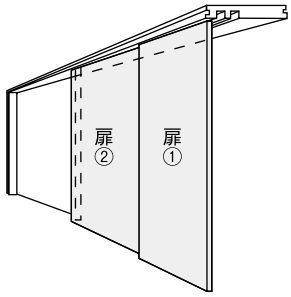


※図は左引き（L）の場合です。

振れ止め金具（床付け用）
を上図のように床に
取り付けます。

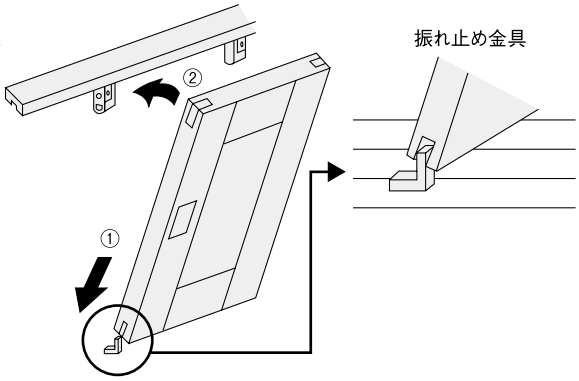
※図は左引き（L）の場合です。

引き戸の取り付け

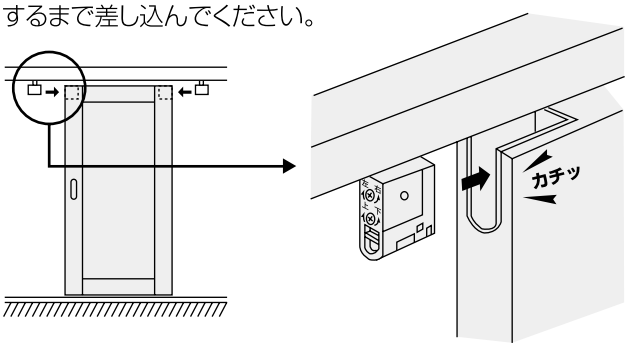


扉②、扉①、の順で吊り込みます。
※図は左引きの場合です。

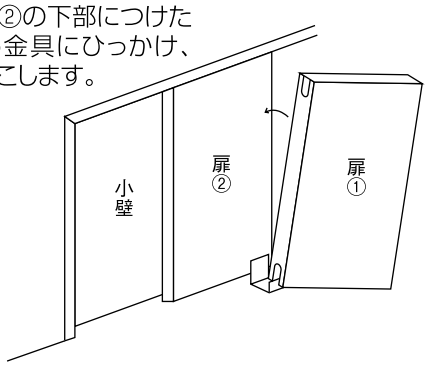
（1）扉を床に取り付けた振れ止め金具にひっかけ、扉をおこします。



（2）吊り車をスライドさせ、固定カップにカチッと音がするまで差し込んでください。

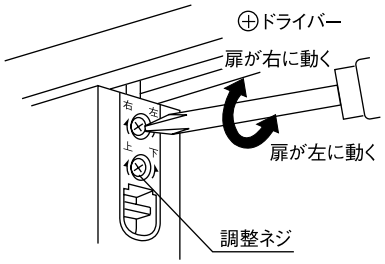


（3）扉①を扉②の下部につけた振れ止め金具にひっかけ、扉①をおこします。

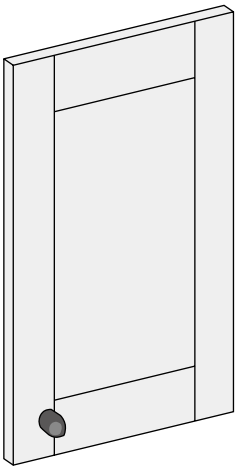


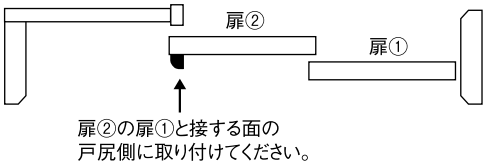
（4）（2）と同様に吊り車を差し込んでください。

（5）吊り車の左右調整
引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、上部ガイドと戸車の左右調整を行ってください。（上側の調整ネジ）

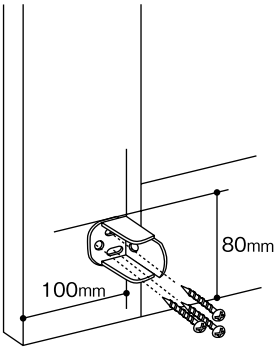


(7)扉②に引き残しストッパーを取り付けてください。

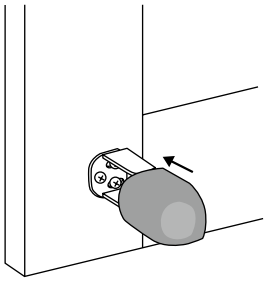




扉②のコバ面より
100㎜、下端より
80㎜の位置に
引き残しストッパーの
ベースを同梱の
ビスで固定します。



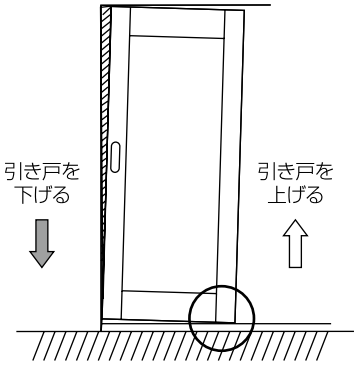
固定させたベースにカバーを
取り付けてください。



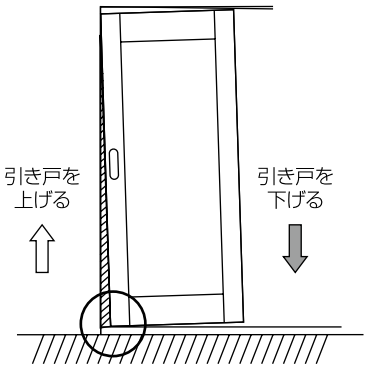
吊り車の上下調整

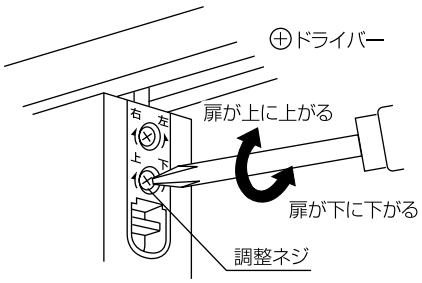
吊車の上下調整

(1)引き戸と竪枠の上部に
隙間が生じたとき



(2)引き戸と竪枠の下部に
隙間が生じたとき





隙間の状態を確認後、プラスドライバーにて吊車の上下調整ネジで調整を行い、竪枠と引き戸の隙間をなくしてください。その際は、両側の吊車2つとも必ず調整をしてください。(下側の調整ネジ)

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。
養生テープやガムテープなどの粘着テープは直接商品に貼り付けないようにしてください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

機能引き戸2枚連動引き戸 専用枠材

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

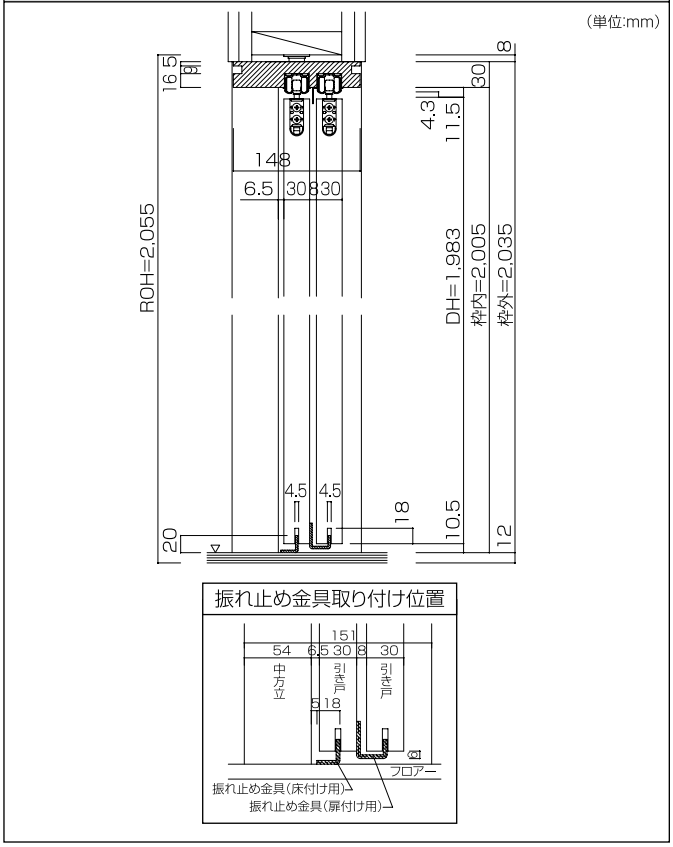
姿図	部材名	調整枠	固定枠
	竪枠（開口部側）	1本	1本
	竪枠（戸袋側）	1本	1本
	中方立	1本	1本
	モヘヤ	1本	1本
	鴨居	1本	1本
	鴨居レール幕板有り（アルミ）	ー	1本
	鴨居レール幕板無し（アルミ）	2本	1本
	金具セット	ZYTRM06	
ZYTR12	吊車	4個	4個
ZY2513	連動引き戸下部ストッパー	4個	4個
15mm 3.5mm	上レール取り付けビス（皿ビス）	12本	12本
ZY3334	振れ止め金具（床付用）（ビス2本セット）	1個	1個
ZYTR01	開き防止金具（マグネット）（ネジ2本セット）	1個	1個
ZY2521	振れ止め金具（扉付用）（ビス3本セット）	1個	1個
ZYTN001	戸じゃくりキャップ	1個	1個
	引き残し用ストッパー	1個	1個
	ビスセット	ZYMR01-□	
6mm 35mm	木ダボ	2本	2本
62mm 3.8mm	組み立てビス	6本	6本
47mm 3.8mm	躯体接合金具ビス	11本のみ使用 ※14本入	躯体と枠の固定に使用できます。※14本入
7mm L50mm	六角レンチ	1本	使用しません ※1本入
φ16	クッションキャップ	4個	4個
φ10	躯体接合穴キャップ	8個	4個のみ使用 ※8個入

2.納まり図

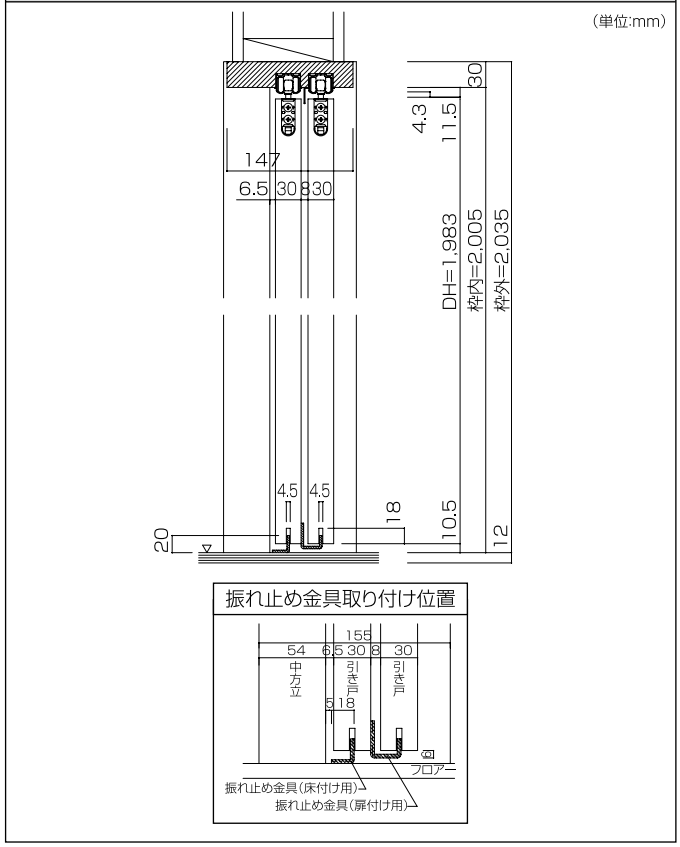
調整枠には躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
固定枠には躯体接合金具が付いていないので、枠外寸法になった間口を設けてください。

① 縦断面図

調整枠



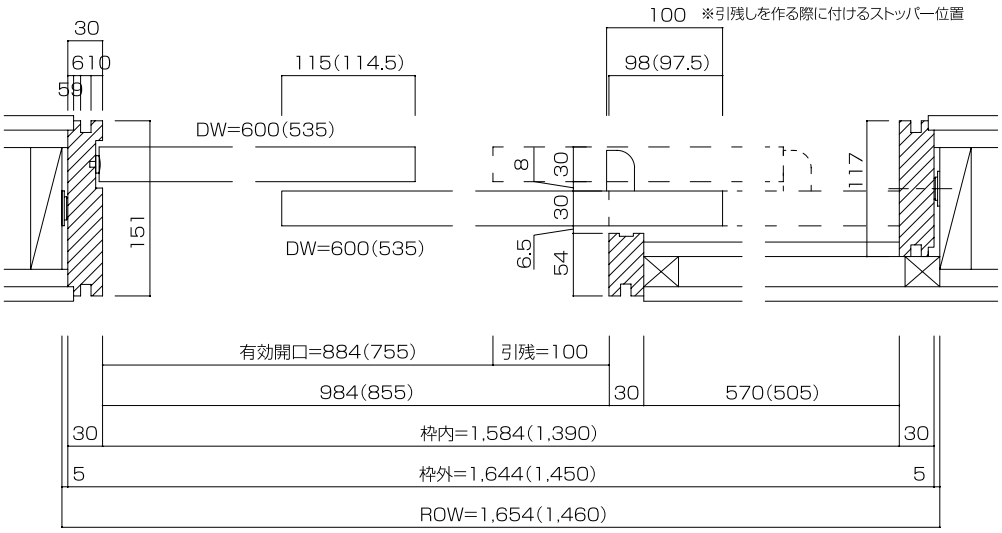
固定枠



② 横断面図

調整枠

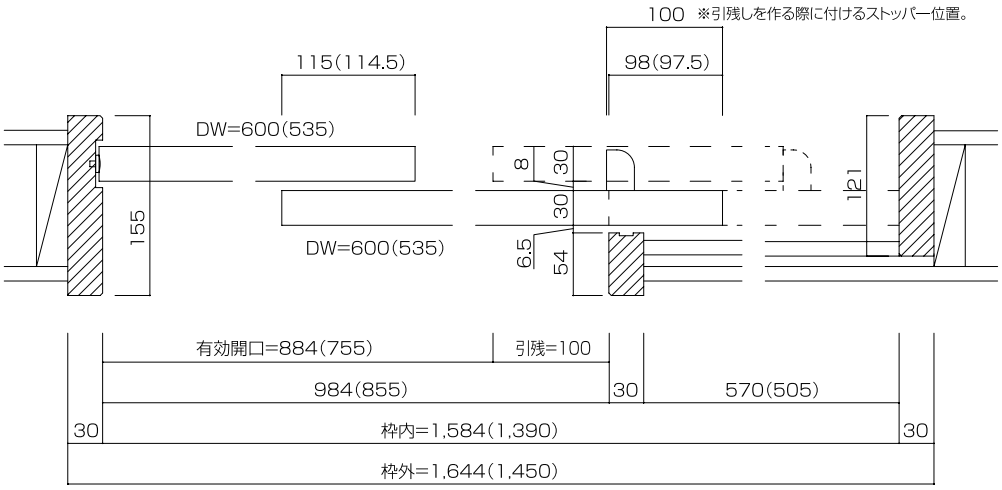
（単位:mm）



※図示:左引き手。

固定枠

（単位:mm）



※図示:左引き手。

機能引き戸2枚連動引き戸 専用枠材

3. 施工手順

施工手順のイラストは調整枠の場合になります。

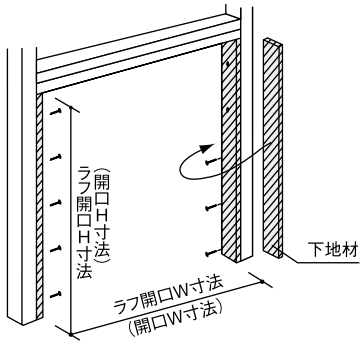
① 取り付け開口部の確認

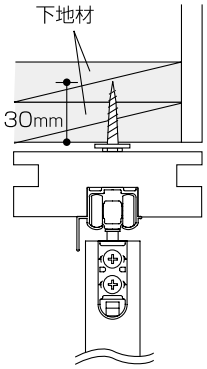
調整枠の場合

開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った**ラフ開口**を設けてください。

固定枠の場合

固定枠には躯体接合金具は付いていません。納まり図を参照のうえ、枠外寸法に合った**開口**を設けてください。

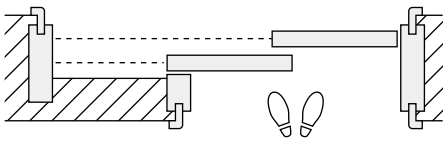




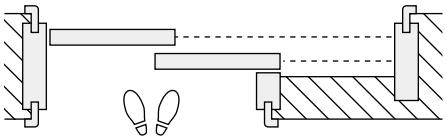
引き手方向の確認

連動引き戸には、引き手方向によって左右の区別がありますので、ご確認のうえ施工してください。

右引き



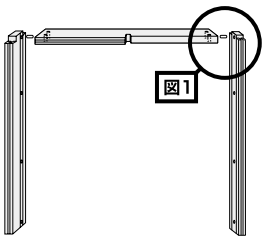
左引き



⚠ 注意

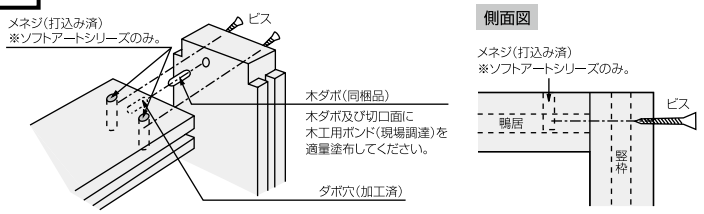
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、下地材は必ずダブルでとりつけて補強してください。

② 枠材の組み立て、仮固定



同梱の木ダボ、組み立て用ビス、木工用ボンド（現場調達）を使用して枠材を組み立ててください。

図1

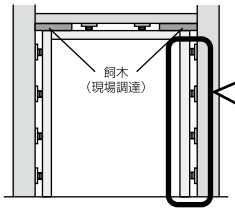


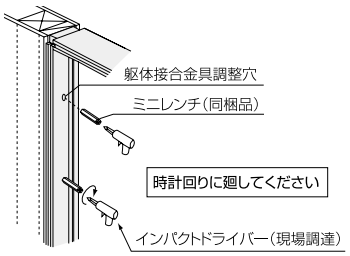
調整枠の場合

枠材の仮固定

※躯体接合金具の数量はシリーズ・引き戸種類によって異なります。下記イラストはイメージです。実際の数量とは異なる場合があります。

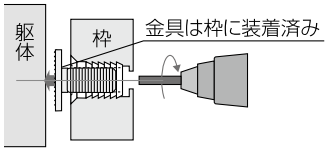
組み立てた枠材を開口部にセットします。





ポイント　金具で突っ張らせて枠を仮固定する

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。



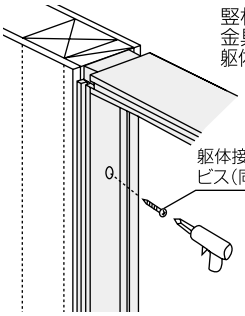
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

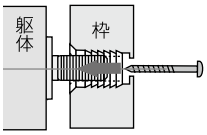
⚠ 注意

インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

調整枠の場合

竪枠の本固定

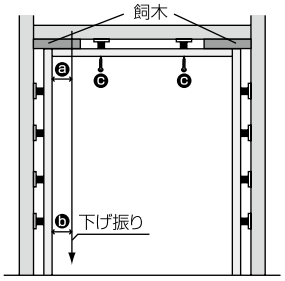




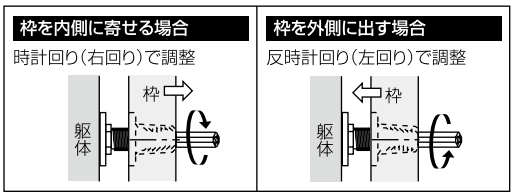
枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）

建て付け調整ならびに鴨居の本固定

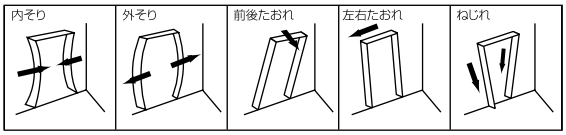
水準器などを使用し、竪枠、鴨居の水平、垂直をよく確認し、竪枠と同様の手順で鴨居を固定してください。



- 水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。
- ⓒ は建りを調整後、最後に固定してください。

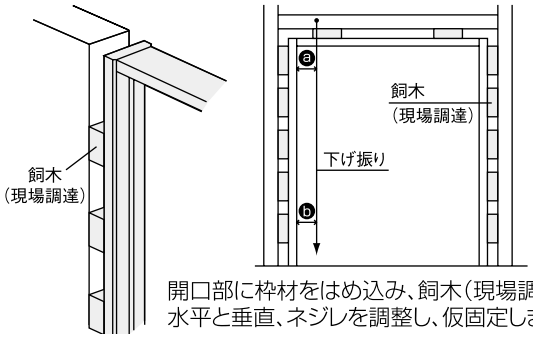


※下記の様なことがないようご注意ください。



固定枠の場合

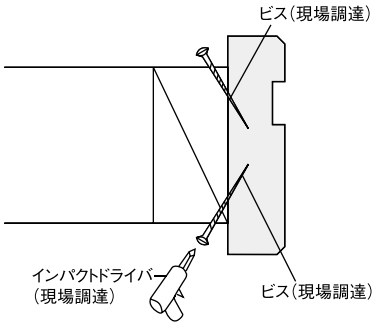
- 水準器を使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。



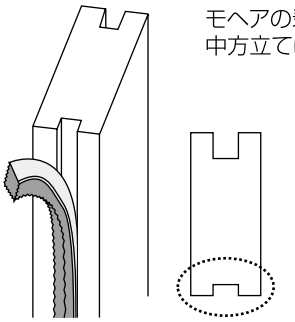
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

枠材を躯体側から固定します。

※ビスが枠材を貫通しないように気をつけてください。



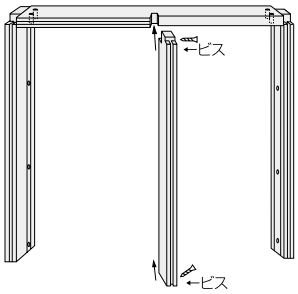
③ モヘアの取り付け



モヘアの剥離紙を剥がし、モヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

モヘアは中方立ての溝が浅い方へ取り付けてください。

④ 中方立の取り付け



枠材の本固定後、モヘアを取り付けた方を枠側に向け、中方立を同梱の組み立て用ビスで確実に固定してください。水準器などを使用して垂直に中方立を取り付けるようにしてください。

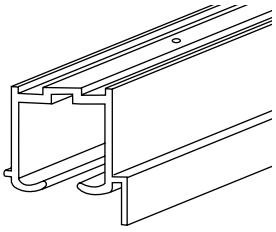
⑤ 小壁の取り付け

枠組が完了しましたら、小壁を施工してください。

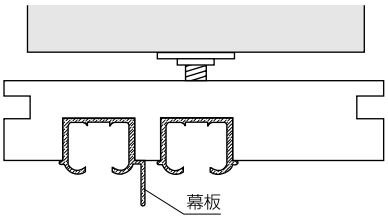
※小壁施工には引戸側への反りが発生しにくく、軸組とボードを簡単に施工できる小壁下地材「小壁ちゃん（別売品）」を推奨しています。

⑥ 鴨居レールの取り付け

使用するのはアルミの鴨居レールになります。

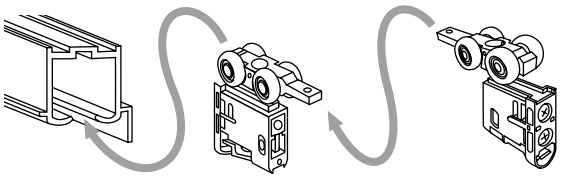


レールに付いている幕板を、鴨居芯側に向けて取り付けてください。幕板は1本のレールにしかつきません。



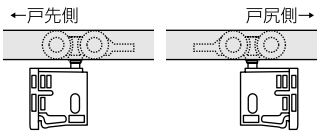
機能引き戸2枚連動引き戸 専用枠材

（1）上部吊り車を鴨居レールに挿入してください。

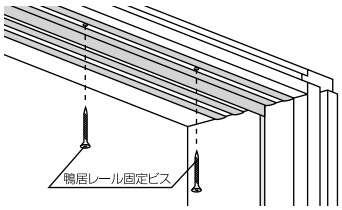


⚠ 注意

レール取り付け後にスライダーの向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



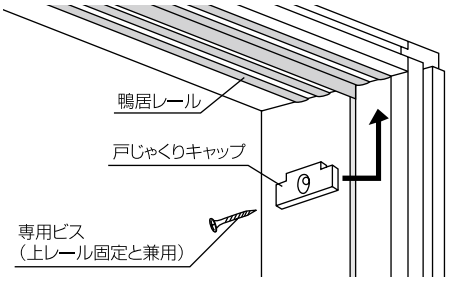
（2）取り付け方向を確認し、鴨居レールを鴨居溝へはめ込み、同梱の取り付けビスで確実に固定してください。



⚠ 注意

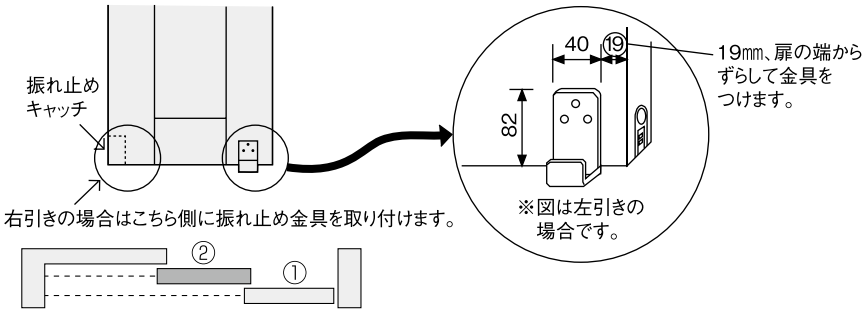
吊り車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊り車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。

（3）レール固定後、戸じゃくり部分に戸じゃくりキャップを同梱のビスで取り付けます。



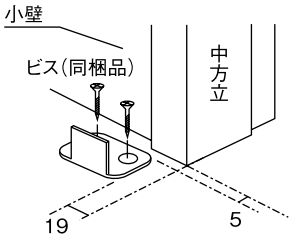
⑦ 振れ止め金具の取り付け

（1）扉②（扉①と接する側）に振れ止め金具（扉用）を図の位置に取り付けます。



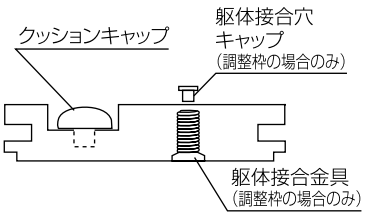
振れ止め金具（床付け用）を下図のように床に取り付けます。

振れ止め金具（床付け用）



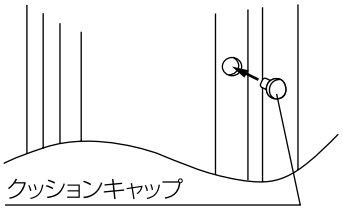
※図は左引き（L）の場合です。

⑧ クッションキャップの取り付け



※クッションキャップは確実に取り付けてください。確実に取り付けていないと外れてしまうことがあります。

竪枠にクッションキャップを取り付けてください。

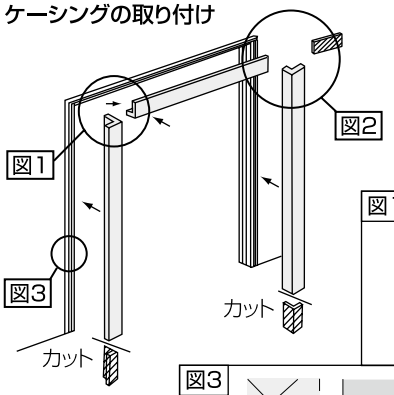


戸袋側（戸尻側）の竪枠には躯体接合穴キャップを取り付けてください。

クッションキャップをします。

調整枠の場合

ケーシングの取り付け



ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。

図1・図2

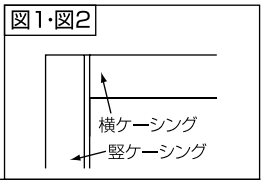
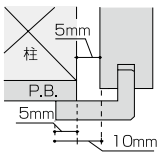


図3



※躯体接合金具の調整によって寸法が変わることがあります。

施工終了後

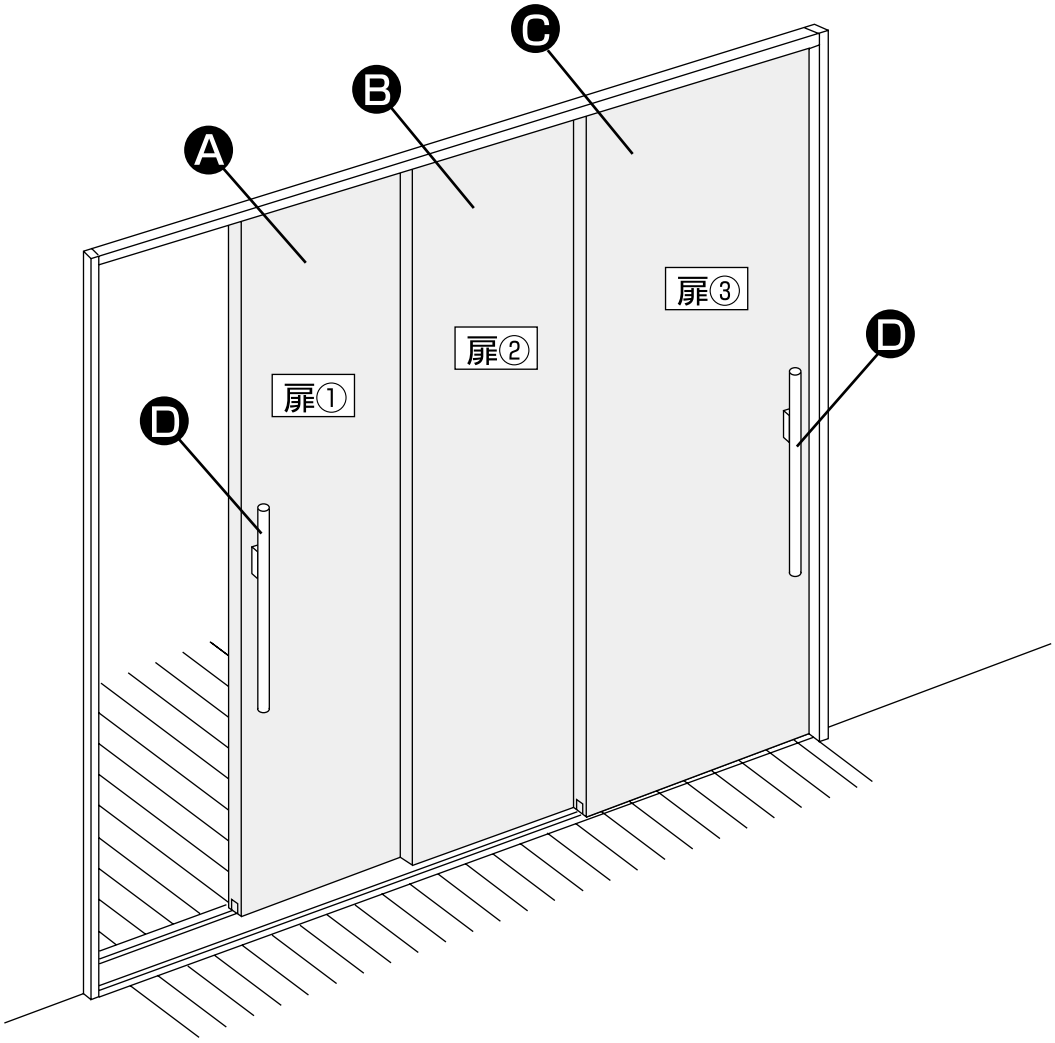
養　生	当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。
お手入れのしかた	枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

機能引き戸3枚引き違い戸

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

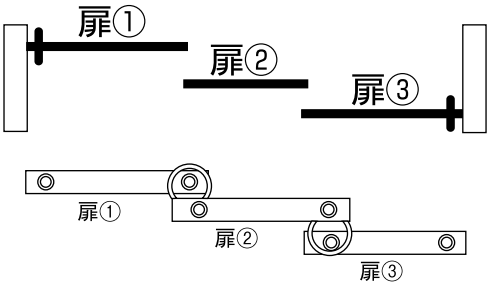
	部材名	数量	備　考
Ⓐ ⋮ Ⓒ	引き戸	2枚	
Ⓑ	引き戸	1枚	

バー引き手（別売品）

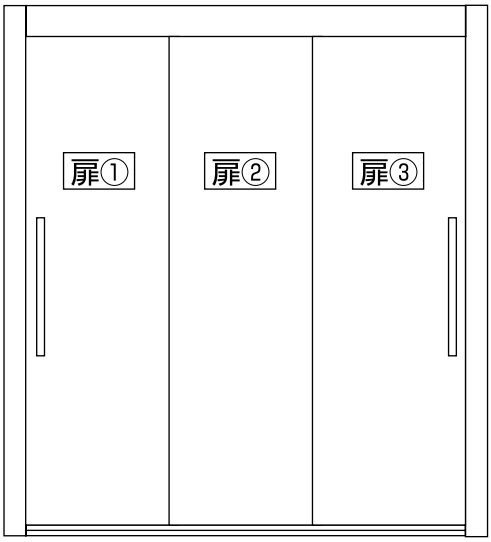
	部材名	数量	備　考
Ⓓ	バー引き手	2セット	

機能引き戸3枚引き違い戸

施工手順

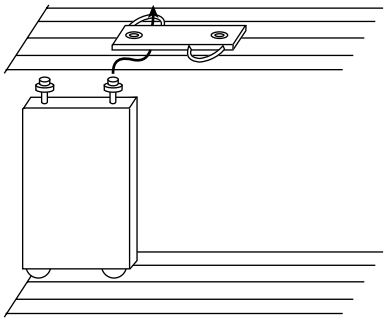


ピボットを連動金具の差し込み穴に合わせてはめ込みます。



扉① の吊り込み

（1）ピボットをはめ込む。

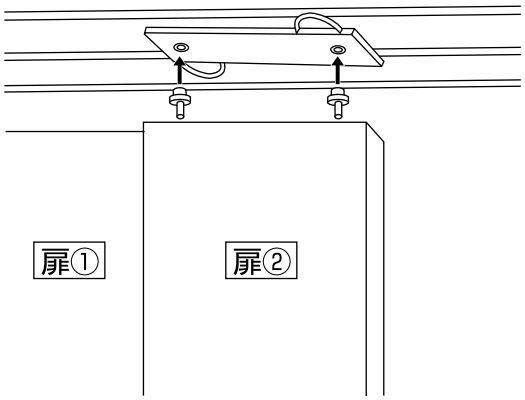


（2）敷居レールにはめ込んでください。

扉② の吊り込み

（1）ピボットをはめ込む。

扉②を中央レール連動金具にピボットを合わせてはめ込んでください。

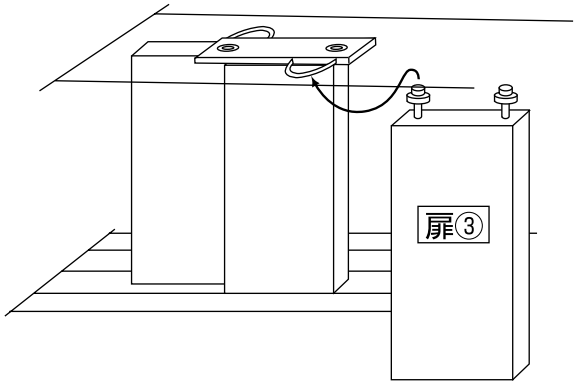


（2）敷居レールにはめ込んでください。

扉③ の吊り込み

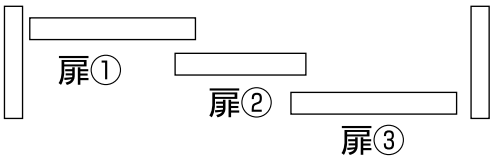
（1）ピボットをはめ込みむ。

扉③を中央レール連動金具にピボットを合わせてはめ込んでください。



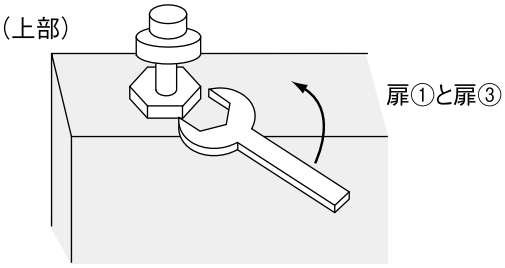
（2）敷居レールにはめ込んでください。

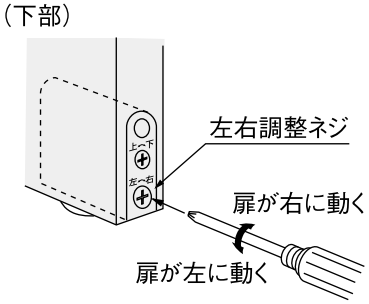
引き戸の調整方法



扉の前後調整

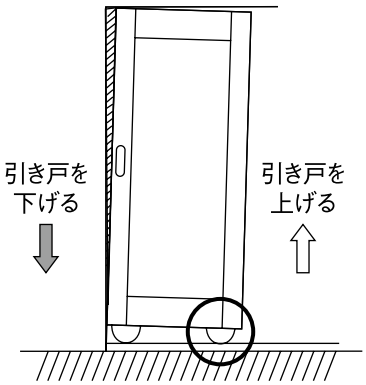
扉と扉に隙間が生じたときは下図のように上部ピボットをスパナで調整し、下部戸車の左右調整ネジ（下側の調整ネジ）をプラスドライバーで調整します。



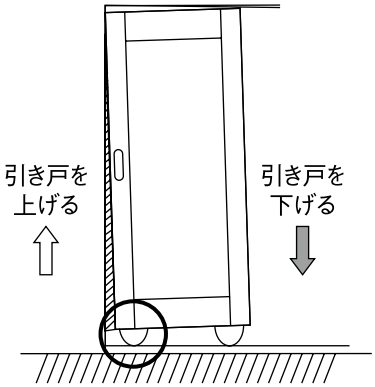


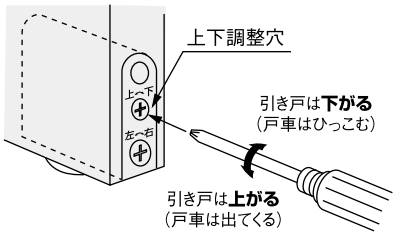
扉の上下調整

（1）引き戸と竪枠の上部に隙間が生じたとき



（2）引き戸と竪枠の下部に隙間が生じたとき





竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。

隙間の状態をご確認後、プラスドライバーにて戸車の上下調整ネジで調整を行ない、竪枠と引き戸の隙間をなくしてください。その際は、両側の戸車2つとも必ず調整をしてください。（上側の調整ネジ）

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。
養生テープやガムテープなどの粘着テープは直接商品に貼り付けないようにしてください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

機能引き戸 3枚引き違い戸 専用枠材

1.開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳表

枠材本体

姿図	部材名	調整枠	固定枠
	竪枠	2本	2本
	鴨居	1本	1本
	鴨居レール	1本	1本
DCTA01	鴨居用防間キャップ（敷居部分に使用）	2個	2個
ZYTNC01	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）（鴨居部分に使用）	2個	2個
	上固定ストッパー	2個	2個
	引き残し用ストッパー（板ナットなし）（ビス1本セット）	2個	2個

姿図	部材名	調整枠	固定枠
	ビスセット	ZYMS01-□	
6mm 35mm	木ダボ	2本	2本
62mm 3.8mm	組み立てビス	4本	4本
25mm 3.5mm	下枠ベースビス	11本	11本
47mm 3.8mm	躯体接合金具ビス	11本	躯体と枠の固定に使用できます ※11本入り
7mm L50mm	六角レンチ	1本	使用しません※1本入り
φ16	クッションキャップ	8個	8個
φ10	躯体接合穴キャップ	8個	使用しません※8個入り

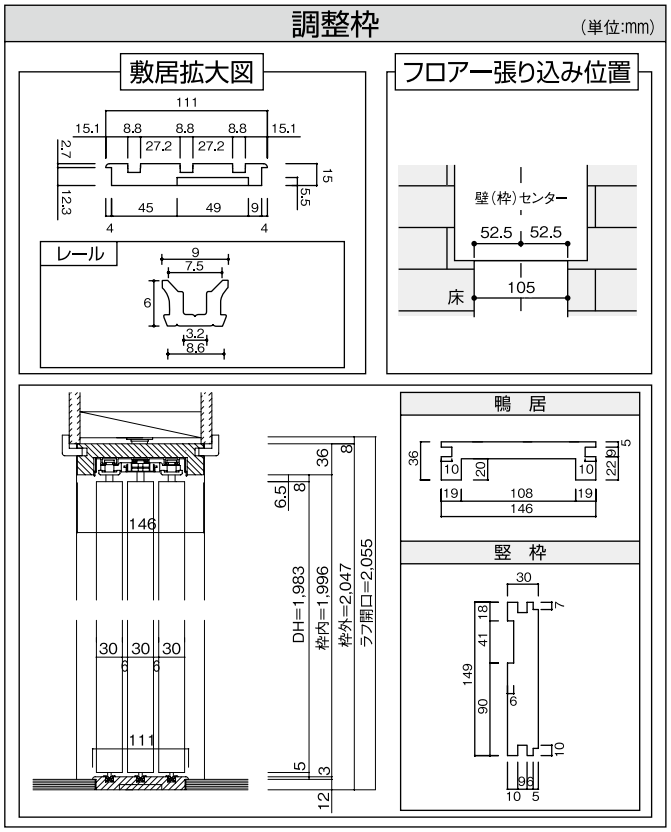
敷居（別売品）

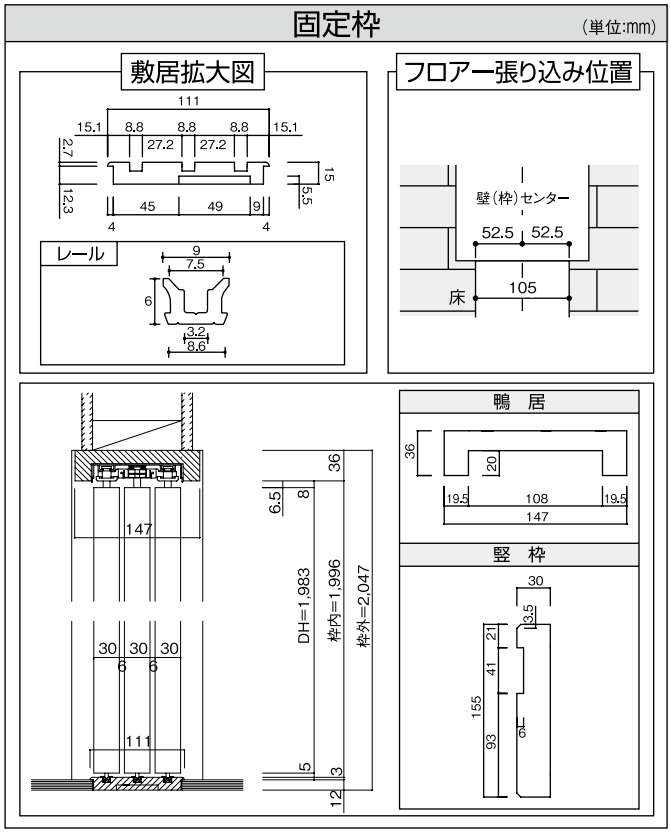
姿図	部材名	数量
	敷居	1本
	敷居レール	3本

2.納まり図

調整枠には躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。
固定枠には躯体接合金具が付いていないので、枠外寸法に合った開口を設けてください。

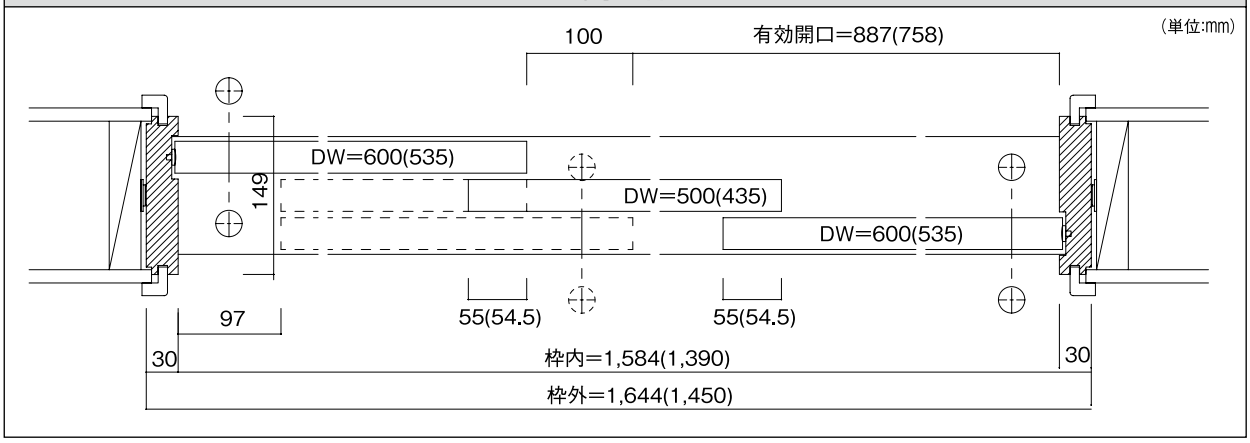
① 縦断面図



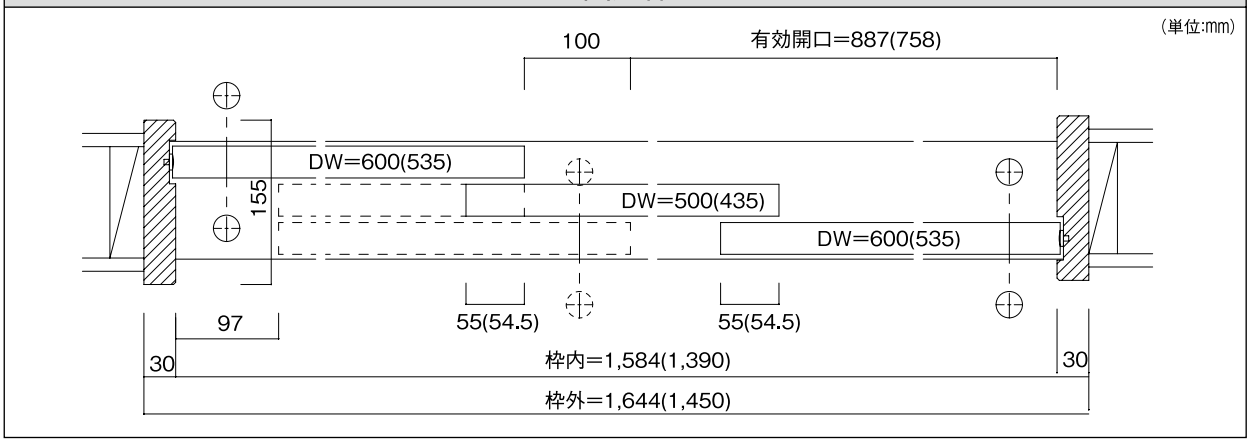


② 横断面図

調整枠



固定枠



3.施工手順

施工手順のイラストは調整枠の場合です。固定枠も手順は同様となります。

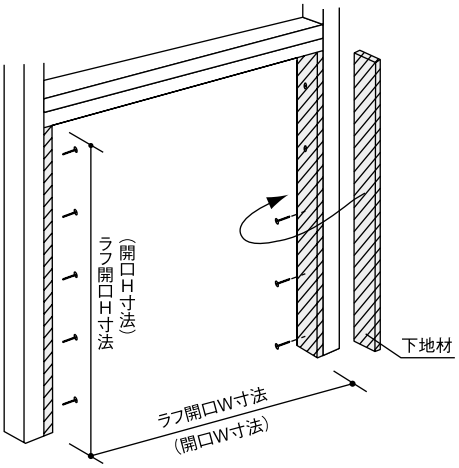
① 取り付け開口部の確認

調整枠の場合

開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合った**ラフ開口**を設けてください。

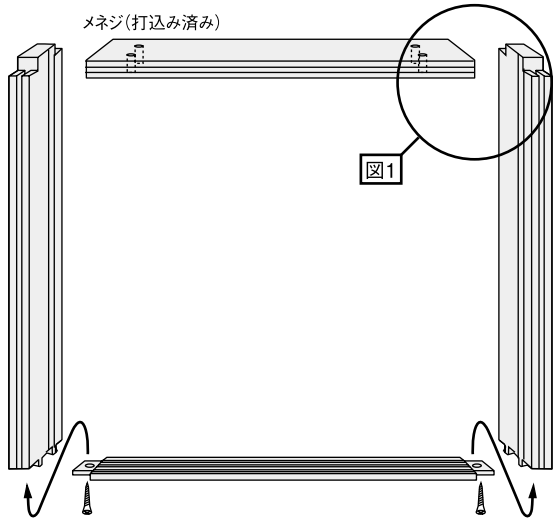
固定枠の場合

固定枠には躯体接合金具は付いていません。納まり図を参照のうえ、枠外寸法に合った**開口**を設けてください。



機能引き戸 3枚引き違い戸 専用枠材

② 枠材の組み立て



注意! 敷居はバリアフリー（埋め込み施工）となります。

敷居埋め込みの場合

竪枠とフロアーの納まり

●15mmフロアーご使用の際は、3mmのベニヤ板などを下地にし、高さ調整したうえで施工してください。

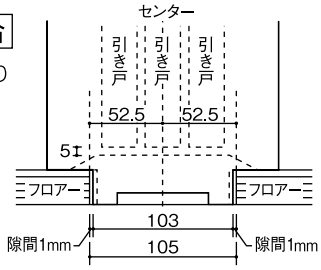
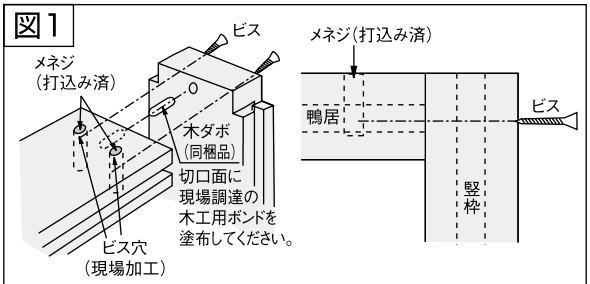


図1

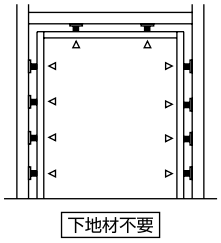


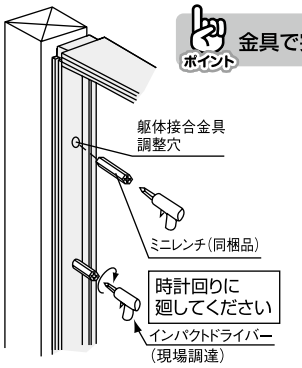
③ 枠材の固定と建て付け調整

調整枠の場合

枠材の仮固定

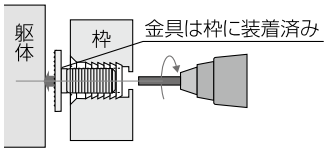
同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具調整穴より躯体接合金具を調整し、枠材を仮固定してください。





ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

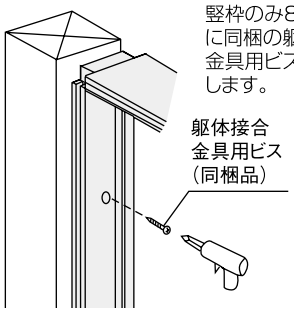


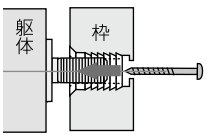
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

⚠注意

インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

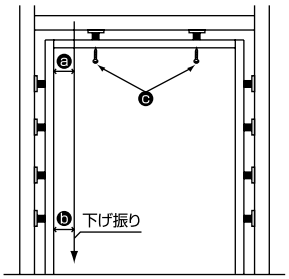
竪枠の本固定



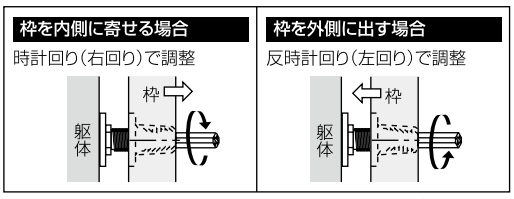


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）

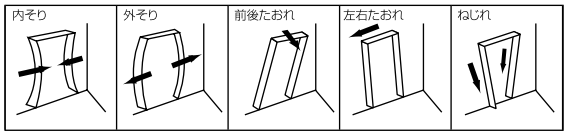
建て付け調整ならびに鴨居の本固定



●水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。
●ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

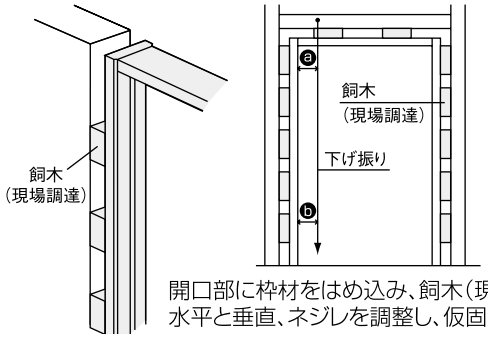


※下記の様なことがないようご注意ください。



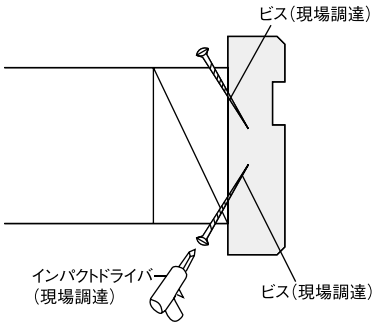
固定枠の場合

- 水準器を使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
  合わせて前後の建りも調整してください。



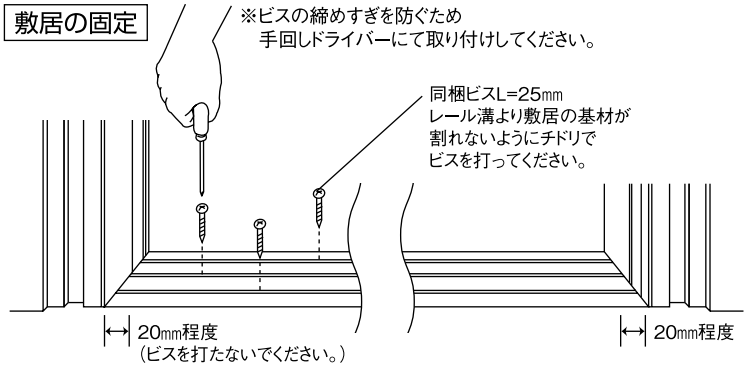
開口部に枠材をはめ込み、飼木（現場調達）で
水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。

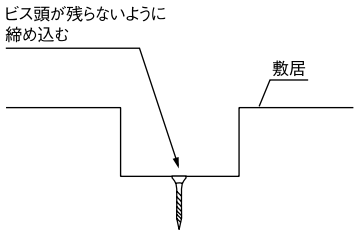
枠材を躯体側からビス（現場調達）で固定します。
※ビスが枠材を貫通しないように気をつけてください。



④ 敷居の固定とレールの取り付け

敷居の固定





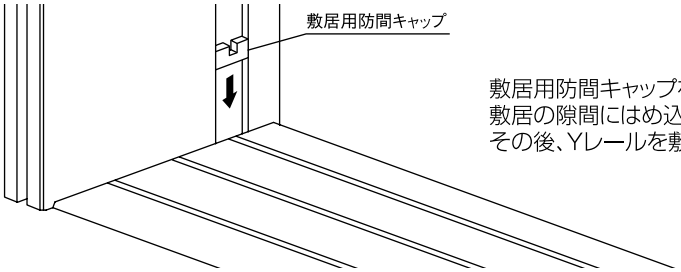
確認 敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

⚠注意

敷居溝の外側2本はレール取り付けの際、ストッパーをビス固定します。敷居のビス固定は20㎜程度枠から離してビスを打ってください。

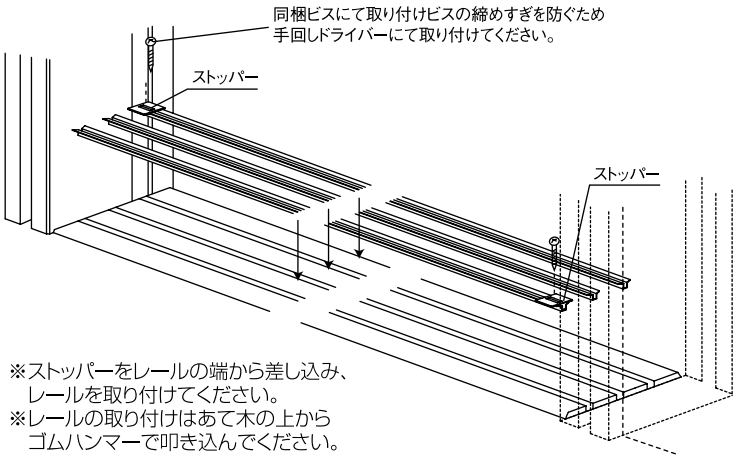
敷居レールの取り付け

引き戸の場合のみ



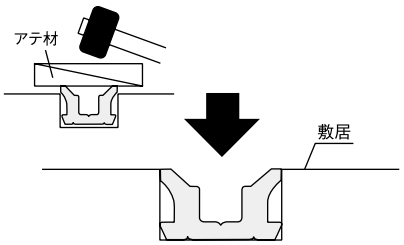
敷居用防間キャップを竪枠の防間じゃくりと
敷居の隙間にはめ込んでください。
その後、Yレールを敷居に取り付けてください。

重 要 レールは必ず下図の位置に取り付けてください。
奥レール:左側にストッパー／中央レール:ストッパーなし／手前レール:右側にストッパー



※ストッパーをレールの端から差し込み、
　レールを取り付けてください。
※レールの取り付けはあて木の上から
　ゴムハンマーで叩き込んでください。

Yレール取り付け時の注意



※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

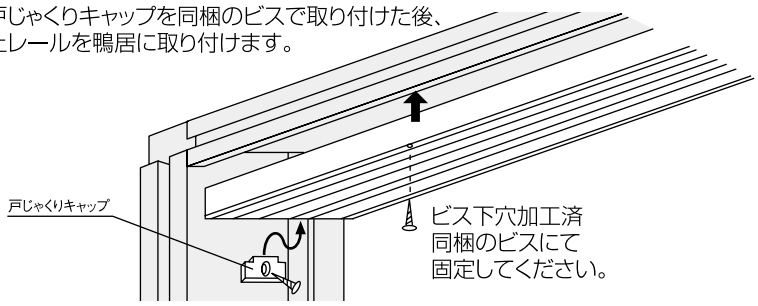
⚠注意

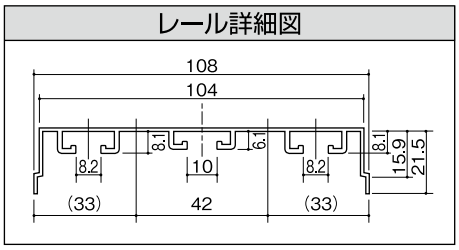
レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

機能引き戸 3枚引き違い戸 専用枠材

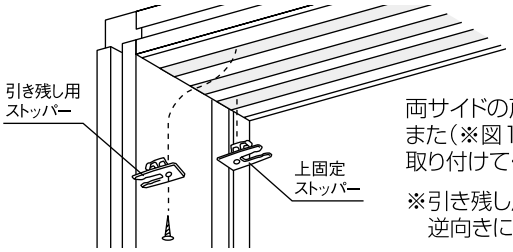
⑤ 上レールの取り付け

戸じゃくりキャップを同梱のビスで取り付けた後、
上レールを鴨居に取り付けます。



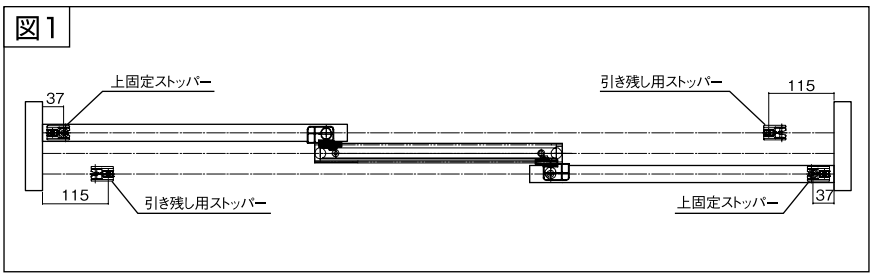


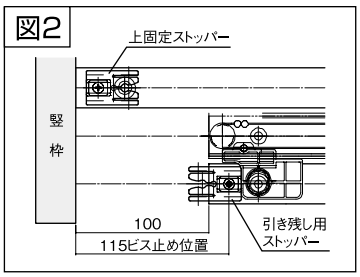
⑥ 上固定ストッパー・引き残し用ストッパーの取り付け



両サイドの戸先側に上固定ストッパーを取り付けてください。（※図1参照）
また（※図1）を参照し、引き残し用ストッパーを指定の位置に同梱の取り付け用ビスで、取り付けてください。

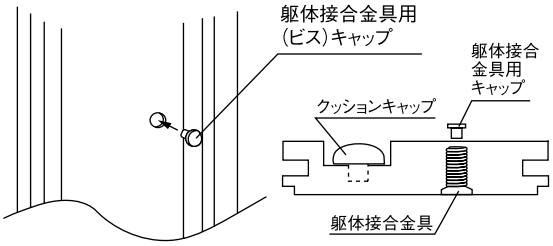
※引き残し用ストッパーは、上固定ストッパーとは
逆向きに取り付けてください。（※図2参照）



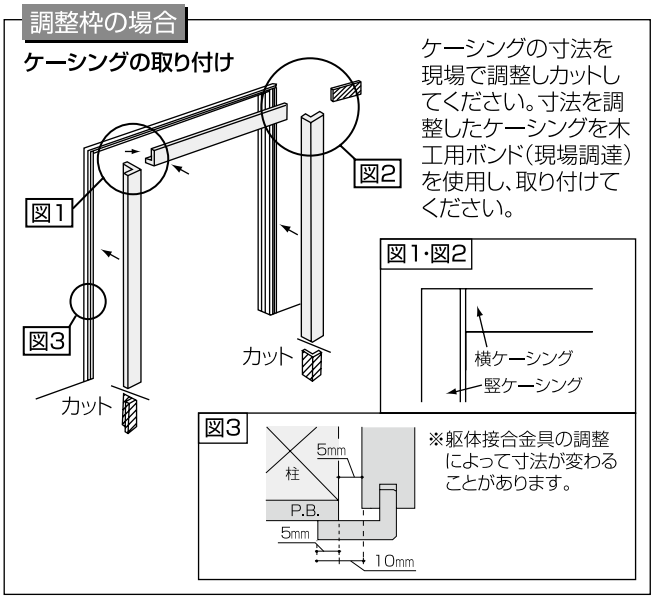


⑦キャップの取り付け

竪枠にクッションキャップと躯体接合金具用ビスキャップを取り付けてください。



※躯体接合金具用キャップは調整枠の場合のみ取り付けます。
※キャップは確実に取り付けてください。
確実に取り付けていないと外れてしまうおそれがあります。



施工終了後

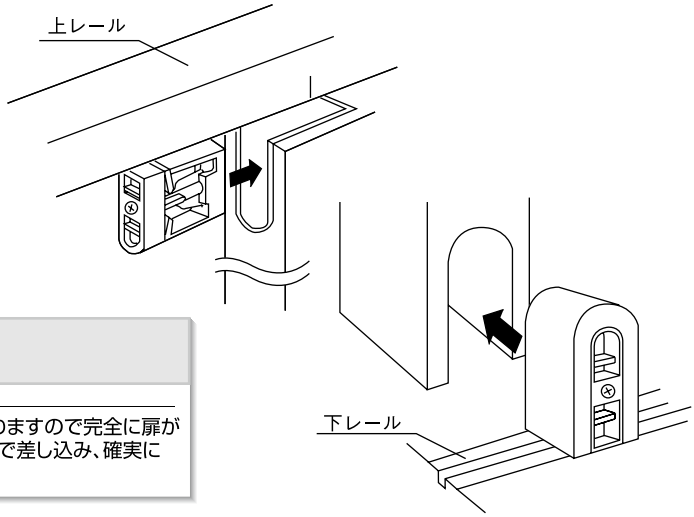
養　生	当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。
お手入れのしかた	ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

間仕切折れ戸

施工手順

ドアの吊り込み

扉を吊り車とガイドランナーにあわせて吊り込み、扉の横木口から吊り車をカチッと音がするまで差し込み固定します。

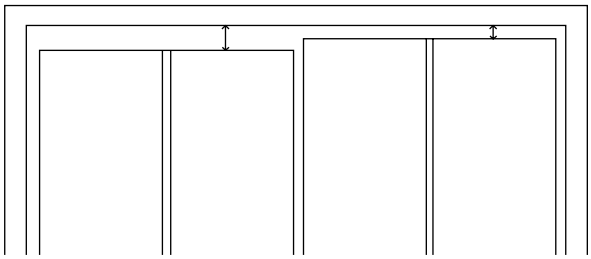


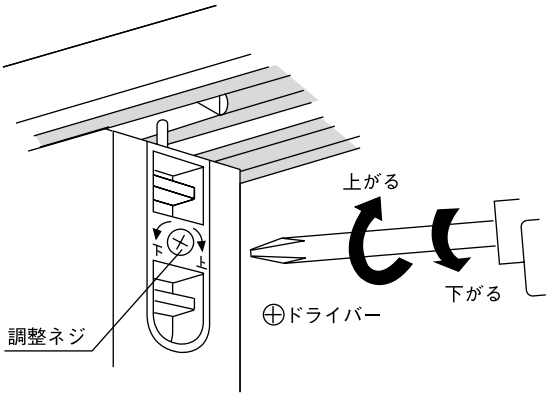
⚠ 注意

必ずおこなう	不完全な吊り込みは扉の脱落の原因となりますので完全に扉が装着されるよう奥までカチッと音がするまで差し込み、確実に装着されているか確認ください。

扉の高さ調整

上端の隙間を確認のうえ、高さを調整してください。
扉を吊ったまま、調整ネジを回して高さを調整します。





施工終了後

養生の方法

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売の養生テープをご使用ください。

お手入れのしかた

扉が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

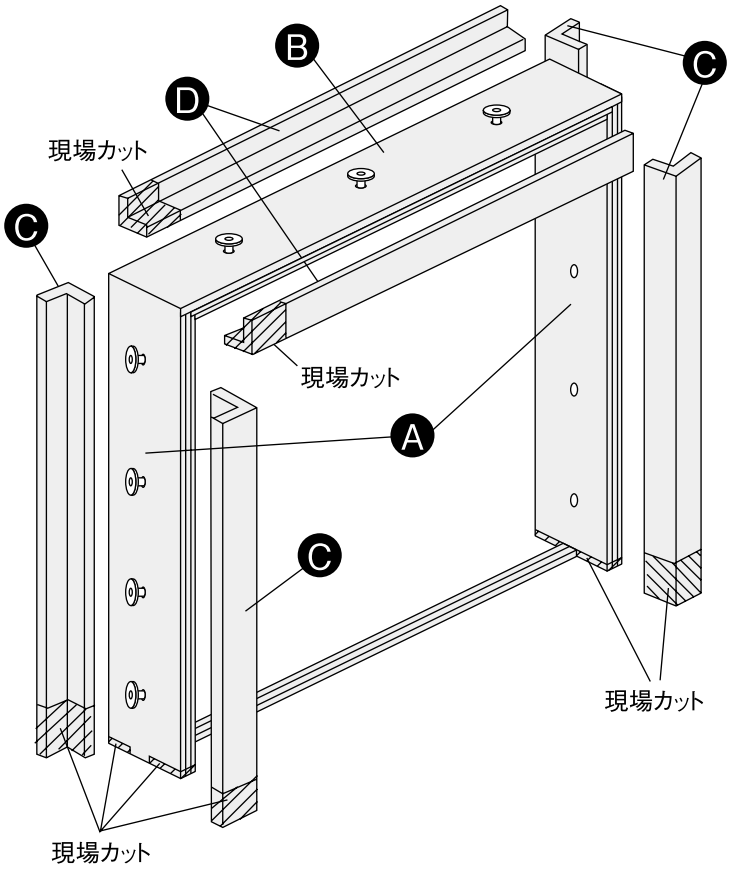
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

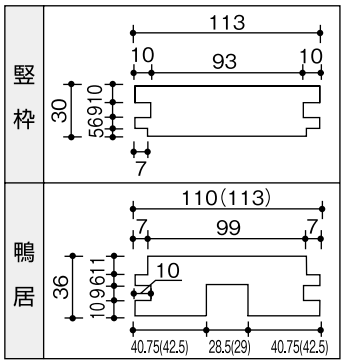
開閉間仕切り折れ戸 専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

① 開梱





※(　)はピノアースの寸法です。

② 梱包内訳表

枠材本体

	部材名	数量 6尺	数量 9尺	数量 12尺	備　考
Ⓐ	竪枠	2本			
Ⓑ	鴨居	1本			
	上レール	1本			ビス付
	下レール	1本			ビス付
	吊り車	4個	6個	8個	ビス付
	ガイドランナー	4個	6個	8個	ビス付
	組み立て専用ビス	4本			
	躯体接合金具用ビス	10本	12本	14本	
	木ダボ	2本			
	六角レンチ	1本			
	躯体接合金具用キャップ	8個			
	施工説明書	1部			

ケーシングセット

	部材名	数量	備　考
Ⓒ	竪枠用ケーシング	4本	現場カット
Ⓓ	鴨居用ケーシング	2本	現場カット

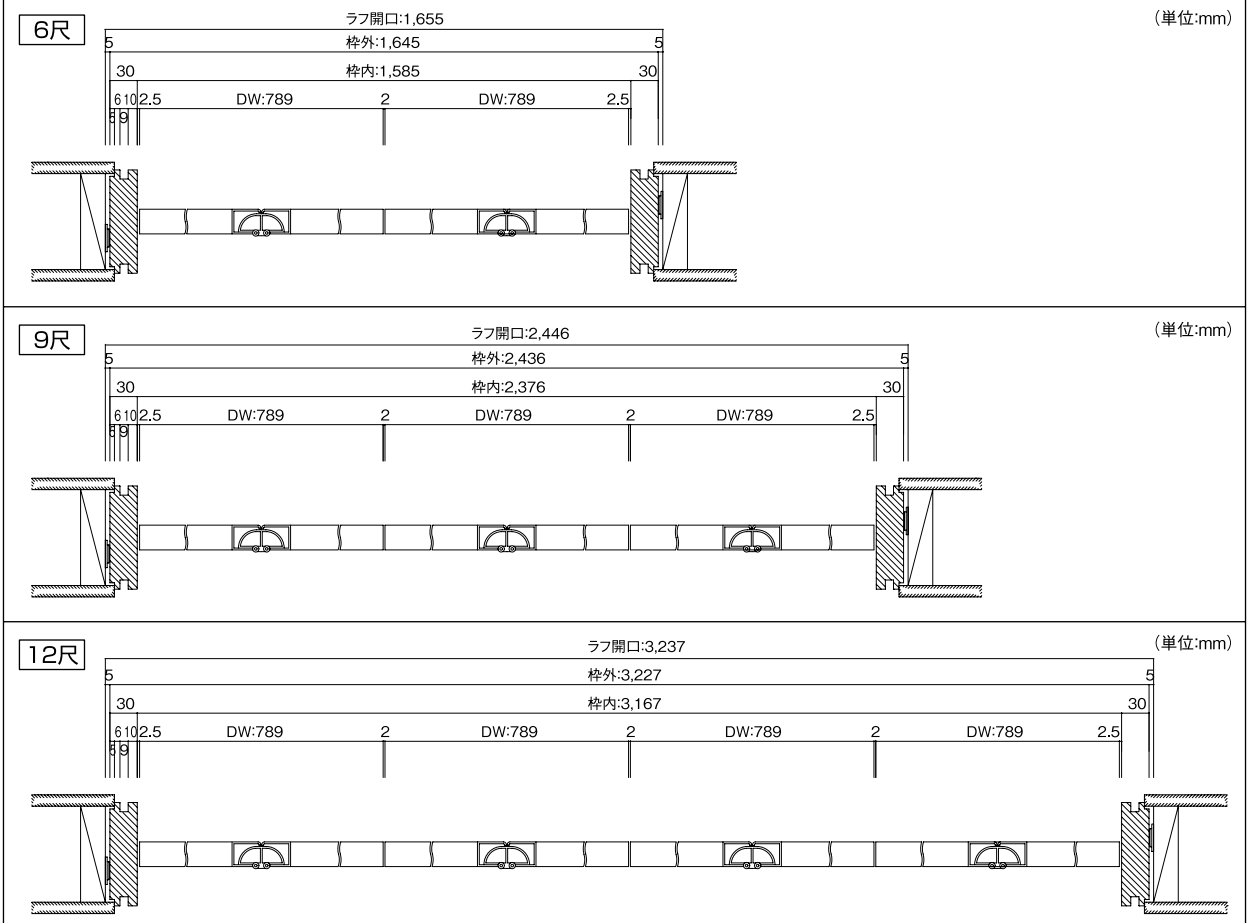
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

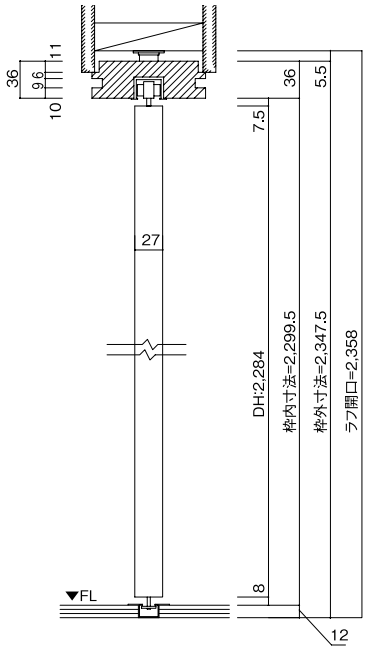
2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図



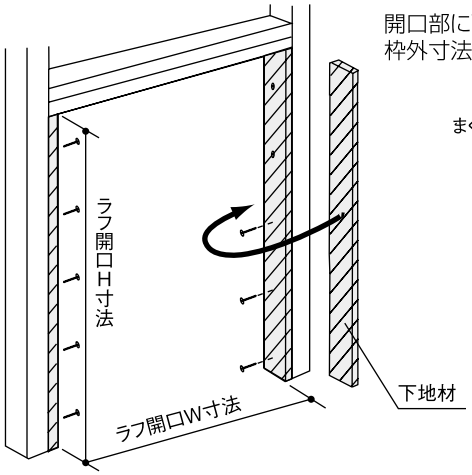
縦断面図



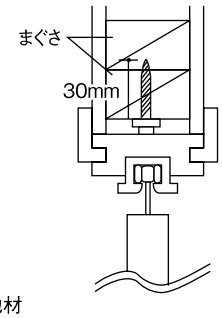
開閉間仕切り折れ戸 専用枠材

3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。



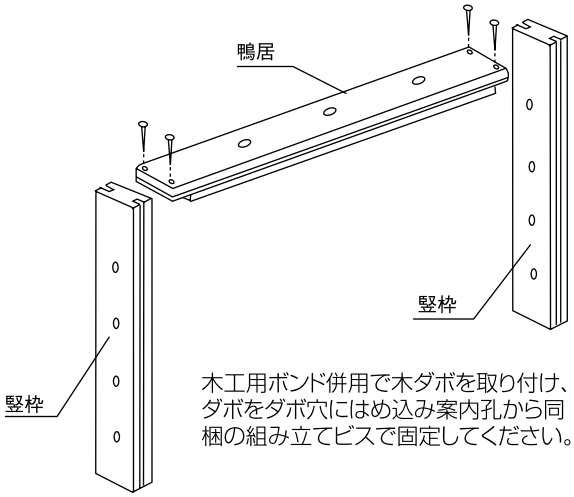
⚠ 注意

注意扉の自重に対するビスの保持のアップの為、まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。

お願い

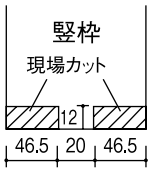
下レールは床に埋め込みとなりますので床下地、及び床の不陸がない様施工してください。

② 枠材の組み立て

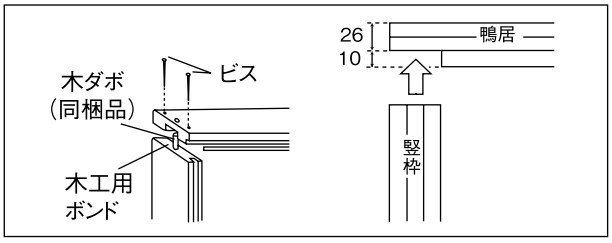


木工用ボンド併用で木ダボを取り付け、ダボをダボ穴にはめ込み案内孔から同梱の組み立てビスで固定してください。

竪枠は下図のように現場でカットをして施工してください。



※15mmフロアーご使用の際は、3mmのベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

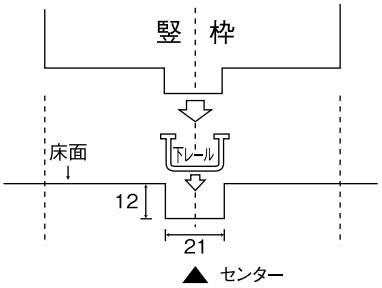


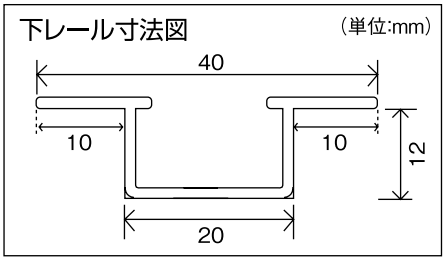
⚠ 注意

ビス穴加工以外の位置にビスを取り付けると、枠材に割れが発生し、ドアの脱落の原因となり危険ですので、必ずビスはビス穴加工のある位置に取り付けてください。ビス穴加工のない位置にビスを取り付ける場合は、案内孔（3φmm）を開けたうえでビスを取り付けてください。

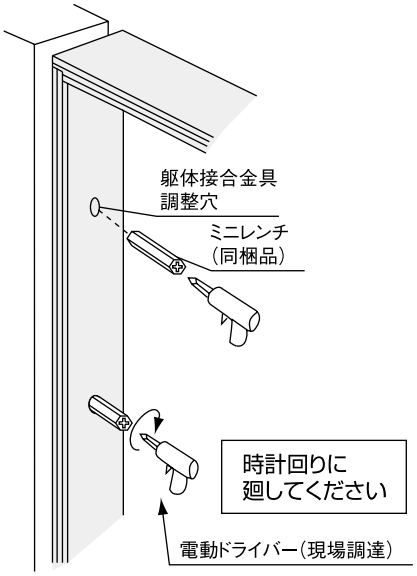
③ 下レールの位置決め

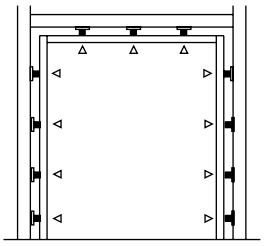
下レールは埋め込み式が基本です。枠材の施工前に下図の様に、下レール埋め込み用スペースを竪枠センターに確保してください。





④ 竪枠の仮固定

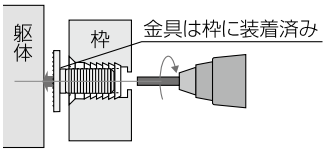




下地材不要

ポイント 金具で突っ張らせて枠を仮固定する

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。

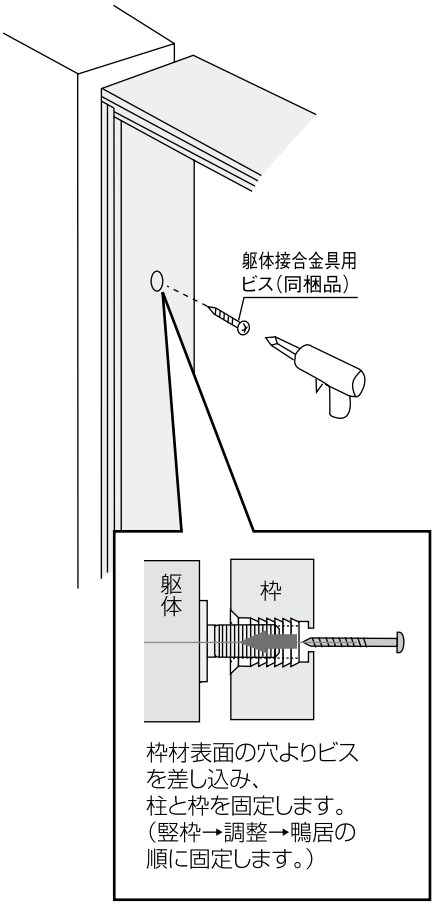


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

⚠注意

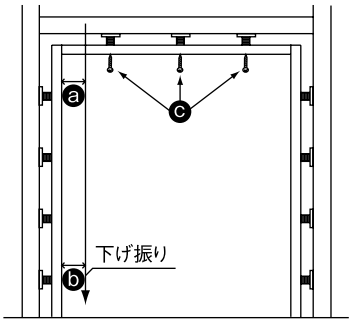
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

⑤ 竪枠の本固定



枠材表面の穴よりビスを差し込み、
柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）

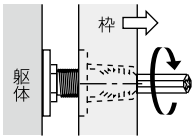
⑥ 建て付け調整ならびに鴨居の本固定



- 水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。
- ⓒ は建りを調整後、最後に固定してください。

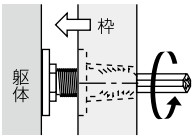
枠を内側に寄せる場合

時計回り（右回り）で調整

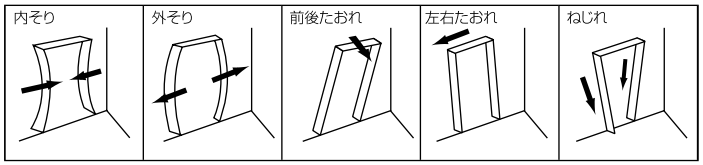


枠を外側に出す場合

反時計回り（左回り）で調整



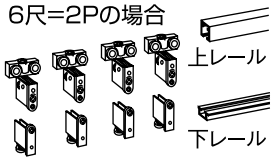
※下記の様なことがないようご注意ください。



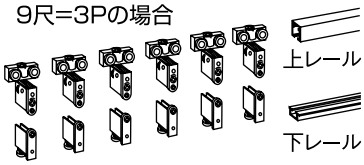
⑦ 部品の挿入

上下レールを取り付ける前に、部品をレールに挿入します。

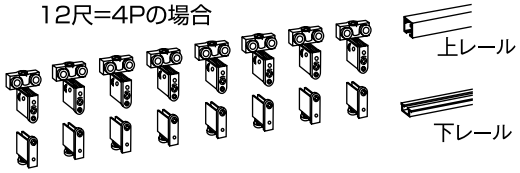
6尺=2Pの場合



9尺=3Pの場合



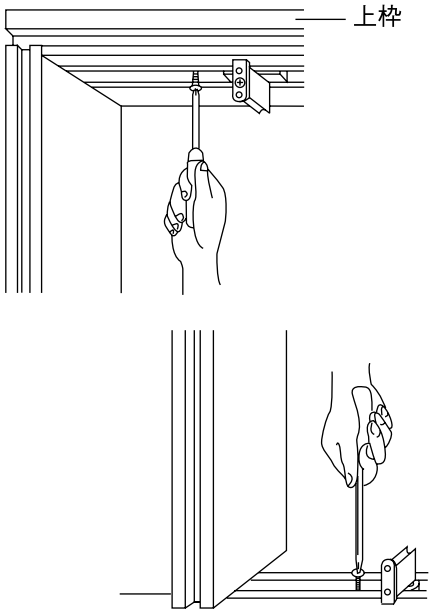
12尺=4Pの場合



開閉間仕切り折れ戸 専用枠材

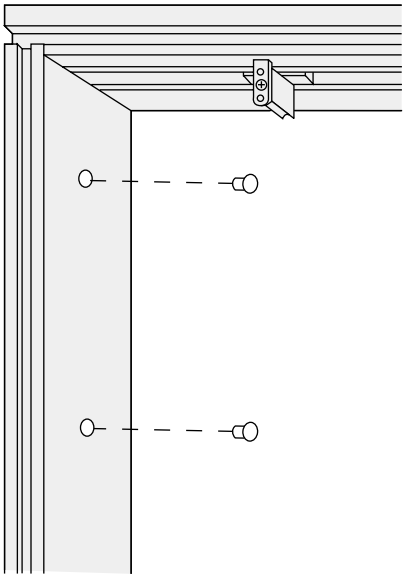
⑧ 上下レールの取り付け（付属のビス使用）

部品を挿入した上レール、下レールを直径2mmのキリで、深さ10mm程度の下穴をあけてそれぞれビスで取り付けます。

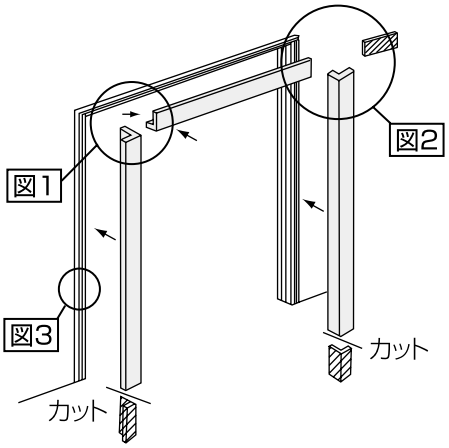


⑨ キャップの取り付け

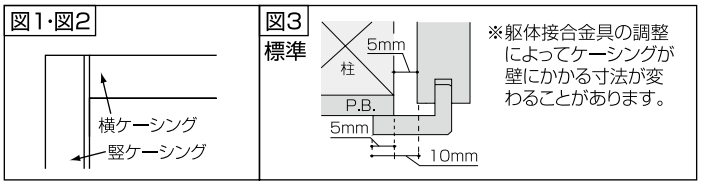
竪枠の躯体接合金具調整穴に付属のキャップを差し込みます。



⑩ ケーシングの取り付け



ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。



施工終了後

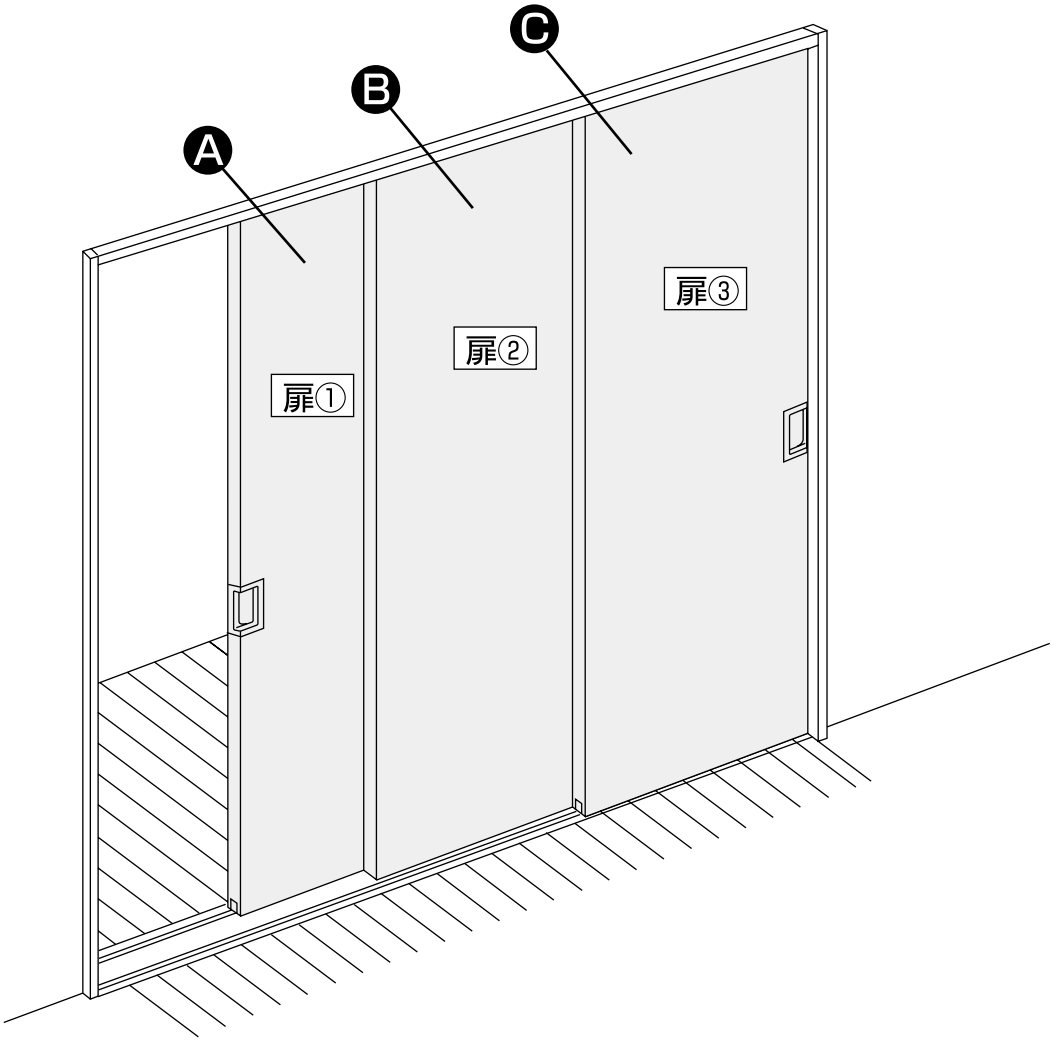
養　生	当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。
お手入れのしかた	枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

収納３連引き戸

開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

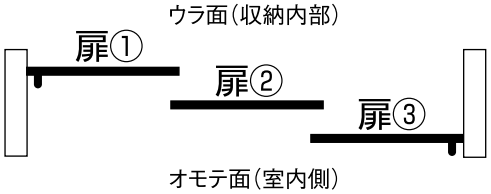
	部材名	数量	備　考
Ⓐ ⋮ Ⓒ	引き戸	2枚	引き手加工有り
Ⓑ	引き戸	1枚	引き手加工無し
📖	施工説明書	1部	
📖	使用説明書	1部	

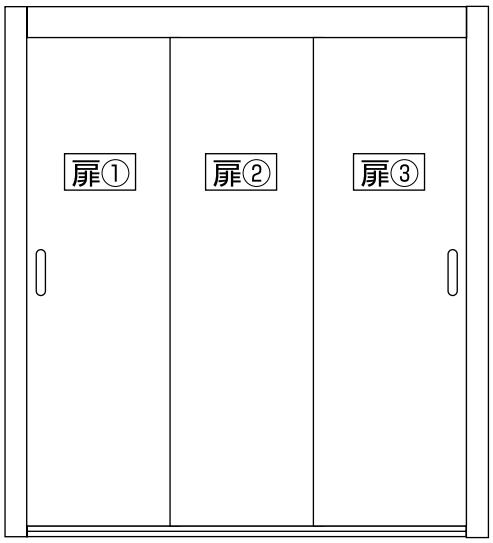
お願い

・施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
・照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

収納３連引き戸

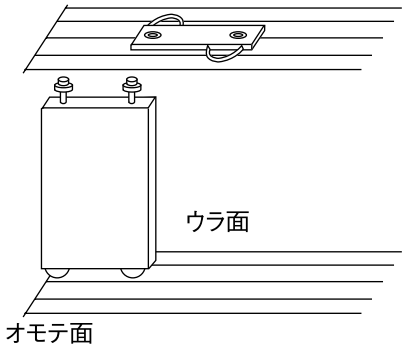
施工手順



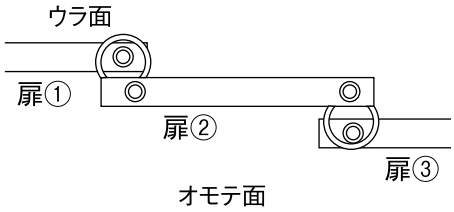


扉① の吊り込み

（1）ピボットをはめ込み



ピボットを連動金具の差し込み穴に合わせてはめ込みます

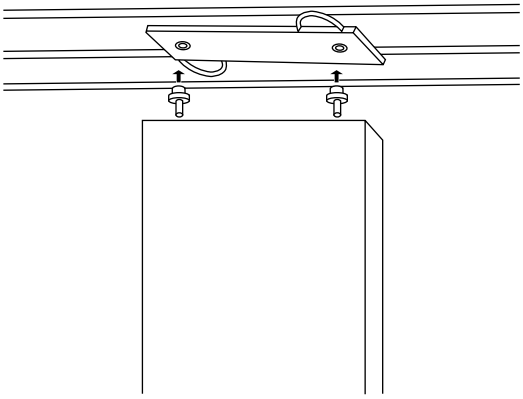


（2）敷居レールにはめ込み

扉② の吊り込み

（1）ピボットをはめ込み

扉②を中央レール連動金具にピボットを合わせてはめ込んでください

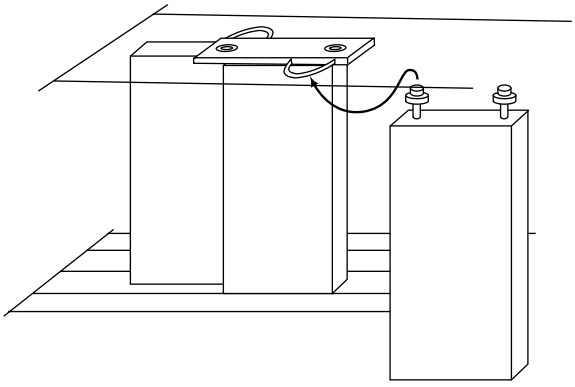


（2）敷居レールにはめ込み

扉③ の吊り込み

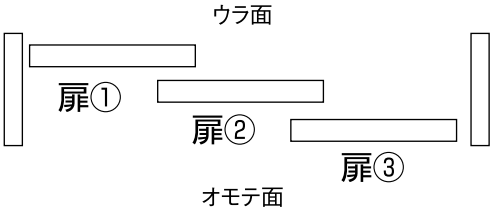
（1）ピボットをはめ込み

扉③を中央レール連動金具にピボットを合わせてはめ込んでください



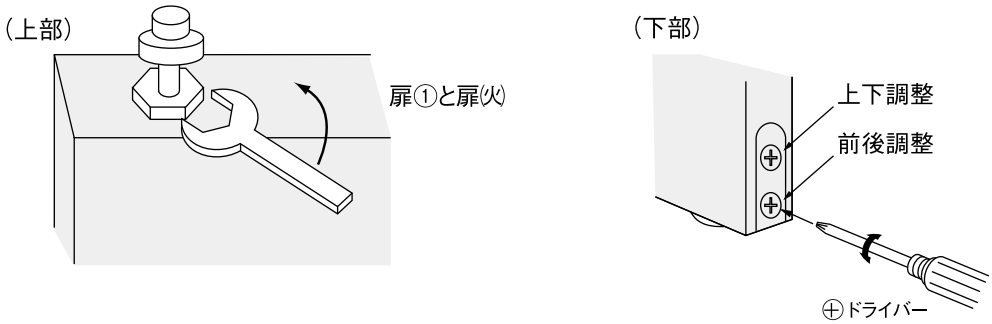
（2）敷居レールにはめ込み

引き戸の調整方法



扉の前後調整

扉と扉に隙間が生じたときは下図のように上部ピボットをスパナで調整します



施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

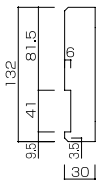
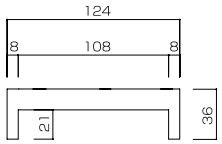
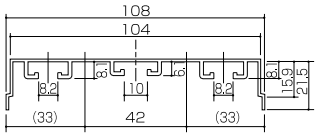
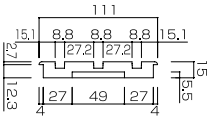
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

収納3連引き戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

枠材の形状・梱包内訳表

部材名	竪　枠	鴨　居	鴨居レール	敷　居	敷居レール
断面形状					
長さ（mm）	2,351 (2,045)	2,419 1,620 1,585 1,165	2,419 1,620 1,585 1,165	2,419 1,620 1,585 1,165	2,419 1,620 1,585 1,165
数量	2	1	1	1（別梱）	3（別梱）

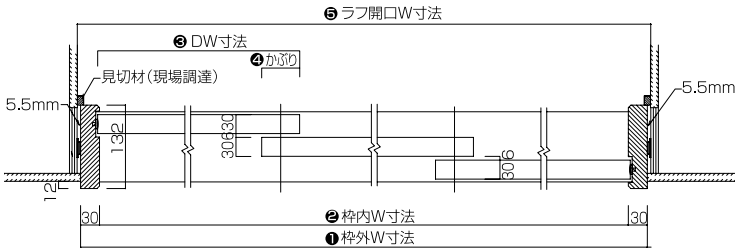
	引き違い戸	数量	備考
DCTA01	収納3連敷居用防間キャップ	2個	敷居部分に使用
ZYTNC01	戸じゃくりキャップ（ビス1本セット）	2個	鴨居部分に使用
	ビスセット	ピノアース（ZYQH31-□）／ソフトアート（ZYMS01-□）	
	木ダボ	2本	6×35mm
	組み立てビス	4本	3.8×62mm
	下枠ベースビス	11本	3.5×25mm
	躯体接合金具ビス	11本	3.8×47mm
	六角レンチ	1本	7×50mm
	クッションキャップ	8個	16φ
	躯体接合穴キャップ	8個	10φ

2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

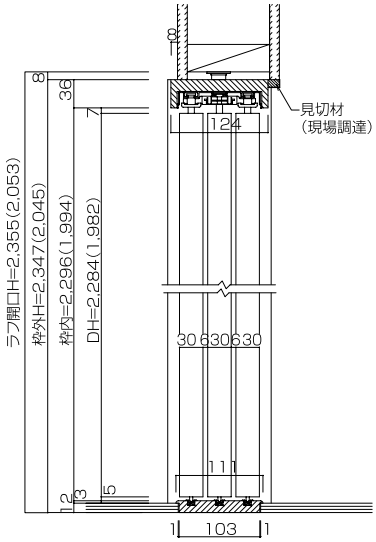
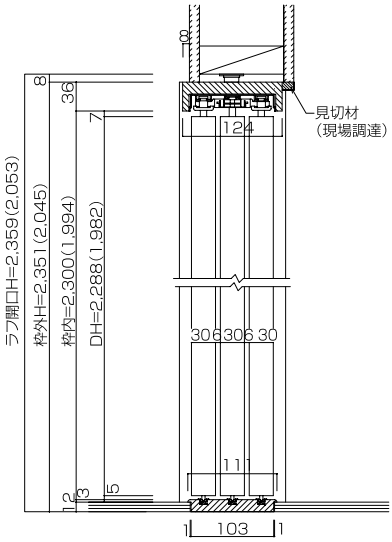
横断面図

（単位:mm）



■ 納まり寸法表

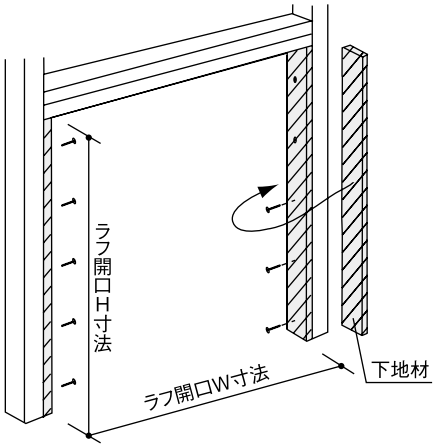
製品寸法	4.5尺	6尺（小）	6尺（大）	9尺
❶枠外H寸法	1,225	1,645	1,680	2,479
❷枠内H寸法	1,165	1,585	1,620	2,419
❸DH寸法	430	580	580	848
❹扉かぶりしろ	62.5	77.5	60	62.5
❺ラフ開口W寸法	1,236	1,656	1,691	2,490

	ピノアース	ソフトアート
縦断面図		

3. 施工手順

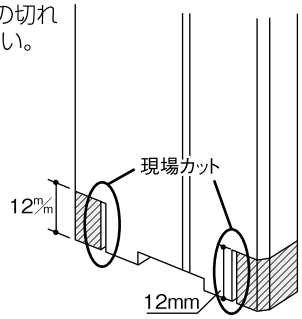
① 取り付け開口部の確認

開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。

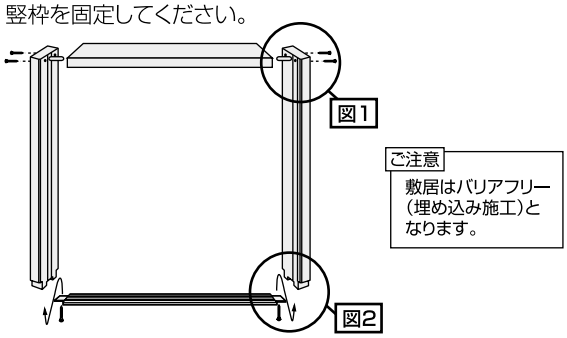


② 枠材の組み立て

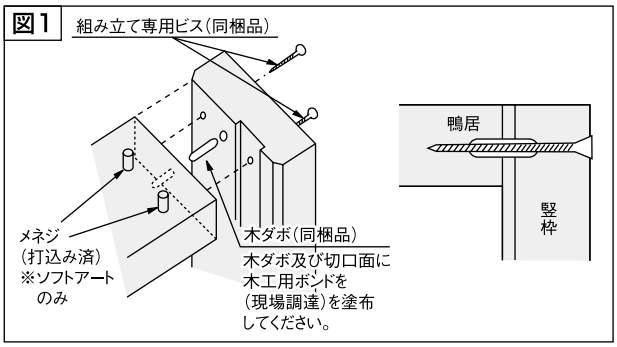
（1）竪枠の下端から12mmを溝の切れ込み部分までカットしてください。

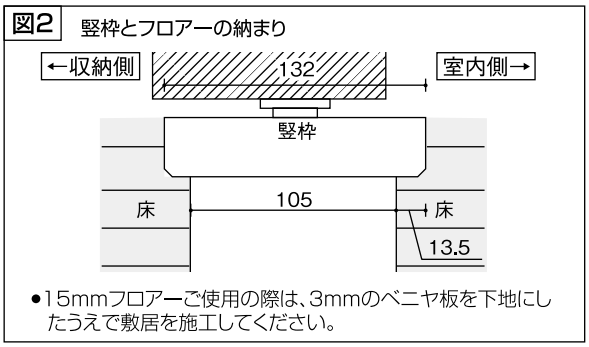


（2）竪枠と鴨居を同梱の木ダボに接着剤を塗布し差し込み、組み立て専用ビスで固定してください。また敷居も同梱のビスで竪枠を固定してください。

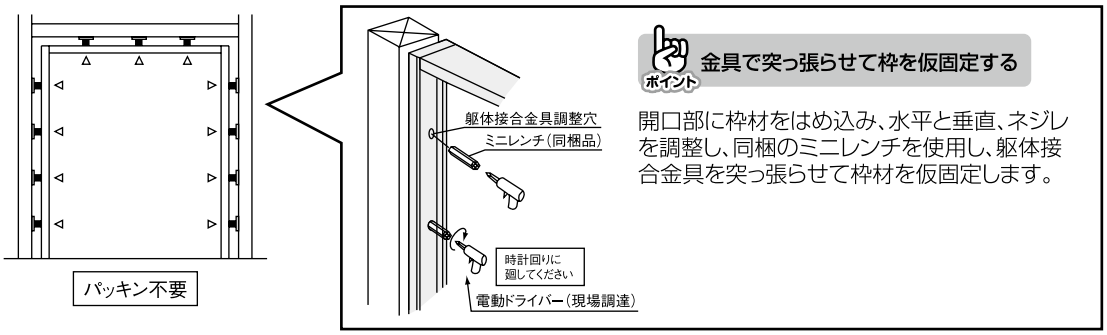


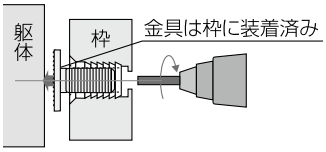
収納3連引き戸専用枠材





③ 枠材の仮固定



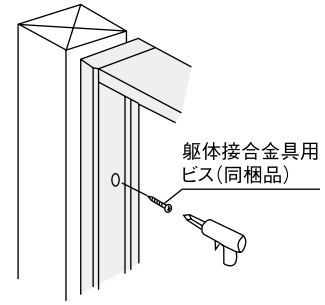


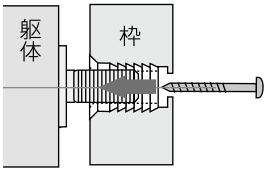
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

⚠ 注意

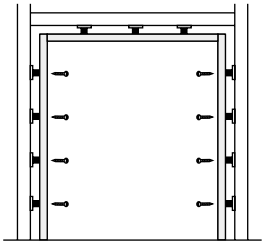
インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

④ 竪枠の本固定



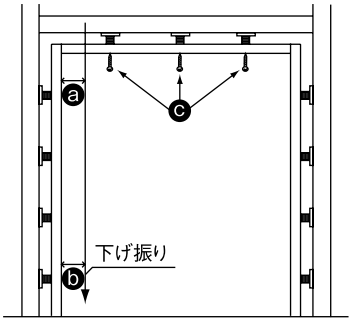


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）

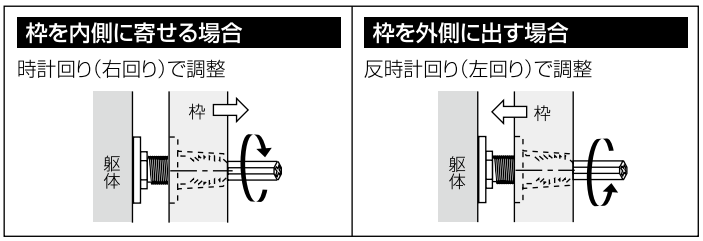


竪枠のみ8ヶ所先に専用ビスで固定します。

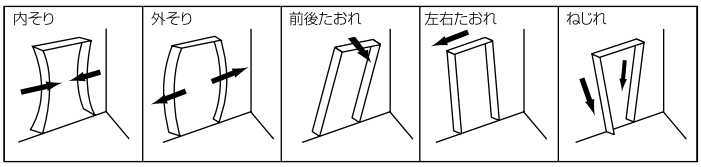
⑤ 建て付け調整ならびに鴨居の本固定



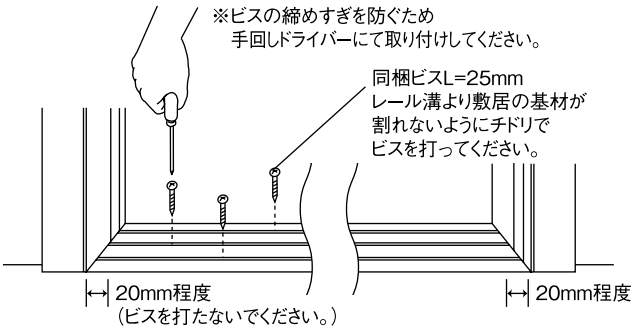
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



※下記の様なことがないようご注意ください。

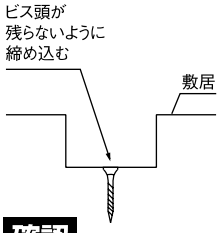


⑥ 敷居の固定



⚠ 注意

敷居溝の外側2本はレール取り付けの際、ストッパーをビス固定します。敷居のビス固定は20mm程度枠から離してビスを打ってください。

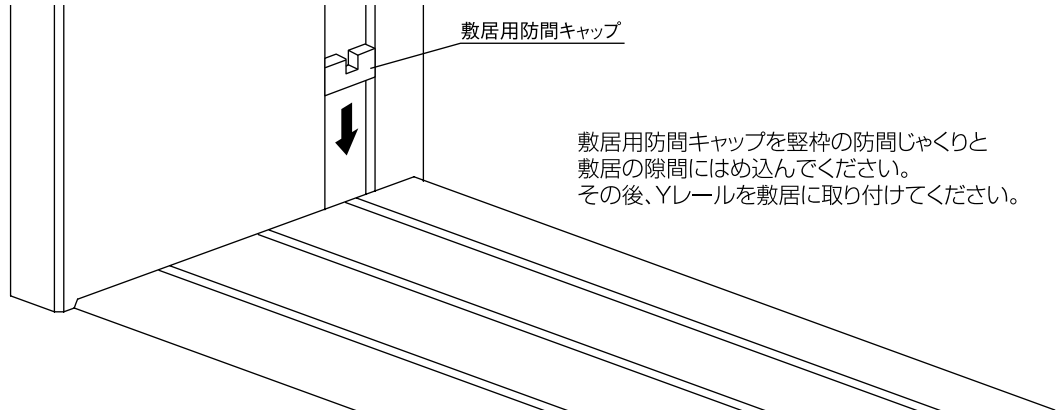


確認

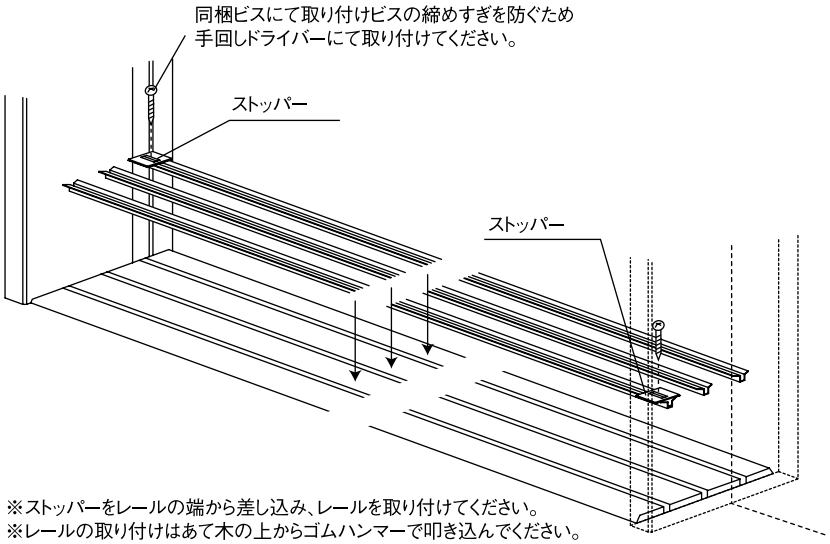
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

⑦ 敷居レールの取り付け

引き戸の場合のみ

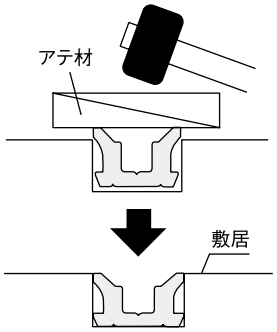


重要
レールは必ず下図の位置に取り付けてください。
奥レール:左側にストッパー
中央レール:ストッパーなし
手前レール:右側にストッパー



※ストッパーをレールの端から差し込み、レールを取り付けてください。
※レールの取り付けはあて木の上からゴムハンマーで叩き込んでください。

Yレール取り付け時の注意



※レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。

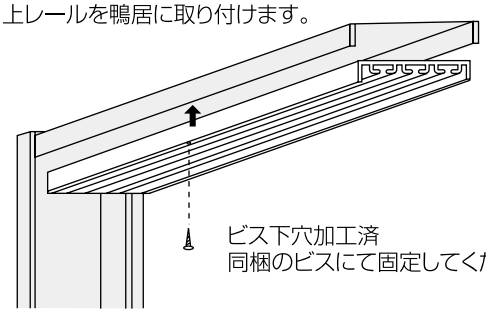
⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

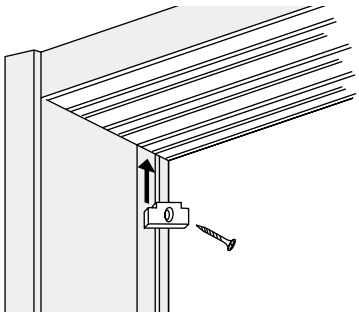
収納3連引き戸専用枠材

⑧ 上レールの取り付け

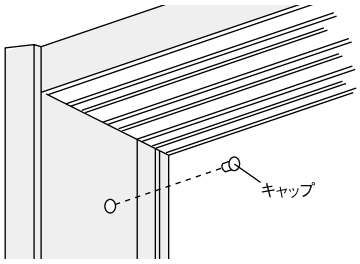
上レールを鴨居に取り付けます。

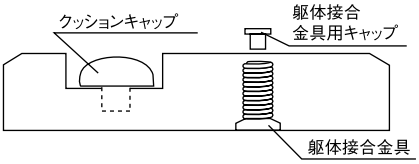


レール固定後、戸じゃくり部分に戸じゃくりキャップを同梱のビスで取り付けます。



⑨ キャップの取り付け





竪枠にクッションキャップと躯体接合金具用キャップを取り付けてください。

※クッションキャップは確実に取り付けてください。
　確実に取り付けていないと外れてしまうことがあります。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。
粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。

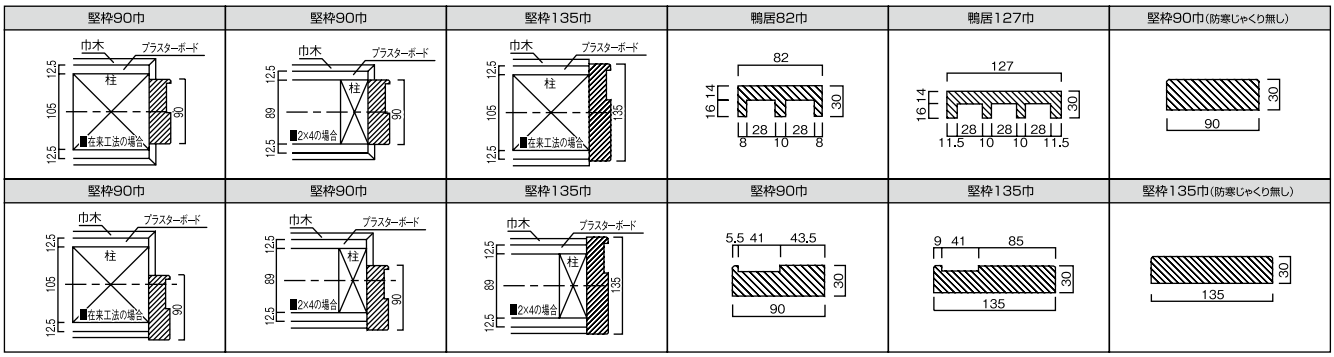
お手入れのしかた

ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

アルシャルル

1. 開梱

枠材の形状と巾木・壁厚納まり参考図



梱包内訳表(枠材本体)

4枚引き違い戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	4枚
	戸当たりパッキン	8本
	凹型戸当たりパッキン (※4枚引き違い戸のみ現場取替え)	1本
	吊車	8個
	遮光キャップ	8個
	ガイドローラー	8個
	ガイドローラ取り付けビス	16本
	上レール	2本 (幕板付1 幕板無1)
	上レール取り付けビス (※レール一本につき13本)	26本
	戸じゃくりキャップ (上レール用)	2個
	戸じゃくりキャップ (上レール用) 取り付けビス	2本
	下ガイドレール	2本
	下ガイドレール取り付けビス (※レール一本につき14本)	28本
	戸じゃくりキャップ (下ガイドレール用)	2個
	ストッパー	2個
	中間ストッパー	1個
	中間ストッパー取り付けビス	1本

3枚引き違い戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	3枚
	戸当たりパッキン	6本
	–	–
	吊車	6個
	遮光キャップ	6個
	ガイドローラー	6個
	ガイドローラ取り付けビス	12本
	上レール	3本 (幕板無)
	上レール取り付けビス (※レール一本につき10本)	30本
	戸じゃくりキャップ (上レール用)	2個
	戸じゃくりキャップ (上レール用) 取り付けビス	2本
	下ガイドレール	3本
	下ガイドレール取り付けビス (※レール一本につき11本)	33本
	戸じゃくりキャップ (下ガイドレール用)	2個
	ストッパー	2個
	–	–
	–	–

2枚引き違い戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	2枚
	戸当たりパッキン	4本
	–	–
	吊車	4個
	遮光キャップ	4個
	ガイドローラー	4個
	ガイドローラ取り付けビス	8本
	上レール	2本 (幕板付1 幕板無1)
	上レール取り付けビス (※レール一本につき10本)	20本
	戸じゃくりキャップ (上レール用)	2個
	戸じゃくりキャップ (上レール用) 取り付けビス	2本
	下ガイドレール	2本
	下ガイドレール取り付けビス (※レール一本につき11本)	22本
	戸じゃくりキャップ (下ガイドレール用)	2個
	ストッパー	2個
	–	–
	–	–

3枚引き込み戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	3枚
	戸当たりパッキン	6本
	–	–
	吊車	6個
	遮光キャップ	6個
	ガイドローラー	6個
	ガイドローラ取り付けビス	12本
	上レール	3本 (幕板無)
	上レール取り付けビス (※レール一本につき13本)	39本
	戸じゃくりキャップ (上レール用)	1個
	戸じゃくりキャップ (上レール用) 取り付けビス	1本
	下ガイドレール	3本
	下ガイドレール取り付けビス (※レール一本につき14本)	42本
	戸じゃくりキャップ (下ガイドレール用)	1個
	ストッパー	1個
	–	–
	–	–

2枚引き込み戸		
	部材名	数量
	堅枠	2本
	鴨居	1本
	枠組み立て用ビス	4本
	枠組み立て用ダボ	2本
	扉	2枚
	戸当たりパッキン	4本
	–	–
	吊車	4個
	遮光キャップ	4個
	ガイドローラー	4個
	ガイドローラ取り付けビス	8本
	上レール	2本 (幕板付1 幕板無1)
	上レール取り付けビス (※レール一本につき10本)	20本
	戸じゃくりキャップ (上レール用)	1個
	戸じゃくりキャップ (上レール用) 取り付けビス	1本
	下ガイドレール	2本
	下ガイドレール取り付けビス (※レール一本につき11本)	22本
	戸じゃくりキャップ (下ガイドレール用)	1個
	ストッパー	1個
	–	–
	–	–

アルシャルル

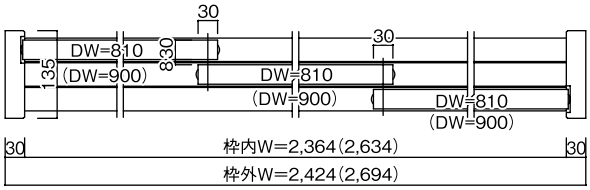
2. 納まり図

引き違い戸

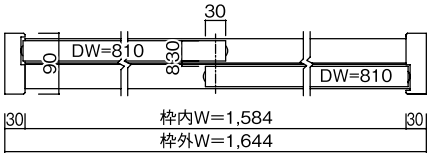
（単位:mm）

4枚引き違い戸横断面図

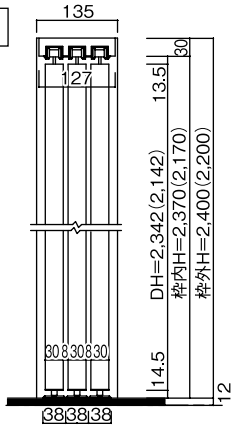
3枚引き違い戸横断面図



2枚引き違い戸横断面図

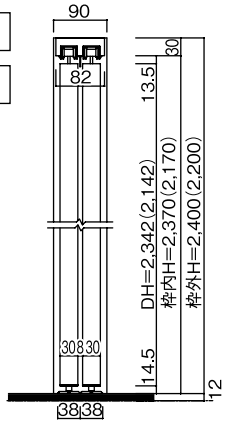


3枚引き違い戸縦断面図



4枚引き違い戸縦断面図

2枚引き違い戸縦断面図



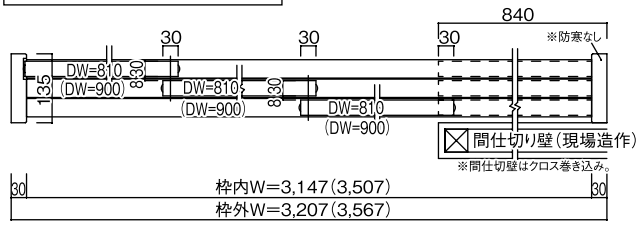
※横断面図の（　）内寸法はDW=900mmの場合です。

※縦断面図の（　）内寸法はH=7尺の場合です。

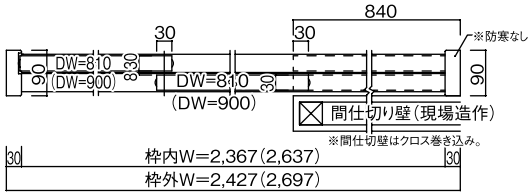
引き込み戸

（単位:mm）

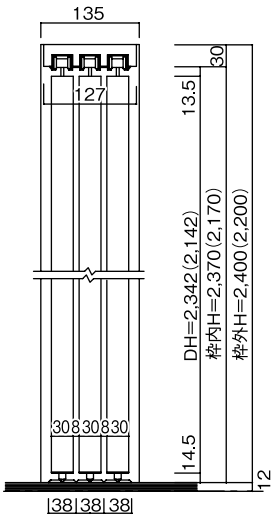
3枚引き込み戸横断面図



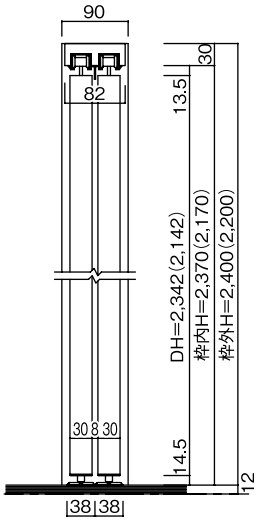
2枚引き込み戸横断面図



3枚引き込み戸縦断面図



2枚引き込み戸縦断面図



※横断面図の（　）内寸法はDW=900mmの場合です。

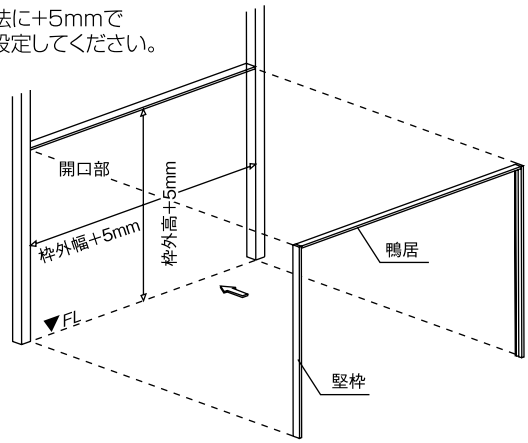
※縦断面図の（　）内寸法はH=7尺の場合です。

3. 施工手順

まずアルミスライドスクリーンを取り付ける枠の施行をします。

取り付け開口部の確認

枠外寸法に+5mmで
開口を設定してください。



■ 外枠寸法表　（単位:mm）

	扉サイズ		枠外寸法 幅	枠外寸法 高さ(FLより)
4枚引き違い戸	DW810	DH2,342	3,237	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	3,597	2,400
		DH2,142		2,200
3枚引き違い戸	DW810	DH2,342	2,424	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	2,694	2,400
		DH2,142		2,200
3枚引き込み戸	DW810	DH2,342	3,207	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	3,567	2,400
		DH2,142		2,200
2枚引き込み戸	DW810	DH2,342	2,427	2,400
		DH2,142		2,200
	DW900	DH2,342	2,697	2,400
		DH2,142		2,200

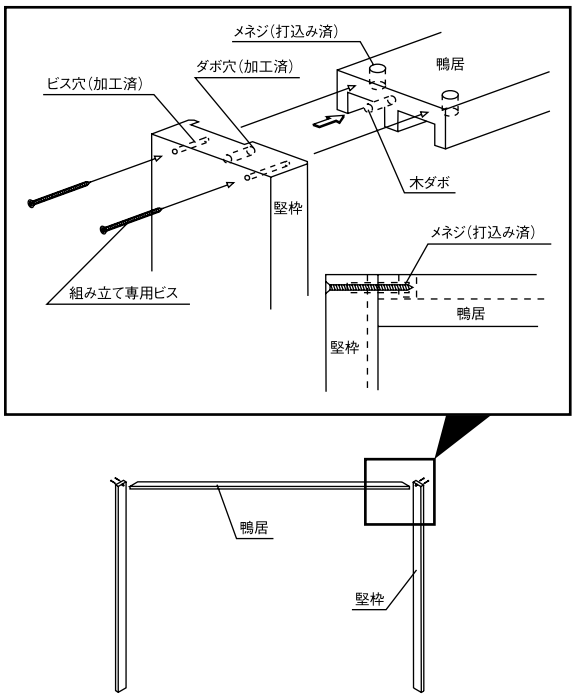
⚠ 注意

必ずおこなう

下げ振り・水準器・レーザー等を使用し、必ず開口部の垂直と水平を確認してください。また上吊式ですので、鴨居が垂れることのないよう、躯体に十分な強度をもたせてください。鴨居が垂れるとフロアーの破損や開閉時に支障をきたすおそれがあります。

枠材の組み立て

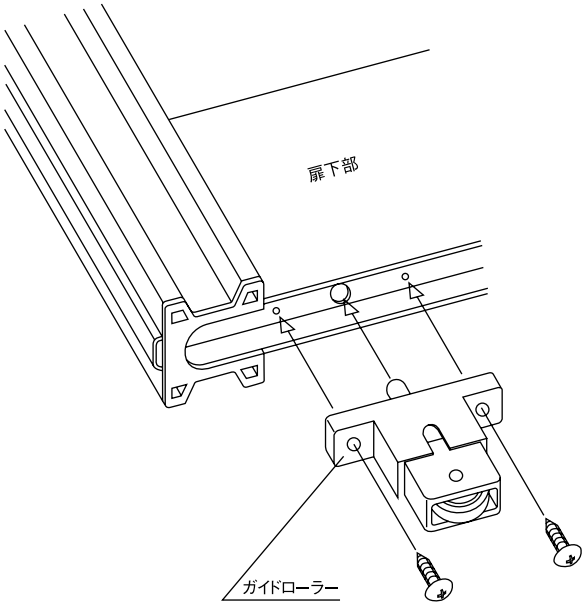
付属の木ダボで鴨居と堅枠を合わせ、組み立て専用ビスで固定します。その際、木ダボ及び切口面に現場調達の木工用ボンドを併用してください。



アルミスライドスクリーンの施行をします。

ガイドローラーの取り付け

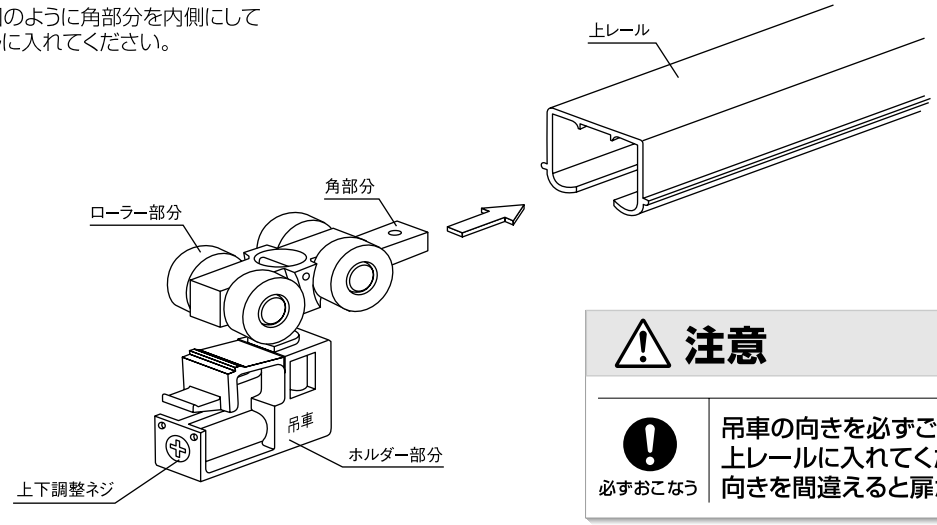
扉下部の取り付け穴に付属のビスで固定します。



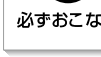
アルシャルル

吊車の取り付け

吊車を図のように角部分を内側にして
上レールに入れてください。



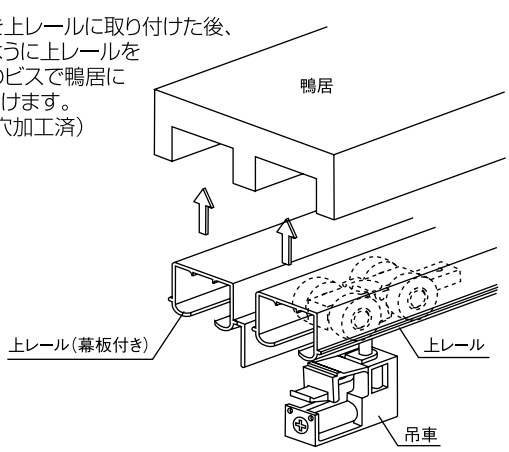
⚠ 注意

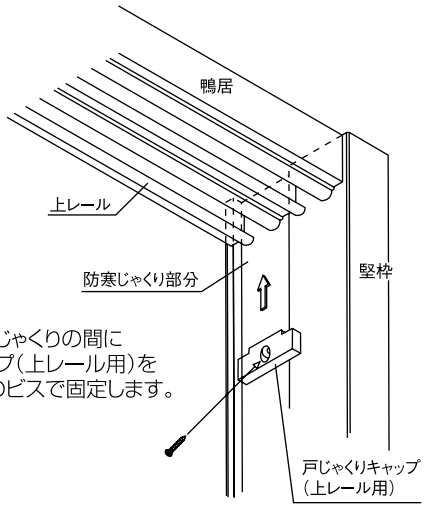

必ずおこなう

吊車の向きを必ずご確認のうえ、
上レールに入れてください。
向きを間違えると扉が閉まりません。

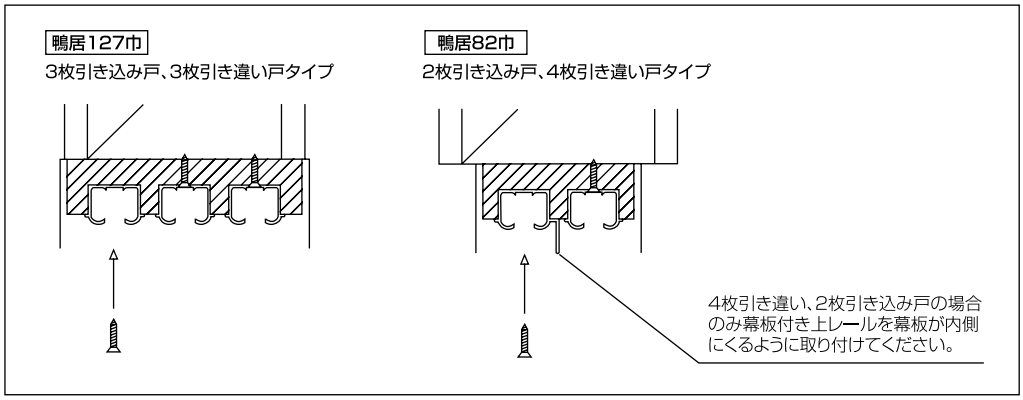
上レール及び戸じゃくりキャップ（上レール用）の取り付け

吊車を上レールに取り付けた後、
図のように上レールを
付属のビスで鴨居に
取り付けます。
（ビス穴加工済）





上レールと防寒じゃくりの間に
戸じゃくりキャップ（上レール用）を
差し込み、付属のビスで固定します。

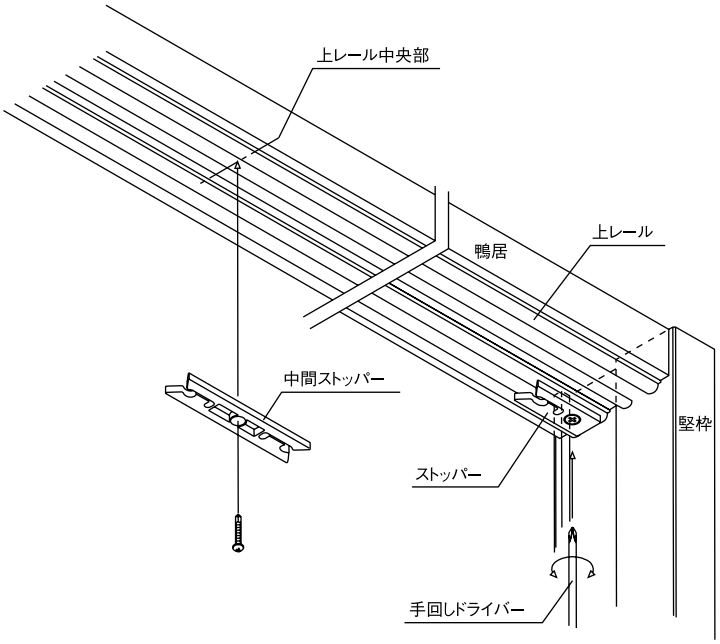


ストッパーの取り付け

ストッパーを上レールに差し込み、
レールに当てた状態で手回しの
プラスドライバーでビスを回して
固定してください。
（ビスの裏の金具が回り、レールに固定されます。）

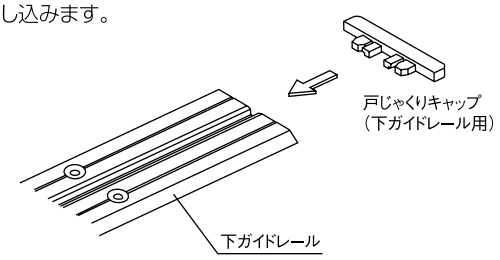
ストッパーを扉を閉めた際に
当たる個所に取り付けます。

4枚引き違い戸の場合のみ、
上レール中央に中間ストッパーを
召し合わせ部分に付属のビスで取り付けます。

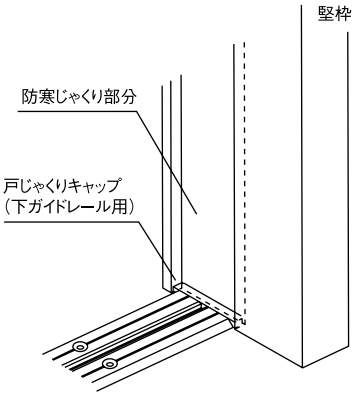


下ガイドレールと戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）の取り付け

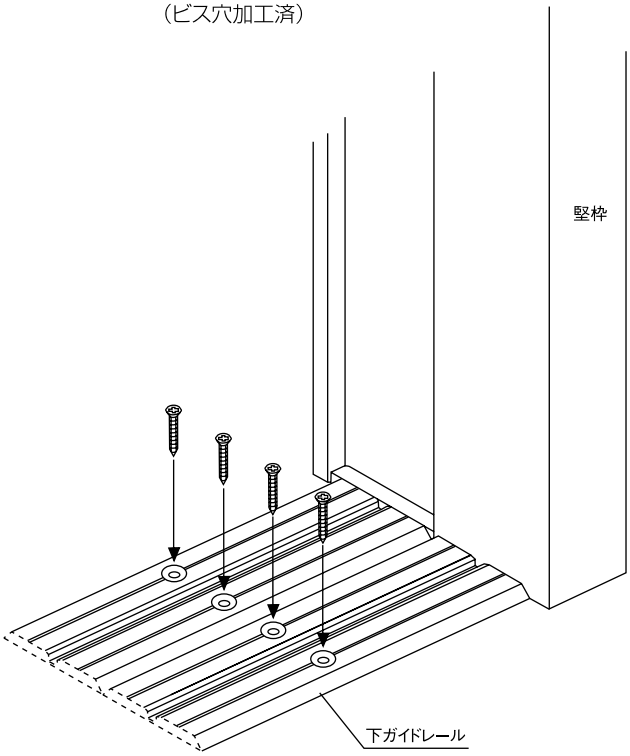
（1）防寒じゃくり側に付く下ガイドレールの端に
戸じゃくりキャップ（下ガイドレール用）を
差し込みます。



（2）防寒じゃくり部分の下側に
（1）の下ガイドレールを差し込みます。



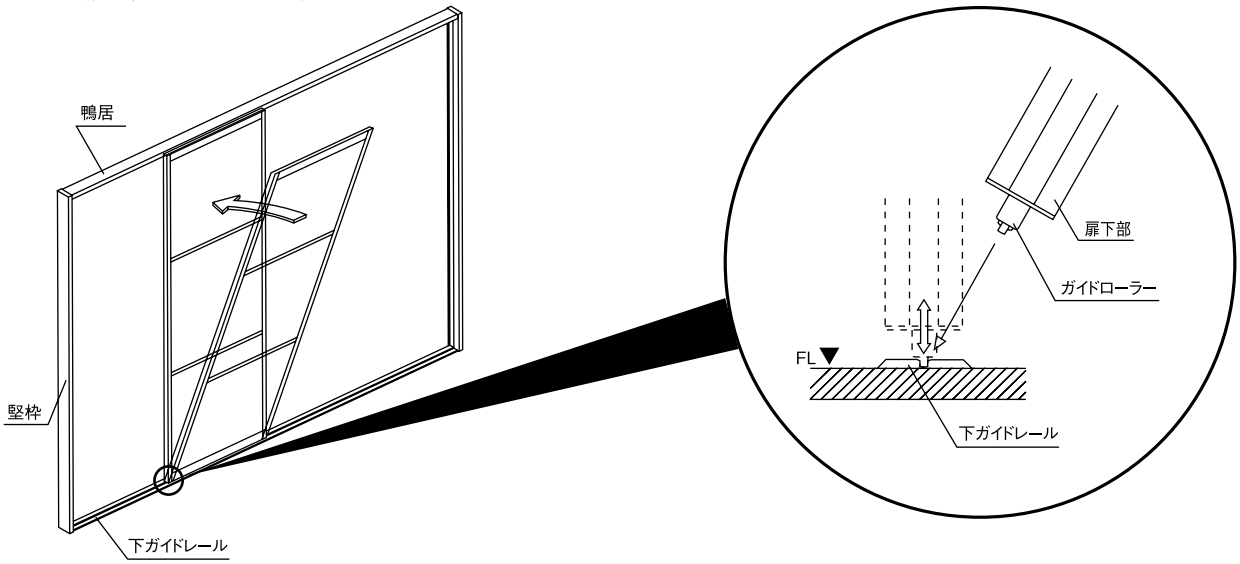
（3）レールとレールの間を開けずに設置し、
床に付属のビスで固定します。
（ビス穴加工済）



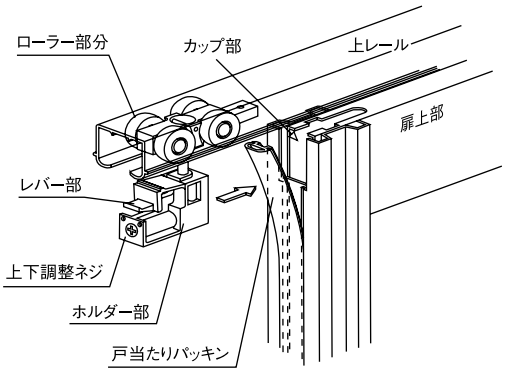
アルシャルル

扉の吊り込み

（1）下ガイドレールの溝にガイドローラーを差し込み、
（ガイドローラーはバネで上下します。）
扉を下ガイドレールに乗せます。



（2）扉上部の戸当たりパッキンをめくり、
吊車のホルダー部分を扉のカップ部に入れ、
パチンという音がするまで差し込んでください。



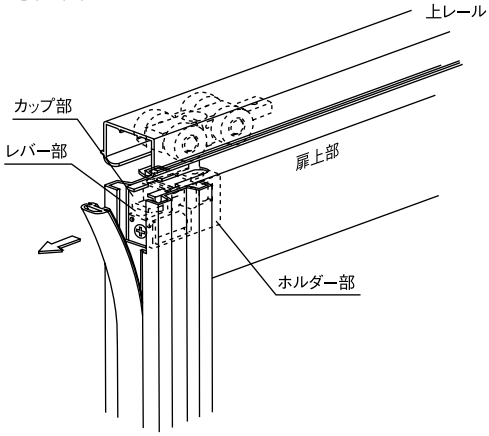
⚠ 注意

必ずおこなう

吊車のホルダー部が扉のカップ部に確実にはまっていることをご確認ください。

確実にはまっていないと扉が脱落するおそれがあります。

（3）吊り込んだ扉を外す場合は吊車のレバー部を
つまんでホルダー部を扉のカップ部から
引き出してください。



⚠ 注意

樹脂パネルの部分は傷つき易いため、取り扱いには十分注意してください。表面の保護フィルムは施工完了まではがさないでください。

⚠ 注意

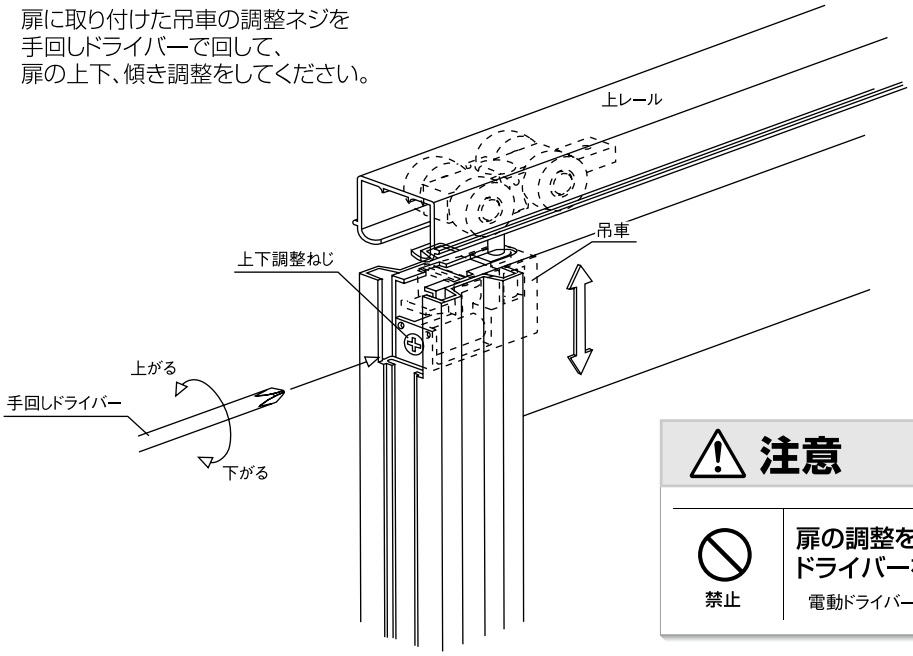
必ずおこなう

扉を吊り込む際、または外す際は床面を傷つけないように十分に養生してから行ってください。

扉は重量があります。扉の角などを押し付けても破損しないものを使用してください。

扉の調整

扉に取り付けた吊車の調整ネジを
手回しドライバーで回して、
扉の上下、傾き調整をしてください。



⚠ 注意

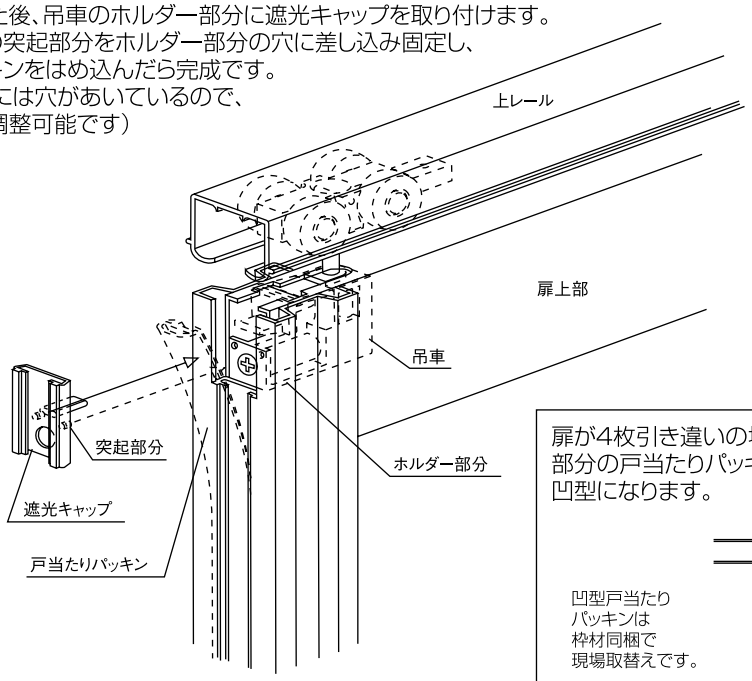
禁止

扉の調整を行う際は、必ず手回しのドライバーを使用してください。

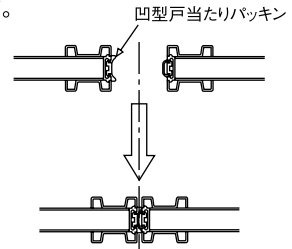
電動ドライバーは金具破損の原因になります。

遮光キャップの取り付け

扉の調整をした後、吊車のホルダー部分に遮光キャップを取り付けます。
遮光キャップの突起部分をホルダー部分の穴に差し込み固定し、
戸当たりパッキンをはめ込んだら完成です。
（遮光キャップには穴があいているので、
取り付け後も調整可能です）



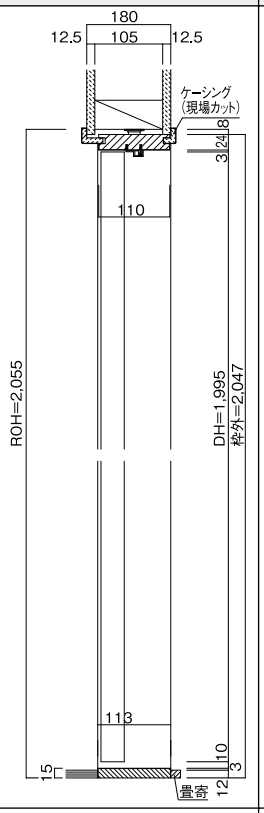
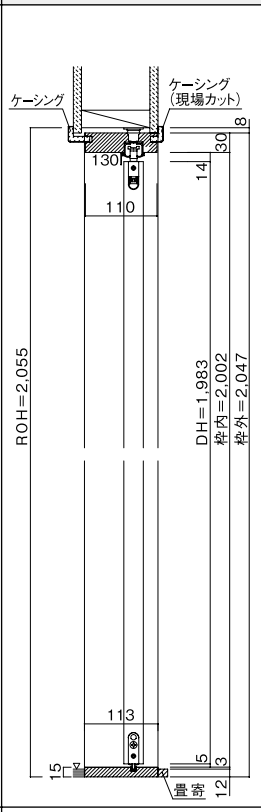
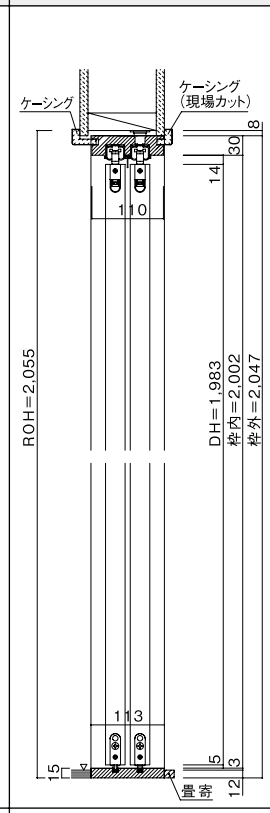
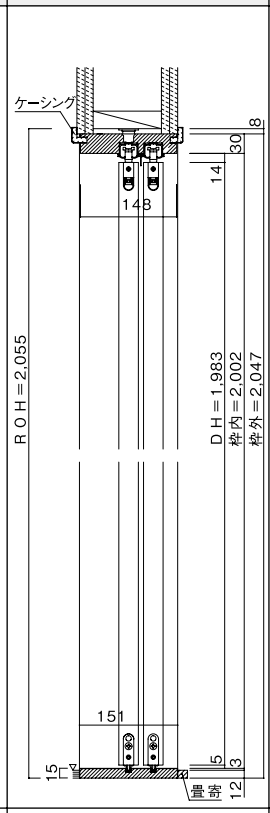
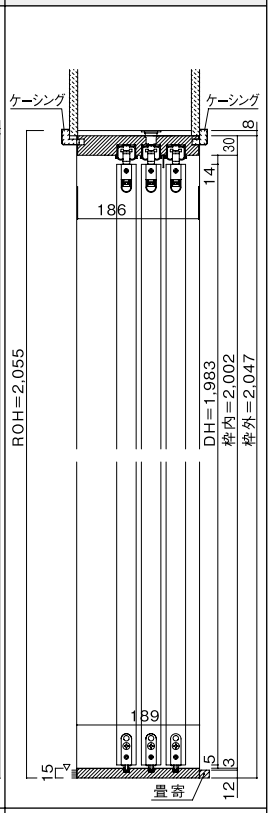
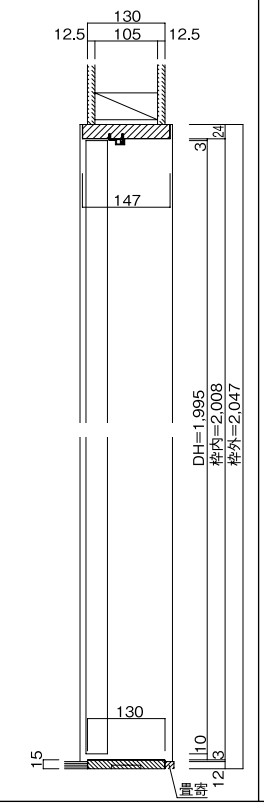
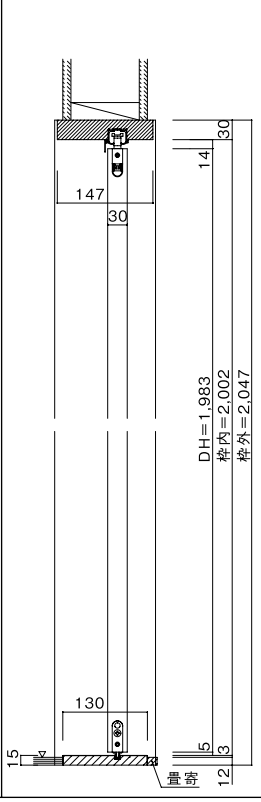
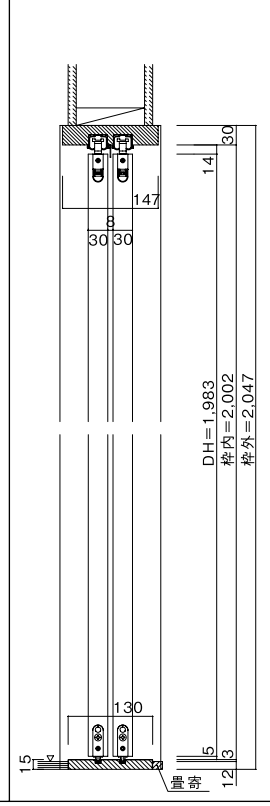
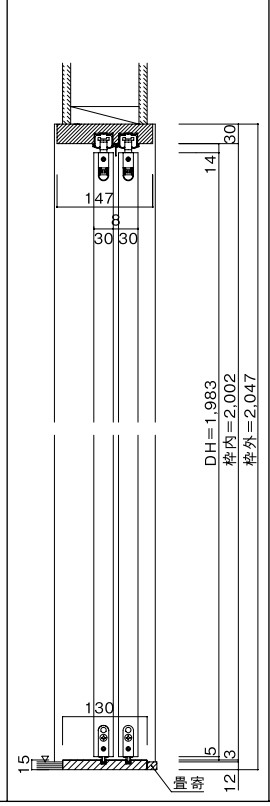
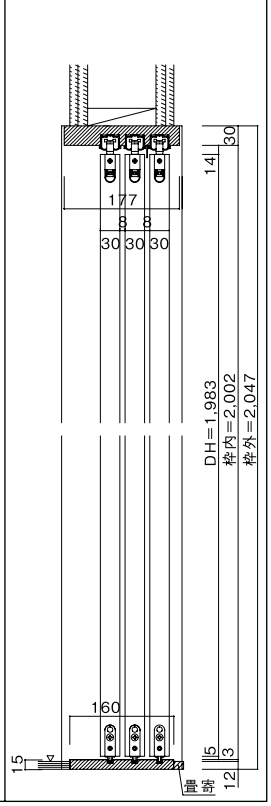
扉が4枚引き違いの場合は中央の召し合わせ部分の戸当たりパッキンが、左右どちらかが凹型になります。



幅広敷居・下枠

1. 納まり図

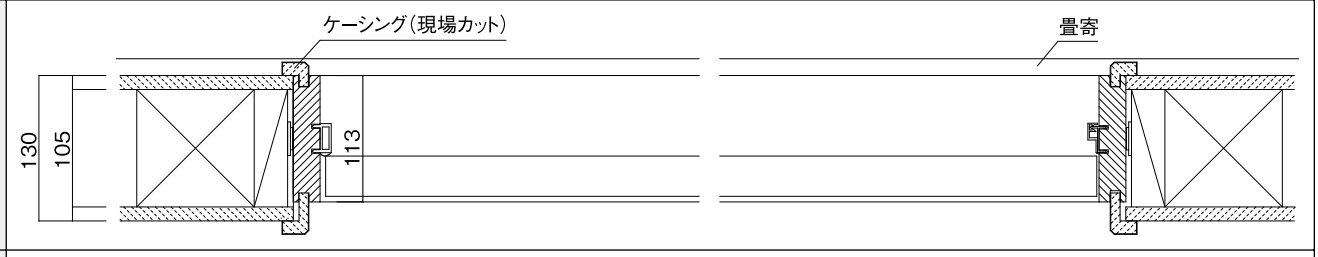
縦断面図　（単位:mm）

	開きドア	片引き･引き分け	引き違い･4枚引き違い	2枚引き込み	3枚引き込み
調整枠					
固定枠					

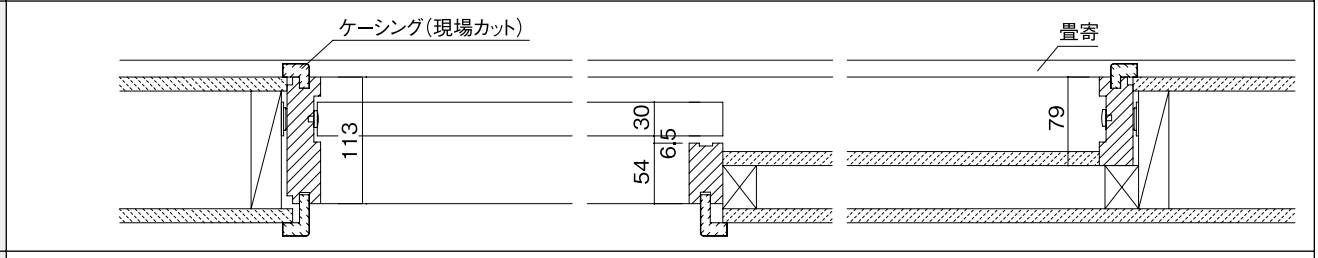
横断面図（調整枠）

（単位:mm）

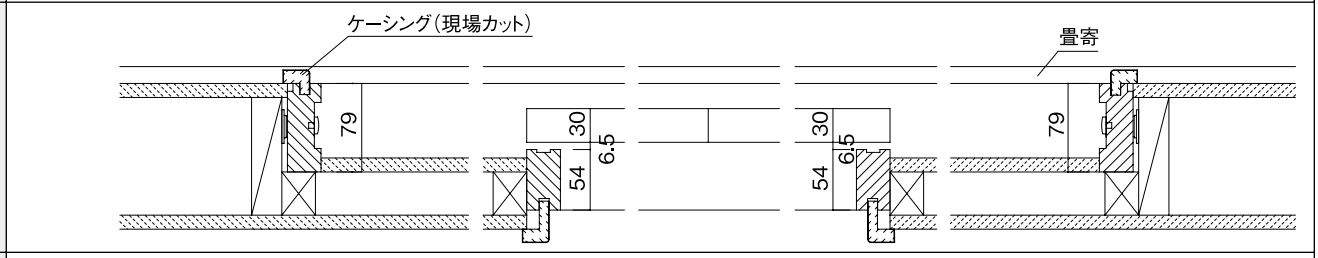
開きドア



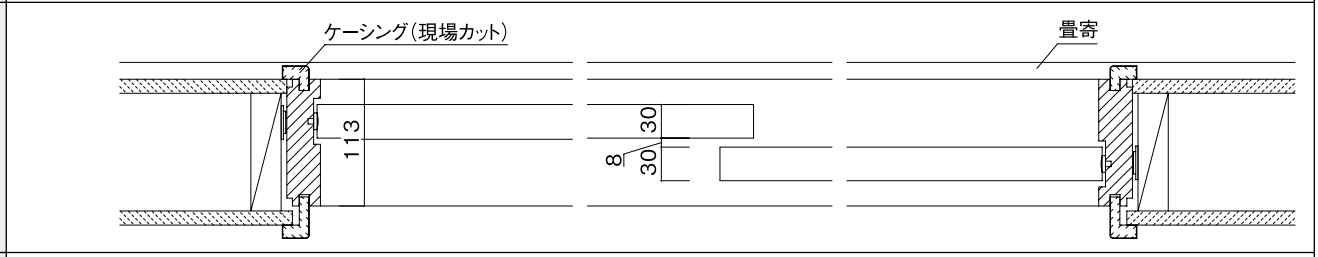
片引き



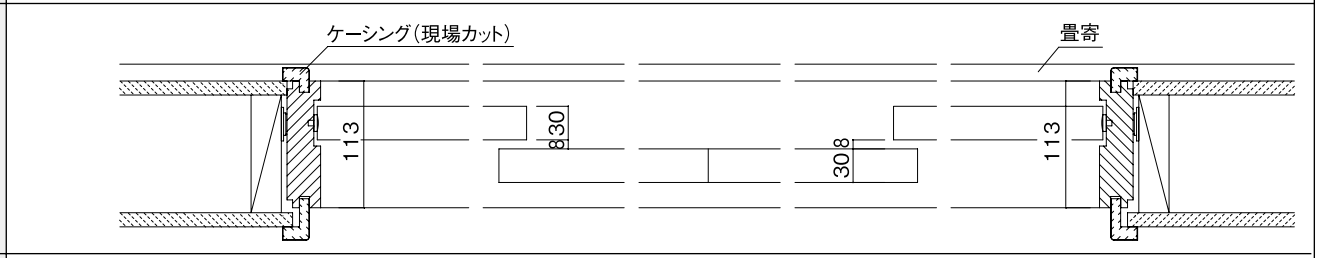
引き分け



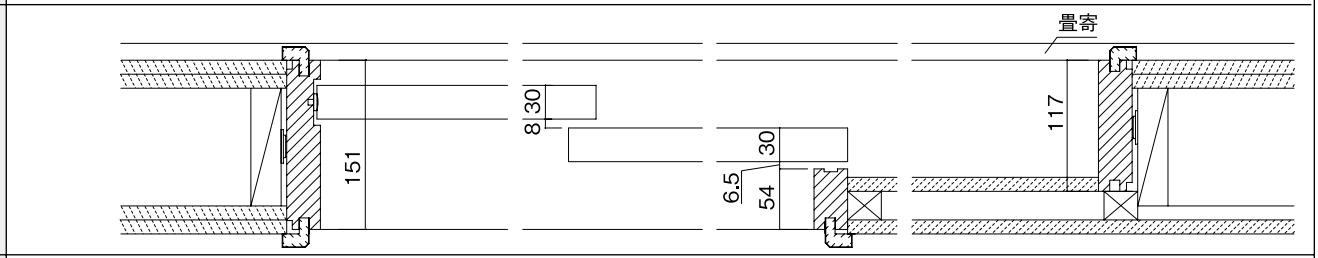
引き違い



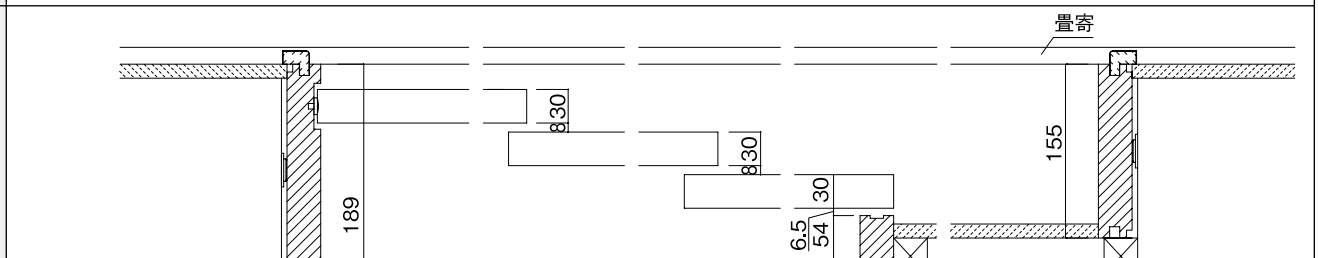
4枚引き違い



2枚引き込み



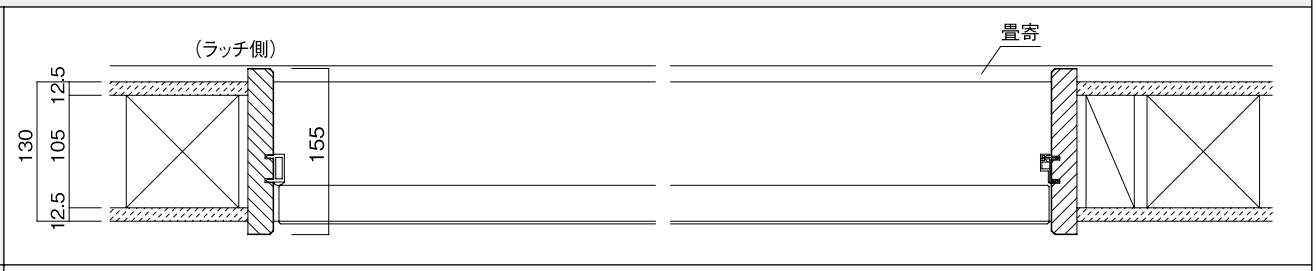
3枚引き込み



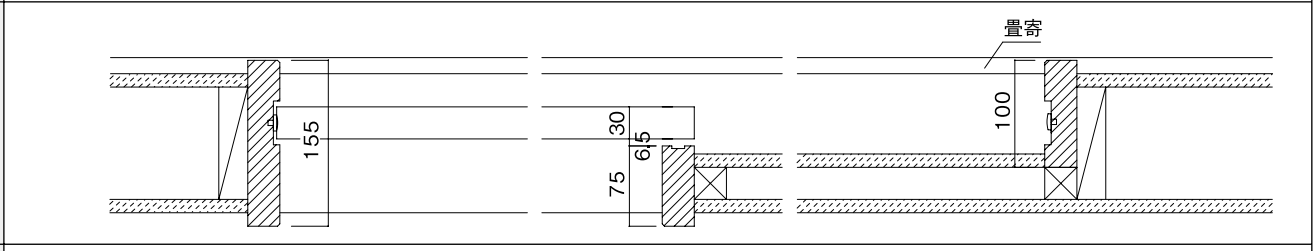
幅広敷居・下枠

横断面図（固定枠）　（単位:mm）

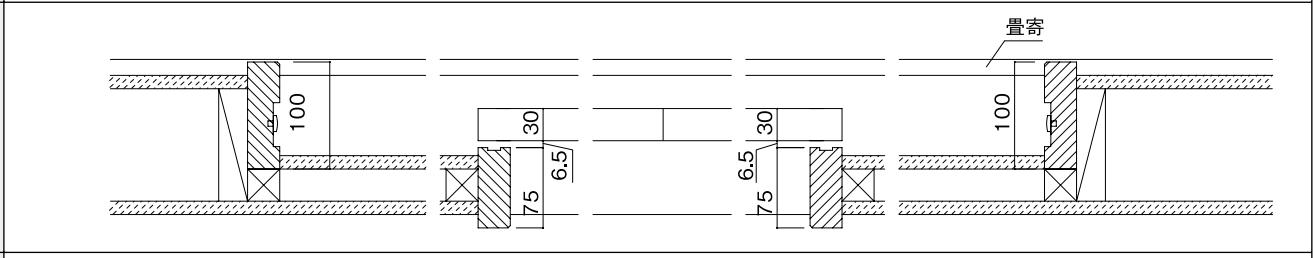
開きドア



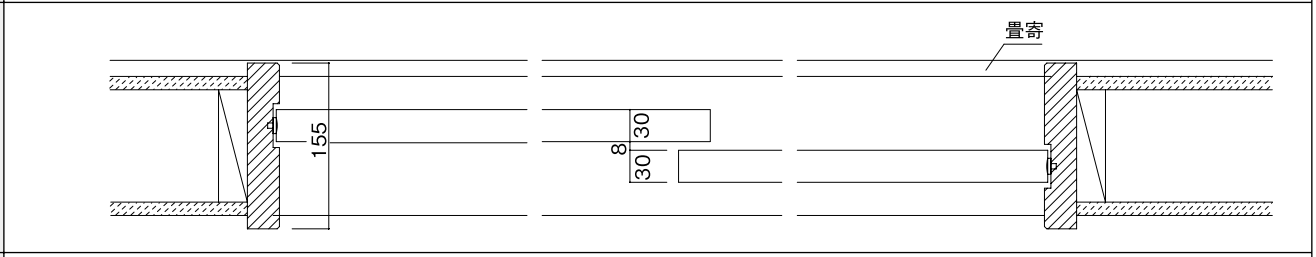
片引き



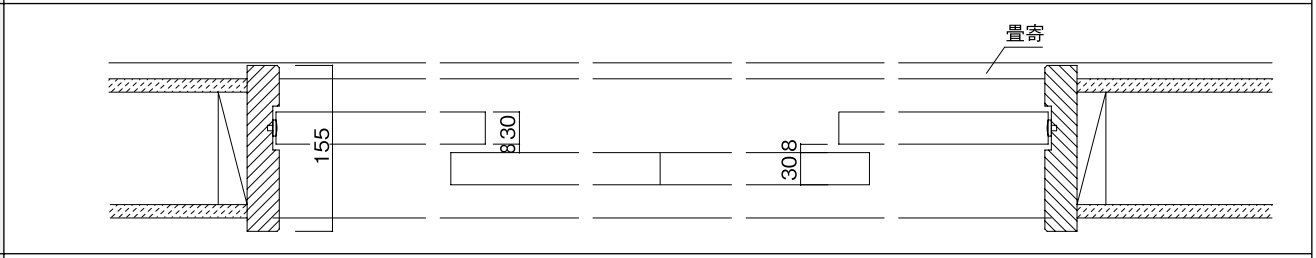
引き分け



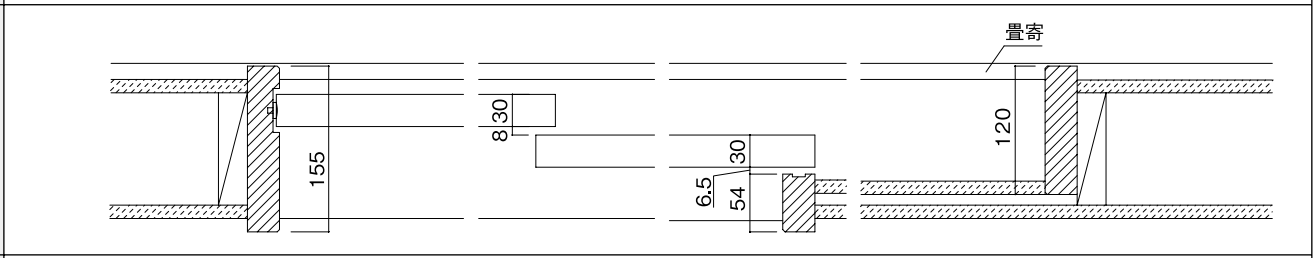
引き違い



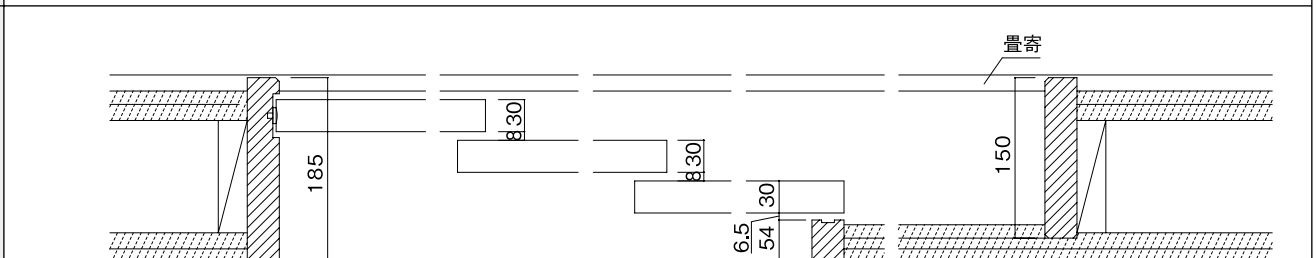
4枚引き違い



2枚引き込み



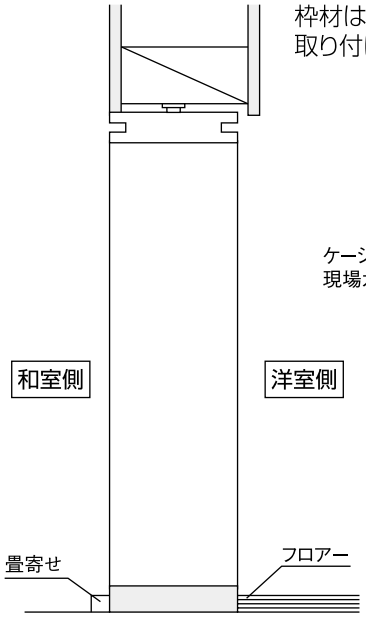
3枚引き込み



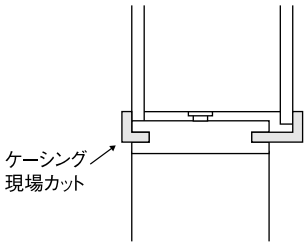
2. 施工方法

※敷居の長さ･方立加工･小壁しゃくり加工は現場加工となります。

① 調整枠の場合

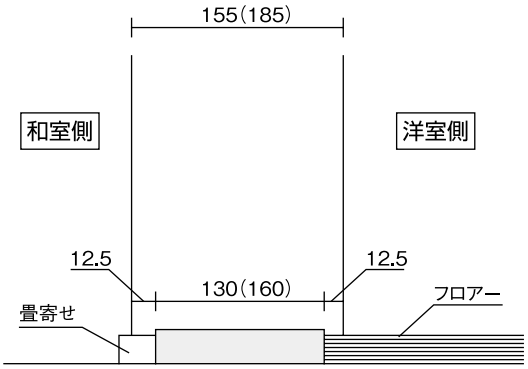


枠材は和室側の壁面に合わせて取り付けてください。



和室側のケーシングは差し込み部分をカット（現場カット）し、納めてください。

② 固定枠の場合

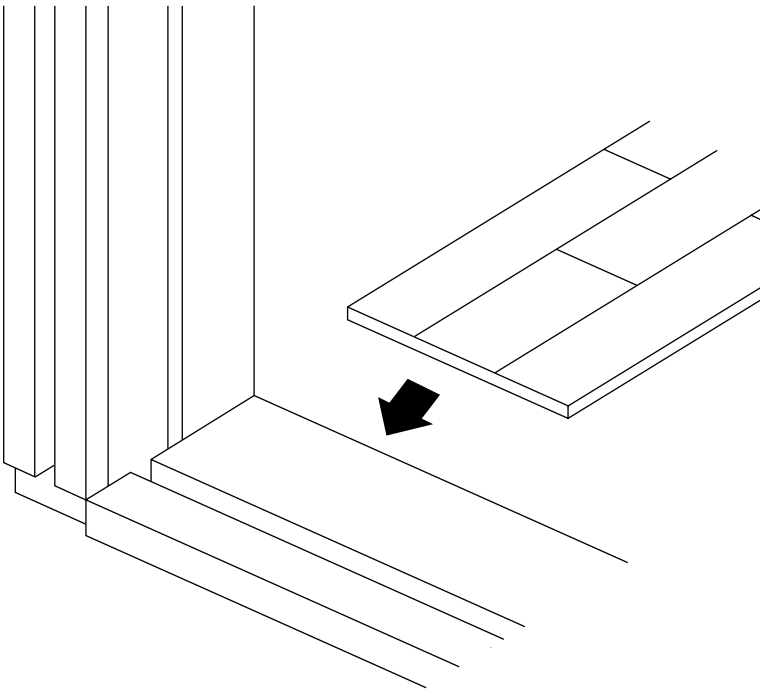


竪枠の両端より12.5mmづつ枠内に入った位置に敷居を取り付けてください。

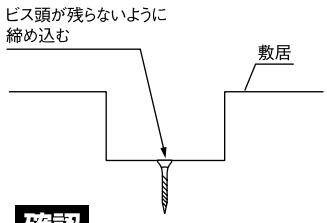
※（　）内寸法は、3枚引き込み戸の場合の寸法です。

③ 枠材の取り付け

施工手順のイラストは調整枠の引き戸になっています。固定枠の場合も同様の施工方法になります。



ビスを打ち込む際の注意点



確認

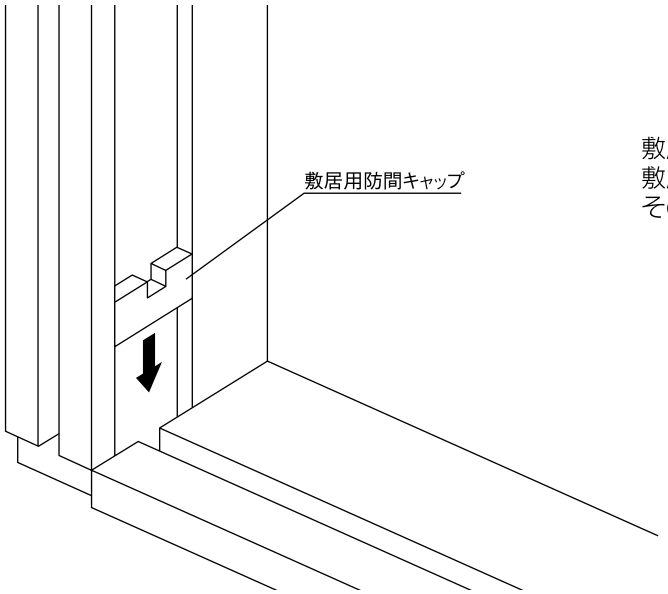
敷居を固定するビスは、ビス頭が残らないように確実に締め込んでください。

敷居をビス（現場調達）と接着剤（現場調達）で先付け施工し、フロアーは敷居に対し突き付け施工をおこなってください。

※開きドアの場合（下枠）は無目枠になるので接着剤（現場調達）のみで取り付けます。

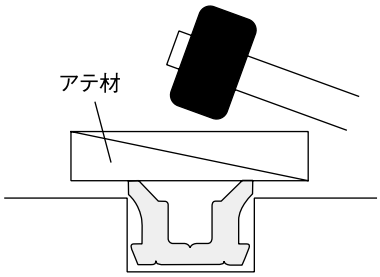
幅広敷居・下枠

引き戸の場合のみ

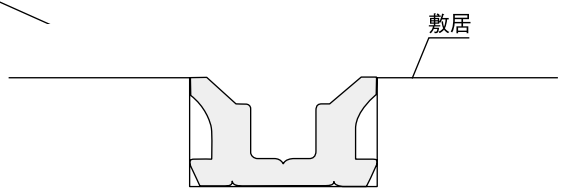


敷居用防間キャップを竪枠の防間じゃくりと敷居の隙間にはめ込んでください。
その後、Yレールを敷居に取り付けてください。

Yレール取り付け時の注意



防間じゃくりキャップは、レールをはめ込んでいく際にレールと共に押し入れてください。



※<u>レールが完全に敷居に入っていることを確認してください。</u>

⚠ 注意

レールが完全に埋め込まれていないと引戸の開閉に支障をきたすおそれがあります。

※レールは建具枠本体に同梱されています。

開きドア用	片引き用　引き分け用	引き違い用　4枚引き違い用
113 (130) 15	113(130) 37.5 75.5 (46) (84) 15	113(130) 37.5 38 37.5 (46) (46) 15
2枚引き込み用	**3枚引き込み用**	
151(130) 37.5 38 75.5 (29) (63) 15	189(160) 37.5 38 38 75.5 (21) (63) 15	※( )内寸法は固定枠の場合。

施工終了後

養生の方法

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着物を直接貼ったりしないでください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャストシリーズ

天井ジャストシリーズ専用枠材	建具本体説明書	掲載ページ
天井ジャスト インセット開き戸枠 ・・・・・	内装ドア	P.9～
天井ジャスト インセット引き戸枠 ・・・・・	上吊り引き戸	P.255～
天井ジャスト アウトセット引き戸枠 ・・・・	上吊り引き戸	P.255～
天井ジャスト クローゼットドア枠 ・・・・・・	クローゼットドア	P.445～
天井ジャスト 収納両開き戸枠 ・・・・・・・・	収納両開き戸	P.469～

※天井ジャストシリーズ専用枠材に対応する建具本体の施工説明書は上記掲載ページの説明書をご確認ください。

天井ジャストインセット開き戸専用枠材

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

梱包内訳

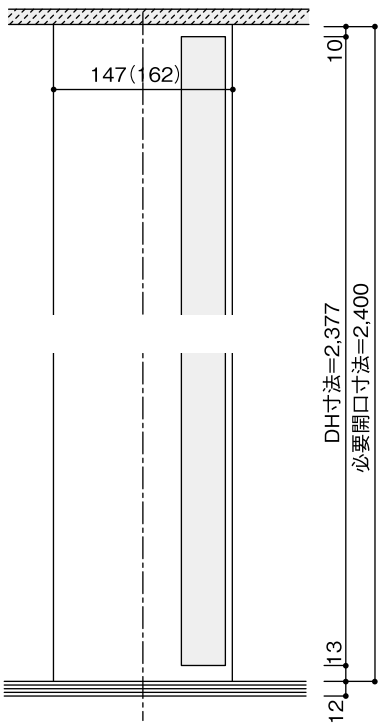
部材名	数量
竪枠	2本
竪枠用戸当り（換気）	※ 1本
竪枠用戸当り（非換気）	※ 1本
戸当り用ビス	15本

※気密タイプの場合は、竪枠用戸当り（非換気）が2本になり、竪枠用戸当り（換気）は同梱されません。

2. 納まり図

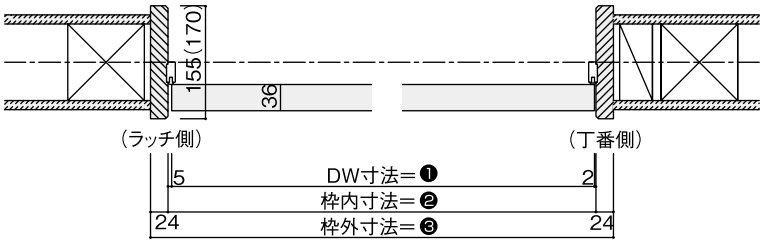
縦断面図

（単位:mm）



横断面図

（単位:mm）



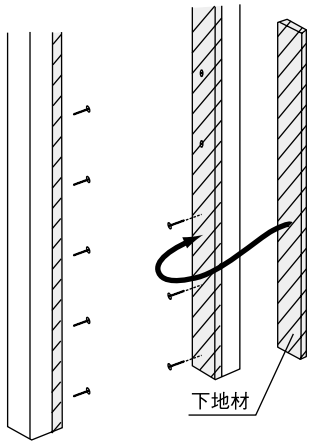
※図示:右吊り元

❶ DW寸法	723	703	680	599
❷ 枠内寸法	730	710	687	606
❸ 枠外寸法	778	758	735	654

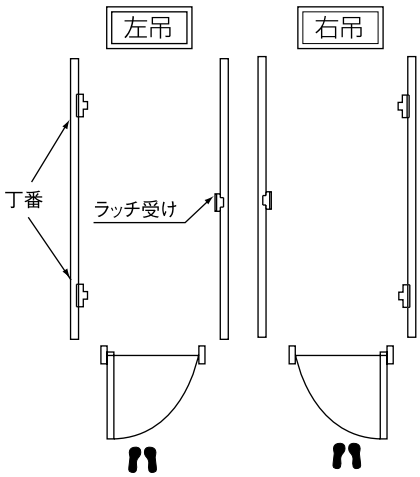
3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認・吊り元確認

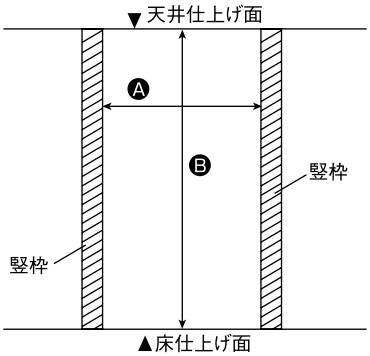
●取り付け開口部の確認



納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。



重要



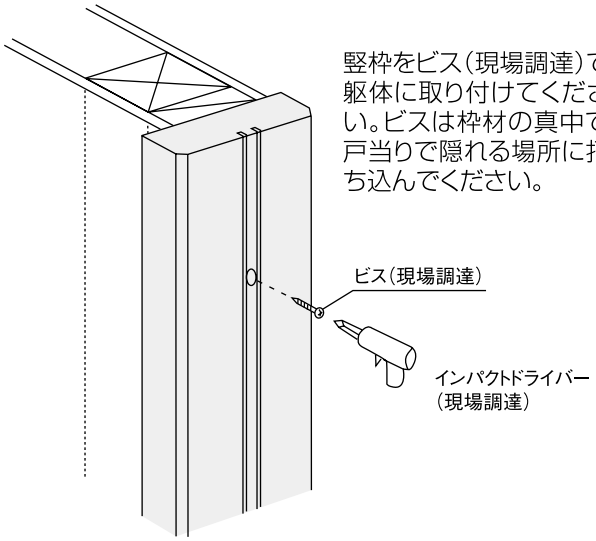
Ⓐ枠内寸法が納まり図と同寸法になるように開口を仕上げてください。

Ⓑ床仕上げ面から天井仕上げ面までがH=2400㎜になるように仕上げてください。

⚠ 注意

Ⓐ・Ⓑ寸法が守られないと、ドアが納まらなくなる可能性があります。

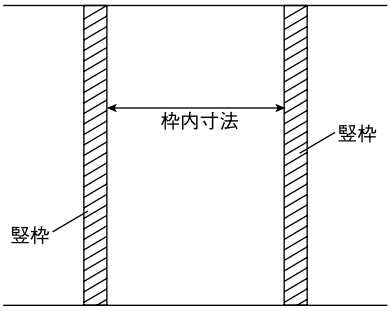
② 竪枠の取り付け



竪枠をビス（現場調達）で躯体に取り付けてください。ビスは枠材の真中で、戸当りで隠れる場所に打ち込んでください。

⚠ 注意

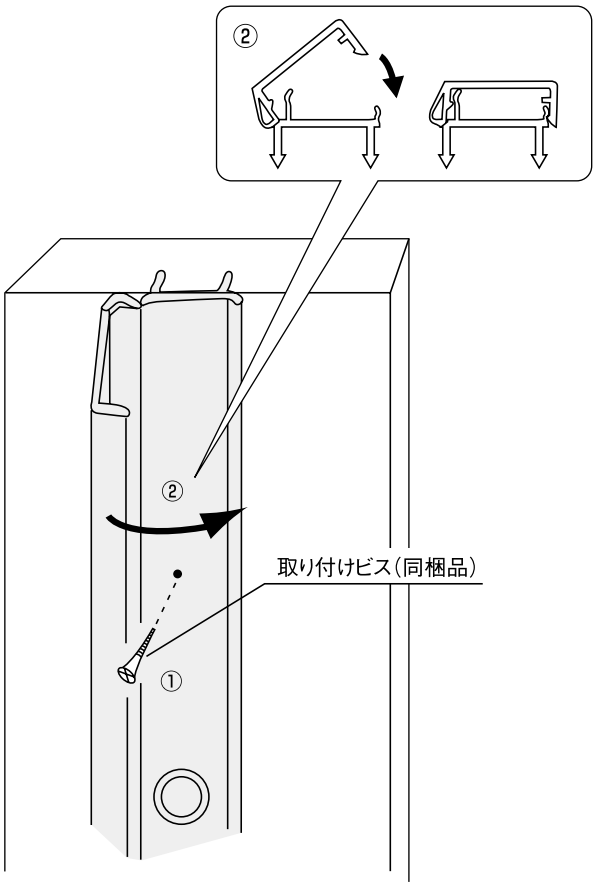
竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると、ドアが取り付かない可能性があります。



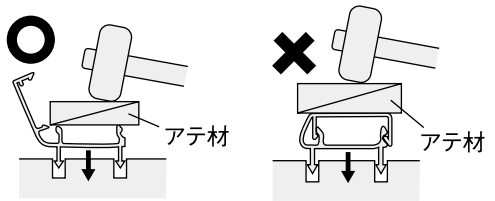
天井ジャストインセット開き戸専用枠材

③ 戸当りの取り付け

戸当りを同梱のビスで取り付けます。



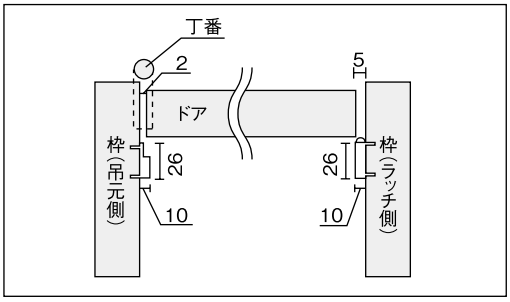
お願い



戸当りをはめ込む際、きつい場合は、必ず上図のように戸当りふたを開いて、アテをしたうえで軽くたたき込んでください。戸当りのふたを閉じたままたたくと割れる場合があります。

⚠ 注意

換気タイプの場合、戸当りの取り付け位置·向きにご注意ください。



施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャストインセット引き戸専用枠材

1. 開梱

梱包内訳

※ソフトクローズ機構の仕様により使用しない部材もあります。

	片引き戸	基本セット(ソフトクローズ機構なし)	
	竪枠(戸先側)	1本	
	竪枠(戸尻側)	1本	
	中方立	1本	
	上レール	1本	
	上レール固定ビス	6本	
	モヘヤ	1本	
金具セット 品番:ZYJK24			
	吊車	ZYTF01	2個
	戸じゃくりキャップ(ビス1本セット)	ZYTNC01	2個
	振れ止め金具(ビス2本セット)	ZY3334	1個
	吊車キャッチ(ビス1本セット)	ZYTC01	2個
ビスセット 品番:ZYMK01-□			
	クッションキャップ	8個	
35mm	木ダボ	使用しません※2本入	
62mm	組み立てビス	使用しません※6本入	
25mm	下枠ベースビス	使用しません※5本入	
47mm	躯体接合金具ビス	躯体と竪枠の固定に使用できます※10本入	
7mm L50mm	六角レンチ	使用しません※1本入	

	引き違い戸	基本セット(ソフトクローズ機構なし)	
	竪枠	2本	
	上レール	2本	
	上レール固定ビス	12本	
金具セット 品番:ZYJH24			
	吊車	ZYTF01	4個
	戸じゃくりキャップ(ビス1本セット)	ZYTNC01	2個
	振れ止め金具(ビス2本セット)	ZY3334	2個
	吊車キャッチ(ビス1本セット)	ZYTC01	4個
ビスセット 品番:ZYMH01-□			
	クッションキャップ	8個	
35mm	木ダボ	使用しません※2本入	
62mm	組み立てビス	使用しません※6本入	
25mm	下枠ベースビス	使用しません※5本入	
47mm	躯体接合金具ビス	躯体と竪枠の固定に使用できます※10本入	
7mm L50mm	六角レンチ	使用しません※1本入	

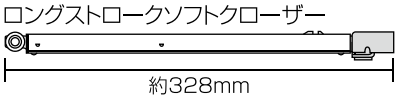
	引き分け戸	基本セット(ソフトクローズ機構なし)	
	竪枠	2本	
	中方立	2本	
	上レール	1本	
	上レール固定ビス	8本のみ使用※11本入	
	モヘヤ	2本	
金具セット 品番:ZYJL28			
	吊車	ZYTF01	4個
	戸じゃくりキャップ(ビス1本セット)	ZYTNC01	2個
	振れ止め金具(ビス2本セット)	ZY3334	2個
	吊車キャッチ(ビス1本セット)	ZYTC01	2個のみ使用※4個入
ビスセット 品番:ZYML01-□			
	クッションキャップ	8個	
35mm	木ダボ	使用しません※2本入	
62mm	組み立てビス	使用しません※8本入	
25mm	下枠ベースビス	使用しません※9本入	
47mm	躯体接合金具ビス	躯体と竪枠の固定に使用できます※12本入	
7mm L50mm	六角レンチ	使用しません※1本入	

	4枚引き違い戸	基本セット(ソフトクローズ機構なし)	
	竪枠	2本	
	上レール	2本	
	上レール固定ビス	16本のみ使用※22本入	
金具セット 品番:ZYJL28　×2セット			
	吊車	ZYTF01	8個
	戸じゃくりキャップ(ビス1本セット)	ZYTNC01	4個
	振れ止め金具(ビス2本セット)	ZY3334	4個
	吊車キャッチ(ビス1本セット)	ZYTC01	4個のみ使用※8個入
ビスセット 品番:ZYMH01-□			
	クッションキャップ	8個	
35mm	木ダボ	使用しません※2本入	
62mm	組み立てビス	使用しません※6本入	
25mm	下枠ベースビス	使用しません※5本入	
47mm	躯体接合金具ビス	躯体と竪枠の固定に使用できます※10本入	
7mm L50mm	六角レンチ	使用しません※1本入	

上吊り引き戸クローザーセット梱包内訳一覧

本　体	上吊り引き戸用ソフトクローザー		
	片側SC付 枠外3234·1644·1450	両側SC付 枠外3234·1644	両側SC付 枠外1450
ショートストロークソフトクローザー	–	–	1
ロングストロークソフトクローザー	1	2	1
ショートストローク用トリガーセット	–	–	1
ロングストローク用トリガーセット	1	2	1
吊車固定ビス※吊車とソフトクローザーを接続するビス	1	2	1
トリガー取り付け治具	1	1	1

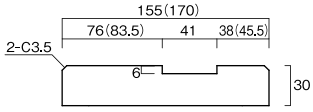
ロングストロークソフトクローザー



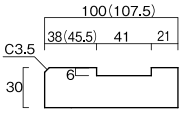
ショートストロークソフトクローザー

片引き戸·引き分け戸(②·③のみ)　※下記部材図は右引きの場合

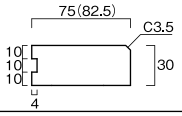
①竪枠(戸先側)



②竪枠(戸尻側)



③中方立て



引き違い戸　竪　枠

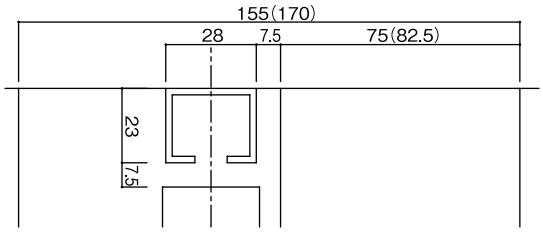
※(　)内寸法は170巾の場合

天井ジャストインセット引き戸専用枠材

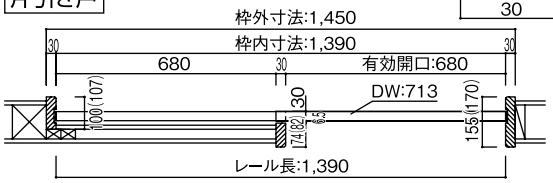
2. 納まり図

横断面図 （単位:mm）

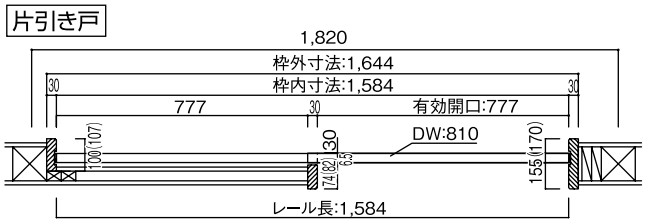
（　）内寸法は170巾の場合
※納まり図は右引きの場合



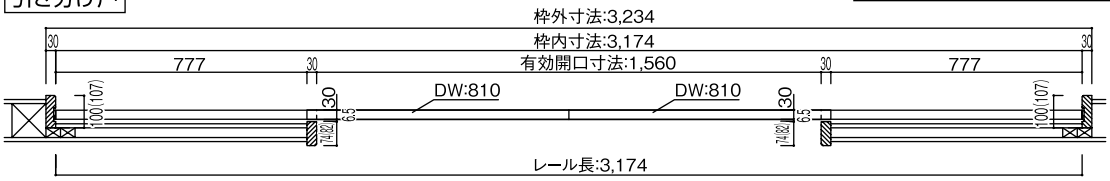
片引き戸



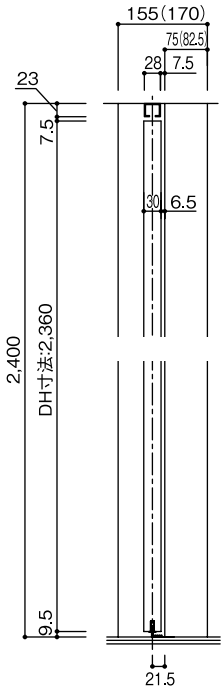
片引き戸



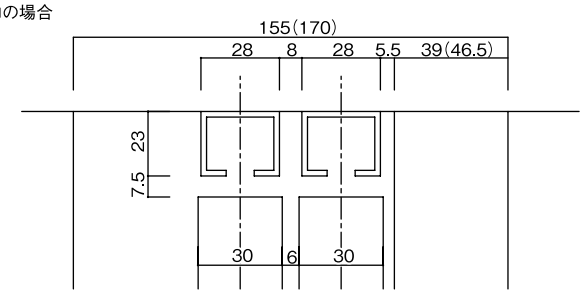
引き分け戸



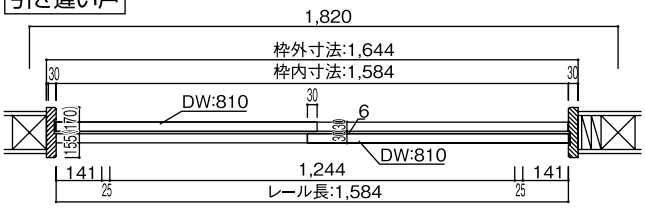
縦断面図 （単位:mm）



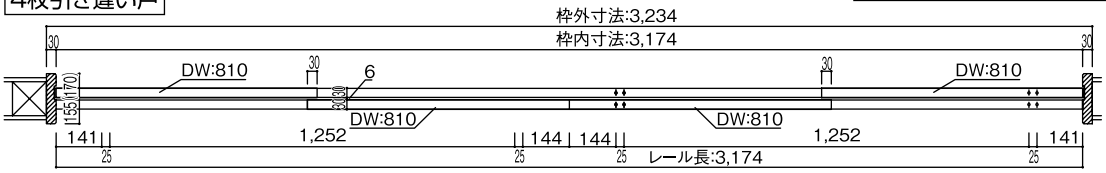
（　）内寸法は170巾の場合　（単位:mm）



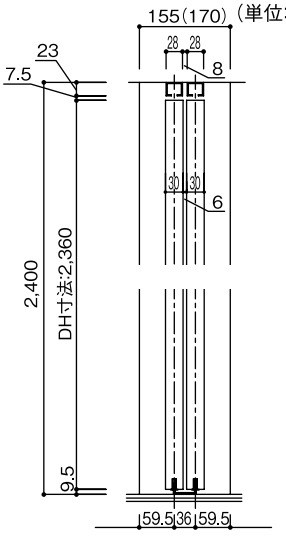
引き違い戸



4枚引き違い戸



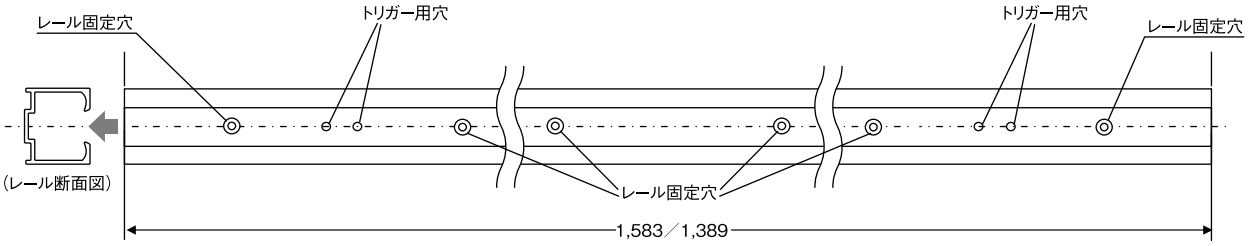
縦断面図 （単位:mm）



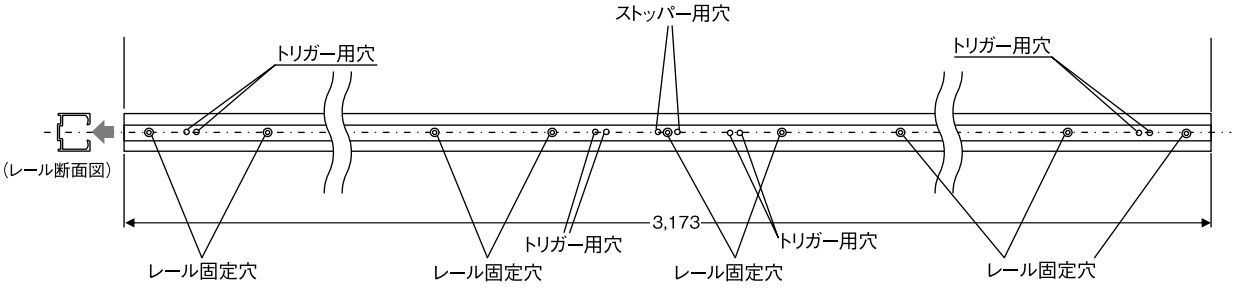
上吊レールビス穴詳細図

（単位:mm）

L=1,583（片引き･引き違い用）
L=1,389（片引き用）



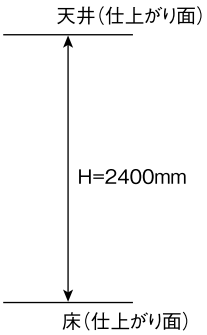
L=3,173（4枚引き違い･引き分け用）

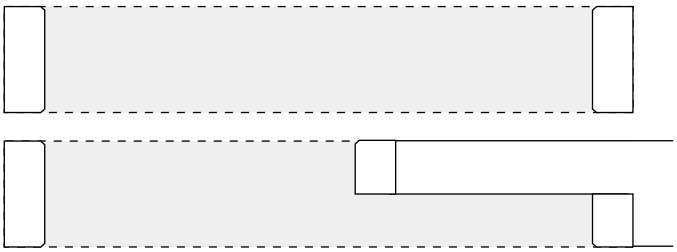


※上記図はレール断面図の矢印の方向からみた図です。

3. 施工手順

① 開口部の確認





⚠ 注意

扉の高さがH=2360mmになります。天井高がH=2400mmになるように仕上げてください。

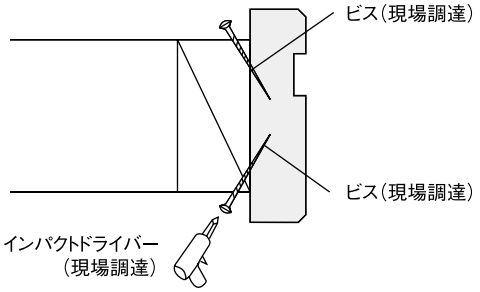
⚠ 注意

竪枠の内々に天井取り付けの上吊レールが取り付きます。枠の内々の天井部分は荷重に耐えられるように必ず補強をおこなってください。天井下地の補強が不十分だと、扉、上吊レールが脱落･転倒するおそれがあります。
※天井下地にはLV野縁システムを推奨します。

天井ジャストインセット引き戸専用枠材

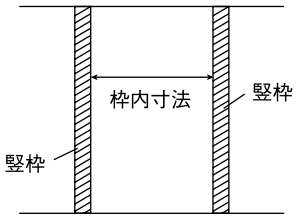
② 竪枠の取り付け

枠材を躯体側から固定します。

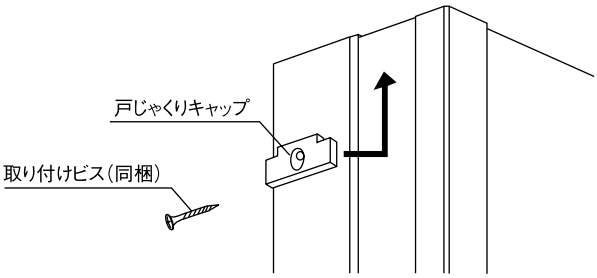


⚠ 注意

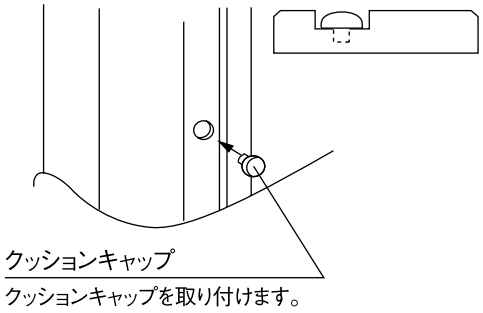
竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると扉が納まらない可能性があります。

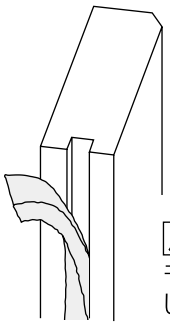


戸じゃくりキャップを竪枠の戸じゃくり部分にあて、同梱の取り付けビスで取り付けてください。
このとき、戸じゃくりキャップは竪枠の上端に合わせて取り付けてください。



③ クッションキャップ・モヘアの取り付け





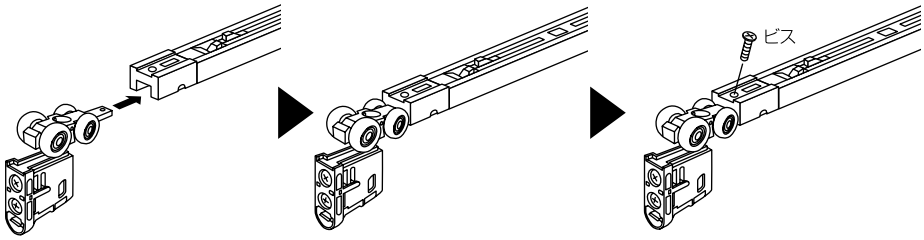
片引き戸の場合のみ
モヘアを中方立てにしっかりと貼り付けます。

ポイント **A** ソフトクローズ機構付の場合と **B** ソフトクローズ機構なしの場合で施工の手順が異なります。

A ソフトクローズ機構付の場合 標準仕様

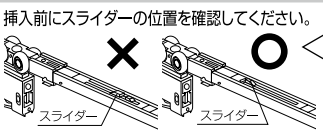
※ソフトクローズ機構なしの場合は6ページ B に進んでください。

（1）上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。

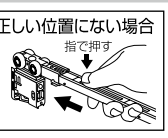


⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



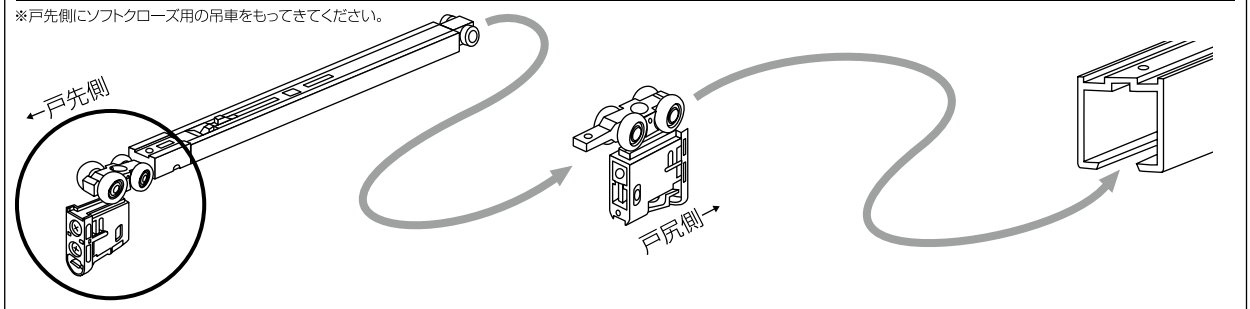
スライダーが正しい位置にない場合
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



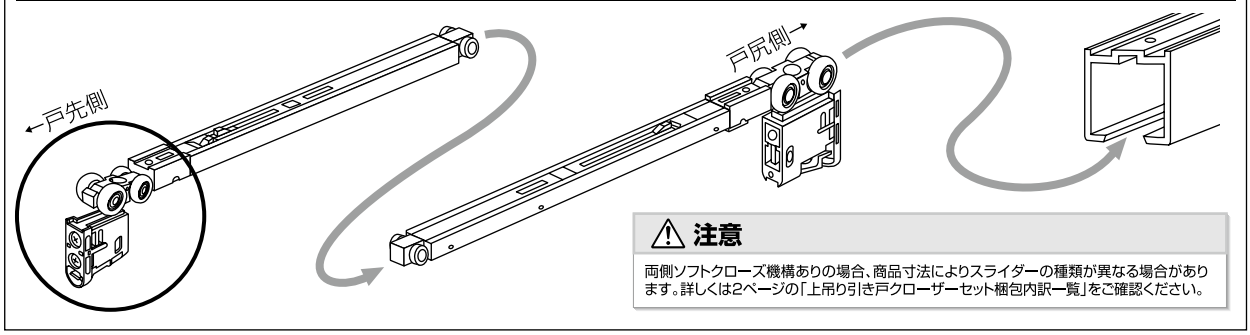
（2）吊車の挿入
鴨居レールに吊車を挿入してください。吊車はソフトクローズ機構の使用状況により下図のように向かい合わせでレールに入れてください。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないのでご注意ください。

片側ソフトクローズ機構ありの場合　標準仕様

※戸先側にソフトクローズ用の吊車をもってきてください。



両側ソフトクローズ機構ありの場合　オプション仕様



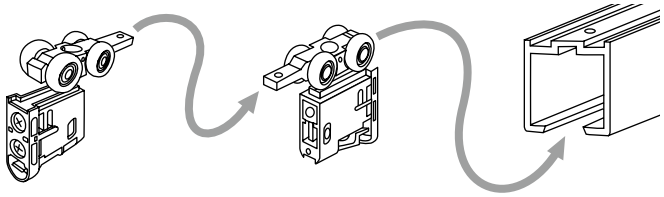
⚠ 注意

両側ソフトクローズ機構ありの場合、商品寸法によりスライダーの種類が異なる場合があります。詳しくは2ページの「上吊り引き戸クローザーセット梱包内訳一覧」をご確認ください。

④ 吊車の挿入

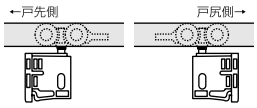
B ソフトクローズ機構なしの場合　オプション仕様

上部吊り車を鴨居レールに挿入してください。



⚠ 注意

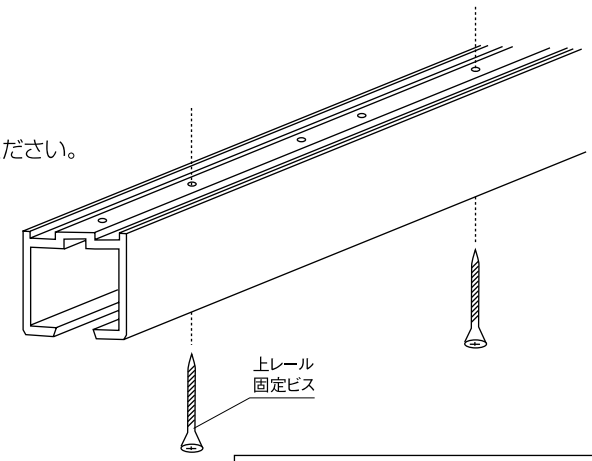
レール取り付け後に吊り車の向きの変更は出来ませんので確実に取り付けを行ってください。



⑤ 上吊レールの固定

竪枠取り付け後、天井のクロス仕上げ後に
上吊レールを取り付けてください。

4ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参照し、
レール固定穴に同梱の取り付けビスで確実に固定させてください。
※ビスを取り付ける前に下穴をあけておいてください。



⚠ 注意

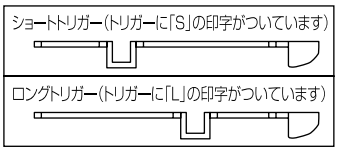
- ·レール取り付けビスを打ち込む場所にはビスがきちんと効くように下地の補強を確実に行っておいてください。（4P参照）
- ·吊車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。

- L=1,583 / L=1,389 の場合……6ヵ所固定
- L=3,173の場合……8ヵ所固定

天井ジャストインセット引き戸専用枠材

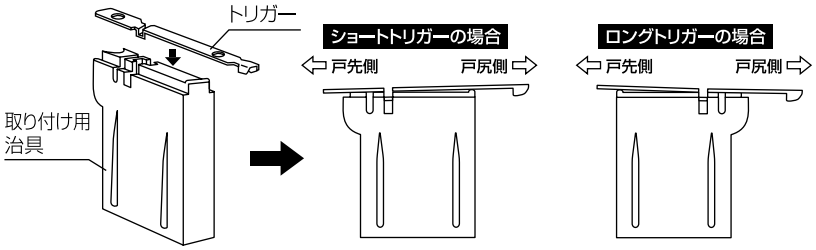
⑥ トリガー・引分ストッパーの取り付け

鴨居レールのトリガー取り付け用の下穴にトリガーを同梱の専用ビスで取り付けます。



（1）トリガー取り付け方向
トリガーには戸先側と戸尻側の向きがあります。右図を参考に戸先側と戸尻側の向きを間違えないように取り付けてください。また、商品寸法により、トリガーのサイズが異なる場合があります。詳しくはソフトクローズ金具に同梱の詳細をご確認ください。

（2）取り付け用治具へのトリガーセット方法
右図を参考にトリガーを取り付け用治具へセットしてください。



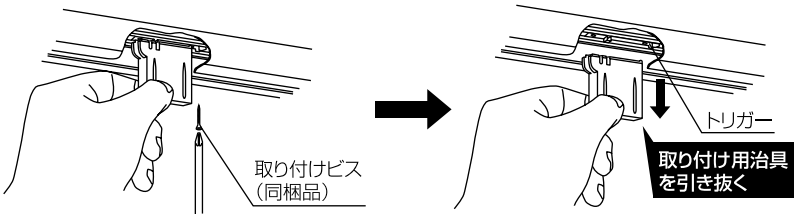
※ショートトリガーとロングトリガーで取り付け用治具の向きが変わります。
※両側ソフトクローズ仕様の場合、上記戸先側と戸尻側が逆になることがあります。

③トリガーの取り付け

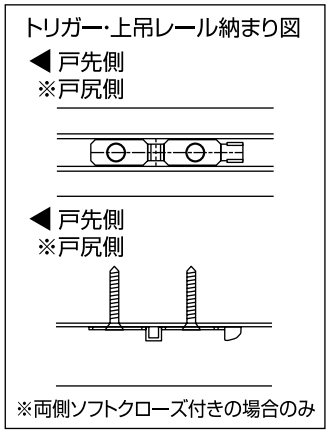
トリガーをセットした取り付け用治具を上吊レール内側のトリガー用穴へ押し当てて同梱の専用ビスを治具ビス穴に通し、トリガーを固定します。

①取り付け用治具を使用しトリガーをレールに取り付ける。

②ビスで固定したら取り付け用治具を引き抜いてトリガーから外す。



固定されたら、取り付け治具を下に引っ張って抜いてください。トリガーの固定は2ヵ所となっています。取り付け用治具を引き抜いた後、もう1ヵ所のビス穴に、同梱の取り付けビスで固定してください。

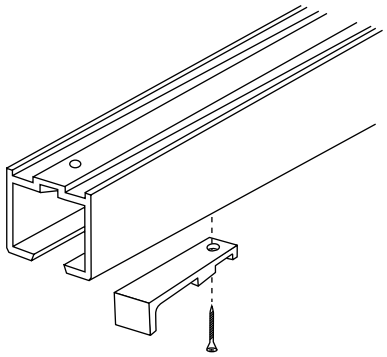


⚠ 注意

トリガーの取り付けは、手回しドライバーにて行ってください。トリガーがしっかりと取り付けされていない場合、もしくは、正規の取り付け位置に取り付けていない場合ソフトクローズ機構の動作不良の原因となります。

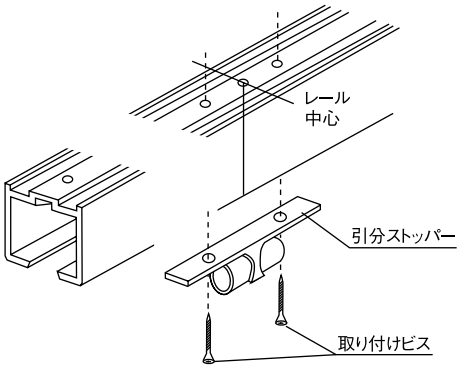
片側ソフトクローズ機構・ソフトクローズ機構なしの場合のみ

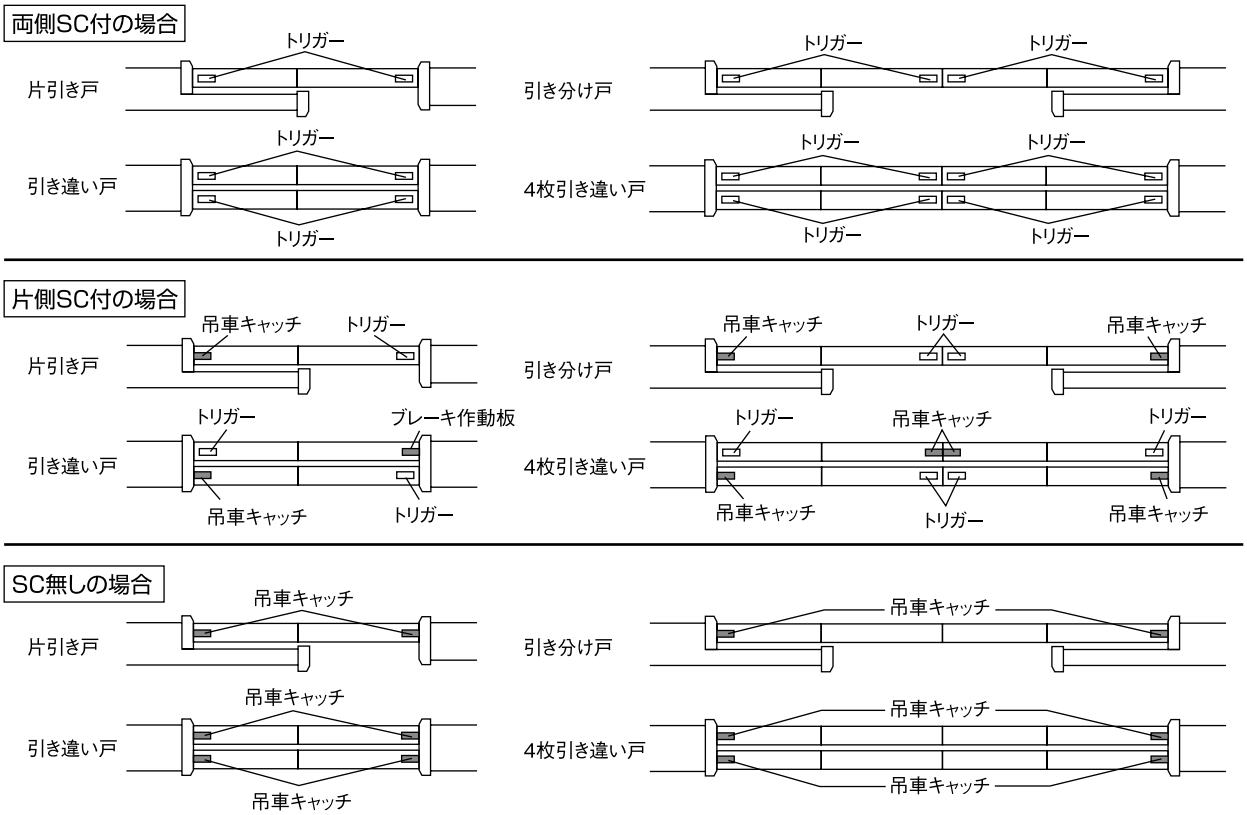
「片側ソフトクローズ機構」の仕様の場合は、ソフトクローズ機構のつかない竪枠側に「ソフトクローズ機構なし」の場合は両竪枠側に吊平キャッチを取りつけてください。



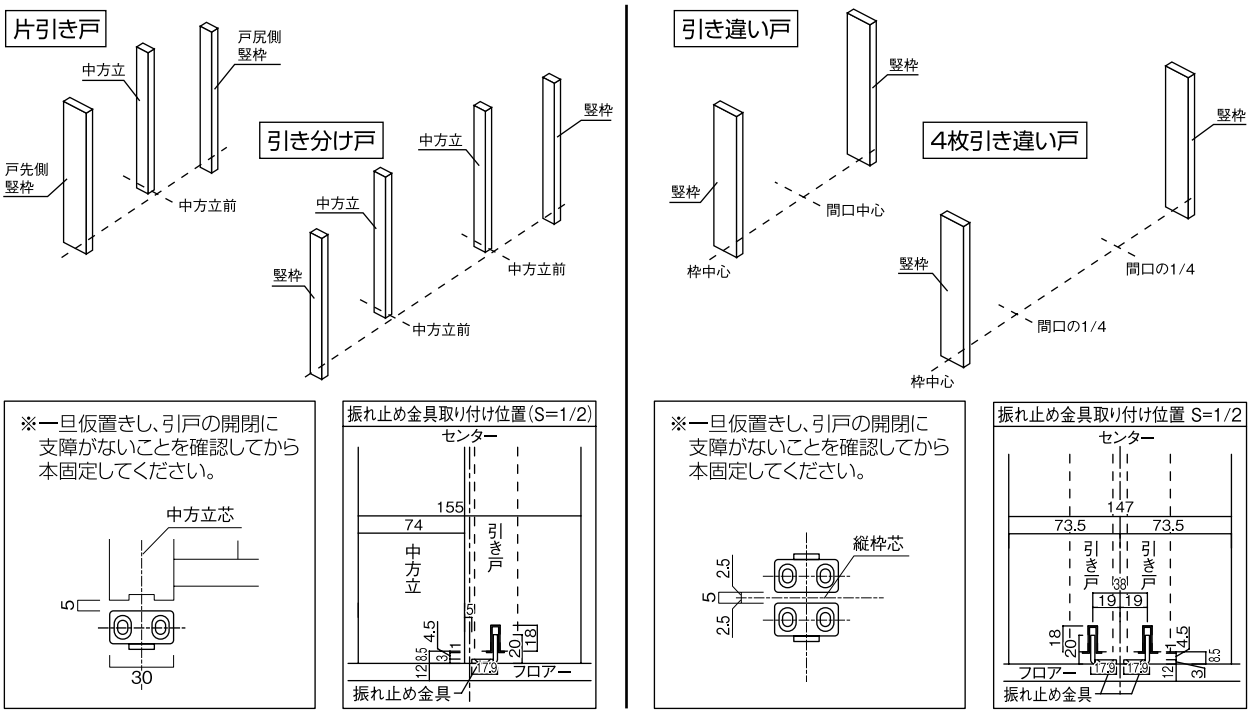
引き分けの場合のみ

4ページの「上吊レールビス穴詳細図」を確認し、ストッパー用穴に引分ストッパーを同梱の取り付けビスで取り付けてください。





⑦ 振れ止め金具の取り付け



施工終了後

養生 当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

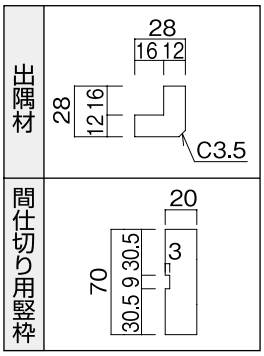
天井ジャストアウトセット引き戸専用枠材

1. 梱包内訳

梱包を開いたら、部材の数量に不足がないか、商品にキズや破損などがないかを確認してください。

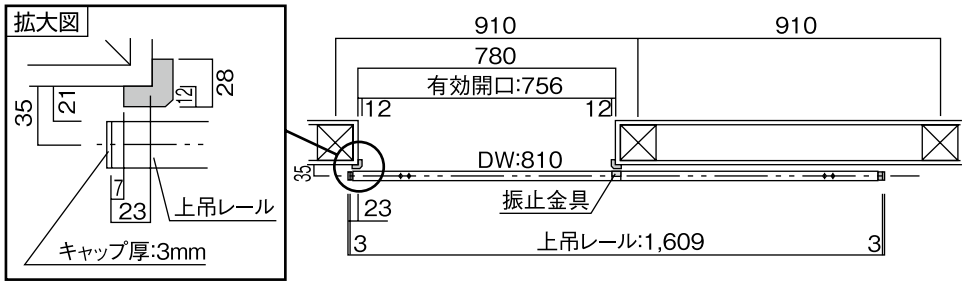
姿図	部材名	数量
	上吊レール	1本
	金具セット ZYJG24	
ZYTF01	吊車	2個
ZYTA02	吊車固定ビス	2個
ZYTL01	ソフトクローザー（ロング用）	2本
ZYTL02	ソフトクローズ用ロングトリガー（ビス2本セット）	2個
	トリガー取付け治具	1個

姿図	部材名	数量
	エンドキャップ（ビス1本セット）	2個
ZY3334	振れ止め金具（ビス2本セット）	1個
	上吊レール固定ビス（黄色の袋）	6個
別売品		
	出隅材	2本
別売品 ※間仕切り錠を使用する場合のみ		
	間仕切り用竪枠	1本
	モヘヤ	1本

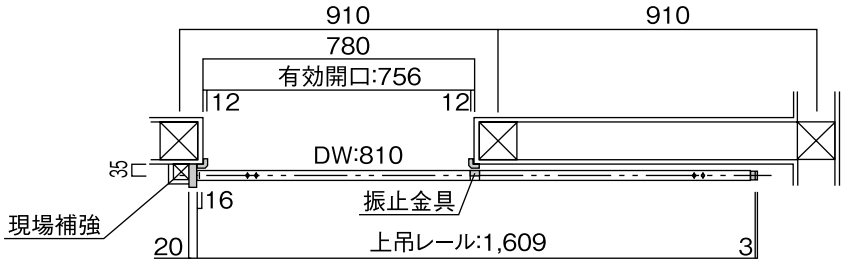


2. 納まり図

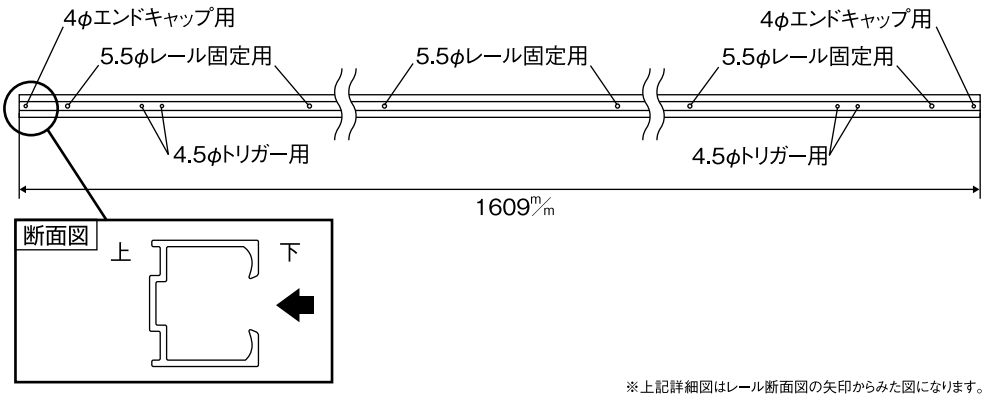
通常枠 納まり図



間仕切り用竪枠 片入隅 納まり図

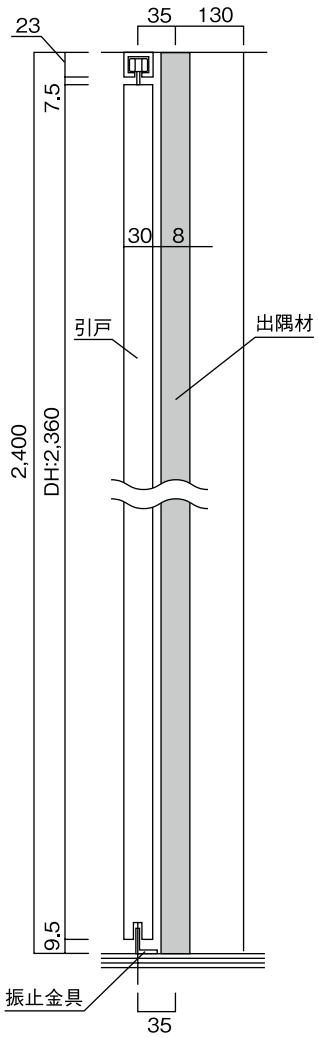


上吊レール ビス穴 詳細図



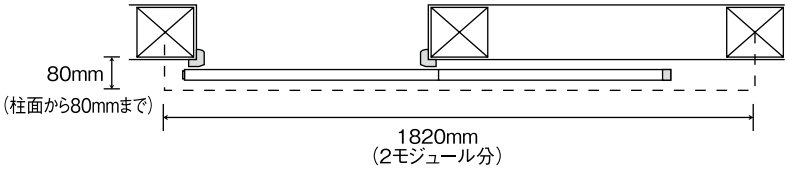
※上記詳細図はレール断面図の矢印からみた図になります。

縦断面図



3. 施工手順

①取り付け位置の下地補強

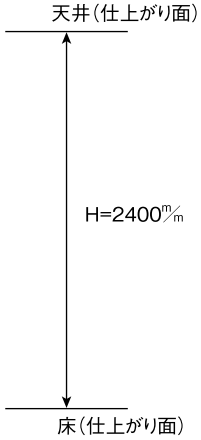


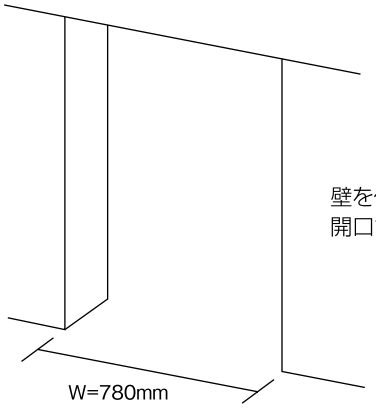
アウトセットの扉を取り付ける位置側の天井裏の補強を行ってください。

⚠ 注意

天井下地の補強が不十分だと、扉・上吊レールが脱落・転倒するおそれがありますので必ず十分な補強をおこなってください。

②間口寸法の確認





壁を仕上げた状態から
開口寸法を確認してください。

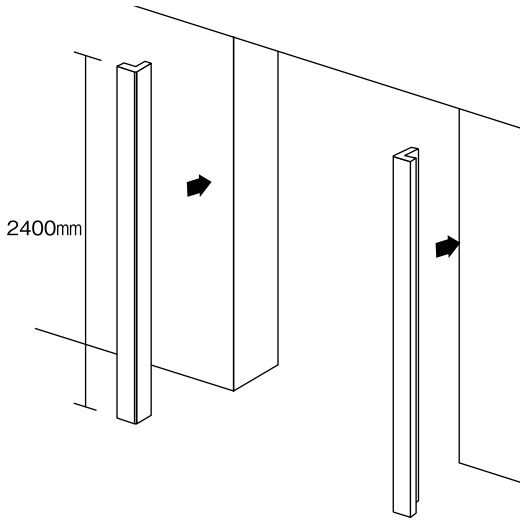
⚠ 注意

扉の高さがH=2360㎜になります。天井高がH=2400㎜になるように仕上げてください。

⚠ 注意

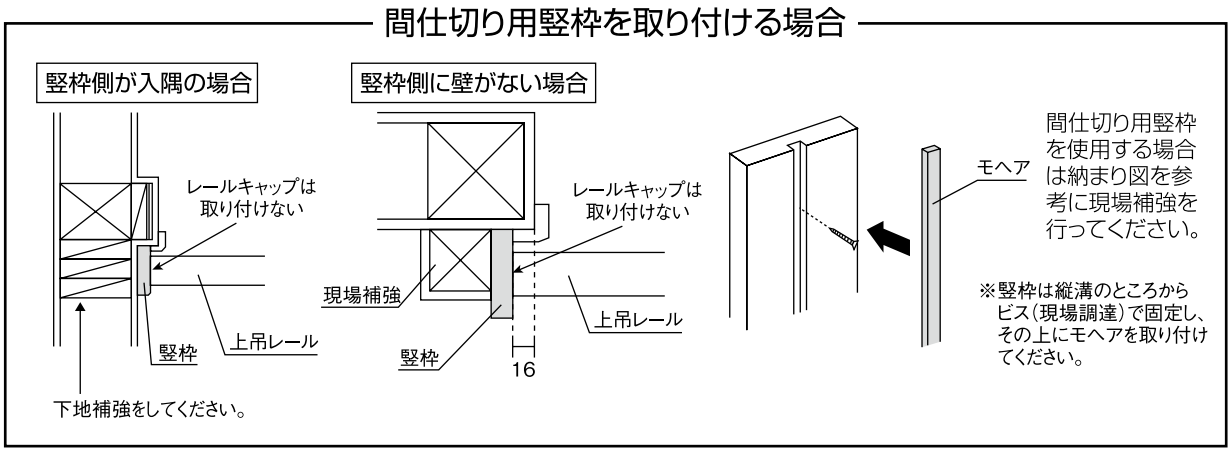
開口寸法（壁が仕上がった状態）がW=780㎜になります。
レール取り付けには2モジュール（W=1820㎜）必要になります。

③出隅材の取り付け



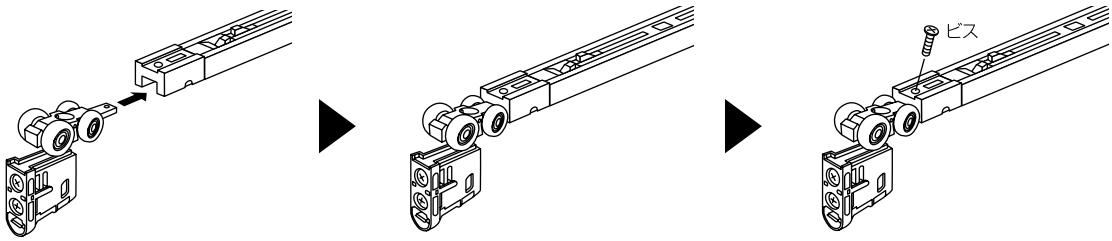
出隅材を開口部のコーナーへ取り付けます。
※出隅材を取り付けるのは、扉が通る側のコーナー部分です。

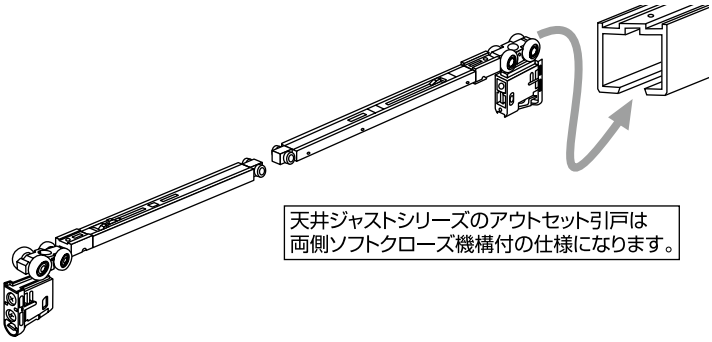
天井ジャストアウトセット引き戸専用枠材



④吊車の挿入

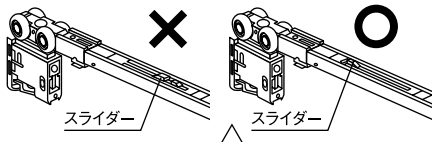
上部吊り車をソフトクローズのスライダー先端の溝にはめ込み専用のビスで取り付けてください。
上吊レールに吊車を挿入してください。吊車は図のように向かい合わせてレールに入れてください。挿入方向を間違えると、扉が取り付かないので注意してください。



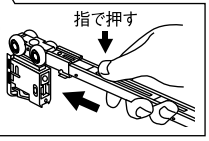


⚠ 注意

挿入前にスライダーの位置を確認してください。



スライダーが正しい位置にない場合
スライダーを指で押してスライドさせ、正しい位置に設置してください。



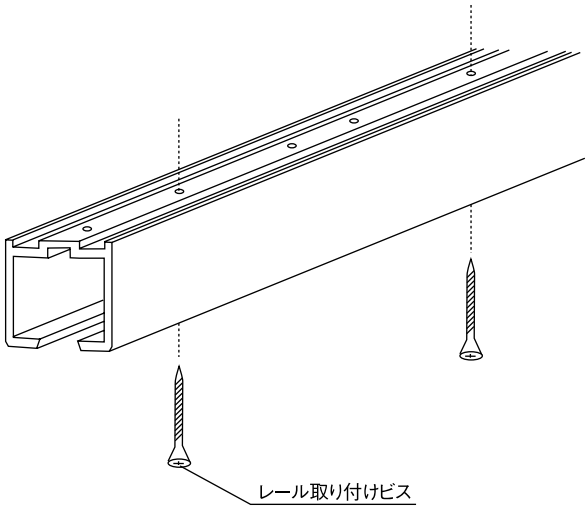
⑤上吊レールの固定

竪枠取り付け後、天井のクロスを仕上げた後に、
上吊レールを天井に取り付けます。

2ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参照し、
5.5φレール固定用のビス穴に同梱の
取り付けビスで6ヵ所確実に固定させてください。
※ビス穴を取り付ける前に下穴をあけておいてください。

⚠ 注意

- レール取り付けビスを打ち込む場所にはビスがきちんと効くように、下地の補強を確実におこなっておいてください。（3P参照）
- 吊車を挿入した状態でレールをかたむけると、吊車が落下してしまうおそれがありますので、レールを取り付ける際は平行にして取り付けてください。
- 木くずやゴミなどが付着しないように注意してください。

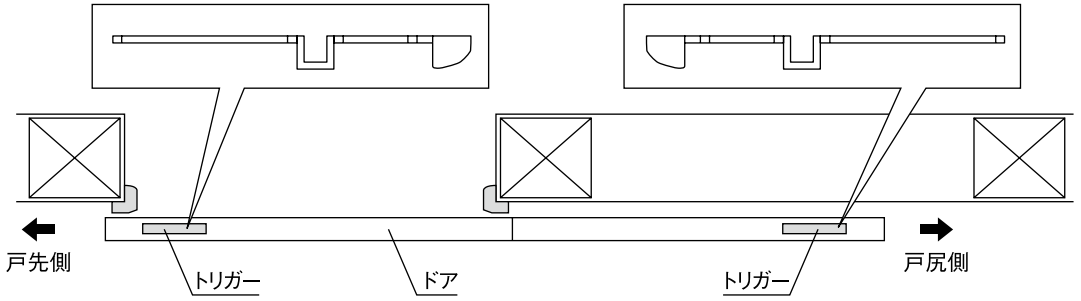


⑥トリガーの取り付け

2ページの「上吊レールビス穴詳細図」を参考に、4.5φトリガー用のビス穴にトリガーを同梱のビスで取り付けます。
※ビスを取り付ける前に取り付ける位置に下穴をあけておいてください。

トリガー取り付け位置と取り付け方向

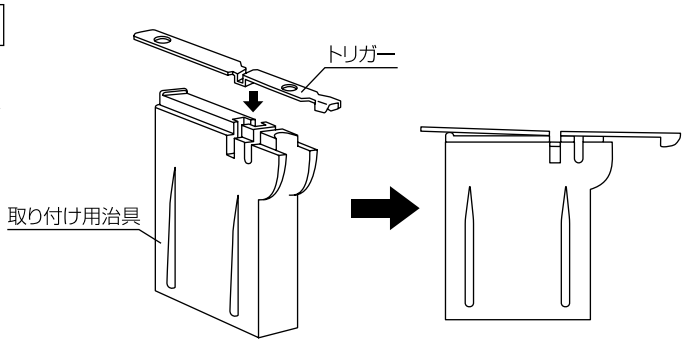
※右引きの場合



上吊りレールのトリガー取り付け用ビス下穴は、25mmの間隔でレール両端付近にあります。

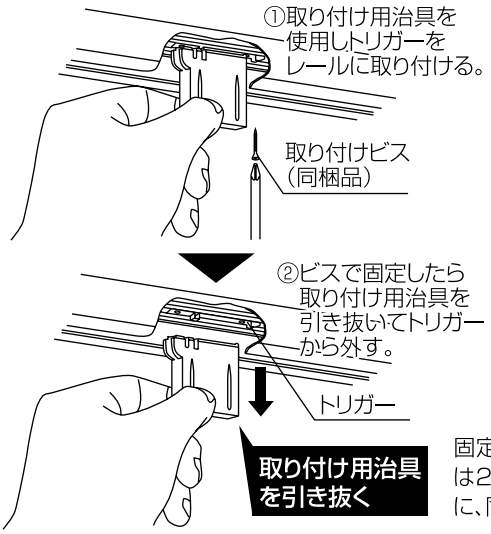
③取り付け用治具とトリガーセットの確認

本品は出荷時、トリガーと取り付け用治具がセットされている状態ですが、外れている場合は図のようにトリガーを取り付け用治具へセットしてください。

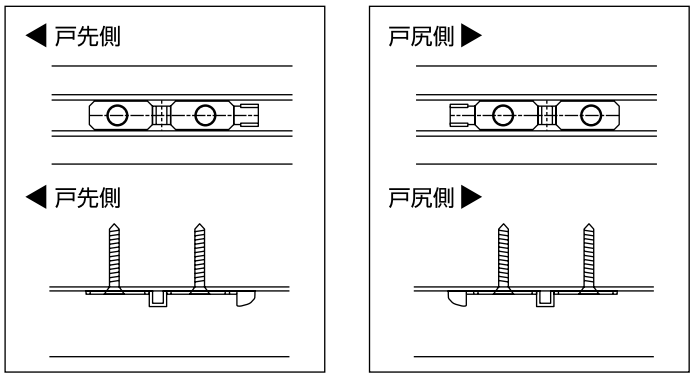


④トリガーの取り付け

トリガーをセットした取り付け用治具を上吊レール内側のトリガー用ビス穴へ押し当てて同梱の専用ビスを治具ビス穴に通し、トリガーを固定します。



トリガー・上吊レール納まり図　（右引きの場合）



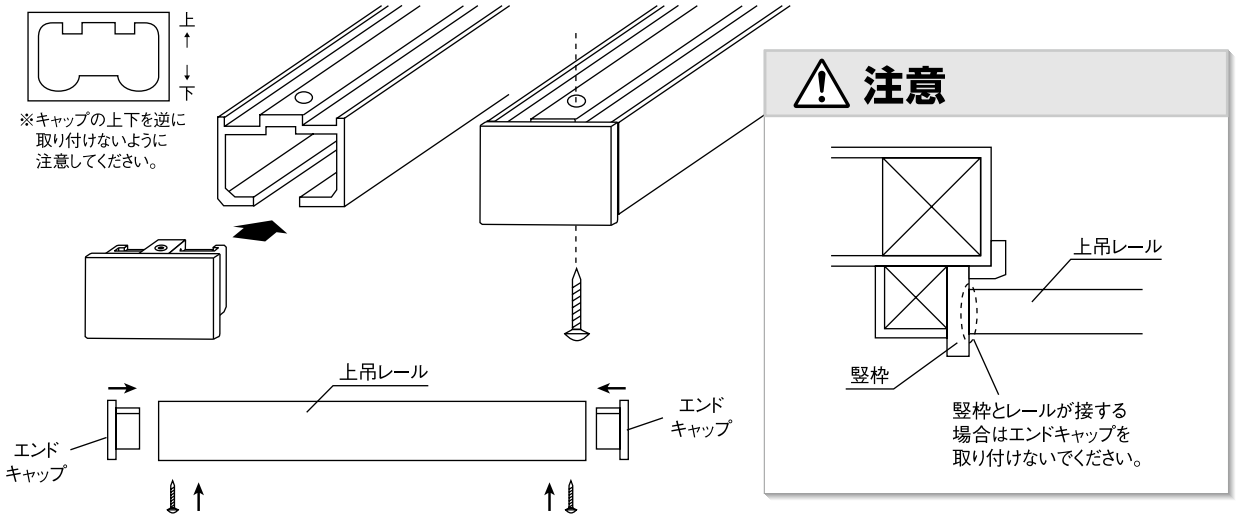
固定されたら、取り付け治具を下に引っ張って抜いてください。トリガーの固定は2ヵ所となっています。取り付け用治具を引き抜いた後、もう1ヵ所のビス穴に、同梱の取り付けビスで固定してください。

⚠ 注意

トリガーの取り付けは、手回しドライバーにて行ってください。トリガーがしっかりと取り付けされていない場合、ソフトクローズ機構の動作不良の原因となります。

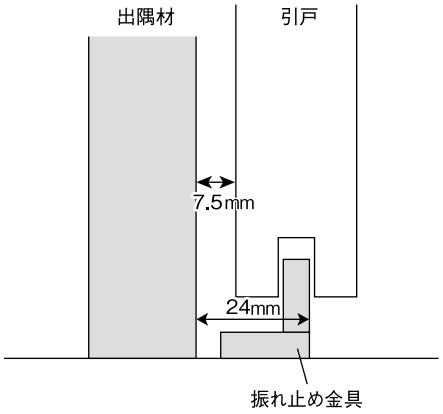
天井ジャストアウトセット引き戸専用枠材

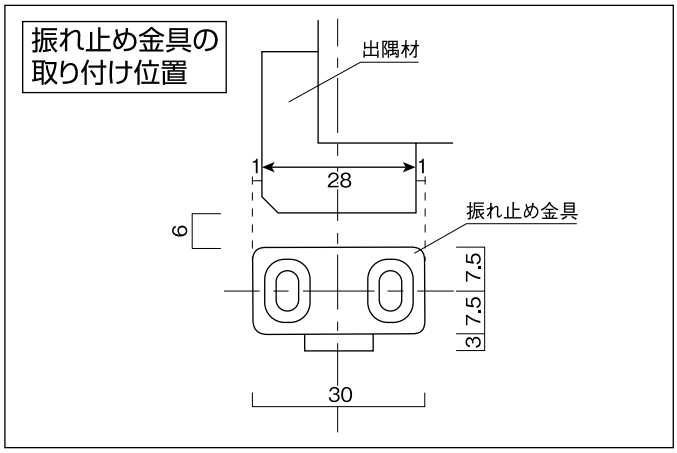
⑦エンドキャップの取り付け

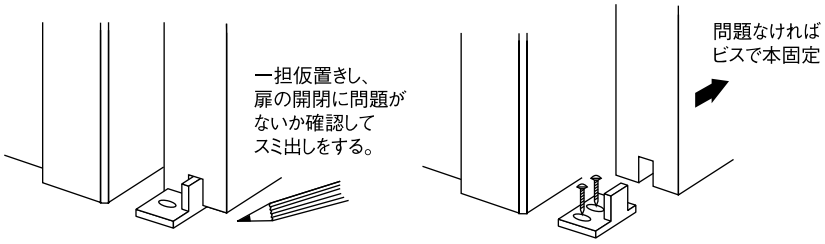


上吊レールの両サイドにエンドキャップを取り付け、同梱のビスで固定してください。

⑧振れ止め金具の取り付け







取り付け寸法を参考に振れ止め金具の取り付け位置を決めてください。
本固定する前に一担仮置きし、吊った扉が問題なく作動することを確認してから、同梱の取り付けビスで本固定させてください。

施工終了後

養生

当て傷·擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどの溶剤を使用すると変色·変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャストクローゼットドア専用枠材

1. 開梱

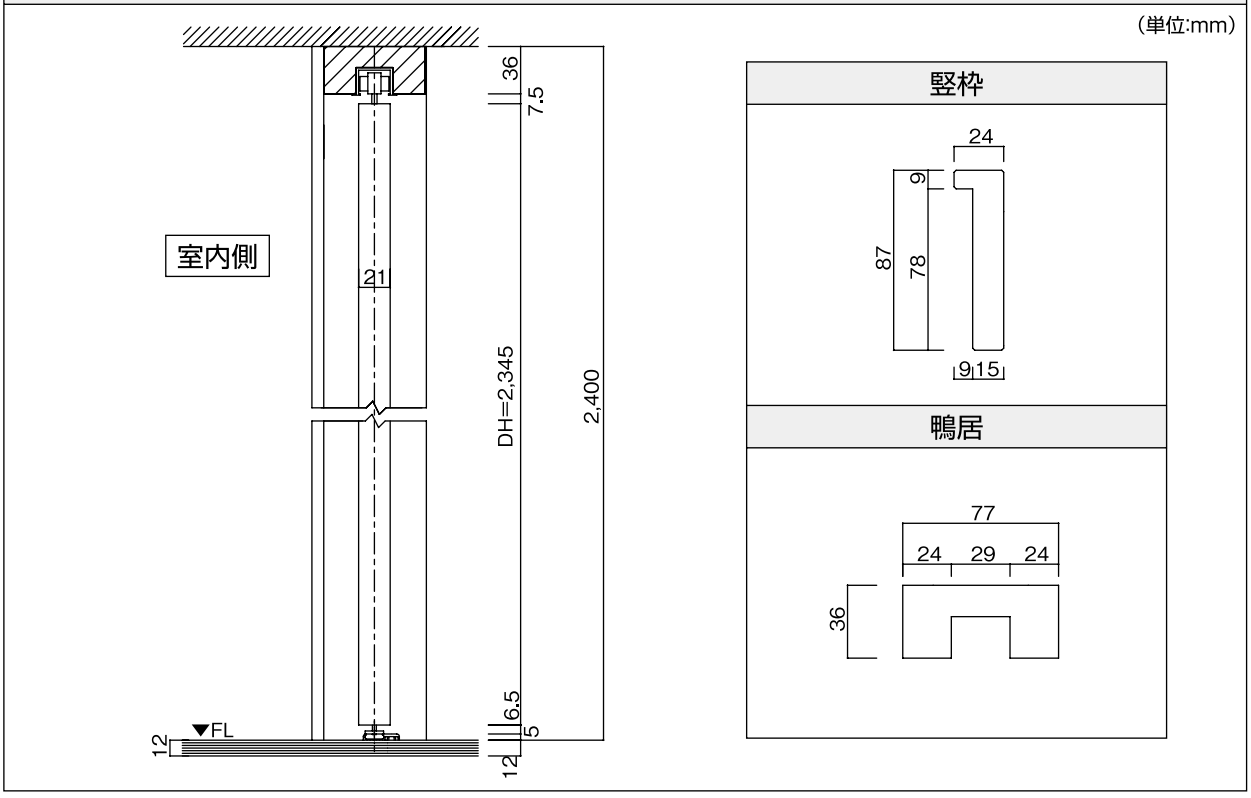
梱包内訳表

	枠材		レール		上下ランナー		金具	
	竪枠	鴨居	上レール	下レール	上ランナー	下ランナー	上固定ストッパー	下固定ストッパー
3尺	2本	1本	1本	1本	2個	2個	1個	1個
4.5尺					4個	4個	2個	2個
6尺								
9尺					6個	6個		

	その他	ビス			
	化粧キャップ	上レール用ナベビス	下レール用サラビス	鴨居組み立てビス	竪枠取り付けビス
3尺	8個	3本	3本	4本	8本
4.5尺		4本	4本		
6尺		5本	5本		
9尺		7本	7本	6本	

2. 納まり図

縦断面図



天井ジャストクローゼットドア専用枠材

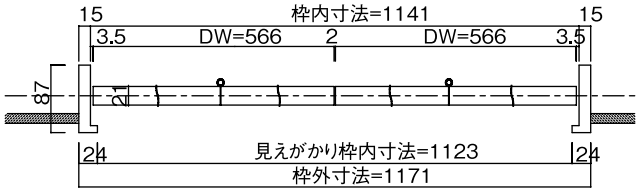
横断面図

W=3尺

（単位:mm）

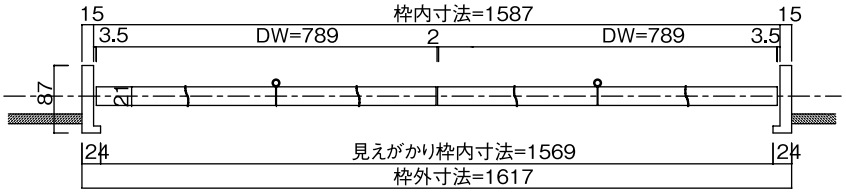
W=4.5尺

（単位:mm）



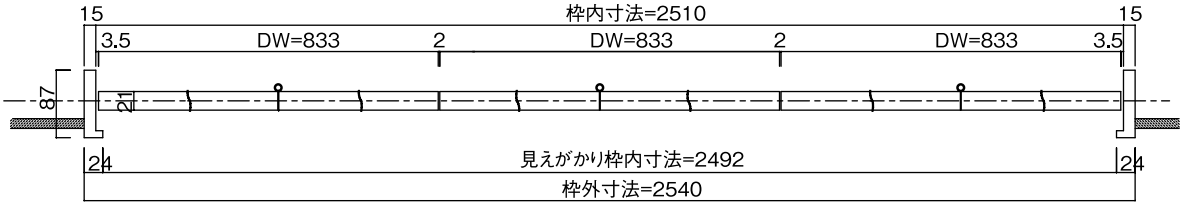
W=6尺

（単位:mm）



W=9尺

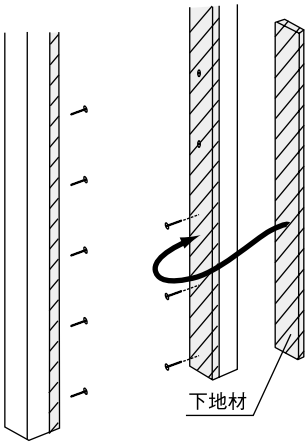
（単位:mm）



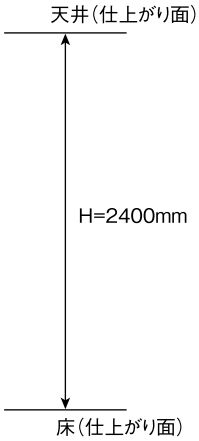
3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認

●取り付け開口部の確認



納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った開口を設けてください。



⚠ 注意

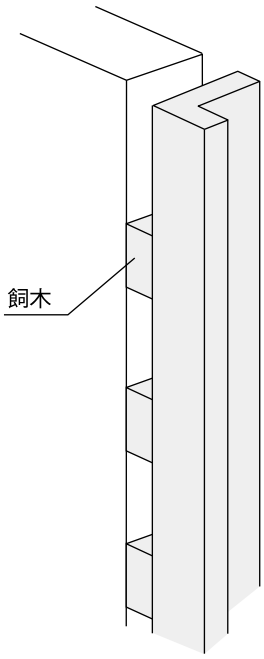
天井高がH=2400mmになるように仕上げてください。

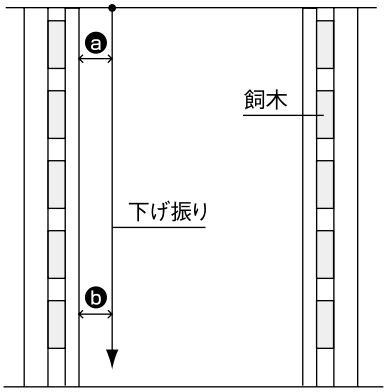
⚠ 注意

天井下地の補強が不十分だと、扉・上吊レールが脱落・転倒するおそれがありますので必ず十分な補強をおこなってください。
※LV野縁システムを推奨します。

② 竪枠の仮固定と建て付け調整

開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、ネジレを調整し、仮固定します。





- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。

竪枠、鴨居の固定用ビス下穴の背面に飼木を取り付けてください。

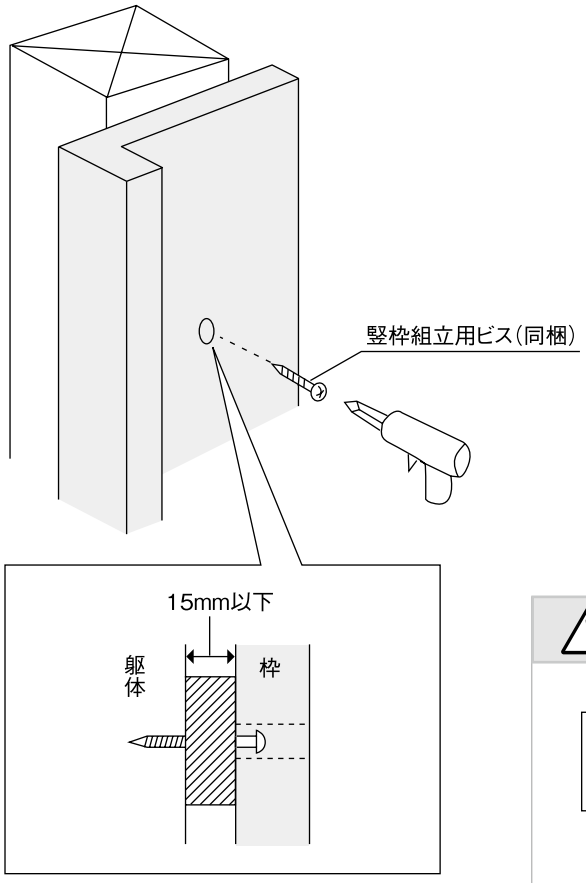
⚠ 注意

飼木の厚みは最大でも15mm以下にしてください。

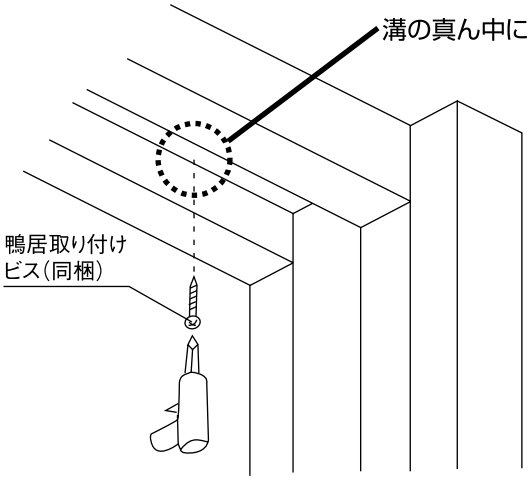
天井ジャストクローゼットドア専用枠材

③ 鴨居・竪枠の本固定

竪枠を竪枠組み立て用ビスで躯体に固定させます。

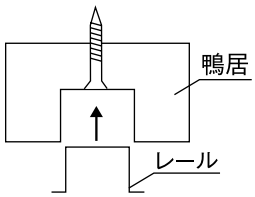


鴨居を図のように鴨居取り付けビスで固定します。



レールを取り付ける前に必ず鴨居本体を躯体に固定させてください。

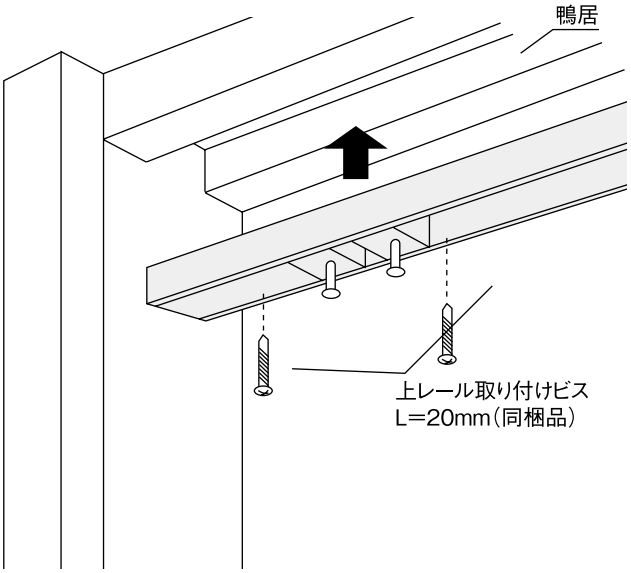
⚠ 注意



鴨居取り付けビスは確実にビス頭を打ち込んでください。確実に打ち込まれていない場合、レールがきちんと取り付かず、扉の開閉に支障をきたすおそれがあります。

④ 上レールの取り付け

上レール取り付けの際、鴨居に直径2mmのキリで深さ10mm程度の下穴をあけ、付属のビスを使用して取り付けます。



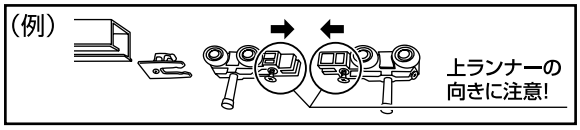
⚠ 注意

禁止

インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

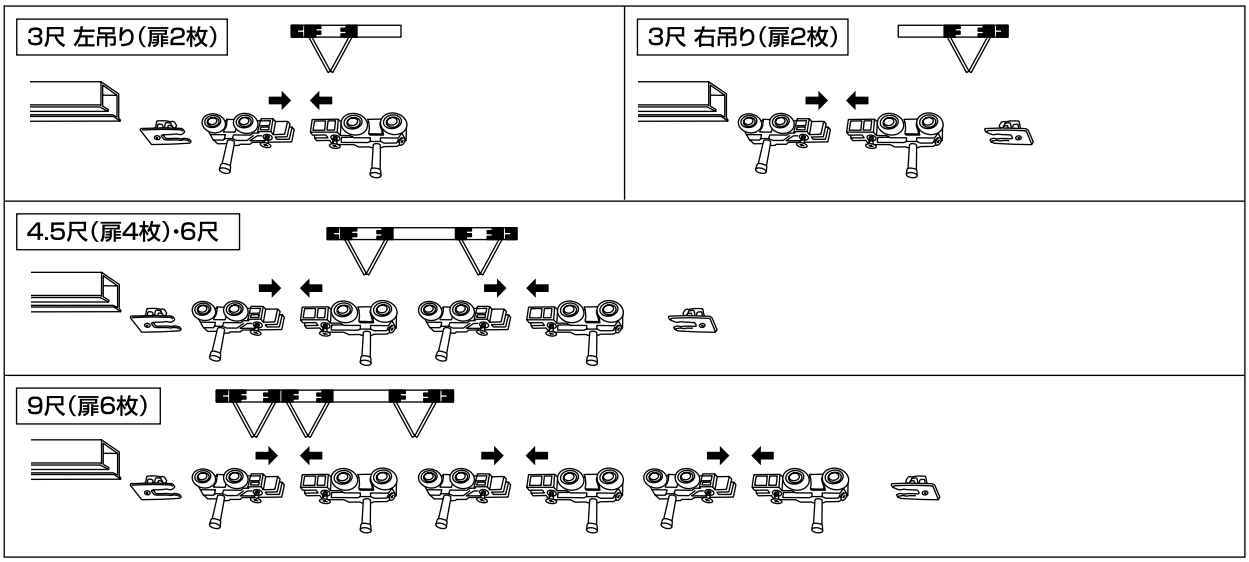


⚠ 注意

必ずおこなう

上固定ストッパーを確実に固定してください。

固定されてないままや、逆向きに挿入した状態で
扉を取り付けた場合、ストッパーが破損するおそれがあります。



⑤ 床直付けレールの取り付け

床直付けレールの取り付け

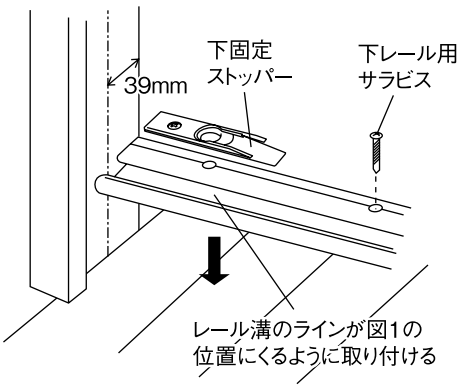
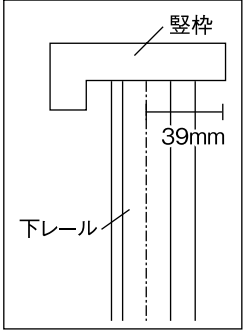


図1（上から見た図）

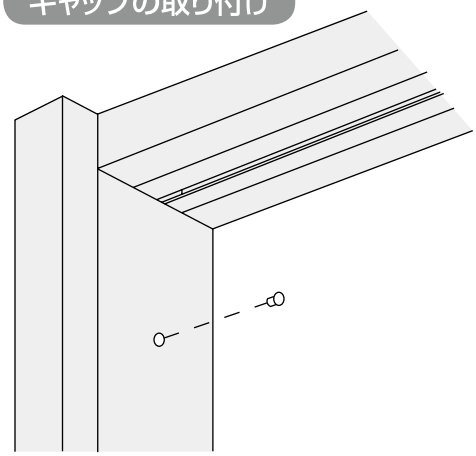


竪枠の収納内部側から39mm入った位置に
レール溝の中心を合わせるように取り付けてください。
※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーを
レールの上から動かないようにしっかり固定します。

⑥ キャップの取り付け

キャップの取り付け



竪枠のビス穴に付属の化粧キャップを
差し込みます。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

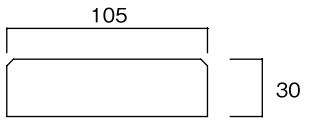
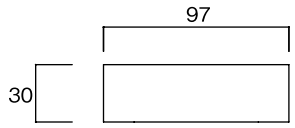
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

天井ジャスト収納両開き戸専用枠材

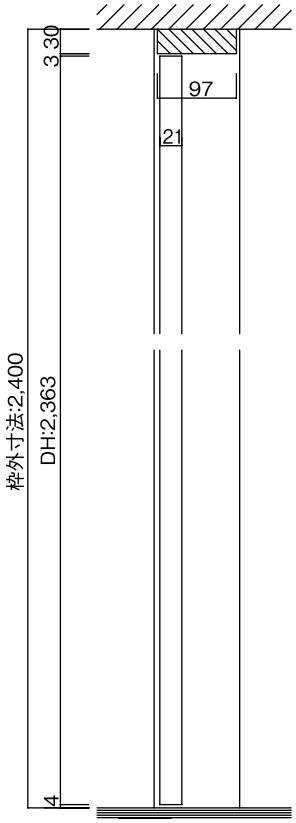
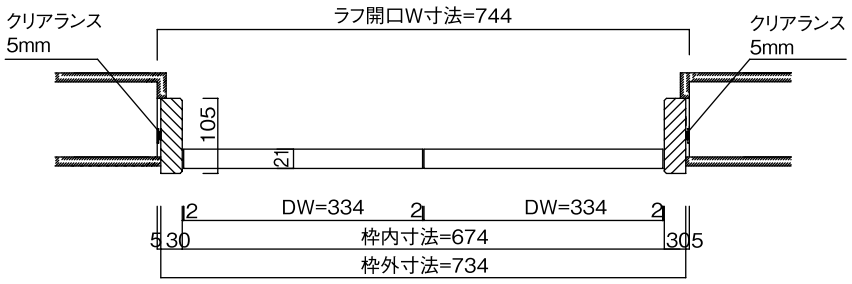
1. 開梱

梱包内訳表

部材名	竪枠	鴨居	鴨居取り付けビス	化粧キャップ
数量	2本	1本	2本	2個

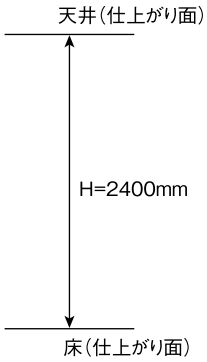
竪枠	鴨居
	

2. 納まり図

縦断面図	横断面図
	

3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認

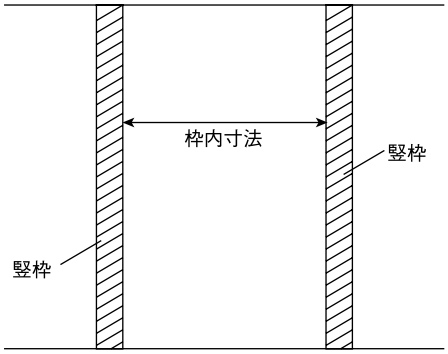


⚠ 注意

扉の高さがH=2363mmになります。天井高がH=2400mmになるように仕上げてください。

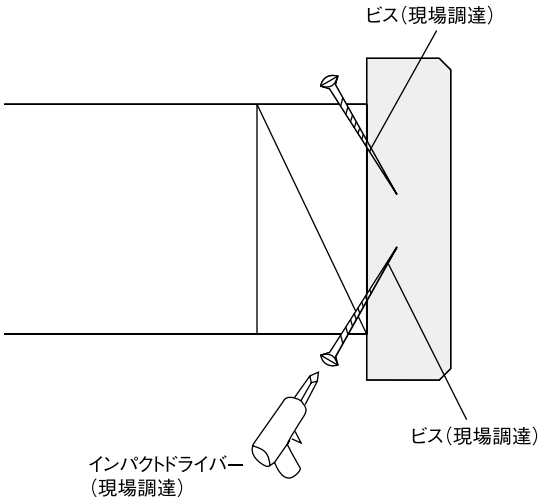
⚠ 注意

竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると扉が納まらない可能性があります。



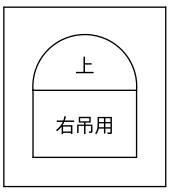
② 竪枠の固定

枠材を躯体側から固定します。



⚠ 注意

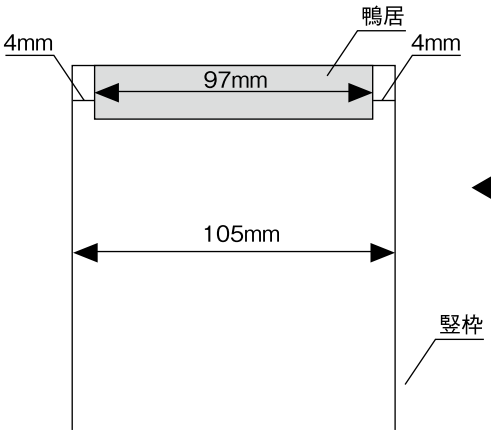
竪枠には上下･左右があります。向きを間違って取り付けると扉が取り付きません。竪枠に貼ってある識別シールをご確認ください。



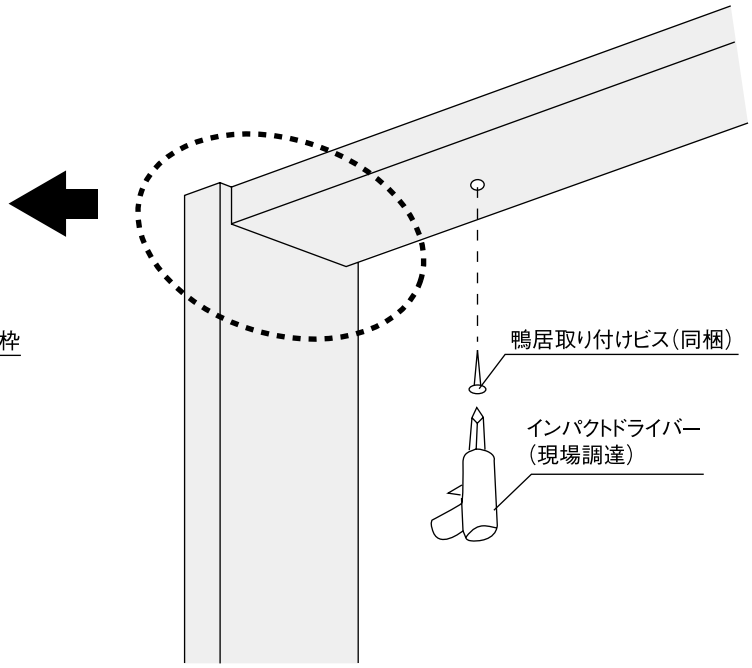
※右吊用の
枠の場合

天井ジャスト収納両開き戸専用枠材

③ 鴨居の取り付け

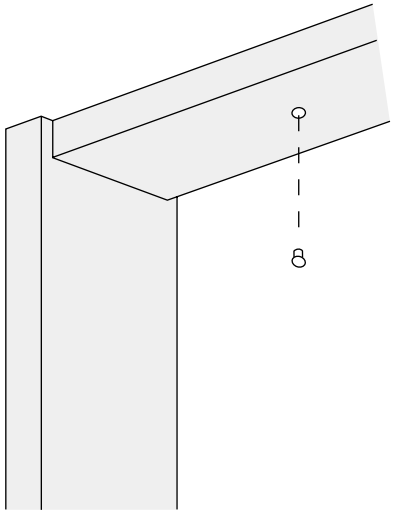


鴨居は竪枠の前後に4mmづつのチリを設けて取り付けてください。



鴨居のビス取り付け穴（加工済）から同梱の鴨居取り付けビスで固定してください。

④ キャップの取り付け



鴨居のビス穴に、付属のキャップを差し込みます。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

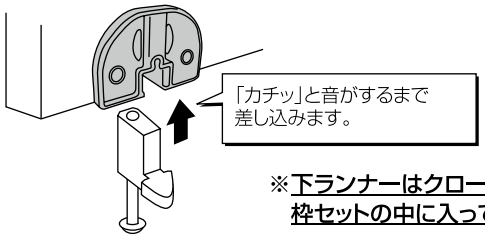
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼットドア

1. 扉の取り付け・取り外し 置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

扉の取り付け

下ランナーをクローゼット扉下端の固定カップに取り付けます。 置敷居 レール埋込 床直付レール



※下ランナーはクローゼット枠セットの中に入っています。

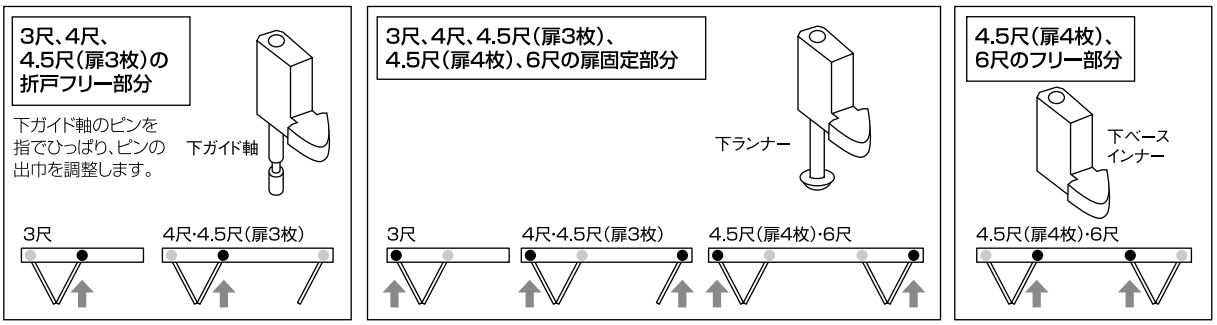
⚠ 注意

必ずおこなう

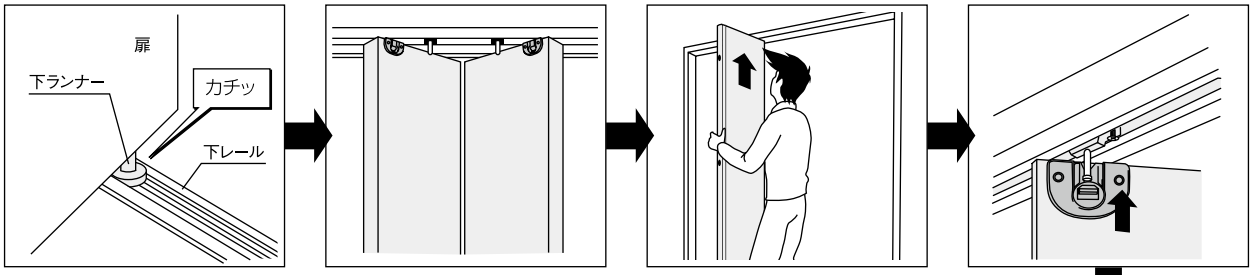
確実に取り付けてください。

確実に取り付けていないと、扉がはずれるおそれがあります。

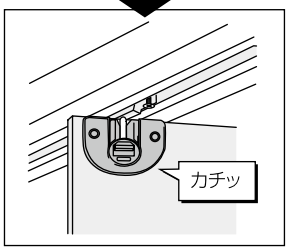
3方枠（レール無し）の場合、下ランナー、下ベースインナー、下ガイド軸を下記位置に取り付ける。 レール無し



下ランナーをレールの溝に入れ、上ランナーをクローゼット扉を折り曲げて固定カップで挟み込むようにします。
扉を持ち上げて上ランナーのシャフト部分に扉裏のカップが「カチッ」と音がするまで差し込みます。



※下ランナーを下レールの溝に落し込む　※上ランナーのシャフトを扉ではさむ　※はさんだ状態で上部ストッパーをはずす



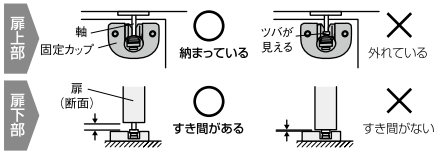
※「カチッ」と音がするまで押し込む

⚠ 注意

必ずおこなう

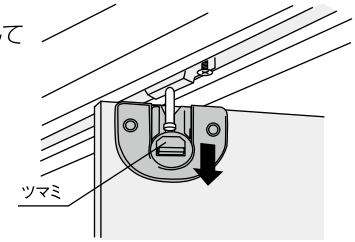
確実に取り付けてください。

確実に取り付けていないと、扉がはずれ、脱落のおそれがあります。



扉の取り外し

赤いツマミを下にズラして
ピンをはずします。



⚠ 注意

必ずおこなう

扉の下端に養生材を敷いて作業する。

急に扉がはずれることがあります。

クローゼットドア

2. 扉の固定

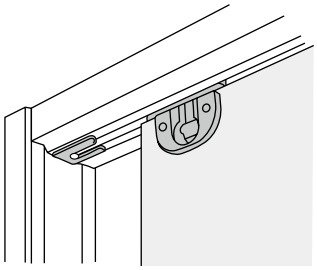
置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

必要に応じて扉の固定を行ってください。

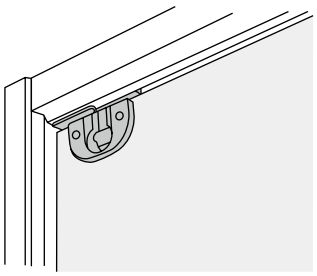
扉を固定する場合

置敷居 レール埋込 床直付レール

固定する扉1枚を伸ばした状態で上固定ストッパー、下固定ストッパーに固定する。
※この状態だと必要に応じてフリーオープンにもできます。



クローゼット上部
フリーで動いている場合



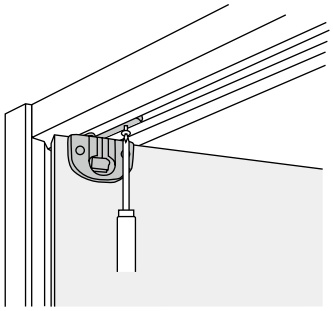
クローゼット上部
固定されている場合

※完全に固定されていないので扉をひっぱると左のフリーの状態になります。

フリーオープンにする場合は
先に上固定ストッパーの方から
取り外してください。

扉を完全に固定する場合

上ランナーに付いている固定ビスを締めて固定する。



クローゼット上部
完全に固定して使用する場合
上ランナーに付いている固定ビスを締め込みます。

⚠ 注意

必ずおこなう

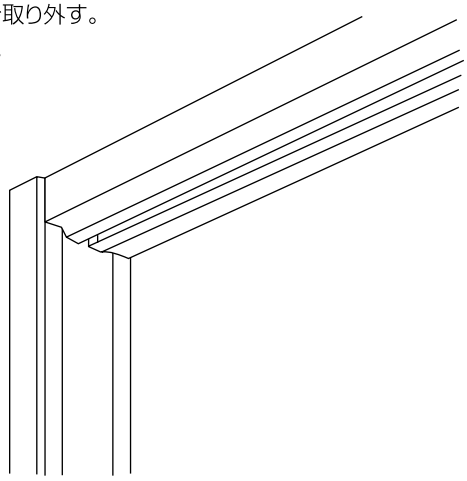
3方枠（レール無し）の場合は必ず軸固定側の固定ビスを締め付けてください。

確実に固定しないと扉が不安定になりケガをするおそれがあります。

扉を完全にフリーオープンの状態にする場合

置敷居 レール埋込 床直付レール

上固定ストッパーと下固定ストッパーを取り外す。
※後で再度取り付けることもできます。

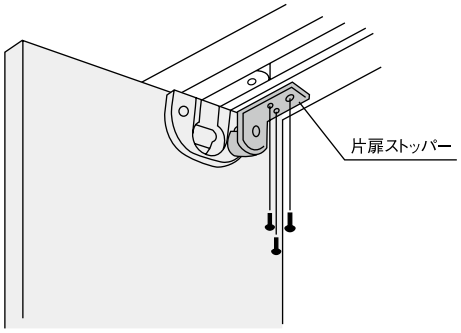


3. 金具の取り付け

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

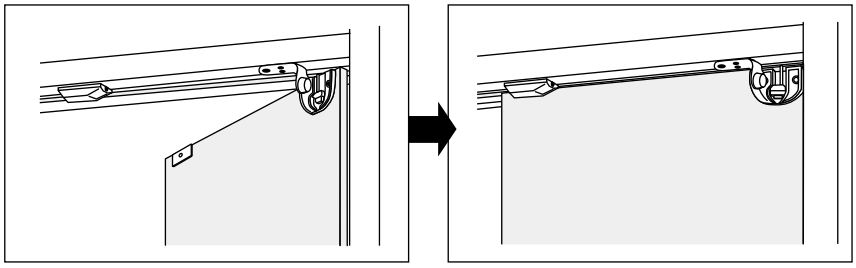
ドアストッパーとマグネットの取り付け ※4尺・4.5尺（扉3枚）のみ

片扉の角度に合せて上レールの後ろ側に
片扉ストッパーを取り付けます。



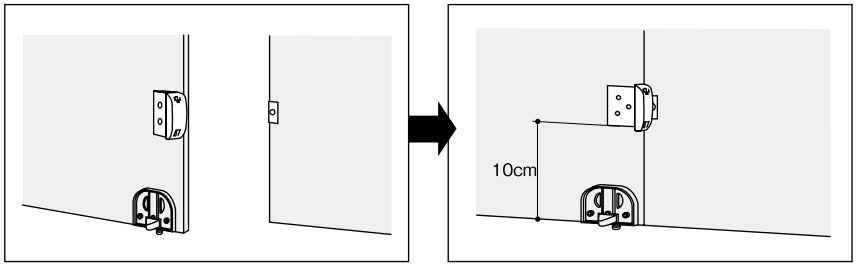
片扉マグネットを上レールと扉本体の2ヵ所に取り付けます。
※上レール用と扉取り付け用の2タイプありますのでご注意ください。（形状が異なります）

上レール用



枠側には「片扉マグネット上」を
レール内に取り付けます。

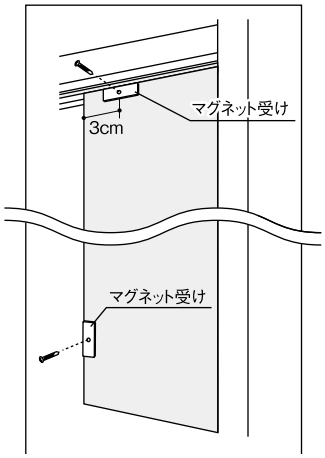
扉取り付け用 ※3方枠（レール無し）タイプには「片扉マグネット下」は取り付けません。



片扉には「片扉マグネット下」を
折戸裏に取り付けます。
片扉裏にマグネットが付いて
固定されます。

※マグネットは扉と
平行に取り付けてください。

片扉裏側



⚠ 注意

必ずおこなう

プレートからビスが飛び出ていないか確認してください。

プレートからビスが出ていると、マグネットがきかないおそれがあります。

**プレートを取り付ける際は、2mmのキリで下穴を
開けてから取り付けてください。**

※片扉マグネット下の受けはマグネットの
高さに合わせて取り付けてください。

クローゼットドア

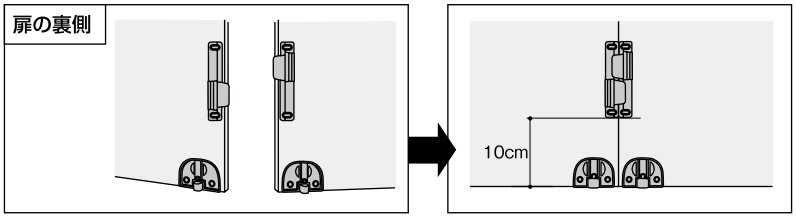
4. 扉の高さ調整

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

めし合せの取り付け ※4.5尺（扉4枚）、6尺のみ

レール無し

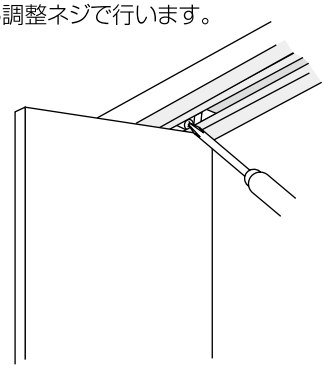
6尺の場合、折れ戸どおしが閉じた際には扉裏のめし合わせで固定されます。



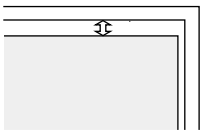
※めし合わせは扉と平行に取り付けてください。

扉の高さ調整

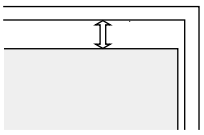
扉の調整は表側から上ランナーに付いている調整ネジで行います。



ドライバーを右にまわすと扉が上がり隙間が埋まります。



ドライバーを左にまわすと扉が下がり隙間が広がります。



⚠ 注意

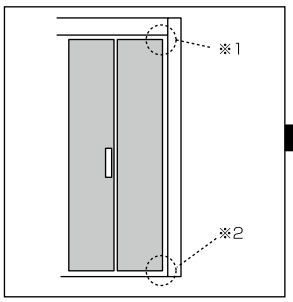
禁止

ドライバーで無理にビス穴をまわさないでください。

ビス頭の山がつぶれ調整ができなくなるおそれがあります。

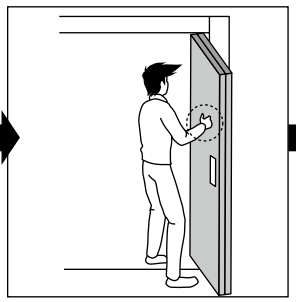
クローゼット扉 軸固定解除方法

①クローゼット扉が軸固定されている状態



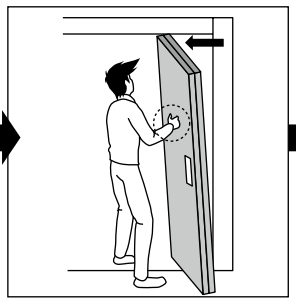
上ランナー（吊車）は、上固定ストッパーにハサミ込まれています。※1
下ランナー（ピボット）は、下固定ストッパーの穴に落し込んでいます。※2

②クローゼット扉の取っ手より上側の側面を持つ



折りたたんだ状態の方がはずしやすくなります。

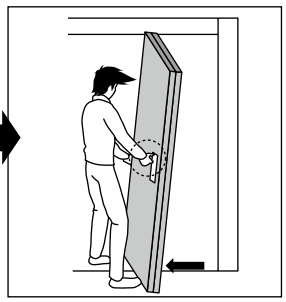
③上固定ストッパーの固定を外す



下固定ストッパーから外そうとすると、ストッパーがズレてしまうことがあります。

上固定ストッパーの方が、下固定ストッパーよりも簡単に外れます

④下固定ストッパーの固定を外す



必ず上固定ストッパーが外れていることを確認してください。

上固定ストッパーが外れていると、下固定ストッパーから簡単に外れます。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼットドア専用枠材

1. 開梱

梱包内容表

	部材名		敷居直置き・レール埋め込み						床直付けレール						レール無し			
			3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	4.5尺（扉3枚）	6尺
	枠材	竪枠	2本						2本						2本			
	枠材	鴨居	1本						1本						1本			
	レール	上レール	1本						1本						1本			
	レール	下レール（埋込み用）	1本															
	レール	レール下地ベース	1本															
	レール	床直付けレール							1本									
	上下ランナー	上ランナー	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個
	上下ランナー	下ランナー	2個	3個		4個	6個	8個	2個	3個		4個	6個	8個	1個	2個		
	上下ランナー	下ベースインナー																2個
	上下ランナー	下ガイド軸													1個			
	キャッチャー	上固定ストッパー	1個	2個					1個	2個					1個	2個		
	キャッチャー	下固定ストッパー	1個	2個					1個	2個								
	キャッチャー	下固定ストッパーNR													1個	2個		
	キャッチャー	下ガイド受け													1個			
	片扉用金具	片扉マグネット上（レール付）		1個						1個						1個		
	片扉用金具	片扉マグネット下（扉付）		1個						1個								
	片扉用金具	片扉ストッパー		1個						1個						1個		
	その他	めし合せ																1セット
	その他	木ダボ	4本						4本						4本			
	その他	ミニレンチ	1本						1本						1本			
	その他	躯体接合金具キャップ	8個						8個						8個			
	ビス	上レール用ナベビス	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本
	ビス	下レール用サラビス	3本	4本		5本	7本	9本	3本	4本		5本	7本	9本				
	ビス	組立て専用ビス	6本						2本						2本			
	ビス	敷居ベース用ビス	2本															
	ビス	躯体接合金具ビス	9本			10本	12本	14本	9本			10本	12本	14本	9本			10本

※片扉用金具・めし合せは扉本体に取り付けます。扉を取り付けるまで大切に保管しておいてください。

クローゼットドア専用枠材

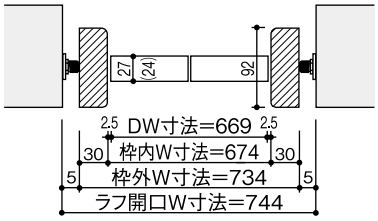
2. 納まり図

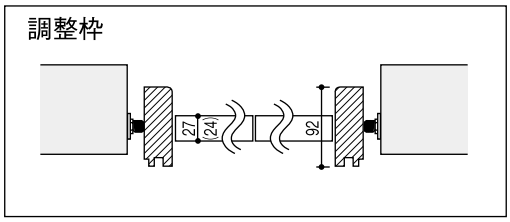
枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

横断面図

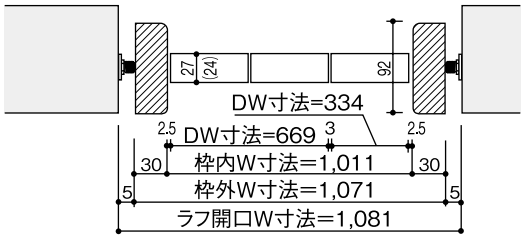
（単位:mm）

（W=3尺）

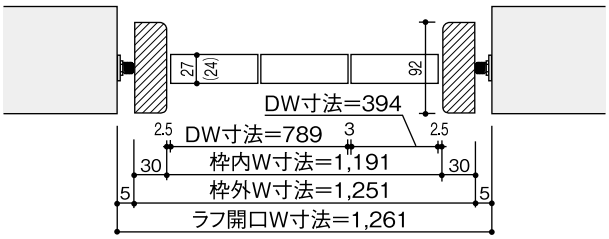




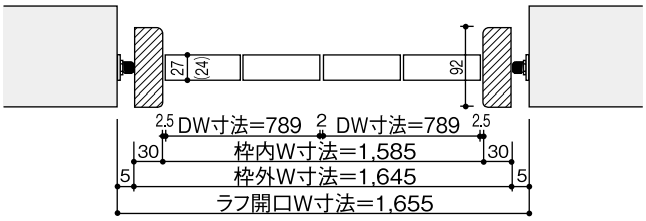
（W=4尺）



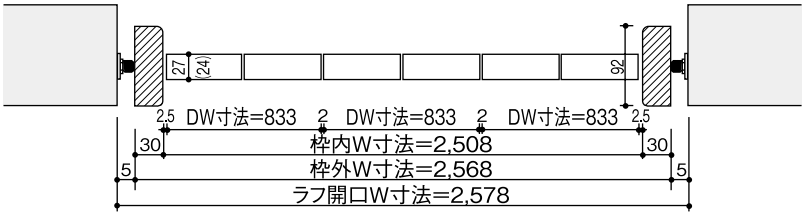
（W=4.5尺）



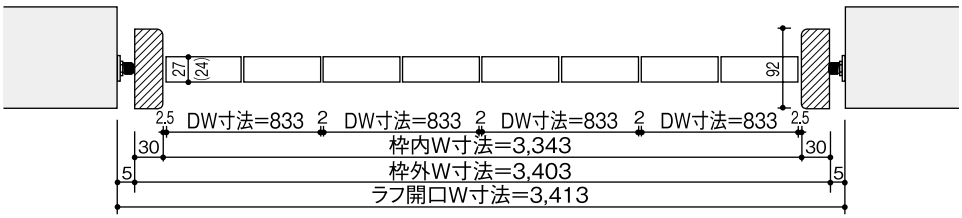
（W=6尺）



（W=9尺）



（W=12尺）



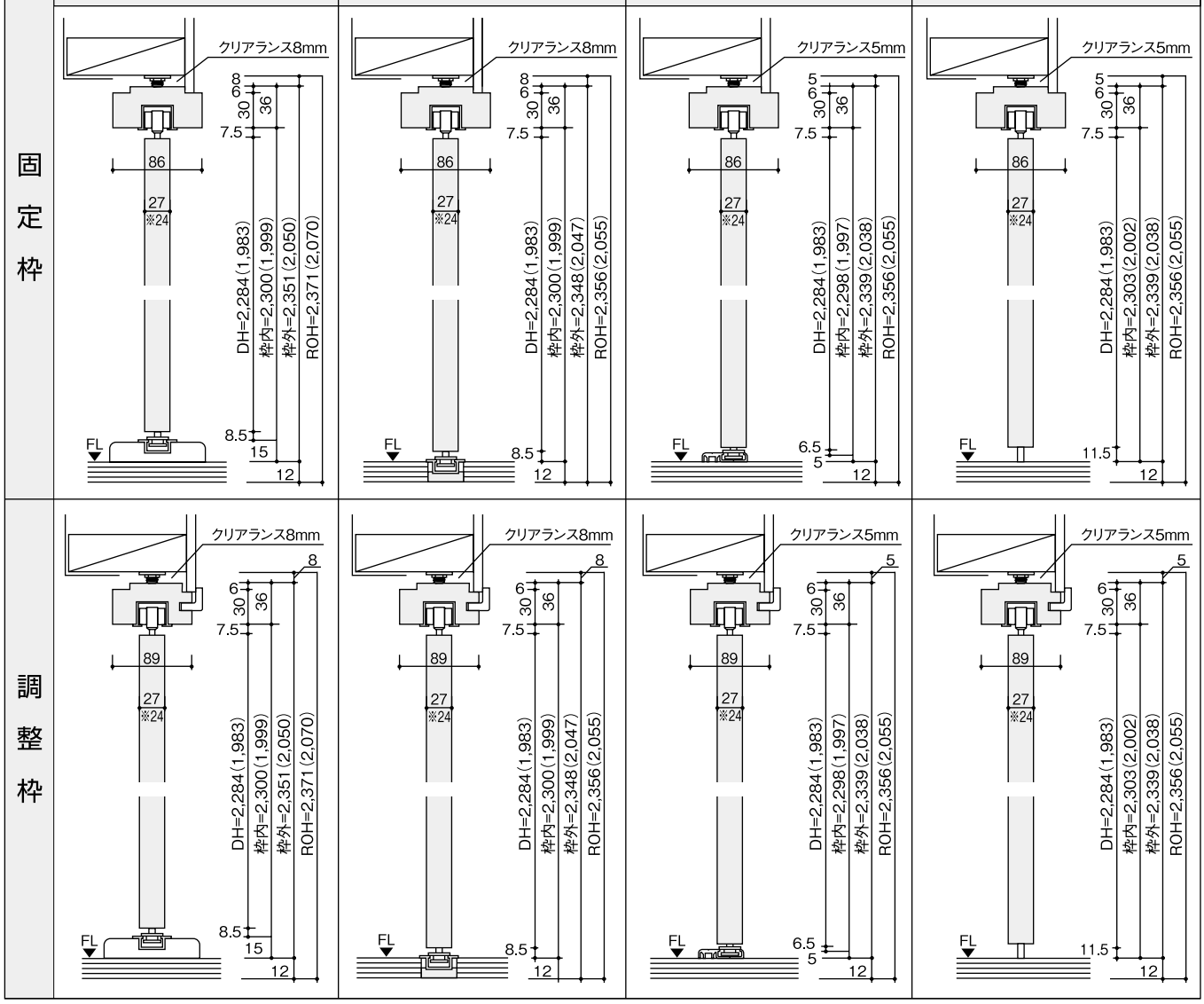
※上記納まり図は固定枠仕様ですが、調整枠の場合も同じ寸法になります。
※扉の厚み24mmはルーバータイプの場合です。

※（　）内寸法はDH=7尺タイプ

縦断面図

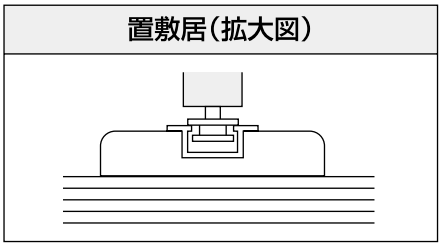
（単位:mm）

	敷居直置き施工	レール埋め込み施工	床直付けレール施工	レール無し施工
	置敷居	レール埋込	床直付レール	レール無し

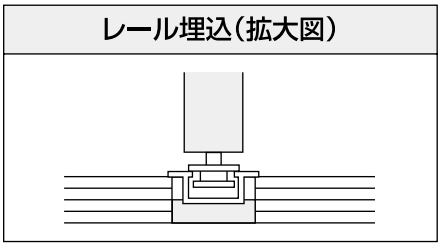


※扉の厚み24㎜はルーバータイプの場合です。

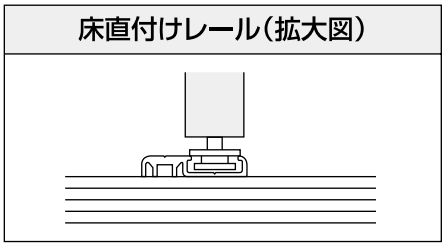
置敷居（拡大図）



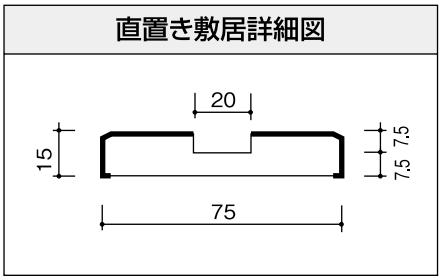
レール埋込（拡大図）



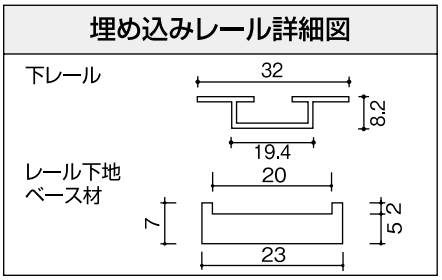
床直付けレール（拡大図）



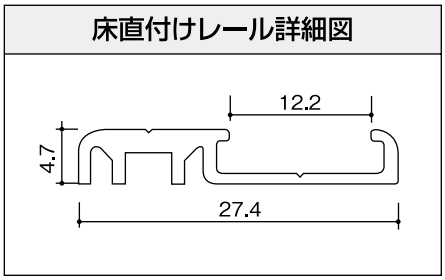
直置き敷居詳細図



埋め込みレール詳細図



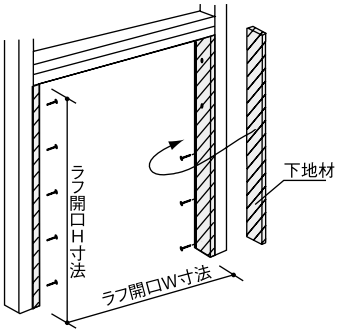
床直付けレール詳細図



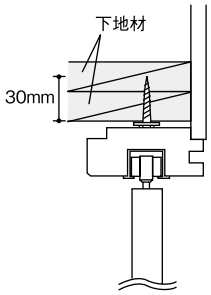
クローゼットドア専用枠材

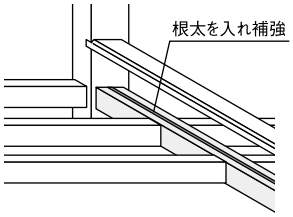
3.施工手順

取り付け開口部・敷居下地の確認　置敷居　レール埋込　床直付レール　レール無し



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。





枠材は、捨て張り合板の上に施工するか、根太の上に直接施工する場合は、必ず図のように根太を入れ補強してください。

⚠ 注意

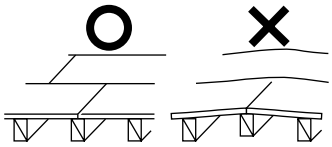
❗ 必ずおこなう	扉の自重に対するビスの保持のアップの為、まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。

床直付レール　レール無し

施工前確認事項

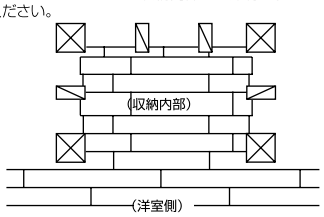
下地の確認

床材（捨て張り合板）を施工する前にクローゼット枠の取り付く位置の下地の水平を確認してください。床（捨て張り合板）の不陸のためにクローゼット扉の開閉に不具合を生じるおそれがあります。

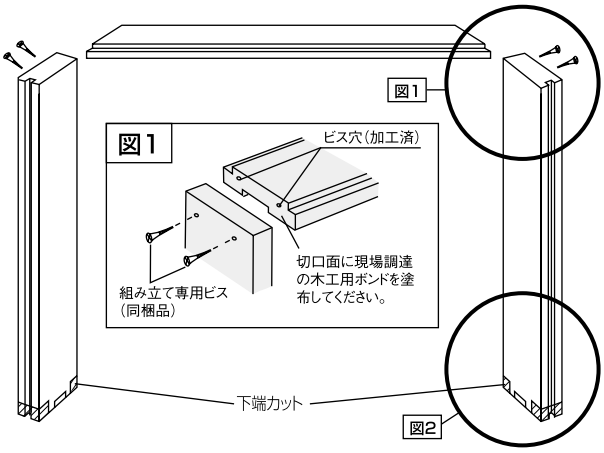


床材の先張り

床直付けレール・レール無し仕様は敷居を使用いたしません。クローゼットの収納内部にも床材を施工してください。



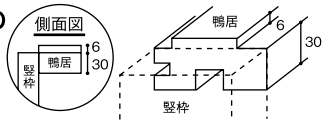
枠材の組み立て　置敷居　レール埋込　床直付レール　レール無し



お願い

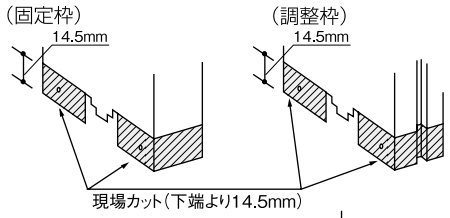
図のように、30mm見付けの位置で枠を組んでください。

※図のように行わないと扉が入らなくなりますのでご注意ください。

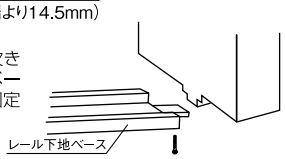


レール埋込

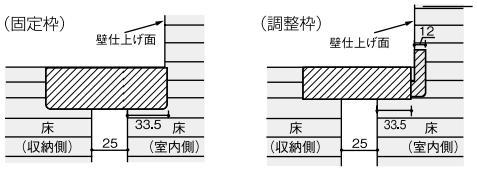
図2　レール埋め込みの場合　（単位:mm）



竪枠の下端をカットした後、欠き込みに合わせてレール下地ベースを取り付け、裏からビスで固定します。



竪枠とフロアーの納まり



●15mmフロアーご使用の際は、3mmのベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

床直付レール　レール無し

図2　床直付けレールの場合
レール無しの場合　（単位:㎜）

竪枠下端加工はありません。
直接仕上げフロアの上に置いて施工します。

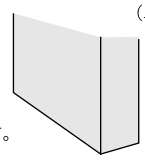
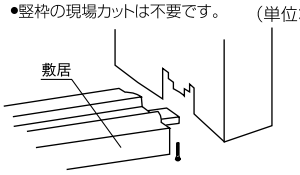


図2　敷居直置きの場合

●竪枠の現場カットは不要です。　（単位:㎜）

敷居を組み立て専用ビスで固定します。

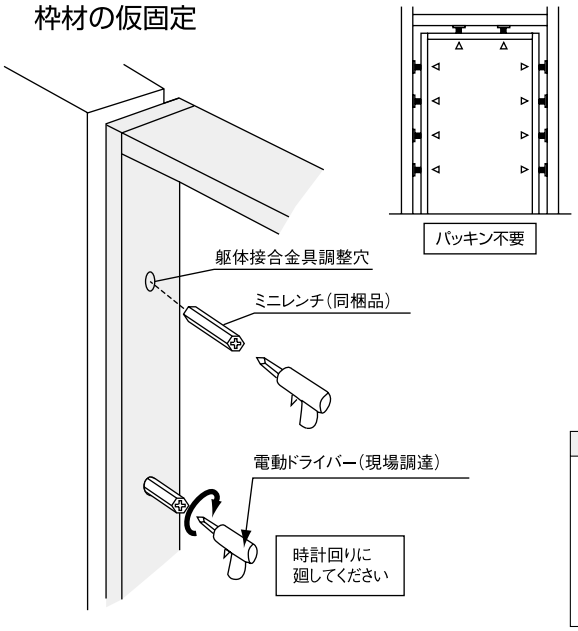
※敷居直置きの場合はレール下地ベースは使用しません。



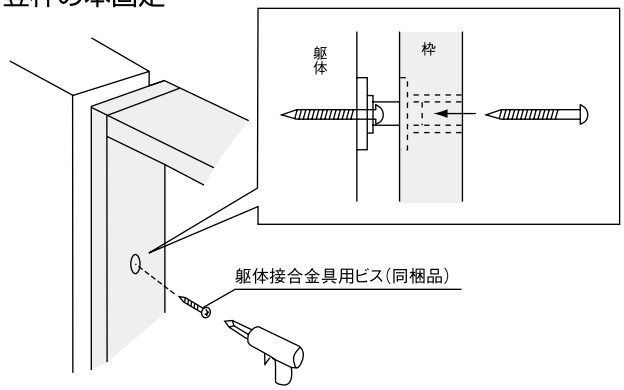
枠材の仮固定・竪枠の本固定

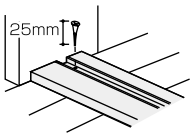
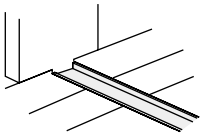
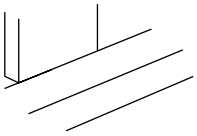
置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

枠材の仮固定



竪枠の本固定

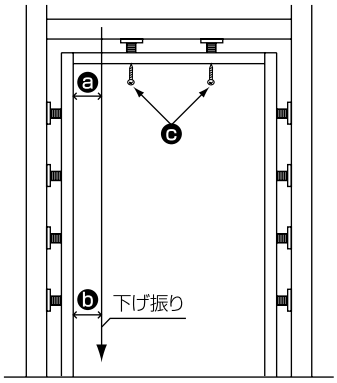


敷居直置きの場合	レール埋め込みの場合	床直付けレール・レール無しの場合
		

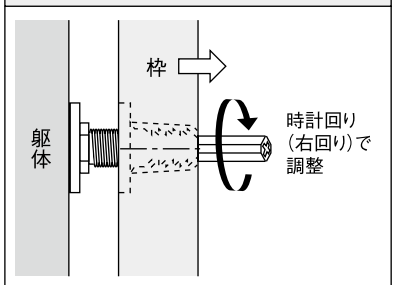
建て付け調整・鴨居の本固定

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

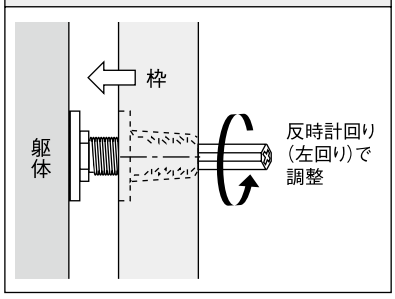
- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

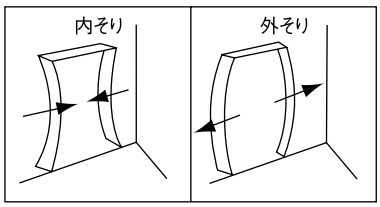


枠を内側に寄せる場合



枠を外側に出す場合





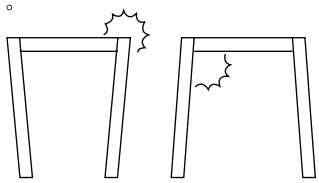
※右記の様なことがないようご注意ください。

床直付レール レール無し

⚠ 注意

破損に十分注意する。

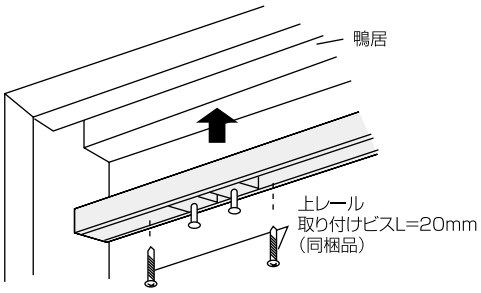
クローゼット枠は3方枠での施工となるため躯体の開口部へセットする時竪枠と鴨居のジョイント部が破損するおそれがあります。



クローゼットドア専用枠材

上・下レールの取り付け　置敷居　レール埋込　床直付レール　レール無し

上レールの取り付け



上レール取り付けの際、鴨居に直径2mmのキリで深さ10mm程度の下穴をあけ、附属のビスを使用して取り付けます。

⚠ 注意

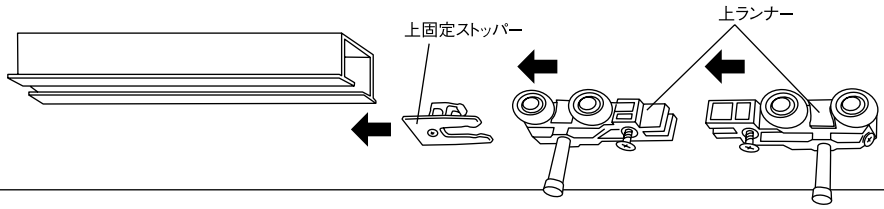
禁止

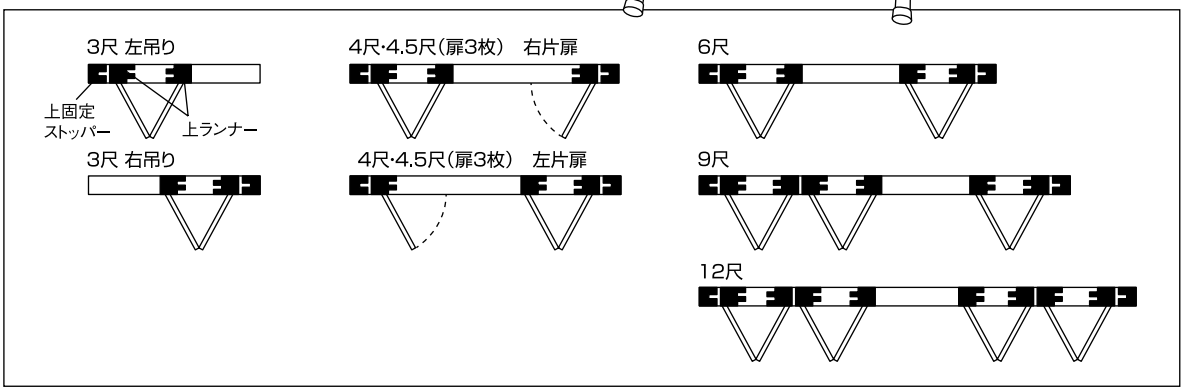
インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

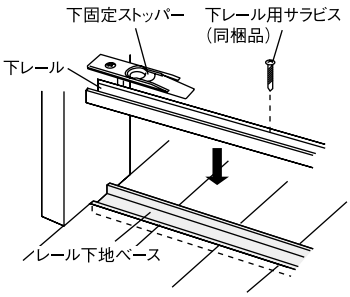
上ランナーの凸凹が合うように向かい合わせにして挿入してください。





レール埋込

下レールの取り付け



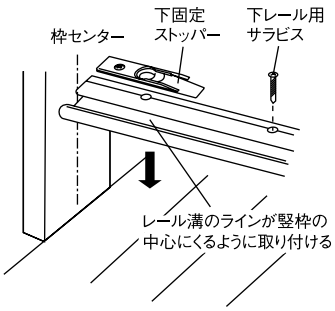
※上図はレール埋め込みのものですが敷居直置きの場合も同様です。

鴨居と同様に敷居に直径2mmのキリで深さ10mm程度の下穴をあけ、下レールをレール下地ベースまたは敷居にはめこんでください。下レール用サラビスで、レールから下地材までしっかりと固定します。

下レールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

床直付レール

床直付けレールの取り付け



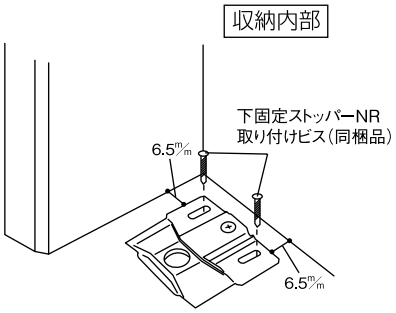
レール溝の中心にあるラインが枠材の中心にくるように取り付けてください。

※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

レール無し

レール無しタイプの場合の金具取り付け



下固定ストッパーNR（固定側）

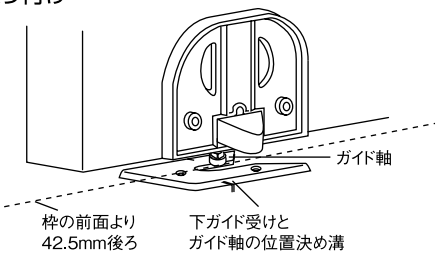
※竪枠の後ろ面、竪枠からともに6.5mmはなした位置に取り付けネジで床に取り付けてください。

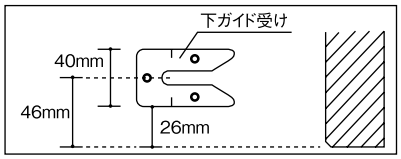
レール無し

レール無しタイプ、W=3尺、4尺、4.5尺の場合のみ下部金具取り付け

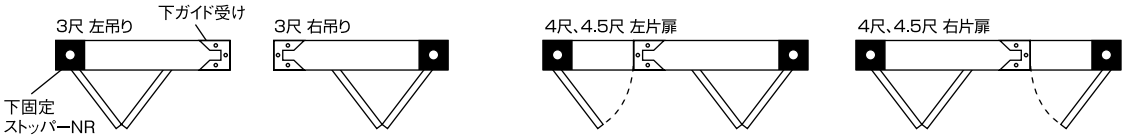
下ガイド受け（可動側受け金具）の取り付け

扉を吊った後下ガイド受けを取り付ける際は右図のように下ランナーと下ガイド受けの位置決め溝をそろえるようにして床に付属のビスで取り付けてください。





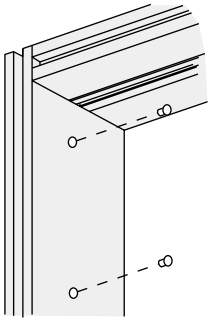
※固定金具が収納の内部にくるように取り付けてください。



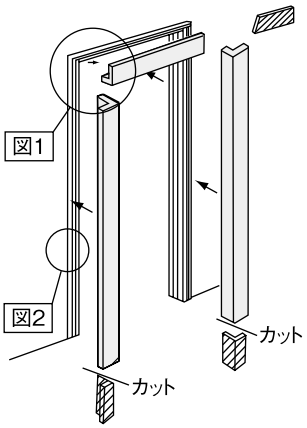
キャップの取り付け・ケーシングの取り付け（調整枠のみ）

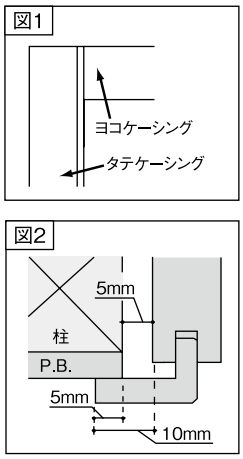
キャップの取り付け

竪枠の躯体接合金具調整穴に付属のキャップを差し込みます。



ケーシングの取り付け





施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

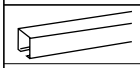
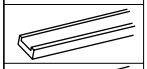
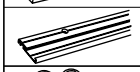
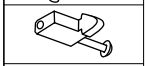
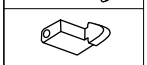
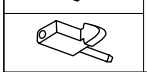
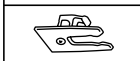
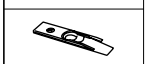
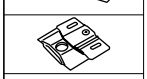
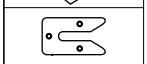
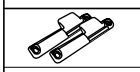
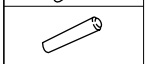
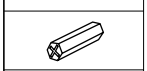
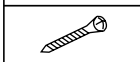
お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼットドア専用枠材

1. 開梱

梱包内容表

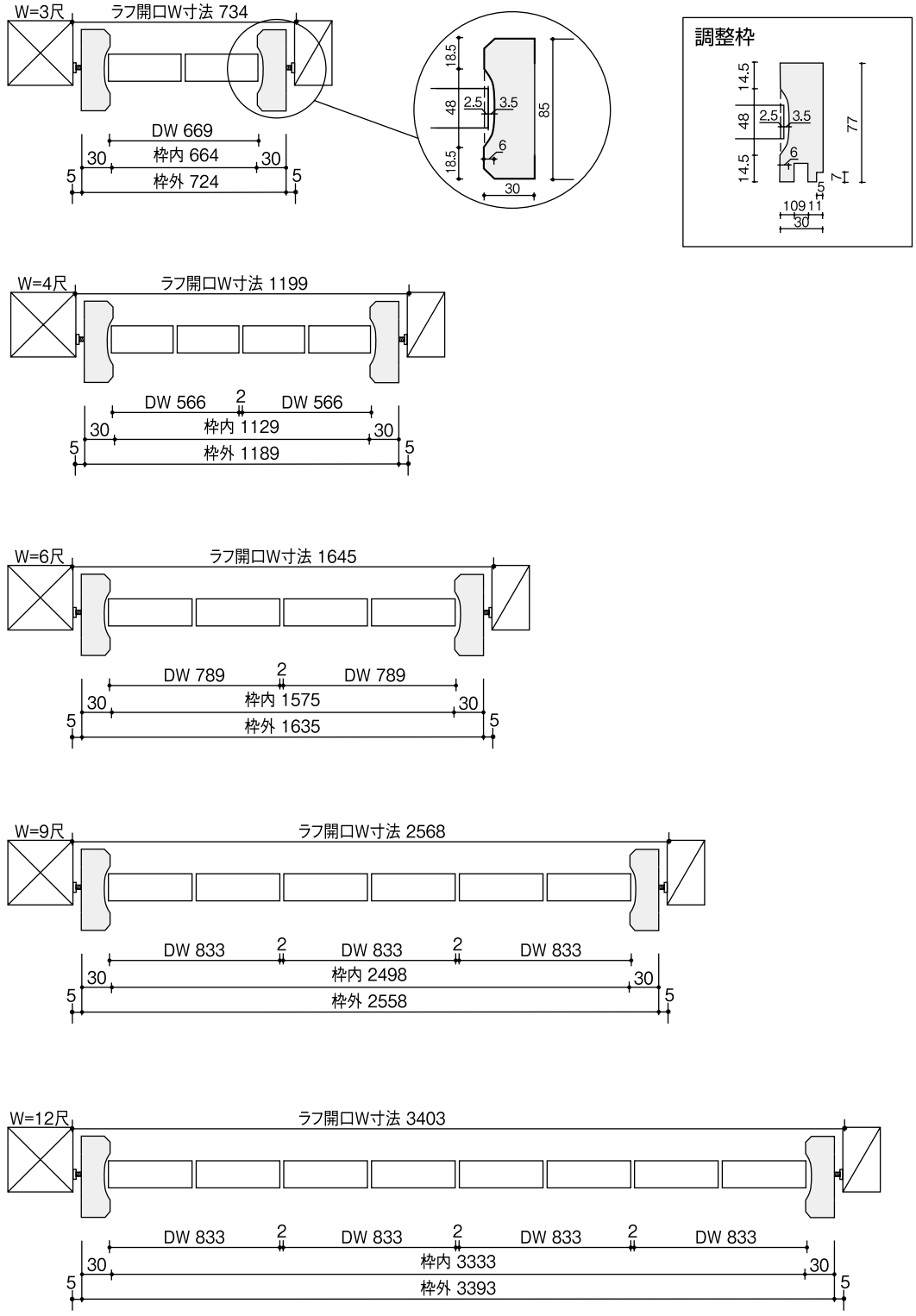
	部材名		敷居直置き・レール埋め込み					床直付けレール					レール無し		
			3尺	4尺	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	6尺
	枠材	竪枠	2本	2本				2本	2本				2本	2本	
	枠材	鴨居	1本	1本				1本	1本				1本	1本	
	レール	上レール	1本	1本				1本	1本				1本	1本	
	レール	下レール（埋込み用）	1本	1本											
	レール	レール下地ベース	1本	1本											
	レール	床直付けレール						1本	1本						
	上下ランナー	上ランナー	2個	4個		6個	8個	2個	4個		6個	8個	2個	4個	
	上下ランナー	下ランナー	2個	4個		6個	8個	2個	4個		6個	8個	1個	2個	
	上下ランナー	下ベースインナー												2個	
	上下ランナー	下ガイド軸											1個		
	キャッチャー	上固定ストッパー	1個	2個				1個	2個				1個	2個	
	キャッチャー	下固定ストッパー	1個	2個				1個	2個						
	キャッチャー	下固定ストッパーNR											1個	2個	
	キャッチャー	下ガイド受け											1個		
	その他	めし合せ												1セット	
	その他	木ダボ	4本	4本				4本	4本				4本	4本	
	その他	ミニレンチ	1本	1本				1本	1本				1本	1本	
	その他	躯体接合金具キャップ	8個	8個				8個	8個				8個	8個	
	ビス	上レール用ナベビス	3本	4本	5本	7本	9本	3本	4本	5本	7本	9本	3本	4本	5本
	ビス	下レール用サラビス	3本	4本	5本	7本	9本	3本	4本	5本	7本	9本			
	ビス	組立て専用ビス	6本	6本				2本	2本				2本	2本	
	ビス	敷居ベース用ビス	2本	2本											
	ビス	躯体接合金具ビス	9本	9本	10本	12本	14本	9本	9本	10本	12本	14本	9本	9本	10本

※片扉用金具・めし合せは扉本体に取り付けます。扉を取り付けるまで大切に保管しておいてください。

2. 納まり図

枠本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

	横断面図
固定枠・調整枠	（単位:mm）



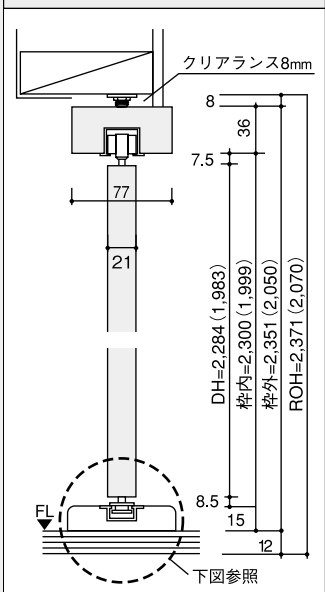
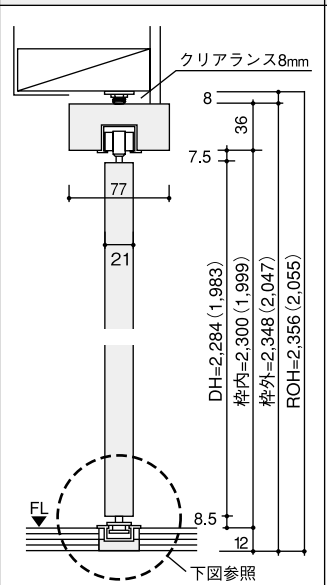
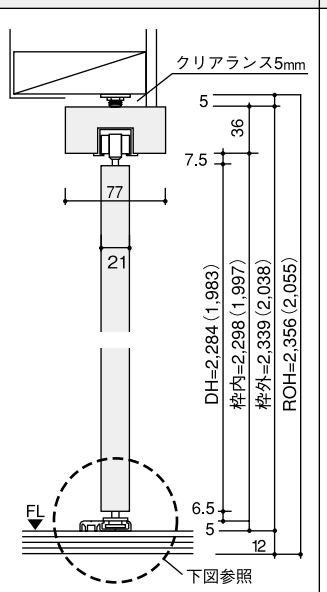
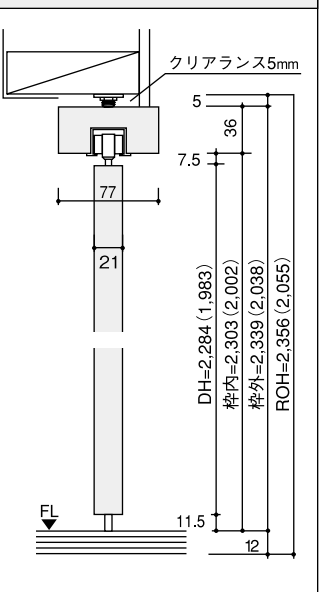
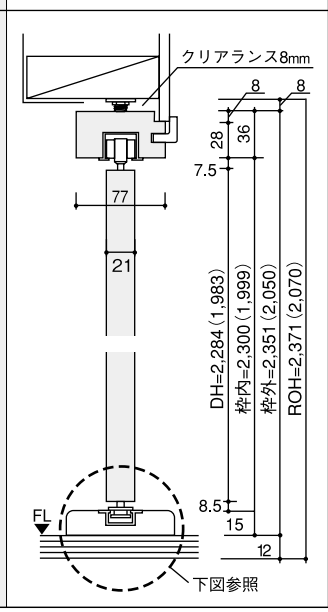
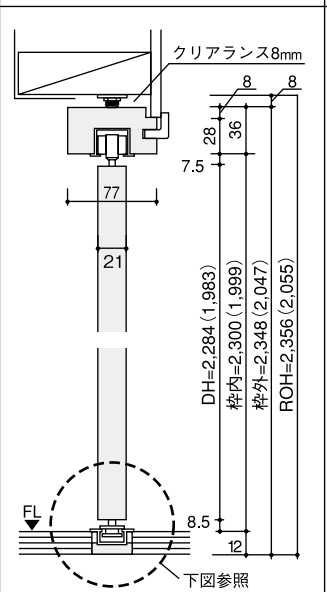
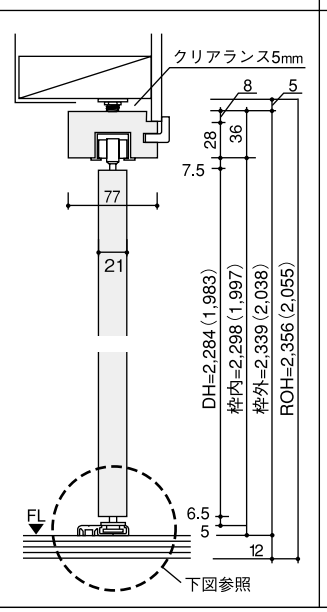
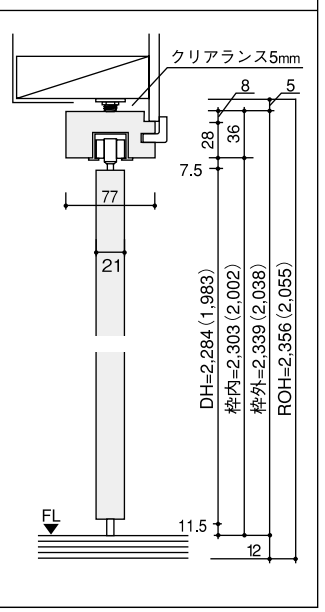
※上記納まり図は固定枠仕様ですが、調整枠の場合も同じ寸法になります。

クローゼットドア専用枠材

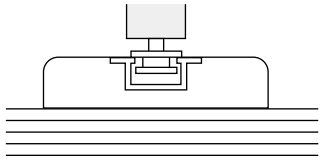
（ ）内寸法はDH=7尺タイプ

縦断面図

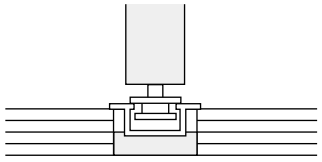
（単位:mm）

	敷居直置き施工	レール埋め込み施工	床直付けレール施工	レール無し施工
	置敷居	レール埋込	床直付レール	レール無し
固定枠				
調整枠				

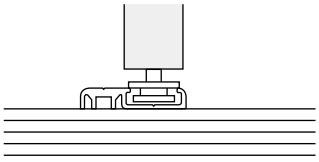
置敷居（拡大図）



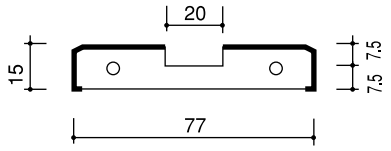
レール埋込（拡大図）



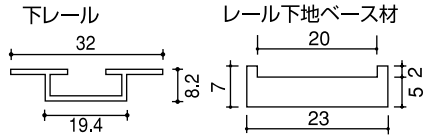
床直付レール（拡大図）



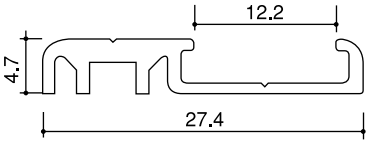
直置き敷居詳細図



埋め込みレール詳細図



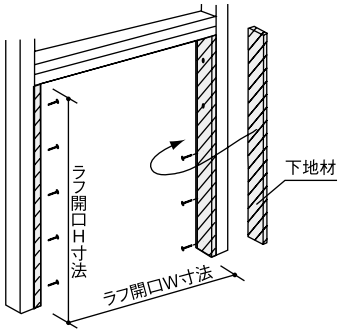
床直付けレール詳細図



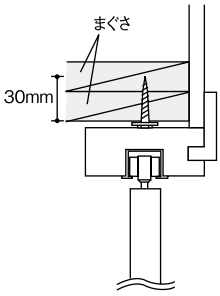
3.施工手順

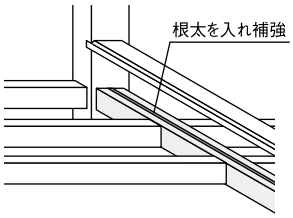
取り付け開口部・敷居下地の確認

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し



開口部に下地材を取り付け、納まり図参照の上、枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。





枠材は、捨て張り合板の上に施工するか、根太の上に直接施工する場合は、必ず図のように根太を入れ補強してください。

⚠ 注意

必ずおこなう

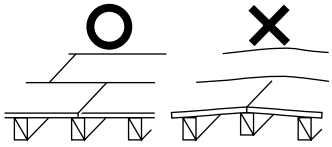
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。

床直付レール レール無し

施工前確認事項

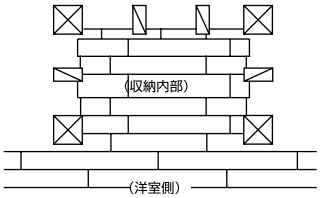
下地の確認

床材（捨て張り合板）を施工する前にクローゼット枠の取り付く位置の下地の水平を確認してください。床（捨て張り合板）の不陸のためにクローゼット扉の開閉に不具合を生じるおそれがあります。



床材の先張り

床直付けレール・レール無し仕様は敷居を使用いたしません。クローゼットの収納内部にも床材を施工してください。



枠材の組み立て

置敷居 レール埋込 床直付レール レール無し

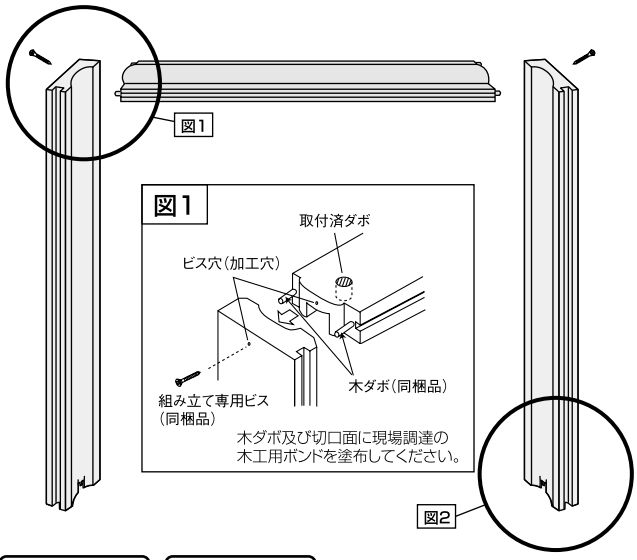


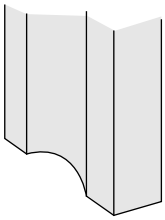
図1

木ダボ及び切口面に現場調達の木工用ボンドを塗布してください。

床直付レール レール無し

図2 床直付けレールの場合 レール無しの場合

（単位:mm）

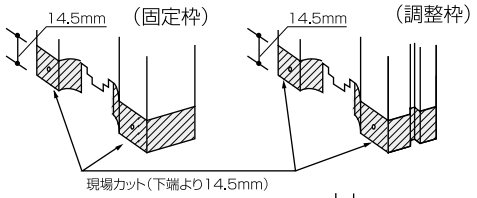


竪枠下端加工はありません。直接仕上げフロアの上に置いて施工します。

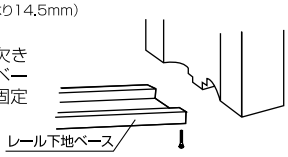
レール埋込

図2 レール埋め込みの場合

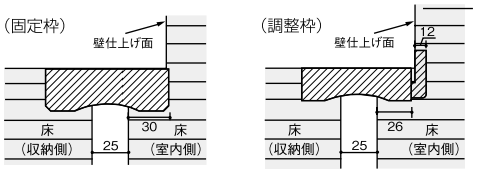
（単位:mm）



竪枠の下端をカットした後、欠き込みに合わせてレール下地ベースを取り付け、裏からビスで固定します。



竪枠とフロアーの納まり

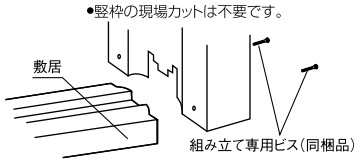


●15mmフロアーご使用の際は、3mmのベニヤ板を下地にしたうえで施工してください。

図2 敷居直置きの場合

敷居を組み立て専用ビスで固定します。

※敷居直置きの場合はレール下地ベースは使用しません。



クローゼットドア専用枠材

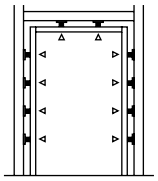
枠材の仮固定・竪枠の本固定

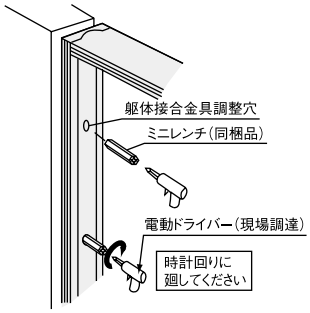
置敷居　レール埋込　床直付レール　レール無し

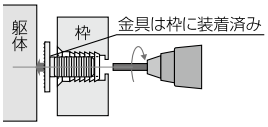
枠材の仮固定

ポイント　金具で突っ張らせて枠を仮固定する

開口部に枠材をはめ込み、水平と垂直、ネジレを調整し、同梱のミニレンチを使用し、躯体接合金具を突っ張らせて枠材を仮固定します。







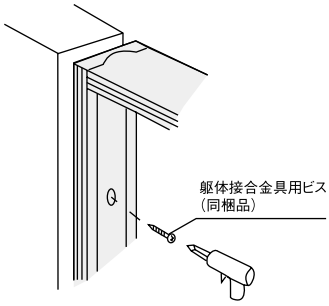
同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

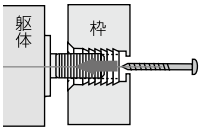
⚠注意

インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

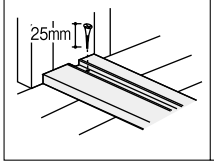
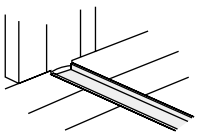
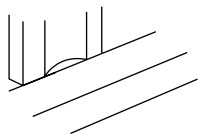
竪枠の本固定

竪枠を躯体接合金具用ビスで躯体に固定させます。





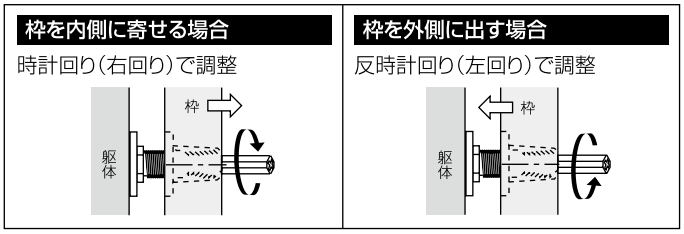
枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）

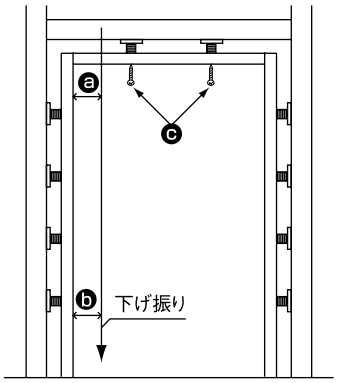
敷居置きの場合	レール埋め込みの場合	床付けレール・レール無しの場合
		

建て付け調整・鴨居の本固定

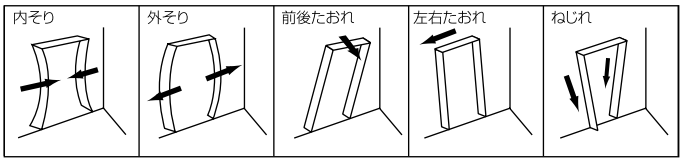
置敷居　レール埋込　床直付レール　レール無し

- 水準器などを使用し、ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。併せて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。





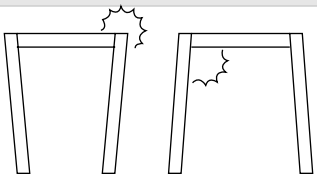
※下記の様なことがないようご注意ください。



⚠注意

破損に十分注意する。

クローゼット枠は3方枠での施工となるため躯体の開口部へセットする時竪枠と鴨居のジョイント部が破損するおそれがあります。

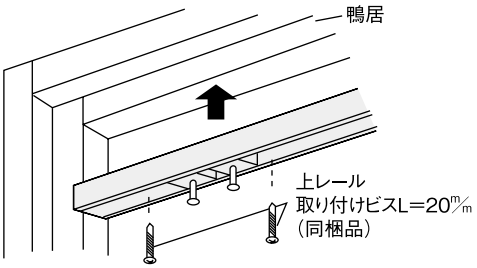


床直付レール　レール無し

上・下レールの取り付け

置敷居　レール埋込　床直付レール　レール無し

上レールの取り付け



上レール取り付けの際、鴨居に直径2㎜のキリで深さ10㎜程度の下穴をあけ、付属のビスを使用して取り付けます。

⚠注意

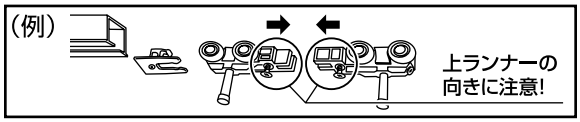
禁止

インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

※上ランナーのレール挿入向きに注意してください。

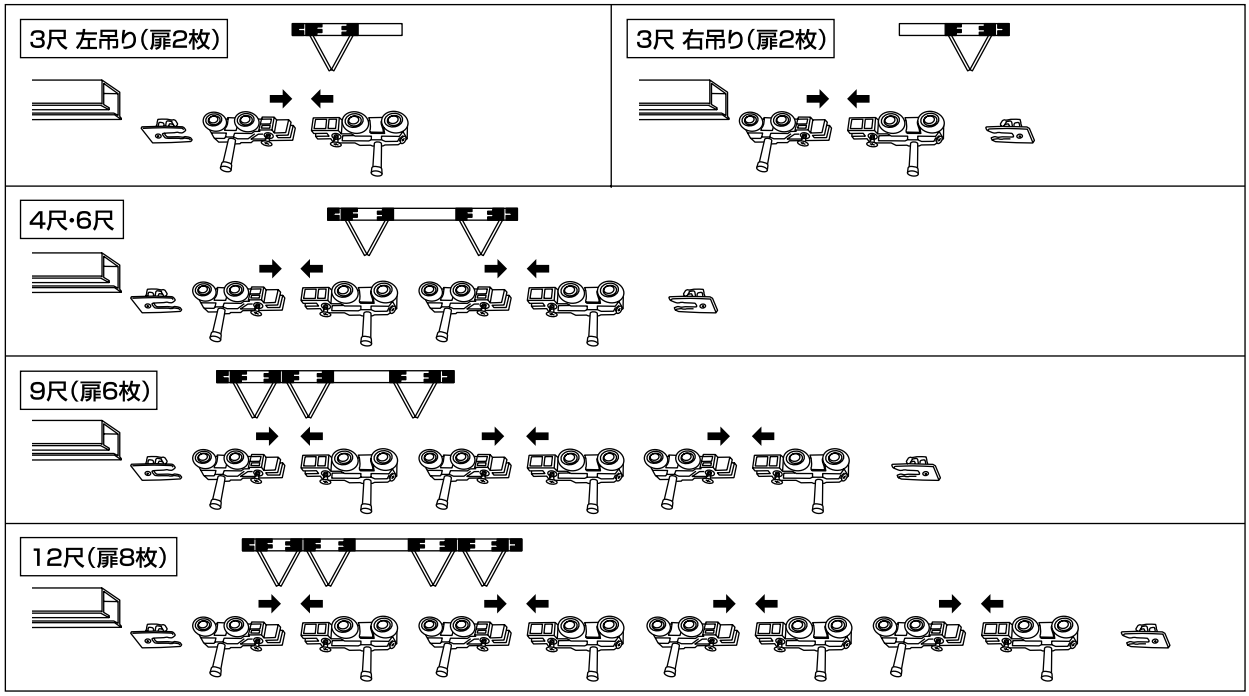


⚠ 注意

必ずおこなう

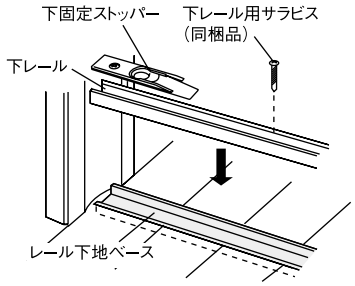
上固定ストッパーを確実に固定してください。

固定されてないままや、逆向きに挿入した状態で
扉を取り付けた場合、ストッパーが破損するおそれがあります。



レール埋込

下レールの取り付け



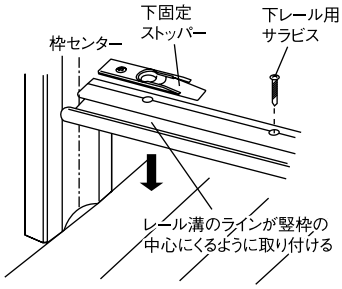
※上図はレール埋め込みのものですが
敷居直置きの場合も同様です。

鴨居と同様に敷居に直径2mmのキリで深さ10mm程度の下穴をあけ、下レールをレール下地ベースまたは敷居にはめこんでください。下レール用サラビスで、レールから下地材までしっかりと固定します。

下レールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

床直付レール

床直付けレールの取り付け



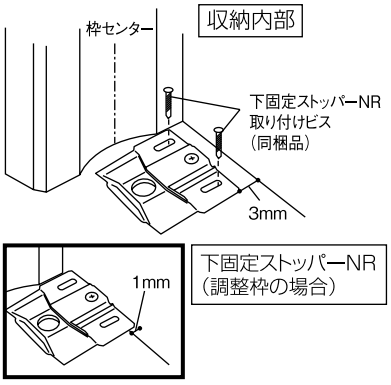
レール溝の中心にあるラインが枠材の中心にくるように取り付けてください。

※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないように固定します。

レール無し

レール無しタイプの場合の金具取り付け



※竪枠の後ろ面から固定枠の場合3mm内側に、調整枠の場合1mm外側に取り付けてください。

※固定枠と調整枠で下固定ストッパーNRを取り付ける位置が異なります。ご注意ください。

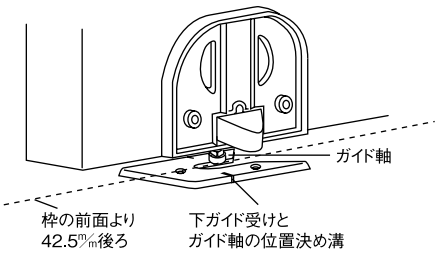
クローゼットドア専用枠材

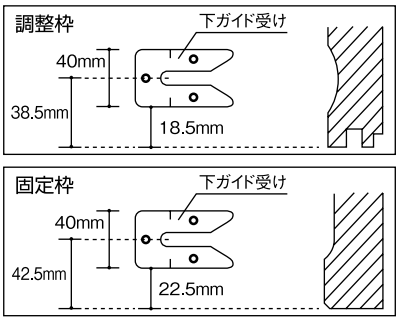
レール無し

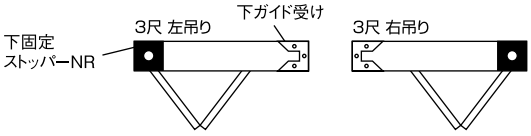
レール無しタイプ、W=3尺の場合のみ下部金具取り付け

下ガイド受け（可動側受け金具）の取り付け

扉を吊った後下ガイド受けを取り付ける際は右図のように下ガイド軸と下ガイド受けの位置決め溝をそろえるようにして床に付属のビスで取り付けてください。



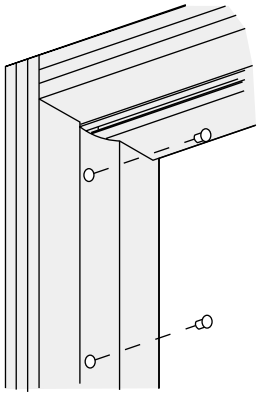




キャップの取り付け・ケーシングの取り付け（調整枠のみ）

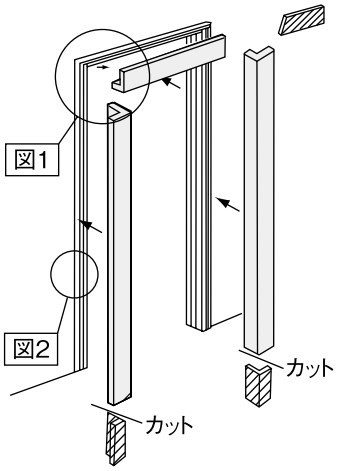
キャップの取り付け

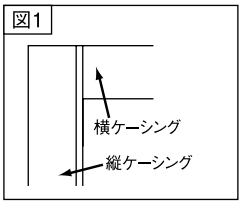
竪枠の躯体接合金具調整穴に付属のキャップを差し込みます。

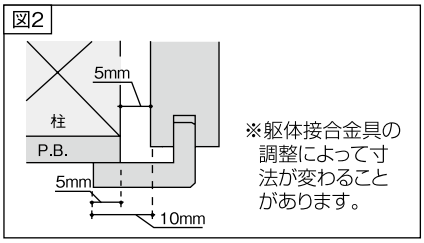


ケーシングの取り付け

ケーシングの寸法を現場で調整しカットしてください。寸法を調整したケーシングを木工用ボンド（現場調達）を使用し、取り付けてください。





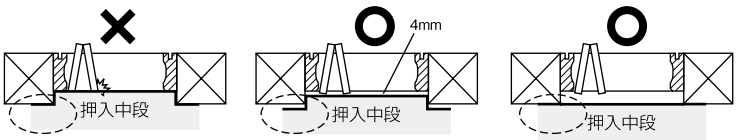


⚠ 注意

必ずおこなう

調整枠の場合、右図のように中段を欠き込んで枠面まで納めないでください。

扉が折れた時、中段に当たります。
（固定枠は当たらない設定になっています。）



施工終了後

養生

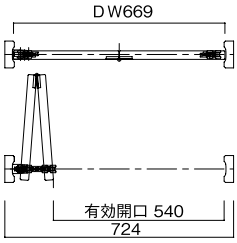
当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

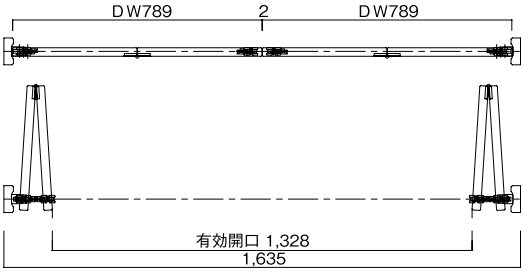
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

クローゼットの有効開口寸法目安

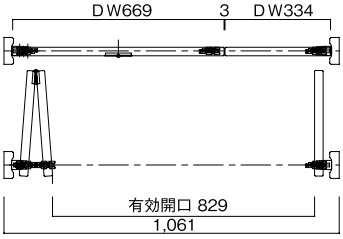
W=3尺



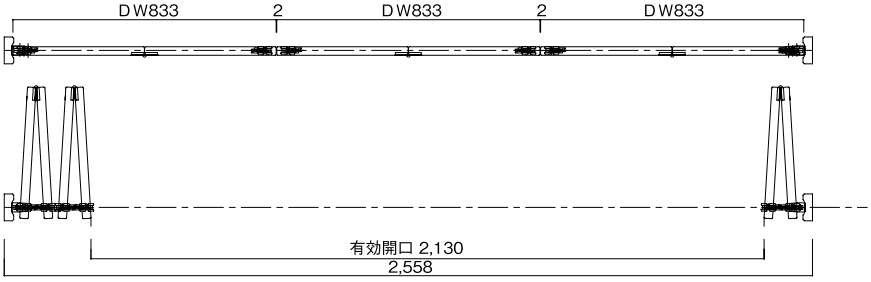
W=6尺



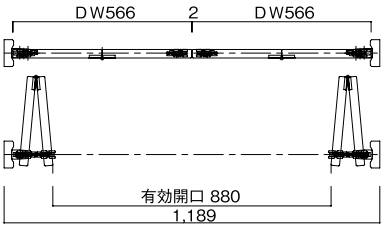
W=4尺



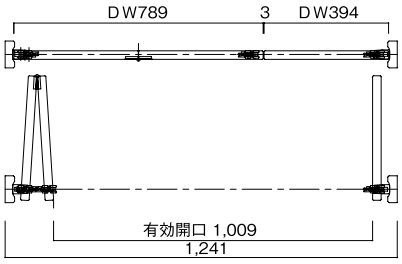
W=9尺



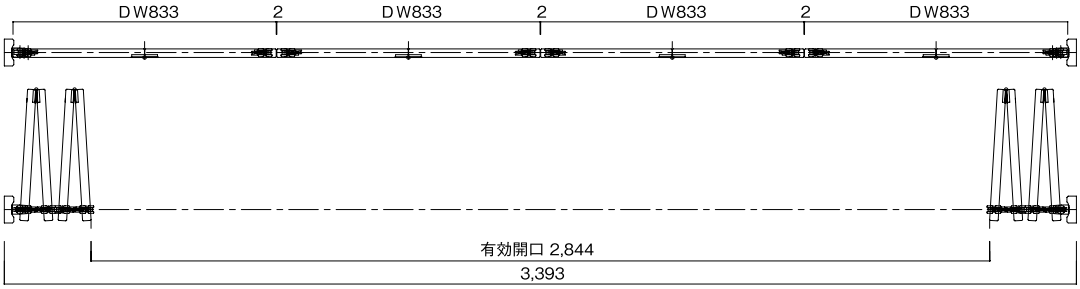
W=4.5尺(1,189mm)



W=4.5尺(1,241mm)



W=12尺



＊扉の厚みや取り付け位置によって若干寸法が異なります。
＊有効開口は、取手は含まれておりません。

シューズインクローク専用枠材

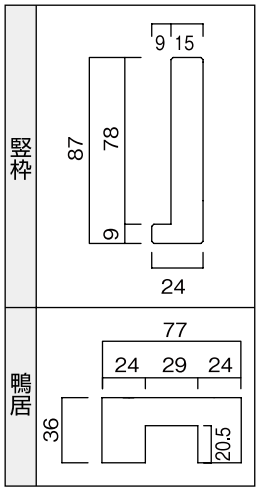
1. 開梱

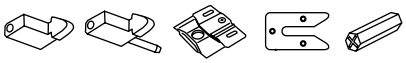
梱包内訳

	枠材		レール	上下ランナー		金具	
	竪枠	鴨居	上レール	上ランナー	下ランナー	上固定ストッパー	土間用金具
3尺	2本	1本	1本	2個	1個	1個	1個
4.5尺				4個	2個	2個	2個
6尺							

	その他			ビス		
	めし合せ	木ダボ	化粧キャップ	上レール用ナベビス	組み立て専用ビス	竪枠鴨居組み立てビス
3尺	ー	※2本	8個	3本	4本	9本
4.5尺	1セット			5本		
6尺						10本

※梱包には4本入っていますが、使用するのは2本のみです。

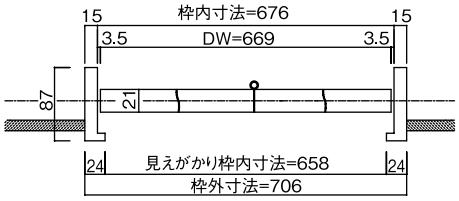


使用しない部材		この部材は使用しません

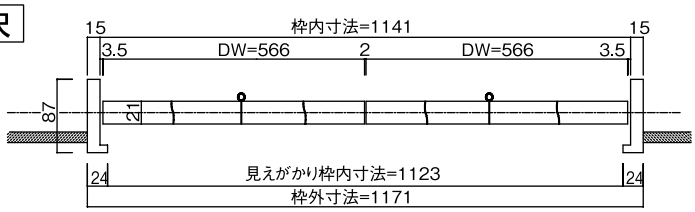
2. 納まり図

横断面図

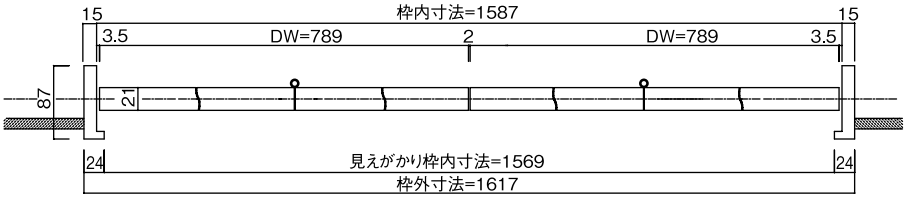
W=3尺



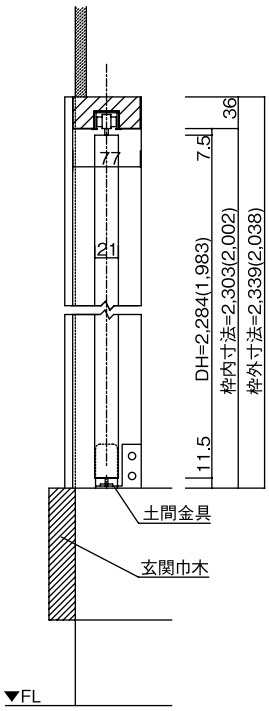
W=4.5尺



W=6尺



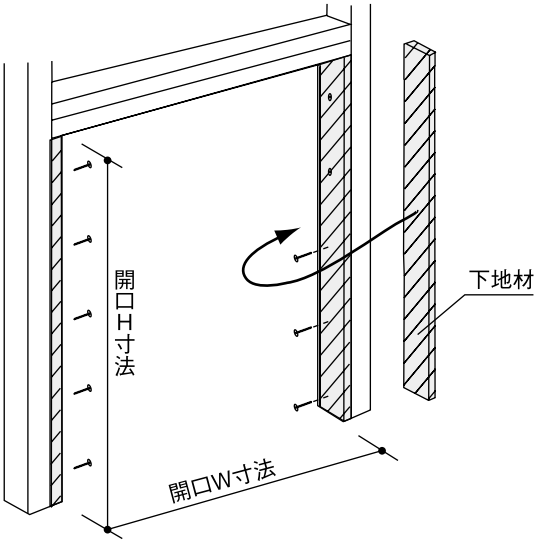
縦断面図

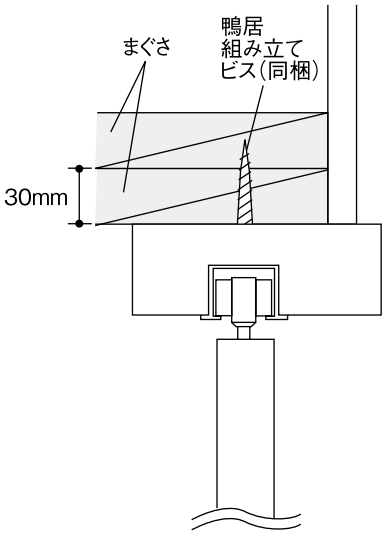


※（　）内寸法はH=7尺の場合

3. 施工手順

① 取り付け開口部の確認





開口部に下地材を取り付け、
納まり図参照の上、枠外寸法に見合った
開口を設けてください。

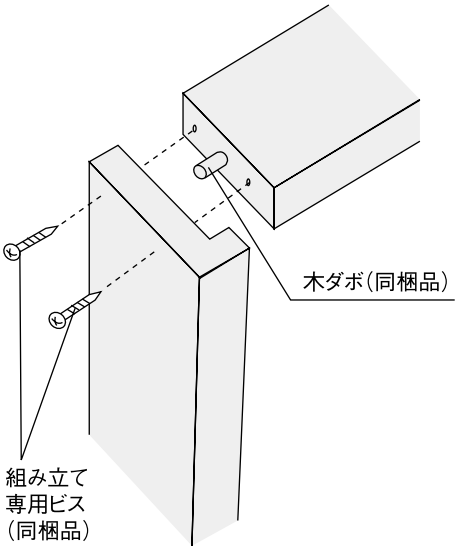
⚠ 注意

必ずおこなう

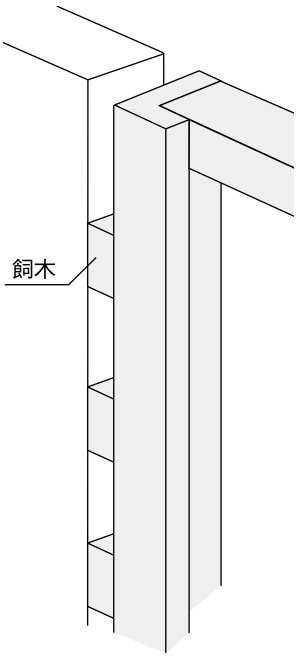
扉の自重に対するビスの保持のアップの為、
まぐさは必ずダブルでとりつけて補強してください。

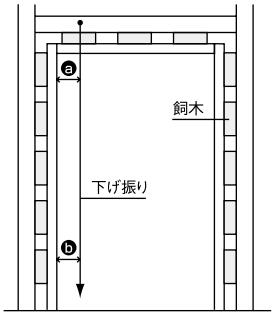
② 竪枠の仮固定と建て付け調整

竪枠と鴨居を、木ダボ（同梱品）及び、
木工用ボンド（現場調達）を併用し、
組み立て専用ビス（同梱品）で
3方組み立ててください。



開口部に枠材をはめ込み、飼木で水平と垂直、
ネジレを調整し、仮固定します。





- ⓐ＝ⓑとなるよう
  調整してください。

竪枠、鴨居の固定用ビス
下穴の背面に飼木を取り
付けてください。

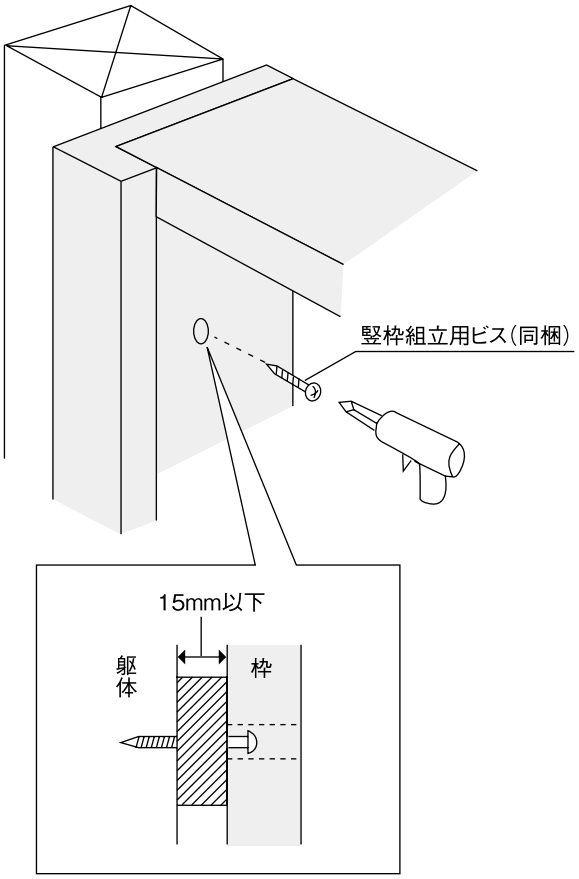
⚠ 注意

飼木の厚みは最大でも
15mm以下にしてください。

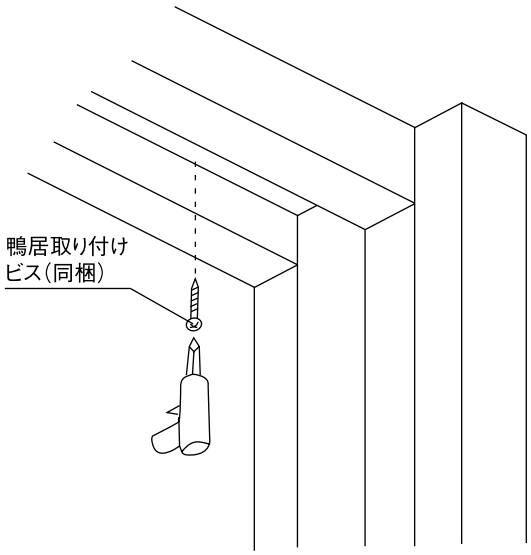
シューズインクローク専用枠材

③ 鴨居・竪枠の本固定

竪枠を竪枠組み立て用ビスで躯体に固定させます。



鴨居を図のように鴨居取り付けビスで固定します。

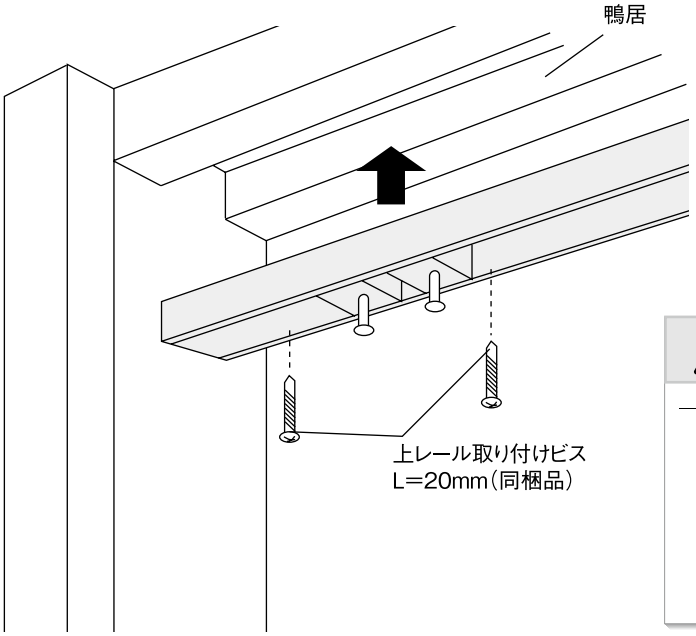


レールを取り付ける前に必ず鴨居本体を躯体に固定させてください。

④ 上レールの取り付け

上レールの取り付け

上レール取り付けの際、鴨居に直径2mmのキリで深さ10mm程度の下穴をあけ、上レール用ナベビス（同梱品）を使用して取り付けます。



⚠ 注意

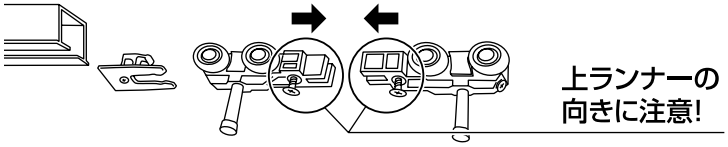
禁止

インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

（例）



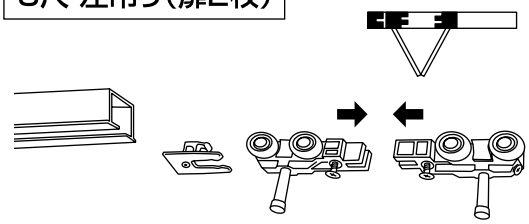
⚠ 注意

必ずおこなう

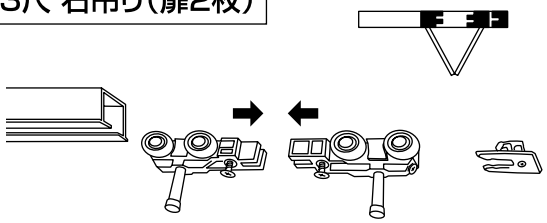
上固定ストッパーを確実に固定してください。

固定されてないままや、逆向きに挿入した状態で扉を取り付けた場合、ストッパーが破損するおそれがあります。

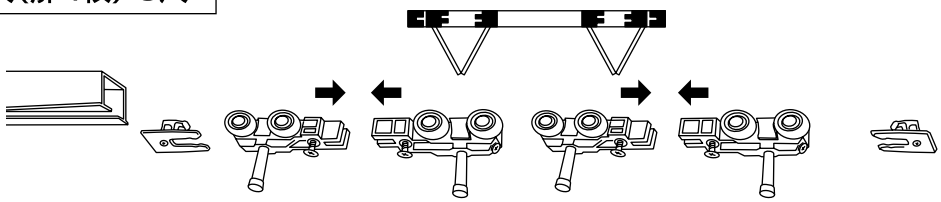
3尺 左吊り（扉2枚）



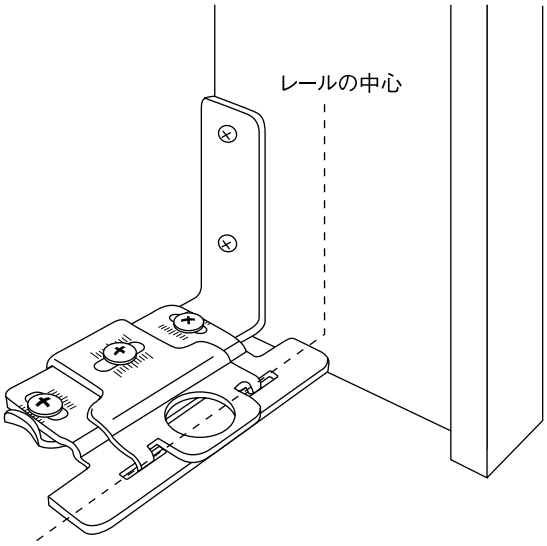
3尺 右吊り（扉2枚）



4.5尺（扉4枚）・6尺



⑤ 土間用金具の取り付け



竪枠の奥側に金具の端を図のように
合わせて取り付けます。
※図は右竪枠の場合になります。

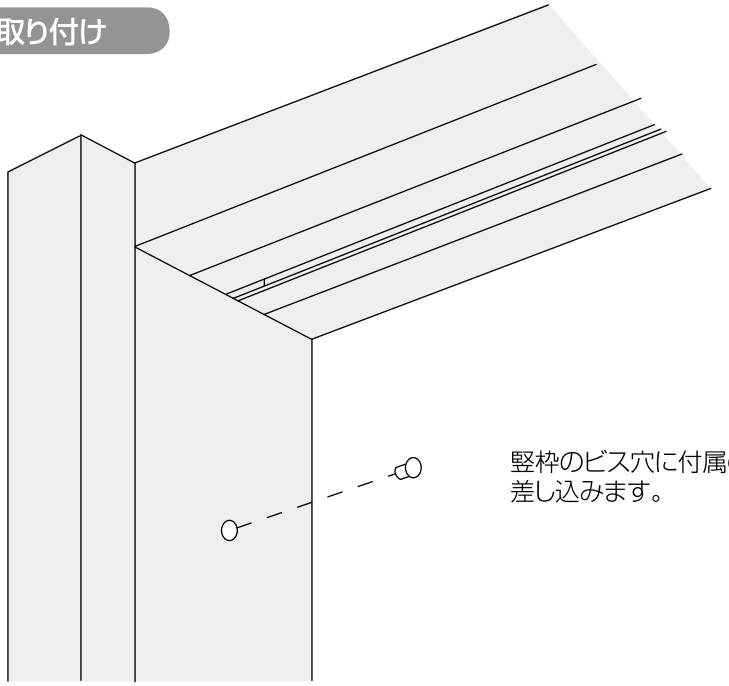
⚠ 注意

土間用金具は左右兼用になります。左右の切り替え方法に関しては、土間用金具本体に同梱されている説明書をご確認ください。

シューズインクローク専用枠材

⑥ 化粧キャップの取り付け

キャップの取り付け



竪枠のビス穴に付属の化粧キャップを
差し込みます。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

収納両開き戸

1. 開梱

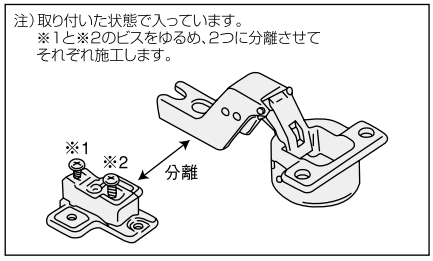
梱包を開いたらまず最初に下表の部品に不足および問題点が無いかどうか確認してください。

梱包内訳表

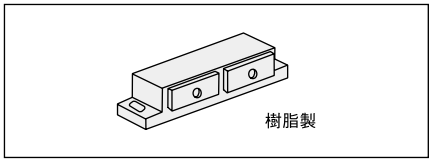
ピノアース

	部材名	数量				
		H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
	開き戸	1セット				
	取っ手	1セット		ー	ー	ー
	スライドヒンジ	4セット		6セット		
	マグネット	2個				

※取っ手は1セットに1組入っています。



ピノアース用スライドヒンジ

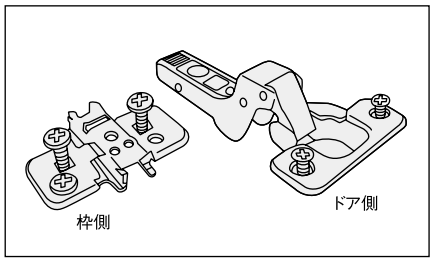


マグネット

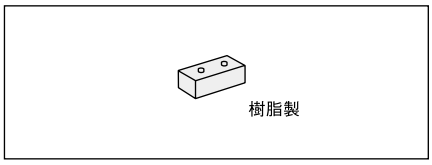
グランステージ・ソフトアート

	部材名	数量				
		H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
	開き戸	1セット				
	取っ手	1セット				
	スライドヒンジ	4セット		6セット		
	戸当り	1個（クリアバンポン2個セット）				

※取っ手は1セットに1組入っています。



グランステージ・ソフトアート用スライドヒンジ



戸当り

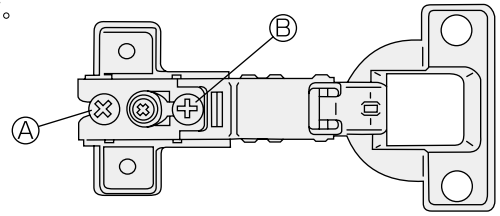
収納両開き戸

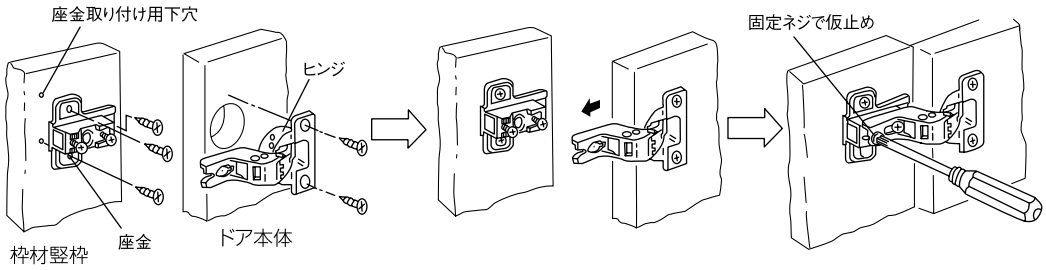
2. 施工手順

スライドヒンジヒンジの取り付け

ピノアースの場合

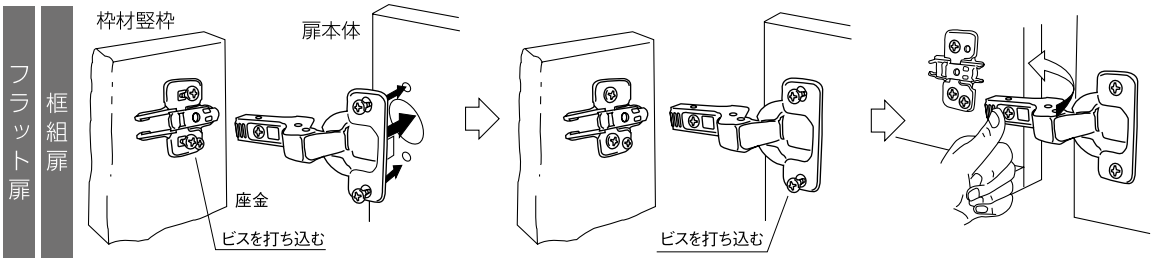
（1）ⒶとⒷのネジをゆるめ座金とヒンジを分離します。
（2）扉本体にヒンジを、枠材に座金を取り付けます。
（3）固定ネジで仮止めします。





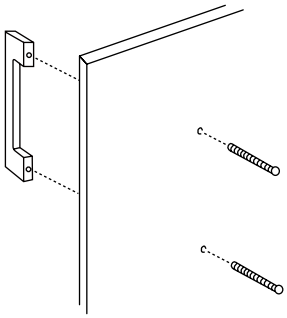
グランステージ・ソフトアートの場合

（1）扉本体にヒンジを、枠材に座金を取り付けます。
（2）固定ネジで仮止めします。

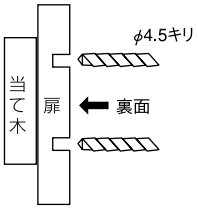


バー取っ手の取り付け

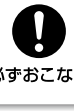
付属のビスで取り付けます。



取手穴貫通のしかた



⚠ 注意

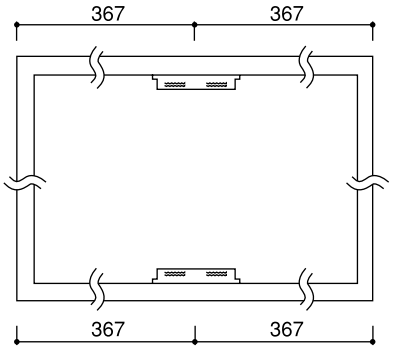

必ずおこなう

取っ手穴を貫通させる時は扉表面に当て木をして、バリ発生を防いでください。

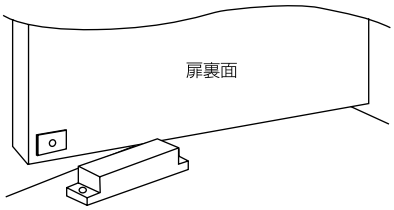
マグネット、戸当りの取り付け

ピノアースの場合

（1）上下枠に同梱のナベビスでマグネット本体を取り付けます。

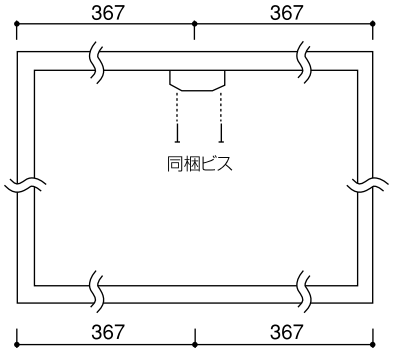


（2）扉裏面に同梱の皿ビスで受け金具を取り付けます。



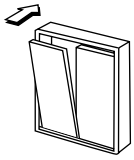
グランステージ・ソフトアートの場合

上枠に戸当りを取り付けます。



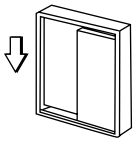
開閉の確認 及び 隙間の調整

納まり図をご参照の上、枠材との隙間を調整します。



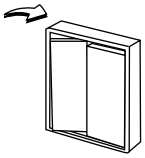
Ⓐ前後の調整ネジ

扉と枠材との隙間が上下で異なっているときはスライドヒンジのⒶのネジを全てゆるめて調整します。



Ⓑ上下の調整ネジ

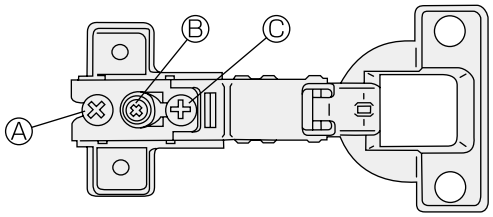
左右の扉の上下が異なっている時などはスライドヒンジのⒷのネジを全てゆるめて調整します。



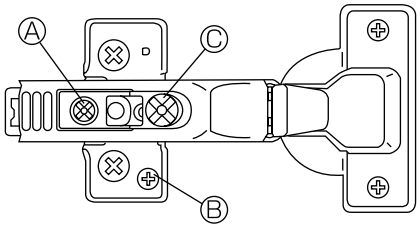
Ⓒ左右の調整ネジ

扉が横にずれている時はⒸのネジをゆるめると内側に、しめると外側に扉が寄ります。

ピノアース用



グランステージ・ソフトアート用



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

収納両開き戸専用枠材

1.開梱

梱包を開いたらまず最初に下表の部品に不足および問題点が無いかどうか確認してください。

梱包内訳表

ピノアース

		部材名	数量					備考
			3尺	4尺	6尺	7尺	8尺	
		竪枠（左右セット）	1セット	1セット	1セット	1セット	1セット	
		上枠	1本	1本	1本	1本	1本	
袋の色			ZYQDA8-□		ZYQD11-□			
黄	47mm φ3.8mm	躯体接合金具用ビス	1本	1本	9本（2本あまります）	9本	9本	
		躯体接合金具用キャップ	1個	1個	9個（2個あまります）	9個	9個	
	7mm L50mm	ミニレンチ	1本	1本	1本	1本	1本	
赤	62mm φ3.8mm	組み立て専用ビス	4本	4本	4本	4本	4本	
	6mm 35mm	木ダボ	2本	2本	2本	2本	2本	
	25mm φ3.5mm	下枠ベース専用ビス	4本	4本	4本	4本	4本	

グランステージ

		部材名	数量					備考
			3尺	4尺	6尺	7尺	8尺	
		竪枠（左右セット）	1セット	1セット	1セット	1セット	1セット	
		上枠	1本	1本	1本	1本	1本	
袋の色			ZYQD12-□		ZYQD11-□			
黄	47mm φ3.8mm	躯体接合金具用ビス	5本	5本	9本（2本あまります）	9本	9本	
		躯体接合金具用キャップ	5個	5個	9個（2個あまります）	9個	9個	
	7mm L50mm	ミニレンチ	ー	ー	1本	1本	1本	
赤	62mm φ3.8mm	組み立て専用ビス	4本	4本	4本	4本	4本	
	6mm 35mm	木ダボ	2本	2本	2本	2本	2本	
	25mm φ3.5mm	下枠ベース専用ビス	4本	4本	4本	4本	4本	
		木口単板 ZYWT49-□	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚	竪枠上端用

ソフトアート

		部材名	数量					備考
			3尺	4尺	6尺	7尺	8尺	
		竪枠（左右セット）	1セット	1セット	1セット	1セット	1セット	
		上枠	1本	1本	1本	1本	1本	
袋の色			ZYQD12-□		ZYQD11-□			
黄	47mm φ3.8mm	躯体接合金具用ビス	5本	5本	9本（2本あまります）	9本	9本	
		躯体接合金具用キャップ	5個	5個	9個（2個あまります）	9個	9個	
	7mm L50mm	ミニレンチ	ー	ー	1本	1本	1本	
赤	62mm φ3.8mm	組み立て専用ビス	4本	4本	4本	4本	4本	
	6mm 35mm	木ダボ	2本	2本	2本	2本	2本	
	25mm φ3.5mm	下枠ベース専用ビス	4本	4本	4本	4本	4本	
		木口シール	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚	竪枠上端用

※調整枠用のケーシングセット、下枠（下枠ベース）は別売になります。

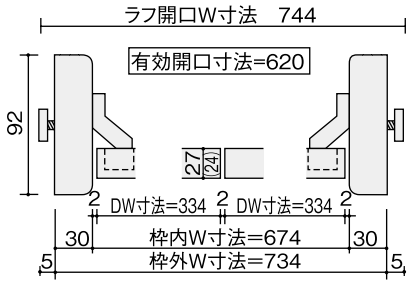
2. 納まり図

ピノアース

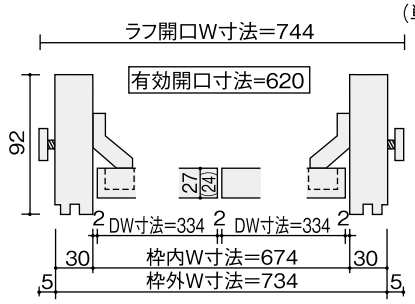
※（　）内寸法はルーバータイプの場合です。

横断面図

（単位:mm）

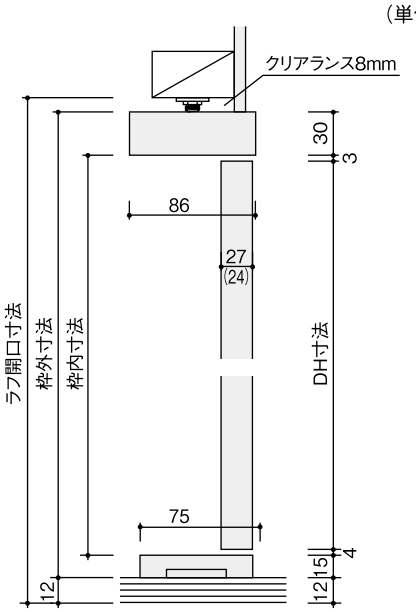


（単位:mm）

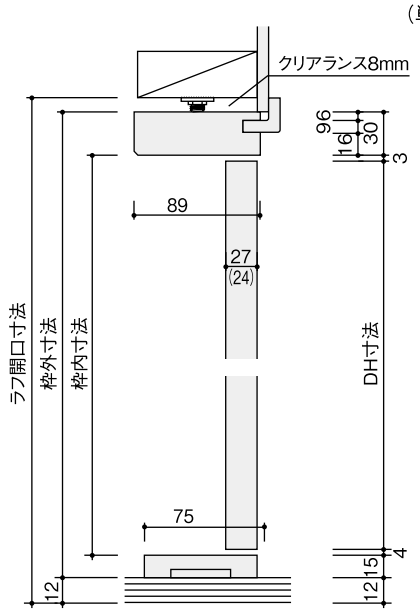


縦断面図

（単位:mm）



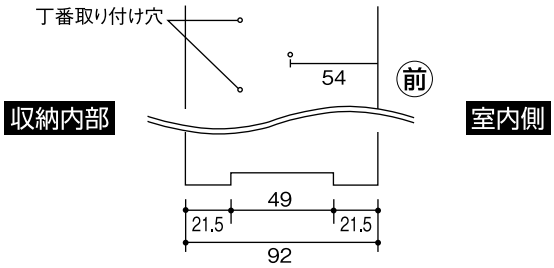
（単位:mm）



	H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
ラフ開口寸法	–	–	1,805	2,055	2,356
枠外H寸法	832	1,187	1,785	2,035	2,336
枠内H寸法	787	1,142	1,740	1,990	2,291
DH寸法	780	1,135	1,733	1,983	2,284

竪枠下端加工図

（単位:mm）



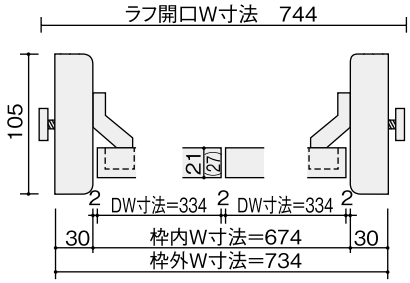
収納両開き戸専用枠材

グランステージ・ソフトアート

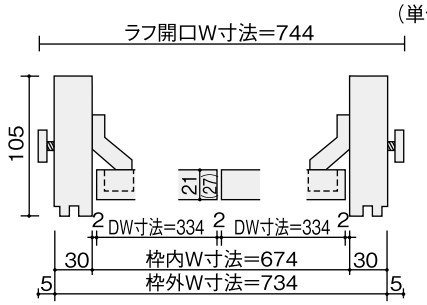
※（　）内寸法はグランステージの場合です。

横断面図

（単位:mm）

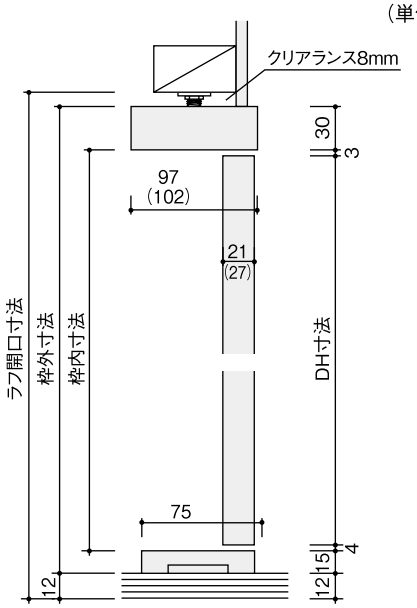


（単位:mm）

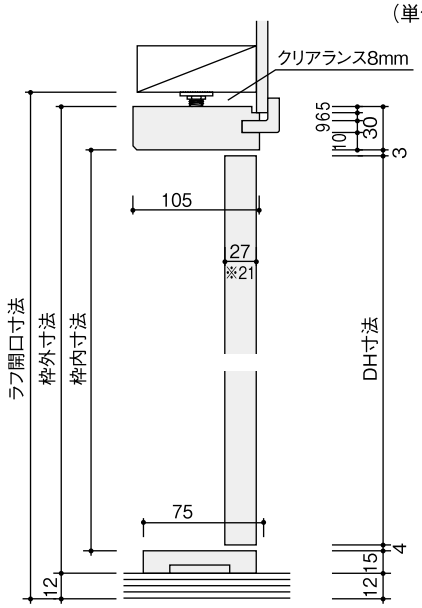


縦断面図

（単位:mm）



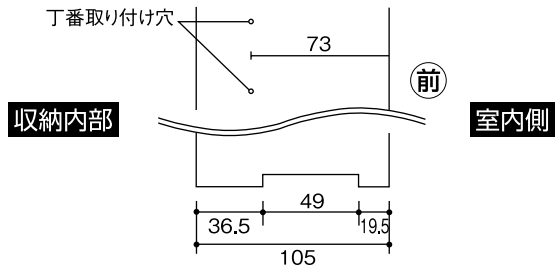
（単位:mm）



	H=3尺	H=4尺	H=6尺	H=7尺	H=8尺
ラフ開口寸法	–	–	1,805	2,055	2,356
枠外H寸法	832	1,187	1,785	2,035	2,336
枠内H寸法	787	1,142	1,740	1,990	2,291
DH寸法	780	1,135	1,733	1,983	2,284

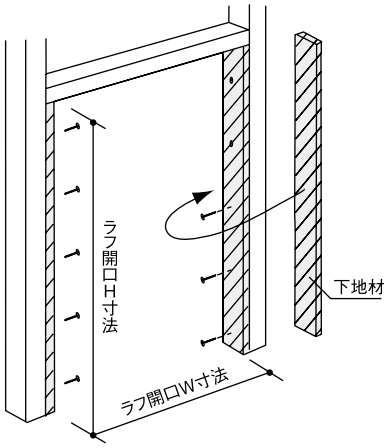
竪枠下端加工図

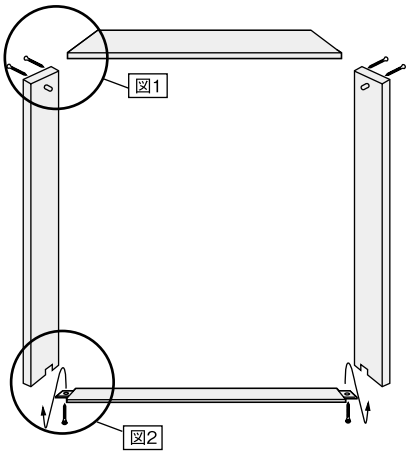
（単位:mm）

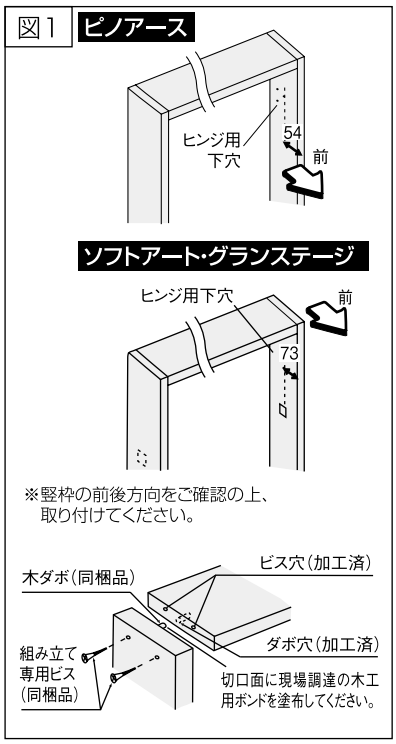


3. 施工手順

取り付け開口部の確認・枠材の組み立て



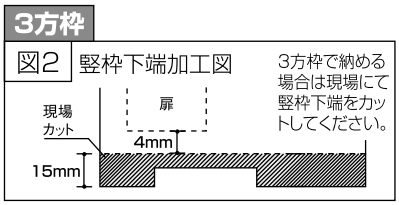




開口部に下地材を取り付け、
納まり図参照の上、枠外寸法に
見合ったラフ開口を設けてください。

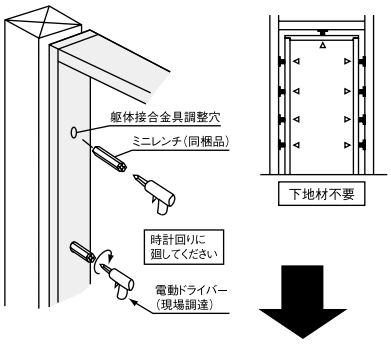
⚠ 注意

裏面・左吊・右吊 印字確認後、枠の組み立てを行ってください。



枠材の仮固定・本固定

枠材の仮固定（H=6・7・8尺の場合）

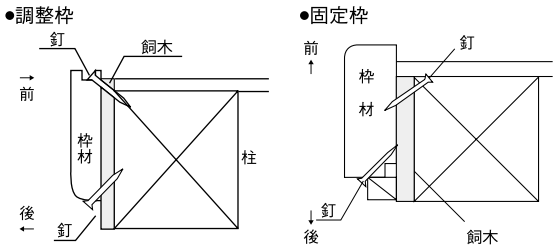


※H=6尺の場合、竪枠の躯体接合金具は3個となります。

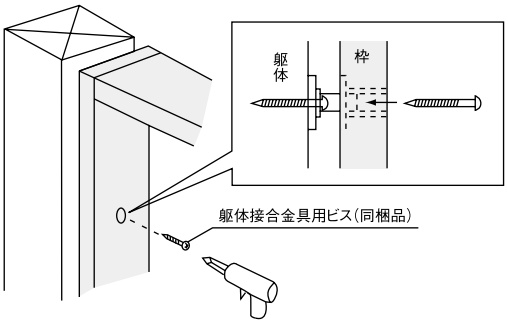
※ピノアース・ジュピーノ、H=3尺、H=4尺は鴨居にのみ躯体接合金具が装着されています（グランステージ・ソフトアートは、H=3尺、H=4尺には躯体接合金具は装着されていません）

枠材の本固定（H=3・4尺の場合）ピノアース

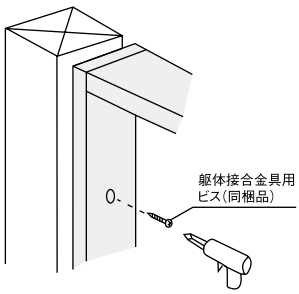
飼木（クサビ）のある位置にケーシング溝および躯体裏面より現場調達の釘で固定します。

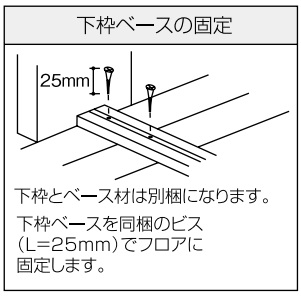


枠材の本固定（H=6・7・8尺の場合）



枠材の本固定（H=3・4尺の場合）グランステージ・ソフトアート



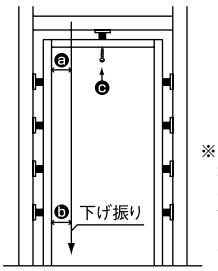


収納両開き戸専用枠材

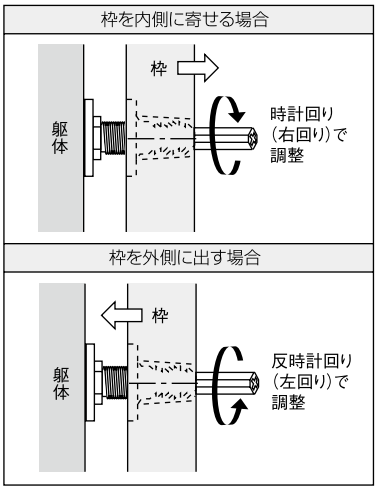
建て付け調整と鴨居の本固定

H=6･7･8尺の場合

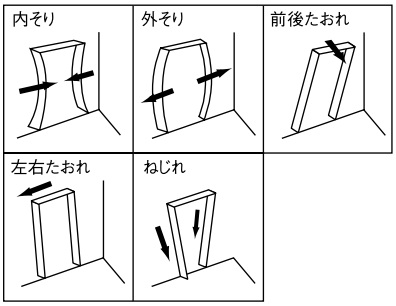
- ●ⓐ=ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ●ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。



※H=6尺の場合、竪枠の躯体接合金具は3個となります。

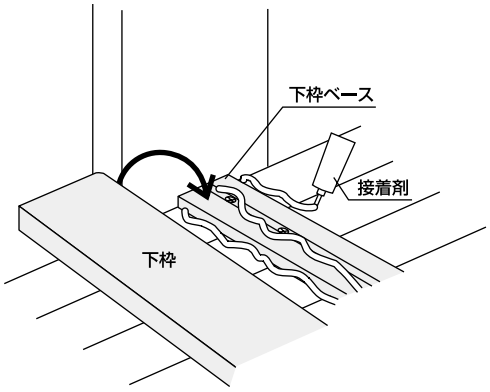


※下記の様なことがないようご注意ください。

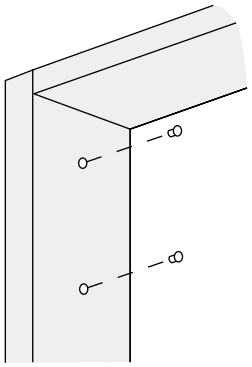


下枠の取り付け（4方枠の場合）、キャップの取り付け

フロアの上に下枠を接着剤併用にてしっかりと固定して下さい。



竪枠･鴨居の躯体接合に、付属のキャップを差し込みます。



⚠ 注意

躯体接合金具は基本H=6尺以上に装着していますが、ピノアースの3尺、4尺には鴨居のみ躯体接合金具が装着されています。

ケーシングの取り付け（調整枠の場合のみ）

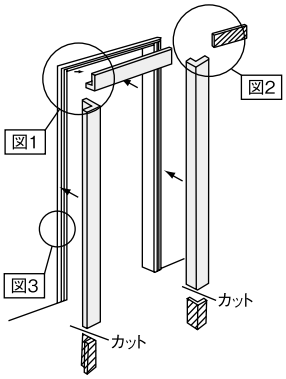


図1･図2

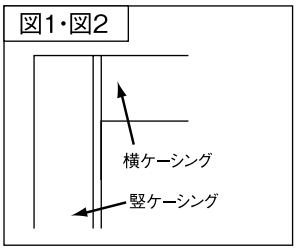
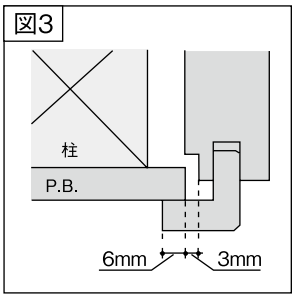


図3



施工終了後

養生 当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

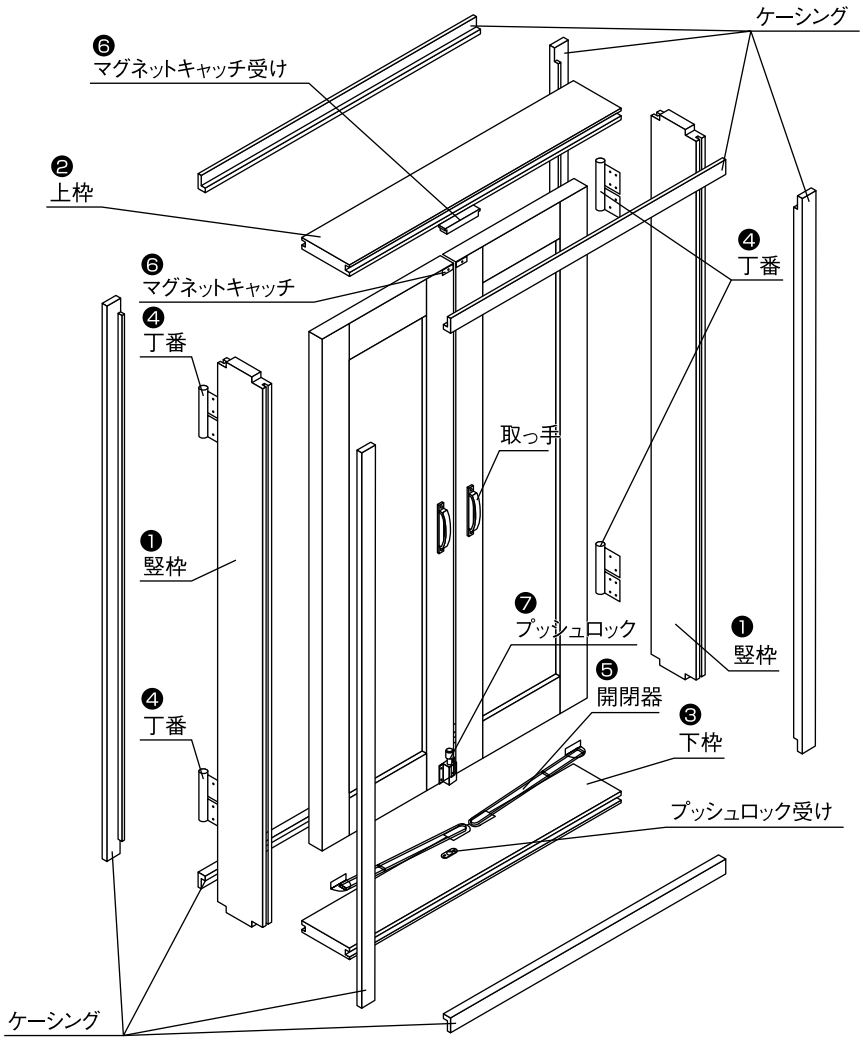
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

吹き抜け窓

1. 開梱

梱包を開いたら、本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

吹き抜け窓本体(別梱)

	部材名	数量	備　考
	扉	2枚	召し合わせ付 1枚
📖	使用説明書	1部	必ずお施主様に渡してください。

取っ手(別梱)

	部材名	数量	備　考
	取っ手	2本	取り付けビス同梱

ケーシングセット(別梱)

	部材名	数量	備　考
	ケーシング(縦用)	4本	正寸カット済
	ケーシング(横用)	4本	正寸カット済

吹き抜け窓枠材セット

	部材名	数量	備　考
❶	竪枠	2本	正寸カット済
❷	上枠	1本	正寸カット済
❸	下枠	1本	正寸カット済
❹	丁番セット	1セット(4入)	取り付けビス同梱
❺	開閉器	2セット	金具セット
❻	マグネットキャッチ(受けセット)	1セット	金具セット
❼	プッシュロック	1セット	金具セット
	組み立て専用ビス	8本	ビスセット
	木ダボ	4本	ビスセット
	躯体接合金具用ビス	5本	ビスセット
	キャップ	5個	ビスセット
	ミニレンチ	1本	ビスセット
📖	施工説明書	1部	

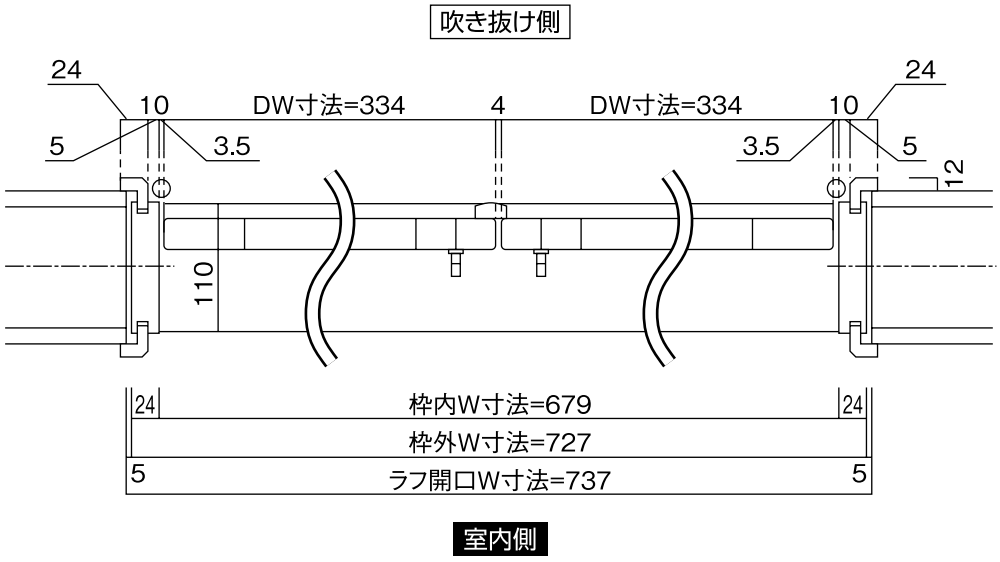
吹き抜け窓

2. 納まり図

本体に躯体接合金具が付いているため、下記のラフ開口に準じた施工をお勧めします。

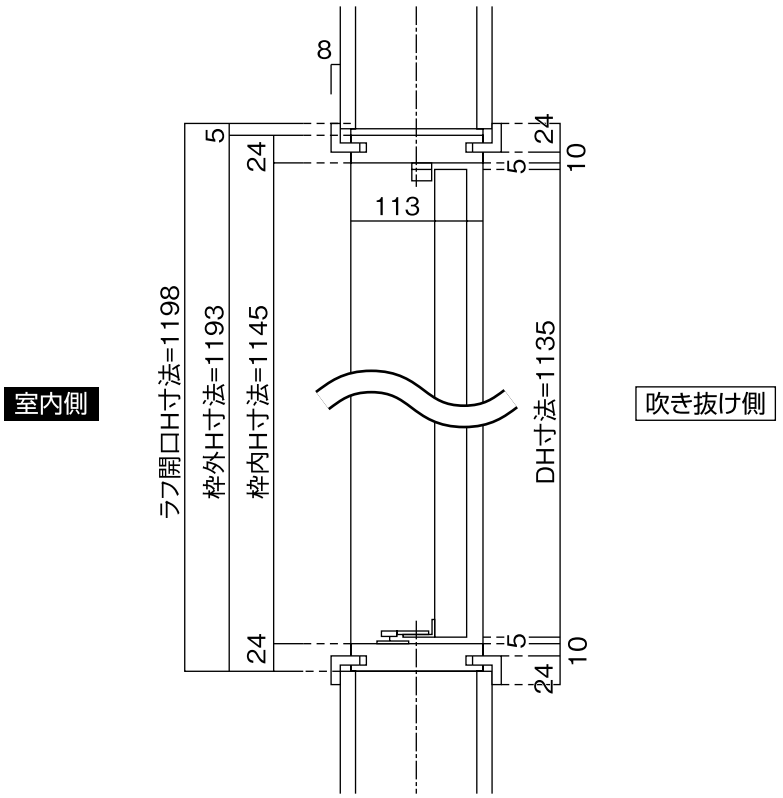
横断面図

（単位:mm）



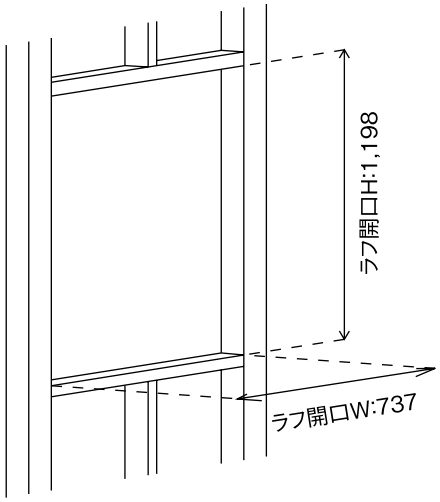
縦断面図

（単位:mm）



3. 施工手順

取り付け開口部の確認

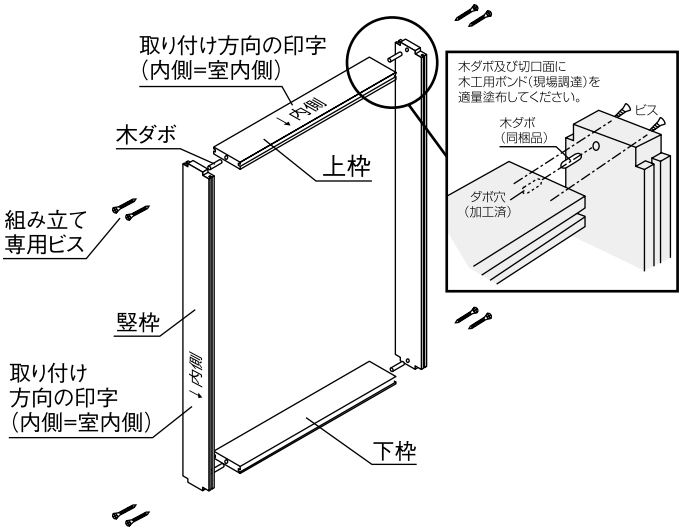


ラフ開口寸法（H:1,198mm、W:737mm）の寸法を確認してください。柱の垂直、床、まぐさの水平を下げ振り、水準器でよく確認、調整をしてください。

⚠ 注意

転落防止のため、吹き抜け両開き戸は床面から800mm以上（3階以上に設置の場合は1,100mm以上）の高さに設置ください。

枠材の組み立て



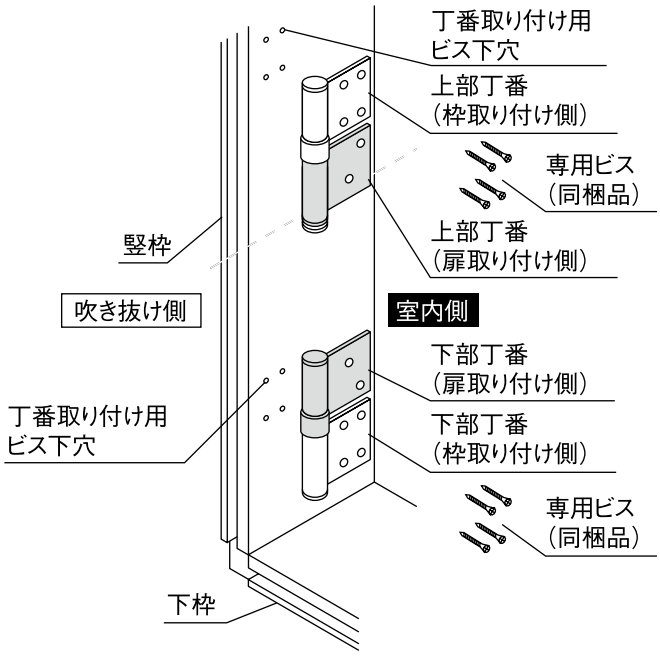
竪枠及び上枠、下枠の各部材裏面に取り付け方向が印字されています。矢印の内側が室内側となります。取り付け方向を揃えて木ダボと組み立て専用ビスで固定してください。

⚠ 注意

各枠材裏面に取り付け方向が印字されています。

枠材への金具の取り付け

組み立てた枠材の上下を確認してください。上枠には中央に躯体調整金具が付いています。室内側から見て丁番の左右を確認（枠丁番裏面には上下左右を表すシールが貼ってあります）し、同梱のビスで固定してください。
固定位置は丁番取り付け用のビス下穴にならってください。

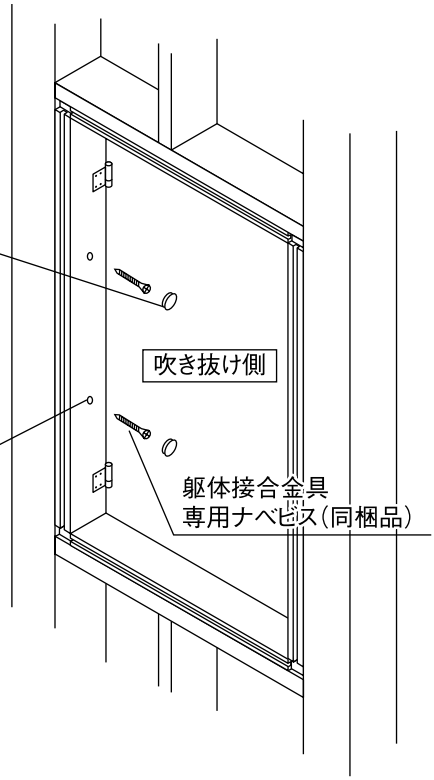


吹き抜け窓

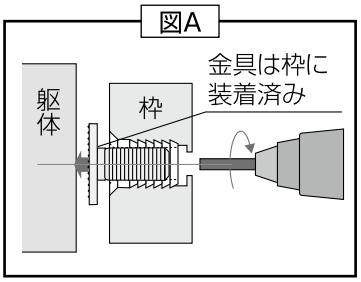
枠材を開口部へ取り付け

ラフ開口寸法（ 取り付け開口部の確認 参照）のでた開口部へ組み立てた枠を入れ、
躯体接合金具を躯体に突っ張らせ仮固定してください。
（図A参照）

躯体接合金具穴より同梱のビスで本固定してください。
（図B参照）



図A

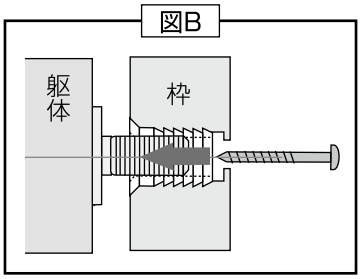


同梱のミニレンチをインパクトドライバーにチャックして、時計廻りに廻し、金具の足を柱まで伸ばします。チャックできないインパクトドライバーの場合は、ミニレンチの十字にビットを差し込んでご使用ください。

⚠注意

インパクトドライバーのトルクを強くしすぎると、金具が破損してしまうおそれがあります。

図B

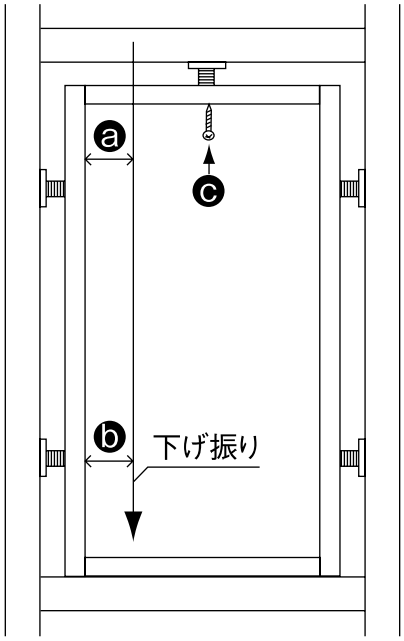


枠材表面の穴よりビスを差し込み、柱と枠を固定します。
（竪枠→調整→鴨居の順に固定します。）

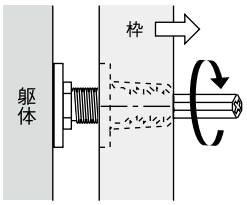
⚠注意

枠の取り付けで水平、垂直がでていない場合、扉が閉まらないなどの不具合が生じる場合があります。

- ⓐ＝ⓑとなるよう調整してください。合わせて前後の建りも調整してください。
- ⓒは建りを調整後、最後に固定してください。

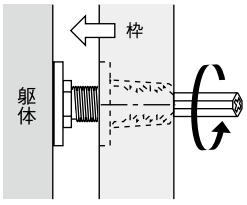


枠を内側に寄せる場合



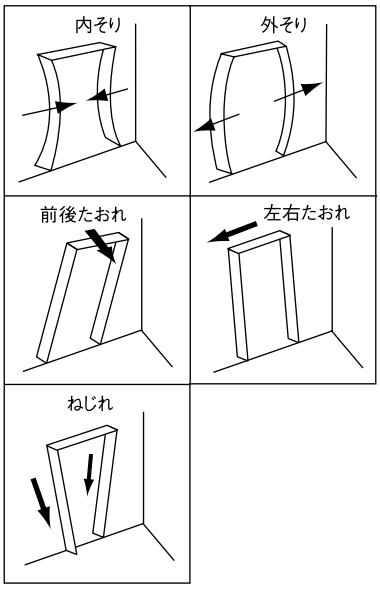
時計回り（右回り）で調整

枠を外側に出す場合



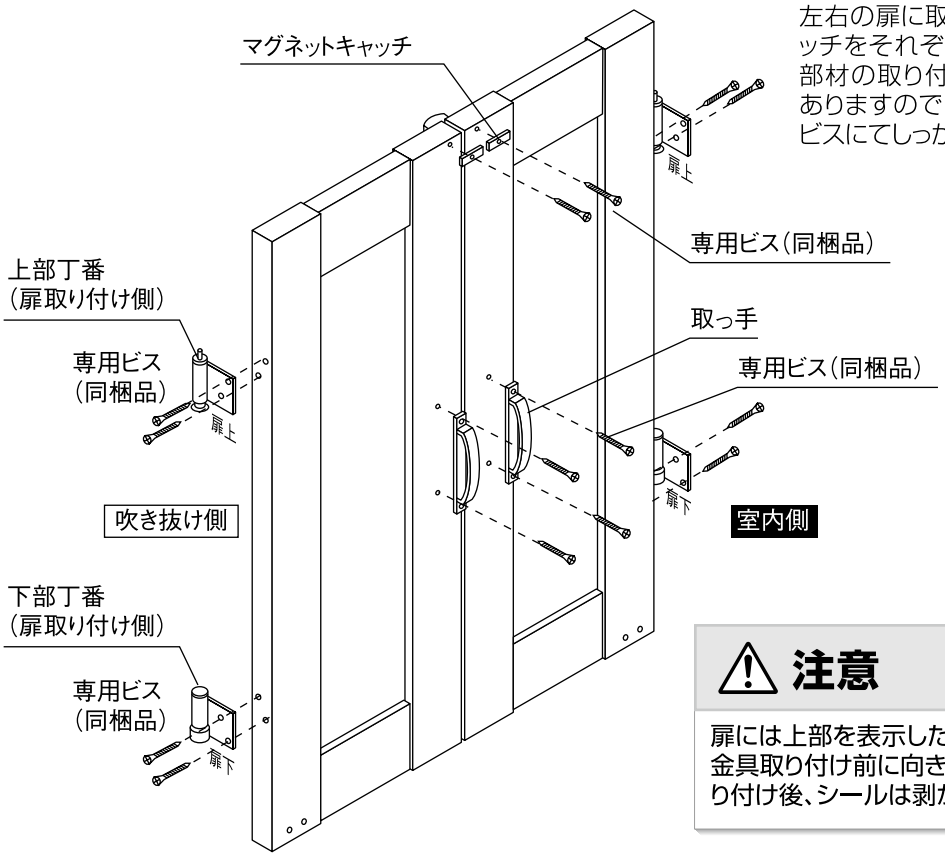
反時計回り（左回り）で調整

※下記の様なことがないようご注意ください。



扉への金具取り付け

左右の扉に取っ手、丁番、マグネットキャッチをそれぞれ取り付けてください。各部材の取り付け位置には下穴があけてありますので、下穴にならい同梱の専用ビスにてしっかりと固定してください。

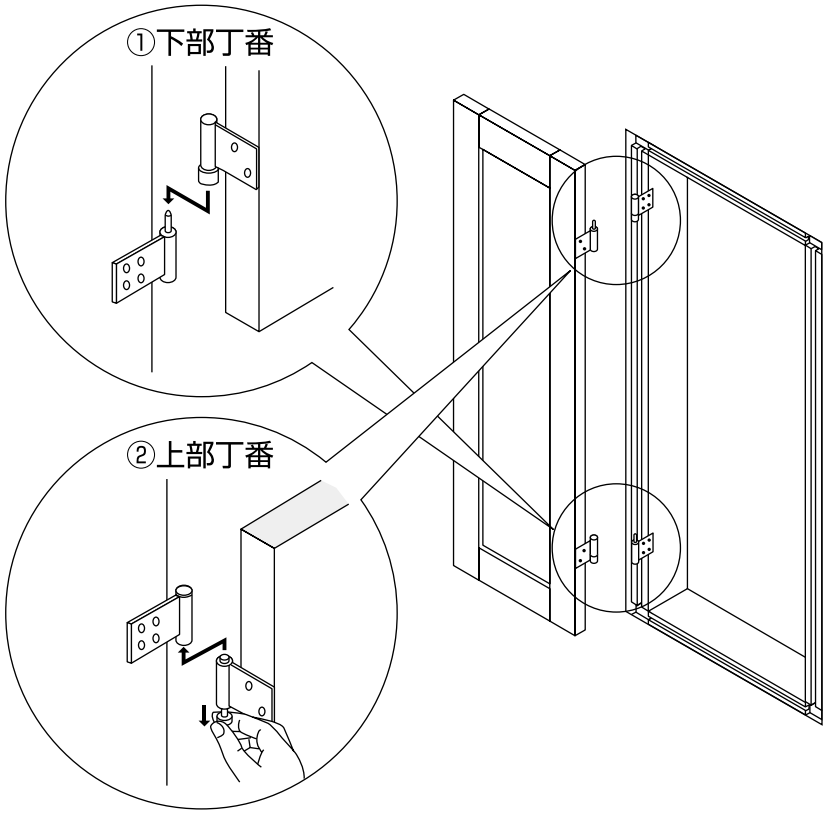


⚠ 注意

扉には上部を表示したシールが貼ってあります。金具取り付け前に向きを確認してください。取り付け後、シールは剥がしてご使用ください。

扉の吊り込み

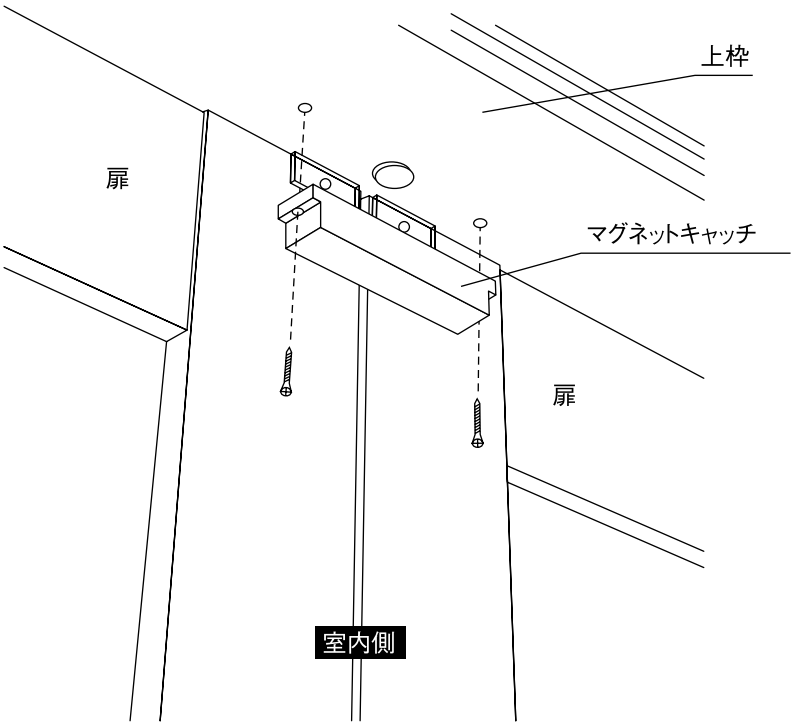
①下部丁番（扉側）を下部丁番（枠側）に差し込みます。
②しっかりと扉を持ちながら上部丁番（扉側）のツマミを下へ引きます。
芯棒が隠れますので、そのままスライドさせるように枠側の上部丁番の真下へ移動させツマミを離し、芯棒を枠側の上部丁番へ差し込みます。



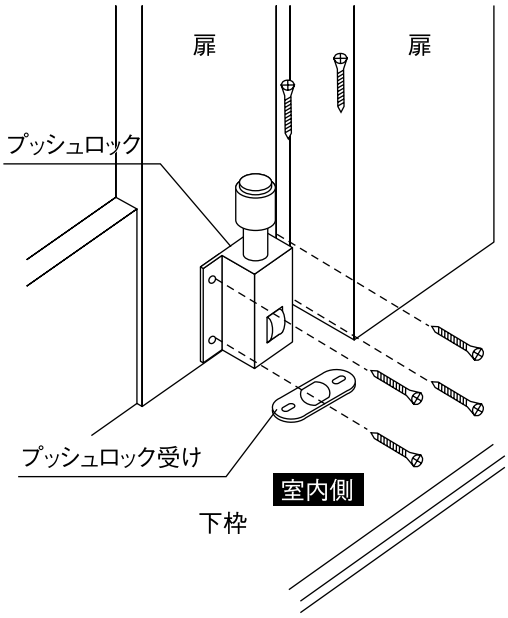
吹き抜け窓

マグネットキャッチの取り付け

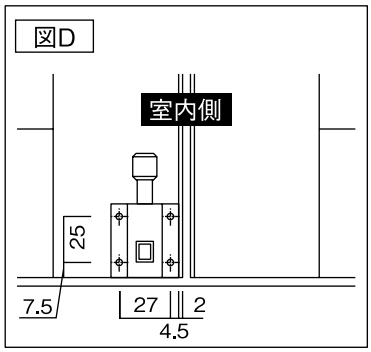
上枠の室内側にマグネットキャッチを取り付けます。
扉を閉めた状態でマグネットの方向を確認してください。扉の方にマグネットがきます。
上枠には下穴がありますので、同梱の専用ビスで固定してください。

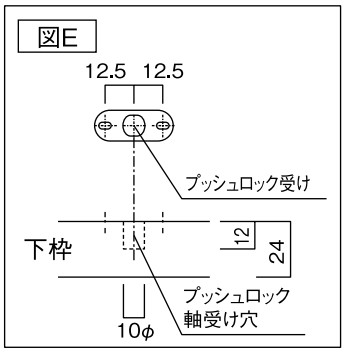


プッシュロックの取り付け



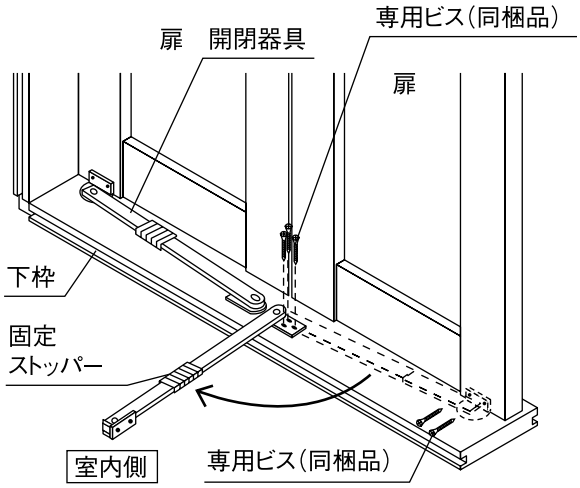
本製品にはプッシュロックが同梱されています。室内から向かって左側の扉（召し合わせ部材のついている扉）の把手下端に木口より面取り分2mmを避け、器具の下端と扉の下端をあわせて付属のビスで固定します。ビスの下穴は現場加工となりますので下穴位置は図Dをご参照ください。
プッシュロック取り付け後、扉の位置を確認してプッシュロック受けを取り付けます。プッシュロックの軸が入る位置を計測し、10φ、深さ12mm（図E参照）の非貫通穴を下枠へあけてください。穴のあいた上へプッシュロック受けを置き、位置確認後付属のビスで固定します。





開閉器具の取り付け

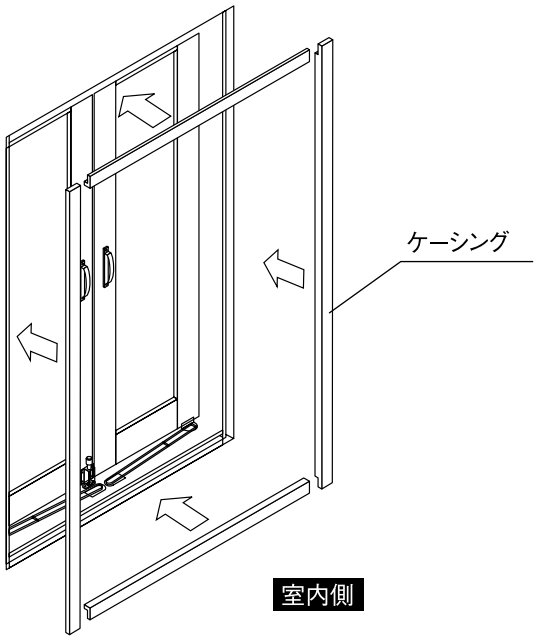
開閉器具を図のように、下枠のビス下穴の位置にあわせて附属のビスで固定します。両側の扉用開閉器をビス固定後、開閉器具を扉側に連結させます。扉にも同様にビス下穴があります。下穴位置で開閉器具を付属のビスにて固定してください。



開閉器具の固定ストッパーをスライドさせることで扉を任意の位置で固定することができます。

ケーシングの取り付け

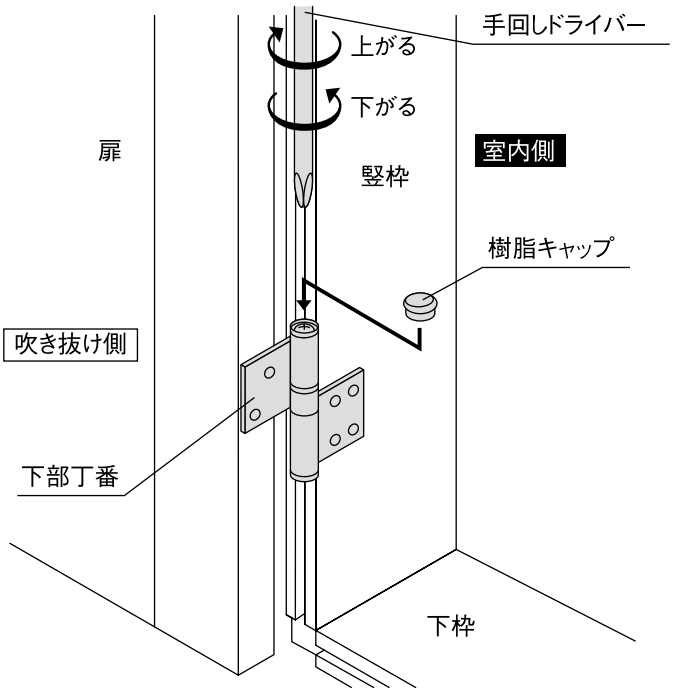
室内側、吹き抜け側にケーシングを取り付けます。ケーシングには適量の木工ボンドをつけてください。（取り付け後はみださない程度）取り付け後当て木などをして木工ボンドが固化するまで固定してください。



丁番の調整方法

上下調整

下部丁番扉側の上部についている樹脂キャップを外し、手回しのプラスドライバーで上下調整をしてください。時計方向に回すと上へ、反時計方向へ回すと下へ動きます。
調整後、樹脂キャップをはめ直し、扉を開閉させ、作動確認をしてください。



施工終了後

養　生	当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。粘着テープなどは直接商品に貼り付けないようにしてください。
お手入れのしかた	枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅くしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。 ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。 自然塗料塗装の製品については水分は厳禁です。毛羽立ち、白化、シミ等の原因となるおそれがあります。お手入れの際は必ず別売の「自然塗料お手入れワックス（グラノス）」をご使用ください。

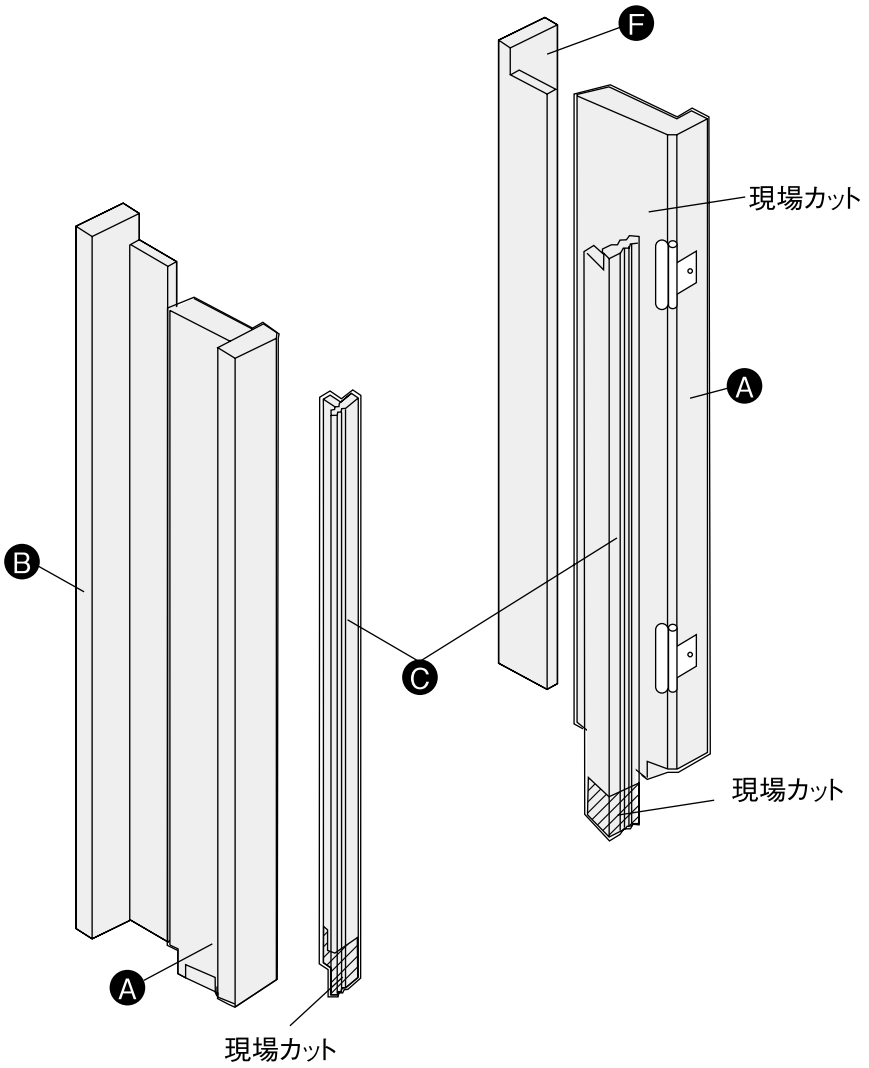
スライド枠（天井ジャスト開きドア専用枠材）

1. 開梱

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図

シングルドア



梱包内訳表

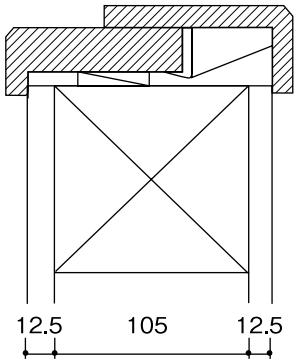
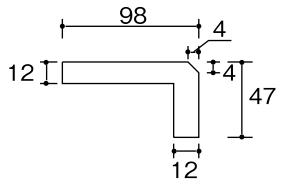
枠材本体

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	竪枠	2本	正寸カット済、丁番付×1、ラッチ受付×1
	施工説明書	1部	
	ケーシング止め用ビス	8本	ケーシング用ビス含む（ビスセット）
	竪枠固定ビス	8本	（ビスセット）

ケーシングセット（別売品）

	部材名	数量	備　考
Ⓑ	ケーシング	2本	正寸カット済
Ⓒ	戸当りキャップ	2本	現場カット
	固定材	6個	ビス同梱

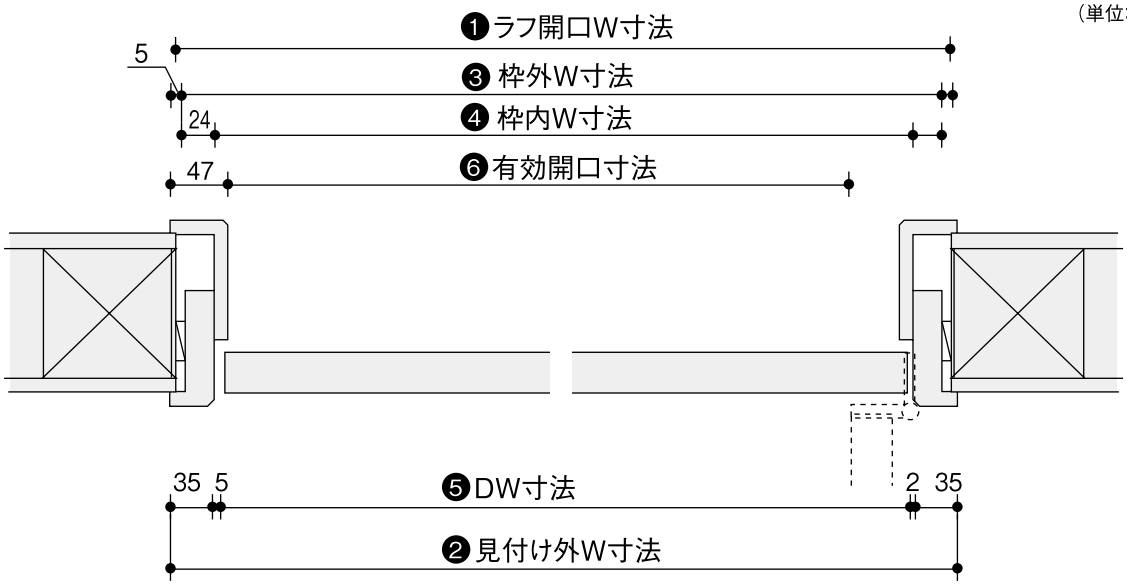
ケーシングの種類と壁厚納まり

	在来工法
ケーシング図 及び 壁厚納まり （参考例）	 壁厚:130mm限定 （ケーシング） 

2. 納まり図

横断面図

（単位:mm）



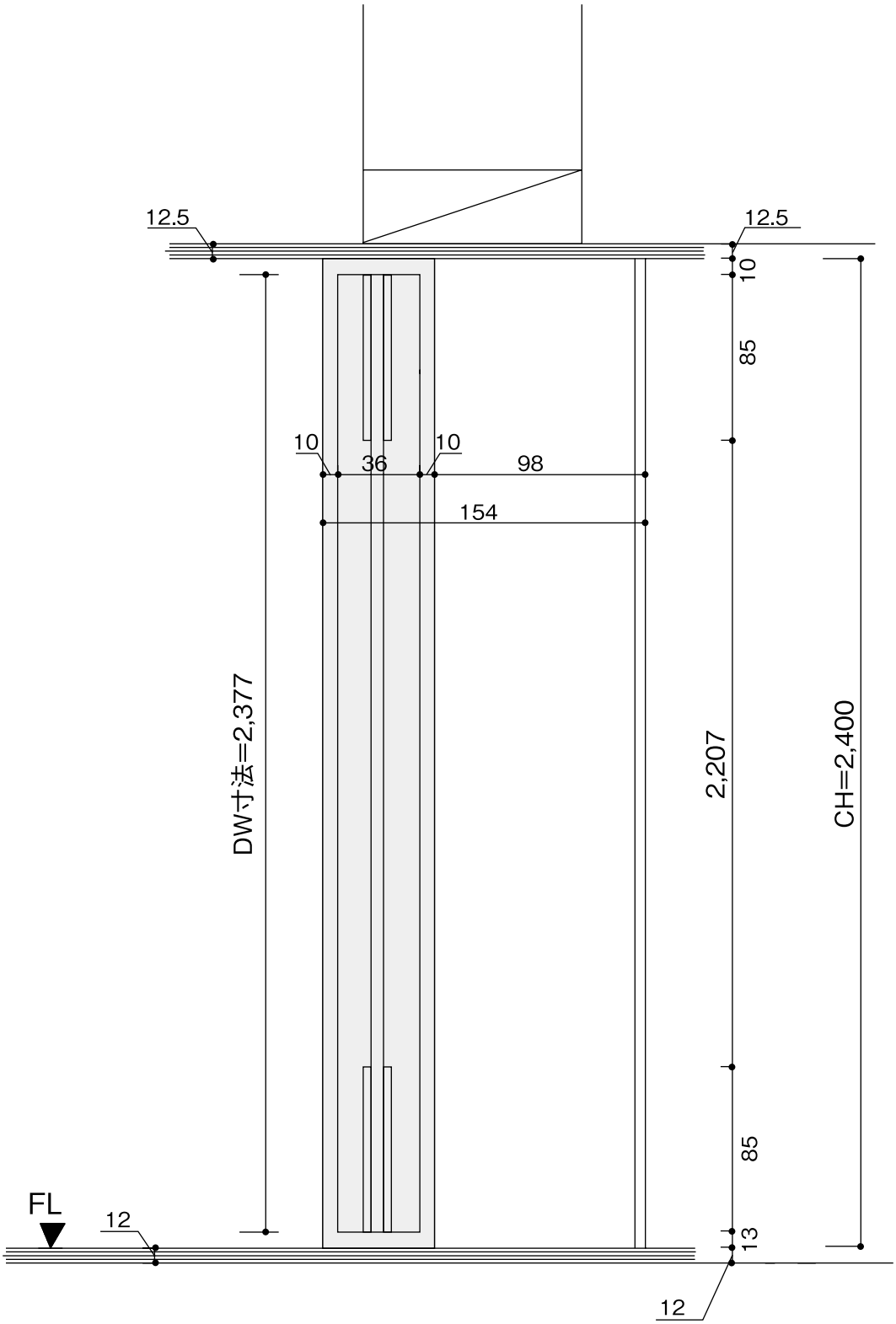
■枠製品寸法と納まり

	778	758
❶ ラフ開口W寸法	788	768
❷ 見付け外W寸法	800	780
❸ 枠外W寸法	778	758
❹ 枠内W寸法	730	710
❺ DW寸法	723	703
❻ 有効開口寸法	653	633

スライド枠（天井ジャスト開きドア専用枠材）

縦断面図

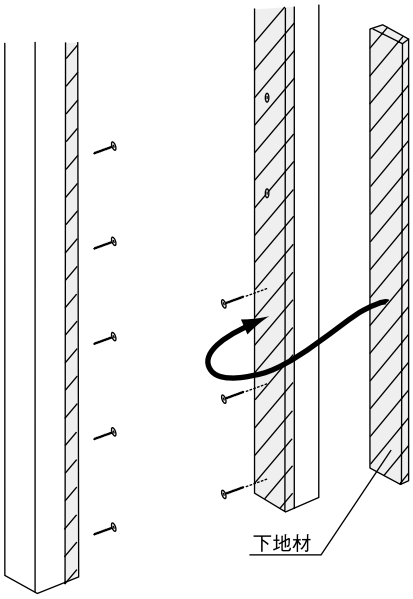
（単位:mm）



3. 施工手順

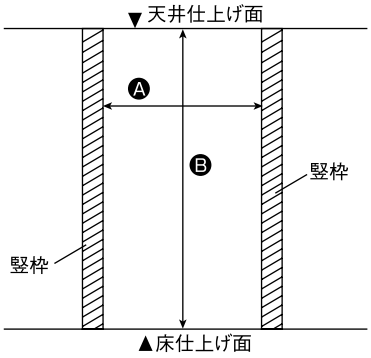
取り付け開口部の確認

●取り付け開口部の確認



納まり図を確認のうえ、枠材寸法に見合った**開口**を設けてください。

重要



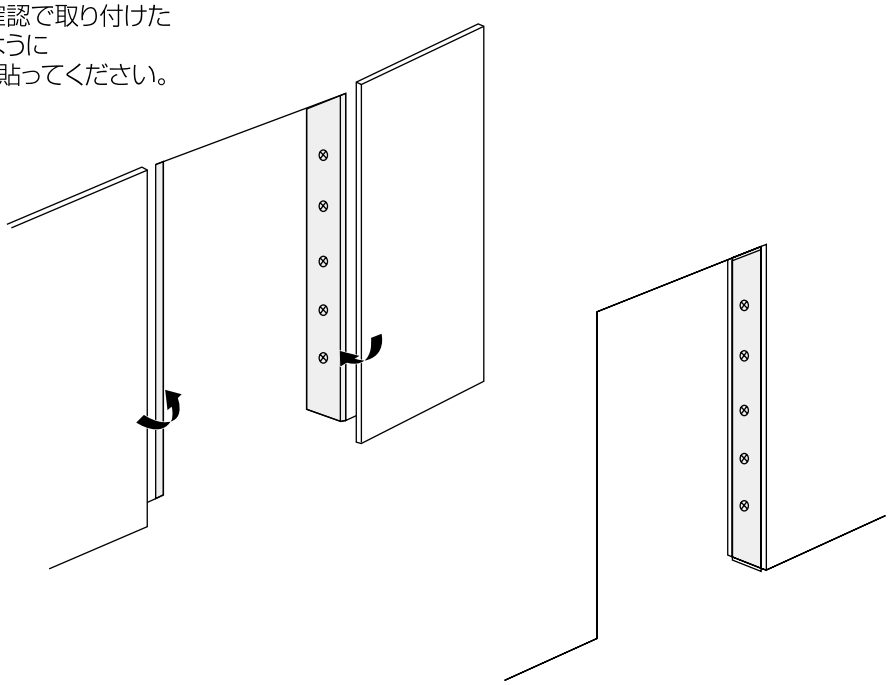
Ⓐ枠内寸法が納まり図と同寸法になるように開口を仕上げてください。
Ⓑ床仕上げ面から天井仕上げ面までがH=2400mmになるように仕上げてください。

⚠ 注意

Ⓐ・Ⓑ寸法が守られないと、ドアが納まらなくなる可能性があります。

プラスターボードの先貼り

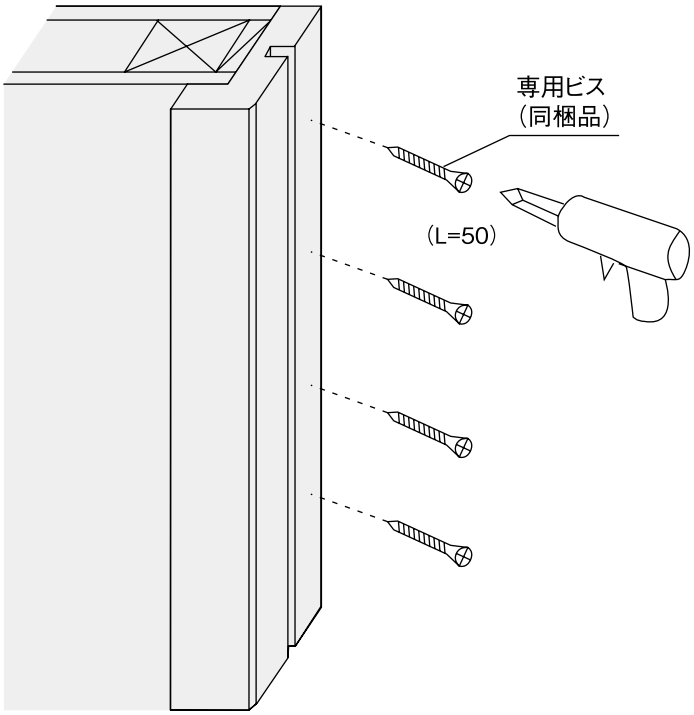
取り付け開口部の確認で取り付けた下地面で仕上がるように
プラスターボードを貼ってください。



スライド枠（天井ジャスト開きドア専用枠材）

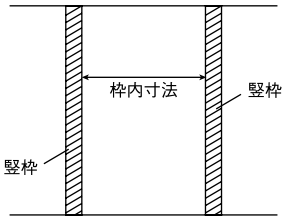
本体枠の取付け・建て付け調整

竪枠を同梱のビスで取り付けてください。

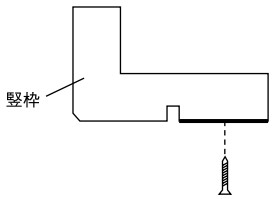


⚠ 注意

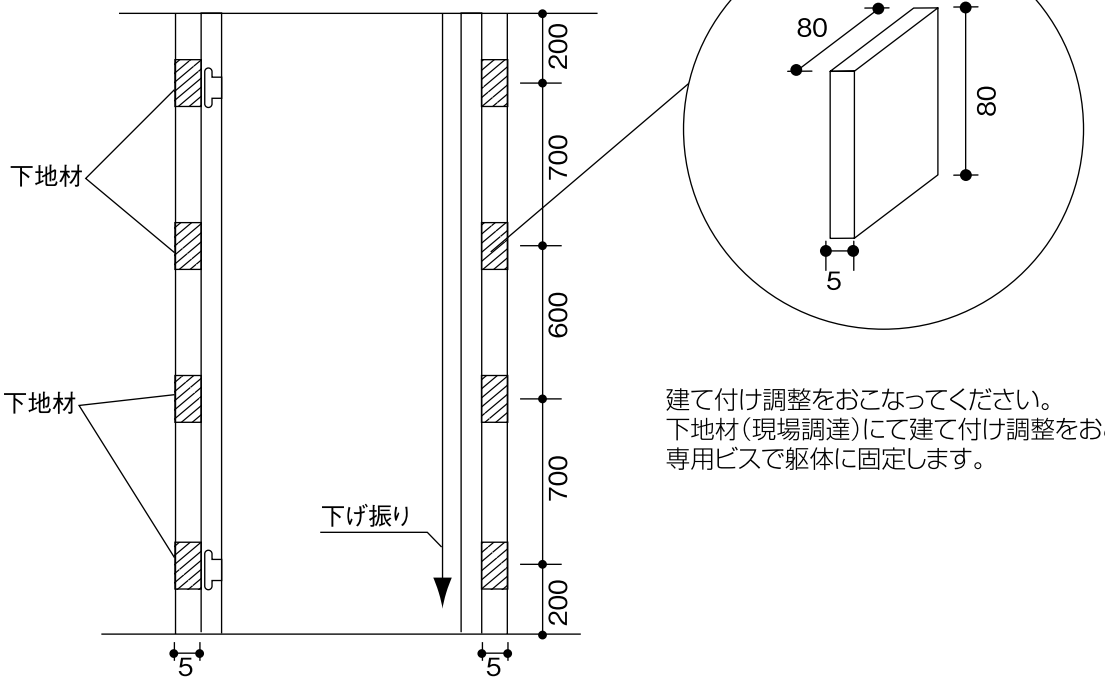
竪枠を取り付けるときは、納まり図をよく確認し、枠内寸法を確保してください。枠内寸法が異なっていると、ドアが取り付かない可能性があります。



ビスはケーシングで隠れる場所に打ち込んでください。



下地材の取付け位置



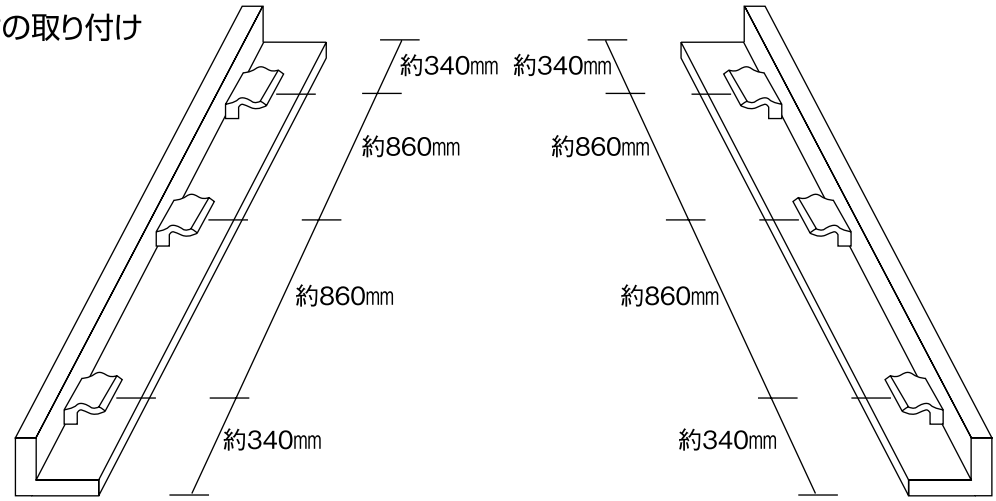
建て付け調整をおこなってください。
下地材（現場調達）にて建て付け調整をおこない、専用ビスで躯体に固定します。

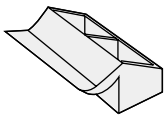
お願い

竪枠には上下があります。取り付け前に必ずご確認ください。

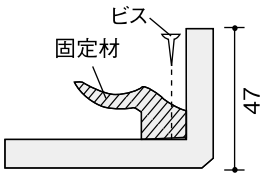
ケーシング枠の取り付け

（1）固定材の取り付け





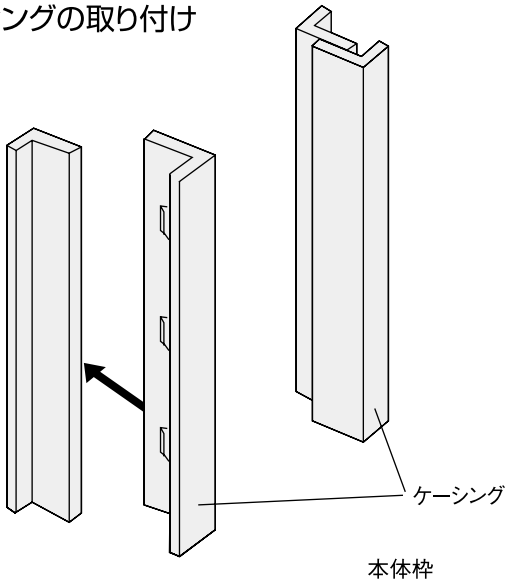
固定材（専用ビス付）

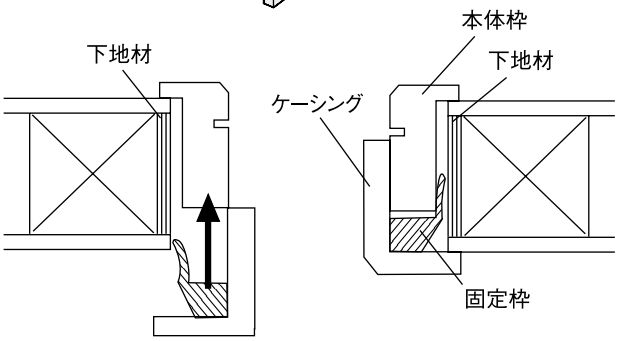


⚠ 注意

固定材はケーシングを本体枠にはさみ込み仮固定させるためのものです。必ずケーシングを取り付ける前に取り付けてください。

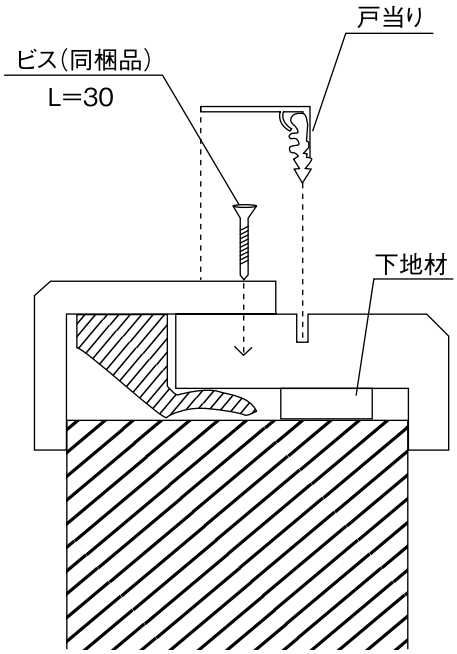
（2）ケーシングの取り付け





ケーシングは本体枠へはさみ込むようにして取り付けます。

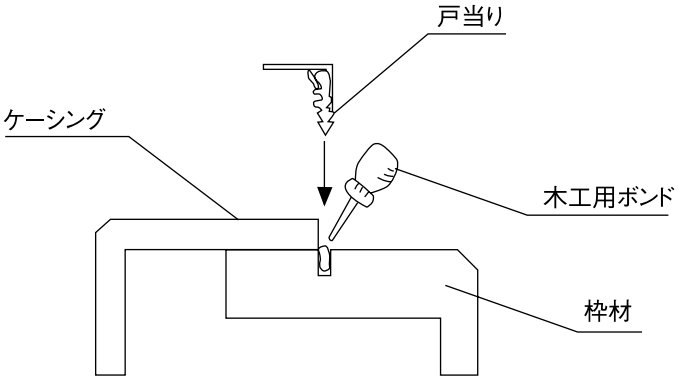
（3）ケーシングのビス固定



戸当りのかくれしろで、ビス止めをしてください。

スライド枠（天井ジャスト開きドア専用枠材）

戸当りの取り付け



木工用ボンドをつけて枠材に戸当りを差し込みます。
ラッチ側にゴム付戸当り、丁番側にゴム無し戸当りをつけます。

施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

スライド枠（クローゼットドア専用枠材）

1. 開梱

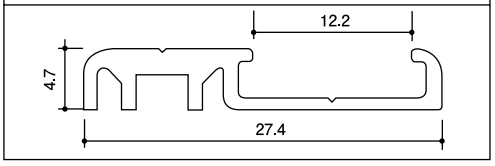
開梱したら数量に不足および損傷等の問題がないかを確認してください。
製品の水漏れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

梱包内容表

	部材名		床直付けレール					レール無し		
			3尺	4尺	6尺	9尺	12尺	3尺	4尺	6尺
	枠材	竪枠	2本					2本		
		鴨居	1本					1本		
	レール	上レール	1本					1本		
		床直付けレール	1本							
	上下ランナー	上ランナー	2個	3個	4個	6個	8個	2個	3個	4個
		下ランナー	2個	3個	4個	6個	8個	1個	2個	2個
		下ベースインナー								2個
		下ガイド軸						1個		
	キャッチャー	上固定ストッパー	1個	2個				1個	2個	
		下固定ストッパー	1個	2個						
		下固定ストッパーNR						1個	2個	
		下ガイド受け						1個		
	片扉用金具	片扉マグネット上（レール付）		1個					1個	
		片扉マグネット下（扉付）		1個						
		片扉ストッパー		1個					1個	
	その他	めし合せ								1セット
		木ダボ	4本					4本		
		ミニレンチ	1本					1本		
		躯体接合金具キャップ	8個					8個		
	ビス	上レール用ナベビス	3本	4本	5本	7本	9本	3本	4本	5本
		下レール用サラビス	3本	4本	5本	7本	9本			
		組立て専用ビス	6本					2本		
		躯体接合金具ビス	9本		10本	12本	14本	7本		8本

※片扉用金具・めし合せは扉本体に取り付けます。扉を取り付けるまで大切に保管しておいてください。

床直付けレール詳細図



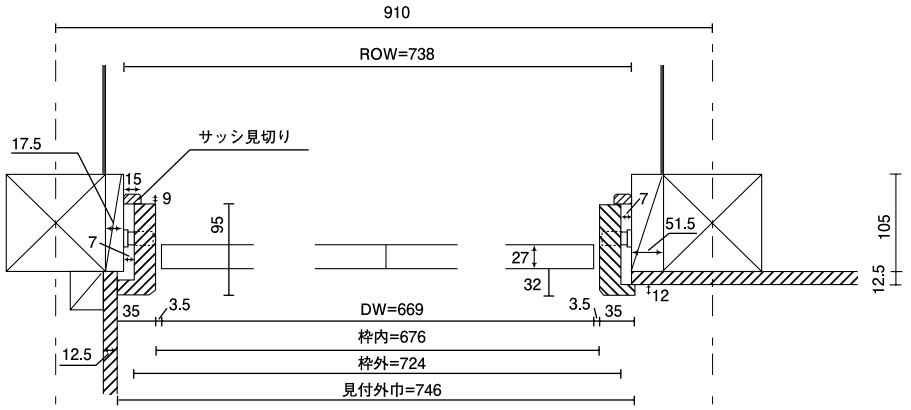
スライド枠（クローゼットドア専用枠材）

2. 納まり図

横断面図及びラフ開口W寸法

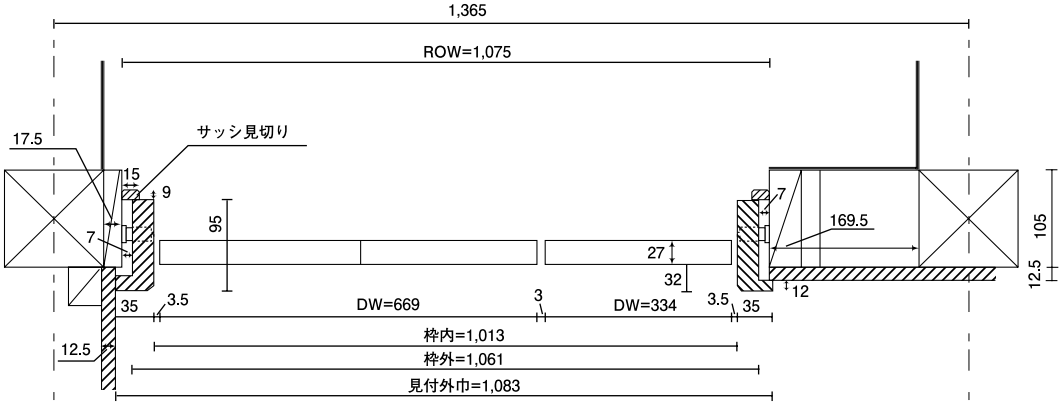
W=3尺

（単位 :mm）



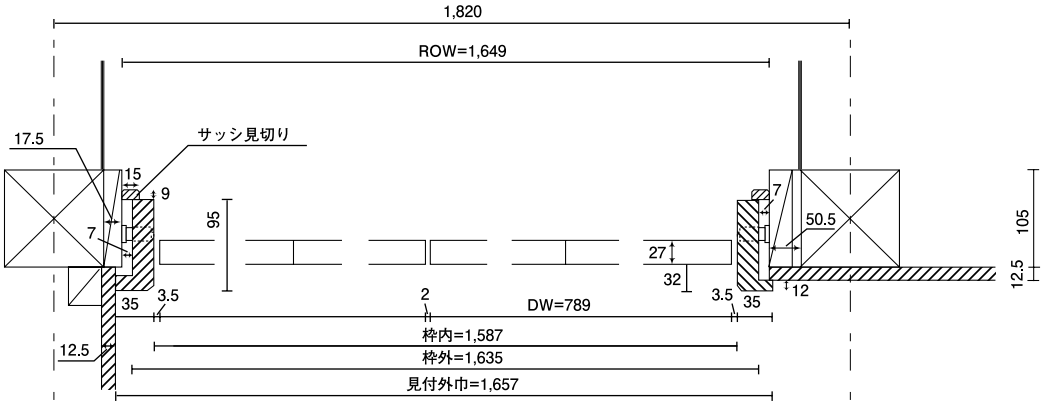
W=4尺

（単位 :mm）



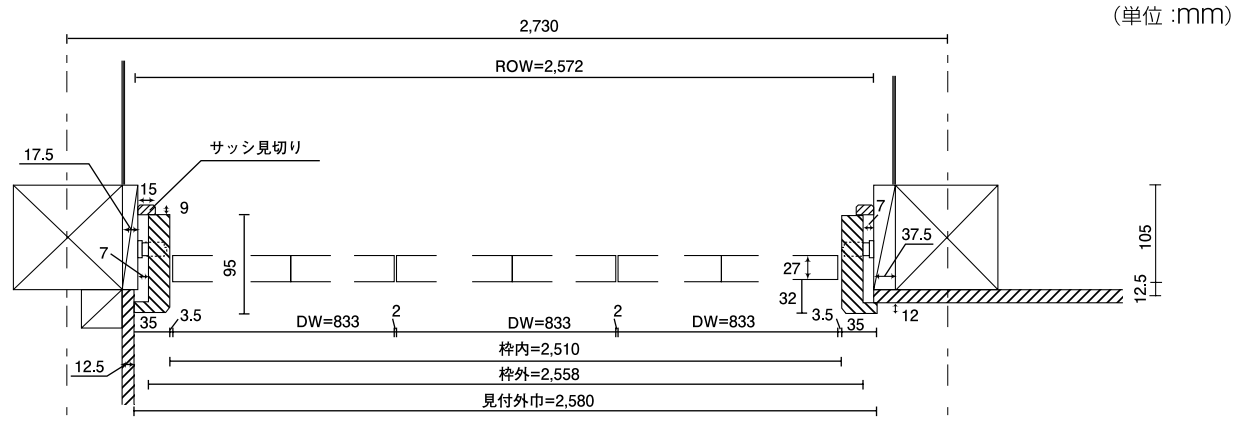
W=6尺

（単位 :mm）

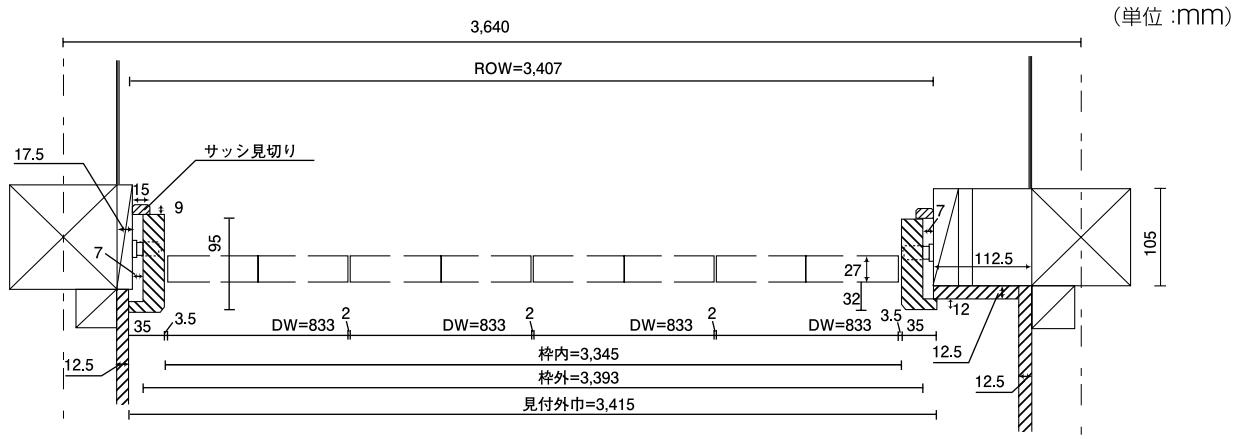


横断面図及びラフ開口W寸法

W=9尺

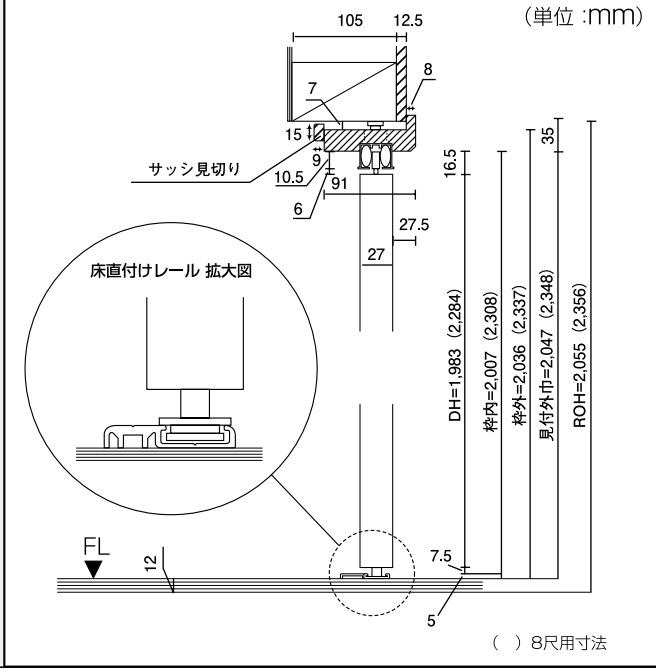


W=12尺

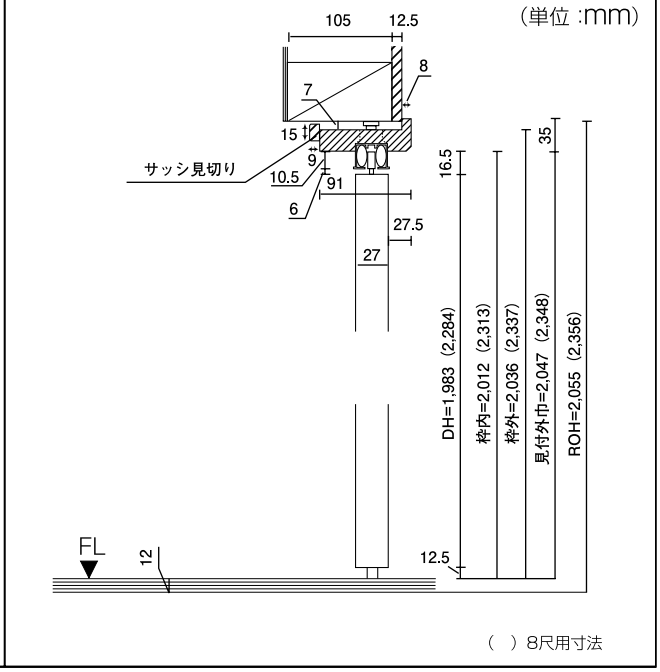


縦断面図及びラフ開口H寸法

床直付けレールタイプ



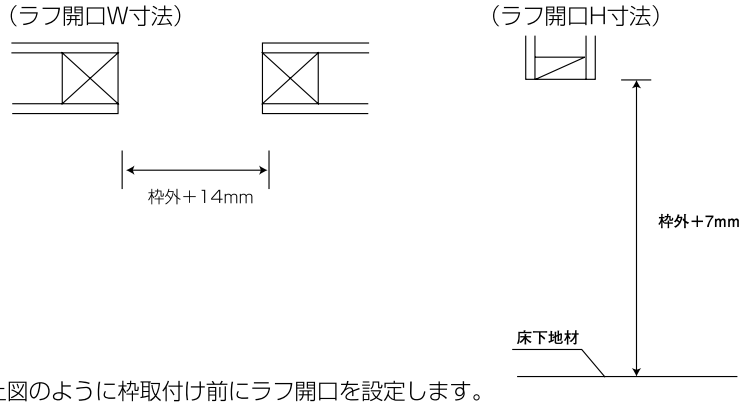
3方枠（レール無し）タイプ

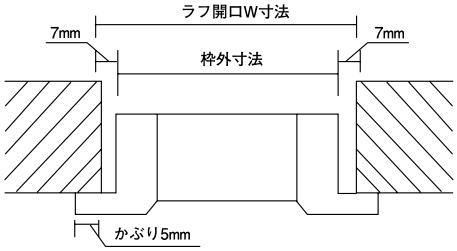


スライド枠（クローゼットドア専用枠材）

3．施工手順

ラフ開口の寸法確認

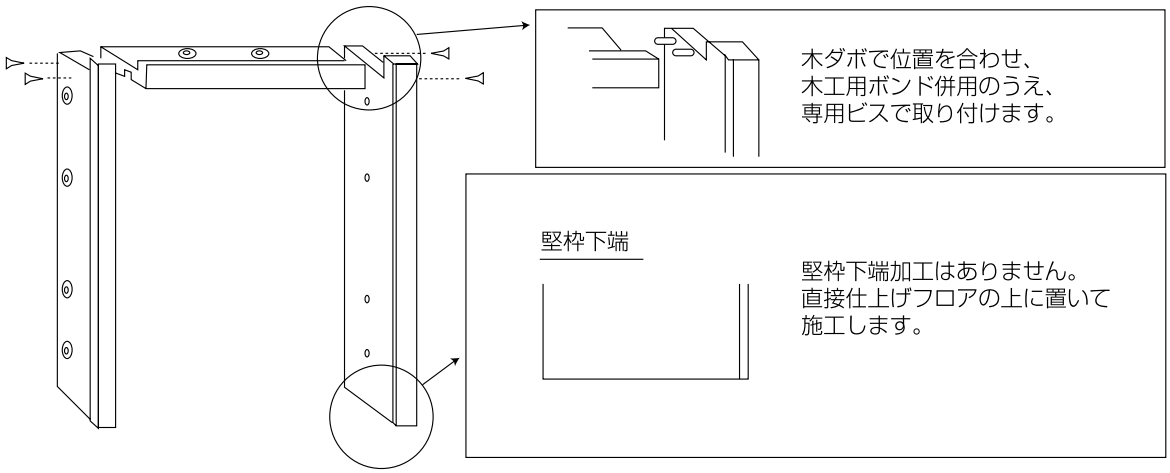




上図のように枠取付け前にラフ開口を設定します。
プラスターボードはパッキン面で仕上げてください。

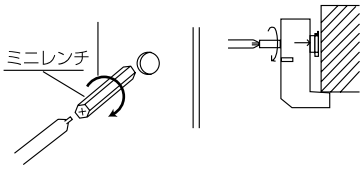
ラフ開口の目安は　W寸法…枠外＋14mm／H寸法…枠外＋7mm　で設定してください。

本体枠の組み立て



本体枠の取り付け

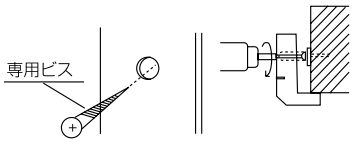
（イ）躯体接合金仮固定



同梱のミニレンチを用いて金具の足を出してやり、躯体へ接地させます。

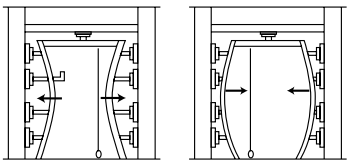
※必ず時計廻りに廻してください。
※電動ドライバー併用でお使いください。

（ロ）躯体への固定



専用ビスで固定します。

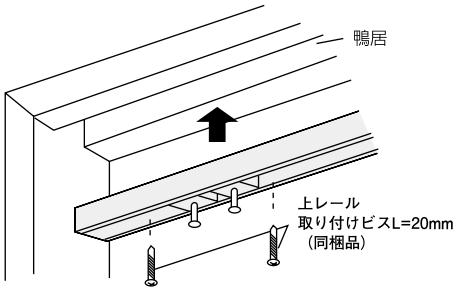
（ハ）建てつけの調整



固定後にミニレンチを再度挿入して、金具の軸芯を廻してやることで、枠のアジャストが可能です。

上下レール取り付け

上レールの取り付け



上レール取り付けの際、鴨居に直径2mmのキリで深さ10mm程度の下穴をあけ、附属のビスを使用して取り付けます。

⚠ 注意

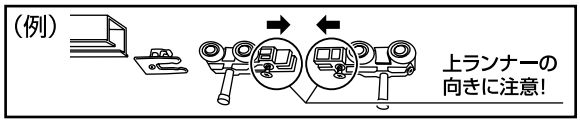
禁止

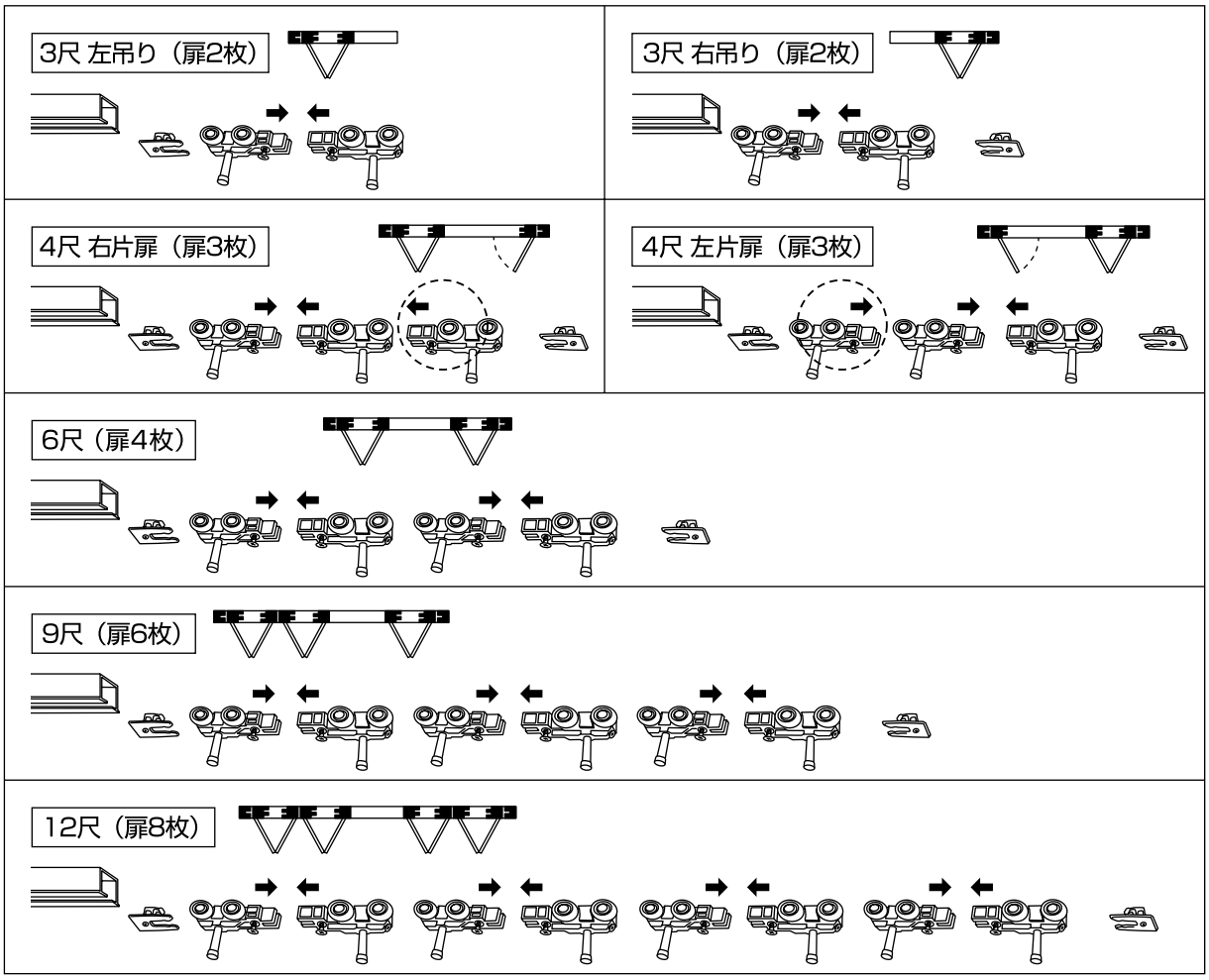
インパクトドライバーは使用しないでください。

上レール取り付けの際、インパクトドライバーは使用しないでください。ビスが空回りしレールが落下する原因となります。

上ランナー、上固定ストッパーの取り付け

※片扉が取り付く場合、上ランナーのレール挿入向きに注意してください。





※3方枠（レール無し）はW＝3尺、4尺、6尺のみになります。

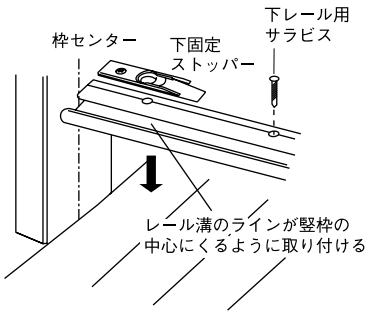
床直付レール

床直付けレールの取り付け

レール溝の中心にあるラインが枠材の中心にくるように取り付けてください。

※ビスが収納内部にくるように取り付けてください。

床直付けレールを取り付けた後、下固定ストッパーをレールの上から動かないようにしっかり固定します。

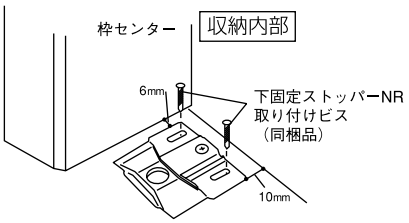


スライド枠（クローゼットドア専用枠材）

レール無し

レール無しタイプの場合の金具取り付け

※竪枠から6㎜はなし、枠の後ろ面から10㎜内側に入ったところに取り付けてください。



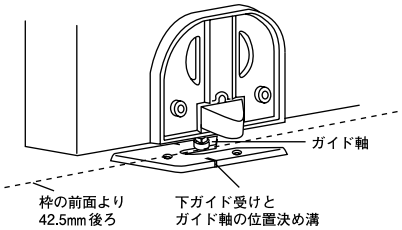
レール無し

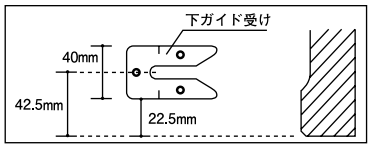
下金物取り付け（3方枠・レール無しタイプの場合）

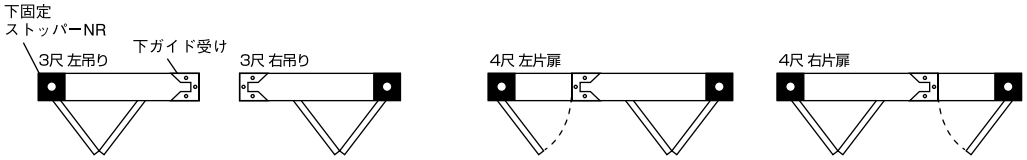
レール無しタイプ、W=3尺、4尺の場合のみ下部金具取り付け

下ガイド受け（可動側受け金具）の取り付け

扉を吊った後下ガイド受けを取り付ける際は右図のように下ガイド軸と下ガイド受けの位置決め溝をそろえるようにして床に付属のビスで取り付けてください。

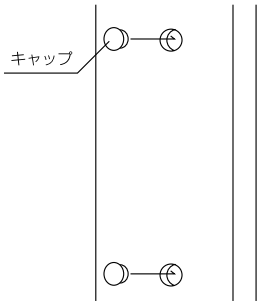






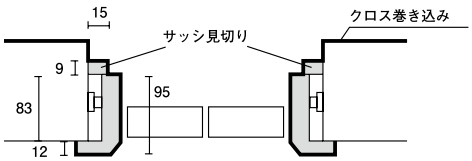
キャップの取り付け・枠裏納め

（イ）キャップの取り付け



躯体接合金具とりつけ用の穴の同梱のキャップをはめ込み仕上げてください。

（ロ）枠ウラ側の納め



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

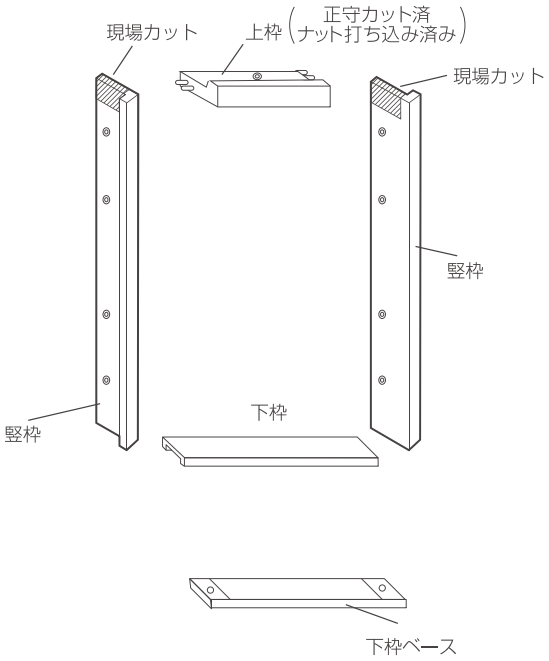
スライド枠（収納両開き戸専用枠材）

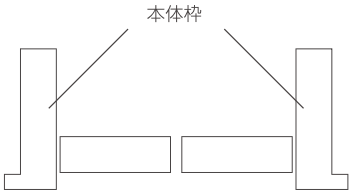
1. 開梱

開梱したら数量に不足および損傷等の問題がないかを確認してください。
製品の水漏れ等不具合があった場合は、必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

梱包内訳

本体枠セット





同梱品

施工説明書	1部
枠材組立て用専用ビス	4本
下枠ベース専用ビス	4本
木ダボ	4本
躯体接合金具	9ケ
躯体接合金具専用ビス	9本
ミニレンチ	1本

高さ4尺タイプ（階段下用）には躯体接合金具および躯体接合金具専用ビスはついておりません。

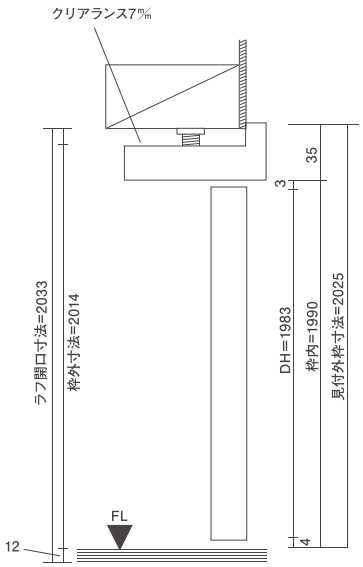
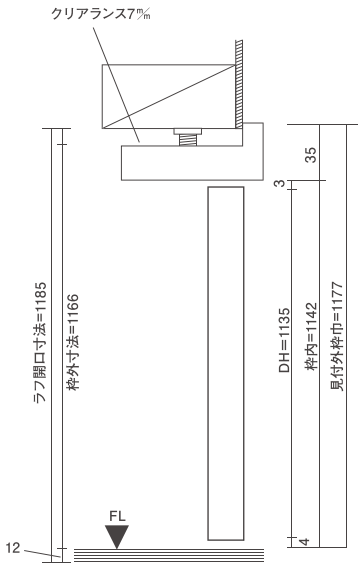
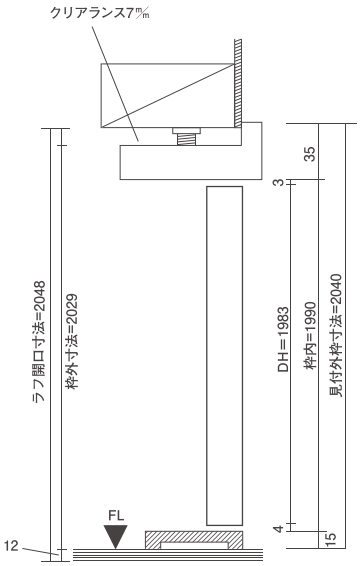
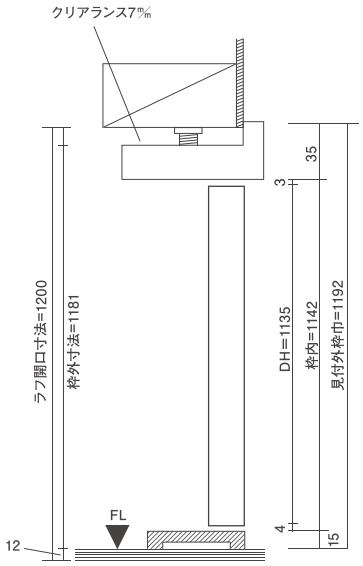
枠材

部材名	断面形状	数量
竪　枠	105, 4, 4, 35, 24, 12	2
上　枠	8, 35, 24, 101	1
下　枠（下枠ベース付）	75, 15	1

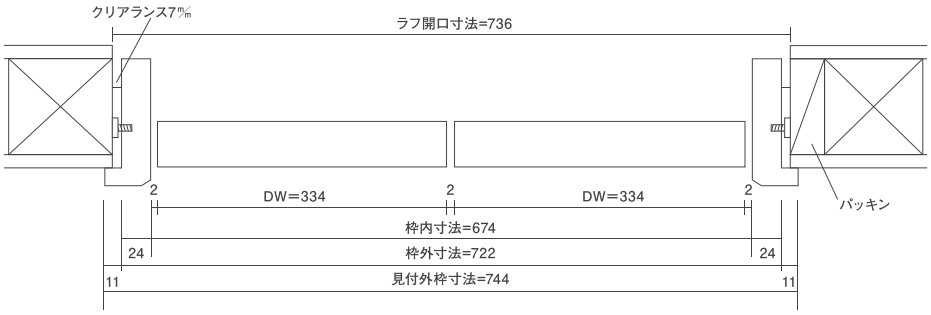
スライド枠（収納両開き戸専用枠材）

2. 納まり図

縦断面図

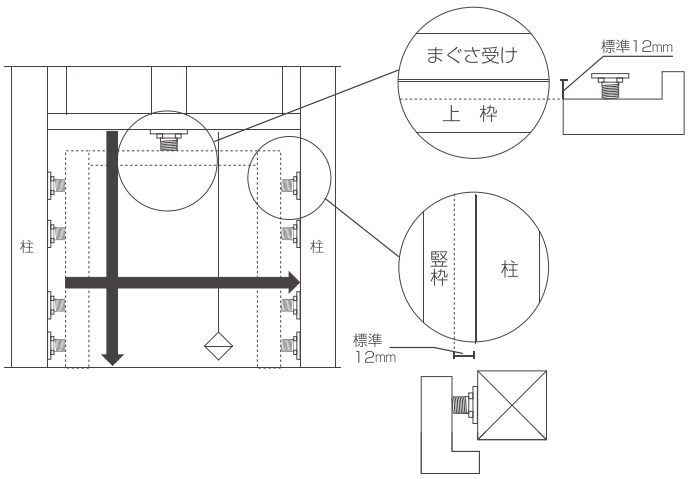
	7　尺	4　尺
3方枠		
4方枠		

横断面図



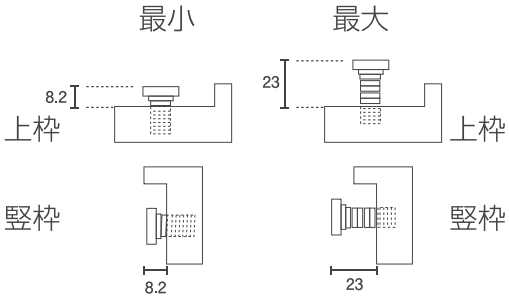
3. 施工手順

開口部の寸法確認

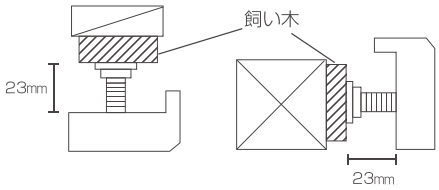


納まり図をご参照のうえ、ドア寸法とともに開口部の高さ、および巾、傾き、ネジレの有無と躯体接合金具で固定するクリアランスがあることをご確認してください。躯体接合金具の下にパッキンを介添えする際はパッキンと枠外の隙間をおよそ12㎜で決定してください。

躯体接合金具の調整範囲について



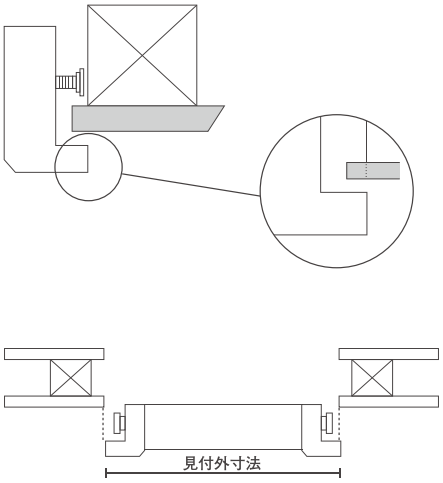
⚠ 注意

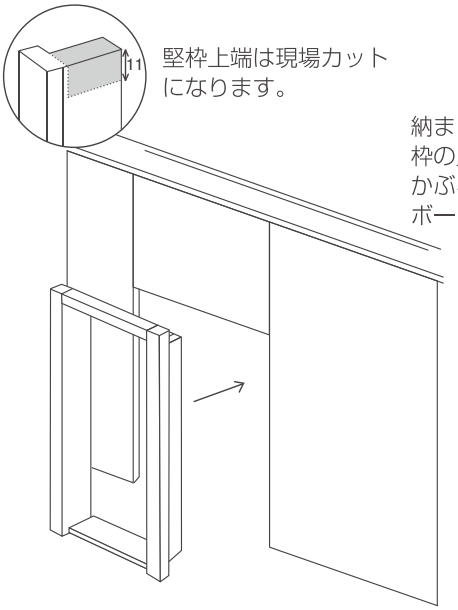


躯体接合金具の最大調整範囲（23㎜）を超えた場合、枠のぐらつき、あるいは金具の抜けの原因となり危険です。その際は飼い木を入れ最大調整範囲を超えない様にしてください。

スライド枠（収納両開き戸専用枠材）

プラスターボードの先貼り…本体枠後付け施工



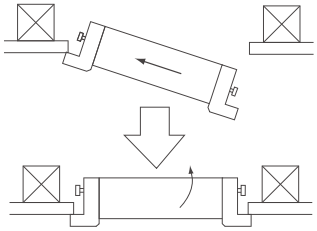


堅枠上端は現場カットになります。

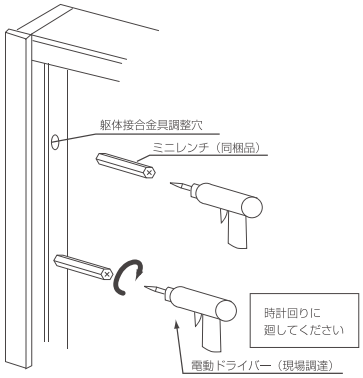
納まり図をご確認のうえ、枠の見付外がボードにかぶる設定でプラスターボードを貼ってください。

枠材の開口部への仮固定

（イ）開口部へセット



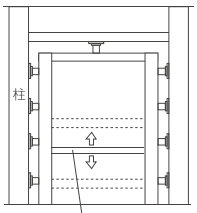
（ロ）躯体接合金具による枠材の仮固定



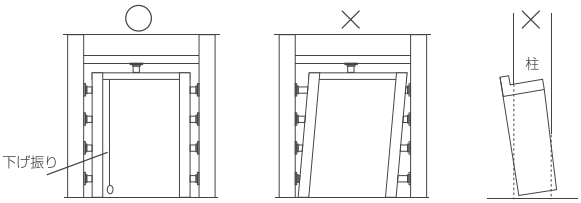
開口部に枠材をはめ込み、躯体接合金具を躯体に当たるまで調整し、枠材を仮固定します。

（ハ）建て付け調整

仮固定後、下げ振りにて水平を垂直、ねじれを調整します。

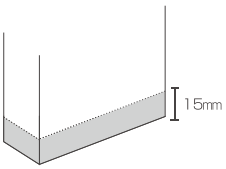


下枠を巾決め定規とし内法寸法を確認します。



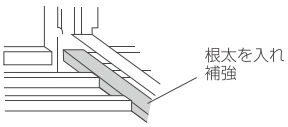
3方枠の場合

3方枠の場合は竪枠を15mmカットしてください。



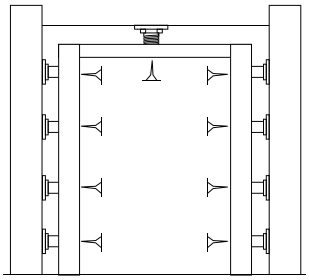
お願い

下枠下地の確認

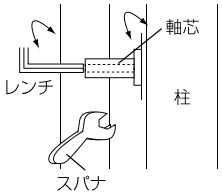


枠材は捨て貼り合板の上に施工するか、根太の上に直接施工する場合は、必ず図のように根太を入れ補強してください。
下地が弱いと、下枠の破損や踏み鳴りの原因となります。

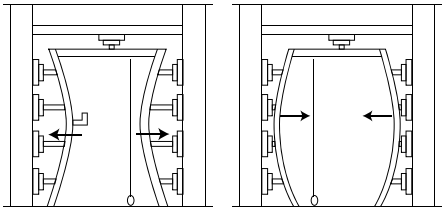
枠の正面から金具取り付けの穴へ同梱の専用ビスを
差し込み、金具を固定します。
1開口全ての金具に取り付けてください。



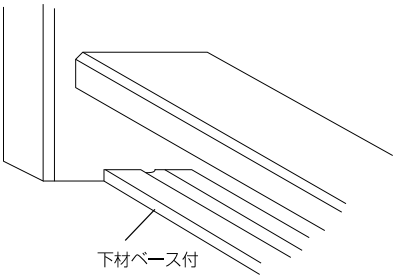
（ロ）固定後の枠の建てつけ調整



レンチもしくはスパナを用いて、
軸芯を廻してやることにより、
枠のアジャストが可能です。



下枠の取り付け（4方枠の場合）



下枠ベース材に下枠をはめ込みます。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして養生してください。

お手入れのしかた

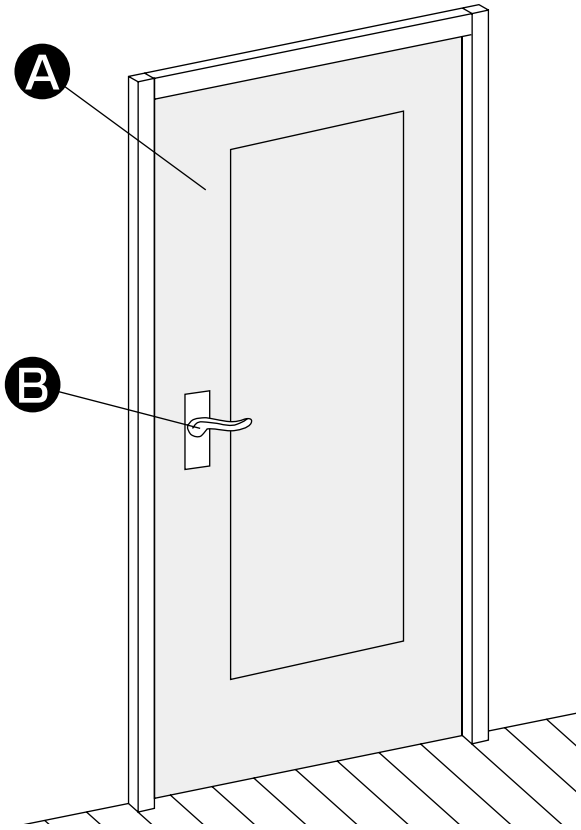
枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤をひたらした柔らかい布をよく搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

和-洋開きドア

1.開梱

梱包を開いたらドア本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

全体図



梱包内訳表

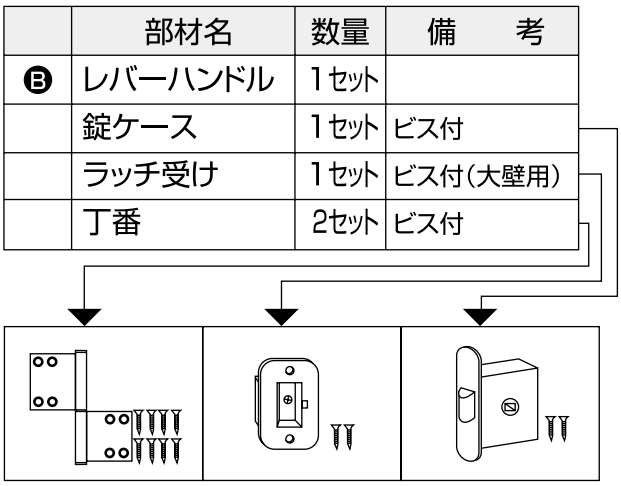
扉本体

	部材名	数量	備　　考
A	扉本体	1枚	錠ケース加工済
	施工説明書	1部	
	使用説明書	1部	

※和室側の襖紙と襖縁は現場にてご用意ください。

戸襖錠セット

	部材名	数量	備　　考
B	レバーハンドル	1セット	
	錠ケース	1セット	ビス付
	ラッチ受け	1セット	ビス付（大壁用）
	丁番	2セット	ビス付



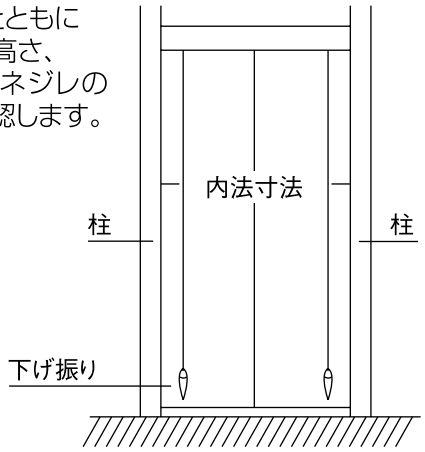
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

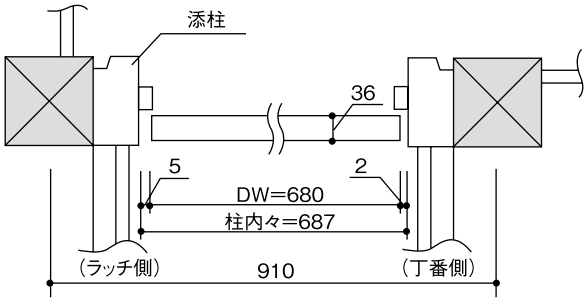
2. 施工手順

開口部の寸法確認

ドア寸法とともに
開口部の高さ、
巾、傾き、ネジレの
有無を確認します。



添柱の取り付け（真壁工法のみ）



ドア寸法および柱とドアの隙間を考慮し、添柱を取り付けます。

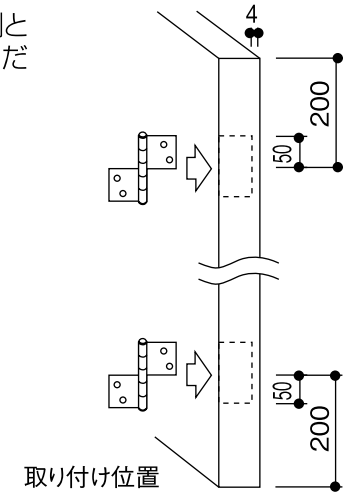
レギュラー扉DW=680mmを使用した場合の納まり

丁番の取り付け

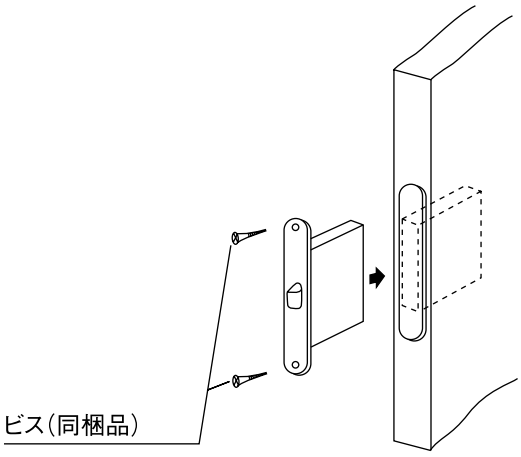
開き勝手と吊元を確認し、戸襖錠セットに同梱されている丁番をドア側と柱側それぞれ位置出しをしたうえで欠き込みせずに直に取り付けてください。

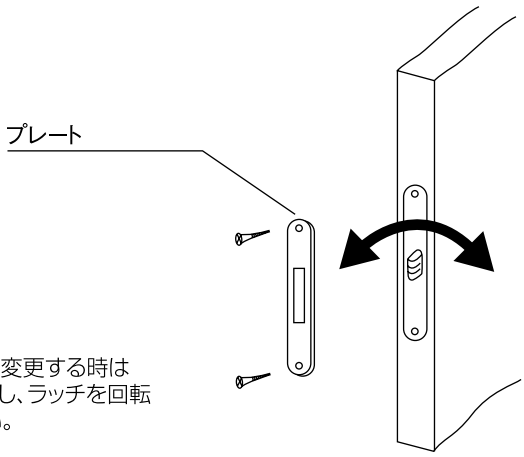
お願い

必ず丁番の上側をドア側に取りつけてください。



錠ケースの取り付け

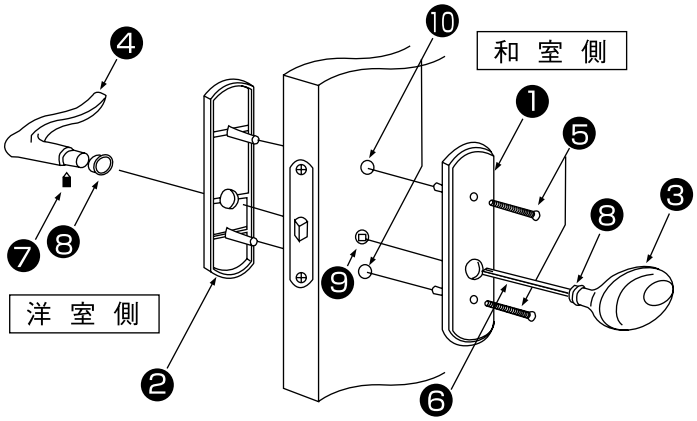




ラッチの向きを変更する時は
プレートをはずし、ラッチを回転
させてください。

和-洋開きドア

レバーハンドルの取り付け



レバーハンドルの取り付け

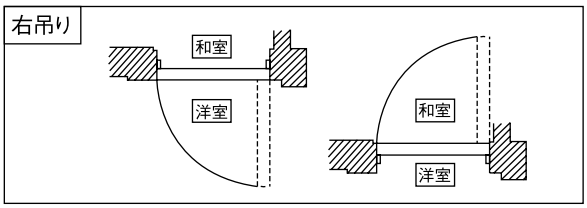
（1）洋室側より洋室側ハンドル座❷を切欠き穴❿に挿入してください。

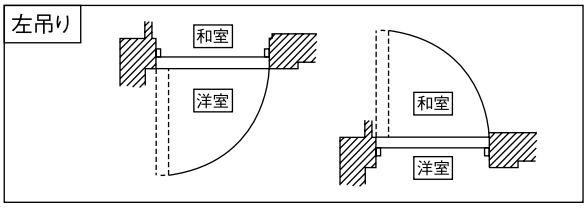
（2）和室側より和室側ハンドル座❶をはめ込み、ハンドル座取り付けビス❺で締め付けてください。

（3）和室側レバーハンドル❸を角芯穴❾に通して洋室側のレバーハンドル❹を角芯❻と合わせて取り付けビス❼で締め付けてください。（ナイロンワッシャー❽のセット忘れのないようご注意ください。）

部材・部位名			
❶	和室側ハンドル座	❻	角芯
❷	洋室側ハンドル座	❼	取り付けビス
❸	和室側レバーハンドル	❽	ナイロンワッシャー
❹	洋室側レバーハンドル	❾	角芯穴
❺	ハンドル座取り付けビス	❿	切欠き穴和室側ハンドル座

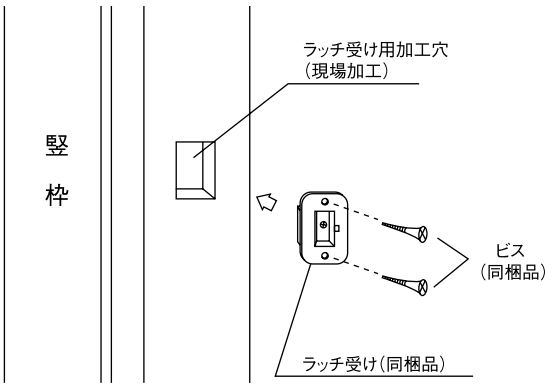
※和ー洋シングルドア（戸襖）と戸襖錠セットのR・Lは、ドアを洋室（廊下側）から見て右吊元=R、左吊元=Lとしています。



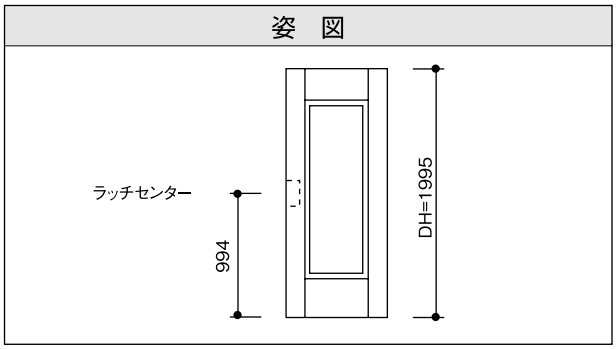


ラッチ受けの取り付け

ラッチは下図の位置でドアにつきますのでその寸法を確認の上、竪枠側の位置出しを行い、欠き込んでラッチ受けをビスで取り付けてください。



ラッチ取り付け位置



施工終了後

養生
当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた
ドアが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

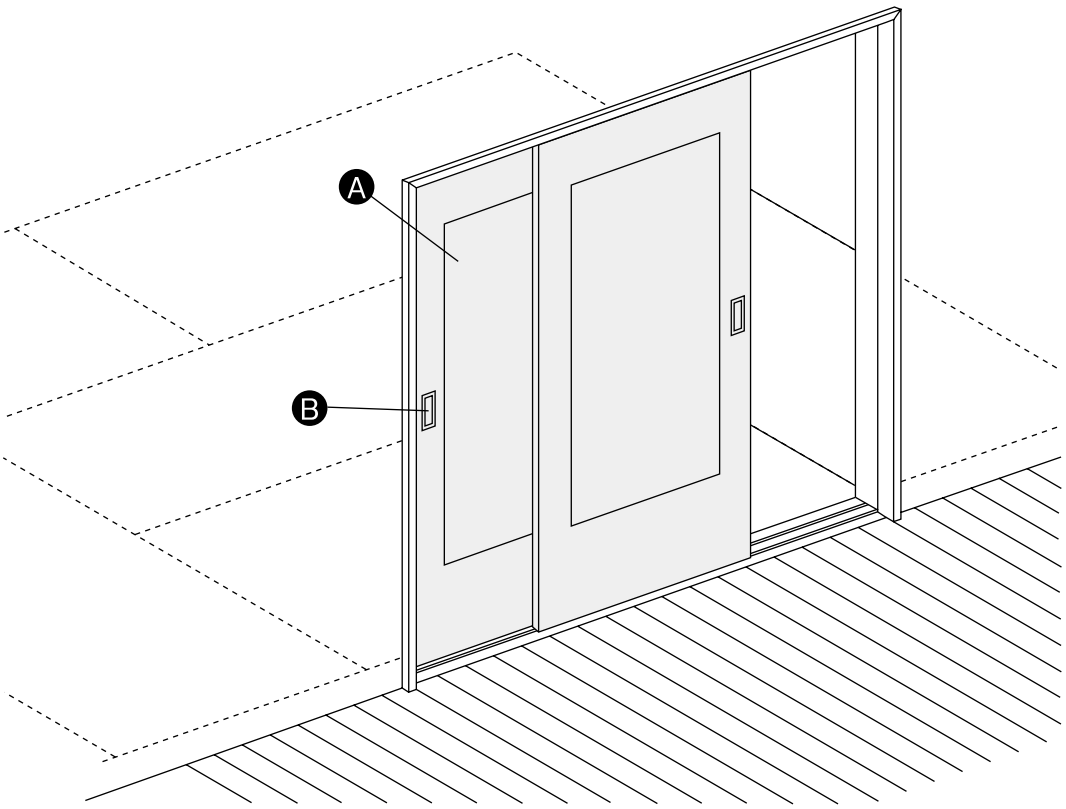
使用説明書の手渡し
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

和-洋引き戸

1. 開梱

梱包を開いたら引き戸本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

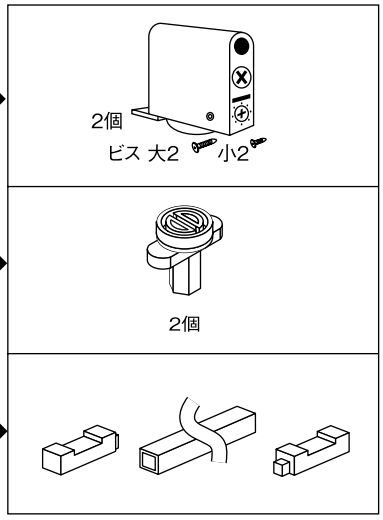
全体図



梱包内訳表

※和室側の引き手、襖縁、襖紙は現場にてご用意ください。

	部材名	数量	備　考
Ⓐ	引き戸(本体)	1枚	
	戸車	2個	
	ガイドランナー	2個	
	戸首セット	1セット	
📖	施工説明書	1部	
📖	使用説明書	1部	



別売品

	部材名	数量	備　考
Ⓑ	引き手(洋側)	1個	

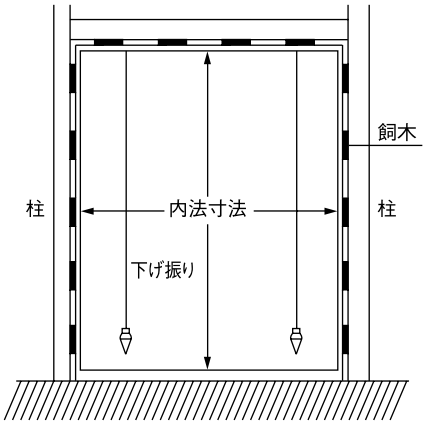
お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

和-洋引き戸

2. 施工手順

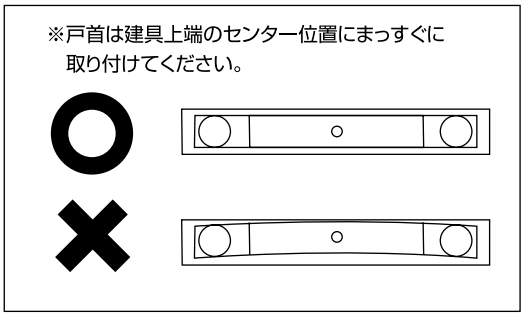
開口部の寸法確認

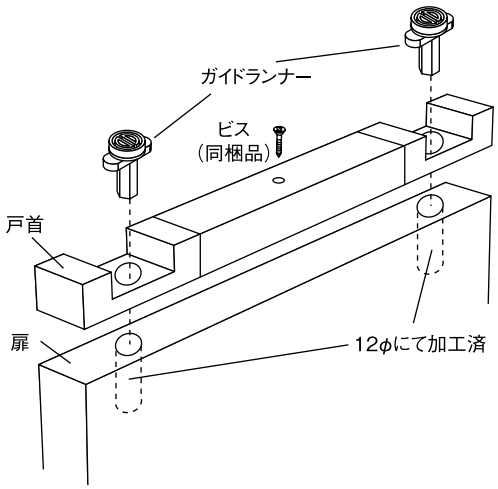


引き戸寸法とともに開口部の高さ、巾、傾き、ネジレの有無を確認します。

ガイドランナー、戸首の取り付け

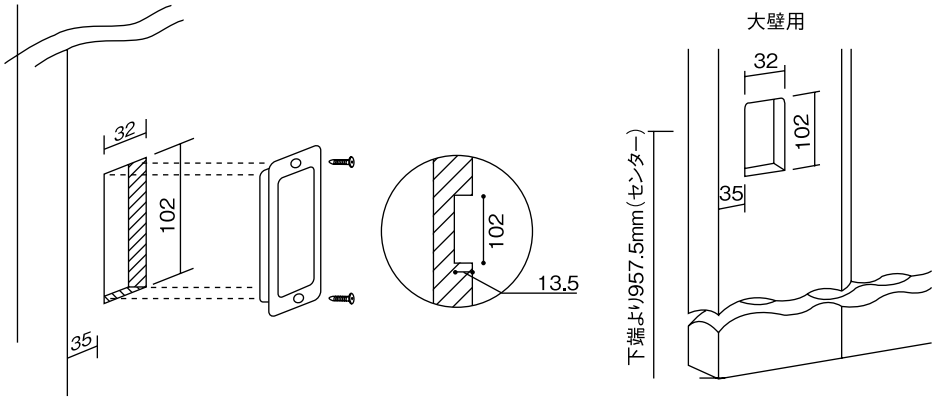
ガイドランナーを戸首の加工穴に差し込み、扉本体の取り付け穴に打ち込んだうえで、戸首とガイドランナーを同梱のビスにて扉本体に固定させます。





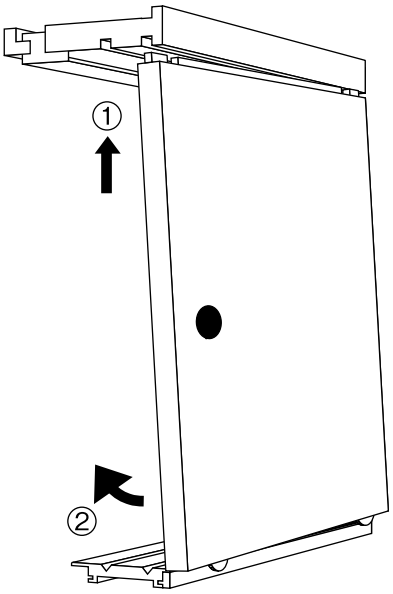
引き手の取り付け

右引き、左引きを確認し、下図の位置に引き手加工を行い、洋室側の引き手を取り付けます。
※和室側の引き手については、現場でご用意ください。
※洋室側の引き手の位置と干渉しない高さで和室側の引き手を取りつけてください。



引き戸の取り付け

ガイドランナーを鴨居の溝に入れながら戸車をレールにはめ込みます。
引き戸が垂直に立ち、鴨居溝にガイドランナーがはまっていることを確認してください。



施工終了後

養生

当て傷･擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

お手入れのしかた

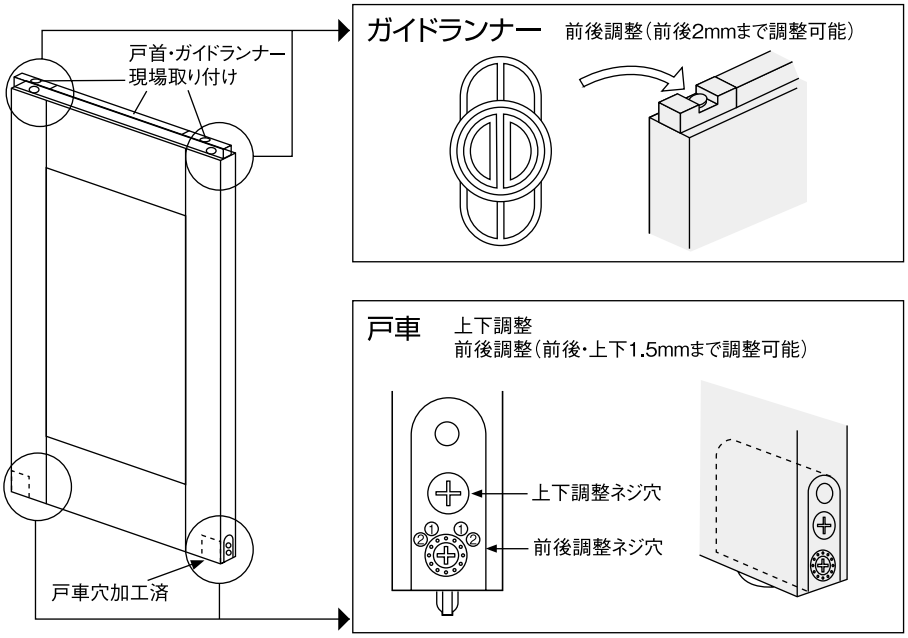
引き戸が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン･アルコール･シンナーなどの溶剤を使用すると変色･変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

各部の名称および機能

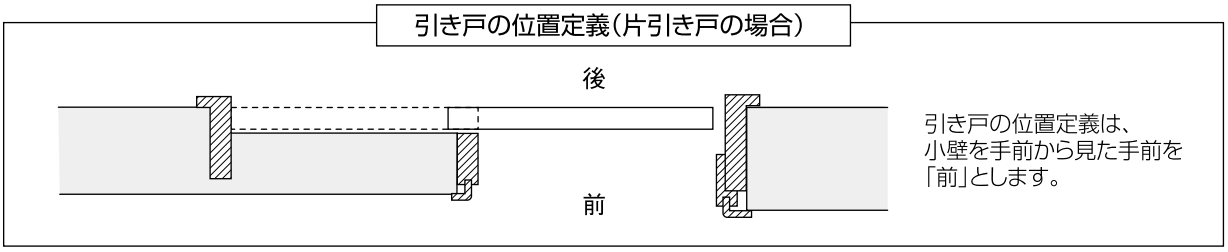
引き戸本体



和-洋引き戸

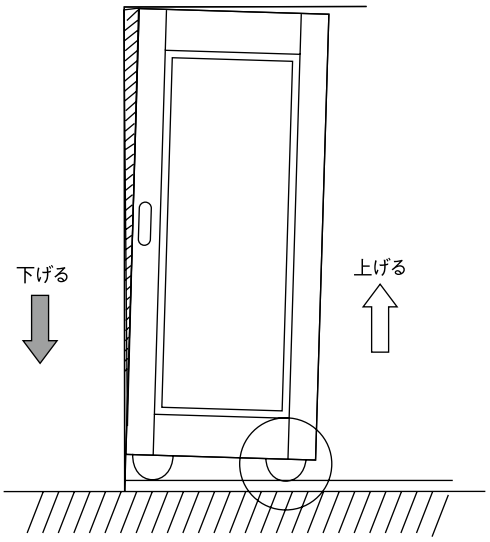
引き戸の調整の仕方

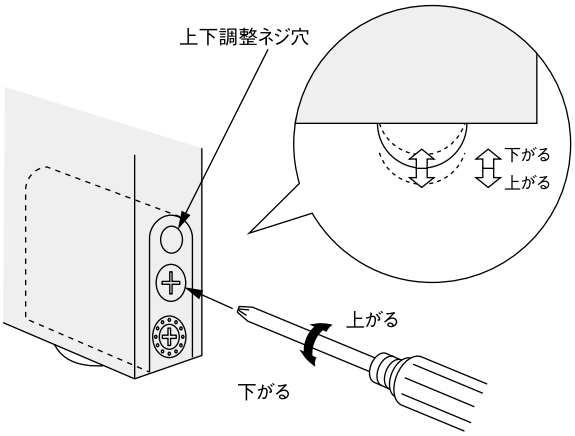
引き戸を使用されている際、以下のような状態が生じましたら、戸車とガイドランナーにて引き戸を調整することができます。



竪枠と引き戸の間に隙間が生じたとき（上下調整）

（1）引き戸と竪枠の上部に隙間が生じたとき



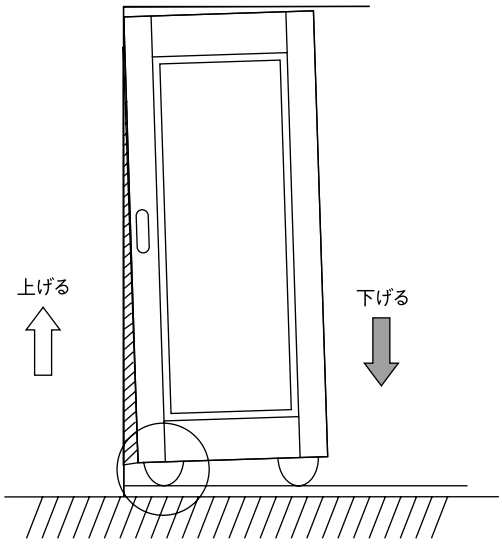


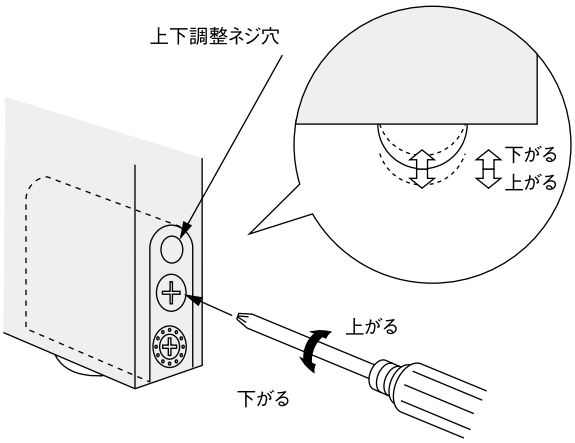
竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。
隙間の状態をご確認の後、プラスドライバーにて戸車の
上下調整ネジを

隙間側戸車 ⟶ 下げる
反対側戸車 ⟶ 上げる

調整を行い、竪枠と引き戸との隙間をなくしてください。

（2）引き戸と竪枠の下部に隙間が生じたとき





竪枠と引き戸との間に生じる隙間をよくご確認ください。
隙間の状態をご確認の後、プラスドライバーにて戸車の
上下調整ネジを

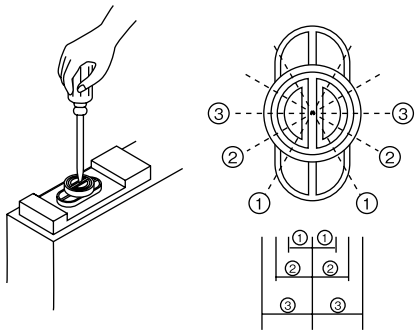
隙間側戸車 ⟶ 上げる
反対側戸車 ⟶ 下げる

調整を行い、竪枠と引き戸との隙間をなくしてください。

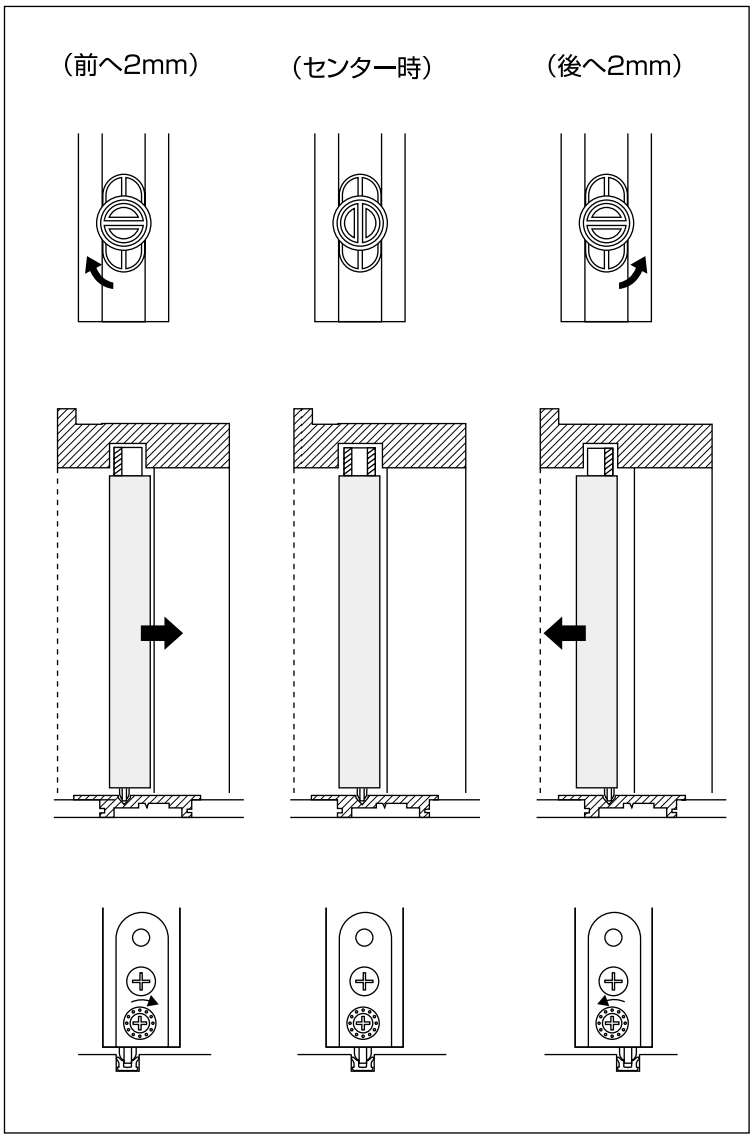
引き戸と引き戸が擦れ合う、引き戸と中方立があたる場合（前後調整）

引き戸をご使用の際に、引き戸と中方立の間の隙間が大きい、または、逆に隙間が少なくて引き戸同士、または引き戸と中方立が擦れるような場合には、前後調整を行ってください。
前後調整は、前後3段階ずつ行うことができます。（前後2mmまで行うことが可能です）

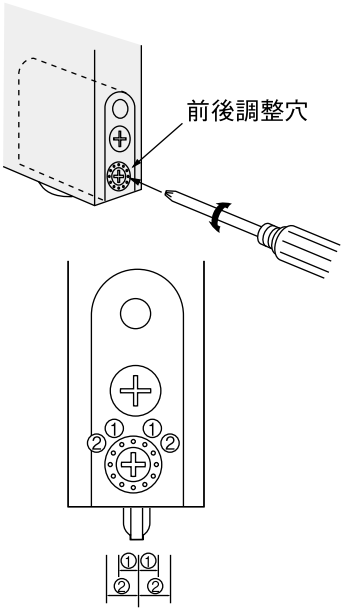
イ）ガイドランナーの調整



① 段階1.0mm
② 段階1.7mm
③ 段階2.0mm



ロ）戸車の調整



①段階　1.0mm
②段階　1.5mm

お願い

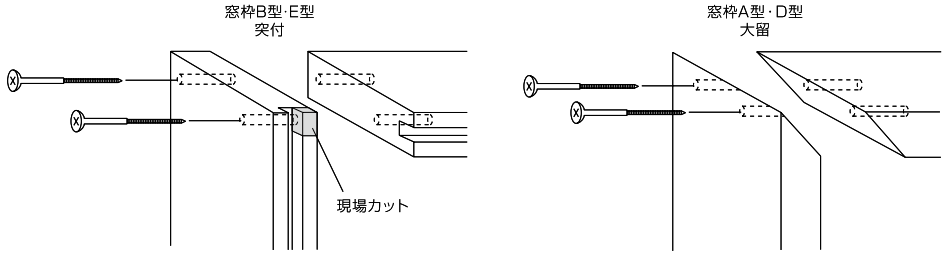
戸車とガイドランナーの調整は、必ず同じ調整量にしてください。調整量が異なると、引き戸の垂直が保たれず走行が不安定になる原因になります。

窓枠

1.施工時の留意事項

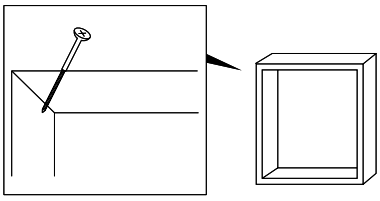
お願い

結露による不具合を防止する為、木口・木端部分には、コーキング処置またはアルミテープ等の貼りつけをしてください。
木の割れを防ぐため必ず φ2.4㎜長さ40㎜程度の案内孔を開けてください。



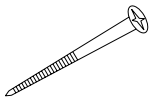
お願い

窓枠の大留に 市販ビス（市販ビスはJIS規格ビスφ3.8㎜長さ45㎜）または、当社WOOD ONE木ネジ を使用される場合に、右図のように斜め打ちをしていただくとより強固に施工できます。



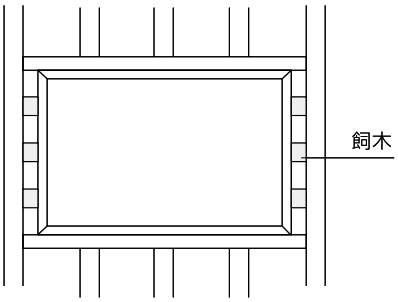
WOOD ONE 木ネジ

品番	ZY0412
設計価格	6,700円／箱
入り数	500本
サイズ	63×φ4



極端な不具合がありましたら、施工前にお買い求め店様または弊社までお申し出ください。
施工後のお申し出には応じかねます。

開口部への取り付け



開口部に窓枠をはめ込み、飼木（クサビ）で水平と垂直ネジレを調整しビスで固定します。

養生の注意

① 表平面にキズがつかないように、ダンボールなどで養生をしてください。
② コバ面にキズがつかないようにダンボールを折り返してご使用ください。
③ 養生を固定する際は、養生剥がれを防ぐため窓枠裏面、または塗膜面以外（ソフトアートシリーズは除く）へ養生テープを貼り付けて固定してください。

①～③の項目を守られない場合での剥離・キズにつきましては品質影響としての保証はいたしかねます。

施工終了後

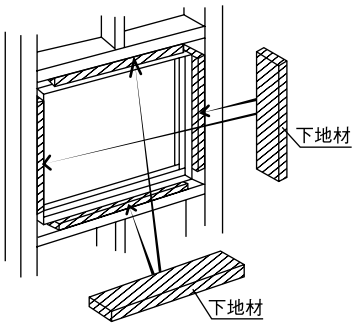
お手入れのしかた 枠材が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

使用説明書の手渡し 同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

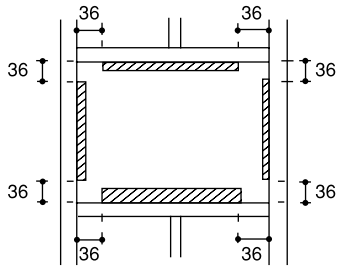
窓枠L型

施工手順

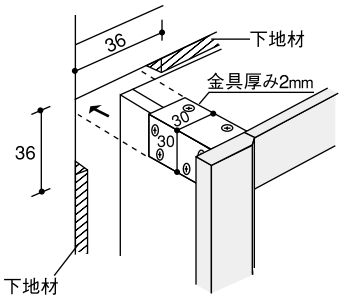
取り付け開口部の確認



サッシ開口部に下地材を取り付け、窓枠外寸法に見合ったラフ開口を設けてください。ただし下地材四隅には35～36㎜のスペースを空けておいてください。

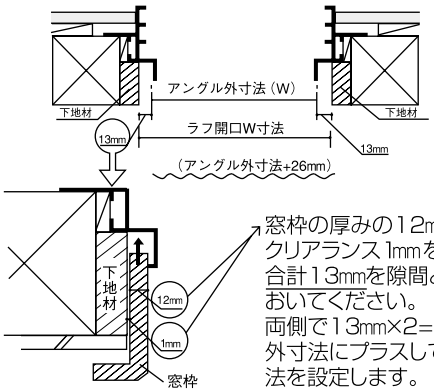


下地材の四隅は上図のようにおよそ36㎜程度目安に空けておいてください。



窓枠を固定するための補強金具が四隅に（3方枠なら上部2ヶ所）とりつきます。その逃げしろを確保する為です。

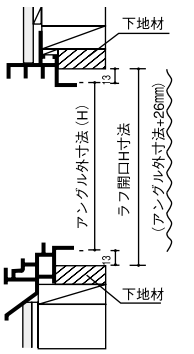
ラフ開口W寸法の設定



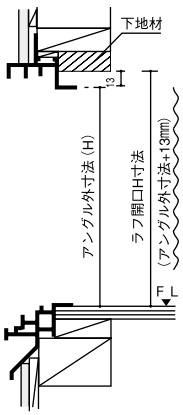
窓枠の厚みの12㎜にわずかなクリアランス1㎜をみて片側の合計13㎜を隙間として空けておいてください。
両側で13㎜×2=26㎜をアングル外寸法にプラスして、ラフ開口W寸法を設定します。

ラフ開口H寸法の設定

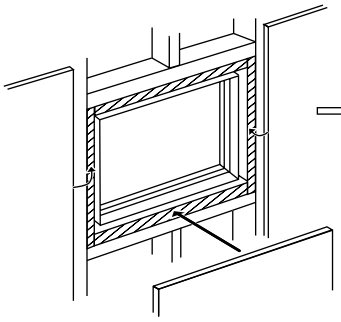
4方枠（中連タイプ）



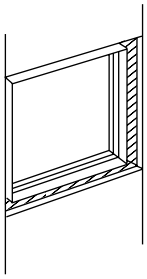
3方枠（掃き出し）



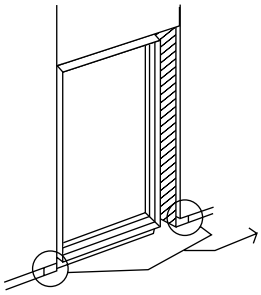
プラスターボードの先貼り

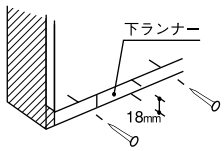


4方枠（中連タイプ）



3方枠（掃き出し）





フロアー後貼りの際、壁際の貼り込みをしやすいように、下ランナーをまわした後に、プラスターボードは18㎜程度浮かせて貼り込んでください。

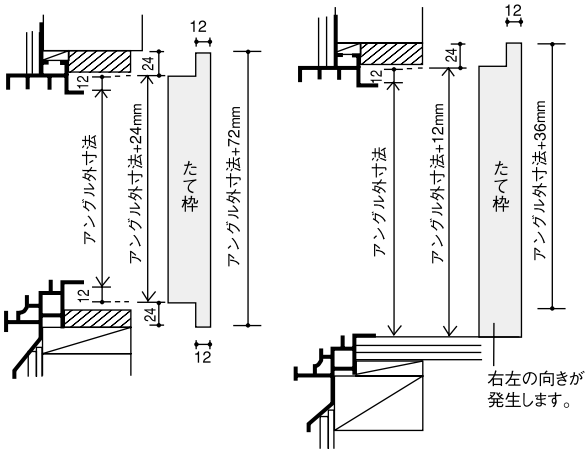
上記で取り付けた下地面で仕上がるようにプラスターボードを貼ってください。

窓枠L型

窓枠の組み立て

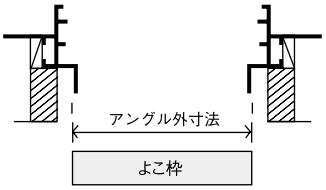
(1)たて枠のカット

たて枠に関しては、前見付けだけを残して、
下図のように欠き込みを入れます。



(2)よこ枠のカット

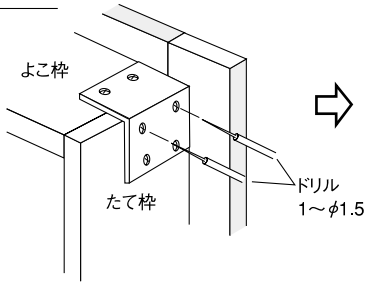
よこ枠はアングル外寸法で
カットしてください。



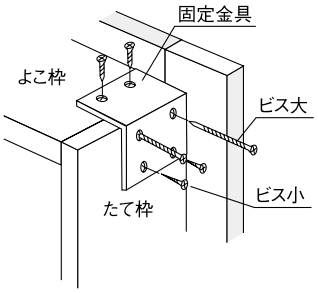
※たて、よこいずれも巾おとしが必要な際は、
巾をおとしてからご使用ください。

(3)固定金具の取り付け

たて枠とよこ枠を固定する下穴
2ヶ所は、1～φ1.5のドリルで、
深さ30～40㎜程度案内孔をあ
けてください。

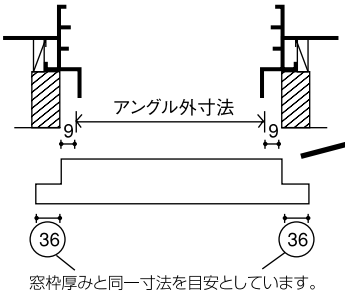


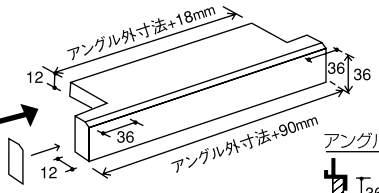
ビスの大で、たて
枠とよこ枠を固
定します。
ビスの小で、補強
として金具を枠



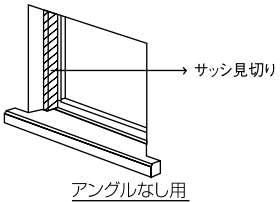
窓台(膳板)として使用する場合　(サッシ見切り厚み9㎜と併用)

サッシの見切りには弊社サッシ見切り(別売)をおすすめします

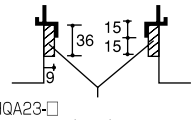




竪枠用の窓枠を窓台として使用してください。
木口には弊社木口テープ(別売)をお使いください。
木口テープ12×36㎜(40入)¥6,500/ケース
ZYWT41-□

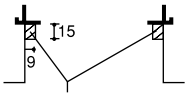


アングル付き用



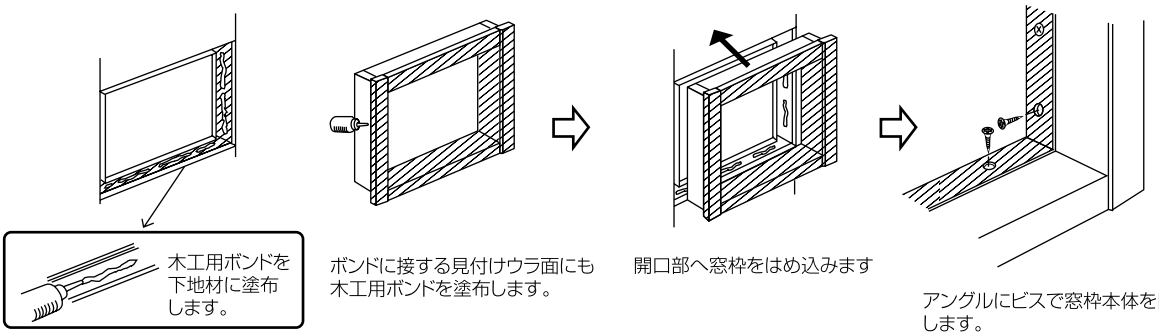
DHQA23-□
3700×30×9(20入)¥26,400/ケース

アングルなし用



DHQA13-□
3700×15×9(20入)¥13,200/ケース

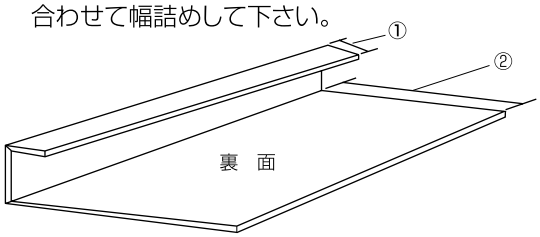
窓枠の取り付け

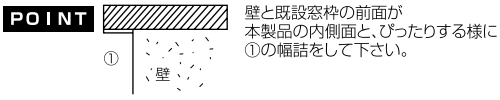


リフォーム窓枠

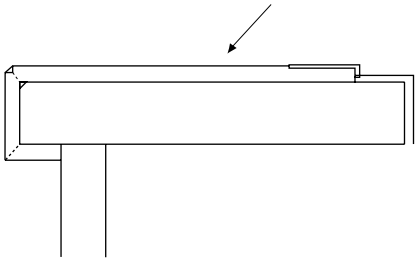
施工手順

（1）横枠の折返し部分が（①刊）を既設の窓枠に合わせて幅詰めして下さい。





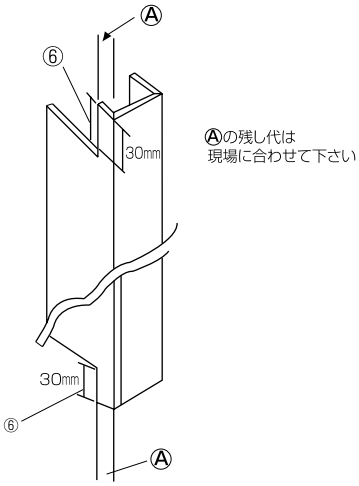
（2）枠幅を既設の窓枠に合わせて幅詰めをして下さい。



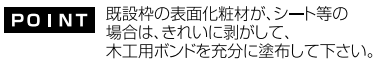
（3）タテ枠を正寸カットして下さい。
（既設の窓枠の内寸+60㎜にカットして下さい。）

（4）タテ枠の折り返し部分（刊）を幅詰めして下さい。
（①+4㎜）
また、タテ枠の幅詰もして下さい。
（②+4㎜）

（5）タテ枠の上端、下端のカキ込みをそれぞれ30㎜（本製品の見付分）カットします。

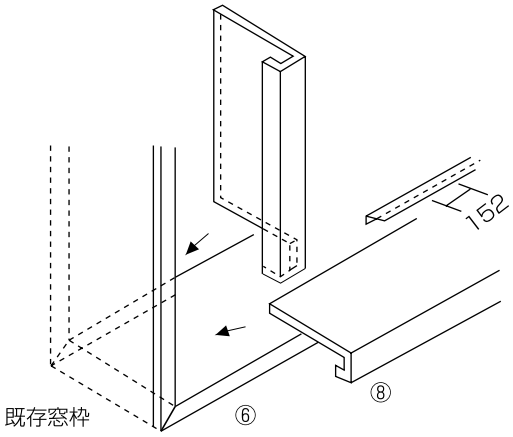


（6）タテ枠を既設窓枠の上から被せ、同梱のアルミアングルで押え、ビス、及びボンドで固定して下さい。



（7）横枠を両サイドのタテ枠の内のり寸法に正寸カットして下さい。

（8）横枠を既存窓枠にはめ込み、同梱のアルミアングルで押え、ビス、ボンドで固定して下さい。

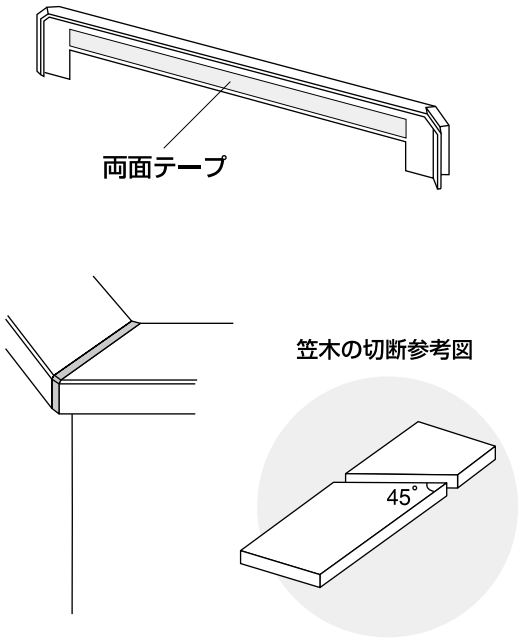


（9）専用シールで、タテ枠の木口を処理して下さい。

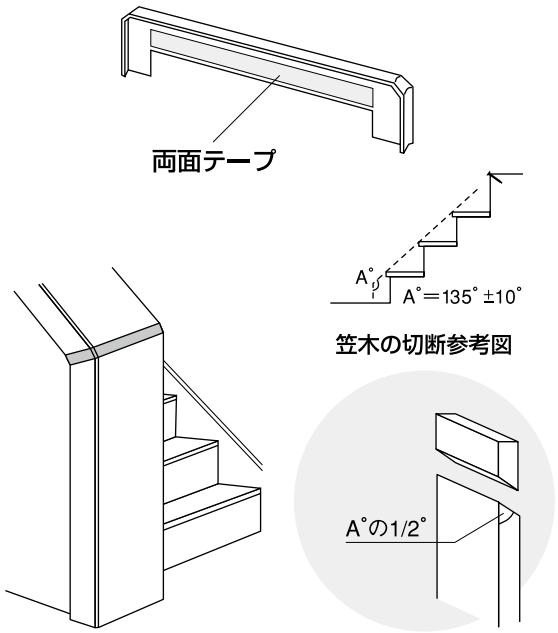
シート笠木対応 コーナー部材

1. 部材名称

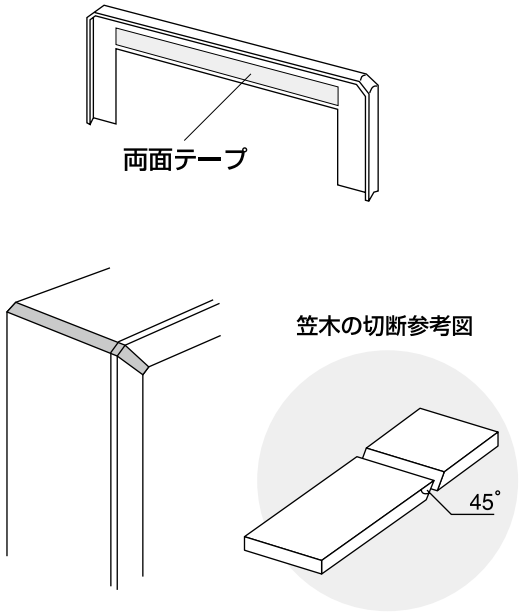
水平コーナー部材



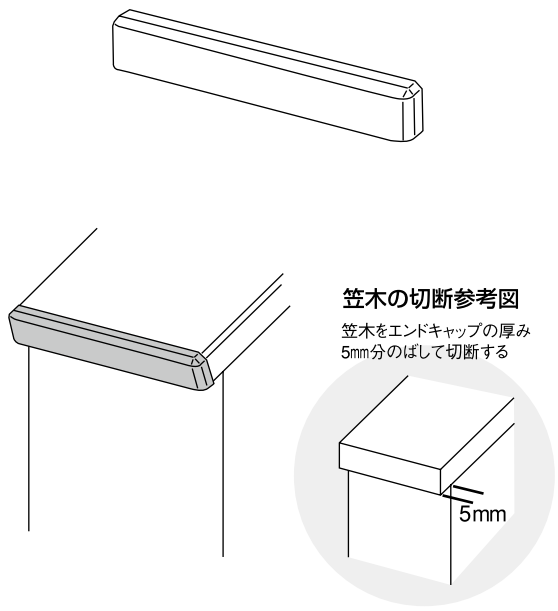
勾配用コーナー部材



垂直用コーナー部材



エンドキャップ



⚠ 注意（コーナー部材）

必ずおこなう

コーナー部材の厚み1㎜を考慮して
笠木の切断をする。

⚠ 注意（エンドキャップ）

必ずおこなう

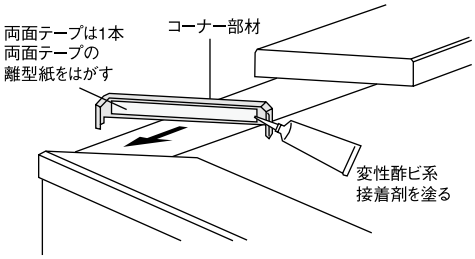
エンドキャップのかぶりの深さは5㎜です。
笠木ののばしは必ず5㎜に合わせてください。

2. 施工手順

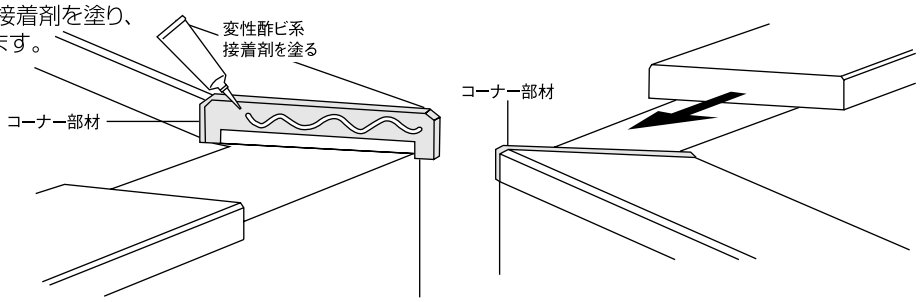
コーナー部材

※イラストは水平コーナー用です。
垂直用・勾配用も同じ要領で施工してください。

コーナー部材の両面テープの離型紙をはがし、
変性酢ビ系接着剤を併用し一方の笠木に取り付けます。



コーナー部材に変性酢ビ系接着剤を塗り、
もう一方の笠木を取り付けます。
笠木を躯体に固定します。

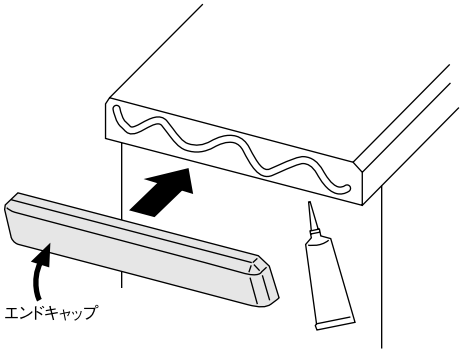


⚠ 注意

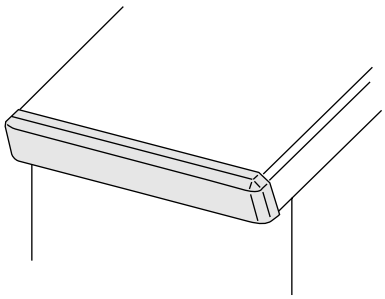
隙間を完全に無くす場合はシーリング（現場調達）などで埋める。

エンドキャップ

笠木の切断面に変性酢ビ系接着剤を塗布します。
はみ出した接着剤は必ずふき取ってください。



エンドキャップを笠木に接着します。



⚠ 注意

必ずおこなう

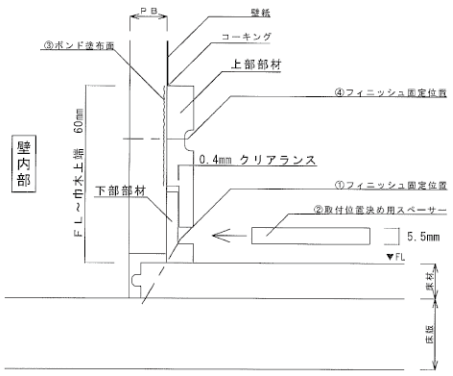
エンドキャップと笠木に隙間とがたつきがないように施工する。

W型巾木・カーテン BOX

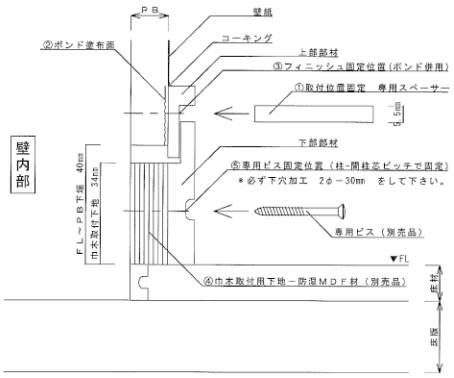
スライド巾木（W型）

納まり図

■巾木W型



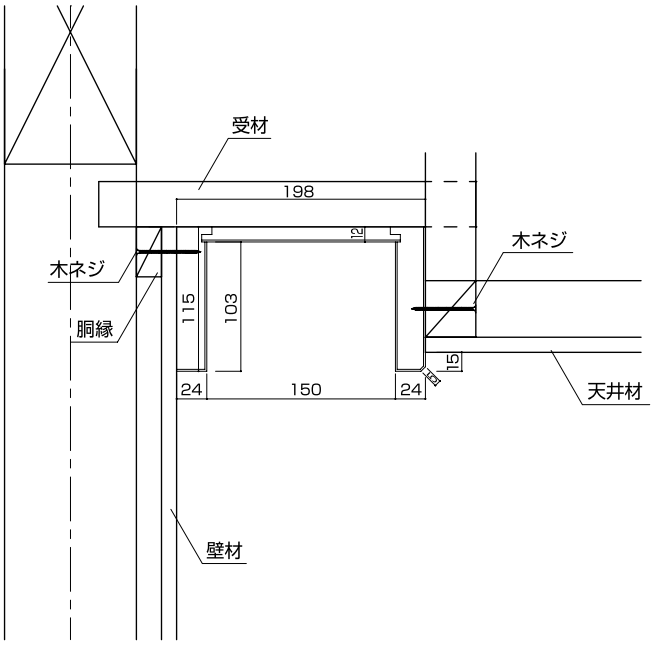
■巾木W型ー壁内点検用



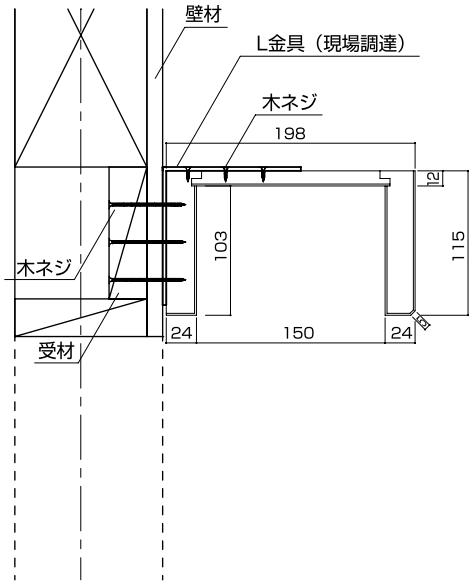
カーテンボックス

納まり図

■天井埋め込みの場合



■壁付けの場合



玄関収納

必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害･財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」をよくお読みください。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

安全上のご注意

⚠ 警告 使用に際して以下の注意が守られない場合、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

･はさまれ注意!
部材と部材のあいだに、体の一部が入っている状態で施工をすると、ケガをする場合がありますのでご注意ください。

･必ず同梱の金具を使用する。
同梱の金具で施工しなかった場合、商品が破損したり、落下、転落してケガをするおそれがあります。

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

･屋内専用。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進む原因となります。

･ヒンジを分解しない。
扉取り付け用のヒンジを分解したり、無理に曲げたりすると、扉が脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

･棚板の耐荷重は1枚当たり4kg。
棚板の耐荷重を越えて収納しますと棚板が破損したり脱落してケガの原因となります。

･フロアーキャビネットのカウンターの耐荷重は20kg。
カウンターの耐荷重を越えて荷物を置いたりしますとカウンターが破損したりし、ケガの原因となります。

必ずおこなう

･開梱後は換気を行なう。
本製品はホルムアルデヒド･VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築･リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド･VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

･確実にキャビネット同士を連結する。
キャビネット同士が連結金具で確実に連結されていないと、キャビネットが転倒･脱落してケガの原因となりますので、確実にキャビネット同士を連結してください。

･確実にヒンジと座金をジョイントする。
扉取り付け用のヒンジが確実に座金とジョイントされていないと、扉が脱落してケガの原因となりますので、確実にヒンジと座金をジョイントしてください。

･確実にキャビネットと壁面を固定する。
キャビネットがあらかじめ間柱･補強桟等の下地処理を施した壁面と固定されていないと、キャビネットが転倒してケガの原因となりますので、確実にキャビネットと壁面を固定してください。L型金具は誤った使い方をしますとその効果が失われてしまいますので、正しい使い方をしてください。

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯･ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

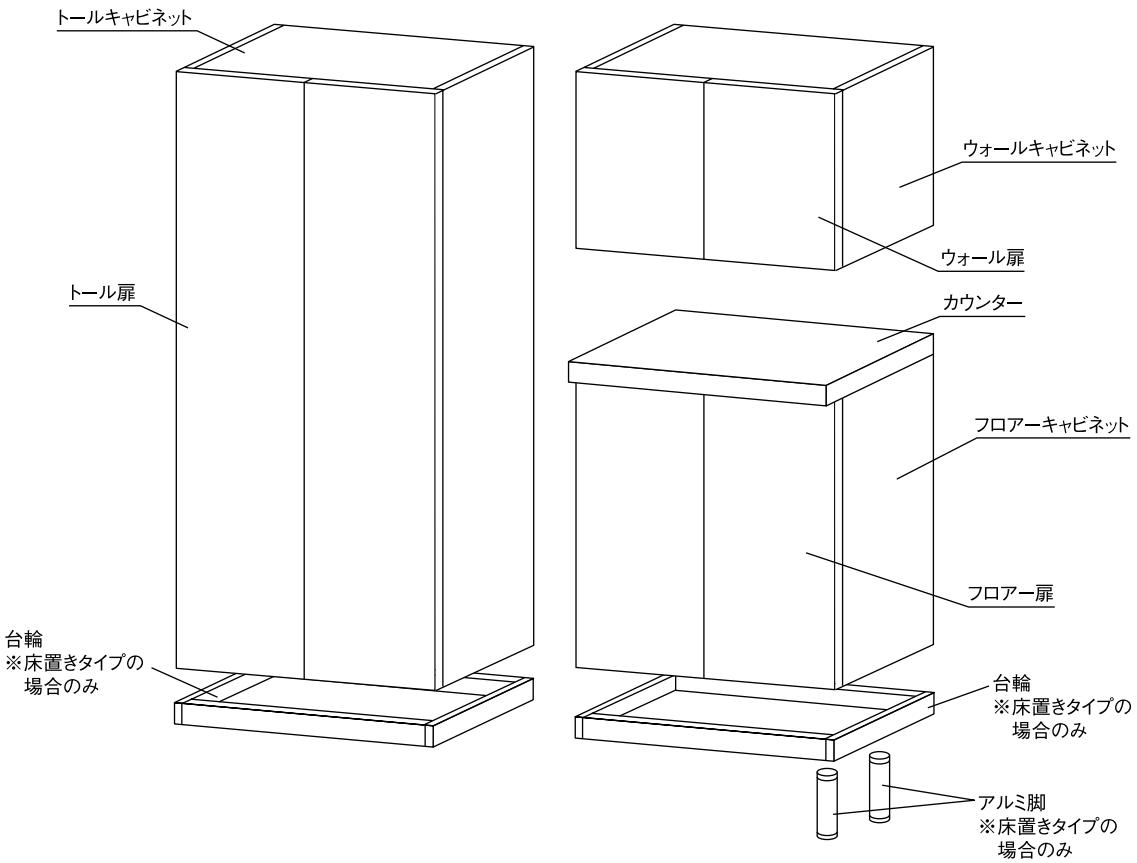
耐荷重について
※下記耐荷重以上の荷重をかけると、商品が破損したり転落したりし、ケガの原因となるおそれがありますのでご注意ください。

商品名	耐荷重
棚板	4kg／枚
カウンター	20kg／枚

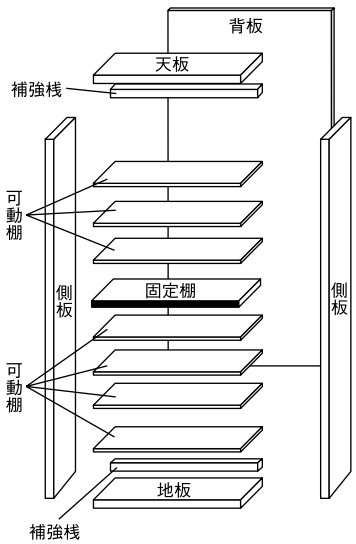
オプションパーツ	
スリッパ収納	スリッパ専用 ※スリッパ以外のものは収納しないでください。
傘収納	傘専用 ※傘以外のものは収納しないでください。
六連フック	2kg ※6個のフック全ての合計重量。
アミカゴ	2kg／個
スライドコートハンガー	8kg／本
回転トレー	300g／個
パイプハンガー	20kg／本
フック	1.5kg

玄関収納

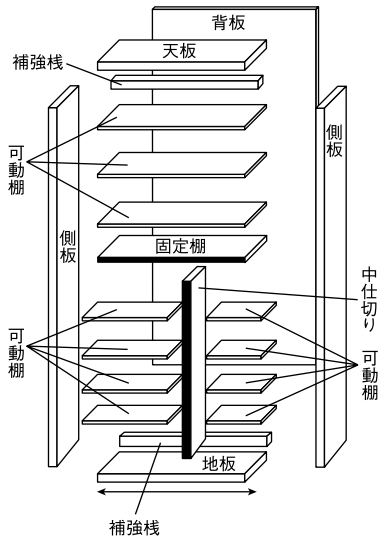
1. パーツ名称



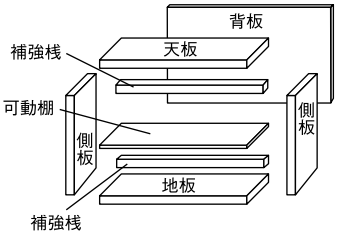
トールキャビネット（棚板タイプ）



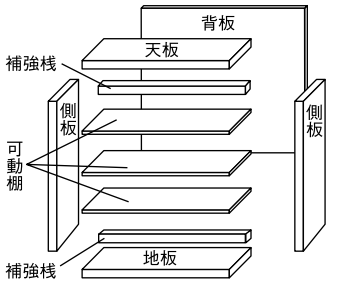
トールキャビネット（中仕切りタイプ）



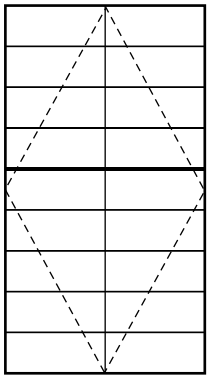
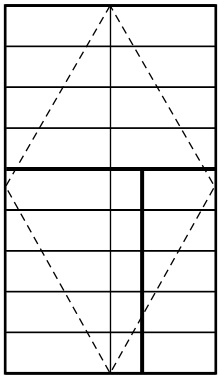
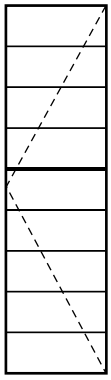
ウォールキャビネット



フロアーキャビネット

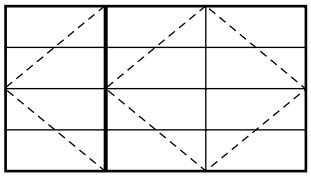
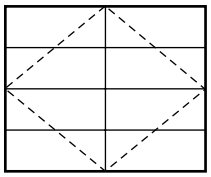
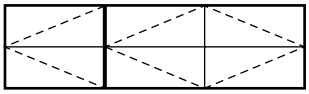
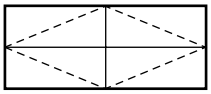


2. 梱包内訳

		トールキャビネット W=796mmタイプ（棚板タイプ）	トールキャビネット W=796mmタイプ（中仕切りタイプ）	トールキャビネット W=398mm タイプ
				
側板		2枚	2枚	2枚
天板		1枚	1枚	1枚
地板		1枚	1枚	1枚
固定棚		1枚	1枚	1枚
支持材※フロートタイプの場合のみ		1本	1本	1本
補強材		2本	2本	2本
可動棚（764mm）		7枚	3枚	−
可動棚（523mm）		−	4枚	−
可動棚（366mm）		−	−	7枚
可動棚（218mm）		−	4枚	−
背板		1枚	1枚	1枚
中仕切り板		−	1枚	−
ミニフィックス本体		8個	8個	8個
ミニフィックスボルト		8個	8個	8個
可動棚ダボ		28個	44個	28個
背板用ビス		24本	24本	24本
キャビネット連結ビス		4本	4本	4本
座金		6個	6個	3個
固定棚受け金具		4個	4個	4個
固定棚受け金具取り付けネジ		4本	4本	4本
木ダボ		12本	16本	12本
補強桟固定ビス		12本	12本	6本
穴かくしキャップ		−	4個	−
カウンター取付ビス		−	−	−
扉（トール用）		2枚	2枚	1枚
扉（フロアー用）		−	−	−
扉（ウォール用）		−	−	−

※床置きタイプの場合は、別途台輪を手配してください。

玄関収納

	フロアーキャビネット W=1,194mmタイプ	フロアーキャビネット W=796mmタイプ	ウォールキャビネット W=1,194mmタイプ	ウォールキャビネット W=796mmタイプ
				
	4枚	2枚	4枚	2枚
	2枚	1枚	2枚	1枚
	2枚	1枚	2枚	1枚
	–	–	–	–
	2本	1本	–	–
	4本	2本	4本	2本
	3枚	3枚	1枚	1枚
	–	–	–	–
	3枚	–	1枚	–
	–	–	–	–
	2枚	1枚	2枚	1枚
	– （※カウンターを別途手配してください）	– （※カウンターを別途手配してください）	–	–
	16個	8個	16個	8個
	16個	8個	16個	8個
	24個	12個	8個	4個
	24本	12本	24本	12本
	8本	4本	8本	4本
	6個	4個	6個	4個
	–	–	–	–
	–	–	–	–
	24本	12本	24本	12本
	18本	12本	12本	8本
	–	–	–	–
	8本	4本	–	–
	–	–	–	–
	3枚	2枚	–	–
	–	–	3枚	2枚

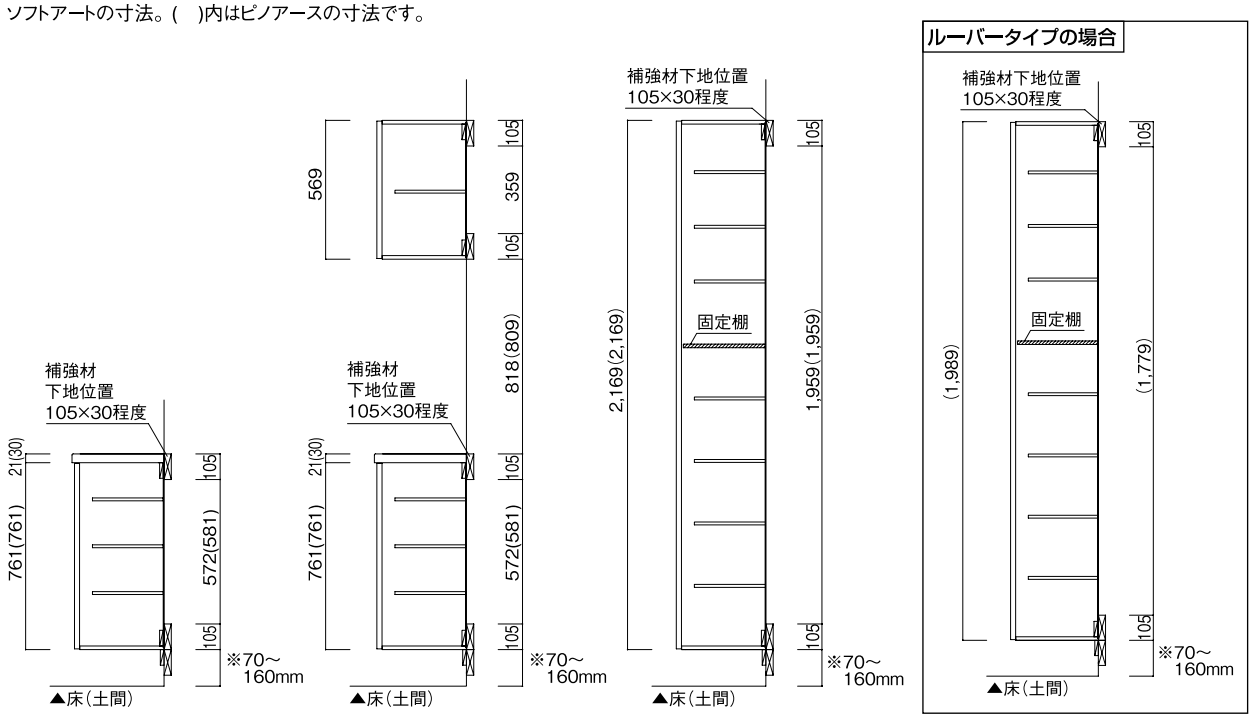
3. 下地処理

玄関収納のキャビネットは壁にビスで固定します。キャビネットに荷物を入れても重量に耐えれるように取り付ける壁下地の補強処理をおこなってください。補強が不十分だとキャビネットが転落するおそれがあります。

※下地用の木桟木は105mm×30mm以上の堅い木を使用してください。

① フロートタイプの場合

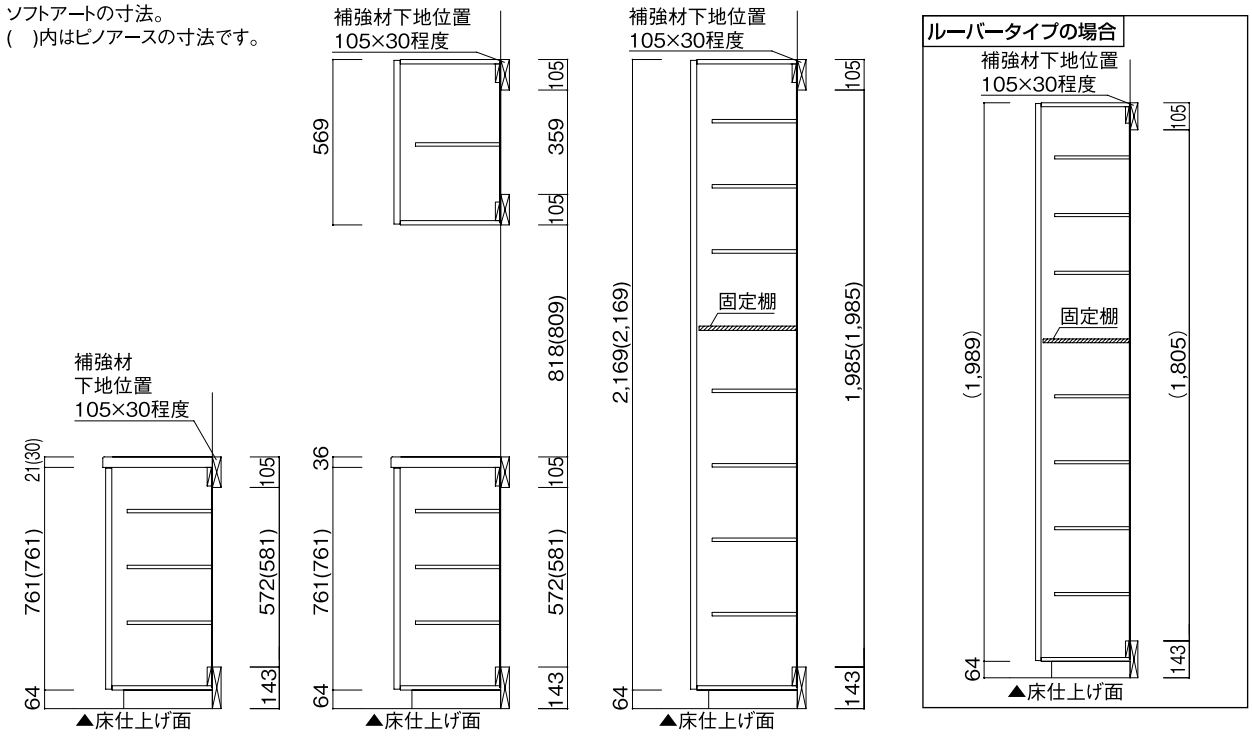
ソフトアートの寸法。(　)内はピノアースの寸法です。



※は参考寸法です。床(土間)からの高さに合わせて下地を入れてください。

② 床置きタイプの場合

ソフトアートの寸法。
(　)内はピノアースの寸法です。

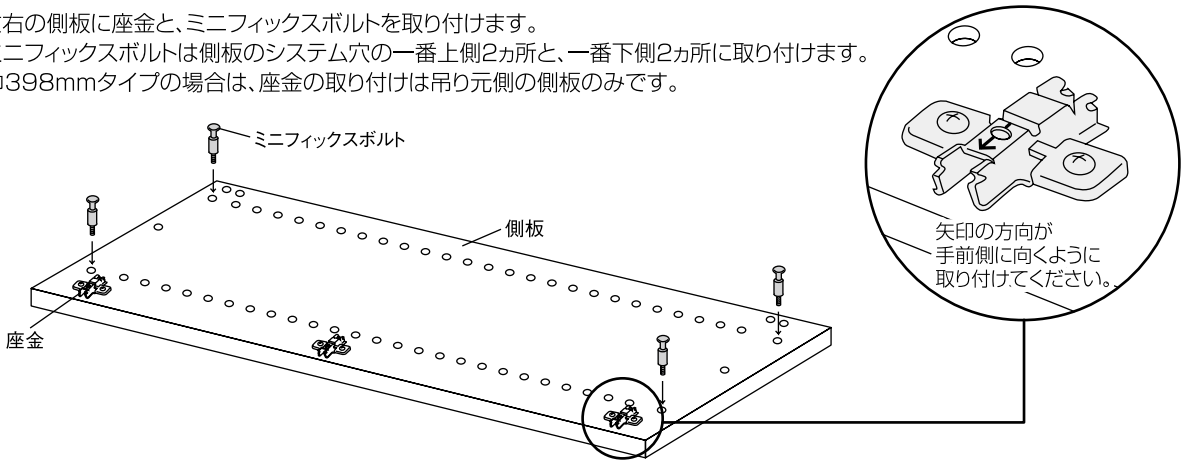


玄関収納

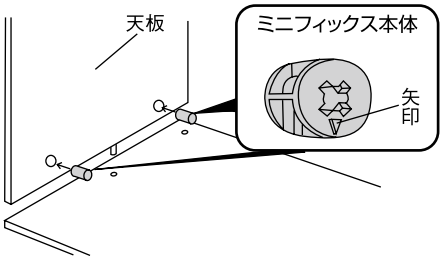
4. 施工手順

① トールキャビネットの組み立て

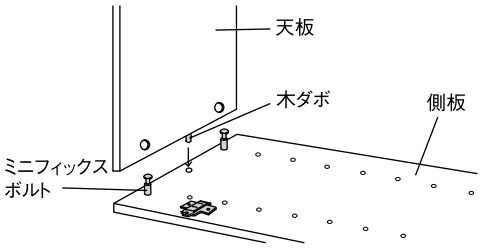
(1)左右の側板に座金と、ミニフィックスボルトを取り付けます。
ミニフィックスボルトは側板のシステム穴の一番上側2ヵ所と、一番下側2ヵ所に取り付けます。
巾398mmタイプの場合は、座金の取り付けは吊り元側の側板のみです。



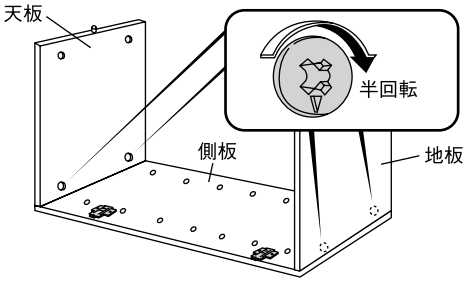
(2)天板に木ダボを取り付けます。
次にミニフィックスの矢印が木口の穴が空いている方へ合わせて取り付けます。



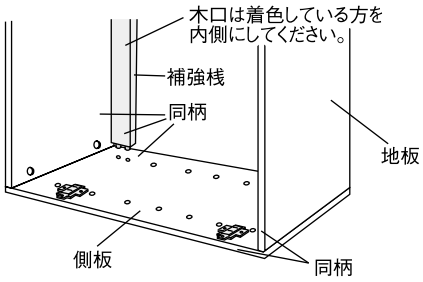
(3)左右の側板どちらかを床に置き、天板の穴のあいている面が内側になるようにして、側板のミニフィックスボルトと天板の木ダボに合わせて差し込みます。



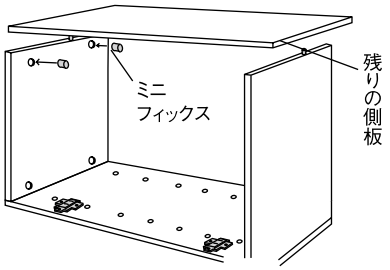
(4)プラスドライバーで、各々のミニフィックス本体を時計回りに約半回転まわして固定します。



(5)補強桟をキャビネットの上下に、取り付け用のダボ穴に合わせて差し込みます。表と裏を確認してセットしてください。

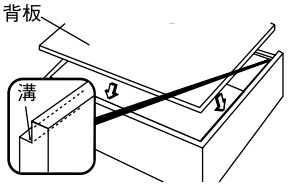


(6)残りの側板をミニフィックスボルトと木ダボに合わせて差し込んで取り付け、(4)、(5)と同様にミニフィックス本体を固定します。

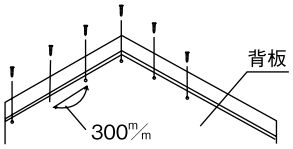


背板の取り付け

(1)側板に切り込んである溝に背板をはめ込みます。

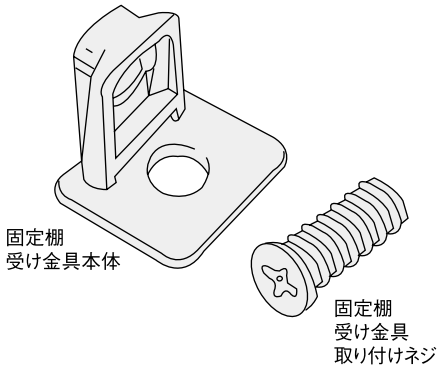


(2)背板の外側から約5mmの位置に背板止め用の木ネジを約300mm間隔で打ち込みます。仕上がりをきれいにするために、木ネジを天板・地板・側板側に少し斜めに打ち込んでください。

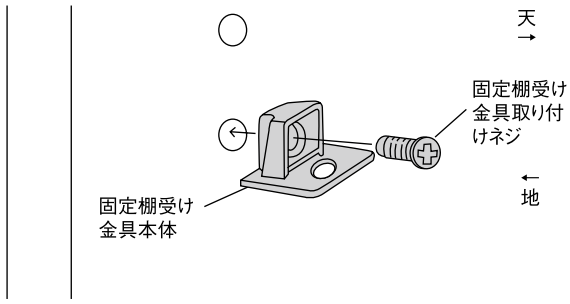


② トールキャビネットの固定棚の取り付け

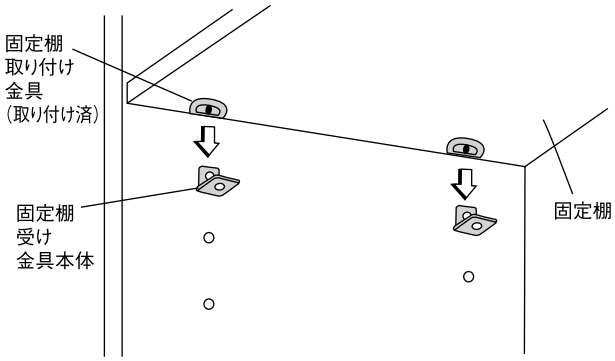
使用する部品



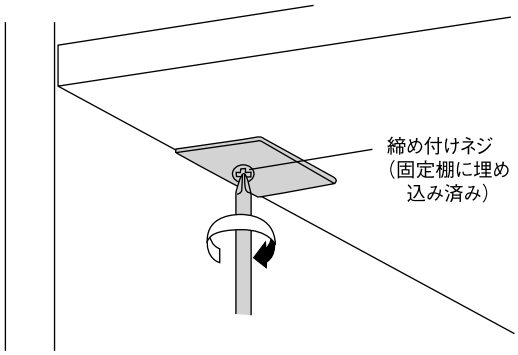
(1)固定棚受け金具本体を同梱の固定棚受け金具取り付けネジでシステム穴を利用して取り付けます。



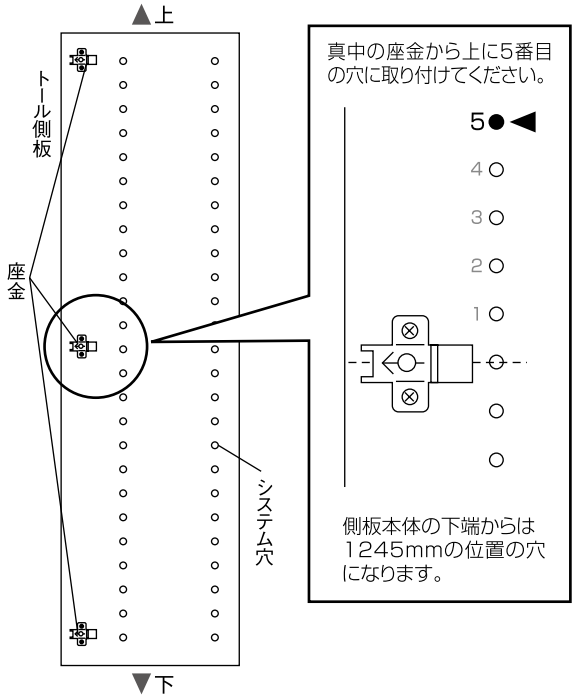
(2)固定棚受け金具本体と固定棚側の取り付け金具とがかみ合うように、上側から固定棚を差し込みます。



(3)下側から固定棚側のネジを半回転まわして固定します。

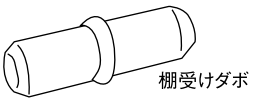


固定棚の取り付け位置

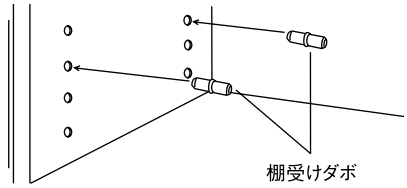


③可動棚の取り付け(全キャビネット共通)

使用する部品

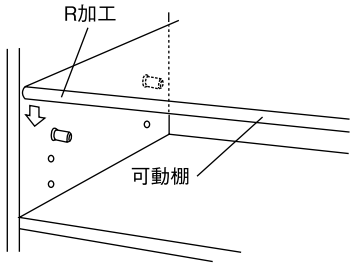


棚受けダボを側板のシステム穴に差し込みます。



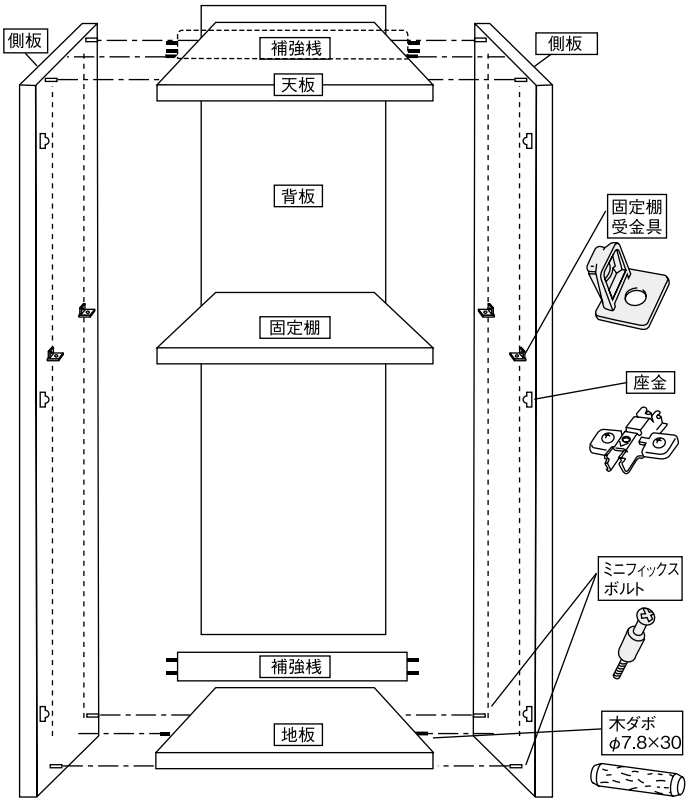
棚受けダボの上に可動棚をセットします。

(R加工をしている方を手前にしてください。)



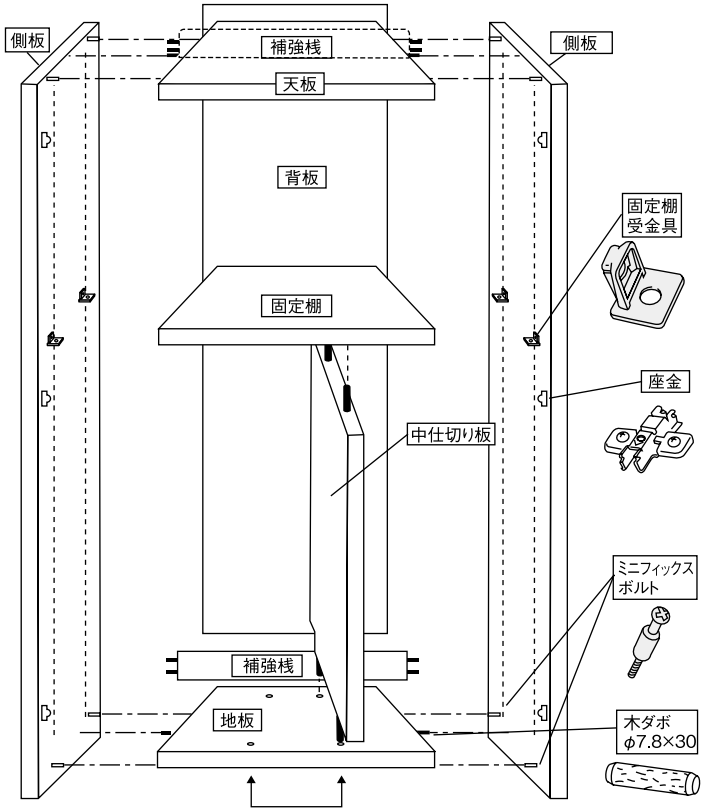
玄関収納

棚板タイプ



※可動棚は表示していません。

中仕切タイプ

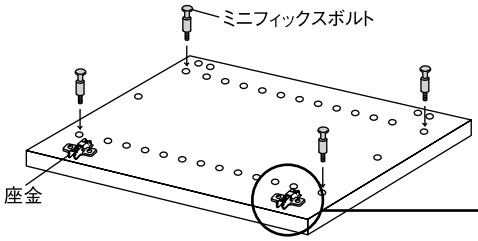


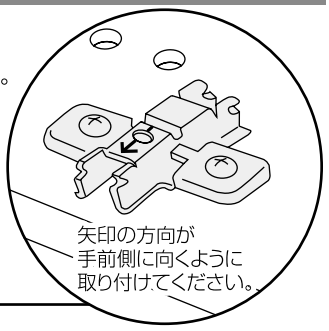
※可動棚は表示していません。

※中仕切り板は左右選択できます。

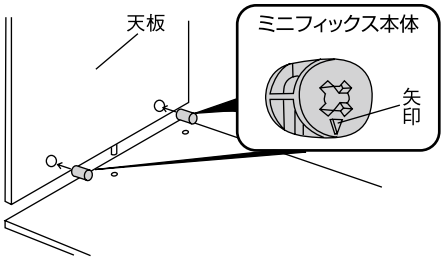
④ フロアーキャビネットの組み立て

(1)左右の側板に座金と、ミニフィックスボルトを取り付けます。
ミニフィックスボルトは側板のシステム穴の一番上側2ヵ所と、一番下側2ヵ所に取り付けます。

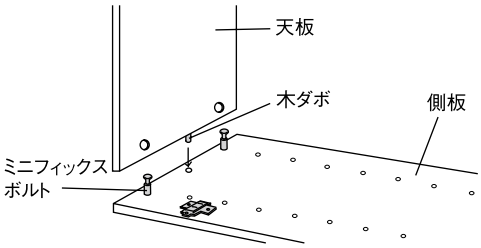




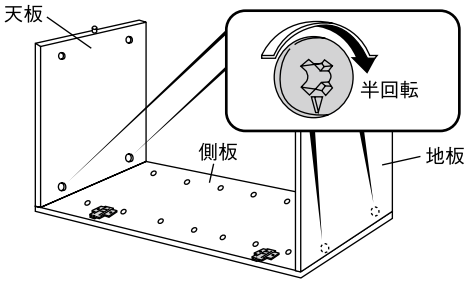
(2)天板に木ダボを取り付けます。
次にミニフィックスの矢印が木口の穴が空いている方へ合わせて取り付けます。



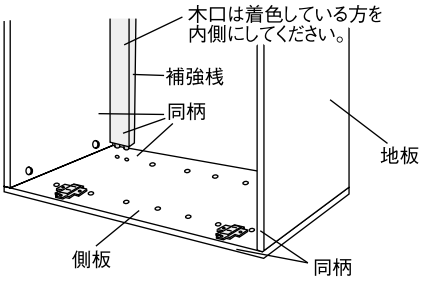
(3)左右の側板どちらかを床に置き、天板の穴のあいている面が内側になるようにして、側板のミニフィックスボルトと天板の木ダボに合わせて差し込みます。



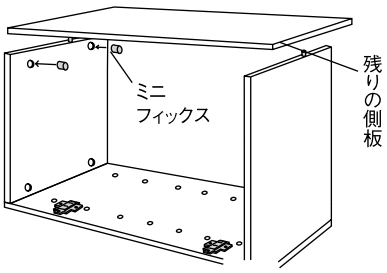
(4)プラスドライバーで、各々のミニフィックス本体を時計回りに約半回転まわして固定します。



(5)補強桟をキャビネットの上下に、取り付け用のダボ穴に合わせて差し込みます。表と裏を確認してセットしてください。

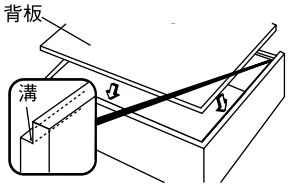


(6)残りの側板をミニフィックスボルトと木ダボに合わせて差し込んで取り付け、(4)、(5)と同様にミニフィックス本体を固定します。

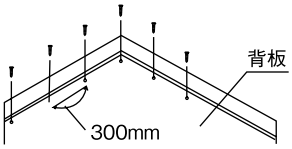


背板の取り付け

(1)側板に切り込んである溝に背板をはめ込みます。

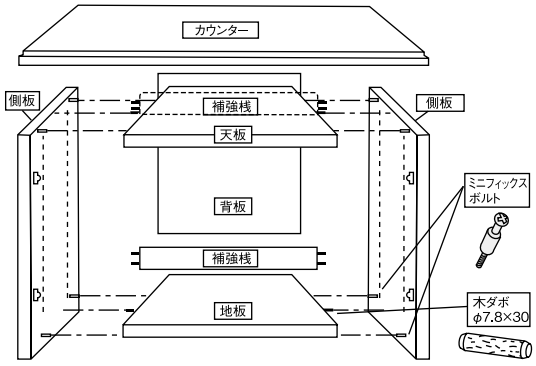


(2)背板の外側から約5mmの位置に背板止め用の木ネジを約300mm間隔で打ち込みます。仕上がりをきれいにするために、木ネジを天板・地板・側板側に少し斜めに打ち込んでください。



フロアーキャビネット

㊟カウンターは別途梱包となっております。
・カウンターは裏面より4ヶ所のビス止めとなります。

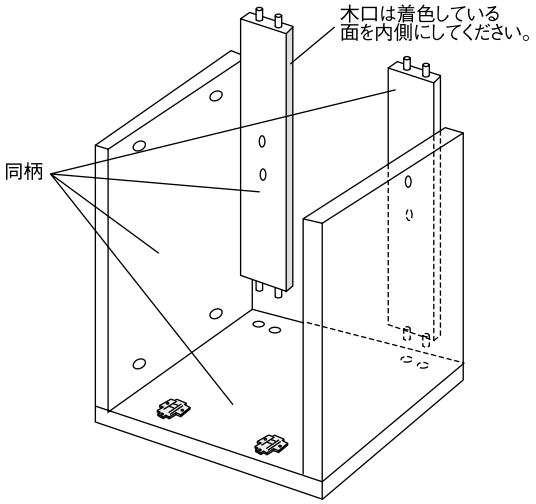


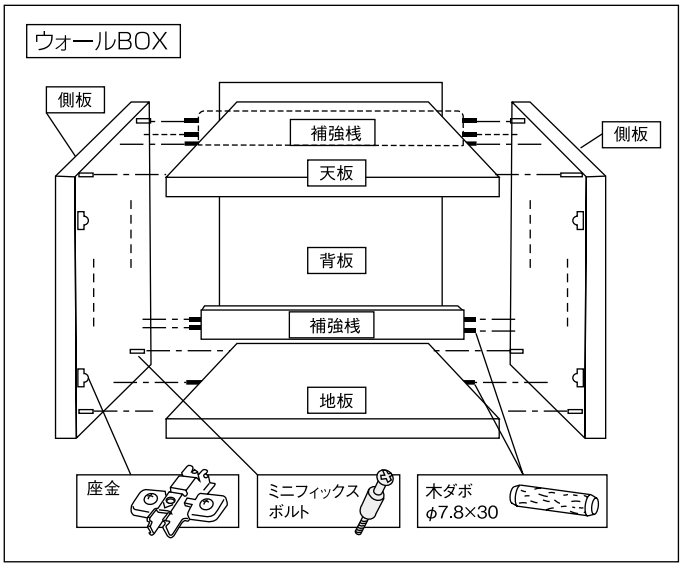
玄関収納

⑤ ウォールキャビネットの組み立て

フロアーキャビネットと同様の手順で組み立ててください。

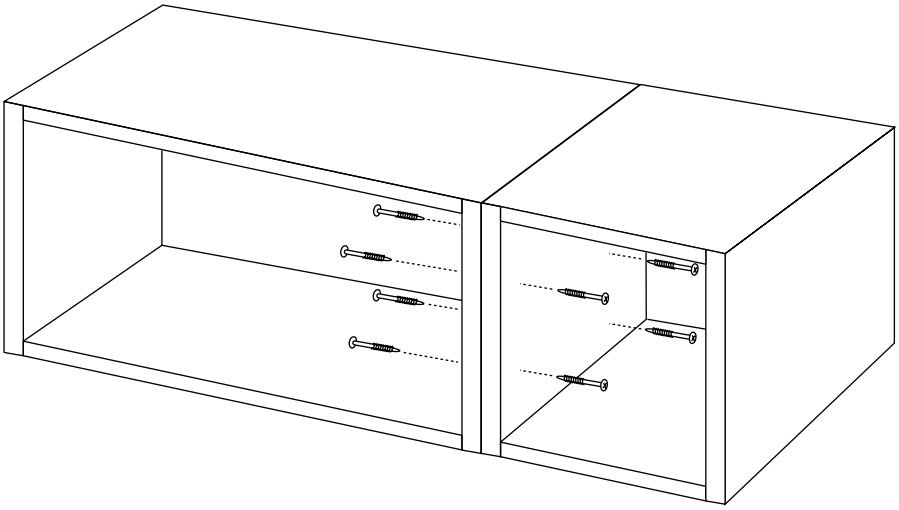
（1）補強桟の表面シート柄は側板、天地板のシート柄と同柄となります。





1194mmキャビネットの場合（全キャビネット共通）

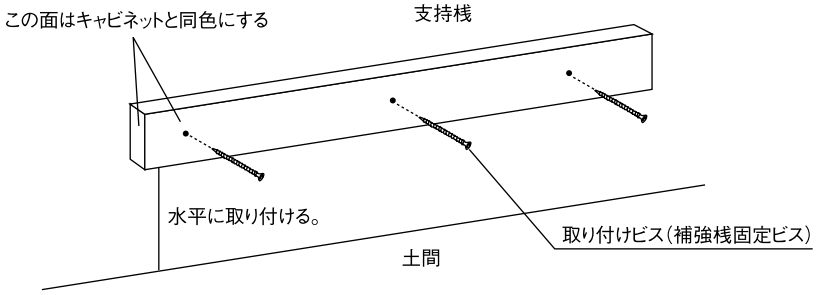
個々に組み立てしたキャビネットを連結ビスで固定します。片扉の左右勝手を確認の上両側から計8ヶ所で固定します。



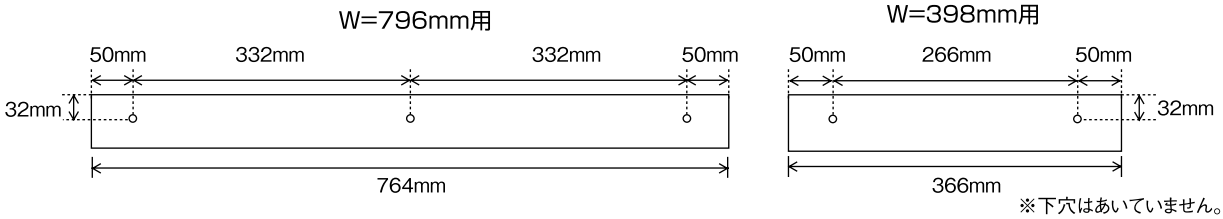
5. 壁面への固定

① フロートタイプの場合

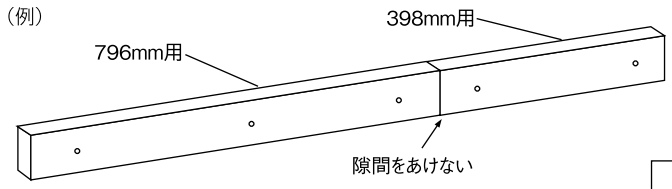
支持桟の水平を確認して取り付けビス（補強桟固定ビス）で壁面に固定してください。



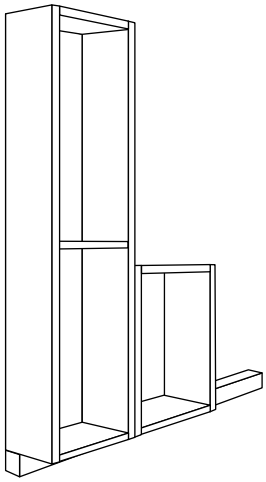
下図の寸法位置に取り付けビス（補強桟固定ビス）を打ち込んでください。



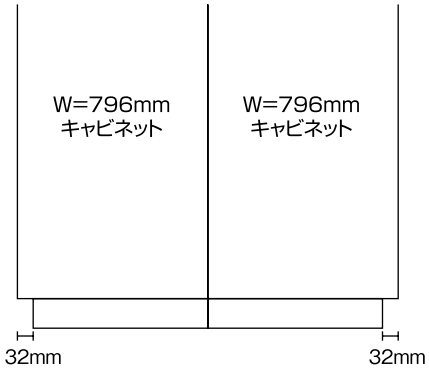
キャビネットが2つ以上並ぶ場合は接合部をしっかり密着させて連結させてください。



キャビネットを支持桟の上に乗せ、下地を施工した場所へビス固定をしてください。



例）W=796mmキャビネットを2つ連結させる場合



キャビネットを2つ以上連結させる場合は、支持桟を中心に合わせ、左右均等にクリアランスをとるように施工してください。

※化粧天板の取り付けの場合は、P13をご参照ください。

⚠ 注意

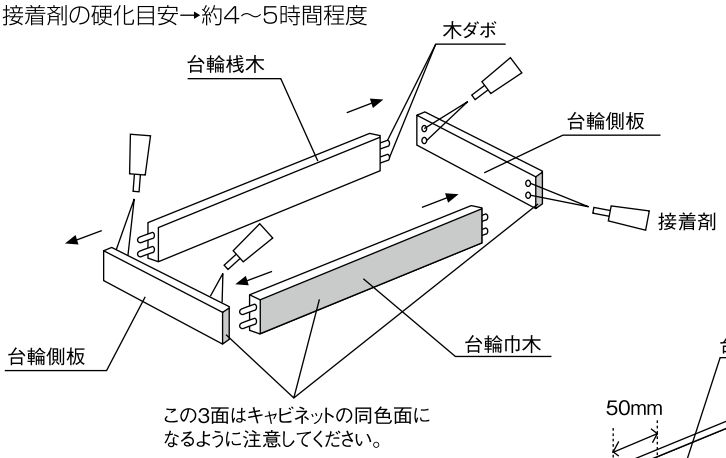
危険ですのでトール･ウォールキャビネットの取り付けは2人以上でおこなってください。

玄関収納

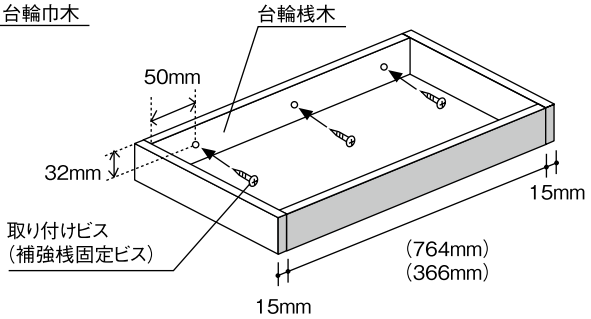
② 床置きタイプの場合

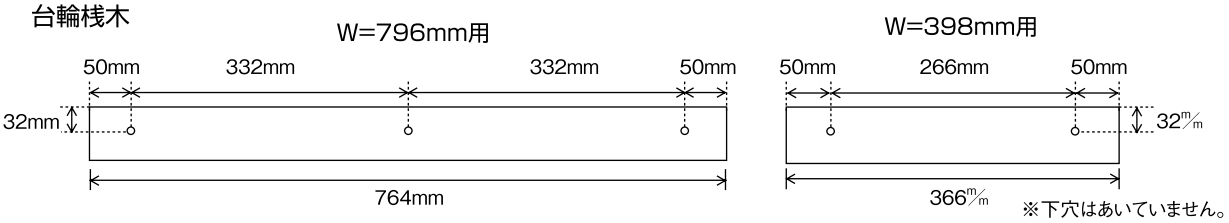
台輪側板のダボ穴に同梱の接着剤を適量塗布し組み立ててください。
※接着剤がはみ出さないように注意してください。
　接着剤を塗布したらすぐに組み立ててください。
　接着剤の硬化目安→約4～5時間程度

台輪セット内訳	
台輪側板	2本
台輪巾木	1本
台輪桟木	1本
地板連結ビス(ビスキャップ付)	2本
木ダボ	8本
接着剤(10g)	1個
補強桟ビス(W=398mm用)	2本
補強桟ビス(W=796mm用)	3本
連結ビス(W=398mm用)	1本
連結ビス(W=796mm用)	1本



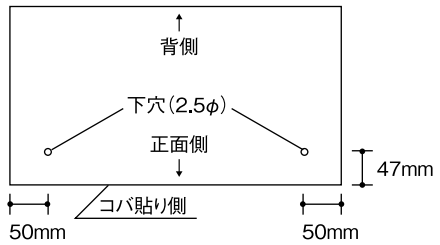
台輪桟木が壁面に接するようにし、台輪桟木に取り付けビス(補強桟固定ビス)を図の位置に固定してください。

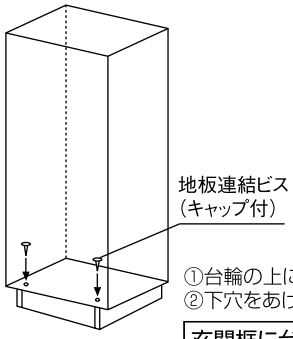




台輪の上部にキャビネットをのせて地板の(図1)の位置に下穴(2.5φ)をあけ、地板連結ビスで連結してください。
その後に、壁面下地の位置にキャビネットを固定してください。

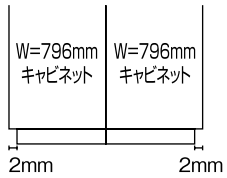
(図1)　W=796mmの場合



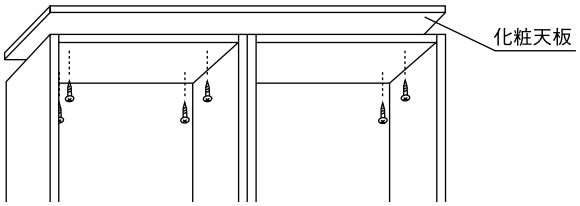


①台輪の上にキャビネットをのせる
②下穴をあけ、地板側から連結させる。

例)W=796mmキャビネットを2つ連結させる場合

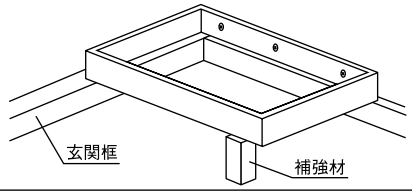


キャビネットを2つ以上連結させる場合は、台輪を中心に合わせ、左右均等にクリアランスをとるように施工してください。



化粧天板を取り付ける場合は、キャビネット側から下穴をあけ、ビス(現場調達)で連結させてください。

玄関框に台輪が少しだけかかる場合



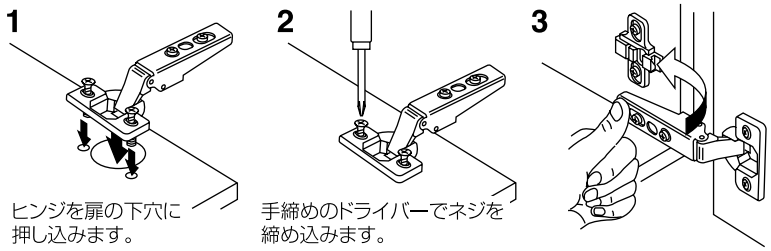
キャビネットをのせる前に荷重で台輪が壊れないように施工が終わるまで補強材(現場調達)をつけておいてください。

⚠ 注意

危険ですのでトール・ウォールキャビネットの取り付けは2人以上でおこなってください。

6. 扉の取り付け・調整方法

① 扉の取付け（スライド丁番の取付け）

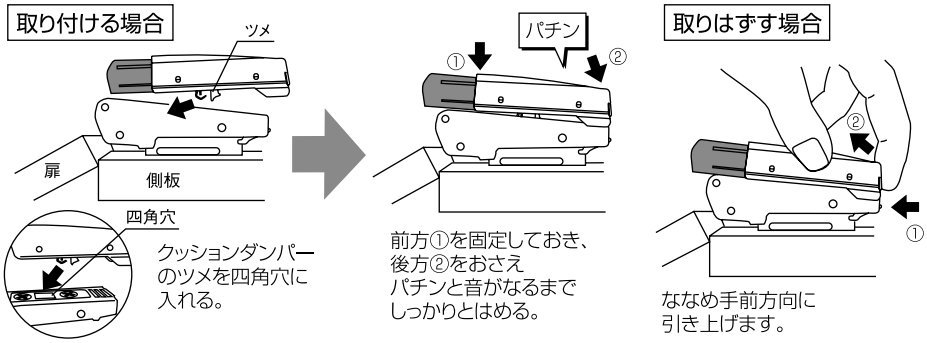


扉をキャビネットに取付けるにはヒンジアームの前部を先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。

⚠ 注意

扉にヒンジを取り付ける際には、インパクトドライバーを使用しないでください。

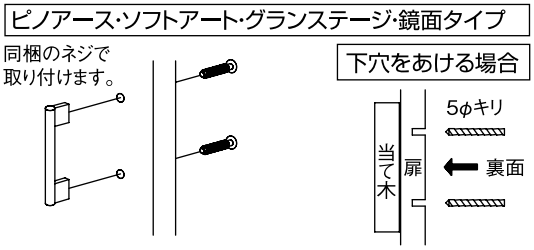
② クッションダンパーの着脱



⚠ 注意

無理な脱着は、部品破損原因になります。

③ 取手の取付け（堀込取手の場合は除きます）



お願い

下穴をあける場合は、
扉表面に当て木をして、
バリ発生を防いでください。

④ 扉の調整（スライドヒンジの調整）

扉の左右調整

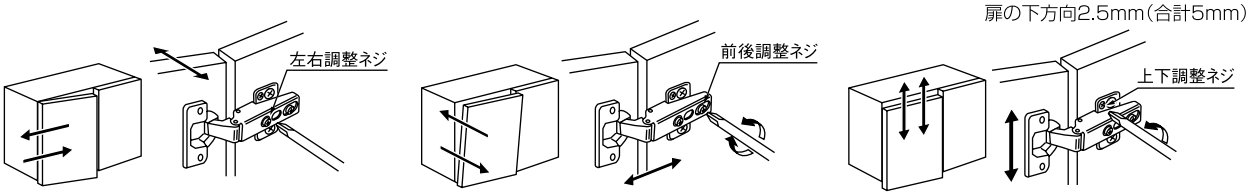
◆左右調整ネジを回して左右調整してください。
アジャスト量:扉の内方向4mm

扉の前後調整

◆前後調整ネジをゆるめて前後調整した後、
締め直してください。
アジャスト量:扉の前方向2mm
扉の後方向2mm（合計4mm）

扉の上下調整

◆（座金により移動が可能です）
上下調整ネジをゆるめて上下調整した後、
締め直してください。
アジャスト量:扉の上方向2.5mm
扉の下方向2.5mm（合計5mm）



お願い

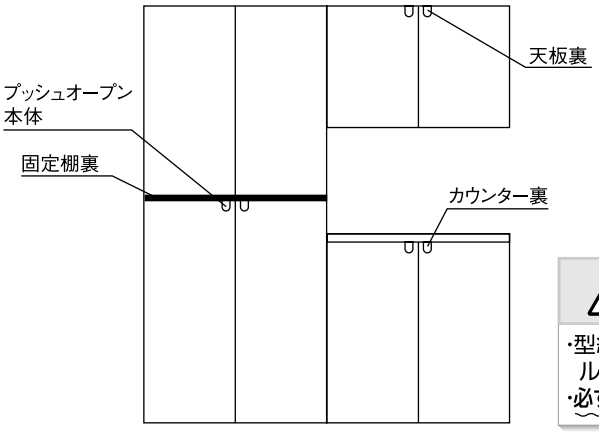
調整ネジの調整はインパクトドライバーは使用しないでください。
調整ネジの破損の原因になりますので必ず手締めのドライバーで調整してください。

玄関収納

7. オプション部材

① プッシュオープン ※ピノアースシリーズは対応しておりません。

固定棚(トール)・天板(ウォール)・カウンター(フロアー)にプッシュオープン本体を取り付けます。

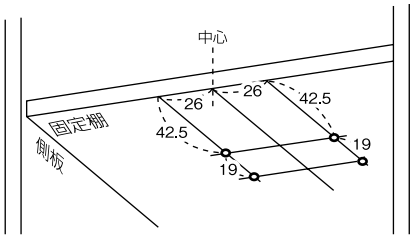


⚠ 注意

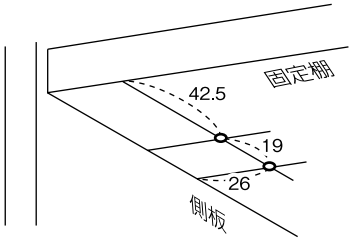
・型紙はキャビネット本体に同梱しております。トール・フロア・ウォールキャビネットの型紙は共通となります。
・必ず下穴を空けてからキャビネット本体の組み立てをおこなってください。

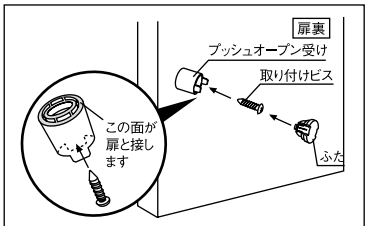
・トールキャビネット 固定棚の裏面に取り付けて下さい。

W=796mm(両開き)の場合



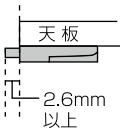
W=398mm(片扉)の場合





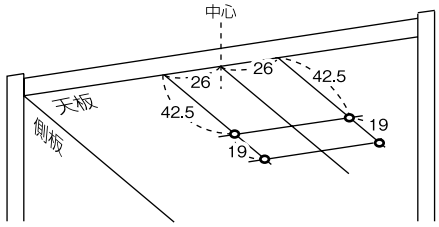
固定棚にプッシュオープンを取り付ける場合は、接する扉部分にプッシュオープン受けを取り付けてください。

⚠ 注意

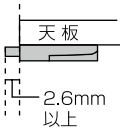


プッシュオープンの先端を天版および側板から2.6mm以上出して取り付けてください。プッシュオープンがうまく作動しない場合は上記調整を行ってください。

・フロアーキャビネット・ウォールキャビネット 天板の裏面に取り付けて下さい。



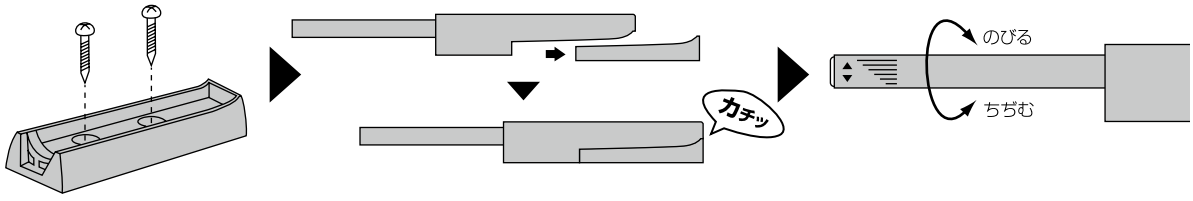
⚠ 注意



プッシュオープンの先端を天版および側板から2.6mm以上出して取り付けてください。プッシュオープンがうまく作動しない場合は上記調整を行ってください。

プッシュオープンの取り付け

専用ビスにて対応する下穴にプッシュオープンを取り付けてください。



（1）型紙を使用してプッシュオープン取り付け位置に下穴をあけてください。

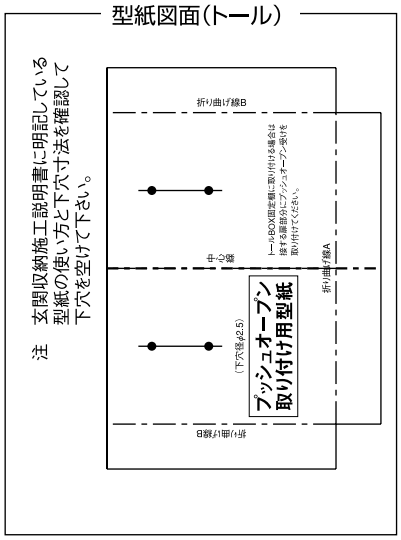
参照 型紙の使い方

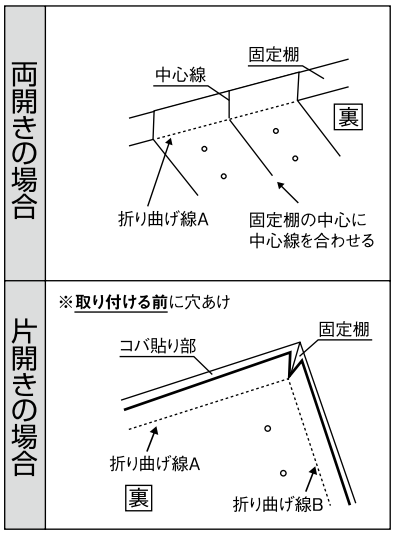
⚠ 注意

型紙はキャビネット本体に同梱しております。
トール・フロア・ウォールキャビネットの型紙は共通となります。
両開きの場合は、固定棚・天板の中心に型紙の中心線を合わせてください。
※部材を取り付ける前に下穴をあけておいてください。

⚠ 注意

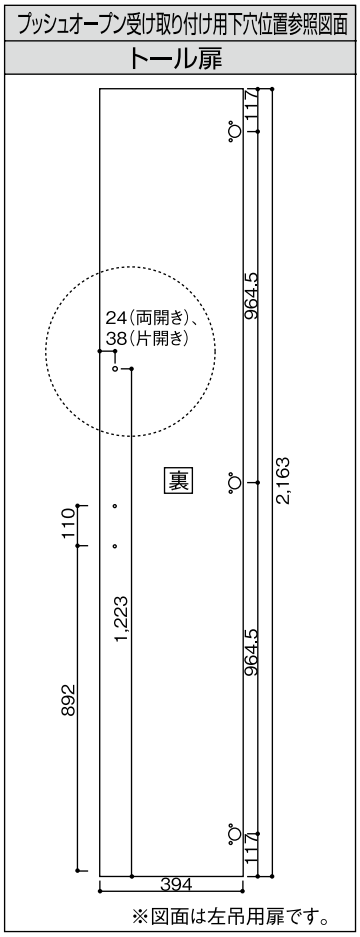
トール片開きの場合は、固定棚を取り付けた後、プッシュオープン本体を取り付けてください。

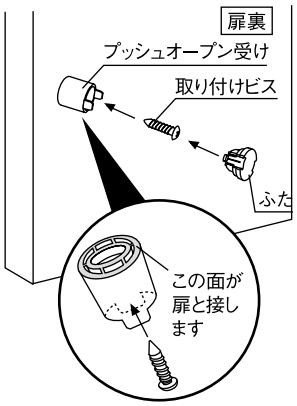




（2）下穴の位置に合わせてプッシュオープン本体を取り付けます。
型紙を使用してあけた下穴にプッシュオープン本体を同梱の取り付けビスで固定させます。

（3）扉の裏側にプッシュオープン受けを取り付ける。
※参照図面で位置を確認して下穴（2.5φ）を空けてプッシュオープン受けを取り付けてください。



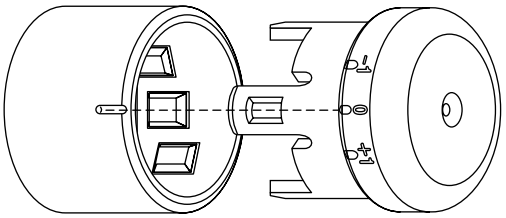


⚠ 注意

ビスの取り付けはインパクトドライバーを使用しないでください。手締めのドライバーで締めてください。

プッシュオープン受けの取り付けについて

戸先側（丁番と逆方向）に下穴をあけてください。
ふたを取り付ける際に下図のように0の位置に合わせてはめてください。

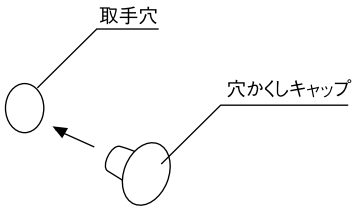


※1 プッシュオープンの強弱を調整する場合	0…通常 −1…1mm低くなる +1…1mm高くなる

（4）扉裏の取っ手取り付け用の加工穴（半貫通）に、穴隠しキャップを取り付ける。
（プッシュオープンにした場合、取っ手は取り付けないため）

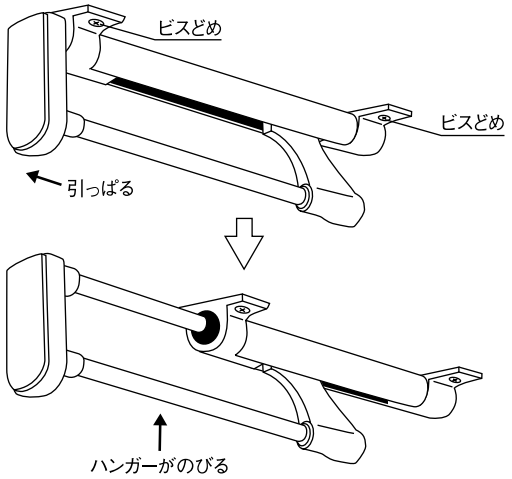
⚠ 注意

扉1枚に対し、取っ手取り付け用の加工穴（半貫通）は2ヶ所空いています。

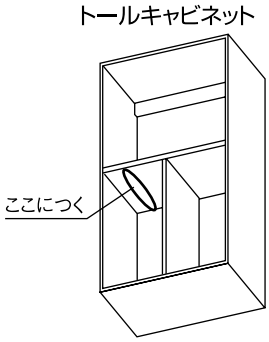


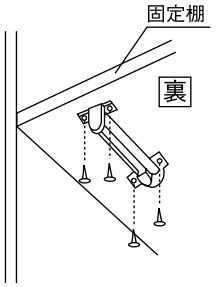
玄関収納

② コート収納（スライドコートハンガー）



セット内訳	
スライドコートハンガー本体	1個
スライドコートハンガー取り付けビス	4本

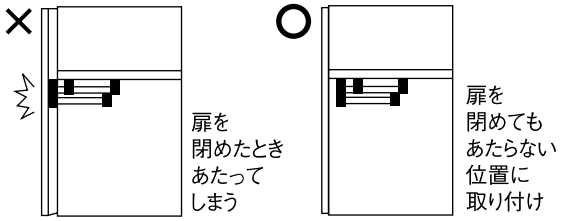




同梱のビスで4ヵ所トールキャビネットの固定棚に取り付けます。
※必ず下穴（2.5φ）をあけてからビスを打ち込んでください。

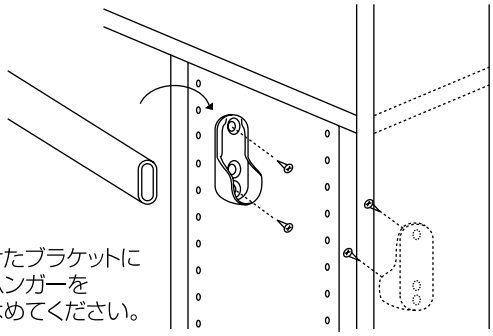
⚠ 注意

スライドコートハンガーを納めた状態で扉の開閉に支障をきたさない場所に取り付けてください。



③ 傘収納（傘受けトレー・フック）

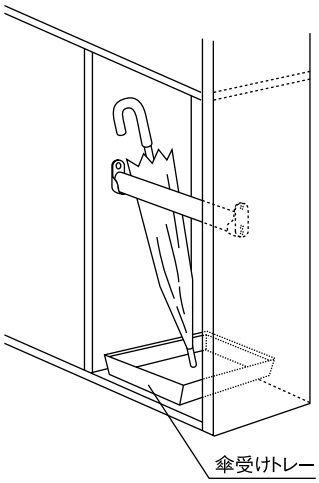
※セット品ではありません。必要な部品を組み合わせてご使用ください。

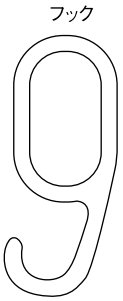


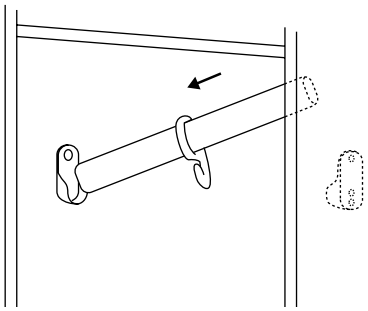
パイプハンガーブラケットを任意の位置に同梱のビスで取り付けてください。

⚠ 注意

ブラケットの高さは左右対象で同じ高さに取り付けてください。
ブラケットの取り付けは、システム穴の位置を避けてください。
ビス取り付けの前に下穴（2.5φ）をあけてください。





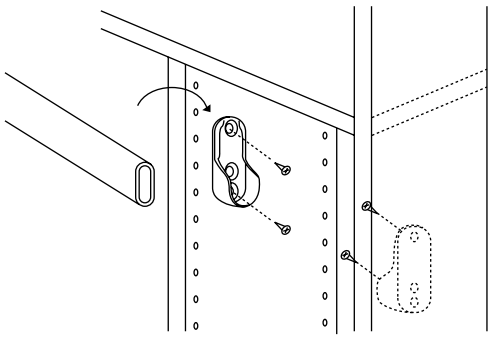


フックを取り付ける場合は、パイプハンガーをブラケットに設置する前にパイプハンガーにフックを通しておいてください。

⚠ 注意

傘を収納する際は十分に乾かしてから収納してください。

④ ブーツハンガー(パイプハンガーセット・フック)



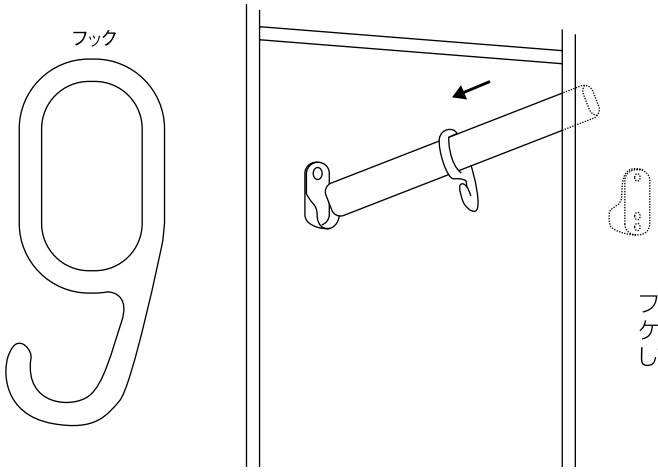
取り付けたブラケットにパイプハンガーを上からはめてください。

ブラケットを任意の位置に同梱のビスで取り付けてください。

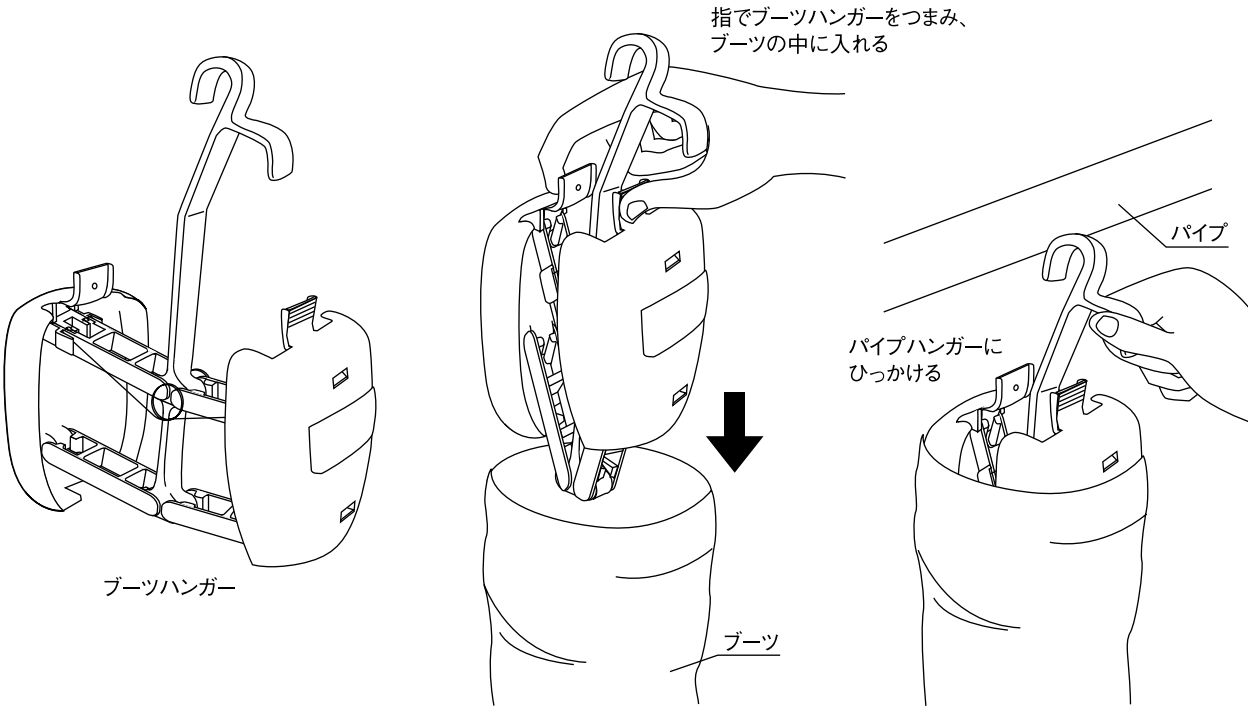
セット内訳		
ブーツハンガー		2個
パイプハンガー(ブラケット2個)	W=764㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
	W=366㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
	W=218㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
	W=523㎜	パイプ1本・ブラケット2個・取り付けビス4本
フック		5個

⚠ 注意

ブラケットの高さは左右対象で同じ高さに取り付けてください。
ブラケットの取り付けは、システム穴の位置を避けてください。
ビス取り付けの前に下穴(2.5φ)をあけてください。



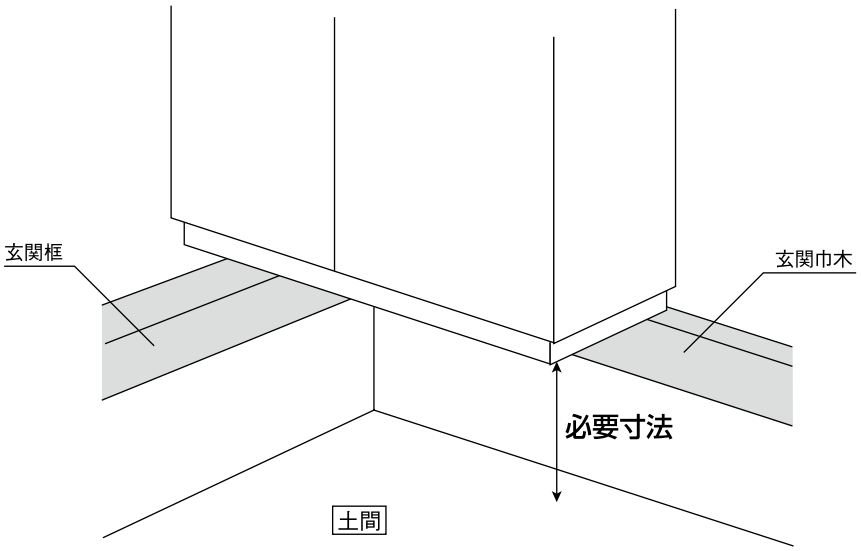
フックを取り付ける場合は、パイプハンガーをブラケットに設置する前にパイプハンガーにフックを通しておいてください。



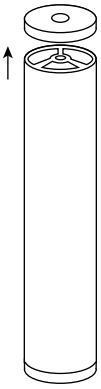
玄関収納

⑤ アルミ脚（台輪施工の場合のみ）

セット内訳	
脚本体	2本
脚取り付けネジ	2本



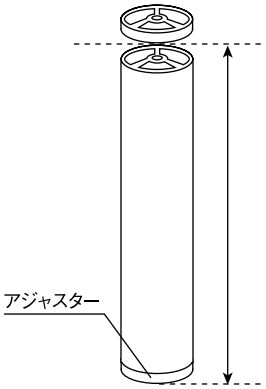
（1）キャップをはずしてください。



⚠ 注意

脚はアルミ製ですので金物専用のノコでカットしてください。木材専用のノコでカットすると、ノコが破損してしまうおそれがあります。

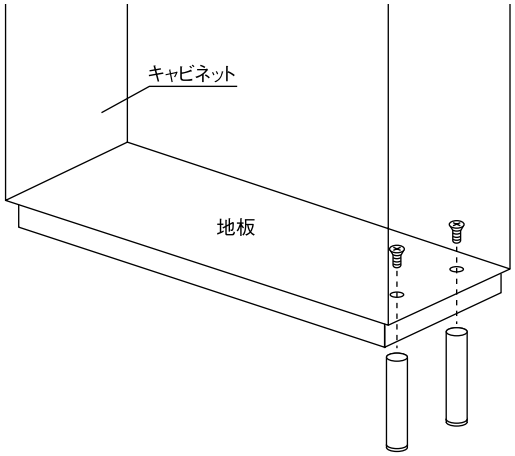
（2）必要寸法から**5〜10mm程度短めに**カットし、キャップをはめてください。



⚠ 注意

脚をカットする際はアジャスター側をカットしないよう、気をつけてください。また、カットは斜めにならないように気をつけてください。

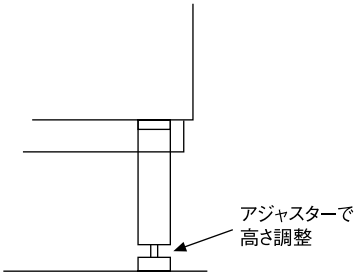
（3）任意の位置でキャビネットの地板側から下穴（6φ）をあけて、同梱のネジで地板と脚を固定させてください。

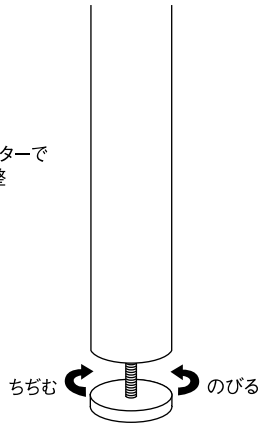


⚠ 注意

最後までしっかりとネジを締めてください。ネジが緩んでいるとキャビネットなどが転倒し、ケガをするおそれがあります。

（4）必要寸法に合わせてアジャスターで寸法を調整してください。





右にまわす→アジャスターがのびる
左にまわす→アジャスターがちぢむ

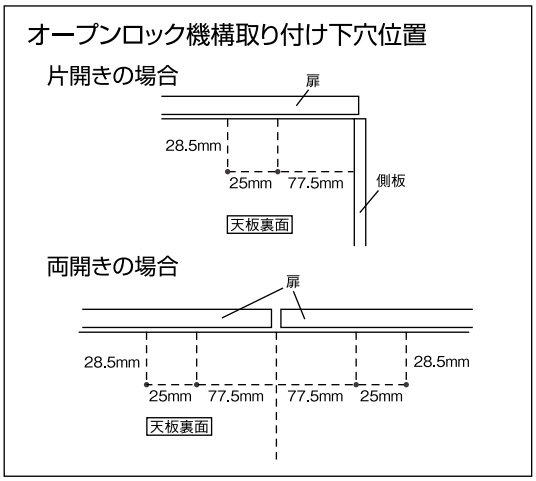
アジャスター	約20mm調整可能

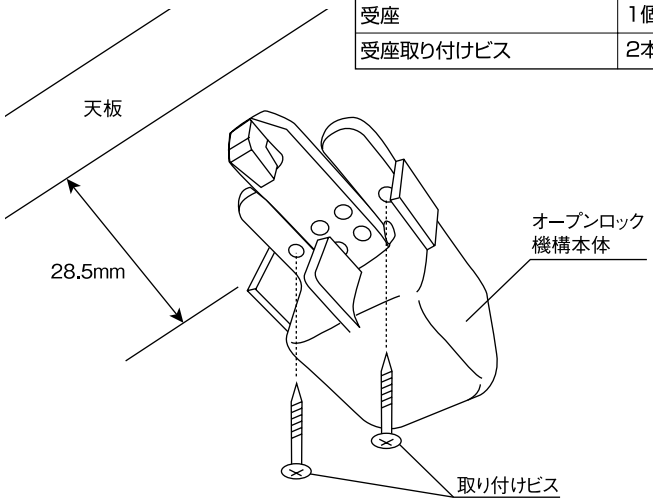
⑥ オープンロック機構 ※フロアーキャビネットには取り付けできません。

(1)本体の取り付け

オープンロック機構本体をキャビネット天板の指定の位置に下穴(2.5φ)をあけ、取り付けビスで取り付けてください。

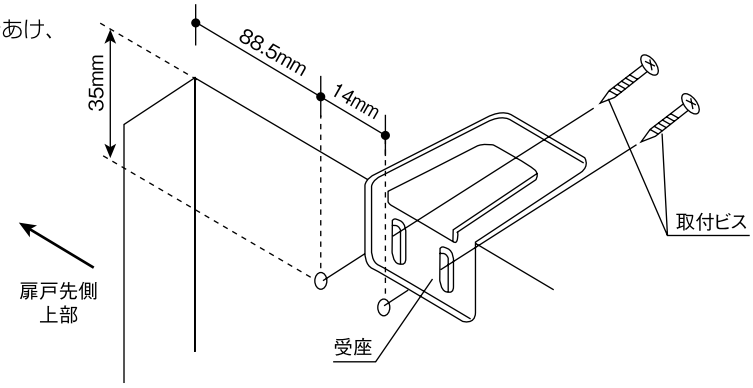
セット内訳	
オープンロック機構本体	1個
オープンロック機構取り付けビス	2本
受座	1個
受座取り付けビス	2本





(2)受座の取り付け

受座を扉裏面の指定の位置に下穴(2.5φ)をあけ、取り付けビスで取り付けてください。

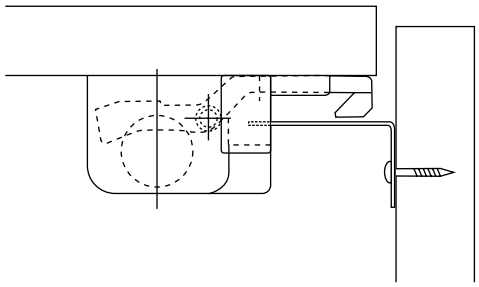


※取り付け寸法図の受座取り付け位置は、受座の長穴の中心を指しています。
取り付けビスが長穴の中心になるように取り付けてください。

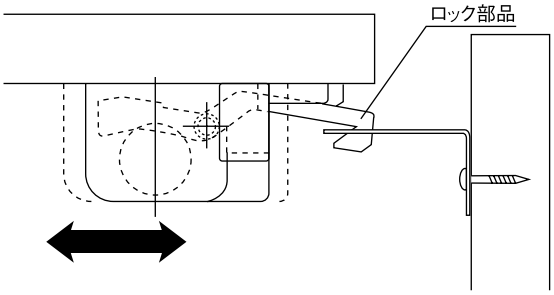
⚠ 注意

オープンロック機構本体、受座を取り付けるときは、必ず先に下穴をあけておいてください。
ビスを締めるときに、インパクトドライバーなどを使用しないでください。
ビスを強く締めすぎると空回りしたりし、確実に固定されないおそれがあります。

ロック機構について



ロックされていない状態
揺れていないときは、内部のボールが動かないので、ロック部品は上がった状態になります。



ロックされている状態
キャビネットが揺れ続けると、内部のボールが動き、オープンロック機構本体のロック部品が下がった状態になるのでロック状態になります。揺れがおさまり、内部のボールが止まるとロック部品が上がり、ロックが解除されます。

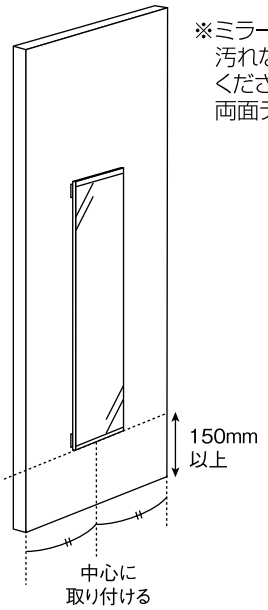
玄関収納

⑦ 内ミラーセット（扉裏取り付け）

※フラット形状の扉のみ取り付け可能。（框組扉の内側には取り付けできません）

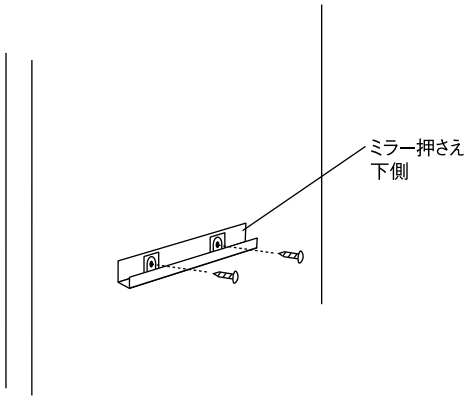
セット内訳	
ミラー	1枚
ミラー押さえ	2本
ミラー押さえ取り付けビス	4本

（1）ミラーの取り付け位置を決めてください。

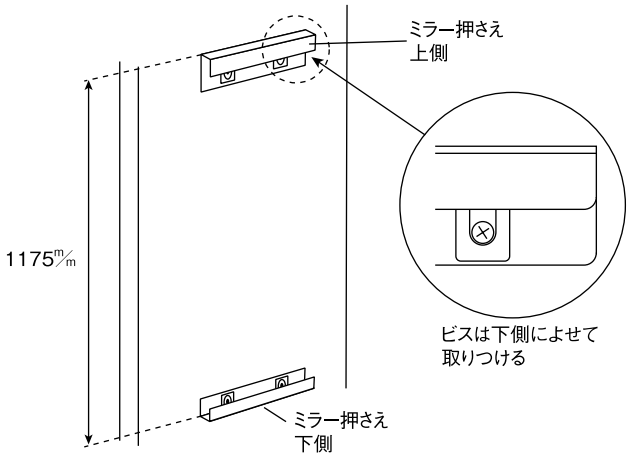


※ミラーを取り付ける位置にゴミや汚れなどがないようにしておいてください。ゴミや汚れなどがあると両面テープの接着力が弱くなります。

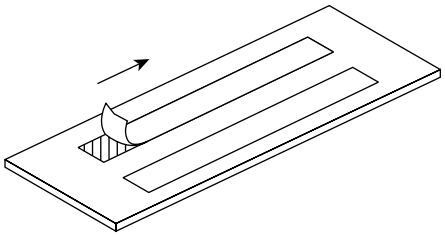
（2）ミラー押さえ下側を同梱のビスで取り付けてください。（完全に固定する）



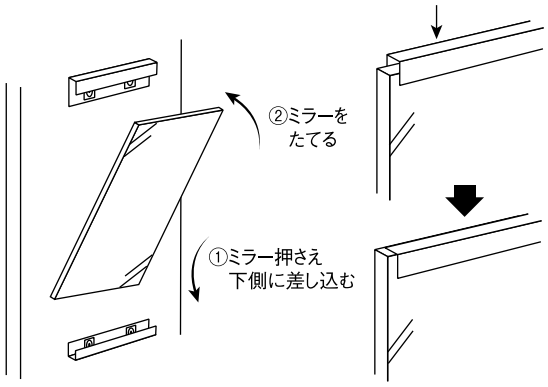
（3）ミラー押さえ上側を同梱のビスで仮固定します。
このときビスは取り付け部分の下側によせて打ち込んでください。また、ミラー押さえ上側が後で動く程度にとめておいてください。
※強く締めすぎると、後で動かなくなります。



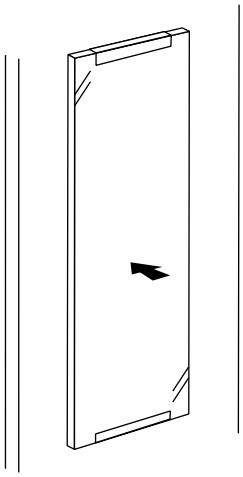
（4）ミラー裏側の両面テープをはがしてください。
※両面テープをはがす前に、1度取り付け位置にあてて、ミラー押さえ上側の位置が問題ないか、確認しておいてください。



（5）ミラーを正面から入れミラー押さえ上側を下にずらし、ミラーがはずれないようにとめる。



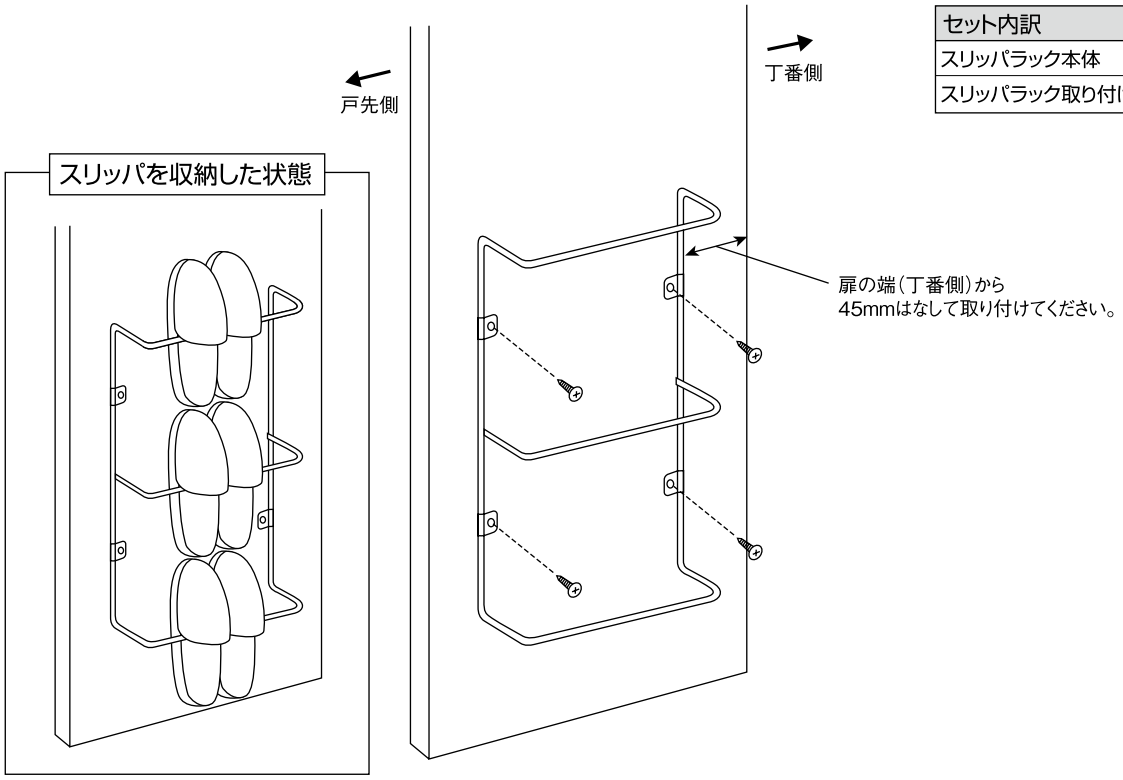
（6）ミラーが完全に動かなくなるように表から押さえ両面テープを圧着させてください。



⑧ スリッパラック（扉裏取り付け）

カスタムオーダー・奥行き400mm（棚板タイプ）にしか取り付けできません。※W寸法はレギュラー巾以上に対応。

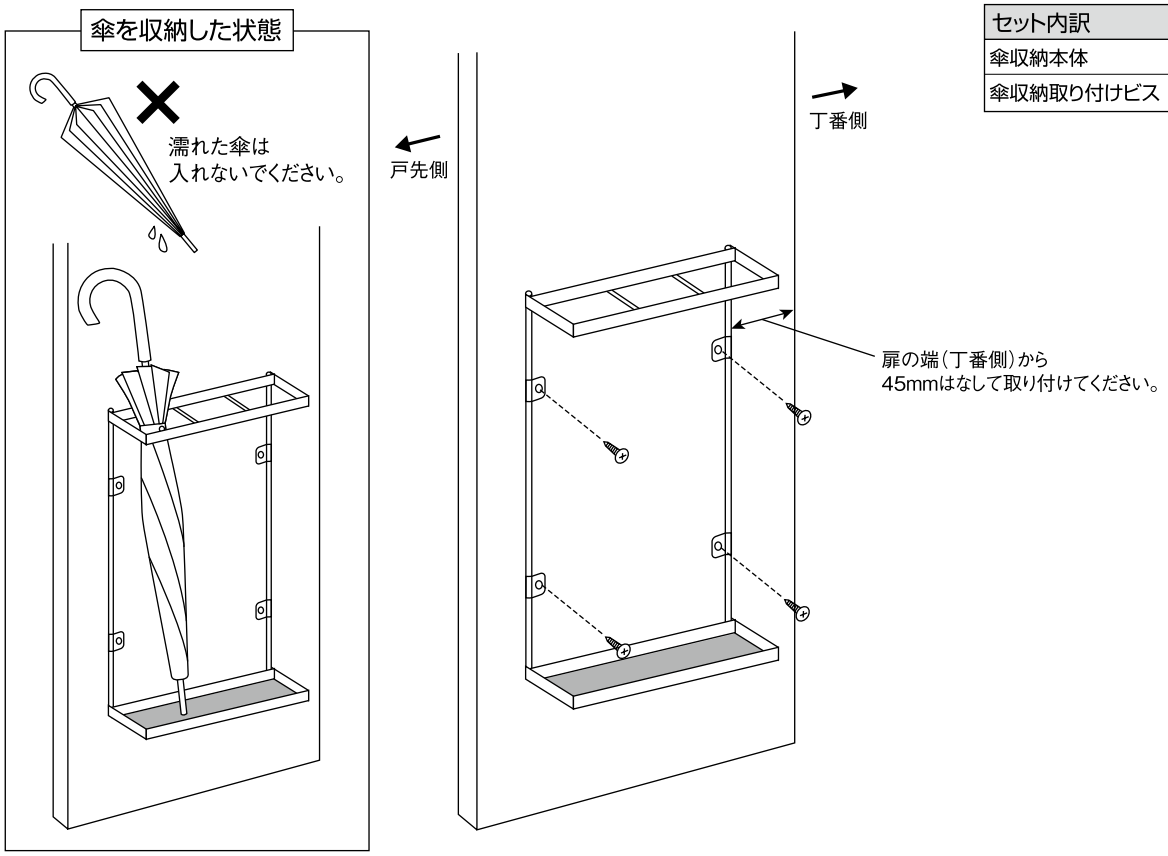
セット内訳	
スリッパラック本体	1個
スリッパラック取り付けビス	4本



⑨ 傘ラック（扉裏取り付け）

カスタムオーダー・奥行き400mm（棚板タイプ）にしか取り付けできません。※W寸法はレギュラー巾以上に対応。

セット内訳	
傘収納本体	1個
傘収納取り付けビス	4本

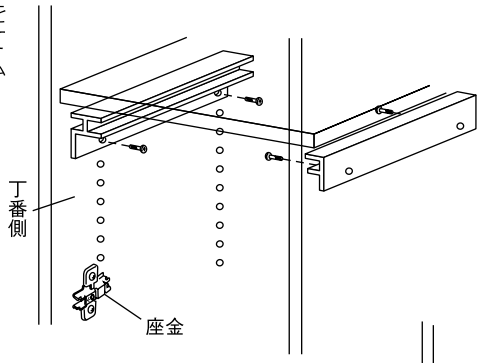


玄関収納

⑩ アミカゴ

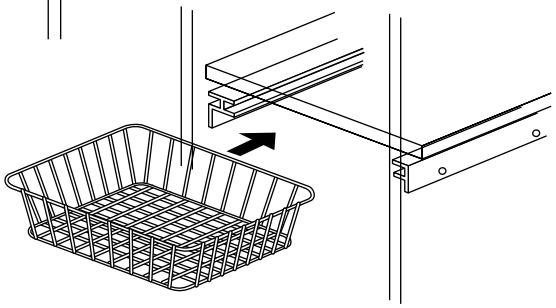
トールキャビネットW=398mmタイプのみ取り付け可能。

(1)任意の位置にバスケット受けレールを同梱のレール固定ネジで取り付けてください。このとき、固定はシステム穴を利用してください。



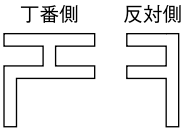
セット内訳	
バスケット本体	1個
バスケット受けレール(丁番側)	1本
バスケット受けレール	1本
レール固定ネジ	4個

(2)取り付けたバスケット受けレールにバスケット本体をスライドさせて取り付けてください。

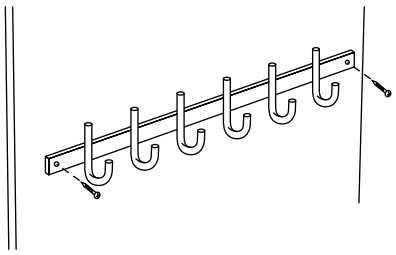


⚠ 注意

丁番側と反対側でバスケット受けレールの形状が異なります。誤って逆に取り付けると、丁番・扉本体とバスケットが接触する可能性があります。



⑪ 六連フック



扉の裏に取り付けます。
取り付け位置を確定させたら下穴(2.5φ)をあけ、同梱の取り付けビスで固定させてください。

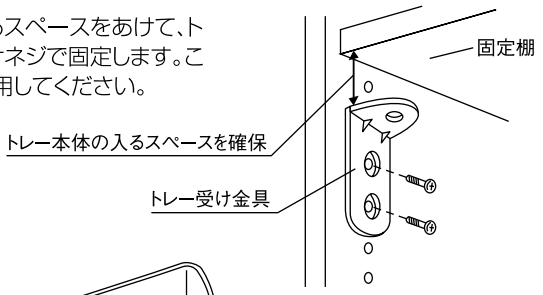
セット内訳	
六連フック本体	1個
六連フック取り付けビス	2本

⚠ 注意

六連フックが固定棚や中仕切り板、可動棚にあたらないように気をつけてください。

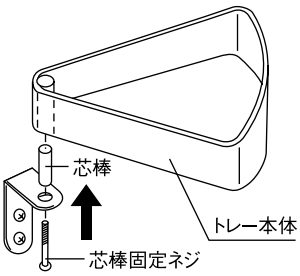
⑫ 回転小物入れ

(1)固定棚の下に、トレー本体が入るスペースをあけて、トレー受け金具を同梱の取り付けネジで固定します。このとき、固定はシステム穴を利用してください。

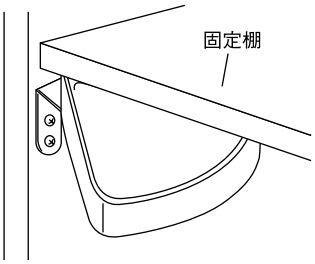


セット内訳	
トレー本体	1個
トレー受け金具	1個
トレー受け取り付けネジ	2個
芯棒	1個
芯棒固定ネジ	1本

(2)芯棒をトレー本体の中心に入れ、芯棒固定ネジでトレー本体とトレー受け金具を固定します。



(3)手前に引っ張り出せば、小物トレーが出てきます。



壁厚収納

収納共通

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・屋内専用。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

・パイプハンガーのぶら下がり禁止!
お子様がぶら下がって遊んだりすると、こわれたり、脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

・ぶら下がり禁止!
棚板等にお子様がぶら下がったり、上に乗って遊んだりすると、板が破損したり、脱落してケガの原因となりますので絶対にしないでください。

・ヒンジを分解しない。
扉取り付け用のヒンジを分解したり、無理に曲げたりすると、扉が脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

必ずおこなう

・確実にヒンジと座金をジョイントする。
扉取り付け用のヒンジが確実に座金とジョイントされていないと、扉が脱落してケガの原因となりますので、確実にヒンジと座金をジョイントしてください。

・接着剤と釘を併用する。
施工の際には必ず接着剤と併用して釘をお使いください。接着が甘いと脱落の原因となり危険です。

・下地材の取り付けは確実に固定する。
化粧造作部材が落下して、ケガの原因となりますので、下地材の取り付けは壁面より、柱・間柱に確実にビス等で固定してください。

・開梱後は換気を行なう。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には水平な場所に平積みしてください。

・間柱・補強桟等の下地処理
収納パーツシステムは、壁面に直接固定するため、間柱・補強桟などの下地処理が不十分ですと転倒、脱落してケガの原因となりますので、所定の位置に躯体下地の準備をしてください。

壁厚収納

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・棚板の耐荷重は1枚当たり10kg。
棚板の耐荷重を越えて収納しますと棚板が破損したり脱落してケガの原因となります。

必ずおこなう

・確実にキャビネットと壁面を固定する。
キャビネットがあらかじめ間柱・補強桟等の下地処理を施した壁面と固定されていないと、キャビネットが転倒してケガの原因となりますので、確実にキャビネットと壁面を固定してください。

押入れセット

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

必ずおこなう

・間口が広い場合の補強。
間口が2mを越える場合（例えば9尺間口など）は、吊り束や束等の補強材もしくはL型金物等を使って十分な補強を施してください。

・補強。
押入れ地板は5.5㎜であるため、12㎜以上の捨て貼り合板を用いるとともに、根太間隔は303㎜ピッチ以内で施工してください。中段および枕棚の浅木の取付け位置には、胴縁および間柱等の下地を必ず入れてください。

押入れ用壁材　桐

・下地材の上から施工する。
必ず壁の下地材の上から貼りあげてください。直接柱、間柱に打ちつけると、パネル自体に強度がない為、破損しやすく、また構造躯体自体の強度低下を招き危険です。

・化粧釘で固定する。
施工の際は必ず化粧釘をお使いください。

当社収納は、衣類・寝具等を収納するように設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。（棚板及び引き出し等の耐荷重は下表をご参照ください。）

●1枚あたりの耐荷重

中段	200kg（6尺用）
枕棚	100kg（6尺用）
棚板	20kg
ハンガーパイプ	20kg（850㎜スパン）

●1枚あたりの耐荷重（ジュピーノすのこタイプ）

中段	150kg
枕棚	75kg

お願い 安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

洗剤・消臭剤・消臭スプレー・殺虫剤等が製品に直接付着すると変色の原因になります。
＜化粧シート面・裏面（無地）共通＞
ベンジン・アルコール・シンナーなどを使用すると変色、変質することがありますので絶対に使用しないでください。

造り付け家具

⚠ 警告 使用に際して以下の注意が守られない場合、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。確実にお守りください。

注意!

・上部ユニットの耐荷重は1ボックスあたり40kg。
耐荷重を超えて収納しますとユニットが脱落する原因となり危険です。

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

禁止

・棚板の耐荷重は1枚当たり20kg。
棚板の耐荷重を越えて収納しますと棚板が破損したり脱落してケガの原因となります。

・ガラスに強い衝撃を与えない。
扉（ガラスタイプ）に強い衝撃を与えるとガラスが割れてケガの原因となり危険です。

・引出しの耐荷重は1杯当たり20kg。
引出し1杯の耐荷重を越えて収納しますと底板が破損したり脱落してケガの原因となります。

必ずおこなう

・確実にキャビネット同士を連結する。
キャビネット同士が連結金具で確実に連結されていないと、キャビネットが転倒・脱落してケガの原因となりますので、確実にキャビネット同士を連結してください。

・確実にキャビネットと壁面を固定する。
キャビネットがあらかじめ間柱・補強桟等の下地処理を施した壁面と固定されていないと、キャビネットが転倒してケガの原因となりますので、確実にキャビネットと壁面を固定してください。

e・ra・bo

⚠ 注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

当社収納は、衣類・寝具等を収納するよう設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。（棚板及び引き出し等の耐荷重は右表をご参照ください。）

●1スパンにつき棚板を1つとして算出しています。複数枚使用するときは、1スパン当り100kgを上限としてください。
●779を越す棚板を使用する場合、棚板の下がりを防止する為に、床面と棚板下部間に仕切り板等の支持材を入れてください。

奥行き	1枚あたりの耐荷重			
	299	459	619	779
750	50kg			
600	30kg			
450	25kg			
300	15kg			

布団収納	50kg

壁厚収納

1. 開梱

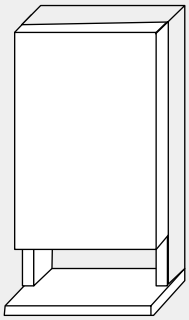
梱包を開いたらまず最初に下表の部品に不足および問題点が無いかどうか確認してください。

梱包内訳表・寸法詳細

※扉とボックスは別梱になります。扉取り付け用のスライドヒンジ・座金はボックスの梱包に入っています。

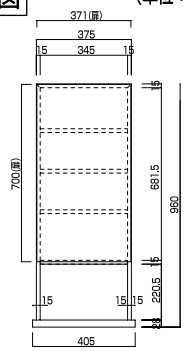
トイレ収納A

姿図

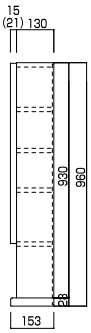


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	扉（フラット）	1枚
	可動棚	3枚
	棚ダボ	12個
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個
	スライドヒンジ座金	2個
	スライドヒンジ（扉）	2個
	座金・ヒンジ取り付けビス	8本
	タッチラッチ本体	1個
	タッチラッチ扉用	1個
	タッチラッチ取り付けビス	4本

正面図 (単位 :mm)



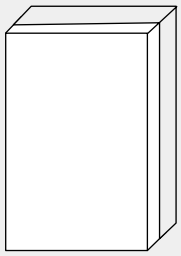
側面図 (単位 :mm)



※（　）内の寸法はジュビーノ・ピノアースの場合です。

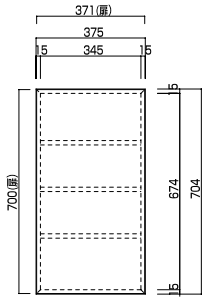
トイレ収納B

姿図

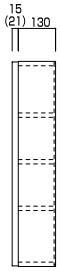


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	扉（フラット）	1枚
	可動棚	3枚
	棚ダボ	12個
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個
	スライドヒンジ座金	2個
	スライドヒンジ（扉）	2個
	座金・ヒンジ取り付けビス	8本
	タッチラッチ本体	1個
	タッチラッチ扉用	1個
	タッチラッチ取り付けビス	4本

正面図 (単位 :mm)



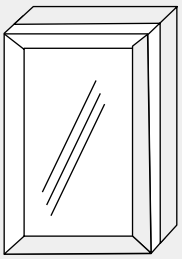
側面図 (単位 :mm)



※（　）内の寸法はジュビーノ・ピノアースの場合です。

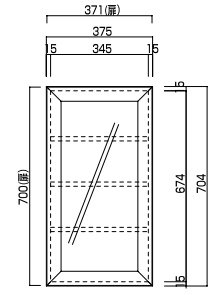
トイレ収納C

姿図

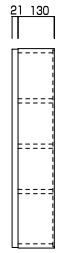


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	扉（框組ミラー）	1枚
	可動棚	3枚
	棚ダボ	12個
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個
	スライドヒンジ座金	2個
	スライドヒンジ（扉）	2個
	座金・ヒンジ取り付けビス	8本
	タッチラッチ本体	1個
	タッチラッチ扉用	1個
	タッチラッチ取り付けビス	4本

正面図 (単位 :mm)

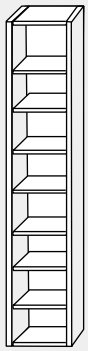


側面図 (単位 :mm)



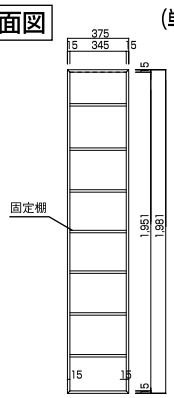
書棚（トールタイプ）

姿図



	部材名	数量
	ボックス	1セット
	可動棚	6枚
	棚ダボ	24個
	連結金具	3本
	下地固定ビス	8本
	ビスワッシャー	11個
	キャップ	11個

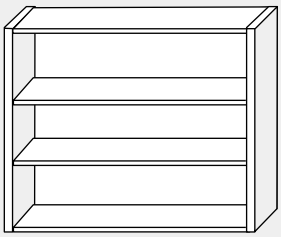
正面図 (単位 :mm)



側面図 (単位 :mm)

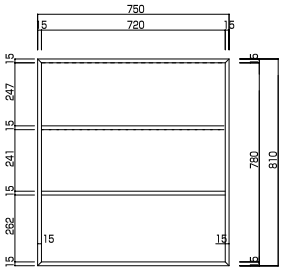
書棚（フロアータイプ）

姿図

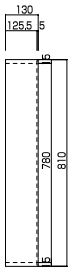


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	可動棚	2枚
	棚ダボ	8個
	連結金具	3本
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	7個
	キャップ	7個

正面図 (単位 :mm)

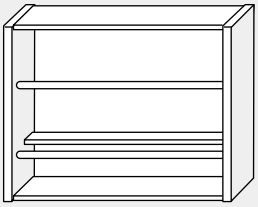


側面図 (単位 :mm)



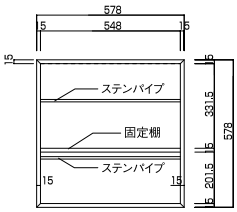
マガジンラック

姿図

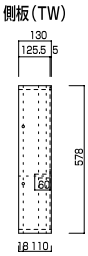


	部材名	数量
	ボックス	1セット
	下地固定ビス	4本
	ビスワッシャー	4個
	キャップ	4個

正面図 (単位 :mm)



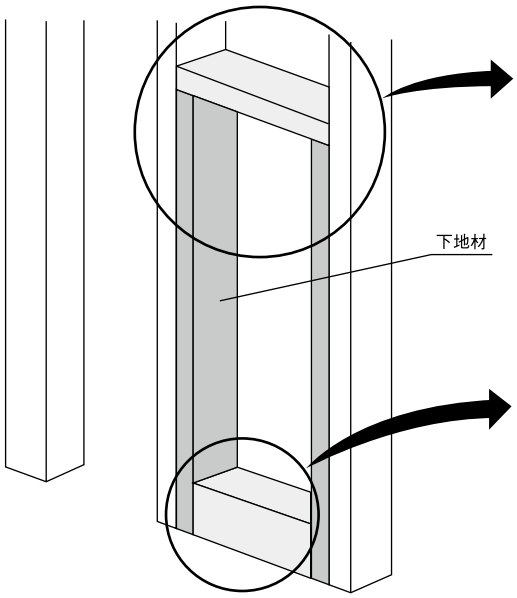
側面図 (単位 :mm)



壁厚収納

2. 施工手順

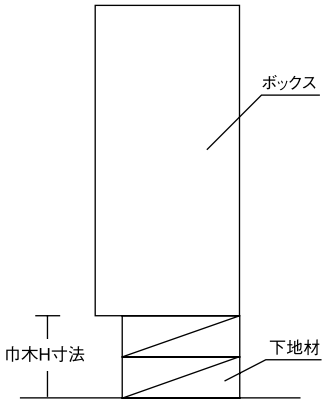
①壁面下地処理



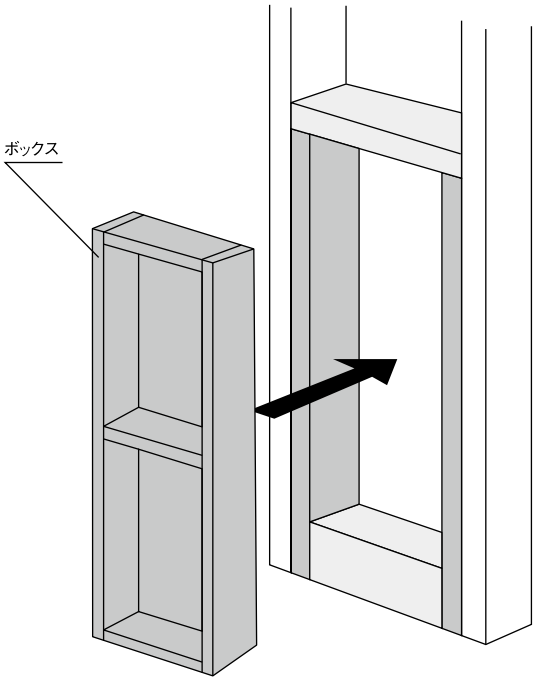
設置位置を任意の場所に決め、ボックス外寸法に合わせて（外寸法＋2mm程度）間柱のあいだに下地材を設置します。

書棚（トールタイプ）については、下端下地材を化粧巾木の高さに合わせて設置してください。（図1）

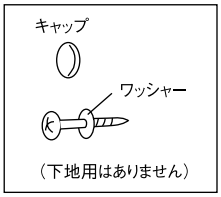
（図1）

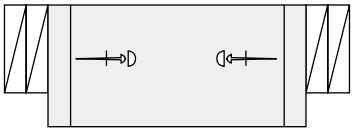


②ボックスの固定



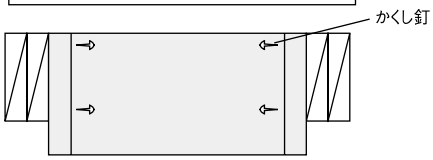
ボックスを壁下地間へ固定します。





ボンド併用で同梱の下地固定ビスで固定します。

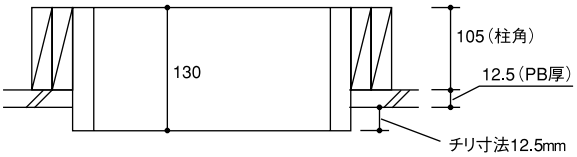
下地固定ビスを使用しない場合



ボンド併用、かくし釘（現場調達）で固定

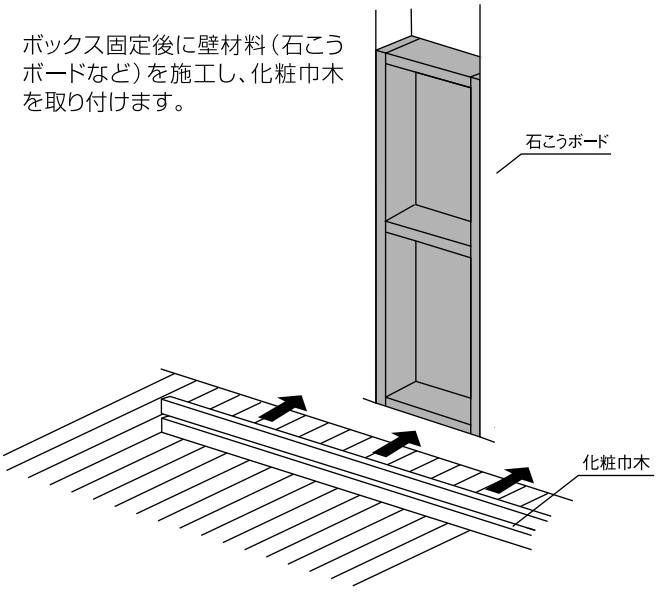
※壁仕上げ面及び化粧巾木の厚みを考慮し、チリ寸法を調整してください。

【例】柱角105mm PB厚12.5mm の場合

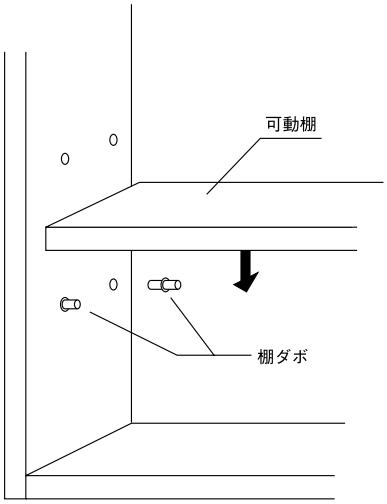


③壁材料の施工・巾木の取り付け、可動棚の設置

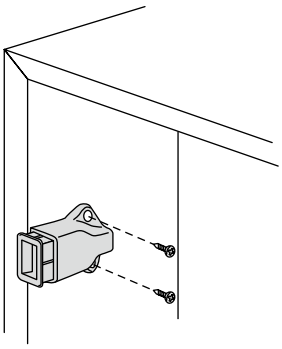
ボックス固定後に壁材料（石こうボードなど）を施工し、化粧巾木を取り付けます。



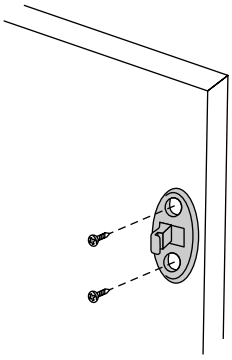
ボックスを壁下地に取り付け後、棚ダボを側板のシステム穴に取り付け、可動棚を設置します。



④タッチラッチの取り付け

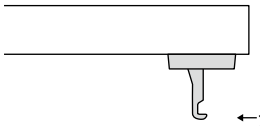


（1）ボックスの側板にタッチラッチ本体を同梱のビスで取り付けてください。ボックス側板には取り付け用の下穴があいています。必ず下穴の位置に取り付けてください。



（2）扉の裏にタッチラッチ扉用を、同梱のビスで取り付けてください。扉の裏には取り付け用の下穴があいています。必ず下穴の位置に取り付けてください。

⚠ 注意

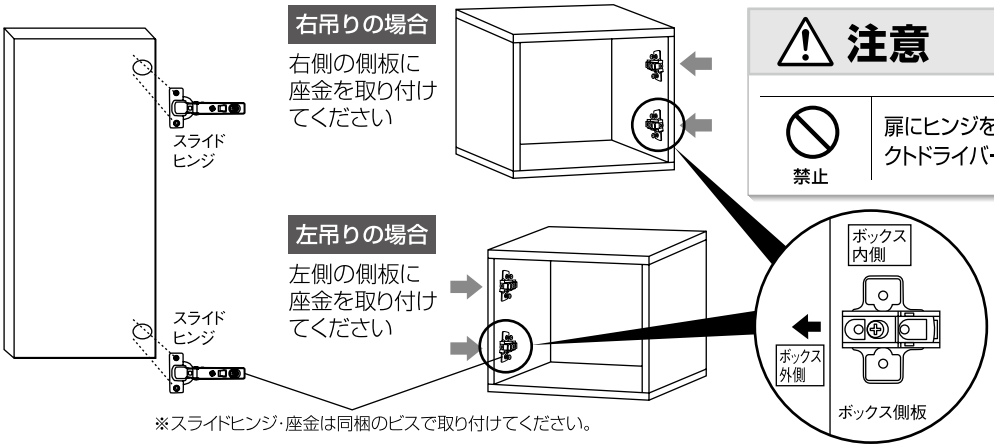


←欠き込みが扉の外側に向く

壁厚収納

3. 扉取り付け

扉取り付け



※スライドヒンジ・座金は同梱のビスで取り付けてください。

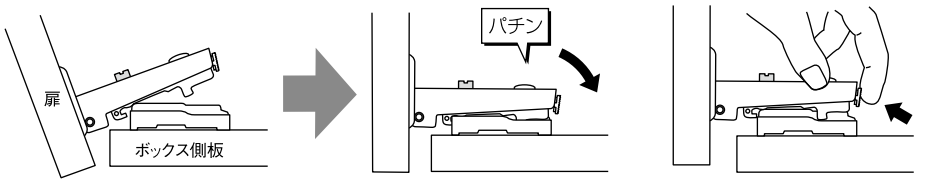
⚠ 注意

禁止　扉にヒンジを取り付ける際には、インパクトドライバーを使用しないでください。

⚠ 注意

座金取り付け方向を間違えないように取り付けてください。

取り付ける場合　　取りはずす場合



（1）扉側の丁番のツメを座金にひっかける

（2）ツメをひっかけた状態で後方部を押さえ、パチンと音がなるまでしっかりとはめる。

（3）ここのボタンを押しながら手前に引きはずす。

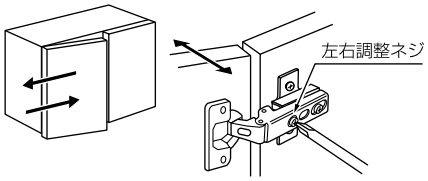
⚠ 注意

禁止　無理な脱着は、部品破損原因になります。

扉の調整（スライドヒンジの調整）

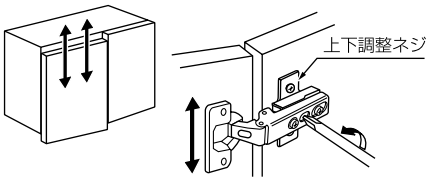
扉の左右調整

左右調整ネジを回して左右調整をしてください



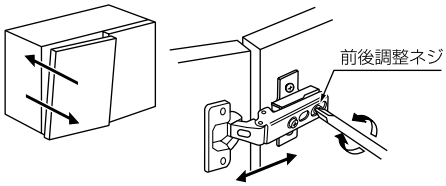
扉の上下調整

上下調整ネジを回して上下調整をしてください



扉の前後調整

前後調整ネジを回して前後調整をしてください



お願い

調整ネジの調整はインパクトドライバーを使用しないでください。

調整ネジの破損の原因になりますので必ず手締めのドライバーで調整してください。

施工終了後

養生

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

お手入れのしかた

キャビネットが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

腰壁（ストライプ）

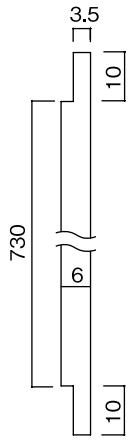
1. 開梱

梱包を解いたら、壁材および専用施工部材不足および問題がないかどうかを確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は、必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

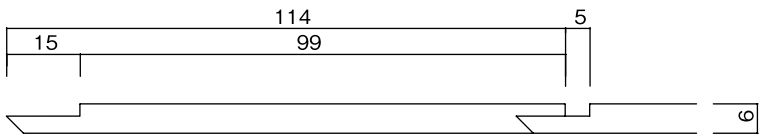
ストライプシリーズ

■腰壁パネル

縦断面図



横断面図

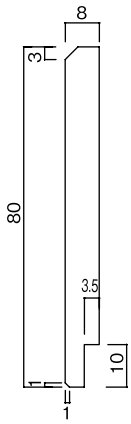
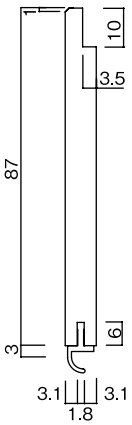


サイズ(mm)	梱包入数
750×104×6	10枚

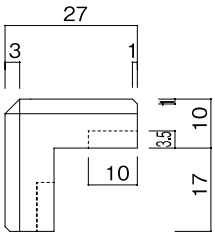
巾サイズは有効寸法を表示しております。

■専用施工部材

巾木・横見切りセット

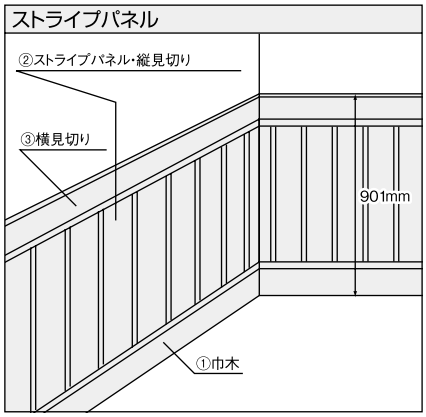
	断面図	サイズ(mm)	梱包入数
横見切り		3,900×80×8	1本
巾木		3,900×87×8	1本

出隅材

断面図	サイズ(mm)	梱包入数
	901×27×27	1本

腰壁（ストライプ）

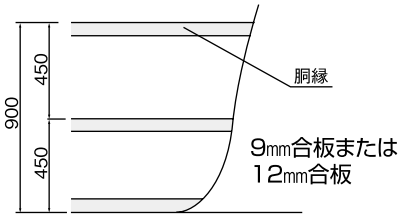
2. 展開図（図の①～④は施工手順毎に詳細をのせています）



中連や出窓サッシがある場合は、腰壁の高さ寸法をあらかじめ考慮のうえ施工をすすめてください。腰壁高さ寸法は一般的な中連サッシの寸法に合わせやすい設定にしています。

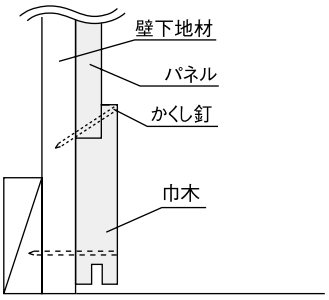
3. 施工手順

（施工準備）



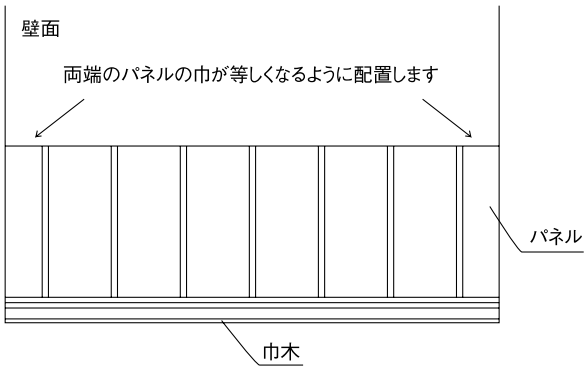
・壁面の下地施工は、横胴縁の上に9㎜あるいは12㎜合板の捨て張りをしてください。
・胴縁は巾木、見切り縁の高さにあわせて施工します。

巾木の取り付け

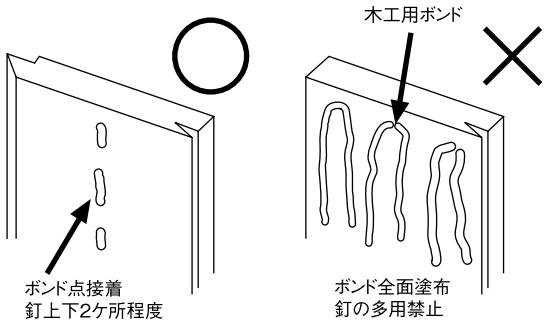


・巾木を墨出し線にそって**木工用ボンド（現場調達）と釘を併用**して取り付けてください。

パネル・縦見切りの取り付け



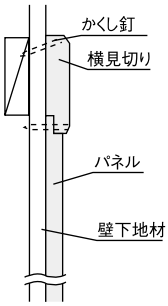
床面より830㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。この位置がパネルの上端になります。割り付けに従ってパネル、縦見切りを仮並べして、色柄をあわせてください。



パネルは木工用ボンド（現場調達）で点接着し、釘をパネル上下の横見切り・巾木で隠れる部分の中央あたりに上下2ケ所程度打ち取り付けを行ってください。

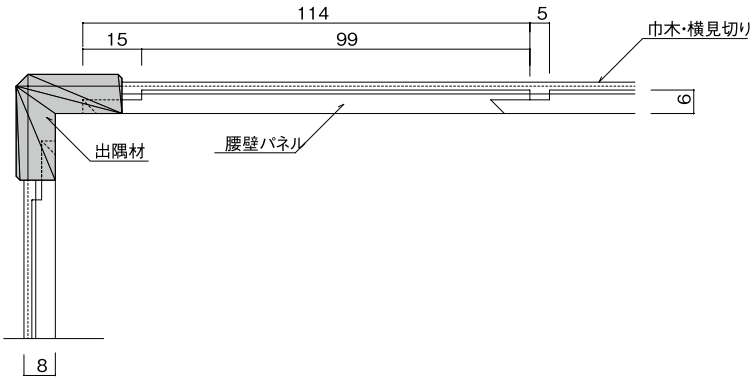
横見切りの取り付け

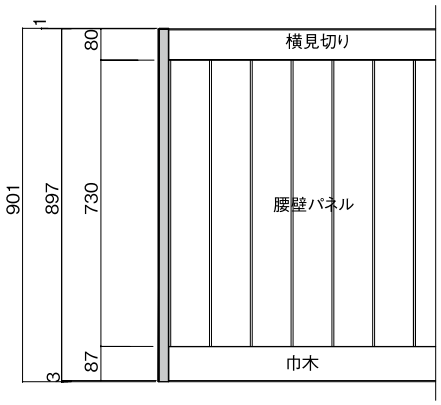
ストライプパネル



·床面より900㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。
·この位置が横見切りの上端になります。
·横見切りを墨出し線に沿って接着剤と釘併用で取り付けてください。

出隅の納まり





·割りつけの際、パネルがきれいに納まらない場合は、出隅から割りつけをスタートし、入隅部分でパネルをカットして納めてください。

施工終了後

清掃 汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔かい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン·アルコール·シンナーなどを使用すると、パネルや部材が変質したり塗料がはがれたりすることがありますので避けてください。

養生 工事完了まで保護紙等でカバーし傷がつかないようにしてください。

腰壁（工芸調・ストライプ）

1. 納まり図

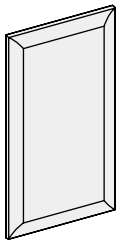
	横断面図	縦断面図
工芸調パネル	W＝380㎜タイプ（単位:mm） 有効寸法=410 60 350 60 6 3 9 15 30 15 15 30 15 380	（単位:mm） 手すりの設置 11 15 9 15 665 11 80 635 100 5 815 手すりの高さ850mm
	W＝98㎜タイプ（単位:mm） 9 98	
ストライプパネル	（単位:mm） 有効寸法=155 150 4 2 9 3 4 4 3 10 3 4 5 4 3 15 3 165	手すりの設置（単位:mm） 11 15 9 15 665 11 80 635 100 815 手すりの高さ850mm ※手すりの設置を750～800㎜にする場合、パネルをカットして納めてください。

2. 梱包内訳表

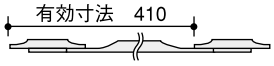
梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

工芸調パネル

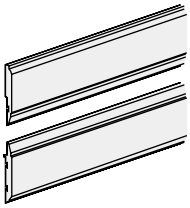
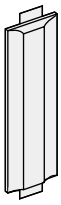
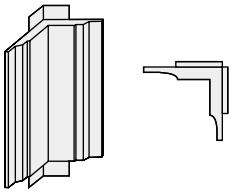
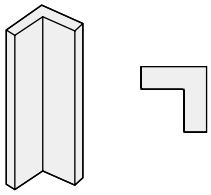
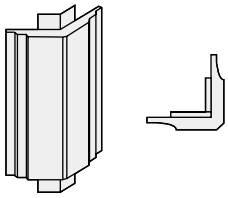
腰壁パネル

	部材名	サイズ (mm)	梱包入数	備　考
	腰壁パネル W=380㎜タイプ	665×410×9	2枚	縦見切2本同梱・ 両面テープ付
	腰壁パネル W=98㎜タイプ	665×98×9	2枚	両面テープ付

※ W=380㎜タイプの巾サイズは有効寸法を表示しています。



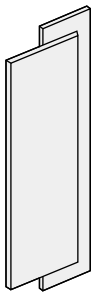
専用施工部材

	部材名	サイズ (mm)	梱包入数	備　考
 横見切り 巾木	巾木・横見切り セット	横見切り 3900×80×11	横見切り 1本	専用ベース材付・ 両面テープ付
		巾木 3900×100×11	巾木 1本	
	縦見切りセット	665×60×9	2枚	両面テープ付
	入隅材1	665×44×44	1本	両面テープ付
	入隅材2	665×29×29	1本	
	出隅材	665×41×41	1本	両面テープ付

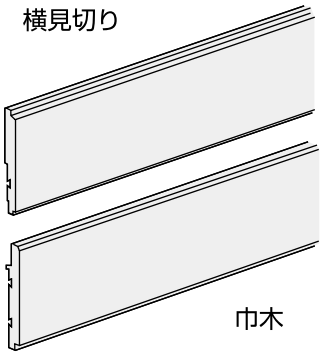
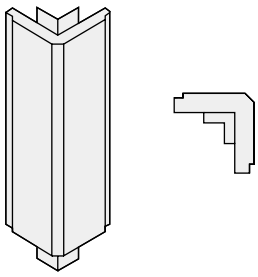
腰壁（工芸調・ストライプ）

ストライプパネル

腰壁パネル

	部材名	サイズ (mm)	梱包入数	備　考
	ストライプパネル	665×165×9	10枚	

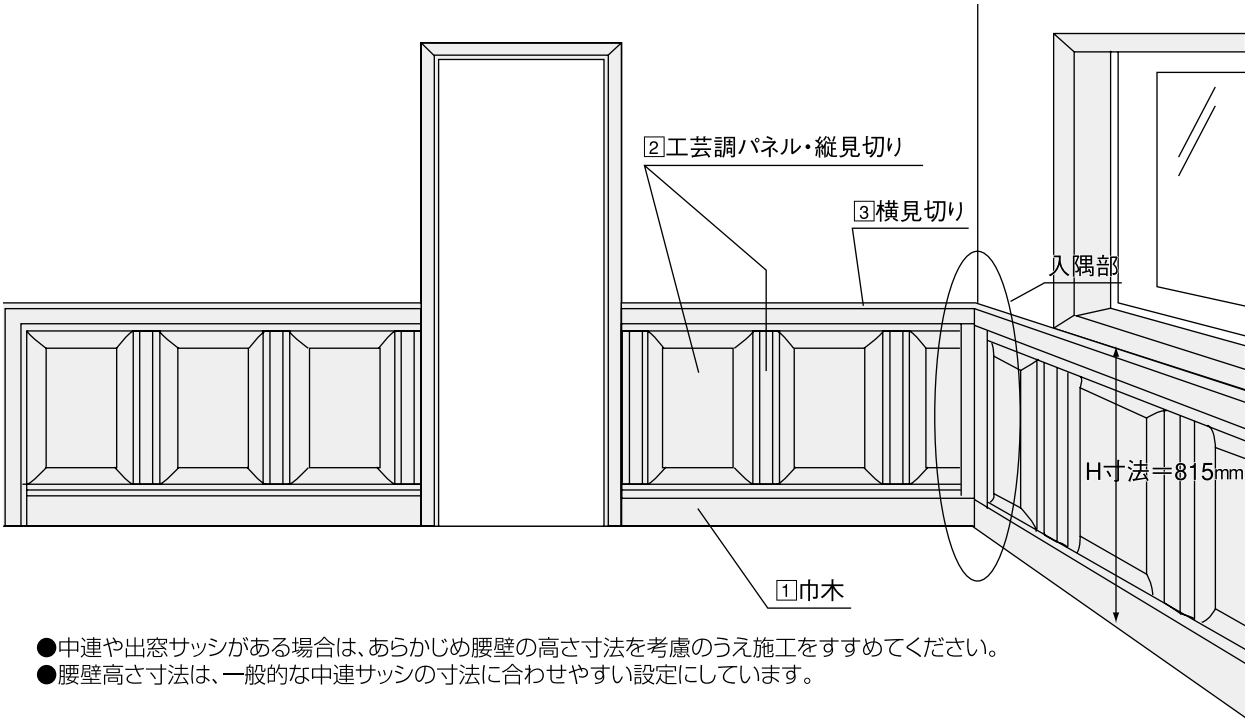
専用施工部材

	部材名	サイズ (mm)	梱包入数	備　考
	巾木・横見切りセット	横見切り 3900×80×11	横見切り 1本	専用ベース材付・両面テープ付
		巾木 3900×100×11	巾木 1本	
	出隅材	665×27×27	1本	

お願い

- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

全体図

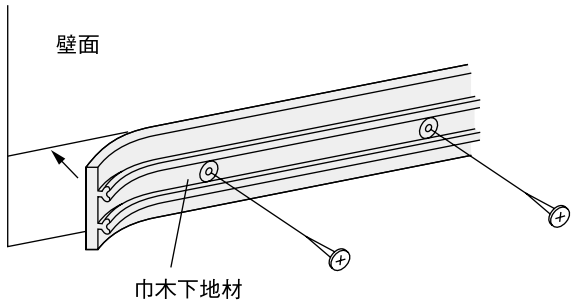


●中連や出窓サッシがある場合は、あらかじめ腰壁の高さ寸法を考慮のうえ施工をすすめてください。
●腰壁高さ寸法は、一般的な中連サッシの寸法に合わせやすい設定にしています。

3. 施工手順

●壁面の下地は、9㎜合板あるいは12㎜の合板下地をおすすめします。
後施工される場合は、間柱の位置を確認のうえPB下地からボンド併用で施工してください。

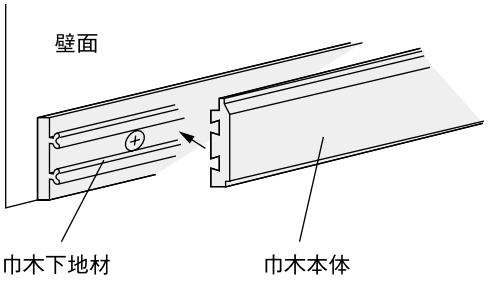
巾木の取り付け（工芸調・ストライプパネル共通）



（1）床面より80mmの高さに水平に墨出し線を引いてください。
この位置が巾木下地材の上端になります。
下地材の裏面に取り付けてある両面テープで仮止めし、ビスあるいはタッカーで墨出し線にそって取り付けてください。

お願い

プラスターボード下地の場合はボード表面のホコリをよく取り除き施工をおこなってください。



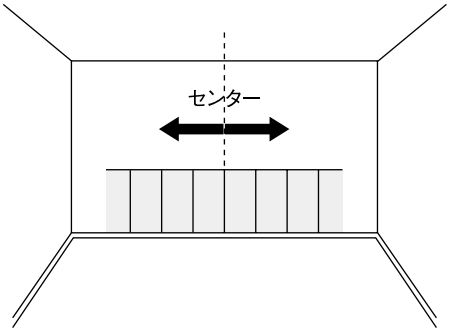
（2）下地材を取り付けた後巾木本体を取り付けてください。

腰壁（工芸調・ストライプ）

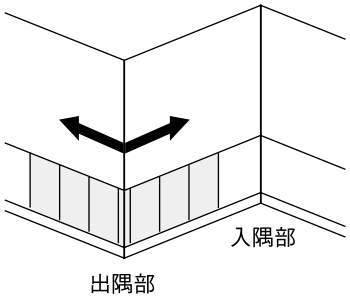
パネルの取り付け

パネルの割り付け確認

〈センター割り付け〉

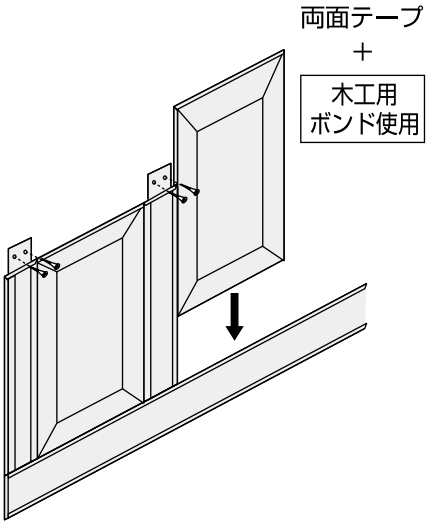


〈出隅からの割り付け〉



※出隅から割り付ける場合下記の出隅の納まりを参照し、パネルの取り付けの前に出隅を取り付けてください。

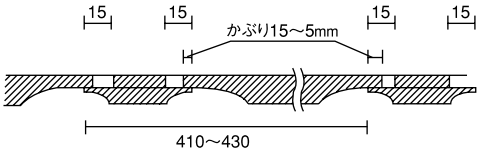
工芸調パネル



（1）パネルと縦見切りを仮並べして、柄を合わせてください。
※入隅部分でパネルをカットして納める場合、下記の納まり図を参考に入隅2を用いて納めてください。

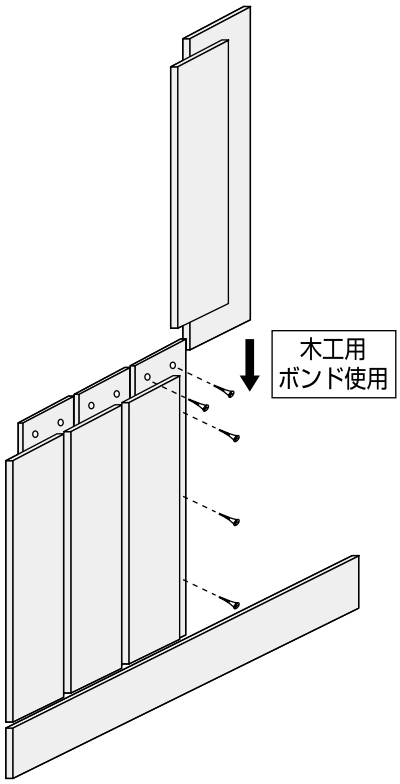
（2）割り付け終えた後、パネル、縦見切りの裏面に取り付けてある両面テープをはがし、必ず**木工用ボンドを併用して、**順次取り付けを行ってください。

（3）縦見切り取り付けの際、上端の合板下地の部分にビスあるいはタッカーで最低2ヶ所固定してください。



●パネル割り付け時には、縦見切りとパネルのかぶり代で調整できます。
●かぶり代は最低でも5㎜は設けてください。

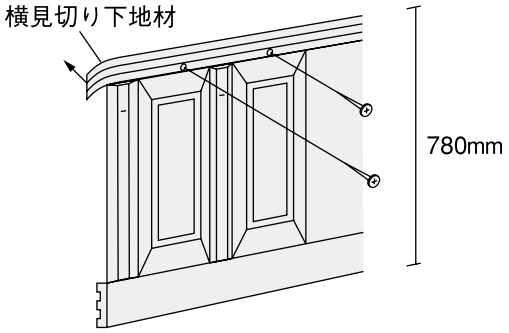
ストライプパネル



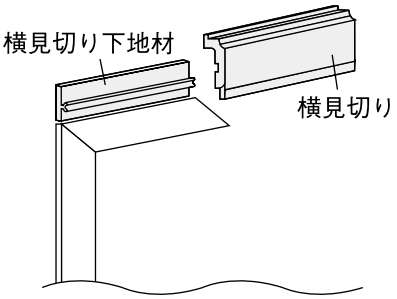
パネルを必ず**木工用ボンド併用**で順次巾木にさしこみ、下地部分をビスあるいはタッカーで固定してください。

※入隅部分はパネルをカットし、つきつけで納めてください。

横見切りの取り付け（工芸調・ストライプパネル共通）



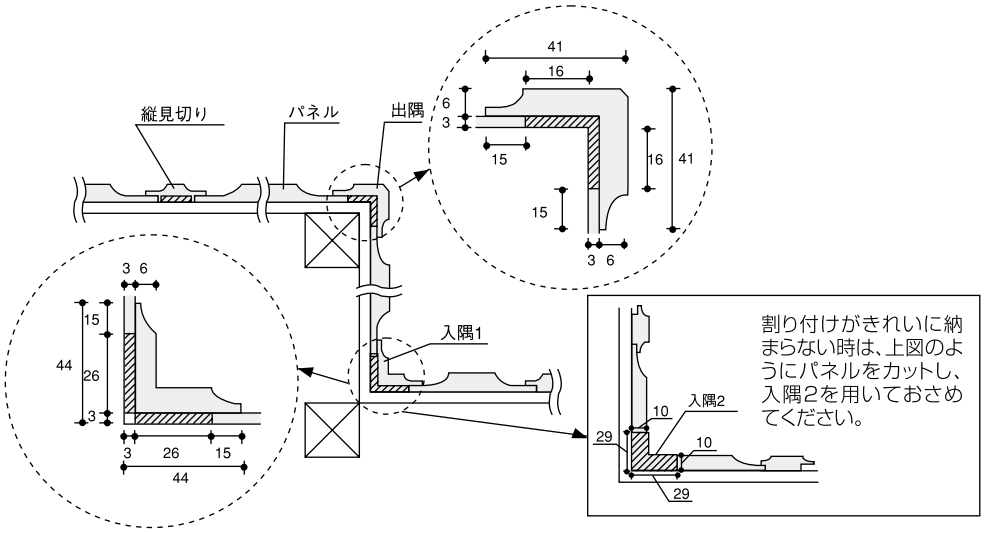
（1）床面より780㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。
この位置が横見切り下地材の上端になります。
下地材の裏面に取り付けてある両面テープで仮止めし、ビスあるいはタッカーで墨出し線にそって取り付けをおこなってください。



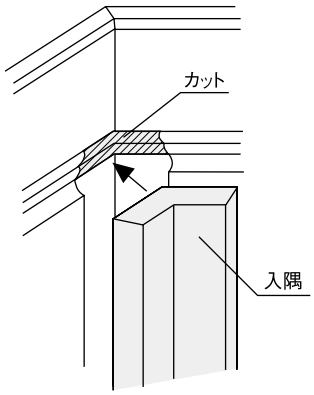
（2）下地材を取り付けた後、横見切り本体を取り付けてください。

入隅・出隅の納まり

工芸調パネル

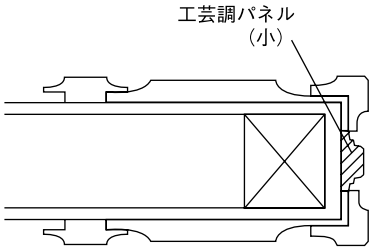


割り付けがきれいに納まらない時は、上図のようにパネルをカットし、入隅2を用いておさめてください。



横見切り、巾木の華飾面部分を欠き込んだうえで納めてください。

■工芸調パネル（小）の納め



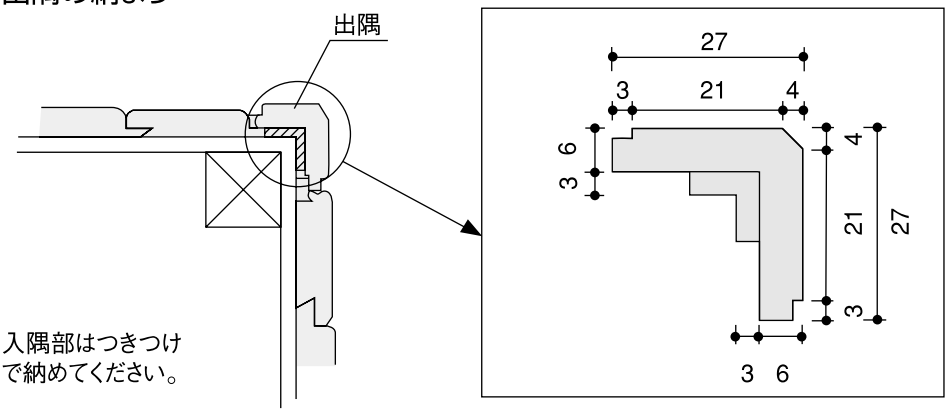
壁の小口方向など入りくんだ納まりの時にお使いください。

腰壁（工芸調・ストライプ）

入隅・出隅の納まり

ストライプパネル

出隅の納まり



入隅部はつきつけで納めてください。

施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして、養生してください。

お手入れのしかた

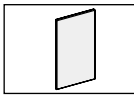
腰壁が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

腰壁（シンプルモダン）

梱包内訳表

梱包を開いたら枠材本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。

腰壁パネル

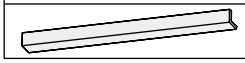


部材名	サイズ (mm)	梱包入数	備　考
フラットタイプ(8入り)	655×455×7	8枚	両面テープ付
フラットタイプ(2入り)	655×455×7	2枚	両面テープ付

※W=455mmの巾サイズ実寸を表示しています。

専用施工部材

横見切り巾木

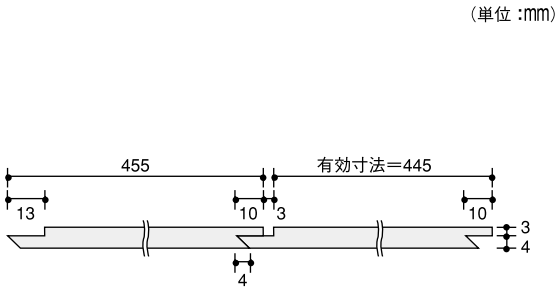
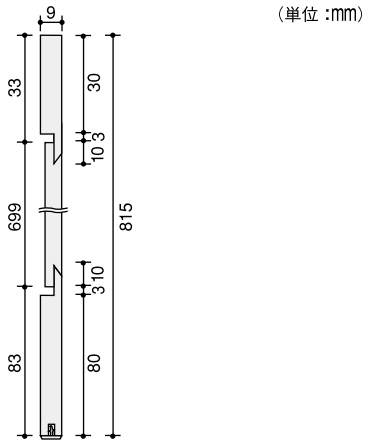


部材名	サイズ (mm)	梱包入数	備　考
巾木・横見切りセット	3900×43×9	1枚	両面テープ付
	3900×93×9	1枚	
出隅材	42.5×699×42.5	1本	両面テープ付

お願い

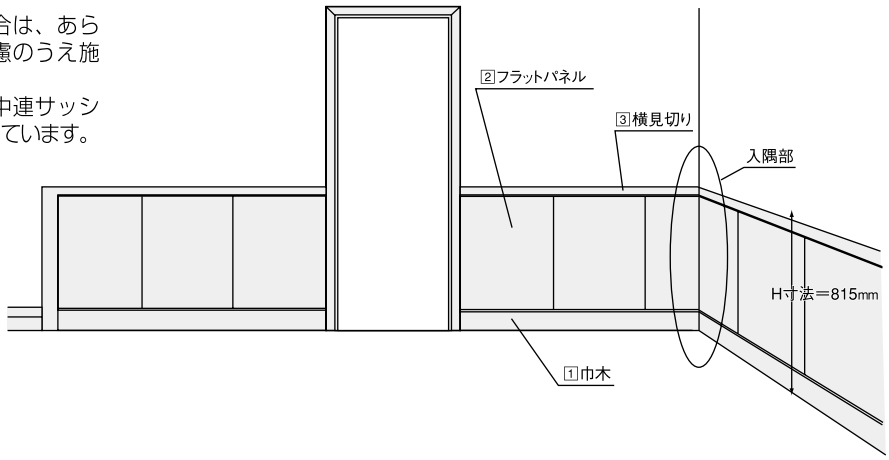
- 施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
- 照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

納まり図

	横断面図	縦断面図
フラットパネル		

全体図

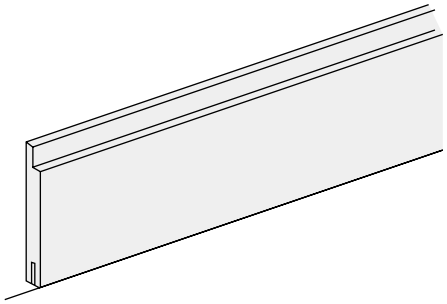
- 中連や出窓サッシがある場合は、あらかじめ腰壁の高さ寸法を考慮のうえ施工をすすめてください。
- 腰壁高さ寸法は、一般的な中連サッシの寸法に合わせやすい設定にしています。



腰壁（シンプルモダン）

施工手順

巾木の取り付け（フラットタイプ）



（1）床面より95㎜の高さに水平に墨出し線を引いてください。
この位置が巾木の上端になります。
両面テープを剥がし、必ず木工用ボンドを併用して、順次取り付けを行ってください。

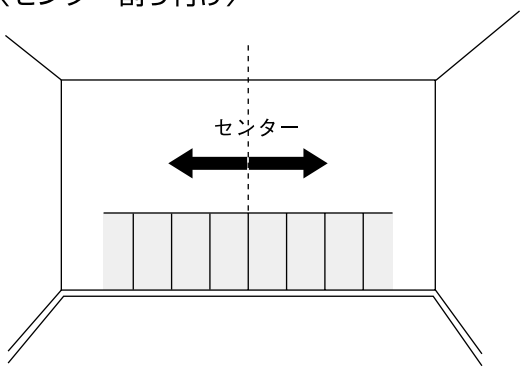
お願い

プラスターボード下地の場合はボード表面のホコリをよく取り除き施工をおこなってください。

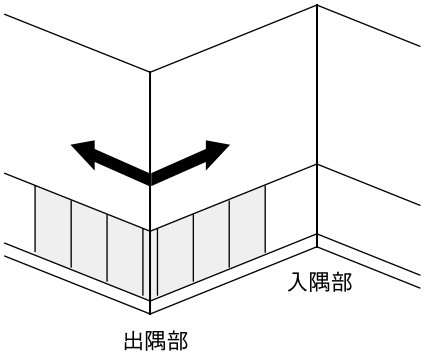
パネルの取り付け

パネルの割り付け確認

〈センター割り付け〉



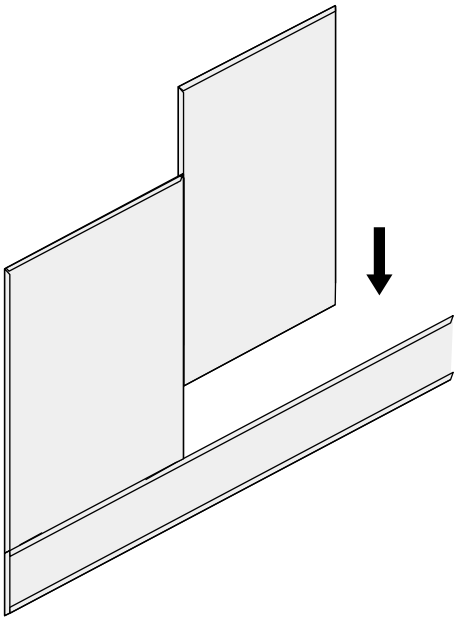
〈出隅からの割り付け〉



⚠ 注意

※出隅から割り付ける場合次ページの出隅の納まりを参照し、パネルの取り付けの前に出隅を取り付けてください。

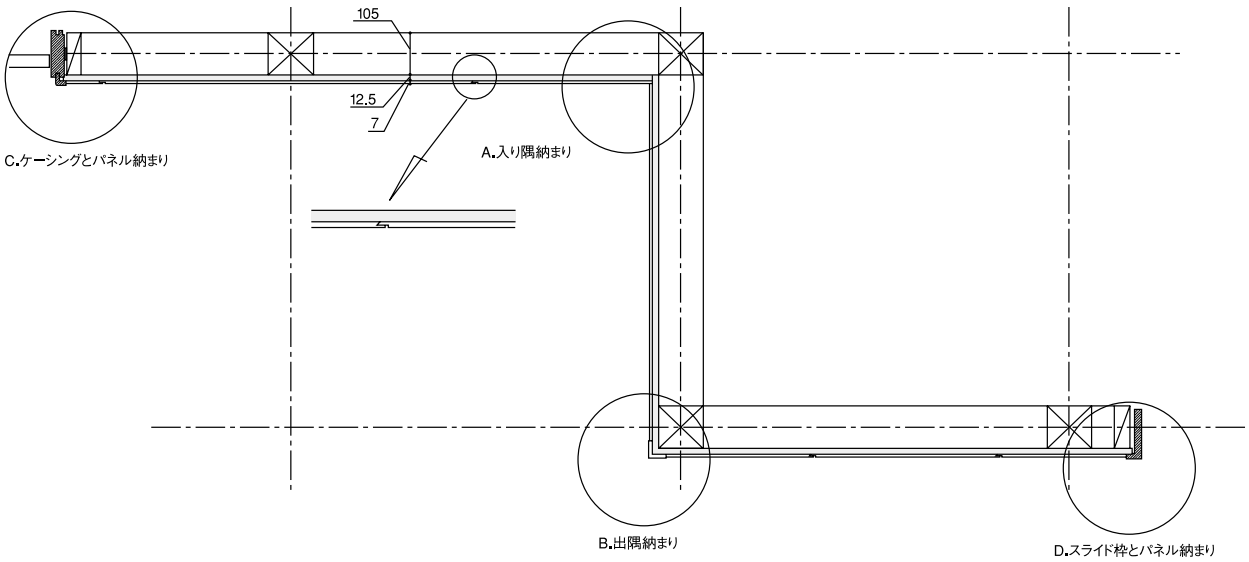
フラットパネル



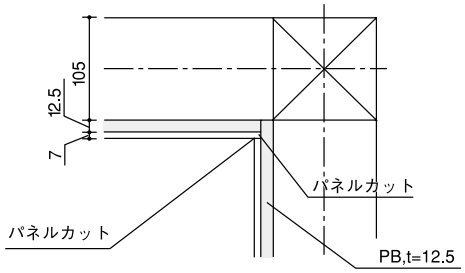
⚠ 注意

※割り付け終了後、パネルの裏面に取り付けてある両面テープを剥がし、必ず木工用ボンドを併用して、順次取り付けを行ってください。

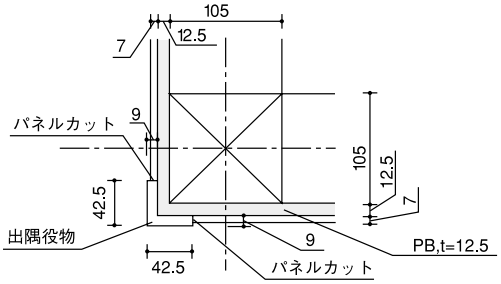
入隅・出隅の納まり図



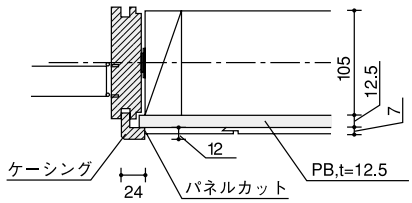
A.入り隅納まり



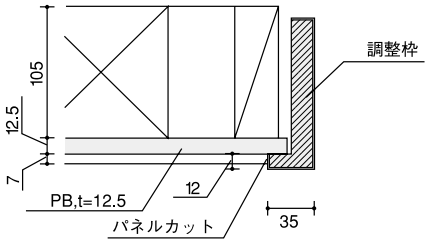
B.出隅納まり



C.ケーシングとパネル納まり



D.スライド枠とパネル納まり



施工終了後

養生

当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーして、養生してください。

お手入れのしかた

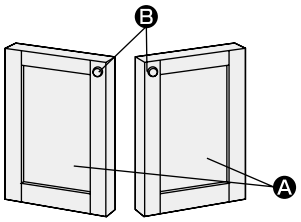
腰壁が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

造り付け家具

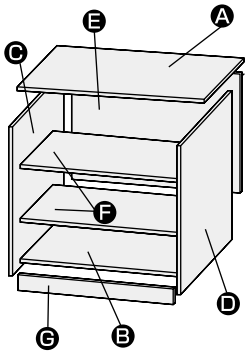
1. 開梱

梱包を開いたら、本体および下表の付属品に不足および問題がないかどうかを確認してください。
天板カウンターは別途弊社集成カウンターもしくは専用カウンターをご使用ください。

扉本体
全体図



キャビネット（巾木仕様）
全体図



梱包内訳表〈扉本体〉

	部材名	数量	備考
A	扉本体	2枚	
B	取っ手	2個	ビス付
	スライドヒンジ（扉側）	4個	
	スライドヒンジ（座金）	4個	
	クッションダンパー（ブルーモーション）	2個	SAIはなし

※ピノアースシリーズ・フラットタイプには取っ手はありません。
※クッションダンパー（ブルーモーション）はジュビーノ・ピノアースシリーズのみです。

梱包内訳表〈キャビネット本体〉

	部材名	備考
A	天板（木ダボ付）	天地兼用
B	地板（木ダボ付）	天地兼用
C	側板（左用）	
D	側板（右用）	
E	背板	
F	可動棚	
G	巾木	

	部材名	備考
	棚ダボ	
	背板用ネジ	
	カウンター・壁面取り付けビス	
	連結金具	
	ビスワッシャー	
	キャップ	

※数量はアイテム別内訳参照

開梱内訳

品名	キャビネット						引き出し	
	ローキャビ	机用	腰壁高さ	銘銘ポスト	上部ユニット		腰壁高さ	机用
キャビネット	840 / 464	840 / 664	840 / 779	840 / 779 / 組立完成品	840 / 1100 / 組立完成品	840 / 500 / 組立完成品	420 / 779 / 組立完成品	420 / 664 / 組立完成品
奥行	408 306	408 306	408 306	408 306	408 306	408 306	408 306	408 306
パネル扉	360 / 416 416	560 / 416 416	675 / 416 416		1096 / 416 416	496 / 416 416		
ガラス扉	360 / 416 416	560 / 416 416	675 / 416 416		1096 / 416 416	496 / 416 416		

キャビネット梱包内訳表										
品　名		キャビネット							引き出し	
		ローキャビ	机用	腰壁高さ	キャビネット用扉	銘銘ポスト	上部ユニット		腰壁高さ	机用
部材・部品名		840 / 464	840 / 664	840 / 779	417 417 / 360・560・675・1,096	840 / 779	840 / 1100	840 / 500	416 / 779	416 / 664
Ⓐ	天板（天地兼用）木ダボ付	1	1	1		組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット	組み立て済ユニット1セット
Ⓑ	地板（天地兼用）木ダボ付	1	1	1						
Ⓒ	側板（左用）	1	1	1						
Ⓓ	側板（右用）	1	1	1						
Ⓔ	背板	1	1	1						
Ⓕ	可動棚	1	2	2		2	3	1		
Ⓖ	巾木	1	1	1						
	棚ダボ	4	8	8		8	12	4		
	背板用ネジ	14	20	20						
	壁面取付ビス（L=50mm）	2	2	2		2	6	6	2	2
	カウンター取付ビス（L=32mm）	4	4	4		4			4	4
	連結金具	3	3	3		3	3	3	3	3
	ビス・ワッシャー	6	6	6		6	6	6	6	6
	キャップ	9	9	9		9	9	9	9	9
	スライドヒンジ（扉側）				4					
	スライドヒンジ（座金）				4					
	取っ手				2	4			4	4
	クッションダンパー（ブルーモーション）				※2					
	ボンド（10g）	1	1	1						

※ジュピーノ・ピノアースシリーズのみ同梱

ユニット梱包内訳表					
品　名		※ サイドパネル			専用カウンター
		H=2400	H=1100	H=779	
	ユニット本体	1セット	1セット	1セット	1セット
	可動棚				
	調整木				
	取っ手				
	棚ダボ				
	壁面取付ビス（L=50mm）				
	カウンター取付ビス（L=32mm）				
	連結金具				
	ビス・ワッシャー	12	8	4	
	キャップ	12	8	4	
	小口シート・桟木				2（ソフトアートのみ同梱）

	ジュピーノ（立体角タイプ）・ピノアース（切り面タイプ）	ピノアース（フラットタイプ）	ソフトアート
取っ手	（木製）	堀り込み取っ手	

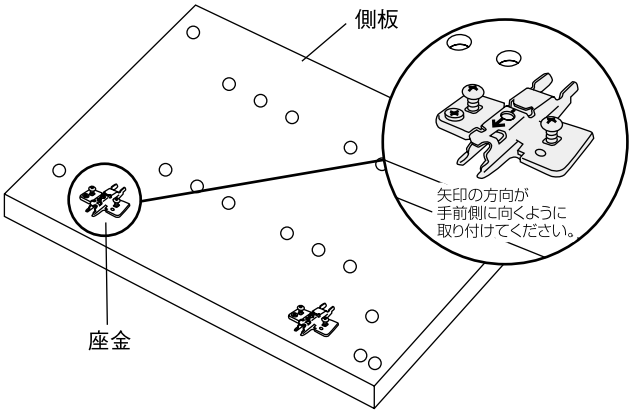
造り付け家具

2. 施工手順

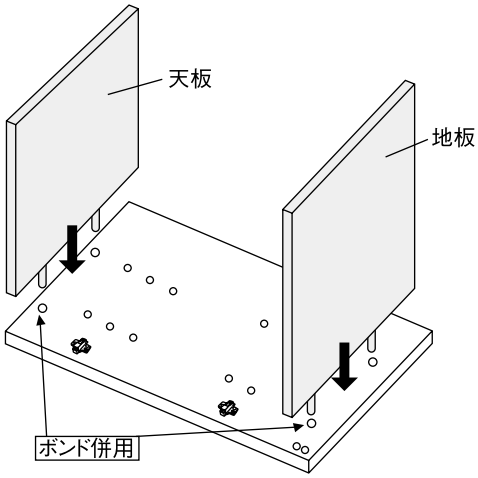
① キャビネット（巾木仕様）の組み立て

扉付きの場合

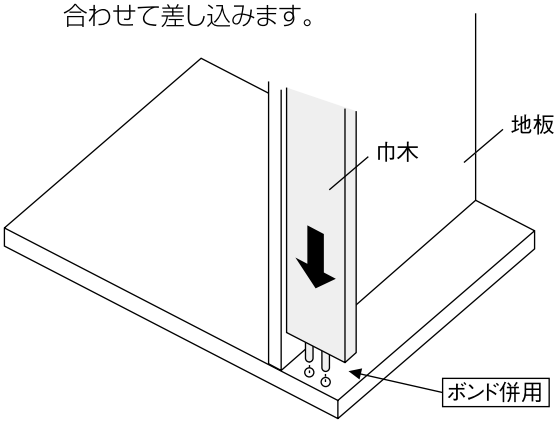
（1）左右の側板に座金（扉同梱品）を取り付けます。



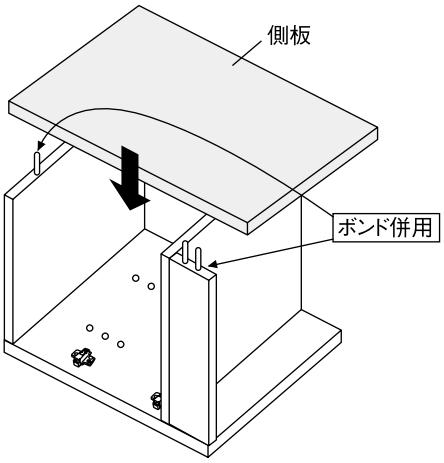
（2）左右の側板どちらかを床に置き、天・地板をボンド併用にてダボ穴に合わせて差し込みます。



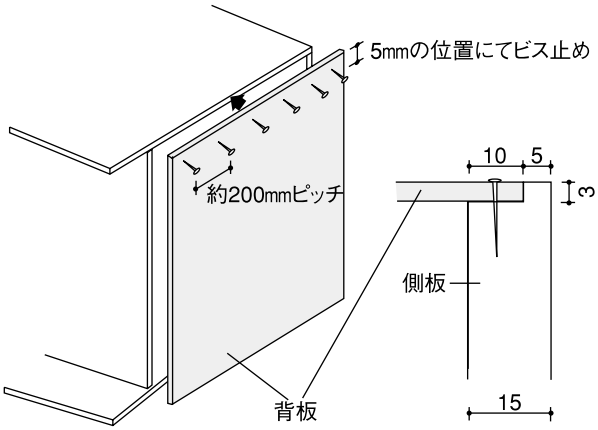
（3）巾木をボンド併用にてダボ穴に合わせて差し込みます。



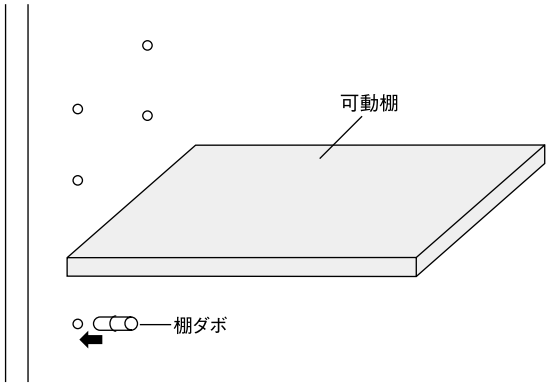
（4）残りの側板をボンド併用にて木ダボに合わせて差し込んで固定します。



（5）側板に切り込んであるミゾに背板をはめ込みます。背板の外側から約5mmの位置に背板用ネジ（同梱品）で約200mm間隔で固定します。



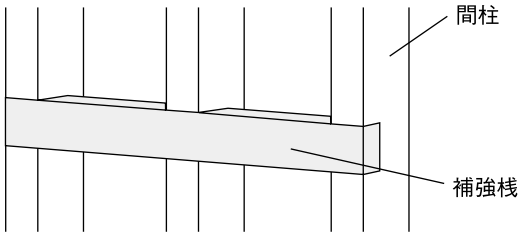
（6）棚ダボを側板のシステム穴に取り付け可動棚を設置します。

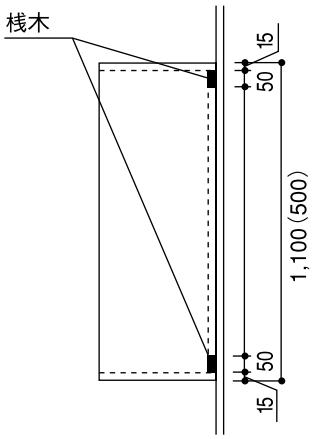


② 壁面への固定

壁面下地処理（事前に設置）

ボックス設置部分にあらかじめ間柱、補強桟等の下地処理を行なった上で、プラスターボード等の壁材を施工してください。





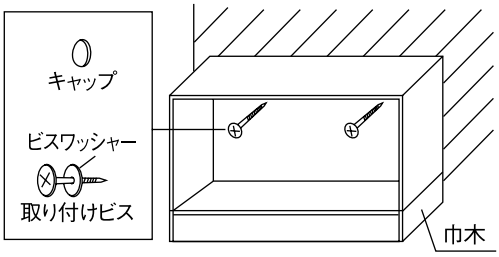
床置き施工

壁面下地にビス固定

同梱品の取り付けビスにビスワッシャーを通して背板越しに2ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。引出しユニットについては、引出しを取り外して同様にビス固定してください。

お願い

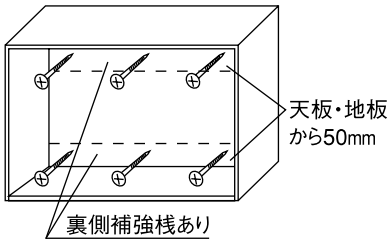
特に上部ユニットは下地補強桟木位置を考慮のうえ、取り付けてください。



吊り施工

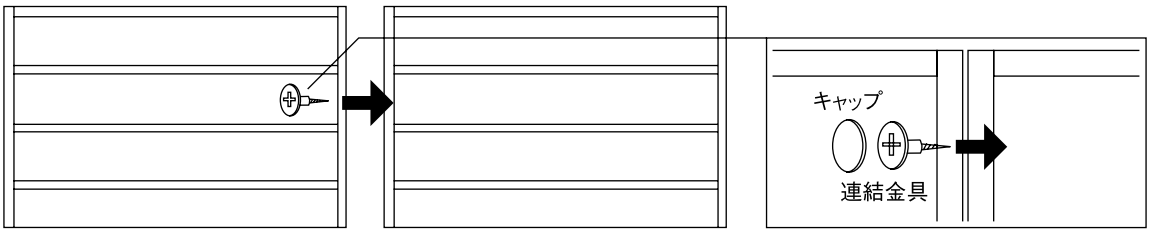
壁面下地にビス固定

背板越しに6ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。

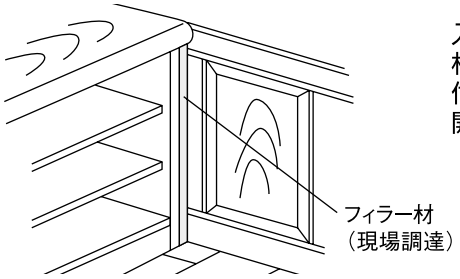


③ キャビネットの連結

キャビネット同士を連結する場合、下穴をあけて、連結金具（同梱品）でキャビネット同士が隙間のない様に固定します。その後、キャップ（同梱品）を取り付けてください。



腰壁施工時の注意点



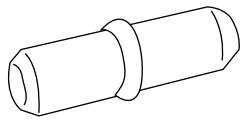
入隅部分で腰壁施工をする際は腰壁の厚み以上のフィラー材（別売品もしくは現場調達）を設置してキャビネットを取り付けしてください。キャビネットに腰壁を直付けしますと扉の開閉が出来なくなります。

造り付け家具

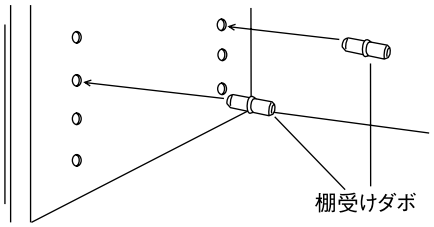
④ 可動棚の取り付け（各キャビネット共通）

使用する部品

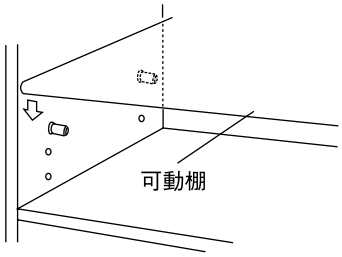
棚受けダボ



（1）棚受けダボを側板のシステム穴に差し込みます。

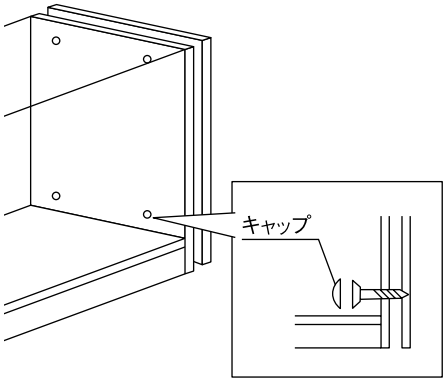


（2）棚受けダボの上に可動棚をセットします。



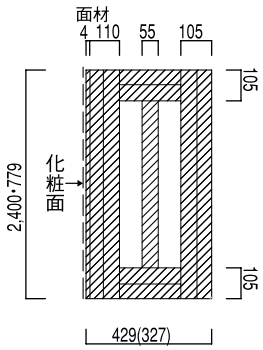
⑤ サイドパネルの取り付け

取り付けビスは、右記のサイドパネル（ジュピーノ・ピノアースのみ）詳細図を参照の上、芯材に当たる位置で固定してください。

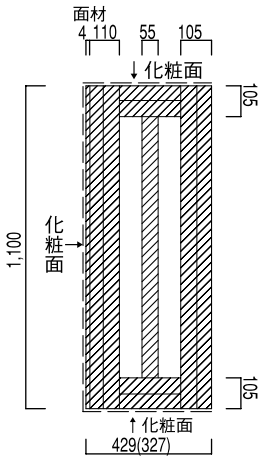


サイドパネル芯材位置
*表面は片面のみ化粧

<化粧面二面>タイプ
・HGES 031（D326タイプ）
・〃 032（D428タイプ）
・〃 035（D326タイプ）
・〃 036（D428タイプ）

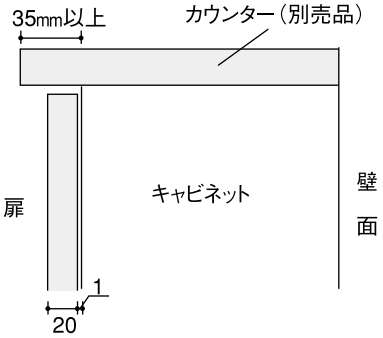


<化粧面四面>タイプ
・HGES 033（D326タイプ）
・〃 034（D428タイプ）

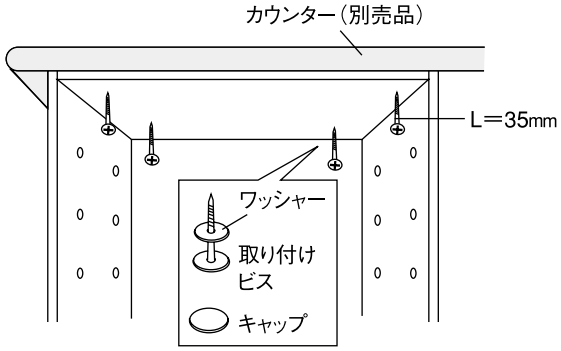


⑥ 天板カウンター（別売品）の取り付け

天板カウンターには別途、弊社専用カウンターもしくは集成カウンターをご使用ください。

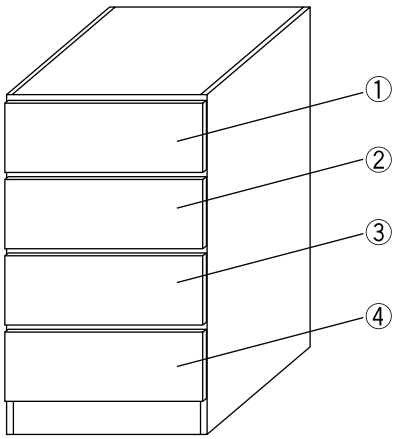


集成カウンターを使用する場合は、キャビネットの前面から35mm以上を確保し、カウンターの巾を調整してカットしてください。専用カウンターを使用の場合は、カットする必要はありません。

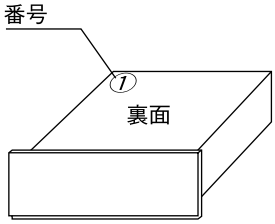


同梱品の取り付けビスにビスワッシャーを通して、キャビネットの天板越しに4ケ所ビス固定します。ビス取り付け後、キャップを取り付けてください。
引出しユニットは引出しを取り外してビス固定してください。

⑦ 引出しユニット施工時のお願い



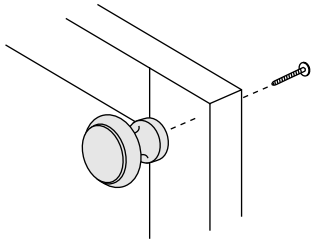
引出し前板のクリアランスは個々に調整していますので、元の位置と違う場所に入れますと、上下のクリアランスが崩れるため、番号の通りに取り付けてください。



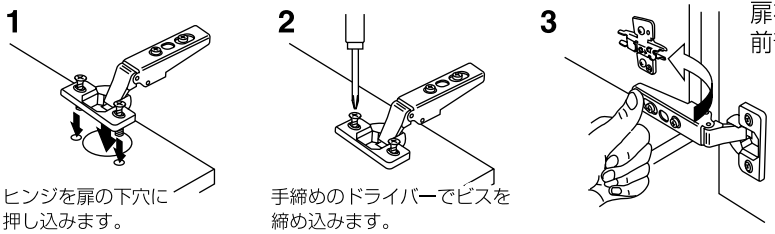
3. 扉の取り付け・調整方法

① 取っ手の取り付け

扉の所定の位置に取っ手をビスで固定します。（同梱品）
※ピノアースシリーズのフラットタイプには取っ手は付きません。



② 扉の取り付け（スライド丁番の取り付け）

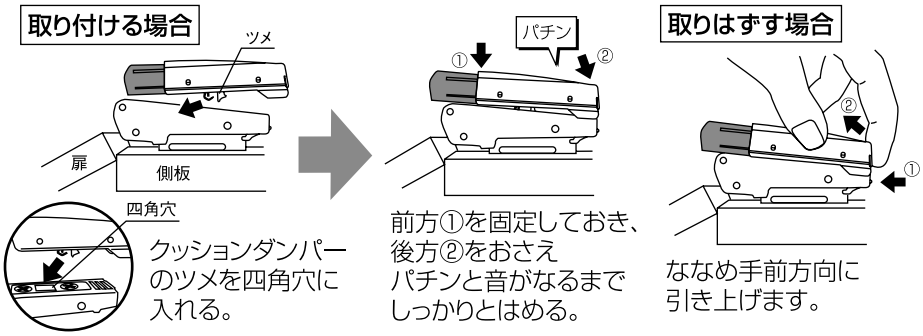


扉をキャビネットに取付けるにはヒンジアームの前部を先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。

⚠ 注意

扉にヒンジを取り付ける際には、インパクトドライバーを使用しないでください。

③ クッションダンパー（ブルーモーション）の着脱



⚠ 注意

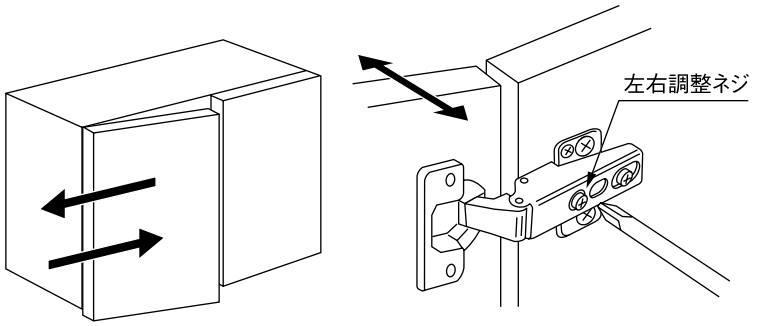
無理な脱着は、部品破損原因になります。

造り付け家具

④ 扉の調整（スライドヒンジの調整）

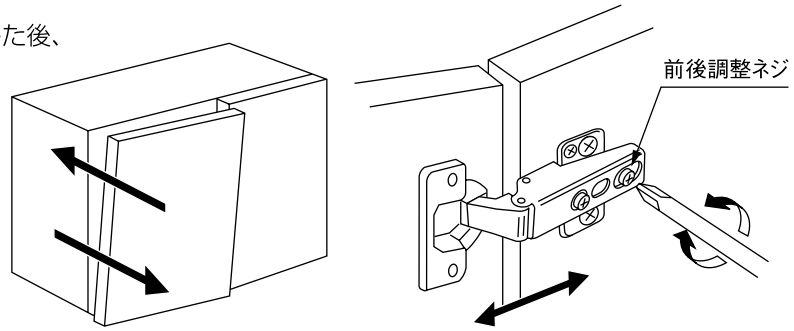
扉の左右調整

◆左右調整ネジを回して
左右調整してください。
アジャスト量:扉の内方向4mm



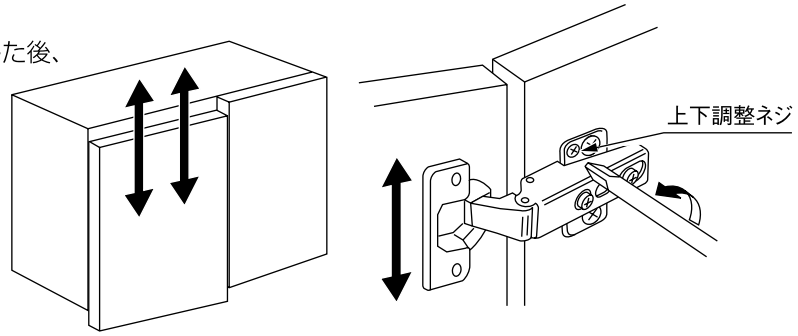
扉の前後調整

◆前後調整ネジをゆるめて前後調整した後、
締め直してください。
アジャスト量:扉の前方向2mm
扉の後方向2mm
（合計4mm）



扉の上下調整

◆（座金により移動が可能です）
上下調整ネジをゆるめて上下調整した後、
締め直してください。
アジャスト量:扉の上方向2.5mm
扉の下方向2.5mm
（合計5mm）



お願い

調整ネジの調整はインパクトドライバーを使用しないでください。
調整ネジの破損の原因になりますので必ず手締めのドライバーで調整してください。

施工終了後

養生の方法

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤまたは養生カバー等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

お手入れのしかた

キャビネットが汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

e・ra・bo

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**　この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」をいう。

⚠ **注意**　この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 警告

全製品共通

禁止

・はさまれ注意!
扉と枠などのあいだに、また扉の軌跡内および稼働部に、体の一部が入っている状態で扉を操作すると、ケガをする場合がありますのでご注意ください。

⚠ 注意

全製品共通

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

・ぶら下がり禁止!
棚板等にお子様がぶら下がったり、上に乗って遊んだりすると、板が破損したり、脱落してケガの原因となりますので絶対にしないでください。

・調整用戸車・レール等は消耗性部品です。
引戸用戸車およびレール間に、異物が付着した状態での開閉は避けてください。長期間のご使用にあたり、開閉がしづらくなった場合には、交換（有償）をお薦めします。

・ヒンジを分解したりしないでください。
扉取り付け用のヒンジを分解したり、無理に曲げたりすると、扉が脱落してケガの原因となりますので、絶対にしないでください。

・ハンガーパイプのぶら下がり禁止!
お子様がぶら下がって遊んだりすると、こわれたり、脱落してケガの原因となりますので絶対にしないでください。

必ずおこなう

・化粧造作材の固定を確実におこなってください。
化粧造作材を後かぶせで固定する際、落下して、ケガの原因となりますので、樹脂シート専用ボンド併用にて、確実に本体を下地材へかぶせ込み、固定してください。

・確実にヒンジと座金をジョイントしてください。
扉取り付け用のヒンジが確実に座金とジョイントされていないと、扉が脱落してケガの原因となりますので、確実にヒンジと座金をジョイントしてください。

・下地材の上から施工してください。
必ず壁の下地材の上から貼りあげてください。直接柱、間柱に打ちつけると、パネル自体に強度がない為、破損しやすく、また構造躯体自体の強度低下を招き危険です。

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。
ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・間柱・補強桟等の下地処理
収納パーツシステムは、壁面に直接固定するため、間柱・補強桟等の下地処理が不十分ですと転倒、脱落してケガの原因となりますので、所定の位置に躯体下地の準備をしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には、水平な場所に平積みしてください。

・接着剤と釘を併用してください。
施工の際は必ず接着剤と併用して釘をお使いください。接着が甘いと脱落の原因となり危険です。

・下地材の取り付けは確実に固定してください。
化粧造作部材が落下して、ケガの原因となりますので、下地材の取り付けは壁面より、柱・間柱に確実にビス等で固定してください。

e・ra・bo

必ずおこなう

・耐荷重をご確認の上、ご使用ください。
当社収納は、衣類・寝具等を収納するよう設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。
（棚板及び引き出し等の耐荷重は右表をご参照ください。）

■一枚あたりの耐荷重

奥行き＼間口	299	459	619	779
750	50kg			
600	30kg			
450	25kg			
300	15kg			

- 1スパンにつき棚板を1つとして算出しています。複数枚使用するときは、1スパン当り100kgを上限としてください。
- 779を越す棚板を使用する場合、棚板の下がりを防止する為に、床面と棚板下部間に仕切り板等の支持材を入れてください。
- パイプハンガーは20kgまで、引き出しは4kgまで。

押入れセット

必ずおこなう

・補強
- 地板の下には12㎜以上の捨て張り合板などで補強を行なってください。
- 中段および枕棚の桟木の取付け位置には、胴縁および間柱等の下地を必ず入れてください。

当社収納は、衣類・寝具等を収納するよう設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。
（棚板及び引き出し等の耐荷重は右表をご参照ください。）

・間口が広い場合の補強
間口が2mを越える場合（例えば9尺間口など）は、吊り束や束等の補強材もしくはL型金物等を使って十分な補強を施してください。

	一枚あたりの耐荷重
中段	200kg（3尺、4.5尺、6尺タイプ）
枕棚	100kg（3尺、4.5尺、6尺タイプ）
中段（無垢タイプ）	150kg
枕棚（無垢タイプ）	75kg
ハンガーパイプ	20kg（850㎜スパン）
引き出し	5kg（1杯当たり）

e・ra・bo

ご注意

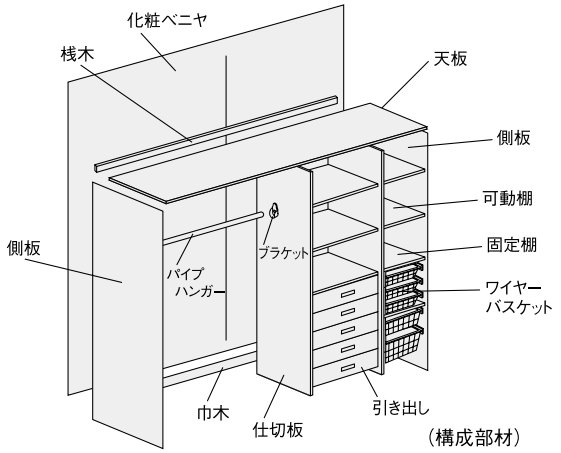
当社収納は、衣類・寝具等を収納するよう設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。
（棚板及び引き出し等の耐荷重は右表をご参照ください。）

■一枚あたりの耐荷重

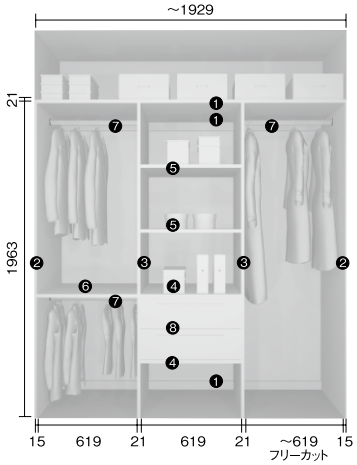
奥行き＼間口	299	459	619	779
750	50kg			
600	30kg			
450	25kg			
300	15kg			

●1スパンにつき棚板を1つとして算出しています。複数枚使用するときは、1スパン当り100kgを上限としてください。
●779を越す棚板を使用する場合、棚板の下がりを防止する為に、床面と棚板下部間に仕切り板等の支持材を入れてください。

部材の名称

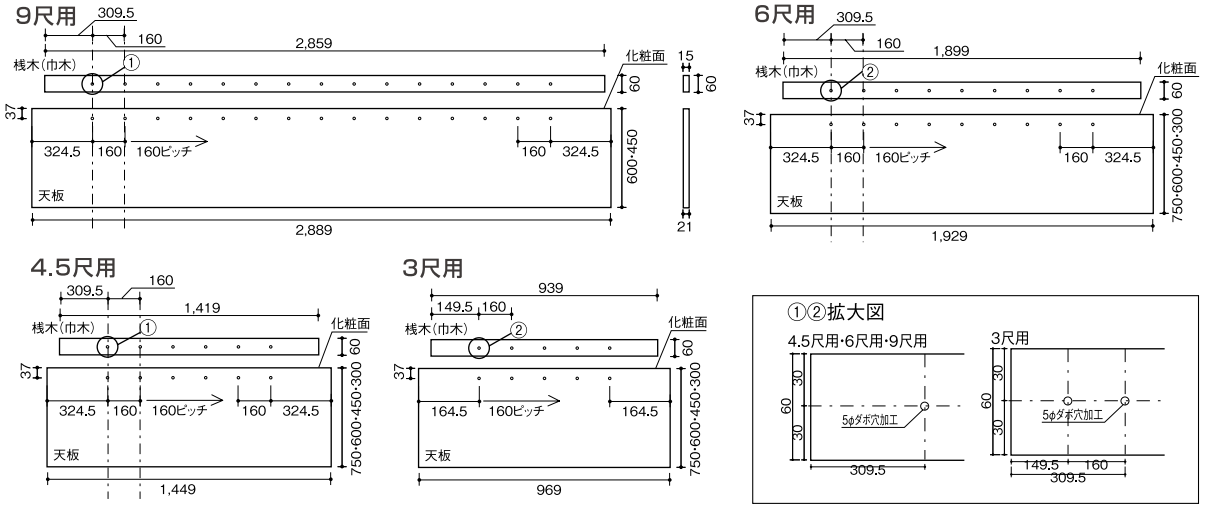


全体図



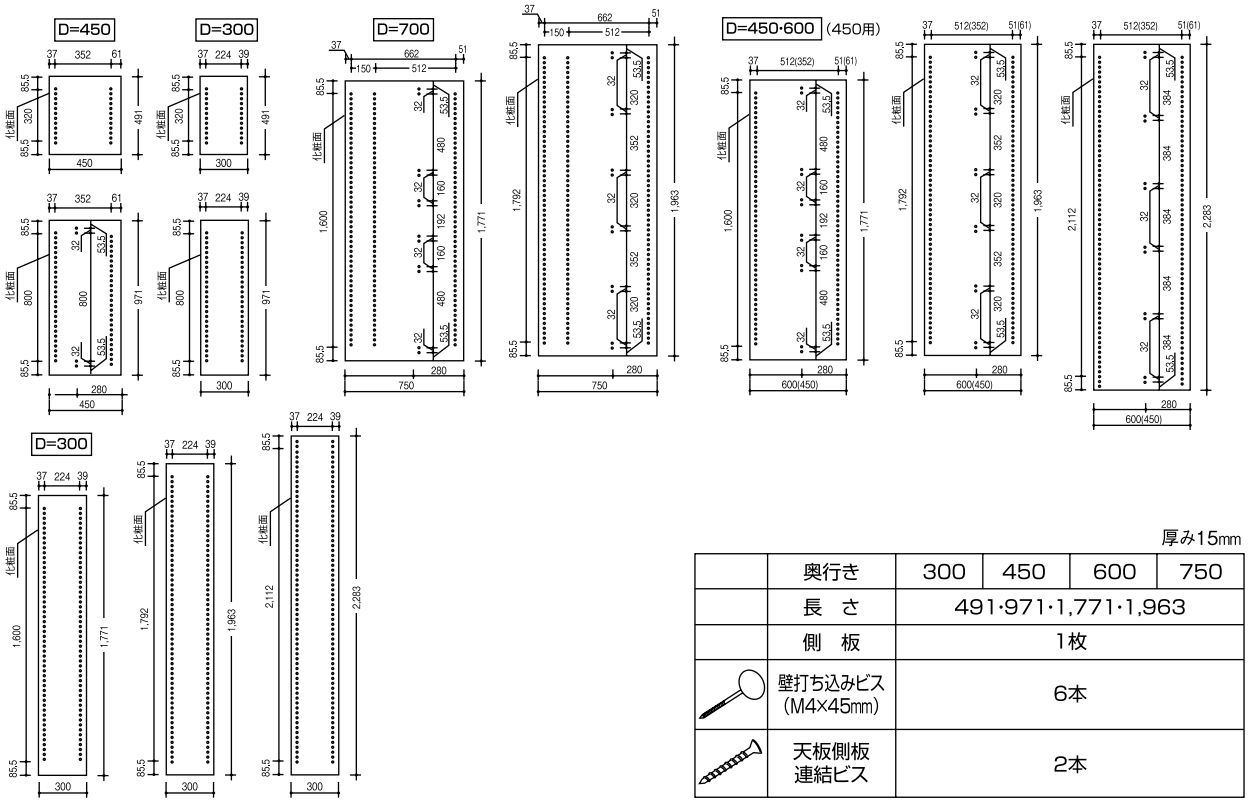
品名
❶ 天板・桟木・巾木セット
❷ 側板
❸ 仕切り板
❹ 棚板（固定棚2入り）
❺ 棚板（可動棚2入り）
❻ 棚板（固定棚1入り）
❼ パイプハンガー
❽ 引き出し（深）2段

天板・巾木・補強桟セット　※巾木・桟木は兼用です。



奥行き	300			450				600				750			備考
長　さ	969	1449	1929	969	1449	1929	2889	969	1449	1929	2889	969	1449	1929	
天　板	1枚														ビスセット（キャップ付）
巾木・補強桟	2本														
施工説明書	1部														
使用説明書	1部														

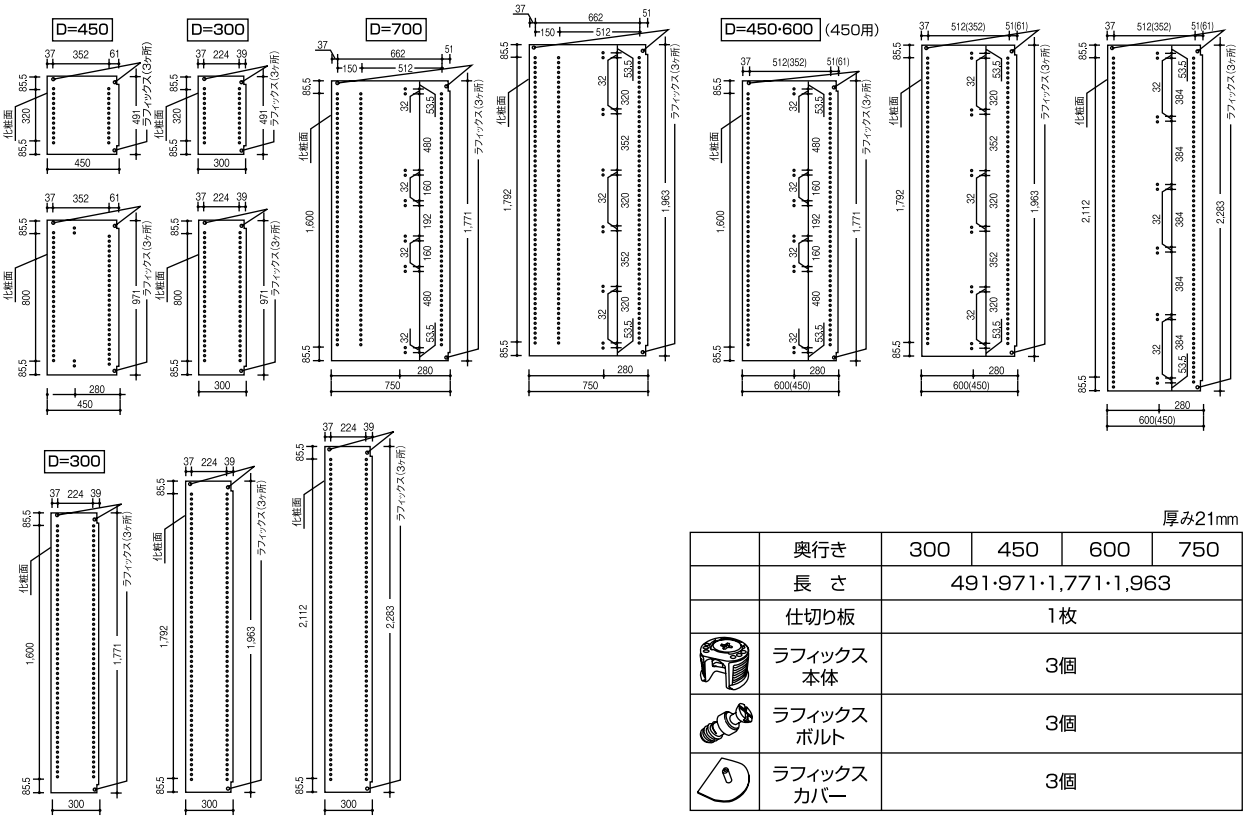
側板（左右兼用）



厚み15mm

	奥行き	300	450	600	750
	長　さ	491·971·1,771·1,963			
	側　板	1枚			
	壁打ち込みビス（M4×45mm）	6本			
	天板側板連結ビス	2本			

仕切板



厚み21mm

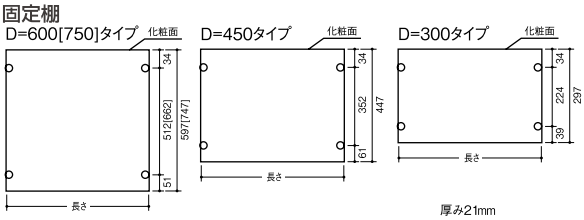
	奥行き	300	450	600	750
	長　さ	491·971·1,771·1,963			
	仕切り板	1枚			
	ラフィックス本体	3個			
	ラフィックスボルト	3個			
	ラフィックスカバー	3個			

e・ra・bo

部材の名称

固定棚

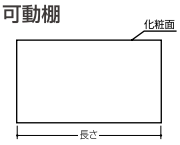
D=600[750]タイプ　D=450タイプ　D=300タイプ



厚み21mm

	奥行き	300				450				600				750		
	巾	297				447				597				747		
	長　さ	299	459	619	779	299	459	619	779	299	459	619	779	459	619	779
	棚　板	1枚														
	ラフィックス本体	4個														
	ラフィックスボルト	4個														

可動棚



厚み21mm

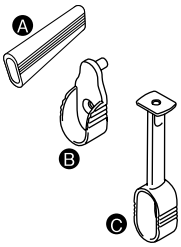
	奥行き	300				450				600				750		
	巾	297				447				597				747		
	長　さ	299	459	619	779	299	459	619	779	299	459	619	779	459	619	779
	棚　板	1枚														
	棚ダボ可動棚用	4個														

玄関収納用棚板

厚み12mm

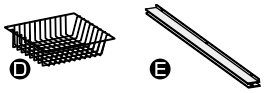
	奥行き	300			
	巾	290			
	長　さ	297	457	617	777
	棚　板	1枚			
	棚ダボ可動棚用	4個			

パイプハンガーセット



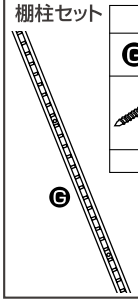
	間　口	400	600	800	1000	1200
	長　さ	450	610	770	1090	1250
A	パイプハンガー	1本				
B	パイプハンガーブラケット	2個				
	パイプハンガーブラケット取り付けビス(M3.5×10mm)	2本				
C	パイプハンガー中吊ブラケット				1	1
	パイプハンガー中吊ブラケット取り付けビス(M3.5×28mm)				1	1

ワイヤーバスケットセット(1入)



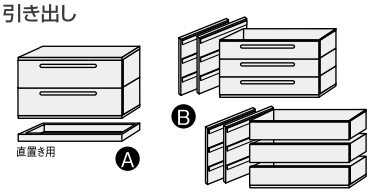
	奥行き	300		450	
	深　さ	90	180	90	180
D	バスケット	1個			
E	バスケットレール	2本			
	バスケットレール用取り付けビス(M6×10.5mm)	4本			

棚柱セット



	長　さ	1820
G	棚柱本体	4本
	棚柱本体取り付けビス(M3.5×16mm)	44個(ホワイト) 40個(シルバー)
	棚受け	24個

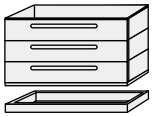
引き出し



	A						B								
奥行き	450			600			450			600			750		
巾	459	619	779	459	619	779	459	619	779	459	619	779	459	619	779
引き出し2段(深)	1セット		1セット	1セット		1セット	1セット								
引き出し3段(中)							1セット								
引き出し4段								1セット	1セット		1セット	1セット			
引き出し用レール側板取り付けビス(M3.5×25mm)							8本								
引き出し用レール側板位置決めダボ(M5×16mm)							4個								

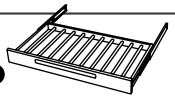
〈施工上のお願い〉引き出しの底板部には、1,2と番号がうってありますので、取付時は上から1,2…の順で施工して下さい。

和盆



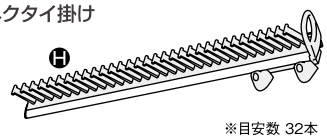
奥行き	450	600
巾	1,094	
和盆セット	1セット	

スラックスハンガー



	奥行き	450		600	
	長　さ	459	779	459	779
F	スラックスハンガー	1本			
	スラックスハンガー用取り付けビス(M3.5×25mm)	4本			
	目安本数	5	9	7	9

ネクタイ掛け



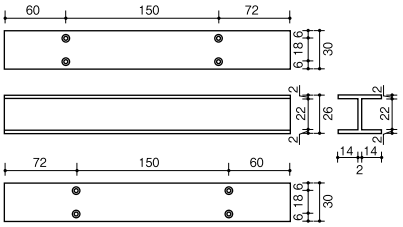
※目安数 32本

H	ネクタイ掛け	1本
	ネクタイ掛け用ビス(M3.5×25mm)	4本

フック

フック	5個

ウォークインH型ジョイント金物



	奥行き	300	450	600	750
	長　さ	282	432	582	732
	コーナージョイント本体	1個			
	コーナージョイント取り付けビス(M3.5×16mm)	8個	12個	16個	20個

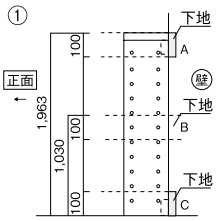
同梱部材一覧表

品名	ERABO サイドパネル用 L金具	ERABO サイドパネル用 L金具ビス	ERABO ラフィックスカバー	ERABO 壁打込ビスS 6入キャップ付
品番	ZY3640	ZY3641	ZY3638	ZY3639
設計価格	990円/セット	180円/セット	120円/個	580円/セット
入数	3	12	1	1
その他	使用部材:サイドパネル	使用部材:サイドパネル	側板、仕切板	※天板側板連結ビス2本も同梱されています。

品名	ERABO ラフィックス本体	ERABO ラフィックスボルト(4入)	ERABO 木口シート15MM 基材用	ERABO 木口シート21MM 基材用
品番	ZY3637	ZY3636	ZY0W15	ZY0W21
設計価格	350円/個	580円/セット	1,200円/m	1,200円/m
入数	1	1	1	1
その他	側板、仕切板	入数:4	入数:1	—

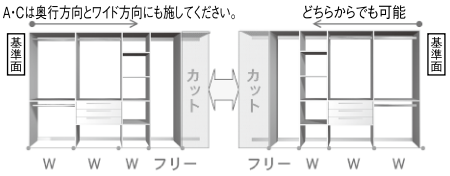
〈クローゼット・ウォークインクローゼットプラン基本取り付け〉

施工の前に



胴縁等の補強桟または合板下地(厚み12㎜以上)などで下地の処理をしてください。下地は巾100㎜以上のものをA～Cの3ヵ所に施してください。
A・Cは奥行方向とワイド方向にも施してください。

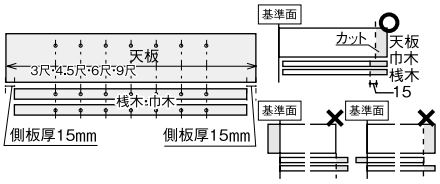
② 基準面を必ず決めた上で施工を行ってください。
※割り付けは左右どちらからでも可能



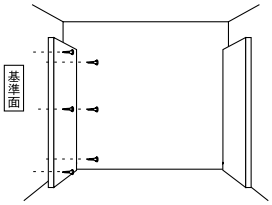
基準面を必ず決めて、仕切板の方向は同じ方向に施工してください。

⚠注意

〈桟木・巾木・天板のカット〉
●桟木(巾木)は側板の内々寸法に合わせてカットしてください。
●天板は、壁の内々寸法に合わせてカットしてください。
〈カットの方向〉
●基準面を揃えて取り付けてください。

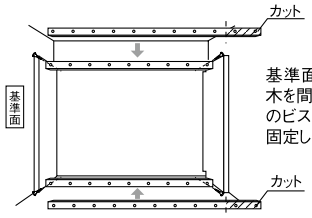


1 側板の取り付け



側板を壁側に、固定ビス(同梱品・ビスキャップ付)で固定してください。

2 桟木・巾木の取り付け

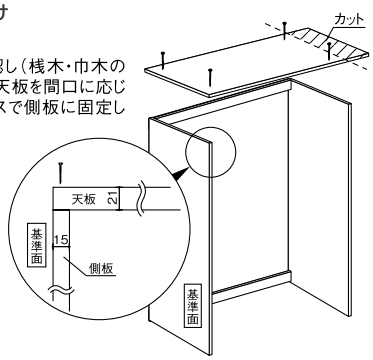


基準面を必ず決めて、桟木・巾木を間口に応じてカットし、同梱のビス(キャップ付専用ビス)で固定してください。

お願い 固定ボルトはシステム穴以外で固定してください。

3 天板の取り付け

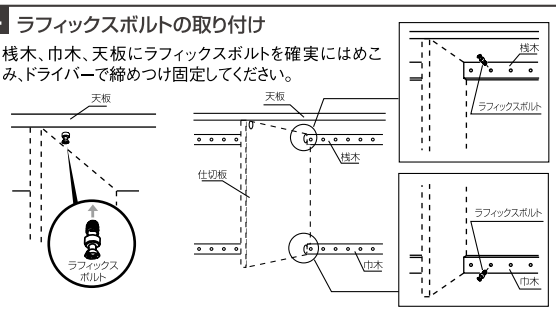
基準面を必ず確認し(桟木・巾木の基準面と同方向)天板を間口に応じてカットし、専用ビスで側板に固定してください。



お願い 天板は基準面側の壁にぴったりあわせてください。

4 ラフィックスボルトの取り付け

桟木、巾木、天板にラフィックスボルトを確実にはめこみ、ドライバーで締めつけ固定してください。

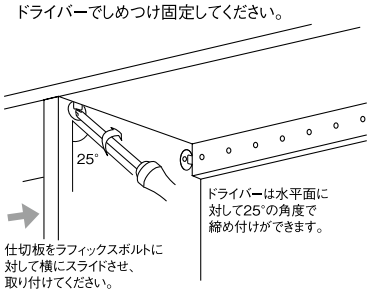


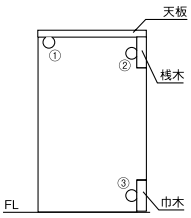
⚠注意 ラフィックスボルトの固定に際し、インパクトドライバーを使用すると基材に割れが発生したり、ビスが空回りして板が落下する原因となります。

お願い ラフィックスボルトを確実にはめこまないと、固定の際に空回りするおそれがあります。

5 仕切板と巾木・桟木・天板の接合

仕切板をラフィックスボルトに取り付け、ドライバーでしめつけ固定してください。



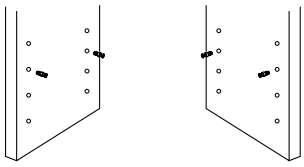


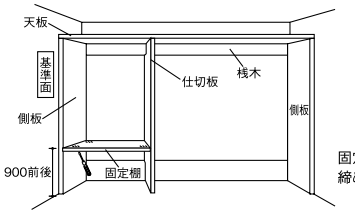
①②③の3ヶ所をドライバーでしめつけ確実に固定してください。

⚠注意 ラフィックスボルトの固定に際し、インパクトドライバーを使用すると基材に割れが発生したり、ビスが空回りして板が落下する原因となります。

6 固定棚の取り付け

仕切板・側板のシステム穴にラフィックスボルトを取り付けてください。



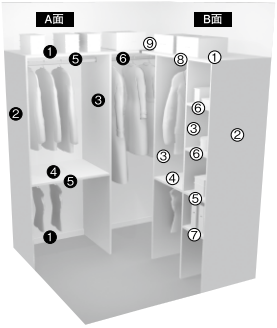


固定棚をはめこみ、ドライバーで締めつけ固定します。

お願い 高さ2,300用、2,000用、1,800用は側板と仕切り板の間にFLから900㎜前後の位置に、高さ1,000用はFLから600㎜前後、高さ500㎜は任意の高さに必ず1枚は固定棚を取り付けてください。

e・ra・bo

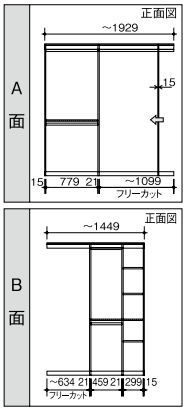
ウォークインクローゼットプラン

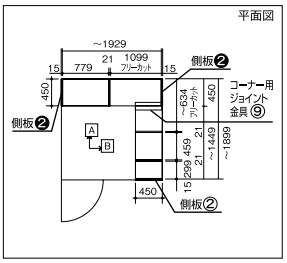


❶天板・桟木・巾木セット
❷側板
❸仕切り板
❹棚板（固定棚1入り）
❺パイプハンガー
❻パイプハンガー

①天板・桟木・巾木セット
②側板
③仕切り板
④棚板（固定棚1入り）
⑤棚板（固定棚1入り）
⑥棚板（可動棚2入り）
⑦棚板（可動棚1入り）
⑧パイプハンガー
⑨コーナー用　ジョイント金具

仕切板の位置・間隔、フリーカット部分の位置などを確認ください。





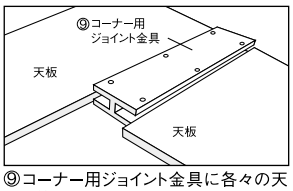
両側に側板が取り付く面から施工してください。

側板の取り付け位置

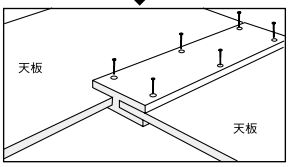
平面図❷❷②の位置に側板を取り付けます。（取り付け方法は前頁に従って取り付けます。）

天板の接合

コーナー部分の天板の接合

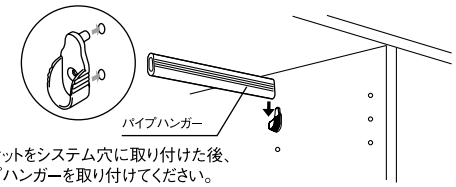


⑨コーナー用ジョイント金具に各々の天板を差し込み、同梱のビスで固定します。



POINT システム穴を御利用ください。

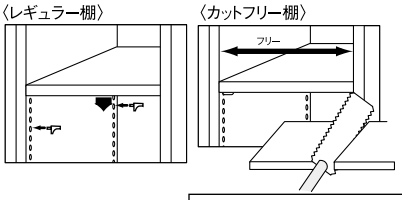
パイプハンガーの取り付け



ブラケットをシステム穴に取り付けた後、パイプハンガーを取り付けてください。（グラツキが気になる場合、固定したい場合は同梱の専用ビスで固定してください。）

※フリーカット部分へ取り付ける場合は、間口に合せてパイプをカットしてお使いください。

可動棚の取り付け



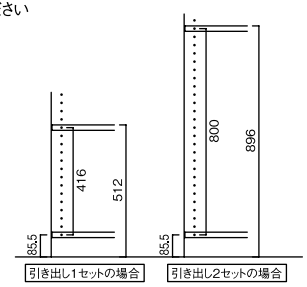
棚ダボをシステム穴に取り付けた後、可動棚を取り付けてください。

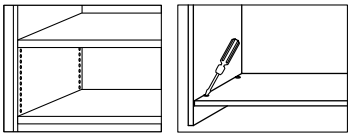
※フリーカット部分へ取り付ける場合は、間口に合せて可動棚をカットしてお使いください。

引き出しの取り付け

1 固定棚の取り付け

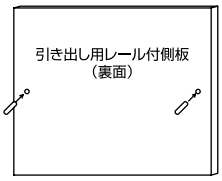
引き出しの上下の位置に、固定棚を取り付けてください



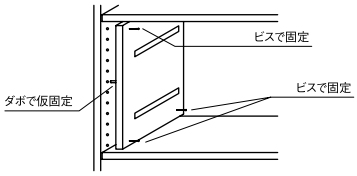


※固定棚の固定が下からできない場合は、固定棚を上下反対にして、上から固定してください

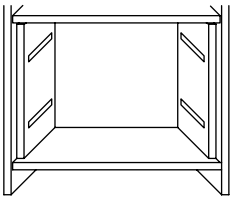
2 引き出し用レール付側板の裏面に、ダボを取り付けます。



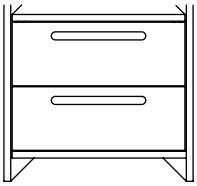
3 引き出し用側板を、本体側板（仕切り板）のシステム穴に差込み仮固定し、固定ビスで留めてください。



4 両側とも同様に取り付けます。



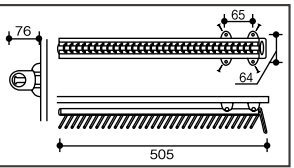
5 引き出しを取り付けます。



〈施工上のお願い〉引き出しの底板部には、1,2と番号がうってありますので、取付時は上から1,2…の順で施工して下さい。

ネクタイハンガー

同梱のビスで4ヶ所とめてください。

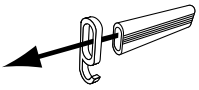


ワイヤーバスケットの取り付け

側板（仕切板）にレールを同梱のビスで取り付けます。

フック

パイプハンガーにフックを通してお使いください。

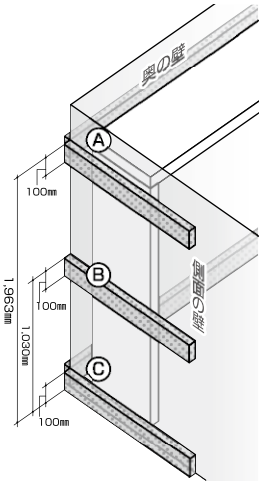


e・ra・bo テレビ収納プラン

施工の前に

胴縁等の補強桟または
合板下地（厚み12㎜以上）などで
下地の処理をしてください。

下地は巾100㎜以上のものを、
A～Cの3ヵ所に施します。
AとCは奥行き方向だけでなく
ワイド方向にも施してください。

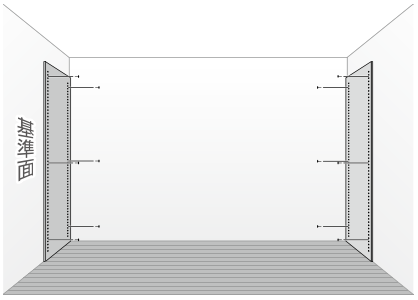


棚の組立方法

1 側板の取り付け

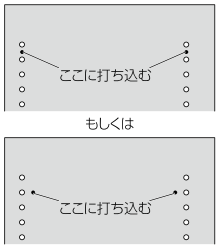
まず、左右どちらかの壁を基準面と決めます。
（ここでは左壁面を基準面とします）
側板を壁面に、固定ビスで固定し、同梱のビスキャップを取り付けてください。

⚠ 注意
固定ビスは下地補強されている位置に打ち込んでください。



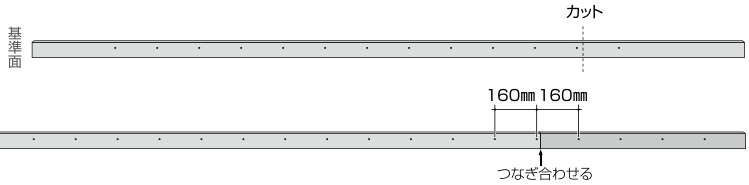
基準面には必ず下地補強した壁がくるようにしてください。
片側にしか壁がない場合は、基準面と反対側の側板裏に
サイドパネルを施工してください。

固定ビスはシステム穴を避けて
取り付けてください。



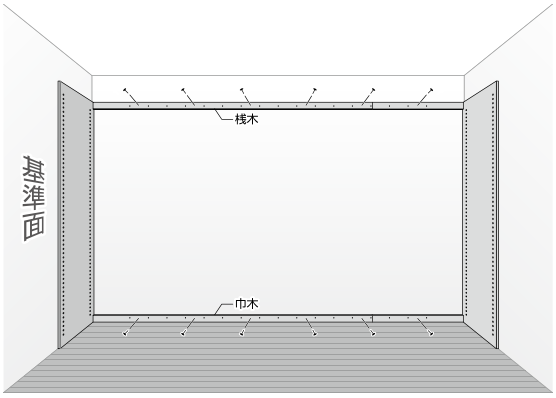
2 桟木・巾木の取り付け

桟木・巾木を、側板の**内々寸法**に合わせてカットします。
この時、必ず基準面と反対側をカットするようにしてください。



間口が2,889㎜以上のワイド寸法の場合、
桟木・巾木を2本つなぎ合わせます。
つなぎ合わせた時にダボ穴の間隔が
160㎜になるように調整して取り付けてください。

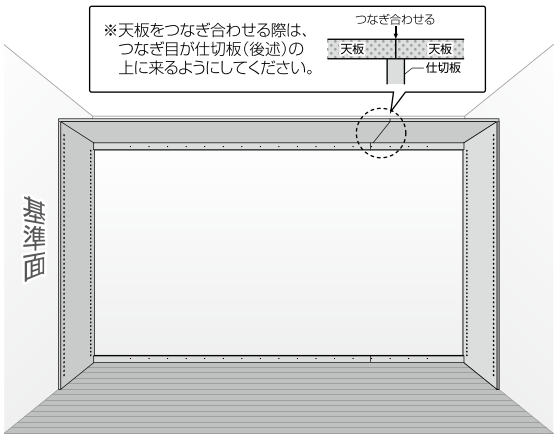
カットした桟木・巾木を、下地のある壁面へ同梱のビスを打ち込んで固定し、
ビスキャップを取り付けてください。
固定ビスはシステム穴を避けて打ち込んでください。

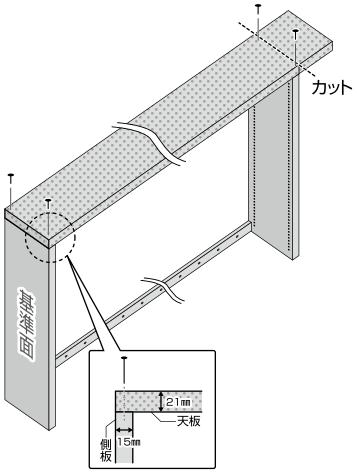


3 天板の取り付け

桟木・巾木と同様に天板を
間口に合わせてカット（間
口が2,889㎜以上の場合
はつなぎ合わせる）し、
天板を基準面側の壁にぴ
ったり合わせて側板・桟木
の上に乗せるように設置し、
専用ビスで上から側板に固
定してください。

※天板は側板の外の
　寸法でカットしてください。





e・ra・bo テレビ収納プラン

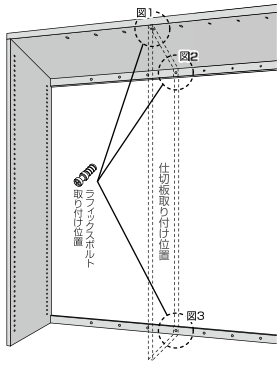
4 ラフィックスボルトの取り付け

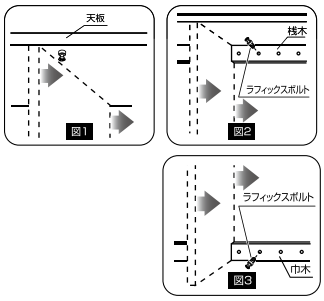
仕切板を取り付ける位置を確認し、
桟木、巾木、天板のそれぞれ対応するシステム穴にラフィックスボルトを
ドライバーで締め付け固定してください。

⚠ 注意

ラフィックスボルトの固定に際し、インパクトドライバーを使用すると基材に割れが発生したり、ビスが空回りして板が落下する原因となります。

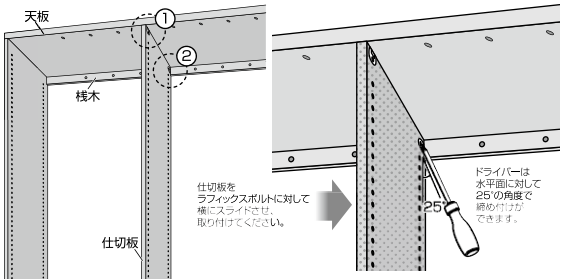
【お願い】ラフィックスボルトを確実にはめこまないと、固定の際に空回りするおそれがあります。





5 仕切板と桟木・巾木・天板の接合

固定したラフィックスボルトに向けて、仕切板を横からスライドさせて取り付け、
①②③の3ヵ所をドライバーで締め付け固定してください。

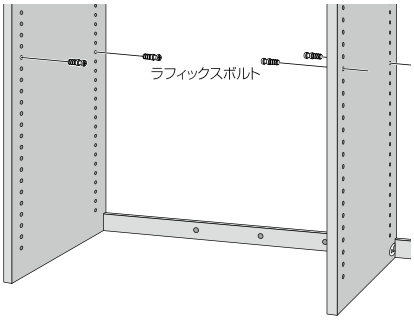


⚠ 注意

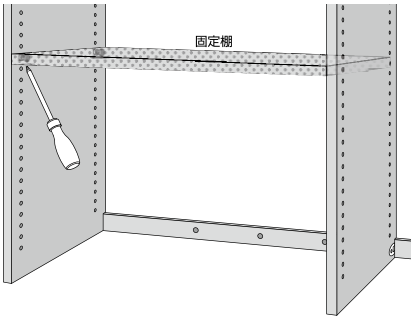
ラフィックスボルトの固定に際し、インパクトドライバーを使用すると基材に割れが発生したり、ビスが空回りして板が落下する原因となります。

6 固定棚の取り付け

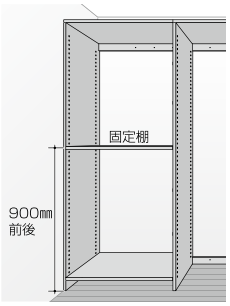
①仕切板・側板のシステム穴に
ラフィックスボルトを取り付けてください。



②ラフィックスボルトに固定棚をはめこみ、
ドライバーで締め付け固定します。

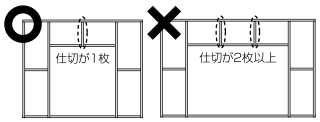


【お願い】
側板と仕切板の間には、FLから900㎜前後の位置に必ず1枚は固定棚を取り付けてください。

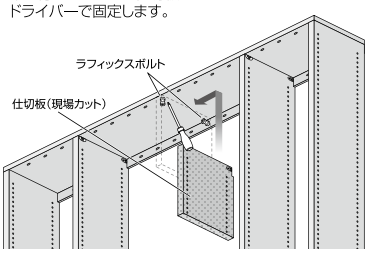


吊り戸棚の固定棚の組み立て

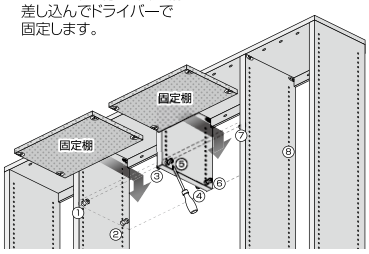
中央の仕切板の高さを間口に合わせてカットしてください。
この場合、カットした仕切板を2枚以上使用するプランは
避けてください。



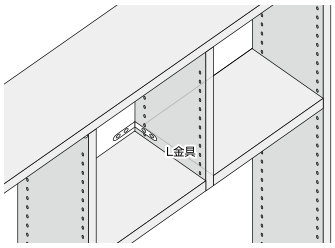
①桟木と天板にラフィックスボルトを
取り付け、カットした仕切板を
ドライバーで固定します。



②仕切板の①～⑧の箇所にラフィックス
ボルトを取り付け、固定棚を
差し込んでドライバーで
固定します。

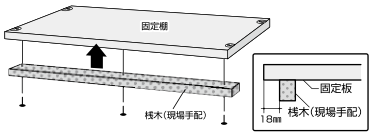


③同梱のL金具で、仕切板を
うしろの壁と固定してください。

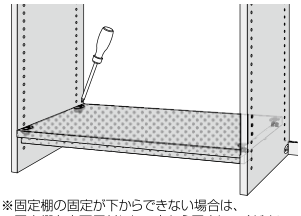


幕板の取り付け

①幕板を取り付けるための桟木（現場手配）を
固定棚の裏からビスで固定します。

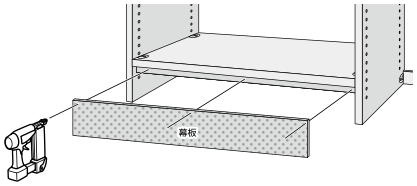


②側板と仕切板にラフィックスボルトで
固定棚を取り付けます。



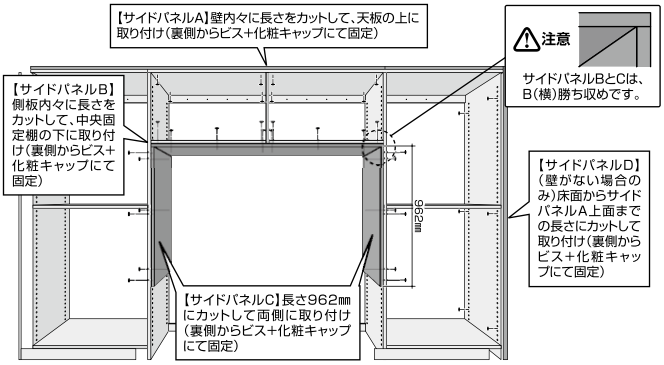
※固定棚の固定が下からできない場合は、
固定棚を上下反対にして上から固定してください。

③「①」の桟木に当てるように幕板をつけ、
フィニッシュネイルなどで固定してください。



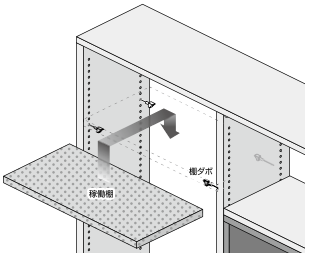
7 サイドパネルの取り付け

サイドパネルA～Cをそれぞれの取り付け位置に合わせてカットし、取り付けます。
基準面の反対側に壁がない場合は、側板の裏にサイドパネルDを施工してください。

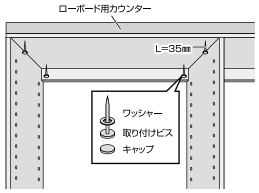


8 可動棚の取り付け

棚ダボをシステム穴に取り付けた後、可動棚をダボの上に乗せて取り付けてください。

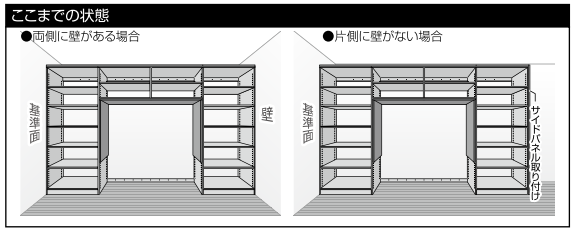


ローボードプラン（テレビ収納プラン）の場合



天板下からローボード用カウンターに向け、同梱のビス（ビスキャップ付）で固定させてください。

ここまでの状態

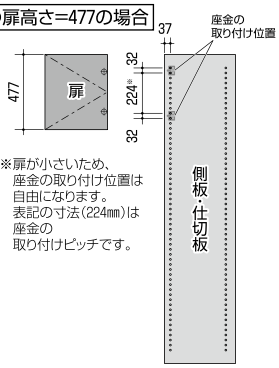


扉の組み立て

1 座金の取り付け（側板・仕切板）

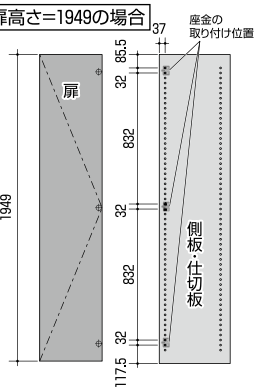
側板・仕切板のシステム穴を利用し、座金を取り付けます。
取り付け位置は図面の寸法を参照してください。

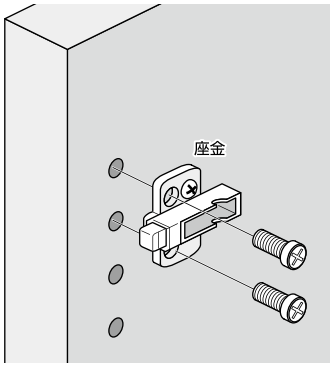
●扉高さ=477の場合



※扉が小さいため、座金の取り付け位置は自由になります。
表記の寸法（224㎜）は座金の取り付けピッチです。

●扉高さ=1949の場合



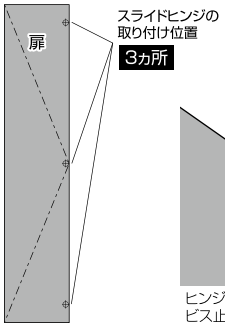


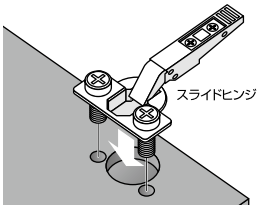
2 スライドヒンジの取り付け

扉1枚につき、「DH1949」には3ヵ所、「DH477」には2ヵ所にスライドヒンジを取り付けます。

●扉高さ=477の場合

●扉高さ=1949の場合

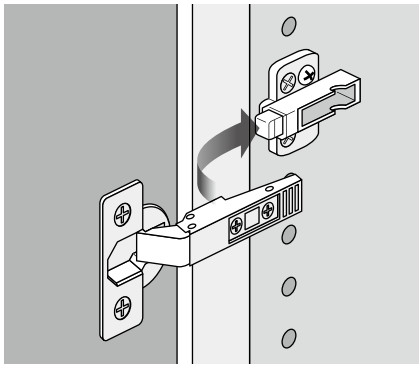




ヒンジを扉の下穴に押し込みビス止めします。

3 扉の取り付け

扉をキャビネットに取り付けます。ヒンジアームの前部を先に合わせ、座金に軽く押し込んでください。

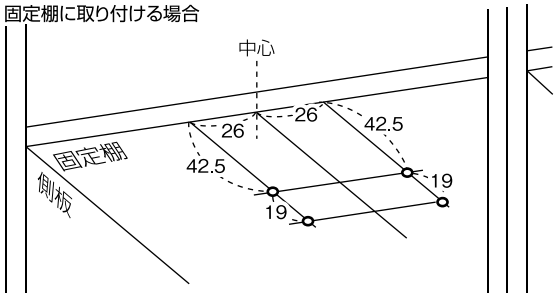


e・ra・bo テレビ収納プラン

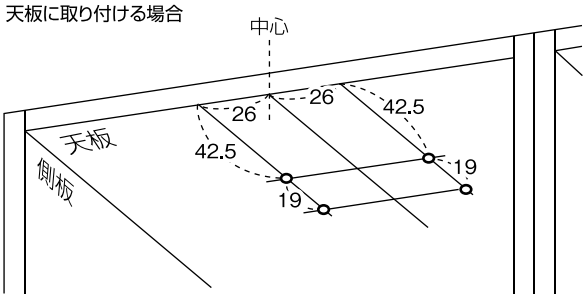
4 プッシュオープン本体の取り付け

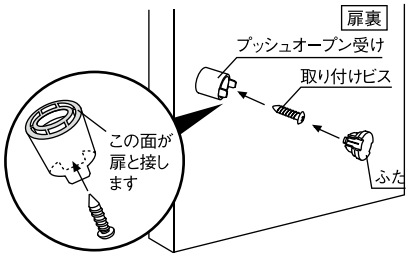
W=796㎜(両開き)の場合

固定棚に取り付ける場合



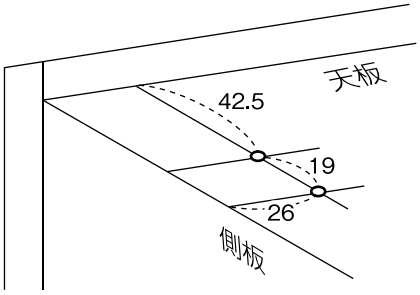
天板に取り付ける場合



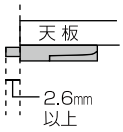


固定棚にプッシュオープンを取り付ける場合は、接する扉部分にプッシュオープン受けを取り付けてください。

W=398㎜(片扉)の場合

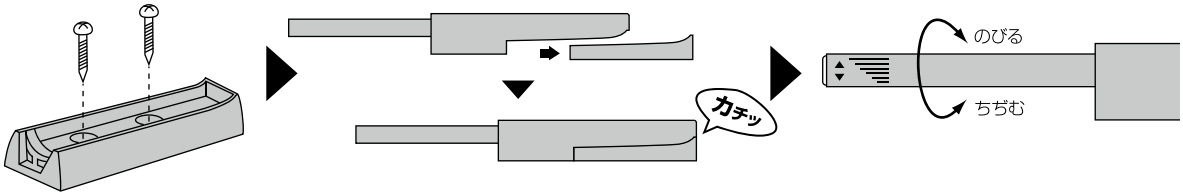


⚠ 注意



プッシュオープンの先端を天版および側板から2.6㎜以上出して取り付けてください。プッシュオープンがうまく作動しない場合は上記調整を行ってください。

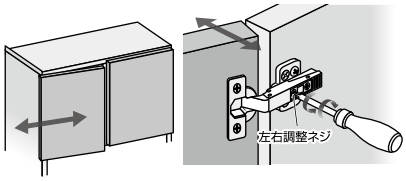
(2)プッシュオープンの取り付け
専用ビスにて対応する下穴にプッシュオープンを取り付けてください。



扉の位置調整

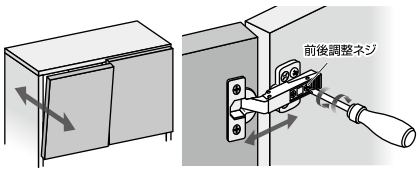
扉の左右位置を調整

左右調整ネジを回して左右調整をしてください。
【アジャスト量:扉の内方向4㎜】



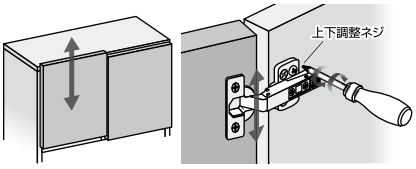
扉の前後位置を調整

前後調整ネジを回して前後調整をしてください。
【アジャスト量:扉の前方向2㎜、後方向2㎜(合計4㎜)】



扉の上下位置を調整

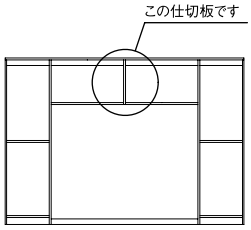
上下調整ネジを回して上下調整をしてください。
【アジャスト量:扉の上方向2.5㎜、後方向2.5㎜(合計5㎜)】



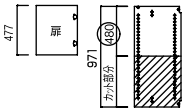
e・ra・bo 扉

3 「門型プラン」などの際の仕切り板の加工方法と組立て方法

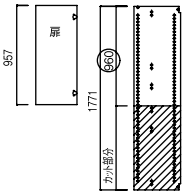
下記のような「門型」プランの場合、仕切り板の加工が必要になります。
図をご参照いただきカットしてください。



DH=477の場合
※必ず長さ971mm以上の仕切板をご使用ください。



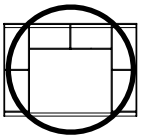
DH=957の場合
※必ず長さ1,771mm以上の仕切板をご使用ください。



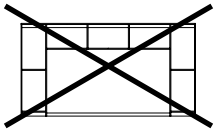
⚠ 注意

カットした仕切りを使用するプランの場合、仕切りを2枚以上使用するプランは避けてください。

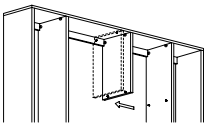
仕切り1枚



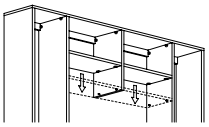
仕切り2枚以上



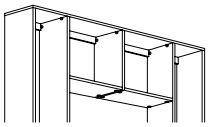
①カットした仕切り板を、巾木と天板のラフィックスで取り付けてください。
+ドライバーでしっかりと締め付けてください。



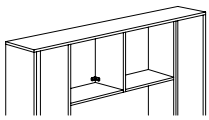
②カットした仕切板と仕切り板に、ラフィックスボルトを取り付け、固定棚を差し込んでください。



③固定板を、ラフィックスで取り付けてください。
+ドライバーでしっかりと締め付けてください。



④L金具（別売）で仕切り板を固定してください。

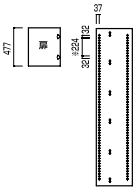


扉の組み立て

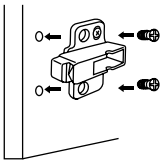
1 座金を取り付けます（側板・仕切板）

側板・扉に座金を取り付けます。取り付けはエラボのシステム穴を利用します。
取り付け位置は図面の寸法でお願いします。

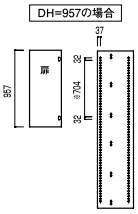
DH=477の場合



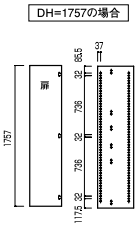
（※寸法は、小さい扉なので取り付け位置は自由になります。表記の寸法は座金の取付ピッチになります）



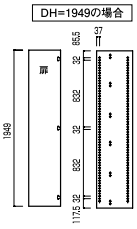
DH=957の場合



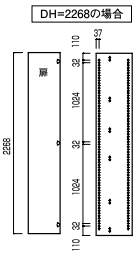
DH=1757の場合



DH=1949の場合

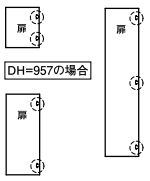


DH=2268の場合



2 スライドヒンジを取り付けます

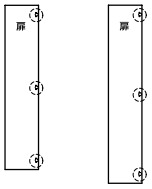
DH=477の場合　DH=1757の場合

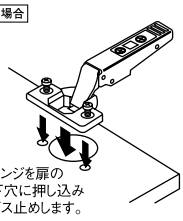


DH=957の場合

扉1枚につき、「DH1757」「DH1949」「DH2268」には3ヶ所、「DH477」「DH957」には2ヶ所スライドヒンジを取り付けます。

DH=1949の場合　DH=2268の場合

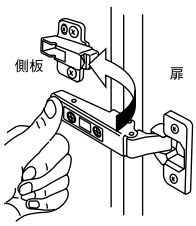




ヒンジを扉の下穴に押し込みビス止めします。

3 扉を取り付けます

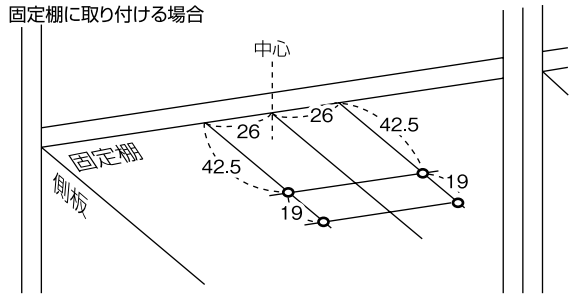
扉をキャビネットに取り付けるにはヒンジアームの前部を先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。



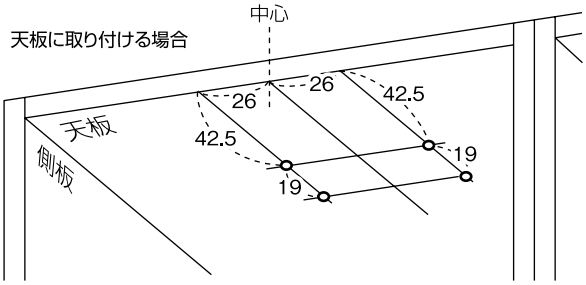
4 プッシュオープン本体の取り付け

W=796㎜（両開き）の場合

固定棚に取り付ける場合



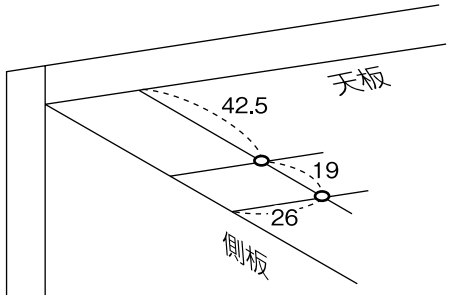
天板に取り付ける場合



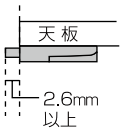
e・ra・bo 扉

4 プッシュオープン本体の取り付け

W=398㎜(片扉)の場合

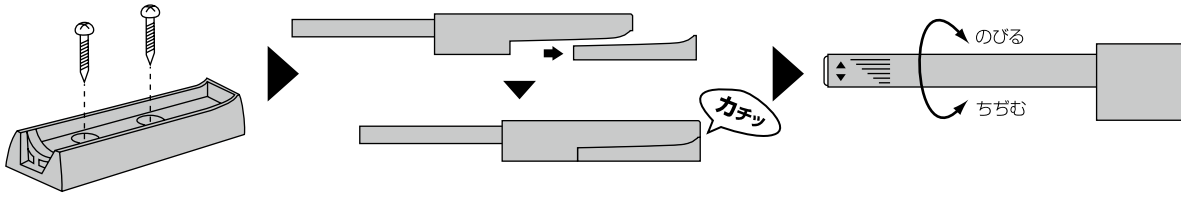


⚠ 注意



プッシュオープンの先端を天版および側板から2.6㎜以上出して取り付けてください。プッシュオープンがうまく作動しない場合は上記調整を行ってください。

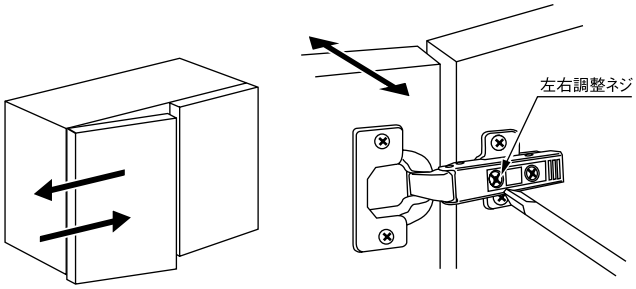
(2)プッシュオープンの取り付け
専用ビスにて対応する下穴にプッシュオープンを取り付けてください。



扉の調整方法

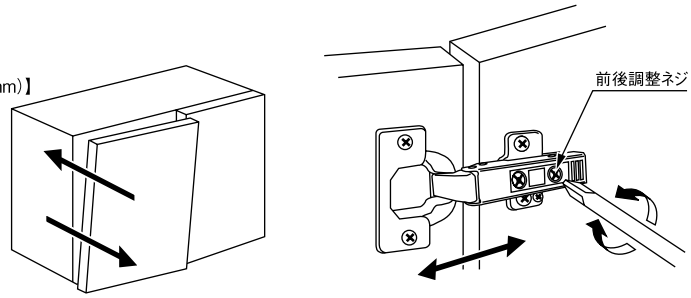
扉の左右位置を調整

◆左右調整ネジを回して左右調整をしてください。
【アジャスト量:扉の内方向4mm】



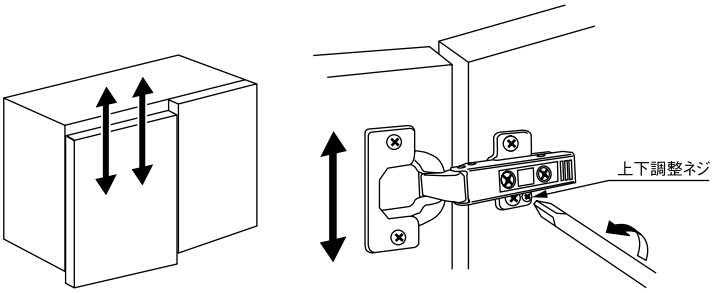
扉の前後位置を調整

◆前後調整ネジを回して前後調整をしてください。
【アジャスト量:扉の前方向2mm、扉の後方向2mm(合計4mm)】



扉の上下調整

◆上下調整ネジを回して上下調整をしてください。
【アジャスト量:扉の上方向2.5mm、
扉の下方向2.5mm(合計5mm)】



中段・枕棚セット

施工上のご注意

・補強

- 押入れ地板は5.5㎜であるため、12㎜以上の捨て貼り合板を用いるとともに、根太間隔は303㎜ピッチ以内で施工してください。
- 中段および枕棚の桟木の取付け位置には、胴縁および間柱等の下地を必ず入れてください。

当社収納は、衣類・寝具等を収納するよう設計されているため、百科事典等過度な重量物を収納する場合は、棚の落下の原因となりますので、耐荷重をご確認の上、ご使用ください。
（棚板及び引き出し等の耐荷重は右表をご参照ください。）

・間口が広い場合の補強

間口が2mを越える場合（例えば9尺間口など）は、吊り束や束等の補強材もしくはL型金物等を使って十分な補強を施してください。

	一枚あたりの耐荷重
中段	200kg（3尺、4.5尺、6尺タイプ）
枕棚	100kg（3尺、4.5尺、6尺タイプ）
ハンガーパイプ	20kg（850㎜スパン）
引き出し	5kg（1杯当たり）

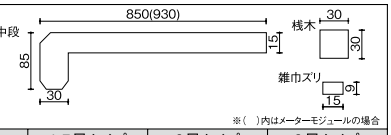
開梱

梱包を解いたら、当製品に不足および問題がないかどうかを確認してください。製品に水漏れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。
桟木・雑巾ズリは記載の長さと若干の誤差が生じる場合があります（施工に支障はありません）。

中段セット

中段セット

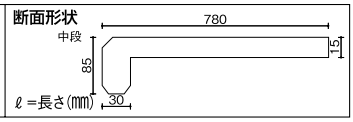
断面形状



	3尺タイプ	4.5尺タイプ	6尺タイプ	9尺タイプ
中　段	1体	1体	1体	1体
化粧桟木	3本	長:1本　短:2本	2本	長:1本　短:2本
雑巾ずり	3本	長:1本　短:2本	2本	長:1本　短:2本
化粧キャップ付ビス	9セット	10セット	11セット	13セット
隙間キャップ	2個	2個	2個	2個

中段セット（ECOサイズ）

断面形状



間口寸法

3尺タイプ	775mm
4.5尺タイプ	1230mm
6尺タイプ	1685mm
9尺タイプ	2595mm

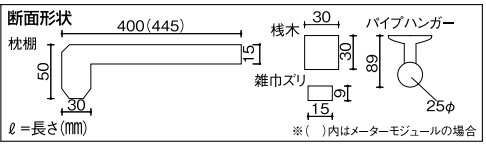
	3尺タイプ	4.5尺タイプ	6尺タイプ	9尺タイプ
中　段	1体	1体	1体	1体
化粧桟木	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本
雑巾ずり	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:2本　短:2本
化粧キャップ付ビス	9セット	10セット	11セット	13セット
隙間キャップ	2個	2個	2個	2個
パイプハンガー	1本	1本	1本	1本
ブラケット	エンド2個	エンド2個　中吊り1個	エンド2個　中吊り1個	エンド2個　中吊り2個

※パイプハンガー、ブラケットは、セット品をオーダーいただいた場合のみです。

枕棚セット・パイプハンガー付

枕棚セット パイプハンガー付

断面形状

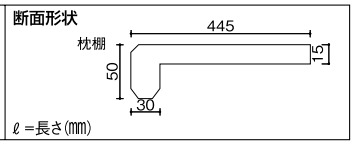


	3尺タイプ	4.5尺タイプ	6尺タイプ	9尺タイプ
枕　棚	1体	1体	1体	1体
化粧桟木	2本	長:1本　短:1本	長:1本　短:1本	長:1本　短:2本
雑巾ずり	2本	長:1本　短:1本	長:1本　短:1本	2本
化粧キャップ付ビス	7セット	8セット	9セット	11セット
隙間キャップ	2個	2個	2個	2個
パイプハンガー	1本	1本	1本	1本
ブラケット	エンド2個	エンド2個　中吊り1個	エンド2個　中吊り1個	エンド2個　中吊り2個

※パイプハンガー、ブラケットは、セット品をオーダーいただいた場合のみです。

枕棚セット（ECOサイズ）

断面形状



間口寸法

3尺タイプ	775mm
4.5尺タイプ	1230mm
6尺タイプ	1685mm
9尺タイプ	2595mm

	3尺タイプ	4.5尺タイプ	6尺タイプ	9尺タイプ
枕　棚	1体	1体	1体	1体
化粧桟木	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本
雑巾ずり	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:1本　短:2本	長:2本　短:2本
化粧キャップ付ビス	9セット	10セット	11セット	13セット
隙間キャップ	2個	2個	2個	2個
パイプハンガー	1本	1本	1本	1本
ブラケット	エンド2個	エンド2個　中吊り1個	エンド2個　中吊り1個	エンド2個　中吊り2個

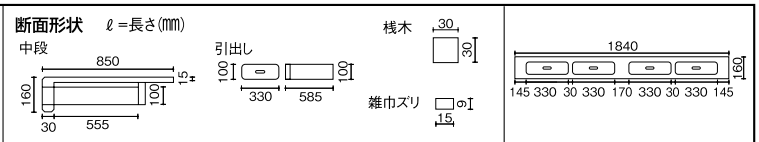
※パイプハンガー、ブラケットは、セット品をオーダーいただいた場合のみです。

天板、側板セット

	3尺用	4.5尺・6尺用
天　板	1,820×910×2,5（1枚）	1,820×910×2,5（1枚）
地　板	2,430×910×3（3枚）	2,430×910×3（4枚）

押入れ中段 引き出し付タイプ〈シナ柄〉

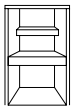
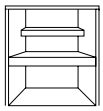
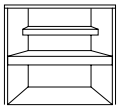
断面形状　ℓ＝長さ(㎜)



	6尺タイプ
中段（引き出し付）	1本
桟　木	2本
雑巾ズリ	2本
ビ　ス	11本

（　　）内メーターモジュール

押入れセット〈シナ柄〉

	3尺タイプ	4.5尺タイプ	6尺タイプ
			
部材名	数量	数量	数量
中段セット	1セット	1セット	1セット
枕棚セット	1セット	1セット	1セット
天　板	1枚	2枚	2枚
地　板	1枚	1枚	1枚
側板・背板	3枚	4枚	4枚

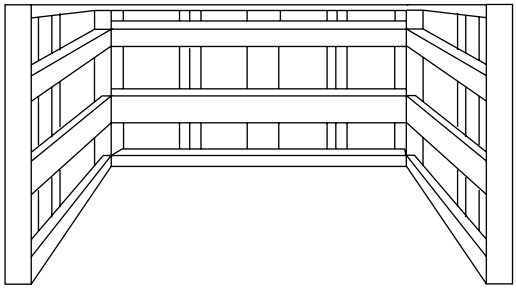
中段・枕棚セット

施工手順

天板・側板・棚板の取付け

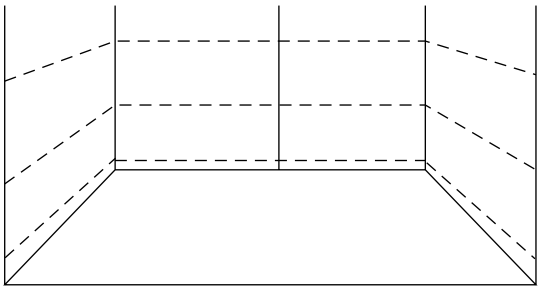
1 壁面の下地処理

中段・枕棚の桟木の取り付け位置に間柱・補強桟等の下地処理が施されていることを確認してください。



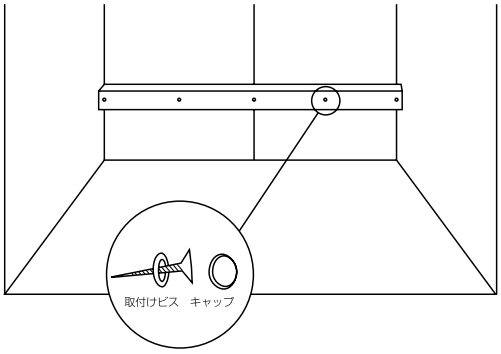
2 桟木位置の墨出し

石膏ボートの施工後、桟木の取り付け位置に墨出しを行ってください。
墨出し位置は横桟木のある位置に行ってください。



3 桟木の取り付け

・墨出し位置の上方に合わせて後ろ桟木を取り付けます。
・ビスは同梱のものを使用してください。
ピッチはメーターモジュールは500mm以下、910モジュールは450mm以下でお願いします。
・桟木の割れ防止のため必ず下穴加工をしてください。
・ビスはワッシャーをはめた後打込んでください。
・同様に横桟の取り付けを行ってください。



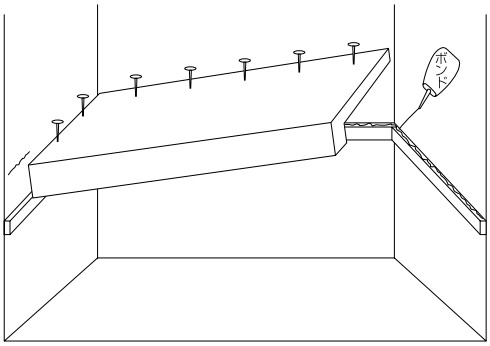
4 押入れ棚板の長さカット

・押入れ内寸法（壁面内々）より5mm短くカットします。

※Ecoサイズの場合も、取り付け開口内々寸法よりも製品寸法の方が大きい場合は長さをカットしてください。

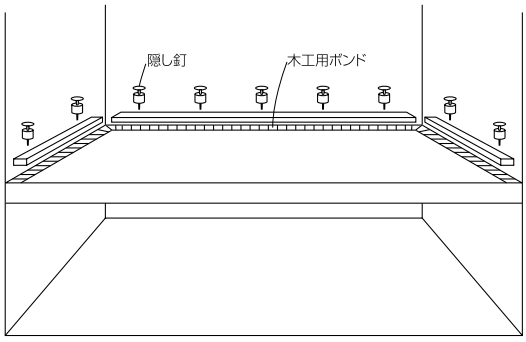
5 押入れ棚板の固定

・桟木に木工用ボンド（現地調達）を塗布し、釘またはビス（現地調達）で固定します。
このとき、両端の隙間は均等になるように取り付けてください。



6 雑巾ずりの取り付け

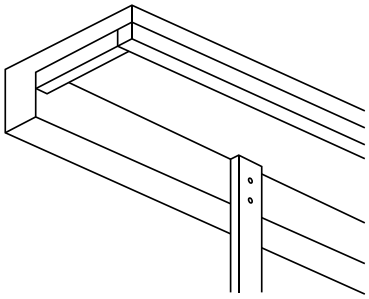
・棚と壁面との隙間・釘跡を隠すように取り付けてください。
・隠し釘又はフィニッシュネイル（現地調達）と木工用ボンド（現地調達）を併用して固定します。
・桟木の割れ防止のため、端より50mm開けて釘固定してください。



⚠ 注意

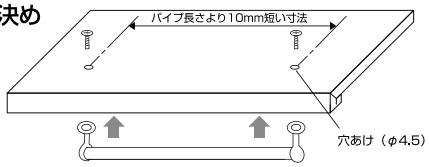
間口が2mを越える場合（例えば9尺間口など）の補強方法

間口が2mを越える場合は、積載時や自重によるたわみが発生し、利用上支障のあるおそれがありますので、吊り木（別売品）や下束等（現場調達）を取り付け、中段および枕棚の補強を行ってください。



7 パイプハンガーの取り付け

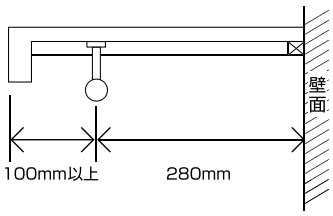
下穴位置決め



4.5尺以上の使用の場合は
中間ブラケット（同梱）を取り付けてください。

穴加工時の注意

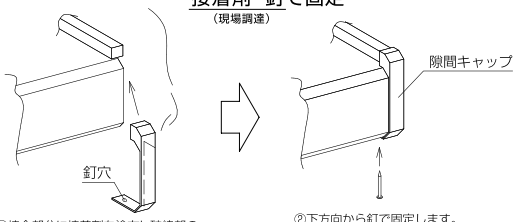
取付け位置は必ず守ってください。
ハンガー掛けの時に、ハンガーが前框と接触したり、壁面に服が当って、掛けられなくなることがあります。



ネジの締め付け

⚠ 注意
ネジ山破損防止のため、ネジの挿入・締め付け時は電動ドライバー等の使用はさけてください。

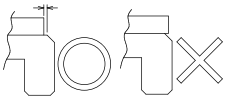
8 スキマ隠し



①接合部分に接着剤を塗布し破線部のツバ部分をスキマに差し込みます。
推奨品:GPクリヤー（コニシ）

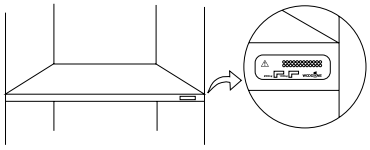
②下方向から釘で固定します。
カラーネイル(25mm)

＊左右有り。本図は右側を示しています。



⚠ 注意
雑巾ずりは枕棚の面取り部分より出ないように取り付けてください。

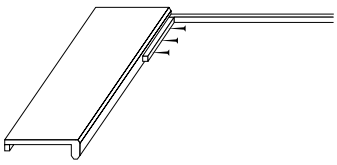
9 耐荷重表示ラベルの貼り付け



同梱の「耐荷重表示ラベル」を前框前面に貼り付けてください。

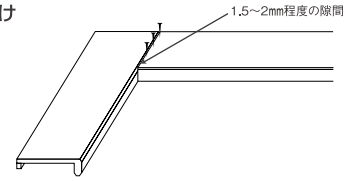
Lコーナーキャップと目地キャップの取り付け方法

1 桟木の取り付け



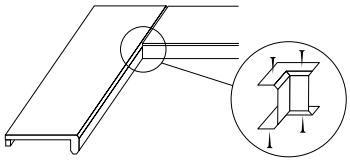
押入れ棚板の表面より15㎜下がった位置に桟木を固定します。

2 棚板の取り付け



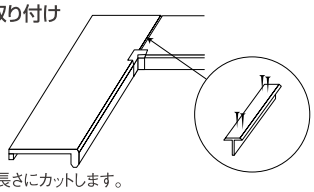
桟木に接着剤（白ボンドなど）を塗り、目地キャップを差し込める程度隙間を空け、棚板をセットし、目地キャップで隠れる位置にネイルで固定します。

3 Lコーナーキャップの取り付け



Lコーナーキャップを接着剤（ウレタン系など）と18㎜程度のカラーネイルで固定します。

4 目地キャップの取り付け



目地キャップを必要な長さにカットします。
目地キャップを接着剤（ウレタン系がよい）を塗布した溝にセットしてください。
必要に応じて、カラーネイル等（長さ30～40㎜）で固定してください。

⚠ 注意　押入れ棚板を製品長が2mを越えて「かね手」使用する場合、必ず吊り束や束等（現場調達）を取付け補強をおこなってください。

施工終了後

●洗剤・消臭剤等の使用禁止
洗剤・消臭剤・殺虫剤が製品に直接付着すると、変色の原因になります。ベンジン・アルコール・シンナーなどを使用されますと、変色・変質することがありますので、絶対に使用しないでください。

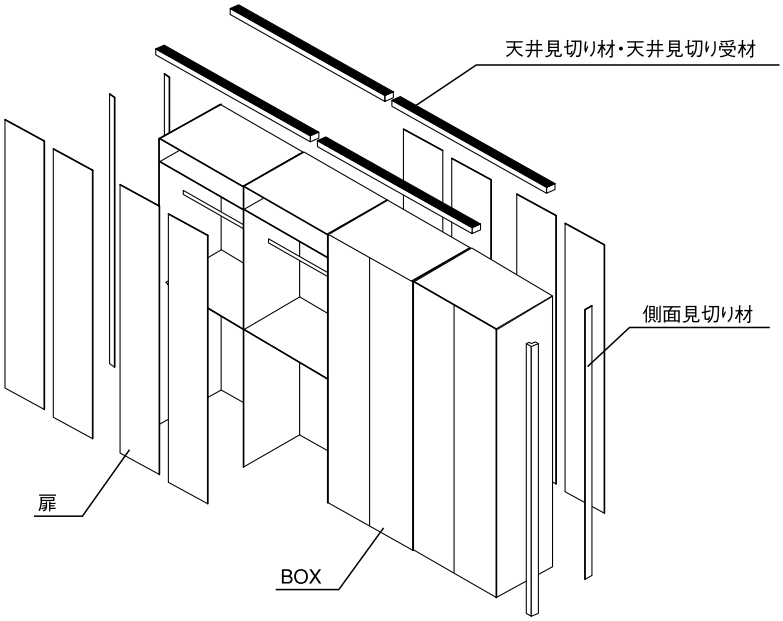
●お手入れのしかた
表面・裏面共に、ほこり、小さな汚れは乾いた布で拭いてください。水気のある布を使用されますと、シートのはがれやシミの原因となります。

●使用説明書の手渡し
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

●養生
当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

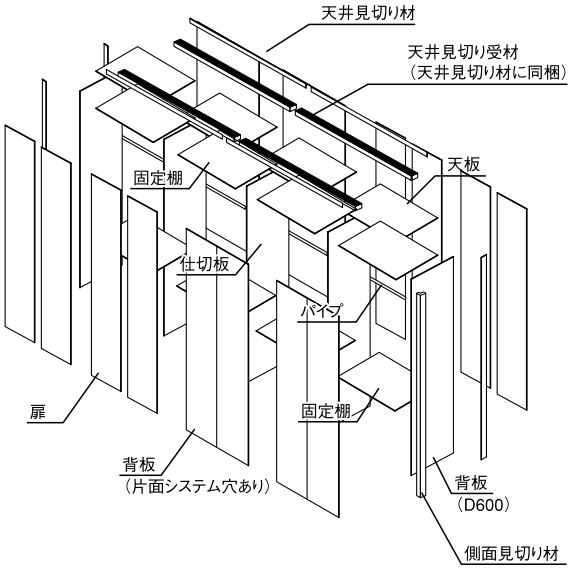
間仕切り家具

全体図

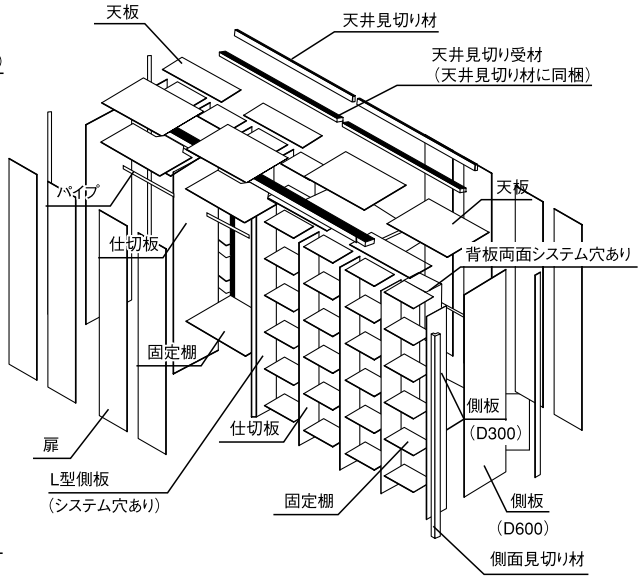


組み立て手順
1.BOXを組み立てます。
2.側面見切り材を取り付けます。
3.天井見切り（受材・天井見切り）を取り付けます。

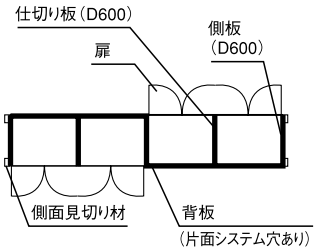
片面使い



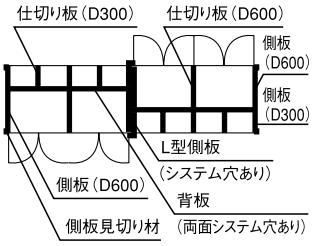
両面使い



平面図



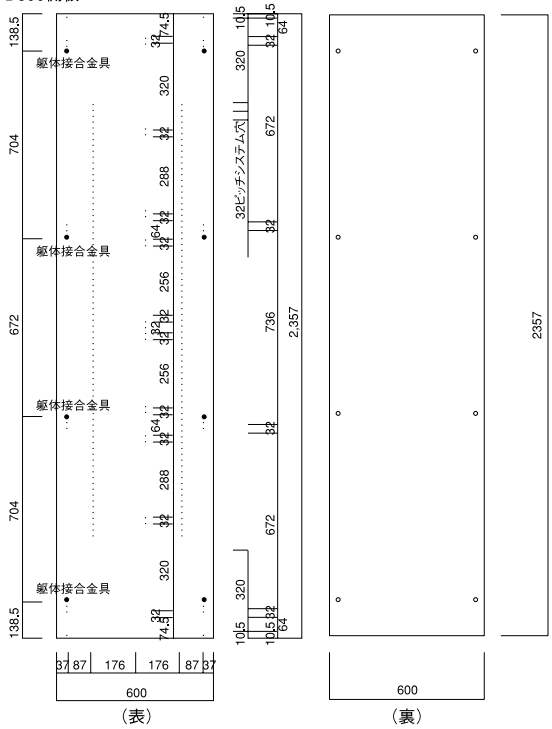
平面図



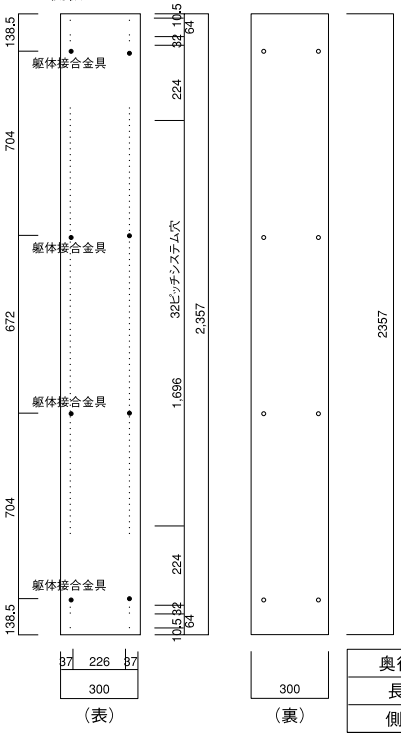
部材図

側板　厚み 21mm

D600側板



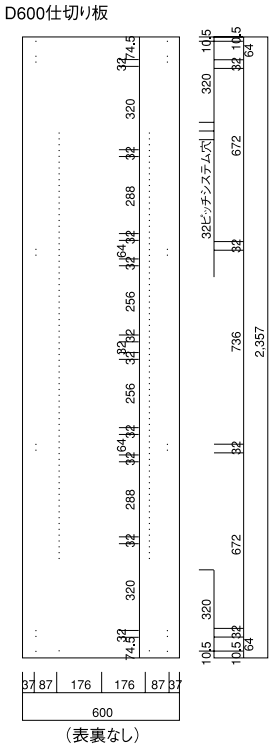
D300側板



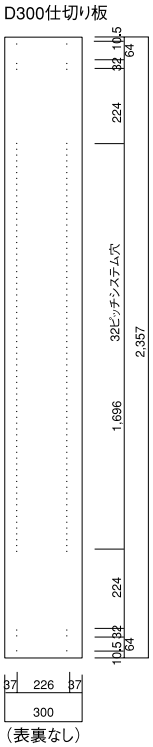
奥行き	300	600
長さ	2357	
側板	1枚	

仕切り板　厚み 21mm

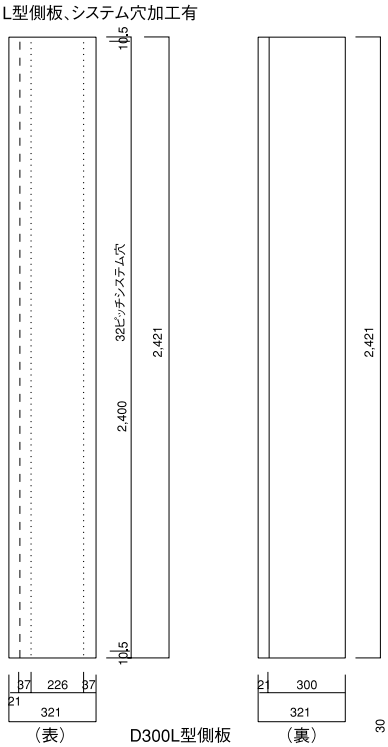
D600仕切り板

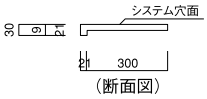


D300仕切り板



L型側板、システム穴加工有

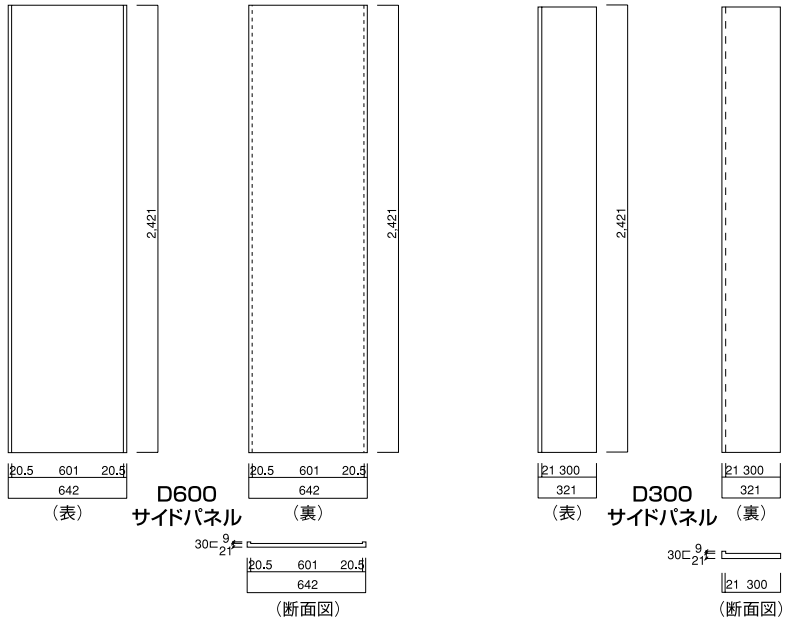




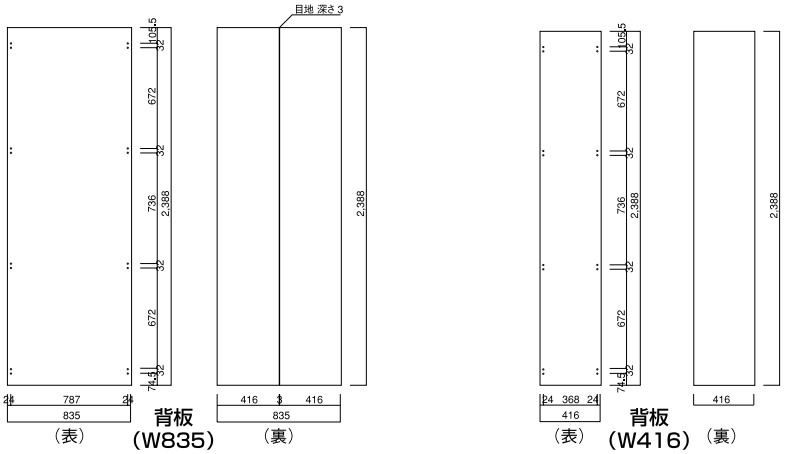
間仕切り家具

部材図

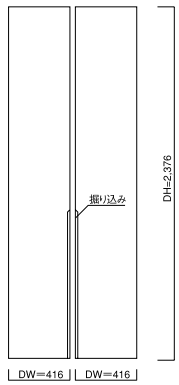
L型サイドパネル



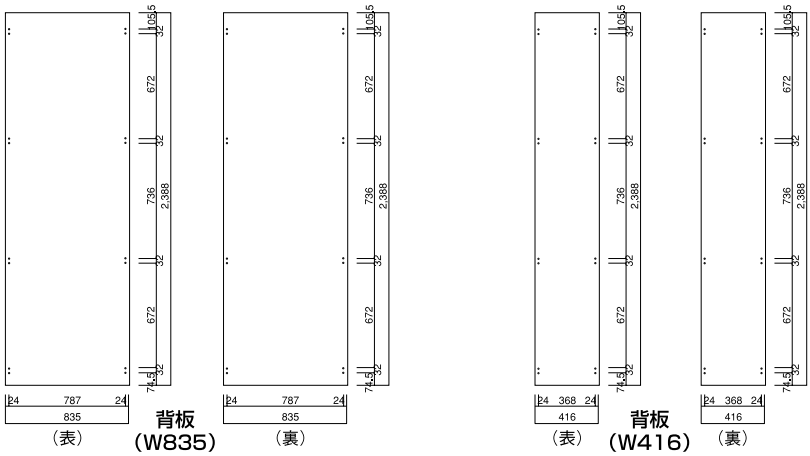
背板　片面システム穴有　厚み 21mm（上下があります）



扉　厚み 20mm

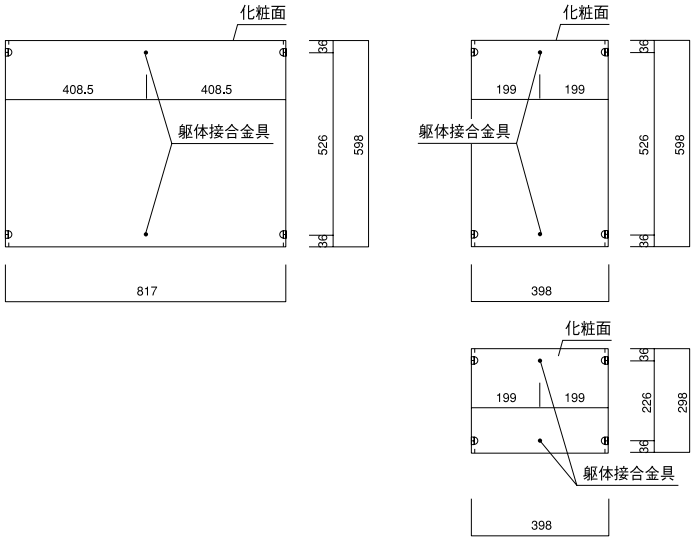


背板　両面システム穴有　厚み 21mm（上下があります）



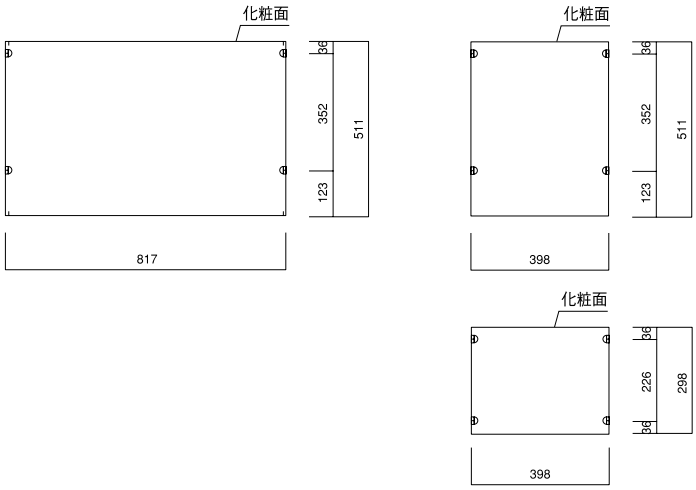
部材図

天板（厚み 21mm）



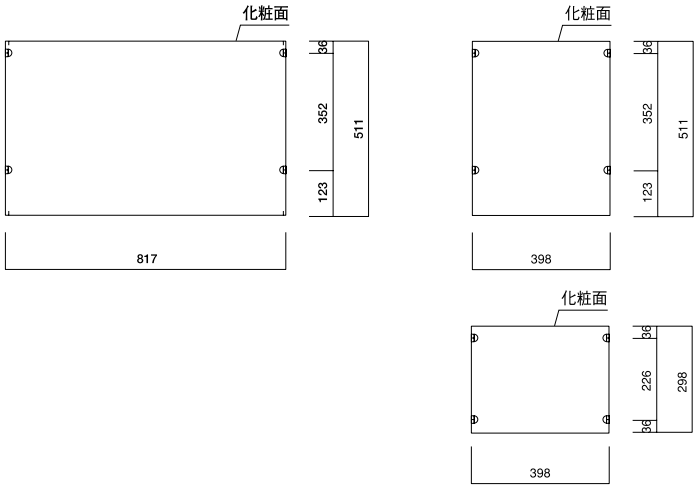
	奥行き	598		298
	長さ	817	398	398
	天板	1枚		1枚
	ラフィックスボルト	4個		4個
	躯体接合金具	2個		2個

固定棚（厚み 21mm）



	奥行き	511		298
	長さ	817	398	398
	固定棚	1枚		1枚
	ラフィックスボルト	4個		4個

可動棚（厚み 21mm）



※固定棚と可動棚の加工は同じです。
ピンのみが違います。

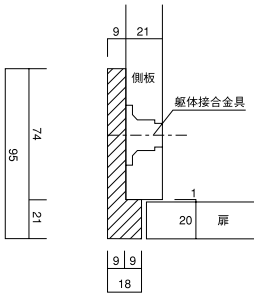
	奥行き	511		298
	長さ	817	398	398
	可動棚	1枚		1枚
	ダボ	4個		4個

間仕切り家具

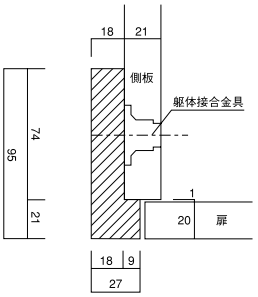
部材図

側面見切り材（長さ＝2,421）

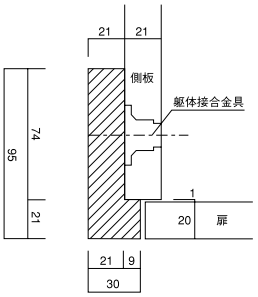
壁とのクリアランス10～17mm用



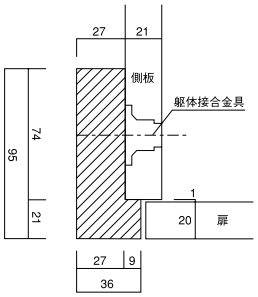
壁とのクリアランス19～26mm用



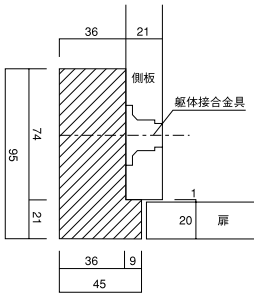
壁とのクリアランス22～29mm用



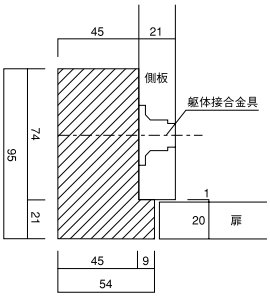
壁とのクリアランス28～35mm用



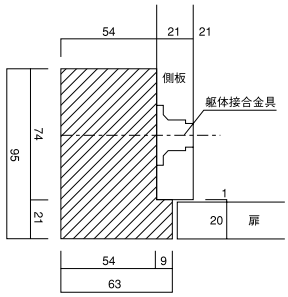
壁とのクリアランス37～44mm用



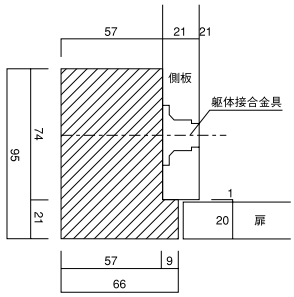
壁とのクリアランス46～53mm用



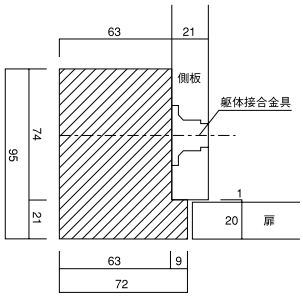
壁とのクリアランス55～62mm用



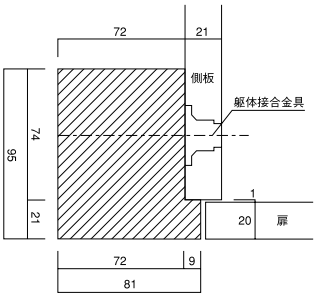
壁とのクリアランス58～65mm用



壁とのクリアランス64～71mm用

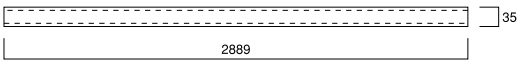


壁とのクリアランス73～80mm用

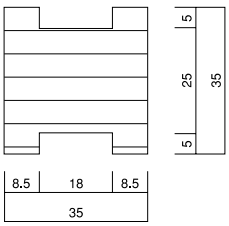


天井見切り材

天井見切り受け材（基材LVL）

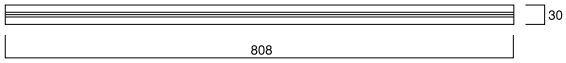


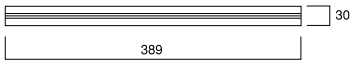
天井見切り受材　断面図



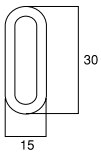
天井見切り断面図

パイプハンガー



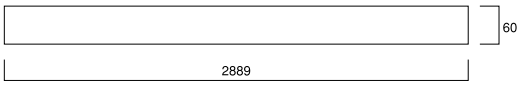


パイプハンガー 断面図



ブラケット

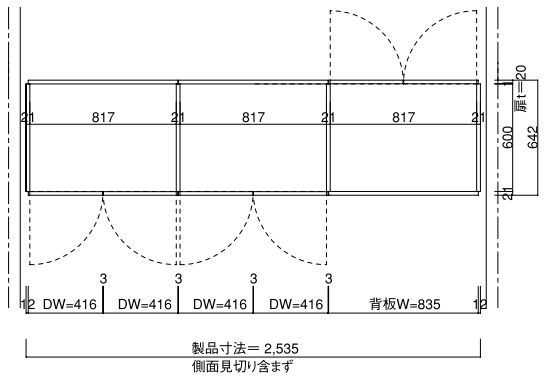
天井見切り

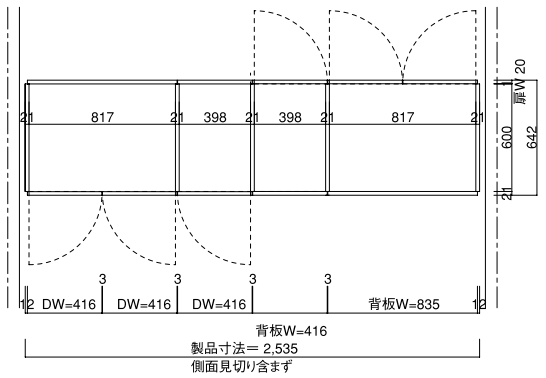


納まり図

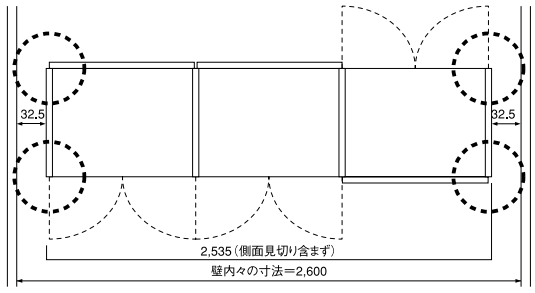
間仕切りプラン
9尺片面使い

【平面図】



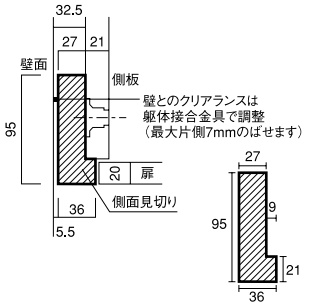


105柱+プラスターボード12.5mmの場合

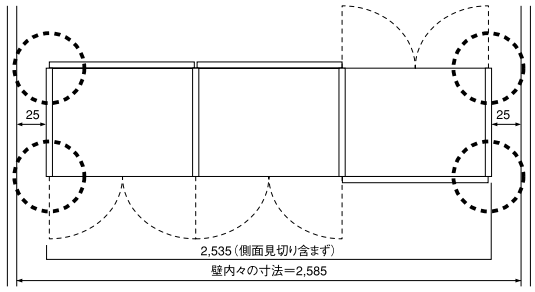


部分

側面見切り詳細図

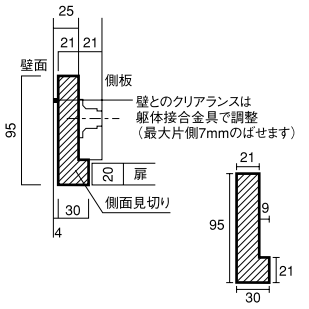


120柱+プラスターボード12.5mmの場合

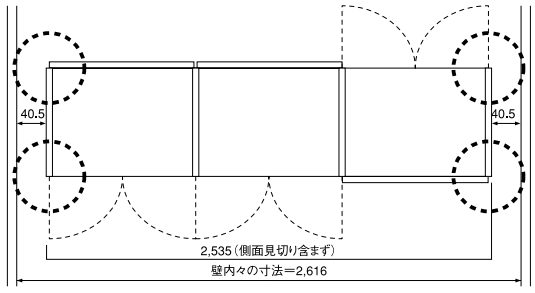


部分

側面見切り詳細図

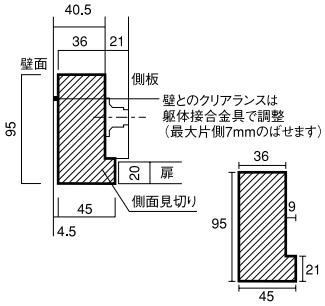


2×4+プラスターボード12.5mmの場合



部分

側面見切り詳細図

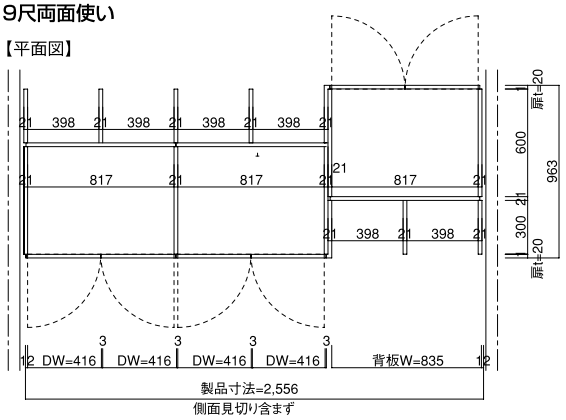


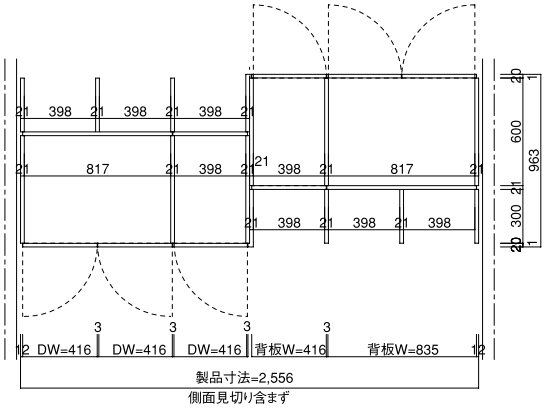
間仕切り家具

納まり図

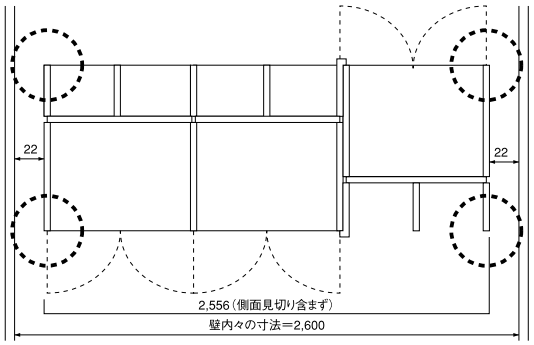
間仕切りプラン
9尺両面使い

【平面図】



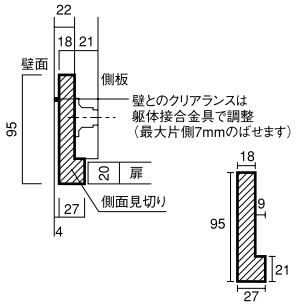


105柱+プラスターボード12.5mmの場合

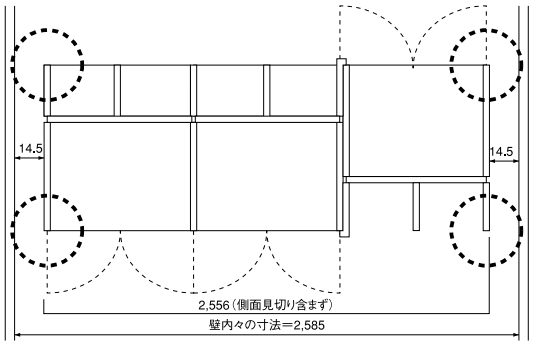


部分

側面見切り詳細図

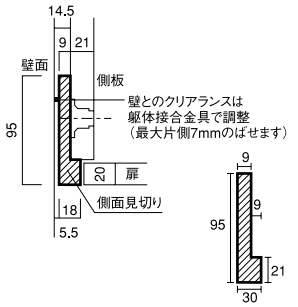


120柱+プラスターボード12.5mmの場合

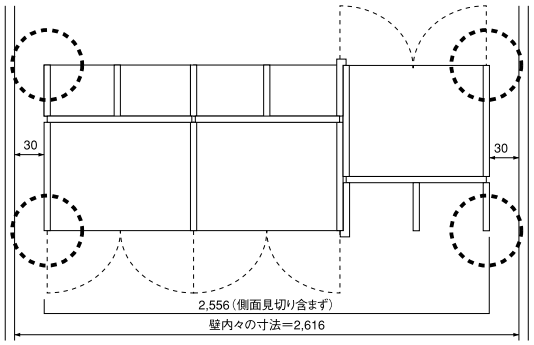


部分

側面見切り詳細図

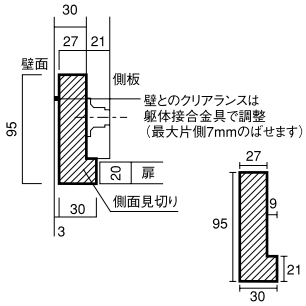


2×4+プラスターボード12.5mmの場合



部分

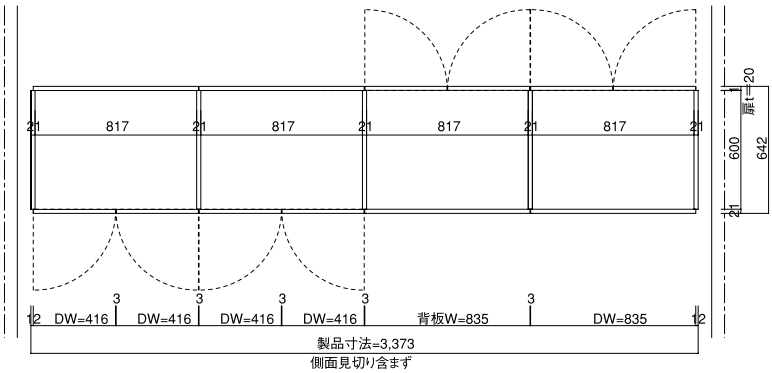
側面見切り詳細図



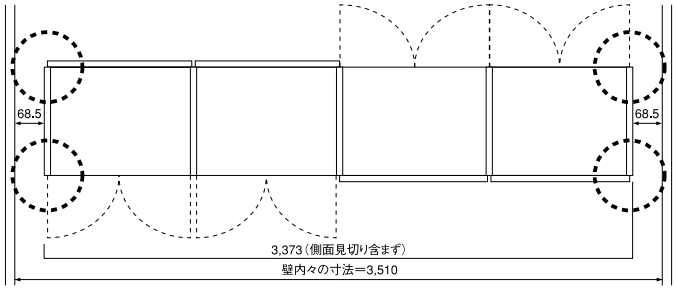
納まり図

間仕切りプラン
12尺片面使い

【平面図】

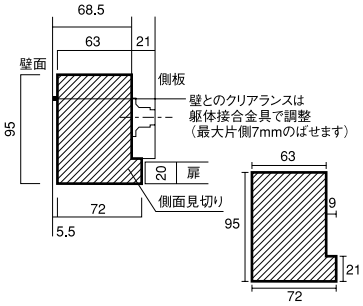


105柱+プラスターボード12.5mmの場合

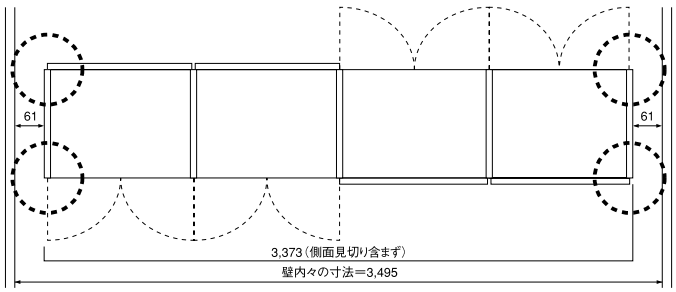


部分

側面見切り詳細図

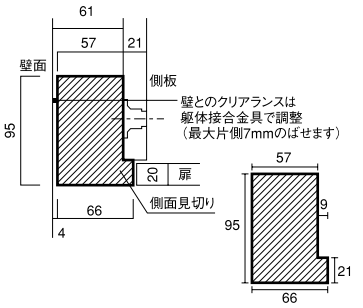


120柱+プラスターボード12.5mmの場合

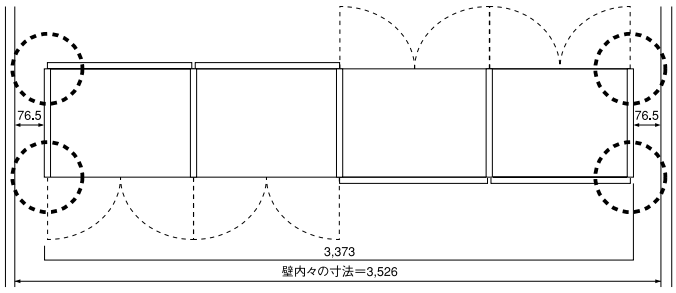


部分

側面見切り詳細図

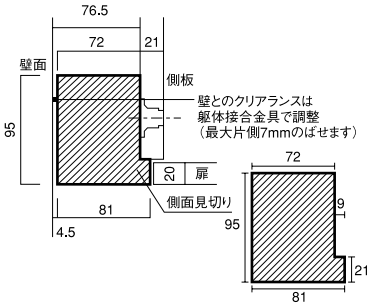


2×4+プラスターボード12.5mmの場合



部分

側面見切り詳細図

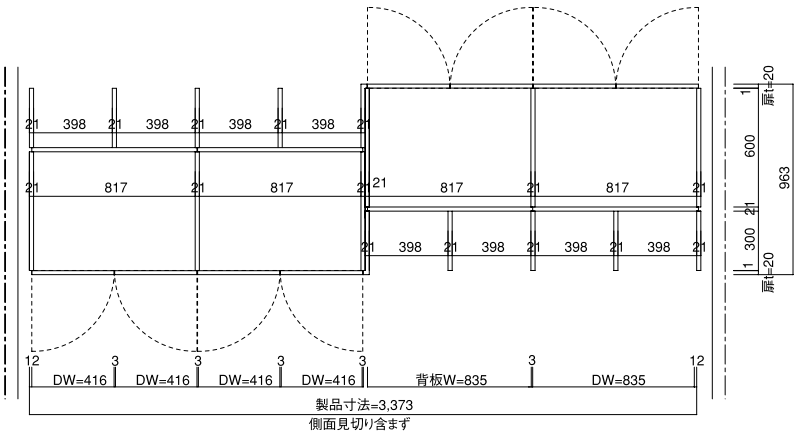


間仕切り家具

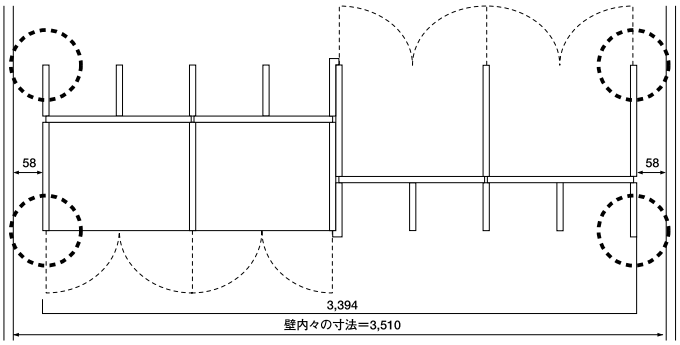
納まり図

間仕切りプラン
12尺両面使い

【平面図】

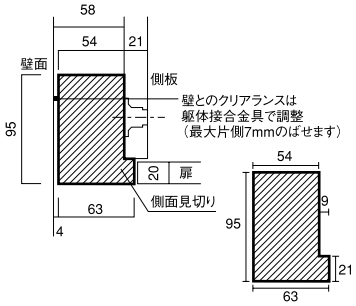


105柱+プラスターボード12.5mmの場合

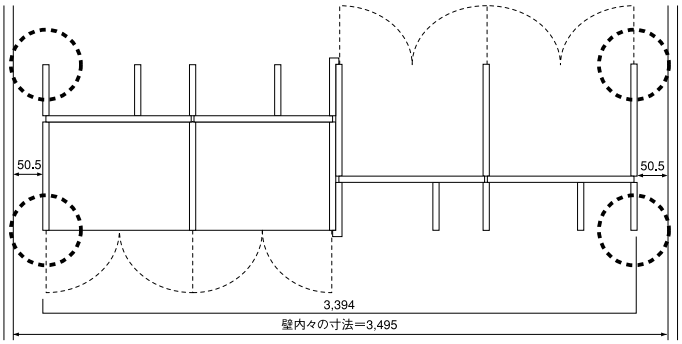


部分

側面見切り詳細図

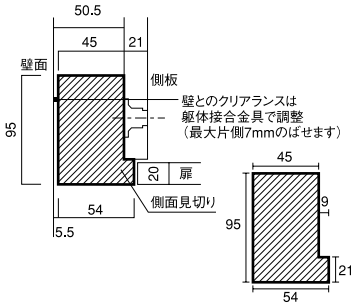


120柱+プラスターボード12.5mmの場合

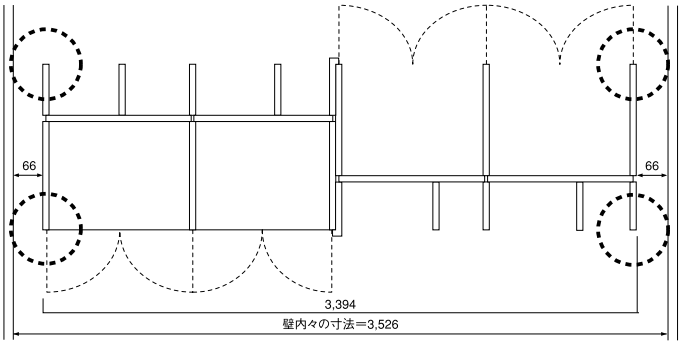


部分

側面見切り詳細図

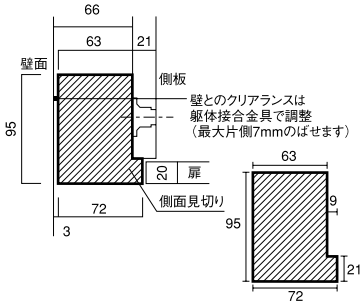


2×4+プラスターボード12.5mmの場合



部分

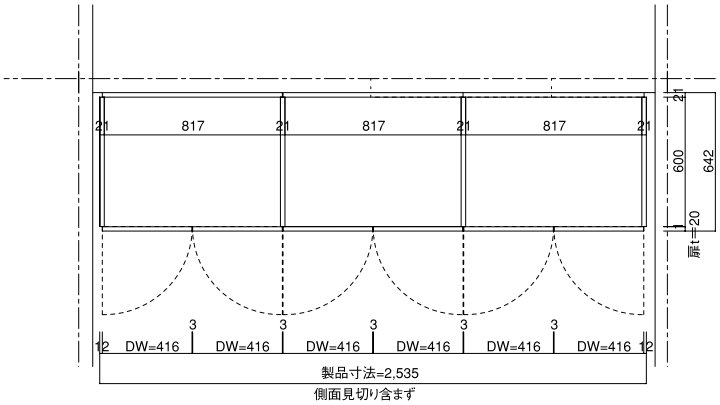
側面見切り詳細図



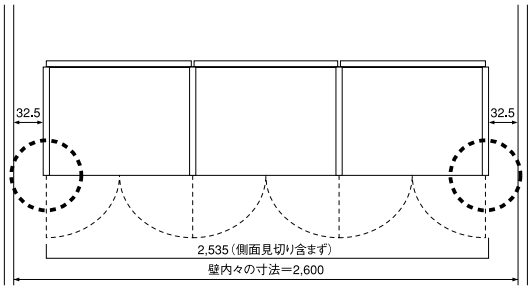
納まり図

壁面収納プラン
9尺

【平面図】

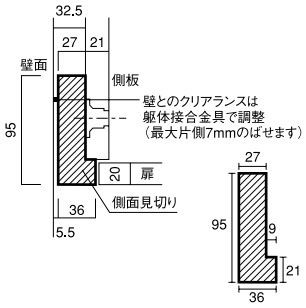


105柱+プラスターボード12.5mmの場合

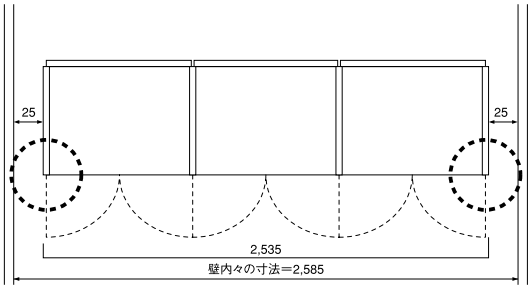


部分

側面見切り詳細図

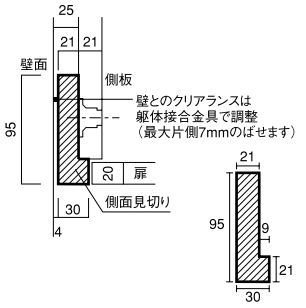


120柱+プラスターボード12.5mmの場合

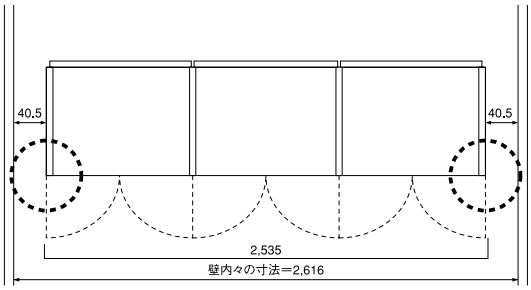


部分

側面見切り詳細図

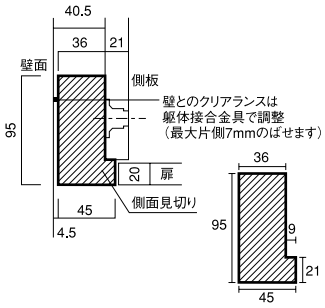


2×4+プラスターボード12.5mmの場合



部分

側面見切り詳細図

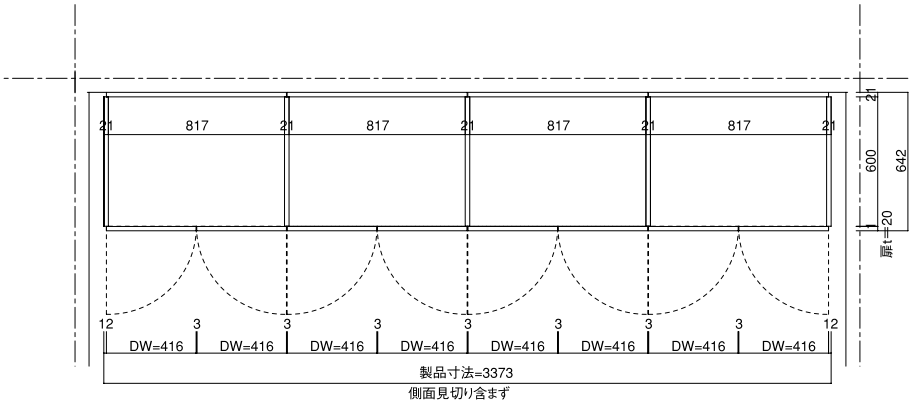


間仕切り家具

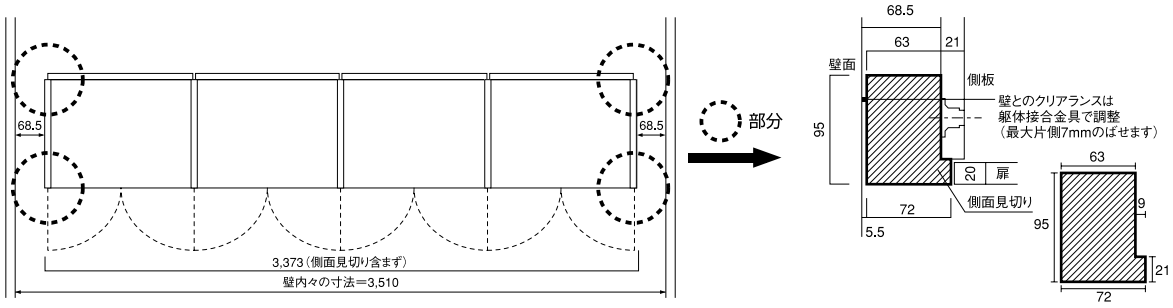
納まり図

壁面収納プラン
12尺

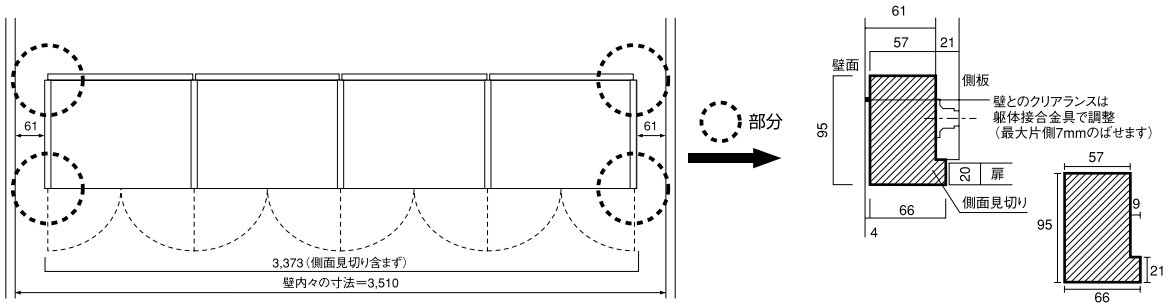
【平面図】



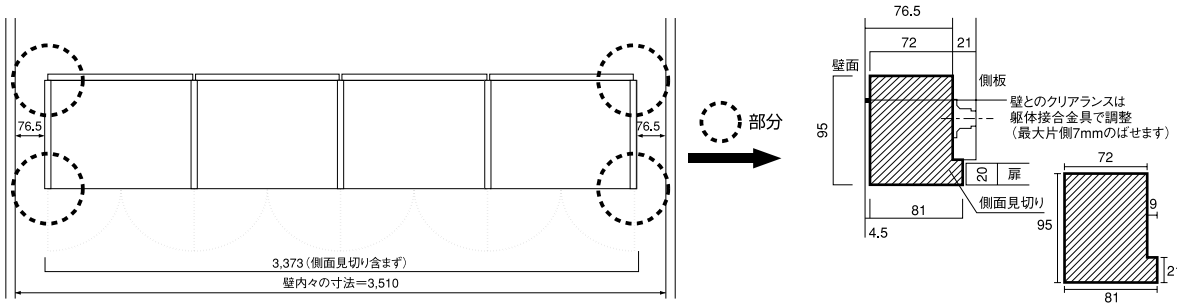
105柱+プラスターボード12.5mmの場合



120柱+プラスターボード12.5mmの場合



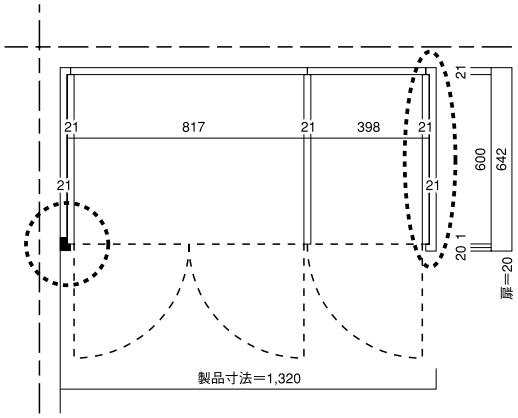
2×4+プラスターボード12.5mmの場合



納まり図

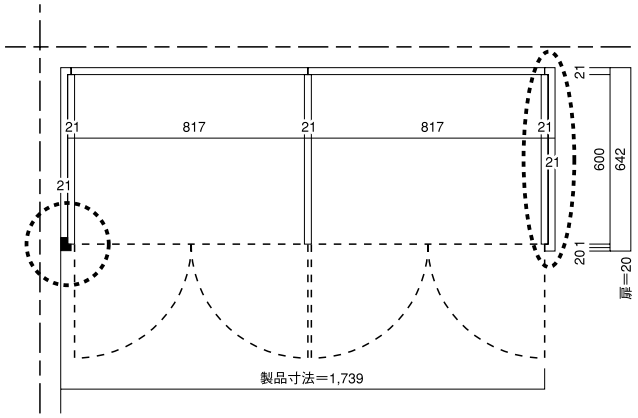
片側壁なしプラン 4.5尺

【平面図】

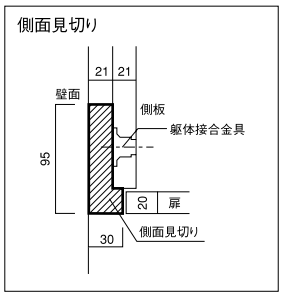


片側壁なしプラン 6尺

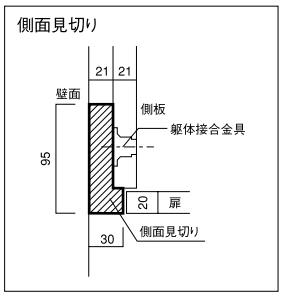
【平面図】

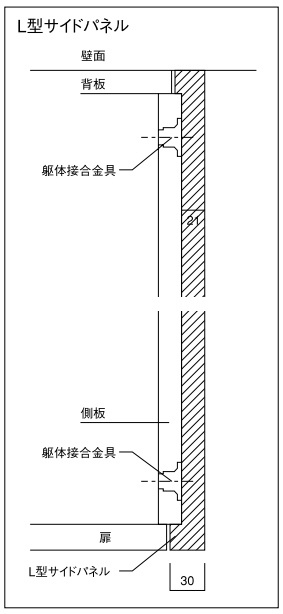


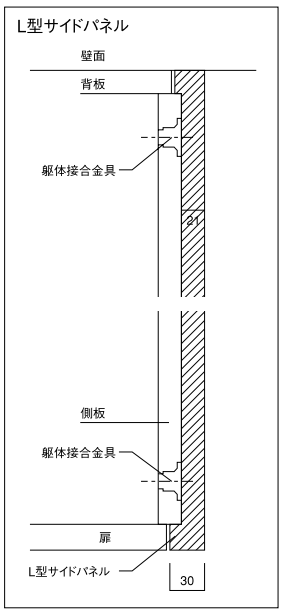
【側面見切り・L型サイドパネル拡大図】



【側面見切り・L型サイドパネル拡大図】

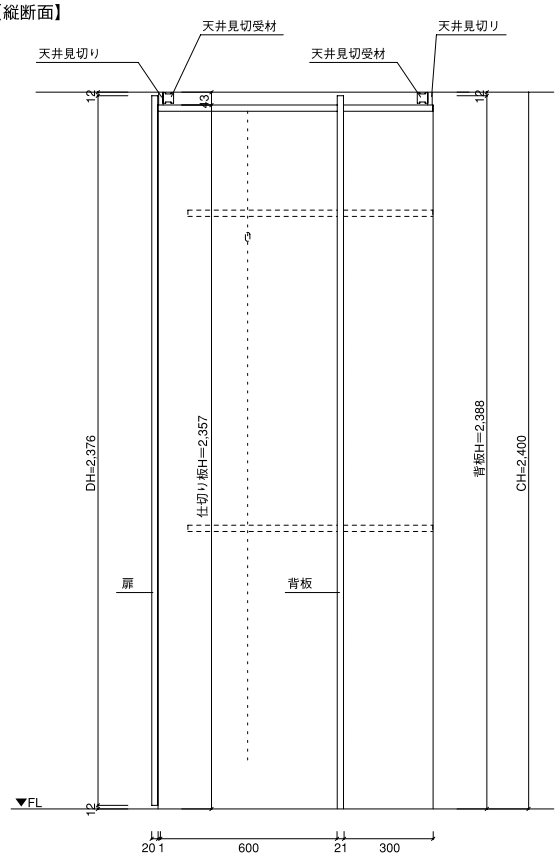




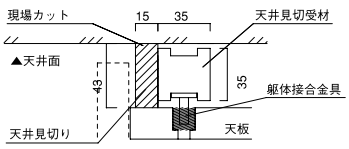


共通部分

【縦断面】

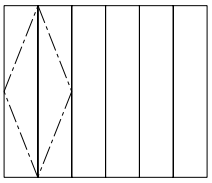
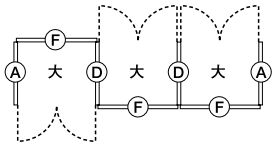
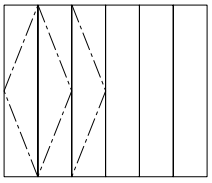
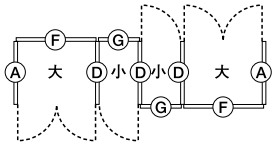
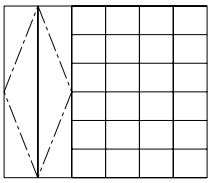
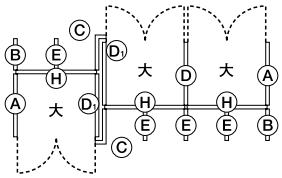
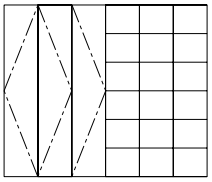
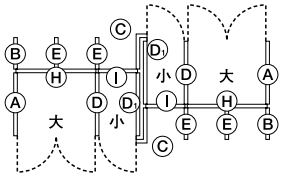
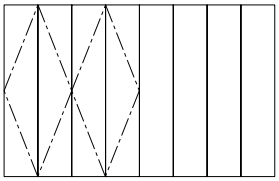
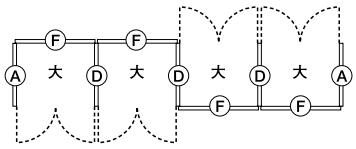
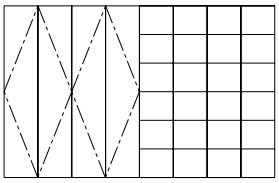
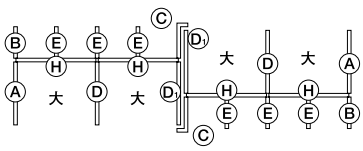
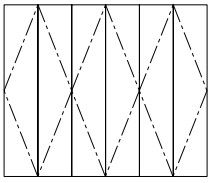
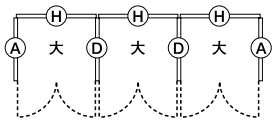
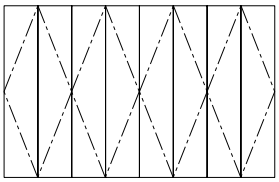
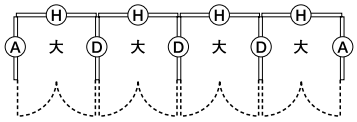


【天井見切り拡大図】

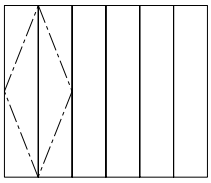
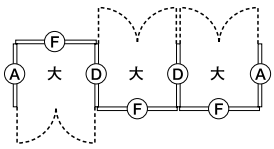
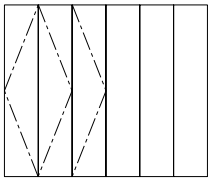
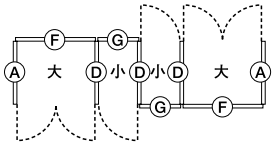
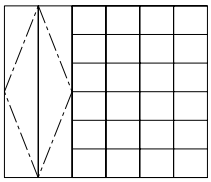
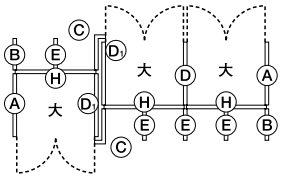
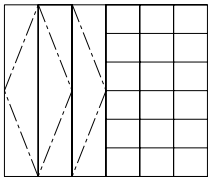
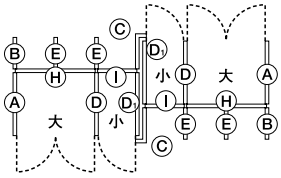
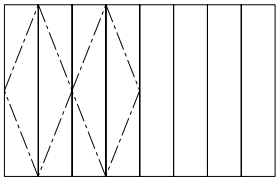
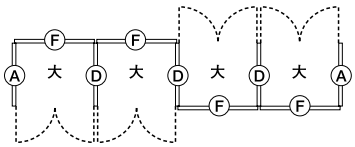
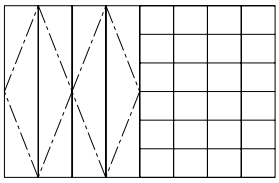
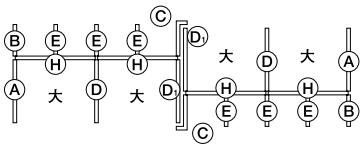
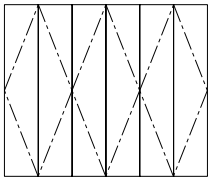
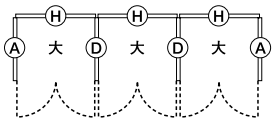
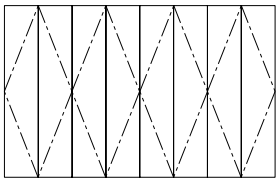
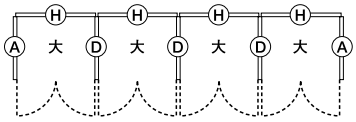


間仕切り家具

金物の取り付け

間仕切りプラン	9尺	片面			Ⓐ×2枚 Ⓓ×2枚 Ⓕ×3枚
					Ⓐ×2枚 Ⓓ×3枚 Ⓕ×2枚 Ⓖ×2枚
		両面			Ⓐ×2枚　Ⓓ1×2枚 Ⓑ×2枚　Ⓔ×4枚 Ⓒ×2枚　Ⓗ×3枚 Ⓓ×1枚
					Ⓐ×2枚　Ⓓ1×2枚 Ⓑ×2枚　Ⓔ×4枚 Ⓒ×2枚　Ⓗ×2枚 Ⓓ×2枚　Ⓘ×2枚
	12尺	片面			Ⓐ×2枚 Ⓓ×3枚 Ⓕ×4枚
		両面			Ⓐ×2枚　Ⓓ1×2枚 Ⓑ×2枚　Ⓔ×6枚 Ⓒ×2枚　Ⓗ×4枚 Ⓓ×2枚
壁面収納プラン	9尺				Ⓐ×2枚 Ⓓ×2枚 Ⓗ×3枚 ※背板は両面使い用ですが、片側のみ金具を取り付けます。
	12尺				Ⓐ×2枚 Ⓓ×3枚 Ⓗ×4枚 ※背板は両面使い用ですが、片側のみ金具を取り付けます。

金物の取り付け

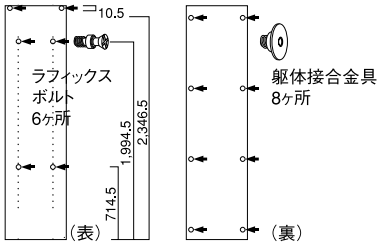
間仕切りプラン	9尺	片面			Ⓐ×2枚 Ⓓ×2枚 Ⓕ×3枚
					Ⓐ×2枚 Ⓓ×3枚 Ⓕ×2枚 Ⓖ×2枚
		両面			Ⓐ×2枚　Ⓓ1×2枚 Ⓑ×2枚　Ⓔ×4枚 Ⓒ×2枚　Ⓗ×3枚 Ⓓ×1枚
					Ⓐ×2枚　Ⓓ1×2枚 Ⓑ×2枚　Ⓔ×4枚 Ⓒ×2枚　Ⓗ×2枚 Ⓓ×2枚　Ⓘ×2枚
	12尺	片面			Ⓐ×2枚 Ⓓ×3枚 Ⓕ×4枚
		両面			Ⓐ×2枚　Ⓓ1×2枚 Ⓑ×2枚　Ⓔ×6枚 Ⓒ×2枚　Ⓗ×4枚 Ⓓ×2枚
壁面収納プラン	9尺				Ⓐ×2枚 Ⓓ×2枚 Ⓗ×3枚 ※背板は両面使い用ですが、片側のみ金具を取り付けます。
	12尺				Ⓐ×2枚 Ⓓ×3枚 Ⓗ×4枚 ※背板は両面使い用ですが、片側のみ金具を取り付けます。

間仕切り家具

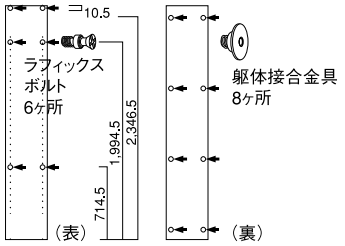
金物の取り付け

Ⅰ. 側板への金具取り付け

Ⓐ 側板D600



Ⓑ 側板D300

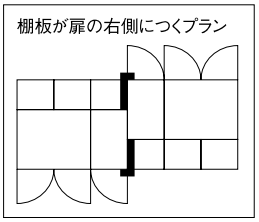


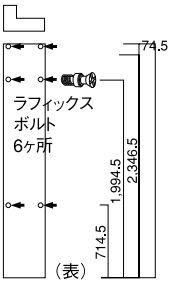
Ⅱ. L型側板への金具取り付け

両面使いの時
のみに使用します。

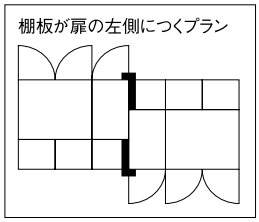
⚠ 注意
※棚板の取り付く位置に注意して、上下を決めてください。

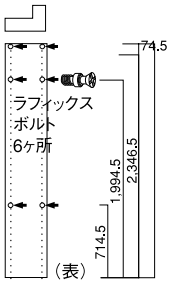
Ⓒ L型側板





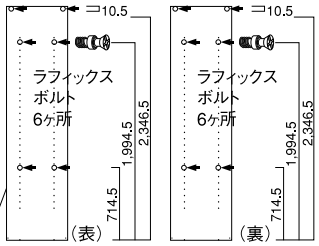
Ⓒ L型側板





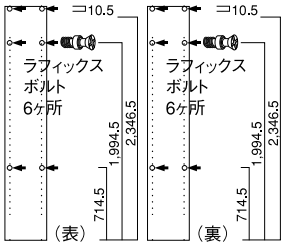
Ⅲ. 仕切り板への金具取り付け

Ⓓ 仕切り板D600



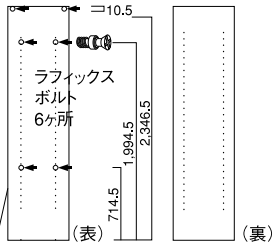
ボルトを
両面に
取り付けて
ください。

Ⓔ 仕切り板D300



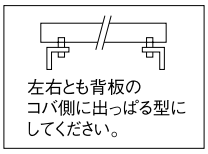
ボルトを
どちらか
片面のみに
取り付けて
ください。

Ⓓ1 仕切り板D600

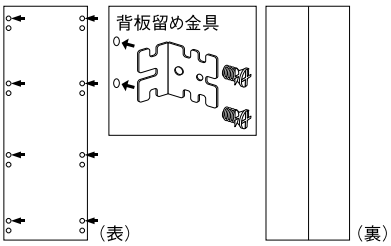


Ⅳ. 背板への金具取り付け

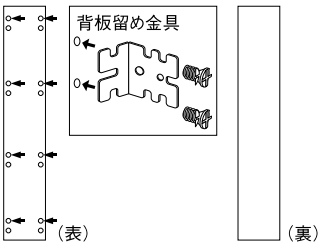
・片面利用の場合
背板留め金具8ヶ所取り付け



Ⓕ 背板（W835片）

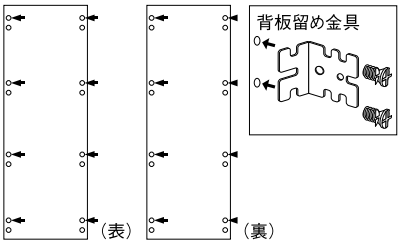


Ⓖ 背板（W416片）

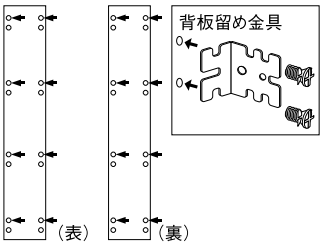


・両面利用の場合
背板留め金具16ヶ所取り付け

Ⓗ 背板（W835両）



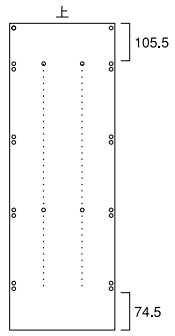
Ⓘ 背板（W416両）



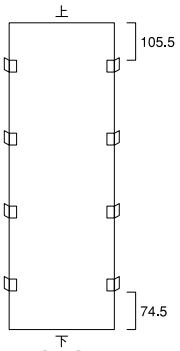
※壁面収納の場合は
片側のみ取り付け
してください

BOXの組み立て

側板、背板の上下を
確認してください。

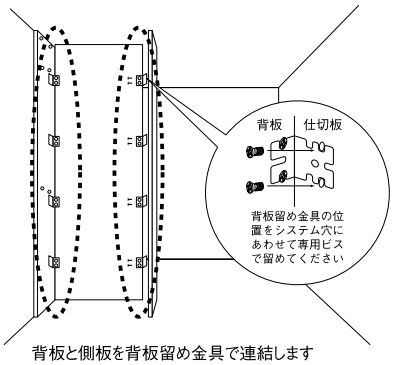


【側板】



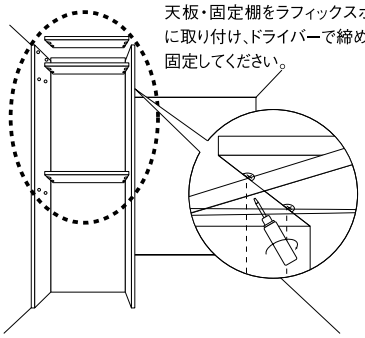
【背板】

1 背板と仕切板の接合



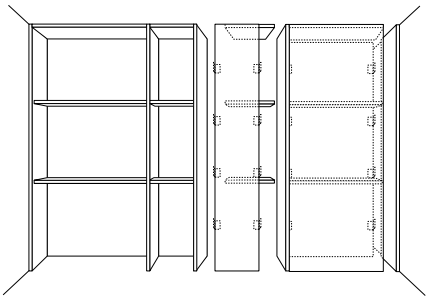
背板と側板を背板留め金具で連結します
（縦に4ヶ所）

2 天板・固定棚の取り付け

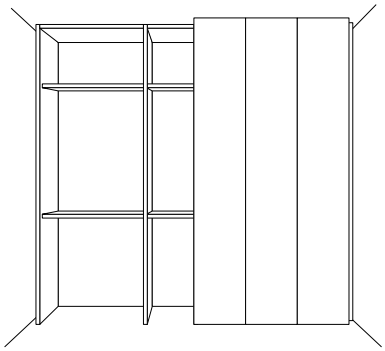


注）電動ドライバーでのビスの締め付けは、
締めすぎる可能性があるのでご遠慮ください

3 1 2を繰り返しうら面側も、施工します



4 取り付け位置に配置します。



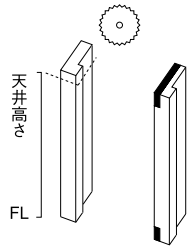
墨だし位置のセンターに設置します

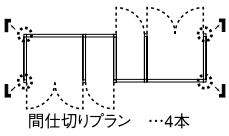
側面 見切材の取り付け

BOXを組みたてた後に、見切材を取り付けます。

1

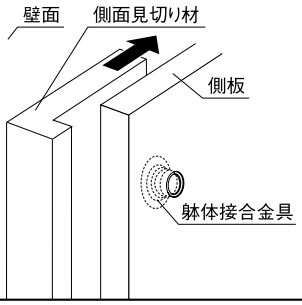
側面見切材を天井高にあわせてカットしてください
向きを間違えないようにしてください





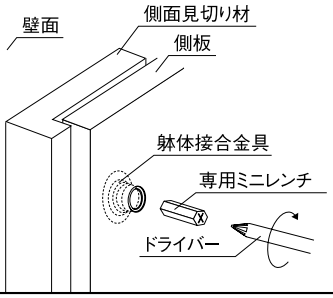
巾木、廻り縁が取り付いている場合、
側面見切材をカット、巾木、または廻り縁をカットしてください。

2



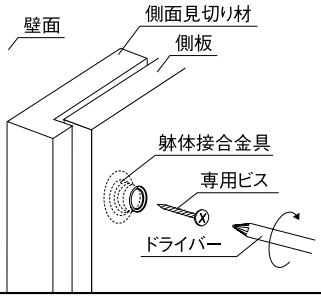
側面見切り材を側板と
壁面の間にさしこみます

3



側面についている躯体接合金具を使用して側面見切り材を壁に突っ張り調整します（4ヶ所）
注）側板と側面見切り材の間にすき間があかないように注意してください

4

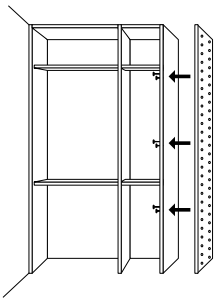


躯体接合金具から、付属のビスにて側面見切り材をビスで固定します

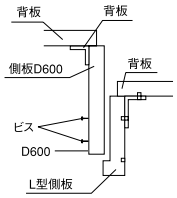
間仕切り家具

L型側板の取り付け

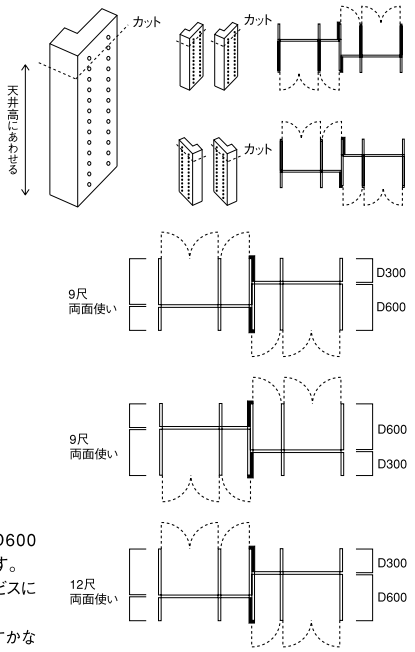
1 間仕切りプラン、両面使いの場合 L型側板を取り付けます。



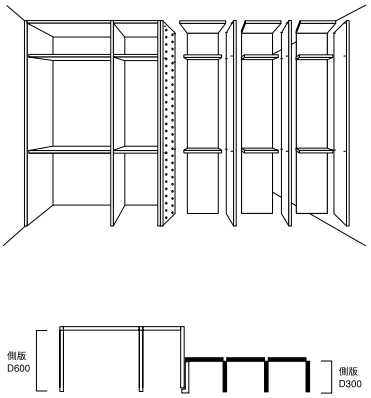
天井高さにあわせL型側板の上部をカットしてください
注）プランによって上下が異なります
※両面使いの場合



両面使いの場合側板D600にL型側板を取り付けます。
側板D600の内側から、ビスにて取り付けてください
注）側板とL型側板がすかないように注意してください

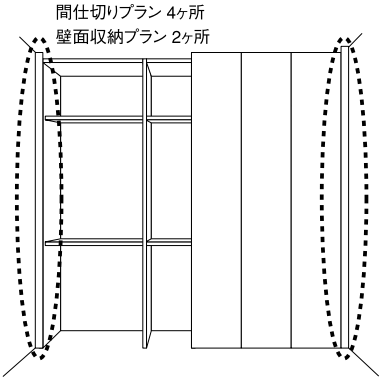


2 L型側板を取り付けた後、側板D300側を施工します。

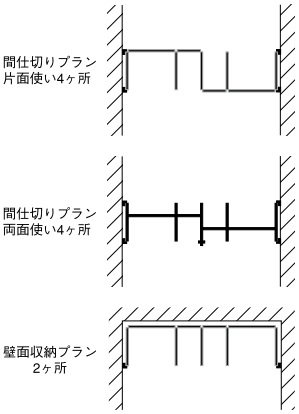


側面見切りの取り付け

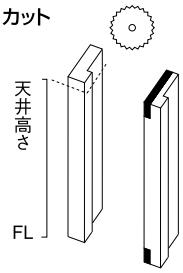
1 側面見切り材を天井高に合わせカットして取り付けます



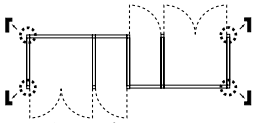
躯体接合金具にて建て付けを調整し、壁面に突っ張り、固定します



2 カット



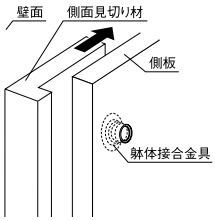
側面見切材を天井高にあわせてカットしてください
向きを間違えないようにしてください



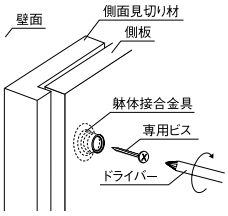
間仕切りプラン …4本

巾木、廻り縁が取り付いている場合、側面見切材をカット、巾木、または廻り縁をカットしてください。

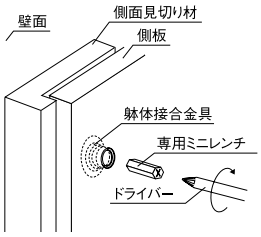
3 取り付け・調整



側面見切り材を側板と壁面の間にさしこみます



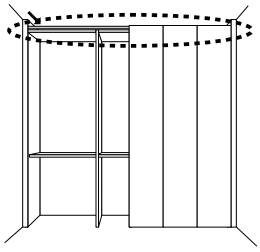
躯体接合金具から、付属のビスにて側面見切り材をビスで固定します



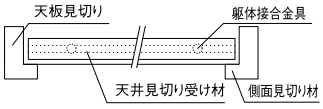
側面についている躯体接合金具を使用して側面見切り材を壁に突っ張り調整します（4ケ所）
注）側板と側面見切り材の間にすき間があかないように注意してください

天井見切り・天井見切り受材の取り付け

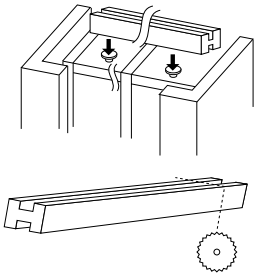
1 天井見切り受材の取りつけ



天井見切り下地は躯体接合金具にはめこみます
天板の躯体接合金具で天井見切り下地を天井見切りを止めやすい位置まで持ち上げます



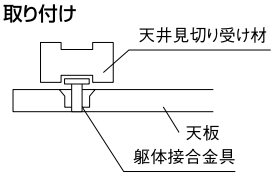
2 カット



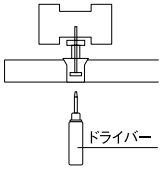
間仕切りプラン　表裏2ヶ所
壁面収納プラン　表1ヶ所

商品の外の寸法に合わせてラフカットしてください
受け材なのでラフで構いません
取り付けにくい場合は
2本に分割してください

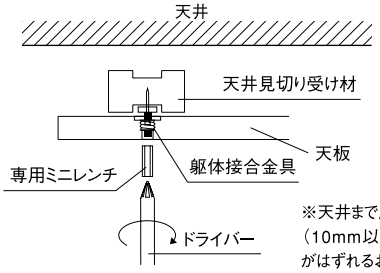
3 取り付け



カットした天井見切り受材の溝を天板の躯体接合金具にはめこみます
注）躯体接合金具を数mm出しておくと溝にはめこみやすくなります



躯体接合金具から、付属のビスにて天井見切り受け材を止めます

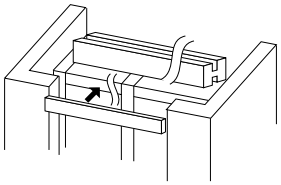


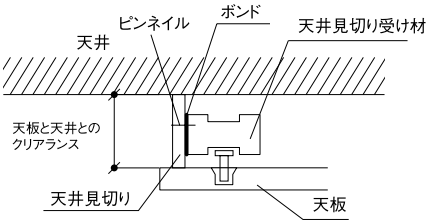
天板の躯体接合金具にて天井見切り受け材を動かし、天井見切りを止めやすい位置に移動します

※天井まで届かなくても施工できます。
（10mm以上廻すと、躯体接合金具がはずれるおそれがあります。）

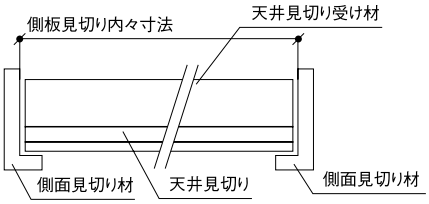
4 天井見切りを取り付け。

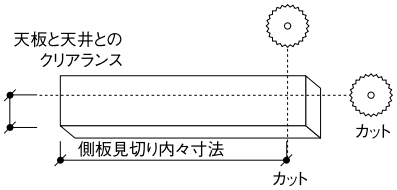
天井見切りをボンドもしくはピンネイルにて取り付けます。





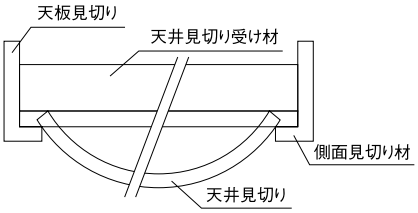
5 カット





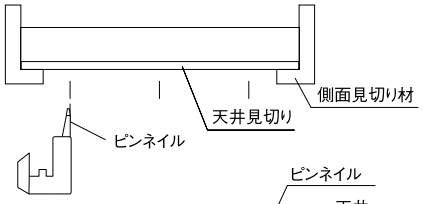
天井見切りの長さを、側板見切り材の内々寸法、高さを天井と天井とのクリアランスの高さにカットします

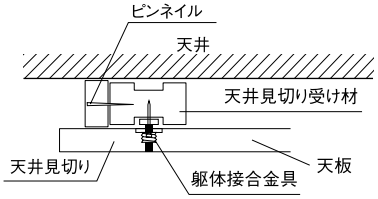
6 取り付け



天井見切りを、側板見切り材の内側へしならせて入れます
天井見切りを天井見切り受け材へ、ボンドもしくはピンネイルにて固定します

7 固定

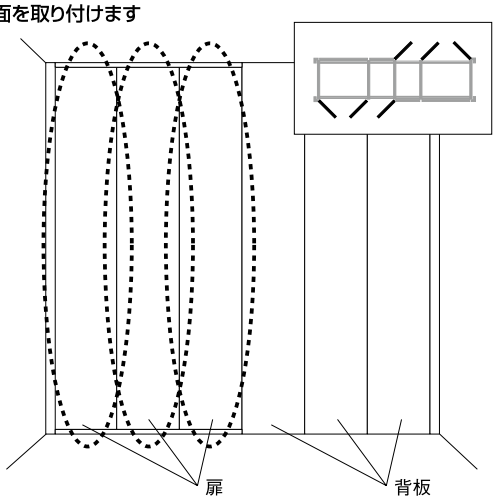


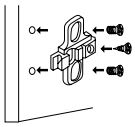


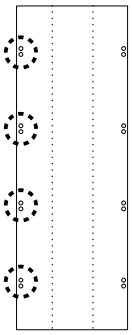
間仕切り家具

扉の取り付け

1 座面を取り付けます





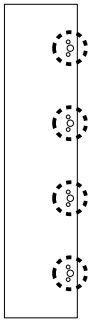


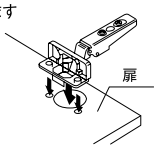
側板、仕切り板のシステム穴を利用し、座面を取り付けます
（扉1枚につき4ヶ所）

側板・仕切り板

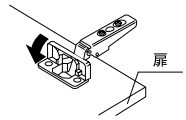
2 スライドヒンジを取り付けます

扉1枚につき4ヶ所スライドヒンジを取り付けます



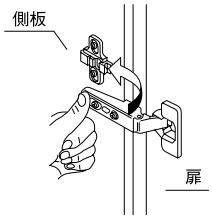


ヒンジを扉の下穴に押し込みます



指でヒンジカップについている
レバーを倒します

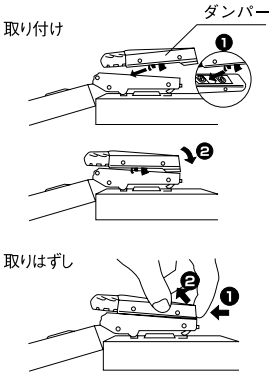
3 扉を取り付けます

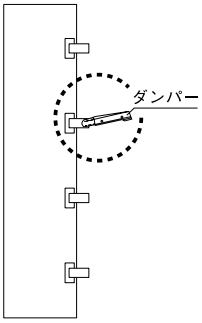


扉をキャビネットに取り付けるには
ヒンジアームの前部を先に合わせ、
座金に軽く指で押すだけです

4 ダンパーを取り付けます

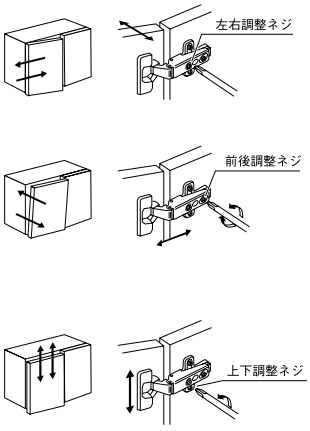
扉1枚に1ヶ所スライドヒンジにダンパーを取り付けます





ダンパー取り付け位置
上から2番目のスライドヒンジに取り付けて
ください

扉の調整方法

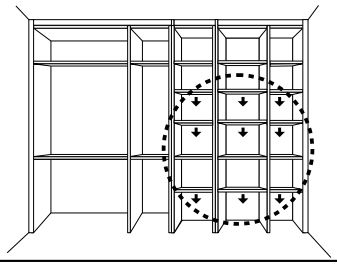


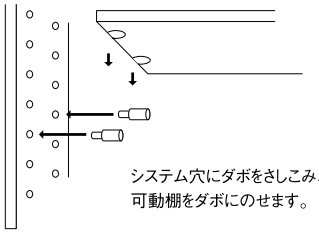
扉の左右調整
左右調整ネジを回して左右調整
をしてください
アジャスト量　扉の内方向4mm

扉の前後調整
前後調整ネジを回して前後調整を
してください。
アジャスト量
扉の前方向2mm
扉の後方向2mm（合計4mm）

扉の上下調整
上下調整ネジを回して上下調整を
してください。
アジャスト量
扉の上方向2.5mm
扉の下方向2.5mm（合計5mm）

可動棚の取り付け





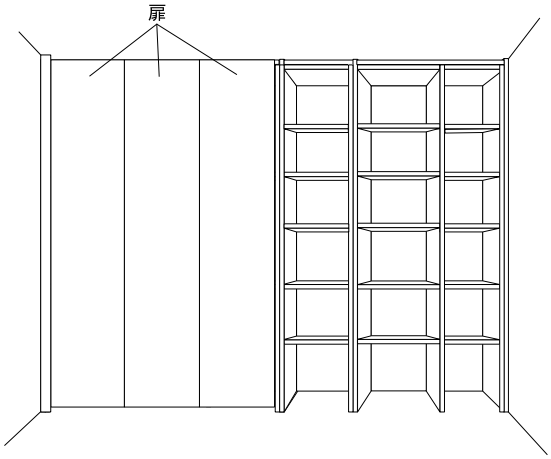
システム穴にダボをさしこみ、
可動棚をダボにのせます。

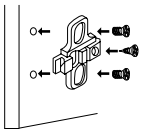
パイプの取り付け

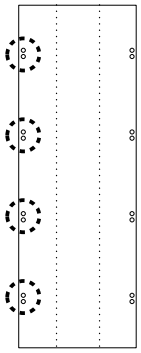
最後にパイプを取り付けてください。

両面使いの場合

1 座面を取り付けます



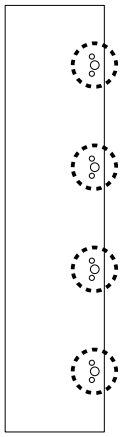


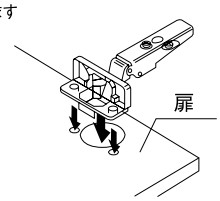


側板、仕切り板のシステム穴を利用し、座面を取り付けます
（扉1枚につき4ヶ所）

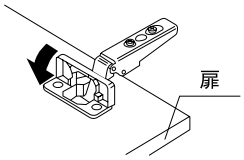
2 スライドヒンジを取り付けます

扉1枚につき4ヶ所スライドヒンジを取り付けます



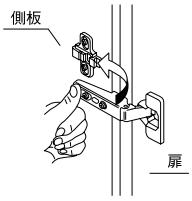


ヒンジを扉の下穴に押し込みます



指でヒンジカップについているレバーを倒します

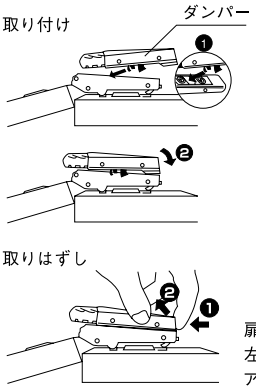
扉を取り付けます

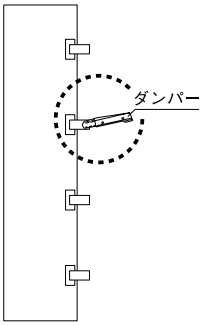


扉をキャビネットに取り付けるにはヒンジアームの前部を先に合わせ、座金に軽く指で押すだけです

3 ダンパーを取り付けます

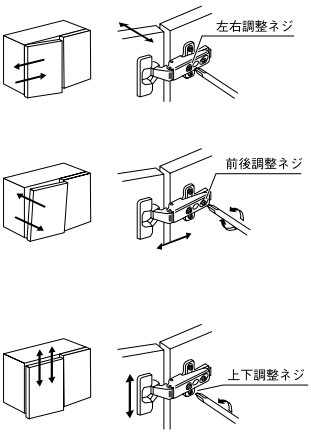
扉1枚に1ヶ所スライドヒンジにダンパーを取り付けます





扉の左右調整
左右調整ネジを回して左右調整をしてください
アジャスト量　扉の内方向4mm

扉の調整方法



扉の左右位置を調整
左右調整ネジを回して左右調整をしてください
【アジャスト量：扉の内方向4mm】

扉の前後位置を調整
前後調整ネジを回して前後調整をしてください
【アジャスト量：
扉の前方向2mm、
扉の後方向2mm（合計4mm）】

扉の上下位置を調整
上下調整ネジを回して上下調整をしてください
【アジャスト量：
扉の上方向2.5mm、
扉の下方向2.5mm（合計5mm）】

施工終了後

●養生の方法

施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボールやベニヤまたは養生カバー等で隙間無く養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

●お手入れのしかた

当製品が汚れている場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・アルコール・シンナーなどの溶剤を使用すると変色・変質しますので、絶対に使用しないでください。

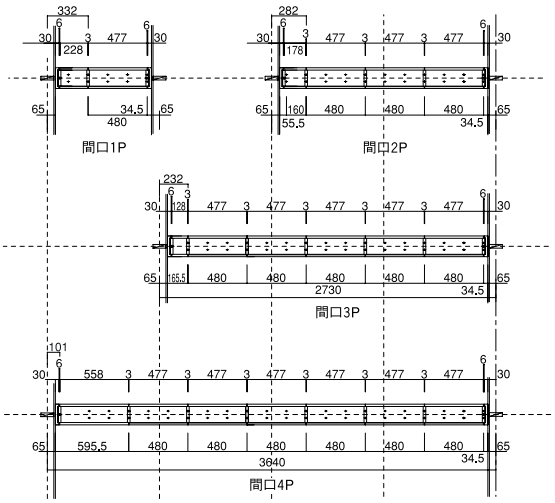
●使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

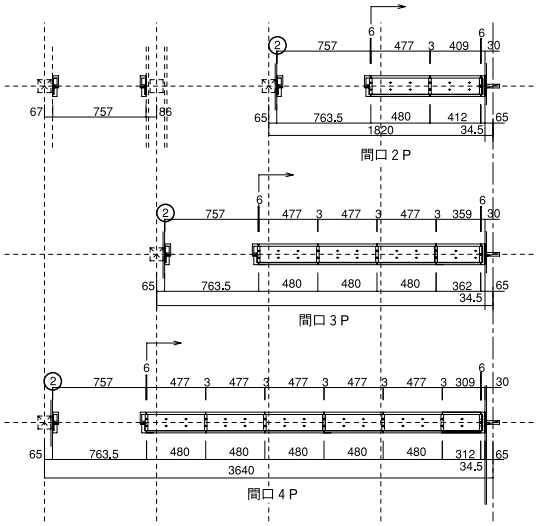
間仕切り壁収納

プラン図

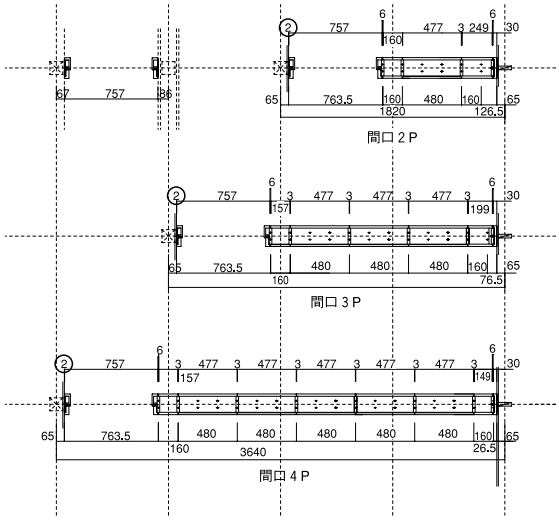
間仕切り壁システム　仕切りタイプ壁



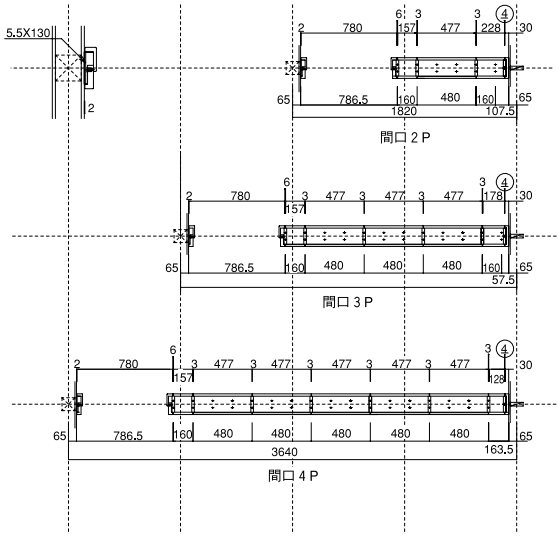
間仕切り壁システム　躯体図面　開口タイプ1　DW680



配線ユニット併設プラン
間仕切り壁システム　躯体図面　開口タイプ3　DW680



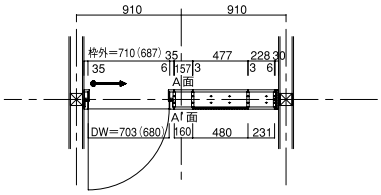
配線ユニット併設プラン
間仕切り壁システム　躯体図面　開口タイプ7-1　DW703



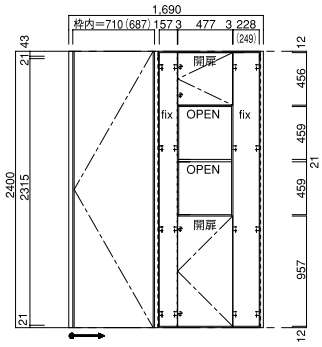
プラン図

間仕切り壁モデル6尺　ドア付き

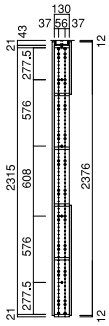
平面図　※　柱角…105㎜　ＰＢ…12.5㎜

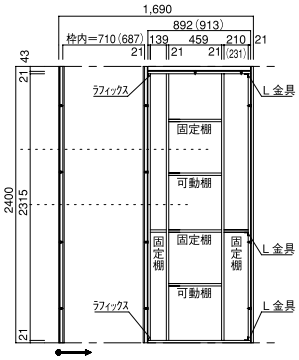


A面立面図

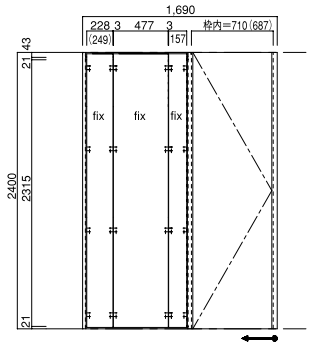


A面断面図



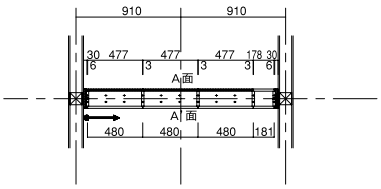


A'面立面図

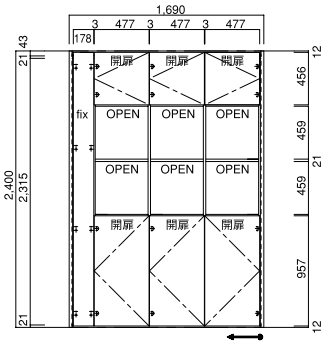


間仕切り壁モデル　6尺タイプ

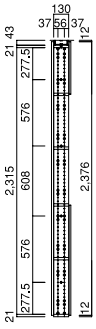
平面図　※　柱角…105㎜　ＰＢ…12.5㎜

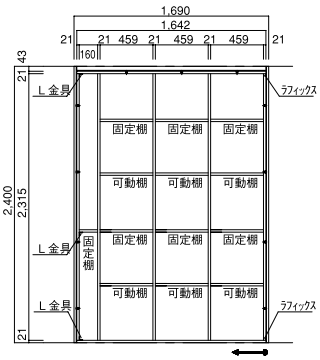


A面立面図

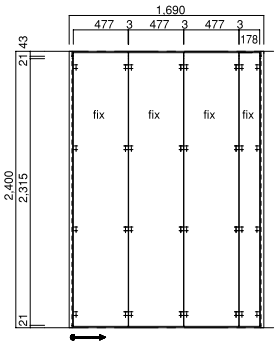


A面断面図





A'面立面図

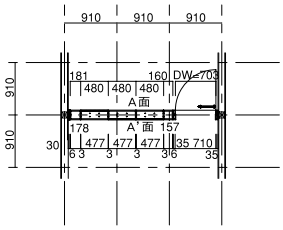


間仕切り壁収納

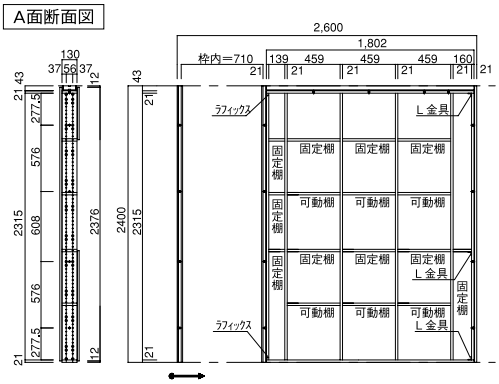
プラン図

間仕切り壁モデル9尺　ドア付き

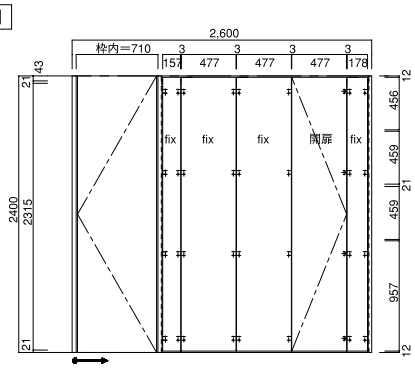
平面図　※　柱角…105㎜　ＰＢ…12.5㎜



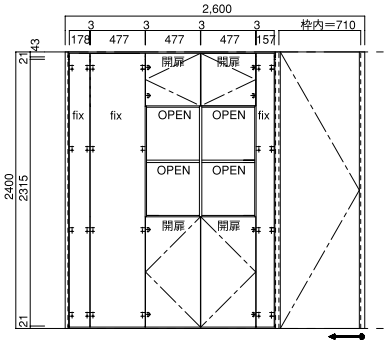
A面断面図



A面立面図

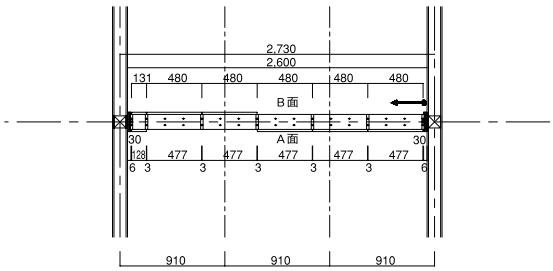


A'面立面図

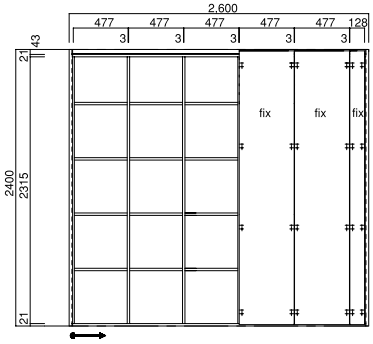


間仕切り壁モデル　9尺タイプ

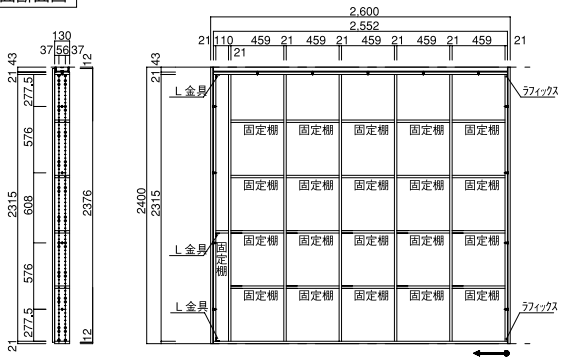
平面図　※　柱角…105㎜　ＰＢ…12.5㎜



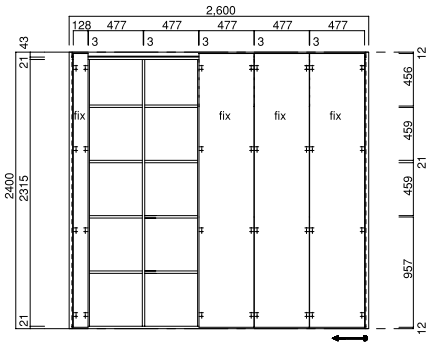
B面立面図



A面断面図



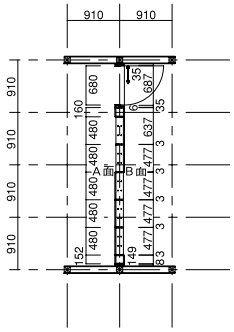
A面立面図



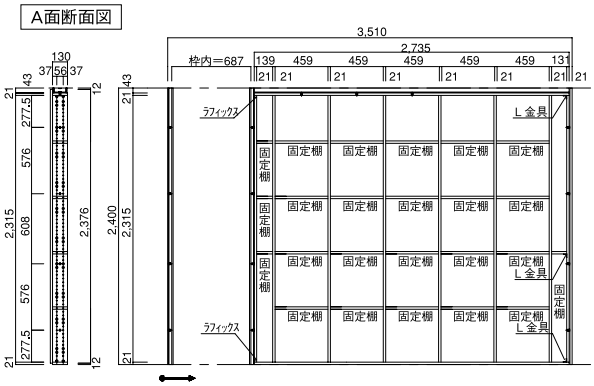
プラン図

間仕切り壁モデル12尺　ドア付き

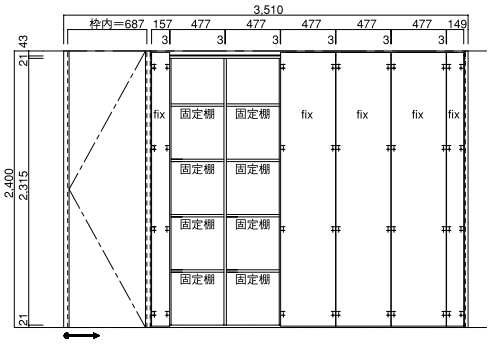
平面図　※　柱角…105㎜　ＰＢ…12.5㎜



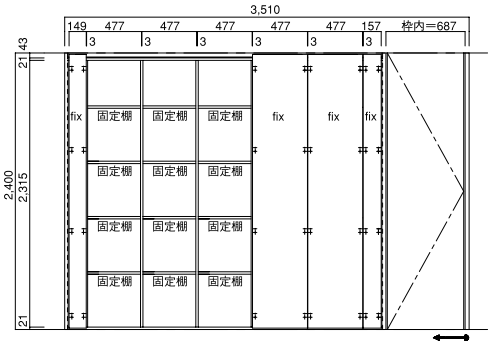
A面断面図



A面立面図

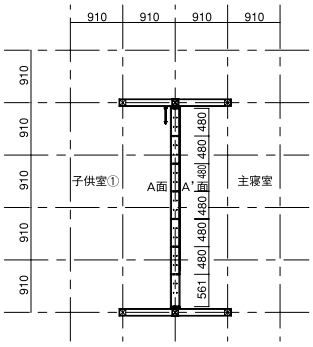


B面立面図

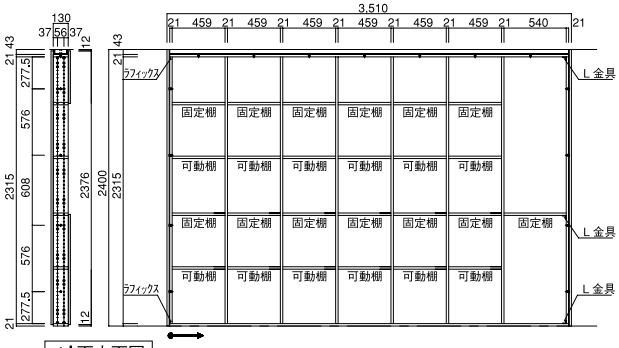


間仕切り壁モデル　12尺タイプ

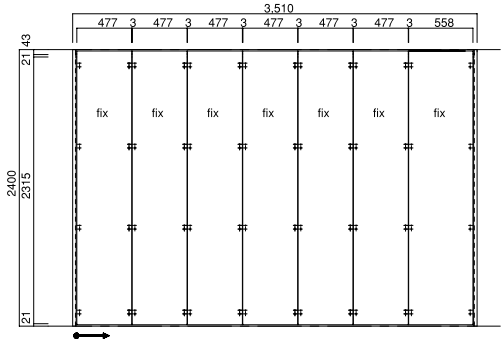
平面図　※　柱角…105㎜　ＰＢ…12.5㎜



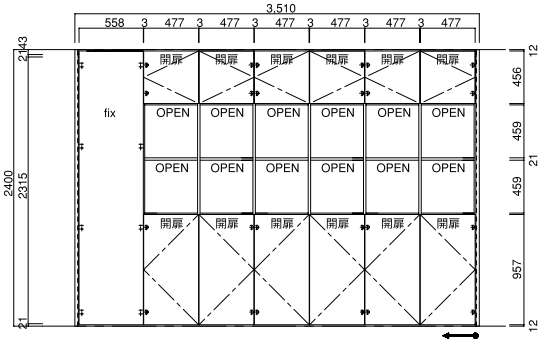
A面断面図



A面立面図



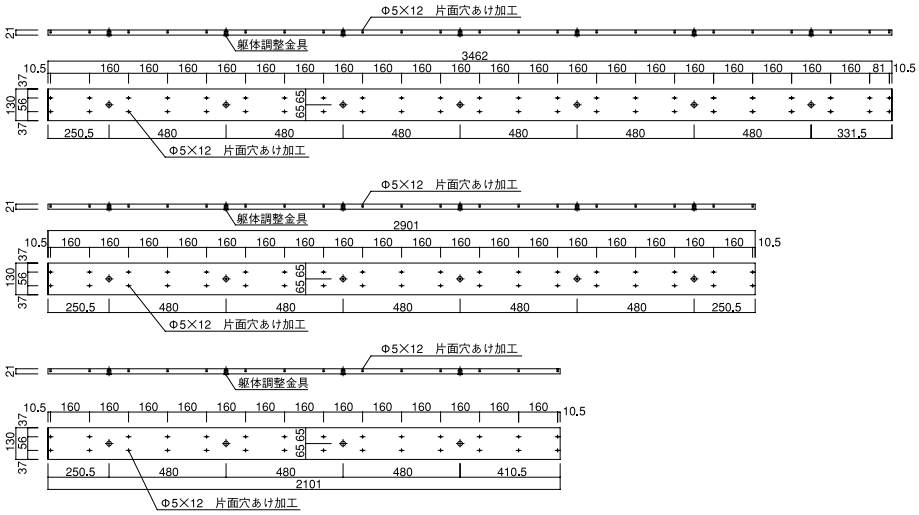
A'面立面図



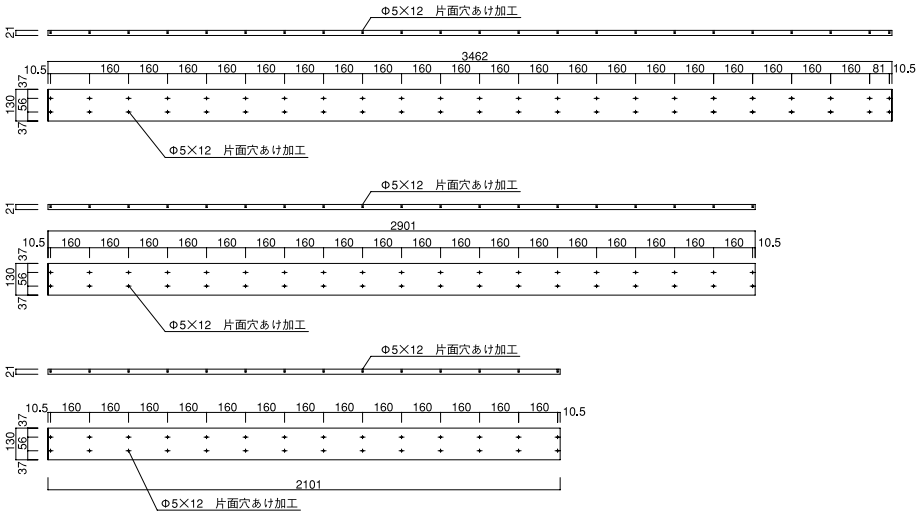
間仕切り壁収納

部材図

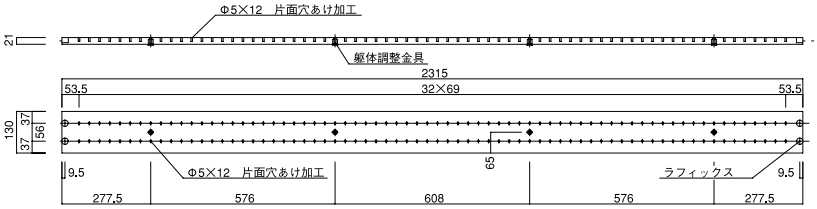
天板



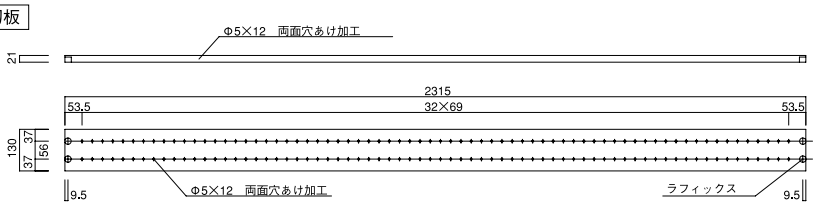
地板



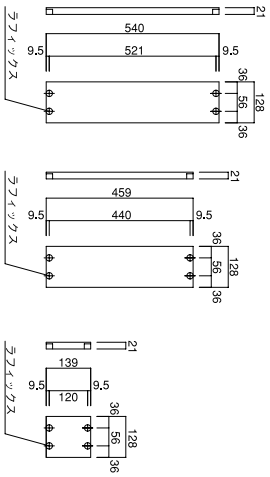
側板



仕切板

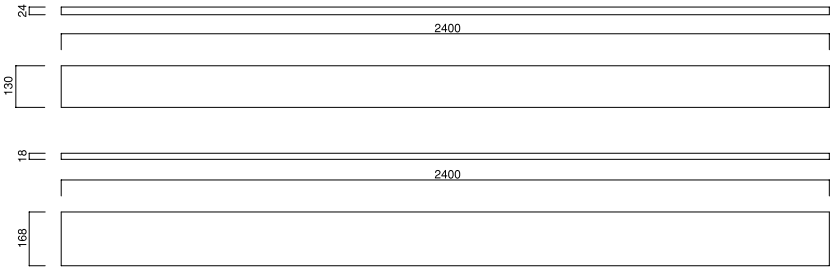


固定棚

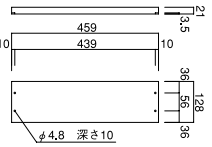


部材図

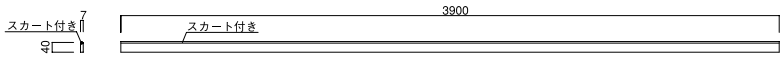
化粧ドア枠パッキン （加工無し）



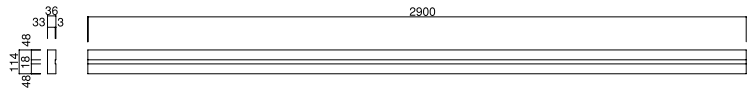
可動棚



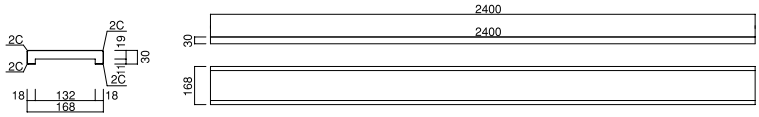
天井幕板



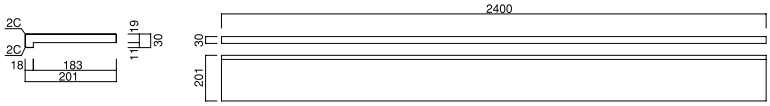
天井下横ランナー



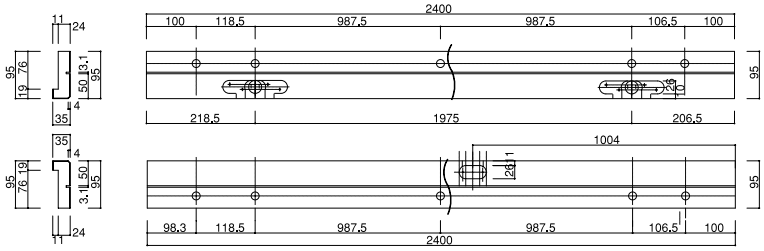
側板見切り材



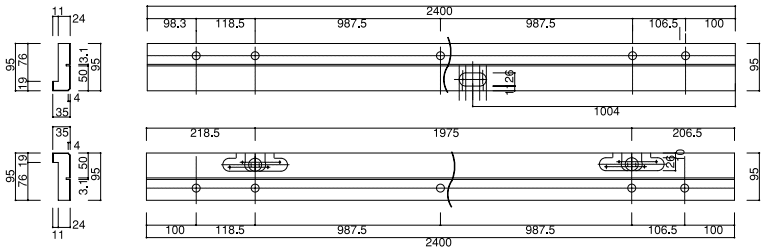
側板見切り材コーナー用



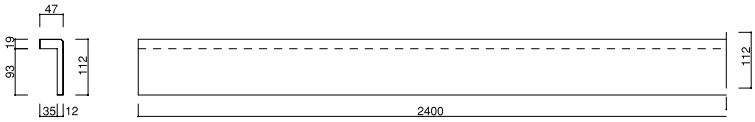
ドア枠
竪枠セット（左吊り）



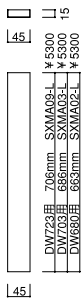
ドア枠
竪枠セット（右吊り）

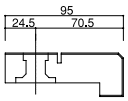


ドア枠
ケーシング



ドア枠　後付上枠

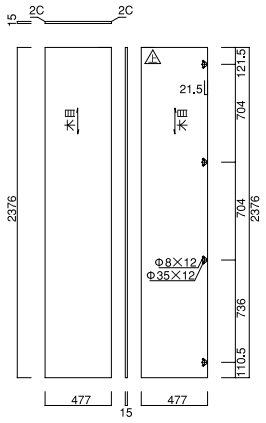




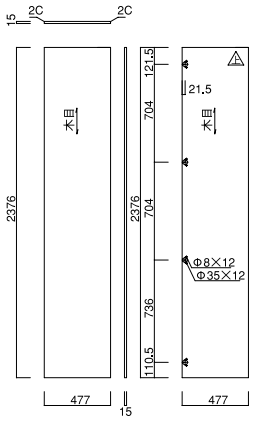
間仕切り壁収納

部材図

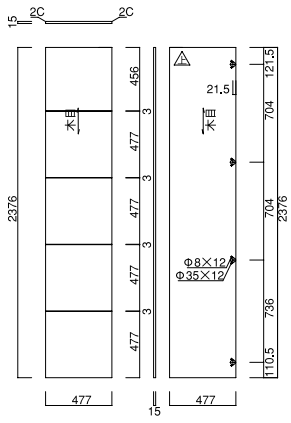
開扉　左吊正面　裏面



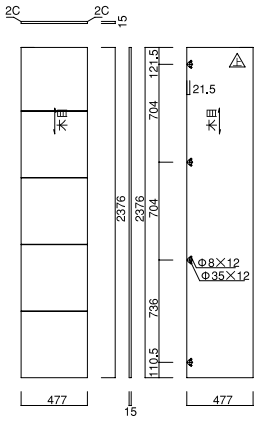
開扉　右吊正面　裏面



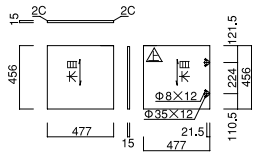
開扉溝付　左吊　裏面
正面



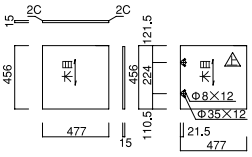
開扉溝付　右吊　裏面
正面



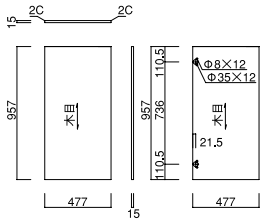
開扉最上段用　裏面
左吊正面



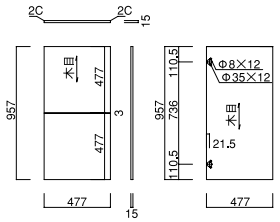
開扉最上段用　裏面
右吊正面



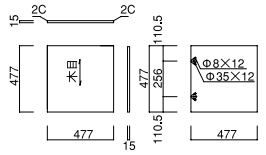
開扉　正面　裏面
左右兼用



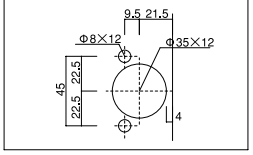
開扉溝付　正面　裏面
左右兼用



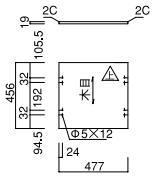
開扉　正面　裏面
左右兼用



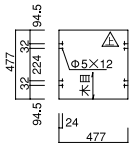
■ヒンジ下穴加工拡大図　S=1/2



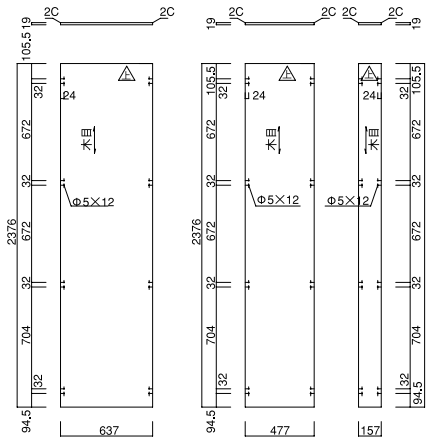
fix扉　最上段用



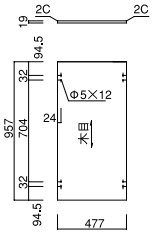
fix扉



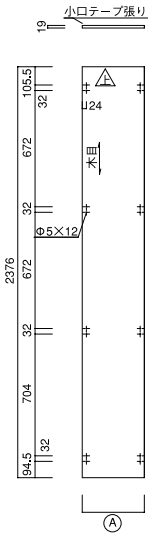
fix扉



fix扉



fix扉



■fix扉　間口

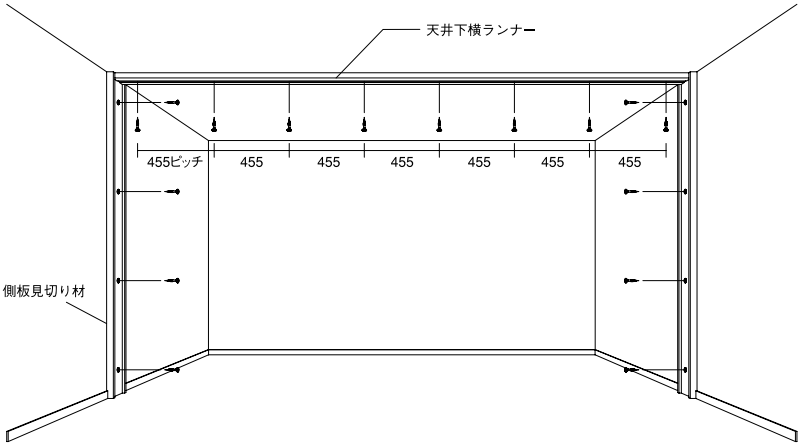
Ⓐ
92
107
128
142
149
178
192
199
207
228
242
249
257
278
309
328
338
359
378
409
428
438
448
466
558

施工手順

1 側板見切り材・天井下横ランナーの取り付け

①側板見切り材を壁の下地に同梱のビスで取付けます。

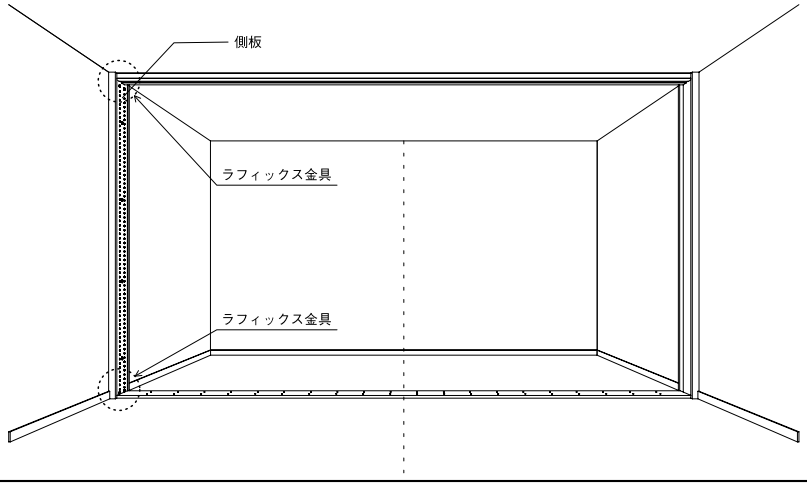
②天井下横ランナーを側板見切り材の内々にカットし天井の下地に同梱のビスで取り付けます。



2 地板・側板の取り付け

③側板見切り材の内側に地板を仮置きします。

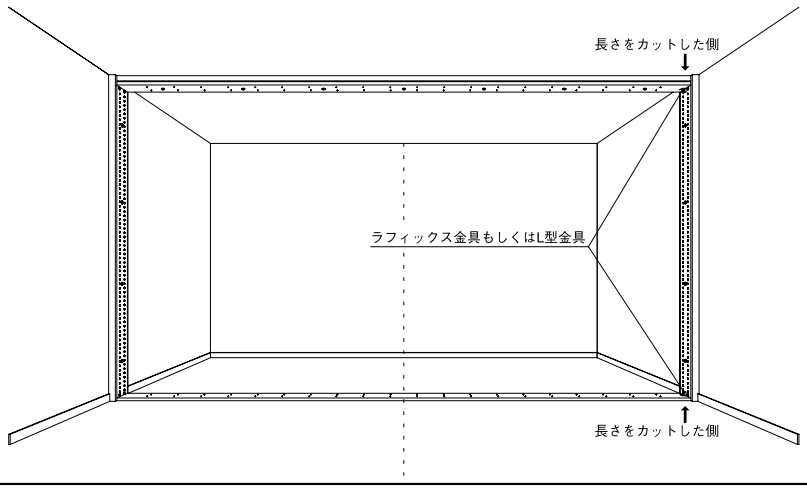
④片方の側板をラフィックス金具を使用し地板と固定します。



3 天板の取り付け

⑤側板の上部に天板を差込み、取り付けていないもう一枚の側板の上に乗せ、ラフィックス金具もしくはL型金具にて取り付けます。

Point システム穴の位置に側板が来ない場合L金具で固定となります。



間仕切り壁収納

施工手順

4 仕切板の取り付け　側板・天板・地板の固定

⑥天板と地板に仕切板を取り付ける位置へラフィックス金具を取り付けます。

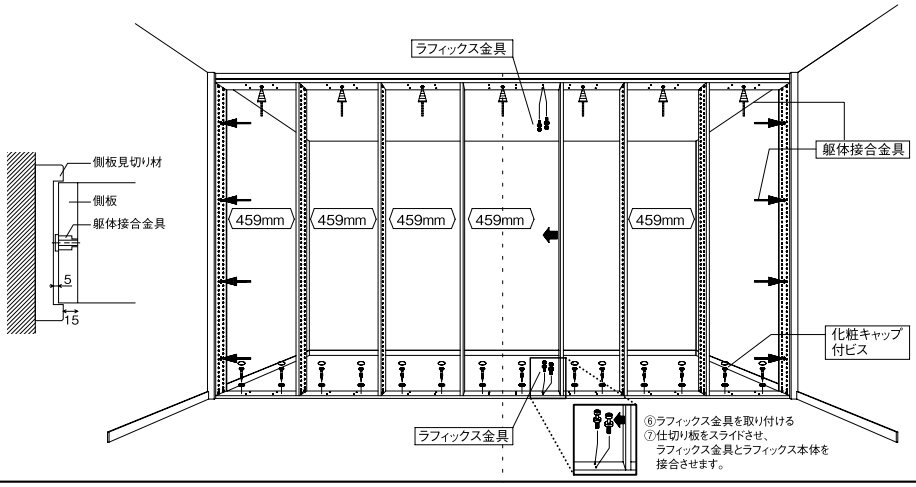
⑦仕切板をスライドさせ、ラフィックス金具とラフィックス本体を接合させます。

⑧ラフィックス金具をプラスドライバーで締め付け固定します。

⑨水平・垂直を確認し側板・天板を躯体接合金具で固定します。

Point
取付後の見付15㎜が基準寸法です。躯体接合金具で調節して下さい。

⑩地板を同梱の化粧キャップ付きビスにて固定します。



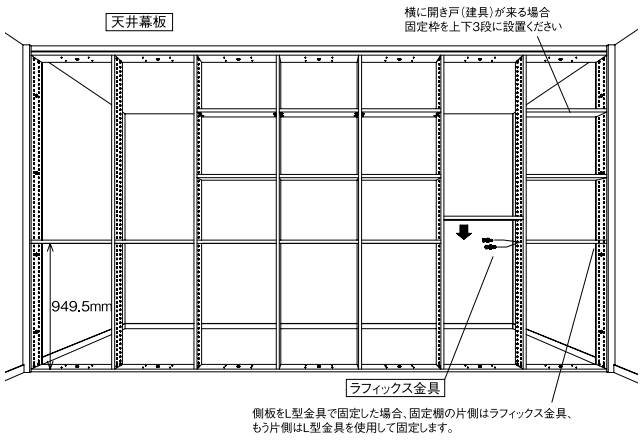
5 天井幕板・固定棚の取り付け

⑪天井幕板を前後に取り付けます。

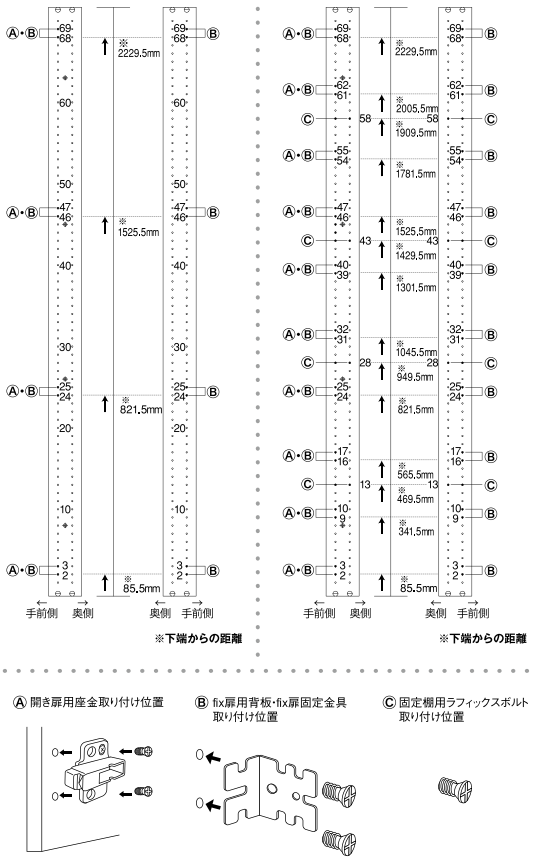
⑫仕切板に固定棚を取り付ける位置へラフィックスボルトを取り付けます。

⑬固定棚を取り付け、ラフィックス金具をプラスドライバーで締め付け固定します。

⑭横一列になるように下から949.5㎜の高さには必ず固定棚を入れてください。



金具・ラフィックスボルトの取り付け位置



⚠ 注意　扉が右吊りの場合は、上記の指示穴を左右逆にして取り付けてください。

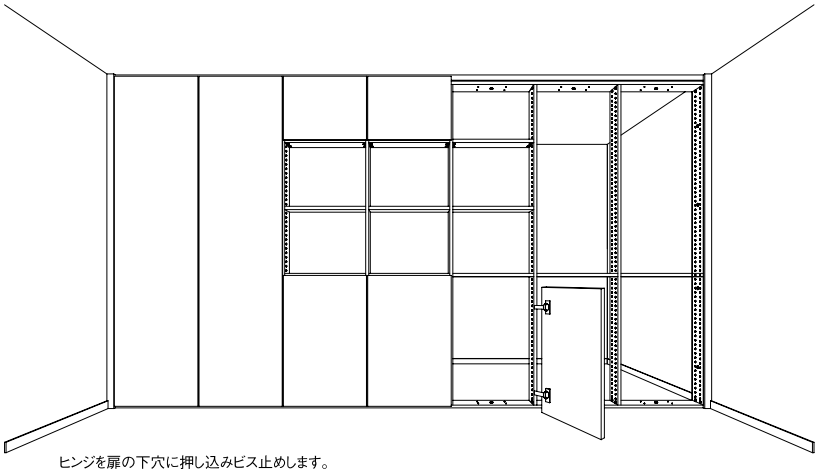
施工手順

6 開扉・fix扉の取り付け

⑮開扉・fix扉を取り付ける位置へ、開扉=座金、fix扉=背板固定金具又はケクを取り付けます。(図①～②)
開扉本体にはスライドヒンジを取り付けます。(図③)
表裏の両面ともfix扉になる際、片方を背板固定金具を使用し固定した後、もう片方をケクを使用してfix扉をはめ込んでください。(図④)

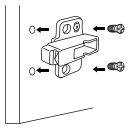
⑯開扉にはマグネットプッシュキャッチ用受け座を扉裏面に取り付けます。(図5)
マグネットプッシュキャッチ本体を先に取り付けた受け座の位置に合わせて側板・仕切板に取り付けてください。(図⑥)

⑰扉を取り付け、各部の隙間などを調整して完成です。(図⑦)

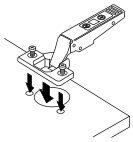


ヒンジを扉の下穴に押し込みビス止めします。

図①

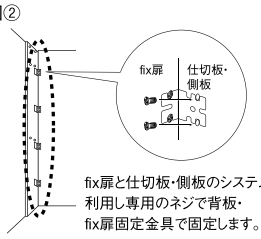


側板・仕切板に座金を取り付けます。
取り付けはシステム穴を利用します。



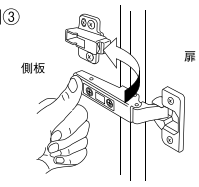
ヒンジを扉の下穴に
押し込みビス止めします。

図②



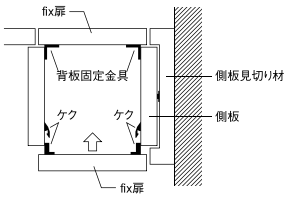
fix扉と仕切板・側板のシステム穴を
利用し専用のネジで背板・
fix扉固定金具で固定します。

図③

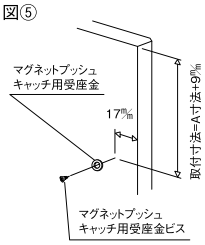


扉を取り付けるにはヒンジアームの前部を
先に合わせ座金に軽く指で押すだけです。

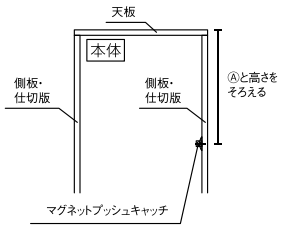
図④

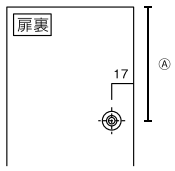


図⑤



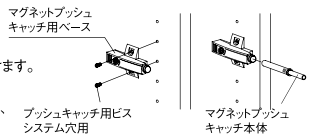
図⑥



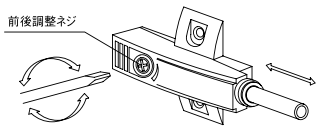


側板に取り付ける場合

側板にマグネットプッシュキャッチ用ベースを取り付けます。
取り付けはエラボのシステム穴を利用します。
マグネットプッシュキャッチ用ベースを取り付けた後に、
マグネットプッシュキャッチ本体を差し込みます。



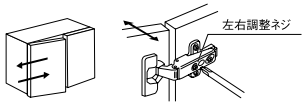
図⑦



マグネットプッシュキャッチを取り付けた後に扉を押しても開かない場合などは
前後調整ネジを回して前後調整してください。

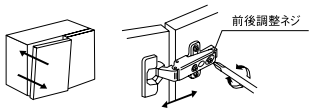
扉の左右位置を調整

◆左右調整ネジを回して
左右調整をしてください。
【アジャスト量:扉の内方向4㎜】



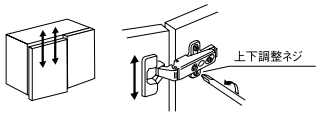
扉の前後位置を調整

◆前後調整ネジを回して
前後調整をしてください。
【アジャスト量:扉の前方向2㎜
扉の後方向2㎜(合計4㎜)】



扉の上下位置を調整

◆上下調整ネジをゆるめて
上下調整をしてください。
【アジャスト量:扉の上方向2.5㎜
扉の下方向2.5㎜(合計5㎜)】



押入れセット（無垢タイプ）

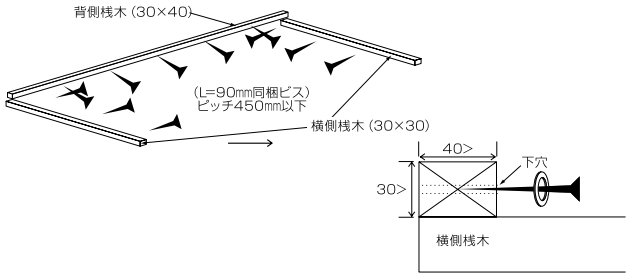
開梱

梱包を解いたら、当製品に不足および問題がないかどうかを確認してください。製品に水漏れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

施工手順

1 桟木の取り付け

横側桟木（30mm×30mm）に下穴を開け、同梱のビス（L=90mm）にワッシャーを入れ、ピッチ450mm以下で固定してください。背側桟木も同様に下穴を開け横側桟木の上に乗せて固定してください。

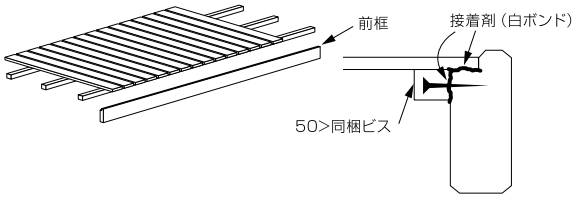


2 すのこカット

間口方向の寸法カットはすのこ両サイドを均等にカットし、奥行き方向をカットする場合にはすのこ背側を必要な寸法にカットしてください。

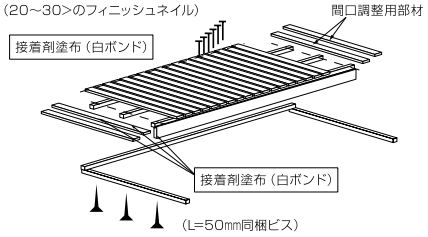
3 前框の取り付け

必要な寸法にカットした前框の接合部に接着剤（白ボンド）を塗布し、補強桟と框を同梱のビス（L=50mm）で固定してください。



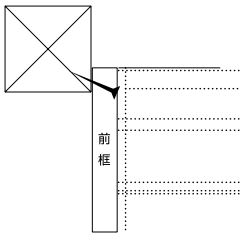
4 すのこ取り付け

すのこが乗る部分に接着剤（白ボンド）を塗布し、横側桟木の裏側から同梱のビス（L=50mm）で補強桟を固定してください。すのこ背側はL=20～30mmのフィニッシュネイル（現場調達）で固定してください。
両端部分のすのこは間口調整用部材を必要に応じて巾調整し、接着剤（白ボンド）とフィニッシュネイルを併用して取り付けてください。



5 前框の壁側への固定

強度の確保の為、前桟木の裏側より、柱や間柱に対してビスをもみ込むことをお勧めします。



6 雑巾ずりの固定・ビスキャップの取り付け

雑巾ずりを3方にフィニッシュネイルで固定してください。
桟木のビスの頭には付属のビスキャップを取り付けてください。

⚠ 注意

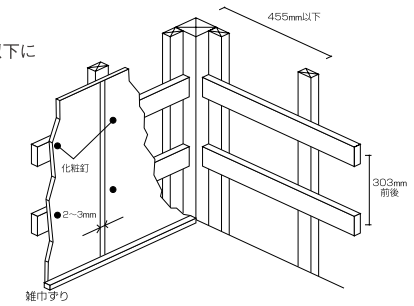
ビスは必ず下穴を開けてから打ち込んでください。材が割れる可能性があります。

押入れ用壁材・桐（無垢集成）

施工手順

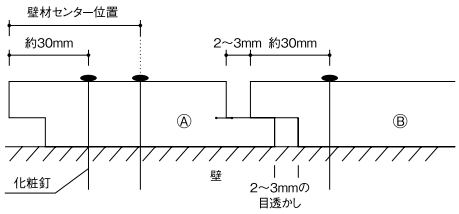
1 壁下地の準備

柱・間柱等を455mm以下に設置し、合板下地貼り、もしくは横方向にも胴縁等を303mm前後のピッチで設置してください。



2 押入れ用壁材　桐の施工

下図のように壁材に2～3mmの目透かしをとり、下地材に合わせて化粧釘で固定してください。壁材（Ⓑ）の継手から30mm程のところに、前の壁材（Ⓐ）を押さえるようにして化粧釘を打ってください。必要に応じて雑巾ずりを取り付けてください。



【お願い】

- **接着剤のご使用は割れ、突き上げ等の原因となる恐れがありますので避けてください。**
- **無垢材の為、吸放湿により伸縮をしますので必ずすきまを取って施工してください。また、化粧釘を打ち過ぎますと、伸縮時の割れの原因となりますのでご注意ください。**

施工終了後

●洗剤・消臭剤等の使用禁止
洗剤・消臭剤・殺虫剤が製品に直接付着すると、変色の原因になります。ベンジン・アルコール・シンナーなどを使用されますと、変色・変質することがありますので、絶対に使用しないでください。

●お手入れのしかた
表面・裏面共に、ほこり、小さな汚れは乾いた布で拭いてください。水気のある布を使用されますと、シートのはがれやシミの原因となります。

●養生
当て傷・擦り傷等がつかないよう保護紙等でカバーするか、取り外して傷の付かない場所に保管してください。

●使用説明書の手渡し
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

JAS 認定・大臣認定など

JAS認定・大臣認定

国土交通大臣認定番号などの詳細な情報については下記のホームページをご覧ください。

ウッドワン ホームページ
http://www.woodone.co.jp/

ウッドワンの F☆☆☆☆ について

建築基準法では、内装仕上げ制限の対象となる部分は、面的な部分とされ、柱などの軸材、廻り縁、窓台、巾木、手すり、建具枠、胴縁、部分的な塗料や接着剤は評価の対象とはなりません。しかしながら、これらの建材も線的な部分の面積が設置部分の見付面積の1/10を超える場合は評価の対象となります。（規制対象外の建材も使用される面積によっては規制対象となります。）そこで **ウッドワン** は建材をどのようにご使用されても「規制対象外」となるようすべての建材に F☆☆☆☆ を表示しております。

JASによる複合フローリング種別

複合1種フローリング

合板のみを基材とした複合フローリングをいう。ここでいう合板のみとは、ベニヤコアー合板を基材としたものという意味である。
なお、ランバーコアー合板を基材としたものは、複合2種フローリングとして取り扱う。
ただし、直貼用製品の裏面に接着された防湿シート（不陸緩和材）等は、単なる接着施工のための副資材と考えられることから、積層接着とはみないこととする。

複合2種フローリング

集成材又は単板積層材のみを基材とした複合フローリングをいう。ここでいう集成材又は単板積層材のみとは、集成材を基材としたもの、単板積層材を基材としたものという意味で、基材に集成材と単板積層材を特定したことである。ただし基材の構成として木質系（ボード類をのぞく）を積層したものは、複合2種フローリングに含まれる。なお、直貼用製品の裏面に接着された防湿シート（不陸緩和剤）等は、単なる接着施工のための副資材と考えられることから、積層接着とはみないこととする。

複合3種フローリング

複合1種及び2種フローリング以外の複合フローリングをいう。したがって、①ボード類を基材としたもの、②木質系と木質系以外の材料を複合した基材のもの、③木質系以外の材料を基材としたもの（ただし、表面の木質材の厚さは、1.2㎜以上とする。）である。

財）日本合板検査会「フローリングの農林規格の解説」より

公共住宅建設工事共通仕様書による種別（A種、B種、C種、D種）

天然木化粧複合フローリングA種（積層フローリング）

(1)「フローリングの日本農林規格」による複合2種フローリング（天然木化粧）で、表面及び裏面は同一樹種とし、単板の厚さ2.0mm以上、内部は材厚2.2mm内外の積層単板5層で計7層とし、仕上がり板厚は15mmとする。
(2) 板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(3) 表面は、工場においてサンダーがけをする。表面塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(4) 標準寸法は幅90mm又は150mm、長さ900mmとする。

天然木化粧複合フローリングB種（ベニヤフローリングB種）

(1)「フローリングの日本農林規格」による複合1種フローリング（天然木化粧）で表面及び裏面は同一樹種とし、単板厚さ1.2mm以上、内部はラワン（又は広葉樹。）台板合板3層以上、計5層以上とし、仕上がり板厚は12mmとする。
(2) 台板合板は、「合板の日本農林規格」の「普通合板の規格」による1類2等以上とする。
(3) 板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(4) 表面は、工場においてサンダーがけ及び塗装を行う。塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(5) 標準寸法は、幅150mm、長さ909mm又は1,818mmとする。

天然木化粧複合フローリングC種（ベニヤフローリングC種）

(1)「フローリングの日本農林規格」による複合1種フローリング（天然木化粧）で、表面及び裏面は同一樹種とし、単板の厚さ1.0mm以上、内部はラワン（又は広葉樹。）台板合板とし、3層以上、計5層以上とし、仕上がり板厚は12mmとする。
(2) 台板合板は、「合板の日本農林規格」の「普通合板の規格」による1類2等以上とする。
(3) 板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(4) 表面は、V溝加工とし間隔は101mm（等間隔）を標準とする。
(5) 表面は、工場においてサンダーがけ及び塗装を行う。塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(6) 標準寸法は、幅303mm、長さ1,818mmとする。ただし、発泡プラスチック系洋室床下パネル（桟付）の場合は、長さ1,800mmとする。

天然木化粧複合フローリングD種（ベニヤフローリングD種）

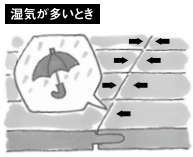
(1)「フローリングの日本農林規格」の複合1種フローリング（天然木化粧）で、表面は単板厚さ0.25mm以上1.0mm未満、内部はラワン（又は広葉樹。）台板合板5層以上の計6層以上とし、仕上がり板厚は12mmとする。
(2) 台板合板は、「合板の日本農林規格」の「普通合板の規格」による1類2等以上とする。
(3) 板そば、木口とも本実加工及び面取りとする。
(4) 表面は、V溝加工とし間隔は101mm（等間隔）を標準とする。
(5) 表面は、工場においてサンダーがけ及び塗装を行う。塗装は、17.8.1表の1液形ポリウレタンワニスの3回塗り仕上げとする。なお、着色する場合は顔料ステインで行う。
(6) 標準寸法は、幅303mm、長さ1,818mmとする。

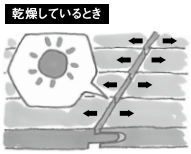
「公共住宅建設工事共通仕様書（監修国土交通省）」より

天然木だから起きること

隙間や床鳴り

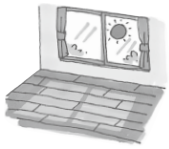
音の程度にもよりますがフローリングの継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは、**木の性質としての調湿機能が働き、伸び縮みを生じることによって発生するもので、やむ得ない現象です。**商品の性能、使用上特に問題はありません。その他、水をこぼして長時間放置した場合や、水気の多い手入れをされた場合などでも起こりますので正しいお手入れ方法をお勧めします。





色のばらつき、日焼けについて

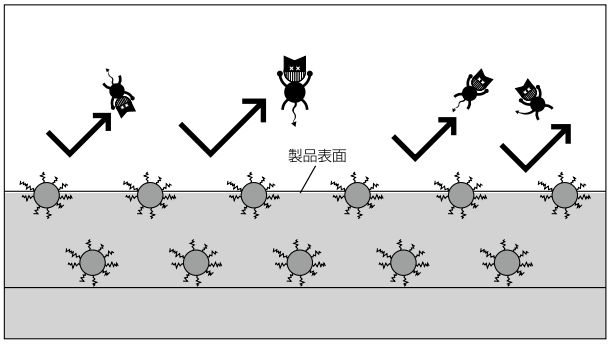
フローリングの表面には、天然木の単板が張ってあります。天然の木は人と同様、生き物であり、同じ樹種でも1本1本個性があります。色調についてもばらつくのが、普通であり、色を合わせる努力をして製造していますが。それでも色のばらつきはある程度生じて、同じにはなりません。また、お使いいただいている間に日光や紫外線などによって徐々に色が変わることがありますが、これも天然木特有の性質です。



抗菌塗装・裏面防虫処理について

抗菌塗装とは？

超微粒子抗菌剤を塗料にまぜて、製品表面にくまなく塗布することにより、菌の増殖を抑制し製品を清潔に保つ加工をいいます。



効果が確認されている菌は？

身の回りの住空間にいる菌の種類は、莫大な数にのぼると考えられています。その中で、人間や哺乳動物などの腸内に生息し食品等の汚染指標にもなる大腸菌や、自然界に広く存在し化膿症・食中毒などの原因となる黄色ブドウ球菌、また土壌・下水などに広く存在し傷の化膿部に繁殖したり食品の腐敗を起こしてしまう緑濃菌などに、高い抗菌効果を発揮します。

抗菌力試験結果

大腸菌（IF03972）および黄色ブドウ球菌（IF012732）への抗菌試験

試験概要

検体（約50㎜×50㎜）に大腸菌及び黄色ブドウ球菌の菌液を滴下し、その上にポリエチレンフィルムをかぶせ、これらを35℃で保存し、6時間後の生菌数を測定した。また、平行測定で3回試行した。

抗菌力試験結果［フィルム密着法：保存温度35℃］

試験菌	保存時間	測定対象	1枚当たりの生菌数
大腸菌	開始時	対照	4.7×10^5
	6時間後	検体1）※	4.0×10^5
		検体2）※	34
		対照	7.8×10^6
黄色ブドウ球菌	開始時	対照	4.4×10^5
	6時間後	検体1）※	5.5×10^3
		検体2）※	＜10
		対照	1.9×10^5

菌液調製溶液：1/500濃度0.2%肉エキス添加普通ブイヨン
対照：プラスチックシャーレ
※1）フローリング（ブランク）　抗菌剤の入っていない塗装フローリング
※2）抗菌塗装フローリング
（（財）日本食品分析センターの試験報告書による）

安全性は？

抗菌効果は高くても、皮膚刺激など人体に悪影響を及ぼすようであってはいけません。この抗菌塗装は歯、人工骨などの成分として知られる安全性の高いアパタイト系セラミックスに抗菌活性種である銀イオンを含有させた無機銀系抗菌剤を用いています。接触しても皮膚への影響は少なく、安全性は比較的高いといえます。また、顕著な抗菌効果を示す銀イオンを徐々に放出し効果を長時間持続させるという優れた性質があります。

■安全性の規格値	抗菌剤の安全性	
① ラットまたはマウスを用いた経口急性毒性試験 LD_{50}値　2,000mg/kg以上	① マウスを用いた急性毒性試験 LD_{50}＜（♂マウス） ＝＞4,900mg/kg	➡ 体重1kgあたり4,900mgの抗菌セラミックスを摂取させても1匹も死亡しなかったことから、安全性の高さが証明されています。 （北里環境科学センター第1261号）
② ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験 弱い刺激であること	② ウサギを用いた皮膚一次性刺激試験 刺激性が認められない	➡ 皮膚に塗布し「かぶれ」の有無を調べる試験において刺激や異常のないことが証明されています。 （北里環境科学センター第2064号）
③ 微生物を用いる変異原性試験 陰性	③ 微生物を用いる変異原性試験 陰性	➡ 変異原性試験とは、いわゆるガン試験のことで、変異が元に戻りやすい微生物を用いて、復帰突然変異が起きないことが証明されています。 （北里環境科学センター第2077号）
（銀等無機抗菌剤研究会）	（財）北里環境科学センター	

このように抗菌塗装は安全性の規格値をクリアーしており、コーヒーなどに含まれるカフェインの急性毒性試験値LD_{50}＜1,950mg/kg（体重比）の数値と比較しても、かなり安全性が高いことが証明されます。

裏面防虫処理

ヒラタキクイムシから床を守ります。

床材の裏面に防虫剤を塗布することにより、外部からヒラタキクイムシの被害を防ぎます。防虫剤は非有機リン系薬剤なので、従来の薬剤に比べて安全性が高く、また揮発しにくいタイプなのでいやなにおいが無く、ペットにも安心です。

厚生労働省の室内濃度指針値対象物質のクロルピリホスは含まれていません。

安全上のご注意

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **注意**　この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

全製品共通

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進む原因となります。

・床下収納庫天板への単独使用禁止
接着剤・ビスで12㎜以上の捨て張り合板を張り、使用してください。

・ピアノ・大型冷蔵庫等重量物の直置き禁止
床材が破壊するおそれがありますので必ず補強対策をし、インシュレーター等を使用してください。

・油性・水性ワックスの使用禁止
油性・水性ワックスはすべりやすくなる為、当社推奨の樹脂ワックスを使用してください。

必ずおこなう

・床下換気口の設置
湿気がこもると床材が腐朽する原因となります。

・開梱後は換気を行なってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

捨て張り工法用フローリング・無垢フローリング

禁止

・根太上の直接施工の禁止
直接根太上に施工すると強度不足のため床材が破損することがありますので、必ず根太上に厚さ12㎜以上の合板を捨て張りしてください。

・床下収納庫への使用時の補強。
床下収納庫の天板に直接フロアーを使用することはできません。必ず補強を行ってください。

・自然塗装製品は水分厳禁。
自然塗装製品をお手入れする際などに、水は絶対に使用しないでください。毛羽立ち、白化、シミ等の原因となるおそれがあります。

床暖房対応フローリング

注意!

・パネルの釘打ち位置注意!
パイプなどの釘打ち禁止部に釘打ちしないでください。水漏れや故障の原因となります。

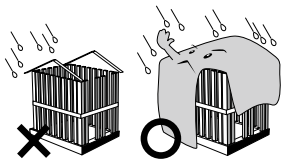
・適合発熱パネルの確認
適合しない発熱パネルを使用すると荷重による破損や踏み鳴りなどの不具合が発生するおそれがあります。

・接着剤・釘の併用施工ができない床暖房は使用しない。
床暖房対応の床材を使用して床暖房を施工する場合は、必ず当社指定の接着剤・釘の併用で施工してください。
（詳しくは床暖房メーカーにお問い合わせください。）

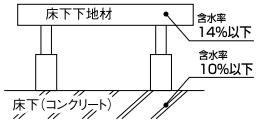
※床暖房を使用する場合は、必ず床暖房施工に対応した施工方法をお守りください。

お願い

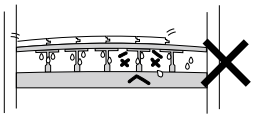
1. 床下地材や床下が雨などで濡れると乾燥するまでに時間を要します。屋根工事まではビニールシート等で濡れないように保護してください。



2. 下地材（捨て張り合板）は含水率14%以下、床下（コンクリート）等はコンクリート含水計において含水率10%以下になるまで十分に乾燥させ、ご確認後に施工してください。含水率が高いと接着不良や床材の反り、突き上げ、変色等が生じるおそれがあります。



3. 床下換気口のない場合はご使用になれません。また床構造は、根太工法と同等以上の強度を確保してください。



換気口のない場合

⚠ 注意

フローリングの下地材が濡れていると…
下地材が万が一、次のような湿潤状態だった場合、表面に変色やしわ等が発生する可能性があります。下地材を十分に乾燥させて施工してください。

①下地合板の含水率が高い場合
下地合板が雨濡れ等により含水率が高い場合、施工後、日数が経過するとフローリング表面が変色することがあります。特に下地合板の裏側に発泡ウレタンなどの断熱材がある場合、フローリングの裏側から水分が抜けにくくなり、フローリングの含水率が過度に上昇してフローリング表面が変色することがあります。

②根太・大引きの含水率が高い場合
根太・大引きに未乾燥材を使用している、または雨濡れ等で根太・大引きの含水率が高い場合、フローリングの含水率が過度に上昇し、フローリング表面が変色することがあります。この場合、変色は根太・大引き上に線上に現われる傾向があります。

③下地のモルタル含水率が高かった場合
モルタルの含水率が十分に下がらない状態で施工されるとフローリングの含水率が過度に上昇し、フローリング表面が変色することがあります。

水濡れ厳禁

当社床材は木質製品です。
施工中、雨等による水濡れは厳禁です。

開梱

梱包を開いたら数量に不足及び損傷等の問題が無いかどうかを確認してください。当製品は木質製品です。
輸送中・施工中の水漏れは厳禁です。
開梱後、製品に水漏れ等の不具合があった場合には必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。
また開梱後は速やかに施工してください。

仮並べ

フロアーの表面には天然木を使用しているため、**色や木目・溝部分に多少の違いが出ることがあります。施工前に全部の梱包を開いて色合わせをしてください。**
極端な不具合などがありましたら、施工前にお買い求め店または弊社までお申し出ください。
施工後のお申し出には応じかねます。

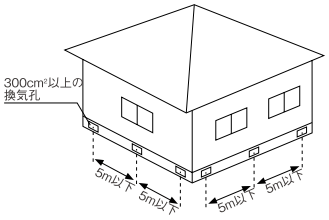
一般住宅用床材（共通）

根太の取り付け等

防湿

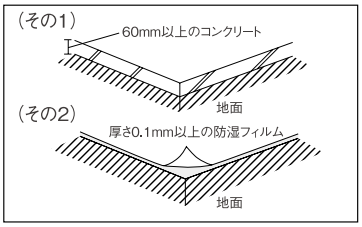
⚠ 注意　床下通風の悪い場合には腐朽しますので、床下に湿気が籠らないよう十分換気がおこなわれるようにしてください。

床下換気孔の位置と数は建築基準法施行令に従ってください（外壁の床下部に壁長さ5m以下毎に、300㎠以上の換気孔設置）。床下の湿度が特に高い場合は、地盤全面に厚さ60mm以上のコンクリートの打設または厚さ0.1mm以上の防湿フィルムを全面に敷きつめる等の防湿処理をおこなってください。



一般住宅　換気孔の適正配置

●床下の湿度が高い場合の防湿方法



風向きを考慮し向かい合わせで設置すること。（夏期の主風向きを考慮）換気孔だけで十分な換気ができない所では、床下と室内の空気を循環させる強制換気装置を設けること。（特にRC造の1階部分）

校舎、園舎等（床面の低い）場合

（複合フローリング）

L字型パイプ等で十分な換気孔を設ける。このとき、室内の教壇または木製ロッカー等の設置場所にはフローリングを全面に張らず、床下と室内の空気の循環作用にあてること。
体育館については下の表を参照。

〈体育館の換気孔配置〉

立地条件	壁長	高さ(mm)	巾(mm)	個数	広さ(m²)
普　通	5~6m毎に 〃	300 〃	1,800 900	1 2	0.54 〃
湿気の多いところ	〃 〃	400 〃	1,800 900	1 2	0.72 〃

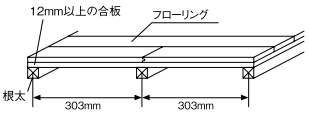
フローリング張り標準仕様書（日本フローリング工業会、日本複合床板工業会）より抜粋
※公共物件にご使用の際には、床材の発注の前に最寄りの営業所までお問い合わせください。

下地

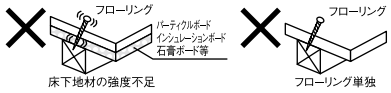
基本

・通常は根太に反り、ねじれの無いプレーナーがけした45×60mm以上の乾燥材（含水率14%程度）を使用し、根太間隔は303mmとしてください。
・根太の上には厚さ12mm以上の合板（含水率14%以下）を捨て張りし、施工をすることを推奨します。床下（コンクリート）等はコンクリート含水計で含水率10%以下であることを確認して下さい。含水率が高い状態で施工すると表面の床材に反り、狂い、変色が発生する場合がありますのでご注意ください。根太と合板とは接着剤・釘併用施工としてください。
・下地にはパーティクルボードや石膏ボードなどを単独では使用しないでください。強度不足で踏み鳴り、たわみ、破損などの原因となるおそれがあります。
・重量物を設置する場合は根太（45×60mm以上）間隔を151.5mmにするか（例1）、12mm以上の下地合板を2重に捨て張りして（図2）補強し、強度を保ってください。また重量物の脚にはインシュレーターや合板等を敷いて荷重が1点に集中して掛からないようにしてください。
・フローリングの継ぎ目と捨て張り合板の継ぎ目が重ならないように施工してください。（捨て張り合板は突きつけて施工せず2mm程度継ぎ目をあけてください。その際、捨て張り合板の接合部の段差ができないように注意してください。）

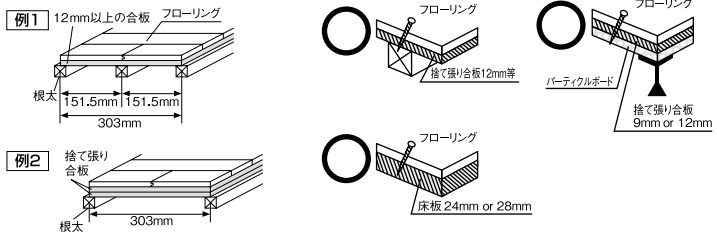
一般の場合（捨て張り工法）



・下地にはパーティクルボードや石膏ボードなどを単独では使用しないでください。



重量物の補強方法



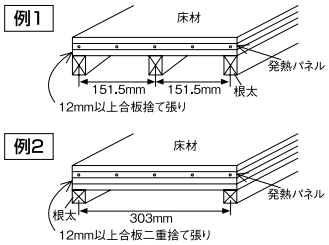
⚠ 注意　無垢フローリングの場合：捨て張り専用床材ですので、直接根太上に施工すると強度不足のため破損することがありますので、必ず根太上に厚さ12㎜以上の合板を捨て張りして施工してください。

床暖房を施工する場合

重量物設置の場合の補強処理

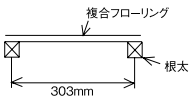
・重量物を設置する場合には根太間隔を151.5mmにする（例1）か、12mm以上の下地合板を2重に捨て張りして（例2）補強してください。
※発熱パネルの耐荷重についてはパネルメーカーにお問い合わせください。

重量物の補強方法

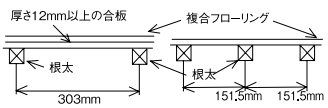


複合フローリングの場合

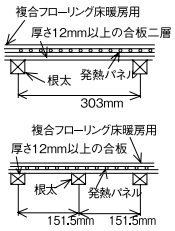
一般の場合



重量物の補強方法（非床暖）



重量物の補強方法（床暖）



体育館で使用する部材のサイズ　体育館は次のようなサイズにしてください。

部材名	巾(mm)	厚さ(mm)	断面積(cm²)	間隔(mm)
大　引 根　太	100~120 45 60	120~180 75~90 75~90	120~216 33.75~40.5 40.5~54.0	900(909) 300(303) 360(363)

（根太にはアビトン材を推奨）

塗装品使用時のご注意

現場で再塗装される時は、必ずポリシャーを掛けてください。また、コートライン等を引く時は、必ずポリシャーまたはウレタン系シンナーでライン引き箇所を拭き、ウレタン系塗料をご使用ください。セメントの水が掛かると材色が変色することがありますので注意してください。

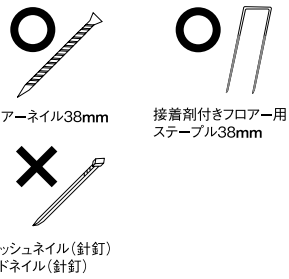
捨て張り工法用フローリング

※床暖房を施工する場合は、床暖房に対応したフロアーを使用し、必ず床暖房施工に対応した施工方法をお守りください。

床材の取り付け

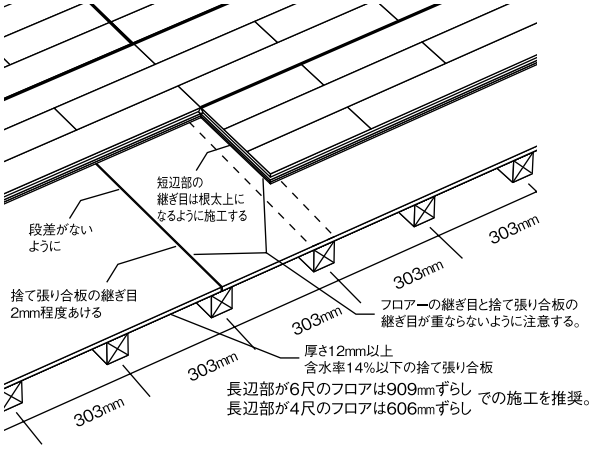
●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38mm以上）またはフロアーネイル（長さ38mm以上）をご使用ください。
石膏ボードを下地に使用する場合は石膏ボードの下に厚さ12mm以上の下地合板を施工し、下地合板まで十分に届く長さの接着剤付きフロアー用ステープル、またはフロアーネイルをご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。

●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

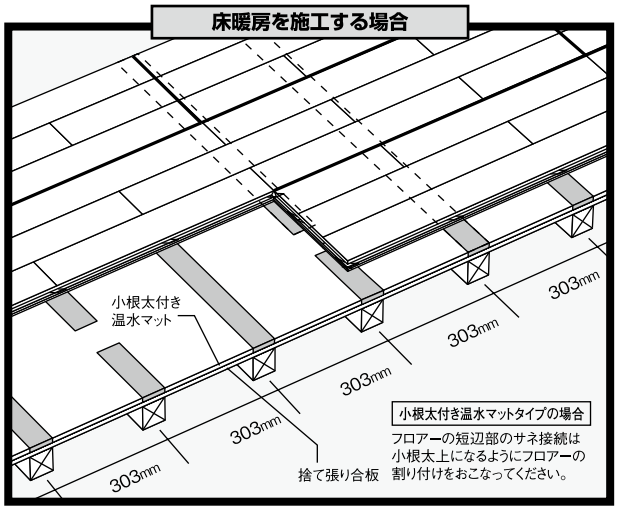


フロアーの割り付け

●フロアーの短辺部のサネ接続は根太上になるようフロアーの割り付けをおこなってください。
●フロアーは根太と直交するように施工してください。
※捨て張り合板の継ぎ目とフロアーの継ぎ目が重ならないように注意してください。

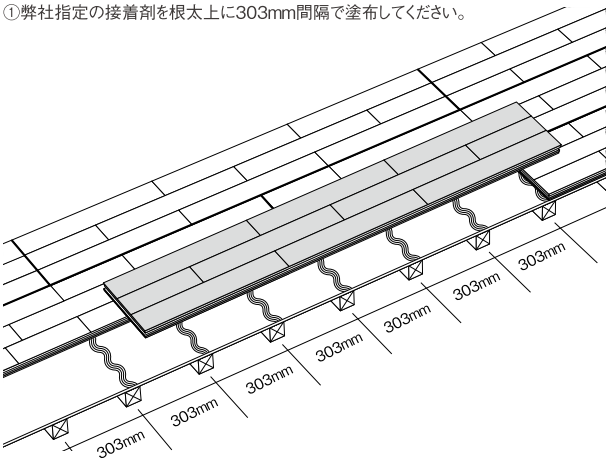


床暖房を施工する場合



接着剤の塗布方法

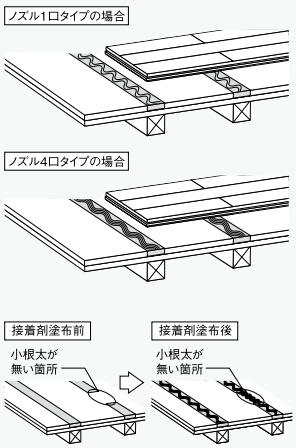
①弊社指定の接着剤を根太上に303mm間隔で塗布してください。



⚠ 注意
接着剤がフロアーの表面に付着した場合は、乾いた布や、シンナー・アルコールを染みこませた布ですばやく拭き取ってください。
接着剤が硬化すると取れなくなります。また、水拭きだと接着剤が表面に残り、ムラや汚れの原因となるおそれがあります。

床暖房を施工する場合

①弊社指定の接着剤を**小根太上に303mm間隔で塗布**してください。
※発熱パネルタイプの場合は釘打ち可能位置に303mm間隔で塗布してください。
②短辺接続部分は両方のフロアー裏面に充分付着するように波状に塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。
（接着剤の太さ約8mm本が目安。塗布量:約150g／m²）
※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
（接着剤の太さ約4mm本が目安。塗布量:約150g／m²）
③**温水パイプ配管コーナー部の小根太がなく釘打ちできない箇所には接着剤塗布量を増やし、フロアーのサネ接続部分を接着剤で確実に固定してください。**



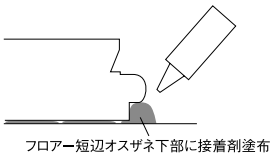
捨て張り工法用フローリング

短辺オスザネ下部への接着剤塗布

2枚目以降のフロアー張り付け時、フロアー短辺オスザネ下部に接着剤が入り込むようフロアーを張ってください。

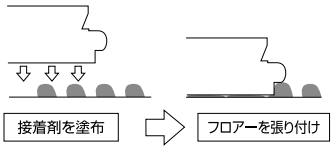
接着剤カートリッジのノズル1口タイプ使用時

接着剤カートリッジのノズルが1口タイプを使用する場合には、フロアー張り付け後、改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布してください。
（接着剤の太さ約8mm本が目安。塗布量約150g／㎡）



接着剤カートリッジのノズル4口タイプ使用時

接着剤を下地に4列波状塗布することで、短辺オスザネに接着塗布が可能です。改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布する必要はありません。



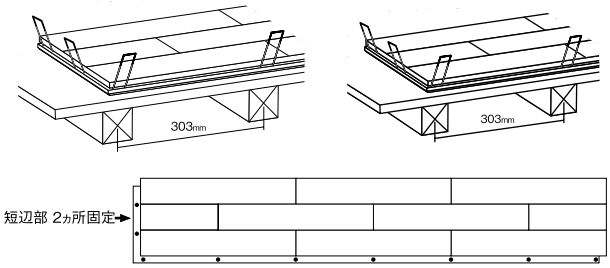
⚠ 注意　接着剤のはみ出しが無いよう適量を塗布し製品表面に接着剤が付着した場合には速やかに布などで拭き取ってください。接着剤が硬化後は除去することができなくなります。

釘打ち

（1）1×6フロアーの場合

フロアーの長辺方向303mmピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。

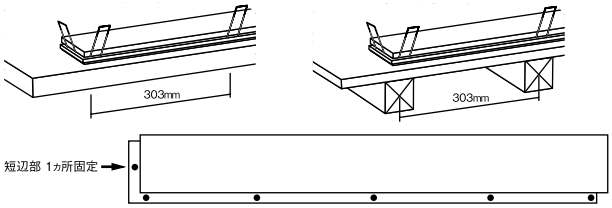
下地材:床板24㎜ or28㎜の場合　　下地材:合板12㎜の場合



（2）短辺部が303㎜未満のフロアーの場合

フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）1カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。

下地材:床板24㎜ or 28㎜の場合　　下地材:合板12㎜の場合

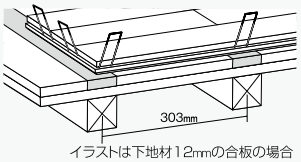


床暖房を施工する場合

※フロアーの短辺、長辺のサネ接続は小根太上になることを確認した上でフロアー施工を始めてください。
釘打ちはフロアーを押さえ、フロアーと下地をしっかり密着させた状態で釘打ちしてください。

（1）1×6フロアーの場合

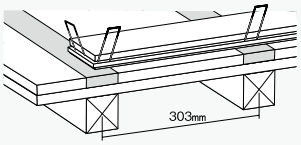
フロアーの長辺方向303mmピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



イラストは下地材12㎜の合板の場合

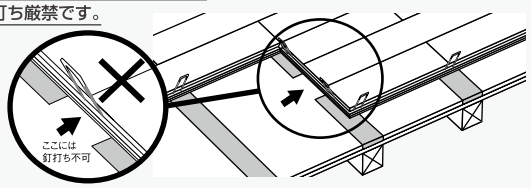
（2）短辺が303mm未満のフロアーの場合

フロアーの長辺方向303mmピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）1カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



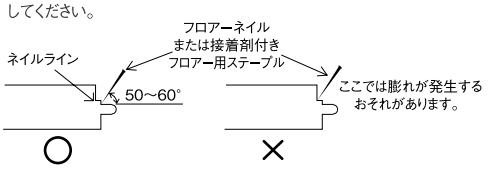
イラストは下地材12㎜の合板の場合

※温水パイプ配管コーナー部の小根太が無い箇所については釘打ち厳禁です。



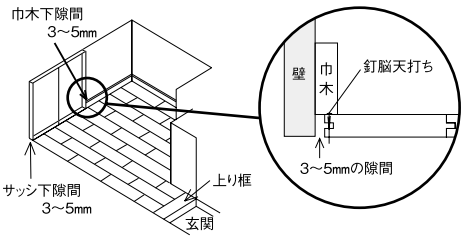
⚠ 注意　釘（接着剤付きフロアー用ステープルもしくはフロアーネイル）打ち込み時、釘の頭がフロアーにめり込まないよう適正なエア圧を設定してください。
釘の頭がめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

※釘打ち角度は50～60°で打ち込んでください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生してしまうおそれがありますので特に注意してください。



※フロアー周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3～5mmの隙間をあけてください。
また端部の床材は脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。

施工例



梅雨時期の湿度対策

●施工現場にて開梱後は養生期間をおかずに速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工お願いします。

無垢フローリング

床材の取り付け

お願い	下地への固定はしっかりとおこなってください。無垢フローリングは合板突板フロアーより、乾湿変化による寸法変化が大きく生じます。 下地に対して指定の釘と接着剤で、しっかりと固定してください。しっかりとした固定により、寸法変化を小さく抑えることができます。

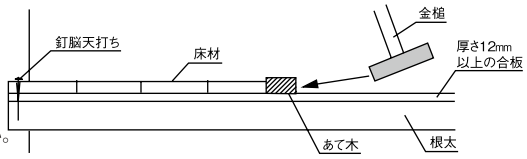
●フロアーの仮並べ
フロアーの表面には天然木を使用しているため、**色や木目・溝部分に多少の違いが出ることがあります。施工前に全部の梱包を開いて色合わせをしてください。**
極端な不具合などがありましたら、施工前にお買い求め店または弊社までお申し出ください。
施工後のお申し出には応じかねます。

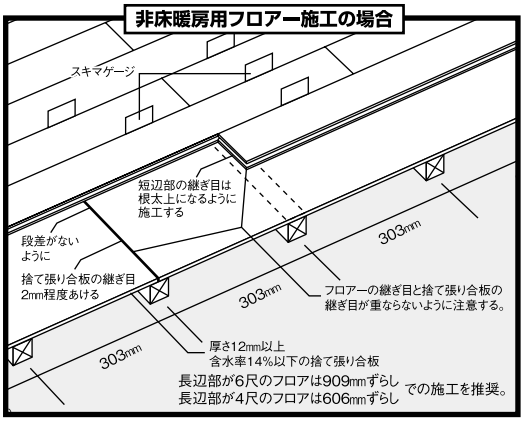
●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38㎜以上）またはフロアーネイル（長さ38㎜以上）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。

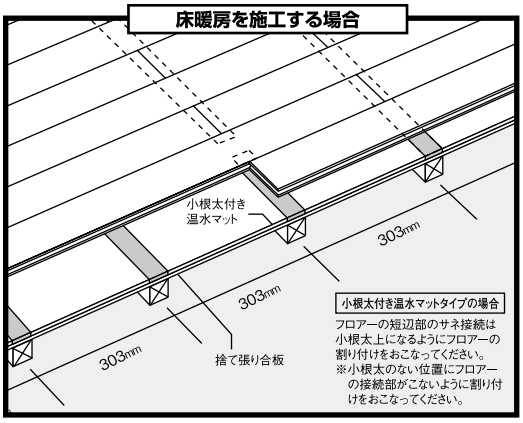
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

1 フロアーの割り付け

●フロアーの短辺部のサネ接続は根太上になるようフロアーの割り付けをおこなってください。
●フロアーは根太と直交するように施工してください。
※捨て張り合板の継ぎ目とフロアーの継ぎ目が重ならないように注意してください。
図のように端部の床材は、釘を脳天打ちで完全に固定してから行ってください。
張り施工に際しては、床材の端材等を当て木として使用し、サネを直接金槌で打撃しないでください。







⚠ 非床暖房用フロアー施工の場合の注意

無垢フローリングは吸湿による膨張が大きいので**サネ同士のジョイント部はスキマゲージまたは名刺等を用い0.4㎜程度の隙間を設けてください。**又、木口のジョイント部もきつく締めつけないで緩めに施工してください。（スキマゲージが同梱されています。）

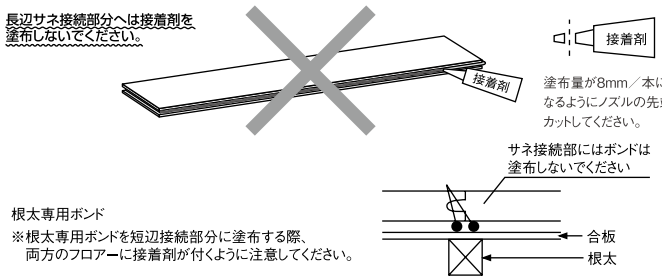
⚠ 床暖房施工の場合の注意

無垢フローリングは乾燥により隙間が出ることがあります。施工時にはかるく突く程度に施工してください。木口のジョイント部もきつく締めつけないで緩めに施工してください。

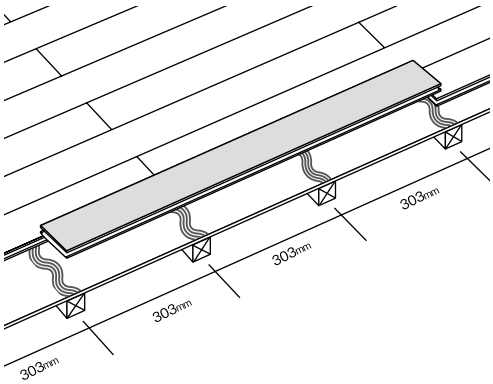
※床暖房を施工する場合は必ず床暖房対応の商品をご使用ください。

2 接着剤の塗布方法

①弊社指定の接着剤を根太上に303㎜間隔で塗布してください。
②短辺接続部分は両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。（接着剤の太さ約8mm／本が目安。塗布量:約150g／m²）
※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。（接着剤の太さ約4mm／本が目安。塗布量:約150g／m²）



根太専用ボンド
※根太専用ボンドを短辺接続部分に塗布する際、両方のフロアーに接着剤が付くように注意してください。



無垢フローリング

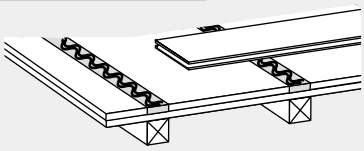
床暖房を施工する場合

①弊社指定の接着剤を**小根太上に303㎜間隔で塗布**してください。
※発熱パネルタイプの場合は釘打ち可能位置に303㎜間隔で塗布してください。

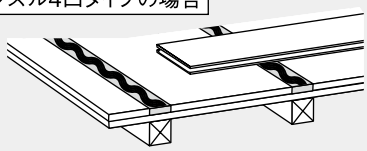
②短辺接続部分は両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。
(接着剤の太さ約8mm／本が目安。塗布量:約150g／m²)
※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
(接着剤の太さ約4mm／本が目安。塗布量:約150g／m²)

塗布量が8mm／本になるようにノズルの先端をカットしてください。

ノズル1口タイプの場合

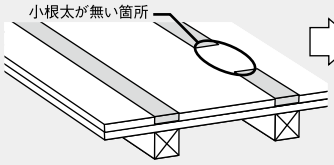


ノズル4口タイプの場合

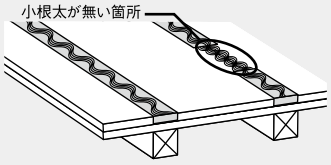


③温水パイプ配管コーナー部の小根太がなく釘打ちできない箇所には接着剤塗布量を増やし、フロアーのサネ接続部分を接着剤で確実に固定してください。
※小根太の無い部分にフロアーの接続部ができる限りこないように注意してください。

接着剤塗布前

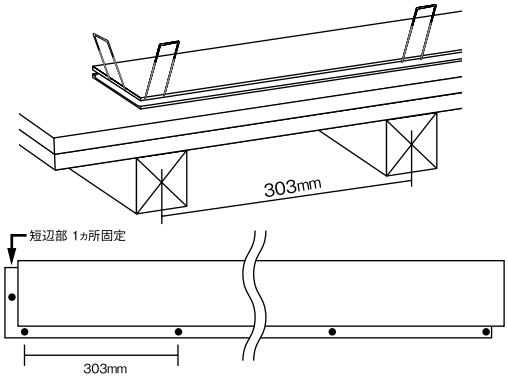


接着剤塗布後



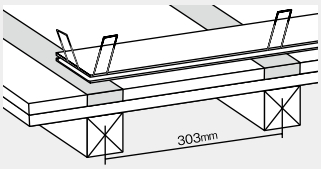
4 釘打ち

フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)1カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを根太上に打ち込んでください。下地への固定はしっかりと行ってください。無垢フローリングは合板突板フロアーより吸放湿による寸法変化が大きく生じます。下地に対して推奨する釘と接着剤でしっかりと固定してください。しっかりと固定することにより、寸法変化を小さく抑えることができます。

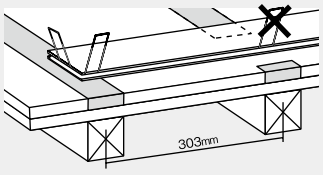


床暖房を施工する場合

※フロアーの短辺、長辺のサネ接続は小根太上になることを確認した上でフロアー施工を始めてください。釘打ちはフロアーを押さえ、フロアーと下地をしっかり密着させた状態で釘打ちしてください。



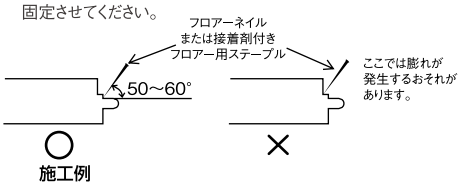
フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)1ヵ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを小根太に打ち込んでください。

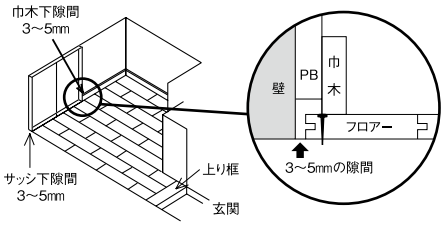


※温水パイプ配管コーナー部の小根太が無い箇所については釘打ち厳禁です。

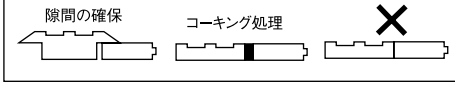
5 壁際およびサッシ下の隙間 (フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください)

※釘打ち角度は50～60°で打ち込んでください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生してしまうおそれがありますので特に注意してください。
※レッドオークソリッド・バンブーソリッドにはネイルライン加工はありません。
※フロアー周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜の隙間をあけてください。また端部の床材は脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。





※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。
吸湿時にフローリングが膨張して不具合が生じるおそれがあります。



6 梅雨時期の湿度対策

•施工現場にて開梱後は速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工お願いします。

無垢フローリング ピノアース 6mm 厚タイプ

床材の取り付け

お願い　下地への固定はしっかりとおこなってください。無垢フローリングは合板突板フロアーより、乾湿変化による寸法変化が大きく生じます。下地に対して指定の釘と接着剤で、しっかりと固定してください。しっかりとした固定により、寸法変化を小さく抑えることができます。

●フロアーの仮並べ
色や木目・溝部分に多少の違いが出ることがあります。施工前に全部の梱包を開いて色合わせをしてください。
極端な不具合などがありましたら、施工前にお買い求め店または弊社までお申し出ください。
施工後のお申し出には応じかねます。

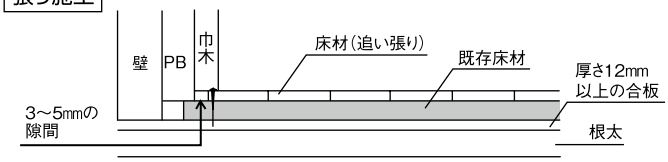
●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（肩幅4㎜、足長25㎜）をご使用ください。
※フロアーネイル・フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。

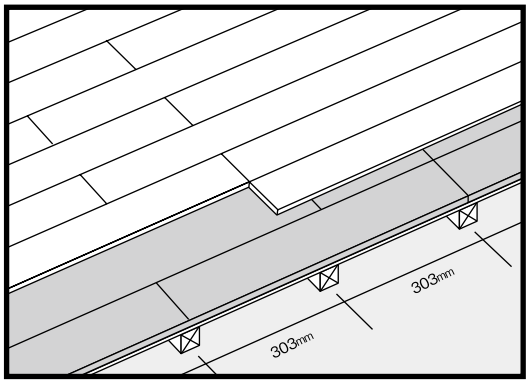
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番：ZX0311）～ウレタン系一液接着剤～をご使用ください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

1 フロアーの割り付け

図のように端部の床材は、釘を脳天打ちで完全に固定してから行ってください。

張り施工

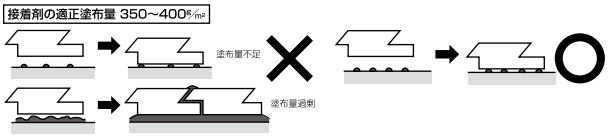


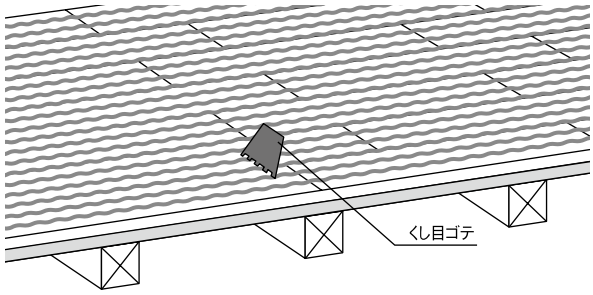


無垢フローリングは吸放湿により、隙間や突き上げが出ることがあります。施工時には、かるく突く程度に施工してください。又、木口のジョイント部もきつく締めつけないで緩めに施工してください。
●フローリングの継ぎ目と捨て張り合板・既存フロアーの継ぎ目が重ならないように施工してください。段差になる恐れがあります。

2 接着剤の塗布

● 接着剤の塗布には同梱のくし目ゴテを使用して全面に塗布してください。
● ウレタン樹脂接着剤は、よくかきまぜた後そのまま使用し、塗布後30分以内に施工してください。

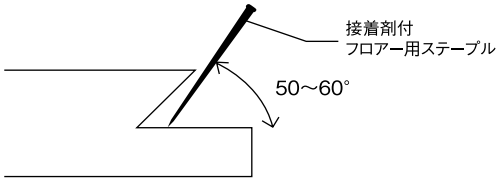




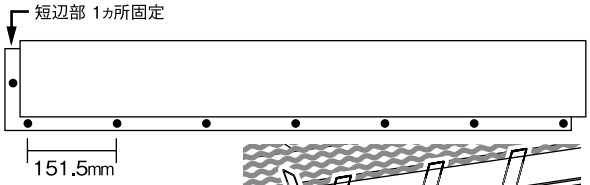
3 釘打ち

● 釘は接着剤付フロアー用ステープル（肩幅4㎜、足長25㎜）とし、直貼り用接着剤を必ず併用施工してください。（肩幅4㎜を超えるステープルを使用するとフロアーが割れてしまうおそれがあります。）
● 角度は50～60°としてください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げフクレが発生しますので特に注意して施工してください。

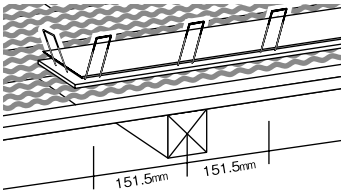
打ち込み角度は50～60°を厳守してください。



●接着剤付フロアー用ステープルの、釘打ち込みピッチは151.5㎜としてください。
●ステープルをご使用になる場合は、釘頭が残らないように、また、過度に深くならないように打ち込み圧力を6.0～8.0㎏f/㎠にし、調整してください。



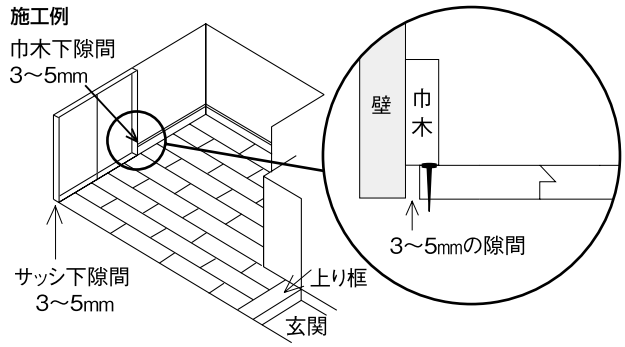
フロアーの長辺方向151.5㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）1ヵ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルを打ち込んでください。



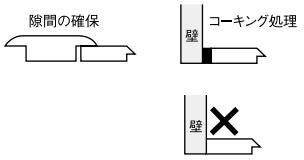
無垢フローリング ピノアース 6mm 厚タイプ

4 壁際およびサッシ下の隙間（フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください）

フロアー周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜程度の隙間をあけてください。また端部のフロアーは脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。



※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。又は、専用の薄床見切り材（別売）をご使用ください。
吸湿時にフローリングが膨張して不具合が生じることがありますので厳守願います。

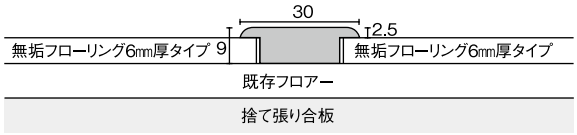


5 既存フロアーの上に追い張りする場合

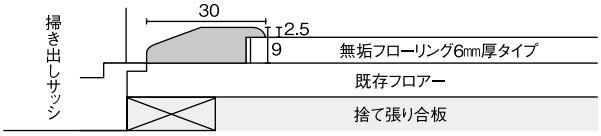
既存フロアーの上に本製品を追い張りする場合は、リフォーム用の薄床見切り材（別売）をご使用いただけます。

●リフォーム用の床見切り材・サッシ見切り材をご使用になる場合は、フロアーの見切りを入れる側の実を切り落とし、見切り材に差し込んで、ご使用ください。見切り材は接着剤を使用し固定させてください。

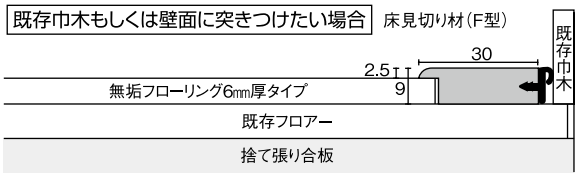
フロアーとフロアーを見切りたい場合　床見切り材（T型）



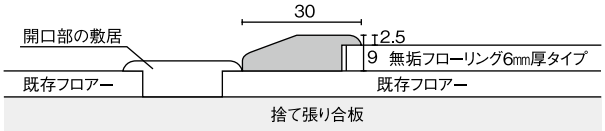
掃き出しサッシと見切りたい場合　床見切り材（E型）



既存巾木もしくは壁面に突きつけたい場合　床見切り材（F型）



開口部の敷居と見切りたい場合　床見切り材（E型）



6 梅雨時期の湿度対策

●施工現場にて開梱後は養生期間をおかずに速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工お願いします。

コンビットリアージュ ®

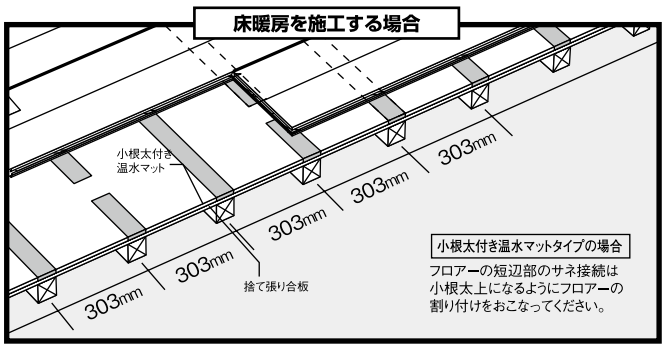
床材の取り付け

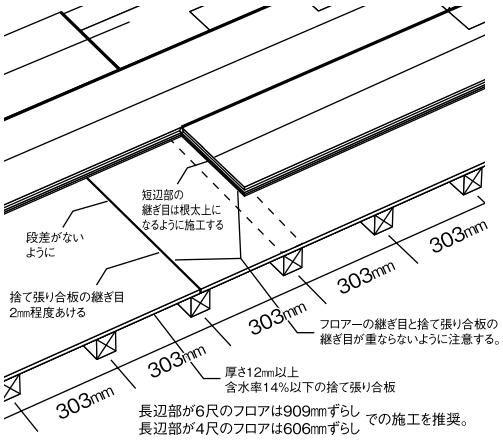
●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38㎜以上）またはフロアーネイル（長さ38㎜以上）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

1 フロアーの割り付け ※イラストは捨て張り工法の場合になります。根太工法の場合も手順は同様になります。

●フロアーの短辺部のサネ接続は根太上になるようフロアーの割り付けをおこなってください。
●フロアーは根太と直交するように施工してください。
※捨て張り合板の継ぎ目とフロアーの継ぎ目が重ならないように注意してください。

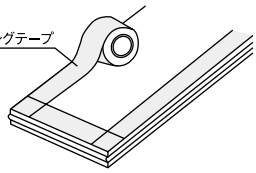
床暖房を施工する場合



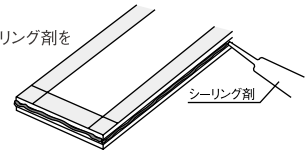


水廻りに施工する場合

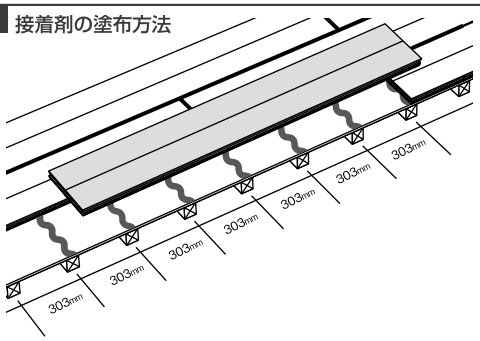
表面のマスキング
床材表面周囲にマスキングテープ（現場調達）を貼ってください。
目地防水用のシーリング剤が床材表面につくと、滑りやすくなります。



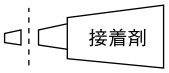
シーリング剤の塗布
オスザネ上部（長手、短手方向とも）にシーリング剤を塗布します。このとき、オスザネとメスザネをはめ合わせたときに、目地からシーリング剤がはみ出すくらい塗布します。
シーリング剤はコニシボンドシリコンコーク]（クリア色）または、耐水性のあるシリコン系のシーリング剤（クリア色）をご使用ください。



2 接着剤の塗布方法



①弊社指定の接着剤を根太上に303㎜間隔で塗布してください。
②短辺接続部分は両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。
（接着剤の太さ約8mm／本が目安。塗布量:約150g／m2）
※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
（接着剤の太さ約4mm／本が目安。塗布量:約150g／m2）



塗布量が8mm／本になるように
ノズルの先端をカットしてください。

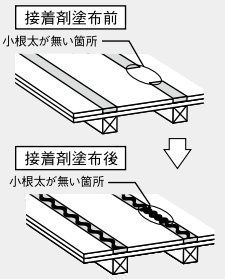
床暖房を施工する場合

①弊社指定の接着剤を
小根太上に303㎜間隔で塗布
してください。
※発熱パネルタイプの場合は釘打ち可能位置に303㎜間隔で塗布してください。

②短辺接続部分は両方のフロアー裏面に充分付着するように波状に塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。
（接着剤の太さ約8mm／本が目安。
塗布量:約150g／m²）
※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
（接着剤の太さ約4mm／本が目安。塗布量:約150g／m²）

塗布量が8mm／本になるように
ノズルの先端をカットしてください。

③温水パイプ配管コーナー部の小根太がなく釘打ちできない箇所には接着剤塗布量を増やし、フロアーのサネ接続部分を接着剤で確実に固定してください。
※小根太のない位置にフロアーの接続部がこないように割り付けを行ってください。



コンビットリアージュ®

3 短辺オスザネ下部への接着剤塗布

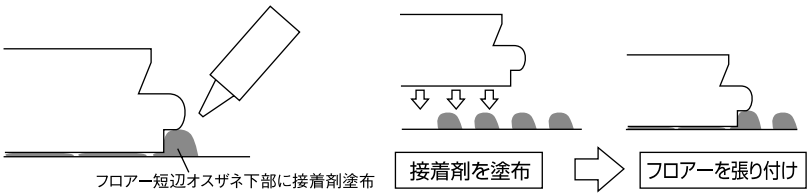
●2枚目以降のフロアー張り付け時、フロアー短辺オスザネ下部に接着剤が入り込むようフロアーを張ってください。

接着剤カートリッジのノズル1口タイプ使用時

接着剤カートリッジのノズルが1口タイプを使用する場合には、フロアー張り付け後、改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布してください。（接着剤の太さ約8mm／本が目安。塗布量約150g／m²）

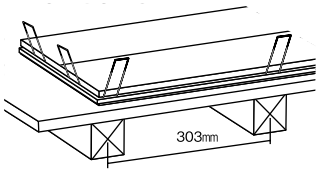
接着剤カートリッジのノズル4口タイプ使用時

接着剤を下地に4列波状塗布することで、短辺オスザネに接着塗布が可能です。改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布する必要はありません。

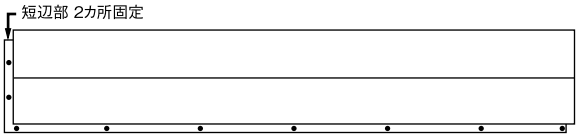


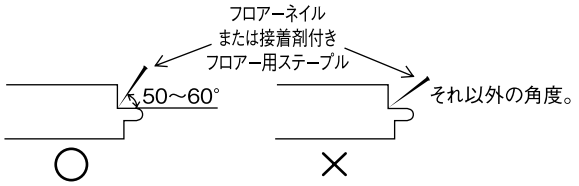
4 釘打ち

フロアーの長辺方向303mmピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



※釘打ち角度は50～60°で打ち込んでください。
これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生してしまうおそれがありますので特に注意してください。

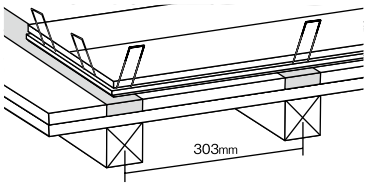




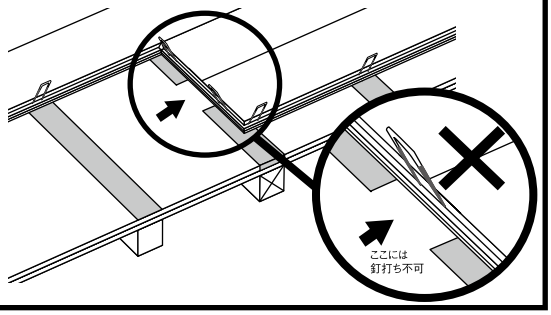
床暖房を施工する場合

※フロアーの短辺、長辺のサネ接続は小根太上になることを確認した上でフロアー施工を始めてください。
釘打ちはフロアーを押さえ、フロアーと下地をしっかり密着させた状態で釘打ちしてください。

フロアーの長辺方向303mmピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2ヵ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



※温水パイプ配管コーナー部の小根太が無い箇所については釘打ち厳禁です。

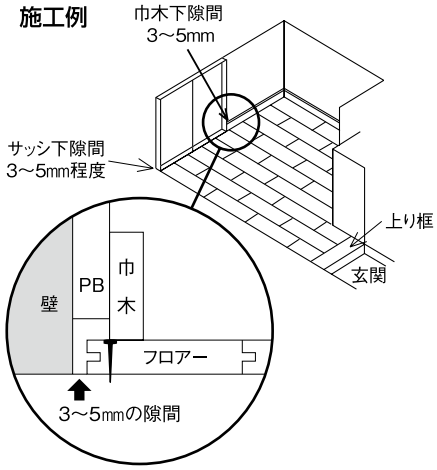


5 壁際およびサッシ下の隙間

（フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください。）

※フロアー周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3～5mm程度の隙間をあけてください。
また端部の床材は脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。

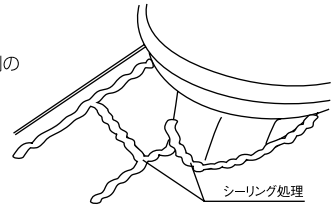
施工例



水廻りに施工する場合

便器周辺などの隙間処理

床材の目地部分だけではなく、便器の周辺、巾木、敷居など水が浸入する隙間には、全てシーリング剤の塗布をし、完全に防水してください。
防水が完全でない場合は変色などの不具合が発生します。

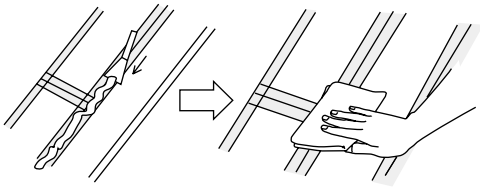


シーリング剤の拭き取り

目地部分からはみ出したシーリング剤をスクレーパー等でかき取った後、きれいな雑巾等で拭き取ってください。

●床材表面にシーリング剤が付着した場合、シンナーかお湯の浸透した雑巾できれいに拭き取ってください。**放置すると表面が滑りやすくなり危険です。**

●きれいにマスキングテープをはがしてください。



6 梅雨時期の湿度対策

●施工現場にて開梱後は養生期間をおかずに速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工お願いします。

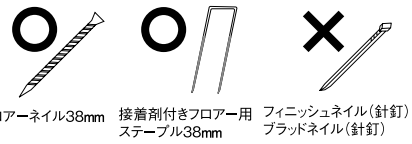
根太工法用フローリング

床材の取り付け

お願い　根太工法用フローリングは根太（捨て張り）施工専用です。直張り施工はおこなわないでください。

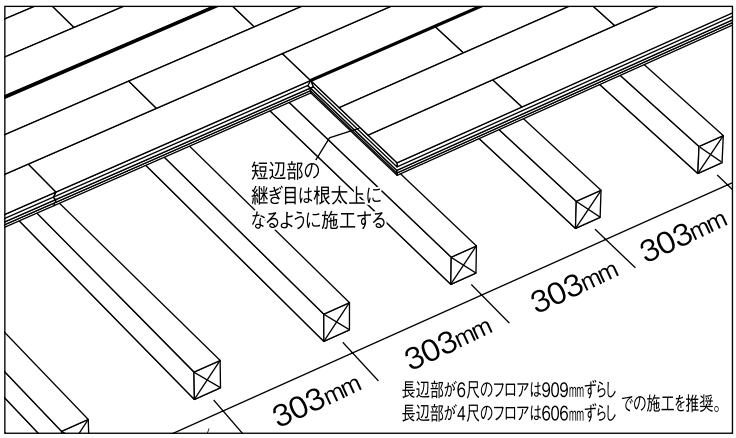
●釘仕様
接着剤付きフロアー用ステープル（足長38mm以上）またはフロアーネイル（長さ38mm以上）をご使用ください。
※フィニッシュネイル・ブラッドネイル（針釘）や通常の釘類は使用しないでください。

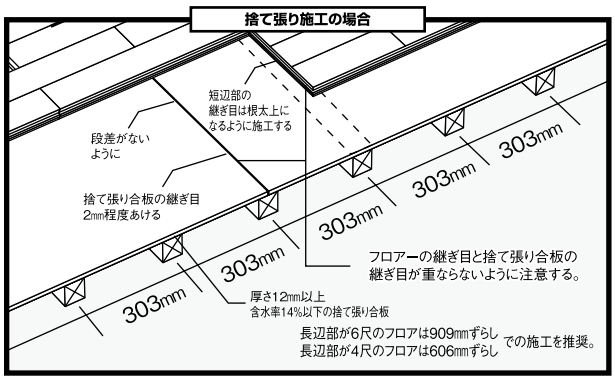
●指定接着剤
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0221）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ接着剤（ボンドKU928C-X）～ウレタン系一液接着剤～
※上記の接着剤からお選びください。
※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

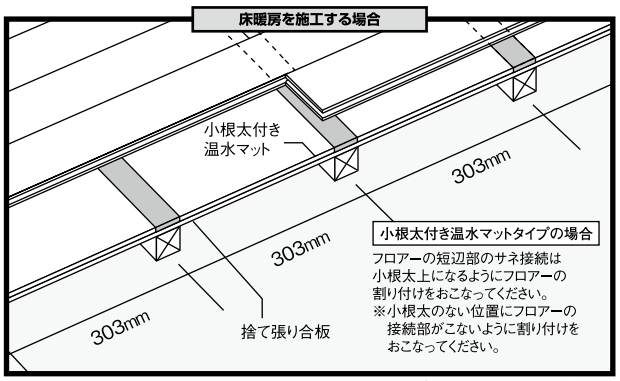


フロアーの割り付け

●フロアーの短辺部のサネ接続は根太上になるようフロアーの割り付けをおこなってください。
●フロアーは根太と直交するように施工してください。
※捨て張り施工する場合は合板の継ぎ目とフロアーの継ぎ目が重ならないように注意してください。



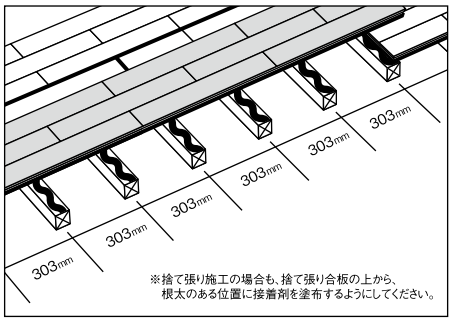




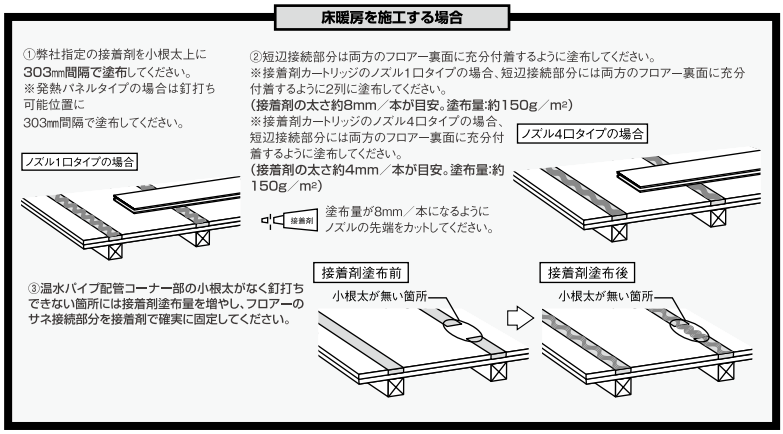
※床暖房施工を行う場合は、必ず捨て張り施工にしてください。

接着剤の塗布方法

●弊社指定の接着剤を根太上に303mm間隔で塗布してください。



⚠ 注意　接着剤がフロアーの表面に付着した場合は、乾いた布や、シンナー・アルコールを染みこませた布ですばやく拭き取ってください。
接着剤が硬化すると取れなくなります。また、水拭きだと接着剤が表面に残り、ムラや汚れの原因となるおそれがあります。



根太工法用フローリング

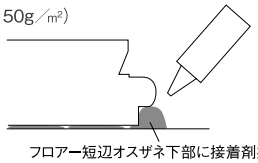
短辺オスザネ下部への接着剤塗布

●2枚目以降のフロアー張り付け時、フロアー短辺オスザネ下部に接着剤が入り込むようフロアーを張ってください。

接着剤カートリッジのノズル1口タイプ使用時

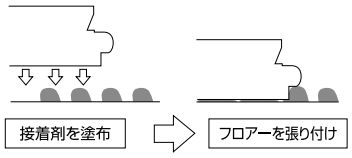
接着剤カートリッジのノズルが1口タイプを使用する場合には、フロアー張り付け後、改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布してください。
（接着剤の太さ約8mm本が目安。塗布量約150g／m²）

塗布量が8mm／本になるようにノズルの先端をカットしてください。



接着剤カートリッジのノズル4口タイプ使用時

接着剤を下地に4列波状塗布することで、短辺オスザネに接着塗布が可能です。
改めてフロアー短辺オスザネ下部に接着剤を塗布する必要はありません。



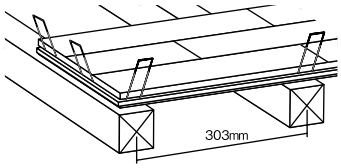
⚠注意　接着剤のはみ出しが無いよう適量を塗布し製品表面に接着剤が付着した場合には速やかに布などで拭き取ってください。接着剤が硬化後は除去することができなくなります。

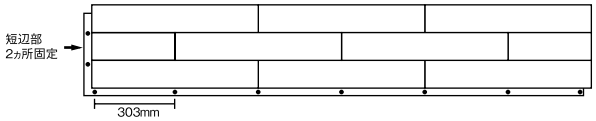
釘打ち

（1）1×6フロアーの場合

フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。

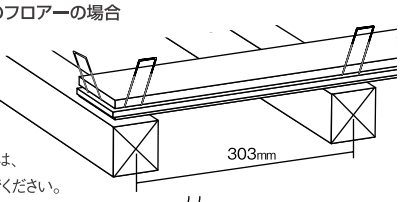
※捨て張り施工の場合も、捨て張り合板の上から、根太のある位置に釘打ちをするようにしてください。

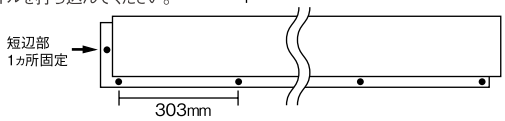




（2）短辺部が303㎜未満のフロアーの場合

フロアーの長辺方向303㎜ピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）1カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。





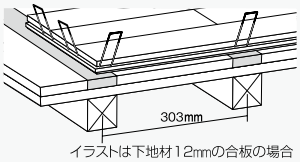
⚠注意　釘（接着剤付きフロアー用ステープルもしくはフロアーネイル）打ち込み時、釘の頭がフロアーにめり込まないよう適正なエア圧を設定してください。釘の頭がめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

床暖房を施工する場合

※フロアーの短辺、長辺のサネ接続は小根太上になることを確認した上でフロアー施工を始めてください。
釘打ちはフロアーを押さえ、フロアーと下地をしっかり密着させた状態で釘打ちしてください。

（1）1×6フロアーの場合

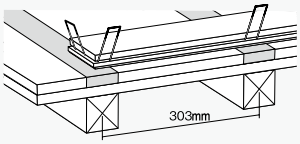
フロアーの長辺方向303mmピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）2カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



イラストは下地材12㎜の合板の場合

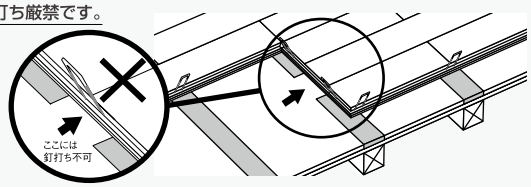
（2）短辺が303mm未満のフロアーの場合

フロアーの長辺方向303mmピッチ、短辺方向（エンドマッチ部）1カ所、弊社指定の接着剤付きフロアー用ステープルもしくは、フロアーネイルを打ち込んでください。



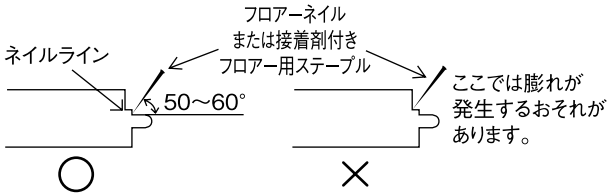
イラストは下地材12㎜の合板の場合

※温水パイプ配管コーナー部の小根太が無い箇所については釘打ち厳禁です。

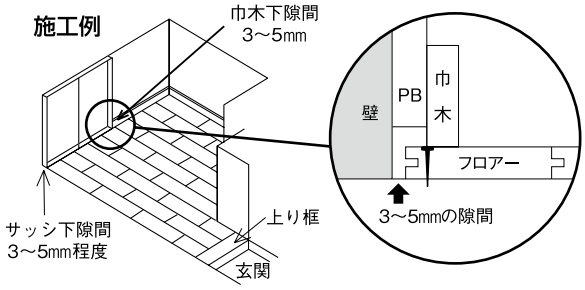


壁際およびサッシ下の隙間（フロアーの突き上げ防止のため必ずおこなってください）

※釘打ち角度は50～60°で打ち込んでください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生してしまうおそれがありますので特に注意してください。



※フロアー周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3～5㎜程度の隙間をあけてください。また端部の床材は脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。



梅雨時期の湿度対策

●施工現場にて開梱後は養生期間をおかずに速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工お願いします。

直張り接着工法用床材

床材の取り付け

お願い　モルタル下地専用ですので、合板・パーティクルボード・MDF等の下地および二重床へのご使用はお避けください。

指定接着剤

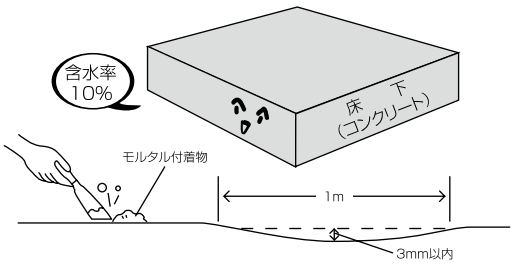
ウッドワン専用接着剤（品番:ZX0211）～ウレタン系一液接着剤～（クシ目コテ同梱）
オーシカ（株）（品番:UR-145）～ウレタン系一液接着剤～
コニシ（株）（品番:KV-928R/C）
※上記の接着剤からお選びください。**※酢酸ビニル系（白ボンド）・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。**

十分な乾燥の後、施工する

RC構造などの床下が完全防水の場合、下地材・床下等がひどく濡れた状態で施工すると、施工後の床材に伸びや膨れ・変色やカビの原因となるおそれがあります。床下地や床下が雨で濡れると乾燥するまでに時間を要します。**屋根工事が終わるまではビニールシート等で濡れないように保護してください。**

モルタル下地の場合

●モルタル含水率計を使用して、**モルタル含水率が10%以下であることを確認してください。**
※乾燥の目安は、打設後、夏季で3週間、冬季で4週間以上が必要です。
※含水率が10%より高いと接着不良や床材の反り・突き上げ・変色等が生じるおそれがあります。
●モルタル表面に粉ふきやほこりがある場合には、十分に除去してください。小粒のモルタル付着物が多く除去が困難な場合にはセルフレベリング材などで平滑にしてください。
●不陸は、1mあたり3mm以下としてください。
これより大きくなると踏み鳴りや接着不良のおそれがあります。
●部分的な起伏・モルタルの浮き・亀裂がないことを確認してください。部分的な凹みは深さが3mm以下で広さが100cm²以内としてください。



ALC（軽量気泡コンクリート）下地の場合

●ALC板は表面がもろく、施工後、床材がはがれるおそれがあります。ただし、モルタル等で下地調整して
「モルタル下地の場合」同様の下地処理を行った場合は施工が可能です。

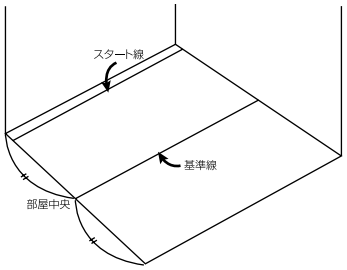
床暖房パネル（周囲の高さ調整用合板下地材含む）の場合

●直張り接着工法用の発熱パネルであることを確認してください。
●発熱パネルは各メーカーの施工要領に従って施工してください。
●発熱パネルの周辺の副資材（合板等）との段差が1mm以下になるように仕上げてください。
※クッションフロアーの上には施工できません。
※パーティクルボード・MDF等の下地および二重床へのご使用はできません。

1 フロアーの割り付け・墨打ち

割り付け・墨打ち

●部屋の中央に基準線を墨出ししてください。
●廊下や壁際などの隅部の納まりを考慮して、基準線を平行移動し張り始めのスタート線を墨出ししてください。



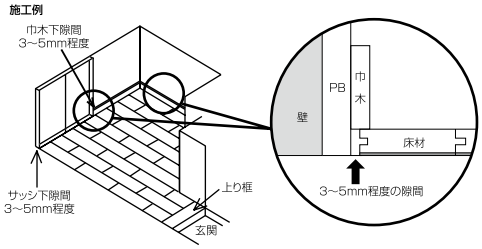
張り始め

●墨出ししたスタート線に合わせてフロアーの張り始めの位置を決めます。

壁際の納まり

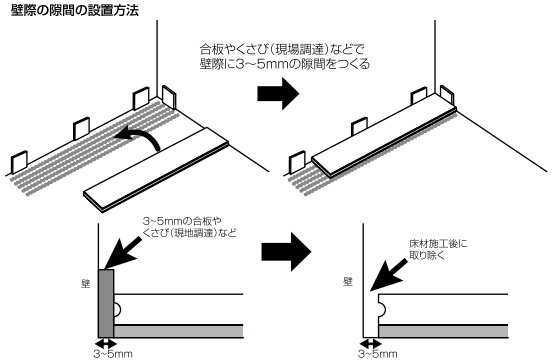
●床材周囲の壁・敷居・下枠サッシ下などとの間には、3～5mm程度の隙間を開けて施工してください。
※木質フローリングは、水分の吸湿乾燥によって、伸び縮みします。そのため、隙間を開けないと突き上げが発生するおそれがあります。
※3～5mm程度の隙間を開けられない場合には、床材の短辺部の接合を0.2～0.4mm程度の隙間ができるように軽く突いて施工してください。

施工例



●厚さ3～5mmの合板やくさび（現場調達）などを壁等と床材の間にはさみ、施工後に合板やくさびなどを除去すると隙間が開けられます。隙間を隠すため、巾木は後から施工してください。必要に応じてコーキング処理などを行ってください。

壁際の隙間の設置方法

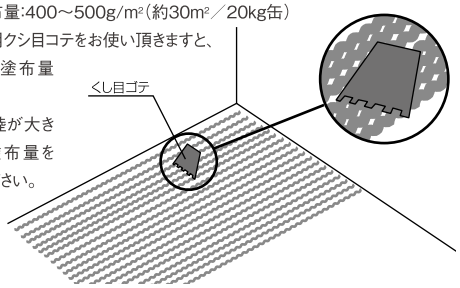


直張り接着工法用床材

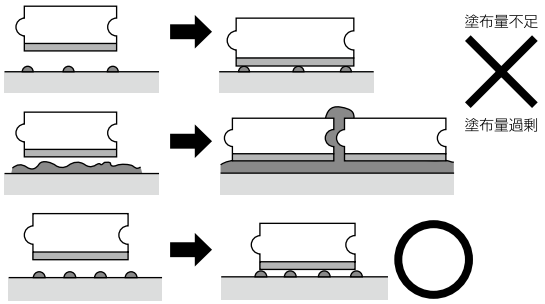
2 接着剤の塗布・張り施工

接着剤の塗布

●当社指定のウレタン樹脂接着剤で施工してください。接着剤はよく混ぜてから使用し、**塗布後30分以内**に床材を施工してください。
接着剤の塗布量:400～500g/m²(約30m²／20kg缶)
※同梱の専用クシ目コテをお使い頂きますと、おおよそこの塗布量になります。
※下地の不陸が大きい場合は、塗布量を多めにしてください。



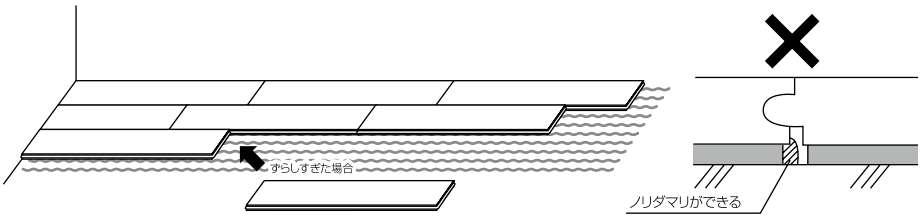
接着剤の適正塗布量



※接着剤の塗布が多すぎると踏み鳴りやフロアー表面へのはみ出すおそれがあります。万一、表面に付着した場合には、直ちに濡れ雑巾または溶剤等で軽く拭き取ってください。硬化後では絶対にとれませんので注意してください。また、接着剤が少なすぎると接着不良のおそれがあります。

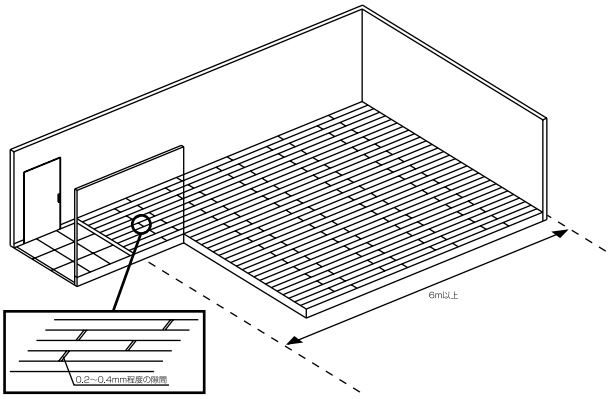
張り施工

●2枚目以降のフロアーは、できるだけずらさないようにしてサネを差し込んでください。ずらしすぎるとサネ部にノリダマリができて歩行感が硬くなります。



●フロアーの施工は、ゴムハンマーを使用し、フロアー表面を軽く叩いて、軽く突く程度にサネをはめてください。不陸等によりサネがはいりにくい場合には、再度、ゴムハンマーで軽く締め直してください。
※踏み鳴りの原因となりますので釘は絶対に使用しないでください。
●フロアーは尺ずらし(303mm)以上としてください。

●フロアーの長手方向の施工距離が長い場合(廊下～リビング等)、湿気によりフロアーが伸びて突き上げが発生することがあります。6m以上の場合にはフロアー短辺部の接合部を0.2～0.4mm程度フロアーの伸びを考慮した隙間を設けるか、見切り材をいれて、見切り材とフロアー材で3mm程度の隙間をもたせて施工してください。

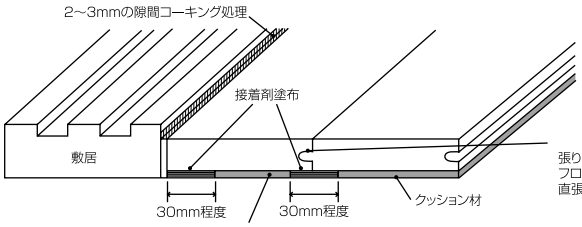


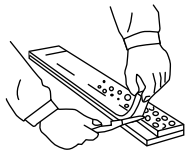
遮音タイプを施工する場合

際根太の施工

上り框、敷居等との突き付け部分には、段差・隙間が発生するのを防止するため、必ずたわみ防止材として同梱の際根太を使用してください。また、際根太と床材は接着剤で固定してください。

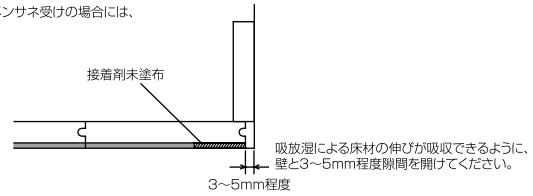
フロアー裏面のクッション材を際根太相当分だけカッターにて除去してください。





張り始め、張りしまいのフローリングのサネ受け部には、フローリングすれ防止のために、木工ボンドまたは直張り接着剤を点付け塗布してください。

壁際の巾木の下部については、際根太と床材は接着剤で固定しないでください。



3 梅雨時期の湿度対策

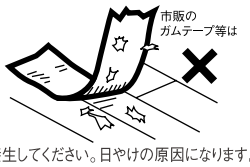
●施工現場にて開梱後は養生期間をおかずに速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工お願いします。

床材（共通）

施工終了後

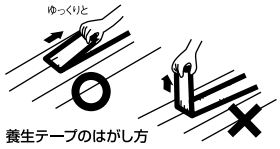
養生

●施工後は、木屑や砂、ごみをきれいに取り除いてダンボール、ベニヤまたは養生カバー等で隙間なくカバーしてください。市販のガムテープや粘着力の強い養生テープをご使用になりますと、塗膜の剥がれの原因になりますので、別売の養生テープ（ZY0211）をご使用ください。



※窓際や直接日光が当たる場所は、すき間をあけずに養生してください。日やけの原因になります。

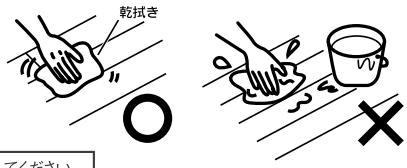
●養生テープを取り除く際は、テープを床面と垂直にしながら剥がすと、製品表面の塗膜剥離をおこすおそれがありますので、テープを床面と平行にしながら、ゆっくりと剥がしてください。



養生テープのはがし方

汚れ落とし

ほこり、小さな汚れを乾いた布で乾拭きしてください。水拭きを行うと長期の間に割れが発生することがありますので、避けてください。ただし、汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた雑巾を堅く絞ってから拭いてください。



お願い	美装業者様におかれましては、下記の点およびワックス塗布の注意事項について十分注意して作業してください。 ※**フローリング表面に、水や洗剤を撒き散らさないでください**。**変色や、床材の変形の原因になります**。 ※ポリッシャーには柔らかいパットをご使用ください。表面のキズの原因になります。 ※自然塗装製品には水は絶対に使用しないでください。毛羽立ち、白化、シミ等の原因となるおそれがあります。

⚠ 注意	養生期間中、絶対に床暖房および暖房機器の使用は避けてください。フロアーのサネ接続部の隙間発生などの原因となるおそれがあります。

通常塗装の場合

〈ワックス塗布の前に〉

1 ワックスの選定

半年に一度、ワックスによるお手入れを施してください。必ず弊社推奨のワックスをご使用ください。他のワックスはトラブルの原因になります。

フリーワックス製品に関して

フリーワックス製品に関してはワックス塗布は必要ありません。汚れや薬品による汚染、変色が発生しにくく、傷がつきにくい性能を有しています。（お客様の希望によりワックス塗布は可能ですが、化粧表面はワックスの塗布性能となります）

推奨メーカー名	（株）リンレイ
推奨ワックス名	ハイテクフローリングコート、ノンブライト、 ハイテクフローリングコート つや消し40（ピノアース用）

※無垢フローリングピノアースにはノンブライト、ハイテクフローリングコートつや消し40（共にリンレイ）がおすすめです。
※油性ワックス・ロウワックスは絶対に使用しないでください。
（油性ワックスの上に樹脂ワックスを塗布した場合白化することがあります）
※化学雑巾は使用しないでください。（特にワックス塗布直前・塗布後は絶対に使用しないでください）

2 天気の良い日を選び、窓を開けましょう

※雨天等で、湿気が極端に高いときは避けてください。
※気温が低く床材表面が5℃以下での使用はお控えください。
※床暖房用フローリングのお手入れは、床暖房のスイッチを切り、フローリング表面が冷えてからおこなってください。床暖房中に作業を行うと、床暖房パネルの故障、フローリング表面のヒビ割れ、変色などの原因となります。

3 汚れ落とし

（**イ**）床面のゴミ・ホコリ等を掃除機を使用して十分に取り除いてください
（**ロ**）床用洗剤（「マイペット」、「オール床クリーナー」等）を薄めた液を雑巾に含ませ、堅く絞ってから拭いてください。
※施工後の床材の表面には、汚れ・油分が付着しているので、十分に洗浄をしてください。
※洗剤を使用する場合は、予め目立たないところで試験洗いをし異常のないことを確認してください。
※長時間、フローリング表面に水分が残らないよう作業してください。
※アルカリ性の強い洗剤は使用しないでください。
※**洗剤を、フローリング表面に多量に撒き散らしたり、多量に塗布しないでください**。
※スプレータイプの床用洗剤の場合は、雑巾に洗剤をスプレーして拭いてください。
（**ハ**）水を含ませ、堅く絞った雑巾で洗剤を完全に拭き取ってください。
※洗剤の成分が床面に残るとワックスの密着が悪くなります。
※床材の目地にも洗剤分が残らないようにきれいに拭き取ってください。

〈ワックスの塗布〉

1 塗布

床が完全に乾いたら、きれいなウエスにワックスを含ませ、木目に沿って薄くムラ無く均一に塗ってください。
※ワックスは、当社推奨ワックスを使用し、ウエスにワックスをしみ込ませて均一に塗布してください。
※ワックスを十分に撹拌してください。
※**フローリング表面に撒き散らして塗布せず、また塗りすぎないでください**。
※床材の目地に、樹脂ワックスが溜まらないように注意してください。
※重ね塗りの場合、前に塗ったワックスを必ず乾かしてから塗布してください。

お願い	●ワックスは使用を誤ると、ベトついたり白化や粉上、変色、密着不良などの異常を起こす場合があります。必ず※印の注意事項を遵守してお手入れしてください。ワックス剥離剤は製品の美観および品質をそこないます。絶対に使用しないでください。 ●木質系のフローリングは水分を多く含むと、変色したり、表面がシワ状になることがあります。塗布の際には、十分にご注意ください。 ※濃色系の床材は光沢の加減でワックスの擦り傷が目立つ場合があります。ご了承ください。 ※コンビットリアージュ®（木質柄）は、ペットの滑りに配慮した床材です。そのため、ワックスを塗布すると、床材表面性能であるペットの滑り性能がワックス膜で隠れてしまいますので、ワックスは塗布しないでください。また、汚れやすり傷がつきにくい表面性能としていますが、ペットの爪等による引っ掻き傷がつかないものではありません。

2 乾燥

乾燥するまで、ワックスを塗ったところを歩かないでください。

床材（共通）

自然塗装品の場合

〈ワックスの選択〉

自然塗料はウレタン系などの塗料と異なり、オイルを浸透させることによって木目をひきたて、木材の呼吸を妨げず、木材が室内の湿度を調整する役割をします。但し、自然塗料は合成樹脂塗料に比べて、床材の表面を保護しないため、日常のきめ細かいメンテナンスが重要です。本品は自然塗料仕上げ商品ですので必ず推奨別売品の自然塗料専用お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」（下記参照）をご使用ください。汚れを落とすと同時にワックス分を補います。また、表面のツヤ出しやはっ水性が必要な場合は別売の固形ワックスをご使用ください。市販の一般床材用樹脂ワックス・油性ワックス等はご使用にならないでください。

〈ワックスの種類〉

下記に示す自然塗料専用ワックスを塗布してください。使用方法はワックスの説明書をご覧ください。

	品　名	容量	塗布可能面積の目安	用　途
当社取扱い品	①お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」	1ℓ	55～30,000㎡	日常のお手入れや軽い汚れ落とし。
		250mℓ	14～7,500㎡	
	②汚れ落としワックス「グレイボ」	50mℓ	——	手垢などの汚れ落としや、表面のツヤ出し用に。
当社推奨品	③メンテナンスキット 植物オイル（全3色）と植物ワックスの詰め合わせ （ハニーブラウン色、ホワイト色、クリア色）	植物オイル50mℓ（1個） 植物ワックス50mℓ（1個）	——	植物オイル（各色）は部分的な補修用。植物ワックスは表面のツヤ出しやはっ水性向上。
	④植物オイル（全3色） （ハニーブラウン色、ホワイト色、クリア色）	750mℓ	15㎡	現場塗装や、定期的な塗り替え用。
		50mℓ	1㎡	

※ご注文の際は販売店様または代理店様にご相談ください。
※お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」と、汚れ落としワックス「グレイボ」はリボス社製品取扱店でもお求めいただけます。

〈ワックス塗布の前に〉

以下の事項を必ずご確認ください。
- お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」はご使用前によく振って、必ずウエス等の布にとって拭いてください。製品に直接塗ると、シミの原因になります。
- 固形ワックスはそのままウエスにとるか、湯煎にかけてワックスをやわらかくしてからお使いください。直火は絶対にしないでください。
- 金属ダストや削りクズなどが残っていると仕上げ塗布した時、黒ジミの原因となりますので、きれいに取り除いておいてください。

〈お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」の塗布手順〉

通常のメンテナンス

（イ）床面のゴミ・ホコリ等を掃除機を使用して十分に取り除いてください。
（ロ）きれいな雑巾に水で薄めたお手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」（ワックスクリーナーを4～10倍の水で薄める）を含ませよく絞ってから、床の表面を拭いてください。
（ハ）乾くまで床の上を歩かないでください。

汚れが激しいときのメンテナンス

（イ）ひどい汚れはお手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」の原液をきれいな雑巾にとり、汚れを拭きとってください。
（ロ）深くしみ込んだ汚れは、#320くらいのサンドペーパーで軽くこすり落とし、メンテナンスキットに入っている「植物オイル」で仕上げてください。
（ハ）深いキズは、同系色の補修剤を埋めこんでから、「植物オイル」で仕上げてください。

お手入れ関連製品のご紹介

①お手入れ用ワックスクリーナー「グラノス」（1L、250mL入）
日常のお手入れや、軽い汚れ落としに。天然成分100%

②汚れ落としワックス「グレイボ」（50mL用）
手垢などの汚れ落としや、表面のツヤ出し用に。

③メンテナンスキット（50mL×2個）
植物オイルと、はっ水性を高める植物ワックス。どちらも天然成分100%

④植物オイル（750mL、50mL）
現場塗装や、定期的な塗り替え用。※750mLで約15m²塗布できます（1回塗りの場合）

①

当社取扱い品

②

当社取扱い品

③

当社推奨品

④

当社推奨品

③④のお問合せ先
株式会社 イケダコーポレーション
エコロジー事業部
〒104-0045
東京都中央区築地1-13-13 北泉ビル8F
TEL（03）3544-4453　FAX（03）3544-4450
E-Mail:ecology-t@iskcorp.com

〒553-0003
大阪市福島区福島4-8-28FJビル3F
TEL（06）6452-9377　FAX（06）6452-9378
E-Mail:ecology@iskcorp.com

ホームページ http://www.iskcorp.com

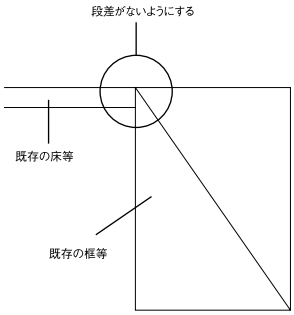
詳しいお手入れの方法は、お手入れ関連製品に付いている使用説明書をご覧ください。

上り框（リフォームタイプ）

施工手順

1 取り付け前準備

既存の上り框の上面とフロアーをカンナまたはサンダーなどで削り、段差をなくして平滑にしてください。



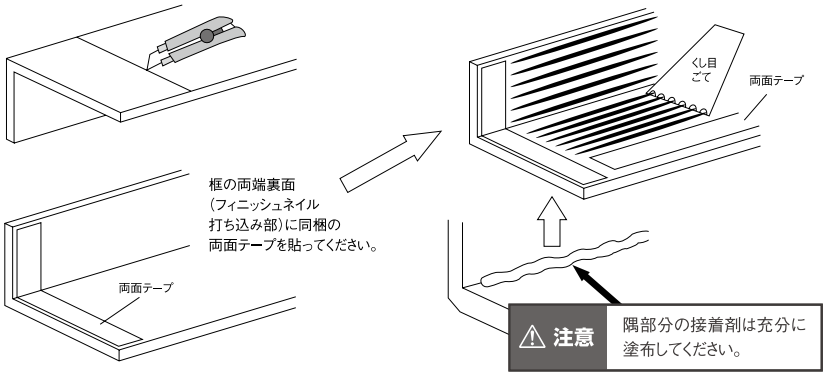
2-1 本体の取り付け

●指定接着剤
6㎜床材用框（ウッドワン6㎜床用接着剤ZX0311、オーシカ（株）UR-145、コニシ（株）KU-928R）
12㎜床材用框（ウッドワン カートリッジ式接着剤ZX0221、コニシ（株）KU-928C）

※接着剤は弊社指定のウレタン樹脂接着剤をご使用ください。

（1）長さカット時にはバリ、割れの防止のため、あらかじめカッターナイフ等で毛引きを入れてください。

（2）6㎜床材用の框は図のようにくし目ゴテを使用して専用接着剤を塗布してください。12㎜床材用の框はカートリッジガンで塗布してください。
※接着剤塗布後は30分以内に施工してください。

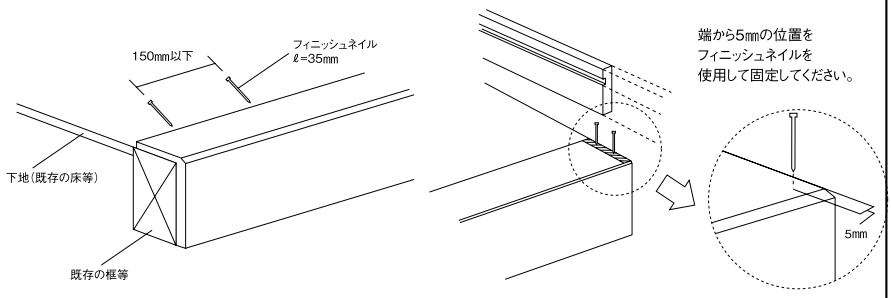


2-2 本体の取り付け

（3）框天面の側面によりフィニッシュネイルを斜め（45°）にピッチ150㎜以下で打ち込み固定してください。フィニッシュネイルの頭が残っている場合は、ポンチで打ち込んでください。

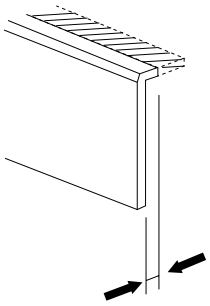
（4）框両端の天面を釘で固定してください。
（巾木納め部分）

※ビスは不可



3 玄関巾木部分の加工

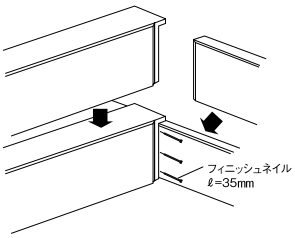
玄関巾木は、リフォーム框を既存の巾木厚さ寸法に合わせてカットしてご使用ください。



上り框、玄関巾木とも取り付けの場合の推奨取り付け方法

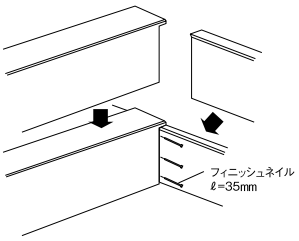
シャクリ・留め付き加工

巾木等で隠れる位置にフィニッシュネイルを使用して固定してください。



巾木天場面下斜め加工

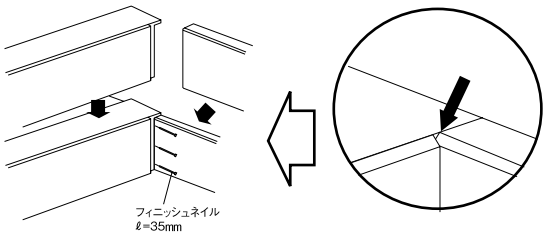
巾木等で隠れる位置にフィニッシュネイルを使用して固定してください。



シャクリ・留め無し加工

巾木等で隠れる位置にフィニッシュネイルを使用して固定してください。

この取り付け方法は矢印の部分は下地が露出するためタッチアップ等を施してください。



階段（安全上のご注意）

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **注意**　この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

全製品共通

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

必ずおこなう

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながる恐れがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には、水平な場所に平積みしてください。

・手すり・親柱・子柱の取付け時には必ずお守りください。
（1）子柱（手すり子）の間隔は、子供がすり抜けないように踏板に使用する場合は踏板1段について2本以上、2階ホール等に使用する場合は芯々135㎜以下としてください。また、2階ホールの手すりの高さは床面より1,100㎜を基準としてください。
（2）手すりの接続、手すりと親柱・子柱との接続、手すり・親柱・子柱の躯体側との接続はポリウレタン系接着剤（別売）を使用し強固に取付けてください。

・化粧造作材の固定を確実におこなってください。
化粧造作材を後かぶせで固定する際、落下して、ケガの原因となりますので、樹脂シート専用ボンド併用にて、確実に本体を下地材へかぶせ込み、固定してください。

・手すり・ブラケット取付時に必ずお守りください。
丸棒手すりは転落を防ぐため、次の点に配慮して施工してください。
（1）勾配部分（踊場を含む）の手すりの取り付け高さは踏面より750㎜程度としてください。更に子供用手すりを取り付ける場合は、踏面より高さ600㎜～650㎜程度としてください。
（2）手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮してください。
（3）アプローチ部分にも手すりを付けてください。
（4）ブラケット（手すり受け）の取り付け間隔は、手すりが折れないよう900㎜以下としてください。
（5）ブラケットは下地にしっかり固定してください。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れ補強してください。

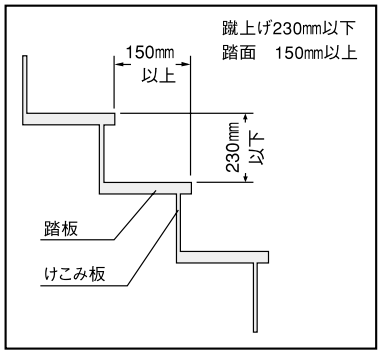
関連法規

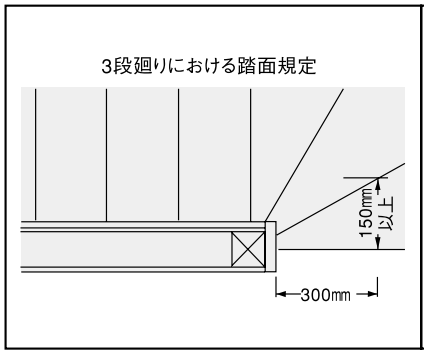
	建築基準法	住宅金融支援機構		日本住宅性能表示基準	
		フラット35技術基準	優良住宅取得支援制度（フラット35S）バリアフリー性 高齢者等配慮対策**等級3**	バリアフリー 高齢者等配慮対策**等級4**	バリアフリー 高齢者等配慮対策**等級5**
踏面寸法（T）	150㎜以上	150㎜以上	195㎜以上		
蹴上寸法（R）	230㎜以下	230㎜以下	550≦T+2R≦650㎜	550≦T+2R≦650㎜	550≦T+2R≦650㎜
階段及び踊場の幅	内法寸法750㎜以上（手すりがある場合は手すりの幅100㎜を限度として手すりがないものとして算出する。）	内法寸法750㎜以上（手すりがある場合は手すりの幅100㎜を限度として手すりがないものとして算出する。）	内法寸法750㎜以上（手すりがある場合は手すりの幅100㎜を限度として手すりがないものとして算出する。）	規定なし	規定なし
勾配	規定なし	規定なし	R/T≦22/21	R/T6/7以下	R/T6/7以下
鼻の出	規定なし	規定なし	30㎜以下（テーパー60°～90°を設けた蹴込板を設けることが望ましい。）	30㎜以下かつ蹴込板を設置。鼻の出はテーパー60°～90°を設けた部材を設置。	30㎜以下かつ蹴込板を設置。
踊場の位置	4,000㎜以下（それ以上の場合は途中に踊場を設ける）	4,000㎜以下（それ以上の場合は途中に踊場を設ける）	4,000㎜以下（それ以上の場合は途中に踊場を設ける）	規定なし	規定なし
手すりの設置	**片側は必須** ①手すりを設定する。 ②階段・踊場の両側(手すり設置側を除く)に、壁又はこれに代わるものを設ける。 ※高さ1m以下は適用外	**片側は必須** ①手すりを設定する。 ②階段・踊場の両側(手すり設置側を除く)に、壁又はこれに代わるものを設ける。 ※高さ1m以下は適用外	**片側は必須** ①手すりを設定する。 ②階段・踊場の両側（手すり設置側を除く）に、壁又はこれに代わるものを設ける。 ※高さ1m以下は適用外 **勾配が45°を超える場合は両側設置。**	規定なし	規定なし
階段手すりの高さ	規定なし	規定なし	700～900㎜	規定なし	規定なし
子柱の間隔	ー	ー	内法寸法で110㎜以下	規定なし	規定なし
2階以上にあるバルコニー等の手すりの高さ	1,100㎜以上	1,100㎜以上	1,100㎜以上	規定なし	規定なし
廻り階段の形状	規定なし	規定なし	規定なし。但し、最上段の通路等への食い込み部分や最下段の通路等への突出がないことが望ましい。	廻り階段等が安全な形式であること。最上段の通路等への食い込み部分や最下段の通路等への突出がないこと。	廻り階段等が安全な形式であること。最上段の通路等への食い込み部分や最下段の通路等への突出がないこと。

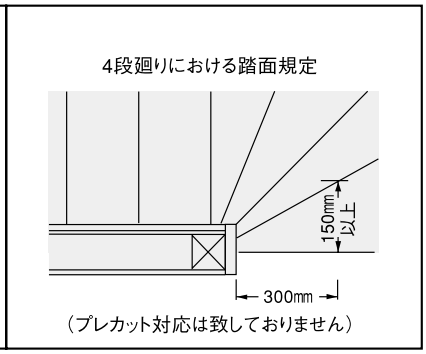
階段（関連法規）

階段及び階段まわりの関連法規

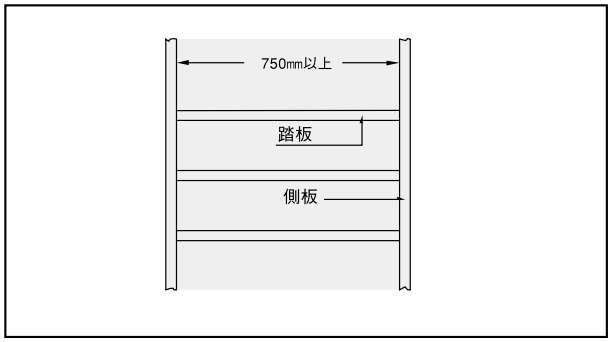
●建築基準法施行令の「階段の蹴上げ及び踏面の寸法についての規定」の第23条には次のように規定されています。
3段廻りでは内側の狭い方から300㎜の位置が有効踏面とされており、150㎜以上が必要です。また4段廻りでは、この第23条に適合しないことがありますから、注意してください。



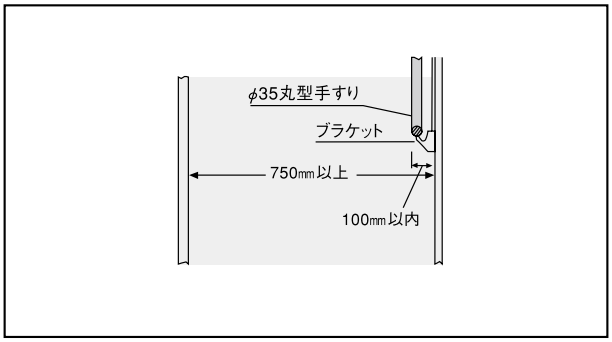




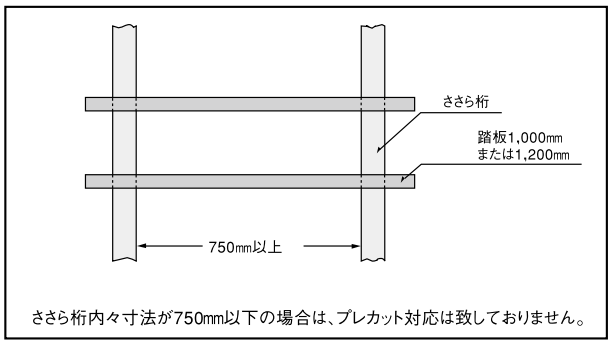
●このほか、有効寸法についての規定は、側板内々寸法750㎜以上を確保するように規定されています。



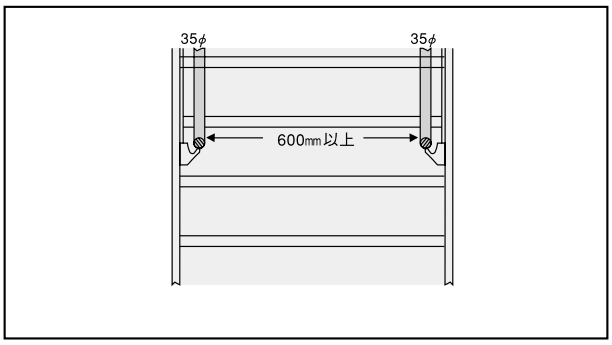
●建築基準法施工令の改正により階段室には手すりの設置が義務付けられています。
●階段室に丸型手すりを付ける場合、突出する部分が100㎜を超えない場合は階段幅に算入する事が可能です。あらかじめ、100㎜以内になるよう確認の上取り付けてください。



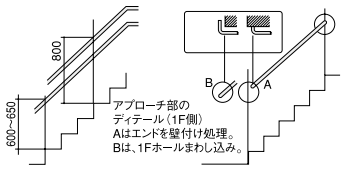
●ささら桁を用いる露出型階段では、ささら桁の内側からが有効内のり寸法と見なされますから踏板の長さ1,000㎜、1,200㎜のうちから適宜選んでください。



●手すりが階段等の両側に設けられる場合においては一方の手すりの突端から他方の手すりの突端までの内のりが600㎜以上とする。

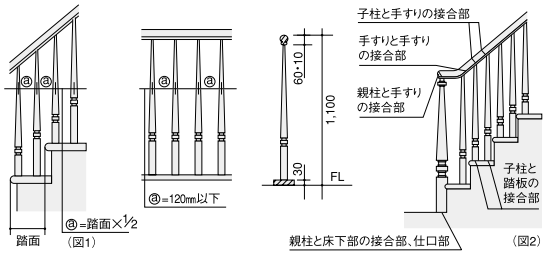


（1）手すりの取り付け高さは800㎜程度としてください。更に子供用手すりを取り付ける場合は、高さ600㎜～650㎜程度としてください。
（2）手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮してください。
（3）アプローチ部分にも手すりを付けてください。
（4）ブラケット（手すり受け）の取り付け間隔は、900㎜以下としてください。
（5）ブラケットは下地にしっかりと固定してください。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れてください。



弊社での積算基準

（1）子柱の間隔は踏板に使用する場合は2本、2階ホール等に使用する場合は芯々120㎜以下とする。2階ホールの手すりの高さは1,100㎜を基準とする。

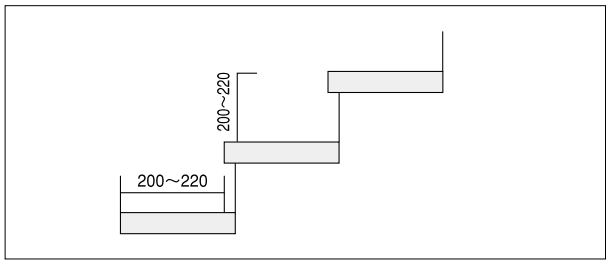


階段（安全上のご注意）

注意〈設計施工に際しての安全上のご注意〉　バリアフリー性住宅の階段設計について（住宅金融支援機構フラット35技術基準に基づく）

階段の勾配について

・勾配：R/T＝22/21以下としてください。
・踏面寸法＝（T）・蹴上げ寸法＝（R）とした場合、TおよびRは次の関係寸を満たす寸法としてください。
　T≧195mm かつ 550mm≦T＋2R≦650mm

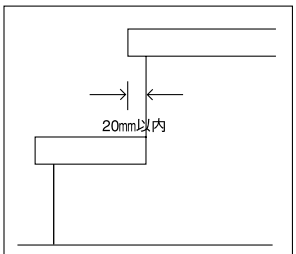


〔階段の勾配基準等に基づく踏面寸法及び蹴上げ寸法早見表〕

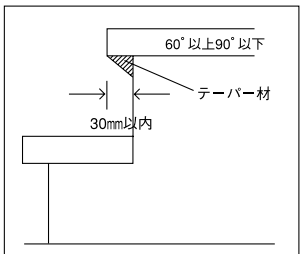
		蹴上げ寸法		
		基準寸法	推奨寸法1	推奨寸法2
		（勾配：22/21以下）	（勾配：6/7以下）	（勾配：7/11以下）
踏面寸法	195mm	178mm～204mm	――	――
	200mm	175mm～209mm	――	――
	205mm	176mm～214mm	172mm～175mm	――
	210mm	181mm～220mm	170mm～180mm	――
	215mm	185mm～217mm	167mm～184mm	――
	220mm	189mm～215mm	165mm～188mm	――
	225mm	193mm～212mm	162mm～192mm	――
	230mm	198mm～210mm	160mm～197mm	――
	235mm	202mm～207mm	157mm～201mm	――
	240mm	――	155mm～205mm	――
	245mm	――	156mm～202mm	152mm～155mm
	250mm	――	160mm～200mm	150mm～159mm
	255mm	――	163mm～197mm	147mm～162mm
	260mm	――	166mm～195mm	145mm～165mm
	265mm	――	169mm～192mm	142mm～168mm
	270mm	――	172mm～190mm	140mm～171mm
	住宅金融支援機構仕様書より　以下省略			

鼻の出寸法について

弊社は長寿社会対応住宅指針に基づいて鼻の出寸法20mm以下を推奨する。
やむを得ない場合30mm以内でも良いが、その際は60°以上90°以下のテーパー材を設けることが望ましい。

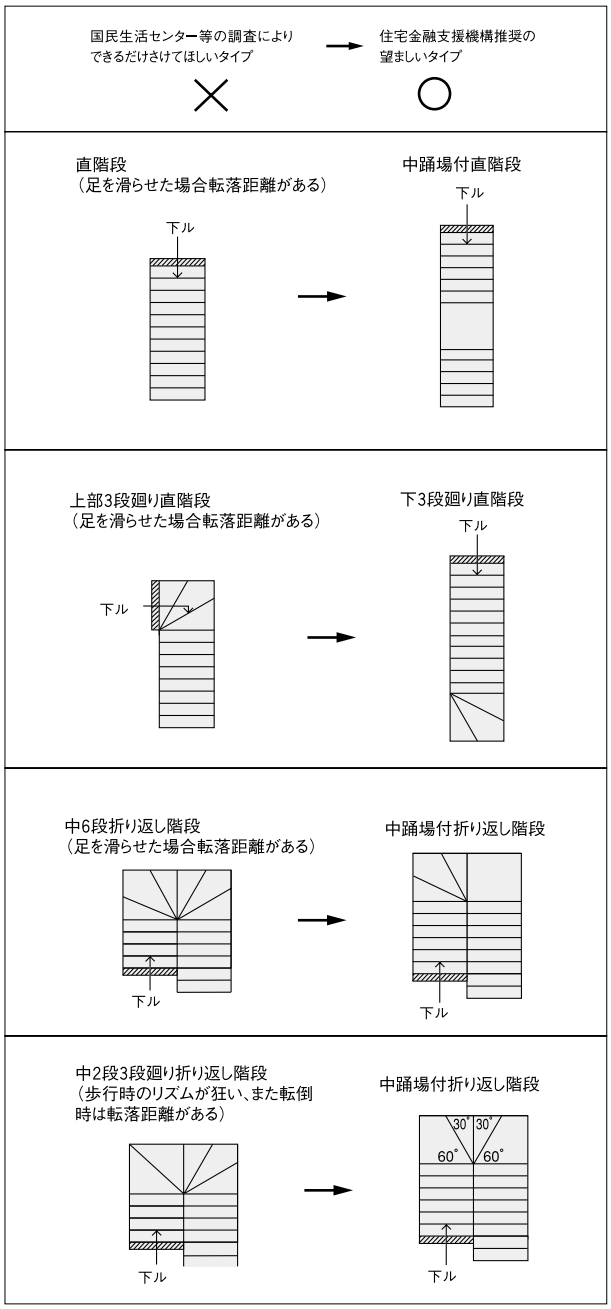


弊社推奨（国土交通省「長寿社会対応住宅設計指針」に基づく）

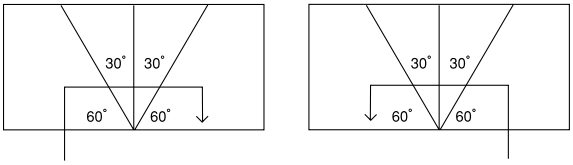


やむを得ない場合

階段のタイプ



・階段の形状は、直階段又は折れ階段とし転落距離が短くなるよう、中間には踊り場を設けるようにする。曲がり部分を設ける場合は下記のいずれかにする。
・曲がり部分は下階床から3段以内としてください。
・曲がり部分は踊り場から上3段以内としてください。
・廻り階段とする場合の曲がり部分は4段を標準とし下記曲がりとする。



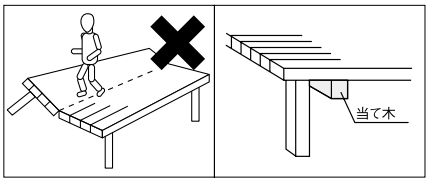
階段（施工上のご注意）

注意〈施工に際しての安全上のご注意〉

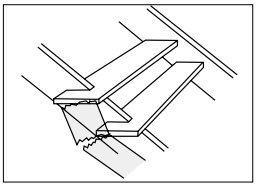
施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。
確実にお守りください。

1.当社階段及び階段廻り部材は住宅内装用部材であるため屋外に使用した場合、雨漏れ、強い太陽光により腐れ・割れ等の劣化が進み、転落等の原因になりますので屋外には使用しないでください。

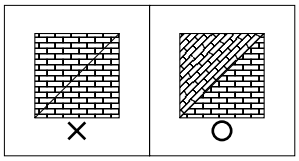
2.集成階段踊場をテーブルに使用し上に乗った場合、材破壊を起こし転倒の原因になるので使用しないでください。どうしても使用する場合は必ず下面に2ヵ所以上の当て木（当て金具）を使用する。



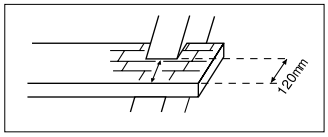
3.側板をささら桁の代用にすると強度不足のため折れ・転倒の原因になるので使用しないでください。



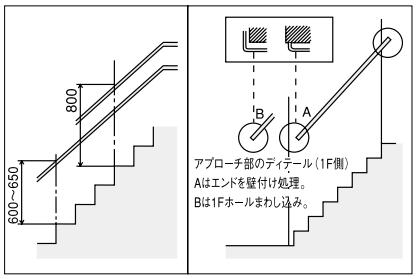
4.集成階段の踊場を2段廻り・3段廻りにカットして使用すると強度不足により材が破壊し、転倒・転落の原因になるので使用しないでください。



5.集成階段の露出用踏板のささら桁から段鼻までの距離が大きい場合、衝撃荷重により割れ・転倒の原因になりますので120mm以下にしてください。



6.丸棒手すりは転落を防ぐため、次の点に配慮して施工してください。
（1）勾配部分（踊り場を含む）の手すりの取り付け高さは踏面より800mm程度とする。更に子供用手すりを取り付ける場合は、踏面より高さ600mm～650mm程度とする。
（2）手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮のこと。
（3）アプローチ部分にも手すりを付ける。
（4）ブラケット（手すり受け）の取り付け間隔は、900mm以下を基準とする。
（5）ブラケットは下地にしっかり固定のこと。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れ補強する。



7.手すり・親柱・子柱は転倒転落防止のために次の点に配慮して施工してください。
（1）子柱 の間隔は、子供がすりぬけないように踏板に使用する場合は 踏板1段について2本以上、2階ホール等に使用する場合は芯々135mm以下とする。
（2）2階ホールの手すりの高さは床面より1,100mmを基準とする。
（3）手すりの接続、手すりと親柱子柱との接続、手すり・親柱・子柱の躯体側との接続はポリウレタン系接着剤（別売）を使用し、強固に取り付ける。

8.ホルムアルデヒド対策品ですが、換気をおこなわないと発生するホルムアルデヒドによって目、鼻、頭の痛みや皮膚に異常をきたすおそれがあります。

【集成材の施工における注意について】

集成材は欠点を除去した無垢材を接着積層しており、性能としては無垢の1枚ものよりも安定していますが、乾燥すれば収縮し、湿気を吸えば膨張することは木材という性質上避けられません。そのため、施工後に亀裂、隙間、波状凹凸などが発生することがあります。これらの不具合等を避けるため、下記の点に配慮してください。

①.弊社の集成材は含水率を10±2%にしております。
②.塗装品は湿度変化に対し、安定した特質をもっております。
③.無塗装品は長期の保管や放置によって変形することがあります。
④.機能性住宅では室内が乾燥傾向にありますので配慮が必要です。 ※1
⑤.湿気の多い立地での住宅では膨張傾向にありますので配慮が必要です。 ※2
⑥.無塗装品を表面塗装した場合、変形等の不具合の原因となります。必ず裏面も塗装してください。
⑦.下地の構成材がグリーン材であったりすると吸湿し、変形することがあります。
⑧.雨濡れした製品は不具合の原因となります。

※1 住宅によっては完成後の室内平衡含水率が7%前後という特性があり、乾燥収縮は幅広製品で顕著に出る傾向があります。とくに、階段の踊り場や2段、3段廻りの踏板では固定に用いる釘、ビスの本数や位置が収縮を阻害し、亀裂が発生する場合があります。収縮することを予見した仕口で「逃げ」をつくってください。

※2 乾燥と反対にこの場合も幅の広い製品ほど寸法変化が大きくなりますので同じように配慮してください。

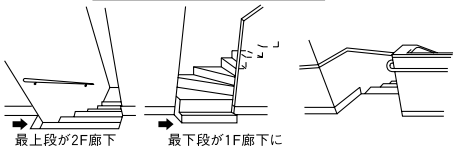
これらの配慮は部材どおしの取り合いによっては釘、ビスの使用が避けられないことがあります。その際は材の動きに釘、ビス類が追随できるように、径、長さ、材質、本数、位置を決定し、できるだけ「少なめ」にしてください。

⚠ 注意　集成階段（杉・桧）または集成ジュピーノ・ピノアースで蹴込板が集成材の場合は廻り踏板及び踊場の施工は商品同梱の説明書をご参照ください。

注意〈階段周辺の配置〉

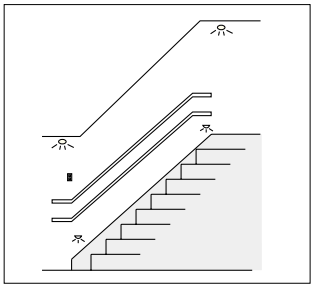
1.最上段、最下段が通路にはみ出さないようにする。
2.階段を歩いている人に向かって開くドアや窓がないようにする。
3.階段の途中や下など、転んでぶつかる所にガラスを用いない。
4.階段を昇降する時、天井やはりが邪魔にならないような高さにする。

参考図　階段の形状の留意事項



最上段が2F廊下に出ている。　最下段が1F廊下にはみ出している。
危険な階段の例　安全な階段の例

注意〈階段の照明〉



（1）階段室は自然光で明るさが保てるよう窓の位置・大きさを配慮する。
（2）照明は階段全体にゆきわたるようにし特に、降りる時に影ができないように設計すること。1ヵ所だけの電球では影ができます。
（3）照明器具は上下いずれからも点滅できるようなるべく3路スイッチを取り付けること。
（4）階段のアプローチ部分には足下灯を設置すること。

施工資料・参考資料

施工資料

1.開梱

梱包を解いたら製品に不足がないかどうかご確認ください。水濡れなど不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

お願い　照明灯・ストーブなどを近づけると、熱により変色しますので、開梱後施工完了まで0.5m以上離してください。

施工前の仮並べ

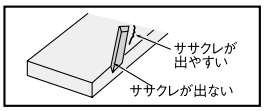
LV階段はいずれも天然木の単板が使われており、1枚1枚少しずつ違った色柄に仕上がっています。踏板、ケコミ板は側板に取り付ける前にあらかじめ淡い色から濃い色に順に仮並べし確認してから順番に側板に組み込んでください。

雨などに濡れた場合の処理方法

階段部材は基材・化粧単板ともに乾燥しておりますが、運搬中または施工中に水濡れ・洗い作業で水分を与えますと、基材のふくれや割れ、変色などの発生原因となります。万一濡れた場合には、すぐに乾いた布などでふき取り、乾燥させてから養生してください。

ササクレの防止

踏板や側板の切り込み、カットされる場合は、化粧単板のササクレを防ぐためにも、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフ等で必ずケビキ処理をし、ノコ、ノミ入れをおこなって加工してください。電動の溝切りカッターや丸ノコで木目の方向に対して斜めに加工する場合は、刃物の片側、つまり逆目になる側にササクレが出やすくなります。したがって刃物の進行方向には十分ご注意ください。

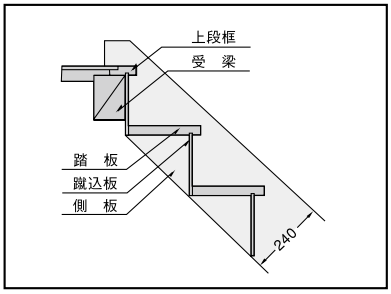


切断した木口等の処理

〈LV階段〉は、側板、ささら桁木口露出部分は梱包の中にある化粧単板を木口面に合わせてカットし、市販のボンドで貼り合わせてください。貼り合わせ面にボンドを塗布し、手でさわってベトつかない程度まで乾いてからアイロンで素早く押さえると上手に貼り合わせ出来ます。

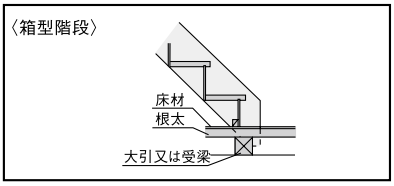
〈集成階段〉には木口部に塗装をしてください。木口部は濃く仕上がりがちですから、着色仕上品では薄めに調色してから重ね塗りをしてください。

階段上部の施工

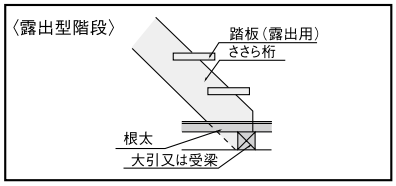


階段下部の施工

箱型階段では側板を柱に胴付けをするのが普通ですから、荷重に対しては比較的安定しています。このため、床下の仕口を簡易に行いがちですが、踏鳴り防止のためにも大引または受梁に取り付けてください。

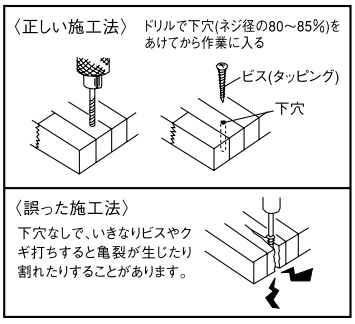


露出型階段では、床下の補強が大切です。大引または受梁にしっかりと取り付けてください。親柱をつける場合には、階段と同時に施工し、大引または受梁に強固に取り付けてください。

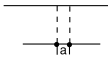


集成材製品の施工時の注意

ビスまたはクギを使用するときは必ず下穴をあけてから組みつけ又は固定作業に入ってください。乾燥材含水率（8～12%）ですから、特に端部では割れたり、連続的にクギ打ちするときなども割れがつながったりして破損することがあります。

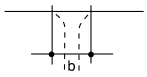


1　下穴またはさそい穴はビス径の80～85%を目安にドリルで正しくあけてください。

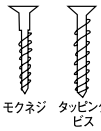


3　電動式のドライバーで締めつけて下さい。又、電動ドリルでは変速式でクラッチ付のものをご使用ください。

2　皿ビスではビス頭部が木部を押しつぶしますので、上端部は“面”をとるか又は頭径のドリルで“座”をつけてください。押しつぶした場合は塗膜に亀裂が生じたり、長期の使用で浮き上ったりすることがあります。

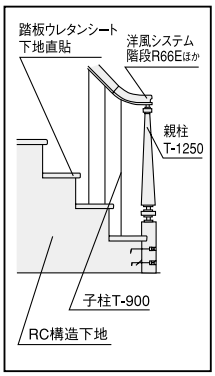


〈ワンポイントレッスン〉

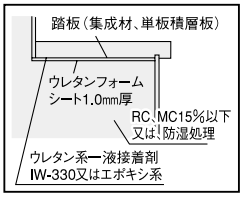


ネジには2つのタイプがあります。通常、木製品にはモクネジが用いられますが、電動工具で強い締め付けトルクが与えられる場合、“首”の部分が折れることがあります。その点タッピングビスは“首”から下が通直でしかも焼入れしてあることから安心ですが、締め過ぎに注意しなければなりません。

RC構造下地への階段の取り付け



踏板に集成材を使用する場合は塗装品をお選びください。施工時は裏面を#100でサンディングの上、ウレタンシート1.0㎜にウレタン系一液接着剤IW－330（別売品）又はエポキシ系接着剤を塗布して荷重の上、養生してください。



笠木の施工

集成材および単板積層板による笠木の施工では、次の点に注意してください。

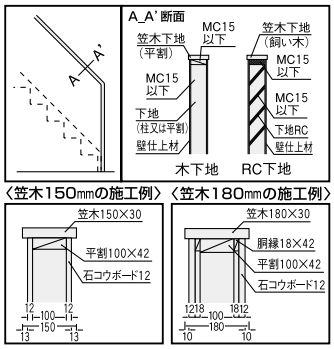
①下地材の含水率（MC）は十分に乾燥したものをお使いください。なお製材品を使用される場合は、含水率15%以下を基準にしてください。

②RC構造ではコンクリートの含水が低下するまで施工は見合わせてください。この基準は3週間前後で含水率15%です。工期の都合上不可能な場合は防湿処理を行ってください。

③笠木は、塗装仕上品をおすすめします。現場塗装を行う場合は、裏面をあらかじめ塗装してから施工に入ってください。

④下地材の含水率が高い場合、特に水濡れ材では100%を越えますから集成材はもちろん単板積層板においても反りや単板剥離などの現象を引き起こし、施工後の取り替えは仕上り感を損ねるばかりでなく多大な費用がかかりますのでご注意ください。

●平割の寸法や壁仕上材の厚みによって、チリが異なりますのでご注意ください。



異常を感じたら

使用中に異常を感じられたり不具合が生じたときは、取付部分などの状況を確認してください。ご自身で対処できない場合には、施工業者様にご連絡またはご相談ください。

施工終了後

（1）取り付けの確認
設計通りに取り付けられているか、施工中に傷、その他の不具合が発生していないか必ずご確認ください。

（2）照明の確認
照明は階段全体にゆきわたるようになっているか、昇降時に影が出来ないように施工されているかご確認ください。

（3）養生の方法
施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤ等で隙間なく養生してください。**市販のガムテープ等は粘着力が強く、化粧単板および塗膜のハガレの原因になりますので、別売りの養生テープ（ZY0211）をご使用ください。**

（4）使用説明書の手渡し
同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に貼り付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮願います。

お手入れ・点検のしかた

（1）汚れ落とし
ほこり、小さな汚れを乾いた布で乾拭きしてください。
水拭きを行なうと長期の間に割れが発生する場合がありますので、避けてください。ただし、汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた雑巾を堅く絞ってからふいてください。

（2）ワックス塗布
半年に一度、当社が推奨する市販の樹脂ワックスを塗布してください。使用方法はワックスの説明書をご覧ください。
※オイルフィニッシュ商品を除きます。

（3）ゆるみのチェック
ゆるみのチェックは手でゆすり、ご確認ください。

お勧めするワックス

メーカー名	（株）リンレイ
推奨ワックス名	ハイテクフローリングコート、ノンブライト、 ハイテクフローリングコート つや消し40（うづくり フローリング用）

※無垢フローリング ピノアースにはノンブライト・ハイテクフローリングコートつや消し40（共にリンレイ）がおすすめです。

デザイン階段

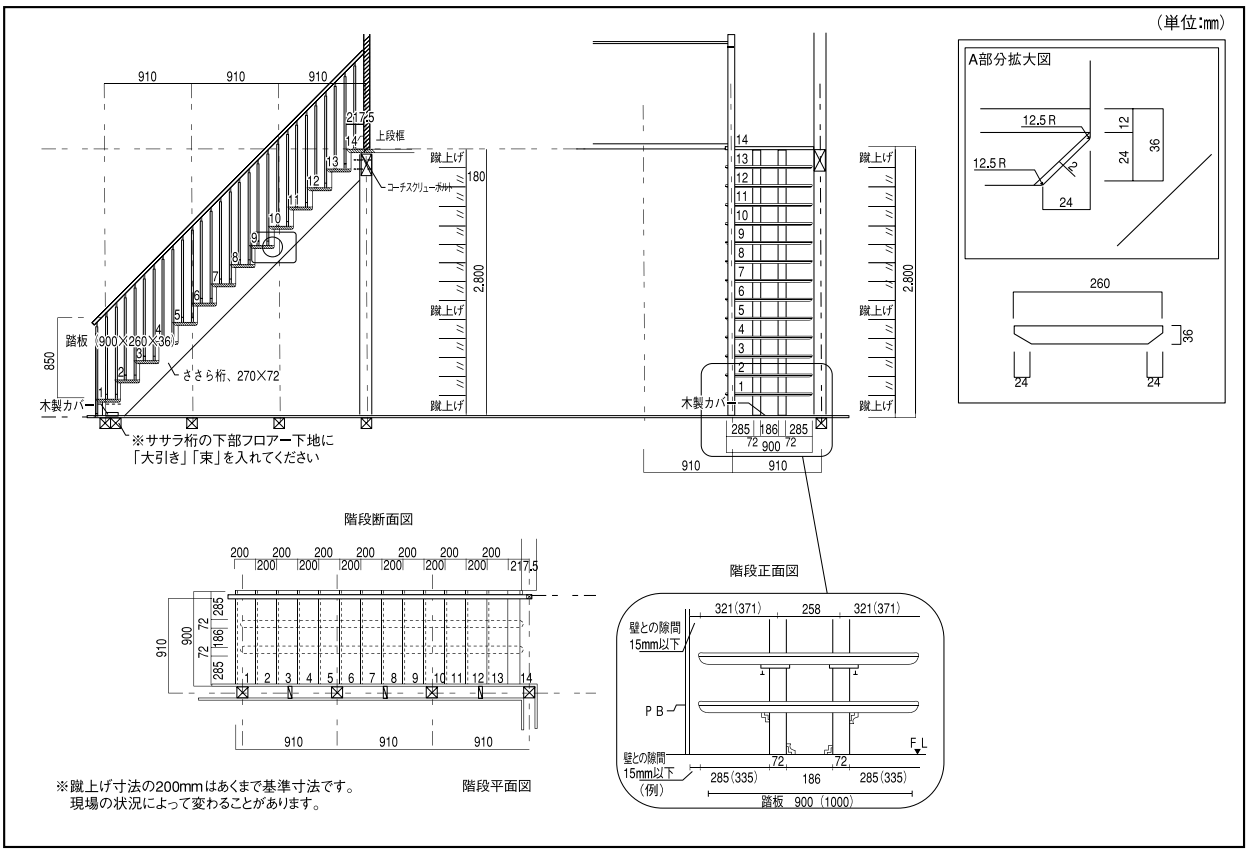
施工上のご注意

ビスは下穴をあけてからしっかりと締め付けてください。下穴はネジ径の80～85%を目安としてください。別売のウレタン系一液接着剤（IW-330）を少量充填しておくことも緩み止めの効果があります。

使用上のご注意

●階段の端部で飛び跳ねたり過度の衝撃を加えたりしないでください。
●手すり・子柱をゆすったり、ぶら下がったりしないでください。
●本製品はささら桁の固定部が上下の2箇所のため、段数が多くなると、若干揺れを感じることがあります。

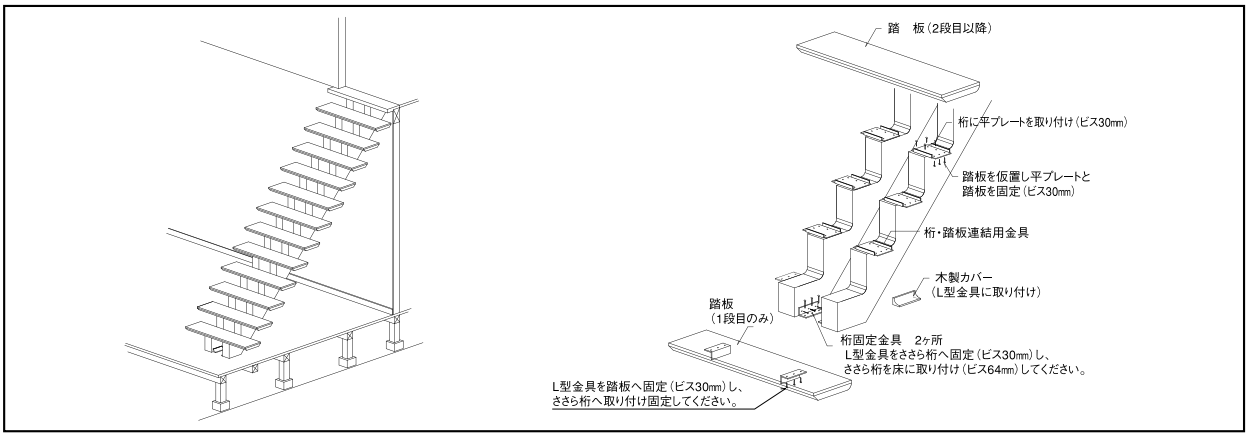
納まり例



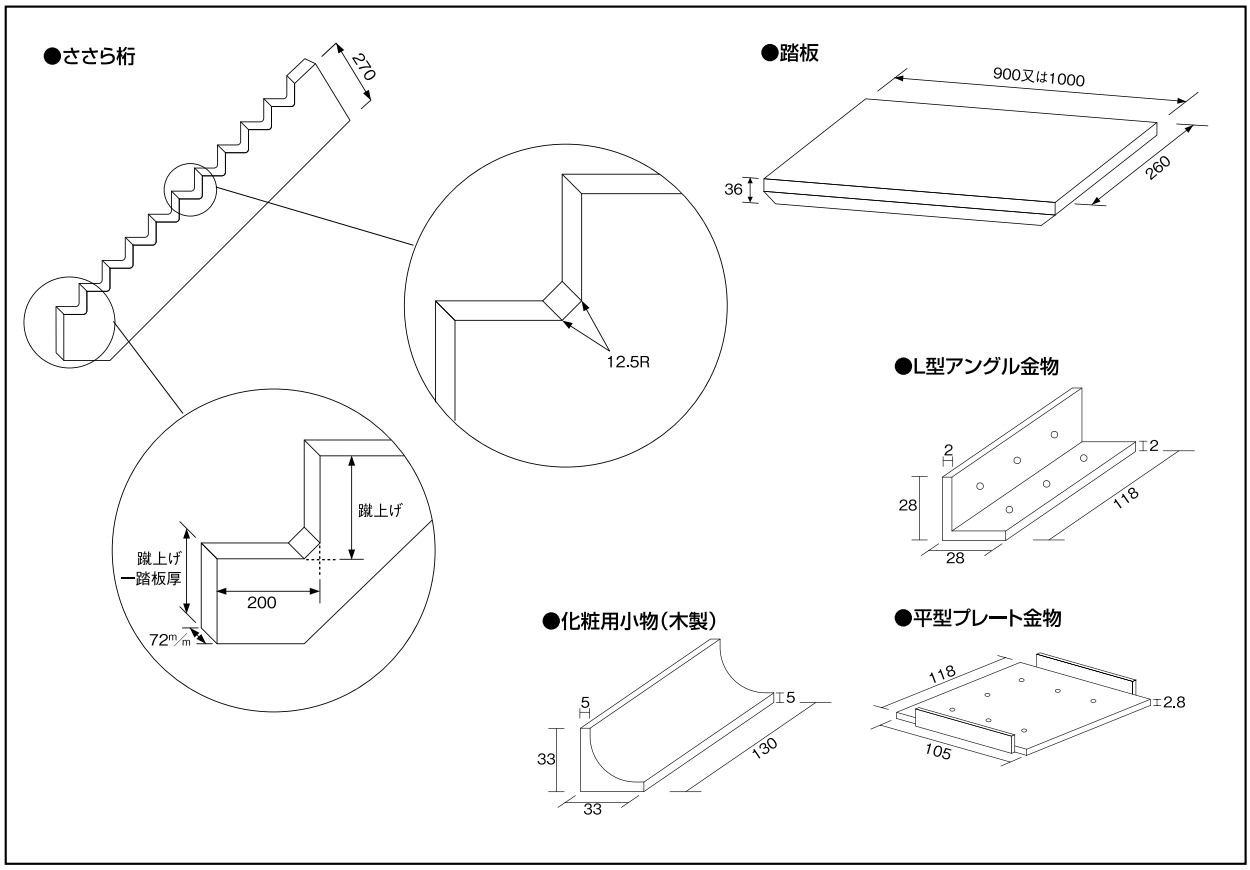
開梱

梱包を解いたら、部材に不足および問題がないかどうか確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

全体図



寸法図



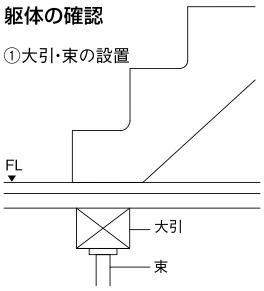
施工の前に

⚠ 注意

- ●本製品は、躯体に直に施工していきますので、強度を十分に考慮して、施工してください。
- ●必ず大引き・束・梁に施工してください。
- ●梁と、部材の連結部の加工を予めおこなってください。

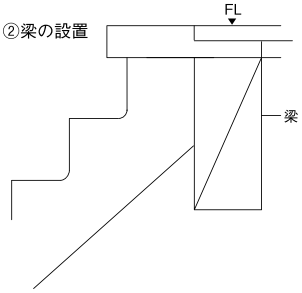
躯体の確認

①大引・束の設置



※ささら桁の下部フロアー下地に「大引」「束」を入れてください。
※フロアー先行張りとし、フロアー上にささら桁取付

②梁の設置



※ささら桁上部が梁へ固定できるような位置にあるか確認してください。

施工手順

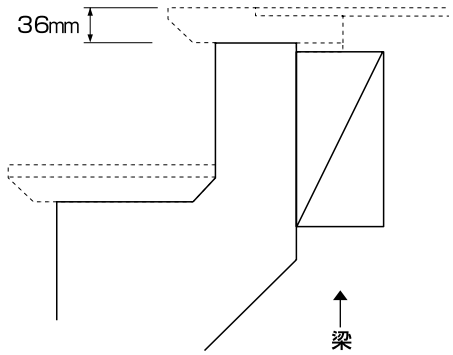
準備 ささら桁連結用ボルト下穴をあける前に

⚠ 注意

推奨施工では上段框の納まりとして2階床総厚を40mm(床版28mm +フロア12mm)として設定しています。
現場により異なる納まりとなる場合は上段框の「フロアしゃくり」「梁しゃくり」「高さ調整パッキン」等で調整をしてください。

ささら桁と梁・上段框の納まり

1 ※上位階の床仕上がり位置から36mm下がった位置に合わせてササラ桁を取り付けてください。 (単位:mm)

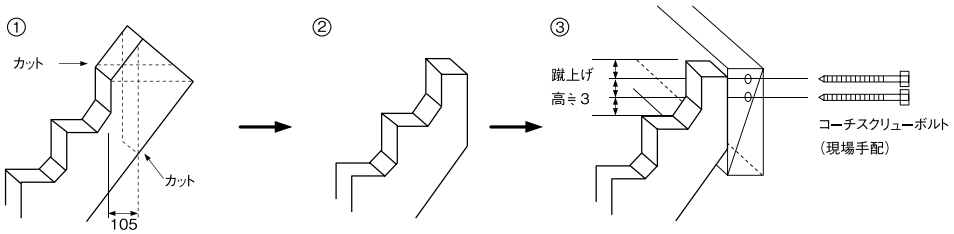


デザイン階段

ささら桁上部、梁の加工

2　（単位:mm）

ささら桁が取り付け寸法よりのびがある場合



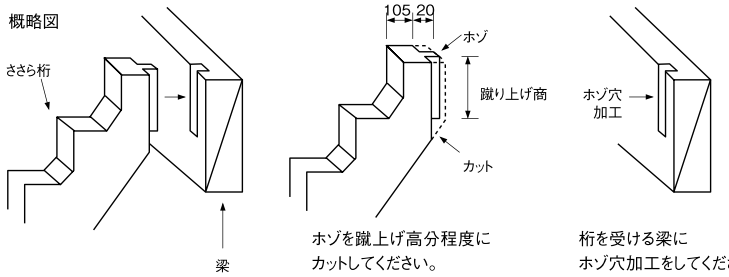
梁の寸法等を基準として、ささら桁上部をカットします。

蹴上げ高を3等分した図の位置へコーチスクリューボルト用の下穴をあけてください。

ささら桁が上部加工済の場合

※「ささら桁」が取り付け寸法よりのびがある場合の③をご参照ください。

ささら桁上部がホゾ加工の場合ー推奨施工



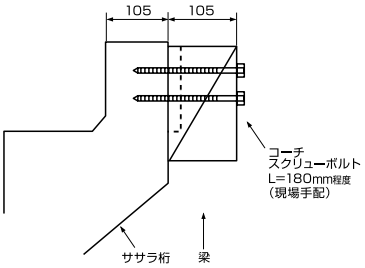
ホゾを蹴上げ高分程度にカットしてください。

桁を受ける梁にホゾ穴加工をしてください。

ささら桁の連結

3　（単位:mm）

コーチスクリューボルト L=180mm程度（現場手配）にて梁とササラ桁を確実に固定してください。

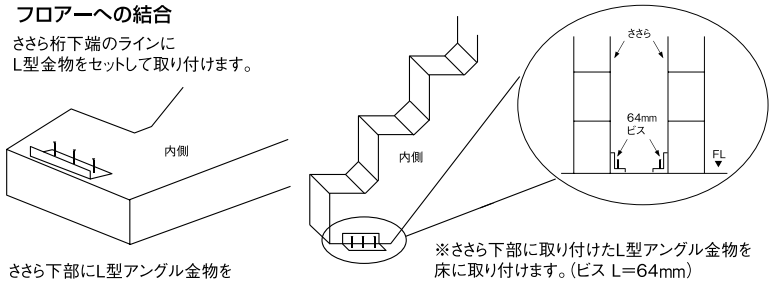


L型金物の取り付け

4　（単位:mm）

フロアーへの結合

ささら桁下端のラインにL型金物をセットして取り付けます。



ささら下部にL型アングル金物を取り付けます。（ビス L=30mm）

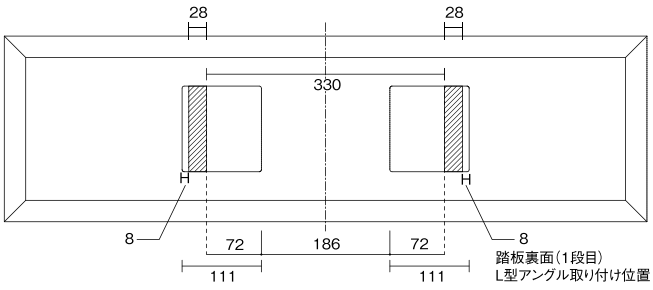
※ささら下部に取り付けたL型アングル金物を床に取り付けます。（ビス L=64mm）

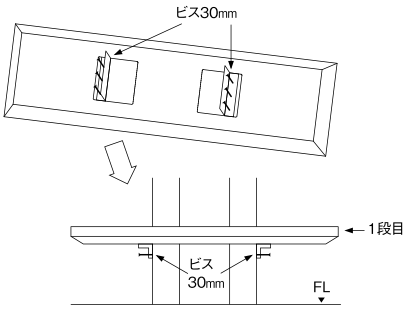
⚠ 注意　L型金具は誤った使い方をしますとその効果が失われてしまいますので、正しい使い方をしてください。

L型アングル金物の取り付け〈1段目の踏板のみ〉

5　（単位:mm）

裏面にL型アングル金物を取り付けます。L型アングル金物は踏板裏面にほられた加工掘の中で斜線部の位置にビスL=30mmで取り付けます。



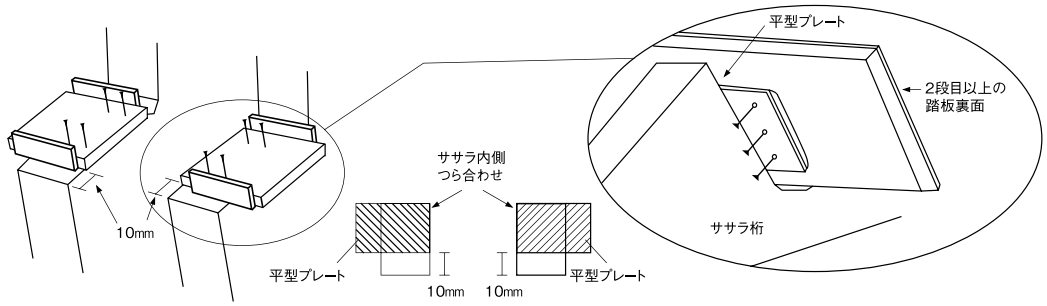


L型アングルを取り付けた1段目踏板をささら桁に取り付け、ビス30mmで固定します。

施工手順

平型プレート金具の取り付け〈2段目以降〉

6

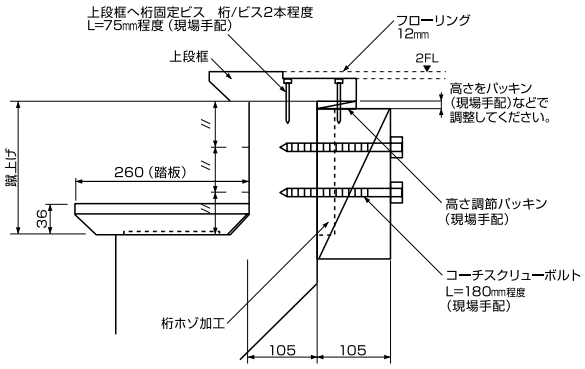


2段目以降の踏板を「平型プレート金物」で固定します。
平型プレートはササラ桁内側でつらを揃え、ササラ桁先端から10mmの位置で、ビス30mmで固定します。

⚠ **注意** 平プレートはフランジの向きは踏板と並行になります。

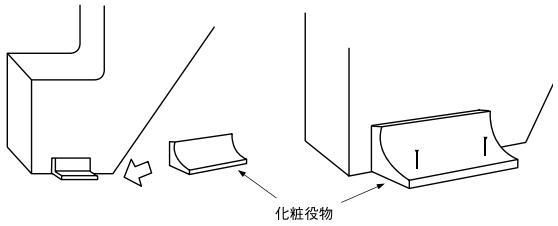
上段框の取り付け

7

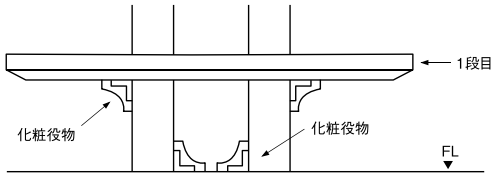


化粧役物（木製）の取り付け〈フロアー部分〉

8

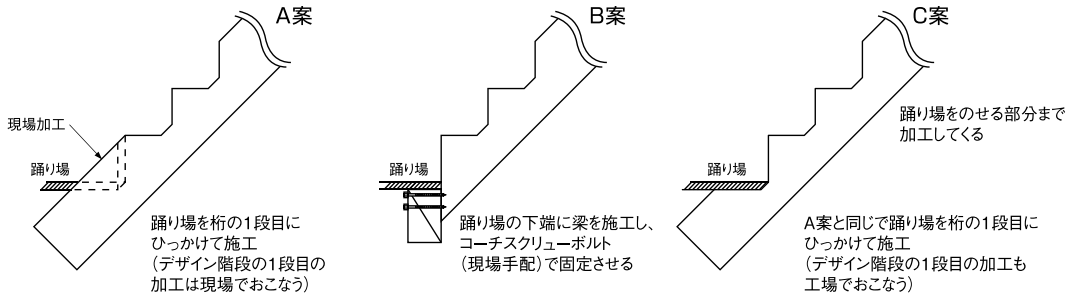


L型アングル金物の上から、化粧役物（木製）をタッカー等で取り付けます。



デザイン階段下伸ばしについて

9

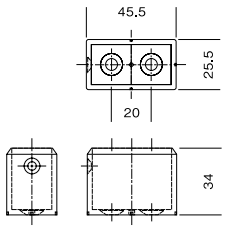


レギュラー階段の途中からデザイン階段を接続させて施工する場合、ささら桁の下端（デザイン階段の1段目部分）の加工が通常のデザイン階段の加工と異なります。A 案～C 案の中から加工方法を選択してください。

上下ジョイント金具セット

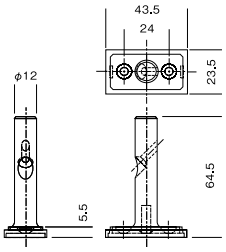
寸法図

〈下ジョイント金具〉



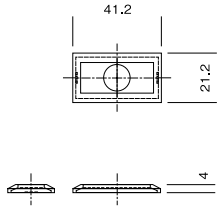
同梱部材
十字穴付き皿タッピンねじ 5×30 2本
十字穴付き丸皿タッピンねじ 3.5×25 1本

〈上ジョイント金具〉

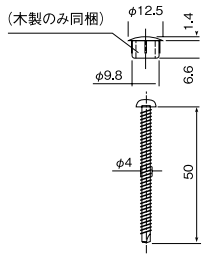


同梱部材
十字穴付き皿タッピンねじ
3.5×25 3本

〈上ジョイント金具カバー〉



〈穴カクシ／ビスセット〉



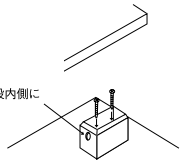
下穴径は80～85%を目安にしてください。
別売の接着材（Ⅰ W-310）を少量充てんしておくとこも緩み止めの効果があります。

（例）3.5ミリの径のとき
3.5ミリ×80%＝2.8>
3.5ミリ×85%＝3.0>
このあたりのドリル刃φを選んでください。

施工手順

1 下ジョイント金具の固定

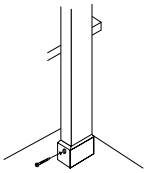
下ジョイント金具の墨出しを踏板へ行い
下ジョイント金具を踏板にビス固定します。
（同梱の30㎜皿ビスを使用）



2 踏板・蹴込板のカット

子柱を下ジョイント金具の奥まで差込み、
柱と下ジョイント金具をビスで固定します。
（同梱の化粧ビスを使用）

アルミ子柱の場合、支柱の向きは柱カバー側が正面、プレカット加工穴側が段鼻側となります。

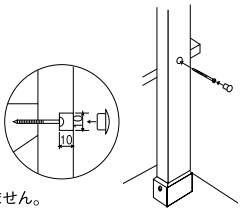


3 下ジョイント金具の固定

柱と踏板の段鼻をビスで固定し、ビスの
頭を穴カクシでキャップします。
（同梱の50㎜丸皿ビスを使用）

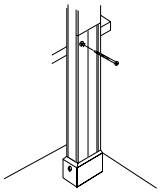
※キャップ取付の下穴加工
10㎜弱程度が必要です。

（注）水平部に使用される場合は③の手順は必要ありません。



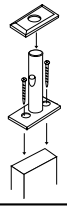
アルミ用の場合
アルミ子柱カバーを上方向へ
スライドさせ、柱と段鼻をビスで固定し、
柱カバーを元に戻します。
（同梱の丸皿ビスを使用）

（注）水平部に使用される場合は
の手順は必要ありません。



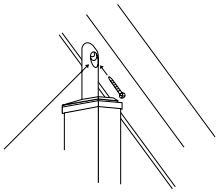
4 金具カバーのはめ込み

上ジョイント金具を柱上部へのせてビス固定した
後、上ジョイント金具カバーをはめ込みます。
（同梱の25㎜皿ビスを使用）



5 上ジョイント金具の固定

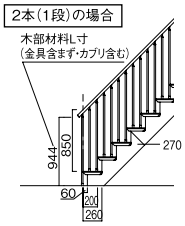
手すりの穴に上ジョイント金具を差込み、
斜め下方からビスで固定します。
（同梱の25㎜皿ビスを使用）



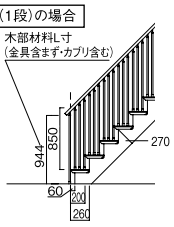
手すりの取り付け

踏板及び、手すりに上下ジョイント金具セットをとりつけて、手すりをはめこみ固定します。　（単位:mm）

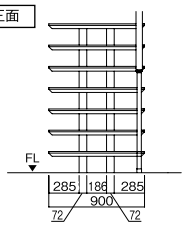
2本（1段）の場合



3本（1段）の場合

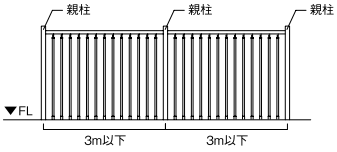


正面



水平部分でのご使用について

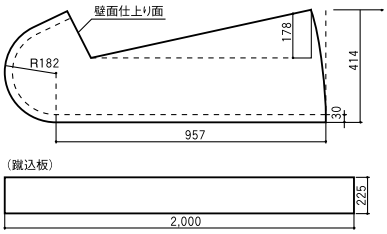
・水平部分での取り付けは手すりの両端を壁面か親柱にて強固に固定してください。
・手すりを水平部分に使用するときは3m以下おきに必ず親柱を取り付けてください。



規格型カーブ階段

標準プラン、スターティングステップ部材内容

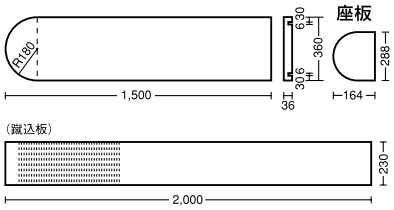
スターティングステップ



上記寸法図は910㎜モジュール用を記載しております。
蹴込板には、湾曲できるようにスリット加工がしてあります。

スターティングステップ部材内容

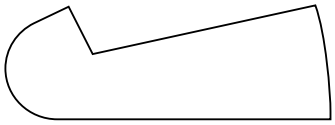
スターティングステップ



蹴込板には、湾曲できるようにスリット加工がしてあります。

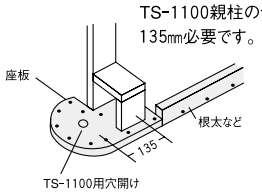
スターティングステップ取りつけ手順

1 スターティングステップは、あらかじめ正寸にてカットされております。



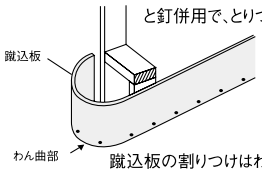
2 座板による下地ごしらえ

壁面からの出シロは、手すり芯とTS-1100親柱の位置とが、135㎜必要です。



3 蹴込板のとりつけ

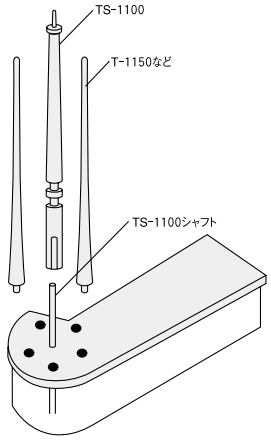
蹴込板は長さを調整の上ボンドと釘併用で、とりつけてください。



蹴込板の割りつけはわん曲部を中心に両サイドを調整し、カットしてください。
釘はハリ釘でカクシクギとしてください。

4 子柱、親柱の取り付け

シャフトは座板、踏板、親柱にボンドと釘を併用してしっかりと固定してください。
TS-1100は通常、ノンカットでご使用ください。

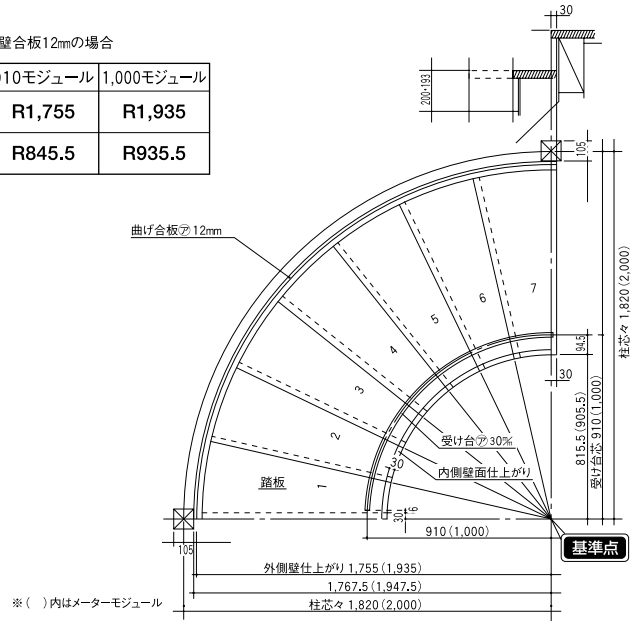


カーブ部分　基本図面（平面図）

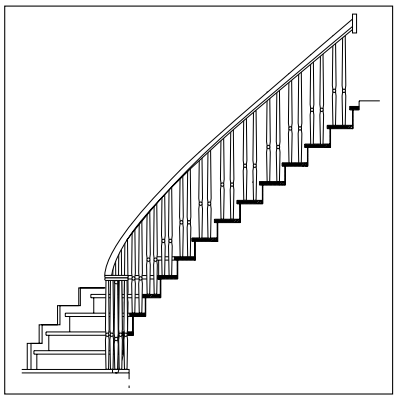
カーブ部分の基本図面です。外側側板はプラスターボードの内側に、内側R受け台は910R（1,000R）の位置に設置します。
受け台取付位置につきましては、柱芯より、段鼻（30㎜）＋蹴込板（6㎜）、36㎜バックした所よりスタートします。

POINT ※柱寸法105㎜、壁合板12㎜の場合

基準点より	910モジュール	1,000モジュール
外側壁仕上がり（㎜）	R1,755	R1,935
内側壁仕上がり（㎜）	R845.5	R935.5



●全体図

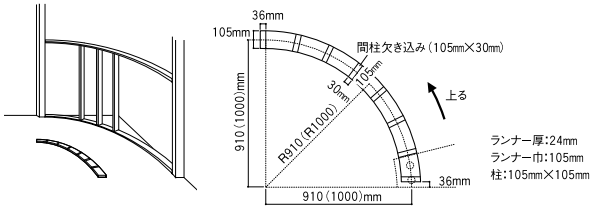


規格型カーブ階段

施工手順（標準プラン型）

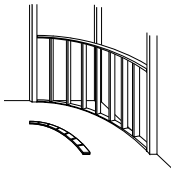
1 ランナーの取り付け（別売品）

※単位:㎜　※（　）内はメーターモジュール



まずガイドランナーを取り付けます。内R用ガイドランナーをカーブ階段のRの中心から910（1000）㎜（ガイドランナーセンター）の位置に設置し、同様に外R用ガイドランナーもRの中心から1820（2000）㎜（ガイドランナーセンター）の位置に設置します。右図にあるように36㎜ずらして施工します。

2 外R用ガイドランナーの取り付け



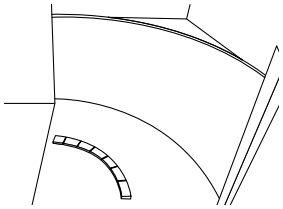
ガイドランナーの上に、間柱（30㎜×105㎜）を取り付けます。

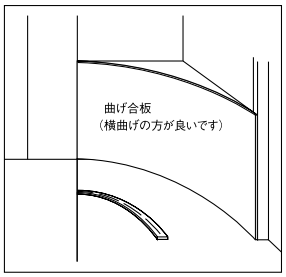
POINT 間柱ピッチの目安

Rをきれいに出し、踏み板の止め具と強度を出すためにも4本／1段程度を目安にしてください。

間柱:30㎜×105㎜

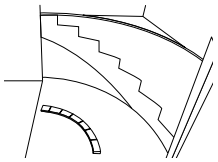
3 外壁の施工





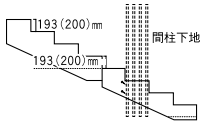
外側R部分の外側壁を施工します。ガイドライナーのRに沿って曲げ合板（横曲げ推奨）をビス止めをします。

4 外側受け台の施工



外壁側に沿って、図のような形状になるように、2枚の外側受け台合板を取り付けます。

側板受け台合板の取り付け



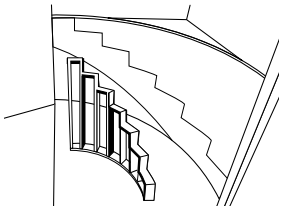
1段目は現場でカットをおこなってください。

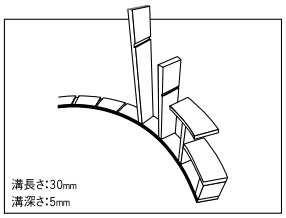
例）200㎜の場合
4×200㎜−36㎜＝764㎜

お願い

- ●ビス止める際は、間柱が下地にあるかを確認してください。
- ●外側受け台合板の接合面上部高さは、床面から蹴上げ高4段分の位置に固定し取り付けてください。

5 内側受け台の施工

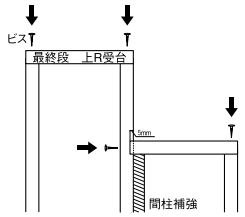




内側ランナー（下）にいれてある間柱欠きに間柱を一段目から順に立てていき、その間柱に乗せるように上部ランナーを次の間柱に入れてある欠きこみに受け台の内R上部分をはめ込んで組み立てていきます。

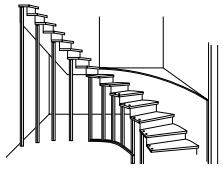
お願い

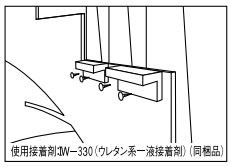
●最上段のみ上R受け台が小さくなっています。



左図のように間柱に沿うように1本間柱を補強すると強度が増します。

6 踏板の施工





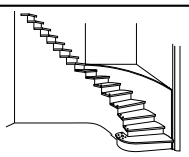
直の部分もカーブ部分と同様に外側受け台と、内側受け台を施工します。そして、内側受け台、外側受け台に乗せるようにして踏み板を施工します。内側Rは踏み板の子柱用の穴が内側受け台のセンターの上に来るようにし、裏側に同梱のウレタン系一液接着剤を塗布し、穴からビス止めして固定します。外側Rは踏板に接着剤をつけ、裏側からL金具を取り付けて固定します。（左ページ右図）

⚠注意

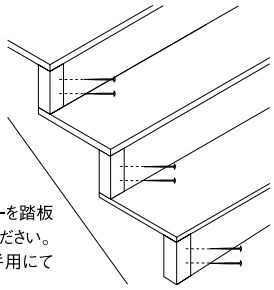
●L金具は、カーブ部分の踏み板では一枚につき二個、直部分踏み板では一個使用してください。

7 内壁の施工

内壁を取り付けます。
Rの部分には外側壁の時と同様に、曲げ合板（横曲げ推奨）を使用し、下地Rに沿って曲げてビス止めしてください。

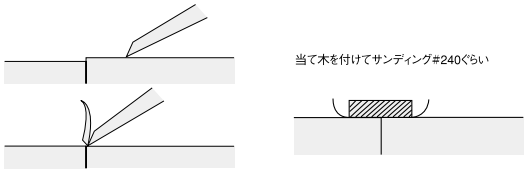


8 蹴込ボーダーの取り付け



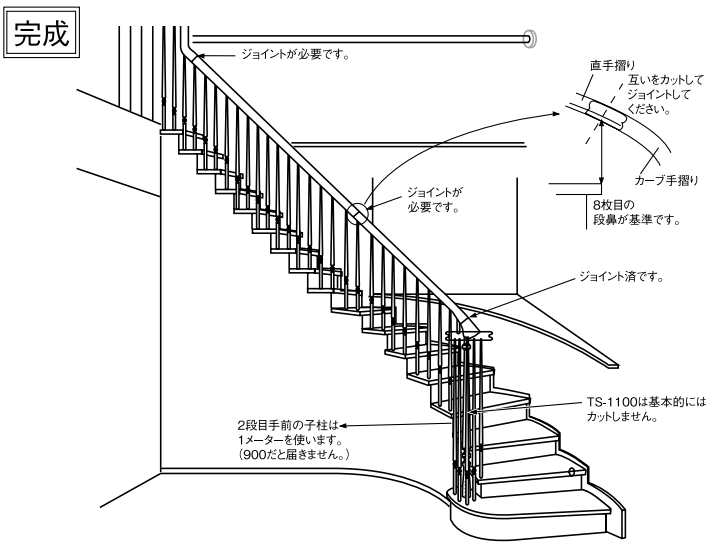
- ●蹴込板の木口を隠す為に蹴込ボーダーを踏板の内々寸法の蹴上げ寸法にカットしてください。
- ●蹴込ボーダーをカットした後、接着剤併用にて隠し釘で固定してください。

9 接続部の目地払い

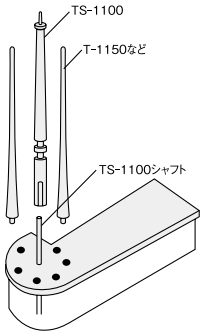


- ●カッターナイフやノミ、丸ノミなどで目地を平滑に仕上げてください。
- ●塗装仕上げ品では、あらかじめオイル塗装がなされていますから、目地払い作業は段差の削取りの後、接合部からそれぞれ20cm以内を目安にサンディング仕上げしてください。これよりも狭いと色合わせが難しくなり、広い場合は無駄となります。

手すりの施工

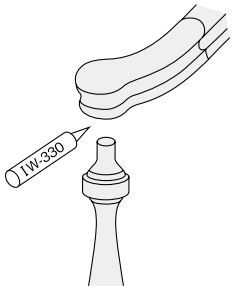


1 親柱、R66ESC（R/L）取り付け



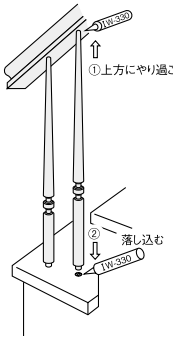
●シャフトは座板、踏板、親柱に接着剤とビスでしっかりと固定してください。
●TS-1100シャフトは通常ノンカットでご使用ください。

2 親柱と手すりの接合



●親子柱と手すりの接続部は、ウレタン系一液接着剤（IW-330）（別売）を使用し固定してください。
●手摺りの接続方法はプレジョイントシステムを参照してください。

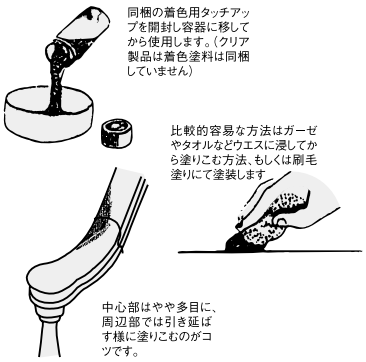
3 子柱と手すりの接合



●手すりをあらかじめに取り付けておき、子柱に弊社別売の接着剤を塗布し、やり過ごして踏板の穴加工位置に落し込んで固定してください。

お願い
●接着剤は強度を確保する上で必ずご使用ください。
接着剤はIW-330（別売）を使用してください。

4 接合部の調色塗装

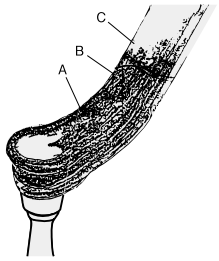


●接合箇所全てにこの方法で調色塗装を行い、塗装面が乾燥するまで少なくとも1日以上放置した状態にしておいてください。

5 接合部と周辺部の仕上げ

●システム部材R66E全体、及び直通部に至るまでを仕上がり色調を見ながら塗り込んでいきます。

6 接合部周辺の調色仕上げ



A. R66Eが通直部材Cよりも濃い
B. 接合部で色合わせを行った部分Cの接合部近くはAに合わせてある。

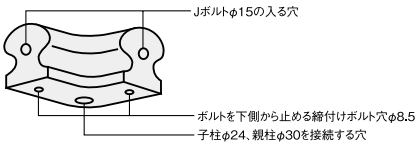
●調色仕上げの方法はBからCにかけて濃さが徐々に薄めに変わっていく様に、着色用タッチアップを繰り返して塗装してください。又、AよりもCが濃いときは逆の方法で仕上げてください。

7

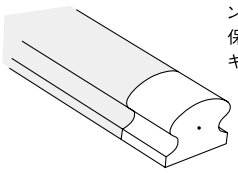
調色仕上げ終了後、塗装面が乾燥したのを確認した後、仕上用タッチアップにて仕上げを行っていきます。仕上用タッチアップを塗布し4時間以上放置し乾燥後に#320～400のペーパーで研磨し再度、仕上塗料を塗布し仕上げてください。

規格型カーブ階段

プレジョイントシステム（Jボルト仕様の施工方法）加工手順

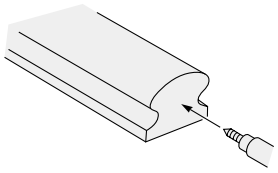


1



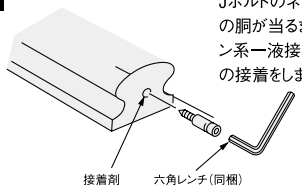
プレジョイント加工のされていない方の手すりのセンター出しはシステム部材側の木口に付いている保護キャップを利用して行ってください。
キャップのセンター穴を利用して中心を出します。

2



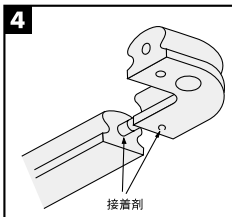
ドリルφ8.5で深さ30㎜の穴あけをします。

3



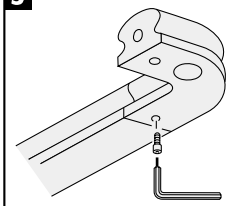
Jボルトのネジ側を同梱の六角レンチ5㎜でボルトの胴が当るまで締めつけてください。このときウレタン系一液接着剤IW-330を使用し、金属と木部との接着をします。

4



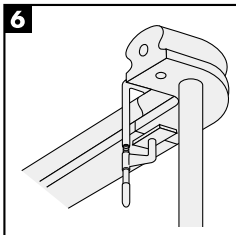
プレジョイント加工されたシステム部材と通直材の接続はまず、木口にウレタン系一液接着剤IW-330を塗り付け、Jボルトの入るφ15の穴にも注入しておきます。

5



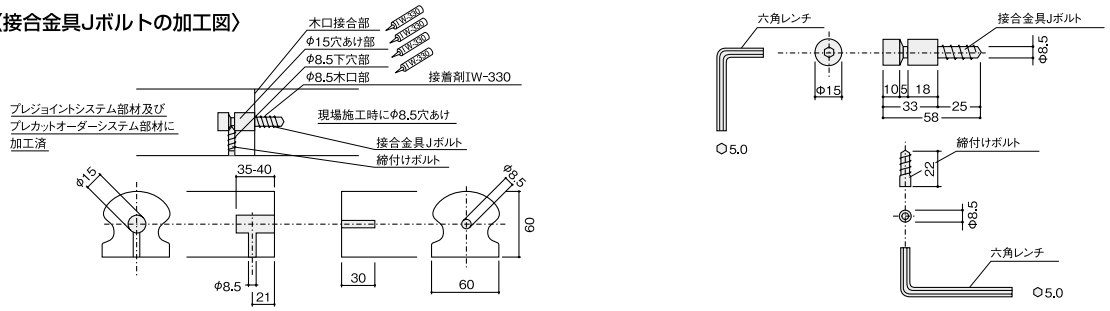
同梱の5㎜六角レンチを使用し、締付けボルトを締め込みます。
このとき六角レンチが奥まで入っていることを十分に確かめてください。レンチのかかりが浅いと六角部を破損することがありますから注意してください。

6

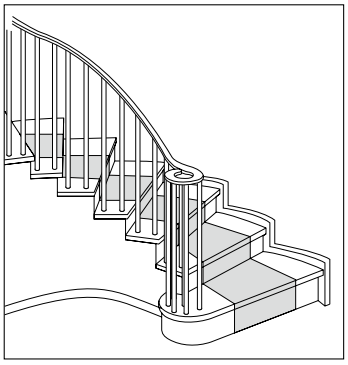


クランピングは小型のシャコマンをいくつか用意しておいてください。接着剤が硬化するまでは重量や衝撃を与えぬ様に注意してください。硬化までに少なくとも半日くらいは養生が必要です。仕事の終了間近に養生に入れる様、作業計画を組んでください。
冬期、空気の乾燥や気温低下で接着時間が長くなることがあります。
濡れ雑巾をクランプの上にかけてやりますと硬化の立ち上がりを早くすることができます。

〈接合金具Jボルトの加工図〉



完成後の養生



●踏板・蹴込板を保護する為に木屑や砂ゴミを取り除きダンボールなどで十分に養生をおこなってください。

●手すりはダンボールで養生してください。

リフォーム階段

開梱

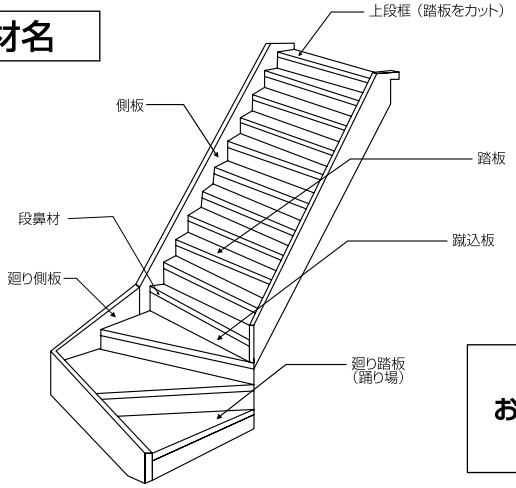
梱包を解いたら製品に不足および問題がないかどうかご確認ください。本製品は木質製品です。輸送中･施工中の水漏れは厳禁です。開梱後、製品に水濡れなど不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。また開梱後は速やかに施工してください。

ササクレの防止方法

踏板･側板の切り込みカットされる場合は、基材のササクレを防ぐために、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフ等で必ずケビキ処理をし、ノコ･ノミ入れを行ってください。

施工の前に

リフォーム階段部材名



お願い	本書の内容は参考例です。既存住宅との兼ね合いがありますので、必ず現場監督･建築士等資格者にご相談の上で、仕様を決定してください。

現場でご用意いただくもの

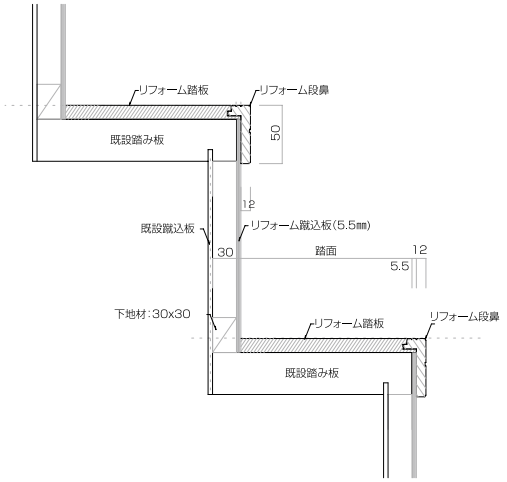
●下地材（既存階段の鼻の出と同サイズ）※「鼻の出を無くした場合の納まり」のみ必要（既存側板 高さ調整用）●木ネジ（φ5.1×32㎜程度のもの）
●フロア用養生テープ ●養生シート ●かくし釘（36㎜）●ウレタン系接着剤 ●ピンネイル（L=15㎜） ●フィニッシュネイル（L=35㎜）
●両面テープ※「鼻の出を活かした場合の納まり」のみ必要 ●推奨接着剤：コニシボンド速乾ボンドG10

	品　番
WOOD ONE指定接着剤	ZX0221（カートリッジタイプ）
コニシ製	KU−9L8R／L

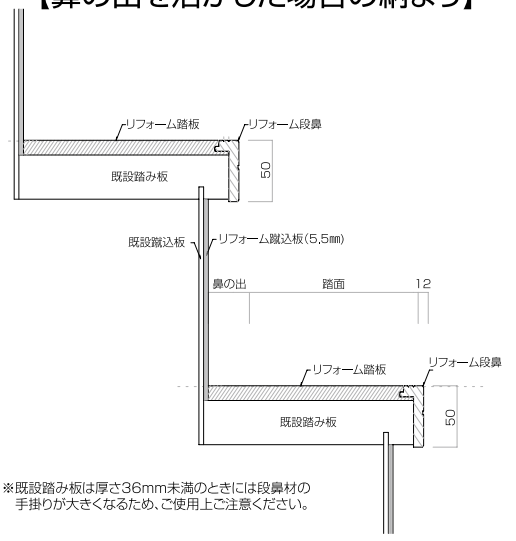
＊指定接着剤をお使いいただく際にはカートリッジガンが必要になります。
<接着剤塗布量の目安>
接着剤につきましては、下地合板の場合、400～500g/㎡（直14段上り切り時）を目安としてください。
目安としては WOOD ONE 指定接着剤×2本となります。
根拠→ 0.85m×0.25m×14段×0.5kg÷0.76kg
張り面積　目安/㎡　容量/1本

●木工用接着剤 ●クレヨンパテ（品番 ZY061●） ●コーキング剤（品番 ZY063●）
<壁際の納まり>
納まりに応じて、弊社対応部材もございます。
プレカット巾木　LH0361−□ チェルード　300×300×9㎜（8枚入）
LH1261−□ オーク

【鼻の出を無くした場合の納まり】



【鼻の出を活かした場合の納まり】



※既設踏み板は厚さ36mm未満のときには段鼻材の手掛りが大きくなるため、ご使用上ご注意ください。

リフォーム階段

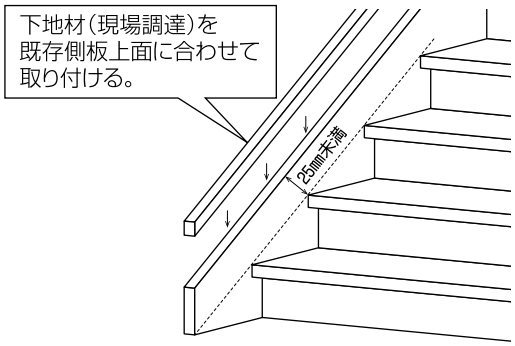
1.施工手順

※リフォーム側板を使用しない場合は、
次頁の「②踏板の取り付け」から始めてください。

①リフォーム側板の取り付け

①既存側板の寸法確認と下地材（現場調達）の取付け

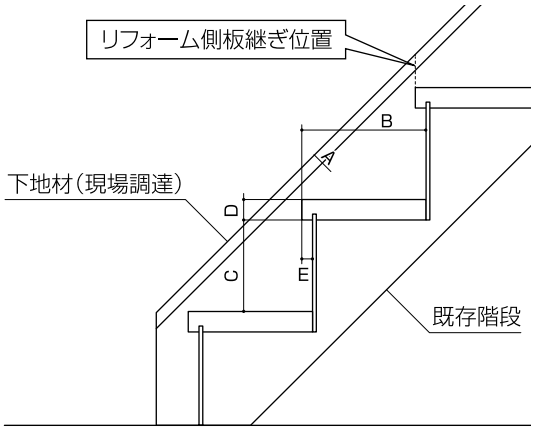
図の寸法が25㎜未満の場合、リフォーム階段の取付け後に段鼻材が側板よりも飛び出してしまいます。
図の寸法を確認し、必要な幅の下地材（現場調達）を現場の側板に合わせて取付けてください。



※下地材はリフォーム側板と木口テープで化粧して仕上げます。

②既存側板の採寸とリフォーム側板のカット

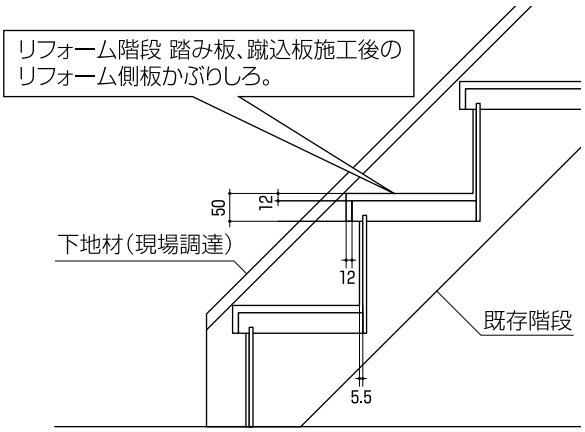
下地材取付け後に各段のA～Eの部位を採寸し、リフォーム側板裏面に下書きをしてカッターで切断してください。
Aの部位はリフォーム側板取り付け後に仕上げをしますので5㎜程度の余裕を取ってください。
リフォーム側板は3～4段の長さでカットすると、カット後の調整や取付けがやりやすくなります。
リフォーム側板のつなぎ目は既存踏板の段鼻先（図参照）でつないでください。



お願い	既存の階段では、各段で若干の寸法違いがある場合があります。 A～Eの部位は、必ず1段ごとに採寸をしてリフォーム側板のカットをしてください。

③リフォーム側板の寸法調整

カットした製品を既存階段に仮設置し、カット寸法の確認をします。
リフォーム側板と既存階段の突きつけ部分は、リフォーム踏板及び蹴込み板施工後に製品の厚み分（図参照）隠れますので、リフォーム踏板（12㎜）、蹴込み板（5.5㎜）の厚みを考慮してカット寸法の調整をしてください。



※鼻の出を活かした場合の納まり

④リフォーム側板の接着

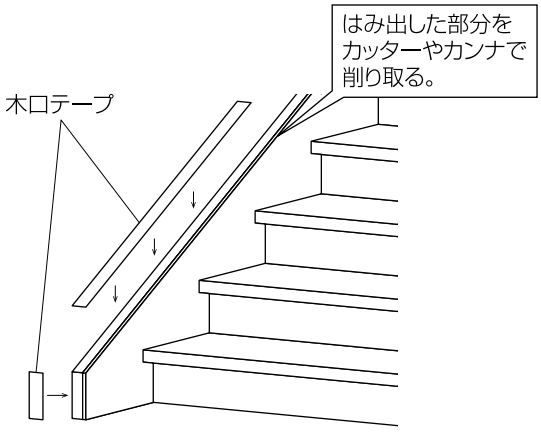
既存側板とリフォーム側板の接着面の両方にゴム系速乾接着剤（現場調達）を塗布し、隠し釘等で固定してください。
接着方法については、接着剤に明記されている使用方法、注意事項をご確認ください。
推奨接着剤：コニシボンド　速乾ボンドG10

お願い	リフォーム側板と既存側板の接着で浮きが生じないように、傷防止のためのあて木をしてハンマー等でしっかりと密着させてください。

⑤木口テープの取り付け

リフォーム側板の接着後、既存側板上面に合わせて余裕を見てカットした部分（図参照）をカンナなどで削り仕上げます。
既存側板の上面と木口面は、リフォーム側板と同様に同梱の木口テープをゴム系速乾接着剤（現場調達）で取付けてください。
木口テープがはみ出した部分は接着材硬化後にカッターなどで削り仕上げをしてください。
推奨接着剤：コニシボンド　速乾ボンドG10

お願い	木口テープと既存側板の接着で浮きが生じないように、傷防止のためのあて木をしてハンマー等でしっかりと密着させてください。



⑥リフォーム側板つなぎ目の仕上げ

段差やずれ、隙間が生じた場合は、
クレヨンパテ（別売品：ZY061●）、コーキング剤（別売品：ZY063●）で埋めてください。

②踏板の取り付け

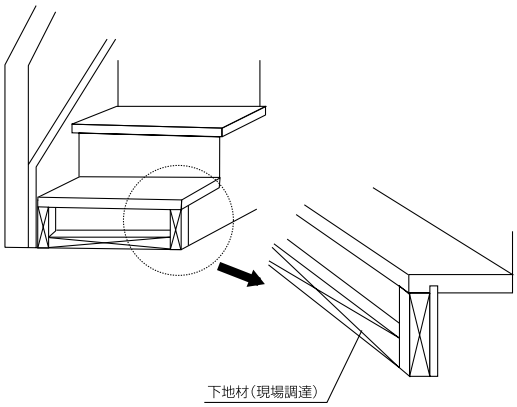
鼻の出を無くした場合の納まり

<施工を始める前に>
①カーペット・巾木等は必ず取り外してから作業を始めてください。
②既存階段の下地処理を行ってください。
●既存踏板の表面をサンダー等にて平滑にしてください。
●上り切り部分についても、既存上段框と2階フロアーの段差がある場合は同様に平滑にしてください。

⚠注意	「リフォーム階段」は木造住宅向けのリフォーム専用製品です。 金属・コンクリート下地の階段には施工しないでください。 また、1階・2階ともにフロアー12㎜タイプにて重ね貼りをしてください。

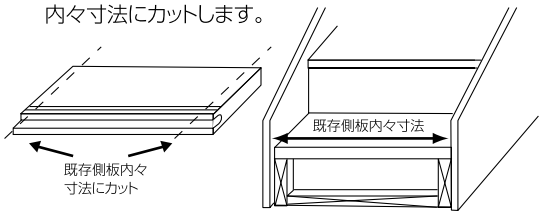
① 下地材の取り付け

既存踏板の鼻の出寸法を採寸し、同寸法にて下地材（現場調達）を既存蹴込板の両サイド・下方へ廻してください。

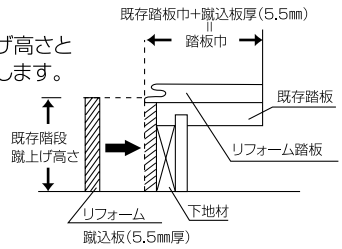


② 踏板・蹴込板のカット

踏板のカット
リフォーム踏板を既存階段の側板内々寸法にカットします。



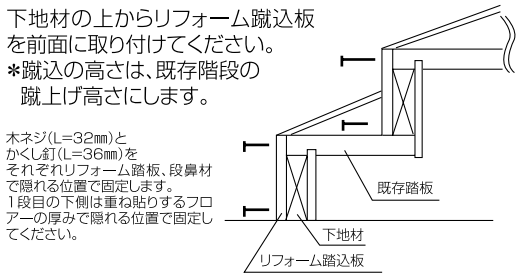
蹴込板のカット
既存階段の蹴上げ高さと同じ寸法にカットします。

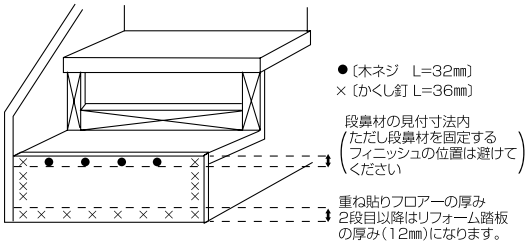


リフォーム階段

③ 蹴込板の取り付け

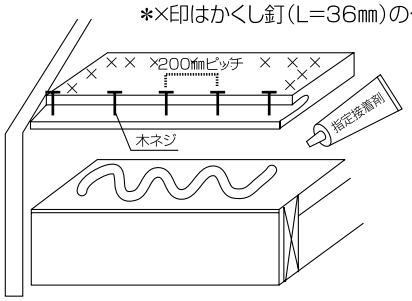
下地材の上からリフォーム蹴込板を前面に取り付けてください。
*蹴込の高さは、既存階段の蹴上げ高さにします。





④ 踏板の取り付け

指定接着剤で踏板を貼り、木ネジ、かくし釘で固定します。
*×印はかくし釘(L=36㎜)の位置です。

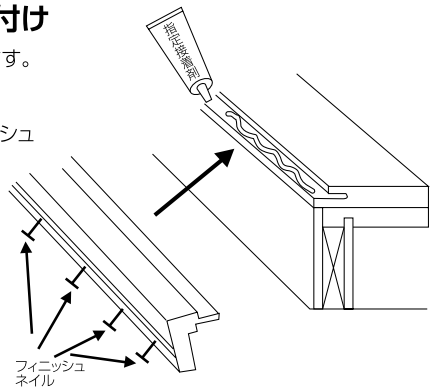


お願い

- ●接着剤がはみ出したらすぐに、拭きとってください。
- ●かくし釘を打ち込む際には、木ネジの箇所と重ならないように注意してください。
- ●フィニッシュネイルの頭は必ずポンチで打ち込んでください。

⑤ 段鼻材の取り付け

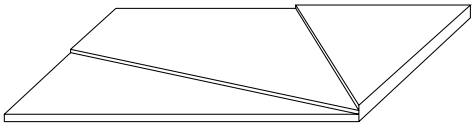
内々寸法にカットします。
長さを確認しながら、
踏板差込部に
指定接着剤・フィニッシュネイル併用にて
取り付けてください。



1段毎に①～⑤の繰り返しとなります。
※段鼻材施工後、接着剤がはみださないように、加減して塗布してください。

⑥ 廻り踏板・踊り場の取り付け

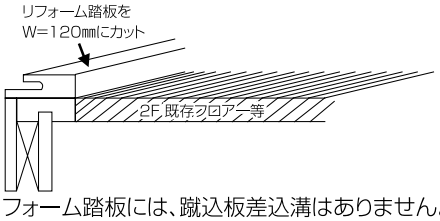
既存踏板の踏面と同様のサイズにカットします。
(取り付けは①～⑤)



注意：廻り階段の踏板に取り付ける段鼻材は、両側の小面の角度を壁面に合わせてカットしてください。

⑦ 最上段(上段框)の施工

階段を上がり切り部まで仕上げたら、上段框として、
リフォーム踏板巾をW=120㎜にカットします。
(但し、現場での状況により若干調整が必要です)
カットした踏板を蹴込板の前面に合わせて
取り付けます。



*リフォーム踏板には、蹴込板差込溝はありません。
④の踏板の取り付けと同じように、指定接着剤、
木ネジ、かくし釘で固定してください。

2Fフロアー重ね貼り不要の場合

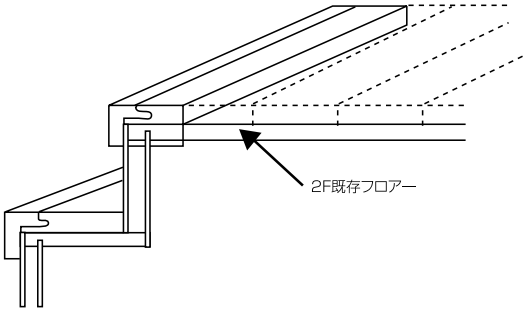
下記の床見切り材をご使用ください。

■床見切り材C型

長さ × 幅 × 厚さ(㎜)	品番
1,900 × 50 × 13	DHC7713-□

⑧ フロアー(12㎜)の重ね貼り

階段部分が全部貼り上がったら、
重ね貼りフロアー(12㎜)を貼ります。



鼻の出を活かした場合の納まり

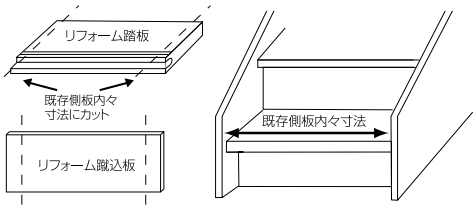
<施工を始める前に>
①カーペット･巾木等は必ず取り外してから作業を始めてください。
②既存階段の下地処理を行ってください。
●既存踏板の表面をサンダー等にて平滑にしてください。
既存蹴込板は指定接着剤塗布に際して、サンドペーパーで目立してください。
●上り切り部分についても、既存上段框と2階フロアーの段差がある場合は同様に平滑にしてください。

⚠注意	「リフォーム階段」は木造住宅向けのリフォーム専用製品です。 金属･コンクリート下地の階段には施工しないでください。 また、1階･2階ともにフロアー12㎜タイプにて重ね貼りをしてください。

① 踏板・蹴込板のカット

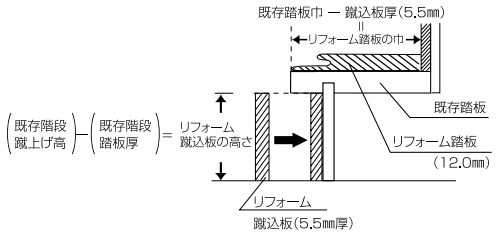
踏板、蹴込板横巾カット

リフォーム踏板、リフォーム蹴込板を既存側板内々寸法にカットします。



踏板、蹴込板奥行高さカット

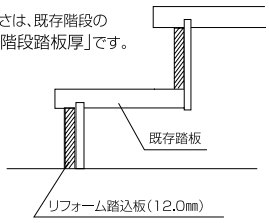
リフォーム踏板及びリフォーム蹴込板を右図の寸法でカットします。



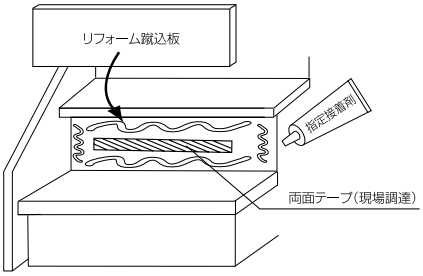
② 蹴込板の取り付け

(既存蹴込板はサンドペーパーで目立した状態にしておいてください。)

リフォーム蹴込板の高さは、既存階段の「蹴上げ高さ－既存階段踏板厚」です。



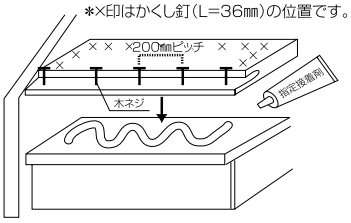
既存蹴込板表面を、接着剤がしっかりとつくように
サンドペーパーにて目立してください。
指定接着剤塗布前に、蹴込板仮止め用の両面テープ
(現場調達)を中央付近に貼り、外周部分へ適量、
指定接着剤を塗布し接着してください。



※リフォーム蹴込板施工後、接着剤がはみださないように
加減して塗布してください。

③ 踏板の取り付け

指定接着剤で踏板を貼り、
木ネジ、かくし釘で固定します。



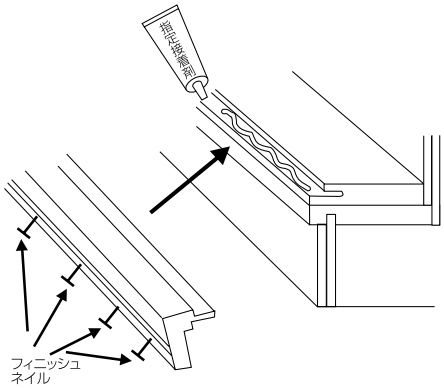
※リフォーム踏板施工後、
接着剤がはみださないように
加減して塗布してください。

お願い
●接着剤がはみ出したらすぐに、拭きとってください。 ●かくし釘を打ち込む際には、木ネジの箇所と重ならないように注意してください。 ●フィニッシュネイルの頭は必ずポンチで打ち込んでください。 ●木ネジの施工は、下穴をキリであけてから固定してください。

リフォーム階段

④ 段鼻材の取り付け

既存側板の内々寸法にカットします。
長さを確認しながら、踏板差込部に
指定接着剤・フィニッシュネイル併用
にて取り付けてください。

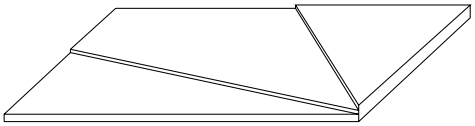


1段毎に①～⑤の繰り返しとなります。

※段鼻材施工後、接着剤がはみださないように、加減して塗布してください。

⑤ 廻り踏板・踊り場の取り付け

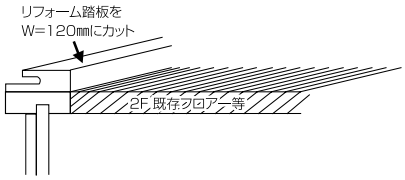
リフォーム蹴込板を取り付けた後の既存廻り踏板の
踏面と同様のサイズにカットします。
（取り付けは①～⑤）



注意：廻り階段の踏板に取り付ける段鼻材は、両側の
小面の角度を壁面に合わせてカットしてください。

⑥ 最上段（上段框）の施工

階段を上がり切り部まで仕上げたら、
上段框として、リフォーム踏板巾を
W=120㎜にカットします。
（但し、現場での状況により若干調整が必要です）
カットした踏板を既存上段框の前面に合わせて
取り付けます。



*リフォーム踏板には、蹴込板差込溝はありません。
④の踏板の取り付けと同じように、指定接着剤、
木ネジ、かくし釘で固定してください。

2Fフロアー重ね貼り不要の場合

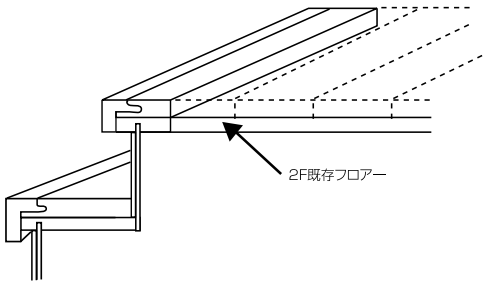
下記の床見切り材をご使用ください。

■床見切り材C型

長さ × 幅 × 厚さ（㎜）	品番
1,900 × 50 × 13	DHC7713-□

⑦ フロアー（12㎜）の重ね貼り

階段部分が全部貼り上がったら、
重ね貼りフロアー（12㎜）を貼ります。



⚠注意	壁際に隙間ができないように、コーキング等で充填してください。

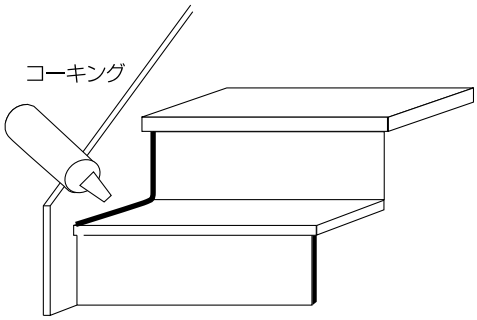
仕上げ

⑧ 壁際の納め方

隙間の処理

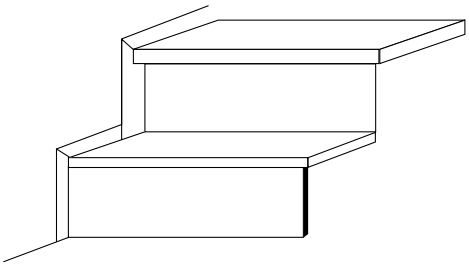
<既存側板納め>

隙間はコーキング材で処理してください。



<巾木納め>

巾木(別売)で隠します。



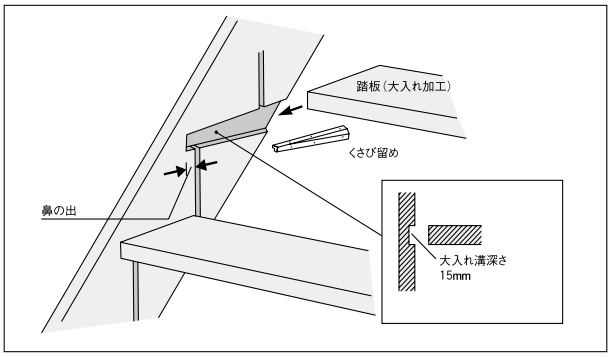
*巾木は「プレカット巾木」を
別途ご発注の上、仕上げてください。

お願い	鼻の出裏面には養生テープを使用しないでください。

プレカット階段

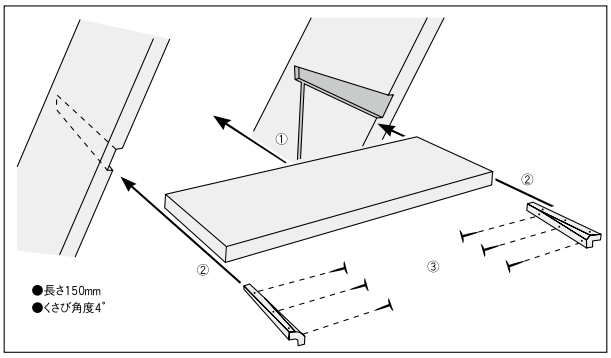
箱型大入れ加工プレカット

鼻の出部分だけ踏板厚で平行カットし、その後ろは下面側が傾斜してテーパー状になっています。
従って、踏板をはめこんだらくさび留めを行って施工してください。
くさびは別売の「ラクラク階段くさび」をご利用ください。



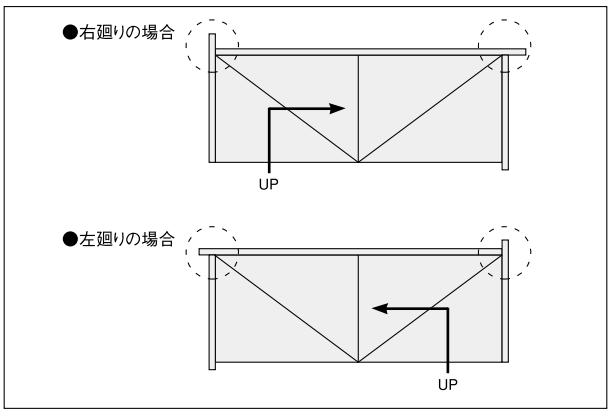
■「ラクラク階段くさび」の施工手順

①プレカット（大入れ加工）された側板に、踏板を入れる。
②くさびを打ち込む。
　このとき、壁側にくさびを寄せるように、手で添えておこなってください。
③くさびを、釘で固定する。
※くさびは、左右いずれにもご使用できます。



廻り側板プレカット（大入れ加工）180度4段・6段廻り

廻り側板で納める場合は、下記の通り、廻り側板取付け願います。

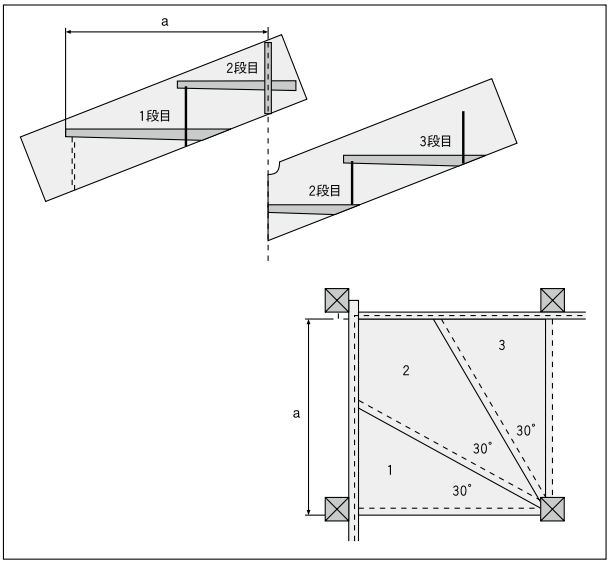


廻り側板プレカット（大入れ加工）90度　3段廻り

廻り側板は、下側板と上側板が平行に加工されています。下図のように接続加工をしてありますので接合していただければ取り付けできます。
180度6段廻りの場合も、側板接続加工してありますので接合するだけで簡単に取り付けできます。

■蹴込み柱芯納め

蹴込みが柱芯から始まり柱芯で終わる納まりで、廻り始めと終わりの蹴込みは柱芯に位置します。側板接続基準点は、「蹴込み柱芯納め」を基準に加工しています。

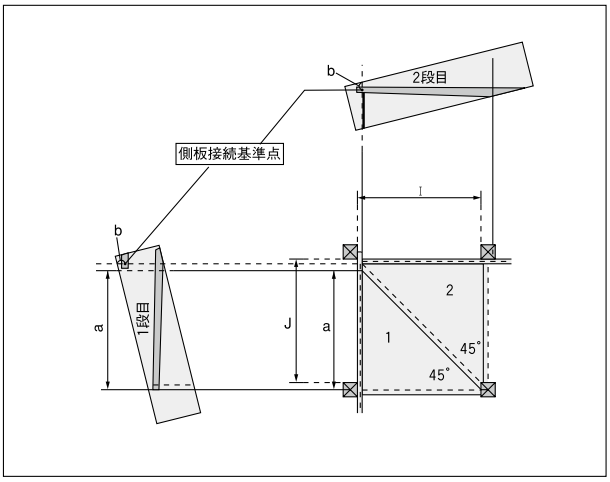


廻り側板プレカット（大入れ加工）90度　2段廻り

2段廻りを廻り側板で納める場合は、廻り踏板の均等2分割（45度）納めを原則としますので、柱内々寸法は**I寸法＝J寸法**にてお願いします。
接続点の加工は、3段廻りと同様です。
尚、180度4段廻りの場合も、側板接続加工をしてありますので接合するだけで簡単に取り付けできます。

■蹴込み柱芯納め

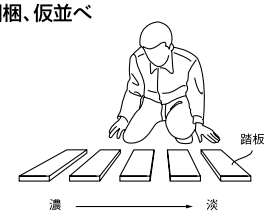
この場合の**接続点は、側板接続加工部中心が中心点**となります。



⚠ **注意**　集成階段（杉・桧）または集成ジュピーノ・ピノアースで蹴込板が集成材の場合は廻り踏板及び踊場の施工は商品同梱の説明書をご参照ください。

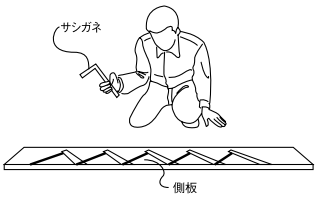
施工手順

1 開梱、仮並べ



●開梱後は最初に施工説明書をお読みください。
●踏板をあらかじめ濃色から淡色へ仮並べしてください。

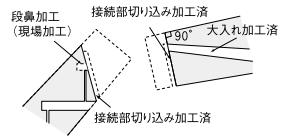
2 階高と加工寸法の確認



●納入された側板の加工寸法と現場の階高を確認してください。
●相違がない事を確認後、側板の取り付けを始めます。

3 直側板と廻り側板の接続

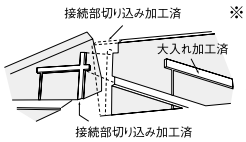
（直側板と廻りの側板の接続）



●廻り側板の段鼻掘り込みより廻り側板を直角にカットしてください。
●直側板は、段鼻掘り込みより廻り側板をカットした角度に合わせてカットしてください。

4 廻り側板と廻り側板の接続（蹴込み柱芯納め）

（廻り側板と廻り側板の接続）



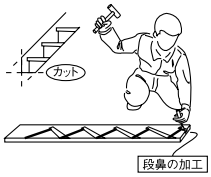
※「蹴込み柱芯納め」蹴込みが柱芯から始まり柱芯で終わる納まりで、廻り始めと終わりの蹴込みは柱芯に位置します。

側板接続基準点は、「蹴込み柱芯納め」を基準に加工しています。

5 廻り側板の取り付け

●廻り側板取り付け位置を蹴上げ寸法より計算し位置決めをおこなってください。
●側板の掘り込み部分より柱、間柱に向け45㎜以上の木ネジで側板を固定してください。

6 段鼻加工、側板下端カット

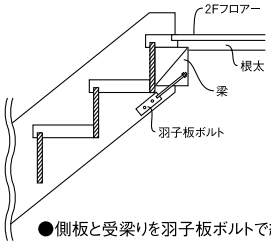


●直側板と廻り側板との接続部の段鼻を掘り込み加工をおこないます。
●直側板の下端を1階フロアー面に合わせカットを行います。

7 直側板の取り付け

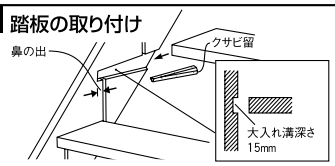
●廻り側板と接点を合わせ踏板の掘り込み部分より45㎜以上の木ネジで柱に固定してください。
●角度の微調整は直側板で調整して取り付けてください。

8 直側板上端の取り付け



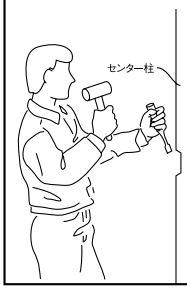
●側板と受梁りを羽子板ボルトで締めて固定してください。

9 踏板の取り付け



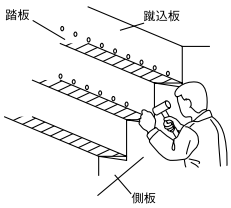
●踏板の正寸カット（オプション）を行ってありますので側板の裏にパッキン材にて調整しながら取り付けてください。
●踏板の固定には別売品のクサビを打ち込んで止めてください。
ラクラク階段くさび（別売品）
ZY2011　¥4,305（¥4,100）（30本入り）

10 廻り踏板の取り付け



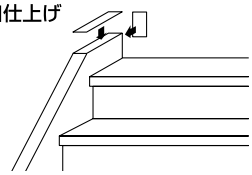
●廻り踏板の有効寸法を確認し、センター柱に欠き込みを入れます。
●廻り踏板を廻り側板の加工寸法に合わせカットをしてください。
●柱の欠き込み部分にて微調整を行い、廻り踏板の取り付けをおこなってください。

11 蹴込板の取り付け



●蹴込板を階段の裏側より釘またはビスとボンドを必ず併用し固定してください。

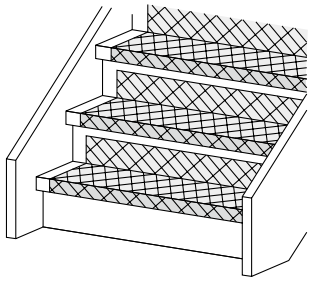
12 木口仕上げ



● LV階段　同梱の木口単板を木工用ボンドにて貼り木口を仕上げてください。

● 集成階段　現場塗装にて重ね塗りをして仕上げてください。

13 完成後の養生



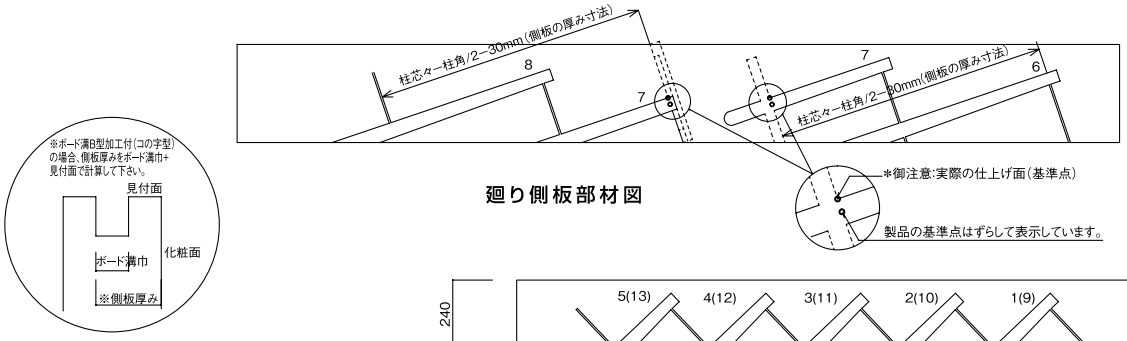
●踏板を保護するために木屑や砂、ゴミを取り除き、段ボールなどで十分に養生を行ってください。また、養生テープを使用する際には、弊社別売品の**WOOD ONE**養生テープを使用してください。一般の養生テープは粘着力が強いため、塗膜がはがれる原因となります。
●最後に同梱されておりました使用説明書をお施主様にお渡しください。

商品名	品番	設計価格/巻
WOOD ONE 養生テープ	ZY0211	¥1,470（¥1,400）

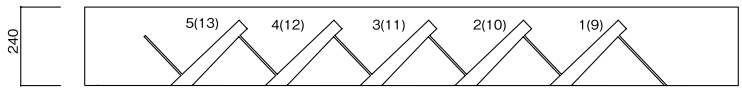
お願い	●鼻の出裏面には養生テープを使用しないでください。

プレカット階段

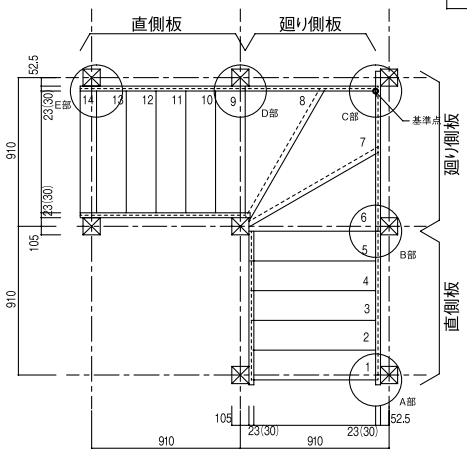
3段廻り階段　側板接続方法



廻り側板部材図

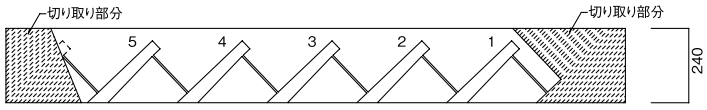


直側板部材図

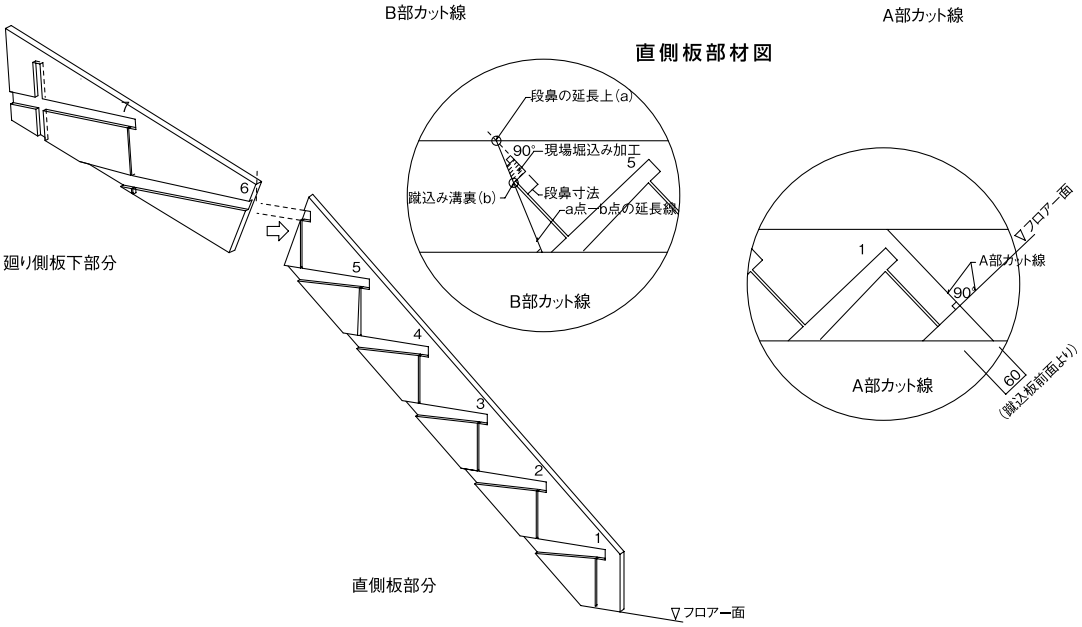


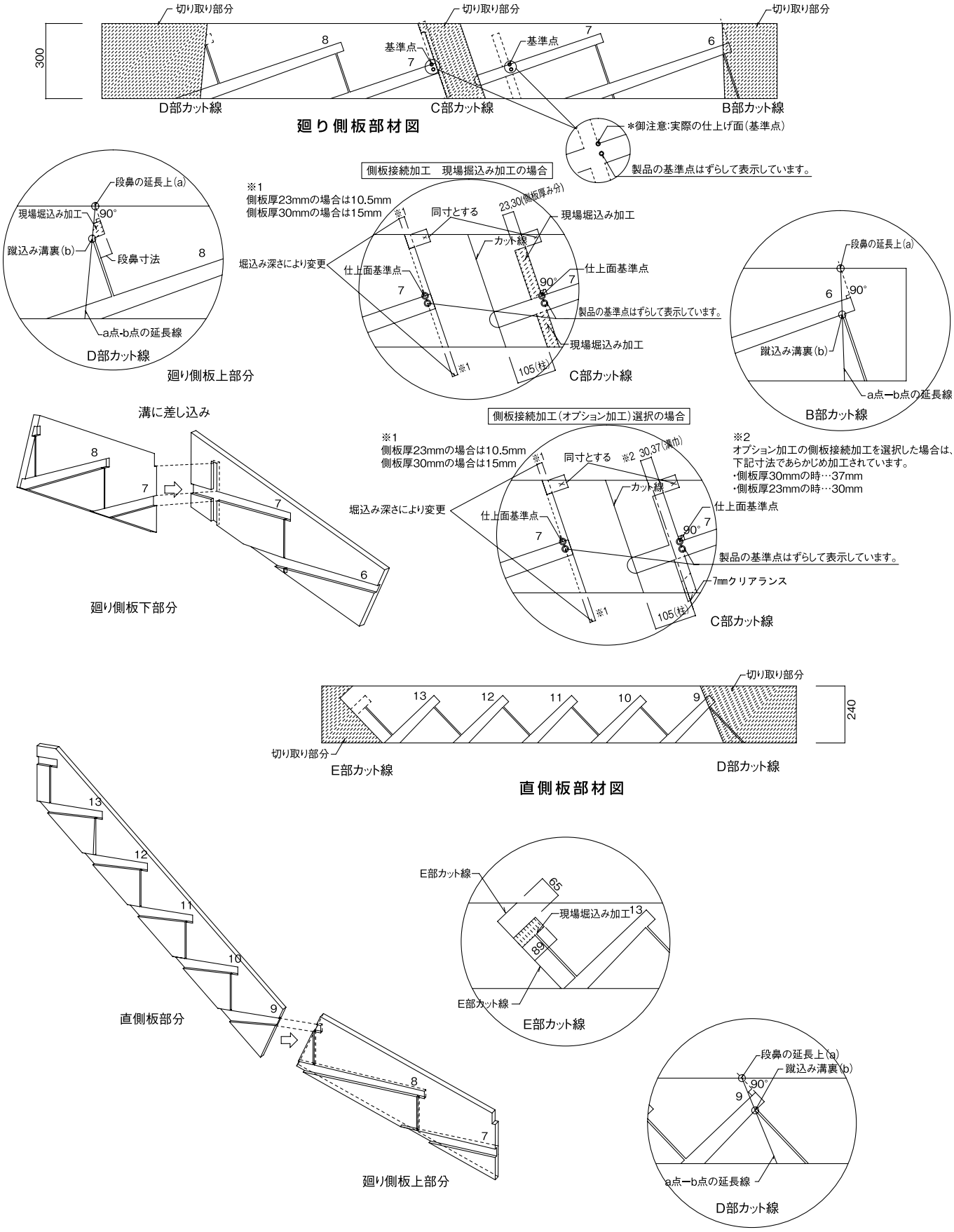
階段平面図　S=1／20

●本階段は910モジュール,柱:105角を基準として蹴込芯納まりで作成しています。
●柱内々間で設定しているので現場がそうならない場合は柱の欠き込み、パッキン等の調整が必要です。
●現場微調整お願いします。
●箱階段＋露出階段や露出階段は踏板巾などの関係で見付寸法の調整が必要です。廻り階段との接続は現場調整が必要になるケースがあります。
●直階段部が2ケ所以上ある階段で、蹴上げ、踏面、見付けのいずれかが異なる場合は現場調整が必要になります。
●2段＋3段などの不均等な廻り階段は見付寸法の関係で直階段の側板の見付けを調整させて頂くケースがあります。



直側板部材図



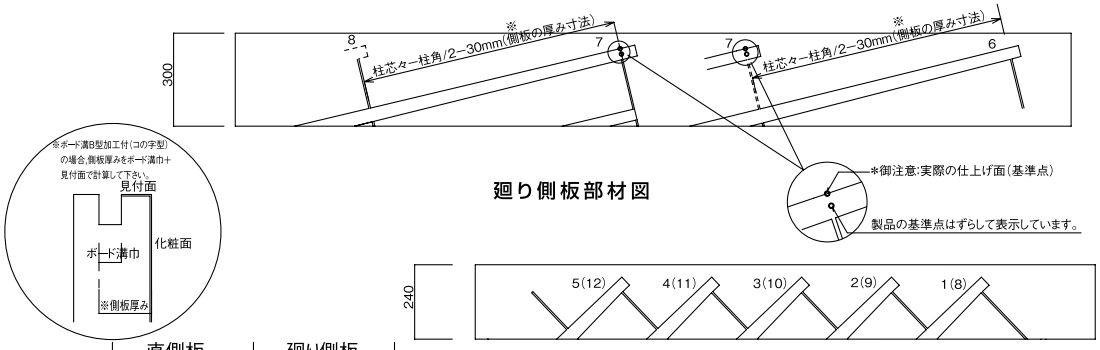

切り取り部分
300
8
基準点
7
6
D部カット線
C部カット線
B部カット線
*御注意:実際の仕上げ面(基準点)
製品の基準点はずらして表示しています。
段鼻の延長上(a)
現場堀込み加工
90°
蹴込み溝裏(b)
段鼻寸法
a点-b点の延長線
D部カット線
側板接続加工 現場堀込み加工の場合
※1
側板厚23mmの場合は10.5mm
側板厚30mmの場合は15mm
同寸とする
23.30(側板厚み分)
カット線
堀込み深さにより変更
仕上面基準点
105(柱)
C部カット線
B部カット線
溝に差し込み
側板接続加工(オプション加工)選択の場合
※2
30.37(溝巾)
オプション加工の側板接続加工を選択した場合は、
下記寸法であらかじめ加工されています。
・側板厚30mmの時…37mm
・側板厚23mmの時…30mm
7mmクリアランス
廻り側板上部分
廻り側板下部分
切り取り部分
13
12
11
10
9
240
E部カット線
D部カット線
直側板部材図
直側板部分
65
89
現場堀込み加工
a点-b点の延長線

廻り側板部材図

プレカット階段

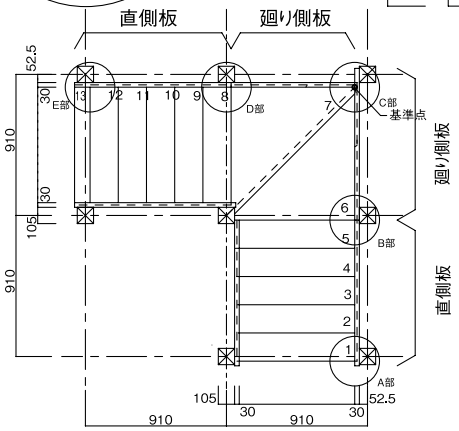
2段廻り階段　側板接続方法

※直部分は3段廻り階段と同様です



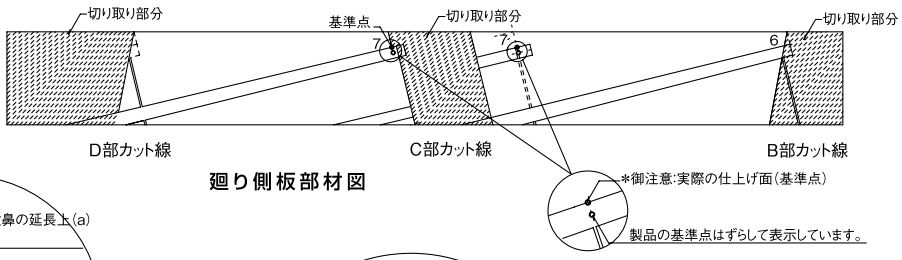
廻り側板部材図

直側板部材図

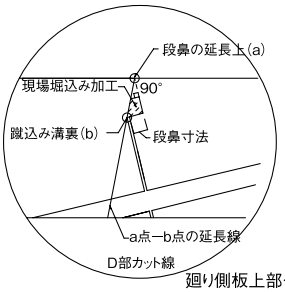


階段平面図　S=1／20

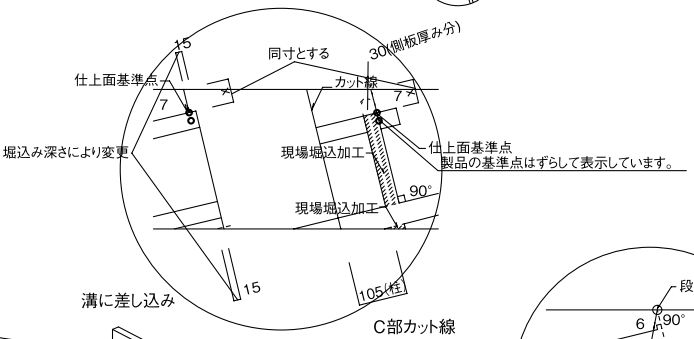
●本階段は910モジュール,柱:105角を基準として蹴込芯納まりで作成しています。
●柱内々間で設定しているので現場がそうならない場合は柱の欠き込み,パッキン等の調整が必要です。
●現場微調整お願いします。
●箱階段＋露出階段や露出階段は踏板巾などの関係で見付寸法の調整が必要です。廻り階段との接続は現場調整が必要になるケースがあります。
●直階段部が2ケ所以上ある階段で、蹴上げ,踏面,見付けのいずれかが異なる場合は現場調整が必要になります。
●2段＋3段などの不均等な廻り階段は見付寸法の関係で直階段の側板の見付けを調整させて頂くケースがあります。

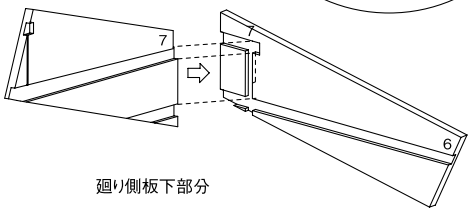


廻り側板部材図

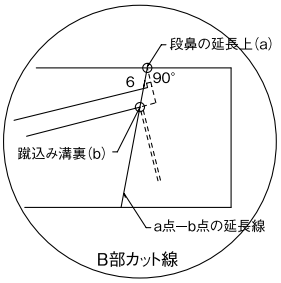


廻り側板上部分



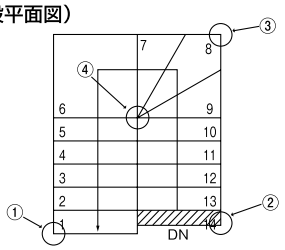


廻り側板下部分

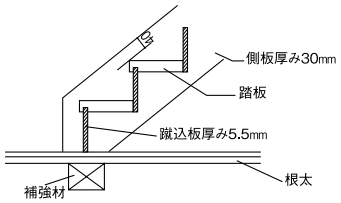


プレカット階段〈オプション加工〉納まり図

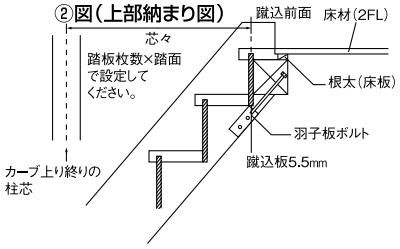
（階段平面図）



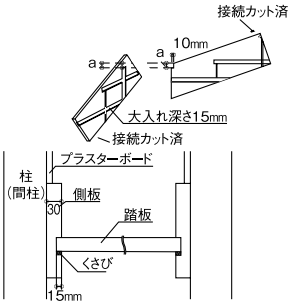
①図（下部納まり図）



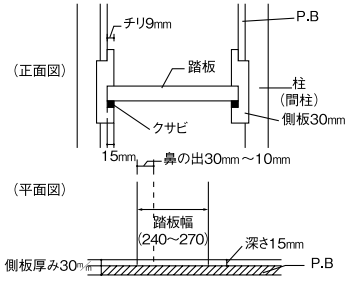
②図（上部納まり図）



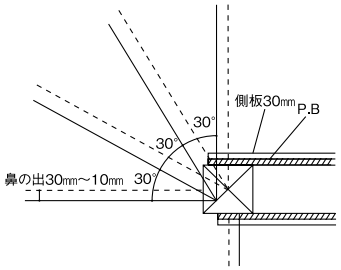
③図（3段廻り用受け台納まり図）



（踏板納まり図）



④図（廻り踏板納まり図）



R66 シリーズ

手すり・親柱・子柱の施工

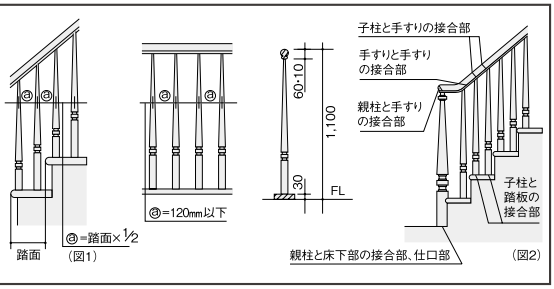
⚠ 注意

（1）子柱の間隔は、子どもがすり抜けない間隔で施行をおこなってください。

（2）手すりの接続、手すりと親柱子柱との接続、手すり・親柱・子柱の躯体側との接続は、ポリウレタン系接着剤（別売）を使用し、強固にとりつける。（図2参照）

弊社での積算基準

（1）子柱の間隔は踏板に使用する場合は2本、2階ホール等に使用する場合は芯々120㎜以下とする。2階ホールの手すりの高さは1,100㎜を基準とする。

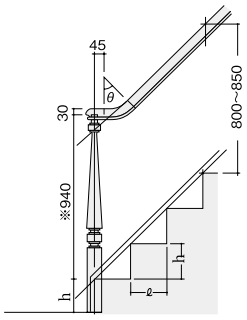


親柱の位置と高さ

勾配部の手すりの高さは800㎜～850㎜が目安となります。親柱の位置によって親柱の取り付け高さが変わりますので下図を参照してください。

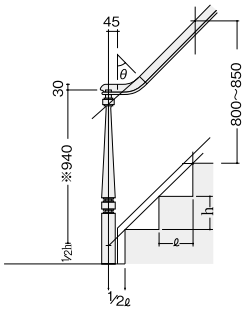
昇りはじめ部分の親柱

1. 段鼻と親柱の中心が一致する場合



親柱の高さ=※940㎜+h

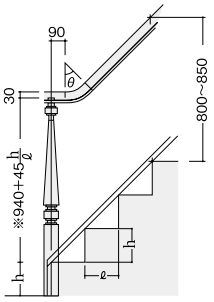
2. 親柱の中心が踏面の半分の寸法だけ段鼻からずれている場合



親柱の高さ=※940㎜+ ½h

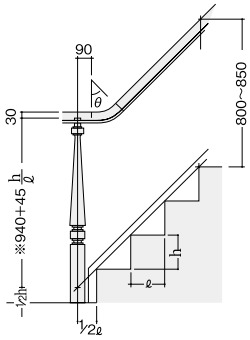
階段途中の親柱

1. 段鼻と親柱の中心が一致する場合



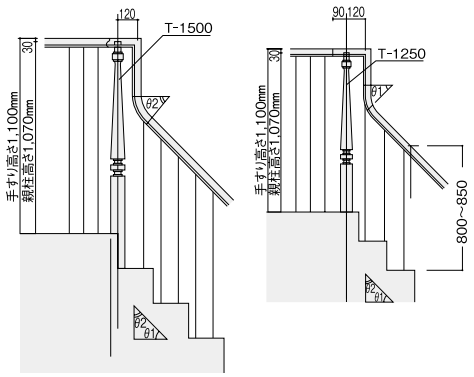
親柱の高さ=※940㎜+ 45 $\frac{h}{\ell}$ + h

2. 親柱の中心が踏面の半分の寸法だけ段鼻からずれている場合



親柱の高さ=※940㎜+ 45 $\frac{h}{\ell}$ + ½h

ホールの親柱

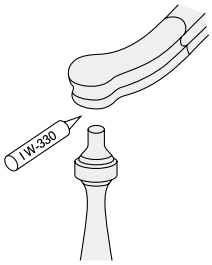


※印の寸法
940㎜は、勾配がほぼ45°の場合の目安です。勾配がゆるやかな場合は920㎜程度、きつい場合には950㎜程度にすれば、手すりの高さで800㎜～850㎜に納まります。

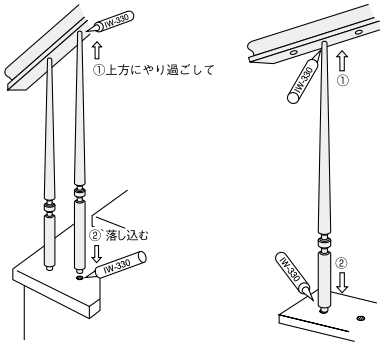
接合の手順

接着剤による親柱と手すりの接合

お願い	親子柱と手すりの接続部は弊社では別売のウレタン系一液接着剤（ＩW-330）の使用をおすすめしています。この理由は、階段部材にも近年、塗装品が増えていますが、塗装面と木部との接着を考えますと、酢ビ系の接着剤では強度が得られないことと、接着部のはく離を起こしやすいことです。 また、この接着剤（ＩW-330）は金属と木部との接着も可能ですから、接合金具の周辺にも塗布することでより高い強度が得られます。



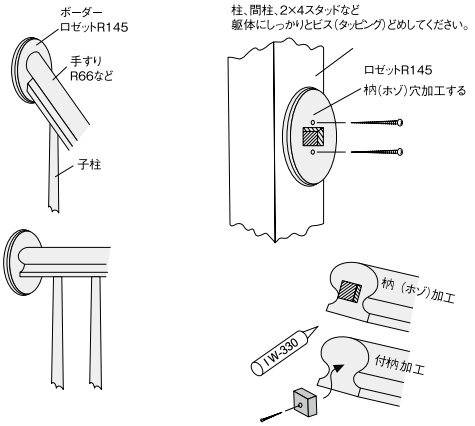
子柱と手すり及び踏板



お願い	接着剤は強度を確保する上で必ずご使用ください。接着剤は別売のＩW-330を使用してください

施工者が2名で作業できる場合は手すりを上から乗せる方法で可能ですが、1名作業のときにはやり過ごして落とし込む方法をおとりください。

ボーダーと壁面・ボーダーと手すりの接合



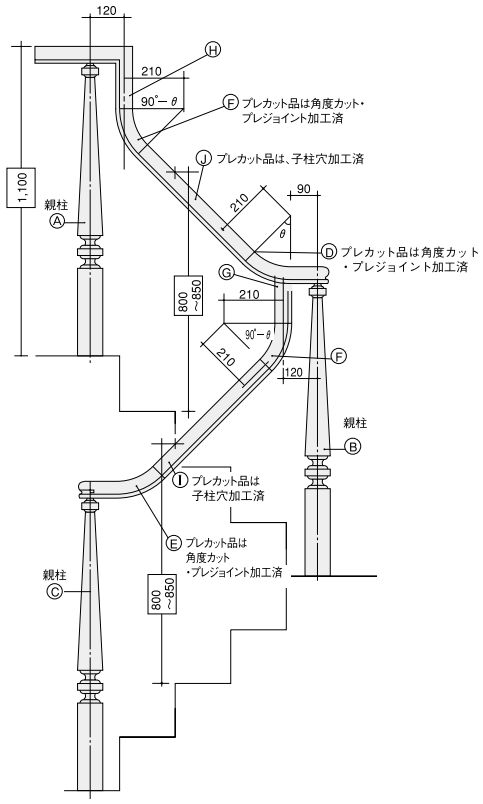
接着剤ＩW−330の使用方法

1.ウレタン系一液接着剤 IW−330は強力な接着効果を下記の場合に発揮します。
- **木材の木口どうしの接着を行うとき。**
- **接合金具を用いるとき、金属と木材との接着を可能にする。**
- **温度や湿度の変化に対し安定している。**

2.R66シリーズ手すりの接合作業、手すりと子柱、踏板やボーダーとの接着作業に用いるほか、親柱の補強や、スターティングステップまわりの補強にもお使いになれます。
3.キャップをとりはずし、アルミ膜を破り、キャップ先端をカッターで切りとり、コーキングガンにセットしてください。
4.適量を接着面に塗り、木片等をヘラ代りにして延ばしてください。金属部のネジまわりにも充てんしてください。木材と金属との一体化により接合の強度は倍加します。
5.硬化は空気中の湿度、木材中の水分によって、ゆっくりと始まりますから、季節や天候によって差が生じますが、少なくとも半日を必要とします。
従って、一日の作業を、仕事完了後に養生に入れる様、配慮して頂きますと、効率よく施工が可能です。
6.空気と木材の乾燥する冬期では、被着物の表面を濡れ雑巾や霧吹きで加湿しますと、硬化の立ち上がりが早くなります。
7.手や衣服に付着した接着剤はシンナー類や灯油で拭きとってください。時間が経ちますと、除去できません。
8.建築物の経時変化の中で、ゆるみやガタは出易いものですが、接着剤 IW−330はこれらを直すことは出来ませんが防止することはできます。後々のためにも、あらかじめ接着剤 IW−330をお選びください。

R66 シリーズ

施工手順



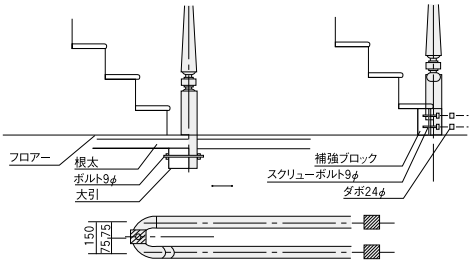
プレカット加工をおすすめします。

階段の勾配・踏面・蹴上げ寸法に合せて加工します。
加工内容
1．通直材（R66-2000、3000、4200）の子柱用穴あけ
2．システム部材の角度カットおよびプレジョイント加工

※通常の階段廻り部材と異なる特殊な加工を、工場にて行って納入しますので、現場作業が大巾に軽減され、美しい仕上がりを実現します。

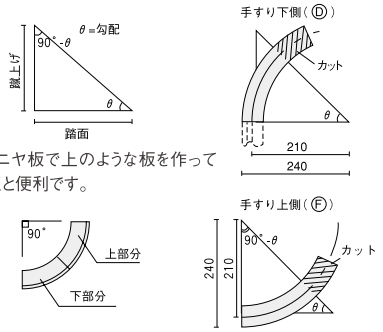
1 親柱の位置を決めます。

・2階ホールの手すりの高さは1,100㎜としてください。（親柱Ⓐ）
・階段昇り口や途中に立つ親柱（親柱Ⓑ・Ⓒは、立てる位置によって高さが変わります（P.546参照）。又、階段部の手すり高さによっても変わります。
・Uターンするタイプの手すり部材を使用する場合は親柱の位置に気をつけてください。



※親柱は先付施工でしっかり固定することが原則です。後付施工となる場合は、踏板に欠き込みを入れ補強材などを用いて階段本体としっかり固定してください。

2 システム部材の角度カットを行います。



※ベニヤ板で上のような板を作っておくと便利です。

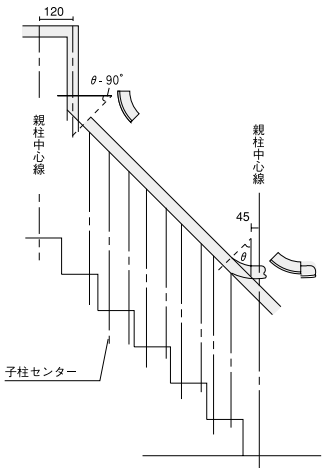
〈確認〉
カットされた下部分と上部分を合わせると90°になります。
※プレカット手すりの場合はカット済みです。接合作業の軽減、精度の確保の点でもプレカット発注をおすすめします。

3 原寸図作成と長さカット

壁やベニヤに原寸図を描き、脚部（ⒽⒼ）の長さカット、および通直部手すり（ⒾⒿ）の長さカットをおこないます。原寸図に角度カットの済んだ湾曲部の現物をあてがい、切断位置を墨付けしカットします。

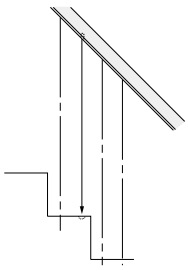
※プレカット品の場合は通直部の子柱穴加工をしていますので、踏板との位置関係に注意してカットしてください。

〈原寸図作成上の注意〉
各部材の寸法が決められていますので部材の寸法に従い作成してください。



4 仮固定と子柱位置の確認

・切断した部材を**P.547**を参照してジョイント用の加工をおこないます。
※プレカットされたシステム部材にはプレジョイント加工を施してあります。
・それぞれの部材を実際に親柱にのせてボルトで仮固定し、納まり具合を確認します。この時、子柱穴の位置を手すり、踏板の両方にチェックします。



5 子柱穴あけ

・子柱穴の位置をチェックしたら仮固定を解き、手すり、および踏板に24φドリルで子柱の穴あけをおこないます。
※プレカット品の手すりの場合は子柱穴加工済みです。この作業は仕上がり状態を満足することが難しい加工ですが、プレカット発注にしますと、精度の高い、美しい仕上がりになります。

6 手すりの固定

手すり部材をウレタン系一液接着剤（IW－330）とJボルトを併用して固定します。

7 子柱の取り付け

上部をやりすごしてから落とし込んで入れます。この場合もウレタン系一液接着剤（IW－330）を使用してください。

8

ジョイント部分に目違いが発生した場合は**P.536**を参照し、補修してください。

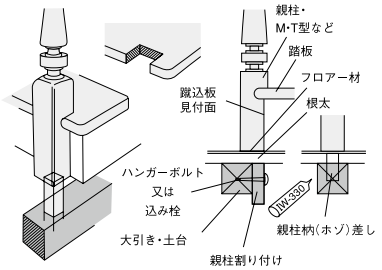
ヒナ段仕様の場合の施工方法

（1）親柱の固定方法

先付け施工の場合

親柱下端は枘（ほぞ）差しとし、大引、土台にハンガーボルト（φ10）や込み栓で接着剤を併用して固定してください。

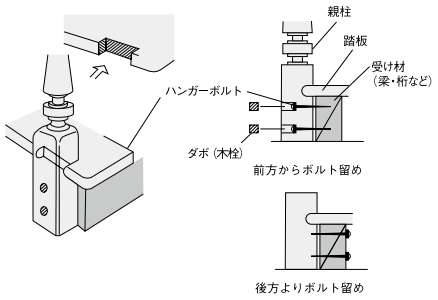
親柱の位置決めは、床下の大引や土台の位置および取り付け方によって、あるていど任意設定できます。蹴込み見付面合わせは、親柱の奥行方向の幅詰め調整で行ないますが、強度面から3分の2くらいを残してください。



後付け施工の場合

蹴込み見付面合わせは踏板の鼻の出寸法分を踏板側を欠きとり、それ以上は親柱側で幅詰めしてください。

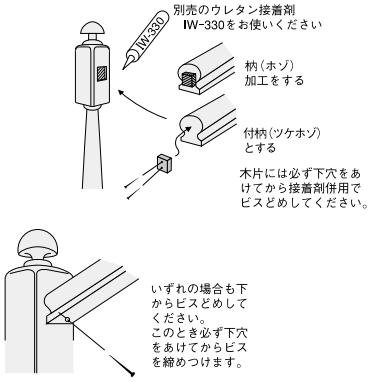
蹴込み見付面合わせは踏板の見返し寸法分を踏板側を欠きとり、それ以上は親柱側で幅詰めと合わせて行ってください。この場合も親柱幅は3分の2くらいを残してください。

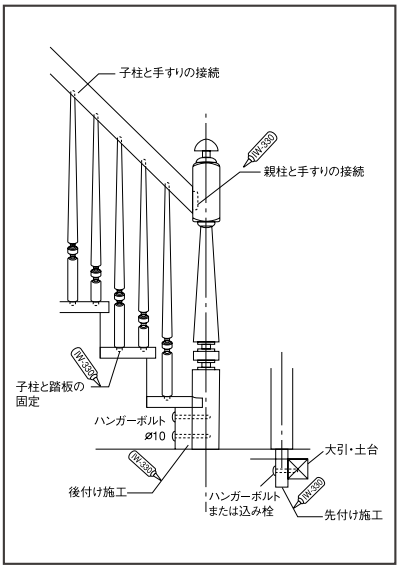


（2）親柱と手すりの接続方法

先付け施工の場合

親柱と手すりの仕口は枘（ほぞ）差しまたは付枘（つけほぞ）とし、接着剤を使用してください。





（3）子柱と踏板の固定方法

子柱下端は枘（ほぞ）差しまたは大入れとし接着剤を使用してください。

（4）子柱と手すりの接続方法

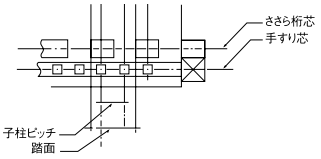
子柱上端は大入れとし、接着剤をご使用ください。

接着剤は別売りの接着剤
IW−330をご使用ください。

ささら桁仕様の場合の施工方法

（1）子柱の位置

①子柱下端を踏板に入れる場合
　下図のようにささら桁芯と手すり芯をずらして施工してください。
②1段2本立ての子柱のピッチは踏面の1/2で施工してください。

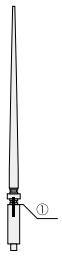


（2）親柱の固定、親柱と手すりの接続

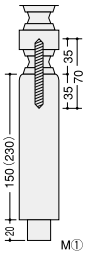
子柱と踏板の固定、子柱と手すりの固定は前（3）・（4）項に準じて施工してください。

⚠ 注意

子柱E型には金属ボルトの接合を行っております。
切断の際には充分ご注意ください。



子柱タイプ		接合箇所
型	長さ	
E	900	①
E	1,150	①
T	900	なし
T	1,150	〃
H	900	〃
H	1,150	〃



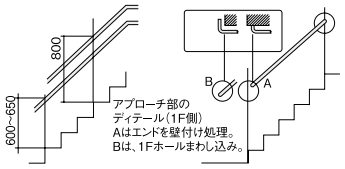
（　）は1,150ミリ長さのとき

φ 35 シリーズ・手すりブラケットシステム

施工上のご注意

⚠ 注意

(1)手すりの取り付け高さは800㎜程度としてください。更に子供用手すりを取り付ける場合は、高さ600㎜～650㎜程度としてください。
(2)手すり端部はぶつけたりひっかかったりしないよう配慮してください。
(3)アプローチ部分にも手すりを付けてください。
(4)ブラケット(手すり受け)の取り付け間隔は、900㎜以下としてください。
(5)ブラケットは下地にしっかりと固定してください。柱・間柱以外で固定する場合は、必ず下地に補強材を入れてください。

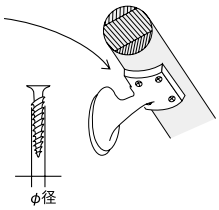


丸型手すりの施工

すきまが生じて緩まないようセットビスは下穴をあけてからしっかりと締め付けてください。

下穴径は80～85%を目安にしてください。別売のウレタン系一液接着剤(IW－330)を少量充てんしておくこともゆるみ止めの効果があります。

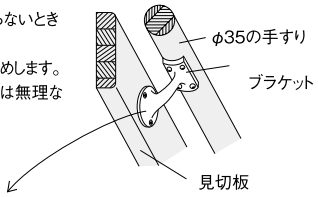
(例)4ミリの径のとき
4ミリ×80%=3.2㎜　4ミリ×85%=3.4㎜
このあたりのドリル刃φを選んでください。



見切板ご使用のお勧め

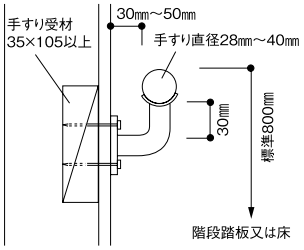
○壁下地の都合でブラケット位置が定まらないとき
○意匠面でアクセントを付けたいとき
などに見切板(笠木など)のご使用をお勧めします。ただし、階段スペースの幅寸法によっては無理な場合があります。

ブラケットのベースの下に柱や間柱への取り付けビスがくるようにするとビスの頭部を隠すことができます。

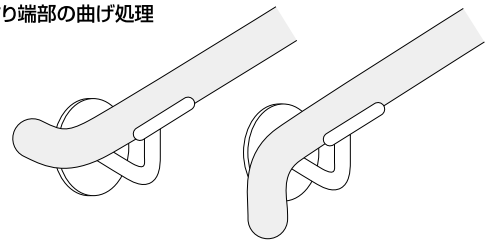


手すりの形状と設置方法(住宅金融支援機構　共通仕様書より)

※注意
構造用合板に直接取り付ける場合は全ネジタイプのビスを用いること。



手すり端部の曲げ処理

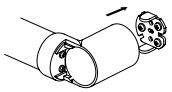


施工手順

エンドエルボー金具(着脱タイプ)

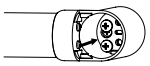
取り付け

1 手すりの取り付け



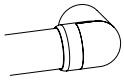
手すり全体をまっすぐに差し込んでください。

2 手すりの固定



組立ビスを取付け最後まで確実に回してください。

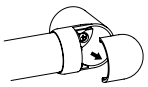
3 カバーの取り付け



カバーを取付け、納まりを確認してください。浮いている場合は手順2を再確認してください。

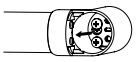
取り外し

1 カバーの取り外し



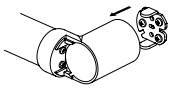
カバーをはずしてください。

2 ビスの取り外し



組立ビスをドライバーで外してください。

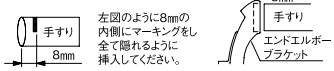
3 手すりの取り外し



手すり全体を手前にまっすぐ引いてください。

エンドエルボー金具(シンプルタイプ)

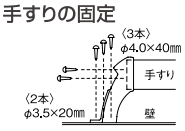
1 手すりの取り付け



左図のように8㎜の内側にマーキングをし全て隠れるように挿入してください。

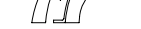
手すりを納まりに合わせてカットしてください。(金具内に8㎜はいります。)

2 手すりの固定



エンドエルボーブラケット内に手すりを8㎜差し込んでビスを固定してください。(専用ビスが同梱されています。)

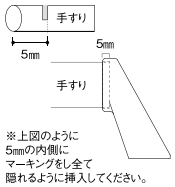
3 カバーの取り付け



カバーを取り付けてください。

エンドエルボー金具(スクエアタイプ)

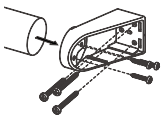
1 手すりの取り付け



※上図のように5㎜の内側にマーキングをし全て隠れるように挿入してください。

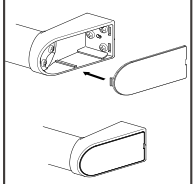
手すりを納まりに合わせてカットしてください。(金具内に5㎜はいります。)

2 手すりの固定



エンドエルボー金具内に手すりを5㎜差し込んでねじを固定してください。(専用ねじが同梱されています。)

3 カバーの取り付け

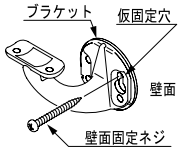


カバーを取り付けください。(専用ねじが同梱されています。)

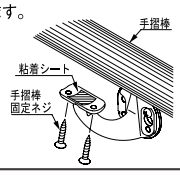
施工上のご注意

壁取り付けブラケット

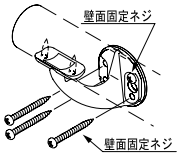
1
仮固定穴に壁面固定ネジAナベ+TP4×40 1本をねじ打ちして仮固定します。



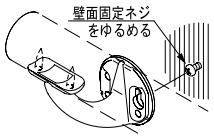
2
ブラケット手摺棒受部の粘着シートで手摺棒を仮固定し、手摺棒固定ネジA丸皿+TP3.5×20　2本にて手摺棒を固定します。



3
壁面に壁面固定ネジAなべ+TP4×40 3本にてブラケットを固定し、カバーを装着します。

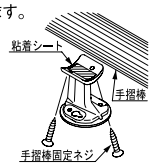


壁面固定ネジAなべ+TP4×40　1本をゆるめ、手摺セットを外します。その時、壁面固定ネジAナベ+TP4×40は壁面に残ります。

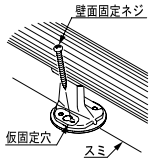


直型ブラケット

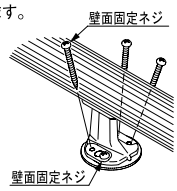
1
ブラケット手摺棒受部の粘着シートで手摺棒を仮固定し、手摺棒固定ネジA丸皿+TP3.5×20　2本にて手摺棒を固定します。



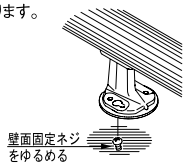
2
壁面にスミ出し後、スミ出しマークにあわせ仮固定穴に壁面固定ネジAナベ+TP4×40 1本をねじ打ちして仮固定します。



3
壁面に壁面固定ネジAなべ+TP4×40 4本にてブラケットを固定し、カバーを装着します。

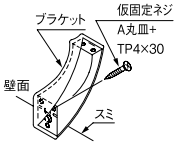


壁面固定ネジAなべ+TP4×40　1本をゆるめ、手摺セットを外します。その時、壁面固定ネジAナベ+TP4×40は壁面に残ります。



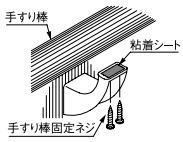
壁取り付けブラケット（シンプルタイプ）

1 取り付け



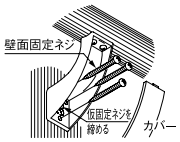
壁面にスミ出し後、スミ出しマークにあわせ仮固定ネジA丸皿TP4×30 1本にて仮固定します。

2 固定



ブラケット手すり棒受部の粘着シートで手すり棒を仮固定し、手すり棒固定ネジAなべTP3.5×20 2本にて手すり棒を固定します。

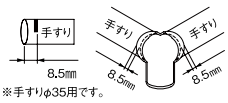
3 カバーの取り付け



壁面に壁面固定ネジAなべ+TP4×40　3本にてブラケットを固定し、カバーを装着します。

L型金具

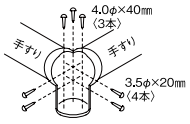
1 金具の取り付け



※手すりφ35用です。
上図のように8.5㎜の内側にマーキングをし全て隠れるように挿入してください。

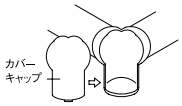
手すりを納まりに合わせてカットしてください。（金具内に8.5㎜はいります）

2 金具の固定



L型金具φ35本体内に手すりを8.5㎜差し込んでビスを固定してください。（専用ビスが同梱されています）

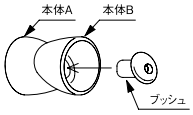
3 カバーの取り付け



カバーを取り付けてください。

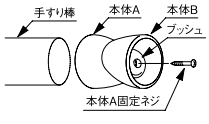
フリージョイント金具

1 金具の取り付け



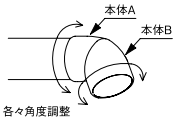
本体A、本体Bを組合わせ、ブッシュを本体Bの開口から差し込んで一体化します。

2 金具の固定



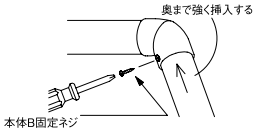
一体化された本体A、Bを図のように一直線上に手すり棒にはめ込み、本体Bのブッシュ穴に本体A固定ネジ Aナベ+TP4×40で丸棒木口へ固定します。

3 角度調整



手すり棒に固定された本体A、Bを各々回転させながら角度調整をし、収まり位置を決めます。

4 カバーの取り付け



もう一方の手すり棒は、本体Bの内側がテーパーのため奥まで強く挿入してから、本体B固定ネジA丸皿+TP3×20で固定してください。

後付け手すり

施工手順

※後付け用エンドブラケットをご使用の場合は、商品同梱の施工説明書をご確認ください。

後付け用ベース材

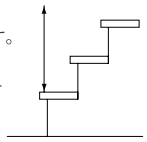
1 確認

下地材の位置を確認してください。
※柱・間柱の位置です。

2 位置決め

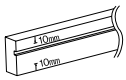
ベース材の取付け位置を決めます。

取付け位置は路面から手すり上端が800㎜程度としてください。



3 ビス打ち

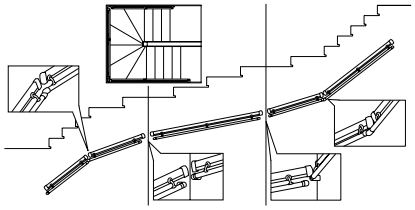
910㎜ピッチ以内に上・下ビスを打ちます。ビス頭には専用キャップをはめてください。
※ベース割れ防止の為、必ず下穴加工の後、ビス固定してください。



4 ブラケットの取り付け

後付け用ブラケット・丸棒手すりφ35を取り付けます。

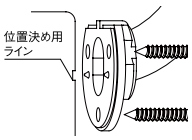
施工参考例



後付け用ブラケット

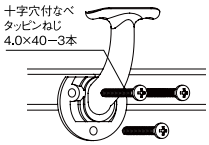
ベース材（位置決め用ライン）が正しく取り付けされてるかご確認ください。

1 取付け位置の調整



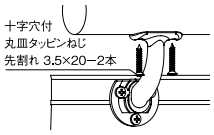
受け台の位置決め用ラインにブラケットの台座部裏面の突起部を合わせて位置を決めてください。

2 ブラケットの固定



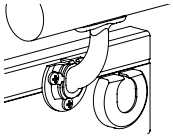
十字穴付なべタッピンねじ 4.0×40で固定してください。

3 丸棒の固定



丸棒をブラケットに十字穴付丸皿タッピンねじ 3.5×20先割れで固定してください。

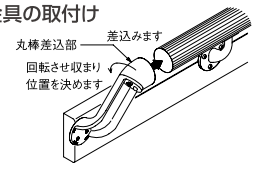
4 カバーの取付け



最後にブラケットカバーを取付けてください。

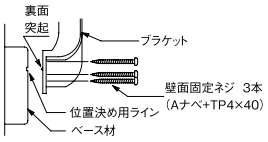
後付け用エンドブラケット

1 金具の取付け



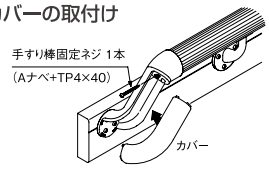
ベース材に壁取付けブラケットと手すり棒を取付け後、手すり棒端部にブラケットを取付けるため、丸棒差込部を回転させ収まり位置を決め、手すり棒に差込みます。

2 金具の固定



ベース材位置決め用ラインにブラケットの裏面突起を合わせ、壁面固定ネジA+ナベTP4×40 3本にてベース材へ固定します。

3 カバーの取付け



ブラケットを手すり棒固定ネジAナベ+TP4×40 1本にて手すり棒木口に固定し、カバーを装着します。

腰手すり

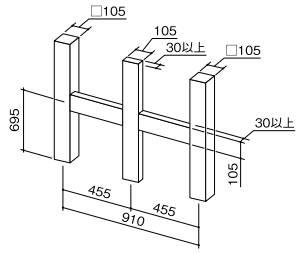
施工手順（床面から手すり上端750㎜設定時）

お願い 腰手すりと腰手すりブラケットは、セットにしてお使いください。

1 確認

ブラケット取り付け位置に手すり受材35㎜×105㎜以上の下地があることをご確認ください。

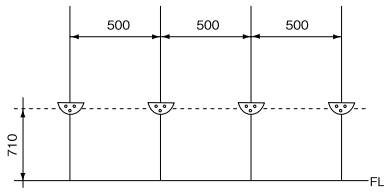
910モジュールの場合の下地の補強例



※上記の様に、必ず下地に補強を入れて、手すりが折れない様にブラケット（手すり受け）の取付間隔は50㎜以下としてください。

2 ビス打ち

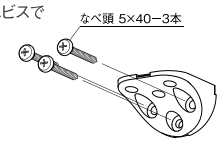
下図の位置へブラケットを壁面にビスで固定してください。



お願い ブラケットの取付け間隔は500㎜以下としてください。

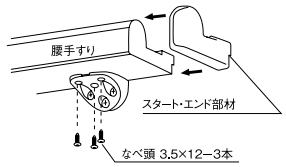
3 ブラケットの固定

ブラケットを壁面にビスで固定してください。

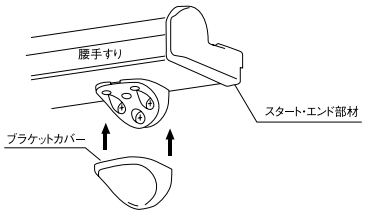


4 各部の固定

腰手すりをブラケットにのせ、ビスで固定し、スタート・エンド部材をボンドで取り付けてください。

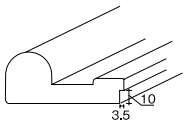


5 カバーの取り付け

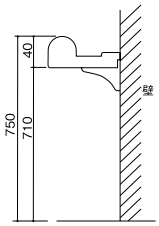


〈腰手すりと腰壁ピノアース併用施工〉

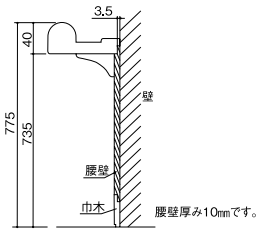
対応腰壁部材
……ピノアース ストライプパネル



腰壁へ取り付ける場合



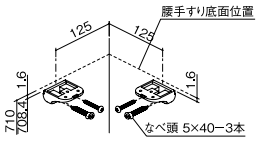
直接壁へ取り付ける場合



入り隅部

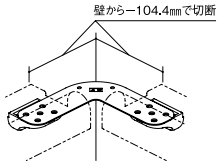
腰手すりと出隅材・入り隅材の木口面全面に必ず酢ビ系ボンドを併用してください。

1 ブラケットの固定



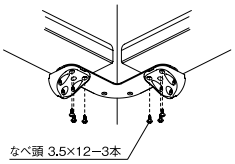
図の位置へブラケットを壁面にビスで固定してください。

2 コーナープレートの位置調整



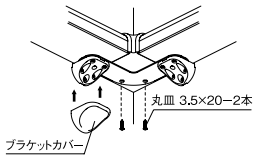
コーナープレートを刻印（穴位置）に合わせて、ブラケットにのせてください。

3 腰手すりの固定



腰手すりをのせビスで固定してください。

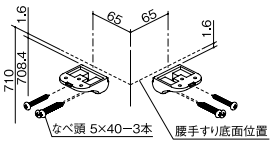
4 カバーの取付け



出隅材・入り隅材をのせビスで固定し、カバーを取り付けてください。

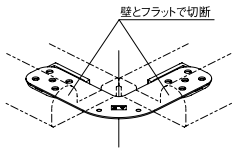
出隅部

1 ブラケットの固定



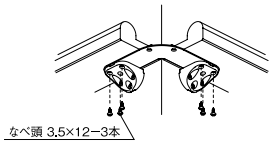
図の位置へブラケットを壁面にビスで固定してください。

2 コーナープレートの位置調整



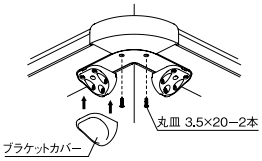
コーナープレートを刻印（穴位置）に合わせて、ブラケットにのせてください。

3 腰手すりの固定



腰手すりをのせビスで固定してください。

4 カバーの取付け



出隅材・入り隅材をのせビスで固定し、カバーを取り付けてください。

屋根裏収納はしご（安全上のご注意）

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **注意** この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

屋根裏収納用はしご

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落・破損の原因となり危険です。特に湿気の多い場所や自動車の排気ガスが入り込むような場所（車庫の上等）には取り付けをしないでください。サビの原因となり、本体破損のおそれがあります。

・商品の解体・改造・仕様変更は絶対にしないでください。
本体破損の原因となり危険です。

・ナット・ビス類がゆるんだまま使用しないでください。
本体の破損により落下、転倒してケガをするおそれがあります。

・スリッパ等すべりやすいものを履いての昇り降りはやめてください。
滑って踏みはずし、ケガをするおそれがあります。

・はしごやフタの開閉の途中でぶらさがったり、ゆさぶったりしないでください。
落下や転落する危険があります。

・屋根裏収納用はしごは開閉時、天井ふたの真下に立ったり、片手のみで開閉したりしないでください。
物が落下してケガをするおそれがあります。

・はしごに背を向けての昇り降りはしないでください。
安全を欠き、踏みはずしてケガをするおそれがあります。

・はしごに乗った（踏板に足を掛けた）状態で荷の上げ下げ等の作業はしないでください。
踏みはずしたり、不安定な状態になるなど危険です。

・お子様やお年寄りなど体力の弱い方のご使用は避けてください。
体力の弱い方のご使用は、ケガや事故の原因になります。またお子様の遊び道具にしないでください。

・とび降り・ゆさぶり禁止
はしごからの飛び降り、ゆさぶり等はしないでください。
※ケガや破損の原因となります。

必ずおこなう

・施工作業は2人以上でおこなってください。
施工作業は必ず2人以上でおこなってください。1人で作業をおこなうと不安定な作業になり、落下などの原因となります。2人以上で施工作業をおこなう時は合図、確認をおこない、不意に開閉をしないでください。

・建築基準法に従ってください。
天井裏は建築基準法の規制があり、屋根裏収納用はしごを使用した場合は、居室としては使えません。

・入居後は換気をおこなってください。
本製品は、ホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・障害物の有無の確認をしてください。
施工前に設置場所と周辺、及び天井裏に電気配線などの障害物がないことを確認してください。

・屋根裏収納用はしごの最大許容荷重は120kgです。
施工の際、天井にたわみ、歪みなどが生じないよう補強材を確実に施工してください。

・床面にはしご下部が接地するようにしてください。
床面にはしご下部（ゴムキャップ）がしっかり接地するように取り付けてください。

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品は、ホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

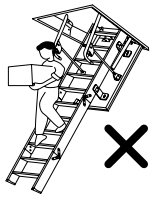
・ナット・ビス類の締め付けは確実におこなってください。
施工後、安全のために再度各部のナット・ビス類の締め付けをおこなってください。

・強度を十分に確認してください。
設置をおこなう天井の、全体的な強度を十分に確かめてから施工をおこなってください。（施主様とご相談の上、収納内容に合わせるようにしてください。）

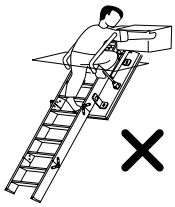
屋根裏収納はしご

使用上のご注意

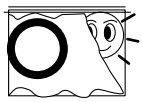
はしごを背にして昇り降りしないで下さい。踏み外してケガをするおそれがあります。



はしごに乗った（踏板に足を掛けた）状態で荷物の上げ下げ等の作業はしないで下さい。踏みはずしや不安定な状態になる危険があります。



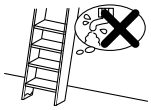
直射日光を長く当てると変色、変形の恐れがあります。カーテン、ブラインドなどでさえぎるようにしてください。



粘着テープなどは直接表面に貼らないでください。はがす時に塗膜や表面材を痛めるおそれがあります。

虫害を発見した場合はただちに殺虫や防虫処理をしてください。放置すると虫害が拡大するおそれがあります。

常時水のかかるところや、湿気の多いところでのご使用は避けてください。



クレヨン、マジック、水性インキなどが表面に付着したときは、アルコールまたはシミ抜き用ベンジンを含ませた布で軽く速やかに拭き取ってください。

天井収納へのシンナー・塗料・油等危険物の収納は避けてください。

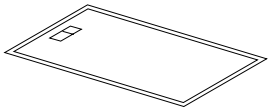
店舗など、土足でのご使用は避けてください。

屋根裏収納用はしごの使用方法　※屋根裏収納用はしごは頭上で取り扱いますので十分ご注意ください。

降ろす場合

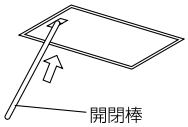
1 閉めた状態

降ろす前に、まわりの安全確認をおこなってください。



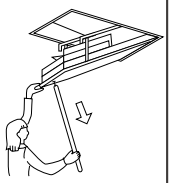
2 ラッチレバーの使用

付属の開閉棒をラッチレバーの穴に掛け、ゆっくりと開閉棒を下に引きます。
注意：天井ふたの真下には立たないでください。



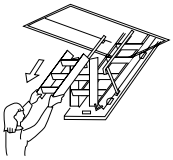
3 天井ふたを降ろす

右手で天井ふたをささえ開閉棒をラッチレバーから抜き、天井ふたが止まる位置まで手を離さずにゆっくり降ろしてください。



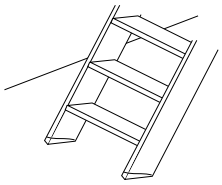
4 はしごを伸ばす

はしご本体を両手で持って折りたたんだはしご部分を伸ばします。
注意：両手を離さず、しっかりとはしご本体を持って後へ下がりながらゆっくり引き降ろしてください。



5 はしご下部を床に降ろす

はしご下部を床に降ろします。
※この時、はしご下部が床面に確実に降りているか、また、はしご本体がまっすぐ伸びているか確認してください。



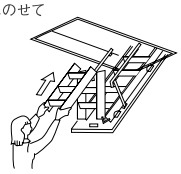
収納する場合

1 はしご下部を持ち上げる

両手でしっかりと、はしご本体を持ってください。

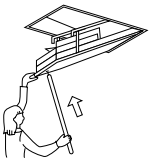
2 はしごを折りたたむ

はしご本体を折りたたみます。
※このとき、両手は絶対に離さず確実に折りたたみ、ゆっくりと天井ふたにのせてください。



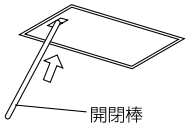
3 天井ふたを閉める

片手で天井ふたをささえ開閉棒をラッチレバーの穴に掛けます。両手で開閉棒を持ち、ゆっくりと押し上げます。天井ふたは最後まで押し上げ必ずラッチに掛かるようにしてください。



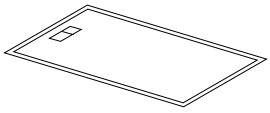
4 開閉棒をはずす

開閉棒をはずします。
注意：開閉棒は子どもの手の届かないところに保管してください。



5 閉めた状態

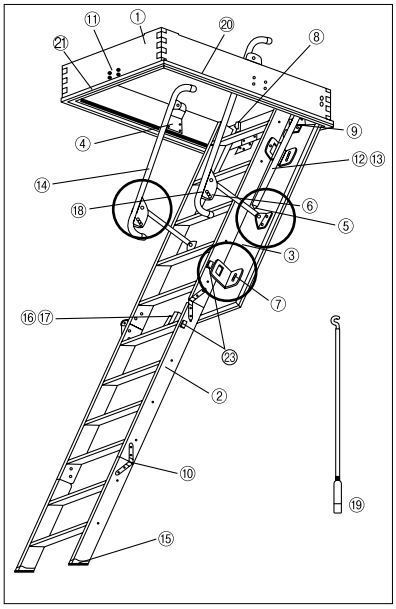
天井ふたが確実にしまっているか確認してください。注意：開閉棒は子どもの手が届かない所へ保管してください。



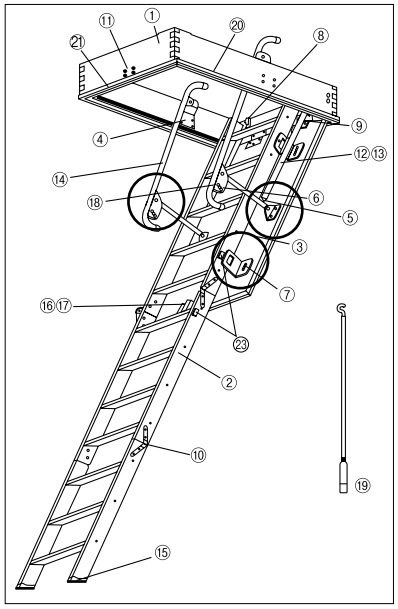
屋根裏収納はしご

姿図及び梱包内容

8尺タイプ



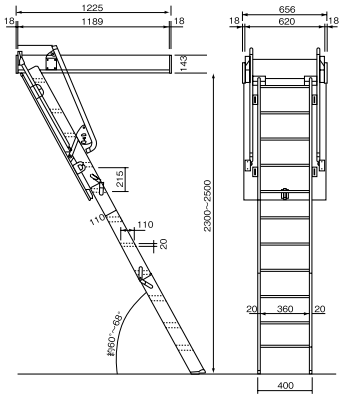
9尺タイプ



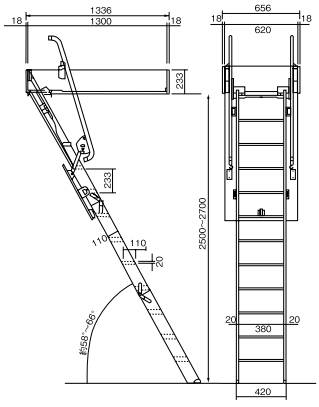
	部品名	仕様	数量
1	収納ボックス本体	合板(生地仕上げ)	1セット
2	はしご本体	天然木(ウレタン塗装)	
3	天井ふた	合板(生地仕上げ)	
4	支柱	鉄製(亜鉛メッキ仕上げ)	
5	手すり支持金具		
6	高さ調整プレート		
7	はしご受金具		
8	スプリング掛け金具		
9	丁番		
10	はしごヒンジ		
11	ラッチ受け金具		
12	スプリング	鋼線(亜鉛メッキ仕上げ)	
13	ターンバックル	鉄製(亜鉛メッキ仕上げ)	
14	手すり	鉄製(焼付塗装)	
15	ゴムキャップ	ブラウン	
16	ラッチ	鉄+樹脂製	
17	ラッチカバー	樹脂製	
18	M5ボルト、ナット、スプリングワッシャ		
19	開閉棒	鉄製亜鉛メッキ(長さ1000㎜)	1
20	額縁(大)	樹脂製	2
21	額縁(小)		2
22	ボックス本体取付用木ネジ	5.1 φ × 63 ㎜ ⊕	14
23	はしご固定金具		1

寸法図

8尺タイプ



9尺タイプ



8尺タイプ

高さ調整プレート番号	H寸法(㎜)	角度
①	2,500~2,460	67.8°
②	2,460~2,420	65.6°
③	2,420~2,380	64.0°
④	2,380~2,340	62.1°
⑤	2,340~2,300	60.1°

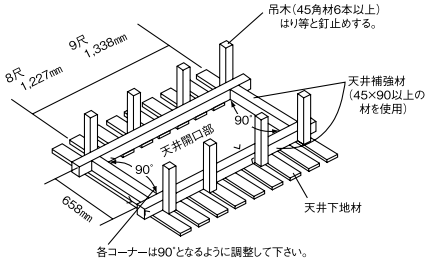
9尺タイプ

高さ調整プレート番号	H寸法(㎜)	角度
①	2,700~2,660	65.4°
②	2,660~2,620	63.3°
③	2,620~2,580	62.0°
④	2,580~2,540	60.3°
⑤	2,540~2,500	57.8°

施工手順

1 開口部を設け、補強材の取付

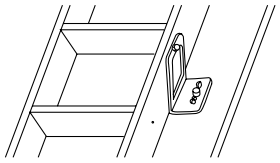
・天井開口部に補強材を取り付ける。
天井開口寸法:
8尺タイプ658㎜×1,227㎜
9尺タイプ658㎜×1,338㎜
・吊木ははり等に釘止めし、天井強度を確保する。



お願い 天井にたわみ、歪みなどが生じると、うまく作動しません。
設置場所の全体的な強度を確かめてください。

2 はしご本体を収納ボックス本体から取り外す

・はしご受け金具かのナットを6ヵ所外して、はしご本体を収納ボックス本体から取り外し、はしご本体を一時他の場所で保管してください。



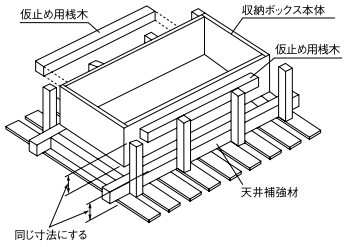
施工手順

3 収納ボックス本体の仮止め

※この時、天井ふたを閉めた状態で作業してください。

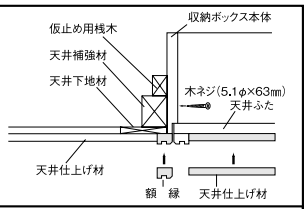
①仮止め用桟木の取り付け
天井下地から天井補強材上端までの寸法を測り、収納ボックス本体の下端から同じ寸法の位置に仮止め用桟木を打ちつける。

②収納ボックス本体を天井開口部に落とし込み、仮止め用桟木が天井補強材に架かるようにそっと置く。



4 収納ボックス本体の本固定

・開閉具合確認後、収納ボックス本体内面から同梱の木ネジ（5.1φ×63㎜）で長手方向4本以上、短手方向3本以上で収納ボックス本体を天井補強材と本固定する。

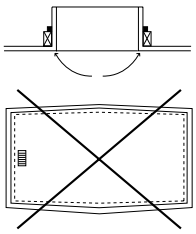


⚠ 注意	収納ボックス本体の本固定時には閉まっている天井ふたには乗らないでください。落下しケガをするおそれがあります。
お願い	ラッチが確実に作動しているかどうか確認してください。 天井ふたがスムーズに開閉するか確認してください。

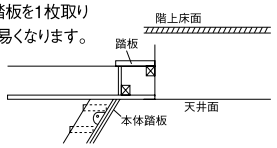
5 収納ボックス本体にはしご本体を取り付ける

収納ボックス本体のはしご受け金具のナットを6カ所外し、はしご本体を取り付けてください。

お願い	天井面と収納ボックスが面一になるように取り付けてください。 収納ボックス本体の板面は反らさない。反っているとラッチがかかりにくくなったり、その他の金具に不具合が生じます。天井ふたを開閉し、ラッチのかかり具合やその他金具の具合を確認してください。



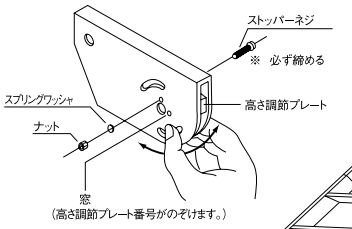
本体と踏板と階上床面までの間隔が広くなる場合は、枠板上面に踏板を1枚取り付けると昇り易くなります。



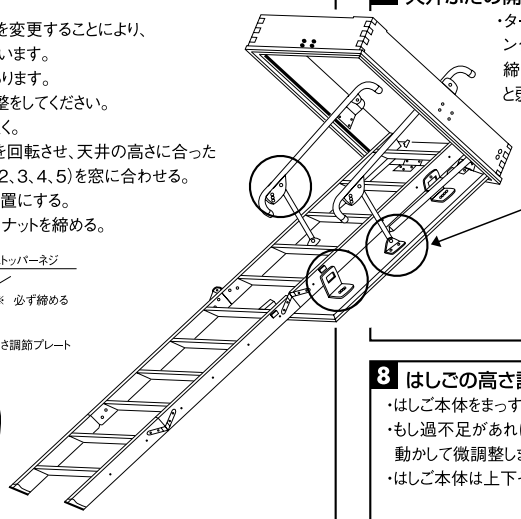
⚠ 注意	踏板の強度は十分に確保してください。（ケガの原因となります。）

6 はしごの角度調整の手順

・高さ調整プレートを回転させて位置を変更することにより、はしごの角度をかえられる様になっています。
・天井の高さによって変える必要があります。
下記の図と表を参考にして角度調整をしてください。
1.ナットを緩めて、ストッパーネジを抜く。
2.表を参考にして高さ調整プレートを回転させ、天井の高さに合った高さ調整プレート番号の刻印（1、2、3、4、5）を窓に合わせる。
3.高さ調整プレートは左右共同じ位置にする。
4.ストッパーネジを差し込み、しっかりナットを締める。



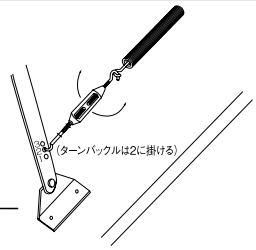
天井の高さと高さ調整プレート番号を合わせてください。



高さ調整プレート番号		①	②	③	④	⑤
天井高さ(㎜)	8尺	2,500～2,460	2,460～2,420	2,420～2,380	2,380～2,340	2,340～2,300
	9尺	2,700～2,660	2,660～2,620	2,620～2,580	2,580～2,540	2,540～2,500
高さ調整プレートの位置						
		1	2	3	4	5

7 天井ふたの開閉の強さ調整手順

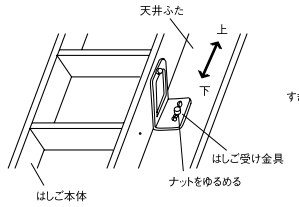
・ターンバックルでスプリングの強さを調整する。締めると強くなり、緩めると弱くなります。

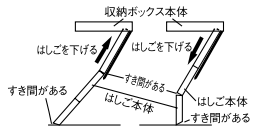


お願い	ターンバックルを調整する時に、ドライバー等をターンバックルの中に通して回す場合はネジ山がつぶれないように注意します。ターンバックルは左右にあります。同じように調節します。

8 はしごの高さ調整

・はしご本体をまっすぐに伸ばして、その長さに過不足がないか確認します。
・もし過不足があれば、はしご受け金具カット（4カ所）をゆるめ、はしご本体を上下に動かして微調整します。
・はしご本体は上下それぞれ約20㎜の範囲で調整出来ます。



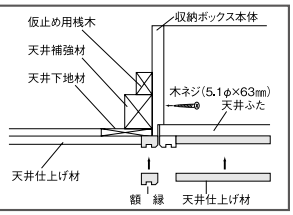


⚠ 注意	ゆるめたナットは、調整後しっかり締め直してください。 危険ですのではしご本体は必ずすきまのない様に調整してください。

最後に総チェックを行ってください。

・ナット、ネジ等の締め忘れがないか確認してください。
・各部の破損がないか確認してください。
・ナット、ネジ等の増締めを行ってください。
・はしご本体が確実に床面に着いているか確認してください。
・はしご本体にすき間がないか確認してください。

⚠ 注意　・閉まっている天井ふたには乗らないでください。



ロフト用はしご（安全上のご注意）

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **警告**　この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度をいう。

⚠ **注意**　この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 警告

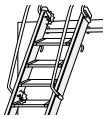
ロフト用はしご

禁止

最大許容荷重を超える荷重をはしごにかけないでください。（木製ロフト用はしご:100kgアルミ製ロフトはしご:120kg）
使用者と荷物の合計が最大許容荷重を超えるとはしごが破損するおそれがあります。

手すり、フック、踏板などにガタツキや緩みを感じた場合は昇り降りしないでください。
はしごが破損するおそれがあります。ガタツキや緩みなどの異常を感じたらただちに使用を中止して、施工業者様に連絡してください。

収納しているはしごを昇り降りしないでください。
両脚が床面に接地していない状態では荷重に耐えられず、はしごが脱落・破損するおそれがあります。



ナット・ビス類が緩んだまま昇り降りしないでください。
はしごが破損するおそれがあります。スパナやドライバーで締めなおしてください。ご自身で対処できない場合はただちに使用を中止して、施工業者様に連絡してください。

はしごに背を向けて昇り降りしないでください。
バランスを崩して転落するおそれがあります。

はしごから飛び降りたり、揺さぶらないでください。
はしごが脱落・破損するおそれがあります。

はしごに乗った状態やロフトの上からはしごを操作しないでください。
使用者がバランスを崩して転落したり、はしごが脱落・破損するおそれがあります。

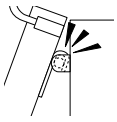
はしごを分解または改造しないでください。
強度や安定性が低下して、使用者がバランスを崩して転落したり、はしごが脱落・破損するおそれがあります。

はしごに同時に2人以上乗らないでください。
使用者がバランスを崩して転落したり、はしごが脱落・破損するおそれがあります。

はしごに乗った状態で他の作業をしないでください。
荷の上げ下げや、横の壁に手を伸ばしたりすると使用者がバランスを崩して転落するおそれがあります。

必ずおこなう

両脚カバー（滑り止め）が床面に直接密着していることを確認してから昇り降りしてください。
フロアマットやカーペット上に設置したり、両脚の底に何かを貼ると、使用者がバランスを崩して転落したり、はしごが脱落・破損するおそれがあります。



両方のフックがパイプにしっかりとかかっていることを確認してから昇り降りしてください。
使用者がバランスを崩して転落したり、はしごが脱落・破損するおそれがあります。

適した服装で昇り降りしてください。
袖が引っ掛かりやすかったりすそを踏みつけやすい服装や、スリッパを履いたまま使用するとバランスを崩して転落するおそれがあります。

片手は手すりまたははしご本体につかまって昇り降りしてください。
使用者がバランスを崩して転落するおそれがあります。

⚠ 注意

ロフト用はしご

禁止

ロフト以外の場所で使用しないでください。
当製品は一般住宅屋内のロフト専用です。屋外や浴室、店舗など本来の用途以外に用いると、予期できない劣化によりはしごが破損するおそれがあります。

収納したはしごにもたれかかったり、物を立てかけないでください。
はしごが脱落・破損するおそれがあります。

はしご本体に亀裂などの不具合を発見した場合は昇り降りしないでください。
はしごが破損するおそれがあります。ただちに使用を中止して、施工業者様に連絡してください。

お子様やお年寄などからだの弱い方は昇り降りしないでください。
バランスを崩して転落するおそれがあります。

はしごの踏板や手すり、支柱にワックスをかけないでください。
使用者がバランスを崩して転落するおそれがあります。

体の状態が下記の状態の方は昇り降りしないでください。
●疲れている。●薬や酒を飲んでいる。●病気や妊娠をしている。●身体に異常を感じている。
使用者がバランスを崩して転落するおそれがあります。

必ずおこなう

入居後は定期的に換気してください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場などの高環境下では、ホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがあります。

はしごをフックにかける、または収納する場合は両手で操作してください。
はしご本体は長さと重量があるためバランスを崩すおそれがあります。

はしごを昇り降りしない場合は放置せずに収納してください。
思わぬ事故がおこるおそれがあります。

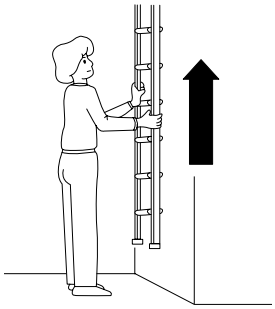
ロフト用はしご

ロフト用はしごの使用方法

はしご使用時

1 はしごを両手で持ち上げる。

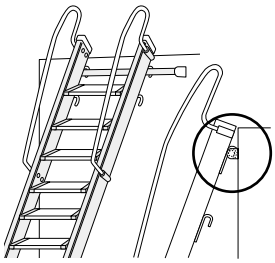
はしごの前に立ち、はしごを両手で持ち上げ、収納パイプよりフックを外す。



⚠ 注意　持ち上げる時は、はしご本体をしっかりと両手で持ってください。片手で作業しないでください。はしご上部が重いため、取扱いにはご注意ください。
※事故・ケガの原因となります。

2 フックをパイプに引っかける。

はしご本体を斜めに持ちながら、フック（昇降時用）をパイプ（昇降時用）にかける。



⚠ 警告　はしご側面から、フックが確実にかかっていることをご確認ください。

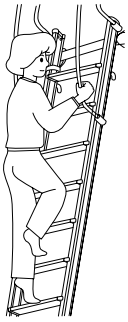
3 はしごを接地する。

最後まで、手前に引き出しきってから、床に接地させる。

⚠ 警告　フックを外さないように引き出してください。両方の脚カバーが床面に密着しているか、必ず確認してください。接地面にフロアマットやカーペットがないことを確認してください。両脚カバーにほこりがついてすべりやすくなっていないかを確認してください。

4 手すりを持って昇る。

手すりをしっかりつかみ、スリッパなどのはき物は履かずに昇降する。



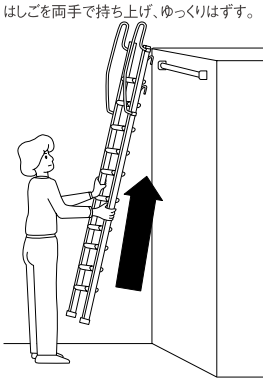
⚠ 警告　両手に荷物を持っての昇降はしないでください。ケガや事故の原因となります。

はしご収納時

⚠ 注意　はしごは出したまま放置せずに、必ず収納してください。思わぬ事故・ケガの原因となります。

1 はしごを両手ではずす。

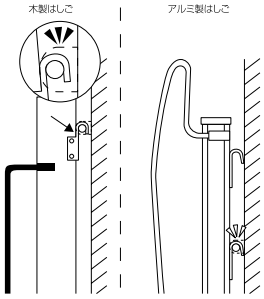
はしごを両手で持ち上げ、ゆっくりはずす。



⚠ 注意　片手で作業をしないでください。
※手をすべらせた時、ケガの原因となります。
はしご上部が重いため、取扱いにはご注意ください。
※事故・ケガの原因となります。

1 フックをパイプに引っかける。

フック（収納用）をパイプ（収納用）にかけ、しっかりはまっているか確認し、ゆっくり壁などにはしごを立てかける。

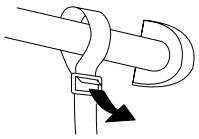


⚠ 警告　はしご側面から、フックが確実にかかっていることをご確認ください。

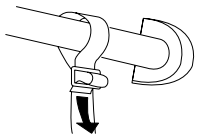
お願い　はしごをフックにかけたあと、すぐに手をはなしますと、壁・クロスなどを傷つけることがあります。取扱いには十分注意してください。

ベルトの結び方及び長さの調整（アルミ製はしごのみ）

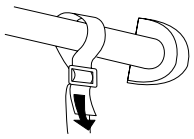
1



2



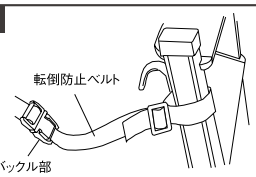
3



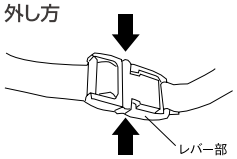
⚠ 注意　ベルトが確実に結ばれていることをご確認ください。

バックルの外し方（アルミ製はしごのみ）

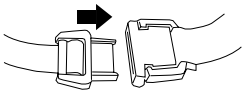
1



2 外し方



3 セットの外し方



⚠ 注意　バックルのレバー部を指でつまむと外れます。
バックルをセットする場合は、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
バックルを外した状態での昇降はしないでください。

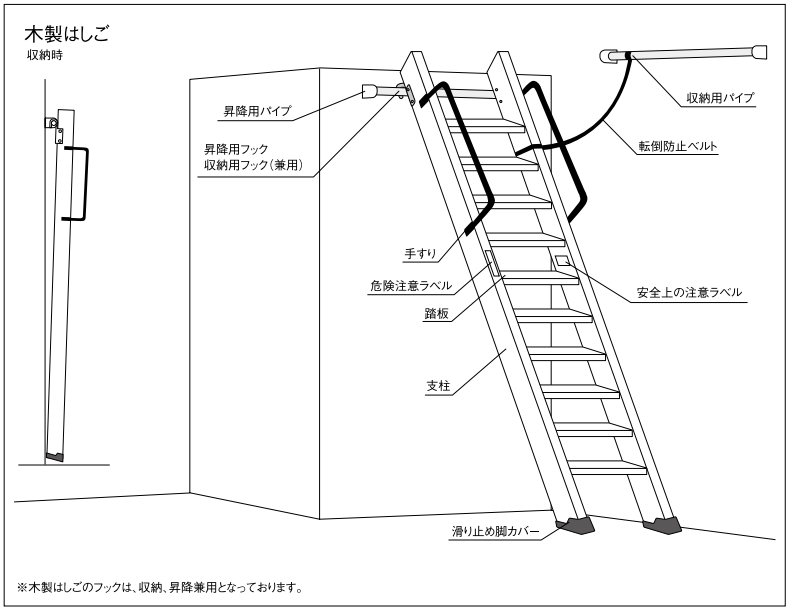
日常のお手入れ・点検

ビス・ナット類のゆるみの点検、処置	→スパナ・ドライバーなどで締め直してください。手すり、踏板、脚カバーの裏など、定期的に。
ホコリ等の汚れのお手入れ	→乾いた布でふきとってください。※ワックスがけはしないでください。すべってケガの原因となります。
プラスチックの汚れのお手入れ	→乾いた布でふきとってください。※汚れのひどい場合は、中性洗剤でかるくふきとってください。
キズやサビ等のお手入れ	→サビ落としの処理後、市販の塗料で防サビ処理をしてください。
はしご本体のゆがみ・割れ	→ゆがみ、ねじれ、割れ、凹みなどがないか確認してください。発見した場合は使用せず、施工業者様に連絡してください。
脚カバー	→裏面滑り止めがすり減っていたり、外れていた場合は使用せず施工業者様に連絡してください。

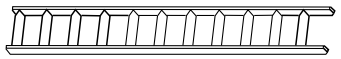
ロフト用はしご（木製）

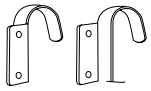
姿図及び梱包内容

8尺タイプ　9尺タイプ　10尺タイプ



※木製はしごのフックは、収納、昇降兼用となっております。

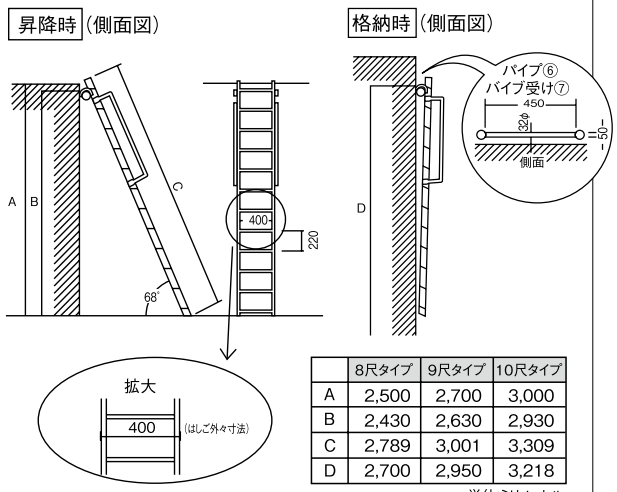
	はしご本体側
部材名	1.はしご本体
部材図	
数　量	1

	手　す　り　側	
部材名	2.手すり	3.フック（右用・左用）
部材図		
数　量	2	左右各1

	トランスネジ、ナット、スプリングワッシャ各8		
部材名	4.パイプ	5.パイプ受け	6.ブラケットカバー
部材図			
数　量	2	4	4
	タッピングネジ　16本		

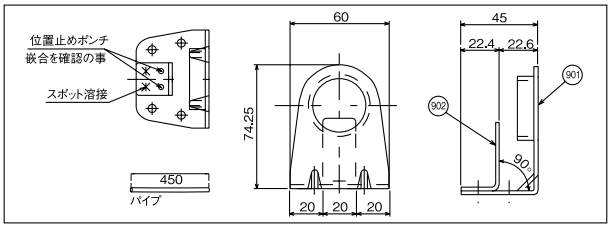
寸法図

昇降時（側面図）　格納時（側面図）



	8尺タイプ	9尺タイプ	10尺タイプ
A	2,500	2,700	3,000
B	2,430	2,630	2,930
C	2,789	3,001	3,309
D	2,700	2,950	3,218

単位:ミリメートル

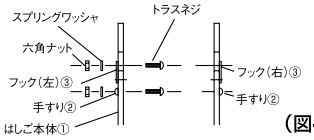


施工手順（ロフトはしご）

1 取り付け場所に強度のある構造体を用意してください。

2 はしごに手すりを左右に取り付けてください。（図-1）

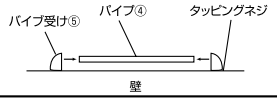
3 はしごにフック（右）フック（左）を取り付けてください。（図-1）



（図-1）

4 パイプにパイプ受けを差し込んでください。この時、昇降用と収納用がありますので忘れないでください。（図-2）

5 パイプ受けを構造体にタッピングネジでしっかりと取り付けてください。この時、昇降用と収納用がありますので忘れないでください。



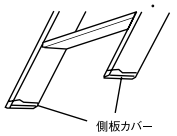
（図-2）

6 クッションゴム・下部カバーの取付け

はしご本体の底部に下部カバーを取付けます。

●はしご本体が収納時に壁（クロス）や巾木に当たる場合は、付属のクッションゴムを貼り付けてください

※側板カバーを外した場合



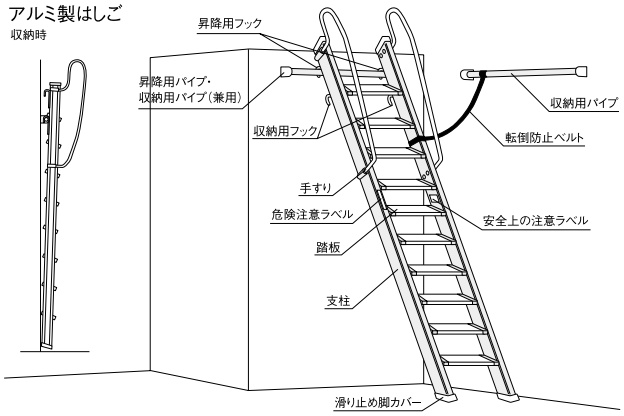
お願い　クッションゴムを貼る際にホコリや油分が無いことを確認してください。

⚠ 注意

●取り付け場所は強度のある構造体にしっかりと取り付けてください。　●床面にはしご下部（ゴムキャップ）がしっかり接地するように取り付けてください。
●商品の解体、改造、仕様変更は絶対にしないでください。　●取り付け終了後ナット、ビス類の緩みがないか確認してください。
●ロフト用はしごの最大許容荷重は**100kgです**。パイプ受けは確実に取り付けてください。

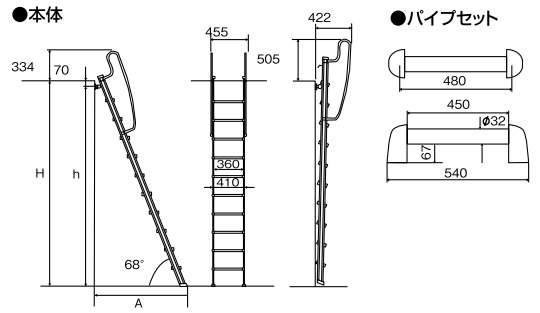
ロフト用はしご（アルミ製）

姿図及び梱包内容



※アルミ製はしごのパイプは、収納用と収納・昇降兼用の2種類があります。

寸法図

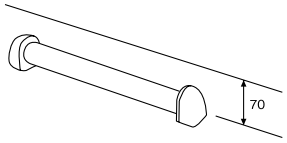


品番	ロフト高(H)	パイプセット位置(h)	A寸法	段数
7尺用	2100	2030	969	8
8尺用	2500	2430	1131	10
9尺用	2700	2630	1212	11

施工手順

本体組み立て前の準備

パイプをはしご本体に取り付けます

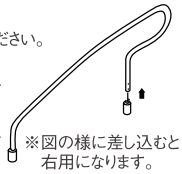


1 はしご本体の組み立て

手すりにブラケットを差し込んでください。

●手すりには左右ありませんが、手すりブラケットを差し込む方向により左右が出来ます。

●手すりと手すりブラケットの穴を合わせてください。

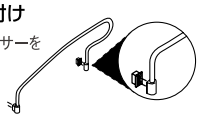


※図の様に差し込むと右用になります。

2 手すりスペーサーの取付け

手すりブラケットに手すりスペーサーを取り付けてください。

●スペーサーには上下ありません。



お願い　手すりブラケットに手すりスペーサーを確実にはめ込んでください。

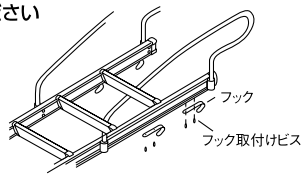
3 手すりの取付け

●はしご本体の側面の開口部に手すりスペーサーを差し込み、はしご本体の内側より左右の手すりを、手すり取付けビスでしっかりと固定してください。

●ビスキャップはビスが確実にしまっていることを必ず確認してください。

4 はしご本体にフックを取付けてください

●フックはビスで確実に固定してください。使用中にフックが取れると重大な事故につながります。



⚠ 注意　●フックはビスで確実に固定してください。使用中にフックが外れると脱落し破損、ケガをするおそれがあります。

5 ベルトの取付け

倒れ防止の為、はしご本体とパイプを転倒防止ベルトで連結してください。

⚠ 注意

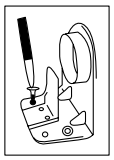
●転倒防止ベルトは、しっかりとパイプ及びはしご本体に固定してください。事故ケガの原因となり危険です。

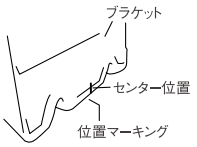
6 部品の取付け

パイプの取付け

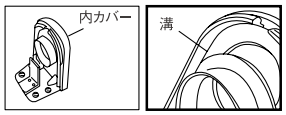
❶ ブラケットのセンター位置と壁面のマーキングを合わせてビス止めをする（ビス4本）

⚠ 注意
●付属のビスでしっかりと確実に取付けてください。

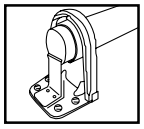




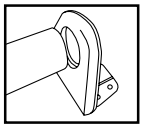
❷ 内カバーの溝をブラケットに差し込む。



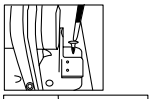
❸ パイプを差し込む。この時、パイプが止まるまで差し込む事。



❹ もう一方のブラケットは止まるまでパイプに差し込む。この時内カバーはあらかじめブラケットにセットしておいてください。

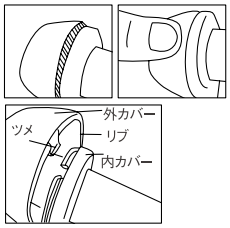


❺ 内カバーのセンター位置と壁面のマーキングを合わせて、ビス止めをする。（ビス4本）



⚠ 注意
●付属のビスでしっかりと確実に取付けてください。

❻ 外カバーを取付ける。この時、内カバーの溝に外カバーのリブを差し込み、外カバーのツメがかかって、「パチン」と音がするまで押し込んでください。



はしご本体の組立

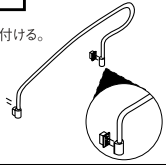
❶ 手すりに手すりブラケットを差し込む。

⚠ 注意
●手すりに左右はありませんが、手すりブラケットを差し込む方向により左右が出来ます。
●手すりと手すりブラケットの穴を合わせてください。

※図の様に差し込むと右用になります。

❷ 手すりブラケットに手すりスペーサーを取付ける。

⚠ 注意
●手すりスペーサーに上下はありません。
●手すりブラケットに手すりスペーサーを確実にはめ込んでください。



施工終了後

●使用説明書の手渡し

同梱の「使用説明書」を使用される方にお渡しください。使用される方が不在の際は、施主様に依頼するか製品に結い付ける等により必ず使用される方に届けられるようご配慮ねがいます。

集成カウンター・集成フリーサイズ板

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **注意** この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

施工終了後

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

・ぶら下がり禁止!
棚板等にお子様がぶら下がったり、上に乗って遊んだりすると、板が破損したり、脱落してケガの原因となりますので絶対にしないでください。

必ずおこなう

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。
ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には、水平な場所に平積みしてください。

・下地材の上から施工してください。
必ず壁の下地材の上から貼りあげてください。直接柱、間柱に打ちつけると、パネル自体に強度がない為、破損しやすく、また構造躯体自体の強度低下を招き危険です。

集成カウンター・集成フリーサイズ板

集成材の施工における注意について

集成材は無垢材の集積で、性能としては無垢の1枚ものよりも安定していることは事実ですが、仕上がりの含水率は乾燥すれば収縮し、湿気を吸えば膨張することが木材という性質上避けられません。こうした性質によって、施工後に亀裂、隙間、波状凹凸などが発生することがあります。これらの不具合現象は施工の方法、仕口、アイデアによって下記の点について配慮してください。

①.弊社の集成材は含水率を10±2%にしております。
②.塗装品は湿度変化に対し、安定した特質をもっております。
③.無塗装品は長期の保管や放置によって変形することがあります。
④.機能性住宅では室内が乾燥傾向にありますので配慮が必要です。※1
⑤.湿気の多い立地での住宅では膨張傾向にありますので配慮が必要です。※2
⑥.無塗装品では片面のみの塗装では変形等の不具合の原因となります。必ず裏面も塗装してください。
⑦.下地の構成材がグリーン材であったりすると吸湿し、変形することがあります。
⑧.雨ぬれした製品は不具合の原因となります。

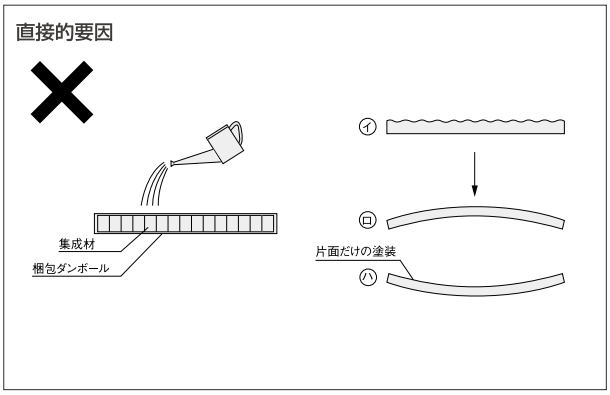
※1 住宅によっては完成後の室内平衡含水率が7%前後という特性があり、乾燥収縮は幅広製品では影響が顕著であることが見受けられます。
とくに、階段の踊り場や2段、3段廻りの踏板では固定に用いる釘、ビスの本数や位置が収縮を阻害し、亀裂が発生する場合があります。
収縮することを予見した仕口で「逃げ」をつくってください。
※2 乾燥と反対にこの場合も幅広製品ほど寸法変化が大きくなりますので同じように配慮してください。

これらの配慮は部材どおしの取り合いによっては釘、ビスの使用が避けられないことがあります。その際は材の動きに釘、ビス類が追随できるように径、長さ、材質、本数、位置を決定し、できるだけ「少なめ」にしてください。

施工の留意点

集成材製品は天然乾燥、人工乾燥および養生によって、可能な限り反りや狂いを止めてありますが、取り付け場所や使用条件などが悪い場合、経時変化として、反りや狂いを生じることがあります。このため、これらの製品を使用、施工する際には次の点に注意してください。

直接的要因による反り・狂い



集成材は梱包し出荷するときは含水率を10%（季節によっては13%）程度に調湿仕上げしていますが、輸送途中や各所での保管時、あるいは施工途中で水濡れさせますと、次のような現象を引き起こします。塗装品の場合は、これらをある程度防止することができます。

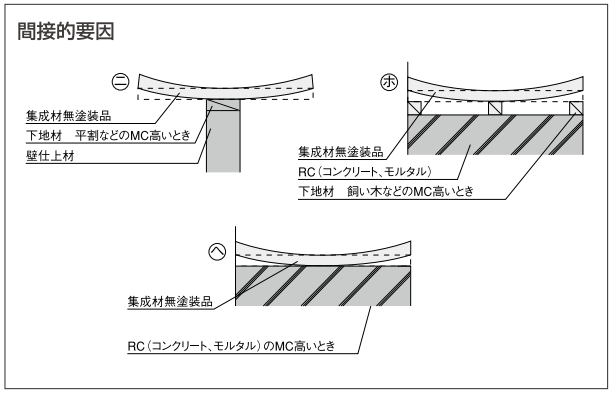
●濡れた表面は、初期段階で凹凸を生じます。この現象は梅雨期や長雨の続く時期にも発生します。塗装品ではこの現象を軽微におさえることができます。（図㋑）

●次の段階では、木材内部に水分傾斜が発生し、含水率の高いところは膨張が始まります。全体的に変形は明らかになってきます。（図㋺）

●片面だけの塗装でもこの現象は生じます。表面だけの塗装では、裏面が膨張し反りが発生します。（図㋩）

⚠ 注意	当社集成カウンター・集成フリーサイズ板は住宅内装用部材であるために屋外に使用した場合、雨漏れ、太陽光により腐れ、割れ等の劣化が進む原因になりますので、屋外に使用しないでください。

間接的要因による反り・狂い



巾広材では店舗用カウンター、対面式キッチンカウンター、店舗用ディスプレイ台などがあります。巾狭材では笠木が類似します。下地材の含水率（以下MCと略）が20%を超えますと水分の移動が始まり、反りが生じます。ズブ生と称するMC100%を超えるものでは、反りの矢高は20～30㎜にも及びます。下地材には乾燥材を使用し、集成カウンター、集成フリーサイズ板は塗装仕上げしたものをお使いください。取り付けはボンドと木ネジ併用。使用するボンドは酢ビ系（木工ボンド）は避け、ウレタン系（ＩW-310⇒下表）やエポキシ系または樹脂シート専用ボンド（⇒下表）を使用してください。

●RCの乾燥状態が良好でも、下地材のMCが高い場合は、反りが発生します。（図㋺㋭）また、RCのMCが高く、下地材のMCが低い場合は、徐々に反りが出てきます。（図㋭）RCの防湿処理を行い、乾燥した下地材を用い、集成カウンター、集成フリーサイズ板は塗装仕上げしたものをお使いください。接着剤はウレタン系やエポキシ系を用い荷重の上、養生してください。

●RCへの直貼りはMCの状態をよくチェックしてください。15%以上では反り発生となります。防湿処理を行い、集成材とRCの接着は、ウレタンシート1.0～2.0㎜を入れてください。不陸調整はもちろん、接着効果も上ります。

集成材は塗装品を用い、裏面に#100くらいのサンディングを行った上で、ウレタン系やエポキシ系接着剤または樹脂シート専用ボンドを塗布し、荷重の上、養生してください。

〈接着剤〉

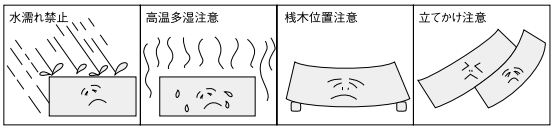
	品　番	設計価格/本
ポリウレタン系接着剤	ZY1211	¥2,940（¥2,800）
樹脂シート専用ボンド	ZY4121	¥1,890（¥1,800）（500g入）

集成カウンター・集成フリーサイズ板

施工上のご注意

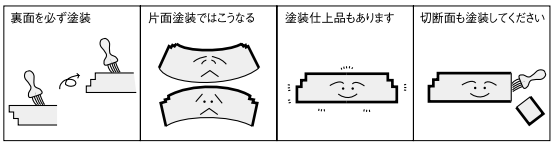
製品の保管・管理

温湿度の変化によって反り、狂いを発生することがありますので、湿度の高いところでの保管は避けてください。特に雨に濡らすことはもちろん、梅雨時の保管場所にも注意してください。
原則として平積みしてください。この場合、長さや巾によって、正しく桟を入れてください。ピッチは450㎜以下として下さい。



塗装における注意点

●無塗装品の現場塗装を行なう場合は、片面だけの塗装は水分、湿度の吸湿状態に片寄りが生じ、反りや狂いの原因になりますので必ず裏面をあらかじめ塗装してから取り付けてください。
●塗装品を現場で切断して使用される場合、反りや狂いが生じないよう必ず切断面を塗装してください。
●塗装は品質の点からウレタン系塗料をおすすめします。また、仕上りをよくするため、2回以上塗装してください。着色ステイン、あるいはカラー塗装をご使用になる場合は、材によっては仕上り色が異なることがありますので、塗装前にテスト塗りしてご確認ください。



雨などに濡れた場合の処理方法

集成カウンター・集成フリーサイズ板は乾燥しておりますが、運搬中または施工中に水濡れ・洗い作業で水分を与えますと、基材のふくれや割れ、変色などの発生原因となります。万一濡れた場合には、すぐに乾いた布などでふき取り、乾燥させてから養生してください。

ササクレの防止方法

集成カウンター・集成フリーサイズ板の切り込みカットをされる場合は、基材のササクレを防止するために、鉛筆などによる墨付けの後、カッターナイフ等で必ずケビキ処理をし、ノコ、ノミ入れを行ってください。

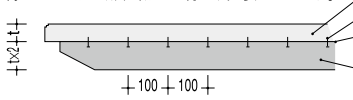
カウンター使用の場合

カウンター等にご使用の場合は反り、狂い防止のため裏桟の取り付けを行ってください。

反り防止用の桟木、当て材の使用について

カウンター等にご使用の場合は反り、狂い防止のため裏桟の取り付けを行ってください。

巾広材では反りや狂いが生じやすくなります。従って裏面、切断面を含む塗装仕上げはもちろんのこと、桟木や当て材などによって、反り防止を行なう必要があります。

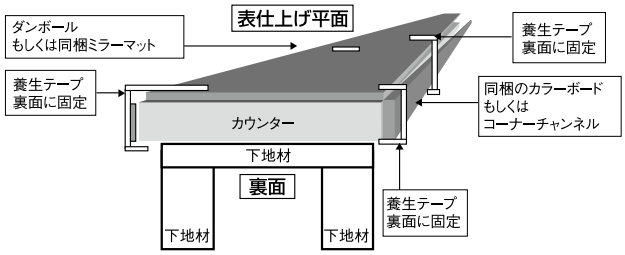


モクネジピッチは100㎜を目安にしてください。

天板ー 6面を完全塗装してください。
モクネジー 硬い材質ではキリモミを行ってください。
接合部ー 接着剤を使用する場合はウレタン系・エポキシ系の接着剤を使用してください。
桟木ー カウンターなどの板厚の倍以上をとってください。桟木の間隔は500㎜を目安にしてください。

●以上のような現象をくいとめるには、塗装仕上品を採用することが最も効果的です。巾広材ではあらかじめ反り防止桟を用いることも効果があります。しかし一度反ったものを元に戻すには、相当の強度を必要としますので、この段階で反り防止桟を用いても効果は期待できません。
●階段材のように、施工によって組み合わされ、強度が分散される場合は問題ありませんが、カウンターやテーブルのように比較的オープンな用途では、反りが顕著に出ることが多いのが通例です。従って塗装品の採用をあらためてお願いします。

塗装済みカウンター養生方法について



⚠ 注意

①.表平面にキズがつかないように、ダンボールもしくは同梱のミラーマットを上においてください。
②.コバ面にキズがつかないようにダンボールを折り返すか同梱のカラーボードもしくは、コーナーチャンネルをご使用ください。
③.養生剥がれを防止するために上記2項目にて処理後、養生テープをカウンター裏面に貼り付け全体の養生を固定してください。
①～③の項目を守られない場合での剥離・キズにつきましては品質影響としての保証はいたしかねます。

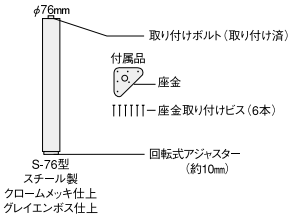
施工終了後

養生

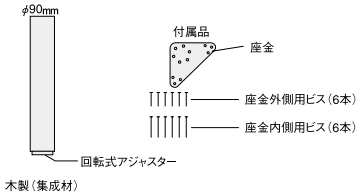
施工後は木屑や砂・ゴミをきれいに取り除いて、ダンボール・ベニヤ等で隙間なく養生してください。市販のガムテープ等は粘着力が強く、木部の繊維や塗膜のハガレの原因になりますので、別売の養生テープ（ZY0211）をご使用ください。

カウンター用脚

S−76型



W−90型

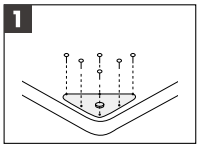


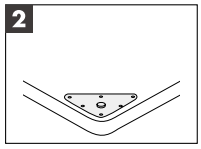
脚の長さは調整できません。

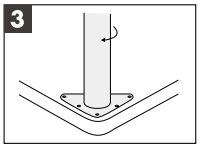
S−76型では長さ調整はできません。それぞれの長さに天板の厚みを加えたものが、カウンターやテーブルの高さとなります。
接地面の微調整はアジャスターを回転させて合わせてください。（約10%調整可）

座金と天板（カウンター・テーブルなど）の取り付け

テーブルなど重量のあるものは、天板を逆に置いた上で作業してください。この場合、天板には位置決めの上、下穴をあけてください。材種によってはビスが破損することもありますので、この作業は確実におこなってください。下穴の基準はネジの山から山の寸法に対し80〜85%を目安にしてください。
（例）4mmの径のとき4mm×80%＝3.2mm　4mm×85%＝3.4mmこのあたりのドリル刃φを選んでください。





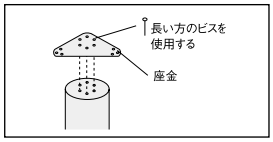


カウンター・テーブルの高さと脚の調整

本製品は脚の長さが650mmとなっていますので、切断して高さを調整してください。あらかじめ、カウンターやテーブルの高さをお決めの上、必要な長さに切断し、座金の取り付けを行ってください。
接地面の微調整はアジャスターを回転させて合わせてください。（約10mm調整可）

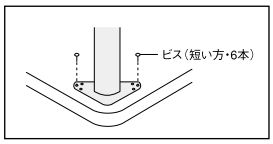
脚と座金の取り付け

座金中央部のネジ穴に、同梱のビスの長いもの（6本）をネジ込んでください。この場合、あらかじめドリルやキリなどで、下穴をあけておくと容易に作業できます。脚を確実に固定するため、ビスは6本全てをご使用ください。



脚部と天板（カウンター・テーブルなど）の取り付け

テーブルなど重量のあるものは、天板を逆に置いた上で作業してください。この場合も天板に下穴をあけてください。材種によってはビスが破損することもありますので、この作業は確実におこなってください。

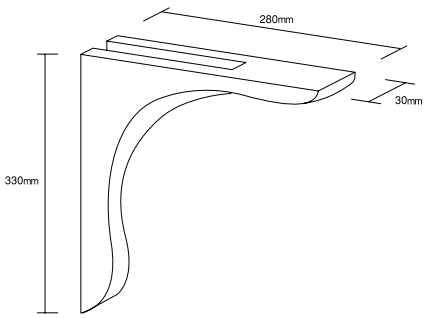


飾り脚

飾り脚の取付け

開梱

次の部品がセットされています。

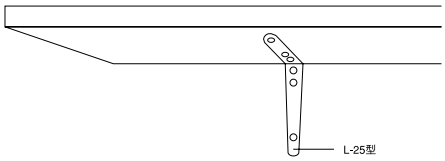


※必ず補強金具としてL-25型（別売品）をご使用ください。

梱包を解いたら製品に不良および問題がないかどうかご確認ください。
水漏れなど不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

1 L-25型の取り付け

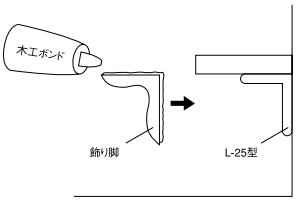
壁面と天板（カウンターなど）の下面のレベルを調整した後、L-25型（別売品）を先に取り付けてください。



品　名	品　番	設計価格/本
L-25 型	SKPL12	¥4,200（¥4,000）

確実に固定するためビスは6本全てをご使用ください。
この場合、あらかじめドリルやキリなどで、下穴をあけておくと容易に作業できます。

2 飾り脚の取り付け



L-25型の上からかぶせるようにして取り付けてください。
取り付け時には飾り脚の木口面に木工用ボンドを塗布し、フィニッシュにて確実に固定をしてください。

安全上のご注意

※施工の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。
※表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ **注意** この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

⚠ 注意

施工終了後

禁止

・屋内専用です。
屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進み、脱落の原因となり危険です。

必ずおこなう

・化粧造作材の固定を確実におこなってください。
化粧造作材を後かぶせで固定する際、落下して、ケガの原因となりますので、樹脂シート専用ボンド併用にて、確実に本体を下地材へかぶせ込み、固定してください。

・下地材の上から施工してください。
必ず壁の下地材の上から貼りあげてください。直接柱、間柱に打ちつけると、パネル自体に強度がない為、破損しやすく、また構造躯体自体の強度低下を招き危険です。

・開梱後は換気をおこなってください。
本製品はホルムアルデヒド・VOC（揮発性有機化合物）対策品です。
ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気をおこなうようにしてください。

・輸送・保管は慎重に!
輸送の際には、荷崩れや衝撃に十分注意してください。また、保管時には、水平な場所に平積みしてください。

・接着剤と釘を併用してください。
施工の際は必ず接着剤と併用して釘をお使いください。接着が甘いと脱落の原因となり危険です。

・下地材の取り付けは確実に固定してください。
化粧造作部材が落下して、ケガの原因となりますので、下地材の取り付けは壁面より、柱・間柱に確実にステープルで固定してください。

天井

禁止

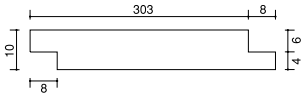
・火気厳禁
特定の条件下において、外部の火気による発火の可能性があります。
火気には十分お気を付けください。

・荷重厳禁
天井板は耐荷重に優れていません。施工前・施工後共に荷重を掛けると破損及びケガの原因となります。

リアルウォール

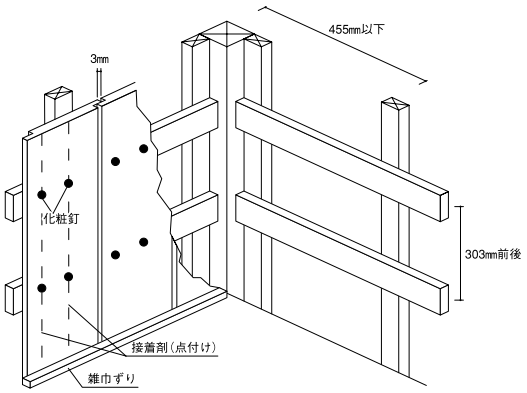
開梱

寸法詳細図

断面形状	製品サイズ（㎜）
表面  裏面	2,430×306×10 （見付巾303㎜＋目透かし3㎜）

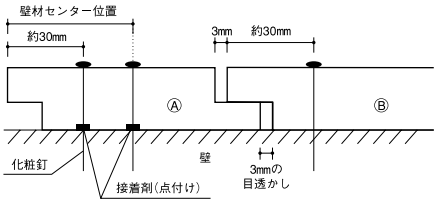
施工手順

1 壁下地の準備



柱・間柱等を455㎜以下に設置し、合板下地貼り、もしくは横方向にも胴縁等を303㎜前後のピッチで設置してください。

2 リアルウォールの施工



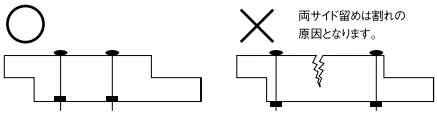
・上図のように壁材に3㎜の目透かしを取り、下地材に合わせて**化粧釘と接着剤（点付け）で施工してください**。壁材Bの継ぎ手から30㎜程のところに、前の壁材Aを押さえるようにして化粧釘を打ってください。
・目透かしの3㎜は付属のスキマゲージをお使いください。

⚠ 注意　接着剤のベタ塗り、S字塗りはしないでください。吸放湿による伸縮で下地の剥離、または表面の割れを生じるおそれがあります。

3 塗装における注意点

現場塗装を行う場合は、裏面も塗装してください。表面のみ（片面）の塗装の場合水分、湿度の吸湿状態に片よりが生じ、反りや、狂いの原因になります。

お願い



無垢材の為、吸放湿により伸縮をしますので必ず目透かしを取って施工してください。
下地への固定は左図の様に板巾方向2ヶ所で施工してください。

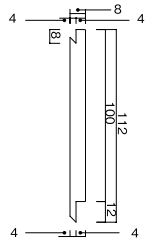
お手入れのしかた

●日常のお手入れは、乾いた布でカラ拭きしてください。
●水拭きはご遠慮ください。
●汚れのひどい時は水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を堅く搾って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
●ベンジン、アルコール、シンナー、酸性洗剤などの溶剤を使用すると、変色、変質しますので、絶対に使用しないでください。

羽目板

パネル

羽目板

断面図	部材名	サイズ	梱包入数
	羽目板 ピノアース	1,818×100×8.0 2,730×100×8.0	16 10

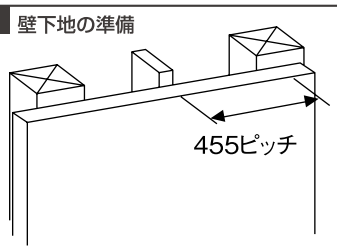
雨等の水漏れのない様にご注意ください。
内装仕上げ材の為、雨等の水漏れのない様、注意を払ってください。変色、カビ発生、割れ、反り等の原因となります。

仮並べ
羽目板は天然木を使用していますので、色や木目・節が違います。施工前に予め色及び柄合わせをしてから貼っていただくと、仕上がりがいっそう美しくなります。

お願い
・施工完了までは、立て掛けたりすると反りの発生原因となりますので、水平になるように保管してください。
・照明灯・ストーブなどを近づけると熱により変色しますので、開梱後施工完了まで1メートル以上離してください。

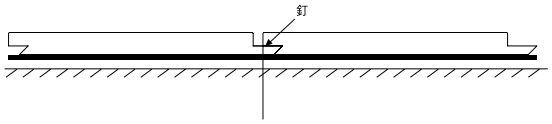
施工手順

1 壁下地の準備



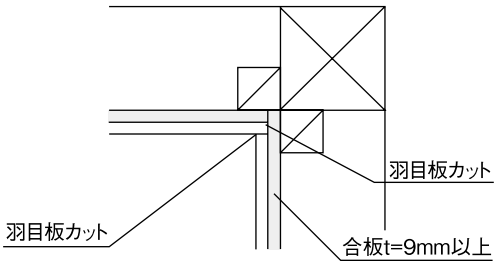
柱・間柱等を455mmに設置し、9mm以上の合板を貼って壁下地を作ってください。

2 羽目板の施工

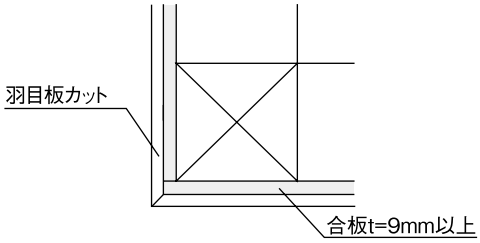


裏面へ木工用ボンド（現場調達）塗布の上、実の隠れ代へ釘を壁下地に向けて、打ち込んでください。（天井に使用時は、特にボンド併用を厳守ください。）

入り隅納まり



出隅納まり



お手入れのしかた

●日常のお手入れは、乾いた布でカラ拭きしてください。
●水拭きはご遠慮ください。
●汚れのひどい時は水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布を固く搾って拭きとり、乾いた布で仕上げてください。
●ベンジン、アルコール、シンナー、酸性洗剤などの溶剤を使用すると、変色、変質しますので、絶対に使用しないでください。
●ワックスがけをされる場合は樹脂系ワックスを御使用ください。（塗り床用）

羽目ロング

1 開梱

梱包を解いたら数量に不足および損傷等の問題がないかどうかを確認してください。
製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

2 雨等に濡れた場合の処理方法

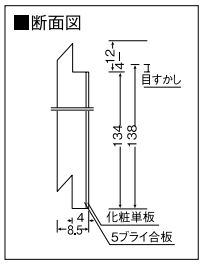
施工中に雨等により濡れた場合は表面単板の割れや変色防止のため、すぐに乾いた布で拭き取ってください。

3 仮並べ

当社壁材には表面に天然木を使用しているため、色や木目に多少の違いが出ることがありますので、施工前に全部の梱包を開いて予め色合わせをしてください。極端な不具合がありましたら、施工前に販売店様または弊社までお申し出ください。**施工後のお申し出には応じかねます。**

寸法詳細図

■断面図



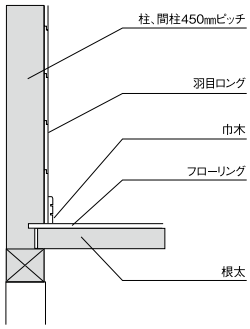
お願い	外部および軒天などへのご使用は絶対にしないでください。

施工手順

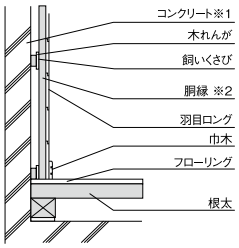
お願い	・コンクリート壁は含水率が15%以下になるまでよく乾燥させて下さい。夏で3週間以上、冬で4週間以上かかります。(モルタル水分計で測定) ・間柱、胴縁等は乾燥材をご使用下さい。施工後波打ちの原因となります。

1 壁下地の準備

木造軸組、枠組壁工法(2×4)



RC工法



体育館等への使用について

※1　体育館用のコンクリート下地への施工は、コンクリートの含水率が高い場合、羽目ロングが長さ方向に膨張することがあります。従って、長さ方向のジョイント部は下記の表を基準に目透し施工してください。

※2　間柱、たて胴縁の間隔は、体育館では人及びボール等の衝撃を考慮して、303㎜ピッチで施工してください。

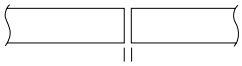
お願い

コンクリート養生日数とジョイント部の目透し寸法

工期等でコンクリート壁の乾燥が不十分な場合は施工後羽目ロングの伸びによるふくれが生じる事が有りますので、突き付け部の目透し巾を下記表を参考にして決定下さい。

〈冬期の場合の目安〉

コンクリート養生日数	目透し寸法
4週間以上	2㎜以上
2～4週間	3㎜以上
2週間未満	施工は見合わせてください。



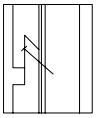
長さ方向のジョイント部目透かし寸法

2 ピッチの確定

住宅では、450㎜ピッチで、体育館では対衝撃性を考慮して303㎜ピッチで施工してください。また、羽目ロングは施工場所の環境によく馴染ませた上で施工すると共に突き付け部に2㎜以上の目透しをつけて下さい。

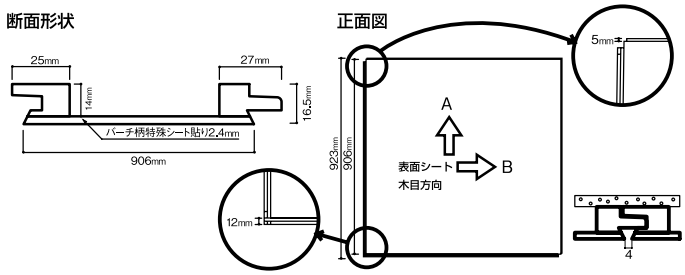
3 固定

釘はカラーネイル(商品梱包ケースに在中)を使用し、接着剤を併用してください。

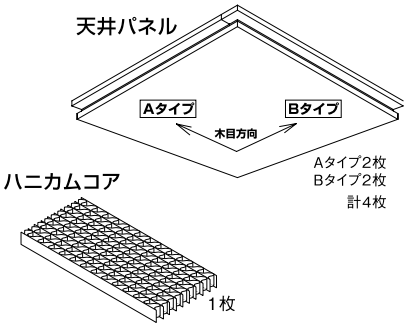


洋風天井

寸法図



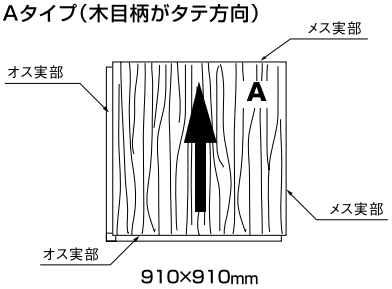
梱包内訳



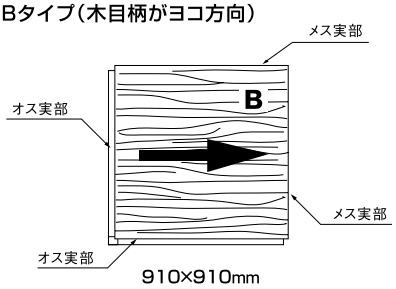
商品の仕様

洋風天井には柄方向が2タイプ（A・B）あります。
施工される前に以下2タイプの商品が揃っているか、ご確認ください。

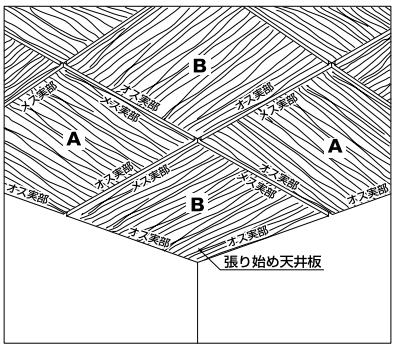
Aタイプ（木目柄がタテ方向）



Bタイプ（木目柄がヨコ方向）



施工参考例



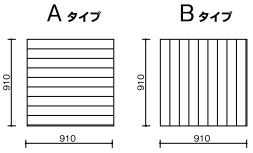
施工前のチェックポイント

- ●保護フィルムを天井材表面の合わせ部に入れておりますが、天井材は完成品です。傷や汚れが付かないように注意してください。
- ●照明器具等の取り付けに際しては、吊り木・野縁等による補強を行い、天井板自体には荷重がかからないように施工してください。
- ●野縁・吊り木等に使用する木材は乾燥材で、通直な物を選んでご使用ください。もしくは、天井板または石膏ボードと接する面にはプレナーをかけてください。

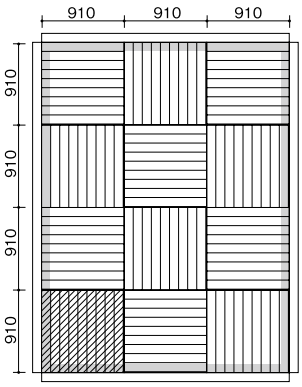
割り付け参考例

施工上の注意

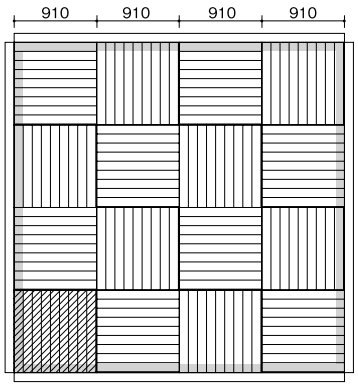
施工時にはオスザネ・メスザネに注意して施工してください。
（天井伏図または仮並べをしてから施工することをおすすめします）



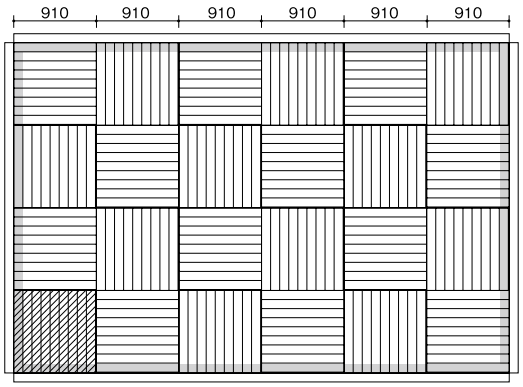
■6帖用
Aタイプ 6枚
Bタイプ 6枚（3ケース）



■8帖用
Aタイプ 8枚
Bタイプ 8枚（4ケース）



■12帖用
Aタイプ 12枚
Bタイプ 12枚（6ケース）

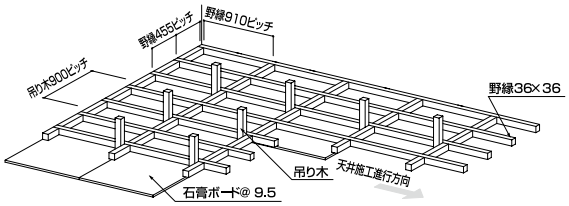


……張り始め天井位置
……カット部分

施工手順

1 下地の作成

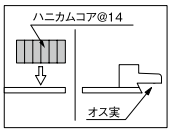
野縁は36×36㎜サイズ以上を使用し、455×910㎜ピッチで格子組にし、9.5㎜厚以上の石膏ボードで捨て張りを行ってください。また、吊り木は900㎜ピッチ内外での施工をお勧めします。
下地の完成後、天井材の割り付けに合わせて墨出しを行ってください。



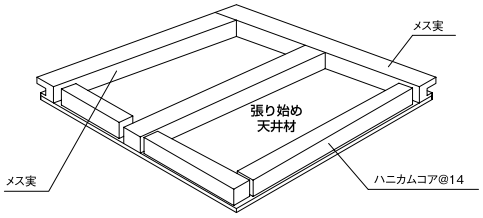
2 天井材のカット

壁際に取り付ける天井材は、現場の寸法に応じて、縦方向、横方向を寸法カットを行い、カットした部分には、同梱のハニカム（@14㎜）を取り付け、木工用ボンドで固定します。

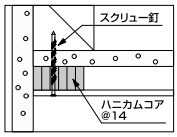
※張り始めの天井材はオス実部、張り仕舞いの天井材はメス実部をカットします。（左図は張り始め用）



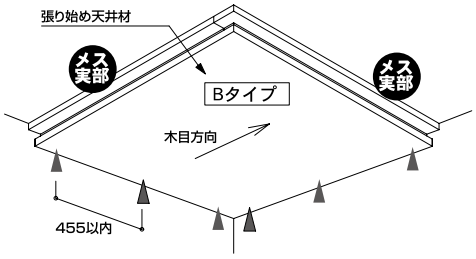
天井材には木目方向が90度違う「Aタイプ」と「Bタイプ」があります。互い違いに施工しますので、天井材伏図を作り、割り付けを施工前に決定し、それに基づいて天井材をカットする必要があります。



3 張り始め

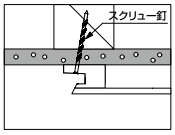


割り付けに基づき寸法カットした天井材を天井に取り付け、壁際部を、スクリュー釘、フィニッシュネイル等で野縁に固定します。
スクリュー釘　　L=38㎜以上（現場調達）
フィニッシュネイル　L=45㎜以上（現場調達）
（石膏ボード@9.5㎜以上捨て張りの場合）

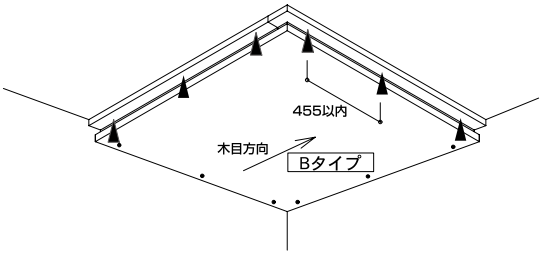


お願い　フィニッシュネイルを打つ時に、釘打機頭部から飛び散る潤滑油が、天井材の表面に付着しないように気をつけてください。

4 壁際の固定

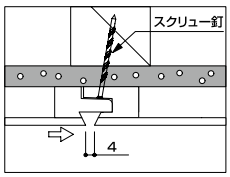


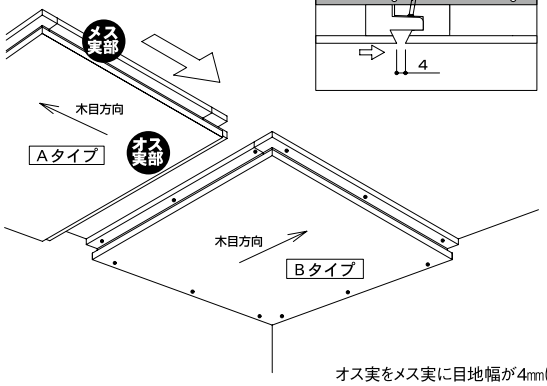
天井材のメス実部を455㎜以内のピッチで、スクリュー釘、フィニッシュネイル等で野縁に固定します。
スクリュー釘　　L=38㎜以上（現場調達）
フィニッシュネイル　L=45㎜以上（現場調達）
（石膏ボード@9.5㎜以上捨て張りの場合）



お願い　フィニッシュネイルを使用する場合は木工用ボンドで固定してください。また、フィニッシュネイルを打つ時に、釘打機頭部から飛び散る潤滑油が、天井材の表面に付着しないように気をつけてください。

5 2枚目の取り付け

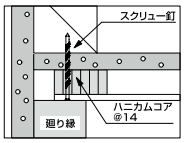


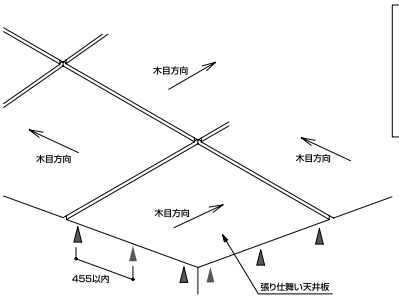


オス実をメス実に目地幅が4㎜になるまで差し込みます。

6 張り仕舞い

割り付けに基づき寸法カットした天井材を天井に取り付け、壁際部を、スクリュー釘、フィニッシュネイル等で野縁に固定します。また、廻り縁を取り付け釘頭を隠します。
スクリュー釘　　L=38㎜以上（現場調達）
フィニッシュネイル　L=45㎜以上（現場調達）
（石膏ボード@9.5㎜以上捨て張りの場合）



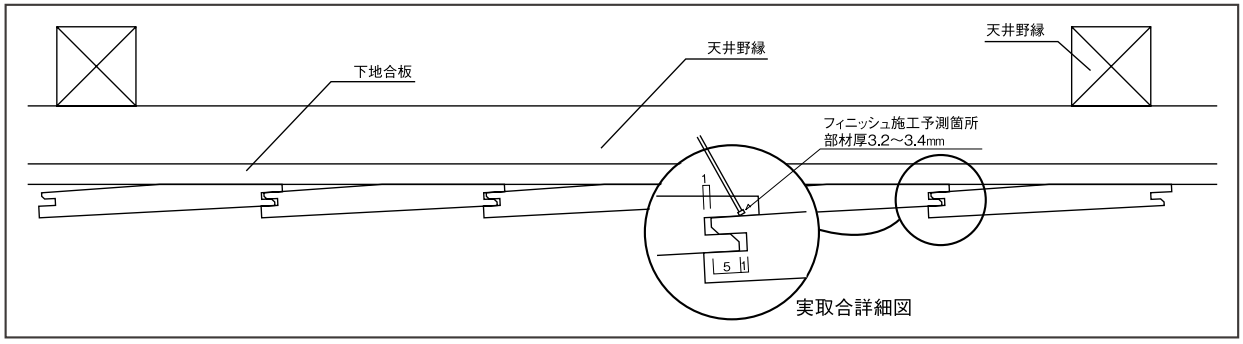


お願い　フィニッシュネイルを打つ時に、釘打機頭部から飛び散る潤滑油が、天井材の表面に付着しないように気をつけてください。

鎧天井 ®

施工資料

施工概略図



1.開梱

梱包を解いたら数量に不足および損傷等の問題がないかどうかを確認してください。製品に水濡れ等不具合があった場合は必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。

2.雨等に濡れた場合の処理方法

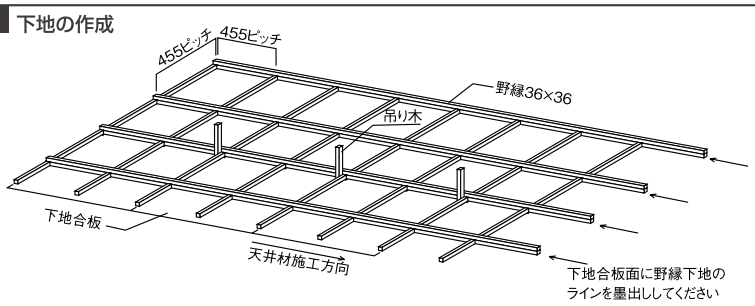
施工中に雨等により濡れた場合は表面単板の割れや変色防止のため、すぐに乾いた布で拭き取ってください。

3.仮並べ

当社壁材には表面に天然木を使用しているため、色や木目に多少の違いが出ることがありますので、施工前に全部の梱包を開いて予め色合わせをしてください。極端な不具合がありましたら、施工前に販売店様または弊社までお申し出ください。**施工後のお申し出には応じかねます。**

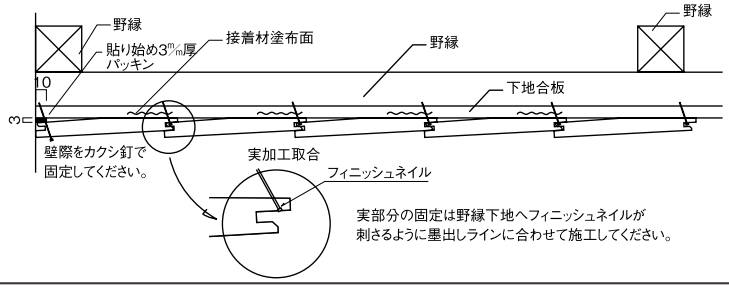
施工手順

1 下地の作成



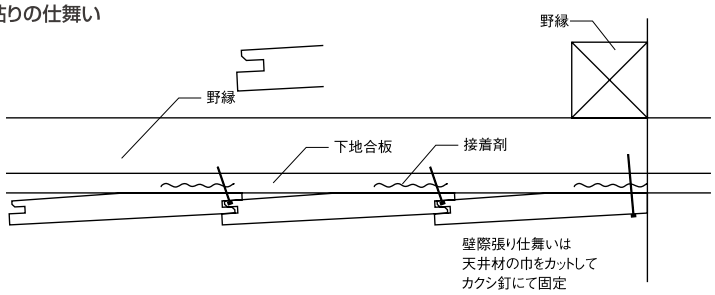
野縁は36㎜×36㎜サイズ以上を使用し、下地合板を貼ってください。下地の完成後に、天井材を固定するために、下地の位置を墨出しして、取り付けの準備をしてください。

2 貼り始め



貼り始めには、3㎜×10㎜のパッキン（現場調達）を天井入隅へ取り付け天井材の角度が2枚目以降と揃うように取り付けてください。施工は天井材の天井接地面にボンド（現場調達）を塗布し、壁際はカクシ釘実側はフィッシュネイルにて固定してください。

3 貼りの仕舞い



貼り仕舞いの寸法に合わせて天井材の巾をカットし、ボンド（現場調達）を施工して壁際をカクシ釘にて堅固に取り付けてください。

memo

memo

memo

アフターサービス

（アフターサービス）

アフターサービスのお問合せは、お買い求めいただいた販売店・工事店もしくは弊社最寄の支店・営業所にご連絡下さい。
保証期間経過後は、有料修理となります。

（保証期間）

お引渡し日（注1・注2）を起点として、2年間（一部商品は1年間）保証致します。（対象商品と保証期間一覧表参照）

注1）改修工事の場合・・・工事完了日
注2）分譲住宅の場合・・・建築主様への引渡し日

（保証内容）

使用説明書・施工説明書・本体添付ラベル等の注意書きに沿った施工・使用状態で、保証期間内に生じた、弊社の責任に起因する商品の不具合は、無料修理させて頂きます。
（下記の免責事項に該当するものを除く）

（免責事項）

保証期間内であっても、次のような場合には有料（商品・部品代＋技術料＋出張料）となります。

①建物の設計・施工に起因する不具合。
②施工説明書に記載された方法以外の施工内容に起因する不具合。
③用途外に使用された場合の不具合（例えば、内装ドアを屋外との仕切りに使用された場合）。
④仕上げ面のキズなどの不具合で、引渡し時に申し入れがなかったもの。
⑤商品発売時、実用化された技術では予防する事が不可能であった現象に起因する不具合。
⑥引渡し後の使用上の誤り、調整不備又は不適切なメンテナンスによる不具合。
⑦取扱説明書記載事項から逸脱した使用に伴う、消耗や摩耗による不具合。
⑧消耗性部品の取替えや修理に起因した不具合。
⑨重量物（ピアノ・本棚・運搬用台車等）の影響による割れや凹みなどの不具合。
⑩冷暖房に起因する室内の乾燥による隙間・反り・キシミ音などの不具合。
⑪保証期間経過後の申し入れ、または不具合発生後速やかに申し入れがなかったもの。
⑫火災・地震・水害・落雷などの天災地変、公害・塩害・ガス害による不具合。
⑬建築躯体の変形など商品以外の不具合で生じた故障及び損傷。
⑭犯罪など不法な行為に起因する不具合。
⑮環境が悪い場所で（例えば、部屋内外の温度が極端に違う部位で、又極端に乾湿を繰り返す場所など）使用されたことに起因する不具合。
⑯犬・猫・鳥・鼠など小動物の害による不具合、納入後一年以上経過したキクイムシなどによる虫害。
⑰経時変化による変退色、汚れ、劣化、摩耗など。
⑱その他、上記免責事項に準ずると見なされるもの、並びに上記免責事項以外で商品に起因する品質不良でないもの。

（対象商品と保証期間の一覧表）

商品分類	保証事項	保証箇所	対象不具合現象	期間
建具（ドア・引戸・開閉間仕切り・収納扉）	使用上著しい支障が生じない事	扉・枠・ガラス・鏡	本体及び開口の変形や変質による機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
造作材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
玄関収納	使用上著しい支障が生じない事	扉・ボックス・ガラス鏡	本体及びボックスの変形や変質により機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類・樹脂棚	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
壁厚収納	使用上著しい支障が生じない事	扉・ボックス・ガラス鏡	本体及びボックスの変形や変質により機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類・樹脂棚	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
腰壁	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
収納(erabo・押入れ)	使用上著しい支障が生じない事	扉・ボックス・ガラス鏡	本体及びボックスの変形や変質により機能が損なわれる等（反り・剥れ・割れ）	2年間
	使用上の支障や外観上著しい変質が生じないこと	金具類・樹脂棚	部品の破損・変形・作動不良や錆変色などにより機能が損なわれる等	2年間
床材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
階段材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
カウンター	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
インテリアボード	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
内装壁材・天井材	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	2年間
ウッドエクステリア	外観上著しい変形・変質が生じないこと	基材・表面	変形・変質など（反り・剥れ・変色・割れ）	1年間
キッチン・バス洗面化粧台	別途、商品別の保証書があります。			

その他注意事項

1）遮音性能・床衝撃音遮断性能、吸音性能については、一定の条件下で測定された数値であり、施工現場や居住後における性能を保証するものではなく、保証の対象外とします。
2）また、下地材に関しても前項と同様に保証の対象外とします。

事業所一覧

本　　社　〒738-8502　広島県廿日市市木材港南1-1　TEL(0829)32-3330／FAX(0829)32-5524

北海道・東北

北東北営業所　〒020-0866　岩手県盛岡市本宮6-12-51
☎(019)656-5135／FAX(019)656-5136

仙台営業所　〒983-0002　宮城県仙台市宮城野区蒲生字須賀前103-5
☎(022)388-6131／FAX(022)388-6132

福島営業所　〒963-0111　福島県郡山市安積町荒井字丈部内8-1
☎(024)946-6501／FAX(024)946-6506

札幌営業所　〒062-0020　北海道札幌市豊平区月寒中央通2-4-17
☎(011)853-6565／FAX(011)853-6585

関東

高崎営業所　〒370-0851　群馬県高崎市上中居町379-1
☎(027)325-5077／FAX(027)327-7855

熊谷営業所　〒360-0803　埼玉県熊谷市柿沼990-1
☎(03)5842-6366／FAX(048)526-8650

新潟営業所　〒950-0922　新潟県新潟市中央区山二ツ2-17-24
☎(025)287-0888／FAX(025)257-1157

宇都宮営業所　〒321-0954　栃木県宇都宮市元今泉5-4-11
☎(028)639-5551／FAX(028)639-5444

大宮営業所　〒330-0852　埼玉県さいたま市大宮区大成町1-476
☎(048)666-6311／FAX(048)652-1043

多摩営業所　〒190-0002　東京都立川市幸町1-25-23 ヴィレッジ20 1F
☎(042)537-5432／FAX(042)537-5400

水戸営業所　〒310-0836　茨城県水戸市元吉田町261-4
☎(029)304-6110／FAX(029)304-6120

柏営業所　〒277-0832　千葉県柏市北柏1-10-19
☎(04)7162-2683／FAX(04)7162-2685

千葉営業所　〒260-0843　千葉県千葉市中央区末広2-12-6
☎(043)305-0972／FAX(043)265-6411

東京支店　〒112-0004　東京都文京区後楽2-2-23
飯田橋ビル2号館本館4F
☎(03)5842-6251／FAX(03)5842-6255

横浜営業所　〒224-0012　神奈川県横浜市都筑区牛久保1-1-7
☎(045)913-0012／FAX(045)913-0025

相模原営業所　〒252-0303　神奈川県相模原市南区相模大野7-11-2 リブロ相模大野2F
☎(042)765-7001／FAX(042)765-0033

中部

静岡営業所　〒422-8036　静岡県静岡市駿河区敷地1-3-1
☎(054)237-1000／FAX(054)237-1155

豊橋営業所　〒441-8074　愛知県豊橋市明海町5-31
☎(0532)23-3333／FAX(0532)23-5221

浜松営業所　〒435-0045　静岡県浜松市中区細島町7-11 カワ清東山第2ビル2F
☎(053)467-1181／FAX(053)467-1182

長野営業所　〒390-0825　長野県松本市並柳1-5-14
☎(0263)27-6301／(0263)29-0788
FAX(0263)24-3083／(0263)29-0755

名古屋支店　〒485-0039　愛知県小牧市外堀4-88
☎(0568)72-8253／FAX(0568)73-1058

三重営業課　〒514-0817　三重県津市高茶屋小森町2851-1
☎(059)238-2030／FAX(059)238-2032

岐阜営業所　〒500-8383　岐阜県岐阜市江添2-9-20
☎(058)268-0074／(058)278-0088
FAX(058)272-5554

岡崎営業所　〒444-0814　愛知県岡崎市羽根町小豆坂169-1
☎(0564)71-7373／FAX(0564)71-1801

北陸・京滋

金沢営業所　〒921-8801　石川県野々市市御経塚4-72
☎(076)249-6206／FAX(076)240-2242

福井出張所　〒910-0846　福井県福井市四ツ井1-17-30 フジビル1F B号室
☎(0776)57-1305／FAX(0776)57-1308

富山出張所　〒939-8271　富山県富山市太郎丸西町2-7-12 AYタウンB室
☎(076)425-6511／FAX(076)425-6550

京都営業所　〒612-8447　京都府京都市伏見区竹田西内畑町58
☎(075)604-0673／FAX(075)604-0671

滋賀営業所　〒520-3015　滋賀県栗東市安養寺7-6-23
☎(077)554-8555／FAX(077)554-8550

近畿

大阪支店　〒561-0804　大阪府豊中市曽根南町3-20-14
☎(06)6862-1212／FAX(06)6862-0853

南大阪営業所　〒596-0012　大阪府岸和田市新港町7-1
☎(072)437-2921／FAX(072)436-1744

神戸営業所　〒650-0044　兵庫県神戸市中央区東川崎町1-2-2 HDC神戸4F
☎(078)360-5040／FAX(078)360-5059

姫路営業所　〒672-8048　兵庫県姫路市飾磨区三宅3-26
☎(079)233-6400／FAX(079)231-4666

中国・四国

岡山営業所　〒700-0971　岡山県岡山市北区野田3-23-8
☎(086)242-4180／FAX(086)242-4188

山陰営業所　〒683-0003　鳥取県米子市皆生3-6-11
☎(0859)35-0733／FAX(0859)35-0735

広島営業所　〒738-0023　広島県廿日市市下平良1-12-1
☎(0829)32-3145／FAX(0829)32-5544

福山出張所　〒721-0955　広島県福山市新涯町1-13-7
☎(084)957-0830／FAX(084)957-0851

山口営業所　〒754-0021　山口県山口市小郡黄金町14-10
☎(083)976-0120／FAX(083)976-0125

高松営業所　〒761-0301　香川県高松市林町2536-16
☎(087)867-3515／FAX(087)867-3880

松山営業所　〒790-0951　愛媛県松山市天山1-10-23
☎(089)945-1444／(089)987-7660
FAX(089)945-2555／(089)987-7670

九州

福岡支店　〒816-0941　福岡県大野城市東大利3-8-1
☎(092)581-5710／FAX(092)581-5724

北九州営業所　〒802-0979　福岡県北九州市小倉南区徳力新町2-12-35
☎(093)965-8880／(093)965-1777
FAX(093)965-8882／(093)965-1666

長崎営業所　〒851-0103　長崎県長崎市中里町1201-7
☎(095)838-6881／FAX(095)838-6882

熊本営業所　〒862-0968　熊本県熊本市南区馬渡2-1-20
☎(096)370-8555／FAX(096)370-8575

大分営業所　〒870-0955　大分県大分市下郡南2-2-1
☎(097)567-0851／FAX(097)567-7257

鹿児島営業所　〒890-0055　鹿児島県鹿児島市上荒田町44-30
☎(099)284-1088／FAX(099)284-1055

宮崎営業所　〒880-0856　宮崎県宮崎市日ノ出町46-1 清野ビル
☎(0985)26-9588／FAX(0985)26-9488

2013年6月現在

WOODONE

2013 設計施工資料集

Data File Catalogue

2013.07

設計施工資料集

建具／収納／洋風造作材／腰壁／床／
階段／カウンター etc…

商品に関するお問い合わせ窓口

フリーダイヤル 0120-813-331

［受付時間］平日／8:30～17:00［休日］土日・祝日・GW・年末年始・夏期休暇

●カタログ、サンプルの請求、特注の可否、納期、在庫確認につきましては、最寄りの営業所へお問合わせください。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

株式会社ウッドワンは、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。

安全に関するご注意

●ご使用の前に、施工説明書・使用説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

●このカタログに掲載の商品は、使用用途・場所などを限定するものや専門施工を必要とするものが含まれておりますので、販売店または専門施工店にご確認ください。

●商品には安全にお使い頂くために、商品梱包の中に使用説明書が同梱されています。正しくご使用して頂くために施工業者様は、必ずお施主様にお渡し頂きますようよろしくお願いします。

●安全に、より良い状態でお使い頂くためにも消耗品の点検等をおすすめします。

ご購入にあたって

●本カタログの表示価格には、配送費・工事費などは含まれておりません。

●商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

●印刷物のため実物と多少、色・柄が異なることがあります。あらかじめご了承ください。

●このカタログの内容についてのお問い合わせは、弊社もしくはお近くの販売店にご相談ください。

株式会社ウッドワン

●商品・お取り扱い・工事などのご相談・お問い合わせは、お買い求めの販売店・施工店へ。

■発行
株式会社ウッドワン　営業推進部
〒738-8502広島県廿日市市木材港南1-1
本書からの無断の複製はかたくお断りします。
このカタログの記載内容は平成25年7月現在のものです。

ホームページ http://www.woodone.co.jp/

ZCSG178 第1版 '13.07T